

今井武夫関係文書(寄託)目録

2024年1月作成

国立国会図書館憲政資料室

【凡例】

- 本目録は、今井貞夫氏[今井武夫氏三男]が作成した『今井武夫関係文書目録』（近代日本史料研究会、2007）を基にしており、以下の凡例もそれを元に作成した。
- 書類や書簡等の資料（タイトル欄に記入があるもの）と「今井武夫年譜」を、年代順に掲載している。年代の確定できないものは、年代確定のできた資料の後に並べた。
- 附録として、1資料番号（箱）と枝番号順の目録と、2『日中和平工作の記録』広中一成、彩流社、2013所収写真の対象表を載せた。

1. 目録の作成経緯

- ・ 資料の大半は、政策研究大学院大学を経て憲政資料室に搬入され、『今井武夫関係文書目録』（近代日本史料研究会、2007：以下、刊行目録と表記）が刊行された（目録作成担当：今井貞夫氏）。
 - ・ 刊行目録出版後も、今井貞夫氏によって目録内容の加筆修正が行われた。
 - ・ 本目録の内容は、刊行目録とおおむね重なるが、次のような過程を経ており記載の違いもある。
 - ①刊行目録出版後、搬入された資料の追加（資料番号23-1～61、1001～など）
 - ②軽微な誤りの修正や加除
 - ③項目の再編といった細部における変更
- この過程において、刊行目録と搬入時の収納状況が異なるものは同目録に即して収納内容を入れ替え、同目録にないものは本目録上で追加した。複数の資料を一つの封筒に入れて数量を管理したことにより、刊行目録に記載の点数（約5,000点）よりも少ない表記となっている。

2. 文書の整理方針

- ・ 今井武夫の自宅に遺された文書は、ダンボール箱22箱に収納されて、政策研究大学院大学に搬送された。これに防衛研究所等から今井武夫の死後遺族に渡されたダンボール1箱分（資料番号（箱）24に該当）、さらに1箱分（資料番号（箱）23に該当）の合計24箱の資料を、今井貞夫氏が分類整理を行った。
- ・ 先ず箱ごとに整理を行なったあと、全体資料をコンピュータで統合し、年譜を兼ねた形にし、文書・記録全体をクロノロジカルに配列した。
- ・ 重複する資料については、ダンボール箱が異なる場合や、オリジナルと複写が別の場合も各1点として記載している。ただし原則、同じ箱に存する同一のものは、同一資料部数を備考欄に記載し、1点のみとして扱っている。
- ・ 数量は1通または1点のものは記載を省略し、複数あるものはその大半についてその点数が記載されている。

3. 資料番号（箱）と枝番号

- ・ 最初に箱ごとに整理したときの箱の通し番号と、その箱の整理番号を各記載している。

今井武夫関係文書（寄託）目録

- ・たとえば、資料番号（箱）欄に22、枝番号欄に37、と記載してあるものは、整理したダンボールの箱が22箱めで、その37番目の整理アイテムであることを示している。資料を請求する際には、「今井武夫関係文書（寄託）22-37」となる。
- ・◎、●、☆、○の印は、今井武夫年譜の情報を表し、それぞれ◎→軍歴 ●→叙位・叙勲関係 ☆→本人直接行動関係 ○→今井武夫親族関係を示す。分類項目にも記載している。
- ・資料番号（箱）と枝番号順の目録を参考のため、附録として載せている。

4. 分類項目

- ・資料があるものは以下の項目に分類した。
日記、論文、手帳、報告書、会議録、論評、回顧録、履歴書、名簿、書類、原稿、メモ、冊子、書簡、電報、写真、（写真）ネガ、書籍、雑誌、名刺、新聞、地図、絵葉書、勲章、封筒
- ・書簡の原稿は「原稿」ではなく「書簡」として分類した。書籍の出版社は備考欄に記載した。
- ・今井武夫年譜の情報は、次の記号で分類した（資料番号、枝番号の欄にも記載している）。
◎、●、☆、○の4種類で、それぞれ◎→軍歴 ●→叙位・叙勲関係 ☆→本人直接行動関係 ○→今井武夫親族関係を示す。

5. タイトル

- ・原則として原資料の表題を記載し、不明のものは、整理者がその概要をもとにタイトルをつけた。新聞、雑誌等は今井武夫が保存していた理由と思われる記事のタイトルを記入した。

6. 作成者

- ・作成者の姓だけで名前が書いてなくても、整理者にとって名前が明らかと判断されるものはフルネームを記載した。作成者に関する今井武夫との関係が分かるものは備考欄に記載した。

7. 年月日の記載のないもの

- ・整理者（今井貞夫氏）が推定できる作成年度や月日は、推定される年月日に記載したが、備考欄に「推定」と記載した。年度、月日が不明のものはブランクにしてある。年代の確定できないものは、末尾におさめた。

8. 備考欄

- ・資料に関する情報や関連情報、罫紙・原稿用紙などの種類、押印・書込み、資料が挿入されていた場所等を記載した。
- ・備考欄に「10-10に挿入」のように記載があるものは、大半が現状ではなく『今井武夫関係文書目録』（近代日本史料研究会, 2007）編成前にその状態にあったことを示している。

今井武夫関係文書(寄託)目録
年代順

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
22	12	保建大記 乾	栗山潜鋒		1716	正徳	6			書籍	保安4年から建久3年に至る政治の変遷を論じた漢文体の史書。上巻。茨城多左衛門梓。	
22	13	保建大記 坤	栗山潜鋒		1716	正徳	6			書籍	保安4年から建久3年に至る政治の変遷を論じた漢文体の史書。下巻。茨城多左衛門梓。	
19	121	江戸の地図	奥村善兵衛		1797	寛政	9			地図	寛政9年の複製版。戦後陸軍省が解体したとき 山崎大佐が保持したものを今井が譲り受けた由（長女俊子談）	
○	○				1852	嘉永	5	2	2	○		父（今井家14代当主） 今井熊太郎 誕生
○	○				1862	文久	2	1	14	○		母 佐治木さく 誕生
10	452	大山巖参謀本部長宛 報告書	酒匂景信	大山巖参謀本部長	1883	明治	16	8	8	報告書	好大王碑文関連。参謀本部の罫紙に記載。複写。酒匂は陸軍大尉。21-36参照。	
○	○				1883	明治	16	8	20	○	佐治木家出身の母「さく」には、妹「とら」と「りき」、弟に「大治郎」がいた。	父 今井熊太郎 佐治木さくと結婚
○	○				1884	明治	17	9	10	○		長姉 今井せい誕生
10	451	参謀本部長有栖川熾仁親王宛 上申書	長谷川又次	参謀本部長有栖川熾仁親王	1886	明治	19	2	1	書類	清国分駐者ヲ裁減シ更ニ浦潮斯徳エ増員 安南（現ベトナム）印度地方へ分遣相成度儀上申。参謀本部の罫紙に記載。複写。21-36関連か。	
○	○				1887	明治	20	6	11	○		長兄（15代当主となる） 今井亮三郎 誕生
○	○				1889	明治	22	10	3	○		次兄 今井栄一誕生
○	○				1892	明治	25	6	17	○		次姉 今井てる（戸籍は「て留」） 誕生
○	○				1894	明治	27	10	13	○	のちに慶知は木田家に養子にいき木田姓となる。	三兄 今井慶知 誕生
9	75	清露秘密協定（日本語訳）			1896	明治	29	5	22	書類	1896年5月22日締結の同盟条約の日本語訳。複写。清国の李鴻章とロシアのウイッテとの間での軍事同盟 日本が攻めてきた場合 両国は共同で立ち向かう。	
★	★				1898	明治	31	2	23	☆	父熊太郎は長野の今井家14代当主。兄3人・姉2人の6人兄妹の末子 父46歳、母36歳。朝陽村は 現在は 長野市に併合されている。	長野県上水内郡朝陽村大字北長池の農業（今井家14代当主となる） 父 今井熊太郎・母 今井さくの四男として 今井武夫誕生
○	○				1901	明治	34	4	15	○		母 今井さく死去（39歳） 長真庵釈策浄妙大姉
★	★				1904	明治	37	4		☆		長野県上水内郡 朝陽尋常小学校入学
12	317	日露戦役・遼陽附近 歩兵第八連隊の戦闘			1904	明治	37	9		写真	日露戦役の写真は全て戦後今井貞夫が寄贈されたもの。	
12	321	日露戦役・遼陽附近の俘虜			1904	明治	37	9		写真		
12	309	日露戦役・旅順二龍山砲台背面			1904	明治	37	12	28	写真		
12	307	日露戦役・旅順 松樹山砲台背後の惨状			1904	明治	37	12	31	写真		
12	322	日露戦役・水師営の会見			1905	明治	38	1	5	写真		
12	303	日露戦役・旅順港内に撃沈された「ペレスウイット」「ポルタワ」の2艦			1905	明治	38	1		写真		
12	304	日露戦役・旅順富士形砲台背面に飛散した敵の火砲			1905	明治	38	1		写真		

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
12	308	日露戦役・旅順富士形砲台に備え付けた海軍砲			1905	明治	38	1		写真		
12	318	日露戦役・鹵獲せる野砲			1905	明治	38	1		写真		
12	306	日露戦役・旅順新市街における分列式			1905	明治	38	1		写真		
12	311	日露戦役・旅順28センチの巨砲			1905	明治	38	1		写真		
12	312	日露戦役・旅順第9師団司令部大島久直師団長以下幕僚			1905	明治	38	1		写真	第9師団（金沢）は乃木軍に所属。「坂の上の雲 七」によると（52頁） 金沢、富山、敦賀、鯖江の4個連隊からなった。	
12	305	日露戦役・旅順望台よりの景色			1905	明治	38	1		写真	望台は砲台の誤りか？	
12	310	日露戦役・旅順砲台の被弾状況			1905	明治	38	1		写真		
12	314	日露戦役・28センチ巨砲の運搬			1905	明治	38	2		写真		
12	319	日露戦役・出征軍隊激励のため閲兵するニコライ皇帝			1905	明治	38	2		写真	年月は推定。	
12	320	日露戦役・奉天到着のロシアの砲兵部隊			1905	明治	38	2		写真	年月は推定。	
12	313	日露戦役・大石橋（たいせききょう）における砲戦			1905	明治	38	3	6	写真	乃木第三軍所属 第1師団（東京）か。	
12	315	日露戦役・日本軍占領後の奉天			1905	明治	38	3	10	写真	日付は推定。	
12	316	日露戦役・日本軍占領後の奉天市街			1905	明治	38	3	10	写真	日付は推定。	
○	○				1906	明治	39	11	12	○		富山県東砺波郡井波町今町の呉服商の父太田長蔵・母きよの五女として 太田きみ子（妻）誕生 姉4人（うち1人既に夭折）・弟1人の6人姉弟
12	323	明治40年頃の反射炉			1907	明治	40			写真		
★	★				1910	明治	43	3		☆		長野県上水内郡朝陽尋常小学校卒業（6年制として初の卒業生）
★	★				1910	明治	43	4		☆		長野県立長野中学（現長野高校）入学
19	84	北京及同城外略図	北京燕塵会		1910	明治	43	7	1	地図		
★	★				1915	大正	4	3	14	☆		（旧制5年制）長野中学（現長野高校）卒業（15回生）
1002		長野県立長野中学校第十五回卒業生成績表（大正4年3月14日）			1915	大正	4	3	14	名簿	2枚。	
★	★				1915	大正	4	3		☆		陸軍士官学校召募試験を受験（於新潟県高田市）合格
19	89	新房地図	参謀本部製図局		1915	大正	4	3		地図	北京附近地図。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
19	90	房山県地図	参謀本部製図局		1915	大正	4	3		地図	北京附近地図。	
19	91	盧溝橋地図	参謀本部製図局		1915	大正	4	3		地図	北京附近地図。	
19	93	狼垩地図	参謀本部製図局		1915	大正	4	3		地図	北京附近地図。	
★	★				1915	大正	4	4	19	☆		曹洞宗 石田山長秀院に下宿 参禅しながら 長野県上水内郡神郷尋常高等小学校の代用教員（小学2年生対象 約半年間余り）
20	6	「今井宛 神郷尋常高等小学校代用教員任命書」	上水内郡役所	今井武夫	1915	大正	4	4	19	書類	長野県上水内郡神郷尋常高等小学校の代用教員。月俸8円。	
19	87	藍靛廠地図	参謀本部製図局		1915	大正	4	4		地図	同一2部あり。北京附近地図。	
19	88	萬壽山地図	参謀本部製図局		1915	大正	4	4		地図	北京附近地図。	
19	92	三家店地図	参謀本部製図局		1915	大正	4	4		地図	北京附近地図。	
19	94	軍荘地図	参謀本部製図局		1915	大正	4	4		地図	北京附近地図。	
19	95	大灰廠地図	参謀本部製図局		1915	大正	4	4		地図	北京附近南部地図。	
◎	◎				1915	大正	4	12	1	◎	月は推定。中学出身者4名。	陸軍士官候補生として富山歩兵第69連隊に入隊 陸軍一等兵
◎	◎				1915	大正	4	12	12	◎		入隊当時 第69連隊は朝鮮の平壤に駐屯中だったので 翌年4月まで朝鮮で訓練を受ける
19	86	北京附近地図を入れた封筒			1915	大正	4			封筒	年代は推定。	
22	129	歩兵学校軍用 鳩に関する写真絵葉書			1915	大正	4			絵葉書	3枚。年は推定。伝書鳩。	
21	372	陸軍歩兵学校本部の写真絵葉書			1915	大正	4			絵葉書	今井俊子の幼児のときのひらがなでの手紙。年は推定、あるいは1930年代前半のものか。	
◎	◎				1916	大正	5	8		◎		この頃陸軍上等兵から陸軍伍長に昇進 下士官
◎	◎				1916	大正	5	12	1	◎	区隊長は岡田資中尉（陸士23期、陸大34期）。区隊員28名。写真に後藤十郎大尉も貼り付けてある。後藤大尉は後期の区隊長か。	市ヶ谷台の陸軍士官学校（校長 與倉喜平中将）に入校 陸軍軍曹第三中隊第三区隊に所属
17	2	陸軍士官学校第三十期入校式			1916	大正	5	12		絵葉書	陸軍士官学校第三十期入校式 3枚。1915年ではなく1916年の間違いか。年月は推定。	
17	13	陸軍士官学校生徒連合演習実況写真付			1916	大正	5			絵葉書	1915年ではなく1916年の間違いか。	
17	47	陸軍士官学校生徒連合演習実況写真絵葉書			1916	大正	5			絵葉書	1915年ではなく1916年の間違いか。	
17	48	陸軍士官学校生徒現地戦術実況写真絵葉書			1916	大正	5			絵葉書	2枚。1915年ではなく1916年の間違いか。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
17	49	陸軍士官学校生徒遊泳演習実況写真絵葉書			1916	大正	5			絵葉書	1915年ではなく1916年の間違いか。	
17	50	陸軍士官学校生徒野営演習実況写真絵葉書			1916	大正	5			絵葉書	1915年ではなく1916年の間違いか。	
17	51	陸軍士官学校生徒側岡演習実況写真絵葉書			1916	大正	5			絵葉書	1915年ではなく1916年の間違いか。	
22	114	陸軍士官学校の写真絵葉書			1916	大正	5			絵葉書	賀状用か。年は推定。3枚。	
22	122	陸軍士官学校生徒の演習写真絵葉書			1916	大正	5			絵葉書	5枚。年は推定。	
22	113	朝鮮 妓生の写真絵葉書			1916	大正	5			絵葉書	3枚。年は推定。	
22	104	日本アルプス連峰白馬山			1917	大正	6	7	24	絵葉書	大日本北アルプス 登嶽記念。年代は1917か1931年。4枚。年は推定。	
20	11	前橋附近混成第一旅団前衛力攻撃展開要図	今井武夫		1917	大正	6			地図	天覧候補とある。今井は 第三中隊第三教授班歩兵生徒とある。大正6年か7年頃か。年は推定。	
17	1	陸軍士官学校第三十期卒業記念写真帖	赤誠堂出版部		1918	大正	7	5	25	冊子	区隊長の岡田資などの写真あり。	
1001		陸軍士官学校第三十期生徒卒業人名（大正7年5月）			1918	大正	7	5		名簿	3枚。	
◎	◎				1918	大正	7	5	27	◎	当日卒業630名（2名は後に追試卒業）。	陸軍士官学校卒業（三十期生）
20	7	今井武夫宛陸軍士官学校卒業証書	奥倉喜平	今井武夫	1918	大正	7	5	27	書類	奥倉は陸軍士官学校長・少将。	
◎	◎				1918	大正	7	5	31	◎		見習い士官
20	1	今井武夫宛 陸軍歩兵少尉任命書	原敬	今井武夫	1918	大正	7	12	25	書類	原は総理大臣。任陸軍歩兵少尉任命書。	
20	8	今井武夫宛 歩兵第69連隊附任命書	陸軍省	今井武夫	1918	大正	7	12	25	書類	補歩兵第69連隊附。	
◎	◎				1918	大正	7	12	25	◎	歩兵第69連隊連隊旗手となる。	陸軍歩兵少尉
●	●				1919	大正	8	2	28	●		正八位
20	3	正八位	波多野敬直	今井武夫	1919	大正	8	2	28	勲章	今井武夫宛叙勲。叙正八位。波多野は宮内大臣。	
22	108	皇太子殿下御成年記念絵葉書			1919	大正	8	5	7	絵葉書	2枚。	
22	105	小夜中山の絵葉書			1919	大正	8			絵葉書	2枚。伝説の夜鳴き石と久延寺。22-108と同じか。小夜中山は東海道の難所。大井川の先で浜松の手前にある。	
☆	☆				1920	大正	9	4	12	☆		帝國在郷軍人会 長野県上水内郡朝陽村分会特別会員
20	5	今井武夫宛帝國在郷軍人会朝陽村分会特別会員への推薦書	黒江英次	今井武夫	1920	大正	9	4	12	書類	黒江は 帝國在郷軍人会高田支部長 陸軍歩兵大佐。	
☆	☆				1920	大正	9	8	13	☆	金沢市の北にある金石（かないわ）には、第9師団の演習所があった。年度は推定。	第9師団 中小尉現地戦術演習（～19日まで） 於 石川県金石無線電信所
17	17	第9師団 中・小尉 現地戦術演習員 於金石無線電信所			1920	大正	9	8	13	写真	8月19日まで。金石は石川県。年度は1919年か1920年。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備 考	今 井 武 夫 年 譜
2	19	支那外交秘史	李定夷		1920	大正	9	12	18	書籍	宮崎八百吉訳。世界公論社。	
★	★				1921	大正	10	3	31	☆		シベリア出兵編成令下令
★	★				1921	大正	10	4	24	☆		シベリア出兵のため頓営出發 (第69連隊旗手として初陣)
★	★				1921	大正	10	4	25	☆		富山県 七尾港出帆
★	★				1921	大正	10	4	27	☆		浦潮（ウラジオ）港上陸
★	★				1921	大正	10	4	29	☆		シベリア守備地着
17	3	写真帖			1921	大正	10	4		写真	シベリア出兵したときの写真か。	
17	5	「首途を飾る栄ある軍旗 昨日の分列式」			1921	大正	10	4		新聞	歩兵第69連隊シベリア出動兵留守隊全部の分列式。掲載紙不明。17-4に挿入。新聞切抜。	
17	9	於富山 シベリア出兵			1921	大正	10	4		写真	見送る町の人に連隊が挨拶。	
21	360	シベリア出兵のときの分列式			1921	大正	10	4		写真	富山歩兵第69連隊時代。連隊旗手。	
★	★				1921	大正	10	10	31	☆		シベリアのシコトワで天長節を祝う
17	20	天長節 於シコトワ			1921	大正	10	10	31	絵葉書	シベリア出兵。	
★	★				1921	大正	10			☆		ロシア師範学校在学中の女性からシベリアでロシア語を習う
17	4	シベリア出兵の写真帖			1921	大正	10			写真	今井は軍旗を奉じている。	
17	15	シベリア出兵の絵葉書			1921	大正	10			絵葉書	年は推定。	
17	18	シベリア出兵の頃 第69連隊旗を持つ今井の絵葉書			1921	大正	10			絵葉書		
17	19	バラライカを弾く今井			1921	大正	10			写真	年は推定。シベリア出兵の頃。23歳のときか。	
17	21	シコトワ全景			1921	大正	10			絵葉書	年は推定。	
17	22	ロシアバルチザンの司令部於港尼			1921	大正	10			絵葉書	年は推定。	
17	23	シベリア出兵			1921	大正	10			写真	15枚。年は推定。	
17	24	シベリア出張の頃の今井			1921	大正	10			写真	年は推定。	
17	25	シベリア出張の頃の写真			1921	大正	10			写真	49枚。年は推定。	
17	35	手製写真帖・シベリア出兵	今井武夫		1921	大正	10			写真	馬賊掃討などをしているが 青春をエンジョイするような写真がある。	
17	36	「可愛らしい日永のすさび」			1921	大正	10			新聞	17-35に挿入。掲載紙不明。新聞切抜。年は推定。	
17	37	手製写真帖・シベリア出兵	今井武夫		1921	大正	10			写真		
17	39	シベリア出兵の頃の写真付絵葉書			1921	大正	10			絵葉書	4枚。17-8に挿入。年は推定。	
21	361	シベリア出兵の頃の写真帖			1921	大正	10			写真	家族の結婚式のときと思われる写真もある。全43枚。	
17	58	シベリア出兵の頃の写真帖			1921	大正	10			写真	富山歩兵第69連隊時代。連隊旗手として。	
★	★				1922	大正	11	1	1	☆		シベリアのシコトワで迎春

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
17	16	シベリアのシコトワでの迎春 絵葉書	今井武夫		1922	大正	11	1	1	絵葉書	出状年の大正10年は11年の間違いか。	
◎	◎				1922	大正	11	3	6	◎		陸軍歩兵中尉
20	4	今井武夫宛辞令「今井武夫宛 辞令 任陸軍歩兵中尉」	高橋是清	今井武夫	1922	大正	11	3	6	書類	高橋は総理大臣。	
●	●				1922	大正	11	3	20	●		従七位
20	2	今井武夫宛叙勲従七位	牧野伸顕	今井武夫	1922	大正	11	3	20	勲章	叙従七位。牧野は宮内大臣。	
17	33	第9師団西伯利派遣記念写真帖	雪野慎四郎		1922	大正	11	8	25	写真		
★	★				1922	大正	11	10	2	☆		浦潮（ウラジオ）港出帆
★	★				1922	大正	11	10	6	☆		富山県 七尾港に上陸
★	★				1922	大正	11	10	7	☆		シベリアから 富山第69連隊頓営 に帰還
22	101	今井武夫書簡	今井武夫	宛先不明	1922	大正	11	10	8	書簡	「シベリアから帰還の挨拶状」、10月7日帰着の挨拶状。	
21	226	色紙	仙堂		1923	大正	12			書類	作は仙堂か。戊寅秋とあるから1923年か1983年だが1983年だとすでに今井は物故している。年は推定。	
○	○				1924	大正	13	3	13	○		14代当主（父） 今井熊太郎死去 （72歳） 徳受院釈宗入信證居士
16	6	三好喜平書簡	三好喜平	今井武夫	1924	大正	13	11	13	書簡	歓待のお礼。	
18	447	ポリリオ島地図			1924	大正	13	12	25	地図		
22	107	今井武夫書簡	今井武夫	宛先不明	1924	大正	13			書簡	立山の絵葉書に記載。登山のことを書いている。年は推定。	
★	★				1925	大正	14	1		☆		太田きみ子（富山県立高岡高女 卒）と見合い
★	★				1925	大正	14	4	18	☆		宇垣軍縮のため富山歩兵第69連隊 解隊式
17	6	宇垣軍縮にともなう歩兵第69 連隊解隊式に於ける将校団全 員			1925	大正	14	4	18	写真		
17	10	富山第69連隊解隊式の将校た ち全員			1925	大正	14	4	18	写真		
17	26	大正14年4月入校の陸軍士官学 校予科第一学年生徒別明細 表			1925	大正	14	4		書類	今井は第三中隊第四教授班の区隊長。区隊員の生徒25名中に 二・ 二六事件の首謀者の一人である栗原安秀がいた。当時16歳。栗原の 父親は予備役陸軍大佐栗原勇。	
17	27	軍人写真			1925	大正	14	4		写真	しかるべき地位の軍人。	
◎	◎				1925	大正	14	5	1	◎		富山歩兵第69連隊軍旗、御真影、 勅語、勅諭を奉還し連隊を廃止 朝鮮会寧歩兵第75連隊付となる
17	67	解隊記念	富山歩兵第69連 隊将校団		1925	大正	14	5	1	冊子	宇垣軍縮のための解隊記念冊子。この日付けで第13（高田）15（豊 橋）17（岡山）18（久留米）の4師団が廃止され、常設は17師団と なった。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
22	102	今井武夫書簡	今井武夫	宛先不明「会寧歩兵第75連隊付着任挨拶状」	1925	大正	14	6	5	書簡	今井の会寧歩兵第75連隊付着任挨拶状。	
◎	◎				1925	大正	14	8	7	◎	後に二・二六事件に参加した栗原安秀も区隊員。なお、陸士41期には、栗原のほか、二・二六事件に参加した対馬勝雄と中橋基明の2名がいる。	朝鮮に赴任して約二ヶ月後陸軍士官学校予科生徒隊附に転属陸士41期生予科第三中隊第四区隊長
17	56	陸士41期生第三中隊の写真か			1925	大正	14	8		写真	年月は推定。	
22	132	小林昌夫書簡（葉書）	小林昌夫	今井武夫	1925	大正	14	10		書簡	小林は朝鮮の会寧第75連隊所属。15日は軍旗祭とある。発信月は推定。今井の宛先住所は士官学校予科生徒隊第三中隊。御地コレラ流行の由ご自愛くださいとある。	
◎	◎				1925	大正	14	12	26	◎		陸軍大学校入学（校長 渡辺錠太郎中将）
17	30	今井と陸士41期第三中隊第四区隊員26名 全27名			1925	大正	14			写真		
17	31	今井と陸士41期生徒33名			1925	大正	14			写真		
☆	☆				1926	大正	15	1	7	☆		太田きみ子（19歳）と結婚式（於長野の生家） 東京市外 杉並町高円寺の借家が新居
16	33	今井夫妻結婚式記念写真			1926	大正	15	1	7	写真	日付は推定。	
20	102	陸士41期第三中隊第四区隊第四区隊一同との記念撮影	陸軍士官学校41期生第三中隊第四区隊	今井武夫	1926	大正	15	1	24	写真	今井は区隊長。第四区隊員との記念写真。呈今井区隊長殿と書かれている。	
◎	◎				1926	大正	15	1	26	◎		歩兵第75連隊附
☆	☆				1926	大正	15	3	25	☆		太田きみ子と婚姻入籍
1004		影佐禎昭書簡	影佐禎昭	今井武夫（葉書）	1927	昭和	2	3	10	書簡	（付）名刺1枚	
4	28	支那は動く 支那を見よ	長野朗		1927	昭和	2	2	5	書籍	長野は陸士21期で石原莞爾と同期。元大尉で拓殖大学教授。再版。	
17	29	陸軍士官学校41期生第三中隊第四区隊一同書簡	陸軍士官学校41期生第三中隊第四区隊一同	今井武夫	1927	昭和	2	3	6	書簡	寄書。陸士の教え子たちから東京市内陸軍大学校内の今井宛寄書の葉書。「最後の区隊会にて」とある。栗原安秀からは「天保中尉殿に憧れて」とある。このころ栗原は陸大にあこがれていた。なお、区隊は異なるが陸士41期からは栗原のほか、対馬勝雄と中橋基明の2名が二・二六事件に参加している。	
18	71	学生			1927	昭和	2	6		写真	2枚。呈上今井先生とある。12年前今井が長野で代用教員時代を勤めたころの教え子だった小学生からのものか。	
17	40	川上護の青島出勤記念			1927	昭和	2	7	10	写真	川上は富山歩兵69連隊では陸士先輩でもあり、かつ今井の生涯の親友でもあった。	
◎	◎				1927	昭和	2	7	26	◎		陸軍歩兵大尉 歩兵第75連隊大隊副官
17	28	陸軍士官学校41期生卒業記念写真帖			1927	昭和	2			冊子	今井は一時陸士41期の区隊長を勤めた。	
17	43	今井夫妻の新婚の頃の記念写真			1927	昭和	2			写真	昭和元年が2年のもの。大正天皇崩御のためか腕に喪章を付けている。	
15	55	亜細亜の解説付の写真集	亜細亜写真大観社		1927	昭和	2			写真	15箱-束5所収のファイル。亜細亜写真大観社は大連所在。年は推定。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
15	57	歳旦の辞	亜細亜写真大観社		1927	昭和	2			書類		
15	58	朝鮮印象記 (2)	檳榔子		1927	昭和	2			書類		
15	59	亜細亜大観 8回	亜細亜写真大観社		1927	昭和	2			冊子	年は推定。1927年～1929年か。	
15	60	亜細亜大観 47回	亜細亜写真大観社		1927	昭和	2			冊子	朝鮮 (その1)。年は推定。1927年～1929年か。	
15	61	亜細亜大観 48回	亜細亜写真大観社		1927	昭和	2			冊子	朝鮮 (その2)。年は推定。1927年～1929年か。	
15	62	亜細亜大観 53回	亜細亜写真大観社		1927	昭和	2			冊子	吉敦線子朝鮮 (その2)。年は推定。1927年～1929年か。	
22	130	朝鮮羅南陸軍官舎全景写真絵葉書			1927	昭和	2			絵葉書	3枚。昭和初期の頃のものか。羅南に第19師団があった。	
22	131	朝鮮羅南第19師団写真絵葉書			1927	昭和	2			絵葉書	司令部、師団長官邸、第25・27・73・76連隊正門、兵営写真。7枚。昭和初期の頃のものか。年は推定。	
22	133	朝鮮会寧歩兵第75連隊正面入口の写真絵葉書			1927	昭和	2			絵葉書	1枚。昭和初期の頃のものか。年は推定。	
22	134	朝鮮会寧の写真絵葉書			1927	昭和	2			絵葉書	3枚。2枚つづりのもの2枚、計5枚。昭和初期の頃のものか。年は推定。	
22	135	朝鮮の写真絵葉書			1927	昭和	2			絵葉書	清津、元山、豆満江のもの。6枚。昭和初期の頃のものか。年は推定。	
11	24	今井武夫日記	今井武夫		1928	昭和	3	1	1	日記	1928年12月31日迄、長男宏誕生 (10月)、陸大卒業 (12月)などを記載した手帳形式日記。ただし、昭和3年2月24日から10月18日迄は日記の記載なし。今井が遺した現存する一番古い日記。13-123に続く。	
◎	◎				1928	昭和	3	3	24	◎		歩兵第75連隊附
17	12	井波町のお祭 妻の実家太田呉服店			1928	昭和	3	5	9	写真	妻きみ子の実家前。推定昭和2年か3年。	
16	26	井波町の祭礼			1928	昭和	3	5	9	写真	妻きみ子の実家の太田家で御輿の宿を提供。年は推定。	
17	63	井波町の祭礼の日の妻の実家太田家			1928	昭和	3	5	9	写真	妻きみ子の実家である太田家で御輿の宿を提供したときのもの。推定昭和2年か3年。	
17	65	井波町の妻の実家太田家の庭			1928	昭和	3			写真	推定昭和2年か3年。	
17	66	井波町の祭礼の日の妻の実家太田家			1928	昭和	3	5	9	写真	太田家で御輿の宿を提供したときのもの。推定昭和2年か3年。	
●	●				1928	昭和	3	7	30	●		勳六等瑞宝章
20	15	今井武夫宛叙勳「勳六等瑞宝章授与証」	天岡直嘉	今井武夫	1928	昭和	3	7	30	勳章	叙勳六等瑞宝章。天岡は賞勳局総裁。	
◎	◎				1928	昭和	3	12	10	◎	資料中、8月となっているが12月と推定	歩兵75連隊 第十一中隊長
22	306	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1928	昭和	3	8	10	書簡	秋田県横手町から富山県井波町の妻宛葉書。東北に自分は初めて足を入れた。	
22	335	今井武夫書簡	今井武夫	太田長蔵	1928	昭和	3	8	12	書簡	広島市のとらや旅館から富山県井波町の太田長蔵 (義父)宛今井の葉書。富山滞在中の饗応に対するお礼。	
22	317	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1928	昭和	3	8	15	書簡	広島市のとらや旅館から富山県井波町の妻宛今井の書簡。朝鮮にいた石野 (芳雄)さんは支那駐屯軍司令部 (天津)に転出。(同期の)清田幸生は大尉に昇進、今井は中隊長ということになった。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
22	391	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1928	昭和	3	9	1	書簡	東京の新しい下宿から富山県井波町の妻宛今井の葉書。無事予定通り富山から東京に帰った。	
22	430	今井武夫書簡	今井武夫	太田長蔵	1928	昭和	3	9	1	書簡	東京市外 杉並町高円寺の自宅（下宿）から富山の義父太田長蔵宛葉書。一昨日突然参上しご懇情忝く。今朝11時予定通り東京着。本日震災記念5周年で東京市中は大騒ぎです。	
22	431	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1928	昭和	3	9	10	書簡	上野駅の今井から、富山県井波町の妻宛葉書。秋田県横手町へ行く。10時半の急行で明日10時に富山に着く。子供は逆子でなければ何より。お産について心配の必要ない	
22	311	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1928	昭和	3	9	20	書簡	山形県鶴岡の今井から、富山県井波町の妻宛書簡 兵站監の仕事をしている。	
22	305	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1928	昭和	3	10	2	書簡	仙台の今井から、富山県井波町の妻きみ子宛書簡。安産の吉報を待つ 寺田（雅雄）氏が陸大首席卒業の由だから、きみ子からも祝い状を出してほしい。明日塩釜神社参詣と松島見物をする予定。	
22	403	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1928	昭和	3	10	3	書簡	塩釜神社参拝後の今井から、富山県井波町の妻宛葉書。この神社は先年東久邇宮様が皇后陛下の安産を祈念せられし所。自分もきみ子の安産を祈った。	
★	★				1928	昭和	3	10	4	☆		大演習のため 岩手県花巻に集合
★	★				1928	昭和	3	10	6	☆		大演習
22	473	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1928	昭和	3	10	16	書簡	東京市外杉並町高円寺の自宅（借家：家主木村茂一方）の今井から、金沢市西馬場町の妻宛手紙。山本（陸士同期の政雄）の令嬢がなくなった由を学校で聞いた。奥様に弔慰金送りたいので、住所知らせてくれ。向かいに住む遠藤（同期の遠藤庄一のことか）は母親と弟の子供を連れてきている。	
22	312	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1928	昭和	3	10	21	書簡	東京市外 高円寺の自宅の今井から、金沢市材木町の妻宛葉書。気分落ちついた由により。工兵隊の隊附報告を今朝ようやく仕上げた。明後日は靖国神社の祭りで休み。	
22	405	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1928	昭和	3	10	25	書簡	東京市外杉並町高円寺の自宅の今井から、金沢市材木町の妻宛葉書。安産の報を鶴首。一昨日河原田浦治氏（竹馬の友）を訪問。昨日代々木で馬博覧会を見た。	
★	★				1928	昭和	3	10	26	☆		（長男） 今井宏誕生（於金沢市九人橋通り内田病院）
22	433	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1928	昭和	3	10	26	書簡	東京信濃町停留所から金沢市九人橋通り内田病院の妻宛葉書。わが子の誕生電報を喜ぶ。電文「ケサ八ジオトコニリブジ」母子無事と解するも、句読点の読み方では、双子の男子誕生とも解せられる。その場合は至急通知されたし。子供の名前を考えるが、希望あれば申越しされたし。（付）今井きみ子宛書簡 1通（今井武夫 8月カ8日 看病の効験見えざる由心痛し、幼児の事とて養生も困難、一同全快の暁は一家揃って温泉へ）	
22	319	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1928	昭和	3	10	30	書簡	東京青山の陸大内の今井から、金沢市九人橋通り内田病院の妻宛書簡。その後の子供の容態問い合わせ。大演習は本日終る筈。今日の学校は馬術は外乗り。語学一時間。22-427の葉書の後に発信したもの。	
22	427	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1928	昭和	3	10	30	書簡	東京の今井が陸大登校前に金沢市九人橋通り内田病院の妻宛葉書。今朝5時半の電報受け取った。解熱された由の吉報で今朝7時の貴方へ見舞いに出かけること取りやめた。しかし容態によっては何時でも出掛ける用意あり。 22-319の前に発信したもの。	
★	★				1928	昭和	3	11	3	☆		東京から金沢市に出かけ産院で妻子（きみ子・宏）に対面

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
22	390	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1928	昭和	3	11	6	書簡	東京市外杉並町高円寺の自宅の今井から、金沢市材木町の妻宛葉書。宏の入籍終了。退院せられたか。本日宮城前に参集して聖寿を奉祝する（11月10日の昭和天皇即位礼のためか）。	
●	●				1928	昭和	3	11	16	●		大礼記念章
20	23	今井武夫宛大礼記念章授与証の通知書	天岡直嘉	今井武夫	1928	昭和	3	11	16	勲章	大礼記念章の授与。天岡は賞勳局総裁。	
22	468	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1928	昭和	3	11	16	書簡	東京市外杉並町高円寺の自宅の今井から、金沢市材木町の妻宛手紙。2度目の手術に驚く。お乳の出ないときには鯉節の味噌スープを飲むとよい。自分はちょっとした病気で5日間ほど寝ているが心配しなくてよい。11月6日夜叔母さん（丸山ためのことか）のころへ行って晩餐をご馳走になった。	
22	411	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1928	昭和	3	11	20	書簡	東京市外杉並町高円寺の自宅の今井から、金沢市材木町の妻宛葉書。8日間仰臥したが、本日床上げし、陸大へ登校したのでご安心あれ。学校は今日から測量部で写真の稽古。宏は乳児脚気の由。母乳は全快するまで与えてはならないようだからご注意されたし。	
22	406	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1928	昭和	3	11	28	書簡	東京市外杉並町高円寺の自宅の今井から、富山井波町妻宛葉書。脚気の療養に富山の實家に帰ったのは結構。朝鮮行きもあなたの希望通り来春で良からう。	
☆	☆				1928	昭和	3	12	6	☆		長野の今井家（戸主 長兄今井亮三郎）から分家の届け 戸籍上独立
22	424	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1928	昭和	3	12	9	書簡	東京市外杉並町高円寺の自宅の今井から、富山井波町の妻宛葉書。17日夜もしくは18日朝井波へ行き 井波を24日乃至26日出発の予定。	
◎	◎				1928	昭和	3	12	10	◎	月は8月となっているが、12月の間違いではないか。	歩兵75連隊 第十一中隊長
◎	◎				1928	昭和	3	12	12	◎	徽章は昭和11年、48期生以降は廃止された。	陸軍大学校卒業（40期生）・徽章（いわゆる天保銭）授与さる
20	9	今井武夫宛 陸大卒業の証と徽章の授与証書	荒木貞夫	今井武夫	1928	昭和	3	12	12	書類	荒木は陸大校長・中将。	
22	334	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1928	昭和	3	12	30	書簡	朝鮮会寧の歩兵第75連隊十一中隊の今井から、富山井波町の妻宛葉書。京城の写真絵葉書に記載。12月30日予定通り到着した。同期清田幸生ほかを迎えられる。若林宅で同期生会を行なった。清田は任官早々第6連隊から、若林邦敏も第33連隊から補充されていた。	
16	15	ご大礼東京市奉祝会花電車 記念絵葉書	通信省		1928	昭和	3	12		絵葉書	3種類。月は3月ではなく12月と推定。	
21	277	ご大礼東京市奉祝花電車 郵便絵葉書	通信省		1928	昭和	3	12		絵葉書	昭和天皇の即位礼が前月（11月）10日に行なわれている。3種類。16-15と異なる種類。	
17	53	井波町の祭礼の日の太田家			1928	昭和	3			写真	妻きみ子の実家の太田家で御輿の宿を提供したときのもの。	
17	55	中国語のテキスト	竹藤峰治		1928	昭和	3			冊子		
17	64	井波町の太田家の庭			1928	昭和	3			写真	推定昭和2年か3年。	
22	110	広島大本営跡の絵葉書	広島偕行社		1928	昭和	3			絵葉書	3枚。日露戦争のとき広島に大本営が置かれた。年度は全くの推定。	
22	115	十和田湖の写真絵葉書			1928	昭和	3			絵葉書	6枚。年月は推定。	
22	116	青森と浅虫温泉の絵葉書			1928	昭和	3			絵葉書	10枚。年月は推定。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
22	120	岩手の写真絵葉書			1928	昭和	3			絵葉書	7枚。年月は推定。	
13	123	今井武夫日記	今井武夫		1929	昭和	4	1	1	日記	日記は4月2日迄。11-24の続き。	
22	314	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1929	昭和	4	1	1	書簡	朝鮮会寧の75連隊十一中隊の今井から、富山井波町の妻宛書簡。12月30日当地到着。若林（邦俊）宅で同期会を行なった。75連隊には若林のほか野口進、米丸正雄、清田幸生の4人が陸士同期として在籍していた。	
★	★				1929	昭和	4	1	8	☆		陸軍始め 町の道路で分列式を行う
22	384	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1929	昭和	4	1	9	書簡	朝鮮会寧歩兵第75連隊十一中隊の今井から、富山井波町の妻宛書簡。昨日は陸軍始めで町の道路で分列式をした。部隊全体に自分の着任紹介があった。今日は午前戦術、午後練兵を見た。来週は一週間耐寒行軍で5日間で30里ほど行軍する。同期の清田は正月温泉湯治に行っていたが6日に帰ってきて話し相手ができ賑やかになった。封筒なし。	
22	315	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1929	昭和	4	1	13	書簡	朝鮮会寧の第75連隊十一中隊の今井から、富山井波町の妻宛書簡。明日から中隊長として大隊の各中隊の兵を集めて耐寒行軍にでかける。30里を5日で歩く予定。	
22	269	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1929	昭和	4	1	20	書簡	朝鮮会寧の第75連隊十一中隊の今井から、富山井波町の妻宛書簡。宏の脚気を心配している。	
★	★				1929	昭和	4	1	28	☆		初の週番司令を勤める
21	289	文部省調査 中等学校 中等学校作法要項解説	中等教育学会		1929	昭和	4	1	28	書籍	改訂版。	
22	283	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1929	昭和	4	1	28	書簡	朝鮮会寧の第75連隊十一中隊の今井から、富山井波町の妻宛書簡 金谷範三大将2月1日来会。2日から初の週番司令予定。	
15	56	亜細亜大観趣意書	亜細亜写真大観社		1929	昭和	4	1		書類		
22	316	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1929	昭和	4	2	18	書簡	朝鮮会寧の第75連隊十一中隊の今井から、富山井波町の妻宛書簡。当地着任以来50日風邪を引かず、厳寒と闘っている。長男宏の脚気の具合は如何。	
22	313	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1929	昭和	4	2	26	書簡	朝鮮会寧の第75連隊十一中隊の今井から、富山井波町の妻宛書簡。戸外の検閲で寒かった。昨日で検閲終了。	
22	474	今井きみ子宛書簡の封筒	今井武夫	今井きみ子	1929	昭和	4	3	3	封筒	朝鮮会寧第75連隊の今井から、富山の実家の妻宛手紙の封筒。中味なし。	
22	339	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1929	昭和	4	3	16	書簡	朝鮮露支国境豆満江岸の旅館の今井から、富山井波町のきみ子宛葉書 宏の肺炎の電報受け取った 回復が早ければ4月上旬（7日か8日下関出発）に日本に迎えにいける。	
22	569	今井亮三郎と長野の家の自宅の庭の老松	今井亮三郎		1929	昭和	4	4	5	写真	今井家当主の長兄 亮三郎はこのとき満41歳。庭の松はこのとき300年以上の樹齢。	
7	40	冊子・気学入門 全	田中胎東		1929	昭和	4	5	20	冊子	再版。	
22	160	今井宏名義郵便貯金通帳			1929	昭和	4	5	23	書類	1933年11月22日まで。	
8	4	日満支経済懇談会報告書	日満支経済懇談会事務局・日満中央協会		1929	昭和	4	5	30	冊子		
22	14	循分新書	呉佩孚		1929	昭和	4	8		冊子	蓬萊呉子玉著とある。呉佩孚のことか。己巳仲秋とある。年月は推定。	
19	104	中国の地図	陸地測量部		1929	昭和	4	11		地図		
20	369	今井の肖像写真			1929	昭和	4			写真	陸軍大尉の時か。軍刀でなくサーベルを持つ。年度は全くの推定。天保銭をつけているが参謀肩章をつけていない。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
22	57	北支那北部河北省地図	参謀本部陸地測量部		1929	昭和	5	3		地図		
6	43	支那革命ノ策源地 広東概観	島谷忠義		1930	昭和	5	7	15	書籍	泰山堂書店。後の1933年4月11日に今井は著者に広東で会っている	
★	★				1930	昭和	5	7	19	☆		長女 今井俊子誕生（朝鮮咸鏡北道会寧陸軍宿舍）
22	161	長女今井俊子名義郵便貯金通帳			1930	昭和	5	7	28	書類	1932年11月7日まで。1930年8月14日はまだ今井家は会寧にいた。	
◎	◎				1930	昭和	5	8	1	◎		第75連隊 大隊副官 参謀本部附として三宅坂勤務
22	159	今井武夫名義郵便貯金通帳			1930	昭和	5	8	8	書類	1932年9月10日まで。1932年4月17日には妻きみ子は金沢市に移転している。	
★	★				1930	昭和	5	8		☆		参謀本部付として赴任のため 下旬に一家で朝鮮から東京に向かう家は東京市外 上目黒町駒場の陸軍官舎
8	37	支那関係條約集	半澤玉城		1930	昭和	5	9	10	書籍	外交時報社。	
15	49	今井ほか5人			1930	昭和	5			写真	1930と裏に記載あり。	
◎	◎				1930	昭和	6	3	11	◎		参謀本部員（支那班）
3	109	今井武夫書簡	今井武夫	宛先不明	1931	昭和	6	3	12	書簡	朝鮮会寧歩兵第75連隊大隊副官を免じられ、参謀本部部員への転勤挨拶状。今井は陸軍歩兵大尉。	
★	★				1931	昭和	6	3	26	☆	3月事件不発。	不発3月事件の当日 長勇大尉から計画の具体的話を打ち明けられる
12	269	第16師団主催の「満州事変展」に出品された中村震太郎大尉の遺品			1931	昭和	6	6	27	写真	6月27日に殺害された陸大同期の中村は死後少佐に進級。	
★	★				1931	昭和	6	9	18	☆	柳条湖事件（満州事変勃発）。九・一八事変。	柳条湖事件発生にともなう 陸軍省 参謀本部の緊急 部局長会議
★	★				1931	昭和	6	9	24	☆		柳条湖事件のため 参謀本部 橋本虎之助第二部長（少将） 西原一策・遠藤三郎少佐と 満州へ調査に夕刻東京駅を出発（一行4人）
★	★				1931	昭和	6	9	26	☆		調査団 下関着
★	★				1931	昭和	6	9	28	☆		調査団 満州奉天着 三宅光治 関東軍参謀長以下と会談（於日本旅館 瀋陽館）
12	267	満州事変・奉天占領とともに掲示された憲兵隊布告			1931	昭和	6	9		写真		
★	★				1931	昭和	6	10	8	☆	関東軍 石原莞爾中佐 錦州爆撃を行う。	調査団 石原莞爾中佐のところに錦州爆撃した目的につき聞きに行くが はぐらかされる
★	★				1931	昭和	6	10	16	☆		調査団3人（除く遠藤少佐）奉天を出発し 帰朝の途につく

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
★	★				1931	昭和	6	10	17	☆		帰朝途中 京城駅で朝鮮軍参謀西原貫治中佐から 重大事件（十月事件のこと） 発生との話を聞く
★	★				1931	昭和	6	10	19	☆		東京帰着 朝日新聞高宮太平記者らに 深夜自宅で十月事件の取材を受ける
20	298	栗原信一郎少佐の遺児を抱く夫人			1931	昭和	6	10	28	写真	陸士同期の栗原は 歩兵第29連隊第五中隊長として10月28日 満洲一裸樹附近で戦死。	
★	★				1931	昭和	6	11	1	☆		陸軍特別大演習終了後賜饌のご沙汰あり
13	54	一木喜徳郎書簡	一木喜徳郎	今井武夫	1931	昭和	6	11	1	書簡	一木は宮内大臣、陸軍特別大演習。	
22	429	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1931	昭和	6	11	7	書簡	熊本市大演習統監部の今井から、東京市外上目黒駒場の妻宛葉書。大坂經由本日予定通り熊本着。小学校の宿舎に入る。	
22	287	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1931	昭和	6	11	7	書簡	熊本市の今井から、東京市外目黒町上目黒駒場の妻宛葉書。「一体たる両名」が修養のモットー。	
22	472	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1931	昭和	6	11	12	書簡	大演習中の今井から、東京市外目黒町上目黒町駒場の妻宛手紙。「一体たる両名」。眼鏡入手有難う。途中で切れている。	
19	119	最新北平全市詳図	北平西单牌楼全市迤南建設図書館		1931	昭和	6	11		地図		
12	260	満州事変・第2師団長 郎中将と上野参謀長 多門二			1931	昭和	6	11		写真	11月第2師団はチチハルに入城。関東軍の指揮下に置かれた第2師団は2個旅団弱の兵力で数万と言われた馬占山軍を中央突破により圧倒した 多門は「時の人」となる	
12	259	満州事変・第2師団長 郎中将 多門二			1931	昭和	6	11		写真	陸士11期。	
◎	◎				1931	昭和	6	12	12	◎		参謀本部付仰付（支那班研究員） 中華民国へ単身出張 ～1933年10月25日 妻子は富山県井波町の実家で厄介になる
★	★				1931	昭和	6	12	27	☆		富山県井波町を出て石動駅で乗り換え 大坂へ向かう
2	22	支那近代の政治経済	日華実業協会		1931	昭和	6	12	28	書籍	外交時報社。	
22	432	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1931	昭和	6	12	28	書簡	神戸運輸部の今井から、富山の実家の妻宛葉書 本朝義姉夫婦（和田氏）と娘京子さんに見送られ大阪から神戸へ。神戸で乗船。天津へ向かう。日付は推定。	
11	170	陸軍大学校第四十期生会々々誌 4号	陸軍大学校第四十期生会		1931	昭和	6	12		冊子		
2	23	岩熊吾録	岩熊吾録		1931	昭和	6	12		名刺	2-22に挿入。年月は推定。	
16	37	今井の新婚時代・朝鮮第75連隊時代の将校、朝鮮雪の豆満江、長男宏・長女俊子など家族			1931	昭和	6			写真	1928年～31年頃の写真か。年は推定。	
12	231	教育総監 武藤信義大将			1931	昭和	6			写真		
12	252	歩兵第22連隊長 山脇正隆大佐			1931	昭和	6			写真	後の大将。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
12	256	満州事変・独立守備隊司令官 森連中将			1931	昭和	6			写真		
12	257	満州事変・関東憲兵隊長 二 宮健市少将			1931	昭和	6			写真		
12	258	満州事変・第20師団長 室兼 次中将			1931	昭和	6			写真		
12	261	満州事変・橋本虎之助少将			1931	昭和	6			写真	満州事変当時第二本部長だった橋本虎之助少将（14期）は 昭和7 年4月11日に第6代関東軍参謀長となる	
12	262	満州事変・小西邊門城壁より 我軍の攻撃			1931	昭和	6			写真		
12	263	満州事変・北満に戦う砲兵部 隊			1931	昭和	6			写真		
12	264	満州事変・張学良軍より鹵獲 した兵器類の検分			1931	昭和	6			写真		
12	265	満州事変・砲兵営占領直後の 馬けい場附近の惨状			1931	昭和	6			写真	競馬場のことか。この地は軍事上の要地であった。	
12	266	満州事変・饒陽河より前進す る装甲列車			1931	昭和	6			写真		
12	268	満州事変・戦利品 青天白日 旗			1931	昭和	6			写真		
★	★				1931	昭和	7	1	1	☆		大連 から天津着 初めて中国華 北の土を踏む
22	417	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	1	1	書簡	今井 から富山の実家にいる妻宛の年賀状。少し早い瀬戸内海で 認めたもの。	
★	★				1932	昭和	7	1	2	☆		夜北平に着くが 丁度張学良が関 内へ撤退の途中で 列車の運行が 不規則で遅延
★	★				1932	昭和	7	1	3	☆		北平城内外の名所等を見学
22	300	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	1	3	書簡	北平公使館陸軍武官室の今井 から富山の実家にいる妻宛の手紙。 1月2日夜北平に付く。丁度張学良が関内へ撤退の途中で列車の運行 が不規則で遅延。円が暴落して銀が上がったので、当地では閉口し ている。	
★	★				1932	昭和	7	1	5	☆		山海関に出張して友人（中尉）を 慰問
★	★				1932	昭和	7	1	7	☆		山海関より北平に戻る
22	462	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	1	9	書簡	北平日本公使館武官室の今井 から実家にいる妻宛の手紙。昨日 からフランス人経営の北京飯店に移る。中国旅館は排日的意味で謝 絶された。明日より3時間先生を招いて中国語の勉強をする。山海 関 から帰ったが山海関も北平も表面上は平静。	
22	412	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	1	13	書簡	北平北京飯店の今井から、実家にいる妻宛の葉書。錦州事件のため 奉天と北平間が不通にて、内地からたくさんの賀状ようやく一度に 受領。ホテル（飯店）は日本人は自分のみで 他は支那人と外人の み。自分は支那語ができず下手な英語で朝夕を過ごしている。	
22	413	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	1	15	書簡	北平日本公使館武官室の今井から、実家にいる妻宛の葉書。東京の 人事の異動はかなり激しい。参謀総長、次長のほか課長も代わり、 影佐禎昭少佐は天津に来る筈。錦州事件一段落。目下2時間中国語 の教授を受けている。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
22	350	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	1	18	書簡	北平北京飯店の今井 から実家にいる妻宛の手紙。 今度の異動では班長の根本博中佐、長勇少佐は発令されていない。重藤千秋大佐、影佐禎昭少佐が転出（注：十月事件の影響）。昨日石野芳男少佐が南京から出て来て対面した。	
22	396	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	1	23	書簡	北平北京飯店の今井から、実家にいる妻宛の手。新聞を見ると中国側は国交断絶を叫んでいる様子。先日来戒厳を敷いて街々に銃剣をつけた中国の兵隊が頑張っている。今日から語学の先生を一人増やして勉強している。日常片言の会話はできるようになった。二三日中に侍従武官が見える予定。	
22	354	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	1	25	書簡	北平北京飯店の今井から、実家にいる妻宛の手紙。今はやむなくフランス人経営のホテル暮らしで、ボーイも雇っていない。本日、勅語奉読あり、参列。	
22	273	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	1	30	書簡	北平日本公使館陸軍武官室の今井から、実家の妻へ。上海事変のことに言及。天津に着任した影佐少佐と昨日北平で懇談した。	
22	291	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	2	1	書簡	北平北京飯店の今井から、実家にいる妻宛の手紙。上海事変は大きくなってはらはらさせられている。	
12	270	上海事変 上海派遣軍司令官 白川義則大将 臨時参謀長 田代皖一郎少将 参謀副長 岡 村寧次大佐			1932	昭和	7	2	2	写真	日は推定。	
12	271	上海事変・第9師団長植田謙吉 中将ほか幕僚			1932	昭和	7	2	2	写真	日は推定。	
12	273	上海事変・混成第24旅団長下 元熊弥少将と幕僚			1932	昭和	7	2	2	写真	下元は陸士25期。日は推定。	
3	151	戦争小説 満州事変の後に来る もの？	中山四郎		1932	昭和	7	2	2	書籍	戸張書店。	
22	437	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	2	2	書簡	北平公使館陸軍武官室の今井から、井波町の実家にいる妻宛の手紙。いよいよ昨日内地ではあること決定。今頃井波では大騒ぎしているかも知れないがしばらく発表禁止なのでそれだけしか書けない。（注：上海事変のための内地から軍隊派遣のことか）	
22	298	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	2	6	書簡	1月28日の手紙受け取った。この日 2月6日土曜日は旧正月（春節）にあたる。ようやくホテルのボーイと中国語で意志を通じることができるようになった。陸大同期の佐久間準が病死した。上海事変も天津事変位のボヤかと思っていたが中々おさまらないね。封筒なし。	
22	416	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	2	8	書簡	北平北京飯店の今井から、実家にいる妻宛の葉書。上海陸兵派遣の声明発表 秘密にしていたのも発禁がとけたらいい。所得税のことについて。当地の気分相変わらず陰鬱。	
20	485	北京プーシャンカン			1932	昭和	7	2	10	写真	北京プーシャンカンと記入あり。5名。	
22	467	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	2	12	書簡	2月2日の手紙受け取った。第9師団も一部動員実施されること内地で新聞解禁された。天津軍の影佐少佐に懇望されてやむなく、一二月の予定で天津軍に勤務する。当地の公使館付武官補佐官永津（佐比重）中佐には断っていたが、既に先般参謀本部から 天津軍業務補佐の命令も受けており、義理もあるので。半年は静かに支那問題研究したかったが快諾した。	
★	★				1932	昭和	7	2	13	☆		北平を出発 夜9時汽車で天津着

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
22	366	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	2	14	書簡	天津の今井から、実家にいる妻宛書簡。一昨日に連絡したように、急に天津出張するよう言われて昨日北平を出発。9時汽車で天津着。影佐さんと話し合った。補佐役を勤める。今後北支の情勢は相当変化あるべし。	
22	327	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	2	20	書簡	天津司令部の今井から、妻宛書簡。天津へ来てから、多忙。知名な支那人と応接している。午前中は語学学習、午後は軍の仕事を手伝うことを繰り返している。	
12	272	上海事変・廟行鎮における爆弾三勇士散華の地			1932	昭和	7	2	22	写真		
20	488	上海事変			1932	昭和	7	2		写真	全54枚。月は推定。	
★	★				1932	昭和	7	3	2	☆		山東省済南着 石友三 程希賢と折衝
22	425	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	3	3	書簡	山東省済南の今井から、富山の実家にいる妻宛の手紙。本日から山東省主席韓復榘を訪ね種々懇談。上海の戦報も大勝利で愉快だが、戦死者多く同情に耐えない。当地でも北陸人の武勇を讃えている。長女俊子の桃の節句祝ってやってくれ。ヤマトホテルの罫紙に記載。	
22	356	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	3	5	書簡	山東省済南の今井から、富山の実家にいる妻宛の手紙。昨日済南から帰還。	
22	399	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	3	9	書簡	天津軍司令部経由 中国在勤の今井から、実家の妻宛の手紙。宇都宮（注：第14師団）の小松様（義兄）召集された由だが、上海事変は一段落にて恐らく、出兵見合せとなるのではないかと。影佐少佐も自分も国中央から派遣ということで（天津軍では）客分のようにやりにくい。やりかけた大仕事だけは是非実現させて、北京に帰りたい。（注：大仕事とは何か分からない。）	
22	455	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	3	12	書簡	天津軍司令部経由 中国在勤の今井から、実家にいる妻宛の手紙。天津から、だが北京グランドホテルの用紙に記載。宇都宮師団は出征することなく停戦した模様。第9師団は非常な犠牲を出した。内地の新聞の爆弾三勇士（2月22日戦死）には感激した。計画の仕事は暗礁に乗り上げて容易に実現せずそのため北平帰りも遅れて天津に滞在せねばならない。当地は蒙古風が吹き不愉快。	
22	302	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	3	13	書簡	天津軍司令部経由 中国在勤の今井から、実家にいる妻宛の手紙。当地は蒙古風がひどい。子供の漢方薬送る。長野には子供の教育上金沢に移転する旨自分から、連絡してあるから、（親族への気遣いは）無用。	
22	353	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	3	15	書簡	天津軍司令部経由 中国在勤の今井から、実家にいる妻宛の手紙。2枚目なし。Grande Hotel de Peking の罫紙に記載。	
22	385	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	3	19	書簡	天津軍司令部経由 中国在勤の今井から、実家にいる妻宛の手紙。影佐禎昭少佐が東京へ行って既に1ヶ月。手伝いのつもりが自分が主任で忙しい。北平へ引揚を考えたが参謀長（菊池門也大佐）から、片腕（影佐少佐のことか）が東京へ行っているのに、両腕をとられては困ると言われて居残っている。年月は推定。封筒なし。	
22	296	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	3	26	書簡	天津軍司令部経由 中国在勤の今井から、実家にいる妻宛の手紙。支那駐屯軍新司令官中村孝太郎少将の巡視がはじまった。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
22	336	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	3	27	書簡	天津軍司令部経由中国在勤の今井から、実家にいる妻宛の手紙。影佐少佐が北平・奉天に旅行しており代理で忙しい。戦死した空閑少佐とか全滅を伝えられた大久保中隊等は皆自分の旧知の人だ。発信月は推定。土曜日とある。空閑（くが）少佐は金沢の第9師団の大隊長であった。 なお、この手紙の発信日付は26日で土曜日。内地では3月28日に空閑少佐は自決し、軍神となったこととなっているが、戦死日時がことなり、今井は内地に伝えられた内容と異なる空閑少佐情報を中国で持っていたのであろうか。	
22	456	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	3	31	書簡	天津軍司令部経由中国在勤の今井から、実家にいる妻宛の手紙。参謀長（菊池門也大佐）と天津の花園街の大和ホテルと一緒に宿泊している。近く北平に帰るようになりはせぬかと思っている。きみ子の身体のことを心配。海外にいる者の内地所得税申告について。	
22	292	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	4	16	書簡	天津軍司令部経由中国在勤の今井から、実家にいる妻宛の手紙。影佐少佐11日に天津に戻り、今済南に行っている。立返るのを待って20日北平に行くことに決定した。唐川(安夫)さん、沢本(理吉郎)君の渡欧は多分5月だろうと思う。	
★	★				1932	昭和	7	4	17	☆		妻きみ子 長男宏 長女俊子を連れて 富山の実家を出て 金沢市横山町3番丁1-19に引越す (幼い子供達がいたずらして きみ子の実家の商売に邪魔になるためと教育上の理由)
22	421	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	4	22	書簡	北平の今井から、実家の妻宛の葉書。昨日天津から、引揚げて北平に戻る。新しい宿はロシア人経営の宿で、部屋二室、居室、応接室があり気持がいい。きみ子から、住所移転の知らせがあったから、東京へ届ける。	
22	388	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	4	23	書簡	北平の今井から、実家の妻宛の手紙。許しが出て一昨日北平へ帰り、また本来の研究員の任務に戻った 今度の家は露国人の宿で、下宿人が10人位いる。北平は今が多くの花咲く時。	
★	★				1932	昭和	7	4	29	☆	張宗昌は山東省の軍閥。張作霖の部下。	天長節 式典あり 菊池（武夫）大佐（男爵）と一緒に 張宗昌（軍閥）を訪問
22	294	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	4	30	書簡	北平武官室の今井から、金沢市横山町の妻きみ子宛の書簡。きみ子17日金沢市に移転の由。昨日は天長節で式あり。菊池（武夫）大佐（男爵）と一緒に 張宗昌（軍閥）を訪問した。上海の暗殺事件内地でもショックであろう。	
20	79	軍人写真			1932	昭和	7	4		写真	呈今井君と署名付き。陸軍中将か。田代統一郎中将か。	
22	323	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	5	7	書簡	北平の今井から、金沢市横山町の妻宛の書簡。4月16、23、30日と手紙出したが届かないものもあるのか。留守宅住所変更を5月1日にしておいた。	
22	418	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	5	8	書簡	北平の今井から、金沢市横山町の妻宛の葉書。流感のごとき風邪流行して、天津でも軍病院満員。中国では今月1日から、郵税5割の値上げ。立法院ではまだ値上げに反対しているようだが、もう葉書に5割増しの切手を貼らねば相手に届かないのが事実だ。	
22	310	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	5	10	書簡	北平の今井から、金沢市横山町の妻宛の書簡。上海派遣の陸軍は全部引揚になったので、来月上旬には金沢師団（第9師団のこと）も凱旋するだろう 唐川安夫さん（陸士29期）は5日にローマに赴任。寺田雅雄氏（陸士29期、陸大同期）は8月（イギリス赴任）らしい。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
22	288	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	5	15	書簡	北平から 金沢市横山町の妻宛の書簡。千人針を長野からも送ってくれる由。配慮有難う。身内の情が嬉しい。御互い何事も信じ合おう。年は推定。	
22	453	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	5	21	書簡	北平の今井から、金沢市横山町の妻宛の手紙。東京は大騒ぎだね。深憂している。上海派遣軍もどんどん引揚げ、そろそろ金沢も凱旋気分で埋まることだろう。中国では郵税5割値上げしたが、立法院から、横槍が出て又変更。2分5厘の値上げとなった。5月1日から、20日まで5割。21日から、2割5分の値上げとなった。なかなか不統一。自分は居留民の射撃大会で7等賞品をもらった。	
22	420	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	5	26	書簡	蒙古の入り口である察哈爾省張家口に旅行中の今井から、金沢市横山町の妻宛の記念の葉書。一昨日から、郵便局のストライキでこの手紙何時着くか分からない。明日は山西省の大同に旅行したいと思って中国側と交渉中だが、許可されねば北平へ帰る予定。	
22	440	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	5	28	書簡	北平の今井から、金沢市横山町の妻宛の手紙。4日ほど蒙古の入り口である張家口に行ってきた。更に奥地に行きたかったが土匪の関係で中止。その代わりに昨日八達嶺へ行き、万里の長城を見た。今度佐方（繁木）、渡辺両大尉がまた北平に来たが、長少佐は漢口、渡辺（秀人）大尉はハルビンに行くこととなり、二から三日中に出発する。短歌3首あり。	
22	308	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	5	29	書簡	北平の今井から、金沢市横山町の妻宛の書簡 下宿はホテル式で朝晩の二食主義にしている。	
22	400	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	5	31	書簡	北平の今井から、金沢市横山町の妻宛の葉書。余り暑いので涼しい家を見付けて移転することにした。ボーイを頼んで自炊を始めた。	
22	471	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	5		書簡	一番小さいベスト型の携帯写真機旅行報告書に必要なので銀の130円で買った。先だって言った千人縫（22-288関連の千人針のことか）を長野から送ってきた。年月は推定。封筒なし	
22	423	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	6	4	書簡	北平の今井から、金沢市横山町の妻宛の手紙。内地の将校婦人会のことや、牛黄（漢方薬）の送付について。暑くて食欲もないので涼しい軒家に引越した。今頃金沢では博覧会や凱旋部隊で大騒ぎのことと想像している。	
22	348	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	6	8	書簡	北平の今井から、金沢市横山町の妻きみ子宛の書簡。長少佐 渡辺大尉満洲を経て出発するので見送った。天津歩兵隊は内地に帰還する部隊の中に金沢部隊も一中隊ある。砺波中尉にきみ子のことを依頼しておくから、軍隊関係のこと相談すればよい。	
22	304	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	6	11	書簡	北平の今井から、金沢市横山町の妻宛の書簡。テニスを始めたら熟睡できるようになった。上海で戦死した林大八少将（軍神となった）の息子のこと。空閑少佐のことが書いてあるので、久しぶりに（雑誌）「キング」（講談社）を買って読んだ。	
22	402	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	6	11	書簡	今井（天津の鉄林公館の住所）から 金沢市横山町の妻宛の夜発信の葉書。また命令があり天津軍司令部附で自分が出向くこととなった。影佐少佐は帰朝後、直ちに7月上旬欧米旅行予定。その後任で一時自分に移駐の命令が出た。	
☆	☆				1932	昭和	7	6	16	☆		天津軍から 督促電報が15日に来て天津に赴任 実務に就く
22	318	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	6	18	書簡	天津軍司令部の今井から、金沢市横山町の妻宛の書簡。天津軍から督促電報が15日に来て、16日天津着、実務に就く。コレラが流行したしたので閉口している。第9師団の部隊と交代に大坂や和歌山部隊が来た。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
22	357	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	6	23	書簡	天津の今井から、金沢市横山町の妻宛の書簡。影佐少佐から全部仕事を引き継いだ。影佐少佐は明日帰国のはずだったがアメーバ赤痢で30日に帰ることとなった。帰れば家に一週間いて、欧米をひと回りせねばならずかなり予定でごたごたしている。	
22	398	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	6	25	書簡	天津日本疎開の今井から、金沢市横山町の妻宛の書簡。天津の周囲でコレラが流行して、日本租界にも出始めた。毎日中国人と会って不自由な中国語で応対し忙しい。6月20日から8月20日まで小学校は夏休み。この間が一番暑い。	
22	299	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	7	2	書簡	天津の今井から、金沢市横山町の妻宛の書簡。影佐少佐アメーバ赤痢で寝ていたが、6月30日に帰国した。天津でコレラがはやっていて、日本人3名、兵隊1名が罹り、皆死んだ。	
22	338	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	7	9	書簡	天津の今井から、富山県水見郡に海水浴に行っている妻宛の書簡。天津では交代部隊がやってきて暑さにびっくりしている。室内(華氏)101度、室外120度という温度。コレラのため冷たい飲み物は取れず焦熱地獄。禁を犯して水を飲んだものは10人に4人は腹をこわしている。	
22	329	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	7	13	書簡	天津の今井から、金沢市横山町の妻宛の書簡。長男宏の百日咳の報に驚いている。今夜から、雲南に旅行し16日に一旦帰り、北京へ行き、18日に天津へ帰る予定。	
22	392	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	7	18	書簡	天津日本租界から 金沢市横山町の妻宛の葉書。宏の百日咳について病状問合わせ。今日北平より天津に帰った。日付は推定。	
22	404	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	7	18	書簡	天津租界の今井から、金沢市横山町の妻宛の葉書。今朝葉書を出したら14日の手紙受け取った。宏の病気は俊子に移したくない。発信月は推定。発信日は14-392と同じ日の発信か。	
22	452	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	7	18	書簡	北平の今井から、出張金沢市横山町の妻宛の手紙。今朝済南から、天津へ帰還。午後一ヶ月ぶりに北平に戻った。前に北平で下宿していたロシア人の家から、もコレラ患者が出た。早く家を代っており、荷物等置いてなくてよかった。明後日天津へ帰る予定。扶桑館の野紙に記載。	
9	81	南方亜細亜の民族と社会	満鉄東亜経済調査局「新亜細亜」編集部		1932	昭和	7	7	20	書籍	大和書店。	
22	331	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	7	23	書簡	天津の今井から、金沢市横山町の妻宛の書簡。宏の病気如何。17日北平へ行った。コレラは下火になった。張学良が熱河境に78旅団軍隊を出動させて大騒ぎをしているが、当地の状況は表面静穏。新聞発表は一時代理で自分がしている。(参謀本部の)岩松支那課長が月末から、来月にかけて来る予定。	
22	469	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	7	26	書簡	天津の今井から、金沢市横山町の妻宛の書簡。17日の手紙受け取った。宏が衰弱した由 可哀そう。張学良の熱河へ軍隊侵入は関東軍はじめ日本に種々の点で影響あり。1枚目のみで切れている。日付は推定。26日の封筒があったのでこの日と推定。	
22	332	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	7	31	書簡	天津の今井から、金沢市横山町の妻宛の書簡。宏に加えて俊子も病気の由。看護婦一人雇ってはどうか。	
22	422	今井武夫書簡	今井武夫	今井宏	1932	昭和	7	7	31	書簡	天津の今井から、金沢市横山町の長男宛の葉書。カタカナ書きの見舞い。	
22	358	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	8	2	書簡	天津租界鉄林公館の今井から、金沢市横山町の妻宛の書簡。東京の参謀本部支那課長の岩松大佐が来たが、当地で病気になる自分はその世話をしている。発熱40度で心配している。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
22	382	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	8	4	書簡	天津の今井から、金沢市横山町の妻宛の書簡。8月下旬までに上海に行き、公使館付武官の補佐をしてくれとの話だ。影佐少佐からの手紙で上海へ行って根本中佐の補任を言ってきたものが実現したわけである。自分のように研究員で中国の北の端から、中部を見て南の端まで動いて歩いた者は、一寸前例がない筈である。	
22	383	今井武夫書簡	今井武夫	今井宏	1932	昭和	7	8	4	書簡	天津の今井から、金沢市横山町の長男宛の書簡。22-382に挿入。カタカナ書き。お手紙ありがとう。クリミヤ戦争とナイチンゲールについて。	
22	295	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	8	6	書簡	天津の今井から、金沢市横山町の妻宛の書簡。岩松義雄支那課長は天津で罹病して長らく滞在していたので世話をしていたが全快。上海へ転任して後任は酒井隆中佐が進級して支那課長になるはず。今井の上海行きは、新旧課長が知らない間に決定。上海へ行けば田代少将、岩松大佐、根本中佐の下になり、雑務で忙しくなるであろう。	
14	11	支那視察報告書写	土肥原賢二		1932	昭和	7	8	11	書類	武田用箋の罫紙に記載。参考「専田少佐」とある。今井の同期である専田盛俊か。	
22	352	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	8	13	書簡	北平日本公使館の今井から、金沢市横山町の妻宛の書簡。上海行のため昨日荷物整理かたがた お別れのため北平へ来た。明日は天津へ一旦引き上げる。	
22	330	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	8	19	書簡	天津の今井から、金沢市横山町の妻宛の書簡（於天津と封筒に記載あり）。俊子の激しい咳に心配。天津では涼しくなって10日から、夏休みも終って就学している。夫婦間の愛について。	
22	428	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	8	20	書簡	天津の鉄林公館の今井から、金沢市横山町3番1号の妻宛の書簡。氷見の海水浴に行った由。自分は見習い士官時代、富山から、10里ほど歩いた後、氷見の海岸で2泊3日の演習をした。砂浜を炎天に照らされて、夜昼演習をやったので、日射病で兵隊が悩まされた記憶がある。封筒は18日付け記載になっている。	
22	309	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	8	23	書簡	天津鉄林公館の今井から、金沢市横山町の妻宛の書簡。歯の治療代にお金がかかるなどと気兼ねしないで根本的に治しなさい。買って送った指輪の色の変色について。	
★	★				1932	昭和	7	8	26	☆		塘沽出帆 27日大連着
★	★				1932	昭和	7	8	27	☆		大連で天津から 連れて行った中国人の仕事で奔走
★	★				1932	昭和	7	8	28	☆		旅順に行き 陸士同期の山本（政雄氏）を訪問
22	351	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	8	28	書簡	大連の今井から、金沢市横山町の妻宛の書簡。 26日天津を出発。昨夜大連着。明日上海に向かって出発する。天津から、は南京対岸まで汽車はあるが、日本人の旅行は危険なので、荷物が身動きがならぬので海路を通らねばならない。	
22	439	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	8	30	書簡	青島沖の奉天丸から 金沢市横山町の妻宛の書簡。 明日上海着の予定。海から 見る青島は堂々たる街で、日本が中国に無条件で返したのは残念なくらい。大連汽船会社の罫紙に記載。	
★	★				1932	昭和	7	9	1	☆		上海着 岩松義雄大佐と挨拶廻り 2日も挨拶廻り
22	459	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	9	3	書簡	上海武定路97号田代公館から 金沢市横山町の妻宛の手紙。8月26日塘沽出帆から 9月2日までの旅行と活動報告。22-460長男宏宛の手紙同封か。	
22	460	今井武夫書簡	今井武夫	今井宏	1932	昭和	7	9	3	書簡	日付なきも22-459に同封されていたものか。カタカナ書き。	
22	290	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	9	5	書簡	上海武定路97号田代公館から 金沢市横山町の妻宛の葉書。文藝春秋受領した。ご厚意感謝。2枚。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
22	289	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	9	10	書簡	上海武定路97号田代公館から 金沢市横山町の妻宛の手紙。上海へ来てからある調査を命ぜられている。上海では先輩がいるのみ。日本人の気持がはなはだしく悪く、宿舎に閉じこもっている。	
22	454	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	9	14	書簡	上海武定路97号田代公館から 金沢市横山町の妻宛の手紙。田代少将を根本中佐とともに補佐している。今月一杯根本中佐満洲方面から 北支那旅行に出ているため、ほとんど一人で武官室の仕事をしている。武官室の二階に独りで居る。田代少将は別棟に住む。事務で忙しい。排日テロ団の襲撃説、共産党の策動が予想され一同緊張している。南方は人気も悪く、日本人が恨まれることひどいらしい。石野少佐は昨日福建で旅行中支那人に捕らえられたが、すぐ釈放された由。	
22	280	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	9	17	書簡	上海武定路97号田代公館から 金沢市横山町の妻宛の書簡。上海では謠言多く、租界警察署は相当厳重に警戒している。爆竹を投げ込んだりする事件がある。	
22	293	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	9	19	書簡	上海武定路97号田代公館から 金沢市横山町の妻宛の葉書。上海の9、18事件記念日は共産党の策動あるも未然に防げた。半旗を掲げた家もあったが無事に過ごせた。	
22	158	今井武夫書簡	今井武夫	今井宏	1932	昭和	7	9	20	書簡	上海武定路97号田代公館から 金沢市横山町に母と下宿する長男宏(3歳)宛のカタカナ書きの書簡。	
22	446	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	9	24	書簡	上海武定路97号田代公館から 金沢市横山町の妻宛の手紙。昨日上海の地形を視察するため江湾競馬場に行った。上海事変の戦闘跡地を見て8千万同胞の人柱となった戦士を思う。	
22	324	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	9	28	書簡	上海武定路97号田代公館から 金沢市横山町の妻宛の書簡。田代支那公使館付武官(少将)は南京駐在武官等を従え本日実施の有吉公使国書奉呈式列席のため昨日南京に向かった。	
22	447	北平の日本公使館前	今井武夫		1932	昭和	7	9		写真	22-446同封写真。	
22	448	上海間北破壊された建物跡にて探し物をする中国人	今井武夫		1932	昭和	7	9		写真	22-446同封写真。	
22	449	上海埠頭の軍艦	今井武夫		1932	昭和	7	9		写真	22-446同封写真。	
22	419	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	10	2	書簡	上海武定路97号田代公館から 金沢市横山町の妻宛の葉書。再び蘇州に旅行を命ぜられ、本日上海に帰った。事変後蘇州を訪れた日本人は自分が二人目なる由。歴史的には名所旧蹟のある所で歴史を偲んだ。	
22	434	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	10	8	書簡	上海武定路97号田代公館から金沢市横山町の妻宛の手紙。武官室は狭い上に、4週間家を空けていた根本中佐も帰ってこられたので、昨日英人の家へ変った。英語の稽古にもなる。満洲国方面はまた騒いでいるね。行方不明を伝えられる渡辺少佐と井上大尉のことについて。自分の知った人で次々と変事のあることを聞くことが実に多い。	
2	2	弾雨を超越して 教え子のために	堤正賢		1932	昭和	7	10	10	書籍	兵書出版社。3月23日に西尹家店で戦死した栗崎忠盛大尉の追悼書籍。	
★	★				1932	昭和	7	10	15	☆		山東省曲阜の孔子廟を見る
20	474	泰山遠望			1932	昭和	7	10	15	写真	於津浦線泰安。同一2枚あり。	
20	475	孔子廟			1932	昭和	7	10	15	写真	於曲阜駅。同一2枚あり。	
20	481	臨城駅			1932	昭和	7	10	15	写真	1923年5月に臨城事件が起った場所。天津から 南京対岸の浦口にむかう津浦線の急行列車を土匪千人がおそったもの。ロックフェラーの姪も被害に会い、世界を震撼させた。	
20	482	臨城駅			1932	昭和	7	10	15	写真		

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
20	483	臨城駅			1932	昭和	7	10	15	写真	1日とあるが15日の間違いか。	
22	435	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	10	15	書簡	津浦線の今井から、金沢市横山町の妻宛の手紙。昨14日上海を出発して、南京を経て山東の韓復榘と劉珍年の抗争の状況視察に赴く途中。南京は初めて。明の太祖の皇陵と中山陵だけ見物し、揚子江を渡って、津浦線を北上している。津浦線は日本人の旅行は危険といわれていたが、もう大丈夫だと思う。約一週間か10日したら上海へ帰る。韓劉抗争は中央の調停が奏効しそうだ。	
★	★				1932	昭和	7	10	16	☆		高密、濰縣に行く
20	477	韓劉戦事餘聞			1932	昭和	7	10	16	写真	於濰縣。韓復榘と劉珍年の戦争のこと。	
20	478	鉄甲車 韓劉戦事餘聞			1932	昭和	7	10	16	写真	於高密。	
20	479	装甲列車 韓劉戦事餘聞			1932	昭和	7	10	16	写真	於高密駅。	
20	480	韓劉戦事の後方			1932	昭和	7	10	16	写真	於濰縣駅。11月は10月の間違いか。	
22	408	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	10	18	書簡	中国旅行中の今井の横台駅から 金沢市横山町の妻宛の葉書。山東問題は劉珍年の譲歩でどうやら解決できそう。山東に入ると日本的気分が横溢していて愉快。山東鉄道は満鉄式で乗務員も日本式に訓練されている。	
22	284	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	10	22	書簡	天津から 金沢市横山町の妻宛の書簡。山東を廻って済南駐在の中野英光中佐と天津へ来た。山東問題は表面の解決に反し却って急迫の徴あり。急ぎ帰る予定。	
20	476	長江帆船			1932	昭和	7	10	26	写真	同一2枚あり。	
22	286	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	10	26	書簡	上海武定路97号田代公館から 金沢市横山町の妻宛の葉書。10日余りの旅行から 本日上海に戻った。揚子江以北は寒かった。	
22	415	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	10	27	書簡	上海武定路97号田代公館から 金沢市横山町の妻宛の今井の手紙。昨日帰った旅行について。津浦線は日本人には危険といわれたが、ともかく往復無事だった。	
22	363	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	10	29	書簡	上海武定路97号田代公館から 金沢市横山町の妻宛の今井の書簡。北京語の良い教師を探しあて、2時間ずつ習い始めた。	
20	468	蘇州宝帯橋			1932	昭和	7	11	1	写真		
20	469	蘇州宝帯橋			1932	昭和	7	11	1	写真	20-468と同じ様なもの。	
20	470	蘇州虎丘			1932	昭和	7	11	2	写真	同一2枚あり。	
20	471	蘇州			1932	昭和	7	11	2	写真	これも虎丘の一部か。同一2枚あり。	
20	472	蘇州大湖附近南船			1932	昭和	7	11	2	写真		
22	328	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	11	3	書簡	上海武定路97号田代公館から 金沢市横山町の妻への今井の書簡。先般山東旅行に行ったおり宛へ葉書を出したが、まだついていないのか。根本様が武官室の分室を作るかもしれない。	
22	441	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	11	5	書簡	上海武定路97号田代公館から 金沢市横山町の妻宛の今井の手紙。30日の手紙拝見。先日蘇州へ一寸行ってきた。上海事後、訪れるものは自分が最初。市中を歩いたが、今は危険はない。事変当時第19路軍司令部があった。日本の海軍の飛行隊が爆破した跡があった。	
22	442	今井武夫書簡	今井武夫	今井宏	1932	昭和	7	11	5	書簡	病気の見舞い。誕生日の贈り物。日付なく22-441に同封と推定。	
20	473	上海江湾競馬場			1932	昭和	7	11	7	写真	同期の川上清志案内。同一2枚あり。江湾競馬場は上海事変の戦闘跡地であり、戦略要地。今井は江湾競馬場へ行った。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
22	410	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	11	10	書簡	上海武定路97号田代公館から 金沢市横山町の妻宛の今井の葉書。子供は田舎の気分で育てた方が可。長女俊子が田舎言葉になるのは差し支えない。金毘羅様のお守り有難う。	
22	349	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	11	12	書簡	上海武定路97号田代公館から 金沢市横山町の妻宛の手紙。4日出の手紙受領。宏がよく安心。田代少将が漢口旅行から 二週間ぶりて帰ってこられた。根本中佐の敵父逝去されたが、帰国するわけに行かず、気の毒だ。	
22	438	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	11	19	書簡	上海武定路97号田代公館から 金沢市横山町の妻宛の手紙。市街の中心に近いところに分室を設けて根本中佐が移転し 田代少将と共に武官室に起居して、本館の事務をとることとなった。済南の中野英光少佐から 手紙あり。今井を実務に使わず支那語等勉強させるようにすべきで、支那研究の便利な地点に移転させるべきと支那課長に働きかけてくれているとの由。	
22	355	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	11	20	書簡	上海武定路97号田代公館から 金沢市横山町の妻宛の手紙。蔭膳に感謝。長男宏、長女俊子の病気を心配。姪の今井雪子の結婚式は子供が病気のだから 無理せず欠席してはどうか。	
22	426	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	11	26	書簡	上海の今井から、妻宛の手紙。子供たちが元気回復して嬉しい。富山の實家に厄介になっている由宜しくお伝えください。21日当地の服部少佐蘇州の田舎旅行中、支那側公安局に捕らえられて心配したが、連れて行った通訳が公安局員を知っていて買収したりして問題にならず23日に帰ってきた。今夏は石野少佐が福州で捕まえられるなど田舎はまだ相当戒慎を要する。封筒なし。2枚。	
22	407	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	11	30	書簡	上海武定路97号から 富山の實家の妻宛葉書。井波へ一時お帰りの由いかが。国際連盟の雲行きも容易に予測を許さない。中国人の居るところではジュネーブの空気はそのまま反映するので、いろいろごたごたしている。妻を思う短歌あり。	
22	278	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	12	3	書簡	上海武定路97号から 富山の實家の妻宛手紙。實家に帰って子供達喜んで由結構。子供達の写真と文藝春秋が送付されてくるのを待っています。	
22	381	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	12	8	書簡	上海武定路97号から、富山の實家の妻宛への今井からの手紙。栗鼠の毛皮について。じきに引越すから、とって自分は暖炉のない洋式の部屋で、着物を着込んで寒さで丸くなっている。3枚だが枚目の冒頭部分切れてない。	
22	343	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	12	10	書簡	上海武定路97号から 富山の實家のきみ子宛への今井からの葉書。本日公館へ引越した。	
22	380	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	12	13	書簡	上海武定路97号から、富山の實家の妻宛への今井からの手紙。公館への引越し終わって、今は訪れる人もない所に一人起伏している。海軍の北岡という人について。	
22	377	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	12	17	書簡	上海武定路97号から 富山の實家の妻宛今井の手紙。根本（博）さんが漢口に旅行中で忙しい。本日電報が来て1月末に広東に行けと言う訓令あり。	
1	62	満州事変・支那駐屯軍記念写真帖	陸軍恤兵部		1932	昭和	7	12	20	写真		
22	386	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	12	22	書簡	上海武定路97号から 富山の實家の妻宛手紙。根本中佐旅行中に練習艦隊入港、百武源吾長官の来上海で忙しかったが、出港し、儀式は済んだ。根本中佐は明日帰る予定。中国は今物価が非常に高く、日本の5～6割から 倍近く高い。3枚。	
22	470	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	12	24	書簡	上海武定路97号から 富山の實家の妻宛今井の手紙。戦死と決定した親しかった渡辺少佐と井上大尉との因縁について。今年の12月の異動は7日に発表された。昨年は14日発表だった。3枚もので1枚目なし。封筒なし。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
22	375	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	12	31	書簡	上海武定路97号から、富山の実家の妻宛への今井からの手紙。年末の挨拶。満洲事変は1年や2年で解決されないかもしれない。（日本の）将来の準備のため中野英光中佐が僕に期待してくれている。	
20	489	中国研究員時代の写真ネガ			1932	昭和	7			ネガ	2枚。	
20	506	中国研究員時代のものか			1932	昭和	7			写真	15枚。中国研究員時代のものか。	
20	511	中国研究員時代のものか			1932	昭和	7			写真	33枚。中国研究員時代のものか。	
20	513	写真ネガ 中国研究員時代のものか			1932	昭和	7			ネガ	14枚。中国研究員時代のものか。	
20	521	中国研究員時代のもの			1932	昭和	7			写真	17枚。	
22	389	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7			書簡	時代は推定。上海駐在の頃のものか。	
22	409	今井武夫書簡	今井武夫	今井宏	1932	昭和	7			書簡	天津租界から 金沢市横山町の長男への葉書。発信日付なし。22-328で言及した10月の手紙か。あるいは22-383の前の7月末発信か。早く体が良くなって海に行きなさい。カタカナ書き。	
12	244	第14師団長松木直亮中将			1932	昭和	7			写真		
12	274	上海事変・上海特別陸戦隊植松練磨海軍少将と幕僚			1932	昭和	7			写真		
12	275	野砲兵第4連隊の軍装検査			1932	昭和	7			写真		
12	276	野砲兵第4連隊の零距離実弾射撃			1932	昭和	7			写真		
12	277	野砲兵第4連隊の安達十六大佐と将校団			1932	昭和	7			写真	ラバウルで自決した安達二十三中将の兄。	
20	356	軍服姿の今井と私服2名			1932	昭和	7			写真	大尉位のときのものか。参謀肩章をつけている。隣の私服は田代皖一郎少将か。セピア色で古い。年は推定。	
13	124	今井武夫日記	今井武夫		1933	昭和	8	1	1	日記	12月31日まで。次に13-159に続く。山海関事件。熱河戦。中国研究員。上海、広東等に滞在。7月から奉天特務機関員兼務。	
22	157	今井武夫書簡	今井武夫	宛先不明	1933	昭和	8	1	1	書簡	賀状。住所は上海武定路97号。追ってに、1月下旬に広東沙面英租界第18号第3棟和知公館に移駐と記載あり。	
22	374	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	1	1	書簡	上海武定路97号から 富山の実家の妻宛への今井からの手紙。謹賀新年。昨年の上海事変で当地の神社が焼けたので、今年は（初詣の）鳥居をくぐるができない。熱河問題はよいよ迫ってきたから、万一の波乱はあるかもしれないので覚悟は決めている。本日公使館で遥拝式に参列する。	
22	373	今井武夫書簡	今井武夫	今井宏	1933	昭和	8	1	5	書簡	22-372に同封。カタカナ書き。	
22	372	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	1	5	書簡	上海武定路97号から 富山の実家の妻宛手紙。広東への赴任の途中、長崎港へ立ち寄りきみ子に会うことは、研究員の身分であるので、規則で許されない。	
22	342	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	1	6	書簡	上海武定路97号から 富山の実家の妻きみ子宛への今井からの葉書。きみ子の金沢市材木町の新住所届出を参謀本部の友人に頼んだ。	
★	★				1933	昭和	8	1	7	☆	杭州は南宋の首都で、風光明媚な古都。	杭州に遊ぶ
22	395	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	1	7	書簡	上海武定路97号から 富山の実家の妻宛今井の葉書。広東へ移駐前見ておきたいと考え、本日暇を貰って杭州へ旅行。明夜上海へ帰還する予定。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
★	★				1933	昭和	8	1	9	☆	この日は海軍始め。	田代少将に随従して観兵式に参列 義勇軍を日本側へつかせるため 重要な人物を連れて行き必要方面 へ夫々紹介するため突然大連北支 へ出張を命ぜられる
★	★				1933	昭和	8	1	10	☆		中国人一人を連れて 上海より汽 船で北上 大連へ
22	376	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	1	10	書簡	上海武定路97号から 富山の実家の妻宛今井の手紙。1月7日杭州へ 出張。8日上海へ帰還。9日午前海軍始めで観兵式に田代少将に随従 して参列。この日突然大連北支への出張を命ぜられる（用向きは義 勇軍を日本側へつかせるため重要な人物を連れて行って必要方面へ 夫々紹介するため）。	
★	★				1933	昭和	8	1	16	☆		天津着
22	371	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	1	16	書簡	天津の今井から、富山の実家にいる妻宛手紙。14日に青島から、汽 車で当地着。	
22	369	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	1	21	書簡	上海武定路97号から 富山の実家のきみ子宛手紙。昨日北支旅行より 帰る。これから 広東行きを準備を始める。広東行のスケジュー ルについて。長男宏が軍服が大変好きなら作ってあげたらいいか か。	
★	★				1933	昭和	8	1	24	☆		朝 上海を出て26日福州着 参謀 本部の雨宮巽少佐と同船 福州の 石野芳男少佐を訪問
22	359	今井きみ子宛電報	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	1	28	電報	台北の今井から、富山の実家にいる妻宛の電報。船の都合で台湾に 着く。	
22	367	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	1	28	書簡	台北市台湾軍の今井から、富山の実家の妻宛手紙。台湾軍参謀長 （清水喜重少将）に会うよういわれ引き止められる。台北神社を参 拝する予定。	
22	466	今井武夫書簡	今井武夫	今井宏	1933	昭和	8	2	5	書簡	広東の今井から、長男宛。正月にスキーをした由。カナ書き1枚。 発信月は推定。22-465に同封されていたものか。	
22	465	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	2	6	書簡	広東の今井から、富山の実家の妻宛手紙。妻の住所変更について。 日本人は広東で沙面という小さな島に住んでいる。排日が今強く て、鉄条網が張り廻らされ、人呼んで「動物園」。日本人は二百数 十人。物価は上海あたりより三〜四割高い。	
22	368	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	2	11	書簡	広東の和知公館の今井から、富山の実家の妻宛手紙。 広東に来て 一週間。広東語も習っているが、北京語と違って難しい。広東で水 上生活する蜃族について。	
22	344	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	2	18	書簡	広東の和知公館の今井から、富山の実家の妻宛葉書。広東語の片言 を覚え支那街へも出かけた。単調な生活をしている。22-370参照。	
22	370	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	2	18	書簡	広東和知公館の今井から、金沢市材木町の妻宛手紙。この日葉書 （22-344）を出したあとに書いたもの。広東は排日が強い。昨年12 月日貨売買商人が私刑で殺されている。たとえ片言でも広東語が話 せないとし中に出られない。いよいよ国際連盟も正面衝突。これ から先どうなるか。真の国難はこれからだろう。	
22	379	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	2	25	書簡	広東の今井から、金沢市材木町の妻宛手紙。当地に日本から、手紙 が届くの日に日数がかかる。国際連盟から、日本もいよいよ脱退に決 した。熱河も相当紛糾しよう。当地は今のところ表面は平静。引き 上げの日本の汽船は月に2回くらいしかなく、万一の場合の居留民 の保護に頭を悩ましている。封筒なし。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
22	463	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	3	3	書簡	広東の久保方今井から、金沢市材木町の妻宛手紙。国際連盟も愈々脱退 日本は国難に当面している。熱河戦も我々が考えていたよりも早く片付きそうに思われる。当地は不思議なほど静か。日付は2月3日夜となっているが間違いか。	
22	445	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	3	7	書簡	広東の和知公館の今井から、金沢市材木町の妻宛手紙。熱河作戦は始めたと思ったら終わってしまった。驚くばかりの大成功。しかし今後省内の治安維持は却って面倒なことであろう。支那人の執拗性には閉口するんだから、。米国も金融問題で従来のような排日気勢もにぶるかもしれない。広東の幅2町縦8町の租界の島の中を行ったり来たりしている。	
★	★				1933	昭和	8	3	10	☆		陸軍記念日 広東の小学校で子供相手に話をする
22	274	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	3	11	書簡	広東の久保方今井から、金沢市材木町の妻宛の手紙。昨日陸軍記念日で小学校で話をした。	
22	303	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	3	14	書簡	広東の今井から、金沢市材木町の妻宛の手紙。 熱河もいよいよ勝利。案外穏やかに済んだ。	
22	393	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	3	18	書簡	広東の今井から、金沢市材木町の妻宛葉書。先般支那の展覧会を見物。得る所、種々あり。	
22	444	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	3	21	書簡	広東の今井から、金沢市材木町の妻宛手紙。宏の発熱看病で無理しないように。必要なら看護婦に頼むように。自分のため陰膳してくれているので飢えて困るようなことはない。先日展覧会を見に行ったが、上海戦時の戦用品が並べてあったが大部分いい加減。雑誌「話」創刊号受領。面白く読んだ。	
22	394	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	3	25	書簡	広東の今井から、金沢市材木町の妻宛葉書。宏の病状問い合わせ。当地は夏で、白服に白帽も奇ではない。雑多の花が咲き乱れている。	
22	401	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	3	27	書簡	広東の今井から、金沢市材木町の妻宛葉書。雑誌「日の出」落掌。「日の出」は講談社の「キング」に対抗して、新潮社が創刊した大衆娯楽誌。	
22	450	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	4	1	書簡	広東の今井から、金沢市材木町の妻宛手紙。 広東に引籠もって世界の情報圏外にいる。3月18日に陸軍の異動あったが、まだ情報到着していない。中国側が通信文を開封する。目下中国人の間に反蔣と援蔣の争いがあるが その駆け引きに対日問題が使われている。	
22	451	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	4	6	書簡	広東の今井から、金沢市材木町の妻宛手紙。昨日初めて3月の異動が分かった。同期の伊藤が第9師団の参謀になった。自分の少佐進級時期について。この3週間ずっと研究論文の構想をしている。	
22	297	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	4	8	書簡	広東の今井から、金沢市材木町の妻宛葉書。 各地で排日がひどくなった。特に漢口あたりがひどい。広東は比較的よい。	
★	★				1933	昭和	8	4	11	☆	島谷は『支那革命ノ策源地 広東概観』（6-43）の著者。	島谷忠義に広東で会う
22	321	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	4	15	書簡	広東の今井から、金沢市材木町の妻宛書簡。広東市中は昨今平穏だが、日貨を取り扱ったと云って救国会に殺された商人がいたそうである。	
22	397	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	4	22	書簡	広東の今井から、金沢市材木町の妻宛手紙。論文の起草構想をしている。排日貨で安い日本品が使えず広東は物価高。税金は無闇にとられ、家賃は救国基金とかいって一か月分の家賃相当額をとられ、人民は塗炭の苦に泣いている。当地の排日は口だけ。	
22	345	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	4	29	書簡	広東の今井から、金沢市材木町の妻宛葉書。本日天長節で10時より祝賀式、夕方より素人演芸会あり。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
22	320	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	5	1	書簡	広東の今井から、金沢市材木町の妻宛書簡。雑誌「話」受領。支那人に変装して広東の田舎の三水へ出張した。	
22	364	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	5	6	書簡	広東の今井から、金沢市材木町の妻宛手紙。長江筋は排日もひどいらしいが、当地は割合平穏。日貨排斥といってもはや排斥すべき日貨がないのが真相。当地は官庁以外は旧暦。	
22	360	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	5	8	書簡	広東の今井から、金沢市材木町の妻宛葉書 自分の悪口を言う人について。長男宏への手紙2通同封あり。22-360と22-361。	
★	★				1933	昭和	8	5	11	☆		澳門 英仏中境界へ出張
20	448	澳門協会内			1933	昭和	8	5	11	写真		
20	449	澳門英仏支那境界			1933	昭和	8	5	11	写真		
20	496	澳門の初代ポルトガル総督の胸像			1933	昭和	8	5	11	写真		
20	490	澳門			1933	昭和	8	5	11	写真	日付は5月11日か。	
22	457	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	5	12	書簡	香港の今井から、金沢市材木町の妻宛手紙。漢口へ旅行するため香港へ出てきた。広東から、陸路漢口へ抜ける旅行は排日で危険なため。今度の旅行の目的は漢口を始め各地に起っている排日状況を視察し、帰途上海の田代少将に研究論文3題を提出して読んでもらい、その指導を受けるため。	
22	279	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	5	19	書簡	上海黄浦江の今井から、金沢市材木町の妻へ。日清汽船の南陽丸で漢口に向かう。	
22	341	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	5	23	書簡	漢口の日本租界の今井から、金沢市材木町の妻宛葉書。今夕漢口着。長江の船旅は涼しく広東の酷熱に較べて避暑した如きである。北支の姿勢は随分変化激しき模様案じつつ旅行している。	
★	★				1933	昭和	8	5	24	☆		長勇少佐とともに武昌 漢口に越く
20	497	東湖舟遊・於武昌			1933	昭和	8	5	24	写真	長勇少佐と一緒に。	
20	498	漢口における軍艦 「安宅」			1933	昭和	8	5	24	写真	「安宅」は長江で用いられた日本軍艦。	
20	499	漢口の黄鶴楼			1933	昭和	8	5	24	写真	前方の水は長江。	
20	500	武漢大学・於武昌			1933	昭和	8	5	24	写真		
20	501	奥略楼・於武昌			1933	昭和	8	5	24	写真		
★	★				1933	昭和	8	5	25	☆		未明漢口出発
★	★				1933	昭和	8	5	26	☆	西暦768（大暦3）年、この地を訪れた57歳の詩聖 杜甫 は洞庭湖を一望する岳陽楼に登って 「登岳陽楼」の五言律詩を作っている。岳陽楼は洞庭湖の東岸、岳陽城の西門に聳える3層の楼。	岳州岳陽楼に遊ぶ
20	450	岳州岳陽楼			1933	昭和	8	5	26	写真		
22	340	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	5	27	書簡	湖南省長沙の今井から、金沢市材木町の妻宛葉書。27日未明長沙着 岳麓山に登る。電報命令にて広東に戻り、7月上旬奉天勤務につく予定。	
★	★				1933	昭和	8	5	29	☆		28日長沙より汽車に乗り九江着
20	527	九江			1933	昭和	8	5	29	写真	年月日は全くの推定。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
★	★				1933	昭和	8	5	30	☆	孫科は孫文の子。	廬山に登山途中 汪兆銘、孫科、羅文幹等が日支停戦交渉の歴史的会議のため廬山の蔣介石と会ったのち下山するのと行き違い 翌31日の停戦交渉成立の空気を察知
20	451	廬山			1933	昭和	8	5	30	写真		
20	454	廬山			1933	昭和	8	5	30	写真	五老峰第一峰。	
20	491	廬山			1933	昭和	8	5	30	写真	五老峰第一峰。	
20	492	廬山			1933	昭和	8	5	30	写真		
20	493	廬山			1933	昭和	8	5	30	写真	五老峰第二峰。	
20	452	廬山			1933	昭和	8	5	30	写真	五老峰第五峰。中田海軍大尉と。	
20	453	廬山			1933	昭和	8	5	30	写真	五老峰第五峰。	
20	494	廬山			1933	昭和	8	5	30	写真	五老峰第五峰。	
20	495	廬山			1933	昭和	8	5	30	写真	仙人洞。	
22	346	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	5	31	書簡	江西省九江の今井から、金沢市材木町の妻宛の葉書。29日九江着。昨日登山した廬山は、蘇東坡が絶賞しただけの価値ある名山であった。きみ子にも見せてあげたかった。	
22	361	今井武夫書簡	今井武夫	今井宏	1933	昭和	8	5		書簡	22-360に同封。	
22	362	今井武夫書簡	今井武夫	今井宏	1933	昭和	8	5		書簡	22-360に同封。	
★	★				1933	昭和	8	6	2	☆		南京の北極閣に遊ぶ
20	455	北極閣傍の仏寺			1933	昭和	8	6	2	写真	立っているのは阿部氏。	
★	★				1933	昭和	8	6	3	☆		南京市内を見物
22	378	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	6	5	書簡	上海武定路923号から 金沢市材木町の妻宛の手紙。5月30日廬山に上る途中、汪兆銘、孫科、羅文幹等が日支停戦交渉の歴史的会議のため、蔣介石と会うため登山して下山するのと行き違い、翌31日の交渉成立（塘沽協定）の空気を察することができた。一旦帰国する認可を乞う電報を出した。今後のスケジュールについて。	
22	365	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	6	10	書簡	広東から金沢市材木町の妻宛今井の手紙。妻が大病をした由心痛した。3枚であとの枚数なく切れている。他人から人格上信用の出来る人間だとせられたく、自らもそれを目標にしている。7月に奉天に行く。11日再び厦門（あもい）、汕頭に行き、15、6日に帰る。	
★	★				1933	昭和	8	6	11	☆		広東発香港経由 厦門（あもい）に向かう
22	270	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	6	13	書簡	厦門（あもい）沖の「鳳山丸」から 金沢市材木町の妻宛今井の葉書。日本への一時帰国の知らせ。	
★	★				1933	昭和	8	6	14	☆		広東に帰着
22	275	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	6	15	書簡	広東の今井から、金沢市材木町の妻へ。香港経由厦門へ出張したこと。	
9	6	昭和六・七年満州事変 関東軍記念写真帖	陸軍恤従兵部		1933	昭和	8	6	20	写真		
★	★				1933	昭和	8	6	27	☆		上海港出帆

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
★	★				1933	昭和	8	6	30	☆		一旦日本に「うる丸」で帰国 神戸港上陸に妻が出迎え 参謀本部出頭のため東京へ向かう
22	277	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	7	9	書簡	神戸から 金沢市材木町の妻へ。本日「うる丸」で出帆する。出がけにご迷惑をおかけした。22-179参照。	
22	337	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	7	10	書簡	於門司 うる丸（奉天江島町）の今井から、金沢市材木町の妻宛葉書。午前7時門司入港。午後日本を離れる。	
◎	◎				1933	昭和	8	7	12	◎		参謀本部付 奉天特務機関員 大連港上陸 奉天特務機関に着任
22	281	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	7	12	書簡	奉天江島町の今井から、金沢市材木町の妻宛書簡。大連に無事着いた。長野の実家には連絡しておいた。	
★	★				1933	昭和	8	7	14	☆		新京
22	322	薩摩屋陸送部書簡	薩摩屋陸送部	今井きみ子	1933	昭和	8	7	14	書簡	運賃の件 着払いの間違いについて。金沢市材木町のきみ子宛葉書。薩摩屋は軍関係の運送を扱うご用達業者か。	
★	★				1933	昭和	8	7	15	☆		吉林
★	★				1933	昭和	8	7	16	☆		哈爾濱
★	★				1933	昭和	8	7	17	☆		チチハル
22	156	今井武夫 於哈爾濱			1933	昭和	8	7	17	写真	飛行機の横にて。	
★	★				1933	昭和	8	7	19	☆		洮南
22	272	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	7	20	書簡	奉天江島町の今井から、金沢市材木町の妻宛書簡 7月12日奉天着任。	
★	★				1933	昭和	8	7	22	☆		熱河
★	★				1933	昭和	8	7	26	☆		錦州から 奉天に帰る
22	326	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	7	29	書簡	奉天江島町の今井から、妻宛書簡。武藤司令官死去のため大騒ぎしている。葬儀参列のため今夜か明日の飛行機でまた新京へ2から、3日行く予定。封筒なし。発信日は29日か30日。推定。	
20	415	専田盛俊大尉			1933	昭和	8	7		写真	同期の専田盛俊大尉か。今井兄とサインあり。専田は8月に少佐になっている。月は推定。	
◎	◎				1933	昭和	8	8	1	◎	22-177の自筆履歴書参照。	陸軍歩兵少佐
22	307	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	8	3	書簡	奉天江島町の今井から、石川県高松町（子供を連れた避暑のため滞在）の妻宛葉書。百日咳の見舞い。	
22	268	木田慶知書簡	木田慶知	今井きみ子	1933	昭和	8	8	4	書簡	暑中見舞。木田は今井の三兄。	
22	333	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	8	5	書簡	奉天江島町の今井から、石川県高松町滞在の妻宛書簡。自分は参謀本部付ではあるが、関東軍と東京との間で、交渉があつたかここで全責任をもって仕事するように決まった様子。先般軍司令官の葬式参列の時に山南閣にいる遠藤（同期の遠藤庄一のことか）と新京より奉天まで同車した。	
22	285	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	8	12	書簡	奉天江島町の今井から、金沢市材木町の妻宛書簡。特務機関長の人選についてほか。	
22	141	濱田弘書簡	濱田弘	今井武夫	1933	昭和	8	8	16	書簡	進級祝い。濱田は吉林特務機関員。軍事郵便葉書。	
22	458	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	8	17	書簡	奉天江島町の今井から、石川県高松町滞在の妻宛書簡。昨16日飛行機で新京へ行き、3時間用談のうえ夜帰ってきた。飛行機のゆれが激しく全部嘔吐した。臨時機関長が奉天に来たが、私行上種々評のある人で、公私共に補佐に頭を使う関係上か、つくづく嫌気がさしている。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
22	387	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	8	19	書簡	満洲の今井から、石川県高松町滞在の妻宛葉書。人格的基礎を作るものなので、雑誌類よりも哲学・宗教の読書を極力勧めます。	
22	139	長嶺由蔵書簡	長嶺由蔵	今井武夫	1933	昭和	8	8	20	書簡	長嶺は承德特務機関員。圏場經由多倫へ向かう。委細は現地より報告する。軍事郵便葉書。	
22	282	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	8	26	書簡	奉天江島町の今井から、金沢市材木町の妻宛書簡。当地は健康によくないと見え、着任以来関東軍司令部だけで武藤信義大将、坂田義朗大佐、鈴木顧問と3人死んで、自分は葬式の準備をして忙しい。	
20	398	板垣征四郎少将	カシムラ写真館		1933	昭和	8	8		写真	板垣征四郎少将か。天保銭を付けている。カシムラ写真館は在奉天。	
22	414	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	9	2	書簡	奉天江島町の今井から、金沢市材木町の妻宛書簡。満洲の各省庁を整理し、権限を明確にする時期に達し、お互い他の役所の悪口を言い合っている。特務機関は両派の告げ口所になっている。正当な情報を得て 公平な裁断を下すべく、仲裁役やら弾圧役やらで気骨が折れる。	
22	464	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	9	9	書簡	奉天江島町の今井から、金沢市材木町の妻宛書簡。 各種の問題が紛糾したのを、仲裁役やら何やらでけりをつけたが、お蔭で非常に忙しい。（陸士同期の）山本政雄氏男の子をなくされ、奥様は金沢に帰られると聞いた。	
22	276	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	9	16	書簡	奉天江島町の今井から、金沢市材木町の妻へ。本日旅行から、帰って、田代統一郎憲兵隊司令官の訪問を受け、「支那大陸を南北にわたって根気よく理解しようとしている者は少ない」と言って褒められた。満州も黒龍江省は余り知らないが、大分残すところが少なくなった。	
22	142	満洲事変勃発満二年・満州国の五色旗			1933	昭和	8	9	18	絵葉書	カラー。	
22	443	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	9	22	書簡	奉天江島町の今井から、金沢市材木町の妻宛手紙。金沢地方の地震の見舞い。洮南の方はベストが流行している。先日吉海線を旅行して帰ったが、翌日奉山線に匪賊の襲撃あり。吉海線も3日後匪賊襲来。満鉄線だけはまだ事故はない。満州もこれから、寒くなる。	
22	461	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	9	30	書簡	奉天江島町の今井から、金沢市材木町の妻宛書簡。 金沢の地震のとき井波町に行っておられたのはよかった。当地役所の一番年長の軍属の奥様が4歳と2歳の幼児を残して亡くなられ涙を禁じ得ず。葬式、お通夜と とりこんでいる。	
22	301	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	10	7	書簡	封筒なし。今井から、妻宛書簡。12月から、自分はまた参謀本部勤務らしい。予め東京で住む場所を秘密裏に検討されたし。影佐さん等の心づかいに感謝している。	
22	436	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	10	21	書簡	奉天特務機関の今井から、金沢市材木町の妻宛の手紙。マラリア風邪とか肺炎がはやっている。東京勤務になるので、移転の予定しておいてもらいたい。住所は渋谷か中野がよいかもわからない。人事のことは秘密事項だから、人には喋ってはならないよ。	
22	347	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	10	28	書簡	奉天江島町の今井から、金沢市材木町の妻宛書簡。東京の家の手配は 12月近くなったら自分の方から、誰かに頼む。土肥原少将の2度目の着任は来月1日の予定。事変当時関係ある利権屋が手ぐすね引いて待っているの、その撃退やら善後処置等うるさいことだと今から、警戒している。今までの（臨時）奉天機関長は承德（熱河省）の方へ行く予定。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
22	271	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	11	11	書簡	奉天江島町の今井から、金沢市材木町の妻へ。土肥原少将が機関長に着任して「今井を3月まで留任させてくれ」と申し出ているが、東京の陣容を見ると、多分自分は東京に帰る。機関長更迭で何かと雑務が多い。	
22	325	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	11	18	書簡	奉天江島町の今井から、金沢市材木町の妻きみ子宛書簡。現地では軍の参謀として自分を残そうとしているが、多分東京へ帰る。異動は12月中旬以降らしいが、今年から、内命がなくなったので、早くから、知ることが出来ない。きみ子は12月下旬上京の予定にしてほしい。21日に侍従武官が奉天に来られるので準備で忙しい。	
★	★				1933	昭和	8	12	10	☆		鮮満国境安東 通過
★	★				1933	昭和	8	12		☆		中華民国より帰朝
22	149	鄭孝胥の書	鄭孝胥		1933	昭和	8			絵葉書	1枚。鄭は満州国周年記念大会委員長。清末の官僚・満州国の政治家・書家。満州国の初代國務院総理（首相）。	
22	530	満州 新京			1933	昭和	8			写真	新京公園、関東軍司令部ほか。10枚。年は推定。	
22	111	奉天			1933	昭和	8			絵葉書	5枚。年は推定。	
22	112	奉天北陵の写真絵葉書			1933	昭和	8			絵葉書	5枚。年は推定。	
22	146	満洲の絵葉書	和田三造		1933	昭和	8			絵葉書	朝日新聞社。3枚。和田は大正から昭和に活躍した洋画家。年度は全くの推定。	
12	230	陸大校長 広瀬猛中将			1933	昭和	8			写真	陸士13期。	
12	246	関東軍司令部附 板垣征四郎少将			1933	昭和	8			写真		
12	250	荒木貞夫陸軍大臣 蒲穆第16師団長 大島陸太郎参謀長			1933	昭和	8			写真	年は推定。	
12	278	渡辺錠太郎大将 第16師団の特命検閲 蒲穆中将 下元熊弥少将ほか			1933	昭和	8			写真	年は推定。	
10	454	第16師団の特命検閲 渡辺錠太郎大将 蒲穆中将 下元熊弥少将他			1933	昭和	8			写真	複写。蒲穆中将は昭和8年3月18日から昭和10年7月末まで第16師団長だった。年度は全くの推定。	
20	82	満州におけるものと思われる写真			1933	昭和	8			写真	7枚。年度は全くの推定。	
22	140	久納誠一書簡	久納誠一	今井武夫	1933	昭和	9	1	1	書簡	久納は第8師団参謀長陸軍大佐。今井は既に満洲から参謀本部にもどっている。在満中のお礼の年賀状。	
13	159	今井武夫日記	今井武夫		1934	昭和	9	1	1	日記	4月23日迄。13-124の続き。	
21	230	亜細亜大陸図地図	大日本帝国陸地測量部		1934	昭和	9	2	5	地図	人種及民族分布図あり。	
●	●				1934	昭和	9	2	7	●		勳五等瑞宝章
20	16	今井武夫宛 「叙勳五等瑞宝章」	下條康麿	今井武夫	1934	昭和	9	2	7	勳章	下條は賞勳局総裁。	
19	332	亜細亜大陸図地図	大日本帝国陸地測量部		1934	昭和	9	2	15	地図		
◎	◎				1934	昭和	9	3	5	◎		参謀本部員（支那課）

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
●	●				1934	昭和	9	4	29	●		昭和六年乃至九年 事変従軍記章
●	●				1934	昭和	9	4	29	●		勳四等旭日小綬章
22	514	今井武夫宛 「叙勳四等旭日小綬章」	下條康麿	今井武夫	1934	昭和	9	4	29	勳章	下條は賞勳局総裁。	
22	515	昭和六年乃至九年事変従軍記章之証	下條康麿		1934	昭和	9	4	29	勳章	下條は賞勳局総裁。	
★	★				1934	昭和	9	9	27	☆		多摩聖跡遠乗会
20	95	多摩聖跡遠乗会			1934	昭和	9	9	27	写真	今井を含めて3人の写真。	
21	342	陸軍大臣官邸における外人将校との記念撮影 林銑十郎 杉山元参謀次長 永田鉄山軍務局長・少将 喜多誠一支那課長・大佐ほか 今井も含めて38名			1934	昭和	9	10		写真	11月からの特別大演習参観のための来日と思われる。当日配ったと思われるフランス語で書かれた記念の銀杯が今井家に伝わっている。	
★	★				1934	昭和	9	11	1	☆		陸海軍特別大演習
3	159	昭和九年 特別大演習写真帖	参謀本部		1934	昭和	9	11	1	写真	13-55関連か。	
13	55	湯浅倉平書簡	湯浅倉平	今井武夫	1934	昭和	9	11	1	書簡	陸海軍特別大演習終了後、賜饌のご沙汰あり。湯浅は宮内大臣。3-159関連か。	
19	111	察哈爾省政府挙行拡大記念週 蒋介石委員長訓話畢撮影 蔣介石、劉汝明と馮治安	常安弘通		1934	昭和	9	11	5	写真	常安弘通より送られた写真。写真説明は19-320。	
★	★				1934	昭和	9	11	24	☆		長崎港出港
★	★				1934	昭和	9	11	25	☆		上海港上陸
20	250	蕭叔宣駐日武官ほか外国武官との集い（於群馬県藤岡町小学校）	蕭叔宣		1934	昭和	9	11		写真	蕭叔宣は駐日武官。	
20	430	記念写真 於鉄道倶楽部			1934	昭和	9	11		写真	半数近く洋服。あとは制服。満鉄の鉄道員か。一人軍服。約130名。	
★	★				1934	昭和	9	12	7	☆		満支国境通過
★	★				1934	昭和	9	12	12	☆		満鮮国境通過
8	19	日露戦争秘史中の河原操子	福島貞子		1934	昭和	9	12	20	書籍	4版。婦女新聞社。	
★	★				1934	昭和	9	12	24	☆		満洲国を語る座談会 於東京丸の内中央亭 遠藤三郎中佐 片倉衷少佐 矢野征記外務省事務官ほかと（満洲日報 昭和10年1月3日から6日まで）
22	152	記念写真			1934	昭和	9			写真	同一2枚あり。全60名	
20	90	将校達の写真			1934	昭和	9			写真	20-89に封入。天保銭をつけており、年代的には昭和9年以前の写真。20-89との関係不明。	
12	236	第4師団長 東久邇稔彦王殿下			1934	昭和	9			写真		
12	240	軍事参議官 松井石根大将			1934	昭和	9			写真		

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
12	248	関東軍総参謀副長 岡村寧次少将			1934	昭和	9			写真		
12	253	参謀本部第一部長 今井清中将			1934	昭和	9			写真		
21	187	満州国皇帝 溥儀			1934	昭和	9			写真	年は推定。	
14	671	昭和十年以降 備忘録	今井武夫		1934	昭和	10	1		メモ	14箱-東26所収のファイル。	
★	★				1934	昭和	10	2	24	☆		午後5時半から 日華倶楽部で「支那に於ける共匪の近情」と題して 講演（講演記録あり）
20	83	喜多誠一大佐 今井ほか11名	仲躰翰		1935	昭和	10	3	1	写真	今井少佐賜存とあり、民間人も含む。雅叙園写真部とある。	
★	★		今井武夫		1935	昭和	10	3	25	☆	東洋文庫所蔵 N o. 6046	陸軍歩兵少佐 今井武夫氏講演「支那に於ける共匪の近情」（日華倶楽部）（2月24日 講演筆録）
★	★				1935	昭和	10	4	12	☆		天皇・皇后両陛下主催「観桜会」（於新宿御苑）
13	56	湯浅倉平書簡	湯浅倉平	今井武夫・きみ子	1935	昭和	10	4	12	書簡	天皇・皇后両陛下が新宿御苑での観桜会に招待される。湯浅は宮内大臣。	
★	★				1935	昭和	10	4	14	☆		将校団総会
19	30	将校団総会			1935	昭和	10	4	14	写真		
9	2	板倉機八士忠魂碑 地鎮祭写真集	満州航空株式会社写真班		1935	昭和	10	4	23	写真	実物写真貼り付け。	
3	165	内蒙古	善隣協会調査部		1935	昭和	10	6	1	書籍	日本公論社。	
★	★				1935	昭和	10	6	9	☆		（次男） 今井信夫誕生（東京市上目黒8丁目）
9	7	陸軍写真帖	陸軍省つはもの編輯部		1935	昭和	10	7	15	写真		
★	★				1935	昭和	10	7	19	☆		（長男） 今井宏病死（6歳）
6	48	我が大陸経営失敗の真相	綾川武治		1935	昭和	10	7	30	書籍	兵書出版社。	
20	105	将校50名 於満州国大使館	新宮館		1935	昭和	10	9	6	写真	天保銭をつけている将校多し。新宮館は東京麻布のフォトスタジオ。影佐に似た人物がいる。	
●	●				1935	昭和	10	9	21	●		満州国皇帝訪日記念章
22	516	今井武夫宛「満州国皇帝訪日記念章証書」	張景恵	今井武夫	1935	昭和	10	9	21	書類	康德2年。張は満州帝国國務総理大臣。	
22	511	今井武夫宛「大日本帝國外国勲章佩用免許証」	下條康磨	今井武夫	1935	昭和	10	9	21	勲章	満州国皇帝からの訪日記念章の受領と佩用允許。下條は賞勳局総裁。第898527号。	
4	5	国史読本	大川周明		1935	昭和	10	10	22	書籍	青年社。訂正改定版。5版。有精堂。	
★	★				1935	昭和	10	11	1	☆		陸海軍特別大演習
13	57	湯浅倉平書簡	湯浅倉平	今井武夫	1935	昭和	10	11	1	書簡	湯浅は宮内大臣。陸海軍特別大演習終了後賜饌のご沙汰あり。	
11	30	諸経費帳簿	今井武夫		1935	昭和	10	11	25	メモ	1935年12月15日迄。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
◎	◎				1935	昭和	10	12	2	◎		中華民国在勤帝國大使館附武官補佐官（北平）の発表
★	★				1935	昭和	10	12	13	☆		神戸港出帆
★	★				1935	昭和	10	12	17	☆		大連港上陸
★	★				1935	昭和	10	12	18	☆	北平に 冀察政務委員会（軍長宋哲元）成立。	北平（北京）に家族とともに赴任
3	158	旧都文物略	北平市政府第一科		1935	昭和	10	12		冊子	同一2部あり。	
15	52	昭和10年 名刺帖	今井武夫		1935	昭和	10			名刺	萱野長知、西義顕、田代皖一郎、谷萩那華雄、高宗武（国立中央大学教授）、周作民など約350名の名刺あり。	
12	232	第20師団長 三宅光治中将			1935	昭和	10			写真		
12	234	第4師団長 建川美次中将			1935	昭和	10			写真		
12	235	歩兵第20連隊長 土橋勇逸大佐			1935	昭和	10			写真		
12	238	第16師団長 渋谷伊之彦中将			1935	昭和	10			写真		
12	243	教育総監 渡辺錠太郎大将			1935	昭和	10			写真		
12	245	第2師団長 梅津美治郎中将			1935	昭和	10			写真		
12	249	陸軍次官 古荘幹郎中将			1935	昭和	10			写真		
12	251	賀陽宮恒憲王殿下 兼久幸一連隊長 松村正員第19師団長			1935	昭和	10			写真		
12	302	靖国神社 遊就館大陳列場			1935	昭和	10			写真		
17	44	長男今井宏			1935	昭和	10			写真	年度は全くの推定。	
22	155	絵葉書	陸軍省つはもの編輯部		1935	昭和	10			絵葉書	1枚。年は推定。	
11	27	今井武夫手帳	今井武夫		1935	昭和	11	1	1	手帳	1936年12月31日迄。北平駐在武官補時代のもの。満洲航空株式会社の小型手帖。康德 3年（昭和11年）。	
9	63	冀察政務委員会閲兵典礼記念冊	容豊美術照相楼・華北美術照相館		1936	昭和	11	1	1	写真	宋哲元 贈。写真51枚のアルバム。	
★	★				1936	昭和	11	1	24	☆	11月14日かも。	冀東政府及民衆代表 板垣征四郎 將軍歓迎会
20	352	冀東政府及民衆代表 板垣將軍歓迎会記念写真			1936	昭和	11	1	24	写真	24日でなく14日かも。今井も参加。全22名。	
20	361	今井の肖像写真			1936	昭和	11	1	30	写真	同一2枚あり。	
20	48	土肥原賢二少将と英国人たち			1936	昭和	11	2	21	写真	英人記者撮影。於 北平日本大使館。土肥原は奉天特務機関長。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
★	★				1936	昭和	11	2	25	☆	2月29日付け 新愛知新聞による。	太原特務機関長 和知鷹二中佐 (26期) 北平に来て 共匪軍の 山西入り問題につき 土肥原少将 今井と北平で 数回うち合わせ 27日朝 飛行機で太原に帰還
12	295	二・二六事件 反乱軍の襲撃を 受けた渡辺錠太郎大将邸			1936	昭和	11	2	26	写真	日は推定。	
12	296	二・二六事件 安藤輝三大尉筆 尊王討奸旗			1936	昭和	11	2	26	写真	日は推定。	
12	279	二・二六事件 参謀総長閑院宮 仁親王殿下			1936	昭和	11	2		写真		
12	280	二・二六事件 参謀次長杉山元 中将			1936	昭和	11	2		写真		
12	281	二・二六事件 陸軍大臣川島義 之大将			1936	昭和	11	2		写真		
12	282	二・二六事件 侍従武官長本庄 繁大将			1936	昭和	11	2		写真		
12	283	二・二六事件 軍事参議官 寺 内寿一大将			1936	昭和	11	2		写真		
12	284	二・二六事件 軍事参議官 阿 部信行大将			1936	昭和	11	2		写真		
12	285	二・二六事件 軍事参議官 林 銑十郎大将			1936	昭和	11	2		写真		
12	286	二・二六事件 軍事参議官 荒 木貞夫大将			1936	昭和	11	2		写真		
12	287	二・二六事件 軍事参議官 植 田謙吉大将			1936	昭和	11	2		写真		
12	288	二・二六事件 軍事参議官 西 義一大将			1936	昭和	11	2		写真		
12	289	二・二六事件 軍事参議官 真 崎甚三郎大将			1936	昭和	11	2		写真		
12	290	二・二六事件 関東軍司令官南 次郎大将			1936	昭和	11	2		写真		
12	291	二・二六事件 東京警備司令官 香椎浩平中将			1936	昭和	11	2		写真		
12	292	二・二六事件 台湾軍司令官柳 川平助中将			1936	昭和	11	2		写真		
12	293	二・二六事件 第一師団長堀丈 夫中将			1936	昭和	11	2		写真		
12	294	二・二六事件 歩兵第9連隊長 舞伝男大佐			1936	昭和	11	2		写真		
3	115	今井武夫 於北平			1936	昭和	11	3		写真		

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
★	★				1936	昭和	11	4	8	☆	12日付新愛知新聞による。	山西省に行き 討匪問題で 閻錫山（山西省主席）朱綬光 賈景德ら 山西派要人と会談 10日帰平
★	★				1936	昭和	11	4	27	☆	祭文では今井は正六位勲四等とある。	北平の招魂社祭（祭典委員長として祭文朗読）
21	279	「北京の招魂祭における今井の祭文」	新支那社		1936	昭和	11	4	28	新聞	日刊新支那。肩書は正六位勲四等とあるが、20-34では翌年正六位となるので矛盾する？同じ新聞を2つに切抜いたもの。	
21	280	「天津での招魂祭」	新支那社		1936	昭和	11	4	28	新聞	日刊新支那 昭和11年4月28日号。	
14	45	張作霖ノ墓所建設ト張学良ノ復活要望ノ件	今井武夫		1936	昭和	11	4	30	報告書	陸軍野紙に記載。日中戦争前の北平武官時代のものか。年度は全くの推定。なお奉天郊外の寺に安置されたまま弔われていなかった張作霖の葬儀が昭和12年5月に協和会の名で執り行われている。	
20	328	天津（支那）駐屯軍 増強直前記念写真 多田駿軍司令官・少将 永見俊徳参謀長・大佐ほか 計43名	河野		1936	昭和	11	4		写真	今井少佐のみ私服。あとは軍服。松室孝良北平特務機関長・少将、和知鷹二中佐も見える。神保信彦大尉はこのとき副官。於天津。20-384に同じ。河野は写真屋。20-329に名前と階級説明あり。多田少将は5月1日には田代中将と交代。	
20	384	天津（支那）駐屯軍 増強直前記念写真 多田駿軍司令官・少将 永見俊徳参謀長・大佐ほか 計43名	河野		1936	昭和	11	4		写真	今井少佐のみ私服。あとは軍服。松室孝良北平特務機関長・少将、和知、林、池田、中島中佐も見える。神保信彦大尉はこのとき副官。於天津。河野は写真屋。20-329に名前と階級説明あり。20-328に同じ。	
20	329	天津（支那）駐屯軍 増強直前記念写真の人物説明	河野		1936	昭和	11	4		書類	20-328の将校の名前と階級説明。陸軍野紙の封筒に挿入。河野は写真屋。「遠山少佐は茂川少佐の間違い」と茂川少佐の息子の敏夫氏から今井貞夫あて手紙での連絡あり。	
20	30	支那駐屯軍の将校ほか			1936	昭和	11	4		写真	多田駿司令官ほか。今井は私服。1935年10月から1936年4月までの間の期間。年月は推定。	
★	★				1936	昭和	11	6	4	☆		松室孝良北平特務機関長・少将と共に蒙蔵ラマ代表と懇談
20	49	松室孝良北平特務機関長・少将 今井と蒙蔵ラマ代表との会談記念写真	卓博公		1936	昭和	11	6	4	写真	今井武官恵存としてある。全11名の写真。松室はモンゴル通といわれた。	
★	★				1936	昭和	11	6	13	☆	このとき銭大均 高宗武とも会う。	喜多誠一支那公使館付武官（少将） 雨宮巽南京駐在武官（中佐）とともに南京 陵園孔祥熙別邸の蒋介石を 表敬訪問
21	340	蒋介石訪問			1936	昭和	11	6	13	写真	蒋介石と陵園孔祥熙別邸にて。左から高宗武（亜州司長） 銭大均（侍従武官長） 蒋介石 今井武夫少佐 喜多誠一少将 雨宮巽中佐。	
19	7	蒋介石表敬訪問			1936	昭和	11	6	13	写真	喜多誠一少将、雨宮巽中佐とともに。高宗武とも会っている。19-18参照。	
19	18	蒋介石表敬訪問			1936	昭和	11	6	13	写真	喜多誠一少将、雨宮巽中佐とともに。高宗武とも会っている。19-7参照。玄関で挨拶中。	
16	28	中山門外の蒋介石別邸に於て 蒋介石と喜多誠一少将 雨宮巽中佐 今井少佐ほか			1936	昭和	11	6	13	写真	16-2関連。	
19	31	蒋介石表敬訪問写真			1936	昭和	11	6	13	写真	喜多誠一少将、雨宮巽中佐と蒋介石ほか。19-7, 19-18参照。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
16	2	「支那も日支関係調整熱望」			1936	昭和	11	6	14	新聞	喜多誠一少将（支那公使館付武官）、雨宮巽中佐（南京駐在武官）、今井少佐と蔣介石の会談。掲載紙不明。新聞切抜。16-1に貼付・挿入。年月は推定。	
☆	☆				1936	昭和	11	7	11	☆		全支陸軍武官会議 ～12日 於上海 陸軍武官官邸 出席者 参謀本部第二部長 渡久雄少将 駐在武官 喜多誠一少将ほか 参謀本部 高橋坦中佐 宇都宮上海駐在武官 今井北平駐在武官 雨宮巽南京駐在武官 渡左近漢口駐在武官 白田広東駐在武官 天津軍代表 石井中佐 濱田少佐 台湾軍参謀 田村中佐 計11名
☆	☆				1936	昭和	11	7	14	☆		雨宮巽 南京駐在武官 を訪問 15日まで漢口に出張（外人と一緒に）
20	192	雨宮巽武官			1936	昭和	11	7	14	写真	於南京武官室。	
20	178	漢口の揚子江			1936	昭和	11	7	14	写真		
20	179	漢口郊外			1936	昭和	11	7	14	写真		
20	180	南京金陵大学の写真			1936	昭和	11	7	14	写真		
18	423	黄鶴楼			1936	昭和	11	7	14	写真	ライカで撮った38枚の写真の一つ。封筒同封。	
20	173	黄鶴楼			1936	昭和	11	7	15	写真	2枚。14日付けと15日付けの黄鶴楼の写真あり。黄鶴楼は武漢にある。	
20	174	漢口に於ける日本軍艦			1936	昭和	11	7	15	写真		
20	175	漢口江岸野菜市の写真			1936	昭和	11	7	15	写真		
20	176	漢口駅に於ける渡機関員とその家族			1936	昭和	11	7	15	写真	陸士27期渡左近中佐のことか。	
20	177	漢口駅前			1936	昭和	11	7	15	写真		
20	256	石井中佐			1936	昭和	11	7	15	写真	於漢口神社。	
20	257	信陽附近			1936	昭和	11	7	15	写真		
20	181	石家荘駅			1936	昭和	11	7	16	写真		
20	255	邯鄲駅			1936	昭和	11	7	16	写真		
☆	☆				1936	昭和	11	7	19	☆		北平北海に遊ぶ
20	182	北平北海			1936	昭和	11	7	19	写真	2枚。	
20	183	北平北海上より景山を望む			1936	昭和	11	7	19	写真		
20	264	北平北海			1936	昭和	11	7	19	写真		
20	265	北平北海喇摩塔（らまとう）			1936	昭和	11	7	19	写真		

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
20	172	漢口旧兵營			1936	昭和	11	7	19	写真	7月14日の間違いか。	
20	184	南京武官室より金陵大学を望む			1936	昭和	11	7	19	写真	金陵大学は後に「南京大学」に改名している。	
20	76	新婚の賈成騫・宋景昭	賈成騫・宋景昭		1936	昭和	11	7	26	写真	今井先生恵存とある。賈成騫・宋景昭二人の結婚式の写真か。今井は妻きみ子とクリスチャンの宋哲元の娘の結婚式に出席。宋景昭が宋哲元の娘か。当時の中国としては珍しいウエディングドレスを着ている。	
20	251	宋母の写真			1936	昭和	11			写真	宋哲元の母か妻か。或いは 宋美齡の母である倪太夫人のことか。年度は全くの推定。	
★	★				1936	昭和	11	7	29	☆		冀察政務委員会宋哲元委員長による 松室孝良少将の歓宴会
20	58	冀察政務委員会宋哲元委員長 歓宴 日本国松室孝良少将撮影 記念			1936	昭和	11	7	29	写真		
20	357	今井と私設秘書織田文雄 背 景は青木宣純中将の胸像			1936	昭和	11	7	31	写真	北平武官室近く。織田とは今井の私設秘書草野文雄の旧姓。戦後拓殖大学教授。	
19	116	支那本部一般図	陸地測量部		1936	昭和	11	7		地図		
21	345	青木宣純中将の胸像			1936	昭和	11	7		写真	1936年か37年。北平の武官室の庭にあった。年月は推定。	
★	★				1936	昭和	11	8	19	☆		冀察政務委員会宋哲元委員長による 中華大使川越茂大使の歓宴会
20	29	宋哲元委員長歓宴 日本国中 華大使川越茂大使撮影記念			1936	昭和	11	8	19	写真	前列右から4番目 今井少佐、二人おいて秦徳純、河辺正三少将、川越茂大使、宋哲元、松室孝良少将、3人おいて牟田口廉也大佐。1-88参照。	
★	★				1936	昭和	11	8	21	☆		北支武官会議 於 天津軍司令官官邸 出席者 田代軍司令官 橋本群参謀長 今井北平 大本張家口大原 羽山綏遠 細木直洲 桑原山海関 石野済南 各武官 松室特務機関長 田中陸軍省中佐など
20	187	沙面英租界	服部		1936	昭和	11	10	15	写真	服部は少佐。沙面は広州にあり。全5名。	
20	43	松室孝良將軍 五台山向善普 化仏教会訪問			1936	昭和	11	10	27	写真		
★	★				1936	昭和	11	10	29	☆		北平に旅行してきた石原莞爾戦争指導課長に 内蒙軍の実情を報告し善処を要請
20	150	馬上の蔣介石			1936	昭和	11	10	31	写真	於洛陽。	
★	★				1936	昭和	11	11	1	☆		冀東銀行総行 開幕典礼に出席
20	385	冀東銀行総行 開幕典礼	東方撮影		1936	昭和	11	11	1	写真	殷汝耕ほか。写真の中には今井はいない。	
9	3	冀東紀念専刊 巻上	殷汝耕		1936	昭和	11	11	25	書籍	殷は冀東政府の政務長官。この日は成立1周年記念にあたる。	
9	4	冀東紀念専刊 巻下	殷汝耕		1936	昭和	11	11	25	書籍	9-3と同じカバー。この日は成立1周年記念にあたる。	
14	6	秘陸同文 参謀次長宛電報	北平補佐官	参謀次長	1936	昭和	11	12	5	電報	北平補佐官は今井。複写したもの。冀察綏遠公署より得たる諜者報。2枚。陳誠、傅作義（ふさくぎ）の動きについて。当時の参謀次長は西尾壽造。冀察綏遠公署より得たる諜者報。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
★	★				1936	昭和	11	12	12	☆		林文龍を帯同して 西安に向おうとするが 田代天津軍司令官に中止を命じられる
14	7	秘陸同文 参謀次長宛電報	北平補佐官	参謀次長	1936	昭和	11	12	14	電報	北平補佐官は今井、複写したもの。繰返における中国側の勝利祝いと北平市に於ける大学生、中学生の排日デモの動き。当時の参謀次長は西尾壽造。	
★	★				1936	昭和	11	12	15	☆		西安事件の件で 正午に来訪した宋哲元の代理 北京市長新徳純と会見
16	1	北平駐在武官時代の写真帖			1936	昭和	11			写真	北平の牟田口連隊の軍旗祭（6月18日）と思われる写真や蒋介石とのもの、家族の写真など約80枚。一部プライベートなもの。年は推定。	
20	563	殷民慧	殷民慧		1936	昭和	11			名刺	北平時代の名刺。殷汝耕夫人。年は推定。	
20	111	殷汝耕カ			1936	昭和	11			写真	今井武官恵存とあり、耕と書いてあり、人物は殷汝耕か。年は推定。	
20	531	写真			1936	昭和	11			写真	25枚。中国駐在員時代のものか。年は推定。	
20	532	写真			1936	昭和	11			写真	42枚。中国駐在員時代のものか。年は推定。	
20	533	写真			1936	昭和	11			写真	18枚。中国時代のもの。年は推定。	
22	8	孫子十家注 元	孫星衍		1936	昭和	11			冊子	1936年ころ北京の燕塵社風間より今井武官恵存とのメモの挿入あり。序と註巻一〜。カバーの「注」は中では「註」を使用している。年号は推定。清の学者孫星衍・註のものか。年度はもらった年の推定。	
22	9	孫子十家注 亨	孫星衍		1936	昭和	11			冊子	註巻四〜。年度はもらった年の推定。	
22	10	孫子十家注 利	孫星衍		1936	昭和	11			冊子	註巻八〜。年度はもらった年の推定。	
22	11	孫子十家注 貞	孫星衍		1936	昭和	11			冊子	註巻十一〜十三。年度はもらった年の推定。	
20	548	中国における祝いのイベント			1936	昭和	11			写真	日本人の集まり。戦中のもの。全くの年は推定。	
12	241	砲兵監 山室宗武中将			1936	昭和	11			写真		
12	255	朝鮮総督 宇垣一成大将夫妻			1936	昭和	11			写真		
12	297	児玉友雄第16師団長 藤井洋治第19旅団長 平林盛人参謀長			1936	昭和	11			写真		
21	177	僧侶の写真			1936	昭和	11			写真	今井武官恵贈 黙尔根呼因克因拜贈とある。モンゴル人のラマ僧か。年は推定。	
20	281	野外でのイベント写真			1936	昭和	11			写真	約10名。食事をしている。年は推定。	
20	282	今井を含め4名の将校			1936	昭和	11			写真	於中国。年は推定。	
20	283	今井ほか1名の将校			1936	昭和	11			写真	年は推定。	
20	28	正大照像館における日本軍人と中国人			1936	昭和	11			写真	北平西長安街中間路南。年度は全くの推定。	
20	52	中国で日本式御輿を担いだ写真			1936	昭和	11			写真	お祭るか結婚式か。年は推定。	
20	537	中国北平の雑多な写真			1936	昭和	11			写真	67枚。年は推定。	
20	546	中国陸軍軍官学校ほか			1936	昭和	11			写真	15枚。北平時代のものか。年は推定。王府井大街の写真店で現像したもの。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
20	68	写真（画像）を入れた封筒	山本照像館		1936	昭和	11			封筒	北京王府井大街が住所。1936年か1937年と思われる。年は推定。	
20	69	北京近郊の寺院等			1936	昭和	11			写真	20-68に封入された北京近郊の寺院等全45枚。年は推定。	
12	242	ハルピン特務機関長 小松原道太郎歩兵大佐			1936	昭和	11			写真	砲兵監。	
20	165	イベント写真			1936	昭和	11			写真	軍旗祭か招魂祭の写真か。年は推定。	
20	505	今井ともう一人の軍人			1936	昭和	11			写真	於中国。年は推定。	
20	370	今井の肖像写真			1936	昭和	11			写真	陸軍少佐のとき北平武官室の前か。	
15	14	軍旗祭の写真か			1936	昭和	11			写真	年度は全くの推定。	
19	51	イベント写真			1936	昭和	11			写真	軍旗祭の時のものか。年度は全くの推定。	
14	46	北支浪人層ノ最近ニ於ケル動向	今井武夫		1936	昭和	11			報告書	陸軍野紙に記載。日中戦争前の北平武官時代のものか。年代は推定。	
18	424	於北平正陽楼 今井ほか5名			1936	昭和	12	1	10	写真		
★	★				1937	昭和	12	1	18	☆		新任の松井太一郎大佐・北平特務機関長に行して 田代天津軍司令官を訪問
13	78	年賀状控（支那人の部）昭和12年度	今井武夫		1937	昭和	12	1		名簿	いろは順に中国人の名前記載あり。22-537～538参照。	
14	672	今井 「私心無き挙国一致を要望」			1937	昭和	12	1		新聞	掲載紙不明。駐在武官として北平居留民への年初の挨拶。新聞切抜。	
14	673	今井 「胸襟を開いて日支親善努力」			1937	昭和	12	1		新聞	掲載紙不明。14-672の続き。新聞切抜。	
★	★				1937	昭和	12	2	3	☆		山西省太原へ出張
20	151	山西省太原			1937	昭和	12	2	3	写真		
20	137	今井 於太原飛行場			1937	昭和	12	2	4	写真	20-171関連。	
20	171	今井と大蔵組北平所長林亀喜於太原			1937	昭和	12	2	4	写真	20-137関連。	
20	248	今井の写真 於太原飛行場			1937	昭和	12	2	4	写真	20-137, 20-171関連。	
14	24	2月10日ノ殷汝耕ノ談話内容	今井武夫		1937	昭和	12	2	14	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。長城炭鉱の採掘権について。塩の権利、コカインの販売、阿片専売制について、ほか。	
14	13	日本の対支政策雑感	今井武夫		1937	昭和	12	2	15	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。	
14	14	冀察ノ指導方針ニ就テ	今井武夫		1937	昭和	12	2	16	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。	
14	15	冀東政權ニ就テ	今井武夫		1937	昭和	12	2	17	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。	
14	16	冀察冀東両政權ノ合流問題	今井武夫		1937	昭和	12	2	17	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。	
14	17	在支警察機構ノ革正ニ就テ	今井武夫		1937	昭和	12	2	18	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。日付は17日とあるが18日か。	
14	18	北支独立ノ能否ニ就テ	今井武夫		1937	昭和	12	2	18	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。	
14	19	殷汝耕ノ不満	今井武夫		1937	昭和	12	2	21	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
14	20	南京政府本質ノ一面	今井武夫		1937	昭和	12	2	21	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。	
14	21	南京政府ノ統制力ニ就テ	今井武夫		1937	昭和	12	2	21	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。	
☆	☆				1937	昭和	12	2	22	☆		冀察政務委員会ほか主催 海軍長谷川清第3艦隊長官（中将）歓宴会に出席（於頤和園）
20	78	冀察政務委員会 冀察綏靖主任、北平市政府 歓宴長谷川清長官			1937	昭和	12	2	22	写真	長谷川は海軍第3艦隊長官・中将。於頤和園。	
14	22	日支両国民性ノ相違ト対支那政策ニ就テ	今井武夫		1937	昭和	12	2	22	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。	
14	23	支那人ノ事大主義ニ対スル対策ノ一端	今井武夫		1937	昭和	12	2	23	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。	
14	25	池宗墨ノ談	今井武夫		1937	昭和	12	2	25	報告書	駐在武官室の記録と思われる。池は冀東政府秘書処長兼外交処長。殷汝耕と同じ浙江省平陽県出身。明治大学を卒業している。陸軍野紙に記載。	
14	26	最近列国ノ対支政策ノ傾向	今井武夫		1937	昭和	12	2	25	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。	
14	27	南京政府ニ対日開戦決意ノ有無	今井武夫		1937	昭和	12	2	26	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。	
14	47	支那ノ現情勢ト対支政策ノ新基調	支那駐屯軍司令部		1937	昭和	12	2	26	報告書	北平陸軍武官室受付は3月28日。	
20	464	南苑飛行場にて			1937	昭和	12	3	20	写真		
19	27	今井の写真			1937	昭和	12	3		写真	北平駐在武官時代の今井の写真。	
☆	☆				1937	昭和	12	4	3	☆		北平旅館扶桑会館で 井戸垣駿主計少佐から 冀東政府財務状態について話を聴く
14	28	冀東政府ノ財政状態	今井武夫		1937	昭和	12	4	5	報告書	駐在武官室の記録と思われる。9枚。陸軍野紙に記載。井戸垣駿主計少佐から、4月3日扶桑会館で冀東政府財務状態について今井が聴取した話。財政不健全。保安隊1万7000人の費用400万元。殷の機密費月20万元。殷は何処かに貯金している。	
14	29	在支英勢力ノ最近ノ動向	今井武夫		1937	昭和	12	4	13	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。	
19	321	日本の対支政策について 目録	今井武夫		1937	昭和	12	4	20	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。19-321所収のファイル。全87頁。	
19	322	緒言	今井武夫		1937	昭和	12	4	20	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。19-321の構成1。1～8頁。	
19	323	北支独立ノ不可能性	今井武夫		1937	昭和	12	4	20	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。19-321の構成2。9～40頁。	
19	324	統一支那ノ中心勢力	今井武夫		1937	昭和	12	4	20	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。19-321の構成3。41～57頁。	
19	325	南京政府ノ本質ハ反共	今井武夫		1937	昭和	12	4	20	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。19-321の構成4。58～66頁。	
19	326	南京政府ト地方政權	今井武夫		1937	昭和	12	4	20	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。19-321の構成5。67～72頁。	
19	327	支那統一ト抗日開戦	今井武夫		1937	昭和	12	4	20	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。19-321の構成6。73～80頁。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
19	328	結論	今井武夫		1937	昭和	12	4	20	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。19-321の構成7。81～87頁。	
14	30	第二十九軍各師長ノ関係	今井武夫		1937	昭和	12	4	22	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。前第二十九軍大佐盧殿文の談話要旨。軍長宋哲元、三十七師長馮治安、三十八師長張自忠、百三十二師長張登禹、百四十三師長劉汝明等の関係について。宋哲元と劉汝明の関係はよくない。	
★	★				1937	昭和	12	4	25	☆		大使館僚友会 八達嶺遠足(家族帯同)
20	103	大使館僚友会八達嶺遠足 万里の長城にて			1937	昭和	12	4	25	写真	妻きみ子も参加している。	
★	★				1937	昭和	12	4	27	☆		北平における招魂祭 野宴あり
16	34	北平に於ける招魂祭			1937	昭和	12	4	27	写真		
20	169	招魂祭写真			1937	昭和	12	4	27	写真		
20	463	盧溝橋事件発生2ヶ月半前の牟田口廉也大佐 森田徹中佐 今井武夫少佐 3人の北京招魂祭における打ち解けた写真			1937	昭和	12	4	27	写真	招魂祭後の夜宴にて。3人仲良く笑っている写真。20-169参照。20-104のオリジナルか。	
20	104	盧溝橋事件発生2ヶ月半前の牟田口廉也大佐、森田徹中佐、今井武夫少佐の北京招魂祭における打ち解けた写真			1937	昭和	12	4	27	写真	招魂祭後の夜宴にて。3人仲良く笑っている写真。20-169参照。20-463がオリジナルか。	
20	340	北平の招魂際における剣道の試合			1937	昭和	12	4	27	写真	20-104参照。	
14	681	須磨弥吉郎「移り行く支那 在支十一年の思い出を語る 1」			1937	昭和	12	4		新聞	須磨は南京総領事。駐米大使館参事に就任予定。スペイン大使を経て、戦後衆議院議員（自民党）新聞切抜。掲載紙不明。年月は推定。	
14	680	須磨弥吉郎「移り行く支那 在支十一年の思い出を語る 2」			1937	昭和	12	4		新聞	新聞切抜。掲載紙不明。年月は推定。	
14	679	須磨弥吉郎「移り行く支那 在支十一年の思い出を語る 3」			1937	昭和	12	4		新聞	新聞切抜。掲載紙不明。年月は推定。	
14	678	須磨弥吉郎「移り行く支那 在支十一年の思い出を語る 4」			1937	昭和	12	4		新聞	新聞切抜。掲載紙不明。年月は推定。	
14	677	須磨弥吉郎「移り行く支那 在支十一年の思い出を語る 5」			1937	昭和	12	4		新聞	新聞切抜。掲載紙不明。年月は推定。	
14	676	須磨弥吉郎「移り行く支那 在支十一年の思い出を語る 7 完」			1937	昭和	12	4		新聞	新聞切抜。掲載紙不明。年月は推定。6は欠落している。須磨は総領事。	
14	31	冀察要人ノ日本視察ニ表ハシタル態度	今井武夫		1937	昭和	12	5	10	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
★	★				1937	昭和	12	5	11	☆		靳雲鵬と日中文化提携の打合せ (於北平の綿花胡同の靳の自宅)
20	136	英国スコット大尉			1937	昭和	12	5	12	写真	スコットは英国ジョージ六世の戴冠式(5月12日)に際し、補佐官を務めた。於北平武官室前。	
14	32	北支最近ノ情勢	今井武夫		1937	昭和	12	5	15	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。	
14	12	冀東貿易ヲ廃止ス可カラサル理由	細木繁		1937	昭和	12	5	29	書類	細木は通州特務機関長。陸軍中佐。通州事件で戦死。写。極秘とある。何故か、14-11と同じファイルにある。冀東政府の関税収入高と使途記載あり。	
★	★				1937	昭和	12	5		☆		北平における日米英仏伊武官の集まり (於仏武官サバッテイ氏宅)
20	140	駐北平武官等の集まり			1937	昭和	12	5		写真	今井、河辺正三、松井太太郎、英国スコット大尉、米バレット少佐、仏マストン大佐。於仏武官サバッテイ氏宅。	
14	33	軍ノ政治指導ニ就テ	今井武夫		1937	昭和	12	6	7	論文	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。	
4	64	百千万民衆に訴ふ 附 西安監禁半月記	蔣介石		1937	昭和	12	6	8	書籍	村田孜郎訳。河出書房。	
★	★				1937	昭和	12	6	18	☆		支那駐在歩兵第一連隊軍旗祭
20	362	今井の肖像写真 於北平武官室			1937	昭和	12	6	18	写真		
20	106	支那駐在歩兵第一連隊軍旗祭 牟田口廉也連隊長ほか			1937	昭和	12	6	18	写真		
★	★				1937	昭和	12	6	27	☆	盧溝橋事件発生前のミステリー その1。於北平グランド・ホテル。	西本願寺前門主大谷光瑞に会い 北平での日中衝突についての不穏な予測を聞く
1	24	蔣委員長西安半月記 蔣夫人西安事変回憶録	蔣中正・蔣宋美齡		1937	昭和	12	6		書籍	正中書局。中文。	
9	73	春秋正義證釈	呉佩孚		1937	昭和	12	6		冊子	呉佩孚は1939年4月に亡くなっている。隠公六七年。春秋左伝浅解釈とある。丁丑仲夏。呉佩孚題。	
★	★				1937	昭和	12	7	1	☆		叙正六位
20	34	今井武夫宛叙勲「叙正六位」	松平恒雄	今井武夫	1937	昭和	12	7	1	書類	松平は宮内大臣。官位については 21-279と矛盾?	
9	65	今井俊子絵日記	今井俊子		1937	昭和	12	7	1	日記	北平にいて盧溝橋事件を体験した7歳の俊子(長女)の小学校の絵日記。8月19日まで。	
14	715	支那事変手記 1頁め	今井武夫		1937	昭和	12	7	1	日記	14箱-東28所収のファイル。陸軍野紙に記載。14-779のカバーリング。	
14	717	今井武夫 支那事変手記	今井武夫		1937	昭和	12	7	1	日記	昭和13年1月20日迄。陸軍野紙に記載。この続きが14-716。盧溝橋事件。	
★	★				1937	昭和	12	7	3	☆	盧溝橋事件発生前のミステリー その2。	河北省主席兼第29軍第37師長兼務の馮治安中将与保定に行く(通訳張迷生) その折馮から盧溝橋での6月3日の日本軍の実弾発砲不法事件を聞く
14	35	日支文化提携ニ関スル今井・靳・陳会谈記録	今井武夫		1937	昭和	12	7	6	報告書	靳瑞萱と陳于庚。陳は靳の秘書長。北平武官時代のものか。年代月日は推定。陸軍野紙に記載。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
☆	☆				1937	昭和	12	7	6	☆	盧溝橋事件発生前のミステリー その3。	陳子庚宅に招かれる そこへ冀北保安隊司令石友三中将の突然の訪問あり 事件前日盧溝橋での衝突事件を聞く
☆	☆				1937	昭和	12	7	7	☆	盧溝橋事件勃発。七・七事件。	市政府栗屋顧問主催の御厨大尉来平歓迎盛宴 興中公司社長主催 二次会（於長春）に出席 夜 盧溝橋事件（北支事変）勃発 北平西南の盧溝橋で日中軍が深夜衝突
☆	☆				1937	昭和	12	7	8	☆		第29軍副軍長秦徳純、第132師長張登禹、冀察政務委員張允榮の3人と秦徳純の自宅で会見 とりあえず事件不拡大で意見一致
14	5	今井武夫 支那事変日誌	今井武夫		1937	昭和	12	7	8	日記	10月26日迄。多分 今井の秘書・草野（旧姓織田）文男が筆記清書したものと思われる。草野は戦後拓大教授。複写用紙を使用しており、陸軍野紙に記載されている。内容は14-717の日記記述と、天候などにわずかだが若干異なる部分あり。盧溝橋事件。	
3	129	盧溝橋事件勃発直後の北平日本大使館			1937	昭和	12	7	8	写真		
3	130	盧溝橋事件勃発直後の北平日本大使館前			1937	昭和	12	7	8	写真		
14	718	「陸軍武官室発表」			1937	昭和	12	7	8	新聞	掲載紙不明。14-717の7月8日に貼付。新聞切抜。	
14	720	事変発生と共に閉鎖されたる哈達門	長嶋上尉		1937	昭和	12	7	8	写真	14-717の7月8日に貼付。「上尉」とは満州国軍の「大尉に」あたる役職。	
14	721	事変発生と共に閉鎖されたる朝陽門	長嶋上尉		1937	昭和	12	7	8	写真	14-717の7月8日に貼付。「上尉」とは満州国軍の「大尉に」あたる役職。	
14	4	今井武夫 支那事変日誌	今井武夫		1937	昭和	12	7	8	書類	14箱-東2所収のファイル。	
21	34	事変中本館（北平近代科学図書館）日誌	北平近代科学図書館		1937	昭和	12	7	8	日記	8月10日まで。	
14	719	「局面打開折衝纏まらず（八日）」	東京朝日新聞社		1937	昭和	12	7	9	新聞	14-717の7月8日に貼付。新聞切抜複写。	
14	722	緊張せる大使館兵営前	長嶋上尉		1937	昭和	12	7	9	写真	14-717の7月8日に貼付。「上尉」とは満州国軍の「大尉に」あたる役職。	
14	724	「第一線部隊に停戦命令 支那側協定を無視し又も我軍に射撃を行なふ」	満洲日日新聞社		1937	昭和	12	7	9	新聞	満洲日日新聞掲載。14-717の7月9日に貼付。新聞切抜。満洲日日新聞は満鉄傘下の日刊紙。	
14	725	「命令不徹底が原因 日支調停委員の現地到着で支那軍撤退を開始 支那側謝意を表明」	満洲日日新聞社		1937	昭和	12	7	9	新聞	満洲日日新聞。14-717の7月9日に貼付。新聞切抜。満洲日日新聞は満鉄傘下の日刊紙。	
14	726	「北平駐在武官室発表 日支両軍は9日午前零時20分大部の撤退を完了した」			1937	昭和	12	7	9	新聞	掲載紙不明。14-717の7月9日に貼付。新聞切抜。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
★	★				1937	昭和	12	7	10	☆		東京から 事件不拡大 現地解決方針の訓令が届く
22	558	今井きみ子宛遺言書	今井武夫		1937	昭和	12	7	10	書簡	「予ハ貴下ニ対シ満腔ノ感謝ト敬意ヲ表ス 予亡キ後ハ其意図スル儘ニ行動セラレンカ其ハ予ノ意思ニ合致スルナラン 但シ如何ナル場合ト雖モ祖先ノ祭司ト幼児ノ育成ニ心セラレ度 児長セハ予生前ノ日常生活ヲ伝ヘ彼等十五才以後ノ希望スル途ヲ進マシメラレ度 昭和12年7月10日 きみ子殿 今井武夫 花押」 昭和16年12月24日付上書きあり。「本日右ヲ検シ 之ヲ改ムルモノナシ 今井武夫 花押」。封書は22-559。複写。	
22	559	今井きみ子宛封筒	今井武夫	今井きみ子	1937	昭和	12	7	10	封筒	22-558遺言書所蔵の封書。日付は昭和十二年七月十日のほか、昭和十六年十二月二十四日も記載あり。複写。	
14	727	「北平附近又も動揺 平津間列車 電話不通」	満洲日日新聞社		1937	昭和	12	7	10	新聞		
14	728	「北平武官室発表」	東京日報社		1937	昭和	12	7	10	新聞	東京日報。14-717の7月11日に貼付。新聞切抜。	
★	★				1937	昭和	12	7	11	☆		張允榮宅で 齊燮元 張允榮 林耕宇の3人と会見 現地停戦協定をとりまとめる
14	729	解決条件			1937	昭和	12	7	11	書類	14-717に記載あり。1枚。	
14	730	解決条件			1937	昭和	12	7	11	書類	中国文。14-717に記載あり。1枚。	
19	57	盧溝橋事件中国側停戦条件の試案	齊燮元		1937	昭和	12	7	11	書類	今井『支那事変の回想』に写真記載されたものの本紙。29頁参照。齊燮元は冀察政務委員。	
14	731	解決条件			1937	昭和	12	7	11	書類	14-717に記載あり。1枚。	
14	732	要求事項			1937	昭和	12	7	11	書類	14-717に記載あり。1枚。	
14	733	北支事変勃発当時の外国武官 外国武官護衛隊長訪問表			1937	昭和	12	7	11	書類	陸軍野紙に記載。14-717に記載あり。1枚。	
14	723	防禦工事成れる王府井金城銀行前	長嶋上尉		1937	昭和	12	7	11	写真	14-717の7月8日に貼付。「上尉」とは満洲国軍の「大尉に」あたる役職。	
14	734	「支那軍不法の裏に国府の抗日煽動 陸軍武官室発表」	満洲日日新聞社		1937	昭和	12	7	11	新聞	14-717の7月11日に貼付。満洲日日新聞。新聞切抜。満洲日日新聞は満鉄傘下の日刊紙。	
14	735	「武官室発表 張允榮氏 我特務機関を訪問」	満洲日日新聞社		1937	昭和	12	7	11	新聞	14-717の7月11日に貼付。満洲日日新聞。新聞切抜。満洲日日新聞は満鉄傘下の日刊紙。	
★	★				1937	昭和	12	7	12	☆		御厨少佐と花本盛彦大尉に 「任務の状況に応じ 適時張家口と北平に引き上げるべき旨」電報する
20	189	今井の写真			1937	昭和	12	7	15	写真	駐在武官府前か。	
18	425	今井の写真			1937	昭和	12	7	15	写真		
14	736	「今井武官に秦市長回答」			1937	昭和	12	7	16	新聞	秦は秦徳純。掲載紙不明。14-717の7月16日に貼付。新聞切抜。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
★	★				1937	昭和	12	7	18	☆		天津に赴き 16日に死去した田代 皖一郎前支那駐屯軍司令官の霊を 弔う 中島鉄蔵 柴山兼四郎 に 葬式で会う 香月新司令官以下幕僚と会見
20	191	総司令部の葬儀			1937	昭和	12	7	18	写真	屋外に祭壇あり。4枚。総司令官の花輪あり。重要人物の葬儀。田 代司令官の葬儀か。推定。	
14	737	北支事変原因の怪	今井武夫		1937	昭和	12	7	18	報告書	14-717に記載。陸軍野紙に記載。11枚。	
14	738	「不法を繰返すに於いては 明二十日独自の行動をとるべ き旨冀察当局に通告」			1937	昭和	12	7	19	新聞	掲載紙不明。14-717の7月19日に貼付。新聞切抜。	
22	566	「絶大の信頼を受ける北支の 四武官 下」	満洲日日新聞社		1937	昭和	12	7	19	新聞	満洲日日新聞。夕刊。切抜き。今井について外国人は「決して虚言 をつかぬジェントルマン」と批評。複写。	
14	739	「武官室発表 隠忍の我軍決起 す」			1937	昭和	12	7	20	新聞	掲載紙不明。14-717の7月20日に貼付。新聞切抜。	
★	★				1937	昭和	12	7	24	☆		松井大久郎特務機関長とともに 宋哲元を進徳社に訪問
★	★				1937	昭和	12	7	25	☆		西苑（北平市外）へ出張
20	108	於西苑			1937	昭和	12	7	25	写真	西苑は北平の市外。	
20	389	於西苑			1937	昭和	12	7	25	写真		
20	387	支那軍の写真 於西苑			1937	昭和	12	7	25	写真		
20	388	支那軍の写真 於西苑			1937	昭和	12	7	25	写真		
20	390	支那軍の写真			1937	昭和	12	7	25	写真		
20	391	日本軍攻京に増援			1937	昭和	12	7	25	写真		
20	392	非武装の中国兵			1937	昭和	12	7	25	写真		
20	197	皇軍部隊	松村好文堂		1937	昭和	12	7	25	写真		
14	740	「武官室を慰問せる大谷照乗 連枝と篁布教師」			1937	昭和	12	7	25	新聞	写真のみ。掲載紙不明。14-717の7月25日に貼付。新聞切抜。	
★	★				1937	昭和	12	7	26	☆		秦徳純と停戦交渉
20	196	前線視察の河辺正三部隊長	松村好文堂		1937	昭和	12	7	26	写真		
14	741	「松井機関長ほか宋哲元を訪 問」			1937	昭和	12	7	26	新聞	掲載紙不明。14-717の7月26日に貼付。新聞切抜。	
14	742	「香月司令官から宋哲元への 通告」			1937	昭和	12	7	27	新聞	掲載紙不明。14-717の7月26日に貼付。新聞切抜。この通告文内容はこ のほか、今井武夫『支那事変の回想』36頁にもあり。	
14	743	「廓坊事件に就いて今井武官 が嚴重抗議」			1937	昭和	12	7	26	新聞	日本側重傷2名、軽症4名。掲載紙不明。14-717の7月26日に貼付。新聞 切抜。	
14	744	「責任支那側にあり」	大阪毎日新聞社		1937	昭和	12	7	26	新聞	大阪毎日新聞。14-717の7月26日に貼付。新聞切抜。	
14	745	「わが方はやむを得ず応戦」			1937	昭和	12	7	26	新聞	掲載紙不明。14-717の7月26日に貼付。新聞切抜。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
14	746	「誠意なき宋哲元 今井武官 秦、張と会見」			1937	昭和	12	7	26	新聞	掲載紙不明。14-717の7月26日に貼付。新聞切抜。秦は秦徳純、張は張自忠。	
14	58	「27日に在平（北京）同胞に 引揚げ令」	新支那社		1937	昭和	12	7	27	新聞	新支那号外 第1 昭和12年7月27日号。	
14	59	「今井武官秦徳純と交渉 通 州の29軍を追放 引揚げ数 内地人1300名」	新支那社		1937	昭和	12	7	27	新聞	新支那号外 第2 昭和12年7月27日号。	
★	★				1937	昭和	12	7	27	☆		北支事変籠城（北平で8月8日まで 13日間の籠城）
14	747	今井武夫宛電報	垣	今井武夫	1937	昭和	12	7	27	電報	「今更交渉の容域に非ずや」。14-717の7月27日に貼付。新聞切抜。垣 とは高橋垣支那班長。	
14	748	「広安門の死線を潜る」			1937	昭和	12	7	27	新聞	掲載紙不明。14-717の7月27日に貼付。新聞切抜。	
14	60	新支那号外 第1	新支那社		1937	昭和	12	7	28	新聞	昭和12年7月28日号。	
14	61	「今井陸軍武官談」	新支那社		1937	昭和	12	7	28	新聞	新支那号外 第2 昭和12年7月28日号。	
14	62	新支那号外 第3 昭和12年7 月28日号	新支那社		1937	昭和	12	7	28	新聞		
14	63	「今井陸軍武官の時局説明」	新支那社		1937	昭和	12	7	28	新聞	新支那号外 第4 昭和12年7月28日号。	
21	346	北支事変記念 武官室玄関前 の今井と松井令			1937	昭和	12	7	28	写真	今井と松井の二人。松井は新聞記者か。	
14	749	「外人記者団に我意図闡明 今 井武官堂々応答す」	東京朝日新聞社		1937	昭和	12	7	28	新聞	14-717の7月28日に貼付。東京朝日新聞。新聞切抜。	
14	750	「支那駐屯軍重大声明 万策尽 きて膺懲の師を進む」			1937	昭和	12	7	28	新聞	14-717の7月28日に貼付。掲載紙不明。新聞切抜。	
14	64	「宗哲元以下冀察首脳部ら逃 走！」	新支那社		1937	昭和	12	7	29	新聞	新支那号外 第10 昭和12年7月29日号。	
14	65	新支那号外 第12	新支那社		1937	昭和	12	7	29	新聞		
★	★				1937	昭和	12	7	29	☆		冀察軍 北平撤去を確認
14	751	「皇軍の往く所実に斯の如し 今井武官視察談」			1937	昭和	12	7	29	新聞	掲載紙不明。14-717の7月29日に貼付。新聞切抜。	
14	66	「元老江朝宗治安維持会に乗 り出す」	新支那社		1937	昭和	12	7	30	新聞	新支那号外 第18 昭和12年7月30日号。	
14	67	新支那号外 第20	新支那社		1937	昭和	12	7	30	新聞		
14	68	「北平市地方維持会けふ歴史 的に誕生」	新支那社		1937	昭和	12	7	30	新聞	新支那号外 第23 昭和12年7月30日号。	
★	★				1937	昭和	12	7	30	☆	今井の同郷 長野県出身の日本浪人荒木五郎により 殷汝耕は救出 されたという説があるが、今井はその事実は間違いとして否定して いた。	北平治安のため「地方維持会」成 立 江朝宗を主席にする 冀東保安隊に逮捕されていた冀東 防共自治政府長官殷汝耕から今井 に電話があり、殷の所在がわかり 救出される

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
14	752	「殷冀東長官健在」			1937	昭和	12	7	30	新聞	掲載紙不明。 14-717の7月30日に貼付。新聞切抜。殷汝耕の救出について。	
14	69	新支那号外 第25	新支那社		1937	昭和	12	7	31	新聞	25は24の間違いか。	
14	70	「細木繁中佐殉職」（通州事件で）	新支那社		1937	昭和	12	7	31	新聞	新支那号外 第26 昭和12年7月31日号。	
20	135	今井の写真			1937	昭和	12	7	31	写真		
14	753	「深夜電話の第一報」			1937	昭和	12	7	31	新聞	14-717の7月31日に貼付。新聞切抜。掲載紙不明。	
21	351	北平の大使館前の写真			1937	昭和	12	7		写真	盧溝橋事件のときのものか。年月は推定。	
20	526	写真ネガ			1937	昭和	12	7		ネガ	36枚。入れ物は1939年7月だが時期と関係あるかどうか不明。年月は推定。	
14	71	新支那号外 第27 昭和12年8月1日号	新支那社		1937	昭和	12	8	1	新聞		
14	72	新支那号外 第28 昭和12年8月1日号	新支那社		1937	昭和	12	8	1	新聞		
14	73	新支那号外 第29 昭和12年8月1日号	新支那社		1937	昭和	12	8	1	新聞		
14	74	「今井武官も花輪」	新支那社		1937	昭和	12	8	1	新聞	新支那号外 第30号 昭和12年8月1日号。	
14	75	新支那号外 第31 昭和12年8月1日号	新支那社		1937	昭和	12	8	1	新聞		
14	76	新支那号外 第32 昭和12年8月2日号	新支那社		1937	昭和	12	8	2	新聞		
14	77	新支那号外 第33 昭和12年8月2日号	新支那社		1937	昭和	12	8	2	新聞		
14	78	新支那号外 第34 昭和12年8月2日号	新支那社		1937	昭和	12	8	2	新聞		
14	79	新支那号外 第35 昭和12年8月2日号	新支那社		1937	昭和	12	8	2	新聞		
14	80	新支那号外 第36 昭和12年8月2日号	新支那社		1937	昭和	12	8	2	新聞		
◎	◎				1937	昭和	12	8	2	◎		陸軍歩兵中佐
20	33	今井武夫宛辞令「任陸軍歩兵中佐」	近衛文麿	今井武夫	1937	昭和	12	8	2	書類	近衛は総理大臣。	
14	81	新支那号外 第37 昭和12年8月3日号	新支那社		1937	昭和	12	8	3	新聞		
14	82	新支那号外 第38 昭和12年8月3日号	新支那社		1937	昭和	12	8	3	新聞		
14	83	新支那号外 第39 昭和12年8月3日号	新支那社		1937	昭和	12	8	3	新聞		
14	84	新支那号外 第40 昭和12年8月3日号	新支那社		1937	昭和	12	8	3	新聞		
14	85	「皇軍部隊今朝入平」	新支那社		1937	昭和	12	8	3	新聞	新支那号外 第41号 昭和12年8月3日号。	
14	86	新支那号外 第42 昭和12年8月4日号	新支那社		1937	昭和	12	8	4	新聞		

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
14	87	新支那号外 第43 昭和12年8月4日号	新支那社		1937	昭和	12	8	4	新聞		
14	88	新支那号外 第46 昭和12年8月6日号	新支那社		1937	昭和	12	8	6	新聞	第46は45の間違いか。	
14	89	新支那号外 第46 昭和12年8月6日号	新支那社		1937	昭和	12	8	6	新聞		
14	90	新支那号外 第48 昭和12年8月6日号	新支那社		1937	昭和	12	8	6	新聞		
14	91	新支那号外 第49 昭和12年8月6日号	新支那社		1937	昭和	12	8	6	新聞		
14	92	新支那号外 第51 昭和12年8月7日号	新支那社		1937	昭和	12	8	7	新聞		
★	★				1937	昭和	12	8	8	☆		北支事変籠城解散
★	★				1937	昭和	12	8	9	☆		北支事変籠城解散記念会（於北平武官室前庭）
20	35	北支事変籠城記念撮影写真			1937	昭和	12	8	9	写真	籠城解散の翌朝。於北平日本武官室前庭。今井を含め全14名。日時は推定。	
20	107	入場司令部 斎藤少佐と今井中佐			1937	昭和	12	8	9	写真	於北平進徳社。	
20	194	支那事変ニュース写真の封筒	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	封筒	20箱-束4所収の封筒。すべて写真。	
20	195	香月清司支那駐屯軍司令官	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	写真	香月は陸士14期。中将。	
20	198	朱家屯で突撃する金田部隊	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	写真		
20	199	前線の和知部隊	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	写真	和知鷹二は歩兵44連隊長だった。	
20	200	皇軍歩兵部隊	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	写真		
20	201	皇軍陣地	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	写真		
20	202	皇軍部隊の活躍	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	写真		
20	203	南京爆撃に就かんとする基地	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	写真		
20	204	高粱畑の日本軍歩哨	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	写真		
20	205	前線へ前線へ	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	写真		
20	206	陸軍に押収された中国軍使用のダムダム弾	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	写真		
20	207	日本軍の野砲の威力	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	写真		
20	208	行進中の皇軍精鋭	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	写真		
20	209	最前線の部隊	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	写真		

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備 考	今 井 武 夫 年 譜
20	210	砲隊	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	写真		
20	211	皇軍敵前の散兵	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	写真		
20	212	上海・敵に猛射	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	写真		
20	213	日本軍の占拠した呉淞砲台	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	写真	上海戦。	
20	214	日本軍の防御工作	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	写真		
20	215	橋下の皇軍部隊	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	写真		
20	216	前線における機関銃隊	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	写真		
20	217	支那馬車にて軍需品輸送	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	写真		
20	218	出勤の皇軍	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	写真		
20	219	歩兵部隊	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	写真		
20	220	羅店镇焼討三勇士 山岡上等兵 片岡一等兵 西田一等兵	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	写真	昭和12年9月23日上海郊外の宝山区羅店镇で激戦があった。同盟提供写真。	
20	221	支那中央軍師長、副師長、参謀長	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	写真		
★	★				1937	昭和	12	8	10	☆		北支事変龍城記念会（北平）
3	133	北支事変龍城記念撮影写真			1937	昭和	12	8	10	写真		
★	★				1937	昭和	12	8	13	☆		北平に隠棲していた呉佩孚の側近 蔣雁行 張請焯が日本人菅沼素男と北平武官室に来訪 呉佩孚の再起の意志の強さを述べる
★	★				1937	昭和	12	8	14	☆		有賀庫吉満鉄北平出張所長来訪 大連本社総務部庶務課長として栄転する旨 諒承
14	754	「上海本社特電」	大阪毎日新聞社		1937	昭和	12	8	15	新聞	14-717の8月15日に貼付。大阪毎日新聞切抜。	
14	755	「Lieut. Colonel Imai」			1937	昭和	12	8	17	新聞	14-717の8月17日に貼付。The Peiping News新聞切抜。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
14	756	弔辞	今井武夫		1937	昭和	12	8	17	書類	陸軍郵紙に記載。	
20	57	今井の写真			1937	昭和	12	8	18	写真	駐在武官時代の北平の今井の写真か。	
20	193	中国人と今井			1937	昭和	12	8	18	写真		
14	757	「冀東銀行捲土重来」			1937	昭和	12	8	18	新聞	14-717の8月18日に貼付。新聞切抜。掲載紙不明。	
★	★				1937	昭和	12	8	20	☆		什景花園の呉佩孚の自宅で呉と昼食を共にする。陪席 菅沼素男、陳中孚、湯爾和、李景鈺
20	152	中国の寺院のようなところに集合している写真			1937	昭和	12	8	20	写真		
20	153	写真			1937	昭和	12	8	20	写真	中国における葬式の写真か。	
20	462	法事の写真			1937	昭和	12	8	20	写真	僧侶たちと。	
14	758	「湯恩伯行方不明」			1937	昭和	12	8	24	新聞	14-717の8月24日に貼付。新聞切抜。掲載紙不明。	
★	★				1937	昭和	12	8	27	☆		午後5時 根本博大佐と連絡 北京ホテルで 松岡洋右満鉄総裁と会談 対支政策につき意見を具申
20	154	裴字成	裴字成		1937	昭和	12	8	27	写真	裴字成 敬贈とある。	
★	★				1937	昭和	12	8	28	☆		承德（熱河省都）より 花本盛彦少佐 飛行機で来平 事変以来の状況を聴取
20	141	花本盛彦少佐と今井			1937	昭和	12	8	28	写真		
14	759	「武官室を慰問せる伯爵大谷光照」			1937	昭和	12	8	29	新聞	14-717の8月29日に貼付。新聞切抜。掲載紙不明。	
19	81	南京市街近傍図	参謀本部陸地測量部		1937	昭和	12	8		地図		
20	155	憲兵上等兵2名の写真			1937	昭和	12	9	2	写真	関宗蔭23歳。孫振坤21歳。	
◎	◎				1937	昭和	12	9	4	◎	この日特務が新設され喜多誠一少将が特務部長に就任	北支那方面軍司令部附 兼務
4	61	支那は生存し得るか	H.アーベント、A・J・ピリンガム		1937	昭和	12	9	6	書籍	村田孜郎・中村常三訳。教材社。Can China Survive?	
★	★				1937	昭和	12	9	7	☆		北平から天津に赴き 寺内寿一北支那方面軍司令官に北平方面の治安状況や中国軍の情勢等を報告
★	★				1937	昭和	12	9	10	☆		北平特務機関兼務
★	★				1937	昭和	12	9	12	☆		英米仏伊の駐在武官（第一次外国武官前線視察団）に同行 午前8時日本北平武官室に集合し北平の西直門駅を出発 張家口まで往復出張 ～14日

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
20	110	外国武官と西道駅にて			1937	昭和	12	9	12	写真	英米仏伊の武官と張家口へ出発。	
20	139	今井を含めて全4名			1937	昭和	12	9	12	写真		
20	144	於西道門駅			1937	昭和	12	9	12	写真	南口へ出発。	
20	145	於青龍橋駅写真			1937	昭和	12	9	12	写真	青龍橋駅は北京市内にある。	
20	146	於青龍橋駅前写真			1937	昭和	12	9	12	写真	青龍橋駅は北京市内にある。	
20	147	於懷東駅			1937	昭和	12	9	12	写真		
20	148	於懷東駅	ホワイト		1937	昭和	12	9	12	写真		
20	386	南口行列車内			1937	昭和	12	9	12	写真	南口は北京の郊外。	
★	★				1937	昭和	12	9	13	☆	『支那事変の回想』55頁に同行者名記載あり。	第一次外国武官前線視察団 張家口市内視察、警備司令官鈴木（中将）部隊本部訪問（第一次外国武官前線視察へ同行）
20	138	外国武官調査団 全10名 於鈴木部隊本部前			1937	昭和	12	9	13	写真	鈴木とは鈴木貞一歩兵第14連隊長のことか。20-249と同じ構図。	
20	142	於寧省政府写真			1937	昭和	12	9	13	写真	外人と中国人との写真。	
20	143	於寧省政府写真			1937	昭和	12	9	13	写真		
20	149	於張家口 南口間列車内写真			1937	昭和	12	9	13	写真	20-247とは別の写真。	
20	170	於鈴木部隊本部前 全10名			1937	昭和	12	9	13	写真	鈴木とは鈴木貞一歩兵14連隊長のことか。外国武官調査団。20-249と同じ構図。	
20	188	於張家口康莊間無蓋貨車内			1937	昭和	12	9	13	写真	20-247とは別の写真。	
20	247	於張家口康莊間無蓋貨車内			1937	昭和	12	9	13	写真	20-188とは別の写真。	
20	249	於鈴木部隊本部前			1937	昭和	12	9	13	写真	鈴木とは鈴木貞一歩兵14連隊長のことか。外国武官調査団。20-138と同じ構図。全10名。	
20	260	無蓋貨車内外人写真			1937	昭和	12	9	13	写真	20-188、247に若干状況が似た写真。年月は推定。	
★	★				1937	昭和	12	9	14	☆		第一次外国武官前線視察団北平へ帰着
★	★				1937	昭和	12	9	15	☆		金融顧問組織会議に出席
19	117	新大東京地図	文彰堂編集部		1937	昭和	12	9	15	地図		
★	★				1937	昭和	12	9	19	☆	9月4日に張家口に察南自治政府が成立している。	松井太一郎大佐 張家口へ転任（北支那方面軍付）のため歡送（今井 森島守人 寺平忠輔 於北平南苑）
20	530	松井太一郎大佐 張家口へ転任歡送			1937	昭和	12	9	19	写真	今井 森島守人 寺平忠輔 於北京南苑。	
14	761	「今井武官 民会義勇隊 往訪慰問」			1937	昭和	12	9	19	新聞	14-717の9月19日に貼付。新聞切抜。掲載紙不明。	
14	763	一木清直少佐の会合写真			1937	昭和	12	9	20	写真	14-71762会合時の写真3枚貼付。長野県出身の中原、小山両代議士と同じく同県出身の一木清直少佐の会合を今井がアレンジ	
14	764	「今井武官 国防婦人会に五十元寄付」			1937	昭和	12	9	25	新聞	14-717の9月25日に貼付。新聞切抜。掲載紙不明。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
14	765	弔辞	今井武夫		1937	昭和	12	9	26	書類	陸軍野紙に記載。	
20	109	桜井忠温少将と米海軍武官オベレスチュ中佐ほか			1937	昭和	12	9	30	写真	於天壇。桜井は ベストセラーとなった『肉弾』の作者。第4代陸軍新聞班長だった。(1924年3月15日～1930年8月1日迄)	
20	447	多田駿参謀次長支那旅行			1937	昭和	12	9		写真	全10枚。年代は1937年か38年。「今井中佐殿9月」とある。	
14	762	「中原、小山兩代議士と北平談論風発 何たる奇遇 一木少佐の便り」	信濃毎日新聞社		1937	昭和	12	10	1	新聞	信濃毎日新聞。14-717の9月20日に新聞切抜貼付あり。今井良雄氏も所蔵。9月20日長野県出身の中原、小山兩代議士と同じく同県出身の一木清直少佐の会合を今井がアレンジした。	
★	★				1937	昭和	12	10	10	☆		保定まで往復出張 (第二次外国武官前線視察団に同行)
19	16	英米仏伊盧溝橋戦線視察団			1937	昭和	12	10	11	写真	後の米国ジョセフ・スチルウェル陸軍大将、テラー大將らと。スチルウェルは昭和10年から14年まで米国大使館付武官として北平に滞在した。日付は推定。	
19	74	海外からの盧溝橋事件視察団 保定行記念 米国テラー砲兵大尉ほか	平岡		1937	昭和	12	10	11	写真		
◎	◎				1937	昭和	12	10	12	◎		参謀本部員 兼 陸軍大学兵学教官
14	766	「今井武官 栄転 後任 吉野弘之少佐」			1937	昭和	12	10	13	新聞	14-717の10月13日に貼付。新聞切抜。掲載紙不明。	
14	767	「艱難を共にした北京同胞と別れるのに離愁の感更に深い！」			1937	昭和	12	10	14	新聞	14-717の10月14日に貼付。北京新聞。	
14	768	「近く栄転する今井武官語る」	新支那社		1937	昭和	12	10	14	新聞	14-717の10月14日に貼付。新支那新聞。	
14	769	「今井武官 記者団招宴」			1937	昭和	12	10	17	新聞	14-717の10月17日に貼付。掲載紙不明	
★	★				1937	昭和	12	10	20	☆		北平出張の寺内寿一北支那方面軍司令官とその幕僚 山下奉文旅団長 河辺正三参謀副長 牟田口廉也連隊長らを 中国軍の西兵營や、頤和園の万寿山、清華大学等に案内夜会食
21	343	寺内寿一司令官と今井 万寿山			1937	昭和	12	10	20	写真	寺内元帥を今井が北平案内している。	
20	418	寺内寿一軍司令官 山下奉文旅団長 河辺正三参謀副長 牟田口廉也連隊長らと万寿山の今井			1937	昭和	12	10	20	写真	右より王蘭、飛松伸三副長(今井の陸士同期)、今井、牟田口廉也連隊長、河辺正三参謀副長、寺内寿一司令官、小野口旅団副官、山下奉文旅団長。今井は案内係。於万寿山。	
20	536	寺内寿一司令官、山下奉文旅団長、河辺正三参謀副長、牟田口廉也連隊長らを万寿山に案内する今井			1937	昭和	12	10	20	写真	今井は案内係。12枚。20-418関連。	
◎	◎				1937	昭和	12	10	23	◎		参謀本部部員(支那班長)

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
14	770	「今井武官 30日離任確定」			1937	昭和	12	10	24	新聞	14-717の10月24日に貼付。掲載紙不明。	
2	52	現代中華民国満州帝国人名鑑	外務省情報部		1937	昭和	12	10	25	書籍		
19	96	新倉鎮地図	参謀本部陸地測量部		1937	昭和	12	10	25	地図		
★	★				1937	昭和	12	10	26	☆		北平離任記念として天壇前で記念撮影 外国駐在武官に離任の挨拶 吉野弘之少佐に 経理を含めすべて引き継ぎ終わる
21	352	北平地方維持会長江朝宗と今井 北平離任記念写真			1937	昭和	12	10	26	写真	北平 天壇前にて。	
20	507	北平地方維持会長江朝宗と今井 離任記念写真			1937	昭和	12	10	26	写真	北平天壇前。	
20	56	江朝宗たちとの記念写真			1937	昭和	12	10	26	写真	駐在武官時代のものか。年月は推定。	
20	38	江朝宗	江朝宗		1937	昭和	12	10	26	写真	今井武官宛敬贈として自分のプロフィール写真。年月は推定。	
11	252	北平の天壇			1937	昭和	12	10	26	写真	何故か不明だが 11-251に挿入。年月は推定。	
★	★				1937	昭和	12	10	27	☆		午前 呉佩孚と会見 午後 家族とともに 北平警察部長 潘毓桂（はんいくけい）宅に帰国の挨拶
16	16	今井の妻と姪を連れて北平警察部長潘毓桂に帰国の挨拶の記念写真			1937	昭和	12	10	27	写真	妻今井きみ子と姪の太田敦子。潘毓桂のほか、外交委員会専員の林耕宇と何庭流も写真にあり。	
16	17	写真人物の名前記載	今井武夫		1937	昭和	12	10	27	書類	16-16の人物の11名の名前記載。	
★	★				1937	昭和	12	10	28	☆		北平駐在武官歓送迎会（今井 吉野弘之少佐）
20	410	北平駐在武官歓送迎会記念			1937	昭和	12	10	28	写真	今井と後任の吉野弘之少佐、中国人ほか全5名。	
★	★				1937	昭和	12	10	30	☆		天津で 野崎氏とともに曹汝林宅の送別宴今井と家族 北平を離れる
14	771	北平陸軍機関業務分担表			1937	昭和	12	10		書類	14-717に貼付。	
★	★				1937	昭和	12	11	1	☆		「長江丸」にて塘沽港出帆後 川島芳子などから歓送の電報を受け取る
★	★				1937	昭和	12	11	5	☆		今井一家 神戸港上陸
★	★				1937	昭和	12	11	9	☆		東京 参謀本部着任
★	★				1937	昭和	12	11	10	☆		閑院宮参謀総長に着任の挨拶
★	★				1937	昭和	12	11	11	☆	第二部長は本間雅晴。	参謀本部第二部長に 北支の状況につき報告・講話をなす（秩父宮殿下も台臨）

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
★	★				1937	昭和	12	11	16	☆	磯矢（伍郎）中佐は陸士29期。後に陸軍中将。	磯矢伍郎中佐と 近衛総理大臣邸に行き 磯矢中佐が兵站の状況につき講した後 北支の情勢を1時間半 閣僚及参議全員に対し講話し 作戦の終焉は事件の終結を意味せず 長日時にわたる対策を必要とし 中央政権の必要性を力説し 講話後永井柳太郎通相 末次信正参議 大谷尊由拓相から種々質問を受ける
◎	◎				1937	昭和	12	11	18	◎	大本営令 公示。	大本営陸軍参謀
9	71	湖南省総覧	神田正雄		1937	昭和	12	11	25	書籍	海外社。	
14	34	支那事変ノ発端ト共産党ノ関係ニ就テ	今井武夫		1937	昭和	12	11		報告書	陸軍野報に記載。大佐時代の鉛筆修正あり。支那班長としての講演内容と思われる。	
21	228	ハノイ、バンコック、カルカッタの地図	参謀本部陸地測量部		1937	昭和	12	11		地図		
20	414	大本営陸軍部			1937	昭和	12	11		写真		
21	350	船上の今井一家			1937	昭和	12	11		写真	北平から帰国時の写真か。姪の太田敦子もいる。年月は推定。	
★	★				1937	昭和	12	12	3	☆		青山学院長宅にて支那問題につき講演をする
★	★				1937	昭和	12	12	4	☆	出席者22名。	長野中学同級会に出席 久闊を叙す
20	92	料亭における写真			1937	昭和	12	12	4	写真	同級会か。軍服一人のみ。先生と思われる人を囲んで全23名。内女性3名。於料亭。年月は全くの推定。	
20	277	記念写真			1937	昭和	12	12	4	写真	長野中学の同級会か。全9名。軍服は今井のみ。年月日は推定。出席者は22名の筈だが。	
★	★				1937	昭和	12	12	6	☆		諜報及び謀略のため10日間予定の中国出張すべき訓令を受ける
★	★				1937	昭和	12	12	7	☆	原田は陸士22期。楠本は24期。	上海着 原田熊吉武官 楠本実隆大佐と連絡情報を交換
★	★				1937	昭和	12	12	8	☆		中井中佐と上海の豊田紡績被害状況を視察
★	★				1937	昭和	12	12	9	☆		午前中蘇州城外で支那方面軍参謀長塚田攻参謀長にあう。午后発熱中の松井岩根軍司令官と病床にて会見 15日より入場式を控えているので警戒を厳重にしている 武藤参謀副長と寒山寺に行く途中（西本願寺門主の）大谷光照と会う
★	★				1937	昭和	12	12	10	☆		斉藤良衛博士と国際法及び上海処理につき懇談 大谷光照と再度対面
●	●				1937	昭和	12	12	11	●		満州国 勲四等

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
19	58	今井武夫宛満州国叙勲「勲四等」通知書	張景恵	今井武夫	1937	昭和	12	12	11	勲章	康德4年。張は満州帝国首相。	
☆	☆				1937	昭和	12	12	11	☆		午後吉野駐在武官から北京の状況を聞く
☆	☆				1937	昭和	12	12	12	☆		大道市政府指導官 西村展蔵氏より市政府の状況を聴取その後 松本重治（同盟支局長）田尻愛義（大使館1等書記官）たちと会う
☆	☆				1937	昭和	12	12	13	☆		午後5時 飛行機で福岡に帰着
☆	☆				1937	昭和	12	12	16	☆		参謀本部長室にて上海視察の報告をなす
20	278	会合写真			1937	昭和	12	12		写真	今井が講師の懇話会か。全15名。半数軍人。同一2枚。年月は推定。	
21	199	南京占領後市内を通過中の日本軍			1937	昭和	12	12		写真	日付は全くの推定。	
14	8	住所録			1937	昭和	12			書類	戦前のもの。昭和12年頃のものか。年代は推定。	
14	36	対支政策の検討 目録	今井武夫		1937	昭和	12			論文	14箱-東6所収のファイル目録、陸軍野紙に記載。	
14	37	一. 所謂対支再認識論	今井武夫		1937	昭和	12			論文	陸軍野紙に記載。	
14	38	二. 支那統一と日本ノ関係	今井武夫		1937	昭和	12			論文	陸軍野紙に記載。	
14	39	三. 南京政府ノ対日政策	今井武夫		1937	昭和	12			論文	陸軍野紙に記載。	
14	40	四. 冀察政権ノ中央化	今井武夫		1937	昭和	12			論文	陸軍野紙に記載。	
14	41	五. 冀東政権ノ将来	今井武夫		1937	昭和	12			論文	陸軍野紙に記載。	
14	42	六. 対支戦争ノ危機	今井武夫		1937	昭和	12			論文	陸軍野紙に記載。	
14	43	七. 日支国交調整問題	今井武夫		1937	昭和	12			論文	陸軍野紙に記載。	
14	126	今井の写真入りポストカード			1937	昭和	12			絵葉書	駐在武官時代のものか。年代は完全に推定。	
19	52	今井と海軍将校			1937	昭和	12			写真	陸海軍の北平駐在武官か。葉書をかかえている。	
22	143	日中戦争時の絵葉書			1937	昭和	12			絵葉書	年代は推定。8枚。	
22	18	殷汝耕の肖像写真			1937	昭和	12			写真	軍服姿。年は推定。	
22	19	殷家一族の写真			1937	昭和	12			写真	幼児を含めて全23名。年は推定。	
9	66	北京に行った時どんなだったか	今井俊子		1937	昭和	12			書類	俊子（長女）7歳の作文。	
9	67	中国北平の小学校 俊子（長女）7歳の同級生32名の名簿			1937	昭和	12			名簿	保護者名と住所・本籍あり。保護者に松山良政、小沢開作（満州協和会、征爾の父）の名が見える。	
9	72	湖南省全図	海外社		1937	昭和	12			地図	湖南省総覽付図。9-71に挿入。年代は推定。	
21	189	上海戦線 焦土と化した松江の市外を進む長谷川部隊			1937	昭和	12			写真		

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
21	190	上海戦線 揚江鎮を占領後、更に前進せんとする日本部隊			1937	昭和	12			写真		
21	191	上海北停車場附近の敵主力に迫る陸戦隊装甲車の活躍			1937	昭和	12			写真		
21	192	上海戦線 公平路附近にて襲い来る敵戦車を迎え撃つ陸戦隊			1937	昭和	12			写真		
21	193	北支戦線 良郷县城の城壁より敵を攻撃する鈴木部隊			1937	昭和	12			写真		
21	194	北支戦線 涿州攻略戦における小林部隊の重機隊			1937	昭和	12			写真		
21	195	北支戦線 涿州入城一番乗りの遠山部隊			1937	昭和	12			写真		
21	196	北支戦線 広霊場内の残敵掃討中の平岩部隊			1937	昭和	12			写真		
21	197	北支戦線 敵を追い娘子関の嶮にいどむ小林部隊			1937	昭和	12			写真		
21	198	秦淮河を渡り南京城中華門より入城せんとする日本軍			1937	昭和	12			写真		
20	279	無蓋車に乗る今井と外2名			1937	昭和	12			写真	3名とも頬かむりしている。	
1006		任援道、今井、吉野副官、江朝宗			1937	昭和	12			写真		
20	289	駅における日本将校たちと外人			1937	昭和	12			写真		
20	293	無蓋車に乗る日本人軍人			1937	昭和	12			写真	年は推定。	
19	331	東亜測量図	陸地測量部		1937	昭和	12			地図	1927年製版。37年改版。	
21	349	今井夫妻と 次男信夫 於北平			1937	昭和	12			写真		
20	393	無蓋貨車内			1937	昭和	12			写真	外国人武官たち。	
20	394	無蓋貨車内			1937	昭和	12			写真	外国人武官たちと今井。	
16	35	今井きみ子	赤藤純子		1937	昭和	12			写真	赤藤は赤藤庄次支那駐屯軍憲兵隊分隊長夫人。きみ子が北平時代仲良くしていた。年代は推定。赤藤分隊長の名前は11-180に出てくる。	
22	532	外人名刺名簿集			1937	昭和	12			名刺	北平駐在武官時代のものか。54名。年は推定。	
22	533	邦人名刺集 一			1937	昭和	12			名刺	北平駐在武官時代のもの。いろは順で「い」から「わ」まで。379名。年は推定。	
22	534	邦人名刺集 二			1937	昭和	12			名刺	いろは順で「か」から「お」まで。343名。影佐禎昭から帝國新報社の紹介文もあり。「満州国軍政部囑託」の永田美耶子の名刺あり。年は推定。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
22	535	邦人名刺集 三			1937	昭和	12			名刺	いろは順で「く」から「ゆ」まで。410名。松岡満鉄総裁、船津辰一郎在華日本紡績同業界専務理事の名刺あり。北平駐在武官小別當惣三の名刺あり。小泉又次郎、小泉純也の名刺あり。年は推定。	
22	536	邦人名刺集 四			1937	昭和	12			名刺	いろは順で「み」から「す」まで。208名。崇貞学園経営者清水安三、報知新聞政治部百武末義の名刺あり。年は推定。	
22	537	支那人名簿 一			1937	昭和	12			名刺	北平駐在武官時代のもの。いろは順で「い」から「よ」まで。371名。13-78参照。年は推定。	
22	538	支那人名簿 二			1937	昭和	12			名刺	北平駐在武官時代のもの。いろは順で「た」から「す」まで。225名。呉佩孚、蕭振瀛、秦徳純の名刺あり。13-78参照。年は推定。	
20	399	支那駐屯軍将校			1937	昭和	12			写真	閑院宮、杉山元大将ほか約200名。今井は中佐。撮影時期は昭和12年末か13年初め。年は推定。	
20	400	将校写真の説明			1937	昭和	12			書類	20-399の将校の名前と階級説明。約200名。年は推定。	
20	420	将校の写真説明			1937	昭和	12			書類	20-419の将校の名前と階級説明。約200名。年は推定。	
19	1	盧溝橋			1937	昭和	12			写真	年は推定。	
20	185	中国41軍83師の抗日スローガン写真			1937	昭和	12			写真	年度は全くの推定。	
12	237	第2軍司令官東久邇稔彦王殿下			1937	昭和	12			写真		
12	239	第29軍顧問桜井徳太郎中佐と歩兵第1連隊長牟田口廉也大佐			1937	昭和	12			写真		
12	247	支那駐屯軍司令官香月清司中将			1937	昭和	12			写真		
12	254	第16師団長中島今朝吾中将			1937	昭和	12			写真		
12	298	支那事変初期の重機隊			1937	昭和	12			写真		
20	545	線路沿いの軍人たち			1937	昭和	12			写真	裏にフランス語らしきもののメモあり。年は推定。	
3	134	北平における集まりか、村上ほか、軍服姿の今井			1937	昭和	12			写真	村上は村上知行のことか。年は推定。	
20	335	突撃する坪島部隊	中支軍報道部写真部		1937	昭和	12			写真	於新市南方約5里。坪島文雄歩兵13連隊長の部隊か。年は推定。	
20	330	山砲隊			1937	昭和	12			写真	岳州にて。説明文20-333。年は推定。	
20	331	上海租界			1937	昭和	12			写真	上海租界の警戒パトロール。説明文20-333。年は推定。	
20	334	上海の英国警備兵			1937	昭和	12			写真	於上海大西路。年は推定。	
20	332	中国女性たち			1937	昭和	12			写真	クリークで管衣更（洗濯？）の準備。説明文20-333。年は推定。	
20	333	写真説明文			1937	昭和	12			書類	同一2枚あり。20-330～332の説明文。同一封筒に挿入。年は推定。	
20	336	中国農村女性	中支軍報道部写真部		1937	昭和	12			写真	於新市南方約5里。年は推定。	
3	135	北平駐在武官当時の今井			1937	昭和	12			写真	戦後テレビ出演した時のテレビ放映写真か。	
13	79	日本人リスト	今井武夫		1937	昭和	12			名簿	日本人12名の住所と名前のリスト。13-78に挿入。年は推定。	
20	167	将校			1937	昭和	12			写真	香月清司中将ほかか。年は推定、	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
14	675a	「絶大の信頼受ける 北支の四武官 上」			1937	昭和	12			新聞	新聞切抜。今井に関する記載あり。掲載紙不明。	
14	675b	「絶大の信頼受ける 北支の四武官 下」			1937	昭和	12			新聞	新聞切抜。今井に関する記載あり。掲載紙不明。	
★	★				1937	昭和	13	1	20	☆		漢口及び広東攻略につき参謀本部第2課と比較研究を行う
14	716	今井武夫 支那事変手記	今井武夫		1938	昭和	13	1	21	日記	5月19日迄。一部は陸軍紙に記載。14-717の続き。	
3	108	聴取無線電話（ラジオ）施設許可書	東京都市通信局長		1938	昭和	13	1	22	書類	施設者今井。	
20	60	今井の長野での講演記念	上水内郡連合青年団		1938	昭和	13	1	23	写真	長野県上水内郡連合青年団主催講演会における今井中佐と土屋佳一在郷軍人分会長を囲んだ記念写真。柿沢勇太郎、今井信頼ほか。於上水内吉田農学校（現在の長野吉田高校）。全32名。	
20	564	今井の長野での講演記念 写真説明	今井良雄		1937	昭和	13	1	23	書類	20-60の説明。平成21年9月今井良雄の手紙による写真32名のうち27名の説明。2枚。複写	
4	122	民族日本歴史 建国編	白柳秀湖		1938	昭和	13	2	8	書籍	千倉書房。	
4	55	民族日本歴史 封建編	白柳秀湖		1938	昭和	13	2	8	書籍	8版。千倉書房。	
4	56	民族日本歴史 戦国編	白柳秀湖		1938	昭和	13	2	8	書籍	千倉書房。	
4	57	民族日本歴史 近世編	白柳秀湖		1938	昭和	13	2	8	書籍	千倉書房。	
4	115	民族日本歴史 王朝編	白柳秀湖		1938	昭和	13	2	8	書籍	千倉書房。	
★	★				1938	昭和	13	2		☆		影佐の紹介で 築地の小松旅館で董道寧（前国民政府外交部亜洲司日本科長）と会う
★	★				1938	昭和	13	2	28	☆		多田駿次長 本間雅晴部長らとともに 董道寧と日中和平につき会談（影佐禎昭の紹介） 2月末
14	421	維新政府並中支諸省一覧表 其一	参謀本部第2部		1938	昭和	13	3	1	書類		
14	422	維新政府並中支諸省一覧表 其二	参謀本部第2部		1938	昭和	13	3	1	書類		
21	24	大谷照乗書簡	大谷照乗	今井武夫	1938	昭和	13	3	8	書簡	昭和13年か14年の手紙。年は推定。大谷は西本願寺連枝。目黒区上目黒の今井中佐宛となっている。かつて北平で世話になったことに対するお礼。西本願寺の法主も感謝している。	
19	22	青島經由上海行きときの写真			1938	昭和	13	3	11	写真	於南苑。	
5	1	外遊日記 世界の顔	鳩山一郎		1938	昭和	13	3	21	書籍	再版。中央公論社。	
8	1	支那の歴史	星一		1938	昭和	13	3	25	書籍	星同窓会。	
20	42	王克敏	王克敏		1938	昭和	13	3		写真	今井中佐 班長宛恵存として 王自身のプロフィール写真。王 この時 63歳。於北平。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
22	15	惜陰居士手写本 維摩詰所説経	譚澤闈		1938	昭和	13	3		冊子	戊寅3月とあるから 1878年か1938年か。年は推定。	
18	426	潞安城壁上にて			1938	昭和	13	4	1	写真		
4	49	続 支那漫談	村松梢風		1938	昭和	13	4	20	書籍	改造社。	
15	26	中華民国臨時政府 王行政院長訪日記念			1938	昭和	13	5	1	冊子	王克敏院長 5月1日～8日東京訪問。日付は推定。	
21	308	小川平吉関係文書	小川平吉文書研究会		1938	昭和	13	5	10	日記	『小川平吉日記』の5月10日から11月5日までの部分の複写。380頁～423頁まで。22枚。近衛公と日中和平工作につき記載。昭和48年複写したもの。みすず書房。小川は長野県諏訪出身。元鉄道相。宮沢喜一の外祖父。小川は萱野長知と組んで和平工作を行なった。	
4	60	為政三部書 原名「三事（廟堂、風憲、牧民）忠告」	安岡正篤		1938	昭和	13	5	10	書籍	玄黄社。	
14	717	今井武夫 支那事変手記	今井武夫		1938	昭和	13	5	20	日記	1938年5月23日迄の3日間。陸軍野戦紙に記載。14-716の続き。1枚。表裏記載。離脱したもの。この続きが14-286。	
★	★				1938	昭和	13	5	20	☆		善隣協会の蒙古に関する講話を聴取
★	★				1938	昭和	13	5	21	☆		日本文化協会の北支訪日婦女団招待宴に列席（於高島屋）
★	★				1938	昭和	13	5	23	☆		青島処理問題につき陸海軍との交渉 坂田中佐から 満洲・支那視察に関する報告を聞く
21	125	阿部義宗書簡	阿部義宗	今井武夫	1938	昭和	13	5	24	書簡	阿部は第6代青山学院院長。昨日の来駕と高話に対する礼状。今井が大佐時代のもの。年は推定。	
14	286	今井武夫 支那事変手記	今井武夫		1938	昭和	13	5	24	日記	1939年8月3日迄。14-717の5月20日～23日の続き。6月4日から6月8日なし。この続きが14-288。「汪兆銘工作」。「余漢謀工作」。張鼓峰事件について記載あり。	
19	77	亜細亜地図	大日本帝国陸地測量部		1938	昭和	13	5	30	地図		
13	16	横尾翠田書簡	横尾翠田	今井武夫	1938	昭和	13	6	5	書簡	多田（駿）閣下から所望の良寛像描けたので持参するが同行しないかとの誘い。横尾翠田は 今井の長野中学卒業以来の友人で画家（後の横尾深林人）。戦時中のものか。東京都目黒区上目黒6丁目今井宛葉書。年は推定。	
14	57	今井武夫 支那事変手記	今井武夫		1938	昭和	13	6	7	日記	6月9日迄3日間。6月9日から遡及した日付で記載。唐紹儀工作について。陸軍野戦紙に記載。年代は推定。14-286の一部か。	
13	119	パスポート	外務省		1938	昭和	13	6	9	書類	「佐藤正名義」の今井の偽名パスポート。外務大臣宇垣一成。香港行き。昭和14年5月2日にも同じ名義のパスポート13-120が発行されている。	
★	★				1938	昭和	13	6		☆		広東軍 軍長余漢謀が 日本軍に使者を派遣してきたので 連絡員として 上海の顧宮寛博士と朝鮮人の林誠を派遣

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
★	★				1938	昭和	13	6	17	☆		余漢謀に対する連絡工作の真価を測定する必要もあり 中支那派遣軍参謀の高橋坦大佐に同行して満鉄囑託「佐藤正」と仮称して「箱根丸」で香港に赴く 松本重治 伊藤芳男を交えて 高宗武に来日を勧告
8	42	対支経済政策成基本問題	斉藤良衛		1938	昭和	13	6	20	書籍	非売品。	
14	685	「事変一年 1」			1938	昭和	13	6	20	新聞	新聞切抜。今井について記載あり。このシリーズ切抜は14-26に挿入。掲載紙不明。	
14	686	「事変一年 2」			1938	昭和	13	6	21	新聞	新聞切抜。掲載紙不明。	
14	687	「事変一年 3」			1938	昭和	13	6	22	新聞	新聞切抜。掲載紙不明。	
14	688	「事変一年 4」			1938	昭和	13	6	23	新聞	新聞切抜。掲載紙不明。	
★	★				1938	昭和	13	6	24	☆	中村は緒方貞子の父。	孔祥熙の秘書喬輔三を通じた和平交渉で 中村豊一総領事から相談を受ける（於香港）
14	689	「事変一年 5」			1938	昭和	13	6	24	新聞	新聞切抜。掲載紙不明。	
14	690	「事変一年 6」			1938	昭和	13	6	25	新聞	新聞切抜。掲載紙不明。	
14	691	「事変一年 7」			1938	昭和	13	6	26	新聞	新聞切抜。掲載紙不明。	
14	692	「事変一年 8」			1938	昭和	13	6	27	新聞	新聞切抜。掲載紙不明。	
14	693	「事変一年 9」			1938	昭和	13	6	28	新聞	新聞切抜。掲載紙不明。	
14	694	「事変一年 10」			1938	昭和	13	6	29	新聞	新聞切抜。掲載紙不明。	
14	695	「事変一年 11」			1938	昭和	13	6	30	新聞	新聞切抜。掲載紙不明。	
12	165	中国共産党1937年史	外務省情報部		1938	昭和	13	6		書類	127～128頁複写。「合作いよいよ成立す」	
14	696	「事変一年 12」			1938	昭和	13	7	1	新聞	新聞切抜。掲載紙不明。	
★	★				1938	昭和	13	7	1	☆		余漢謀との連絡を 上海福民病院院長の頼宮寛博士にまかせ 高橋坦大佐とともに香港を去り上海着 東和洋行に落ち着く
14	697	「事変一年 13」			1938	昭和	13	7	2	新聞	新聞切抜。掲載紙不明。	
★	★				1938	昭和	13	7	2	☆		和智大佐 松本重治氏と上海から飛行機にて福岡着 博多から列車にて下関に向かう
★	★				1938	昭和	13	7	3	☆		午前松本重治氏と懇談 下関から列車にて東京に帰る
14	698	「事変一年 14」			1938	昭和	13	7	3	新聞	新聞切抜。掲載紙不明。	
★					1938	昭和	13	7	4	☆		岡村中将を偕行社に訪問
14	699	「事変一年 15」			1938	昭和	13	7	4	新聞	新聞切抜。掲載紙不明。	
★	★				1938	昭和	13	7	5	☆		土肥原中将を東京駅に出迎え 偕行社に訪問
14	700	「事変一年 完」			1938	昭和	13	7	5	新聞	新聞切抜。掲載紙不明。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
★	★				1938	昭和	13	7	6	☆		高宗武と 宿舍の「花蝶」で会談 高は盧溝橋事件は中国共産党の陰謀に違いないと語る
★	★				1938	昭和	13	7	6	☆		新愛知新聞社のインタビューを受ける（於 上目黒7丁目の自宅）
3	21	「臨時増刊 支那事変一年史」	文藝春秋社		1938	昭和	13	7	10	雑誌	「話」 6巻8号 事変一年史 今井 「盧溝橋事件勃発の真相」と目次にあるが 35～60頁が切り取られており、12-38に切り取り部分あり。	
3	22	支那事変並に国内・国際情勢一年間早わかり表	文藝春秋社		1938	昭和	13	7	10	書類	「話」 6巻8号 臨時増刊・特別付録、事変一年史。3-21に挿入。自昭和12年7月1日～至昭和13年6月7日。	
12	38	今井「盧溝橋事件勃発の真相」 桜井徳太郎「北京公安門決死の調停」	文藝春秋社		1938	昭和	13	7	10	雑誌	「話」 6巻8号 事変一年史 「臨時増刊 支那事変一年史」。 「事変勃発に至る半年間の支那全面的抗日暴状」 3-21の雑誌 「話」 35～50頁の切抜。	
11	42	橘善守 「通州惨劇とその前後」	文藝春秋社		1938	昭和	13	7	10	雑誌	3-21の雑誌 「話」 6巻8号 事変一年史。51～60頁の切抜。橘は前東日天津支局長誌。	
14	113	支那事変前後方策	大谷光瑞		1938	昭和	13	7	25	書類		
14	110	支那行政区域首都考	大谷光瑞		1938	昭和	13	7	30	書類	支那事変後の首都をどこにするかを論じている。	
14	112	支那行政区域首都考	大谷光瑞		1938	昭和	13	7	30	書類	支那事変後の首都をどこにするかを論じている。14-110と重複か。	
★	★				1938	昭和	13	8	3	☆		陸軍省軍務局附 兼務
14	760	「河北省銀行に関する管理委員会の策動」			1938	昭和	13	8	30	新聞	14-717の8月30日に貼付。新聞切抜。掲載紙不明。	
★	★				1938	昭和	13	8		☆		大雨のため 天津に出張し 軍兵 站倉庫の浸水状況を視察する
14	419	臨時政府及維新政府組織大綱	参謀本部第二部		1938	昭和	13	9	1	書類	『支那事変の回想』281頁～282頁に記載あり。	
14	420	臨時政府並北支諸省一覧表	参謀本部第二部		1938	昭和	13	9	1	書類		
14	423	対支謀略現況表	参謀本部第二部		1938	昭和	13	9	3	書類	①甲集団（北支那方面軍）工作は呉佩孚利用と紅槍会を利用、②伊集団工作（中支那派遣軍）は西南政府樹立と唐紹儀利用、③和知工作についての概況。	
14	424	土肥原機関工作			1938	昭和	13	9	6	書類	14-423に関連。	
22	483	日本赤十字社社令ほか	日本赤十字社		1938	昭和	13	9	9	書類	定款・社員心得等1枚の紙に記載あり。	
22	484	注意書	日本赤十字社		1938	昭和	13	9	9	書類		
13	128	今井武夫日記	今井武夫		1938	昭和	13	9	10	日記	9月17日迄。13-127に紛れ込んでいたもの。2枚。	
★	★				1938	昭和	13	9	30	☆	於東京芝公園紅葉館。	蒙古連盟自治政府 訪日視察団歓迎会に出席
20	99	蒙古連盟自治政府訪日視察団歓迎会			1938	昭和	13	9	30	写真	於東京芝公園紅葉館。三井・三菱・大倉3社主催。	
14	412	昭和維新方略			1938	昭和	13	9		書類	陸軍野紙に記載。	
●	●				1938	昭和	13	10	1	●		蒙古軍武功章

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
22	520	今井武夫宛蒙古軍武功章証書	徳王	今井武夫	1938	昭和	13	10	1	勲章	成吉思汗733年。訳文添付ある。蒙古語で日付記載か。徳王は蒙古連盟自治政府首席。モンゴル語で記載。このとき銀のタバコケースをもらっている。日付は推定。	
14	380	高工作概況	大本営陸軍部第八課		1938	昭和	13	10	1	書類	陸軍野紙に記載。実質7枚。	
14	381	土肥原賢二中将ニ與フル指示案			1938	昭和	13	10	1	書類	土肥原賢二は1936年3月から41年3月まで中将。陸軍野紙に記載。年月日は推定。各工作費用について記載あり。土肥原賢二機関の予算が書いてある。全800万円。	
★	★				1938	昭和	13	10	2	☆		帰朝以来 「対支院」問題で 陸軍省と正面衝突し 疲労を覚え一日静養
14	443	カトウノボル宛電報	トング	カトウノボル	1938	昭和	13	10	5	電報	上海のトングからのもの。トングは上海の福民医院長頓宮寛（とんぐゆたか）博士のこと。20-308参照。余漢謀工作のことか。	
◎	◎				1938	昭和	13	10	6	◎		大本営陸軍報道部員兼務
14	414	特号 四川合作要領	中支軍参謀部第2課		1938	昭和	13	10	7	書類		
★	★				1938	昭和	13	10	12	☆		土肥原賢二中将を補佐し 高宗武工作のため 中国出張の訓令を受ける
★	★				1938	昭和	13	10	15	☆		高宗武 梅思平との連絡のため上海に出張
14	433	中堅軍官ノ反蔣反共救国運動	中支那派遣軍司令部		1938	昭和	13	10	16	書類	陸軍野紙に記載。	
★	★				1938	昭和	13	10	17	☆		香港から上海にいる今井を訪ねて伊藤芳男が来て 高宗武工作につき 伊藤から話を聞く 西村展蔵の来訪を受け反蔣介石独立運動に関し報告を受ける 頓宮寛博士及び林越の余漢謀工作の実情も聞く
8	40	蒙古大観 昭和十三年版	善隣協会		1938	昭和	13	10	20	書籍	改造社。	
14	302	謀略実施要領	土肥原機関		1938	昭和	13	10	20	書類	陸軍野紙に記載。14-301に関連。「高宗武利用工作ニ関スル概況」の1頁めが抜けている。14-313、14-427に1頁めあり。14-426に同じ。	
14	426	謀略実施要領	土肥原機関		1938	昭和	13	10	20	書類	陸軍野紙に記載。14-302に同じ。	
14	301	謀略実施の概況	今井武夫		1938	昭和	13	10	21	書類	陸軍野紙に記載。土肥原機関7月15日策定謀略実施計画の現状。	
14	425	謀略実施の概況	今井武夫		1938	昭和	13	10	21	書類	陸軍野紙に記載。14-301に同じ。	
14	303	盛文頤ヲ通スル余漢謀独立工作	土肥原機関		1938	昭和	13	10	21	書類	陸軍野紙に記載。14-301に関連。余漢謀に対し「日本側と諒解つきあるも反蔣独立の準準ありや」の照会を行なう。盛文頤は盛宣懐の甥。	
14	442	盛文頤ヲ通スル余漢謀独立工作			1938	昭和	13	10	21	書類	陸軍野紙に記載。14-303に同じ。盛文頤は盛宣懐の甥。	
14	305	呉佩孚及靳雲鵬等新中央政權樹立工作			1938	昭和	13	10	21	書類	陸軍野紙に記載。14-301に関連。14-415に同じ。『支那事変の回想』284頁に記載あり。	
14	415	呉佩孚及靳雲鵬等新中央政權樹立工作			1938	昭和	13	10	21	書類	陸軍野紙に記載。14-301に関連。14-305と同じ。	
14	313	高宗武利用工作の概況			1938	昭和	13	10	21	書類	陸軍野紙に記載。14-427に同じ。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
14	427	高宗武利用工作の概況			1938	昭和	13	10	21	書類	陸軍野紙に記載。14-313に同じ。	
14	416	支那青年層獲得工作			1938	昭和	13	10	21	書類	陸軍野紙に記載。14-301に関連。14-304と同じ。	
14	304	支那青年層獲得工作			1938	昭和	13	10	21	書類	陸軍野紙に記載。14-301に関連。14-416に同じ	
14	438	林諷を通スル対余漢謀工作			1938	昭和	13	10	21	書類	陸軍野紙に記載。担当として高橋大佐、今井中佐の記載あり。林は朝鮮人。『支那事変の回想』264頁～265頁に記載あり。	
14	440	林諷を通スル対余漢謀工作			1938	昭和	13	10	21	書類	陸軍野紙に記載。担当として高橋大佐、今井中佐の記載あり。林は朝鮮人。14-438に同じ。	
14	439	唐紹儀遺營ヲ利用スル計画			1938	昭和	13	10	21	書類	14-438の末尾にあり。	
14	441	唐紹儀遺營ヲ利用スル計画			1938	昭和	13	10	21	書類	14-440の末尾にあり。14-439に同じ。	
14	417	次長宛電報	甲集団参謀長	次長	1938	昭和	13	10	22	電報	甲集団とは北支那方面軍の通称。	
14	436	広東工作の概況	中支那派遣軍司令部		1938	昭和	13	10	22	書類	陸軍野紙に記載。都甲休（とごうきたる）中佐の印あり。	
★	★				1938	昭和	13	10	25	☆		上海から帰京
★	★				1938	昭和	13	10	27	☆		板垣征四郎陸相と多田駿参謀次長ほかに対し 高宗武工作を建議
14	309	次官 次長宛電報	伊集団特務部長	次長	1938	昭和	13	10	27	電報	168号。土肥原中将への伝達事項。広東、漢口陥落後、戦争の大勢既に決した。周作民戦後の準備をしている。「伊集団」は中支那派遣軍。	
★	★				1938	昭和	13	10	28	☆		秩父宮から和平工作につき説明を求められる
14	50	声明案			1938	昭和	13	10		書類	広東、武漢三鎮を攻略して支那の要域を裁定した声明案。年代は推定。	
14	106	三木清氏述 支那事変の世界史的意義	昭和研究会事務局		1938	昭和	13	10		書類		
20	162	上海にて今井ほか4名	西田		1938	昭和	13	10		写真		
20	306	余漢謀			1938	昭和	13	10		写真	余漢謀広東第四路総司令。年月は推定。	
14	308	次官 次長宛電報	台湾軍参謀長	次長	1938	昭和	13	11	3	電報	602号。重慶政府外交部顧問より得た講和条件の腹案。	
10	108	「首相・世界に告ぐ 真の戦は今はじまれり 防共緊密世界秩序再建に邁進」	朝日新聞社		1938	昭和	13	11	4	新聞	朝日新聞。第2次近衛声明。新聞切抜。	
10	109	「1月声明に反せず 新秩序の意義重大」	朝日新聞社		1938	昭和	13	11	4	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
14	445	今井武夫宛電報	晴気慶胤	今井武夫	1938	昭和	13	11	4	電報	土肥原機関の晴気少佐より、余漢謀工作について今井中佐宛連絡。『支那事変の回想』285頁に記載あり。原電号外四号。	
★	★				1938	昭和	13	11	6	☆		香港から 今井宛に梅思平 周隆祥 前後して上海に到着する旨の入電あり
2	18	天孫民族と神選民族	酒井勝軍		1938	昭和	13	11	7	書籍	神秘之日本社。酒井は「酒井勝軍君の渡米苦学実話」で知られている。	
★	★				1938	昭和	13	11	9	☆		伊藤芳男 西義頭と3人で 上海へ向かう 既に周隆祥 上海に到着済み

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
★	★				1938	昭和	13	11	10	☆	盛は元鉄道部秘書。元鉄道部財務司長の張競立の甥。日本の帝大出身。経済鉄道管理委員会委員でもある。	上海の樊光の家で 樊光 褚民誼 盛沛東 及び冀南大学総長崔士桀とともに 日中和平問題を討議
★	★				1938	昭和	13	11	12	☆	於六三亭花園。	伊藤芳男を入れて 梅思平 周隆祥と 今井武夫と 4人で上海会談
14	306	香港 石野芳男大佐宛電報 (案)	庶務課長	石野芳男大佐	1938	昭和	13	11	12	電報	大本営陸軍部野紙に記載。「伊藤氏来滬の件」。「今井中佐より一田中佐へ。伊藤氏へ伝えられたし」とある。伊藤は伊藤芳男か。一田は一田次郎梅機関員。西義顕宛の伝言。日付は推定。滬は上海のこと。	
14	328	停戦許容条件			1938	昭和	13	11	12	書類	30部のうちの21号。別紙を含めて6枚。	
★	★				1938	昭和	13	11	13	☆		15日まで3日間 上海重光堂での予備会談 今井武夫 伊藤芳男 高宗武 梅思平 周隆祥
3	128	上海重光堂にて今井 周隆祥 高宗武 梅思平 重光堂予備会談			1938	昭和	13	11	13	写真	左より周隆祥、高宗武、今井、梅思平。日付は15日になっているが、13日の間違いか。『支那事変の回想』に写真あり。	
21	348	上海重光堂における高宗武、梅思平、周隆祥			1938	昭和	13	11	13	写真		
14	307	今井武夫宛電報	西義顕	今井武夫	1938	昭和	13	11	13	電報	返事は明日する。	
14	312	高宗武工作の現況	今井武夫		1938	昭和	13	11	13	報告書	14-314の原稿か。大本営陸軍部野紙に記載。18枚。	
14	444	今井中佐宛電報	カワヂ モリマサ	今井中佐	1938	昭和	13	11	13	電報	上海にいる今井宛のもの。	
★	★				1938	昭和	13	11	15	☆	『支那事変の回想』79頁では作戦課長は武藤章となっているがこれは間違いで、稲田正純と思われる。	帰国して 板垣征四郎陸軍大臣 東条英機陸軍次官 多田駿参謀次長に重光堂予備会談結果を報告その後 研究懇談会 陸軍省 軍事課長 田中新一 軍務課長 影佐禎昭 参謀本部 作戦課長 稲田正純たち十名等 汪工作推進を決定
14	128	渡辺工作の現況	今井武夫		1938	昭和	13	11	15	報告書	今井は中佐。高宗武のことを渡辺と仮称。『支那事変の回想』287頁～293頁に記載あり。この頃は 広西 広東 雲南 四川の四省を区域とする。日本軍が占領していない雲南並びに四川に独立政府をつくり 5～10個師の軍隊を編成する予定であった。	
14	314	渡辺工作の現況	今井武夫		1938	昭和	13	11	15	報告書	今井は中佐。高宗武のことを渡辺と仮称。15部作ったものの原紙か。	
★	★				1938	昭和	13	11	16	☆		犬養健、伊藤芳男と東京で打ち合わせ
★	★				1938	昭和	13	11	18	☆		羽田発の飛行機で参謀本部代表の今井と陸軍省代表の影佐禎昭が正式交渉に派遣されて上海に向かう西義顕、伊藤芳男のほか犬養健代議士も加わり同行
16	27	霊峰富士山	今井武夫		1938	昭和	13	11	18	写真	汪兆銘工作に中国に向うとき富士の姿を見て幸先がよいと感じた、という。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
20	405	霊峰富士山	今井武夫		1938	昭和	13	11	18	写真	年月日付は推定。	
★	★				1938	昭和	13	11	19	☆		上海の重光堂（上海新公園北側東体育会館7号の空き家）に今井たち一行到着 東和洋行に宿泊
★	★				1938	昭和	13	11	20	☆		上海重光堂会談（影佐禎昭、今井、高宗武、梅思平 通訳 周隆岸）日華協議記録調印
14	130	日華協議記録			1938	昭和	13	11	20	書類	和平条件は中国の主権の尊重、租界の返還、不平等条約の撤回等を主とするもの。『支那事変の回想』80～81頁に記載あり。	
14	325	日華協議記録			1938	昭和	13	11	20	書類	「日支」が「日華」に、「支那」が「中国」に変更してある。陸軍野紙に記載。4枚。	
14	131	日華協議記録諒解事項			1938	昭和	13	11	20	書類	（日本側）影佐、今井（中国側）高、梅調印内容。14-128に添付。『支那事変の回想』81頁に記載あり。	
14	326	日華協議記録諒解事項			1938	昭和	13	11	20	書類	「日支」が「日華」に、「支那」が「中国」に変更してある。陸軍野紙に記載。1枚。	
14	132	日華秘密協議記録			1938	昭和	13	11	20	書類	（日本側）影佐、今井（中国側）高、梅調印内容。14-128に添付。『支那事変の回想』81～82頁に記載あり。	
14	327	日華秘密協議記録			1938	昭和	13	11	20	書類	「日支」が「日華」に、「支那」が「中国」に変更してある。陸軍野紙に記載。1枚。	
14	316	日支協議記録	今井武夫		1938	昭和	13	11	20	会議録	陸軍野紙に記載。印刷前の原稿。11月20日の記録。	
14	317	日支秘密協議記録	今井武夫		1938	昭和	13	11	20	会議録	陸軍野紙に記載。印刷前の原稿。	
14	318	日支秘密協議記録案	今井武夫		1938	昭和	13	11	20	会議録	印刷済み。	
14	329	日支協議記録案			1938	昭和	13	11	20	書類	年代は推定。20部のうちの4号。4枚。	
14	330	日支両国東亜ノ新秩序ヲ建設スルタメノ諸条件			1938	昭和	13	11	20	書類	表題なし。年代は推定。20部の内4号。3枚。	
14	331	日華協議記録			1938	昭和	13	11	20	書類	正式なものと思われる。和平条件は中国の主権の尊重、租界の返還、不平等条約の撤回等を主とするもの。4枚。	
14	332	日華協議記録諒解事項			1938	昭和	13	11	20	書類	正式なものと思われる。和平条件は中国の主権の尊重、租界の返還、不平等条約の撤回等を主とするもの。1枚。	
14	333	日華秘密協議記録			1938	昭和	13	11	20	書類	正式なものと思われる。2枚。	
★	★				1938	昭和	13	11	21	☆		帰京し 影佐とともに 板垣陸相、多田参謀本部次長、土肥原中將ほか関係部課長に協議結果報告
14	129	渡辺工作の現況（第二号）	今井武夫		1938	昭和	13	11	21	報告書	今井は中佐。『支那事変の回想』293頁～298頁に記載あり。15部の内のゼロ号（番号なし）。	
14	315	渡辺工作の現況（第二号）	今井武夫		1938	昭和	13	11	21	報告書	14-129に同じ。	
★	★				1938	昭和	13	11	22	☆		板垣陸相 影佐大佐と今井を伴い 首相官邸の五章会議にのぞみ、高宗武工作の報告をなし 第三次首相声明発表を要求 秩父宮から和平工作につき質問を受ける
★	★				1938	昭和	13	11	23	☆		山王ホテルに滞在の中将を訪問して 中国に中央政府樹立工作に就き意見交換

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
★	★				1938	昭和	13	11	26	☆		上海に伊藤芳男とともに引き返し中国側から同意の回答を鶴首
★	★				1938	昭和	13	11	30	☆		御前会議で「日支新関係調整方針」を決定
14	311	御前会議決定 日支新関係調整方針			1938	昭和	13	11	30	書類	極秘。30部のうちの29号。華北・揚子江下流域等を特種地域とする。華北・内蒙の駐屯期限なし、撤兵の期限なしなど。御前会議で決定。『支那事変の回想』74頁に記載あり。別紙として「日支新関係調整要綱」及び「日支新関係ニ関スル原則大綱」が添付されている。	
14	311-1	日支新関係調整要綱			1938	昭和	13	11	30	書類	別紙。『支那事変の回想』74～75頁に記載あり。	
14	311-2	日支新関係ニ関スル原則大綱			1938	昭和	13	11	30	書類	別紙。	
14	310	傳式説等を中心とする新文化運動			1938	昭和	13	11		書類	傳式説は汪兆銘を支持した東大出身の上海大夏大学教授。梅思平の従兄弟、後の汪兆銘政権の行政院鉄道部長、防-6参照。在上海日本総領事館の罫紙に記載。年月は推定。梅、高、陶、周作民などの名前が見られる。	
14	319	声明案			1938	昭和	13	11		書類	陸軍罫紙に記載。第三次近衛声明の案か。	
14	320	外相声明案			1938	昭和	13	11		書類		
14	321	友邦四憶ノ兄弟ニ告グ			1938	昭和	13	11		書類	陸軍罫紙に記載。年月は推定。	
14	322	総理大臣談話			1938	昭和	13	11		書類	案文か。年月は推定。	
14	323	日支新関係ニ関スル原則			1938	昭和	13	11		書類	年月は推定。原稿に修正を施している。2枚。	
14	324	声明案			1938	昭和	13	11		書類	陸軍罫紙に記載。第3次近衛声明の第二次案か。3枚。	
14	334	声明案			1938	昭和	13	11		書類	年月は推定。4枚。	
14	335	声明案			1938	昭和	13	11		書類	陸軍罫紙に記載。年月は推定。高宗武等行動予定1枚添付。全4枚。	
14	336	日支交渉のメモ	今井武夫		1938	昭和	13	11		メモ	大本営陸軍部の罫紙に記載。4枚。	
14	337	日支新関係設定ノ為締結セラルヘキ事項			1938	昭和	13	11		書類	年月は推定。1枚。	
14	338	日支新関係調整ニ関スル原則			1938	昭和	13	11		書類	年月は推定。2枚。修正している。	
★	★				1938	昭和	13	12	3	☆		汪兆銘に動きがないため 参謀総長載仁親王宛 「進退伺い」を企案 入れ違いに汪兆銘から承諾の回答打電あり
★	★				1938	昭和	13	12	5	☆		上海で 維新政府代表梁鴻志と面談
3	41	皇戦	高嶋辰彦		1938	昭和	13	12	5	書籍	高嶋は今井の陸士同期生。戦争文化研究所。世界創造社発行。	
14	133	渡辺工作の現況（第三号）	今井武夫		1938	昭和	13	12	6	報告書	汪兆銘工作の開始。高宗武のことを渡辺と仮称。『支那事変の回想』298頁～299頁に記載あり。	
24	1	渡辺工作の現況（第三号及び第四号）	今井武夫		1938	昭和	13	12	6	報告書	24箱-束1所収のファイル。複写。	
24	4	渡辺工作の現況（第三号）	今井武夫		1938	昭和	13	12	6	報告書	汪兆銘工作の開始。高宗武のことを渡辺と仮称。オリジナルは14-133。複写。	
14	341	渡辺工作の現況（第三号）	今井武夫		1938	昭和	13	12	6	報告書	14-133と同じだが15部のうち第15号と書かれている。5枚。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
12	300	南京城占領			1938	昭和	13	12	11	写真		
★	★				1938	昭和	13	12	12	☆		汪兆銘工作のため 香港に翌年1月14日まで滞在
10	184	「軍事外交日益好転 委座表字前途樂觀」			1938	昭和	13	12	14	新聞	星島日報。新聞切抜。	
10	185	「周部長在演講演 抗戦前後之形勢」			1938	昭和	13	12	14	新聞	星島日報。新聞切抜。	
★	★				1938	昭和	13	12	21	☆		満鉄香港支社にて 高宗武と面談し 汪兆銘情報を聞く 田尻愛義総領事と西義頭陪席
10	112	「汪将赴歐訊」			1938	昭和	13	12	22	新聞	工商日報。新聞切抜。	
14	339	12月22日近衛声明			1938	昭和	13	12	22	書類	第三次近衛声明。2枚。『支那事変の回想』89頁から90頁に内容記載あり。	
10	110	「近衛首相、中外に声明 日支国交調整」	香港日報社		1938	昭和	13	12	23	新聞	香港日報 夕刊。第3次近衛声明。新聞切抜。	
10	111	「近衛発表狂妄声明」			1938	昭和	13	12	23	新聞	工商日報。新聞切抜。	
10	113	「汪副総裁 滬電證明確赴河内」			1938	昭和	13	12	23	新聞	大公晩報。新聞切抜。大公報は蒋介石系の中国中央機関紙である。	
10	319	「Japanese Terms for Ending War」			1938	昭和	13	12	23	新聞	Hong Kong Daily Press。新聞切抜。	
10	381	「日支国交調整の根幹 政府・画期的声明発表」	朝日新聞社		1938	昭和	13	12	23	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
10	382	「治法撤廃・租界返還」	朝日新聞社		1938	昭和	13	12	23	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
10	383	「近衛声明と各国の反響」	朝日新聞社		1938	昭和	13	12	23	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
10	114	「社論 侵略者の哀鳴」			1938	昭和	13	12	24	新聞	珠江日報。新聞切抜。	
10	115	「汪精衛的謎 和平空気が高一時」			1938	昭和	13	12	24	新聞	珠江日報。新聞切抜。	
10	116	「汪精衛 飛河内医 宿疾」			1938	昭和	13	12	24	新聞	星島日報。星島日報は蒋介石系ではなく傍系新聞。新聞切抜。	
10	117	「社評 論近衛対華新政策宣言」			1938	昭和	13	12	24	新聞	申報。申報は蒋介石系新聞。新聞切抜。	
10	118	「社論 近衛宣言與和平謠言 金仲華」			1938	昭和	13	12	24	新聞	星島日報。新聞切抜。	
10	119	「小評 汪精衛氏離滬赴越」			1938	昭和	13	12	24	新聞	申報。新聞切抜。	
10	124	「欣然同憂具眼の士を歓迎 中支派遣軍当局重大声明」			1938	昭和	13	12	24	新聞	香港日報。新聞切抜。	
10	320	「Policy Outlined Japanese demands on China made known by Japanese Premier」			1938	昭和	13	12	24	新聞	South China Morning Post。新聞切抜。	
10	384	「近衛声明の反響」	朝日新聞社		1938	昭和	13	12	24	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
10	385	「同志と益々結束」	朝日新聞社		1938	昭和	13	12	24	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
10	386	「汪兆銘重慶を去り突如仏印に飛来」	朝日新聞社		1938	昭和	13	12	24	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
10	387	「ニュース展望」	朝日新聞社		1938	昭和	13	12	24	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
10	120	「汪精衛已離国抵達海防 近衛对中国求和之表示」			1938	昭和	13	12	25	新聞	工商日報。新聞切抜。	
10	121	「星期專論 青年的主要責任 周佛海」			1938	昭和	13	12	25	新聞	南華日報。新聞切抜。主筆は汪派の林柏生。	
10	122	「伝汪精衛已抵本港」			1938	昭和	13	12	25	新聞	星島晚報。新聞切抜。	
10	123	「汪精衛並到港」			1938	昭和	13	12	25	新聞	華字晚報。新聞切抜。	
10	321	「Full Text of Konoye Offer Demands on China Uncompromisingly Rejected by Chinese Leader」			1938	昭和	13	12	25	新聞	Hong Kong Sunday Herald。新聞切抜。	
10	388	「果然・蔣政權に動揺」	朝日新聞社		1938	昭和	13	12	25	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
10	389	「汪兆銘・香港より外遊」	朝日新聞社		1938	昭和	13	12	25	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
10	390	「支国交調整の根幹 政府・画期的声明発表」	朝日新聞社		1938	昭和	13	12	25	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
10	391	「戦勝者・日本側から先ず和議提唱を 近衛声明に呉佩孚氏語る」	朝日新聞社		1938	昭和	13	12	25	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
10	392	「汪兆銘派の要人 辞表提出・重慶より総退却」	朝日新聞社		1938	昭和	13	12	25	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
10	125	「従重慶到河内」			1938	昭和	13	12	26	新聞	星島日報。新聞切抜。	
10	126	金仲華「社論 最近中樞之政治動態」			1938	昭和	13	12	26	新聞	星島日報。新聞切抜。	
10	127	「陳公博因病請暇」			1938	昭和	13	12	26	新聞	華字晚報。新聞切抜。	
10	128	「周佛海日内可到港」			1938	昭和	13	12	26	新聞	大公晚報。新聞切抜。	
10	129	「近衛的 鏡湖」			1938	昭和	13	12	26	新聞	星島晚報。新聞切抜。	
10	130	「周佛海将来港」			1938	昭和	13	12	26	新聞	華字晚報。新聞切抜。	
10	131	「汪精衛来港説不確」			1938	昭和	13	12	26	新聞	星島日報。新聞切抜。	
10	132	「小子何足道哉！」			1938	昭和	13	12	26	新聞	星島日報。新聞切抜。	
10	393	「興亜外交の一飛躍」	朝日新聞社		1938	昭和	13	12	26	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
10	133	「汪精衛並未抵港」			1938	昭和	13	12	27	新聞	申報。新聞切抜。	
10	134	「当局派王外長勸汪返渝養疴 否則留越静養」			1938	昭和	13	12	27	新聞	申報。新聞切抜。	
10	135	「小評 掃蕩 和平 空気」			1938	昭和	13	12	27	新聞	申報。新聞切抜。	
10	136	「短評 汪精衛返渝養疴」			1938	昭和	13	12	27	新聞	華字晚報。新聞切抜。	
10	137	「王外長勸汪返渝養疴」			1938	昭和	13	12	27	新聞	南中報。新聞切抜。	
10	138	「詩 ××雜詠 汪有出国訊」			1938	昭和	13	12	27	新聞	南中報。新聞切抜。	
10	139	「張君邁著論 攻毛沢東」			1938	昭和	13	12	27	新聞	華字晚報。新聞切抜。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
10	140	「陳公博亦抵河内」			1938	昭和	13	12	27	新聞	華字晩報。新聞切抜。	
10	141	「日本日暮途窮」			1938	昭和	13	12	27	新聞	大公晩報。新聞切抜。	
10	323	「Attempt at Political Dismemberment of China」			1938	昭和	13	12	27	新聞	Hong Kong Daily Press。新聞切抜。	
10	142	「汪到河内消息種々」			1938	昭和	13	12	28	新聞	探海灯日報。新聞切抜。	
10	143	「蔣委員長在紀念週中重要訓話 汪愛党国必貫澈抗戰目的」			1938	昭和	13	12	28	新聞	香港工商日報。新聞切抜。	
10	144	「汪精衛來港說 曾仲鳴氏偕行」			1938	昭和	13	12	28	新聞	申報。新聞切抜。	
10	145	「杜月笙等一行飛滇籌弁実業」			1938	昭和	13	12	28	新聞	申報。新聞切抜。	
10	146	「土肥原抵港？」			1938	昭和	13	12	28	新聞	申報。新聞切抜。	
10	147	「致毛沢東先生一封公開信 張君勳」			1938	昭和	13	12	28	新聞	申報。新聞切抜。	
10	148	「小評 日本对華南新陰謀」			1938	昭和	13	12	28	新聞	申報。新聞切抜。	
10	149	「張君勳先生的 規勸」			1938	昭和	13	12	28	新聞	申報。新聞切抜。	
10	150	「張君勳與共產党」			1938	昭和	13	12	28	新聞	探海灯日報。新聞切抜。	
10	151	馮列山「社論 汪精衛先生與抗戰」			1938	昭和	13	12	28	新聞	星島日報。新聞切抜。	
10	152	「時評 希望汪先生為国自重」			1938	昭和	13	12	28	新聞	大公晩報。新聞切抜。	
10	153	顧孟餘「辭職不確」			1938	昭和	13	12	28	新聞	香港朝報。新聞切抜。	
10	154	「土肥原忽抵港之謠」			1938	昭和	13	12	28	新聞	華字晩報。新聞切抜。	
10	155	「社論 抗戰国策沒有變更」			1938	昭和	13	12	28	新聞	大衆日報。新聞切抜。	
10	156	「土肥原南來」			1938	昭和	13	12	28	新聞	華字晩報。新聞切抜。	
10	157	「時評 關於汪副總裁離渝的話」			1938	昭和	13	12	28	新聞	香港朝報。新聞切抜。	
10	158	「伝汪去意堅決」			1938	昭和	13	12	28	新聞	星報。星報は蔣介石系ではなく傍系新聞。新聞切抜。	
10	159	「延安民衆召開 擁護蔣委員長大会」			1938	昭和	13	12	28	新聞	星報。新聞切抜。	
10	394	「支国交調整の根幹 政府・画期的声明発表」	朝日新聞社		1938	昭和	13	12	28	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
10	395	「蔣・汪兆銘脱出を釈明」	朝日新聞社		1938	昭和	13	12	28	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
10	396	「国共共同委員会 遂に設置に傾く 汪兆銘退去の一因」	朝日新聞社		1938	昭和	13	12	28	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
10	160	「蔣委員長紀念週訓話原文 詳細駁斥近衛之声明」			1938	昭和	13	12	29	新聞	大公報。新聞切抜。	
10	161	「社評 論汪精衛先生離渝」			1938	昭和	13	12	29	新聞	申報。新聞切抜。	
10	162	「社論 汪精衛先生病」			1938	昭和	13	12	29	新聞	華僑日報。新聞切抜。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
10	163	「渝各界昨蔣百里先生最高当局親臨主祭」			1938	昭和	13	12	29	新聞	大公報。新聞切抜。	
10	164	「譏汪精衛 今後汪氏行動不必加以注意」			1938	昭和	13	12	29	新聞	華僑日報。新聞切抜。	
10	165	「讓汪養病 微言」			1938	昭和	13	12	29	新聞	探海灯日報。新聞切抜。	
10	166	流沙「社論 三民主義與共產主義」			1938	昭和	13	12	29	新聞	南華日報。新聞切抜。「南華日報」の主筆林柏生は汪兆銘擁護の論陣を張った。	
10	167	「駐港汪系要人 否認汪氏抵港 汪将有意見発表」			1938	昭和	13	12	29	新聞	華字晚報新聞切抜。	
10	168	「重慶捜査捕反動份子」			1938	昭和	13	12	29	新聞	星報。新聞切抜。	
10	169	「汪副総裁 将有重要談話発表」			1938	昭和	13	12	29	新聞	循環晚報。新聞切抜。	
10	170	「汪精衛離渝後 抗戦前途反更抱樂觀」			1938	昭和	13	12	29	新聞	南中報。新聞切抜。	
10	171	「汪活動伝説多 今井御命南来」			1938	昭和	13	12	29	新聞	星報。新聞切抜。	
10	172	「社論 土肥原的活動」			1938	昭和	13	12	29	新聞	星報。新聞切抜。	
10	195	星報 昭和13年12月29日号			1938	昭和	13	12	29	新聞	10-171, 172が記載されたもの。	
10	397	「蔣政權と内部的情勢」	朝日新聞社		1938	昭和	13	12	29	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
10	398	「注目の汪兆銘 河内に滞在中か」	朝日新聞社		1938	昭和	13	12	29	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
10	399	「汪兆銘の重慶脱出 蔣と暗黙の了解か、釈明・外人側は信ぜず」	朝日新聞社		1938	昭和	13	12	29	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
10	173	「蔣委員長紀念週訓話原文(続) 詳細駁斥近衛之声明」			1938	昭和	13	12	30	新聞	大公報。新聞切抜。	
10	174	「陳公博 昨由河内飛抵港」			1938	昭和	13	12	30	新聞	星島日報。新聞切抜。	
10	175	「新華日報論 汪精衛出国」			1938	昭和	13	12	30	新聞	星島日報。新聞切抜。	
10	176	「陳医生夫婦 来港会汪精衛病」			1938	昭和	13	12	30	新聞	中国晚報。新聞切抜。	
10	177	「真相将明 汪精衛先生病」			1938	昭和	13	12	30	新聞	香港工商日報。新聞切抜。	
10	178	「汪精衛某信談 汪氏或将有宣言発表」			1938	昭和	13	12	30	新聞	循環晚報。新聞切抜。	
10	179	「社論 中国政府内部実無主和派」			1938	昭和	13	12	30	新聞	香港工商日報。新聞切抜。	
10	180	「社評 汪精衛先生病」			1938	昭和	13	12	30	新聞	大公報。新聞切抜。	
10	181	「時評 蔣委員長の訓詞」			1938	昭和	13	12	30	新聞	星島晚報。新聞切抜。	
10	182	「汪副総裁 将有文字発表」			1938	昭和	13	12	30	新聞	大公報。新聞切抜。艶電鋸。『支那事変の回想』90頁から91頁に日本文の訳文記載あり。艶とは29を指す。	
10	183	「短評 汪離渝後之謠言」			1938	昭和	13	12	30	新聞	華字晚報。新聞切抜。	
10	186	「時評 警告汪精衛！」			1938	昭和	13	12	30	新聞	香港工商晚報。新聞切抜。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
10	190	「汪精衛対時局宣言 今明即可 発出」			1938	昭和	13	12	30	新聞	華字晩報。新聞切抜。	
10	400	「中央の委託を受け汪・欧州に 向はん 香港着の陳公博語る」	朝日新聞社		1938	昭和	13	12	30	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
10	187	「汪精衛與近衛的主張一様」			1938	昭和	13	12	31	新聞	自然日報。新聞切抜。	
10	188	「汪精衛竟主講和」			1938	昭和	13	12	31	新聞	大公報。新聞切抜。	
10	189	汪精衛に対する風刺漫画			1938	昭和	13	12	31	新聞	浩然報。新聞切抜。	
10	191	「蔣委員長紀念週訓話原文 (続) 詳細駁斥近衛之声明」			1938	昭和	13	12	31	新聞	大公報。新聞切抜。	
10	192	「去国後之汪精衛 向中央建議 対日言和」			1938	昭和	13	12	31	新聞	華僑日報。新聞切抜。	
10	193	石泉「社論 汪先生之重要建 議」			1938	昭和	13	12	31	新聞	南華日報。新聞切抜。「南華日報」の主筆林柏生は汪兆銘擁護の論陣 を張った。	
10	194	金仲華「社論 汪精衛の真面 目」			1938	昭和	13	12	31	新聞	星島日報。新聞切抜。	
10	197	「汪精衛之真面目 竟公然主張 言和！」			1938	昭和	13	12	31	新聞	星島日報。新聞切抜。	
10	198	「社論 誑汪精衛建議感言」			1938	昭和	13	12	31	新聞	天演日報。新聞切抜。	
10	199	「汪精衛公然主張與日謀和 竟 中×人謀我之計」			1938	昭和	13	12	31	新聞	循環日報。新聞切抜。	
10	200	「社論 汪精衛竟響応近衛声 明」			1938	昭和	13	12	31	新聞	工商日報。新聞切抜。	
10	201	「時評 汪精衛竟有這樣建 議！」			1938	昭和	13	12	31	新聞	星島晨報。新聞切抜。	
10	202	「汪精衛公然主和 微言」			1938	昭和	13	12	31	新聞	探海灯日報。新聞切抜。	
10	203	「時局急劇変化 汪在華南組府 伝何応欽已被免職」			1938	昭和	13	12	31	新聞	華字晩報。新聞切抜。	
10	204	「時評 汪精衛竟主張議和」			1938	昭和	13	12	31	新聞	星島晩報。新聞切抜。	
10	205	「拳国堅決抗戦中 汪精衛竟自 掘墳墓 胆中途言和」			1938	昭和	13	12	31	新聞	星島晩報。新聞切抜。	
10	206	「時評 王先生竟主張対日妥協 公言」			1938	昭和	13	12	31	新聞	循環晩報。新聞切抜。	
10	207	「汪精衛離渝出国真相大白 原 来欲與×人言和」			1938	昭和	13	12	31	新聞	南中報晩報。新聞切抜。	
10	401	「蒋介石等一派に対し汪兆銘 重大声明発表 ”速やかに抗戦 を止めよ”」	朝日新聞社		1938	昭和	13	12	31	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
12	299	南京城門に殺到する戦車隊			1938	昭和	13	12		写真		
22	563	民国廿六年 盧溝橋事変後 北京治要紀要 潘毓桂題	潘毓桂		1938	昭和	13	12		冊子	中文。潘は盧溝橋事件当時北平警察部長だった。16-16参照。本書 作成年代は序言末尾の記載からの推定。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
14	44	日支事変一周年に際して	今井武夫		1938	昭和	13			回顧録	2年後に「三周年」として修正している。陸軍弔紙に記載。	
14	105	参考書綴	今井武夫		1938	昭和	13			書類	14箱-東10所収のファイル。	
14	107	対支策戦への一示唆 - 歴史地理学的考察一	小牧實繁・米倉二郎		1938	昭和	13			書類	1938年5月13日調査班受付。小牧は京大、米倉は和歌山高商教授。	
14	108	湖北の軍事地理	小牧實繁・米倉二郎		1938	昭和	13			書類		
14	111	サッソーン家について			1938	昭和	13			書類	調査レポート。陸軍弔紙に書かれている。年代は1938年か1939年。	
14	115	中国の地図			1938	昭和	13			地図	14箱-東10所収のファイルに挿入。14-110関連か。手書きしたものを印刷したもの。年は推定。	
14	127	重要書類綴 汪精衛関係	今井武夫		1938	昭和	13			書類	14箱-東13所収のファイル。	
10	107	スクラップブック			1938	昭和	13			封筒	10箱-東5所収のスクラップブック。	
10	196	スクラップブック			1938	昭和	13			封筒	10箱-東6所収のスクラップブック。	
20	245	今井武夫宛封筒	川上清志	今井武夫	1938	昭和	13			封筒	川上は今井の陸士同期。東京の参謀本部より日本大使館陸軍武官室今井少佐宛となっている。	
20	246	中国の写真			1938	昭和	13			写真	20-245に同封の写真全17枚。濁流、洪水の写真等。	
20	309	余漢謀			1938	昭和	13			写真	同盟通信社に撮らせたものか。年代は推定。	
20	311	余漢謀			1938	昭和	13			写真	余漢謀の写真か。年代は推定。	
10	380	スクラップブック			1938	昭和	13			封筒	10箱-東8所収のスクラップブック。	
1007		写真フィルム			1938	昭和	13			写真	今井後姿、家屋。2枚。	
19	19	今井武夫	和田二郎		1938	昭和	13			写真	1972年3月27日和田二郎氏（義理の甥）から受領。中佐時代のものか。年は推定。	
18	23	佐々木部隊 軍旗拝受記念	佐々木部隊		1938	昭和	13			写真	今井が中佐の頃のもの。年は推定。	
20	446	外国人駐在武官との会合記念	東京會館写真部		1938	昭和	13			写真	1938年か39年。参謀本部中佐時代。英・米・独・仏・伊・伯・羅・暹・土・満。中島鉄蔵・山脇正隆中将、樋口季一郎・笠原幸雄少将ほか。全47名。	
12	226	中支那派遣軍司令官 畑俊六大将			1938	昭和	13			写真		
12	301	憲兵学校における教育隊の教練風景			1938	昭和	13			写真		
20	542	北上抗日軍歓迎の檄文写真	今井武夫		1938	昭和	13			写真	作成者と年は推定。	
20	543	国民政府軍の抗日戦のため資金を出すよう訴えた檄文の写真	今井武夫		1938	昭和	13			写真	作成者と年は推定。	
10	437	杉山平助「東亜共同体論を批判す(1)」	朝日新聞社		1939	昭和	14	2	13	新聞	新聞切抜。杉山は昭和21年12月に亡くなっている。年は推定。	
10	438	杉山平助「東亜共同体論を批判す(2)」	朝日新聞社		1939	昭和	14	2	14	新聞	新聞切抜。年は推定。	
10	439	杉山平助「東亜共同体論を批判す(3)」	朝日新聞社		1939	昭和	14	2	15	新聞	新聞切抜。年は推定。	
20	96	影佐禎昭ほか3名の将校			1938	昭和	13			写真	影佐が大佐時代か。年は推定。	
14	285	昭和13年 支那事変手記	今井武夫		1938	昭和	13			書類	14箱-東17所収のファイル。今井中佐と記入あり。	
14	300	汪工作書類 今井大佐	今井武夫		1938	昭和	13			書類	14箱-東19所収のファイル。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
14	411	書類綴 謀略関係 今井中佐	今井武夫		1938	昭和	13			書類	14箱-東21所収のファイル。	
14	413	傳式説など中国人5人ほどのメモ	今井武夫		1938	昭和	13			メモ	大本営陸軍部野紙に記載。年代は全くの推定。	
14	418	緊急ニ広東独立ヲ促成シ西南分化案ヲ実行セヨ	呉逸		1938	昭和	13			書類	陸軍野紙に記載。年代は全くの推定。	
14	428	和平条件			1938	昭和	13			書類	陸軍野紙に記載。年度は全くの推定。	
14	429	櫻			1938	昭和	13			書類	陸軍野紙に記載。中国側の意見の記述に見える。年度は全くの推定。	
14	430	情報			1938	昭和	13			書類	陸軍野紙に記載。汪兆銘派の情報。年は推定。	
14	431	中国人2人朱曜、郝鵬の住所	今井武夫		1938	昭和	13			メモ	陸軍野紙に記載。年度は全くの推定。	
14	432	蒋介石側からの停戦の提案について	今井武夫		1938	昭和	13			メモ	陸軍野紙に記載。年度は全くの推定。	
14	434	メモ			1938	昭和	13			書類	中国湖南・湖北・江西雲南・黄州・四川軍旅長、団長名ほか。陸軍野紙に記載。年度は全くの推定。	
14	435	工作要領			1938	昭和	13			書類	陸軍野紙に記載。年度は全くの推定。	
14	437	余漢謀書簡	余漢謀	頼宮	1938	昭和	13			書簡	今井が手紙を自筆で写したものと思われる。安昌洋行の野紙に記載。頼宮とは福民病院長の頼宮寛（とんぐゆたか）博士。年度は全くの推定。	
☆	☆				1938	昭和	14	1	1	☆		汪兆銘工作で香港に滞りして新年を迎える
20	32	中華民国建国28年国慶紀念礼成			1939	昭和	14	1	1	写真	維新政府の集まりか。	
10	208	「美洲華僑老国民党員楊昔川擁護汪副總裁建議」			1939	昭和	14	1	1	新聞	南華日報。新聞切抜。主筆は汪派の林柏生。	
10	209	「社論 二十八年的新局勢」			1939	昭和	14	1	1	新聞	南華日報。新聞切抜。主筆は汪派の林柏生。	
10	210	「汪兆銘公然主和 輿論一致申斥」			1939	昭和	14	1	1	新聞	申報。新聞切抜。	
10	211	「汪兆銘通電主和 確與×方有勾決」			1939	昭和	14	1	1	新聞	立報。新聞切抜。	
10	212	撃「評論 汪精衛の陰險面目」			1939	昭和	14	1	1	新聞	実報。新聞切抜。	
10	213	「社論 内地居住営業自由権 汪精衛主和論中之一点」			1939	昭和	14	1	1	新聞	華僑日報。新聞切抜。	
10	214	蔡若虹作「一年来抗戦画史」			1939	昭和	14	1	1	新聞	星島日報。新聞切抜。	
10	215	「一年来画史」			1939	昭和	14	1	1	新聞	大公報。新聞切抜。	
10	216	「嚴若一人」			1939	昭和	14	1	1	新聞	立報。新聞切抜。	
10	217	「去旧更新」			1939	昭和	14	1	1	新聞	星島日報。新聞切抜。	
20	310	委任状の写真	余漢謀		1939	昭和	14	1	1	写真	第12集団軍総司令部余漢謀の発行した余武祥の委任状。『支那事変の回想』に写真記載あり。	
10	324	「Doubt Cast on Authenticity of Wang Ching-wei Plea」			1939	昭和	14	1	1	新聞	Hong Kong Sunday Herald。新聞切抜。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
10	402	「東亜諸国の開放へ 首相・新春の第一声」	朝日新聞社		1939	昭和	14	1	1	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
10	403	「愕然たる上海外交界英大使館協議を続く 汪声明の波紋を凝視」	朝日新聞社		1939	昭和	14	1	1	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
10	218	「汪精衛永遠開除党籍 中央執監連席会議昨議決」			1939	昭和	14	1	2	新聞	大公晩報。新聞切抜。	
10	219	「汪精衛艶電発表後時局突起騒動」			1939	昭和	14	1	2	新聞	華字晩報。新聞切抜。	
10	220	「今日評論 咄咄汪精衛叛国之大陰謀」			1939	昭和	14	1	2	新聞	中国晩報。新聞切抜。	
10	221	「時評 汪精衛開除党籍」			1939	昭和	14	1	2	新聞	大公晩報。新聞切抜。	
10	222	「時評 關於汪精衛」			1939	昭和	14	1	2	新聞	星島晩報。新聞切抜。	
10	223	「汪氏叛変詳細経過川滇領袖神明大義」			1939	昭和	14	1	2	新聞	中国晩報。中国日報は蒋介石系ではなく傍系新聞。新聞切抜。	
10	224	「短評 焦土抗戦與対日妥協」			1939	昭和	14	1	2	新聞	華字晩報。新聞切抜。	
10	225	「各方一致対汪××」			1939	昭和	14	1	2	新聞	南中報。新聞切抜。	
10	404	「”汪声明受領せず” 蔣政權批評を拒む」	朝日新聞社		1939	昭和	14	1	2	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
10	226	「中執常委会決議 褫汪党籍及撤除職務」	華字日報有限公司		1939	昭和	14	1	3	新聞	華星早報。新聞切抜。『支那事変の回想』に写真あり。	
10	227	流沙「社論 我們的鄭重抗議」			1939	昭和	14	1	3	新聞	南華日報。新聞切抜。主筆は汪派の林柏生。	
10	228	「社論 汪精衛行動絶不影響大局」			1939	昭和	14	1	3	新聞	華僑日報。新聞切抜。	
10	229	「短兵」			1939	昭和	14	1	3	新聞	華僑日報。新聞切抜。	
10	230	「短評 中央革除汪党籍」			1939	昭和	14	1	3	新聞	華字晩報。新聞切抜。	
10	231	「伝土肥原抵港 促汪出任偽職」			1939	昭和	14	1	3	新聞	中国晩報。新聞切抜。	
10	232	篤公「汪精衛主和通電之批判」			1939	昭和	14	1	3	新聞	循環日報。新聞切抜。	
10	233	華「社論 失敗主義者の末路」			1939	昭和	14	1	3	新聞	星島日報。新聞切抜。	
10	234	「社論 華南将領一致斥連電日內発表」			1939	昭和	14	1	3	新聞	華字晩報。新聞切抜。	
10	235	「余漢謀 擁護抗戦」			1939	昭和	14	1	3	新聞	星島晩報。新聞切抜。	
10	236	「汪精衛受各方猛烈反対後 已由某地返抵河内」			1939	昭和	14	1	3	新聞	循環晩報。新聞切抜。『支那事変の回想』に写真記載あり。	
10	237	「時評 中国自有史以来的第一个大奸佞」			1939	昭和	14	1	3	新聞	工商晩報。新聞切抜。	
10	238	愈堅「時評 汪永遠開除党籍」			1939	昭和	14	1	3	新聞	循環晩報。新聞切抜。	
10	239	「時評 汪精衛の下場」			1939	昭和	14	1	3	新聞	星島晩報。新聞切抜。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
10	240	「小評 懲汪声中注意三点」			1939	昭和	14	1	3	新聞	申報。新聞切抜。	
10	241	「斥汪兆銘」			1939	昭和	14	1	3	新聞	申報。新聞切抜。	
10	242	流沙「社論 和興戰」			1939	昭和	14	1	4	新聞	南華日報。新聞切抜。	
10	243	「五中全会能否依期？」			1939	昭和	14	1	4	新聞	南華日報。新聞切抜。	
10	244	「社論 哀汪兆銘」			1939	昭和	14	1	4	新聞	華僑日報。新聞切抜。	
10	245	「新聞記者公会発表厳正宣言」			1939	昭和	14	1	4	新聞	華僑日報。新聞切抜。	
10	246	君浩「和戦問題與民族気節」			1939	昭和	14	1	4	新聞	循環日報。新聞切抜。	
10	247	慎公「社論 汪兆銘往何处去」			1939	昭和	14	1	4	新聞	華字晩報。新聞切抜。	
10	248	「社論 為中央除汪党籍事進一言」			1939	昭和	14	1	4	新聞	天演日報。新聞切抜。	
10	249	「畢竟渺小！」			1939	昭和	14	1	4	新聞	星島日報。新聞切抜。	
10	250	「汪兆銘將做偽總統」			1939	昭和	14	1	4	新聞	立報。新聞切抜。	
10	251	「時評 嚴汪兆銘」			1939	昭和	14	1	4	新聞	循環晩報。新聞切抜。	
10	252	「左傾份子將繼任副總裁 国民党増強国共合作」			1939	昭和	14	1	4	新聞	工商晩報。新聞切抜。	
10	254	「今日評論 提防汪精衛的陰謀」			1939	昭和	14	1	4	新聞	中国晩報。新聞切抜。	
10	256	「雲南省主席龍雲電 致電国府効忠」			1939	昭和	14	1	4	新聞	中国晩報。新聞切抜。	
10	261	「汪逆叛国個人行動 对我外交豪無影響」			1939	昭和	14	1	4	新聞	星島晩報。新聞切抜。	
10	322	「Resignation of Konoye is Expected Before Week Ends」			1939	昭和	14	1	4	新聞	Hong Kong Daily Press。新聞切抜。	
10	405	「汪の国民党除名は蔣政權の大損失 在支外人筋の観測」	朝日新聞社		1939	昭和	14	1	4	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
10	253	「各方面最後勸汪促赴欧養病待罪」			1939	昭和	14	1	5	新聞	申報。新聞切抜。	
10	255	少飛「東京也有傀儡戲」			1939	昭和	14	1	5	新聞	星島日報。新聞切抜。	
10	257	「汪兆銘逃亡後 中枢要員將有更動」			1939	昭和	14	1	5	新聞	華僑日報。新聞切抜。	
10	258	「汪兆銘叛国志決 王寵惠勸駕竟拒接見」			1939	昭和	14	1	5	新聞	華僑日報。新聞切抜。	
10	259	「毎日展望」			1939	昭和	14	1	5	新聞	星島日報。新聞切抜。	
10	260	「白崇禧談西南軍事」			1939	昭和	14	1	5	新聞	天演日報。新聞切抜。	
10	262	「社論 馮玉祥談汪精衛叛国」			1939	昭和	14	1	5	新聞	華僑日報。新聞切抜。	
10	263	石泉「社論 我們的立場」			1939	昭和	14	1	5	新聞	南華日報。新聞切抜。主筆は汪派の林柏生。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備 考	今 井 武 夫 年 譜
10	264	郭耀城「来件 対和平問題の意見」			1939	昭和	14	1	5	新聞	南華日報。新聞切抜。主筆は汪派の林柏生。	
10	265	「短評 近衛去後之汪精衛」			1939	昭和	14	1	5	新聞	華字晩報。新聞切抜。	
10	266	流沙「毎日座談 見首不見尾」			1939	昭和	14	1	5	新聞	中国晩報。新聞切抜。	
10	267	「孫科繼任副総裁 伝陳友仁将出長外交」			1939	昭和	14	1	5	新聞	南中報。新聞切抜。孫科は孫文の子。	
10	268	「時評 日本の新内閣」			1939	昭和	14	1	5	新聞	大公晩報。新聞切抜。	
10	269	「×国内閣改造」			1939	昭和	14	1	5	新聞	循環晩報。新聞切抜。	
10	270	「日本政変及其動向的剖述」			1939	昭和	14	1	5	新聞	申報。新聞切抜。	
10	271	「近衛場台耶」			1939	昭和	14	1	5	新聞	工商日報。新聞切抜。	
10	272	スクラップブック			1939	昭和	14	1	5	封筒	10箱-東7所収のスクラップブック。	
10	273	「社論 日本内閣の更迭」			1939	昭和	14	1	5	新聞	大公報。新聞切抜。	
10	274	「社論 近衛内閣の顛覆」			1939	昭和	14	1	5	新聞	星島日報。新聞切抜。	
10	325	「Wang in Hong Kong」			1939	昭和	14	1	5	新聞	South China Morning Post。新聞切抜。	
☆	☆				1939	昭和	14	1	6	☆		余漢謀代表 余武祥と会見し 折衝 於香港
10	275	卓爾「来論 汪副総裁発表和平建議後本港言論之分析」			1939	昭和	14	1	6	新聞	香港日報。新聞切抜。	
10	276	「社論 近衛場台的分析」			1939	昭和	14	1	6	新聞	華僑日報。新聞切抜。	
10	277	子遠「社論 評中宣部之声明」			1939	昭和	14	1	6	新聞	南華日報。新聞切抜。主筆は汪派の林柏生。	
10	278	「社論 平沼真個要上場嗎」			1939	昭和	14	1	6	新聞	工商日報。新聞切抜。	
10	279	君浩「日本内閣之更迭」			1939	昭和	14	1	6	新聞	循環日報。新聞切抜。	
10	280	「社論 対日本新内閣の認識」			1939	昭和	14	1	6	新聞	珠江日報。新聞切抜。	
10	281	「毎日展望」			1939	昭和	14	1	6	新聞	星島日報。新聞切抜。	
10	282	「汪兆銘在港」			1939	昭和	14	1	6	新聞	申報。新聞切抜。	
10	283	「擁汪兆銘」			1939	昭和	14	1	6	新聞	華僑日報。新聞切抜。	
10	284	「汪兆銘 即将発表声明」			1939	昭和	14	1	6	新聞	申報。新聞切抜。	
10	285	「時評 日本平沼内閣成立」			1939	昭和	14	1	6	新聞	大公晩報。新聞切抜。	
10	286	「汪逆精衛背叛党国後 仍居河内状局極懊喪」			1939	昭和	14	1	6	新聞	星島晩報。新聞切抜。	
10	287	「郭顧兩大使關謠」			1939	昭和	14	1	6	新聞	大公晩報。新聞切抜。	
10	288	「時評 我們已見到第一步勝利的曙光了！」			1939	昭和	14	1	6	新聞	工商晩報。新聞切抜。	
10	289	「時評 日本之法西斯波新聞」			1939	昭和	14	1	6	新聞	循環日報。新聞切抜。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
10	291	「短評 ×人之謠」			1939	昭和	14	1	6	新聞	華字晩報。新聞切抜。	
10	292	「近衛場台 陳明」			1939	昭和	14	1	6	新聞	星島晩報。新聞切抜。	
10	326	「Japanese Cabinet Baron Hiranuma New Prime Minister」			1939	昭和	14	1	6	新聞	South China Morning Post。新聞切抜。	
10	406	「蔣政権の重要部署 共産派次々に掌握 蔣の立場は益々不利に」	朝日新聞社		1939	昭和	14	1	6	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
10	290	「短兵」			1939	昭和	14	1	7	新聞	華僑日報。新聞切抜。	
10	293	「社論 近衛與精衛」			1939	昭和	14	1	7	新聞	工商日報。新聞切抜。	
10	294	流沙「社論 從近衛内閣到平沼内閣」			1939	昭和	14	1	7	新聞	南華日報。新聞切抜。主筆は汪派の林柏生。	
10	295	「社論 可笑的×人造謠」			1939	昭和	14	1	7	新聞	華僑日報。新聞切抜。	
10	296	「粵籍中委 連電請嚴処汪精衛」			1939	昭和	14	1	7	新聞	華僑日報。新聞切抜。	
10	297	「滬伝汪逆精衛 企圖組織新党」			1939	昭和	14	1	7	新聞	星島晩報。新聞切抜。	
10	298	「時評 防止失敗主義者的造謠」			1939	昭和	14	1	7	新聞	星島晩報。新聞切抜。	
10	299	「今日評論」			1939	昭和	14	1	7	新聞	中国晩報。新聞切抜。	
10	300	愈堅「時評 張余電請国府下令緝汪」			1939	昭和	14	1	7	新聞	循環晩報。新聞切抜。	
10	301	「時評 大局形勢遠勝去年」			1939	昭和	14	1	7	新聞	大公晩報。新聞切抜。	
10	302	「靖国丸船客」			1939	昭和	14	1	7	新聞	香港日報。新聞切抜。	
10	303	「蔣委員長談話 軍事外交形勢優勝」			1939	昭和	14	1	7	新聞	大公晩報。新聞切抜。	
10	304	「粵籍中委対汪 表示憤懣」			1939	昭和	14	1	7	新聞	華字晩報。新聞切抜。	
10	407	「四川、雲南の混乱 佛人記者・実情を視察」	朝日新聞社		1939	昭和	14	1	7	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
10	305	「全国将士 電請制裁汪逆」			1939	昭和	14	1	8	新聞	申報。新聞切抜。	
10	306	「公開討論和戦問題」			1939	昭和	14	1	8	新聞	南華日報。新聞切抜。主筆は汪派の林柏生。	
10	307	郵民「社論 老実話從今已矣」			1939	昭和	14	1	8	新聞	南華日報。新聞切抜。主筆は汪派の林柏生。	
10	308	「全国将領電呈委座 請制裁汪逆」			1939	昭和	14	1	8	新聞	珠江日報。新聞切抜。	
10	309	「全国各将領 聡朕電中央 請制裁汪精衛」			1939	昭和	14	1	8	新聞	工商日報。新聞切抜。	
10	310	「汪逆開除党籍前後」			1939	昭和	14	1	8	新聞	星島日報。新聞切抜。	
10	311	風刺漫画			1939	昭和	14	1	8	新聞	珠江日報。新聞切抜。	
10	312	朱家驊「共党指摘」			1939	昭和	14	1	8	新聞	南華日報。新聞切抜。主筆は汪派の林柏生。	
10	313	「汪出走後 我更團結」			1939	昭和	14	1	8	新聞	星島日報。新聞切抜。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
10	314	「毎日展望」			1939	昭和	14	1	8	新聞	星島日報。新聞切抜。	
10	315	「遍地荆棘」			1939	昭和	14	1	8	新聞	星島日報。新聞切抜。	
10	316	「小評 叛国份子の活動」			1939	昭和	14	1	8	新聞	申報。新聞切抜。	
10	317	「跳火坑」			1939	昭和	14	1	8	新聞	珠江日報。新聞切抜。	
10	318	「時評 ×極力羅掘戦費」			1939	昭和	14	1	8	新聞	工商晚報。新聞切抜。	
10	327	「陳誠薛岳各将領 電請制裁汪兆銘」			1939	昭和	14	1	8	新聞	中国晚報。新聞切抜。	
10	328	「局部更動」			1939	昭和	14	1	8	新聞	星島晚報。新聞切抜。	
10	329	「時評 滇緬公路與抗戰」			1939	昭和	14	1	8	新聞	星島晚報。新聞切抜。	
10	330	「英府決以実力助我 英輪多艘 載軍品抵歩」			1939	昭和	14	1	8	新聞	南中報。新聞切抜。	
10	331	「五中前会 定廿日開幕」			1939	昭和	14	1	8	新聞	工商晚報。新聞切抜。	
10	332	「全国将領電請中央 通緝汪逆」			1939	昭和	14	1	8	新聞	南中報。新聞切抜。	
10	333	「潮汕人民 声討汪逆精衛」			1939	昭和	14	1	8	新聞	南中報。新聞切抜。	
10	334	「×參謀部侵華 陥入長期戦争」			1939	昭和	14	1	8	新聞	工商晚報。新聞切抜。	
10	408	「汪兆銘の離脱に蔣・心境淋し」	朝日新聞社		1939	昭和	14	1	8	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
10	335	「言之醜也 汪精衛云会致書中常会」			1939	昭和	14	1	9	新聞	循環日報。新聞切抜。	
10	336	「Wang Ching-wei Issues Another Statement」			1939	昭和	14	1	9	新聞	Hong Kong Daily Press。新聞切抜。	
10	337	「全国一致討汪」			1939	昭和	14	1	9	新聞	工商日報。新聞切抜。	
10	338	「李白通電 声討汪精衛」			1939	昭和	14	1	9	新聞	工商日報。新聞切抜。	
10	339	「自由論談 指正中宣部政治部 対於汪先生各点 華僑譚泳洲」			1939	昭和	14	1	9	新聞	南華日報。新聞切抜。主筆は汪派の林柏生。	
10	340	少飛「衆矢の的」			1939	昭和	14	1	9	新聞	星島日報。新聞切抜。	
10	341	石泉「社論 我們的態度」			1939	昭和	14	1	9	新聞	南華日報。新聞切抜。主筆は汪派の林柏生。	
10	342	「社論 日本要來一回百年戰」			1939	昭和	14	1	9	新聞	工商日報。新聞切抜。	
10	343	「重慶掃蕩論 汪兆銘永遠開除 党籍」			1939	昭和	14	1	9	新聞	星島日報。新聞切抜。	
10	344	「上海輿論界声討汪精衛（続 完）」			1939	昭和	14	1	9	新聞	星島日報。新聞切抜。	
10	345	「李宗仁 白崇禧 電請中央通緝汪逆」			1939	昭和	14	1	9	新聞	星島日報。新聞切抜。	
10	346	「經濟部擬復興 遷川重工業」			1939	昭和	14	1	9	新聞	申報。新聞切抜。	
10	347	「陳友仁否認 出長外部」			1939	昭和	14	1	9	新聞	申報。新聞切抜。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
10	348	「Wang Ching-wei」			1939	昭和	14	1	9	新聞	South China Morning Post。新聞切抜。	
10	349	「Letters Wang Ching-wei」			1939	昭和	14	1	9	新聞	The Hong Kong Telegraph。新聞切抜。	
10	350	長沙「華中新×曾 山田謀短期 内犯」			1939	昭和	14	1	9	新聞	工商晩報。新聞切抜。	
10	351	「時評 ×人已踏入百年戦争之 門」			1939	昭和	14	1	9	新聞	工商晩報。新聞切抜。	
10	352	「時評 日本対華百年戦争」			1939	昭和	14	1	9	新聞	星島晩報。新聞切抜。	
10	366	「汪の処置に苦悩 中央、暫く 形勢を観望」	大陸新報社		1939	昭和	14	1	9	新聞	上海 大陸新報。新聞切抜。大陸新報はこの年1月1日に創刊されたばかりの新聞。	
10	409	「近衛声明（12月22日）に答 え和平交渉の基礎とせよ 汪兆 銘・中央発書簡発表」	朝日新聞社	「近衛声明（12月 22日）に答え和平 交渉の基礎とせよ 汪兆銘・中央発表」	1939	昭和	14	1	9	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
10	410	「汪兆銘離脱の影響」	朝日新聞社		1939	昭和	14	1	9	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
10	411	「興亜 防共外交不動 汪声明 に支那側動く」	朝日新聞社		1939	昭和	14	1	9	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
☆	☆				1939	昭和	14	1	10	☆		船で香港より上海に向かう
10	353	「重慶挙行軍政要会 討論整理 川軍開発西南」			1939	昭和	14	1	10	新聞	工商日報。新聞切抜。	
10	354	心危「社論 無畏與怯懦」			1939	昭和	14	1	10	新聞	南華日報。新聞切抜。主筆は汪派の林柏生。	
10	355	「汪先生離渝前 会晤蔣力陳和 戦利害」			1939	昭和	14	1	10	新聞	南華日報。新聞切抜。主筆は汪派の林柏生。	
10	356	「論説 汪兆銘母再暁曉」			1939	昭和	14	1	10	新聞	循環日報。新聞切抜。	
10	357	「特写 汪叛国訊伝至粵南後」			1939	昭和	14	1	10	新聞	華僑日報。新聞切抜。	
10	358	「汪兆銘致中常委函」			1939	昭和	14	1	10	新聞	天演日報。新聞切抜。	
10	359	「五中全会後 中央人事有更 動」			1939	昭和	14	1	10	新聞	申報。新聞切抜。	
10	360	「持久抗戦」			1939	昭和	14	1	10	新聞	珠江日報。新聞切抜。	
10	361	少飛「大挙反攻の步伐声」			1939	昭和	14	1	10	新聞	星島日報。新聞切抜。	
10	362	「伝汪兆銘在河内 與×代表会 見」			1939	昭和	14	1	10	新聞	申報。新聞切抜。	
10	363	「社論 政局澄清以後」			1939	昭和	14	1	10	新聞	星島日報。新聞切抜。	
10	364	「社論 ×経済困局必難打開」			1939	昭和	14	1	10	新聞	工商日報。新聞切抜。	
10	365	「麥與兵隊 值得読嗎」			1939	昭和	14	1	10	新聞	申報。新聞切抜。	
10	367	「社論 五中全会定期開会」			1939	昭和	14	1	10	新聞	珠江日報。新聞切抜。	
10	368	「Wang Chin-wei, Strong Opposition by Puppet in Nanking」			1939	昭和	14	1	10	新聞	South China Morning Post。新聞切抜。	
10	369	「時評 領袖與群衆」			1939	昭和	14	1	10	新聞	循環日報。新聞切抜。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
10	370	「蔣委員長指示四大国策」			1939	昭和	14	1	10	新聞	南中報。新聞切抜。	
10	412	「蔣、各将領の背反憂慮」	朝日新聞社		1939	昭和	14	1	10	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
10	413	「五中全会を糊塗し 和平問題を圧殺」	朝日新聞社		1939	昭和	14	1	10	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
10	414	「赤色政権樹立へ 共産党頻りに活躍」	朝日新聞社		1939	昭和	14	1	11	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
10	415	「ソ連との提携は緊密 孫科突如記者団に声明」	朝日新聞社		1939	昭和	14	1	11	新聞	朝日新聞。新聞切抜。孫科は孫文の子。	
10	416	「汪を隠れ家に訪ひ その心境を聴く」	朝日新聞社		1939	昭和	14	1	12	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
10	417	「問題は汪、蔣間に諒解の有無 梁院員記者団に語る」	朝日新聞社		1939	昭和	14	1	12	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
10	419	「援助契約の締結は遂に時期を失す」	朝日新聞社		1939	昭和	14	1	12	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
★	★				1939	昭和	14	1	13	☆		13日朝 上海着
10	371	「社評 汪兆銘叛国的国際背景」			1939	昭和	14	1	13	新聞	上海華美晨報。新聞切抜。	
10	372	「汪精衛叛国難道は偶然的嗎？」			1939	昭和	14	1	13	新聞	上海華美晨報。新聞切抜。	
10	373	「汪兆銘叛国前後 重慶見聞雑記（上）」			1939	昭和	14	1	13	新聞	上海導報。新聞切抜。	
10	375	「龍雲 中央に反撥」	大陸新報社		1939	昭和	14	1	13	新聞	上海大陸新報。新聞切抜。	
10	374	「蔣政権を反撃す 反蔣に終始した巨頭汪精衛」	大陸新報社		1939	昭和	14	1	14	新聞	上海大陸新報。新聞切抜。	
10	418	「発端は蔣の行過ぎ 孔祥熙攻撃をめぐる内紛 汪兆銘脱出の真相」	朝日新聞社		1939	昭和	14	1	14	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
14	134	渡辺工作の現況（第四号）	今井武夫		1939	昭和	14	1	15	報告書	汪兆銘の重慶からの脱出について。蒋介石、中国各新聞の反応など。『支那事変の回想』299頁～305頁に記載あり。15部の内のゼロ号（番号なし）。	
★	★				1939	昭和	14	1	15	☆		上海発 空路 帰京
24	5	渡辺工作の現況（第四号）	今井武夫		1939	昭和	14	1	15	報告書	汪兆銘の重慶からの脱出。蒋介石、中国新聞の反応など。複写。オリジナルは14-134。	
10	376	「軍政の単一化 陳誠 共産派の擒に」	東京日日新聞社		1939	昭和	14	1	15	新聞	東京日日新聞。新聞切抜。	
10	377	「軍隊民衆全く背反 重慶に血の殺戮」	大陸新報社		1939	昭和	14	1	15	新聞	上海大陸新報。新聞切抜。	
10	421	「汪兆銘の和平通電に重慶政府の態度微妙」	朝日新聞社		1939	昭和	14	1	15	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
14	342	渡辺工作の現況（第四号）	今井武夫		1939	昭和	14	1	15	報告書	汪兆銘の重慶からの脱出について。蒋介石、中国各新聞の反応など。23枚。	
14	446	余漢謀工作ノ状況	今井武夫		1939	昭和	14	1	15	書類	同一2部あり。『支那事変の回想』286頁～287頁に記載あり。今井は中佐。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
★	★				1939	昭和	14	1	16	☆		陸軍大臣官邸で大臣（板垣）、参謀次長（中島鉄蔵中将）、陸軍次官（山脇正隆中将）、局部長に高宗武工作の経過、将来の判断等を報告
20	308	福民病院の封筒	頓宮寛		1939	昭和	14	1	16	封筒	14-443参照。20箱-東8所収の封筒。上海の福民病院の住所記載あり。頓宮寛は福民病院長（1884年2月21日～1974年12月7日 90歳で亡くなる）。写真在封。1939年か。余漢謀工作関連。	
★	★				1939	昭和	14	1	17	☆		中国出張から日本に戻る
10	422	「林柏生襲はる」	朝日新聞社		1939	昭和	14	1	17	新聞	朝日新聞。新聞切抜。林柏生は汪兆銘擁護の論陣を張ってきた香港の「南華日報」の主筆。	
★	★				1939	昭和	14	1	18	☆		前陸軍次官 東条英機中将に 渡辺（汪兆銘）工作の状況を説明
10	420	「共産党の三要求 五中全会に貫徹を期す」	朝日新聞社		1939	昭和	14	1	18	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
★	★	各国駐日駐在武官招宴 参謀次長（中島鉄蔵中将） 陸軍次官（山脇正隆中将） ほかに			1939	昭和	14	1	19	☆	『日中和平工作』 145頁	各国駐日駐在武官招宴に出席 於帝国ホテル
14	135	汪精衛一派ニ依ル蔣政権内部崩壊ニ関する謀略ニ就テ			1939	昭和	14	1		書類	於五相会議席上 板垣陸軍大臣説明案。近衛の辞任後のもので1月中旬のものか。「500万から1000万香港ドル積立必要」と。	
10	423	「汪兆銘第三通電 国を誤るは売国奴」	朝日新聞社		1939	昭和	14	1	25	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
★	★				1939	昭和	14	1	26	☆		陸大教官として 第7期専科及航空専科70名に「満州国及び支那軍制」の講義を行う
24	6	傳式説氏ノ汪兆銘ニ関スル報告 附 上海ニ於ケル和平運動経路	井上匡四郎		1939	昭和	14	1	26	書類	今井中佐について言及あり。蒋介石と汪兆銘の喧嘩の原因につき記載あり。傳式説は上海大夏大学教授。梅思平の従兄弟。東大工科時代井上の愛弟子。後の汪政権の行政院鉄道部長。14-310参照。南支調査会の罫紙に記載。上海で1938年2月頃 「低調倶楽部」のメンバーでもある梅子平から 和平運動に協力するように依頼されたとのこと。1月26日台北にて記載とある。8枚。	
14	340	傳式説氏ノ汪兆銘ニ関スル報告 附 上海ニ於ケル和平運動経路	井上匡四郎		1939	昭和	14	1	26	書類	今井中佐について言及あり。蒋介石と汪兆銘の喧嘩の原因につき記載あり。傳式説は上海大夏大学教授。梅思平の従兄弟。東大工科時代井上の愛弟子。後の汪政権の行政院鉄道部長。14-310参照。南支調査会の罫紙に記載。上海で1938年2月頃 「低調倶楽部」のメンバーでもある梅子平から 和平運動に協力するように依頼されたとのこと。1月26日台北にて記載とある。8枚。	
10	424	「近代国家への途は日支合作にあり 汪兆銘の時局討論」	朝日新聞社		1939	昭和	14	1	31	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
10	425	「新局面の展開確信 冷静・風雲を待つ 汪兆銘の心境を叩く」	朝日新聞社		1939	昭和	14	1	31	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
10	426	「汪派の団結力強し 更に要人離脱せん」	朝日新聞社		1939	昭和	14	2	4	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
★	★				1939	昭和	14	2		☆		2月上旬 土肥原賢二中将の援助や孔祥熙工作のため上海に往復

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
★	★				1939	昭和	14	2	15	☆		陸軍大臣（板垣征四中将） 参謀次長（中島鉄蔵中将） 次官（山脇正隆中将）等に今井の意見 その他 白井中佐の呉佩孚工作報告をなし 結局土肥原機関の解消及び上海機関の強化等可決される
14	398A	第七章 中央政治会議と国府遷都	今井武夫		1939	昭和	14	2	21	回顧録	年代は推定。月日は推定。	
14	395-1	第六章青島会議と高 陶の離脱	今井武夫		1939	昭和	14	2	21	回顧録	年代は推定。月日は推定。	
★	★				1939	昭和	14	2	22	☆	於星が丘茶寮。	上海から土肥原賢二中将を招き参謀次長（中島鉄蔵中将）と3人で相談
14	343	渡辺工作の現況第二期計画ニ関スル意見	第二課		1939	昭和	14	2	22	書類	陸軍野紙に記載。7部の内2号。救国同盟会の結成、新軍建設を慫慂すとある。4枚。	
★	★				1939	昭和	14	2	26	☆	於箱根宮ノ下「富士屋ホテル」。	影佐と今井 汪兆銘が日本に派遣した高宗武 周隆庠と会談 汪兆銘派の内情 和平案に付協議 汪の意向として高は3案を提示（於 箱根宮ノ下 「富士屋ホテル」）
★	★				1939	昭和	14	2	27	☆		呉佩孚工作のため 土肥原機関と北支軍や臨時政府との間に生じた対立関係を調整し かつ汪兆銘の河内脱出による情勢の変化に備えるため訓令を受け 北京に赴く
20	70	秦淮の春景	柚原		1939	昭和	14	2		写真	柚原は少佐。	
20	71	中華門外クレーク	柚原		1939	昭和	14	2		写真	柚原は少佐。	
8	39	中日対訳 中華民国新六法	中華法令編印館		1939	昭和	14	3	1	書籍	中華法令編印館編訳。	
★	★				1939	昭和	14	3	7	☆		出張された秩父宮に南京から上海への飛行機の中で和平工作につきご説明し 御下賜品あり
◎	◎				1939	昭和	14	3	9	◎	出張期間中に大佐に進級。渡左近課長と交代。	陸軍歩兵大佐 参謀本部支那課長 大本営陸軍報道部員兼務解職
22	476	今井武夫宛辞令「任陸軍歩兵大佐」	平沼騏一郎	今井武夫	1939	昭和	14	3	9	書類	平沼は総理大臣。	
★	★				1939	昭和	14	3	12	☆		中国出張から日本に戻る
★	★				1939	昭和	14	3	13	☆		呉佩孚工作につき 参謀本部第1部長（橋本群） 第二部長（樋口季一郎）に報告
20	44	馬上の張化南	張化南		1939	昭和	14	3	28	写真	今井仁兄 恵存として。.	
2	43	北支の農業経済	梨本祐平		1939	昭和	14	3	30	書籍	白揚社。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
●	●				1939	昭和	14	4	1	●		従五位
22	475	今井武夫宛叙勲「叙従五位」	松平恒雄	今井武夫	1939	昭和	14	4	1	勲章	松平は宮内大臣。	
10	378	「汪兆銘第三次声明発表」	朝日新聞社		1939	昭和	14	4	2	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
10	379	「重慶に同志多数 汪兆銘所感述ぶ」	読売新聞社		1939	昭和	14	4	3	新聞	読売新聞。新聞切抜。	
14	344	河村洋行商用略語配布表（14年4月5日現在）			1939	昭和	14	4	5	書類	汪兆銘工作の暗号表。汪兆銘は竹内。今井の暗号は佐藤、名和本店員。14年6月現在の複写したものは24-3にあり。26枚。	
14	109	特務機関改造ニ関スル意見	柴山兼四郎		1939	昭和	14	4	9	書類	柴山は天津陸軍特務機関長。	
14	3	陸軍支那関係者 一覧表			1939	昭和	14	4	14	名簿	陸軍関係115人の名前と現職年月日記載あり。今井の鉛筆の抹消1964年9月。極秘とある。着任日、現職名、前職名記載あり。	
6	20	海南島読本	南支調査会		1939	昭和	14	4	15	書籍		
14	114	西江水力発電計画書	栗原忠三		1939	昭和	14	4	26	書類	陸軍野紙に記載。	
☆	☆				1939	昭和	14	4		☆		西本願寺の大谷光瑞に朝食に招かれ 珠江をせき止めてダムを構築し、広西省から四川省に進攻すべき策案を聞く（4月下旬）
20	72	異郷の桜花	柚原		1939	昭和	14	4		写真	柚原は少佐。	
20	73	孝陵の桜	柚原		1939	昭和	14	4		写真	柚原は少佐。	
13	120	「佐藤正名義」の今井の偽名パスポート	外務省		1939	昭和	14	5	2	書類	外務大臣有田八郎。上海經由香港行き。昭和13年6月9日にも同じ名義のパスポート 13-119が発行されている。	
☆	☆				1939	昭和	14	5	6	☆		上海の船内（「北米丸」）で 汪兆銘と初めて会見する
14	389	九・一八以後ニ於ケル汪先生対日思想ノ一端	周仏海		1939	昭和	14	5	6	書類	14-388関連。「九・一八」とは 1931年の満州事変のこと。日本語。月日は推定。	
☆	☆				1939	昭和	14	5	11	☆	今井は樊光との連絡には、報知新聞記者 百武末義を連絡につかっていた。	上海に駐在して 孔祥熙の特使をしている樊光と会う 重慶から特派された中央銀行秘書の姚瑛が同席 孔祥熙の特別指示を示す
☆	☆				1939	昭和	14	5	19	☆	「荻外荘」は西園寺公望が名付けたもの。杉並区西田町1丁目743番地にあった。	荻外荘に赴き 近衛前首相を訪問し 汪兆銘工作を報告
14	347	中国側ノ提出セル時局收拾ニ関スル具体的弁法			1939	昭和	14	5	28	書類	14-346関連。「本案は支那側の一方的提案にして日本側の承認せる物に非ず」と付記されている。50部の内の7号。8枚。『支那事変の回想』306頁～310頁に記載あり。	
10	427	「汪精衛ハノイ脱出記 ① 森本太真夫特派員」			1939	昭和	14	5		新聞	掲載紙不明。新聞切抜。	
10	428	「汪精衛ハノイ脱出記 ② 森本太真夫特派員」			1939	昭和	14	5		新聞	掲載紙不明。新聞切抜。	
14	348	対支謀略ニ関する第二部長口演要旨	第二部長		1939	昭和	14	6	2	書類	樋口季一郎部長。汪と呉佩孚の合作を期待。汪の来朝後のもの。汪兆銘政権樹立のための会合における参謀本部第二部長の口演 大本営直轄の対支謀略は差し当たり「汪」、「呉」、「李白」、「華僑」工作を主流として進め、そのいずれにも属せざる工作はこれを適宜ほかの工作に併合せんとす。『支那事変の回想』311頁～313頁に記載あり。	
☆	☆				1939	昭和	14	6	3	☆	於陸軍省第一会議室。	現地中央懇談会議

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
14	349	現地中央懇談事項			1939	昭和	14	6	3	書類	汪を中心とした中央政府樹立に決定。10月0日10日目標。呉佩孚と汪の合作期待。事変中日本が占拠した地域に於ては日本側の認めざる国旗等は許さず。中央政府をロボット化しないようにする。於陸軍省第一会議室。『支那事変の回想』313頁～314頁に記載あり。	
14	345	汪工作指導要領（案）			1939	昭和	14	6	4	書類	20部の内の6号。4枚。	
14	350	中国側提出ノ「時局收拾ニ関する具体的弁法」ニ対スル取扱			1939	昭和	14	6	15	書類	6月5日省部決定。4枚。『支那事変の回想』315頁に記載あり。省部とは陸軍省と参謀本部のこと。	
●	●				1939	昭和	14	6	17	●		勳三等瑞宝章
20	22	今井武夫宛勳「勳三等瑞宝章授与証」	下條康麿	今井武夫	1939	昭和	14	6	17	勳章	下條は賞勳局総裁。	
☆	☆				1939	昭和	14	6	18	☆		堀場一雄中佐と共に北京に赴き山下奉文参謀長および武藤参謀副長と懇談（天津英租界の問題）一応その用務を終了
24	3	河村洋行商用略語配布表（14年6月現在）			1939	昭和	14	6		書類	汪兆銘工作の暗号表。今井の暗号は「佐藤」、名和本店員。14年4月現在のものは14-344にあり。複写。	
14	351	中国国民党政綱			1939	昭和	14	6		書類	私案とある。中国文。ガリ版。月は5月か6月か。	
14	352	中国国民党政綱			1939	昭和	14	6		書類	日本文。印刷してある。月は5月か6月か。2枚。	
☆	☆				1939	昭和	14	7	7	☆		盧溝橋会事件 2周年記念会（於靖国神社）
20	36	盧溝橋会事件 2周年記念会			1939	昭和	14	7	7	写真	於靖国神社社頭。	
14	392	吾人ハ中国復興東亜復興ノ大道ヲススムヘシ	汪精衛		1939	昭和	14	7	9	書類	年代は推定。精衛は兆銘の号。7月9日上海での放送要旨の日本語訳。	
2	15	我が日本学	中山忠直		1939	昭和	14	7	20	書籍	3版。嵐山荘。	
19	75	今井武夫・きみ子宛電報	大谷照乗	今井武夫・きみ子	1939	昭和	14	7	27	電報	大谷は京都西本願寺連枝。北京龍城2周年記念に際してのお礼の電報。	
14	288	今井武夫 支那事変手記	今井武夫		1939	昭和	14	8	4	日記	翌1940年12月31日迄。「桐工作」の頃の日記。14-286の続き。	
☆	☆				1939	昭和	14	8	5	☆		東亜研究所（総裁近衛文麿）調査参与となる
22	529	今井武夫宛「東亜研究所調査参与委嘱書」	近衛文麿	今井武夫	1939	昭和	14	8	5	書類	北平駐在武官時代のものか。	
22	528	大蔵公望書簡	大蔵公望	今井武夫	1939	昭和	14	8	10	書簡	東亜研究所調査参与委嘱。大蔵は東亜研究所副総裁・男爵。	
20	45	楮民誼	楮民誼		1939	昭和	14	8	31	写真	今井大佐恵存として自分のプロフィール写真。	
☆	☆				1939	昭和	14	8		☆		8月中旬から 汪工作推進のため影佐禎昭少将の援助の目的で 上海に出張
14	346	影佐禎昭書簡	影佐禎昭	今井武夫	1939	昭和	14	8		書簡	汪兆銘が6月15日に提出した「中国主権尊重原則実行ニ関シ日本ニ対スル要望」の取り扱いについて。影佐は少将なので8月以降の書簡か。月は推定。本文は臼井大佐および有末大佐に送ったものの参考として今井に送ってきたもの。	
14	450	抗日政權ノ分析 ” 事変解決策ノ研究”	吉田東祐		1939	昭和	14	8		書類	14-449の一部を構成する。陸軍昇紙に記載。吉田は総司令部上海機関。小野寺百合子『バルト海のほとりにて』（共同通信社）75頁によると、吉田は共産党シンパだったが転向した人である。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
11	224	東亜協同体論	加田哲二		1939	昭和	14	9	10	書籍	日本青年外交協会出版部。	
★	★				1939	昭和	14	9	12	☆		支那派遣軍総司令部幹部とともに靖国神社への祈願・挨拶
◎	◎				1939	昭和	14	9	12	◎	支那派遣軍総司令部設置 総司令官西尾寿造大将 参謀長板垣征四郎前陸相	新設された支那派遣軍総司令部参謀 第二課長(情報) 兼 第四課長(政務)
20	98	支那派遣軍総司令部幹部靖国神社への挨拶			1939	昭和	14	9	12	写真	西尾大将、板垣参謀長、今井他。靖国神社宮司と。	
20	424	閑院宮から西尾大将たちへの訓示			1939	昭和	14	9	12	写真	閑院宮から 支那派遣軍編成の際の訓示の写真と思われる。杉山元大将ほか約100名弱。今井も。	
14	289	「西尾、板垣の両將軍 けふ 明治神宮、靖国神社に参拜」	朝日新聞社		1939	昭和	14	9	13	新聞	朝日新聞夕刊。14-288に貼付。新聞切抜。	
★	★				1939	昭和	14	9	18	☆		東京出発 南京に向かう
14	353	三巨頭会議決定事項			1939	昭和	14	9	21	書類	於聚星俱樂部。陸軍野紙に印刷記載。20-160は南京の聚星俱樂部について記載ある。汪兆銘・王克敏(臨時政府)・梁鴻志(維新政府)の3者会談。この会談結果に基づき21日上海で汪兆銘、22日南京で連合委員会、24日維新政府の声明が北京と南京でなされた。	
14	394	三巨頭会議決定事項			1939	昭和	14	9	21	書類	於聚星俱樂部。陸軍野紙に記載。14-353と同じだが、手書き記載。汪兆銘・王克敏(臨時政府)・梁鴻志(維新政府)の3者会談。	
★	★				1939	昭和	14	9	22	☆		南京に着任 支那派遣軍総司令部は 南京市中山西路にあり
20	160	於南京聚星俱樂部前の今井武夫			1939	昭和	14	9	23	写真	支那派遣軍赴任したての頃か。14-353は南京でなく、上海の聚星俱樂部となっているが間違いか。	
★	★				1939	昭和	14	9	25	☆		中支那派遣軍 陣没将士の追悼会に出席 於軍官学校校庭
★	★				1939	昭和	14	9	27	☆		陸士三十期 沢本理吉郎 侍従武官・大佐 の同期歓迎会 岡田菊三郎 岡本 吉本 会原 今井出席 百武末吉記者に会い 樊光中心の重慶の不平空気を聴取 未だ機熟せざる気大 同盟通信の安藤と約1時間話す
19	15	文士戦線視察団との記念 久米正雄 尾崎士郎 林芙美子 井上靖 川口松太郎 高見順 山岡荘八 白井喬二 丹羽文雄らとともに			1939	昭和	14	9		写真	於茶寮。今井も一緒。同一2枚あり。今井と佐藤賢了少将 石野芳男大佐 岡田芳政 松村秀逸中佐もいる。	
19	26	今井ともう一人の将校			1939	昭和	14	9		写真	於南京聚星俱樂部。	
14	354	目下研究中の日支新関係調整方針についての要望書	影佐禎昭		1939	昭和	14	9		書類	影佐は少将。1枚。『支那事変の回想』316頁に記載あり。	
14	355	支那側要望第一 中国主権尊重 原則実行ニ関シ日本ニ対スル希望	汪兆銘		1939	昭和	14	9		書類	14-356, 14-357と同じく汪兆銘の要望と思われる。6枚。『支那事変の回想』316頁～319頁に記載あり。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
14	356	支那側要望第二 新中央政府財政問題ニ関シ日本側ニ対スル希望	汪兆銘		1939	昭和	14	9		書類	竹内提出とある。竹内は汪兆銘の略号。14-344参照。14-355に続くもの。2枚。『支那事変の回想』319頁～321頁に記載あり。	
14	357	支那側要望第三 日本側ニ希望スル雑件	汪兆銘		1939	昭和	14	9		書類	「竹内」提出とある。「竹内」は汪兆銘の略号。14-344参照。14-356に続くもの。2枚。『支那事変の回想』321頁に記載あり。	
☆	☆				1939	昭和	14	10	24	☆		小野寺信の下で働いていた吉田東祐が、支那派遣軍総司令部付き囑託となったので、姜豪と会談させるために吉田を香港（澳門）に派遣
☆	☆				1939	昭和	14	10	31	☆		汪兆銘と西尾総司令官・板垣総参謀長との意見交換の際立ち会う
20	433	汪兆銘 西尾寿造 板垣征四郎 今井ほか			1939	昭和	14	10	31	写真	年は推定。	
9	9	閑院参謀総長宮殿下 中支戦線御視察			1939	昭和	14	10		写真	写真20枚。日付は10月末か。	
14	358	中央政治会議指導要領	興亜院		1939	昭和	14	11	1	書類	興亜院会議決定とある。4枚。14-364まで同じ綴りで全27枚。	
14	359	別紙第一（中央政治会議ニ於テ確定セシムヘキモノ） 新中央政府樹立ニ関スル大綱	興亜院		1939	昭和	14	11	1	書類	14-358の別紙第一。2枚。	
14	360	別紙第二（中央政治会議ニ議シ我方要請事項トシテ諒解セシメ所要ノ措置ヲ為サシムヘキモノ） 新中央政府既成政権間ノ関係調整要綱	興亜院		1939	昭和	14	11	1	書類	14-358の別紙第二。4枚。	
14	361	別紙第三（取扱ニ関シテハ備考参照）新支那地方政治形態ニ関スル指導腹案	興亜院		1939	昭和	14	11	1	書類	14-358の別紙第三。7枚。	
14	362	別紙第四（新中央政府樹立前同政府構成分子ヲシテ日本側ニ対シ確約セシムヘキモノ） 新中央政府樹立前新中央政府主要構成分子ノ日本側ニ対スル確約ニ関スル件（案）	興亜院		1939	昭和	14	11	1	書類	14-358の別紙第四。2枚。末尾に備考を含む。	
14	363	日支新関係調整ニ関スル原則	興亜院		1939	昭和	14	11	1	書類	14-358の別冊。1枚。	
14	364	日支新関係調整要綱	興亜院		1939	昭和	14	11	1	書類	14-363の別紙。末尾に備考を含む。7枚。	
☆	☆				1939	昭和	14	11	3	☆		参謀総長閑院宮載仁親王 支那派遣軍総司令部御成
20	429	閑院宮参謀総長支那派遣軍訪問記念			1939	昭和	14	11	3	写真	西尾寿造大将、板垣征四郎中将ほか。約130名。年月は推定。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
★	★				1939	昭和	14	11	4	☆		亜細亜ホテルに宿泊中の多田駿（北支那方面軍）篠塚義雄（第1軍）飯田貞固（第12軍）岡部直三郎（駐蒙軍）各軍司令官に対し、国際情勢、重慶内部の情報、謀略政策等につき講演、終わって記念撮影
20	419	支那における将校 記念撮影写真			1939	昭和	14	11	4	写真	西尾大将、多田中将、板垣中将、影佐少将ほか約80名。今井は大佐。年月日は推定。	
14	451	吉田、姜豪交渉経過報告	吉田東祐		1939	昭和	14	11	10	書類	吉田が今井に提出したもの。今井について記載あり。12-449の一部を構成する。陸軍野紙に記載。14-452関連。吉田は総司令部上海機関。澳門で国民党上海市党部委員の姜豪と会談した報告。2-44参照。	
★	★				1939	昭和	14	11	15	☆		南京で汪兆銘や周仏海と会合、影佐禎昭、堀場一雄、片山良二などと打ち合わせ
★	★				1939	昭和	14	11	17	☆		影佐少将とともに日本に一時帰国二人で梅機関ならびに支那派遣軍の工作要領を参謀本部沢田茂次長部長以下に、午後、畑陸軍大臣、山脇次官等に説明（陸軍中央部に日華協議記録に違背していると反省を促す）別途、一人で、堀場中佐と次長、第一部長に、対重慶工作の内容を説明
★	★				1939	昭和	14	11	19	☆	畑俊六日誌による。	影佐少将とともに汪工作に関し3点中央の意見を聞くため、畑俊六陸軍大臣官邸で関係者と会談
14	257	富永恭次書簡	富永恭次	影佐禎昭	1939	昭和	14	11	20	書簡	北支防共駐屯の地域に関する件。富永は参謀本部第一部長。影佐はこのとき支那派遣軍司令部付、少将。	
17	59	閑院宮載仁親王 中支那視察旅行記念御写真帖	支那派遣軍総司令部		1939	昭和	14	11		写真	10月29日より約10日間。11月3日支那派遣軍総司令部に御成。	
★	★				1939	昭和	14	12	2	☆		上海に出張された秩父宮に随行し、宮に対し重慶直接交渉と汪兆銘工作の必要性を力説して説明
★	★				1939	昭和	14	12	3	☆		飛行場に秩父宮を見送る、宮から御下賜品を賜る
14	452	鈴木中佐 姜豪会談ニ就キテノ報告	吉田東祐		1939	昭和	14	12	11	書類	14-449の一部を構成する。陸軍野紙に記載。14-451関連。吉田は総司令部上海機関。鈴木は姜豪と12月10日および1940年1月3日に姜豪と会っている。日付は推定。	
14	534	長沙飛行場			1939	昭和	14	12	25	書類	14-531の別紙。陸軍野紙に記載。	
14	365	日支新関係調整ニ関スル協議事項ノ取扱要領案			1939	昭和	14	12	26	書類	「本取り扱い案は日本側首脳部のためのもの一切を包括す」とある。4枚。	
14	287	昭和14年 支那事変手記今井大佐	今井武夫		1939	昭和	14			回顧録	14箱-東18所収のファイル。	
21	188	第16師団長 石原莞爾中将 1939年から41年の間 年度は推定			1939	昭和	14			写真		

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
22	136	湘南の写真の絵葉書			1939	昭和	14			絵葉書	4枚。年度は全くの推定。	
20	237	支那派遣軍参謀将校			1939	昭和	14			写真	板垣総参謀長以下全33名。年は推定。	
20	240	支那派遣軍参謀将校			1939	昭和	14			写真	板垣総参謀長以下全34名。年は推定。20-237と場所異なる。	
12	233	第21軍司令官安藤利吉中将			1939	昭和	14			写真		
20	231	支那派遣軍参謀本部			1939	昭和	14			写真	第2課か第4課の課員の写真か。年は推定。	
14	682	今井 「情熱」			1939	昭和	14			新聞	新聞切抜。掲載紙不明。年度は1938年か39年か。梅思平のことを匿名で語って褒めている。	
13	129	周仏海日記（邦訳）	周仏海		1940	昭和	15	1	1	日記	8月20日迄の周仏海日記の日本語翻訳。手書き。翻訳者不明。今井の戦後のノートに手書き清書してあるもの。3-61参照。	
★	★				1940	昭和	15	1	4	☆		板垣総参謀長 中央部に対し 汪兆銘工作 兵力問題等に関し 総軍の意見具申のため上京（今井と公平第一課長随行）
★	★				1940	昭和	15	1	6	☆		上京した折 秩父宮に桐工作の報告を行う
★	★				1940	昭和	15	1	9	☆		南京に帰任
14	291	「信州のホープを語る 11 大佐級を探れば・・・盧溝橋で名を上げた今井大佐」	信濃毎日新聞社		1940	昭和	15	1	13	新聞	信濃毎日新聞夕刊。14-288に貼付。新聞切抜。	
★	★				1940	昭和	15	1	18	☆		漢口 黄鶴楼へ出張（板垣総参謀長らと）
20	313	板垣総参謀長、今井ほか7名の将校			1940	昭和	15	1	18	写真	於漢口黄鶴楼。	
★	★				1940	昭和	15	1	19	☆		湖北省 咸寧へ出張（板垣総参謀長らと）
20	228	湖北省咸寧における写真			1940	昭和	15	1	19	写真	板垣総参謀長らとの記念写真。全16名。	
★	★				1940	昭和	15	1	22	☆		王克敏から汪精衛宛書簡（人事について）
14	397	1月22日附 「大公報」掲載高宗武、陶希聖発表ニヨル「日支国交新調整要綱」 全訳	中国通信社		1940	昭和	15	1	22	書類	汪精衛の売国的密約全文を暴露とある。1月14日付けの訳文。日付は推定。	
14	372A	王克敏書簡	王克敏	汪精衛	1940	昭和	15	1	22	書簡	人事について。日本語訳文。『支那事変の回想』321頁～323頁に記載あり。	
★	★				1940	昭和	15	1	23	☆	汪兆銘・梁鴻志・王克敏、南京に国民政府を樹立することを協議（青島会議、於旧ワルデック総督官邸）	青島へ出張（板垣総参謀長らと）
20	226	青島会議 会談後温室に談笑する三巨頭			1940	昭和	15	1	23	写真		
14	370	中央政治会議前行方日本側声明ニ具備スヘキ要件			1940	昭和	15	1	25	書類	於青島起案。1枚。『支那事変の回想』323頁に記載あり。	
14	371	中央政治会議前行方日本側声明			1940	昭和	15	1	25	書類	於青島起案 要旨案。3枚。『支那事変の回想』324頁～325頁に記載あり。	
★	★				1940	昭和	15	1	26	☆		参謀長会議（板垣総参謀長ほか）に出席
★	★				1940	昭和	15	1	26	☆		日支合同の交歓会（於青島旧ワルデック総督官邸）と板垣声明
20	296	参謀長会議			1940	昭和	15	1	26	写真	板垣総参謀長、今井ほか。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
14	372B	青島会談後ニ於ケル汪精衛氏談話			1940	昭和	15	1	26	書類	1枚。日本語。『支那事変の回想』325頁～326頁に記載あり。	
22	542	陸軍次官阿南惟幾ほか宛「松機関開設ノ件通牒」	今井武夫		1940	昭和	15	1	28	書簡	在上海 阪田公館は今般支那派遣軍参謀部第二課の直轄「松機関」となって事務を開始するので承知願いたい。阪田誠盛の機関のこと。今井は第二課長。松機関の住所は上海欧嘉路瑞康里32号。複写。総参二号外。陸支密受第1313号。	
20	74	支那派遣軍総司令部の写真	柚原		1940	昭和	15	1		写真	柚原は少佐。	
20	81	東洋ホテルの前で全7名			1940	昭和	15	1		写真	青島か。年月は全くの推定。	
☆	☆				1940	昭和	15	2	7	☆		(外務省) 東亜第一課長 田尻愛義 来訪 桐工作について話す
9	77	田尻来寧	今井武夫		1940	昭和	15	2	7	メモ	昭和15年2月7日東亜第一課長田尻来寧。重慶工作を話す。メモ小片1枚。	
14	373	新中央政府外交指導方針要綱			1940	昭和	15	2	9	書類	25部のうちの5号。6枚。	
14	374	特派大使機関案			1940	昭和	15	2	9	書類	25部のうちの5号。3枚。	
☆	☆				1940	昭和	15	2	10	☆		南京を出帆 「佐藤正」名義のパスポートで香港に向う
☆	☆				1940	昭和	15	2	13	☆		澳門に到着
☆	☆				1940	昭和	15	2	14	☆		今井 鈴木卓爾中佐 自称宋子良 張治平と香港で私的会見（「桐工作」始まる）
14	460	桐工作経過ノ概要	支那派遣軍総司令部		1940	昭和	15	2	15	書類	井本熊男の『作戦日誌で綴る支那事変』（芙蓉書房、昭和53年6月）では、「桐工作」の名称正式決定は2月19日となっているが、2月15日付。『支那事変の回想』326頁～332頁に記載あり。	
14	447	スノ重慶行ニ関スル王克敏ノ内話要旨	太田		1940	昭和	15	2	16	書類	陸軍野紙に記載。「ス」とはスチュアート燕大校長を指す。太田は書記官の太田一郎のことか。1940年は推定。文中の喜多は喜多誠一興亜院長官のことか。	
14	136	陶希聖の文書の写真			1940	昭和	15	2	17	写真	汪精衛事件の反響を表した陶希聖の文書の写真資料か。7枚。14-135に添付。	
☆	☆				1940	昭和	15	2	17	☆		香港から南京に帰り 板垣総参謀長室で報告
14	459	対宋子良工作指導要領	支那派遣軍総司令部		1940	昭和	15	2	17	書類	6部中3号。	
☆	☆				1940	昭和	15	2	19	☆		上京して 中央部（畑陸相 参謀総長閑院宮載仁親王）に宋子良工作を報告
14	461	支那派遣軍総司令官西尾寿造宛 桐工作の件指示	閑院宮載仁親王	西尾寿造（支那派遣軍総司令官）	1940	昭和	15	2	21	書類	大陸指第661号。支那派遣軍は、別冊「桐工作指導要領」14-462に基づき、謀略として私的会談を実施するものとする。陸軍野紙に記載。閑院宮は参謀総長。4部の内1号。『支那事変の回想』332頁～333頁に記載あり。	
14	462	桐工作指導要領	閑院宮載仁親王		1940	昭和	15	2	21	書類	14-461の別冊。陸軍野紙に記載。『支那事変の回想』333頁に記載あり。1枚。	
14	463	桐工作の為の条件	閑院宮載仁親王		1940	昭和	15	2	21	書類	14-462の別紙。陸軍野紙に記載。『支那事変の回想』333頁～334頁に記載あり。2枚。	
☆	☆				1940	昭和	15	2	22	☆		南京に帰任 宋子良工作は「桐工作」と称することに決定された旨報告

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
14	448	丁黙邨派ハ呉開先、小野寺折衝経過ヲ暴露ス	総司令部上海機関		1940	昭和	15	2	23	書類	陸軍昇紙に記載。1940年は推定。	
14	396	陶希聖書簡 訳文	陶希聖	今井武夫	1940	昭和	15	2	26	書簡	陶希聖から今井宛信書。汪兆銘との訣別の心情を吐露したもの。訳文。陸軍昇紙に記載。12-43でもこの手紙のことが言及されている。『支那事変の回想』に封筒と中身の写真あり。105～106頁に訳文記載あり。	
14	464	陸軍航空兵大佐 臼井茂樹宛身分証明書	畑俊六	臼井茂樹（陸軍航空兵大佐）	1940	昭和	15	2	27	書類	支那側と協議することの証明。畑は陸軍大臣。押印。	
14	465	陸軍騎兵中佐 鈴木卓爾宛身分証明書	畑俊六	鈴木卓爾（陸軍騎兵中佐）	1940	昭和	15	2	27	書類	支那側と協議することの証明。畑は陸軍大臣。押印。	
14	466	陸軍歩兵大佐 今井武夫宛身分証明書	畑俊六	今井武夫	1940	昭和	15	2	27	書類	支那側協議することの証明。畑は陸軍大臣。押印。『支那事変の回想』に写真あり。	
14	467	陸軍航空兵大佐 臼井茂樹宛身分証明書	畑俊六	臼井茂樹（陸軍航空兵大佐）	1940	昭和	15	2	27	書類	支那側と協議することの証明。畑は陸軍大臣。花押。	
14	468	陸軍騎兵中佐 鈴木卓爾宛身分証明書	畑俊六	鈴木卓爾（陸軍騎兵中佐）	1940	昭和	15	2	27	書類	支那側と協議することの証明。畑は陸軍大臣。花押。	
14	469	陸軍歩兵大佐 今井武夫宛身分証明書	畑俊六	今井武夫	1940	昭和	15	2	27	書類	支那側と協議することの証明。畑は陸軍大臣。花押。	
★	★				1940	昭和	15	2	28	☆		南京を出発
★	★				1940	昭和	15	2		☆	この頃 辻政信から決闘の申し込み。	辻政信 支那派遣軍総司令部付として着任
4	77	吉祥図案解題 支那風俗の一研究 上	野崎誠近		1940	昭和	15	2		冊子	1927年に初版されたものを、加筆修正の上再刊したもの。段祺瑞の書が序にある。野崎は天津の大商人であった。	
4	78	吉祥図案解題 支那風俗の一研究 下	野崎誠近		1940	昭和	15	2		冊子	4-77と同じカバーにある。	
14	470	今井武夫 鈴木卓爾 臼井茂樹の3名を支那事変処理のため香港に派遣したことの証明書	西尾寿造		1940	昭和	15	3	1	書類	西尾は支那派遣軍総司令官。支那派遣軍総司令官印。『支那事変の回想』334頁～335頁に記載あり。	
★	★				1940	昭和	15	3	1	☆		上海から飛行機で広東着
★	★				1940	昭和	15	3	4	☆		汽船海珠丸で澳門に至り 4日香港着
14	508	停戦条件	支那派遣軍総司令部参謀部		1940	昭和	15	3	4	書類	陸軍昇紙に記載。14-485 に似ているが日付が異なる。	
14	137	支那側ノ和平条件ト之ニ対処スヘキ日本ノ態度 一. 和平条件 二. 支那側ノ真意 三. 日本ノトルヘキ態度	小川愛次郎		1940	昭和	15	3	5	書類	第48号。「重慶大公報」に公表された2月25日付け支那側和平条件についてのコメント。小川は満鉄上海公社。18-351参照。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
★	★				1940	昭和	15	3	7	☆	「桐工作第一次会談」 香港で3月10日まで行われる 白井茂樹大佐未着のため第1日（7日）は懇談。第2日から全体の懇談。	桐工作第一次会談 ～3月10日 日本側代表：今井大佐、鈴木中佐 （オブザーバー）白井 茂樹大佐 （通訳）阪田誠盛 中国側代表：宋子良、重慶行営参 謀処副長陸軍中将陳超霖、元駐独 大使館参事官で最高国防会議秘書 主任・章友三 （予備員）侍従次長陸 軍少将・張漢年 （連絡員）香港大学教授 張治平
14	473	会談順序 第一次～第三次会談	今井武夫		1940	昭和	15	3	7	会議録	3月7日から9日までの会談記録メモ。	
★	★	桐工作メモ	張治平		1940	昭和	15	3	8	☆	『支那事変の回想』339頁に關係記載あり。	
14	475	日支両国覚書			1940	昭和	15	3	9	書類	『支那事変の回想』137頁に記載あり。	
14	476	覚書に関するメモ	今井武夫		1940	昭和	15	3	10	メモ	自筆の間違いか。	
14	477	第四回会談	今井武夫		1940	昭和	15	3	10	メモ	自筆の間違いか。	
★	★				1940	昭和	15	3	10	☆		中国側から蒋介石の訓令を受けた として「和平意見書」が提出され る
14	480	支那側 和平意見			1940	昭和	15	3	10	書類	中国側の意見。「和平意見」と題する封筒にあり。『支那事変の回 想』128頁～129頁に記載あり。	
14	481	支那側 和平意見			1940	昭和	15	3	10	書類	14-480の翻訳か。	
14	482	支那側 和平意見			1940	昭和	15	3	10	書類	14-480の手書きか。	
14	509	停戦協定ニ関スル私見	辻政信		1940	昭和	15	3	10	書類	陸軍野紙に記載。辻は少佐。	
14	484	今井、白井の桐工作成立に至 るまでの予定表（案）	今井武夫		1940	昭和	15	3	11	メモ	3月25日まで。メモ。	
14	483	桐工作円卓会議ノ経過概要	支那派遣軍総司 令部		1940	昭和	15	3	13	書類	『支那事変の回想』335頁～339頁に記載あり。日付は推定。会議 録。	
14	485	停戦条件	支那派遣軍総司 令部参謀部		1940	昭和	15	3	14	書類	陸軍野紙に記載。	
14	486	停戦議定書	支那派遣軍総司 令部参謀部		1940	昭和	15	3	14	書類	陸軍野紙に記載。	
14	526	桐工作指導行事予定案	支那派遣軍総司 令部参謀部		1940	昭和	15	3	14	書類	陸軍野紙に記載。3月15日から4月8日までの予定。	
14	453	澳門行き経過報告	吉田東祐		1940	昭和	15	3	15	書類	吉田が今井に提出したもの。14-449の一部を構成する。陸軍野紙に記 載。吉田は総司令部上海機関。	
14	487	停戦実行要領（第一案）	第一課		1940	昭和	15	3	15	書類	陸軍野紙に記載。	
14	492	停戦協定ニ於テ東亞連盟結成 ヲ確約セシムル必要ニ就イテ （案）	支那派遣軍総司 令部参謀部		1940	昭和	15	3	15	書類	陸軍野紙に記載。5部中3号。7枚。『支那事変の回想』345頁～347頁 に記載あり。	
14	493	東亞連盟結成方策（案）	支那派遣軍総司 令部参謀部		1940	昭和	15	3	15	書類	14-492の別冊。陸軍野紙に記載。5枚。『支那事変の回想』347頁～ 348頁に記載あり。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
14	494	東亜連盟結成共同宣言案	支那派遣軍総司令部参謀部		1940	昭和	15	3	15	書類	陸軍野紙に記載。14-493の別紙第一。1枚。『支那事変の回想』348頁に記載あり。	
14	495	共同防衛（防共）秘密協定案	支那派遣軍総司令部参謀部		1940	昭和	15	3	15	書類	陸軍野紙に記載。14-493の別紙第二。2枚。『支那事変の回想』349頁に記載あり。	
14	496	説明	支那派遣軍総司令部参謀部		1940	昭和	15	3	15	書類	陸軍野紙に記載。実質1枚。	
14	510	東亜連盟結成ニ関スル折衝資料案	支那派遣軍総司令部		1940	昭和	15	3	15	書類	陸軍野紙に記載。想定問答。5部中3号。11枚。	
14	511	停戦実行要領（第一案）	第一課		1940	昭和	15	3	15	書類	陸軍野紙に記載。5部中3号。5枚。	
14	497	支那派遣軍総司令官西尾寿造宛 桐工作の件指示	閑院宮載仁親王	西尾寿造（支那派遣軍総司令官）	1940	昭和	15	3	17	書類	大陸指第676号。閑院宮は参謀総長。軍事機密。6部中1号。『支那事変の回想』339頁～340頁に記載あり。参謀本部情報部長の土橋勇逸少将が18日に南京に飛び支那派遣軍に大陸指を直接伝達したものの。	
14	498	桐工作実施要領	閑院宮載仁親王		1940	昭和	15	3	17	書類	14-497の別冊。『支那事変の回想』340頁に記載あり。	
14	499	停戦ヲ許容スル為準拠スヘキ条件	閑院宮載仁親王		1940	昭和	15	3	17	書類	14-498の別紙第一。『支那事変の回想』340頁に記載あり。	
14	500	停戦ニ関スル要綱	閑院宮載仁親王		1940	昭和	15	3	17	書類	14-498の別紙第二。『支那事変の回想』341頁に記載あり。	
14	501	本工作ト新中央政府樹立工作トノ関係処理要綱	閑院宮載仁親王		1940	昭和	15	3	17	書類	14-498の別紙第三。『支那事変の回想』341頁～342頁に記載あり。	
14	502	支那派遣軍総司令官西尾寿造宛 桐工作の件指示	閑院宮載仁親王	西尾寿造（支那派遣軍総司令官）	1940	昭和	15	3	17	書類	大陸指第676号。閑院宮は参謀総長。14-497の複写。	
14	503	桐工作実施要領	閑院宮載仁親王		1940	昭和	15	3	17	書類	14-502の別冊。14-498に同じ。	
14	504	停戦ヲ許容スル為準拠スヘキ条件	閑院宮載仁親王		1940	昭和	15	3	17	書類	14-503の別紙第一。14-499に同じ。	
14	505	停戦ニ関スル要綱	閑院宮載仁親王		1940	昭和	15	3	17	書類	14-503の別紙第二。14-500に同じ。	
14	506	本工作ト新中央政府樹立工作トノ関係処理要綱	閑院宮載仁親王		1940	昭和	15	3	17	書類	14-503の別紙第三。14-501に同じ。	
14	490	桐工作指導行事予定	支那派遣軍総司令部参謀部		1940	昭和	15	3	18	書類	陸軍野紙に記載。3月18日から4月20日までの予定。銘ニ曰く「曠古和戦ノ決 唯夫レーノ断アルノミ 二千六百年ノ大舞台 正通ト寛容と胆力ト」。	
14	527	桐工作指導行事予定	支那派遣軍総司令部参謀部		1940	昭和	15	3	18	書類	陸軍野紙に記載。3月18日から4月20日までの予定。4-490と同一。	
14	488	汪重関係調整指導	支那派遣軍総司令部参謀部		1940	昭和	15	3	21	書類	汪兆銘と重慶の関係。停戦と和議を分離して取り扱い、この間隔に、（汪兆銘政府と重慶政府との）合流問題を措置すると書かれている。6号中6号。6枚。	
14	489	桐工作指導行事予定			1940	昭和	15	3	21	書類	3月22日から3月30日までの予定表。陸軍野紙に記載。	
14	491	樹立問題ノ規正要領			1940	昭和	15	3	21	書類	中央政府樹立のことか。陸軍野紙に記載。	
14	507	武田軍需工業株式会社（武田洋行）商用略語表			1940	昭和	15	3	21	書類	著者は不明。上海の東亜同文書院を卒業し、外務省情報部・興亜院・大東亜省で支那・中国研究に従事した。	
14	513	桐工作指導行事予定属表			1940	昭和	15	3	21	書類	3月22日から3月30日までの予定表。陸軍野紙に記載。14-489に同じ。	
14	514	樹立問題ノ規正要領			1940	昭和	15	3	21	書類	中央政府樹立のことか。陸軍野紙に記載。14-491に同じ。	
14	515	停戦及合流指導ニ関スル相互関係			1940	昭和	15	3	21	書類	年は推定。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備 考	今 井 武 夫 年 譜
14	541	停戦及合流指導ニ関スル相互 関係			1940	昭和	15	3	21	書類	第一方式、第二方式、持久方式10例の図式。年は推定。	
☆	☆				1940	昭和	15	3	28	☆		維新政府成立2周年記念慶祝に出席
20	37	維新政府成立2周紀念慶祝礼成 撮影写真			1940	昭和	15	3	28	写真		
☆	☆				1940	昭和	15	3	30	☆	国民政府 南京遷都宣言 汪兆銘代理主席（名目主席は重慶政府の 林森）	国民政府南京遷都式典に出席
20	41	国民政府南京遷都式典 阿部 信行大使の祝辞に答える汪代 理主席			1940	昭和	15	3	30	写真		
3	131	国民政府遷都宣言をなす汪代 理主席			1940	昭和	15	3	30	写真		
☆	☆				1940	昭和	15	3	31	☆		南京国際倶楽部で日中関係者記念 撮影
20	84	汪政権の成立を祝った翌日の 記念撮影 汪兆銘 影佐禎昭 今井 犬養健 伊藤芳男 周仏海 陳公博 梅思平 周隆庠 9名			1940	昭和	15	3	31	写真	南京国際倶楽部で、日中関係者記念撮影。14-125と同じだが大きい もの。	
9	17	私服の今井			1940	昭和	15	3		写真	9-15に挿入。	
20	113	遷都直後武漢にて民衆に和平 を説く汪兆銘代理主席			1940	昭和	15	3		写真		
14	471	桐工作中国側との交渉時のメモ	今井武夫		1940	昭和	15	3		メモ		
14	472	日本準備会談要領	今井武夫		1940	昭和	15	3		書類		
14	516	呉啓鼎ニ関スル説明資料	総司令部上海機 関		1940	昭和	15	4	10	書類	陸軍野紙に記載。年は推定。	
14	449	直接交渉ノ主張ト其ノ経過	吉田東祐	今井武夫	1940	昭和	15	4	15	書類	吉田は総司令部上海機関。今井に宛てたもの。陸軍野紙に記載。第 二課片山参謀の印あり。	
19	10	天長節記念			1940	昭和	15	4	29	写真		
10	432	「派遣軍将兵に告ぐ」	朝日新聞社		1940	昭和	15	4	29	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
19	150	支那事変論功行賞調査票	支那派遣軍総司 令部		1940	昭和	15	4	29	書類	対象は今井武夫。	
22	517	今井武夫宛叙勲「叙旭日中綬 章」	下條康麿	今井武夫	1940	昭和	15	4	29	書類	支那事変における功により叙旭日中綬章及金参千円授与。下條は賞 勳局総裁。	
☆	☆				1940	昭和	15	4	30	☆		汪兆銘から詩集「雙樓詩詞藁」 と「掃葉集」の2冊を手交さる
12	326	雙照樓詩詞藁 掃葉集序	汪兆銘		1940	昭和	15	4	30	書類	汪兆銘から今井に送られた詩稿の自序（今井貞夫写す）。『支那事 変の回想』に汪から贈られた詩集のカバー写真あり。	
20	75	四月作戦 白馬塘	柚原		1940	昭和	15	4		写真	柚原は少佐。	
☆	☆				1940	昭和	15	5	2	☆		上京した折 秩父宮に桐工作の報 告を行う

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
★	★				1940	昭和	15	5	5	☆	双方の主張は平行線に終る。	興亜院が權益主義に偏しているとして 興亜院陸軍関係者（洪思翊大佐ほか）と 支那派遣軍総司令部参謀（板垣総参謀長ほか）との連絡会議（於支那派遣軍総司令部）
20	397	南京で開かれた興亜院連絡部長会議全景			1940	昭和	15	5	5	写真	今井は写真のなかにおらず。年代と日付は推定。	
14	528	桐工作第二次会談	支那派遣軍総司令部参謀部		1940	昭和	15	5	5	書類	陸軍野紙に記載。年は推定。	
14	536	国共軋情况窺知資料（馮報）	支那派遣軍総司令部上海機関		1940	昭和	15	5	7	書類	陸軍野紙に記載。軍上機特報第272号。年は推定。	
14	537	重慶方面ニ政局ノ重大変化ヲ予測ス（馮報）	支那派遣軍総司令部上海機関		1940	昭和	15	5	9	書類	陸軍野紙に記載。軍上機特報第283号。年度は全くの推定。	
★	★				1940	昭和	15	5	10	☆		英国領広東を出国
13	121	領収書	英国広東領事館	佐藤正	1940	昭和	15	5	10	書類	出国税。13-120の佐藤正名義のパスポートに挿入。佐藤正宛 8、20ドルの領収書。英語。	
★	★				1940	昭和	15	5	13	☆		桐工作 今井 鈴木中佐 坂田囁託と 宋子良 章友三会議 ①（於香港対岸 九龍のペニンシュラホテル） 今井「巨頭会談」（大物会談）を提案
14	535	国共軋ハ最後ノ段階ニ達セントシアリ（馮報）	支那派遣軍総司令部上海機関		1940	昭和	15	5	13	書類	陸軍野紙に記載。軍上機特報第287号。4月13日は5月13日の間違いか。年は推定。	
14	531	伯林会談準備要領	参謀本部第八課		1940	昭和	15	5	16	書類	陸軍野紙に記載。一部停戦地区大物会談準備史料。「伯林」は長沙の隠語。当時の第八課長は白井茂樹大佐。『支那事変の回想』342頁～345頁に記載あり。	
★	★				1940	昭和	15	5	17	☆		桐工作 今井 鈴木と 宋子良 章友三会議 ②（於香港対岸 ペニンシュラホテル）
14	275	自称宋子良 曾紀宏	今井武夫		1940	昭和	15	5	17	写真	於ペニンシュラホテルの鍵穴から撮影したもの。『支那事変の回想』に写真あり。	
3	114	桐工作関連 宋子良と称した男			1940	昭和	15	5	17	写真		
20	222	桐工作関連 宋子良と称した男			1940	昭和	15	5	17	写真	月日は推定。	
14	478	宋子良	今井武夫		1940	昭和	15	5	17	写真		
14	479	自称宋子良 曾紀宏	今井武夫		1940	昭和	15	5	17	写真	14-478と同じ「参考文書」の封筒の中にあり。	
14	538	浙東方面ノ政局ノ動キニモ重慶政局ノ動キ反映シアリ（馮報）	支那派遣軍総司令部上海機関		1940	昭和	15	5	17	書類	陸軍野紙に記載。軍上機特報第293号。年度は全くの推定。	
★	★				1940	昭和	15	5	18	☆		「白銀丸」で香港を出帆し、広東、台北を経由して22日南京に帰還
14	540	現政局ニ対スル中共同情者宋美齡ノ動向（馮報）	支那派遣軍総司令部上海機関		1940	昭和	15	5	22	書類	陸軍野紙に記載。軍上機特報第308号。年度は全くの推定。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
14	530	第一次準備会議について	大本営		1940	昭和	15	5	25	書類	陸軍野紙に記載。大本営とある。	
14	548	桐工作今後ノ指導ニ関シ参謀次長ト総参謀長ノ懇談事項	支那派遣軍総司令部		1940	昭和	15	5	26	書類	陸軍野紙に記載。	
14	542	第二次準備会談指導要領	支那派遣軍総司令部参謀部		1940	昭和	15	5	28	書類	陸軍野紙に記載。	
14	547	第二次準備会談指導要領	支那派遣軍総司令部参謀部		1940	昭和	15	5	28	書類	陸軍野紙に記載。14-542と同一だが一部メモあり。	
★	★				1940	昭和	15	5	29	☆		桐工作につき板垣参謀長審議（於板垣総参謀長舎）
★	★				1940	昭和	15	5	30	☆		南京汪公館に汪兆銘を訪問
20	425	汪兆銘、今井、周隆庠、黒根祥作 於南京汪公館			1940	昭和	15	5	30	写真	20-21の複写。	
20	426	汪兆銘、周隆庠、黒根祥作の写真 於南京汪公館			1940	昭和	15	5	30	写真	20-425と同じときの写真。	
20	421	汪兆銘訪問			1940	昭和	15	5	30	写真	於南京汪公館。汪兆銘、今井、周隆庠、黒根祥作（通訳）。同様なものもう1枚あり。20-425のオリジナル。黒根は昭和16年出版の汪兆銘の書「日本と携えて」（朝日新聞社）の訳者。昭和10年には大阪時事新報の北平特派員を勤めている。	
14	543	第一條取扱各案	支那派遣軍総司令部参謀部		1940	昭和	15	5	30	書類	満州国承認問題。 3案記載あり。 陸軍野紙に記載。	
14	549	第一條取扱各案	支那派遣軍総司令部参謀部		1940	昭和	15	5	30	書類	満州国承認問題。 3案記載あり。 陸軍野紙に記載。14-543と同じ。今井の自筆メモあり。	
14	550	第三條取扱各案	支那派遣軍総司令部参謀部		1940	昭和	15	5	31	書類	防共に関する問題。 3案記載あり。 陸軍野紙に記載。同一2部あり。	
14	551	昭和貿易株式会社（昭和洋行）商用略語表			1940	昭和	15	6	1	書類	桐工作（現物取引）に関する略語（暗号表）。西尾大将は菊池。今井の暗号は佐藤、総司令部は昭和洋行総代理店。宋子良は山中又は山路。15-507に似ているが若干異なる。	
14	552	今井武夫、鈴木卓爾、臼井茂樹の3名を支那事変処理のため派遣したことの証明書	西尾寿造		1940	昭和	15	6	1	書類	西尾は支那派遣軍総司令官。支那派遣軍総司令官印。『支那事変の回想』に写真あり。	
14	553	今井武夫宛委任状	閑院宮載仁親王	今井武夫	1940	昭和	15	6	1	書類	停戦及び和平条件に関する支那側代表との折衝の委任。陸軍野紙に記載。	
14	554	今井武夫、鈴木卓爾、臼井茂樹の3名を事変処理の会談のため派遣したことの証明書	板垣征四郎		1940	昭和	15	6	1	書類	板垣は支那派遣軍総参謀長。支那派遣軍総参謀長印。	
★	★				1940	昭和	15	6	2	☆		南京から澳門へむけ出発 3日広東 4日「白銀丸」で澳門着
14	556	桐工作中国側代表3名の証明書	今井武夫		1940	昭和	15	6	2	メモ	6月2日付 蔣介石による中国側代表3名の証明書の書き写しか。陸軍野紙に貼付。	
★	★				1940	昭和	15	6	4	☆		6月6日まで3日間 桐工作の第二次会談（澳門会議） 初日 日本側出席者 今井、鈴木卓爾、臼井茂樹（謀略課長）、通訳 内之宮中尉 中国側は宋子良（自称） 章友三と張治平

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
14	559	桐工作の第二次会談（澳門会議） メモ	今井武夫		1940	昭和	15	6	4	メモ	6月4日から 6日までの3日間会談メモ。9枚。	
★	★				1940	昭和	15	6	5	☆	2日め。自午後8時至午後11時半。於張治平借家。『支那事変の回想』351頁～352頁に記載あり。	桐工作 第二次会談 2日め (澳門會議)
★	★				1940	昭和	15	6	6	☆	3日め。 自午後2時至午後4時。於ペラピスタ・ホテル。 自午後6時半至午後10時半。張治平借家 『支那事変の回想』352頁～353頁に記載あり。	桐工作 第二次会談 3日め (澳門會議)
14	560	桐工作第二次会談ノ意見			1940	昭和	15	6	6	書類	陸軍野紙に記載。第1条、3条、7条問題。末尾に日付記載。	
14	562	桐工作第二次会談ノ意見			1940	昭和	15	6	6	書類	冒頭に日付記載。陸軍野紙に記載。	
14	564	桐工作第二次会談ノ意見			1940	昭和	15	6	6	書類	陸軍野紙に記載。陸軍野紙に記載。14-562に同じ。	
14	565	桐工作第二次会談ノ意見			1940	昭和	15	6	6	書類	陸軍野紙に記載。第1条、3条、7条問題。末尾に日付記載。14-560に同じ。	
14	590	桐工作第二次会談ノ意見			1940	昭和	15	6	6	書類	「第二次会談意見」と記載された陸軍封筒に挿入。中国側意見（中国文）	
20	239	河南省信陽地区における将校 ほかの記念撮影			1940	昭和	15	6	13	写真	板垣征四郎総参謀長、今井ほか全20名。中国服の男1名。年度は1940年か1941年。	
◎	◎				1940	昭和	15	6	19	◎		第四課長（政策）兼務解任
14	566	次長トノ桐工作関係懇談事項			1940	昭和	15	6	23	書類	陸軍野紙に記載。次長とは沢田茂参謀次長のことか。『支那事変の回想』361頁に記載あり。	
★	★				1940	昭和	15	6	24	☆		汪兆銘と板垣 今井の桐工作に関する会議（於汪公館） その後 板垣参謀長と今井 会食
14	596	会談要旨			1940	昭和	15	6	24	書類	汪兆銘、板垣、今井会談。於汪公館。陸軍野紙に記載。	
14	607	桐工作三巨頭会談ニ関スル計画	支那派遣軍総司令部		1940	昭和	15	6	24	書類	陸軍野紙に記載。日・汪・支 三巨頭。	
★	★				1940	昭和	15	6	25	☆		南京に出張した参謀次長沢田茂中将 支那派遣軍参謀首脳と桐工作の進め方と三者会談を行う際の安全確保につき協議
14	544	訓令案骨子			1940	昭和	15	6	25	書類	陸軍野紙に記載。停戦条件の大綱は第3次近衛声明に準拠するものとする。	
14	599	訓令案骨子			1940	昭和	15	6	25	書類	陸軍野紙に記載。	
14	545	停戦議定書（案）	支那派遣軍総司令部参謀部		1940	昭和	15	6	25	書類	陸軍野紙に記載。	
14	600	停戦議定書（案）	支那派遣軍総司令部参謀部		1940	昭和	15	6	25	書類	陸軍野紙に記載。	
14	546	蒋介石ニ対スル親書（案）	板垣征四郎		1940	昭和	15	6		書類	陸軍野紙に記載。	
14	522	東亞連盟結成方案要旨			1940	昭和	15	6		書類	陸軍野紙に記載。月は推定。	
14	523	東亞連盟協提案			1940	昭和	15	6		書類	14-522の別紙第一。陸軍野紙に記載。月は推定。	
14	524	共同防衛秘密協定案			1940	昭和	15	6		書類	14-522の別紙第二。陸軍野紙に記載。月は推定。	
14	525	説明			1940	昭和	15	6		書類	14-522の説明。陸軍野紙に記載。月は推定。	
★	★				1940	昭和	15	7	4	☆		情報会議に出席

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
9	45	情報主任参謀会同席上ニ於ケル 総参謀長挨拶要旨	支那派遣軍総司令部		1940	昭和	15	7	4	書類		
9	46	情報主任会同席上ニ於ケル第 二課長口演要旨（対支一般情 勢）	支那派遣軍総司令部		1940	昭和	15	7	4	書類		
14	570	桐工作巨頭会談ニ関スル計画	支那派遣軍総司令部		1940	昭和	15	7	12	書類	陸軍野紙に記載。7月下旬の28日、長沙を規定。14-567に同じ。	
14	567	桐工作巨頭会談ニ関スル計画	支那派遣軍総司令部		1940	昭和	15	7	12	書類	陸軍野紙に記載。7月下旬の28日、長沙を規定。日支二巨頭を想定。 『支那事変の回想』363頁～372頁に記載あり。	
14	568	汽船ヲ主トスル場合ノ行動基 準表	支那派遣軍総司令部		1940	昭和	15	7	12	書類	14-567の付表第一。7月13日から7月31日までの予定表。7月28日を会 談第1日と予定。『支那事変の回想』368頁～369頁に記載あり。	
14	571	汽船ヲ主トスル場合ノ行動基 準表	支那派遣軍総司令部		1940	昭和	15	7	12	書類	14-567の付表第一。7月13日から7月31日までの予定表。7月28日を会 談第1日と予定。14-568に同じ。	
14	569	飛行機ヲ主トスル場合ノ行動 基準表	支那派遣軍総司令部		1940	昭和	15	7	12	書類	14-567の付表第二。7月13日から7月31日までの予定表。7月28日を会 談第1日と予定。『支那事変の回想』370頁～371頁に記載あり。	
14	572	飛行機ヲ主トスル場合ノ行動 基準表	支那派遣軍総司令部		1940	昭和	15	7	12	書類	7月13日から7月31日までの予定表。7月28日を会談第1日と予定。3 枚。	
★	★				1940	昭和	15	7	14	☆	堀場から周に対し 重慶から交渉に来るべき人としては誰がよいか と問い合わせ 周は呉忠信がよいと答えている。	汪兆銘が板垣中將、今井、堀場を 招宴 周仏海 陪席
14	605	訓令案			1940	昭和	15	7	23	書類	14-604の別冊。陸軍野紙に記載。	
14	606	附			1940	昭和	15	7	23	書類	14-605の附か。陸軍野紙に記載。年代日付は推定。	
14	573	総参謀長宛電報	香港機関長	総参謀長	1940	昭和	15	7	24	電報	暗号電報。香港機関長は鈴木卓爾。23日の工作状況。局地停戦につい て。特香港電第365号。『支那事変の回想』372頁～373頁に記載あり。	
14	574	総参謀長宛電報	香港機関長	総参謀長	1940	昭和	15	7	25	電報	暗号電報。香港機関長は鈴木卓爾か。実質は今井大佐宛。蒋介石の猜 疑心について。	
14	575	桐工作終結指導方針	支那派遣軍総司令部参謀部		1940	昭和	15	7	27	書類	陸軍野紙に記載。	
14	601	桐工作終結指導方針	支那派遣軍総司令部参謀部		1940	昭和	15	7	27	書類	陸軍野紙に記載。14-575に同じ。	
★	★				1940	昭和	15	7	28	☆		今井と片山良二少佐 上京して 陸海軍省部の関係者に「桐工作」 の現状報告と打合わせ ～31日
★	★				1940	昭和	15	7	29	☆	「石井秋穂大佐日記 其一 昭和15年分」（防衛省防衛研修所所 蔵）	今井と片山良二少佐 東条英機陸 相に桐工作の報告を行う
19	114	仏領印度支那地図	参謀本部陸地測量部		1940	昭和	15	7		地図		
19	125	ビルマ地図	参謀本部陸地測量部		1940	昭和	15	7		地図		
14	577	局地停戦規約（案）	参謀部第一課		1940	昭和	15	8	2	書類	陸軍野紙に記載。西尾総司令官と蒋介石間の規約案。	
14	578	長沙飛行場整備要領（案）	参謀部第一課		1940	昭和	15	8	3	書類	陸軍野紙に記載。	
14	579	長沙飛行場標識要領（案）	参謀部第一課		1940	昭和	15	8	3	書類	陸軍野紙に記載。	
14	580	日支両国飛行機行動規定 （案）	参謀部第一課		1940	昭和	15	8	3	書類	陸軍野紙に記載。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
14	581	岳州長沙附近局地停戦協定 (案)	南京総司令部		1940	昭和	15	8	8	書類	陸軍野紙に記載。	
14	582	長沙会談ノタメ局地停戦ニ関 スル規約(案)			1940	昭和	15	8	8	書類	陸軍野紙に記載。	
14	608	岳州長沙附近局地停戦協定 (案)	南京総司令部		1940	昭和	15	8	8	書類	陸軍野紙に記載。14-581に同じ。	
14	609	長沙会談ノタメ局地停戦ニ関 スル規約(案)			1940	昭和	15	8	8	書類	陸軍野紙に記載。14-582 に同じ。	
19	100	最新欧州大地図	大阪毎日新聞社		1940	昭和	15	8	10	地図		
14	630	宋一家ニ関スル調査	支那派遣軍参謀 部第二課		1940	昭和	15	8	10	書類	陸軍野紙に記載。今井、白井の面談せる宋子良なる人物真偽疑わし と。	
11	228	詩集・遺書	西村皎三		1940	昭和	15	8	13	書籍	揚子江社版。	
14	583	桐工作処理	支那派遣軍総司 令部参謀部		1940	昭和	15	8	17	書類	陸軍野紙に記載。	
14	610	桐工作処理	支那派遣軍総司 令部参謀部		1940	昭和	15	8	17	書類	陸軍野紙に記載。14-583 に同じ。	
14	613	宛先不明電信		宛先不明	1940	昭和	15	8	17	電報	電信写。「今井大佐は騙されている」という内容。	
14	614	蔣ニ與フルノ書			1940	昭和	15	8	20	書類	陸軍野紙に記載。14-584は似ているが日付なし。	
14	612	近衛文麿書簡	近衛文麿	蒋介石	1940	昭和	15	8	22	書簡	陸軍野紙に記載。『支那事変の回想』に内容記載あり。	
★	★				1940	昭和	15	8	26	☆	於南京聚星俱樂部。	参謀長会議に出席
20	224	参謀長会議			1940	昭和	15	8	26	写真	於聚星俱樂部。	
18	460	南方輿地図	陸地測量部		1940	昭和	15	8		地図		
14	591	桐工作 近衛首相親筆書簡に ついて		桐工作 近衛首相 親筆について	1940	昭和	15	9	3	書類	中国側意見の翻訳か。	
14	617	桐工作 支那（重慶政府）側 文書			1940	昭和	15	9	3	書類	「支那側文書」の陸軍封筒に挿入。渡された近衛親書に満足せず。要求3点。	
14	618	宛先不明電報の写し（中国 側）		宛先不明	1940	昭和	15	9	5	電報	鈴木が持ってきた事を暫く受けない。蒋介石から張治平に重慶に 帰って来いといっている中国側電報のメモ。日付は5/9とある。14- 617と同じ封筒にあり。	
14	594	メモ 帰任報告要旨	今井武夫		1940	昭和	15	9	7	メモ	年代は推定。	
14	615	報告メモ	今井武夫		1940	昭和	15	9	12	メモ	報告、9月12日桐工作鈴木談話（？）か。Hotel Rivera Macau の野 紙に記載。佐藤宛の要項メモ貼付あり。月日は推定。	
◎	◎				1940	昭和	15	9	15	◎		勅令580号により 大佐
★	★				1940	昭和	15	9	19	☆		鈴木卓爾中佐の来電を受け 今井 「桐工作を中止したい旨の発言」 (南京会議で)
14	586	独乙側斡旋誘致ニ関スル意見 具申			1940	昭和	15	9	20	書類	陸軍野紙に記載。	
14	619	独乙側斡旋誘致ニ関スル意見 具申			1940	昭和	15	9	20	書類	陸軍野紙に記載。14-586に同じだが加筆修正箇所が若干異なる。	
14	376	了解事項第四修正案			1940	昭和	15	9	28	書類	1枚。9月28日提出。	
14	377	附属秘密協約案			1940	昭和	15	9	28	書類	9月28日提出。3枚。	
14	378	附属秘密協定案			1940	昭和	15	9	28	書類	3枚。9月28日提出。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
14	379	議事録抜粋第四修正案			1940	昭和	15	9	28	書類	9月28日提出。3枚。	
★	★				1940	昭和	15	9	28	☆		桐工作中止決定
14	587	対重慶工作ニ関スル当面ノ処置			1940	昭和	15	9	28	書類	第二案と書いて削除してある。陸軍野紙に記載。14-624の前段階か。	
14	588	蘭工作塲門作業ノ準拠			1940	昭和	15	9	28	書類	陸軍野紙に記載。	
14	620	今後ニ於ケル対重慶工作処理要領	支那派遣軍総司令部参謀部		1940	昭和	15	9	28	書類	陸軍野紙に記載。	
14	621	第一案 対重慶工作ニ関スル当面ノ処置			1940	昭和	15	9	28	書類	陸軍野紙に記載。	
14	622	対重慶工作ニ関スル当面ノ処置			1940	昭和	15	9	28	書類	第二案と書いて削除してある。陸軍野紙に記載。14-587に同じ。14-624の前段階か。	
14	623	蘭工作塲門作業ノ準拠			1940	昭和	15	9	28	書類	陸軍野紙に記載。14-588に同じ。	
14	624	対重慶工作ニ関スル当面ノ処置			1940	昭和	15	9	28	書類	陸軍野紙に記載。	
14	625	蘭工作塲門作業ノ準拠	支那派遣軍総司令部参謀部		1940	昭和	15	9	28	書類	陸軍野紙に記載。	
14	589	停戦条件			1940	昭和	15	9	29	書類	陸軍野紙に記載。	
14	626	停戦条件			1940	昭和	15	9	29	書類	陸軍野紙に記載。14-589に同じ。	
14	521	桐工作を担当した今井大佐と鈴木卓爾中佐			1940	昭和	15	9		写真	於南京総司令部。 14-520に挿入。	
14	375	日華満共同宣言案中修正の件			1940	昭和	15	10	1	書類	日本語本文においては署名の順序は日、満、華の順とする。9月28日提出。10月1日決定。1枚。	
★	★				1940	昭和	15	10	1	☆	東条陸相の応答は石井秋徳回顧録13-155にある。「謀略は八卦。今後は和平工作は悉く政府担任とする。条件は桐工作と時と同じとする。」「石井秋徳大佐 覚 其二 自昭和15年5月至同年11月」（防衛省防衛研究所蔵）	今井と鈴木卓爾中佐、桐工作経過について東条陸相へ報告
14	458	支那派遣軍総司令官西尾寿造宛進退伺書	今井武夫	西尾寿造（支那派遣軍総司令官）	1940	昭和	15	10	8	書類	14-22の冒頭に挿入。西尾に提出して却下されて返却されたもの。オリジナル。武夫儀から始まる文章。2枚。	
★	★				1940	昭和	15	10	8	☆		桐工作中止により西尾寿造総司令官に「進退伺い」を提出し西尾総司令官に却下・慰留される
★	★				1940	昭和	15	10	11	☆		松岡外相の意向による銭永銘を通じた重慶との工作を図る田尻愛義に南京で会い 桐工作を終了したばかりであり 時宜をえていないと 率直な意見を述べる
14	592	板垣総参謀長への連絡	参謀総長		1940	昭和	15	10	14	書類	支那派遣軍総参謀副長として赴任する土橋（逸勇）少将伝達。半公式。独逸を中心とする和平促進企画しあり。大陸指676号による停戦交渉は中止。陸軍野紙に記載。「本趣旨を半公式にて伝達すること」とある。『支那事変の回想』374頁～375頁に記載あり。参謀総長は杉山元。	
14	629	上海出張報告資料	今井武夫		1940	昭和	15	10	14	書類		
14	631	宋家兄弟姉妹ノ長幼順序ヲ文献的ニ考証ス	支那派遣軍総司令部上海機関		1940	昭和	15	10	21	書類	陸軍野紙に記載。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
★	★				1940	昭和	15	10	30	☆		杉山元参謀総長（大将）南京総司令部訪問
20	406	杉山参謀総長の南京支那派遣軍総司令部来訪記念撮影			1940	昭和	15	10	30	写真	杉山を含めて全38名。西尾、板垣、影佐、今井ほか。	
20	407	将校写真の説明			1940	昭和	15	10	30	書類	20-406添付の将校の名前と階級説明。	
★	★				1940	昭和	15	10	31	☆		浙江省嘉興に西尾寿造総司令官らと視察旅行
20	316	嘉興学校部隊視察記念撮影			1940	昭和	15	10	31	写真	西尾司令官ほか全13名。嘉興は浙江省東北部に位置する。	
●	●				1940	昭和	15	11	10	●		紀元二千六百年祝典記念章
22	522	今井武夫宛「紀元二千六百年祝典記念章」	下條康麿	今井武夫	1940	昭和	15	11	10	勲章	下條は賞勳局総裁。22-521で送付されたものか。	
★	★				1940	昭和	15	11	18	☆		太田宇之助 支那派遣軍囑託 板垣総参謀長邸に赴き 香港大報の張季鸞主筆から入手した情報（蔣介石側が南京を通じた日本側からの和平工作に応じる気はない）を板垣総参謀長 今井武夫課長 辻政信中佐に報告（『太田宇之助日記』）
14	627	張熾章（季鸞）について			1940	昭和	15	11		書類	陸軍野紙に記載。年月は全くの推定。張季鸞は大報の主筆。大阪朝日新聞団野記者の聞き込みあり。団野については21-318参照。	
20	317	板垣総参謀長と外人の記念写真			1940	昭和	15	11	21	写真	於板垣総参謀長邸。外人の名はセツイーダ、ホセツイン、キビーネ。全5名。イスラム圏の人か。	
20	85	寺内大将を囲んで西尾寿造大将、板垣征四郎中将以下 支那派遣軍総司令部幹部将校			1940	昭和	15	11	28	写真	全27名。寺内参事官 支那派遣軍を訪問。	
20	114	汪兆銘国民政府主席宣言			1940	昭和	15	11	29	写真	午前9時。『支那事変の回想』に写真あり。	
20	115	臧式毅満州国全権南京飛行場着			1940	昭和	15	11	29	写真	午後0時半。臧式毅。	
20	116	臧式毅全権、汪主席を訪問			1940	昭和	15	11	29	写真	午後2時。	
20	117	臧式毅全権、阿部信行全権大使を訪問			1940	昭和	15	11	29	写真	午後2時40分。	
20	118	臧式毅全権、西尾総司令官を訪問			1940	昭和	15	11	29	写真	午後3時30分。	
20	119	総軍司令官、艦隊司令官合同日・満・華3国関係者招宴			1940	昭和	15	11	29	写真	午後7時。於東亜倶楽部。	
3	132	汪兆銘 国民政府主席就任宣誓式			1940	昭和	15	11	29	写真	於南京行政院大礼堂。	
20	120	日華两国調印式直前の両代表			1940	昭和	15	11	30	写真	汪兆銘主席と阿部信行全権大使。於南京大礼堂控室。	
20	121	日華两国調印式			1940	昭和	15	11	30	写真	午前10時。於南京大礼堂。汪兆銘主席と阿部信行全権大使。日華条約の内容は、『支那事変の回想』108頁から111頁に記載あり。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
20	122	日満華三国条約調印式			1940	昭和	15	11	30	写真	午前12時。於南京大礼堂。汪兆銘主席、阿部信行全權大使、臧式毅全權大使。	
20	123	日満華三国条約調印式			1940	昭和	15	11	30	写真	午前12時。於南京大礼堂。汪兆銘主席、阿部信行全權大使、臧式毅全權大使。	
20	124	日満華三国条約の調印式を終えた三国代表者たち			1940	昭和	15	11	30	写真	汪兆銘、阿部信行全權大使、臧式毅全權大使ほか。	
20	125	日満華三国条約成立の乾杯写真			1940	昭和	15	11	30	写真		
20	126	日満華三国共同宣言書			1940	昭和	15	11	30	写真		
20	127	日満華三国条約調印式後 カメラマンの前に立つ汪主席、臧式毅全權等			1940	昭和	15	11	30	写真		
20	128	汪主席、日満両国関係者招宴			1940	昭和	15	11	30	写真	午後7時。於大礼堂。	
19	102	外南洋地図			1940	昭和	15	11		地図	海軍の作戦地図か。	
20	129	汪主席主催のカクテルパーティにおける汪主席、臧式毅全權等			1940	昭和	15	12	1	写真	午前12時。	
◎	◎				1940	昭和	15	12	3	◎		支那派遣軍報道部長兼務
14	292	「支那派遣軍新聞報道部長 今井大佐決定」	毎日新聞社		1940	昭和	15	12	4	新聞	毎日新聞。14-288に貼付。新聞切抜。	
14	293	「派遣軍報道部長 後任に今井大佐」	朝日新聞社		1940	昭和	15	12	4	新聞	朝日新聞。14-288に貼付。新聞切抜。	
14	294	「総軍報道部長後任 今井武夫大佐と決定」	大陸新報社		1940	昭和	15	12	4	新聞	南京大陸新報。14-288に貼付。新聞切抜。	
14	295	「総軍報道部長に 今井武夫大佐」	大陸新報社		1940	昭和	15	12	4	新聞	上海大陸新報。14-288に貼付。新聞切抜。	
14	296	「総軍報道部長 後任に今井大佐」			1940	昭和	15	12	4	新聞	上海毎日。14-288に貼付。新聞切抜。	
14	297	「新旧報道部歓送迎会」			1940	昭和	15	12	7	新聞	上海毎日。14-288に貼付。新聞切抜。	
14	298	「新旧報道部歓送迎 記者倶楽部共同主催」	大陸新報社		1940	昭和	15	12	7	新聞	上海大陸新報。14-288に貼付。新聞切抜。	
☆	☆				1940	昭和	15	12	7	☆		支那派遣軍新旧報道部部長歓送迎会
14	299	「事変処理は永びく 今井信報道部長記者団と会見」			1940	昭和	15	12	8	新聞	上海毎日。14-288に貼付。新聞切抜。	
☆	☆				1940	昭和	15	12	12	☆		閑院宮載仁親王 「今井武夫宛日本赤十字社正社員辞令」
22	482	今井武夫宛日本赤十字社正社員辞令	閑院宮載仁親王 今井武夫		1940	昭和	15	12	12	書類	載仁親王は日本赤十字社総裁。縮盟状の封書に同封。	
2	39	随筆 大陸	村上知行		1940	昭和	15	12	12	書籍	大阪屋号書店。	
22	479	縮盟状の封書	日本赤十字社		1940	昭和	15	12	12	封筒	22箱-東10所収の封書。	
22	480	今井武夫宛仮領収書	日本赤十字社 今井武夫		1940	昭和	15	12	12	書類	年醜金として25円也。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
22	481	今井武夫宛領収書	日本赤十字社	今井武夫	1940	昭和	15	12	12	書類	年酬金として25円也。	
★	★				1940	昭和	15	12	22	☆		情報会議に出席
9	47	情報主任参謀会同席上ニ於ケル総参謀長挨拶要旨	支那派遣軍総司令部		1940	昭和	15	12	22	書類		
9	48	情報主任参謀会同席上ニ於ケル第二課長口演要旨	支那派遣軍総司令部		1940	昭和	15	12	22	書類		
6	34	頭山翁清話	柴田徳次郎		1940	昭和	15	12	28	書籍	再版。大民社出版部。	
19	76	大日本共栄圏地図	大阪毎日新聞社		1940	昭和	15	12	30	地図		
20	434	封筒	藏居		1940	昭和	15	12		封筒	20箱-東14所収の封筒。写真在中。藏居は朝日新聞支局。総軍第2課長今井大佐殿とある。年は推定。	
14	512	汪重関係調整指導			1940	昭和	15			書類	汪兆銘と重慶の関係。14-488と同じだが日付と作成部署記載なし。陸軍野紙に記載。	
14	119	支那事変行賞 賜金国債 壹千円			1940	昭和	15			書類	同一3枚。	
14	120	支那事変行賞賜金国庫債券受領後ノ注意事項			1940	昭和	15			書類	年代は推定。	
14	138	陶希聖「新中央政權 是重慶」			1940	昭和	15			雑誌	掲載誌不明。切抜。雑誌か。年代は全くの推定。	
14	369	北支ニ於ケル新中央政府成立ニ伴フ新国旗、国民党、三民主義対策			1940	昭和	15			書類	陸軍野紙に清書して記載してあるが。付箋して赤字で削除・修正している箇所数箇所あり。年度は1939年か1940年か。今井の判が押ししてある。3枚。	
14	454	和平動向	総司令部上海機関		1940	昭和	15			書類	陸軍野紙に記載。	
14	455	「勝海舟ノ対支観」			1940	昭和	15			雑誌	華北評論抜粋。年は推定。勝は征清反対。清国は眠れる獅子にしておいた方がよい。日本戦勝後は講和条件で清から領土を取るべきではないという意見。年は推定。	
14	457	桐工作綴 其一	今井武夫		1940	昭和	15			書類	14箱-東22所収のファイル。	
14	474	張治平筆			1940	昭和	15			書類	張は桐工作交渉の相手方。陸軍野紙にメモ貼付。年は推定。	
20	87	西尾大将、板垣中将以下将校			1940	昭和	15			写真	全154名。年は推定。	
20	88	西尾大将、板垣中将以下将校			1940	昭和	15			写真	全154名。20-87と同じときのもの。年は推定。	
19	105	フィリピン地図（英文）			1940	昭和	15			地図		
20	112	陸軍の封筒			1940	昭和	15			封筒	今井大佐殿掘副官と書かれた20箱-東2所収の陸軍封筒。	
20	130	軍報道部写真班	猪野喜三郎		1940	昭和	15			写真	西尾、板垣、今井ほか。全29名。年は推定。	
19	333	Philippine Islands地図	Manila PI		1940	昭和	15			地図	英文地図。	
20	408	東条陸相の南京支那派遣軍総司令部来訪記念撮影			1940	昭和	15			写真	東条を含めて全38名。西尾、板垣、影佐、今井ほか。時期は20-406の頃か。	
20	409	将校写真の説明			1940	昭和	15			書類	20-408添付の将校の名前と階級説明。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
10	429	「還都随想 ① 駐華帝国大使館書記官 清水董三」			1940	昭和	15			新聞	掲載紙不明。新聞切抜。清水は東亜同文書院12期生。	
10	430	「還都随想 ② 駐華帝国大使館書記官 清水董三」			1940	昭和	15			新聞	掲載紙不明。新聞切抜。	
10	431	「還都随想 ③ 駐華帝国大使館書記官 清水董三」			1940	昭和	15			新聞	掲載紙不明。新聞切抜。	
20	312	京都新聞の封筒			1940	昭和	15			封筒	20箱-東9所収の封筒。写真在封。今井課長殿と記載あり。年は推定。	
20	318	西尾寿造総司令官乗馬写真			1940	昭和	15			写真	年は推定。	
20	337	西尾司令官最前線視察			1940	昭和	15			写真	横に今井の姿も。年は推定。	
20	67	陸軍の封筒	畠山		1940	昭和	15			封筒	漢口写真2枚とある20-65と20-66か。藤本病院で撮るもの1枚。今井課長殿畠山とある。年は推定。	
20	65	将校			1940	昭和	15			写真	支那派遣軍時代のものか。年は推定。	
20	66	兵営にて整列する兵			1940	昭和	15			写真	年は推定。	
20	302	汪兆銘と西尾総軍司令官 日本海軍軍人の懇談			1940	昭和	15			写真	20-119に似た写真であるが若干異なる。年は推定。	
20	364	今井の肖像写真			1940	昭和	15			写真	『支那事変の回想』に使用した写真と同じもの。大佐時代。年は推定。参謀肩章を着けている。	
13	115	児玉誉士夫	児玉誉士夫		1940	昭和	15			名刺	海軍航空本部嘱託・国民政府最高軍事顧問部嘱託・外務省嘱託。東京と上海の住所記載あり。年度は全くの推定。	
20	50	中国中央陸軍軍官訓練開閉式 汪精衛、陳公博、周仏海ほか			1940	昭和	15			写真	年度は全くの推定。	
4	79	野崎誠近書簡	野崎誠近	今井武夫	1940	昭和	15			書簡	本の送り状。4-77と同じカバー内に同封。年は推定。	
20	377	今井の肖像写真			1940	昭和	15			写真	大佐。着帽。参謀肩章をつけている。立像。年は推定。	
20	378	今井の肖像写真			1940	昭和	15			写真	大佐。着帽。参謀肩章をつけている。立像。20-377と同じ時のもの。	
20	416	将校の写真			1940	昭和	15			写真	板垣総参謀長、今井ほか。全21名。年は推定。	
20	423	支那派遣軍将校の記念写真			1940	昭和	15			写真	宮様（三笠宮？）訪問記念か。西尾大将ほか約90名。年は推定。	
14	517	会談経過メモ	今井武夫		1940	昭和	15			会議録	一部陸軍野紙に記載。年は推定。	
14	518	情報	今井武夫		1940	昭和	15			書類	年は推定。	
20	233	板垣総参謀長、今井ほか			1940	昭和	15			写真	年は推定。	
20	235	板垣総参謀長、今井ほか			1940	昭和	15			写真	全13名。年は推定。	
20	238	支那派遣軍参謀将校			1940	昭和	15			写真	板垣総参謀長以下全19名。年は推定。	
20	379	今井の肖像写真			1940	昭和	15			写真	陸軍大佐。着帽。参謀肩章をつけている。立像。南京時代のものか。年は推定。	
20	380	今井の肖像写真			1940	昭和	15			写真	陸軍大佐。参謀肩章をつけている。脱帽。年は推定。同一2枚あり。	
20	381	今井の肖像写真			1940	昭和	15			写真	陸軍大佐。参謀肩章をつけている。脱帽。年は推定。	
14	519	書類メモ	今井武夫		1940	昭和	15			メモ	書類。年は推定。	
20	373	今井の肖像写真			1940	昭和	15			写真	陸軍大佐。参謀肩章をつけている。同一2枚。年は推定。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
20	338	大宮部隊参謀 上海陸軍病院慰問			1940	昭和	15			写真	大宮は皇族の変名か。三笠宮か。年は推定。	
20	339	春日部隊長 上海病院慰問			1940	昭和	15			写真	春日部は皇族の変名か。年は推定。	
14	520	桐工作綴 其二	今井武夫		1940	昭和	15			書類	14箱-東23所収のファイル。	
13	100	銭大樞	銭大樞		1940	昭和	15			名刺	中央儲備銀行 副総裁。今井大佐殿となっている。年は推定。	
19	48	今井の写真			1940	昭和	15			写真	大佐時代のものか。年は推定。	
19	49	今井の写真			1940	昭和	15			写真	大佐時代のものか。年は推定。	
20	55	将校			1940	昭和	15			写真	支那派遣軍総司令部将校たちの写真か。年は推定。	
20	53	将校			1940	昭和	15			写真	支那派遣軍総司令部将校たちの写真か。年は推定。	
20	80	今井武夫			1940	昭和	15			写真	陸軍大佐のときのものか。年は推定。	
21	225	色紙	安岡正篤		1940	昭和	15			書類	年は推定。	
20	301	浙東作戦 雪中の突撃			1940	昭和	15			写真	日本軍は1940年4月、援蔣介石ルートを破壊する目的で浙江省東部を占領する浙東作戦を開始した。年は推定。	
20	304	南京に開かれた中央政治会議「和平運動」に倒れし同志に黙祷をささげる汪兆銘たち 汪兆銘政権要人			1940	昭和	15			写真	年は推定。	
20	372	屋外でカメラで写真を撮る今井の肖像写真			1940	昭和	15			写真	陸軍大佐。参謀肩章をつけている。年は推定。	
20	375	今井の肖像写真			1941	昭和	15			写真	陸軍大佐。参謀肩章をつけている。同一3枚。年は推定。	
20	376	今井の肖像写真			1940	昭和	15			写真	陸軍大佐。着帽。参謀肩章をつけている。同一2枚。年は推定。	
20	382	今井の肖像写真			1940	昭和	15			写真	陸軍大佐。参謀肩章をつけている。年は推定。	
20	383	今井の肖像写真			1940	昭和	15			写真	陸軍大佐。着帽。年は推定。	
20	403	今井の肖像写真			1940	昭和	15			写真	上半身のみ。陸軍大佐。年は推定。	
20	404	今井の肖像写真			1940	昭和	15			写真	上半身のみ。陸軍大佐。年は推定。	
20	431	将校記念写真			1940	昭和	15			写真	全18名。多田駿大将ほか。今井は陸軍大佐。年は推定。	
9	16	今村均陸軍中将			1940	昭和	15			写真	人物は推定。陸軍中将の軍服着用。9-15に挿入。年は推定。	
13	93	城戸口準	城戸口準		1940	昭和	15			名刺	陸軍大尉。南支那派遣軍波電部隊。年は推定。	
14	529	小物会談ヲ繞ル研究事項			1940	昭和	15			書類	陸軍野紙に記載。年は推定。	
14	532	部分的停戦地区要図			1940	昭和	15			書類	14-531の別紙。陸軍野紙に記載。	
14	533	会談実施ニ方リテノ警戒要領			1940	昭和	15			書類	14-531の別紙。陸軍野紙に記載。	
14	539	馮玉祥ニ対スル御質問ニツキテ			1940	昭和	15			書類	陸軍野紙に記載。(B)とあるが作成者か。年は推定。	
14	555	3日間の会談時のメモ	今井武夫		1940	昭和	15			メモ	3日間の会談時のメモと思われる。10枚。	
14	557	会談時のメモ	今井武夫		1940	昭和	15			メモ	会談時のメモ。8枚。	
14	558	宋子良側情報メモ	今井武夫		1940	昭和	15			メモ		
14	561	支那側意見			1940	昭和	15			書類	陸軍野紙に記載。年は推定。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
14	563	支那側意見			1940	昭和	15			書類	陸軍野紙に記載。14-561に同じ。年は推定。	
14	576	桐工作に関するメモ	今井武夫		1940	昭和	15			メモ	陸軍野紙に記載。	
14	584	蔣ニ與フルノ書			1940	昭和	15			書類	陸軍野紙に記載。年代は推定。	
14	585	蔣汪合作問題ニ関スル保証	板垣征四郎		1940	昭和	15			書類	陸軍野紙に記載。年代は推定。	
14	593	土橋勇逸氏持参メモ	今井武夫		1940	昭和	15			メモ	「土橋勇逸氏持参」とあり、14-592に添付。年代は推定。	
14	595	昭和十五年 桐工作綴 其三 第二(四)課長	今井武夫		1940	昭和	15			書類	14箱-東24所収のファイル。	
14	597	訓令(案)			1940	昭和	15			書類	陸軍野紙に記載。年代は推定。	
14	598	停戦基礎条件			1940	昭和	15			書類	14-597の別紙第二。別紙第一はなし。陸軍野紙に記載。年代は推定。	
14	602	総軍の任務ほか	今井武夫		1940	昭和	15			メモ	理由正当の場合実効。不正の場合決裂。総軍の任務ほか。陸軍野紙に記載。2枚。年代は推定。	
14	603	停戦許容ノ為和平条件ノ基礎トシテ取扱フヘキ条件			1940	昭和	15			書類	陸軍野紙に記載。年代は推定。	
14	604	訓令構成ノ思想			1940	昭和	15			書類	陸軍野紙に記載。年代は推定。	
14	611	蔣汪合作問題ニ関スル保証	板垣征四郎		1940	昭和	15			書類	陸軍野紙に記載。14-585に同じ。年代は推定。	
14	616	宋子文、英大使の重慶行きほか	今井武夫		1940	昭和	15			メモ		
14	628	東条辰雄来滬後の行動概要			1940	昭和	15			書類	陸軍野紙に記載。年代は全くの推定。滬は上海のこと。辰雄の別名は風鈴。僧侶。日中和平工作を行った。	
14	93	今井武夫日記	今井武夫		1940	昭和	16	1	1	日記	8月15日迄。一部分は陸軍野紙に記載。残りは上海(昭和洋行)南京野紙に記載されている。	
14	94	年頭の辞	今井武夫		1941	昭和	16	1	1	書類	14-93に挿入。今井は支那派遣軍報道部長として。タイプ印刷したもの2枚。	
14	95	「長期戦の構え」			1941	昭和	16	1	1	新聞	14-93に挿入。掲載紙不明。今井の念頭の辞の挨拶。新聞切抜。	
20	411	支那派遣軍総司令部参謀部第2課、第4課、報道部記念			1941	昭和	16	1	1	写真	約110名位。今井が中心に坐っている。	
20	161	会文海軍分遣隊慰問			1941	昭和	16	1	12	写真	在郷軍人会、国防婦人会。大田承吉左端とあり。	
14	96	支那派遣軍報道部長談	今井武夫		1941	昭和	16	1	22	書類	14-93に挿入。	
14	97	今井報道部長談「旧正月を目前に重慶財政益々逼迫」	大陸新報社		1941	昭和	16	1	22	新聞	14-93に挿入。東京大陸新報。新聞切抜。	
14	98	支那派遣軍報道部長談	今井武夫		1941	昭和	16	1	24	書類	14-93に挿入。	
☆	☆				1941	昭和	16	1	27	☆		本多熊太郎駐支大使、日高信六郎特命全権公使たちと西尾総司令官凱旋記念会 於 春陽節(旧正月)
20	230	西尾寿造総司令官凱旋			1941	昭和	16	1	27	写真	春陽節(旧正月)。本多熊太郎、今井、日高信六郎、堀(副官)。オリジナルは20-427にあり。本多は前年12月23日付で駐支大使となっている。	
20	427	西尾寿造大将転出時の記念			1941	昭和	16	1	27	写真	春陽節(旧正月)。本多熊太郎、今井、日高信六郎、堀(副官)。20-230のオリジナル。本多は前年12月付で駐支大使となっている。	
20	232	遠東劇団			1941	昭和	16	2	7	写真	サイズの異なるものあり。全2枚。鐘団長、林部長。今井の報道部長の時のもの。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
14	382	皇紀二千六百一年紀元節 日支和平交渉ノ真相	今井武夫		1941	昭和	16	2	11	回顧録	14箱-東20所収のファイル。月日は推定。	
14	383	緒言	今井武夫		1941	昭和	16	2	11	回顧録	月日は推定。	
14	384	日支和平交渉ノ真相 目次	今井武夫		1941	昭和	16	2	11	回顧録	月日は推定。	
14	385	第一章第一節冒頭に入れるべき文章	今井武夫		1941	昭和	16	2	11	回顧録	陸軍野紙に記載。本人の書き込みあり。年代は推定。月日は推定。	
14	386	第一章第三節 解決条件	今井武夫		1941	昭和	16	2	11	回顧録	陸軍野紙に記載。年代は推定。月日は推定。	
14	387	第二章第三節中に入れるべき文章	今井武夫		1941	昭和	16	2	11	回顧録	陸軍野紙に記載。年代は推定。月日は推定。	
14	388	第三章第三節 満州事変以後に於ける汪精衛の対日思想	今井武夫		1941	昭和	16	2	11	回顧録	陸軍野紙に記載。年代は推定。月日は推定。	
14	390	第四章第七節の終わりに入れるべき文章	今井武夫		1941	昭和	16	2	11	回顧録	陸軍野紙に記載。年代は推定。月日は推定。	
14	391	第四章第八節 汪精衛 王克敏 梁鴻志会談	今井武夫		1941	昭和	16	2	11	回顧録	陸軍野紙に記載。年代は推定。月日は推定。	
14	393	第四章第八節中に入れるべき文章	今井武夫		1941	昭和	16	2	11	回顧録	陸軍野紙に記載。年代は推定。月日は推定。	
14	395	第五章丁黙邨の工作	今井武夫		1941	昭和	16	2	11	回顧録	年代は推定。月日は推定。	
14	399A	第八章宋子良を通ずる対重慶工作 第一節 汪兆銘工作ト和平工作	今井武夫		1941	昭和	16	2	11	回顧録	陸軍野紙に記載。年代は推定。月日は推定。4枚。	
14	400	第八章第四節中に挿入する文章	今井武夫		1941	昭和	16	2	11	回顧録	陸軍野紙に記載。年代は推定。月日は推定。11枚。	
14	401	東条風鈴について	今井武夫		1941	昭和	16	2	11	原稿	大本営陸軍部野紙に記載。1枚。年は推定。東条風鈴の本名は辰雄。14-628参照。僧侶。和平工作を行なった。	
14	402	スチュワート燕大校長	今井武夫		1941	昭和	16	2	11	原稿	大本営陸軍部野紙に記載。2枚。年は推定。	
14	403	孔祥熙の和平工作	今井武夫		1941	昭和	16	2	11	原稿	大本営陸軍部野紙に記載。4枚。年は推定。	
14	408	第一章 日華事変から太平洋戦争へ	今井武夫		1941	昭和	16	2	11	回顧録	14-382「皇紀二千六百一年紀元節 日支和平交渉ノ真相」の追加の章と思われる。年代は推定。月日は推定。8枚。	
14	395-2	第六章第二節の末節に入れる文章	今井武夫		1941	昭和	16	2	11	回顧録	陸軍野紙に記載。年代は推定。月日は推定。	
14	398B	第七章第三節に入れるべき文章	今井武夫		1941	昭和	16	2	11	回顧録	陸軍野紙に記載。年代は推定。月日は推定。7枚。	
14	399B	第八章第二節 第一次会見	今井武夫		1941	昭和	16	2	11	回顧録	年代は推定。月日は推定。	
14	400-1	第九章 日華国交調整条約と日満華共同宣言	今井武夫		1941	昭和	16	2	11	回顧録	年代は推定。月日は推定。	
14	400-2	第十章 東亞連盟の基本観念 結語	今井武夫		1941	昭和	16	2	11	回顧録	年代は推定。月日は推定。	
14	100	支那派遣軍報道部長談	今井武夫		1941	昭和	16	2	18	書類	14-93に挿入。	
14	101	支那派遣軍報道部長談	今井武夫		1941	昭和	16	2	22	書類	14-93に挿入。	
14	99	支那派遣軍報道部長談	今井武夫		1941	昭和	16	2		書類	14-93に挿入。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
20	428	西尾寿造大将、汪兆銘との記念			1941	昭和	16	2		写真	今井、周隆庠と西尾大将の副官。全6名。西尾大将軍事参事官としての転出記念撮影。前列左が西尾大将。右汪兆銘。後列左今井。中央周、右は堀副官。20-427と同じ構図。	
18	441	ボルネオ、ジャヴァ	参謀本部陸地測量部		1941	昭和	16	2		地図	同一2部あり。200万分の一。	
★	★				1941	昭和	16	3	1	☆	後任の支那派遣軍報道部長は 山崎春茂中佐 (33期)	支那派遣軍報道部長兼務 解任
21	344	西尾寿造大将 軍事参事官として転出記念 汪兆銘、今井たちと			1941	昭和	16	3	3	写真	今井、周隆庠と西尾寿造大将の副官。全5名。	
20	158	人物写真			1941	昭和	16	3	14	写真	T. Murataとある。陸軍自動車学校の検印あり。	
★	★				1941	昭和	16	3	30	☆	於南京国民政府大礼堂。1周年汪兆銘 声明発表	国民政府成立1周年記念に参列
★	★				1941	昭和	16	3	30	☆	於南京日華俱樂部。	国民政府成立1周年記念会合 影佐禎昭、周仏海、周隆庠、梅思平、犬養健、伊藤芳男
19	28	国民政府一周年記念日 影佐禎昭と今井の記念写真			1941	昭和	16	3	30	写真	於国民政府大礼堂。19-35参照。	
19	35	国民政府一周年記念 7名			1941	昭和	16	3	30	写真	於南京日華俱樂部。19-28参照。影佐、今井、周仏海、周隆庠、梅思平、犬養健、伊藤芳男。	
★	★				1941	昭和	16	3	31	☆		南京の明孝陵（明の初代皇帝朱元璋の陵墓）のイベント（国民政府宣伝部園遊会）に参画
19	6	国民政府宣伝部園遊会 宣伝部長 林伯生			1941	昭和	16	3	31	写真	20-314参照。	
20	258	国民政府成立1周年記念の翌日			1941	昭和	16	3	31	写真		
20	314	明孝陵前におけるイベント			1941	昭和	16	3	31	写真	明孝陵は明の初代皇帝、朱元璋の陵墓。南京梅花山に近い。梅の花を観る会か。19-6参照。	
20	315	イベント写真			1941	昭和	16	3	31	写真	20-314と同じ時のものか。	
★	★				1941	昭和	16	3		☆	於南京総司令部。	支那派遣軍発足以来の戦没者に対する合同慰霊祭
20	51	南京表忠塔除幕式写真			1941	昭和	16	3		写真	南京菊花台に建立された南京攻略戦に散った死者への表忠塔。年月は推定。	
20	319	表忠塔除幕式式場入り口附近の写真			1941	昭和	16	3		写真	20-51関連。南京菊花台に建立された南京攻略戦に散った死者への表忠塔。年月は推定。	
20	320	表忠塔除幕式			1941	昭和	16	3		写真	20-51関連。年月は推定。	
20	321	表忠塔除幕式			1941	昭和	16	3		写真	20-51関連。年月は推定。	
20	322	表忠塔除幕式における西尾大将の祭文読み上げの写真			1941	昭和	16	3		写真	20-51関連。年月は推定。	
20	323	西尾総司令部、板垣総参謀長、今井ほか			1941	昭和	16	3		写真	20-51関連か。表忠塔除幕式の時のものか。年月は推定。	
20	345	表忠塔			1941	昭和	16	3		写真	20-51関連。年月は推定。	
20	346	表忠塔除幕式			1941	昭和	16	3		写真	20-51関連。年月は推定。	
20	347	表忠塔除幕式記念写真			1941	昭和	16	3		写真	20-51関連。年月は推定。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
20	348	表忠塔除幕式			1941	昭和	16	3		写真	20-51関連。年月は推定。	
20	349	表忠塔除幕式			1941	昭和	16	3		写真	20-51関連。年月は推定。	
20	350	板垣総参謀長ほか将校			1941	昭和	16	3		写真	20-51関連か。年月は推定。今井も含まれる。	
20	344	除幕式宴会場			1941	昭和	16	3		写真	20-51関連か。年月は推定。	
20	351	将校			1941	昭和	16	3		写真	20-51関連かどうか不明。年月は推定。	
20	363	今井の肖像写真			1941	昭和	16	3		写真		
20	417	畑俊六大将と西尾寿造大将			1941	昭和	16	3		写真	支那派遣軍総司令官の交代のときの写真か。年月は推定。	
19	97	ミンダナオ南部・セレベス・ ティモール地図	参謀本部陸地測量部		1941	昭和	16	3		地図	200万分の1の地図。	
18	429	ミンダナオ南部・セレベス・ ティモール地図	参謀本部陸地測量部		1941	昭和	16	3		地図	200万分の1の地図。	
★	★				1941	昭和	16	4	3	☆		情報会議に出席
9	49	情報主任参謀会同席上ニ於ケル 総参謀長口演要旨	支那派遣軍総司令部		1941	昭和	16	4	3	書類		
9	50	情報主任者会同席上ニ於ケル 第二課長口演要旨	支那派遣軍総司令部		1941	昭和	16	4	3	書類		
9	51	対支一般情勢観察	支那派遣軍総司令部		1941	昭和	16	4	3	書類		
20	412	総軍情報会議記念			1941	昭和	16	4	5	写真	20-85と同じ場所。畑大将を囲んで板垣中将、土橋少将、今井以下 将校の写真全39名。	
20	62	今井の写真			1941	昭和	16	4	7	写真	於揚州。	
★	★				1941	昭和	16	4	9	☆		江蘇省政府訪問（主席高冠吾） 蘇州郊外靈岩山に趣く
19	23	蘇州郊外靈岩山に於ての今井 武夫			1941	昭和	16	4	9	写真	中国人の駕籠に乗っている今井。	
20	61	江蘇省政府訪問			1941	昭和	16	4	9	写真	今井ほか6名。	
20	307	江蘇省政府主席高冠吾一家			1941	昭和	16	4	9	写真	於江蘇省政府前庭。	
★	★				1941	昭和	16	4	19	☆		連雲に出張
20	63	今井写真 於朝鮮海州駅（新 浦）			1941	昭和	16	4	19	写真		
20	64	今井写真 於朝鮮海州駅			1941	昭和	16	4	19	写真	同一2枚あり。	
20	341	連雲駅前における6人の将校			1941	昭和	16	4	19	写真	江蘇省の連雲か。	
19	110	台湾、南支、比島地図	参謀本部陸地測量部		1941	昭和	16	4		地図	2百万分の1の地図。18-431、455に同じ。	
18	431	台湾、南支、比島地図	参謀本部陸地測量部		1941	昭和	16	4		地図	2百万分の1の地図。18-110に同じ。	
18	455	台湾、南支、比島地図	参謀本部陸地測量部		1941	昭和	16	4		地図	2百万分の1の地図。18-110に同じ。	
14	102	「感慨深し汪主席 気象台 博 物館を視察」			1941	昭和	16	5	3	新聞	掲載紙不明。14-93に貼付。新聞切抜。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
★	★	畑俊六日誌による。			1941	昭和	16	6	9	☆		中央と連絡のため上京していたが帰任して 畑司令官に対米工作 独ソ間の関係につき報告する
★	★				1941	昭和	16	6	19	☆		廬山に出張
20	358	廬山における今井			1941	昭和	16	6	19	写真	於増田旅館。	
14	775	「盧溝橋秘話 一」	安藤徳器		1941	昭和	16	7	5	新聞	報知新聞。新聞切抜き。	
14	776	「盧溝橋秘話 二」	安藤徳器		1941	昭和	16	7	6	新聞	報知新聞。新聞切抜き。	
14	777	「盧溝橋秘話 三」	安藤徳器		1941	昭和	16	7	7	新聞	報知新聞。新聞切抜き。	
14	778	「盧溝橋秘話 四」	安藤徳器		1941	昭和	16	7	8	新聞	報知新聞。新聞切抜き。	
9	55	英米蘇支軍事合作ニ関スル情報蒐録	支那派遣軍参謀部		1941	昭和	16	7	15	書類	米国 対日航空用ガソリン輸出禁止	
★	★				1941	昭和	16	7	18	☆		情報会議に出席
9	52	情報会議席上ニ於ケル総参謀長口演要旨	支那派遣軍総司令部		1941	昭和	16	7	18	書類		
9	53	情報会議席上ニ於ケル第二課長口演要旨（対支一般情勢）	支那派遣軍総司令部		1941	昭和	16	7	18	書類		
9	54	対支一般情勢観察	支那派遣軍総司令部		1941	昭和	16	7	18	書類		
20	86	情報会議記念 寺内大将を囲んだ将校たち			1941	昭和	16	7	20	写真	於支那派遣軍総司令部。20-85と同じ場所。海軍軍人1名を含む。全49名。年は推定。同一2枚あり。	
◎	◎				1941	昭和	16	7	25	◎	西部六三部隊長。	歩兵連隊長に充用
★	★				1941	昭和	16	7	26	☆	於南京聚星倶楽部。	今井の転出記念会
20	223	今井の転出記念			1941	昭和	16	7	26	写真	於南京聚星倶楽部。	
★	★				1941	昭和	16	7	31	☆		上海港出帆
★	★				1941	昭和	16	7		☆	於南京聚星倶楽部。	宣伝会議
20	94	宣伝会議記念			1941	昭和	16	7		写真	板垣中将を囲んで。於聚星倶楽部。	
9	44	情報会議書類（昭和15年7月・12月・同16年4月・7月）	今井武夫		1941	昭和	16	7		書類	9箱-束2所収のファイル。9-28記載の原本。月は推定。	
19	20	今井大佐 永井大佐を中心にした将校の記念			1941	昭和	16	7		写真	永井とは昭和16年6月支那派遣軍参謀となった陸士33期の永井八津次か。年は推定。6月か7月か。	
20	31	畑俊六大将とともに			1941	昭和	16	7		写真	支那派遣軍時代のものか。後ろに今井も。年月は推定。	
21	338	岑徳廣の肖像写真	岑徳廣		1941	昭和	16	7		写真	今井大佐恵存とある。	
21	373	徐敬	徐良		1941	昭和	16	7		写真	今井武夫大佐恵存とある。辛巳夏とある。	
20	46	梅思平	梅思平		1941	昭和	16	7		写真	今井大佐恵存として自分のプロフィール写真。年月は推定。	
◎	◎				1941	昭和	16	8	1	◎		西部第63部隊長（その後福山歩兵第141連隊長となる）
★	★				1941	昭和	16	8	2	☆		神戸港上陸 南京から日本に帰着

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
★	★				1941	昭和	16	8	3	☆		東京自宅着
★	★				1941	昭和	16	8	6	☆		福山に着任 第141連隊の編成に着手
14	103	今井部隊長着任行事			1941	昭和	16	8	6	書類	14-93に挿入。陸軍野紙に記載。福山に着任。	
14	104	今井部隊長着任時挨拶廻り先			1941	昭和	16	8	7	書類	14-93に挿入。陸軍野紙に記載。	
14	239	西尾寿造書簡	西尾寿造	今井武夫	1941	昭和	16	8	11	書類	西尾は軍事参議官陸軍大将。今井への栄転祝い。名刺に記載。	
14	254	安岡正篤書簡	安岡正篤	今井武夫	1941	昭和	16	8	12	書類	武運を祈る。漢詩文の挿入あり。	
14	258	本庄繁書簡	本庄繁	今井武夫	1941	昭和	16	8	14	書類	63部隊長への栄転祝い。	
20	89	陸軍軍事航空郵便封筒	支那派遣軍総司令部	今井武夫	1941	昭和	16	8	19	封筒	支那派遣軍総司令部から西部63部隊長の今井宛親展・書留封筒	
14	250	板垣征四郎書簡	板垣征四郎	今井武夫	1941	昭和	16	8	24	書類	63部隊への安着おめでとう。板垣が朝鮮軍司令官になってからの近況報告あり。	
18	445	バタンガス地図			1941	昭和	16	8	25	地図	連隊長用とある。	
18	446	バヨンボン地図			1941	昭和	16	8	25	地図	連隊長用とある。	
10	3	西軍参動第723号 軍旗親授ノ儀ニ関スル件達牒	藤江恵輔	歩兵第141連隊長今井武夫	1941	昭和	16	8	28	書類	藤江は西部軍司令官。中将。陸士18期。後に大将。	
10	4	西軍参動第724号 軍旗親授ノ為上京者ノ宿舍等ニ関スル件通牒	佐々真之助	歩兵第141連隊長今井武夫	1941	昭和	16	8	28	書類	佐々は西部軍参謀長。少将。	
14	240	西尾寿造書簡	西尾寿造	今井武夫	1941	昭和	16	8	31	書類	過日外出。御高配感謝と祈勇武。名刺に記載。封筒付き。	
20	371	今井の西部第63部隊長としての正装肖像写真			1941	昭和	16	8		写真	西部63部隊長。大佐。正装。軍刀を持つ。月は推定。	
10	1	軍旗拝受ニ関スル綴			1941	昭和	16	8		書類	10箱-東1所収のファイル	
10	5	記念祭委員業務分担表(案)			1941	昭和	16	8		書類		
10	6	電報(案)			1941	昭和	16	8		電報	軍旗拝受式終了後の所属長への電報案。	
10	7	軍旗輸送計画表			1941	昭和	16	8		書類	9月10日から9月12日までの東京からの輸送日程表。	
7	41	皇軍必携 馬來語會話	大本営陸軍部		1941	昭和	16	8		冊子		
21	363	御花押手本を入れた封筒	鈴木南石		1941	昭和	16	8		封筒	21箱-東14所収の袋。	
21	364	御花押手本	鈴木南石		1941	昭和	16	8		書類	昭和辛巳初秋とある。	
21	365	今井武夫宛御花押手本説明書	鈴木南石	今井武夫	1941	昭和	16	8		書類	南石は二世南石。	
21	366	南石花押趣意書	鈴木南石		1941	昭和	16	8		書類	同一2枚あり。	
18	439	フィリピン、ボルネオ北部地図			1941	昭和	16	8		地図		
10	9	歩兵第百二十九、五十八、百六、百四十一、百四十五、百五、百三十一連隊軍旗親授式ニ関スル細部ノ打合せ事項	陸軍大臣官房		1941	昭和	16	9	1	書類	付図と奉答様式添付あり。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
11	175	軍事秘密 泰国事情	大本営陸軍部		1941	昭和	16	9	5	冊子		
14	252	畑俊六書簡	畑俊六	今井武夫	1941	昭和	16	9	7	書簡	西部63部隊安着おめでとう。支那派遣軍在任中ご苦労様でした。	
★	★				1941	昭和	16	9	10	☆	於皇居内。福山にても行う。	歩兵第141連隊軍旗拝受式 浮田幸雄少尉帯同
10	10	電報(案)	六三部隊		1941	昭和	16	9	10	電報	(福山にて) 遥拝す。日付は推定。西部63部隊。	
10	2	軍旗拝受記念 宮城二重橋前			1941	昭和	16	9	10	写真	10-1に挿入。2枚。	
10	13	奉答文写			1941	昭和	16	9	10	書類	歩兵第141連隊長。	
10	14	軍旗親授式御模様	今井武夫		1941	昭和	16	9	10	書類	式後の奉安までの経過も記載あり。	
20	413	歩兵第141連隊旗			1941	昭和	16	9	10	写真		
20	267	歩兵第141連隊旗			1941	昭和	16	9	10	写真	日付は推定。	
11	177	軍事秘密 比律賓事情	大本営陸軍部		1941	昭和	16	9	12	冊子		
11	3	軍事秘密 英領ボルネオ事情	大本営陸軍部		1941	昭和	16	9	15	冊子		
20	519	陸軍軍事航空郵便封筒	支那派遣軍総司令部	西部63部隊長今井武夫	1941	昭和	16	9	17	封筒	支那派遣軍総司令部から西部63部隊長の今井宛親展・書留封筒。写真が挿入されていたものと思われる。	
11	4	軍事秘密 英領馬來事情	大本営陸軍部		1941	昭和	16	9	17	冊子	英軍の防備体制の付図あり。同一2部あり。	
14	674	「西部〇〇部隊今井大佐語る けふ満州事変記念日」			1941	昭和	16	9	18	新聞	合同新聞。新聞切抜。	
11	5	軍事秘密 緬甸事情	参謀本部		1941	昭和	16	9	20	冊子	同一2部あり。	
11	176	軍事秘密 蘭印事情	参謀本部		1941	昭和	16	9	22	冊子		
10	8	今井武夫宛電報	イマブチ	今井武夫	1941	昭和	16	9		電報	遥拝式は10日に行う旨の連絡。	
10	11	軍旗拝受式要領			1941	昭和	16	9		書類		
10	12	勅語写		歩兵第141連隊	1941	昭和	16	9		書類		
15	47	歩兵第141連隊旗奉安			1941	昭和	16	9		写真		
20	266	封筒	松原写真館		1941	昭和	16	9		封筒	20箱-東6所収の封筒。すべて写真封入。松原写真館は福山市在。	
20	268	歩兵141連隊旗と今井ほか			1941	昭和	16	9		写真	全7名。	
20	269	福山兵営に入る第141連隊旗			1941	昭和	16	9		写真		
20	270	福山兵営近くを行進する第141連隊			1941	昭和	16	9		写真		
20	271	福山兵営での第141連隊イベント			1941	昭和	16	9		写真		
20	272	福山兵営での第141連隊イベント			1941	昭和	16	9		写真		
20	273	福山兵営での第141連隊イベント			1941	昭和	16	9		写真		
20	274	福山兵営での第141連隊イベント			1941	昭和	16	9		写真		

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
20	275	福山兵営における女子学生たちの集まり			1941	昭和	16	9		写真		
★	★				1941	昭和	16	10	8	☆		第65旅団連隊編成さる（師団長奈良晃中将 松江編成第122連隊、福山編成第141連隊、松山編成第142連隊が基幹） 第141連隊 第65旅団連隊の隷下となる
14	9	今井武夫日記	今井武夫		1941	昭和	16	10	10	日記	於福山市西部第63部隊。1942年1月3日迄。	
14	48	国際情勢月報（第33号）	参謀本部		1941	昭和	16	10	25	書類	極秘扱い。	
11	178	軍事秘密 仏印事情	参謀本部		1941	昭和	16	10	30	冊子	21-234に同じ。	
21	234	軍事秘密 仏印事情	参謀本部		1941	昭和	16	10	30	冊子	11-178に同じ。	
19	101	海南島・サイゴン・ラングーン	参謀本部陸地測量部		1941	昭和	16	10		地図		
21	229	海南島・サイゴン・ラングーン	参謀本部陸地測量部		1941	昭和	16	10		地図		
18	443	海南島・サイゴン・ラングーン	参謀本部陸地測量部		1941	昭和	16	10		地図		
★	★				1941	昭和	16	11	8	☆		歩兵第141連隊分列式
10	15	夏三戦詳第一号 自昭和十六年十一月八日至昭和十七年一月八日 第一次「バタアン」作戦 戦闘詳報 輸送及行軍間ニ於ケル行動詳報	歩兵第四百四十一連隊		1941	昭和	16	11	8	書類	今井は歩兵第141連隊長。	
10	21	行動詳報第一号（自昭和十六年十一月八日至昭和十七年一月八日） 輸送及行軍間ニ於ケル行動詳報	歩兵第四百四十一連隊第一大隊		1941	昭和	16	11	8	書類	今井は歩兵第141連隊長。	
10	27	自昭和十六年十一月八日至昭和十七年一月八日 輸送及行軍間ニ於ケル行動詳報 第一号	歩兵第四百四十一連隊第二大隊		1941	昭和	16	11	8	書類	今井は歩兵第141連隊長。	
★	★				1941	昭和	16	11	12	☆		歩兵第141連隊 出陣式
★	★				1941	昭和	16	11	13	☆		官民歓呼の聲に送られ 福山葦陽城（久松城）を後に 約2キロを行進 山陽線福山駅から C57型蒸気機関車にて宇品着（3列車に分乗） 広島市で下車して 夜宿営
★	★				1941	昭和	16	11	14	☆		広島港（宇品）を「諏訪丸」と「主基丸」の第141連隊は2隻で出発
★	★				1941	昭和	16	11	15	☆		第65旅団 第14軍（司令官本間雅晴中将）の隷下に入る
★	★				1941	昭和	16	11	19	☆		台湾基隆に着き上陸 直ちに太平洋側の宜蘭へ

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
18	430	ハノイ、バンコック、カルカッタ地図			1941	昭和	16	11		地図	同一2部あり。	
18	433	パラオ、ニューギニア西部地図			1941	昭和	16	11		地図		
★	★				1941	昭和	16	12	7	☆		台湾海峡の嘉義市 西方の白河陸軍廠舎へ
★	★				1941	昭和	16	12	8	☆	太平洋戦争はじまる（宣戦の詔書）。 日本軍 マレー半島に上陸。 ハワイ真珠湾攻撃。 日本軍 香港全島を占領。	台湾にて訓練中 日本が英米に宣戦布告の報を聞く
★	★				1941	昭和	16	12	16	☆		未明 台湾にて爆撃と思わすような大地震に遭遇
★	★				1941	昭和	16	12	21	☆		第65旅団 台湾高雄着 高雄市役所に宿営
★					1941	昭和	16	12	25	☆		第65旅団 台湾高雄で乗船 出港待機
★	★				1941	昭和	16	12	29	☆		台風のため出港延期
★	★				1941	昭和	16	12	30	☆		台湾高雄を「昭浦丸」「三興丸」「はわい丸」にて出港 フィリピンへ向かう 今井は「はわい丸」 輸送指揮官
3	142	第141連隊の若手将校か。			1941	昭和	16	12		写真	台湾の護国神社か。年月は全くの推定。	
14	366	「私はかく闘った 周仏海 上 事変拡大に反対 蔣説得を汪精衛に依頼」			1941	昭和	16			新聞	掲載紙不明。新聞切抜。陸軍野紙に貼付。1897年生まれの周仏海44歳とあるので昭和15年か16年のものか。年代は推定。	
14	367	「私はかく闘った 周仏海 中 日本の和平情報収集に高宗武を脱出さす」			1941	昭和	16			新聞	掲載紙不明。新聞切抜。陸軍野紙に貼付。年代は推定。	
14	368	「私はかく闘った 周仏海 下 蔣反共の条件を拒否 危機一髪大事露見」			1941	昭和	16			新聞	掲載紙不明。新聞切抜。陸軍野紙に貼付。年代は推定。	
14	404	和平政権の要人	今井武夫		1941	昭和	16			原稿	大本営陸軍部野紙に記載。2枚。年は推定。	
14	409	通州事件メモ	今井武夫		1941	昭和	16			メモ	14箱-東20所収のファイルに挿入。7月29日の通州事件、7月30日殷汝耕救出ほか。年代は全くの推定。	
14	410	十三太保の中国人名簿	今井武夫		1941	昭和	16			名簿	14箱-東20所収のファイルに挿入 年代は全くの推定。	
7	42	軍用 華語馬來語教本	新興亜学院		1941	昭和	16			冊子	年代は推定。	
20	47	出征前の歩兵第141連隊将校			1941	昭和	16			写真		
21	367	鈴木南石宛 花押作成申込書		鈴木南石	1941	昭和	16			書類	同一2枚あり。	
10	433	「全面和平完成の飛躍的段階 へ 遷都第二年への発足」			1941	昭和	16			新聞	掲載紙不明。新聞切抜。	
20	457	乗馬した今井			1941	昭和	16			写真	陸軍大佐時代か。年度は全くの推定。	
20	458	乗馬姿の今井			1941	昭和	16			写真	横に鞭を持って坐っている。年度は全くの推定。	
20	459	乗馬姿の今井			1941	昭和	16			写真	手に鞭を持って立つている。背景は家。年は推定。	
20	324	池のほとりにたたずむ今井			1941	昭和	16			写真	参謀肩章着けておらず。年は推定。陸軍大佐。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
15	13	陸軍士官8名			1940	昭和	16			写真	8名。矢野、重信、松本、森山、石田、森田、中村、犬飼。第141連隊の士官か。年は推定。	
20	234	板垣総参謀長、今井ほか			1941	昭和	16			写真	板垣総参謀長の視察か。年は推定。	
★	★				1941	昭和	17	1	1	☆		フィリピン ルソン島 リンガエン湾 テンブラ海岸に上陸 サンファビアンまで行軍し 露営
★	★				1942	昭和	17	1	3	☆		午後タルラック着。
★	★				1942	昭和	17	1	3	☆		タルラック澗ポーラックへ前進。
★	★				1942	昭和	17	1	7	☆		第14軍司令部から隷下の第48師団と交代して 第65旅団（歩兵第141連隊所属）がバターン攻略するよう命令される
★	★				1942	昭和	17	1	8	☆		ポーラックを出発しバターン半島の入口 デナルビアンに到着
★	★				1942	昭和	17	1	9	☆		バターン半島 ナチブ山に向って攻撃前進 バターン作戦（～4月10日まで） 第一次バターン攻略戦（1月9日～3月31日） 第二次バターン攻略戦（3月31日～4月10日）
★	★				1942	昭和	17	1	9	☆		夜 ムラウインに小憩
10	16	夏三戦詳第二号 自昭和十七年一月九日至昭和十七年一月二十八日 第一次「バタアン」作戦 戦闘詳報 「ナチブ」山附近 戦闘経過	歩兵第四百十一連隊		1942	昭和	17	1	9	書類	今井は歩兵第141連隊長。	
10	22	戦闘詳報第二号（自昭和十七年一月九日至一月二十六日） 第一次「バタアン」作戦 「ナチブ」山附近戦闘経過	歩兵第四百十一連隊第一大隊		1942	昭和	17	1	9	書類	今井は歩兵第141連隊長。	
10	28	自昭和十七年一月九日至昭和十七年一月二十八日 第一次「バタアン」作戦 「ナチブ」山附近ノ戦闘詳報 第二号	歩兵第四百十一連隊第二大隊		1942	昭和	17	1	9	書類	今井は歩兵第141連隊長。	
★	★				1942	昭和	17	1	10	☆		敵のマバタン砲兵陣地発見
10	33	自昭和十七年一月十日至昭和十七年一月二十一日 第一次バタアン攻略戦 カラギナン附近 戦闘詳報	歩兵第四百十一連隊第三中隊		1942	昭和	17	1	10	書類	今井は歩兵第141連隊長。	
10	37	今井連隊長宛連絡	有木道博	今井連隊長	1942	昭和	17	1	10	書類	斥候の通信中隊有木少尉から今井連隊長宛の連絡。裏に地図あり。4-25「夏友会戦史」20頁参照。年代は推定。この後有木は第141連隊の戦死第1号となった。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
★	★				1942	昭和	17	1	12	☆		間場タン攻撃
21	19	陸軍大将川上操六	徳富猪一郎		1942	昭和	17	1	15	書籍	猪一郎は蘇峰の本名。第一公論社。	
2	51	支那を支配するもの	佐藤俊三		1942	昭和	17	1	20	書籍	大阪屋号書店。	
11	2	南洋地名索引表	軍令部		1942	昭和	17	1	22	冊子		
★	★				1942	昭和	17	1	25	☆		ナチブ山の陣地を陥れる 一旦 戦闘小休止
10	23	戦闘詳報第三号（自昭和十七年一月二十七日至二月二十三日）第一次「バタアン」作戦「サマツ」山附近戦闘詳報	歩兵第四百十一連隊第一大隊		1942	昭和	17	1	27	書類	今井は歩兵第141連隊長。	
10	17	夏三戦詳第三号 自昭和十七年一月二十九日至昭和十七年二月二十四日 第一次「バタアン」作戦戦闘詳報「サマツ」山附近ノ戦闘及陽攻	歩兵第四百十一連隊		1942	昭和	17	1	29	書類	今井は歩兵第141連隊長。	
10	29	自昭和十七年一月二十九日至昭和十七年二月二十四日 第一次「バタアン」作戦「サマツ」山附近ノ戦闘詳報 第三号	歩兵第四百十一連隊第二大隊		1942	昭和	17	1	29	書類	今井は歩兵第141連隊長。	
3	23	田中俊一郎「中支那建設群像」	創造社		1942	昭和	17	2	5	雑誌	創造 12巻3号 「臨時増刊号 中支那現状報告」。今井に関する評あり。 創造は昭和6年9月に創刊された雑誌。	
★	★				1942	昭和	17	2	23	☆		トング附近ヘルモーサに 一旦 後退
10	24	戦闘詳報第四号（自昭和十七年二月二十三日至三月二十六日）南部「バタアン」半島ノ封鎖作戦戦闘詳報	歩兵第四百十一連隊第一大隊		1942	昭和	17	2	23	書類	今井は歩兵第141連隊長。	
10	18	夏三戦詳第四号 自昭和十七年二月二十五日至昭和十七年三月八日 南部「バタアン」半島封鎖作戦	歩兵第四百十一連隊		1942	昭和	17	2	25	書類	今井は歩兵第141連隊長。	
10	30	自昭和十七年二月二十五日至三月二十六日 南部「バタアン」半島ノ封鎖作戦戦闘詳報 第四号	歩兵第四百十一連隊第二大隊		1942	昭和	17	2	25	書類	今井は歩兵第141連隊長。	
★	★				1942	昭和	17	2	26	☆	山県は有朋の養孫。陸士37期。	将兵のねぎらいのため バターン半島入口で 侍従武官山県有光中佐の天皇聖旨と皇后令旨の伝達式が26日朝あり 赤木大尉以下3名と25日朝参加のためヘルモーサを出発 26日夜 ヘルモーサに戻る

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
18	437	豪州西北部地図			1942	昭和	17	2		地図		
18	452	ニューカレドニア西部、ロックハムプトン地図	参謀本部陸地測量部		1942	昭和	17	2		地図		
18	458	ルソン島地図	渡集団司令部		1942	昭和	17	2		地図	渡は尚武になる前の第14軍の通称か。	
10	19	夏三戦詳第五号 自昭和十七年三月九日至昭和十七年四月十六日 第二次「バタアン」作戦 戦闘詳報 「マリベレス」山附近戦闘	歩兵第四百十一連隊		1942	昭和	17	3	9	書類	今井は歩兵第141連隊長。	
10	25	戦闘詳報第五号（自昭和十七年三月二十六日至四月九日戦闘詳報第五号（第二次「バタアン」作戦戦闘詳報	歩兵第四百十一連隊第一大隊		1942	昭和	17	3	26	書類	今井は歩兵第141連隊長。	
10	31	自昭和十七年三月二十七日至四月十一日 第二次「バタアン」作戦 「マリベレス」山附近ノ戦闘詳報第五号	歩兵第四百十一連隊第二大隊		1942	昭和	17	3	27	書類	今井は歩兵第141連隊長。	
18	434	東亞諸民族分布図	大政翼賛会		1942	昭和	17	3	28	地図		
★	★				1942	昭和	17	3	31	☆		第二次バタアン攻略戦（3月31日～4月10日）
★	★				1942	昭和	17	4	3	☆	大本営は兵員、航空機、火炮を補強し、神武天皇祭のこの日 サマツ山の米比軍陣地に向って総攻撃開始（第二次攻撃）	第141連隊 サマツ山に向って攻撃前進開始
15	3	バタアン第二次攻撃開始の第141連隊	豊島正喜		1942	昭和	17	4	3	写真		
15	4	今井、戸伏少佐、堀地工兵少佐、穴山准尉	豊島正喜		1942	昭和	17	4	5	写真	カトモン渡河前日バタアンにて。	
★	★				1942	昭和	17	4	6	☆		カトモン渡河 夜明けとともに敵の砲撃陣地に突撃して乱入
★	★				1942	昭和	17	4	8	☆		第141連隊 リマイ山占領
15	6	占領したリマイ山山頂で今井他3人			1942	昭和	17	4	8	写真	髯がぼうぼうとしている。山頂で万歳をしている。	
20	40	リマイ山頂			1942	昭和	17	4	8	写真	同一2枚あり。『支那事変の回想』に写真あり。	
★	★				1942	昭和	17	4	9	☆	日本軍サマツ山占領 バタアン半島攻略	第141連隊 リマイ山山頂に軍旗を奉じて 聖寿の万歳を三唱 バタアン戦終了
★	★				1942	昭和	17	4	9	☆		新命令を受け 第141連隊 後方サンビセンテ川河谷に集結
15	7	リマイ山山頂で万歳			1942	昭和	17	4	9	写真	髯をそっている。	
15	8	リマイ山山頂で万歳			1942	昭和	17	4	9	写真		
20	39	リマイ山頂			1942	昭和	17	4	9	写真	万歳三唱。同一2枚あり。	
★	★				1942	昭和	17	4	10	☆		兵団司令部から捕虜処刑の怪命令の電話 拒否して捕虜千余名を釈放

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
10	26	戦闘詳報第六号（自昭和十七年四月十一日至六月十三日）中部呂栄戡定作戦戦闘詳報	歩兵第四百十一連隊第一大隊		1942	昭和	17	4	11	書類	今井は歩兵第141連隊長。	
10	32	自昭和十七年四月十二日至昭和十七年五月二日 中部呂栄へノ転進及戡定作戦間ニ於ケル行動詳報 第六号	歩兵第四百十一連隊第二大隊		1942	昭和	17	4	12	書類	今井は歩兵第141連隊長。	
20	186	遺書ノート			1942	昭和	17	4	23	写真	兵士の遺書の写真。年度は全くの推定。	
★	★				1942	昭和	17	4	24	☆		カバナツアンに転進
15	5	パターン戦線 軍馬に兵が餌を与える			1942	昭和	17	4		写真		
16	8	パターン戦線 軍馬に飼葉を兵が与える	豊島正喜		1942	昭和	17	4		写真		
10	20	夏三戦詳別冊 昭和十七年四月「バタアン」攻略戦戦闘詳報 作戦地一般ノ景況及其他	歩兵第四百十一連隊		1942	昭和	17	4		書類	今井は歩兵第141連隊長。	
19	80	フィリピンルソン島大地図	渡集団司令部		1942	昭和	17	4		地図	「渡」とは第14軍のこと。	
18	436	豪州メルボルン地図			1942	昭和	17	4		地図		
18	448	豪州アデレード地図	参謀本部陸地測量部		1942	昭和	17	4		地図		
18	450	豪州西南部地図	参謀本部陸地測量部		1942	昭和	17	4		地図		
18	451	ブリスベーン、シドニー地図	参謀本部陸地測量部		1942	昭和	17	4		地図		
14	260	土肥原賢二書簡	土肥原賢二	今井武夫	1942	昭和	17	5	14	書簡	武勲をたたえたことのお祝い。	
10	456	南十字星	渡司宣伝班		1942	昭和	17	5	14	冊子	フィリピン戦線における陣中冊子。	
14	241	西尾寿造書簡	西尾寿造	今井武夫	1942	昭和	17	5	17	書簡	パターン攻略での戦果のお祝い。	
22	521	支那派遣軍参謀部第2課書簡	支那派遣軍参謀部第2課	今井武夫	1942	昭和	17	5	28	書簡	紀元二千六百年祝典記念章之証送付の件。かなり日数が経って送られてきている。	
19	158	マニラ市街図	渡集団司令部		1942	昭和	17	5		地図	「渡」とは第14軍のこと。	
18	438	印度西部、イラン東部地図			1942	昭和	17	5		地図		
18	449	ニュージーランド南部地図	参謀本部陸地測量部		1942	昭和	17	5		地図		
18	453	ニュージーランド北部地図	参謀本部陸地測量部		1942	昭和	17	5		地図		
18	454	ボルネオ東南部、ティモール地図	参謀本部陸地測量部		1942	昭和	17	5		地図		
◎	◎				1942	昭和	17	6	13	◎		第141連隊主力をもって大マニラ防衛隊を組織し 今井はマニラ防衛司令官となる。（従来の騎兵第4連隊から任務を継承）

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
☆	☆				1942	昭和	17	6	19	☆		(次女) 今井孝子誕生 (東京市上目黒7丁目)
14	255	安岡正篤書簡	安岡正篤	今井武夫	1942	昭和	17	6	20	書簡	ご健安大慶に存じます。南方経綸、支那問題山積。	
18	393	今井部隊宛賞詞	本間雅晴	今井部隊	1942	昭和	17	6	28	書類	バターン攻略戦の賞詞。22-512にも判なしの第141連隊宛のものあり。この日 今井歩兵部隊陸軍軍曹 野々村春水への感状が本間司令官から出されている。(昭和18年1月2日信濃毎日新聞参照)	
22	512	歩兵第四百一連隊宛賞詞	本間雅晴	歩兵第四百一連隊	1942	昭和	17	6	28	書類	バターン攻略戦の賞詞。本間は第14軍司令官として。印鑑なし。18-393にもあり。	
2	40	大東亜戦争史 従軍特派員決死の筆陣	宮居康太郎		1942	昭和	17	6	30	書籍	代々木出版社。	
15	44	今井を中心にマニラ防衛の将校たち。			1942	昭和	17	6		写真	年月は推定。	
6	6	大東亜戦争 陸軍報道班員手記 (バタアン コレヒドール攻略戦)	文化奉公会		1942	昭和	17	7	18	書籍	大日本雄弁会講談社。	
8	29	安南の歴史	水谷乙吉		1942	昭和	17	7	20	書籍	育成社弘道閣。安南は現在のベトナム。	
1	69	南十字星 7月22日号	比島派遣軍報道部		1942	昭和	17	7	22	冊子	フィリピン戦線における陣中冊子。	
1005		闘鶏場 (青木大臣たちと夜の闘鶏見物)			1943	昭和	17	7	27	写真	於マニラ闘鶏場。年月は推定。	
14	209	今井武夫			1942	昭和	17	7		写真	大佐時代のものか。年月は推定。	
14	1	内閣総理大臣の5諮問に対する答申	企画院		1942	昭和	17	7		書類	内閣総理大臣の5諮問に対する答申。極秘とある。	
10	34	陣中美談集	歩兵第四百一連隊		1942	昭和	17	7		書類	今井は歩兵第141連隊長。赤木(久雄大尉)の印あり。174頁。月は推定。本間軍司令官の賞詞。忠節之部、10人。武勇之部、4人。攻撃精神之部、19人。必勝之信念之部、2人。犠牲的精神之部、20人。責任観念之部、19人。戦友愛之部、7人。兵器尊重之部、3人。愛馬心之部、1人。其の他之部、3人。	
10	35	歩兵第四百一連隊将校職員表	歩兵第四百一連隊		1942	昭和	17	8	1	名簿	1942年8月1日調。	
4	62	戦争政略論	佐田弘治郎		1942	昭和	17	8	20	書籍	国際日本協会。	
14	456	今井武夫	上海陸軍部報道部写真班		1942	昭和	17	8	31	写真	14箱-東21所収のファイルに挿入されているが関係不明。年月日は全くの推定。上海陸軍部創設のときのものか。今井が中心となって訓示を受けている。	
◎	◎				1942	昭和	17	8	31	◎	後任141連隊長は中島正司大佐。陸士28期。	支那派遣軍上海陸軍部員 兼 支那派遣軍参謀 (第4課長) (赴任は9月) 上海陸軍部の創設に関与
10	36	歩兵第四百一連隊将校職員表			1942	昭和	17	9	1	名簿	1942年9月1日調。	
☆	☆				1942	昭和	17	9	1	☆	火野の本名は玉井勝則。芥川賞作家。	日本人先覚者でフィリピン独立志士 菅沼貞風のマニラにある墓を 第141連隊将校や火野葦平らとともに参拝

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
15	39	フィリピン独立志士の墓の前 で第141連隊。今井、渡辺、松 本、柴田			1942	昭和	17	9	1	写真	15箱-東3所収の封書に挿入。	
15	10	マニラ日本人墓地 菅沼貞風 墓辺における今井			1942	昭和	17	9	1	写真	菅沼は明治22年7月6日マニラで死去。行年25歳。フィリピン探検 家。	
15	11	菅沼貞風墓辺にて			1942	昭和	17	9	1	写真	写真人物の名前不明。	
15	41	マニラ日本人墓地 菅沼貞風 墓辺にて火野葦平			1942	昭和	17	9	1	写真		
15	42	マニラ日本人墓地 菅沼貞風 墓地			1942	昭和	17	9	1	写真	菅沼は明治22年7月6日マニラで死去。行年25歳。フィリピン探検 家。	
15	40	フィリピン独立志士の墓			1942	昭和	17	9	1	写真		
15	45	フィリピンのサンバギタ撮影 所にて松本と杉田主計中尉			1942	昭和	17	9	1	写真		
★	★				1942	昭和	17	9	17	☆		支那派遣軍参謀として転出のため マニラのニコラス飛行場より離比 島
20	159	マニラのニコラス飛行場より フィリピンを離れる今井			1942	昭和	17	9	17	写真		
2	38	大陸の思想戦	丸山学		1942	昭和	17	9	30	書籍	目黒書店。	
15	9	歩兵第141連隊旗を奉じて今井 が挨拶			1942	昭和	17	9		写真		
19	56	信武会を語る	新井一清		1942	昭和	17	10	25	冊子	信武会の役員名簿と規定あり。	
5	8	獄中獄外	児玉誉士夫		1942	昭和	17	10	30	書籍	アジア青年社。	
13	193	今井武夫手帳	今井武夫		1942	昭和	17	10		手帳	昭和17年10月陸軍恤兵部発行の従軍手帳であるが、中身は晴気芳 胤、阪田誠盛、多田駿などについて住所や電話番号などの戦後のメ モと思われる。	
◎	◎				1942	昭和	17	11	1	◎		大東亜省官房審議室調査官 叙高等官三等 年俸4080円
20	17	今井武夫宛年俸通知書	大東亜大臣官房 人事課長	今井武夫	1942	昭和	17	11	1	書類	年俸4080円下賜。今井は大東亜省調査官。	
20	20	今井武夫宛叙任通知書「任大 東亜省調査官」	東条英機	今井武夫	1942	昭和	17	11	1	書類	東条は内閣総理大臣。叙高等官三等。	
20	21	今井武夫宛勤務命令書「大臣 官房審議室勤務命令」	大東亜省	今井武夫	1942	昭和	17	11	1	書類	大東亜省の罫紙。	
★	★				1942	昭和	17	11	3	☆		上海発（空路） 東京着
3	24	臨時増刊号 満州現状報告	創造社		1942	昭和	17	11	15	雑誌	創造 12巻13号。	
8	27	印度の宗教対立	C・マンシャ ート		1942	昭和	17	11	26	書籍	総合インド研究室訳。	
19	2	東条首相 汪兆銘主席訪問を 終りて			1942	昭和	17	12	20	写真	1940年とあるが1942年の間違いか。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
15	50	第14軍か第65旅団連隊の将校たちの記念写真			1942	昭和	17	12		写真	年月は推定。	
10	38	密林地帯ニ於ケル行動			1942	昭和	17			書類	陸軍野戦に記載。年代は推定。	
15	48	第141連隊の演習			1942	昭和	17			写真		
18	399	軍旗を讃ふる歌	夏第9853部隊		1942	昭和	17			冊子	リマイ山を占領した後の感激を表現した歌や詩の冊子。夏9853部隊は141連隊のこと。	
18	407	今井部隊比島派遣乃歌			1942	昭和	17			書類	作詞 広瀬尊貞中尉。作曲陸軍音楽隊。年は推定。同一2枚あり。	
18	412	第一次バタアン半島攻略戦間第14軍軍隊区分、増加部隊比島到着状況一覧表			1942	昭和	17			書類	複写。年は推定。	
18	413	第一陣地帯突破間における軍主力方面戦闘経過要図、追撃初動における軍主力方面戦闘経過要図			1942	昭和	17			書類	複写。年は推定。	
19	107	軍事郵便絵葉書 バターン・ナチブ山遠望			1942	昭和	17			絵葉書	年代は推定。	
21	290	軍事郵便絵葉書 フィリピン戦線のものほか			1942	昭和	17			絵葉書	8種。年代は推定。	
10	440	歩百四十一連隊資料 比島戦線を含む			1942	昭和	17			封筒	10箱-東9所収の封筒。	
11	165	バターン作戦の頃から大東亜省時代の備忘録	今井武夫		1942	昭和	17			メモ	年代は推定。	
15	46	今井が揮毫した墓碑のある故陸軍兵長 田口保夫の墓			1942	昭和	17			写真	2枚。年は推定。	
20	164	イベント写真	上海陸軍部報道部写真班		1942	昭和	17			写真	年は推定。	
13	162	今井武夫手帳	今井武夫		1942	昭和	18	1	1	手帳	12月31日迄。1980年？	
★	★				1943	昭和	18	1	18	☆		土肥原賢二大将、大川周明らから無事帰還の祝いを受ける（於料亭）
19	17	大川周明博士、土肥原賢二大将らと今井			1943	昭和	18	1	18	写真	於料亭。	
1	70	南十字星 1月22日号	比島派遣軍報道部		1943	昭和	18	1	22	冊子	フィリピン戦線における陣中冊子。	
12	117	盟判汪政府宣戦英美	奥村恭平		1943	昭和	18	1		書類	漢詩。南城は奥村の号か。所収12箱-東2ファイルに挿入。年月は推定。	
14	251	板垣征四郎書簡	板垣征四郎	今井武夫	1943	昭和	18	2	18	書簡	京城に来られた折不在で失礼。日支事件当時が懐かしい。林領事のことを依頼。	
◎	◎				1943	昭和	18	3	1	◎		陸軍少将・大東亜省官房審議室参事官 叙高等官二等 年俸5000円
20	18	今井武夫宛年俸通知書	大東亜大臣官房人事課長	今井武夫	1943	昭和	18	3	1	書類	年俸5000円下賜。今井は大東亜省参事官。	
20	19	今井武夫宛通知書「大臣官房審議室勤務」	大東亜大臣官房人事課長	今井武夫	1943	昭和	18	3	1	書類		

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
20	24	今井武夫宛叙任通知「任大東亜省参事官・叙高等官二等」	東条英機	今井武夫	1943	昭和	18	3	1	書類	東条は内閣総理大臣。	
20	25	今井武夫宛辞令「任陸軍少将」	東条英機	今井武夫	1943	昭和	18	3	1	書類	東条は内閣総理大臣。	
19	329	現地録音 南方攻略戦記解説 馬來編・比島編	栢野正次郎		1943	昭和	18	3	1	冊子	19-330の解説書。	
6	9	新日本の外政指標	原勝		1943	昭和	18	3	10	書籍	序文は土肥原賢二、序は川越茂が書いている。日本青年外交協会出版部。非売品。	
6	10	原勝書簡	原勝	宛先不明	1943	昭和	18	3	10	書簡	本の送り状。叱正願い。6-9に挿入。日付は本の発効日として推定。	
●	●				1943	昭和	18	3	15	●		叙正五位
22	478	今井武夫宛位記「叙正五位」	松平恒雄	今井武夫	1943	昭和	18	3	15	勲章	松平は宮内大臣。	
8	28	樹海	柴田賢次郎		1943	昭和	18	3	15	書籍	フィリピン作戦従軍記。秘密ということで、部隊名は変名だが、今井部隊のことが書かれている。櫻井書店。	
☆	☆				1943	昭和	18	3	22	☆		青き大東亜相 南方旅行のための 準備内打ち合わせ
14	139	南方旅行書類 今井少将	今井武夫		1943	昭和	18	3	22	書類	14箱-東14所収のファイル。	
14	140	南出第1号 南方出張打合せノ件			1943	昭和	18	3	22	書類	大東亜省の罫紙に記載。	
14	146	山本熊一書簡	山本熊一	澤井頼雄（海軍次官）	1943	昭和	18	3	24	書簡	青木大臣一行南方視察ニ関スル件。山本は大東亜次官。大日本帝国政府の罫紙に記載。	
14	147	山本熊一書簡	山本熊一	富永恭次（陸軍次官）	1943	昭和	18	3	24	書簡	青木大臣一行南方視察ニ関スル件。山本は大東亜次官。大日本帝国政府の罫紙に記載。	
14	158	内務省警保局長、情報局第四部長宛 電報	大東亜省総務局長	内務省警保局長、情報局第四部長	1943	昭和	18	3	25	電報	新聞紙等ノ記事掲載禁止方依頼ノ件（案）。大東亜省罫紙に記載。	
3	80	支那の自然科学	能勢岩吉		1943	昭和	18	3	25	書籍	能勢は大東亜文化会代表。連合出版社。	
14	51	記念写真の説明	田部		1943	昭和	18	3	27	書類	1843年3月27日～28日の若杉参謀（「若杉」は三笠宮殿下の秘匿名）の写真。「祭」兵団（第15師団）隷下の歩兵51連隊を激励。日付けは推定。	
2	34	孫文革命戦史	能勢岩吉		1943	昭和	18	3	28	書籍	能勢は大東亜文化会理事長。連合出版社。	
19	8	三笠宮と将校たち			1943	昭和	18	3		写真	於 金山寺（中国）か。年月は推定。	
19	24	視察写真			1943	昭和	18	3		写真	三笠宮（？）の視察写真か。年度は全くの推定。	
●	●				1943	昭和	18	3	29	●		中華民国国民政府から二級同光勲章
20	26	今井武夫宛勲章授与証「二級同光勲章」	汪兆銘	今井武夫	1943	昭和	18	3	29	勲章	汪は大中華民国国民政府主席。	
2	62	比島戦記	比島派遣軍報道部		1943	昭和	18	3	30	書籍	柴田賢次郎「山間部隊」は今井部隊の戦記。117、119、131頁に今井部隊の記載あり。今井「リマイ山頂における万歳」写真あり。文藝春秋社。情報係りとして沖信中尉、若い木曾少尉の名が出てくる。	
14	141	青木大東亜大臣出張ニ関スル出先へノ通知及発表ノ件			1943	昭和	18	3		書類	大日本帝国政府の罫紙に記載。大臣出発までは極秘とする。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
14	142	青木大東亜大臣ノ出張ニ関シ 記事掲載禁止ノ件			1943	昭和	18	3		書類	大日本帝国政府の罫紙に記載。	
14	143	青木大臣南方旅行予定			1943	昭和	18	3		書類	随行者は今井を筆頭に、愛知揆一ほか全5名。予定表添付。月は推定。	
14	144	大東亜大臣飛行予定各地点距離図			1943	昭和	18	3		書類		
14	145	関連部隊構成将官名簿	今井武夫		1943	昭和	18	3		名簿	大本営陸軍部罫紙に記載。14-144関連。岡部隊ほか。月は推定。	
14	150	関連部隊構成将官名簿	今井武夫		1943	昭和	18	3		名簿	月は推定。	
14	148	大東亜大臣飛行予定各地点距離図			1943	昭和	18	3		書類	月は推定。	
14	149	航空総監機飛行予定各地点距離図			1943	昭和	18	3		書類	月は推定。	
14	151	南方海軍病院及根拠地隊病舎 ニ於ケル入院及入室患者概数			1943	昭和	18	3		書類	海軍罫紙に記載。月は推定。	
14	152	昭和17年12月ニ於ケル数			1943	昭和	18	3		書類	陸軍罫紙に記載。入院患者数か。月は推定。	
14	153	軍政機構ノ大様			1943	昭和	18	3		書類	大日本帝国政府の罫紙に記載。月は推定。	
14	154	南方資源開発状況一覧表（地下資源）			1943	昭和	18	3		書類	大日本帝国政府の罫紙に記載。月は推定。	
14	155	南方資源開発状況一覧表（農産資源）			1943	昭和	18	3		書類	大日本帝国政府の罫紙に記載。月は推定。	
14	156	軍用定期運航表	南方航空輸送部		1943	昭和	18	3		書類		
14	157	広東、海口宛電報	大東亜大臣		1943	昭和	18	3		電報	「大臣南方旅行ノ件」。月は推定。写。	
14	159	大東亜大臣訪問先への贈与品 目リスト			1943	昭和	18	3		書類	大日本帝国政府の罫紙に記載。宛先と値段記入あり。タイのピブン首相への贈り物が一番値段が高い。月は推定。	
14	160	旅費概算額調			1943	昭和	18	3		書類	大東亜省罫紙に記載。月は推定。	
19	38	大東亜省参事官 陸軍少将今井武夫			1943	昭和	18	3		写真	同一2枚あり。陸軍少将昇任時のものか。	
20	367	大東亜省参事官 陸軍少将今井肖像			1943	昭和	18	3		写真	陸軍少将。胸像画に近い。軍刀を横に持つ。年月は推定。	
20	368	大東亜省参事官 陸軍少将今井肖像			1943	昭和	18	3		写真	陸軍少将。立像。年月は推定。	
★	★				1943	昭和	18	4	3	☆	於東京軍人会館。	比島会に出席（本間雅晴中将、奈良晃中将ほか）
18	385	比島会人名表（在京者）			1943	昭和	18	4	3	名簿	比島会開催（於軍人会館）。	
14	171	自昭和17年2月至11月 部隊患者発生状況表	信集軍医班		1943	昭和	18	4	7	書類	信とは印度支那の第21師団のことか。	
★	★				1943	昭和	18	4	10	☆	随員は今井を筆頭に、愛知揆一総務局経済課長、萩原徹、谷岡平八郎海軍少佐、渡辺修の全5名。	青木一男大東亜相に帯同して 大東亜圏歴訪（～5月15日まで）
10	39	南方旅行記念 自昭和十八年四月十日至同年五月十五日 期間三十日鵬程二万軒	今井武夫		1943	昭和	18	4	10	書類	10箱-東3所収のファイル。日付は推定。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備 考	今 井 武 夫 年 譜
14	172	昭和17年度月別西貢河内気象 対照表	信集軍医班		1943	昭和	18	4	15	書類	信とは印度支那サイゴンの第21師団のことか。	
14	173	昭和17年度西貢河内気象緒元 対照表	信集軍医班		1943	昭和	18	4	15	書類	信とは印度支那サイゴンの第21師団のことか。	
14	161a	青木大東亜大臣寄台日程			1943	昭和	18	4	16	書類	追加したので箱番号は14-161-a。	
14	161b	台北毎日オオノ宛電報	タナカ	台北毎日オオノ	1943	昭和	18	4	16	電報	帰られたら印象記本紙に掲載させて欲しいと今井少将に伝言頼む。 14-14ファイルに挿入。追加したので箱番号は14-161-b。	
14	164	「オット」前独大使一行南方 視察行動予定表			1943	昭和	18	4	16	書類	裏に4月18日から 5月16日までの予定メモあり。	
14	165	青木大東亜大臣来島視察ノ件 通知	海南警備府副官	関係各所轄長	1943	昭和	18	4	16	書類	関係各所轄長宛通知。海南警備府機密台33号ノ11	
★	★				1943	昭和	18	4	16	☆		青木大東亜相一行 台北着 台北 に1泊
13	130	今井武夫日記	今井武夫		1943	昭和	18	4	16	日記	5月12日迄。南方旅行。10-39参照。	
10	40	「青木亜相南方歴訪 今井少将 等を帯同 きのふ東京発」			1943	昭和	18	4	17	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。随員は今井参事官、愛知揆一総務局経済 課長、萩原徹政務課長、谷岡平八郎調査官・海軍少佐、渡辺修大臣 秘書官の全5名。	
14	162	青木大東亜大臣来香時ノ行動 予定表	総督部		1943	昭和	18	4	17	書類		
14	163	青木大臣滞広日程			1943	昭和	18	4	17	書類	在広東日本総領事館の罫紙に記載。	
★	★				1943	昭和	18	4	17	☆		青木大東亜相一行 台北発 広東 へ立ち寄り 広東神社参拝 その後香港へ
10	42	「広東の事情聴取」			1943	昭和	18	4	17	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。日付は推定。	
10	41	「磯谷総督と会見 香港島を視 察」			1943	昭和	18	4	17	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。日付は推定。磯谷廉介香港総督。	
14	168	青木大東亜大臣へノ連絡事項			1943	昭和	18	4	18	書類	極秘事項。印度支那駐屯軍の状況。調査部設置の件。仏印の経済情 勢の悪化。仏印放送施設の改造・仏人叙勲等問い合わせ・依頼事項 記載あり。日付は推定。	
14	169	参謀長宛電報	岡軍政総監	参謀長	1943	昭和	18	4	18	電報	大東亜大臣の視察日程につき、今井少将に伝えられたし。28日クチ ン、30日サンダカン、2日バレンバンへ出発としたし。岡とは昭南 の第7方面軍のこと。南政 899号。	
★	★				1943	昭和	18	4	18	☆		青木大東亜相一行 海南島へ
★	★				1943	昭和	18	4	19	☆	ハノイは昔 トンキンと言った。	青木大東亜相一行 ハノイのド クー仏印総督訪問
14	202	ハノイで 仏印総督官邸を訪 問 ドクー総督に挨拶する大 東亜大臣	毎日新聞社大阪 写真班		1943	昭和	18	4	19	写真		
14	203	ハノイにて 仏印ドクー総督 邸を訪問 した大東亜大臣と芳 沢大使	毎日新聞社大阪 写真班		1943	昭和	18	4	19	写真	日付は推定。	
10	48	仏印ドクー総督訪問			1943	昭和	18	4	19	写真	青木大臣、ドクー総督、芳沢大使	
10	49	仏印総督訪問			1943	昭和	18	4	19	写真	青木大臣、ドクー総督、芳沢大使	
10	50	仏印総督官邸辞去			1943	昭和	18	4	19	写真	青木大臣、芳沢大使、萩原	
10	51	仏印総督と懇談			1943	昭和	18	4	19	写真	青木大臣、ドクー総督、芳沢大使、今井を含む随員5名 全8名	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
10	52	仏印総督答訪			1943	昭和	18	4	19	写真	青木大臣、ドクー総督、芳沢大使、今井を含む随員5名 全8名	
★	★				1943	昭和	18	4	20	☆	於大使館官邸。	青木大東亜相一行 芳沢大使主催 茶会に出席
14	166	茶会出席者名簿			1943	昭和	18	4	20	書類	4月19日於大使館邸茶会、20日於仏印総督邸晩餐会、於大使館邸茶会出席者リスト	
14	204	芳沢大使主催茶会に於ける青木一男大東亜相芳沢大使ドクー総督随員 谷岡平八郎今井 萩原修 渡辺修 愛知 揆一	毎日新聞社大阪写真班		1943	昭和	18	4	20	写真	中央に大東亜大臣青木一男、向って右に 芳沢大使、左 ドクー総督。後ろに随員。右より谷岡少佐、今井少将、萩原政務課長、愛知経済課長、渡辺秘書官。	
10	43	「青木東亜相ドクー総督会談」			1943	昭和	18	4	20	新聞	掲載紙不明。記事切抜。日付は推定。	
10	44	「仏印に大なる感動」			1943	昭和	18	4	20	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。日付は推定。	
10	45	「仏印への認識深む」			1943	昭和	18	4	20	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。日付は推定。	
10	47	「青木大東亜相ドクー総督会談」			1943	昭和	18	4	20	新聞	掲載紙不明。記事切抜。日付は推定。	
●	●				1943	昭和	18	4	20	●	安南王から勲二等勲章。	グラン・オフィシエール・ドラゴン・ド・アンナン勲章
20	14	今井武夫宛勲章授与証「グラン・オフィシエール・ドラゴン・ド・アンナン勲章」	大南龍星院	今井武夫	1943	昭和	18	4	20	勲章	大南は今のベトナム。	
14	167	青木大東亜大臣西貢滞在日程	在西貢大使府支部		1943	昭和	18	4	21	書類	年は推定。	
14	170	仏印衛生機関現在入院患者調査表	信集軍医班		1943	昭和	18	4	21	書類	信とは印度支那の第21師団のことか。	
14	179	大東亜大臣行動予定表	森集団司令部		1943	昭和	18	4	21	書類	森とはビルマ方面軍のこと。4月25日から26日までの予定。	
★	★				1943	昭和	18	4	21	☆		青木大東亜相一行 ハノイから西貢 タンソンニュ飛行場着
★	★				1943	昭和	18	4	21	☆		ショロン市視察
10	53	ショロン市視察			1943	昭和	18	4	21	写真		
14	175	青木大臣タイに於けるスケジュール			1943	昭和	18	4	22	書類		
14	176	タイ協力関係改善得策資料	在タイ国日本帝国大使館		1943	昭和	18	4	22	書類	タイ情勢についての報告文書と提案。在タイ国日本帝国大使館罨紙に記載。日付は推定。	
14	197	写真封筒	北村写真館		1943	昭和	18	4	22	封筒	14-198～209までの写真を所収。	
14	198	戦勝記念塔を参拝する青木大臣と坪上大使 バンコックにて	毎日新聞社大阪写真班		1943	昭和	18	4	22	写真	タイ駐在坪上貞二大使。	
14	199	タイのピブン首相を官邸に訪問した青木大東亜省 バンコックにて	毎日新聞社大阪写真班		1943	昭和	18	4	22	写真		
14	200	坪上大使の出迎えを受け飛行場に着いた青木大東亜相 バンコックにて	毎日新聞社大阪写真班		1943	昭和	18	4	22	写真	タイ駐在 上貞二大使。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
14	201	ピブン首相と記念撮影の青木一男大東亜大臣 今井 バンコック首相官邸にて	毎日新聞社大阪写真班		1943	昭和	18	4	22	写真	同一2枚あり。	
★	★				1943	昭和	18	4	22	☆		青木大東亜相一行 タイのドンムアン飛行場着
★	★				1943	昭和	18	4	22	☆		青木大東亜相一行 タイ国王室寺院 エメラルド仏陀参拝
★	★				1943	昭和	18	4	22	☆		青木大東亜相一行タイのバンコックでピブン首相、ピヂット外務大臣訪問 夜 歓迎宴
10	55	盤谷到着 ドンムアン飛行場			1943	昭和	18	4	22	写真		
10	56	坪上大使出迎 ドンムアン飛行場			1943	昭和	18	4	22	写真	タイ駐在坪上貞二大使。	
10	57	泰側代表出迎 ドンムアン飛行場			1943	昭和	18	4	22	写真	リヤム儀典局長。	
10	59	ヴィジット外相出迎 ドンムアン飛行場			1943	昭和	18	4	22	写真		
10	58	日泰協会歓迎頸飾花輪を懸くドンムアン飛行場			1943	昭和	18	4	22	写真	ヴィジット外相、中村明人司令官ほか。	
10	60	エメラルド仏陀参拝 ワットブラケオ			1943	昭和	18	4	22	写真		
10	61	仏陀参拝 ワットブラケオ			1943	昭和	18	4	22	写真		
10	62	仏陀礼拝を終わって退出 ワットブラケオ			1943	昭和	18	4	22	写真		
10	63	仏陀礼拝大臣献燭 ワットブラケオ			1943	昭和	18	4	22	写真		
10	64	エメラルド仏陀参拝 ワットブラケオ			1943	昭和	18	4	22	写真		
10	70	ワンワイ殿下訪問 バンコック私邸			1943	昭和	18	4	22	写真	王室記帳の折か。	
10	68	泰国外相公式訪問			1943	昭和	18	4	22	写真		
10	69	泰国外相に挨拶			1943	昭和	18	4	22	写真		
10	66	ピブン首相訪問 総理官邸			1943	昭和	18	4	22	写真	首相、青木、今井、愛知、萩原、渡辺、坪上、西野。	
10	65	泰首相訪問 総理官邸			1943	昭和	18	4	22	写真	首相、青木、今井、愛知、渡辺、西野。	
10	67	総理官邸辞去			1943	昭和	18	4	22	写真		
10	71	戦勝記念塔参拝 バンコック			1943	昭和	18	4	22	写真		
10	76	記者団会見			1943	昭和	18	4	22	写真	於ベントムシン宿舎	
10	54	「泰国の協力に感銘 青木大東亜相盤谷着」			1943	昭和	18	4	22	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。日付は推定。	
3	110	泰国外務大臣書簡	泰国外務大臣	今井武夫	1943	昭和	18	4	22	書簡	ヴィジット外相からの4月22日歓迎宴招待状。仏歴2486年。	
3	111	メニュー			1943	昭和	18	4	22	書類	3-110関連。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
14	174	青木大東亜大臣ノ新聞記者ニ 対スル「ステートメン ト」	青木一男		1943	昭和	18	4	23	書類	日付は推定。	
★	★				1943	昭和	18	4	23	☆		タイのピブン首相 青木大東亜相 一行 歓迎宴
10	72	泰國首相歓迎宴			1943	昭和	18	4	23	写真	3-112 に招待状あり。	
3	112	泰固首相招待状	泰固首相	今井武夫	1943	昭和	18	4	23	書簡	ピブン首相からの4月23日歓迎宴招待状。10-72関連。	
14	178	日タイ共同コミュニケ（案）			1943	昭和	18	4	24	書類	14-177の原稿か。在タイ国日本帝国大使館の罫紙に記載。	
★	★				1943	昭和	18	4	24	☆		青木大東亜大臣主催 晩餐会
3	113	メニュー	盤谷オリエンタ ルホテル		1943	昭和	18	4	24	書類	青木大東亜大臣主催晩餐会メニュー。	
10	73	「青木大東亜相泰首相歓迎会 へ」			1943	昭和	18	4	24	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。日付は推定。	
10	74	「日泰血盟更に深む 青木大東 亜相訪泰の収穫大」			1943	昭和	18	4	24	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。日付は推定。	
10	75	「共同の運命再確認 青木・ピ ブン会談 日泰共同声明発表」			1943	昭和	18	4	25	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。日付は推定。	
14	177	日タイ共同コミュニケ			1943	昭和	18	4	25	書類	日タイは共同の運命に立つ両国の結束を再確認し戦争完遂及び大東 亜建設の為共に採るべき方途に付完全なる意見の一致を見た。	
★	★				1943	昭和	18	4	25	☆		青木大東亜相一行 タイからビル マ ラングーンへ
★	★				1943	昭和	18	4	25	☆		青木大東亜相一行 ビルマ ラン グーンで パーモ長官と会談
14	205	青木一男大東亜相 今井ら ビルマ ラングーン モン キーポイント砲台視察	毎日新聞社大阪 写真班		1943	昭和	18	4	25	写真		
14	206	青木一男大東亜相とパーモ長 官の会見	毎日新聞社大阪 写真班		1943	昭和	18	4	25	写真		
14	207	青木一男大東亜相とパーモ長 官の会見 後列はビルマ幹部 9名	毎日新聞社大阪 写真班		1943	昭和	18	4	25	写真		
10	77	ビルマ ラングーン パーモ 長官と会談			1943	昭和	18	4	25	写真		
10	78	「パーモ長官と会談 青木東 亜相ラングーンから昭南着」			1943	昭和	18	4	25	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。日付は推定。	
10	79	ビルマ要人引見			1943	昭和	18	4	25	写真	於蘭貢貴賓宿舎「ビクトリア」湖畔。	
10	80	ビルマ要人			1943	昭和	18	4	25	写真	於蘭貢貴賓宿舎。	
10	81	青木大臣ビルマ行政府長官ド クター パーモと握手			1943	昭和	18	4	25	写真	於蘭貢貴賓宿舎。	
10	82	青木大臣ビルマラングーン モンキーポイント砲台視察			1943	昭和	18	4	25	写真		

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
10	46	「西貢で大使府首脳と懇談」			1943	昭和	18	4	25	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。日付は推定。	
14	180	大東亜大臣行動予定表	南方軍軍政総監部		1943	昭和	18	4	26	書類	日付は推定。	
★	★				1943	昭和	18	4	26	☆		青木大東亜相一行 ラングーンから昭南着
10	84	「青木大東亜相昭南到着」			1943	昭和	18	4	26	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。日付は推定。	
★	★				1943	昭和	18	4	26	☆		青木大東亜相一行 寺内寿一南方軍総司令官の招宴に出席
10	83	昭南 寺内総司令官訪問			1943	昭和	18	4	26	写真	愛知、寺内、今井、青木。	
10	86	「寺内南方軍司令官と懇談する青木東亜相」			1943	昭和	18	4	26	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。日付は推定。	
10	87	「寺内南方軍司令官と懇談する青木大東亜相」			1943	昭和	18	4	26	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。日付は推定。	
10	85	「青木東亜相昭南発」			1943	昭和	18	4	28	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。	
★	★				1943	昭和	18	4	28	☆		青木大東亜相一行 昭南発 クチン着
14	181	大東亜大臣視察計画	灘集団司令部		1943	昭和	18	4	28	書類	灘は第37軍。軍司令官は山脇正隆中将。ボルネオ在。日付は推定。	
10	88	「青木東亜相クチン視察」			1943	昭和	18	4	28	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。日付は推定。	
14	182	奉祝学芸会順序			1943	昭和	18	4	28	書類	日付は推定。現地人児童劇プログラムか。	
★	★				1943	昭和	18	4	28	☆	クチンの旧英領サラワク国王王宮にて。	山脇司令官とイバン舞踏観覧
10	90	大東亜大臣一行イバン舞踏観覧			1943	昭和	18	4	28	写真	19時30分。ボルネオ守備軍司令官山脇正隆中将と。左からイバン人二人、馬奈木、今井、谷岡、青木大臣、萩原、愛知、山脇中将、徳野。『支那事変の回想』に写真あり。	
14	183	大東亜大臣行動予定表	軍政総監部		1943	昭和	18	4	29	書類	日付は推定。	
★	★				1943	昭和	18	4	29	☆		青木大東亜相一行 クチン発 昭南カラに着
14	184	青木大東亜大臣視察日程第一日			1943	昭和	18	4	30	書類	陸軍野紙に記載。	
14	208	昭南 陸軍病院慰問の青木一男大東亜相	毎日新聞社大阪写真班		1943	昭和	18	4	30	写真		
★	★				1943	昭和	18	4	30	☆		青木大東亜相一行 バレンバン着
10	89	昭南 陸軍病院慰問（第一陸軍病院）			1943	昭和	18	4	30	写真		
4	51	北支の風物	遠藤泰一		1943	昭和	18	4	30	書籍	アルス（アルス文化叢書）。	
11	28	今井武夫手帳	今井武夫		1943	昭和	18	4		手帳	昭和18年4月の南方視察関係。年は推定。	
14	185	大東亜大臣ジャワ視察行動予定表	ジャワ軍政監部		1943	昭和	18	5	1	書類		
14	187	青木大東亜大臣視察並ニ見学予定ノ件通知	第21特別根拠地隊副官		1943	昭和	18	5	2	書類		
14	189	水城（タマンサリ）			1943	昭和	18	5	2	書類	インドネシアの遺跡の説明文。月日は推定。Taman Sari（タマンサリ）とは、インドネシア・ジャワ王族が特別なトリートメントを受けてきた王宮内の「水の宮殿」を意味する。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
★	★				1943	昭和	18	5	2	☆		青木大東亜相一行 ジャカルタ着
14	186	青木大東亜相バンドン視察予定	プリアンガン州庁		1943	昭和	18	5	3	書類		
14	188	スケジュール	今井武夫		1943	昭和	18	5	3	メモ	日付は推定。	
★	★				1943	昭和	18	5	3	☆		青木大東亜相一行 バンドン着
14	190	青木大東亜大臣視察日程			1943	昭和	18	5	6	書類	マロス。日付は推定。	
10	91	ボルネオのバリックパパン訪問 於マロス飛行場			1943	昭和	18	5	7	写真	9.00am。	
14	191	別紙第1 青木大東亜大臣視察日程			1943	昭和	18	5	8	書類	メナド。日付は推定。	
14	192	青木大東亜大臣視察地図			1943	昭和	18	5	8	地図	日付は推定。	
★	★				1943	昭和	18	5	8	☆		青木大東亜相一行 ランゴアン飛行場着
1	71	南十字星 5月8日号	比島派遣軍報道部		1943	昭和	18	5	8	冊子	第96号。コレヒドール陥落一周年記念号。フィリピン戦線における陣中冊子。72頁。	
18	397	「本間中将を囲む わたり会初総会」	毎日新聞社		1943	昭和	18	5	8	新聞	18-394に挿入。新聞切抜。毎日新聞。	
14	193	青木大東亜相一行視察日程			1943	昭和	18	5	9	書類	ササ飛行場着。	
14	194	大東亜大臣行動予定表			1943	昭和	18	5	10	書類	マニラ。	
6	26	ニューギニアの自然と民族	太平洋協会		1943	昭和	18	5	10	書籍	日本評論社。	
6	27	ニューギニアの地図			1943	昭和	18	5	10	地図	6-26に挿入。年は推定。	
★	★				1943	昭和	18	5	11	☆		マニラ 比島要人と懇談 於マニラホテル
10	92	比島マニラ 比島要人と懇談 マニラホテル			1943	昭和	18	5	11	写真		
10	96	比島行政府長官招宴			1943	昭和	18	5	11	写真		
10	93	「青木東亜相マニラ訪問」			1943	昭和	18	5	12	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。日付は推定。	
10	94	「マニラ再び沸く 青木大東亜相を歓迎」			1943	昭和	18	5	12	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。日付は推定。5月5日に東条首相がマニラを訪問しているの、「再び沸く」と書いてあるのか。	
10	95	「比島独立確信 青木大東亜相語る」			1943	昭和	18	5	12	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。日付は推定。	
14	195	青木大東亜大臣寄台日程			1943	昭和	18	5	13	書類	台北。	
★	★				1943	昭和	18	5	15	☆		青木大東亜相一行帰国
10	97	「力強し建設の進捗 南方一巡 青木東亜相帰る」			1943	昭和	18	5	15	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。	
10	98	「青木大東亜相 けふ内地帰還」			1943	昭和	18	5	15	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。	
10	99	「政策の的確推進期待 青木大東亜相けさ帰京」			1943	昭和	18	5	15	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
10	100	「大東亜相けふ帰京 南方視察の使命完了」			1943	昭和	18	5	15	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。	
18	444	「青木大東亜相の南方視察談」			1943	昭和	18	5	16	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。	
22	523	東条英機陸相宛「外国勲章受領証明書下付の件願」	今井武夫	東条英機陸相	1943	昭和	18	5	29	書類	グラン・オフィシエール・ドラゴン・ド・アンナン勲章。20-14参照。下書きと思われるが印刷して押印あり。22-523～526で1綴	
22	525	伴関物件目録	今井武夫		1943	昭和	18	5	29	書類	グラン・オフィシエール・ドラゴン・ド・アンナン勲章。	
22	526	受動事由書	今井武夫		1943	昭和	18	5	29	書類	グラン・オフィシエール・ドラゴン・ド・アンナン勲章。日仏親善関係増進のため。	
22	524	瀬古保次賞勳局総裁宛「外国勲章受領及佩用願」	今井武夫	瀬古保次賞勳局総裁	1943	昭和	18	5	29	書類	グラン・オフィシエール・ドラゴン・ド・アンナン勲章。	
5	13	日華対訳 中華民国習慣調査録附満州国	中華法令編印館		1943	昭和	18	5	30	書籍		
21	232	星条旗墮ちたり 比島作戦従軍手記	寺下宗孝		1943	昭和	18	5	30	書籍	寺下は陸軍報道班員。揚子江社。	
3	72	ヒトラー 「マイン・カンフ」研究	石川淳十郎		1943	昭和	18	6	1	書籍	国際日本協会。	
1	90	今井「思ひ出」村上剛「今井武夫」	支那派遣軍報道部		1943	昭和	18	6	20	冊子	紙弾。村上剛（つよし）は文友主筆。21-334にもあり。	
21	334	今井「思ひ出」村上剛「今井武夫」	支那派遣軍報道部		1943	昭和	18	6	20	冊子	紙弾。村上剛（つよし）は文友主筆。1-90にもあり。	
6	38	アンコール遺跡	藤岡道夫・鈴木博高		1943	昭和	18	6	30	書籍	三省堂。	
★	★				1943	昭和	18	7	7	☆		「（北京）暁月会」が創設され出席（於 九段軍人会館 今井、中島第四郎中佐ほか15～16名出席）
20	10	今井武夫宛大日本帝國外国勲章佩用免許証「グラン・オフィシエール・ドラゴン・ド・アンナン勲章」	瀬古保次	今井武夫	1943	昭和	18	7	14	書類	グラン・オフィシエール・ドラゴン・ド・アンナン（ベトナム）勲章の受領と佩用免許せらる。瀬古は賞勳局総裁。第30113号。20-14関連。	
20	12	今井武夫宛大日本帝國外国勲章佩用免許証「タイ国皇帝からの白象第二等勲章」	瀬古保次	今井武夫	1943	昭和	18	7	14	書類	タイ国皇帝からの白象第二等勲章の受領と佩用免許せらる。瀬古は賞勳局総裁。第30122号。	
11	23	軍用華語馬來語教本	新興亜学院		1943	昭和	18	7	20	冊子		
1	63	今井「南方と日本民族」	財団法人社会教育協会		1943	昭和	18	7	20	雑誌	国民講座 484輯。今井は青木大臣と訪問した東南アジアの諸国（フィリピン、スマトラ、ジャワ、ボルネオなど）と日本との関係を述べている。「6月の木曜研究会で今井が講演したものに加筆訂正したもの」とある。「南方共栄圏の建設は日本人の手で」と述べている。	
★	★				1943	昭和	18	7	26	☆		（三男） 今井貞夫誕生（東京都上目黒7丁目）
11	68	「ジャングル戦線を征く」	毎日新聞社		1943	昭和	18	7	28	雑誌	サンデー毎日。切抜。	
11	196	日本政治史概論	片山重利		1943	昭和	18	8	8	冊子		

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
20	13	今井武夫宛大日本帝國外国勲章佩用免許証「中華民國政府からの二級同光勲章」	瀬古保次	今井武夫	1943	昭和	18	8	12	書類	中華民国政府からの二級同光勲章の受領と佩用允許せらる。瀬古は賞勳局総裁。第30157号。20-26関連。	
4	82	先覚諸家 南方建設論選集	田中末廣		1943	昭和	18	9	10	書籍	帝国書院。	
★	★				1943	昭和	18	9	19	☆		大東亜省第二回運動会に出席
20	77	大東亜省青木一男大臣 山本熊一次官 今井参事官			1943	昭和	18	9	19	写真	於大東亜省第二回運動会。	
★	★				1943	昭和	18	10	15	☆		郷里長野の母校 朝陽国民校で「大東亜戦争と大東亜共栄に就いて」と題して講演
2	41	戦争史概観	四手井綱正		1943	昭和	18	10	30	書籍	岩波書店。四手井は終戦時関東軍参謀副長。陸士27期。陸軍中將。	
22	519	松平恒雄書簡	松平恒雄	今井武夫	1943	昭和	18	11	2	書簡	11月6日新宿御苑で（天皇陛下から）茶菓を賜わる案内通知。松平は宮内大臣。	
14	2	大東亜会議記録（日本語版）	大東亜省		1943	昭和	18	11	5	書類	11月5日、6日開催の議事録。汪兆銘の演説記録あり。今井も出席。極秘とある。	
★	★				1943	昭和	18	11	5	☆	大東亜会議に 汪兆銘出席・演説	大東亜会議（～6日まで2日間）
17	60	大東亜会議次第	大東亜省		1943	昭和	18	11	5	書類	11月6日までの2日間。於東京。	
★	★				1943	昭和	18	11	6	☆	大東亜会議が主催されておりその兼ね合いか。	新宿御苑に於て（天皇陛下から）茶菓を賜わる
13	86	今井武夫宛封筒		今井武夫	1943	昭和	18	11	25	封筒	台申公司書類と書いてあるが中身なし。	
17	61	大東亜会議写真アルバム			1943	昭和	18	11		冊子	11-60のアルバム。汪兆銘、チャンドラボースなどの写真。	
19	145	大東亜会議演説集	大東亜省		1943	昭和	18	11		冊子		
14	249	犬養健書簡	犬養健	今井武夫	1943	昭和	18	12	3	書簡	犬養は初代同盟通信社長岩永裕吉の義理の甥にあたる。ゾルゲ事件の尾崎秀実と仲がよく、前年の1942年4月5日に逮捕されている。「一身上の件 おかげで落着。昭和13年以來の日華問題が懐かしく思い出される」。	
4	48	比島戦記 ナチブ山	柴田賢次郎		1943	昭和	18	12	10	書籍	今井部隊のフィリピンにおける戦記。成徳書院。	
★	★				1943	昭和	18	12	10	☆		長野で行われた「大東亜経済懇談会」に出席 「大東亜の諸情勢について」と題して講演 於 長野商工経済会講堂
18	2	歩兵第141連隊 将校職員表	片山憲四郎		1943	昭和	18	12	20	名簿	片山は陸士28期。第3代の141連隊長。昭和18年12月20日ツルブ附近戦闘直前のもの。片山の昭和23年2月6日付け記憶によって作成したもの。14-289の本紙。1枚。	
14	290	歩兵第141連隊 将校職員表	片山憲四郎		1943	昭和	18	12	20	名簿	18-2の複写。昭和18年12月20日ツルブ附近戦闘直前のもの。戦後記憶によって作成したもの。14-288に挿入されていたが、直接関係ない資料と思われる。1枚。	
14	117	支那事变行賞一時賜金			1943	昭和	18	12	23	書類		
14	118	今井武夫宛「支那事变行賞賜金取扱複分任官 国債送付ノ件」	名古屋師団行賞賜金取扱複分任官	今井武夫	1943	昭和	18	12	23	書類	今井宛賜金三千元。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
22	547	世界週刊 第6巻	日本青年外交協会		1943	昭和	18	12	25	雑誌	雑誌「世界週刊」 自27号（7月3日発行）至52号（12月25日発行）を1冊にしたもの。	
3	59	物価・通貨・民心—中国 経済の動貌	吉田政治		1943	昭和	18	12	30	書籍	三省堂。	
1003		曾走路我記	影佐禎昭		1943	昭和	18	12		原稿	1冊。	
13	163	今井武夫手帳	今井武夫		1943	昭和	18			メモ	昭和18年旅行要務事項ほか。	
13	166	今井武夫手帳	今井武夫		1943	昭和	18			メモ	大東亜圏訪問の時のものか。	
21	347	今井武夫陸軍少将			1943	昭和	18			写真	軍刀を持つ。	
13	165	今井武夫手帳	今井武夫		1943	昭和	18			メモ	大東亜大臣滞支旅行ほか。年は推定。	
19	47	今井の写真			1943	昭和	18			写真	陸軍少将時代のものか。	
20	166	防空壕を出る今井			1943	昭和	18			写真	年は推定。	
12	225	畑俊六大将			1943	昭和	18			写真	年は推定。	
12	229	阿南惟幾大将			1943	昭和	18			写真	年は推定。	
14	218	日緬合同戦争協力機関設置要領	森参謀部		1944	昭和	19	1	6	書類	陸軍野紙に記載でタイプで記載。森はビルマ方面軍の通称。	
13	122	今井武夫公用パスポート	外務省		1944	昭和	19	1	15	書類	大東亜参事官今井の仏領インドシナ、泰国へのパスポート。外務大臣重光葵。	
14	216	次長 次官 岡宛電報電報	森参謀長	次長 次官 岡	1944	昭和	19	1	22	電報	森方参二電75、76号。ビルマ国政情重要な事項。森はビルマ方面軍の通称。岡とは第7方面軍。	
14	224-2	次長 次官 岡宛電報	森部隊参謀長	次長 次官 岡	1944	昭和	19	1	24	電報	68号。極秘親展。バー・モウの来訪と懇談内容について。森はビルマ方面軍の通称。岡は第7方面軍。オンサンとバーモの対立。	
14	223	次長宛電報	森部隊参謀長	次長	1944	昭和	19	1	24	電報	75号。極秘親展。森はビルマ方面軍の通称。最近の緬甸の国政に関する重要事項。バー・モウに対する信頼思わしからず。	
14	224-1	次長 次官 岡宛電報	森部隊参謀長	次長 次官 岡	1944	昭和	19	1	24	電報	76号。75号の続き。極秘親展。14-223の続き。最近の緬甸の国政に関する重要事項。独立したバー・モウ政権について。森はビルマ方面軍の通称。岡は第7方面軍。オンサンとバーモの対立。	
14	49	今井武夫 南方旅行記（日記）	今井武夫		1944	昭和	19	1	25	日記	2月21日迄。台北からサイゴン、昭南、クワラルンプール、ペナン、アロースター、ラングーン、バンコック等を廻った。ノートに記載。	
14	210	緬甸旅行書類 今井参事官	今井武夫		1944	昭和	19	1	25	書類	14箱-東15所収のファイル。緬甸以外にも、仏印、タイ、昭南も廻っている。14-49に日記あり。日付は推定。	
14	211	出張日程表			1944	昭和	19	1	25	書類	大東亜省官房審議室参事官今井。大東亜省の野紙に記載。	
★	★				1944	昭和	19	1	25	☆	14-210に書類あり。ビルマ、タイが中心か。	南方旅行 2月21日迄 東京→台北→サイゴン→昭南→クワラルンプール→ペナン→アロースター→バンコック→ラングーン→サイゴン→台北→東京
★	★				1944	昭和	19	1	25	☆		台北着
14	225	84号 次長 次官 岡宛電報	森部隊参謀長	次長 次官 岡	1944	昭和	19	1	26	電報	極秘。森はビルマ方面軍の通称。岡は第7軍。バー・モウ総理上京の際述べた日緬戦争協力協議機関の設置終了。	
★	★				1944	昭和	19	1	26	☆	サイゴンは昔 安南といった。	サイゴン着

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
★	★				1944	昭和	19	1	27	☆		昭南着
★	★				1944	昭和	19	1	30	☆		クアラルンプール着
14	212	緬甸棉作地ト1939—40年ノ植付英反			1944	昭和	19	1		書類	年月は推定。手書きの地図に数字が記載されている。	
14	213	宛先不明電報		宛先不明	1944	昭和	19	1		電報	26号。ビルマ華僑概況ニ関スル件。年月は推定。	
14	214	宛先不明電報		宛先不明	1944	昭和	19	1		電報	今年度実施スヘキ重要政策ニ関スル件。ビルマ関連。年月は推定。	
14	215	宛先不明電報		宛先不明	1944	昭和	19	1		電報	ビルマ国内反バー・モウ勢力ノ懐柔ニ関スル件。年月は推定。独立以前からバー・モウを悩ます国防軍との関係。	
14	219	戦争協力機関「ビルマ」個人名義			1944	昭和	19	1		書類	14-218の後に挿入。同じ陸軍野紙に記載され、タイプが同じ。年月は推定。	
3	60	吉田政治書簡	吉田政治	今井武夫	1944	昭和	19	1		書簡	書籍送り状。3-59に挿入。	
14	222	アロスター視察所感	萩原書記官		1944	昭和	19	2	1	書類	在「タイ」国日本帝國大使館の野紙に記載。アロスターは英領マラヤだが当時日本が占領していた。タイはこの頃マレー4州を日本軍の協力で編入した。日付は推定。5枚。	
★	★				1944	昭和	19	2	1	☆		ペナン着
14	238	ビルマ国政情ニ関スル判断	ビルマ方面軍司令部		1944	昭和	19	2	2	書類	極秘。15部の内第8号。自由印度仮政府と印度国民軍との緊密なる関係を反映させる。	
★	★				1944	昭和	19	2	3	☆		バンコク着
★	★				1944	昭和	19	2	4	☆		バンコクよりラングーンに到着 2月10日まで一週間滞在 政府各大臣と面接
★	★				1944	昭和	19	2	5	☆		印度仮政府のチャンドラボースを訪問し 挨拶
★	★				1944	昭和	19	2	7	☆		バーモ ビルマ総理と会談
★	★				1944	昭和	19	2	10	☆		グランドホテルアンコールに宿泊
6	39	グランドホテルドアンコールのディナーメニュー	グランドホテルドアンコール		1944	昭和	19	2	10	書類	6-38に挿入。裏面にアンコール遺跡への地図あり。	
4	21	戦争・事変・上海	園田日吉		1944	昭和	19	2	10	書籍	園田は上海毎日新聞社記者。207頁に今井の記載あり。中国通信社。	
★	★				1944	昭和	19	2	11	☆		グランドホテルアンコールに宿泊
6	40	グランドホテルドアンコールのディナーメニュー	グランドホテルドアンコール		1944	昭和	19	2	11	書類	6-38に挿入。	
14	236	青木（大東亜大臣）電報	坪上大使	青木（大東亜大臣）	1944	昭和	19	2	14	電報	極秘。電信写。被爆ニ際シ執リタル電信処理状況。14号。タイ駐在坪上貞二大使。	
★	★				1944	昭和	19	2	14	☆		アンコールワット訪問
★	★				1944	昭和	19	2	14	☆		バンデアイケデー パクセイケヤムクロング登攀
16	23	アンコールワット			1944	昭和	19	2	14	写真	16-22挿入。10枚。	
16	25	アンコールトム			1944	昭和	19	2	14	絵葉書	16-22挿入。年月は推定。	
14	237	青木（大東亜大臣）電報	坪上大使	青木（大東亜大臣）	1944	昭和	19	2	15	電報	極秘。電信写。盤谷被爆ニ関スル件。20号。タイ駐在坪上貞二大使。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
14	228	青木（大東亜大臣）電報	坪上大使	青木（大東亜大臣）	1944	昭和	19	2	16	電報	極秘。電信写。当面ノ「タイ」国情勢並ニ対「タイ」施策ニ関する件。214号。タイ駐在坪上貞二大使。	
14	229	青木（大東亜大臣）電報	坪上大使	青木（大東亜大臣）	1944	昭和	19	2	16	電報	極秘。電信写。215-1号。当面ノ「タイ」に対する判断。タイ駐在坪上貞二大使。	
★	★				1944	昭和	19	2	16	☆		20日までサイゴンに滞在 仏印情勢につき報告している
★	★				1944	昭和	19	2	16	☆		メコン川渡船
14	217	南方旅行報告要旨	今井武夫		1944	昭和	19	2	17	報告書	在仏印大日本特派大使府西貢支部の野紙に記載。年月日は推定。	
14	220	当面ノ「タイ」国情勢ニ対スル判断			1944	昭和	19	2	17	書類	日本文化会館の野紙に記載。極秘扱い。月日は推定。14-217の別紙にあたる。ピブン政権と日本軍との関係等。	
14	221	当面ノ対「タイ」施策要領			1944	昭和	19	2	17	書類	日本文化会館の野紙に記載。極秘扱い。月日は推定。14-217の別紙にあたる。	
14	226	青木（大東亜大臣）電報	北沢代理大使	青木（大東亜大臣）	1944	昭和	19	2	17	電報	日本人暴徒等のバー・モウ官邸乱入事件 極秘。電信写。17号。	
14	230	青木（大東亜大臣）電報	坪上大使	青木（大東亜大臣）	1944	昭和	19	2	17	電報	極秘。電信写。215-2号。通知ノ「タイ」国情勢並ニ対「タイ」施策ニ関する件。タイ駐在坪上貞二大使。	
14	231	青木（大東亜大臣）電報	坪上大使	青木（大東亜大臣）	1944	昭和	19	2	17	電報	極秘。電信写。215-3号。当面ノ「タイ」国情勢並ニ対「タイ」施策ニ関する件。タイ駐在坪上貞二大使。	
14	232	青木（大東亜大臣）電報	坪上大使	青木（大東亜大臣）	1944	昭和	19	2	17	電報	極秘。電信写。215-4号。当面ノ「タイ」国情勢並ニ対「タイ」施策ニ関する件。タイ駐在坪上貞二大使。	
14	233	青木（大東亜大臣）電報	坪上大使	青木（大東亜大臣）	1944	昭和	19	2	17	電報	極秘。電信写。215-5号。当面ノ「タイ」国情勢並ニ対「タイ」施策ニ関する件。タイ駐在坪上貞二大使。	
14	234	青木（大東亜大臣）電報	坪上大使	青木（大東亜大臣）	1944	昭和	19	2	17	電報	極秘。電信写。215-6号。当面ノ「タイ」国情勢並ニ対「タイ」施策ニ関する件。タイ駐在坪上貞二大使。	
14	235	青木（大東亜大臣）電報	坪上大使	青木（大東亜大臣）	1944	昭和	19	2	18	電報	極秘。電信写。当面ノ「タイ」国情勢並ニ対「タイ」施策ニ関する件。216号。タイ駐在坪上貞二大使。	
★	★				1944	昭和	19	2	18	☆		サイゴン着
14	227	青木一男大東亜大臣宛電報	澤田大使	青木（大東亜大臣）	1944	昭和	19	2	19	電報	日本人暴徒等のバー・モウ官邸乱入事件の大使の見舞い。14-226関連。極秘。電信写。22号。	
★	★				1944	昭和	19	2	20	☆		台北着
★	★				1944	昭和	19	2	21	☆		東京帰着
16	22	南方旅行中の写真と絵葉書所収の封筒			1944	昭和	19	2		封筒		
16	24	南方旅行中の写真			1944	昭和	19	2		写真	16-22挿入。写真7枚。	
★	★				1944	昭和	19	3	3	☆		家族 富山に疎開 学校の関係で長女は東京都目黒区の家に残る
22	100	都市疎開ニ伴フ地方転出証明書	東京都目黒区長		1944	昭和	19	3	3	書類	きみ子、信夫、孝子、貞夫の4人と使用人今井すみ子（24歳）計5名の富山県東砺波郡井波町への転出証明書。	
14	703	昭和十九年度大陸物資転嫁輸送ニ関スル件	陸軍省整備局第三部		1944	昭和	19	5	22	書類	大東亜省の野紙に記載。	
14	704	内鮮満支輸送連絡協議会設置ニ関スル件（案）	運輸通信省企画局		1944	昭和	19	5	24	書類	大東亜省の野紙に記載。	
20	359	褚民誼来日写真			1944	昭和	19	6	3	写真	於銀座 源氏寮。全12名。他はすべて民間会社員か。	
★	★				1944	昭和	19	6	8	☆		6月20日まで満州国新京、北京に出張旅行日誌あり

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
★	★				1944	昭和	19	6	8	☆		6月28日まで満州国新京、北京に出張
14	702	出張日程表			1944	昭和	19	6	8	書類	6月28日までの出張日程表。大東亜省の罫紙に記載。	
14	705	今井武夫 満支旅行日誌	今井武夫		1944	昭和	19	6	8	日記	6月20日迄。大日本帝國政府の罫紙に記載。備忘録と名付けられたファイル。	
14	708	満州北支旅行報告	今井武夫		1944	昭和	19	6	10	報告書	6月22日迄記載。	
★	★				1944	昭和	19	6	11	☆		6月13日まで領事会議（於満州国新京）に出席
14	707	領事会議日程			1944	昭和	19	6	11	書類	6月13日まで。於満州国新京。	
14	709	第4回大陸鉄道輸送協議会			1944	昭和	19	6	12	書類		
14	710	第4回大陸鉄道輸送協議会出席者名簿	大陸鉄道輸送協議会事務局		1944	昭和	19	6	12	書類		
★	★				1944	昭和	19	6	15	☆		6月16日まで第5回大陸（連絡）会議（於張家口）に出席 蒙古連盟自治政府徳王主席と会談
20	132	大陸会議	蒙疆新聞社写真部		1944	昭和	19	6	15	写真	於張家口。蒙疆とは現在の内蒙古。	
20	133	大陸会議中蒙古連盟自治政府徳王主席と会談	蒙疆新聞社写真部		1944	昭和	19	6	15	写真	於張家口。	
14	711	第5回大陸連絡会議			1944	昭和	19	6	15	書類	16日迄2日間。於張家口。	
14	713	大陸連絡会議出席者名簿			1944	昭和	19	6	15	書類		
14	714	大陸連絡会議出席者張家口案内略図			1944	昭和	19	6	15	書類		
★	★				1944	昭和	19	6	16	☆	蒙疆とは現在の内蒙古。	大陸会議参加中 蒙疆神社に参拝
20	134	大陸会議中蒙疆神社に参拝	蒙疆新聞社写真部		1944	昭和	19	6	16	写真	於張家口。	
20	131	蒙疆写真ニュースの封筒	蒙疆新聞社写真部		1944	昭和	19	6	16	封筒	今井参事官へ進呈とある。20-132～134を入れたものと思われる。年月日は推定。蒙疆とは現在の内蒙古。	
14	701	備忘録	今井武夫		1944	昭和	19	6		メモ	14箱-東27所収のファイル。今井は大東亜省参事官。年月は推定。	
14	706	ハルピン宮川総領事ほか	今井武夫		1944	昭和	19	6		メモ	在満日本帝國大使館の罫紙に記載。	
14	712	朝鮮 関東軍ほか	今井武夫		1944	昭和	19	6		メモ	2枚。年月は推定。	
13	92	西尾寿造	西尾寿造		1944	昭和	19	7		名刺	東京都長官。御祝辞御礼。西尾は7月25日に東京都長官となる。年月は推定。	
19	21	大東亜省にての記念			1944	昭和	19	8	25	写真	今井が参事官時代のもの。	
◎	◎				1944	昭和	19	8	30	◎		(大東亜賞参事官依頼免官) 支那派遣軍総参謀副長
22	477	今井武夫宛辞令「依頼免本官」	小磯国昭	今井武夫	1944	昭和	19	8	30	書類	小磯は総理大臣。	
★	★				1944	昭和	19	9	2	☆		東京発 空路上海へ

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
★	★				1944	昭和	19	9	4	☆	畑俊六日誌による。	「8月30日決定の重慶工作（実施要綱）は 全く小磯国昭首相の発案にして その根拠は緒方竹虎の意見に基き 組閣当時より発生するもの」と畑俊六総司令官に報告
◎	◎				1944	昭和	19	9	4	◎	畑俊六日誌による。	中華民国在勤帝国大使館付駐在武官（南京） 兼務 畑大将に着任の挨拶
★	★				1944	昭和	19	9		☆		1845年10月まで南京古林寺近傍の文化住宅町珞珈路11号に居住
8	18	最後之心情	汪兆銘		1944	昭和	19	10		書類	訳文。翻訳は8-18益井康一『漢奸裁判史』に記載されている。	
●	●				1944	昭和	19	11	15	●		勳二等瑞宝章
20	27	今井武夫宛叙勳「叙勳二等瑞宝章」	瀬古保次	今井武夫	1944	昭和	19	11	15	勳章	瀬古は賞勳局総裁。	
★	★				1944	昭和	19	11	23	☆		汪兆銘の葬儀（於南京 大礼堂）に参列
★	★				1944	昭和	19	11		☆	於南京総司令部。新任の支那派遣軍総司令官 岡村寧次大将	畑俊六元帥（支那派遣軍総司令官） 教育総監として転出記念会
20	229	畑俊六元帥 転出記念			1944	昭和	19	11		写真	於南京総司令部。	
19	5	畑俊六元帥			1944	昭和	19	11		写真		
★	★				1944	昭和	19	12	10	☆		谷正之中華大使と一緒に小磯首相に会い 繆斌工作中止を訴える
★	★				1944	昭和	19	12	20	☆		唐川安夫 支那派遣軍総参謀副長（少将） 転出のため見送り（南京飛行場）
19	33	唐川安夫支那派遣軍総参謀副長（少将） 転出			1944	昭和	19	12	20	写真	於南京飛行場。唐川支那派遣軍総参謀副長は第6方面軍参謀長へ。後任は佐藤賢了少将。	
14	56	王自恵の路線	今井武夫		1944	昭和	19	12		書類	繆斌工作中止するよう朝日の松田記者に伝言と追加メモあり。陸軍野紙に記載。年代は1944年12月か・1945年か。	
21	86	今井武夫	今井武夫		1944	昭和	19			名刺	支那派遣軍総参謀副長、陸軍少将の肩書。	
21	87	今井きみ子	今井きみ子		1944	昭和	19			名刺	今井武夫妻の肩書。21-86に貼付。	
12	156	洪思翊中將			1944	昭和	19			写真	故洪思翊將軍の遺影。12-155に挿入。1946年9月マニラで刑死。年度は全くの推定。洪思翊は中將。陸士26期。	
20	297	義弟太田長治の出征記念か			1944	昭和	19			写真	年は推定。	
20	565	支那派遣軍主要職員表			1944	昭和	20	1	1	書類	複写。	
★	★				1945	昭和	20	1	29	☆	於南京聚星俱樂部。	（支那派遣軍）軍司令官会同に出席
20	445	軍司令官会同記念写真			1945	昭和	20	1	29	写真	於南京聚星俱樂部。6月10日にも開催している。19-36参照。全44名。作成は阿部写真スタジオか。	
14	284	邱会談の時の黄民星（天龍の字か）			1945	昭和	20	3	29	写真	12-282に挿入。	
★	★				1945	昭和	20	4	28	☆	大本営は 日中和平工作を 中央では陸軍大臣の責任とし 現地では支那派遣軍に 工作を実施させることとした。	1840年以来5年間タブーであった支那派遣軍総司令部の日中和平工作が解禁

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
★	★				1945	昭和	20	6	3	☆	於南京太平路大西医院。	南京における長野県人会に出席
19	34	長野県人会写真			1945	昭和	20	6	3	写真	於南京太平路大西医院。	
★	★				1945	昭和	20	6	10	☆	於南京聚星俱樂部。	(支那派遣) 軍司令官会同に出席
19	36	軍司令官会同記念			1945	昭和	20	6	10	写真	於南京聚星俱樂部。1月29日にも開催している。20-445参照。6月10日にも開催。19-36参照。	
★	★				1945	昭和	20	7	8	☆		周家口で軍服を中国服に着替える
14	633	何柱国上将との会談スケジュール			1945	昭和	20	7	9	書類	7月9日と10日於新站集汎東区司令部、合計4回会談。第3回と4回は通訳なしで対談。『支那事変の回想』375頁に記載あり。	
★	★				1945	昭和	20	7	9	☆	第3回と4回会談は通訳をはずして、直接二人で会談した。	翌7月10日と2日間 4回(合計6時間)にわたり国民政府代表何柱国上将と終戦について会談(於河南省新站集汎東区司令部) 第3回と4回は通訳を外して対談
★	★				1945	昭和	20	7	18	☆		河辺虎四郎参謀本部次長(中将) 南京に来訪 今井より重慶工作(何柱国上将会談)を報告
★	★				1945	昭和	20	8	8	☆		中国第三戦区司令官願祝同上将と浙江省桐廬で会談する予定であったが 終戦真近のため変更となる
19	186	詔書(活字で印刷された写)			1945	昭和	20	8	14	書類	ポツダム宣言受諾。	
★	★				1945	昭和	20	8	15	☆	「岡村寧次資料」。『昭和史の天皇 14』。	支那派遣軍幕僚会議(岡村、小林、岡田、今井 投降・武装解除に服することを決定
★	★				1945	昭和	20	8	17	☆		天皇の名代として差遣された陸軍大将朝香宮鳩彦王を支那派遣軍に迎え聖旨の伝達を受ける

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
★	★				1945	昭和	20	8	21	☆		終戦芷江停戦予備会談 ～8月23日迄 (第一日) 午後4時から 5時まで 顔合わせ 中国側：陸軍総部参謀長 蕭毅肅 中将 総軍副参謀長軍令部科長冷 欣中将 総部副参謀長 蔡文治少 将 鈕先銘少将 林秀欒少将 通 訳 王武大佐 湯恩伯 張発奎な ども出席 米国：中国戦区米軍作戦司令部参 謀長 バトラー准将 日本側：支那派遣軍総参謀副長 今井武夫 橋島芳雄中佐 前川國 雄少佐 通訳 木村辰男嘱託 今井たち日本側の身分を訪ねられ る 代わりに橋島参謀が日本軍の 作戦命令を見せることで中国側了 承
14	634	芷江会談録 第1号			1945	昭和	20	8	21	書類	8月21日議事録。後刻宿舎で細部連絡をするとある。5枚。『支那事 変の回想』377頁に記載あり。	
3	136	芷江連絡会議 前川國雄少佐 今井 橋島芳雄中佐 木村辰 男嘱託 陳昭凱 鈕先銘少将			1945	昭和	20	8	21	写真	同じような写真2枚あり。8月23日付けとなっている。21日は推定。	
3	137	於 芷江連絡会議 中央 今 井 左 橋島芳雄中佐 右 前 川國雄少佐 木村辰男嘱託 陳 昭凱			1945	昭和	20	8	21	写真	日付は推定。『支那事変の回想』に写真あり。	
★	★				1945	昭和	20	8	21	☆		終戦芷江停戦予備会談 (第一日 2回目) 午後8時半から 午後11時迄 今井に与えられた宿 舎で 総部副参謀長 蔡文治少将 以下参謀と細部にわたる懇談 中国：陸軍司令部副参謀長 蔡 文治少将 鈕先銘少将 林秀欒少 将 通訳 王武 ほか 日本：支那派遣軍総参謀副長 今 井武夫 橋島芳雄中佐 前川國 雄少佐 通訳 木村辰男嘱託 今井より支那派遣軍の現状を説明 本日受領した備忘録について意見 を述べる

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
14	635	細部ニ関スル連絡事項 会議録 第3号			1945	昭和	20	8	21	書類	第3号、2欠とある。備忘録は受け取るにとどめると今井は主張し了解される。今井より「日本側の地区に今日まで、貴方の意思に叛いて、日本側に協力を寄せたる貴国人あるも、彼らの今日までの業績に対しては、我方は極めて感謝しあるところなり。彼らは和平地区民衆の幸福を計り、又法権租界の回収など少なからざる貢献もあり。貢献は別とするも、彼らの罪は日本側が負うべきものにして、彼らの今後に於ける取り扱いについては、寛容に願ひ度し」と要請したが、重慶側の回答を得ることができなかった。8枚。『支那事変の回想』377頁～382頁	
14	638	(中央電台) 芷江会議状況			1945	昭和	20	8	22	書類	陸軍野紙に記載。今井は接受後署名捺印した。1枚。	
14	639	重慶中央電台 何応欽將軍ヨリ岡村寧次將軍ニ交付セル備忘録			1945	昭和	20	8	22	書類	陸軍野紙に記載。陸軍野紙に記載。何応欽將軍より岡村寧次將軍に交付せる備忘録の内容。2枚。	
14	640	重慶中央電台 八月二十二日放送			1945	昭和	20	8	22	書類	陸軍野紙に記載。芷江急電。備忘録に書かれた各地の中国側接受の司令長が記載されている。2枚。	
14	645	何応欽ト中国外人記者団トノ会見	中央社		1945	昭和	20	8	22	書類	陸軍野紙に記載。中B情第1号。記者団58名との対話内容。3枚。芷江21日発。	
14	647	「芷江会談厳肅挙行 日代表接受我備忘録」			1945	昭和	20	8	22	新聞	中報。1972号。新聞切抜。	
★	★				1945	昭和	20	8	22	☆		終戦芷江予備会談 (第二日) 午前11時10分から11時50分まで約40分 中国：総軍副参謀長 冷欣中将 通訳 王武大佐 米国：中国戦区米軍作戦司令部参謀長 バトラー准将 日本側：支那派遣軍総参謀副長 今井武夫 通訳 木村辰男嘱託
14	636	芷江会談録 第6号			1945	昭和	20	8	22	書類	第4号、5号欠とある。中国と米軍俘虜の人名提出等について。米国バトラー准将から米国人捕虜のことを聞かれ、今井は知る限りのことを答え「南京帰還の後詳細は調査する」と述べた4枚。『支那事変の回想』382頁～384頁に記載あり。	
★	★				1945	昭和	20	8	23	☆		終戦芷江予備会談 (第三日) 午後2時50分から 3時まで 何応欽の宿舎で何応欽と面会 会談のまとめ 総司令官 何応欽上將 参謀長 蕭毅肅中將 軍副参謀長 冷欣中將 通訳 王武大佐 米国：中国戦区米軍作戦司令部参謀長 バトラー准将 日本側：支那派遣軍総参謀副長 今井武夫 通訳 木村辰男嘱託 のみ
14	637	芷江会談録 第7号	今井武夫		1945	昭和	20	8	23	書類	備忘録受領の確認。『支那事変の回想』384頁～385頁に内容記載あり。総司令官何応欽上將から 来訪を慰勞され 備忘録の受領について尋ねられる。8月26日から30日以前の期間にかけて 一部の中国部隊を南京に進駐させる旨の話あり。日本軍の協力を要請される。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
14	641	大陸ノ降服 日本軍は二百万ナリト			1945	昭和	20	8	23	書類	中二B情。陸軍野紙に記載。2枚。裏も記載されている。鉛筆書き。在支日本軍は支那軍に対し飛行機300機を引き渡す予定なり。	
14	643	芷江ノ状況	中央社		1945	昭和	20	8	23	書類	陸軍野紙に記載。中B情第2号。今井が中米記者に答える。	
14	644	今井少将ノ記者ニ対スル談話	中央社		1945	昭和	20	8	23	書類	陸軍野紙に記載。中B情第9号。今井は中米各当事者に答えたり。「日本は現在 陸軍300万を有しありて 支那には120万を有せり。天皇の命令に服従するのみ」。 22日芷江発。	
14	642	何応欽交渉状況	中央社		1945	昭和	20	8	24	書類	中二B情。陸軍野紙に記載。1枚。裏も記載あり。今井は中米当事者に答える。22日発。	
14	646	中外記者団質問ニ対する何応欽の応答	中央社		1945	昭和	20	8	24	書類	陸軍野紙に記載。今井との会談に何応欽は満足せり。2枚。	
14	649	渉外委員業務分担表	支那派遣軍総司令部		1945	昭和	20	8	25	書類		
14	650	中国側委員業務分担表	支那派遣軍総司令部		1945	昭和	20	8	25	書類		
★	★				1945	昭和	20	8	25	☆		陳公博からの依頼で 一時日本へ亡命の手配を行う
14	648	南京ニ渉外部設置ノ件			1945	昭和	20	8	30	書類	陸軍野紙に記載。今井は渉外部長。総務大田参事官 尾川勘治大佐 本田海軍大佐。部員 陸海大関係 若干名。事務所は旧日本大使館内。『支那事変の回想』375頁～377頁に記載あり。	
★	★				1945	昭和	20	8	30	☆		南京に渉外部が設置され 渉外部長（事務所は旧日本大使館内）
14	651	調印式次第			1945	昭和	20	9	9	書類	陸軍野紙に記載。入場から署名までの式次第を書いている。着席位置も記載あり。4枚。	
★	★				1945	昭和	20	9	9	☆	儀式は20分で終わった。 「支那派遣軍総司令部」は「中国戦区日本官兵善後連絡総長官」と改称される	支那派遣軍受降書調印式 於南京軍官学校 日本側 岡村寧次総司令官 福田海軍中将 諫山陸軍中将 小林浅三郎総参謀長 今井 三沢陸軍大佐 小笠原清参謀 木村辰男囑託 中国側 何応欽上将 海軍司令 陳紹寛上将 陸軍参謀長 蕭毅肃中将 陸軍副総司令 願祝同上将 空軍代表 張廷孟大佐ほか
3	139	南京投降式場 空軍代表 張廷孟大佐 海軍司令 陳紹寛上将 陸軍総司令 何応欽上将 陸軍参謀長 蕭毅肃中将 陸軍副総司令 願祝同上将			1945	昭和	20	9	9	写真		
3	138	於南京 降伏調印式入場 前方から 岡村寧次総司令官 小林浅三郎総参謀長 今井 木村辰男囑託			1945	昭和	20	9	9	写真	岡村大將は肺病でもあり、やつれて見える。	
★	★				1945	昭和	20	9	10	☆	小笠原は 陸士42期。	何応欽に呼ばれて 岡村寧次 今井 小笠原清 会談に赴く
14	121	今井武夫宛郵便貯金証明書	小林浅三郎	今井武夫	1945	昭和	20	9	28	書類	10800円。小林は支那派遣軍総司令部参謀長。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
★	★				1945	昭和	20	9	28	☆		9月末に 住所をそれまでの璐珈路11号から 高樓門百一号に移される
14	122	今井武夫宛郵便貯金証明書	岡村寧次	今井武夫	1945	昭和	20	10	1	書類	8640円。岡村は支那派遣軍総司令官大将。	
14	123	身分証明書「陸軍少将今井武夫」	支那派遣軍総司令部		1945	昭和	20	10	1	書類		
18	291	陳公博履歴書	今井武夫		1945	昭和	20	10	3	履歴書	陳公博が滞日の間に自ら記述した履歴書。原稿用紙に2枚。今井が書き写したもの。外務省岡部長二から借りて書き写したもの。岡部は今井に貸した後、オリジナルを紛失したらしい。日月はオリジナルが書かれた日の推定。	
★	★				1945	昭和	20	10	30	☆		10月末 南京市内の高樓門にいる今井に秦徳純中国国防次長訪問あり 祖国の再建を誓い合って 紫檀の杖を託さる
1	20	冷欣「日本投降の前奏①」			1945	昭和	20	10		新聞	台北人民日報。今井関係記事あり。1-19に挿入。新聞切抜。	
1	21	冷欣「日本投降の前奏②」			1945	昭和	20	10		新聞	台北人民日報。今井関係記事あり。1-19に挿入。新聞切抜。	
1	22	冷欣「日本投降の前奏③」			1945	昭和	20	10		新聞	台北人民日報。今井関係記事あり。1-19に挿入。新聞切抜。	
3	125	南京珞珈路11号			1945	昭和	20	10		写真	今井が1944年9月より1945年10月まで居住した場所。年月は推定。	
★	★				1945	昭和	20	11	8	☆		南京 武装解除で軍刀 拳銃など取り上げられる
★	★				1945	昭和	20	11	17	☆	LSTは Landing Ship Tankの略。 戦車が上陸できるような舟艇。	中国からの内地への帰還第1船 L S T 出発の交渉中国 塘沽からの内地への帰還第1船 L S T 出発
11	251	俳句集	今井武夫		1945	昭和	20	11	19	書類	今井の1946年12月2日まで作った俳句集。酒井隆中将の刑死を悼む句等あり。	
★	★				1945	昭和	20	11	20	☆		支那派遣軍総司令部となっていた元国民政府外交部の庁舎の返還を命ぜられる
14	405	芷江会談	今井武夫		1945	昭和	20			原稿	大本営陸軍部罫紙に記載。3枚。年は推定。	
14	406	中国戦区日軍投降経過	今井武夫		1945	昭和	20			原稿	大本営陸軍部罫紙に記載。和平日報転載。9枚。年は推定	
14	407	河南に於ける和平会談	今井武夫		1945	昭和	20			原稿	5枚。年は推定。	
14	632	終戦書類綴	今井武夫		1945	昭和	20			書類	14箱-東25所収のファイル。	
14	666	戦犯裁判ほかメモ	今井武夫		1945	昭和	20			メモ	戦犯裁判。酒井隆死刑。高橋坦無期。岡村日誌ほか。2枚。	
12	227	第16師団長牧野四郎中将 レイテにて玉砕			1945	昭和	20			写真		
12	228	第16師団のレイテ玉砕に際し 運命を共にした歩兵第9連隊軍旗			1945	昭和	20			写真		
19	154	支那派遣軍参謀陸士卒業別の21名の本籍地 留守宅 氏名			1945	昭和	21	1	29	名簿		
14	652	「何総司令招待記者会上答問 戦犯問題在处理中」			1946	昭和	21	2	8	新聞	新聞切抜。中央日報。「今井は戦犯でない」と何総司令は答えている。中央日報は国民党の機関紙。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
★	★				1946	昭和	21	3		☆		住所を高樓門百一号から旧日本大使館に移される
11	249	野外句会入選句集			1946	昭和	21	4	7	書類	部長官舎に於て 囁目吟 各人三句。	
3	83	近衛文麿手記 平和への努力	近衛文麿		1946	昭和	21	4		書籍	141頁で切れている。	
★	★				1946	昭和	21	5	15	☆	今井の俳号は「無風」。	清水菊三主計中将（俳句の号は「清山」）主催の俳句の会 この日から第15回に出席（15回すべてに出席）
11	250	俳句研究会	清水清山		1946	昭和	21	5	15	書類	「清山」は清水菊三主計中将の俳号。日付は推定。	
11	243	俳句研究会第十五回入選句集			1946	昭和	21	5	15	書類	日付は記載間違いの可能性あり。	
21	130	大仏空（僧職）「声 日中復交にはザンゲが必要」			1946	昭和	21	5	21	新聞	新聞切抜。掲載紙不明。	
11	229	俳句研究会第一回			1946	昭和	21	5	22	書類	今井参加。選者は清水清山（主計中将）。11-229から250まで同じ綴り。敗戦後中国残留中の句会。	
11	230	俳句研究会第二回入選句集			1946	昭和	21	5	30	書類		
11	244	俳句研究会第二回			1946	昭和	21	5	30	書類		
★	★				1946	昭和	21	5		☆		この頃南京市内の高樓門101号に居住
3	116	今井の愛犬シェパード雲仙号 於南京高樓門101号			1946	昭和	21	5		写真		
3	117	杉浦と雲仙号 於高樓門101号			1946	昭和	21	5		写真	杉浦は今井の世話係の少年。	
3	118	犬のチビ 於高樓門101号			1946	昭和	21	5		写真	チビは愛犬。	
14	654	「周逆隆庠昨公審 依然一套丑表功」			1946	昭和	21	6	2	新聞	新聞切抜。掲載紙不明。日付は2月6日でなく6月2日が正しいのではないか。14-653と同じ紙に貼り付けてある。『支那事変の回想』に写真あり。	
14	653	「首都高院昨判決 林逆柏生死刑」			1946	昭和	21	6	21	新聞	新聞切抜。掲載紙不明。14-654と同じ紙に貼り付けてある。『支那事変の回想』に写真あり。	
21	369	今井きみ子宛葉書	今井武夫		1946	昭和	21	6	22	書簡	中国側の検閲印あり。1月末に出したきみ子の手紙昨日みた。岳父、くめ、光雄の3人の死を知って驚いている。自分は元気である。	
14	10	今井武夫日記	今井武夫		1946	昭和	21	6	29	日記	南京総連絡班期間中の日誌。1947年1月18日まで。1944年以来1946年5月までの今井の日記は「消失した」と記載されている。戦後遺された初の今井日記。	
◎	◎				1946	昭和	21	7	1	◎		南京連絡員（南京日本官兵、善後総連絡班）として12月31日まで南京鼓樓金銀街4号に居住）
19	151	中国国防部発行「今井武夫の連絡員証 南京日本官兵、善後総連絡班」	国防部		1946	昭和	21	7	1	書類	住所は南京鼓樓金銀街4号。1946年7月1日から12月31日まで。	
3	119	於南京鼓樓金銀街 今井武夫			1946	昭和	21	7	10	写真	同じような写真が2枚。	
3	93	メレヨン島の真相	伊藤清		1946	昭和	21	7	20	冊子	伊藤は旧陸軍部隊の参謀。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
3	120	於南京鼓楼金銀街応接室の 今井武夫			1946	昭和	21	7	20	写真		
14	660	「日閩拡大宛平事件 作為侵華 籍口」			1946	昭和	21	8	8	新聞	中央日報。新聞切抜。年は推定。『支那事変の回想』に写真あり。 中央日報は国民党の機関紙。	
14	656	「周仏海等巨奸 高院昨提公 訴」			1946	昭和	21	8	10	新聞	中央日報。新聞切抜。14-655の裏にあり。中央日報は国民党の機関 紙。	
14	659	王冷齋「東京両月記（三）」			1946	昭和	21	8	11	新聞	大公報。年は推定。11月8日かも。	
2	57	永田町一番地 外交敗戦秘録	中村正吾		1946	昭和	21	8	15	書籍	第2版。中村は朝日新聞記者。前国務省秘書官。	
14	655	「像夢一樣的歲月」			1946	昭和	21	8	25	新聞	和平日報。今井について記載あり。新聞切抜。1年前のことを振り 返っている。裏に14-656の記事あり。	
3	121	今井武夫			1946	昭和	21	8		写真		
14	657	「從芷江到南京 中国戦区日軍 投降経過」			1946	昭和	21	9	3	新聞	新聞切抜。掲載紙不明。3月9日の可能性もある。今井について記載 あり。裏に14-658あり。	
14	658	趙樸「受降始末」 憶民「周鏞之謎」			1946	昭和	21	9	3	新聞	新聞切抜。中央日報。3月9日の可能性もある。今井について記載あり。 受降式は20分で終わった。14-657の裏に添付。中央日報は国民党 の機関紙。	
3	122	黄金発大尉と今井の2人			1946	昭和	21	9	9	写真	黄大尉は敗戦後中国にいたときの岡村・今井らの監視役兼通訳。 13-37参照。同じよう写真が2枚。	
★	★				1946	昭和	21	9	19	☆		南京総連絡班記念写真（岡村寧 次大將を含めて全17名）
19	14	南京総連絡班 記念写真			1946	昭和	21	9	19	写真	於鼓楼金銀街4号。前列左より、岡田清・光子夫妻、小笠原清中 佐、今井、岡村大將、宮崎舜市中佐、伊藤武雄少佐、二宮重通少 佐、後列鈴木章大尉、大野稔、伊藤重雄、米満新吾少佐、三石照雄 大尉、丸山道夫准尉、新盛宏、杉浦純美。全17名。	
3	123	今井武夫 於南京			1946	昭和	21	9	19	写真		
14	52	家庭薬使用心得	二宮重通		1946	昭和	21	9		書類	二宮は南京日本総連絡班所属少佐。軍医。作成年月は推定。	
19	152	今井武夫の特種外僑居留証	韓文煥		1946	昭和	21	10	4	書類	韓文煥は首都警察庁長か。特外字10号。12月31日まで。	
★	★				1946	昭和	21	10	10	☆		双十節に孫文の中山陵訪問（南 京）
3	124	今井武夫 於双十節 南京に ある 孫文の中山陵にて			1946	昭和	21	10	10	写真		
14	661	「周逆仏海昨公審」 劉一鷗「周逆仏海受鞠記」			1946	昭和	21	10	22	新聞	中央日報。新聞切抜。中央日報は国民党の機関紙。	
19	156	わすられぬ人々	南京総連絡班		1946	昭和	21	11	1	書類	南京総連絡班16人の名前と原籍と現住所記載あり。	
14	662	「周逆仏海昨二次公審」			1946	昭和	21	11	3	新聞	和平日報。新聞切抜。	
14	665	南京連絡班に対する中華民国 国防部訓令	陳誠		1946	昭和	21	11	28	書類	1947年6月末まで未了事項を処理するまで勤務期間延期するも、不 必要な人間は、1946年12月10日以前に帰国すべし。14-665の末尾に 記載あり。陳誠は中国参謀総長。陸軍野紙。1枚。	
★	★				1946	昭和	21	11	末	☆		中国国防部次長 秦徳純の訪問 友情の印に紫檀の杖をもらう
14	663	「明るみに出た敗戦裏面史 東 条を暗殺・和平へ」			1946	昭和	21	12	5	新聞	西部朝日新聞。新聞切抜。昭和19年5月の三笠宮を中心とする全面和 平工作。石原莞爾、津野田知重少佐と浅原健三の東条暗殺計画。三 笠宮、高松宮擁立計画。別項で蔣介石への和平条件提示で今井少将 の名前が出てくる。	
2	37	敗るゝ日まで	岩淵辰雄		1946	昭和	21	12	9	書籍	日本週報社。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
★	★				1946	昭和	21	12	27	☆		上海を出発 L S T 船 (049号) で 帰国の途につく
21	339	岡村大将の肖像	岡村寧次		1946	昭和	21	12		写真	今井兄恵存 「寧次」と岡村のサインあり。年は推定。岡村大将と別れる時に貰ったものか。年月は推定。	
14	664	「梅逆思平昨公訴 下旬初公開 審訊 高院趙院長親任判長」			1946	昭和	21			新聞	掲載紙不明。新聞切抜。今井と影佐について記載あり。	
13	164	今井武夫手帳	今井武夫		1946	昭和	21			手帳	青島連絡部ほか。1944年の手帳だが、戦後1946年の記述あり。 鈕先銘から送られた12月16日付けの詩記載あり。	
13	66	白川一雄書簡	白川一雄	今井きみ子	1946	昭和	21			書簡	白川は今井が借りている目黒の家の家主。2月に北支から引き上げてきた。5月25日麻布の自宅が全焼したので5月末までに目黒の借家を明け渡して欲しい。今井が中国から未だ復員していない1946年の手紙か。	
13	74	野崎誠近書簡	野崎誠近	今井武夫・きみ子	1946	昭和	21			書簡	ご帰還されたら一報ください。野崎については4-77参照。年代は推定。	
11	231	俳句研究会第三回入選句集			1946	昭和	21			書類		
11	232	俳句研究会第四回入選句集			1946	昭和	21			書類	清水清山選。	
11	233	俳句研究会第五回入選句集			1946	昭和	21			書類	清水清山選。	
11	234	俳句研究会第六回入選句集			1946	昭和	21			書類	清水清山選。	
11	235	俳句研究会第七回入選句集			1946	昭和	21			書類	清水清山選。	
11	236	俳句研究会第八回入選句集			1946	昭和	21			書類	清水清山選。	
11	237	俳句研究会第九回入選句集			1946	昭和	21			書類	清水清山選。	
11	238	俳句研究会第十回入選句集			1946	昭和	21			書類	清水清山選。	
11	239	俳句研究会第十一回入選句集			1946	昭和	21			書類	清水清山選。	
11	240	俳句研究会第十二回入選句集			1946	昭和	21			書類	清水清山選。	
11	241	俳句研究会第十三回入選句集			1946	昭和	21			書類	清水清山選。	
11	242	俳句研究会第十四回入選句集			1946	昭和	21			書類	清水清山選。	
11	245	俳句研究会第三回			1946	昭和	21			書類		
11	246	俳句研究会第四回			1946	昭和	21			書類		
11	247	俳句研究会第五回			1946	昭和	21			書類		
11	248	俳句研究会第六回			1946	昭和	21			書類		
★	★				1946	昭和	22	1	1	☆		正月は 佐世保沖合いの船上で上陸待機させられる
14	124	従軍証明書「陸軍少将今井武夫」	岡村寧次		1947	昭和	22	1	4	書類	岡村は支那派遣軍総司令官。今井は1月4日に予備役編入。	
★	★				1947	昭和	22	1	4	☆		佐世保港上陸 復員 待命被仰付
◎	◎				1947	昭和	22	1	5	◎		佐世保上陸後 全員拘束される 予備役に編入される
★	★				1947	昭和	22	1	16	☆		戦犯容疑者を除き 帰郷を許される

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
★	★				1947	昭和	22	1	18	☆		富山県東砺波郡井波町の妻の実家に落着く
★	★				1947	昭和	22	1	23	☆		汽車にて長野に向う
13	126	今井武夫日記	今井武夫		1947	昭和	22	1	23	日記	5月19日迄。復員後、妻の実家がある富山県井波町に帰宅。5月12日から5月19日は13-127に入るべきもの。表紙添付。	
22	164	今井武夫戸籍抄本	朝陽村村長		1947	昭和	22	1	24	書類	朝陽村は長野県の今井の本籍地。	
★	★				1947	昭和	22	1	29	☆		復員局に宮崎舜市参謀その他各地連絡班長とともに報告
14	665	南京連絡班長状況報告	今井武夫		1947	昭和	22	1	29	報告書	今井は南京連絡班長としての復員局への報告。陸軍野紙に記載。目次を含めて18枚。南京連絡班編成表、残留連絡班人名表、中華民国国防部訓令（1946年11月28日付け）添付あり。日付は推定。	
19	155	非戦災者特別税申告書	今井武夫		1947	昭和	22	1		書類	今井の住所は目黒区上目黒7丁目の住所になっている。	
19	160	新東京区分図 目黒区詳細図	日本地図		1947	昭和	22	1		地図		
13	67	山本武雄書簡	山本武雄	今井武夫	1947	昭和	22	2	6	書簡	無事帰国の祝辞。山本が先に中国から帰国した際残留者が託したお金の件。	
13	51	橋島芳雄書簡	橋島芳雄	今井武夫	1947	昭和	22	2	27	書簡	内地帰還の祝辞。北海道で百姓をしている。橋島は支那派遣軍第二課参謀。情報主任。中佐。明治43年生まれ。陸士43期、陸大51期、3-136も参照。	
14	274	阪田城盛書簡	阪田城盛	今井武夫	1947	昭和	22	2	28	書簡	復員おめでとうございます。お会いしたい。	
13	68	山本武雄書簡	山本武雄	今井武夫	1947	昭和	22	2	28	書簡	山本が先に中国から帰国した際に残留者が託した金の件。13-67の続き。	
13	59	小林浅三郎書簡	小林浅三郎	今井武夫	1947	昭和	22	3	2	書簡	小林は元支那派遣軍総参謀長。中将。無事帰国の祝辞。	
13	63	土屋寿夫書簡	土屋寿夫	今井武夫	1947	昭和	22	3	10	書簡	帰国の祝辞。味の素と第一ホテルに勤務。プライベートか。年代は推定。	
12	79	中国の一般情勢	今井武夫		1947	昭和	22	3	19	冊子	「民主策進懇話会」での今井の講演内容。この時点で中国残留戦犯容疑者1800名、そのほか居留民大陸に約7千名とある。全14頁。	
13	13	小笠原清書簡	小笠原清	今井武夫	1947	昭和	22	3	30	書簡	戦犯者の内地服役工作与軍事合作について。戦犯者の内地服役工作与軍事合作について小笠原は南京残留の総連絡班。陸軍中佐。世田谷区赤堤町の今井宛となっているが、今井は赤堤に住んだことなし。手渡し書簡。	
13	26	園田次郎書簡	園田次郎	今井武夫	1947	昭和	22	4	2	書簡	園田は朝日新聞記者。今井の無事帰還を祝う。1947年か。7-33参照。	
13	127	今井武夫日記	今井武夫		1947	昭和	22	4	7	日記	1949年8月26日迄。約2年4ヶ月間。一部13-126と補完の関係。表紙添付。	
6	11	北平より東京へ	村上知行		1947	昭和	22	4	15	書籍	桜井書店。	
13	14	小笠原清書簡	小笠原清	今井武夫	1947	昭和	22	5	30	書簡	南京残留の総連絡班小笠原清から、今井宛の手紙。戦犯者の内地服役工作是無理しないように指導ください。手渡し。	
8	18	影佐禎昭供述書	影佐禎昭		1947	昭和	22	6	11	書類	東京裁判で出張尋問記録とともに朗読されたもの。内容は 8-18益井康一『漢奸裁判史』に記載されている。	
22	162	「影佐氏口供書 国府樹立のいきさつ 日本は強制せず」	東京新聞社		1947	昭和	22	6	12	新聞	東京新聞。ロバーツ弁護士から5月21日と22日の両日国立第一病院で影佐禎昭に対して行なわれた出張尋問記録が東京裁判で朗読されたとある。今井についても影佐は述べている。新聞切抜。	
13	30	百武末義書簡	百武末義	今井武夫	1947	昭和	22	6	20	書簡	百武は支那にいた報知新聞記者。今後につき相談したい。	
13	75	野崎誠近書簡	野崎誠近	今井武夫	1947	昭和	22	8	4	書簡	復員された後、お訪ねいただいてありがとう。再会を期している。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
22	165	今井武夫戸籍謄本	朝陽村村長		1947	昭和	22	9	6	書類	昭和3年12月6日長野の今井家（戸主長兄今井亮三郎）から分家。	
13	33	永井八津次書簡	永井八津次	今井武夫	1947	昭和	22	10	10	書簡	至急連絡したい事あり。	
19	153	引揚証明書	厚生省佐世保引揚援護局長		1947	昭和	22	10	11	書類	1947年10月4日佐世保港に上陸証明となっているが1月の間違いではないか。33444号。	
13	58	星野敏書簡	星野敏	今井武夫	1947	昭和	22	10	21	書簡	内地帰還の祝辞。捲土重来を期している。	
21	233	はるかなる山河に	東大戦没学生手記編集出版委員会		1947	昭和	22	12	4	書籍	再版。39名の東大出身学生の手記。東大協同組合出版部。	
13	29	松室孝良書簡	松室孝良	今井武夫	1947	昭和	22	12	20	書簡	内地帰還の祝辞。懐旧談したい。松室は元陸軍少将。陸士19期。	
14	116	参本 今井少佐殿			1947	昭和	22			書類	封筒。14箱-東11所収の封筒。	
24	7	昭和20春～22春 支那派遣軍復員前後の概況	今井武夫		1947	昭和	22			書類	24-東2所収のファイル。複写。	
13	15	小笠原清書簡	小笠原清	今井武夫	1947	昭和	22			書簡	伊藤氏経由手渡し。陳参謀からの経済面での日中交易についての企画依頼。	
19	157	思ひ出の人々	渉外班		1947	昭和	22			名簿	44人の名前と住所、階級記載あり。年は推定。	
13	80	中国使節団			1947	昭和	23	1	20	書類	1947年時事年鑑505頁抜粋。朱世明中将ほか。	
13	81	中国使節団			1948	昭和	23	1	20	書類	1948年時事年鑑602頁抜粋。商震上将ほか。商震は元河北省主席。	
13	82	駐日中国代表団組織及重要職員表	外務省調査局		1948	昭和	23	1	20	書類		
13	72	今井武夫書簡	今井武夫	渡辺秀生	1948	昭和	23	2	5	書簡	渡辺は同孚行総務部長。林熊光社長宛宛職書だが返還されたものか。プライベートなものか。	
13	87	特殊郵便受領証	目黒橋郵便局		1948	昭和	23	2	6	書類	今井が渡辺秀生宛に送った引受け番号記載あり。13-72の送付証明書か。プライベートなものか。	
13	73	犬飼正美書簡	犬飼正美	今井武夫	1948	昭和	23	3	6	書簡	犬飼は同孚股份有限公司の人間か。林社長ほかと打ち合わせた結果報告。プライベートなものか。	
13	76	野崎誠近書簡	野崎誠近	今井武夫	1948	昭和	23	3	8	書簡	訪問を受けた北支関係者の名前を挙げている。戦後の旧交を叙している。年代は1947年か。近況と草野君の動静伺い。野崎については4-77参照。	
14	772	井上立樹書簡	井上立樹	今井武夫	1948	昭和	23	3	31	書簡	戦後の資金の件。プライベートか。13-68、69の関係か。	
13	35	清水安三・郁子書簡	清水安三・郁子	今井武夫	1948	昭和	23	5	29	書簡	復員後の挨拶状。清水は北京朝陽門外崇貞学園を30年経営していた。	
13	37	岡村寧次書簡	岡村寧次	今井武夫	1948	昭和	23	5	29	書簡	戦後南京で戦犯裁判中の岡村が中国監視人の黄金発大尉の好意により黄金大尉名義の親展封筒に入れて発信したもの。南京生活の現状報告。黄金発については、3-122参照。	
19	83	北海道函館の地図	内務省地理調査所		1948	昭和	23	6	30	地図		
★	★				1948	昭和	23	7	29	☆		第一国立病院に臥床中の影佐禎昭中将を見舞った折 影佐が自署押印した「曾走路我記」（私家版）を贈られる
15	25	蛙の眼	石川順		1948	昭和	23	8	10	冊子	隨筆集。石川は戦後千葉の成田町長になったジャーナリスト。元毎日新聞北京支局長。	
★	★				1948	昭和	23	8	27	☆		東京都世田谷区下馬1丁目の家に移転している。この頃勤務先は永豊物産株式会社

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
22	166	法務庁令第42号による鈴木義雄法務総裁宛届出書	今井武夫	鈴木義雄法務総裁届出書	1948	昭和	23	8	27	書類	届出たものの控えか。住所は世田谷区下馬1丁目になっている。永豊物産株式会社勤務となっている。ページ中の届出か。	
11	69	吉田東祐「和平の轡」／大山郁夫「戦争責任と天皇の退位」	中央公論社		1948	昭和	23	8		雑誌	中央公論 8月号。切抜き。吉田は支那派遣軍の囑託。中国文化協会理事。小野寺信の知遇を得た。	
10	469	「東京裁判 判決第四日」	朝日新聞社		1948	昭和	23	11	10	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
10	470	「東京裁判・25被告に判決下る」	朝日新聞社		1948	昭和	23	11	13	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
10	471	「東京裁判・25被告に断罪下る」	毎日新聞社		1948	昭和	23	11	13	新聞	毎日新聞。新聞切抜。	
10	472	「東京裁判・25被告に断罪下る」	読売新聞社		1948	昭和	23	11	13	新聞	読売新聞。新聞切抜。	
10	473	「東条ら7戦犯 絞首刑執行さる」	朝日新聞社		1948	昭和	23	12	23	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
10	474	「ボツリと七つの窓 その夜の巢鴨」	朝日新聞社		1948	昭和	23	12	23	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
10	475	「東条ら7戦犯 処刑」	読売新聞社		1948	昭和	23	12	23	新聞	読売新聞。新聞切抜。	
★	★				1948	昭和	23			☆		富山県から上京 東京都目黒の家へ（2階に間借り）
2	3	転向十五年	鍋山貞親・佐野学		1948	昭和	24	2	15	書籍	労働民主シリーズ第7集。鍋山「心の足跡」。佐野「獄中記」。労働出版部。	
2	44	上海無辺 一つの中国近代史	吉田東祐		1949	昭和	24	3	30	書籍	上海党部主任委員姜豪（チャンハオ）との連絡について。275頁に今井関連の記事あり。中央公論社。14-451参照。	
6	22	中共軍と行く	富岡天行		1949	昭和	24	4	15	冊子	復刻版。	
★	★				1949	昭和	24	4		☆		この頃日本硫鉄働監査役
19	113	訴願審査委員会委員長宛証言	今井武夫	訴願審査委員会委員長	1949	昭和	24	5	18	書類	荒木栄吉（日銀総裁）の戦中行動に対する弁護の証言	
13	71	渥美圭石書簡	渥美圭石	今井武夫	1949	昭和	24	7	28	書簡	株式会社設立について。プライベートか。13-71の続きか。	
13	125	今井武夫日記	今井武夫		1949	昭和	24	8	27	日記	1951年1月3日迄。約1年5ヶ月間。	
★	★				1949	昭和	24	9	10	☆	犬養健は自著「揚子江は今も流れている」で、この三回忌のことを述べている。	影佐禎昭中将 三回忌に出席 犬養健 日高信六郎 松方三郎 西義顕 宮崎（舜市・中佐） 永井（洵一） 川本（芳太郎・少将）なども出席
21	120	「比島に人道の華 キリノ大統領 戦犯へ温情」			1949	昭和	24	9	23	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。キリノは前年4月のロハス大統領の死去で副大統領から昇格した戦後2番目の大統領。マニラ軍事裁判に証人として渡比し、帰京した今村栄吉の証言。	
10	462	「あばかれた海烈号事件」	毎日新聞社		1949	昭和	24	10	30	新聞	毎日新聞。新聞切抜。21-128関連。佐野真一『阿片王 満州国の夜と霧』（新潮社、2005年）268頁～269頁に詳しく解説しているが、佐野記載の日付3月30日は10月の間違い。8月17日に横浜港湾局に検挙され、明日10月1日に三上卓や阪田誠盛は、横浜軍事裁判所で裁判される。その後、クリスマス特赦で恩赦となる。	
11	70	世界 10月号	岩波書店		1949	昭和	24	10		雑誌	森島守人「陰謀・爆薬・軍刀」。日本外交の回想（2）。切抜き。41頁に今井について言及あり。切抜き。	
21	128	「募兵計画も伏在か 海烈号密輸事件の裏面」	毎日新聞社		1949	昭和	24	10		新聞	毎日新聞。根本博元中将の渡台説。募兵計画。新聞切抜。10-462関連。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
11	71	世界 11月号	岩波書店		1949	昭和	24	11		雑誌	森島守人「運命の七月七日」。日本外交の回想(3)。52頁に今井について言及あり。切抜き。	
21	129	「国府軍 日本人飛行士を募集 根本元中將や辻元参謀も介在？」			1949	昭和	24			新聞	掲載紙不明。年代は推定。新聞切抜。	
13	70	渥美圭石書簡	渥美圭石	今井武夫	1949	昭和	24			書簡	山本(武雄)と懇談のうえ回答したい。プライベートか。1949年か。	
13	95	佐野学	佐野学		1949	昭和	24			名刺	住所。共産党からの転向者。年は推定。	
6	37	失われたる記録 対華・南方政略秘史	丸山静雄		1949	昭和	25	1	1	書籍	93~94、203頁に今井の名が記載されている。後楽書房。	
13	167	今井武夫手帳	今井武夫		1950	昭和	25	1	1	手帳	1月12日迄で、あとは記載なし。1950年12月31日迄の手帳。	
2	49	The Western World and Japan	G. R. Sansom		1950	昭和	25	2	6	書籍	6版。The Hadson Craftsmen,]Inc.	
10	464	「台湾攻防の軍勢」			1950	昭和	25	2	10	新聞	掲載紙不明。切抜。	
10	465	「日本人募兵問題の真相」	新夕刊新聞社		1950	昭和	25	3	11	新聞	日本夕刊 昭和25年3月11日号。今井について記載と写真あり。	
10	466	「募兵問題 台湾へ出航直前の捷信号船上」	新夕刊新聞社		1950	昭和	25	3	17	新聞	日本夕刊新聞切抜。	
14	256	安岡正篤書簡	安岡正篤	今井武夫	1950	昭和	25	3	21	書簡	食事の招待。	
21	50	「神保信彦 ロハス氏の霊に捧ぐ かくて救出襟」	時事新報社		1950	昭和	25	4		新聞	時事新報。新聞切抜。	
2	58	国会生活の思い出	小林次郎		1950	昭和	25	5	20	書籍	小林は元参議院事務総長。今井の長野中学の先輩。同一2部あり。松籟堂出版部。	
3	105	陰謀・暗殺・軍刀 一外交官の回想	森島守人		1950	昭和	25	6	10	書籍	2刷。岩波書店。63頁と131頁に今井について記載あり。11-70、71などをまとめたもの。	
8	31	ノモンハン	辻政信		1950	昭和	25	8	20	書籍	再版。亜東書房。	
9	39	現代中国辞典	中国研究所編		1950	昭和	25	9	1	書籍	現代中国辞典刊行会。	
13	49	火野葦平書簡	火野葦平	今井武夫	1950	昭和	25	10	13	書簡	公職追放解除の連絡。3-103参照。玉井勝則が本名だが火野葦平でかかれている。火野の『陸軍』『敵将軍』などの作品は戦争を是認し、影響力は広範かつ多だったのが主な理由であった(朝日新聞夕刊「新聞と責任 表現者たち 4」に記載されている)。	
13	31	上田廣書簡	上田廣	今井武夫	1950	昭和	25	10	19	書簡	祝辞に対するお礼。	
12	39	森島守人 「対華謀略工作のこま」座談会 「汪兆銘脱出行」 今井武夫 伊藤芳男 西義頭 矢野征記 清水董三 (司会 森島守人)	日本評論社		1950	昭和	25	11	1	雑誌	日本評論 25巻11号。切抜。西義賢は西義頭の間違いか。	
3	106	外交官の一生	石射猪太郎		1950	昭和	25	11	10	書籍	読売新聞社。石射は、盧溝橋事件当時、外務省東亜局長だった。	
1	31	亜細亜の共感 戦ひを通じて見た中国	辻政信		1950	昭和	25	12	23	書籍	亜東書房。	
8	32	ガダルカナル 世紀の死斗	養徳社		1950	昭和	25			書類	辻政信の著書の宣伝。8-31に挿入。年代は推定。	
13	168	今井武夫手帳	今井武夫		1950	昭和	26	1	1	手帳	1951年12月31日迄。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
13	27	新木栄吉書簡	新木栄吉	今井武夫	1951	昭和	26	1	5	書簡	新木は元日銀総裁。戦後初の駐米大使。年賀。	
13	38	岡村寧次書簡	岡村寧次	今井武夫	1951	昭和	26	1	5	書簡	年賀。	
4	6	中国人民解放戦争簡史	寥蓋隆		1951	昭和	25	1		書籍	9版。海燕書店。中国文。	
13	69	川島四郎書簡	川島四郎	今井武夫	1951	昭和	26	1		書簡	年賀状。設計図面待ち。GHQの依頼により韓国軍用携帯口糧製造している。プライベートか。	
1	40	何応欽將軍の日本における講演集			1951	昭和	25	2		冊子	1951年1月19日、2月3日、2月5日、2月14日の4講演集。	
13	28	新木栄吉書簡	新木栄吉	今井武夫	1951	昭和	26	3	11	書簡	祝辞に対する礼状。	
★	★				1951	昭和	26	3	28	☆		東京都中野区上原町（現 東中野2丁目）に住所転居（終の住家となる）
22	167	住所変更届	今井武夫		1951	昭和	26	3	31	書類	住所の東京都中野区への変更は3月28日。届出の控えか。既に勤務は日本硫鉄となっている。	
19	167	長野中学同窓生写真 国語の志村先生を囲んで			1951	昭和	26	5		写真	於て同級生島田謹吾邸。昭和26年度にクエスチョンマークあり。	
4	88	軍国太平記	高宮太平		1951	昭和	25	7	5	書籍	高宮は戦前、朝日新聞の陸軍担当の記者であった。 酣灯社。	
13	62	高島菊次郎書簡	高島菊次郎	今井武夫	1951	昭和	26	8	15	書簡	祝辞に対する厚謝。高島は元中支振興総裁・王子製紙社長。	
3	76	重光葵書簡	重光葵	今井武夫	1951	昭和	26	8	20	書簡	暑中見舞い。3-75に挿入。	
12	40	今井「盧溝橋事件の謎」	毎日新聞社		1951	昭和	26	9	10	雑誌	サンデー毎日 新秋特別号。11-179の切抜。	
11	179	今井「盧溝橋事件の謎」	毎日新聞社		1951	昭和	26	9	10	雑誌	サンデー毎日 新秋特別号。	
9	86	私の人物案内	今日出海		1951	昭和	26	9	30	書籍	「近衛文麿」、「野人白洲次郎」などの随筆記載あり。創元社。	
22	154	堂本印象筆の絵葉書	大坂銀行		1951	昭和	26	9		絵葉書	講和記念。3枚。	
2	6	再軍備論	小堀甚二		1951	昭和	26	10	1	書籍	国民教育社。小堀は読売新聞嘱託論説委員。	
4	52	天皇機関説	尾崎士郎		1951	昭和	26	10	12	書籍	文藝春秋新社。	
3	152	随筆東京	奥野信太郎		1951	昭和	26	10	20	書籍	東和社。	
6	21	謀略の上海	晴気慶胤		1951	昭和	26	11	5	書籍	晴気は元参謀本部支那課長。大佐。亜東書房。汪政権の清郷工作について触れている。小野寺信中佐の対中和平工作は偽戴笠に騙されたと書いてある。	
★	★				1951	昭和	26	11	18	☆		長野中学同級会（於東京練馬区の同級生 島田謹吾邸 志村寛先生とともに、）
19	168	長野中学同級会 記念			1951	昭和	26	11	18	写真	国語の志村寛先生を囲んで。於東京都練馬区の島田謹吾邸。志村先生を含めて全10名。	
19	169	長野中学同級会記念			1951	昭和	26	11	18	写真	志村寛先生を囲んで 5名。於東京練馬区の島田邸。	
22	169	公職に関する就職禁止、退職等に関する勅令の規定による覚書該当者の指定の解除に関する法律の施行について	内閣総理大臣官房監査課長		1951	昭和	26	11	29	書類	総資第340号。	
3	77	重光葵書簡	重光葵	今井武夫	1951	昭和	26	12	8	書簡	礼状。3-75に挿入。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
22	171	内閣総理大臣宛解除申請書	今井武夫	内閣総理大臣	1951	昭和	26	12	17	書類	22-170と同じだが、すべて印刷。押印なし。22-170の控えか。	
22	170	内閣総理大臣宛解除申請書	今井武夫	内閣総理大臣	1951	昭和	26	12	17	書類	手書きで押印あり。正本と同じもの。1951年法律268号の規程に基づく解除申請。	
8	13	米ソ戦卜日本領布についてのお願い	大陸問題研究所		1951	昭和	26	12	25	書類	8-12に挿入。	
8	12	米ソ戦卜日本	大陸問題研究所		1951	昭和	26	12		冊子		
22	168	26年度今井取締役給与表	日本硫鉄		1951	昭和	26			書類	日本硫鉄の罫紙に記載。毎月の給与表。	
8	14	大陸問題研究所準則	大陸問題研究所		1951	昭和	26			書類	8-12に挿入。年代は推定。	
14	262	志村寛書簡	志村寛	今井武夫	1952	昭和	27	1	1	書簡	年賀状。79歳。	
8	15	土居明夫書簡	土居明夫	宛先不明	1952	昭和	27	1	1	書簡	年賀。8-12に挿入。土居は元陸軍中將。ロシア通。29期。	
13	23	西尾寿造書簡	西尾寿造	今井武夫	1952	昭和	27	1	1	書簡	賀状。	
13	32	山本熊一書簡	山本熊一	今井武夫	1952	昭和	27	1	1	書簡	謹賀新年。元大東亜省次官。	
13	34	西尾末廣書簡	西尾末廣	今井武夫	1952	昭和	27	1	1	書簡	賀状。今後の支援宜しく。	
13	44	小林次郎 書簡	小林次郎	今井武夫	1952	昭和	27	1	1	書簡	年賀。小林については2-58参照。	
13	45	岸道三書簡	岸道三	今井武夫	1952	昭和	27	1	1	書簡	岸は日本道路公団初代総裁。近衛文麿内閣秘書官。	
3	78	重光葵書簡	重光葵	今井武夫	1952	昭和	27	1	1	書簡	年賀状。3-75に挿入。	
13	169	今井武夫手帳	今井武夫		1952	昭和	27	1	1	手帳	1952年12月31日迄。	
10	467	「再軍備へ胎動する旧軍人たち」	東京新聞社		1952	昭和	27	1	2	新聞	東京新聞。新聞切抜。	
13	24	西尾寿造書簡	西尾寿造	今井武夫	1952	昭和	27	1	23	書簡	相撲観覧券のお礼。	
13	17	河辺正三書簡	河辺正三	今井武夫	1952	昭和	27	1	28	書簡	ビルマ関係の仏事にて外出しており今井が訪問したとき折悪しく不在。	
13	21	河辺正三書簡	河辺正三	今井武夫	1952	昭和	27	1		書簡	年賀。漢詩一首。年代は推定。	
21	282	比律賓協会会長徳川頼貞書簡	比律賓協会会長 徳川頼貞	今井武夫	1952	昭和	27	3	10	書類	財団法人比律賓協会理事就任依頼。	
☆	☆				1952	昭和	27	3	14	☆		追放解除
22	172	「追放解除者として今井武夫」	印刷庁		1952	昭和	27	3	14	新聞	3月15日官報に挿入。官報号外、昭和27年、20号。	
22	174	内閣総理大臣書簡	内閣総理大臣	今井武夫	1952	昭和	27	3	14	書類	覚書該当者としての指定の解除に関する件。公訴7号。内閣総理大臣官房監査課長からの封筒に挿入。	
22	173	皆川五郎書簡	皆川五郎	今井武夫	1952	昭和	27	3	20	書類	皆川は東京都中野区長。追放解除通知について。	
14	268	新木栄吉書簡	新木栄吉	今井武夫	1952	昭和	27	3	22	書類	追放解除の報に接しおめでとうございます。新木は元日銀総裁。戦前汪兆銘政権の高級顧問だった。	
11	50	木村辰男「南京の若杉参謀」	朝日新聞社		1952	昭和	27	3	25	雑誌	週刊朝日 春秋増刊号。切抜。辰雄は辰男の間違い。若杉参謀とは三笠宮の秘匿名。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
11	53	「戦犯は誰だ！辻もと参謀への公開状」	読売新聞社		1952	昭和	27	3	25	雑誌	川口清健少将(26期)の辻政信糾弾、「週刊読売 春季特別増大号」。切抜。フィリピン ホセ・サンタスの処刑も、辻政信元参謀の命令によるものであった。川口はそのためモンテンルパで戦犯となり刑期についた。	
11	59	根本博「台湾募兵事件」の真相	産経新聞社		1952	昭和	27	3	25	雑誌	別冊週刊サンケイ。切抜。	
4	65	大本営機密日誌	種村佐孝		1952	昭和	27	3	25	書籍	種村は元大本営参謀。「昭和20年7月3日(日付不正確)。今井から、重慶工作につき連絡あり」との記載あり。ダイヤモンド社。	
3	79	重光葵書簡	重光葵	今井武夫	1952	昭和	27	3	26	書籍	祝辞に対する礼状。3-75に挿入。	
13	18	河辺正三書簡	河辺正三	今井武夫	1952	昭和	27	3	27	書簡	敗残の悔恨と自責の念。	
13	53	松井太一郎書簡	松井太一郎	今井武夫	1952	昭和	27	4	4	書簡	追放解除の祝辞に対する礼。松井は元南京政府軍事顧問・中将。	
13	39	岡村寧次書簡	岡村寧次	今井武夫	1952	昭和	27	4	5	書簡	追放解除の祝辞に対するお礼。	
4	58	自衛中立	辻政信		1952	昭和	27	4	5	書籍	3版。亜東書房。	
3	75	昭和の動乱 下巻	重光葵		1952	昭和	27	4	15	書籍	中央公論社。	
9	90	昭和の動乱 下巻	重光葵		1952	昭和	27	4	15	書籍	3-75と同じだが4版。中央公論社。	
13	40	阿部信行書簡	阿部信行	今井武夫	1952	昭和	27	4		書簡	追放解除の祝辞に対するお礼。	
21	362	今井武夫宛相学鑑定書	白龍子	今井武夫	1952	昭和	27	4		書類	今井のこれからの人生を予測したもの。	
1	76	日本週報 207号			1952	昭和	27	5	5	雑誌	臨時増刊。	
11	44	田尻愛義「運命の十一月三十日—対華和平交渉秘録—」 河相達夫「敗戦前夜の密使行」	東京社		1952	昭和	27	6	5	雑誌	話 六月独立記念号。切抜。田尻は銭永銘工作、河相はスチューアート工作について書いている。	
11	52	森岡阜「パターン死の行進」の真相はこうだ！」	東京社		1952	昭和	27	6	5	雑誌	森岡は元16師団長。中将。話 6月特別号 2巻6号。切抜。	
11	56	矢野謙三「人間に裁かれた日本軍の悲劇 将軍暁に死す 戦犯処刑物語」	東京社		1952	昭和	27	6	5	雑誌	話 2巻6号。切抜。矢野は元富山県知事。メダンで刑死した谷萩那華雄少将の最後について同情的に書いている。	
3	153	悲劇の将軍 山下奉文・本間雅晴	今日出海		1952	昭和	27	6	15	書籍	再版。文藝春秋新社。	
2	45	中国の赤い星	エドガー・スノウ		1952	昭和	27	7	5	書籍	宇佐美誠次郎訳。筑摩書房。	
★	★				1952	昭和	27	7	7	☆	於靖国神社裏の日本山妙法寺道場。妙法寺は河辺大将が得度した寺。	北京曉月会に出席出席
9	1	新生日本外交百年史	東京日日新聞		1952	昭和	27	8	15	書籍	東京日日新聞社。	
6	25	巢鴨の十三階段 陸軍中将岡田資遺稿	岡田資		1952	昭和	27	8	15	書籍	亜東書房。岡田は陸軍士官学校時代今井の区隊長だった恩師。中将。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
1	37	偉大的治淮工程	治淮委員会		1952	昭和	27	8		書籍	再販。中国文。華東人民出版社。	
9	88	天皇 誰が日本民族の主人であるか	蜷川新		1952	昭和	27	9	5	書籍	6版。光文社。	
9	87	占領秘録	住本利男		1952	昭和	27	9	10	書籍	5版。住本は毎日新聞社政治部長。毎日新聞社。	
☆	☆				1952	昭和	27	9	26	☆		戦前の中国滞在外交官ほかとの会合（清水董三夫妻、太田一郎夫妻、岡村寧次、安西正夫夫妻ほか、きみ子も出席）
20	305	戦前の中国滞在外交官ほかとの会合写真	覃紹鼎		1952	昭和	27	9	26	写真	今井夫妻、清水董三夫妻、太田一郎夫妻、岡村寧次、安西正夫夫妻ほか。	
3	19	座談会 今井・井崎喜代太・曾野明・三田和夫 「日本をめぐる米ソ謀略戦」	共栄社		1952	昭和	27	10	1	雑誌	探偵倶楽部 3巻9号。	
11	48	阪田誠盛「香港謀略団」	東京社		1952	昭和	27	10	1	雑誌	話 2巻7号。切抜。坂田は元南京松機閣長。「桐工作」について。今井のことも語っている。佐野真一『阿片王 満州国の夜』（新潮社）270～271頁に戦後の阪田について記載あり。	
3	103	バタアン死の行進	火野葦平		1952	昭和	27	10	5	書籍	小説朝日社。	
☆	☆				1952	昭和	27	11	25	☆		(次男) 今井信夫病死（17歳）
11	51	木村辰男「金塊三トンの贈り物」	ダイヤモンド社		1952	昭和	27	11	25	雑誌	ダイヤモンド 1巻3号。辰雄は辰男の間違い。切抜。	
8	23	比島から巢鴨へ	武藤章		1952	昭和	27	11	26	書籍	実業之日本社。	
8	38	皇帝溥儀 私は日本を裏切ったか	工藤忠		1952	昭和	27	11	30	書籍	工藤は元満州国侍衛官長。若いときは工藤鉄三郎と言い、支那浪人だった。秋永芳郎の小説『黒い落日』（東都書房、昭和40年）のモデル。世界社。	
19	254	「中共の鉄道建設の全容」	毎日新聞社		1952	昭和	27	12	21	新聞	毎日新聞。新聞切抜。	
19	255	「ソ連極東攻勢を強化」	東京新聞社		1952	昭和	27	12	25	新聞	東京新聞。新聞切抜。	
22	163	解除関係書類の封筒	今井武夫		1952	昭和	27			封筒	1951年12月17日提出。総理府監査課平山氏受付と自筆記載。22-2所収の封筒。	
21	186	勲章名列記	木村宇一郎		1952	昭和	27			書類	21-185の写真の勲章の説明か。	
13	170	今井武夫手帳	今井武夫		1952	昭和	28	1	1	手帳	1953年12月31日迄。	
1	47	高木陸郎書簡	高木陸郎	今井武夫	1953	昭和	28	1	8	書籍	年賀状。1-46に挿入。	
21	278	もはん大東京全図	日本地図株式会社		1953	昭和	28	1	10	地図		
14	276	曾紀宏書簡	曾紀宏	今井武夫	1953	昭和	28	1	28	書籍	曾紀宏(桐工作 偽宋子良)からの書簡。戦時中出獄させてもらった礼。今共産党に同僚がスパイで入っているほか。	
4	59	繆斌工作	田村眞作		1953	昭和	28	2	5	書籍	三栄出版社。	
19	264	「中共貿易のやり方と見通し」	日本経済新聞社		1953	昭和	28	2	28	新聞	日本経済新聞。新聞切抜。	
8	33	陸軍葬儀委員長 支那事変より東京裁判まで	池田純久		1953	昭和	28	3	5	書籍	日本出版協同株式会社。池田は陸軍中将。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備 考	今 井 武 夫 年 譜
19	256	「注目さる中ソ関係」	サンケイ新聞社		1953	昭和	28	3	5	新聞	サンケイ新聞。新聞切抜。	
19	261	「香港の鉱業事情」	日本鉱業新聞社		1953	昭和	28	3	5	新聞	日本鉱業新聞。新聞切抜。	
3	94	終戦後の在中国野戦郵便顛末報告書	梶谷清一郎		1953	昭和	28	3	10	冊子	連峰(16号)別冊。梶谷は金沢郵政局長。13-65参照。	
19	257	「マレンコフ登場と朝鮮動乱」	毎日新聞社		1953	昭和	28	3	13	新聞	毎日新聞。新聞切抜。	
19	258	「”大陸の窓口”香港の一年上 中共からの逃避百万」	朝日新聞社		1953	昭和	28	3	14	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
19	259	「”大陸の窓口”香港の一年下 火花散る国共宣伝戦」	朝日新聞社		1953	昭和	28	3	16	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
4	66	大東亜戦争全史 1巻	服部卓四郎		1953	昭和	28	3	25	書籍	3版。 鱒書房。 全4巻のうちの1巻。	
19	260	「中共の大衆娯楽」	日本経済新聞社		1953	昭和	28	3	27	新聞	日本経済新聞。新聞切抜。	
13	25	西尾寿造書簡	西尾寿造	今井武夫	1953	昭和	28	3	28	書簡	祝辞に対するお礼。	
18	442	日本国有鉄道路線図			1953	昭和	28	3		地図		
☆	☆				1953	昭和	28	4	1	☆		東京都中野区立塔山小学校 P T A会長に就任。
14	279	湯恩伯書簡	湯恩伯	今井武夫	1953	昭和	28	4	4	書簡	3月29日に台湾に帰国した。滞在中の接待に感謝。1953年か。年代は推定。	
19	263	「中共五カ年計画の焦点 鞍山」	読売新聞社		1953	昭和	28	4	4	新聞	読売新聞。新聞切抜。	
3	61	周仏海日記	周仏海		1953	昭和	28	4	5	書籍	61、95～96、176、251頁に今井関連の記述・註あり。訳述は吉田東祐。建民社。1940年1月1日から12月31日まで。周仏海の署名あり。	
19	265	「中共にまた肅清旋風」	読売新聞社		1953	昭和	28	4	22	新聞	読売新聞。新聞切抜。	
3	95	梶谷清一郎書簡	梶谷清一郎	今井武夫	1953	昭和	28	4		書簡	冊子送付状。3-94に挿入。	
19	245	塔山小学校PTA 規約			1953	昭和	28	5	7	書類		
19	267	「消える迷信・さびれる宗教」	日本経済新聞社		1953	昭和	28	5	10	新聞	日本経済新聞。新聞切抜。	
19	273	「中共軍の実体」	毎日新聞社		1953	昭和	28	5	11	新聞	毎日新聞。新聞切抜。	
19	266	「帰還者のみた中共の姿」	朝日新聞社		1953	昭和	28	5	12	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
19	274	「中共 反毛沢東派を続々追放」	東京新聞社		1953	昭和	28	5	19	新聞	東京新聞。新聞切抜。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備 考	今 井 武 夫 年 譜
9	8	大東亜戦争全史	服部卓四郎		1953	昭和	28	6		書籍	1075～1086頁の切抜。服部の「所懐の一端」。鱒書房。	
19	268	「朝鮮休戦と中共の態度」	朝日新聞社		1953	昭和	28	7	6	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
14	277	曾紀宏書簡	曾紀宏	今井武夫	1953	昭和	28	7	8	書簡	蔣君輝は近々台北県に移る旨の連絡。年代は全くの推定。	
19	269	高谷寛蔵「休戦控え中ソ関係 新段階へ」	毎日新聞社		1953	昭和	28	7	16	新聞	毎日新聞。新聞切抜。	
19	270	「中共の实情 山本熊一氏に聴く」	サンケイ新聞社		1953	昭和	28	7	17	新聞	サンケイ新聞。新聞切抜。	
19	272	「満州の建設を探る」	サンケイ新聞社		1953	昭和	28	7	20	新聞	サンケイ新聞。新聞切抜。	
19	275	「中国の治水対策」	朝日新聞社		1953	昭和	28	8	4	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
19	276	波多野乾一「中共を動かす 人々」	サンケイ新聞社		1953	昭和	28	8	10	新聞	サンケイ新聞。新聞切抜。波多野は上海の東亜同文書院卒。里見甫の4期先輩。外務省情報部・興亜院・大東亜省で支那・中国研究に従事した。著書に『中国共産党史』全7巻、時事通信社、1961年）がある。	
19	277	「中共、農業集団化を緩和」	毎日新聞社		1953	昭和	28	8	13	新聞	毎日新聞。新聞切抜。	
21	227	譚軍凱	譚軍凱		1953	昭和	28	9	5	写真	今井武夫將軍存念とある。	
19	278	高木健夫「お隣の新世界 壮大な人民大会劇」①	読売新聞社		1953	昭和	28	9	7	新聞	読売新聞。新聞切抜。	
19	279	高木健夫「お隣の新世界 恋愛も”公式”で規格化」②	読売新聞社		1953	昭和	28	9	8	新聞	読売新聞。新聞切抜。	
19	280	高木健夫「お隣の新世界 ”可能の夢” 西北建設」③	読売新聞社		1953	昭和	28	9	9	新聞	読売新聞。新聞切抜。日付の8日は9日の間違いか。	
22	185	今井武夫宛封筒	美山要蔵	今井武夫	1953	昭和	28	9	17	封筒	美山は元陸軍大佐。終戦時陸軍省阿南大臣の高級副官。戦後引揚援護局復員局勤務。中身の手紙は22-186か 22-187のいずれかと思われる。	
22	186	美山要蔵書簡	美山要蔵	今井武夫	1953	昭和	28	9		書簡	美山は元陸軍大佐。終戦時陸軍省阿南大臣の高級副官。戦後引揚援護局復員局勤務。履歴書草稿をおくるので点検してほしい。月は推定。	
22	187	美山要蔵書簡	美山要蔵	今井武夫	1953	昭和	28	9		書簡	美山は元陸軍大佐。終戦時陸軍省阿南大臣の高級副官。戦後引揚援護局復員局勤務。引揚援護復員局の用紙に記載。今井の履歴記載。22-186よりは後のもの。「お調べください」とある。月は推定。	
19	281	高木健夫「お隣の新世界 週一回の”言論自由”？」④	読売新聞社		1953	昭和	28	9		新聞	読売新聞。新聞切抜。	
19	282	高木健夫「お隣の新世界 料理屋も公私合営」⑤	読売新聞社		1953	昭和	28	9		新聞	読売新聞。新聞切抜。	
19	283	高木健夫「お隣の新世界 ずらり” 工具アパート”」⑥	読売新聞社		1953	昭和	28	9		新聞	読売新聞。新聞切抜。	
19	284	高木健夫「お隣の新世界 ”文化” はダンスから」⑦	読売新聞社		1953	昭和	28	9		新聞	読売新聞。新聞切抜。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
19	285	高木健夫「お隣の新世界 ⑧ 到るところ」ソ連清一色」	読売新聞社		1953	昭和	28	9		新聞	読売新聞。新聞切抜。	
19	286	高木健夫「お隣の新世界 あおるスポーツ熱」	読売新聞社		1953	昭和	28	9		新聞	読売新聞。新聞切抜。	
19	287	高木健夫「お隣の新世界 ⑩ 次々と新ビル」	読売新聞社		1953	昭和	28	9		新聞	読売新聞。新聞切抜。	
19	248	中野区立塔山小学校新聞塔影 昭和28年10月号	中野区立塔山小 学校		1953	昭和	28	10	10	新聞	今井武夫がPTA会長を務めた 中野区立塔山小学校の学校新聞。	
22	183	引揚援護庁復員局復員相談所 長書簡	引揚援護庁復員 局復員相談所長	今井武夫	1953	昭和	28	10	22	書簡	普通恩給請求手続きの用紙一式同封する。用紙不足か陸軍の罫紙に 記載。押印あり。	
☆	☆				1953	昭和	28	10	30	☆		日本硫鉄株式会社顧問
22	178	今井武夫書簡	今井武夫	長野県庁世話課長	1953	昭和	28	10	30	書簡	押印あり。送付したものと同一の控えか。普通恩給請求書類一式送 付について。	
22	180	昭和二十八年法律第五十五 号附則の規定による普通恩給 失権事由非該当申立書			1953	昭和	28	11	1	資料	2枚。	
12	42	今井「中国及中国人への心の 在り方」	世界民主出版部		1953	昭和	28	11	5	雑誌	新生亜細亜 11月号 1巻2号。6-1の切抜。	
6	1	今井「中国及中国人への心の 在り方」	世界民主出版部		1953	昭和	28	11	5	雑誌	新生亜細亜 11月号 1巻2号。同一3部あり。	
8	34	日本国政辞典 2	外川文平		1953	昭和	28	11	20	書籍	日本国政辞典第一巻正誤表付き。 連合出版社。	
22	182	長野県社会部長書簡	長野県社会部長	今井武夫	1953	昭和	28	12	2	書簡	恩給請求書類の整備について（照会）。	
19	262	「組織に縛られた国民」	毎日新聞社		1953	昭和	28	12	27	新聞	毎日新聞。新聞切抜。	
22	177	今井武夫履歴書	今井武夫		1953	昭和	28			履歴書	押印あり。今井の正式な軍歴を書いた履歴書。	
22	179	今井武夫履歴申立書	今井武夫		1953	昭和	28			履歴書	大陸へ出張した日の詳細記載あり。1915年12月1日士官候補生入隊 より1947年1月5日予備役編入まで。大東亜省参事官は依頼免官と書 いてある。鉛筆書き。下書きか。	
22	181	恩給請求に関する書類	総理府		1953	昭和	28			書類	普通恩給の請求の仕方について記載。	
22	184	昭和二十八年法律第五十五 号附則 第二十五条第項非該 当申立書			1953	昭和	28			書類	第39号書式。同一2枚あり。記載なし。	
22	188	長野県庁民生労働部世話課長 宛提出の今井の履歴書の草稿	今井武夫	長野県庁民生労働 部世話課長	1953	昭和	28			履歴書	日本硫鉄株式会社の罫紙に記載。1枚。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
11	1	大陸の自然と風物	岡村寧次		1953	昭和	28			冊子		
8	35	出版評論			1953	昭和	28			書類	武者小路実篤, 木村毅, 天野貞祐の出版評論。8-34に挿入。年代は推定。	
19	246	中野区立塔山小学校昭和28年度 P T A 委員名簿	中野区立塔山小学校		1953	昭和	28			冊子	今井は P T A 会長。	
11	39	住所録	今井武夫		1953	昭和	28			名簿	第一銀行創立80周年 発行住所録に記載。1873年創立。年は推定。	
4	67	大東亜戦争全史 第1巻 付録	鱒書房		1953	昭和	28			書類	本書公刊由来記。4-66に挿入。	
21	322	柴山兼四郎書簡	柴山兼四郎	今井武夫	1953	昭和	29	1	1	書簡	年賀状。	
23	1	津久井龍雄書簡	津久井龍雄	今井武夫	1954	昭和	29	1	1	書簡	評論家の津久井龍雄から今井宛の年賀状	
23	2	湯恩伯書簡	湯恩伯	今井武夫	1954	昭和	29	1	1	書簡	台湾台北の湯恩伯將軍から今井宛の年賀状	
11	31	今井武夫手帳	今井武夫		1954	昭和	29	1	1	手帳	1954年12月31日迄。	
22	175	長野県社会部世話係書簡	長野県社会部世話係	今井武夫	1954	昭和	29	1	29	書簡	恩給申請書通知	
4	39	中国革命四十年	董沼洋		1954	昭和	29	3	1	書籍	2刷。福村書店。	
19	251	今井「卒業生におくる」	中野区立塔山小学校		1954	昭和	29	3	10	新聞	中野区立塔山小学校新聞「塔影」。昭和29年3月号。今井は P T A 会長。	
1	32	第二次世界大戦 欧州争奪戦	Chester Wilmot		1954	昭和	29	3	12	書籍	鈕先鍾訳。軍事訳辞社出版。	
2	48	革命闘争四十年	能勢岩吉		1954	昭和	29	3	25	書籍	能勢は大東亜文化会代表であった。労務行政研究所。	
★	★				1954	昭和	29	4	1	☆		東京都中野区立塔の山小学校 P T A 会長に再任
17	34	軍事譯粹 3巻1期	軍事譯粹出版社		1954	昭和	29	4	1	雑誌	台湾の雑誌。	
21	54	東京長中会会員名簿	東京長中会事務所		1954	昭和	29	4		冊子	今井の同期長野中学15回卒業生の東京在住者は12名。	
12	179	草野心平「運命の人(1)」	読売新聞社		1954	昭和	29	6	8	新聞	画 坂口茂雄。読売新聞 夕刊。新聞切抜。この日から連載開始。昭和30年に新潮社から上梓される。	
12	180	草野心平「運命の人(2)」	読売新聞社		1954	昭和	29	6	9	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。	
12	181	草野心平「運命の人(3)」	読売新聞社		1954	昭和	29	6	10	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。	
12	182	草野心平「運命の人(4)」	読売新聞社		1954	昭和	29	6	11	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。	
12	183	草野心平「運命の人(5)」	読売新聞社		1954	昭和	29	6	12	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。	
12	184	草野心平「運命の人(6)」	読売新聞社		1954	昭和	29	6	13	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。	
12	185	草野心平「運命の人(7)」	読売新聞社		1954	昭和	29	6	14	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備 考	今 井 武 夫 年 譜
12	186	草野心平「運命の人(9)」	読売新聞社		1954	昭和	29	6	16	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。(8)は欠。	
12	187	草野心平「運命の人(10)」	読売新聞社		1954	昭和	29	6	17	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。	
12	188	草野心平「運命の人(11)」	読売新聞社		1954	昭和	29	6	18	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。	
12	189	草野心平「運命の人(12)」	読売新聞社		1954	昭和	29	6	19	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。	
12	190	草野心平「運命の人(13)」	読売新聞社		1954	昭和	29	6	20	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。	
12	191	草野心平「運命の人(14)」	読売新聞社		1954	昭和	29	6	21	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。	
12	192	草野心平「運命の人(15)」	読売新聞社		1954	昭和	29	6	22	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。	
12	193	草野心平「運命の人(16)」	読売新聞社		1954	昭和	29	6	23	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。	
12	194	草野心平「運命の人(17)」	読売新聞社		1954	昭和	29	6	24	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。	
12	195	草野心平「運命の人(19)」	読売新聞社		1954	昭和	29	6	26	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。(18)は欠。	
12	196	草野心平「運命の人(20)」	読売新聞社		1954	昭和	29	6	27	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。	
12	197	草野心平「運命の人(23)」	読売新聞社		1954	昭和	29	6	30	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。(21)～(22)は欠。	
12	73	メモ「宋子良工作は蒋介石・戴笠の直接実施である」	今井武夫		1954	昭和	29	6		メモ	戦後1954年6月12日に語った内容。宋子良工作は蒋介石・戴笠の直接実施である。年代は全くの推定。	
12	198	草野心平「運命の人(24)」	読売新聞社		1954	昭和	29	7	1	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。	
12	43	今井「日華事変の和平路線 — 国民政府の遷都と汪精衛の真意 —」	世界民主出版部		1954	昭和	29	7	5	雑誌	新生亜細亜 2巻7号。1-43の切抜。14-396陶希聖からの手紙についても言及している。	
1	43	今井「日華事変の和平路線 — 国民政府の遷都と汪精衛の真意 —」	世界民主出版部		1954	昭和	29	7	5	雑誌	新生亜細亜 2巻7号。同一3部有り。	
11	41	矢部貞治「日華事変に寄せて」 石川順「日華事変への反省」	世界民主出版部		1954	昭和	29	7	5	雑誌	新生亜細亜 2巻7号。切抜。石川は元毎日新聞北京支局長。	
19	250	今井「再び(PTA会長に)指名されて」	中野区立塔山小学校		1954	昭和	29	7	10	新聞	中野区立塔山小学校新聞「塔影」。昭和29年7月号。今井はPTA会長。	
12	199	草野心平「運命の人(48)」	読売新聞社		1954	昭和	29	7	25	新聞	今井について記述あり。読売新聞夕刊。新聞切抜。(25)～(47)は欠。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備 考	今 井 武 夫 年 譜
12	200	草野心平「運命の人(50)」	読売新聞社		1954	昭和	29	7	27	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。(49)は欠。	
12	201	草野心平「運命の人(52)」	読売新聞社		1954	昭和	29	7	29	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。(51)は欠。	
12	202	草野心平「運命の人(53) (54)」	読売新聞社		1954	昭和	29	7	30	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。	
12	203	草野心平「運命の人(55)」	読売新聞社		1954	昭和	29	8	1	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。	
12	204	草野心平「運命の人(56)」	読売新聞社		1954	昭和	29	8	2	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。	
12	205	草野心平「運命の人(58)」	読売新聞社		1954	昭和	29	8	4	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。(57)は欠。	
12	206	草野心平「運命の人(60)」	読売新聞社		1954	昭和	29	8	6	新聞	今井についての記述あり。読売新聞 夕刊。新聞切抜。(59)は欠。	
14	271	磯谷廉介書簡	磯谷廉介	今井武夫	1954	昭和	29	8	30	書簡	来駕有難う。胡文虎たちと東亜興隆のためアジア会館設立を進めることに関心あり。	
14	272	磯谷廉介と今井			1954	昭和	29	8		写真	14-271に挿入。	
12	207	草野心平「運命の人(87)」	読売新聞社		1954	昭和	29	9	2	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。(61)～(86)は欠。同一2部あり。今井について記述あり。	
12	208	草野心平「運命の人(89)」	読売新聞社		1954	昭和	29	9	4	新聞	今井についての記述あり。読売新聞 夕刊。新聞切抜。(88)は欠。同一2部あり。	
12	209	草野心平「運命の人(90)」	読売新聞社		1954	昭和	29	9	5	新聞	今井についての記述あり。読売新聞 夕刊。新聞切抜。同一2部あり。	
12	210	草野心平「運命の人(91)」	読売新聞社		1954	昭和	29	9	6	新聞	今井についての記述あり。読売新聞 夕刊。新聞切抜。同一2部あり。	
12	211	草野心平「運命の人(94)」	読売新聞社		1954	昭和	29	9	9	新聞	今井について記述あり。読売新聞 夕刊。新聞切抜。(92)～(93)は欠。	
4	30	世界地理民族史	姫岡勤・藤岡謙二郎		1954	昭和	29	9	15	書籍	朝倉書店。	
14	273	磯谷廉介書簡	磯谷廉介	今井武夫	1954	昭和	29	9	18	書簡	胡文虎が死んだのは残念だが引き続き、東亜興隆のためアジア会館設立を進めるのに努力したい。胡文虎と磯谷廉介中将は仲が良かった。	
19	249	今井「バス事故に寄せて」	中野区立塔山小学校		1954	昭和	29	10	1	新聞	中野区立塔山小学校新聞「塔影」。昭和29年10月号。今井はPTA会長。同一2部あり。	
19	71	塔山小学校長久山峻と今井 小学校の運動会にて			1954	昭和	29	10	3	写真	19-70に挿入。	
12	212	草野心平「運命の人(125)」	読売新聞社		1954	昭和	29	10	10	新聞	今井について記述あり。読売新聞夕刊。新聞切抜。(95)～(124)は欠。	
12	213	草野心平「運命の人(126)」	読売新聞社		1954	昭和	29	10	11	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。今井について記述あり。	
12	214	草野心平「運命の人(127)」	読売新聞社		1954	昭和	29	10	12	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。今井について記述あり。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
3	69	上海地獄 私はどんな風に毛沢東の特務活動をしたか	陳寒波		1954	昭和	29	10	15	書籍	日刊労働通信社。同社訳。	
12	215	草野心平「運命の人（130）」	読売新聞社		1954	昭和	29	10	15	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。今井について記述あり。(128)～(129)は欠。	
12	216	草野心平「運命の人（131）」	読売新聞社		1954	昭和	29	10	16	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。今井について記述あり。	
12	217	草野心平「運命の人（132）」	読売新聞社		1954	昭和	29	10	17	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。今井について記述あり。	
12	218	草野心平「運命の人（133）」	読売新聞社		1954	昭和	29	10	18	新聞	読売新聞 夕刊切抜。今井について記述あり。	
12	219	草野心平「運命の人（134）」	読売新聞社		1954	昭和	29	10	19	新聞	読売新聞 夕刊。今井について記述あり。新聞切抜。	
11	43	宮元利直「邦人虐殺の元凶李徳全」	日本週報社		1954	昭和	29	10	25	雑誌	日本週報 305号。切抜。	
11	54	「恨みは深し山西残留部隊」	日本週報社		1954	昭和	29	10	25	雑誌	日本週報 305号。切抜。	
3	140	中野区立塔山小学校の先生と中国硯を語る今井武夫			1954	昭和	29	10	26	写真	於PTA役員石田一郎宅。今井は塔山小学校のPTA会長を務めた。	
★	★	胡文虎			1954	昭和	29	10		☆	胡文虎と磯谷廉介中将は仲が良かった。	胡文虎の慰霊祭に出席
21	31	第三十期生会 会報 1号	陸士三十期生会		1954	昭和	29	11	1	冊子	巣鴨拘留中3名。ソ連抑留中10名。戦病死279名。正誤表挿入あり。	
21	41	第三十期生会 名簿 7号	陸士三十期生会		1954	昭和	29	11	1	冊子		
12	220	草野心平「運命の人（148）」	読売新聞社		1954	昭和	29	11	2	新聞	読売新聞 夕刊。今井について記述あり。新聞切抜。連載は160回までだが、これが切抜最後の回と思われる。	
12	44	今井「大陸在留邦人の帰国」	世界民主出版部		1954	昭和	29	12	5	雑誌	新生亜細亜 12月号 2巻12号。1-54の切抜。	
1	54	今井「大陸在留邦人の帰国」	世界民主出版部		1954	昭和	29	12	5	雑誌	新生亜細亜 12月号 2巻12号。	
11	55	川口清健「ウソ偽りの”潜行三千里”」	日本週報社		1954	昭和	29	12	25	雑誌	日本週報 311号。切抜。川口清健は26期。	
4	32	日本の友 湯恩伯将軍	湯恩伯記念会		1954	昭和	29	12	30	書籍	湯恩伯記念会。非売品。	
24	8	昭和20年春～昭和22年春 支那派遣軍復員前後の概況	今井武夫		1954	昭和	29	12		書類	厚生省引揚援護局1956年10月。目次を除いて全18頁。戦後10年近くを経た後の今井の記憶によるもの。印刷してある。防衛研究所戦史室所蔵のもの複写。	
12	221	草野心平「運命の人」	読売新聞社		1954	昭和	29			新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。連載回数不明。一部欠損してなし。	
12	222	草野心平「運命の人」	読売新聞社		1954	昭和	29			新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。連載回数不明。半ば欠損してなし。	
19	243	中野区立塔山小学校 昭和29年度PTA委員・役員名簿	中野区立塔山小学校PTA		1954	昭和	29			冊子	今井は会長。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
15	15	創立55周年記念長野北高校同窓会 新校舎の写真	長野県長野北高等学校同窓会		1954	昭和	29			絵葉書	長野中学は戦後の昭和23年から昭和32年まで長野北高校と称した。21-273~275にもあり。	
21	273	創立55周年記念絵葉書 旧校舎の写真	長野県長野北高等学校同窓会		1954	昭和	29			絵葉書	長野中学は戦後の昭和23年から昭和32年まで長野北高校と称した。15-15にもあり。	
21	274	創立55周年記念絵葉書 旧制中学・高校の記事と校歌の写真	長野県長野北高等学校同窓会		1954	昭和	29			絵葉書	長野中学は戦後の昭和23年から昭和32年まで長野北高校と称した。	
21	275	創立55周年記念絵葉書 旧校舎と裏山の写真	長野県長野北高等学校同窓会		1954	昭和	29			絵葉書	長野中学は戦後の昭和23年から昭和32年まで長野北高校と称した。	
★	★				1954	昭和	30	1	1	☆		中野区立塔山小学校 P T A 会長。3月迄。
13	171	今井武夫手帳	今井武夫		1955	昭和	30	1	1	手帳	1955年12月31日迄	
13	43	緒方竹虎書簡	緒方竹虎	今井武夫	1955	昭和	30	1	1	書簡	年賀。	
19	317	「中共軍を解剖する 近代装備の四百四十万」	東京新聞社		1955	昭和	30	1	2	新聞	東京新聞。新聞切抜。	
19	318	「中共軍を解剖する 特科部隊に重心」	東京新聞社		1955	昭和	30	1	3	新聞	東京新聞。新聞切抜。	
13	42	村上知行書簡	村上知行	今井武夫	1955	昭和	30	1	5	書簡	年賀。昨年は不如意のどん底でした。	
13	41	阿部信行書簡	阿部信行	今井武夫	1955	昭和	30	1	8	書簡	年賀。元陸軍大将。首相。	
15	64	年賀状 受出先	今井武夫		1955	昭和	30	1		名簿	年度不明だが、昭和30年前後のものか。3枚。年は推定。	
13	153	回想雑記 4号	吉村寔行		1955	昭和	30	1		書類	戦前の華北労働会館の設立のこと。竹州は寔行ことか。5号は13-134。	
4	33	土居明夫書簡	土居明夫	宛先不明	1955	昭和	30	1		書簡	書籍謹呈。土居は湯恩伯記念会代表。4-32に挿入。29期。	
19	166	志村寛	志村寛		1955	昭和	30	2	19	写真	志村は今井の長野中学時代の国語の先生。若い頃からの経年写真6枚を1枚に入れている。	
12	160	「印度支那三国開放十周年記念座談会（未定稿）」	国民外交会		1955	昭和	30	3	9	冊子	国民外交資料 3 印度支那三国独立の秘話。	
19	247	今井「卒業生におくる」	中野区立塔山小学校		1955	昭和	30	3	20	新聞	中野区立塔山小学校新聞 「塔影」16号 昭和30年3月号。今井はP T A 会長。同一2部あり。	
10	103	フィリピンの陥落 戦史資料 第15号 第1巻	陸上自衛隊幹部学校		1955	昭和	30	3		冊子	米国側資料の翻訳と思われる。386頁。	
10	104	フィリピンの陥落 戦史資料 第15号 第2巻	陸上自衛隊幹部学校		1955	昭和	30	3		冊子	米国側資料の翻訳と思われる。今井部隊についての記載あり。445頁。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
10	105	フィリピンの陥落 戦史資料 第15号 第3巻	陸上自衛隊幹部 学校		1955	昭和	30	3		冊子	米国側資料の翻訳と思われる。247頁。	
10	106	米国側資料の翻訳メモ	今井武夫		1955	昭和	30	3		メモ	米国側資料の翻訳と思われる。防衛研修所の罫紙に書かれている。 シャープ将軍の降伏決心について。10-105に挿入。年月は推定。	
☆	☆				1955	昭和	30	4	25	☆		日本硫鉄株式会社 監査役
2	24	随筆 愛国心に就いて	今村均		1955	昭和	30	5	1	冊子	5版。	
1	92	随筆 愛国心に就いて	今村均		1955	昭和	30	5	1	冊子		
21	53	第三十期生会 会報 2号	陸士三十期生会		1955	昭和	30	5	15	冊子	4月30日第3回総会（於参議院会館）につき記載あり。今井は欠席。	
13	152	雑文	吉村竹州		1955	昭和	30	5		書類	竹州で正しいか。竹州は号で寔行か。	
19	288	「中共拝見 ①」	朝日新聞社		1955	昭和	30	7	9	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
19	252	久山峻「今井会長を送る」	中野区立塔山小 学校		1955	昭和	30	7	15	新聞	中野区立塔山小学校新聞「塔影」17号。昭和30年7月号。久山は小 学校長。	
19	289	「中共拝見 ②」	朝日新聞社		1955	昭和	30	7		新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
19	290	「中共拝見 ③」	朝日新聞社		1955	昭和	30	7		新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
19	291	「中共拝見 ④」	朝日新聞社		1955	昭和	30	7		新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
19	292	「中共拝見 ⑤」	朝日新聞社		1955	昭和	30	7		新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
19	293	「中共拝見 ⑥」	朝日新聞社		1955	昭和	30	7		新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
19	294	「中共拝見 ⑦」	朝日新聞社		1955	昭和	30	7		新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
19	295	「中共拝見 ⑧」	朝日新聞社		1955	昭和	30	7		新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
19	296	橋善守「招かれて見た中共 ① 息づまる権力機構」	毎日新聞社		1955	昭和	30	9	6	新聞	毎日新聞。新聞切抜。	
19	297	橋善守「招かれて見た中共 ② 荒れ狂う粛清」	毎日新聞社		1955	昭和	30	9	7	新聞	毎日新聞。新聞切抜。日付は推定。	
19	298	橋善守「招かれて見た中共 ③ 雄大な治水計画」	毎日新聞社		1955	昭和	30	9	8	新聞	毎日新聞。新聞切抜。日付は推定。	
19	299	橋善守「招かれて見た中共 ④ 人間の改造」	毎日新聞社		1955	昭和	30	9	9	新聞	毎日新聞。新聞切抜。日付は推定。	
19	300	橋善守「招かれて見た中共 ⑤ 滅びゆく階級」	毎日新聞社		1955	昭和	30	9	10	新聞	毎日新聞。新聞切抜。日付は推定。	
19	301	橋善守「招かれて見た中共 ⑥ 女性解放」	毎日新聞社		1955	昭和	30	9	11	新聞	毎日新聞。新聞切抜。日付は推定。	
19	302	橋善守「招かれて見た中共 ⑦ 3千人のダンス」	毎日新聞社		1955	昭和	30	9	12	新聞	毎日新聞。新聞切抜。日付は推定。	
19	308	横田編集局次長「カメラが見 た中共 ① 昔ながらの京劇」	東京新聞社		1955	昭和	30	9	12	新聞	東京新聞。新聞切抜。	
19	303	橋善守「招かれて見た中共 ⑧ ”造民の府” 大学」	毎日新聞社		1955	昭和	30	9	13	新聞	毎日新聞。新聞切抜。日付は推定。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
19	309	横田編集局次長「カメラが見た中共 ② 賭博への郷愁」	東京新聞社		1955	昭和	30	9	13	新聞	東京新聞。新聞切抜。日付は推定。	
19	304	橋善守「招かれて見た中共 ⑨ みなぎる”新風”」	毎日新聞社		1955	昭和	30	9	14	新聞	毎日新聞。新聞切抜。日付は推定。	
19	310	横田編集局次長「カメラが見た中共 ③ 旗袍から暗娼まで」	東京新聞社		1955	昭和	30	9	14	新聞	東京新聞。新聞切抜。日付は推定。	
19	305	橋善守「招かれて見た中共 ⑩ 過渡期の衣食住」	毎日新聞社		1955	昭和	30	9	15	新聞	毎日新聞切抜。日付は推定。	
19	311	横田編集局次長「カメラが見た中共 ④ 少数民族の教育」	東京新聞社		1955	昭和	30	9	15	新聞	東京新聞。新聞切抜。日付は推定。	
19	306	橋善守「招かれて見た中共 ⑪ 笑いのない新聞」	毎日新聞社		1955	昭和	30	9	16	新聞	毎日新聞。新聞切抜。日付は推定。	
19	312	横田編集局次長「カメラが見た中共 ⑤ 偉大的大救星」	東京新聞社		1955	昭和	30	9	16	新聞	東京新聞。新聞切抜。日付は推定。	
19	313	橋善守「招かれて見た中共 ⑫ 歴史の脱皮」	毎日新聞社		1955	昭和	30	9	17	新聞	毎日新聞。新聞切抜。日付は推定。	
19	314	橋善守「招かれて見た中共 ⑬ 東北（満州）を一巡して」	毎日新聞社		1955	昭和	30	9	18	新聞	毎日新聞。新聞切抜。日付は推定。	
19	315	橋善守「招かれて見た中共 ⑭ 向ソ一辺倒」	毎日新聞社		1955	昭和	30	9	19	新聞	毎日新聞。新聞切抜。日付は推定。	
19	316	橋善守「招かれて見た中共 ⑮ 周総理と会って」	毎日新聞社		1955	昭和	30	9	20	新聞	毎日新聞。新聞切抜。日付は推定。	
21	37	第三十期生会 会報 3号	陸士三十期生会		1955	昭和	30	11		冊子	同期生名簿。8号の補遺あり。	
3	13	「中外春秋」	日本経済新聞社		1955	昭和	30	12	3	新聞	日本経済新聞。新聞切抜。3-9に貼付。	
12	45	今井「支那派遣軍の降服」	文藝春秋新社		1955	昭和	30	12	5	雑誌	特集文藝春秋 1号。日本陸海軍の総決算。3-9の切抜。	
3	9	今井「支那派遣軍の降服」	文藝春秋新社		1955	昭和	30	12	5	雑誌	特集文藝春秋 1号。日本陸海軍の総決算。	
3	11	「放射線 軍人の書く戦記 面白いが まるで反省が無い」	東京新聞社		1955	昭和	30	12	7	新聞	東京新聞 夕刊。新聞切抜。3-9に貼付。	
3	12	「放射線 陸海軍の総決算 抜かれた政治の骨は生えぬ」	東京新聞社		1955	昭和	30	12	8	新聞	東京新聞 夕刊。新聞切抜。3-9に貼付。	
3	10	「旧将軍の物の考え方 文春 日本軍の総決算」	朝日新聞社		1955	昭和	30	12	18	雑誌	週刊朝日。記事切抜。3-9に貼付。	
8	36	蒋介石	日本外政学会		1955	昭和	30	12	26	書籍	日本外政学会出版局。	
13	154	回想雑記 5号	吉村竹州		1955	昭和	30			書類	竹州は寔行のことか。根本博との関係について。息子に遺言4月15日あり。13-132参照。	
19	242	P T A関係書類綴	今井武夫		1955	昭和	30			書類	19箱-東11所収のファイル。年は推定。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
19	244	中野区立塔山小学校 昭和30年度PTA委員・役員名簿	中野区立塔山小学校 PTA		1955	昭和	30			冊子		
12	173	党史学習参考資料 46号	中共中央内蒙古分局宣伝部		1955	昭和	30			書籍	「中共中央為公佈国共合作宣言-1937年7月15日-」。3輯。複写。	
5	9	芝草はふまれても 巢鴨戦犯の記録	児玉誉士夫		1955	昭和	31	1	1	書籍	アジア青年社。	
13	172	今井武夫手帳	今井武夫		1956	昭和	31	1	1	手帳	1956年12月31日迄。	
12	46	今井「観察の態度 —中国見本市を見て—」	拓殖大学海外事情研究所		1956	昭和	31	1	5	雑誌	海外事情 4巻1号。切抜。	
21	212	三宝利生会 定款			1956	昭和	31	1	25	書類		
15	63	年賀状 差出先	今井武夫		1956	昭和	31	1		名簿	殷汝耕の未亡人、殷民慧の名前がある。	
11	45	三文字正平「葬られた繆斌工作」	人物往来社		1956	昭和	31	2	1	雑誌	人物往来 2月号 5巻2号。切抜。	
11	47	晴気慶嵐「魔都上海の暗殺王」 田尻愛義「消えた重慶和平交渉」	人物往来社		1956	昭和	31	2	1	雑誌	人物往来 2月号 5巻2号。切抜。	
21	204	三宝利生会書簡	三宝利生会	宛先不明	1956	昭和	31	2		書簡	会長大谷瑩潤、理事長近藤良譲のご挨拶。大谷照乘委員長の仏保再建委員会により更生の途についた。近藤は常務理事だった。	
21	205	近藤良譲書簡	近藤良譲	今井武夫	1956	昭和	31	3	14	書簡	仏保再建の報告。三宝は仏法僧のこと。利生とは利益衆生、興法利生。大谷照乘連枝も「今井先生もこのような営利事業から手を引きになるべき」。	
21	94	志村儀亥知書簡	志村儀亥知	三笠宮殿下	1956	昭和	31	3	18	書簡	志村は日本雄飛会専務理事。三笠宮の処女出版記事内容を諷めている。公開書簡。	
3	55	連合艦隊の最後	伊藤正徳		1956	昭和	31	3	30	書籍	文藝春秋新社。12版。	
★	★				1956	昭和	31	4	14	☆	於東京住友クラブ。	長野中学同級会に出席
19	170	長野中学同級会			1956	昭和	31	4	14	写真	長中15回生の集まり。於住友クラブ。10名。今井、島田謹吾、藤井（旧姓長谷部）一太郎、左治木小次郎、山名庸雅、高橋達郎（忠吉）、松林高治、田中盤根、竹中健、新井信義。	
19	182	長野中学同級会			1956	昭和	31	4	14	写真	於料亭。19-181より少し若いときのもの。15名と16名。2枚あり。この写真の年月日は全くの推測。	
21	206	近藤良譲書簡	近藤良譲	今井武夫	1956	昭和	31	4	20	書簡	三宝利生の経過報告。	
★	★				1956	昭和	31	4	28	☆	於参議院会館。	陸士三十期第3回総会に出席 借行会評議員となる
19	70	今井武夫 「三十年の歴史」	塔山小学校創立三十周年記念事業委員会		1956	昭和	31	4	29	冊子	中野区立塔山小学校 創立三十周年記念誌。PTA前会長 今井の所感	
★	★				1956	昭和	31	5	8	☆		日本硫鉄株式会社 東京支社長

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
19	319	常安弘通書簡	常安弘通	今井武夫	1956	昭和	31	6	20	書簡	複写した珍しい写真を送付するので、暁月会会員に見せてほしい。NBCの野紙に記載。	
19	320	写真説明文	常安弘通		1956	昭和	31	6	20	書類	写真の説明文。19-319に同封されたものか。蔣介石46歳の頃の写真説明。劉汝明、馮治安。同封された写真は19-111か。NBCの野紙に記載。常安は北京にいた新聞記者。	
14	196	今井「関東甲信たよりに 近況報告」	陸士三十期生会		1956	昭和	31	6		冊子	第三十期生会 会誌 4号。4月28日第3回総会（於参議院会館）につき記載あり。会報が会誌と名称変更する。21-38に同じ。	
21	38	今井「関東甲信たよりに 近況報告」	陸士三十期生会		1956	昭和	31	6		冊子	第三十期生会 会誌 4号。4月28日第3回総会（於参議院会館）につき記載あり。会報が会誌と名称変更する。14-196に同じ。	
12	47	今井「あの日あゝのころ 共産スパイの陰謀で爆発 一盧溝橋事件の真相」	東京新聞社		1956	昭和	31	7	7	雑誌	週刊東京 42号。切抜。	
17	7	今井「あの日あゝのころ 共産スパイの陰謀で爆発 一盧溝橋事件の真相」	東京新聞社		1956	昭和	31	7	7	雑誌	週刊東京 42号。12-42に切抜あり。	
21	215	覚書	福島世根、仏教利生社創立準備委員会		1956	昭和	31	7	7	書類	福島世根と仏教利生社創立準備委員会との間の福島所有する神龍盆寄付に関する覚書。複写。準備委員会の名簿には今井も含まれる。	
3	14	今井「大陸の和平路線 一潜行会談も既に遅し」	河出書房		1956	昭和	31	7	25	雑誌	別冊知性 1号 太平洋戦争の全貌。末尾に今井の自筆注あり。	
12	48	今井「大陸の和平路線 一潜行会談も既に遅し」	河出書房		1956	昭和	31	7	25	雑誌	別冊知性 1号 太平洋戦争の全貌。末尾に今井の自筆注あり。3-14の切抜。	
11	49	天羽英二「和平交渉すべて空し」 福留繁「開戦前夜の海軍作戦室」	河出書房		1956	昭和	31	7	25	雑誌	天羽は元情報局総裁。別冊知性 1号 太平洋戦争の全貌。切抜。雑誌全体は3-14にあり。	
21	214	財団法人仏教利生社 創立世話人 書簡	財団法人仏教利生社 創立世話人	宛先不明	1956	昭和	31	7		書簡	創立準備打合会を7月25日晩水軒で行う案内。世話人に今井の名前もあり。	
3	17	「憂楽帳 編集者の戦争責任」	毎日新聞社		1956	昭和	31	8	5	新聞	毎日新聞。3-14に貼付。新聞切抜。	
21	121	白井吉見「随想 軍閥の責任」	読売新聞社		1956	昭和	31	8	16	新聞	読売新聞。新聞切抜。	
12	49	永井洵一書簡	永井洵一	今井武夫	1956	昭和	31	8		書簡	永井は元天津領事。尊筆について。スチュワート大使をめぐる工作について。月は推定。	
3	164	美麗的北京	曹禺・沈從文		1956	昭和	31	8		書籍	香港生活・読書・新知三連書店。	
11	57	「日ソ交渉物語 ⑦ 広田・マリック会談」	毎日新聞社		1956	昭和	31	9	4	新聞	毎日新聞。新聞切抜。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
2	13	死の島ガダルカナル	西野源		1956	昭和	31	9	25	書籍	従軍秘録。鱒書房。	
12	50	今井「困難な情勢判断」	拓殖大学海外事情研究所		1956	昭和	31	10	5	雑誌	海外事情 4巻10号。切抜。	
20	562	「故人寸描 一故岡本清福氏一」	全国戦争犠牲者援護会		1956	昭和	31	10	15	新聞	援護。新聞切抜。	
10	434	「戦後10年秘史 豪語を捨てて敗退 政府、ついに汪政権承認」	東京タイムス社		1956	昭和	31	10	18	新聞	東京タイムス。新聞切抜。	
1	46	私と中国	高木陸郎		1956	昭和	31	10	20	書籍	高木翁壽祝賀会。汪精衛、唐紹儀などについての人物月旦あり。	
21	216	漢朝神龍盆由来稿	近藤良謨		1956	昭和	31	10		書類	徳川家康から福島正則の子忠勝に賜った、漢の武帝にまつわる神龍盆について。	
3	18	今井「対華和平工作史 幾度か手交されんとして成らなかつた日支那両国間の和平の鍵物語」 松井太一郎「涯なき日中戦争の発火点」 中村豊一「知られざる宇垣・孔秘密会談」	河出書房		1956	昭和	31	12	1	雑誌	別冊知性 5号 秘められた昭和史。 松井の記事に今井に関する記述あり。同一2部あり。	
12	52	対華和平工作史	今井武夫		1956	昭和	31	12	1	メモ	3-18『別冊知性 5号 秘められた昭和史』記載の今井「対華和平工作史 幾度か手交されんとして成らなかつた日支那両国間の和平の鍵物語」のことと、河南会談に関連して、呉相湘（台湾大学歴史教授）の名前の付箋あり。	
11	46	影佐禎昭「影佐機関・秘録」	文藝春秋社		1956	昭和	31	12	5	雑誌	特集文藝春秋 1号。切抜。娘婿の谷垣専一が影佐禎昭の遺稿の一部を抜粋したもの。33から37頁まで。5枚。	
7	38	「週刊読売 臨時増刊 日本の秘密戦」 今井武夫「宋子良となる男」	読売新聞社		1956	昭和	31	12	8	雑誌	同一2部あり。今井武夫「宋子良と名のる男」のほか、山口源等（陸軍少佐）「F機関 潜行記」、岩畔豪雄「準備されていた秘密戦」、「岩畔機関始末記」、山本敏（陸軍少将 光機関長）「革命児海を渡る」（チャンドラ・ボースについて）、杉井満「ビルマ独立運動と南機関 -風雲児オンサン思い出-」などの記事多々あり。	
12	51	今井「宋子良となる男」	読売新聞社		1956	昭和	31	12	8	雑誌	週刊読売 臨時増刊 日本の秘密戦。7-38の切抜。	
12	146	元軍人団の中国訪問記	訪中元軍人団世話人会		1956	昭和	31			冊子		
19	72	中野区立塔山小学校校庭			1956	昭和	31			写真	19-70に挿入。年は推定。	
21	207	財団法人仏教利生社 設立趣意書 事業計画書（案）		今井先生	1956	昭和	31			書類	手書き。	
21	208	財団法人仏教利生社 設立趣意書 事業計画書（案）			1956	昭和	31			書類	印刷されている。同一2部あり。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
21	209	財団法人仏教利生社 設立趣意書 事業計画書			1956	昭和	31			書類		
21	210	財団法人仏教利生社 寄付行為 案		今井先生	1956	昭和	31			書類	理事の案に今井も入っている。	
21	211	財団法人仏教利生社 寄付行為			1956	昭和	31			書類	今井は常務理事となっている。まだ正式なものではない。日付け、住所等記載なし。	
21	213	三宝利生会 関連メモ	今井武夫		1956	昭和	31			メモ	三宝利生会と三宝本社等の関連図。Ento Bussann Co. の罫紙に記載。	
13	173	今井武夫手帳	今井武夫		1956	昭和	32	1	1	手帳	1957年12月31日迄。	
2	9	日暮硯 恩田奎	瀧沢七郎		1957	昭和	32	2	21	書籍	序は安岡正篤。明德出版社。	
★	★				1957	昭和	32	4	26	☆		日本硫鉄株式会社 監査役（常勤）
6	35	海軍兵学校	田中常治		1957	昭和	32	5	1	書籍	鱒書房。	
★	★				1957	昭和	32	5	4	☆	於参議院会館。	陸士三十期第4回総会に出席靖国神社に軍馬の銅像献納の企画に対し寄付を募る
3	141	日本耐火煉瓦火入式 土金商店会長と今井			1957	昭和	32	5	7	写真		
2	10	今井「日暮硯を讀みて」	郷友信濃社		1957	昭和	32	5	25	新聞	郷友信濃新聞。2-9に挿入。新聞切抜。	
12	54	今井「馬像」	日本雄飛会		1957	昭和	32	6	1	新聞	雄飛新聞 2号。新聞切抜。	
12	55	今井「戦争中の和平 一支那事変の和平会談一」	拓殖大学海外事情研究所		1957	昭和	32	6	5	雑誌	海外事情 5巻6号。切抜。	
21	141	「特産小金井種の研究」	朝日新聞社		1957	昭和	32	6	20	新聞	朝日新聞。記事に出てくる伊藤産婦人科医は川上護の友人。新聞切抜。	
19	184	中国共産党概史	森岡阜		1957	昭和	32	6	25	冊子	森岡は陸士22期。陸軍中將。フィリピンへ第16師団長として出征。	
12	60	今井「硫黄のP・R」	硫黄工業会		1957	昭和	32	7	1	冊子	硫黄。切抜。	
12	56	「蒋介石回顧録を讀んで(上)」	毎日新聞社		1957	昭和	32	7	22	新聞	毎日新聞。新聞切抜。	
13	60	川上護書簡	川上護	今井武夫	1957	昭和	32	7	22	書簡	5-15記載の追悼記原稿のため今井が自分の陸士同期小西哲雄の消息を川上に問い合わせた返事。川上は今井が士官候補生として富山連隊に配属になったときの指導員。	
12	57	「蒋介石回顧録を讀んで(下)」	毎日新聞社		1957	昭和	32	7	23	新聞	毎日新聞。今井の談話あり。新聞切抜。	
12	59	風間阜書簡	風間阜	今井武夫	1957	昭和	32	7	25	書簡	「蒋介石回顧録を讀んで」の今井の談話についての感想。風間は戦前北京で邦人新聞を発行していたジャーナリスト。	
12	58	李嘉「「蒋介石回顧録を讀んで」を讀む」			1957	昭和	32	7		新聞	掲載紙不明。新聞切抜。12-57の裏に添付。切抜	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
22	560	今井武夫書簡	今井武夫	今井孝子	1957	昭和	32	8	3	書簡	軽井沢町の日本女子大学三泉寮で合宿中の日本大学附属中学の次女孝子に対する2回の手紙受信に対する葉書の礼状。書中今井記載の「信夫」は「貞夫」の間違い。複写。	
1	73	今井「支那派遣軍終戦顛末記」	東日本新聞社		1957	昭和	32	8	15	雑誌	サンデー日本 39号。	
12	61	今井「支那派遣軍終戦顛末記」	東日本新聞社		1957	昭和	32	8	15	雑誌	サンデー日本 39号。1-73の切抜。	
21	39	今井「馬像」	陸士三十期生会		1957	昭和	32	8		冊子	第三十期生会 会誌 5号。5月4日開催された第4回総会（於参議院会館）につき記載あり。靖国神社に軍馬の銅像献納の企画に対し寄付を募る。632名の同期生は生存者331名。	
12	62	今井「駐留軍人の裁判」	日本雄飛会		1957	昭和	32	9	1	新聞	雄飛新聞 5号。新聞切抜。今井は雄飛新聞の理事。支那事件前の北京での英国兵による日本人殺人。	
13	61	川上護書簡	川上護	今井武夫	1957	昭和	32	9	11	書簡	13-60に続く小西哲雄君の追加の情報連絡。	
1	88	今井「私は知っている 火を噴いた盧溝橋事件の真相」	東日本新聞社		1957	昭和	32	9	15	雑誌	サンデー日本 41号。同一2部。	
12	63	今井「私は知っている 火を噴いた盧溝橋事件の真相」	東日本新聞社		1957	昭和	32	9	15	雑誌	サンデー日本 41号。1-88の切抜。	
12	53	「天鼓」	産業経済新聞東京本社		1957	昭和	32	9	21	新聞	産経時事。新聞切抜。	
★	★				1957	昭和	32	9		☆		上海監獄で陳璧君と同室だった中島成子と代々木で会い 陳璧君の窮状を知る
21	107	中島成子談	今井武夫		1957	昭和	32	9		メモ	中島は陳璧君と上海監獄で同室だった。代々木にて面談したときのメモ。年代は推定。	
22	513	私の所信	小林順一郎		1957	昭和	32	9		冊子	小林は大佐。陸士13期。昭和22年8月30日に巢鴨より釈放される。陸大は兵学者でなく参謀（技師）の養成に傾いていたと批判。今井は同感と記している。	
12	64	松本隆芳書簡	松本隆芳	今井武夫	1957	昭和	32	10	18	書簡	サンデー日本 44号（12-68）を読んでの感想。松本は第141連隊の元旗手。ニューブリテン島での転戦のことなど。	
★	★				1957	昭和	32	10	20	☆		於東京練馬区と同級生島田邸。志村寛先生も一緒に。長野中学同級会に出席
19	171	長野中学同級会			1957	昭和	32	10	20	写真	長中同級会。志村先生を囲んで全5名。於島田邸。	
19	172	長野中学同級会			1957	昭和	32	10	20	写真	長中同級会。志村先生を囲んで全7名。於島田邸。	
19	181	長野中学同級会			1957	昭和	32	10	20	写真	志村先生を囲んで。全14名。女性2名。同級生の夫人か。この写真の年月日は全くの推測。	
12	65	山本博武書簡	山本博武	今井武夫	1957	昭和	32	10	25	書簡	サンデー日本 44号（12-68）を読んでの読後感。山本は夏部隊工兵隊所属。	
12	66	松岡勝三書簡	松岡勝三	今井武夫	1957	昭和	32	10	27	書簡	サンデー日本 44号（12-68）を読んでの読後感。松岡は第141連隊初代中隊長。	
11	150	今井「大本營の過失か？ 悲劇の福知山連隊」	東日本新聞社		1957	昭和	32	11	11	雑誌	サンデー日本 44号。福知山でなく福山が正しい。	
12	68	今井「大本營の過失か？ 悲劇の福知山連隊」	東日本新聞社		1957	昭和	32	11	11	雑誌	サンデー日本 44号。11-150の切抜。今井の書き込みあり。福知山は福山の間違い。	
12	71	今井「大本營の過失か？ 悲劇の福知山連隊」	東日本新聞社		1957	昭和	32	11	11	雑誌	サンデー日本 44号。福知山は福山の間違い。12-68と同じだが今井本人の書き込みなし。切抜。	
18	381	今井「大本營の過失か？ 悲劇の福知山連隊」	東日本新聞社		1957	昭和	32	11	11	雑誌	サンデー日本 44号。福地山でなく福山が正しい。18-380に挿入。今井本人の加筆・修正あり。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
21	113	佐原賢治「新中国考（1）～（5）」	交通同人会		1957	昭和	32	11	15	新聞	交通同人。毎月1回。佐原は元華北交通理事。（3）に今井について記載あり。華北交通は昭和14年10月に設立された。満鉄から1万6千人の日本人と3千人の中国人が出向。新聞切抜。	
4	116	中国のなかのソ連	蔣介石		1957	昭和	32	12	20	書籍	毎日新聞社外信部訳。毎日新聞社。	
4	117	橋善守	橋善守		1957	昭和	32	12	20	名刺	4-116に挿入。毎日新聞社編集局次長兼外信部長。今井先生 乞御高評とある。	
★	★				1957	昭和	32	12	20	☆		霞山会会員申し込み 以後死ぬまで霞山会員
12	172	中共軍を主体とする歴史年表	岡田芳政		1957	昭和	32	12		書類	1921年から1957年まで。	
12	78	1951年9月15日のサンデー日本（11-179）と1957年9月15日のサンデー日本の記載メモ	今井武夫		1957	昭和	32			メモ	12箱-東2ファイルに挿入。年度は全くの推定。	
★	★				1957	昭和	32			☆		今井家歴代当主（系図）を筆写する
12	145	廃両改元、幣制改革と幣革当時における日本の態度	関公平		1957	昭和	32			冊子	亜細亜大学「諸学紀要」創刊号抜刷。関は戦前北京にいたジャーナリスト。抜刷。年は推定。	
11	58	秦郁彦書簡	秦郁彦	今井武夫	1957	昭和	32			書簡	「アジア研究」掲載論文についての意見依頼。	
4	106	今井家歴代当主（系図）	今井武夫		1957	昭和	32			書類	昭和38年長野今井家13代亮三郎死去まで記載あり。亮三郎保管資料から筆写。2枚。複写。	
4	107	今井家系図	今井武夫		1957	昭和	32			書類	4-106の下書き。長野今井家12代熊太郎迄記載あり。複写。	
12	325	星馬華文学校適用 馬来亞連合邦各州地理図解	馬連教育文具公司出版		1957	昭和	32			地図	出版年月日記載なし。1957年8月31日マレーシア独立後のもの。	
19	183	長野中学同級会			1957	昭和	32			写真	志村先生を囲んで。全8名。夜戸外で。昭和32年前後の年のものか。	
13	174	今井武夫手帳	今井武夫		1957	昭和	33	1	1	手帳	1958年12月31日迄。	
14	253	畑俊六書簡	畑俊六	今井武夫	1958	昭和	33	1	2	書簡	年賀状。	
7	23	カルロス・ビー・ガルシア書簡	カルロス・ビー・ガルシア	神保信彦	1958	昭和	33	1	28	書簡	文書受け取りの礼状。「フィリピンの夜明けの前書」。ガルシアは戦後第4代フィリピン大統領（任期1957年3月18日から1961年12月30日）。7-21に挿入。	
15	65	昭和33年賀状 受出先	今井武夫		1958	昭和	33	1		名簿	日本硫鉄株の野紙に記載。15-71まで同じ綴り。	
3	81	朝陽村誌	小林初雄・今井良雄編纂		1958	昭和	33	3	1	書籍	216～218頁に今井についての記述あり。長野県朝陽村は今井の生誕地。編纂人の今井良雄は武夫の甥。	
3	82	真田信之時代における松代封内の図			1958	昭和	33	3	1	地図	3-81に挿入。	
2	35	二つの国にかける橋	吉田東祐		1958	昭和	33	3	10	書籍	114～118、135～142、209頁今井関連記事あり。東京ライフ社。東京選書。吉田は上海申報社の論説委員長だった。	
19	185	長野県人東京長水会名簿	第一法規出版		1958	昭和	33	3		冊子		
★	★				1958	昭和	33	4	7	☆		靖国神社の戦没馬慰霊の馬像建立除幕式に出席（陸士同期の那須義雄、飛松伸三らと）
16	5	戦没馬慰霊像奉獻記念	戦没馬慰霊像奉獻協賛会		1958	昭和	33	4	7	絵葉書	4枚。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
19	25	戦没馬慰霊祭における陸士同期の今井 那須 飛松 於靖国神社			1958	昭和	33	4	7	写真	3-32参照。	
13	19	河辺正三書簡	河辺正三	今井武夫	1958	昭和	33	5	28	書簡	建川美次將軍墓前誌表建設企画への協力依頼。	
13	20	建川將軍墓前誌表建設企画趣意書（案）	植田謙吉		1958	昭和	33	5		書類	植田大將は発起人代表。5-19に挿入。	
1	89	サンデー日本 51号	東日本新聞社		1958	昭和	33	6	7	雑誌		
13	22	風間阜書簡	風間阜	今井武夫	1958	昭和	33	6	26	書簡	河辺正三から連絡があり、今年の暁月会の会場は昨年どおり。今井に暁月会の司会を依頼。東京銀行の野紙。風間は北京新聞を戦前発行していた。風間については9-64参照。	
★	★				1958	昭和	33	7	7	☆	於渋谷日本山妙法寺。出席者34名。	北京暁月会に出席
1	38	中国近代革命史	巖鈴善		1958	昭和	33	7	7	書籍	集成公司印刷部。	
22	28	北京暁月会出席者			1958	昭和	33	7	7	写真	全34名。於渋谷日本山妙法寺。	
3	87	佐藤賢了氏講述 「弱きが故の戦い(大東亜戦争への足どり)」	陸上自衛隊幹部学校記事編集委員会		1958	昭和	33	7	10	冊子		
★	★				1958	昭和	33	8	1	☆		日本硫鉄株式会社監査役（非常勤）
21	93	教育勅語講義	日本雄飛会		1958	昭和	33	8	1	冊子	雄飛新聞4号付録。	
2	42	花田仲之助先生の生涯	花田仲之助先生伝記刊行会		1958	昭和	33	10	20	書籍	花田は元軍人。報徳会を組織。非売品。	
21	134	日本硫鉄貸借清算	今井武夫		1958	昭和	33	10		メモ	21-133関連。	
15	22	「故人寸描 一吉成弘氏一」	全国戦争犠牲者援護会		1958	昭和	33	11	16	新聞	援護。新聞切抜。	
3	150	正丸峠にて川上魏と平井夫妻と今井			1958	昭和	33	11	23	写真	写真7枚。仕事関係か。	
3	101	佐藤賢了氏講述 「言い残しておくこと（開戦後の亜戦争指導）」	陸上自衛隊幹部学校記事編集委員会		1958	昭和	33	12	1	冊子		
10	461	「故人寸描 親泊朝省元陸軍大佐」	全国戦争犠牲者援護会		1958	昭和	33	12	15	新聞	援護。新聞切抜。	
13	50	伊藤正徳書簡	伊藤正徳	今井武夫	1958	昭和	33	12	17	書簡	数日前から「帝国陸軍の最後」を書き始めた。稲田（正純）さんを誘って来遊如何。年度は全くの推定。	
3	67	軍閥興亡史 III 日米開戦にいたるまで	伊藤正徳		1958	昭和	33	12	20	書籍	18、116、171～172、180頁に今井関連の記事あり。文藝春秋新社。	
13	77	Wuv Bailey書簡	Wuv Bailey	今井武夫・きみ子	1958	昭和	33	12	22	書簡	米国大使館付陸軍武官室の大佐夫妻から。クリスマスカード兼年賀。プライベートか。	
11	73	「第一章 中国に対する戦争終結工作」	衛藤藩吉		1958	昭和	33			冊子	日本外交学会編『太平洋戦争終結論』（東大出版会）。抜刷。今井について記載あり。	
19	161	高島辰彦「近代医術の中に生きる孫子の兵法」			1958	昭和	33			冊子	掲載紙不明。抜刷。	
19	162	高島辰彦「近代医術の中に生きる孫子の兵法（その二）」			1958	昭和	33			冊子	掲載紙不明。抜刷。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
19	163	高島辰彦「近代医術の中に生きる孫子の兵法（その三）」			1958	昭和	33			冊子	掲載紙不明。抜刷。	
19	164	高島辰彦「近代医術の中に生きる孫子の兵法（その四）」			1958	昭和	33			冊子	掲載紙不明。抜刷。	
21	150	ショウジンガワの会名簿			1958	昭和	33			書類	今井、川上魏ら会員。年は推定。	
13	175	今井武夫手帳	今井武夫		1958	昭和	34	1	1	手帳	1959年12月31日迄。	
5	15	今井「石井春吉君を憶う」 今井「光華門の伊藤善光君」 今井「伊藤鈴嗣君を偲ぶ」 今井「遠藤庄一君のこと」 今井「清田君を憶う」 清田幸生 今井「栗林君の倂」 栗林熊尾 今井「黒田茂君を想う」 今井「小西哲雄君を偲ぶ」 今井「恒広君の奮戦」 恒広成良	陸士三十期生会		1959	昭和	34	2		冊子	昭和34年春 追悼録。 伊藤善光所属の脇坂部隊は南京占領一番乗りを果たすが伊藤は昭和12年12月9日戦死。今井は「光華門」を「江華門」と書いているが間違いか。 伊藤鈴嗣 遠藤と黒田は陸大でも同期。 13-60、13-61に川上護から今井宛に小西哲雄君のことを報告した書簡あり。 小西は昭和12年11月21日山西省太原作戦の途中河北省で戦死 栗林熊尾は長野中学以来の同窓生。栗林忠道大将の弟。砲兵第18連隊中尉。 恒広成良は昭和17年2月パターン半島で戦死。	
9	85	悲劇の将軍 人間山下奉文	沖修二		1959	昭和	34	4	20	書籍	6版。	
★	★				1959	昭和	34	4		☆		勤務先の日本硫鉄株式会社退職
21	133	今井武夫宛役員退職慰労金計算書	日本硫鉄株式会社	今井武夫	1959	昭和	34	4		書類	今井は昭和28年10月末から顧問、その後監査役、東京支社長、取締役を歴任している。日本交易商事株式会社の昇紙に記載。	
3	45	犬養健書簡	犬養健	今井武夫	1959	昭和	34	5	8	書簡	3-42の原稿作成と今井や石友三将軍についての記述について。犬養は昨年12月27日から5月6日まで慶応病院に入院していた。書籍（「揚子江は今も流れている」）を執筆中との由。3-42に挿入。	
6	42	中共計画経済の実証的研究	草野文男		1959	昭和	34	5		冊子	草野は盧溝橋事件当時今井の秘書。旧名織田文男。	
3	51	犬養健書簡	犬養健	今井武夫	1959	昭和	34	5		書簡	5月中旬退院したが来客が多くノビてしまった。名刺に記載。3-42に挿入。	
13	47	辻政信参議院議員への勧告書	川口清健		1959	昭和	34	6	22	書簡	13-46に同封。辻の行った残虐行為に基づく糾弾。11-53、11-55関連。川口は元陸軍少将。26期。	
13	48	辻政信参議院議員への勧告書説明書	川口清健		1959	昭和	34	6	22	書類	13-47の勧告書の説明書。13-46に同封。川口は元陸軍少将。26期。	
21	35	甲子革令政変期 日華纏綿 金子定義文集 明治二十一年中の叙事評論（金子定敬）	金子定一		1959	昭和	34	6	25	冊子	金子は陸士19期。陸軍少将。衆議院議員。金子定一集 第二。	
13	46	川口清健書簡	川口清健	今井武夫	1959	昭和	34	6		書簡	封筒のみで、今井への書簡は同封13-47に記載されている。川口は元陸軍少将。26期。	
★	★				1959	昭和	34	7	7	☆	於渋谷日本山妙法寺。	北京曉月会に出席 出席者37名

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
22	29	北京暁月会出席者37名			1959	昭和	34	7	7	写真	全37名。於渋谷日本山妙法寺。	
3	46	犬養健書簡	犬養健	今井武夫	1959	昭和	34	10	20	書簡	盧溝橋事件の発端。犬養は安武誠一（当時同盟新聞社北京支局勤務）と今井の説を支持する等。3-42に挿入。	
3	47	犬養健書簡	犬養健	今井武夫	1959	昭和	34	10	25	書簡	データ資料として今井が地図を書いた札。3-42に挿入。	
11	60	中島成子「戦乱の大陸にかける橋」	中央公論社		1959	昭和	34	11	1	雑誌	婦人公論 14巻14号。切抜き。	
3	48	犬養健書簡	犬養健	今井武夫	1959	昭和	34	11	9	書簡	上海のスパイのことについて、文藝春秋12月号に寄稿した。3-42に挿入。	
11	182	憲法調査会第二委員会第十二会議議事録	憲法調査会		1959	昭和	34	11	25	冊子		
3	49	犬養健書簡	犬養健	今井武夫	1959	昭和	34	12	2	書簡	堀場の問い合わせ葉書。3-42に挿入。	
21	131	第43回株主総会決議御通知	日本硫鉄株式会社		1959	昭和	34	12	15	書類	添付第43回営業報告書あり。7月27日会社更生手続き開始決定の申し立てを函館地方裁判所に行う。社長村上鎮。	
3	44	今井武夫書簡	今井武夫	犬養健書簡草稿	1959	昭和	34			書簡	犬養健への返事書簡の下書きと思われる。3-42に挿入。中央電機工業社の罫紙に記載。フィリピンのパターン戦について。封筒なし。	
3	50	犬養健書簡	犬養健	今井武夫	1959	昭和	34			書簡	お礼。病状よくなった。名刺に記載。3-42に挿入。	
21	162	原稿作成のメモ	今井武夫		1959	昭和	34			メモ	1958年3月24日「アジア研究」の裏に記載。年度は全くの推定。	
23	51	渡邊修書簡	渡邊修	今井武夫	1959	昭和	34	1	1	書簡	渡邊修から 年賀状	
23	4	清水董三・繁子書簡	清水董三・繁子	今井武夫	1959	昭和	34	1	1	書簡	清水董三・繁子夫妻から 今井武夫夫妻への年賀状	
23	3	志村寛書簡	志村寛書簡	今井武夫・きみ子	1959	昭和	34	1	1	書簡	志村寛（長野中学恩師）からの今井宛の年賀状	
13	176	今井武夫手帳	今井武夫		1959	昭和	35	1	1	手帳	1960年12月31日迄。	
21	328	畑俊六書簡	畑俊六	今井武夫	1960	昭和	35	1	1	書簡	年賀状。	
21	329	西尾寿造書簡	西尾寿造	今井武夫	1960	昭和	35	1	1	書簡	年賀状。	
11	216	日本外交史研究 昭和時代	日本国際政治学会		1960	昭和	35	1	31	書籍	秦郁彦「日華事変 一和平工作と講話条件をめぐる一」に、今井についての記述あり。	
21	57	陳誠書簡	陳誠	神保信彦	1960	昭和	35	2	17	書簡	21-56に挿入。複写。陳は台湾省主席、行政院長、国民党副総裁などをつとめた。年は推定。	
21	179	風間阜書簡	風間阜	今井武夫	1960	昭和	35	2	28	書簡	汪兆銘論に関する資料送付。	
21	180	汪兆銘論	風間阜		1960	昭和	35	2	28	書類	1937年8月20日発行 外務省情報部・興亜院・大東亜省で支那・中国研究に従事した 波多野乾一著『現代支那の政治と人物』（改造社）より引用。	
21	181	編遣会議と南北争覇戦 汪精衛の国民政府主義を推戴 並に改組派の由来	風間阜		1960	昭和	35	2	28	書類	1940年風間阜著『近世中華民国史』（叢文閣）による。	
21	182	九・一八事変後の汪兆銘の役割	風間阜		1960	昭和	35	2	28	書類	風間阜著『近世中華民国史』（叢文閣）p. 338による。	
21	183	汪兆銘略歴	風間阜		1960	昭和	35	2	28	書類	外務省記録より。	
18	388	夏部隊会御芳名	夏部隊会		1960	昭和	35	3	5	名簿	東京近辺在住者の名簿。報道班4名を含む34名。別に地方在住司令部等勤務者の名簿も。2枚。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
11	61	中華週報	中華民国駐日大使館		1960	昭和	35	3	22	冊子	蔣介石・陳誠 略伝。	
21	136	今井武夫宛通知書	函館地方裁判所 民事部	今井武夫	1960	昭和	35	3	31	書類	日本硫鉄株式会社の更生手続き開始。	
21	137	利害関係人の届出について	函館地方裁判所 民事部		1960	昭和	35	3	31	書類	21-136に添付されていたものか。昭和35年5月25日更正債券届出済との手書き記載あり。	
6	5	二十世紀後半に於ける 人類の 最大使命	野崎四郎		1960	昭和	35	4	1	冊子		
☆	☆				1960	昭和	35	4	8	☆	於靖国神社。	第三回愛馬祭に出席
21	152	「愛馬祭に感心高まる」			1960	昭和	35	4		新聞	掲載紙不明。4月8日第三回愛馬祭（於靖国神社）。	
21	108	「ジャングルの中の十六年」	朝日新聞社		1960	昭和	35	6	2	新聞	朝日新聞。グアム島生き残りの皆川文蔵、伊藤正の記録。6月25日まで。20回のシリーズで新聞切抜だが4. 7回分が欠落し18回分あり。	
1	68	週刊文春 6月13日号	文藝春秋社		1960	昭和	35	6	13	雑誌		
4	112	昭和史	遠山茂樹・今井 清一・藤原彰		1960	昭和	35	6	30	書籍	岩波書店。岩波新書。	
21	114	「今日の問題 戦陣訓」	朝日新聞社		1960	昭和	35	6		新聞	朝日新聞。21-108記載のグアム島生き残りの元兵士に関連。新聞切抜。	
22	31	北京暁月会出席者全員			1960	昭和	35	7	7	写真	全39名。於渋谷日本山妙法寺。1960年7月7日か。	
21	135	今井武夫宛通知書	函館地方裁判所 民事部	今井武夫	1960	昭和	35	7	27	書類	更生会社日本硫鉄株式会社の件。	
21	139	今井武夫書簡	今井武夫	日本硫鉄株式会社 管財人の草稿	1960	昭和	35	8	4	書簡	日本硫鉄株式会社に対する債権債務の相殺希望の手紙の原稿。8月5日付け書留郵便物受領証あり。	
12	8	今井「ジャングルの兵士」	拓殖大学海外事情 研究所		1960	昭和	35	8	5	雑誌	海外事情 1960 8.切抜。	
12	69	今井「ジャングルの兵士」	拓殖大学海外事情 研究所		1960	昭和	35	8	5	雑誌	海外事情 1960 8.切抜。12-8と同じ。	
3	104	大宅壮一「フィリピン」死の 行進」のあと」	サンケイ新聞社		1960	昭和	35	8	17	新聞	産経新聞。3-103に挿入。	
21	115	「大波小波 犬養健の文学と 政治」	東京新聞社		1960	昭和	35	8	30	新聞	東京新聞。新聞切抜。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
21	116	「放射線 作家還元成らず 弱気の政治家犬養健死す」	東京新聞社		1960	昭和	35	8	30	新聞	東京新聞 夕刊。新聞切抜。日付は推定。	
3	52	「誇張のない実録 犬養健著 揚子江は今も流れている」	朝日新聞社		1960	昭和	35	9	9	新聞	朝日新聞による犬養の文藝春秋書籍について力作としての書評。新聞切抜。3-42に挿入。犬養は上梓された本を見ることなく他界した。	
3	42	揚子江は今も流れている	犬養健		1960	昭和	35	9	10	書籍	6、87～95、98、308～309、314、334～336頁等に今井についての記載あり。著者名の「健」の振り仮名は「けん」となっており「たけし」ではない。犬養の死後発刊。犬養が親しく付き合い、汪兆銘派から離脱した高宗武とか陶希聖などの名前は仮名を使用している。文藝春秋新社。	
3	43	犬養仲子書簡	犬養仲子	今井武夫	1960	昭和	35	9		書簡	犬養仲子は健の末亡人。1900年生まれ。初代同盟通信社岩永裕吉は伯父、白樺派の長与善郎は叔父にあたる。3-42に貼付。	
21	117	犬養道子「晩年の父」			1960	昭和	35	9		新聞	掲載紙不明。新聞切抜。月は推定。	
21	118	犬養道子「きのうきょう パ パの葬式」			1960	昭和	35	9		新聞	掲載紙不明。新聞切抜。	
8	41	中国政治経済総覧	アジア政経学会		1960	昭和	35	10	15	書籍	一橋書房。	
★	★				1960	昭和	35	11	10	☆		汪兆銘17周忌追悼記念会に出席
13	1	汪兆銘先生17周年追悼記念会 関係者名簿			1960	昭和	35	11	10	名簿		
2	36	大激戦	今村均		1960	昭和	35	11	10	書籍	自由アジア社。	
21	313	汪兆銘先生17周年追悼記念会 関係者名簿			1960	昭和	35	11	10	冊子	13-1と同一か。命日11月10日とある。93名の名前と住所記載あり。	
★	★				1960	昭和	35	11	25	☆	於東京渋谷道玄坂 「ふるさと」。	第8回マニラ友の会に出席
★	★				1960	昭和	35	11	26	☆	於陶々亭。陶々亭は萱野長知が関係していた店。、	参和会（陸大40期 同期の集まり）に出席 片倉衷 小野寺信ら 7人出席 於 陶々亭
19	12	参和会にて小野寺信と今井			1960	昭和	35	11	26	写真	参和会は陸大40期の集まり。於 陶々亭。	
19	13	片倉衷 小野寺ら7人と参和会			1960	昭和	35	11	26	写真	参和会は陸大40期の集まり。於 陶々亭。	
18	396	「マニラ友の会について」	朝日新聞社		1960	昭和	35	11	27	新聞	18-394に挿入。朝日新聞。新聞切抜。	
12	7	宮本武雄「大詰めに来た中共 の国連加入」 坂上昇「高崎達之助氏訪中の 背景」	霞山会		1960	昭和	35	11		雑誌	東亜時論11月号切抜。東亜時論は霞山会学術誌。月刊。	
13	8	信武会員名簿			1960	昭和	35	12	1	冊子	長野出身の軍人名簿。今井も会員。	
21	119	犬丸徹三「私の履歴書 極秘 に汪・近衛会談」	日本経済新聞社		1960	昭和	35	12	7	新聞	日経新聞。新聞切抜。	
2	17	改造世界	尹立言		1960	昭和	35	12		書籍	英文題 World Reformance。1961年2月12日今井先生指教 尹重儀敬 贈とある。正声出版社印行。	
12	171	中共の本質と内外政策の基本 路線			1960	昭和	35			書類	取扱注意と書かれ執筆者の名前なし。1960年代岸内閣時代の作成と 思われる。年は推定。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備 考	今 井 武 夫 年 譜
21	56	Private Letter of Roxas	Nobuhiko Jimbo		1960	昭和	35			冊子	フィリピンのマニユアル・ロハス (Manuel Roxas) 大統領から蔣介石総統に神保信彦助命を求めた昭和21年8月26日の手紙の複写あり。1962年神保から今井が貰った署名入りもの。	
11	63	盧溝橋事件の勃発と発展	中村菊男		1960	昭和	35			冊子	法学研究33巻2号。及川恒忠先生追悼論文集。1960年発行か。今井から、教示を得たとある。	
11	66	秦郁彦「日華事変における拡大派と不拡大派」			1960	昭和	35			冊子	国際法外交雑誌 59巻4号。抜刷。	
11	67	秦郁彦「日華事変における拡大派と不拡大派（二）」			1960	昭和	35			冊子	国際法外交雑誌 59巻5号。抜刷。	
21	172	会社更生法162条 相殺	今井武夫		1960	昭和	35			メモ	21-139関連か。	
18	380	支那事変の回想	今井武夫		1960	昭和	35			回顧録	昭和35年起。	
11	62	日華事変の原因と発展の由来	中村菊男		1960	昭和	35			冊子	法学研究33巻1号。年は推定。	
13	177	今井武夫手帳	今井武夫		1960	昭和	36	1	1	手帳	1961年12月31日迄。	
21	40	正会員消息欄 今井「近況報告」	陸士三十期生会		1961	昭和	36	1	25	冊子	第三十期生会 会誌 6号 昭和35年中秋。長男とあるのは長男・次男が夭折したので三男貞夫のこと。陸士時代の恩師の消息も記載している。	
7	43	情報学	湯炎光		1961	昭和	36	2	10	冊子		
18	387	夏部隊会 御芳名	夏部隊会		1961	昭和	36	3	12	名簿	東京近辺在住者の名簿。報道班4名を含む38名。1枚。	
12	6	安岡正篤「日本の国号」	全国師友協会		1961	昭和	36	3		雑誌	「師と友」 3月号。切抜。	
13	160	今井武夫日記	今井武夫		1961	昭和	36	4	27	日記	1961年9月7日迄。昭和24年以後の日記で、手帳形式のもの。	
12	14	青葉翰於「見たままの中華人民共和国」	国際事情研究会		1961	昭和	36	5	10	雑誌	国際事情 特報。切抜。	
12	26	「汪精衛の墳墓爆破の秘密」	アジア研究所		1961	昭和	36	5	10	雑誌	「アジア研究」。切抜。	
14	280	黄天龍書簡	黄天龍	今井武夫	1961	昭和	36	5	25	書簡	黄は孫文記念会事業部所属。何柱国との沈邱会談より16年経過。	
12	22	小竹文夫「中国人の集団性」	霞山会		1961	昭和	36	5		雑誌	東亜時論 5月号。切抜。	
1	64	汪政権実録（上集） 原名「汪政権の開場與収場」	金雄白		1961	昭和	36	5		書籍	金雄白は汪兆銘派のジャーナリスト。筆名朱子家。8-26参照。春秋雑誌社（香港）。	
1	65	汪政権実録（下集） 原名「汪政権の開場與収場」	金雄白		1961	昭和	36	5		書籍	215頁、217頁に今井関連記事あり。春秋雑誌社（香港）。	
14	281	黄天龍書簡	黄天龍	今井武夫	1961	昭和	36	6	4	書簡	いかにしてアジア同胞に遺書を残すか。12-281に挿入。	
14	282	黄天龍書簡	黄天龍	今井武夫	1961	昭和	36	6	15	書簡	「先覚者よ我々残生者は何をすべき？」。何柱国との沈邱会談が成功していたら。	
14	283	「原水協の原爆被害白書によると32万人が犠牲」	中日新聞社		1961	昭和	36	6	15	新聞	12-282に挿入。中日新聞。新聞切抜。	
21	96	今井氏に御教を仰ぎ度い諸点	日本国際問題研究所		1961	昭和	36	6		書類	6月10日及6月17日於日本国際問題研究所。同一2部あり。	
★	★				1961	昭和	36	7	7	☆	於渋谷 日本山妙法寺。	北京曉月会に出席

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
22	30	北京暁月会出席者			1961	昭和	36	7	7	写真	出席者39名。於渋谷日本山妙法寺。この寺は戦後河辺正三大将が得度した寺。	
21	69	武田瀨「七夕に思い出す 盧溝橋事件と偉大な宋哲元將軍」	日本経済新聞社		1961	昭和	36	7	7	新聞	新聞切抜。日本経済新聞。武田は松井北京特務機関の配下。埼玉県出納長。瀨は「ひろし」と読む。	
11	109	土井章「水谷川忠麿と重慶工作（上）」	昭和同人会		1961	昭和	36	7	10	冊子	昭和同人。今井についての記載あり。切抜。水谷川（みやがわ）は近衛文麿の末弟。男爵。土井は元満鉄経済調査局。何世禎工作。	
21	23	大谷照乗書簡	大谷照乗	今井武夫	1961	昭和	36	7	25	書簡	暑中見舞い。	
12	10	高田富佐男「香港の中共系中国人」			1961	昭和	26	7		雑誌	主張と解放。切抜。	
11	110	土井章「水谷川忠麿と重慶工作（中）」	昭和同人会		1961	昭和	26	8	1	冊子	昭和同人。切抜。発行月は8月か9月。水谷川は近衛文麿の弟。男爵。土井は元満鉄経済調査局。何世禎工作。	
19	39	皇居前にて 今井、倉岡ほか			1961	昭和	36	8	11	写真		
22	546	悪政・銃声・乱世	児玉誉士夫		1961	昭和	36	8	25	書籍	178頁から179頁にかけて今井について記載あり。弘文堂。	
14	248	寺平忠輔書簡	寺平忠輔	今井武夫	1961	昭和	36	8	26	書簡	盧溝橋事件についての質問。清水節郎大尉からの20通ばかりの詳細な資料を持っている。	
12	2	若松重吾「瑞金の赤旗 一中共軍の西遷（1）一」	全国師友協会		1961	昭和	36	8		雑誌	「師と友」 8月号。切抜。	
21	154	陳伯藩 談メモ	今井武夫		1961	昭和	36	8		メモ	赤坂飯店の罫紙2枚に記載。汪兆銘の息子和娘の名前など記載。	
12	158	中華民国 重要事年表	中華民国駐日大使館		1961	昭和	36	10	10	冊子	中華週報 中華民国五十週年 国慶記念特別。	
11	111	土井章「水谷川忠麿と重慶工作（下）」	昭和同人会		1961	昭和	36	10	10	冊子	昭和同人。今井についての記載あり。切抜。水谷川は近衛文麿の弟。男爵。土井は元満鉄経済調査局。何世禎工作。	
12	25	「昔・むかし・いま 陸軍大将名簿」	偕行社		1961	昭和	36	11	1	冊子	「偕行 11月」。切抜。	
11	193	わが満支25年の回顧	国松文雄		1961	昭和	36	11	1	書籍	国松は元朝日新聞特派員。再版。	
12	11	小竹文夫「中華思想と中共中国（上）」			1961	昭和	36	11		雑誌	主張と解放。切抜。	
12	24	「昔・むかし・いま 陸軍大臣歴代表」	偕行社		1961	昭和	36	12	1	冊子	「偕行 12月」。切抜。	
12	9	加藤通夫「深み行く蔣総統の悩み」	霞山会		1961	昭和	36	12	1	雑誌	東亜時論 12月号。切抜。	
12	1	昭和36・12 中共関係資料	今井武夫		1961	昭和	36	12		書類	12箱-東1所収のファイル。12-2～12-36まで。	
12	3	若松重吾「遵義会議 一中共軍の西遷（2）一」	全国師友協会		1961	昭和	36			雑誌	師と友。切抜。	
12	4	若松重吾「瀘定橋の強襲 一中共軍の西遷（3）一」	全国師友協会		1961	昭和	36			雑誌	師と友。切抜。	
12	5	若松重吾「西遷の教訓 一中共軍の西遷（完）一」	全国師友協会		1961	昭和	36			雑誌	師と友。切抜。	
11	197	But Not in Shame	John Toland		1961	昭和	36			書籍	パターン戦記が書かれている。今井について記載あり。Random House社。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
12	16	「昔・むかし・いま 師団名で新編成の陸上自衛隊」	借行社		1961	昭和	37	1	1	冊子	「借行 1月」。切抜。	
23	5	河辺正三書簡	河辺正三	今井武夫	1962	昭和	37	1	1	書簡	河辺正三大将から今井宛の年賀状	
13	36	中野英光書簡	中野英光	今井武夫	1962	昭和	37	1	1	書簡	賀状。9-13参照。中野は陸士24期。中将。	
13	178	今井武夫手帳	今井武夫		1962	昭和	37	1	1	手帳	1962年12月31日迄。	
15	66	昭和37年賀状 発受	今井武夫		1962	昭和	37	1		名簿		
12	15	「昔・むかし・いま 陸軍士官学校卒業人員表」	借行社		1962	昭和	37	2	1	冊子	「借行 2月」。切抜。	
12	23	「ふたりの総統に救われた人」	中華週報社		1962	昭和	37	2	1	雑誌	中華週報。切抜。	
23	6	金雄白カ書簡	金雄白カ	今井武夫	1962	昭和	37	2	27	書簡	金雄白カから 今井宛 写真付き 挨拶状	
12	17	「昔・むかし・いま 終戦時における主要部隊概見表（その1）」	借行社		1962	昭和	37	3	1	冊子	「借行 3月」。切抜。	
2	26	比島攻略戦側背攻撃の奮戦記 附 日・米比日作戦基本方策の観察	渡辺三郎		1962	昭和	37	3	11	冊子	渡邊は元京都第16師団参謀長で今井の陸士同期。	
1	11	印度洋の常陸丸	長谷川伸		1962	昭和	37	3	15	書籍	3刷。新小説社。「日本捕虜志」の姉妹編。	
5	2	悲劇の証人 一日華和平工作秘史一	西義頭		1962	昭和	37	3	21	書籍	文献社。	
☆	☆				1962	昭和	37	3	29	☆		曹大中 神保信彦と会見
12	20	曹大中との会見メモ	今井武夫		1962	昭和	37	3	29	メモ	神保信彦立会い。	
18	386	マニラ友の会 会員名簿	マニラ友の会		1962	昭和	37	3		名簿	本間富士子、尾崎士郎、今日出海、渡辺はま子、などの名前が見える。	
12	18	「昔・むかし・いま 終戦時における主要部隊概見表（その2）」	借行社		1962	昭和	37	4	1	冊子	「借行 4月」。切抜。	
12	19	「獄中で青酸カリを仰いだ総督」	読売新聞社		1962	昭和	37	4	1	雑誌	週刊読売。切抜。	
10	435	草野心平 「黄瀛は生きていた 上」			1962	昭和	37	4	1	新聞	掲載紙不明。黄瀛は国民政府 陸軍少将で詩人。芷江休戦会談に出席。新聞切抜。草野と黄の関係は『支那事変の回想』に記載されている。黄は日本人 太田喜智を母とし、草野の親友で詩人。宮沢賢治を愛した。	
10	436	草野心平 「黄瀛は生きていた 下」			1962	昭和	37	4	2	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。草野と黄の関係は『支那事変の回想』に記載されている。黄は日本人を母とし、草野の親友で詩人。宮沢賢治を愛した。	
11	32	今井武夫日記	今井武夫		1962	昭和	37	4	11	日記	1962年11月8日迄。	
5	3	書評「汪兆銘政権の裏面史」	朝日新聞社		1962	昭和	37	4	29	新聞	朝日新聞。新聞切抜。5-2に挿入。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
12	21	実方清「人間の不安と孤独」	経済往来社		1962	昭和	37	4		雑誌	経済往来 4月号。切抜。	
12	159	「自主外交をいかにして確立するか」	松浦周太郎・宇都宮徳馬・野田武夫・平野三郎・千葉成夫		1962	昭和	37	4		冊子	『再建』1962年4月号掲載座談会。抜刷。	
★	★				1962	昭和	37	5		☆		畑俊六元帥の葬儀に参列
16	9	畑俊六元帥の葬儀記念			1962	昭和	37	5		写真	畑俊六元帥は5月10日死去。	
1	52	人生的科学分析	汪李高		1962	昭和	37	6		書籍	雙桐館叢書之一。中華儒学研究所。	
4	95	日本終戦史 上巻 八月十五日のクーデターほか	林茂		1962	昭和	37	7	1	書籍	読売新聞社。	
4	96	読売新聞社出版局「日本終戦史」編集委員会書簡	読売新聞社出版局「日本終戦史」編集委員会	宛先不明	1962	昭和	37	7	1	書簡	週刊読売に連載のものの上梓と本の送付。4-95に挿入。年月日は推定。	
★	★				1962	昭和	37	7	9	☆		NHK教育TV「教養特集 日中戦争の頃」に出演（佐藤尚武、清水董三、牟田口廉也、桜井徳太郎らと）
19	240	日本回顧録 4 日中戦争の頃	NHKT V教養部学芸班		1962	昭和	37	7	9	冊子	教育TV出演の台本。本人の加筆あり。出演今井、佐藤尚武、清水董三、牟田口廉也、桜井徳太郎。	
11	174	今井「敗軍の使者として」	潮出版社		1962	昭和	37	7		雑誌	潮 7月号。155～156頁。昭和30年代のもの。年度は全くの推定。	
4	97	日本終戦史 中巻 まぼろしの和平工作	林茂		1962	昭和	37	8	1	書籍	39、42、54、58、177～180頁に今井についての記述あり。読売新聞社。	
9	89	日本終戦史 決定的瞬間を迎えて 下巻	林茂		1962	昭和	37	9	1	書籍	読売新聞社。	
6	49	支那事变戦争指導史	堀場一雄		1962	昭和	37	9	10	書籍	随所に今井の意見記載あり。205、363、389、593頁に今井に関して記載あり。時事通信社。栗（しおり）に陸士同期（34期）西原進大佐の堀場の人柄に対するコメントあり。	
6	51	支那事变戦争指導史 一統計資料一	堀場一雄		1962	昭和	37	9	10	書籍	6-48と同じ箱に挿入。時事通信社。	
4	20	予感	石原廣一郎		1962	昭和	37	11	15	書籍	2刷。今井の感想が306頁に3行書かれている。新小説社。石原は元立命館大学理事長。	
4	119	市ヶ谷台から市ヶ谷台へ	河辺虎四郎		1962	昭和	37	11	15	書籍	時事通信社。	
8	20	軍事機密 統帥綱領・統帥参考	偕行社		1962	昭和	37	12	8	書籍		
12	176	麟鷲園主人「汪精衛詩伝（上）」			1962	昭和	37		10	雑誌	掲載紙不明。掲載紙は安岡正篤主催の雑誌「師友」か「関西師友」で1961年か62年のものと思われる。切抜。年月は推定。	
12	177	麟鷲園主人「汪精衛詩伝（中）」			1962	昭和	37		10	雑誌	掲載紙不明。切抜。年月は推定。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
12	178	麟鷲園主人「汪精衛詩伝 (完)」			1962	昭和	37		10	雑誌	掲載紙不明。切抜。年月は推定。	
5	16	昭和三十四年以降 追悼録(補足)	陸士三十期生会		1962	昭和	37			冊子	5-15の続き。5-16～5-24まで一束。	
6	50	堀場一雄著『支那事变戦争指導史』に対する所見	今井武夫		1962	昭和	37			論評	昭和37年9月発行の堀場の著作に対するもの。トラウトマン和平問題ほか。6-49に挿入。	
6	52	支那事变戦争指導史付録	堀場一雄		1962	昭和	37			書類	作戦経過概見表。昭和十二年及昭和十三年作戦経過要図。支那派遣軍戦略態勢要図。支那派遣軍態勢概見図。支那資源分布主要地域図。6-49と同じ箱に挿入。	
6	53	支那事变戦争指導史	時事通信社		1962	昭和	37			冊子	6-49と同じ箱に挿入。	
1	53	今井武夫に関する占い	汪李高		1962	昭和	37			書類	1-52に挿入。2枚	
18	316	陳璧君について 中島成子談	今井武夫		1962	昭和	37			原稿	中島は陳璧君と監獄で同室だった。「アジア研究」1961年9月6日号の裏紙に記載。今井は1957年9月に初めて中島に会っている。その後の会合か。年度は全くの推定。	
18	325	陳璧君履歴 中島メモ	今井武夫		1962	昭和	37			メモ	「アジア研究」1961年9月2日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	
18	321	陳璧君	今井武夫		1962	昭和	37			原稿	「アジア研究」1961年9月29日号と7月12日号の裏紙に記載。2枚。年度は全くの推定。	
18	320	汪兆銘	今井武夫		1962	昭和	37			原稿	「アジア研究」1961年9月1日号の裏紙に記載。2枚。年度は全くの推定。	
18	327	中国本土に於ける戦闘	今井武夫		1962	昭和	37			原稿	「アジア研究」1961年6月18日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	
18	331	盗人と和平	今井武夫		1962	昭和	37			原稿	随筆の原稿。「アジア研究」1961年7月19日号の裏紙に記載。3枚。年度は全くの推定。	
18	343	第一次豊台事件、第二次豊台事件ほか	今井武夫		1962	昭和	37			原稿	「アジア研究」1961年8月14日号の裏紙に記載。6枚。年度は全くの推定。	
21	167	山西実業公司ほか	今井武夫		1962	昭和	37			メモ	1961年8月2日「アジア研究」の裏に記載。年度は年度は全くの推定。	
18	355	盧溝橋の発砲について	今井武夫		1962	昭和	37			メモ	「アジア研究」1961年5月24日号の裏紙に記載。6枚。年度は全くの推定。	
18	324	汪兆銘履歴	今井武夫		1962	昭和	37			履歴書	「アジア研究」1961年7月17日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	
18	322	バター半島アブケイ附近の戦闘配置図	今井武夫		1962	昭和	37			地図	「アジア研究」1961年7月5日号の裏紙に記載。2枚。年度は全くの推定。	
4	2	汪精衛先生を偲ぶ	鍾任壽		1962	昭和	37			冊子	汪兆銘秘話。日米開戦を中国のために喜ぶ。1960年代の記載か。38頁に今井についての記載あり。同一2部あり。辻政信の失踪後。年は推定。	
13	179	今井武夫手帳	今井武夫		1962	昭和	38	1	1	手帳	1963年12月31日迄。	
11	167	雙桐館主「看一九六三年世運 (上)」			1963	昭和	38	1	3	新聞	星島晩報。	
11	168	雙桐館主「看一九六三年世運 (下)」			1963	昭和	38	1	4	新聞	星島晩報。新聞切抜。11-167に貼付。日付は推定。	
12	75	今井「盧溝橋事件の現地交渉」	朝日新聞社		1963	昭和	38	1		冊子	太平洋戦争への道 4巻付録。	
15	67	昭和38年賀状 発送先	今井武夫		1963	昭和	38	1		名簿		
5	6	私の昭和史	末松太平		1963	昭和	38	2	20	書籍	末松は二・二六事件関係者。第3刷。みすず書房。	
11	105	田中隆吉「かくて天皇は無罪 になった」	文藝春秋社		1963	昭和	38	2		雑誌	文藝春秋。切抜。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
24	11	今井武夫関連 記述資料経歴票	稲葉正夫		1963	昭和	38	3	28	書類	複写。稲葉は元陸軍中佐。陸軍参謀。防衛庁防衛戦史室編纂官。	
24	15	今井武夫関連 記述資料経歴票	稲葉正夫		1963	昭和	38	3	28	書類	複写。稲葉は元陸軍中佐。陸軍参謀。	
★	★				1963	昭和	38	3		☆		防衛庁からの依託で「日華事変の回想」を執筆する
24	9	元陸軍少将今井武夫軍歴概要			1963	昭和	38	3		書類	複写。	
24	12	今井武夫陸軍少将軍歴	防衛研究所		1963	昭和	38	3		履歴書	複写。	
24	10	日華事変の回想（上）	今井武夫		1963	昭和	38	3		回顧録	防衛庁からの依託執筆。24箱-東3所収のファイル。複写。本ファイルは全て複写。	
24	13	日華事変の回想（上）	今井武夫		1963	昭和	38	3		回顧録	目次及び内容。複写。	
24	14	日華事変の回想（下） 2分冊の1	今井武夫		1963	昭和	38	3		回顧録	24箱-東4所収のファイル。複写。本ファイルは全て複写。防衛庁からの依託執筆。	
24	16	日華事変の回想（下） 2分冊の1	今井武夫		1963	昭和	38	3		回顧録	目次及び内容。複写。	
24	17	日華事変の回想（下）の続	今井武夫		1963	昭和	38	3		回顧録	複写。	
24	2	複製資料経歴表	稲葉正夫		1963	昭和	38	4	15	書類	本ファイルの原本は1963年3月25日今井より借用したもの。複写。稲葉は元陸軍中佐。陸軍参謀。	
5	17	今井「入江克巳君を憶う」 山下哲夫「専田盛寿君の憶出」	陸士三十期生会		1963	昭和	38	4		冊子	昭和37年以降 追悼録（第二回補足）。 専田は昭和36年1月9日死去。	
★	★				1963	昭和	38	5	7	☆		滋賀県大津に遊ぶ
3	143	大津にて今井 島源四郎 早崎慶三の3人			1963	昭和	38	5	7	写真	仕事の関係か。	
14	259	後宮淳書簡	後宮淳	今井武夫	1963	昭和	38	5	13	書簡	後宮は1963年から68年まで日本郷友連盟会長。大将。連盟参与就任承認のお礼。年度は全くの推定。今井は1967年8月に顧問になっている。	
○	○				1963	昭和	38	5	28	○		15 代当主（長兄） 今井亮三郎 死去（75歳）
4	7	秘録宇垣一成	額田担		1963	昭和	38	6	20	書籍	2刷。芙蓉書房。額田は陸士29期。陸大は今井と同期。	
11	74	寺平忠輔「王城 北京を兵火より護る」	偕行社		1963	昭和	38	6		冊子	「偕行 6月」。切抜。	
11	86	資料 清水節郎手記 秦郁彦編 「アジア政経学会 アジア研究 六月 盧溝橋事件 - 七月七日夜から八日夜まで - 」	清水節郎		1963	昭和	38	6		冊子	清水は盧溝橋事件のときの当事者である第八中隊長。アジア政経学会「アジア研究六月」。抜刷。今井についてかなり記載あり。	
19	142	大塚賢三書簡	大塚賢三	今井武夫	1963	昭和	38	7	10	書簡	書類の送り状。新聞天地の記事拙訳（12-143）送ります。	
19	143	龔徳柏回想録（65回）	大塚賢三		1963	昭和	38	7	10	書類	19-142に挿入。香港の週刊誌新聞天地1963年5月5日号に記載されたものの大塚の翻訳。龔（きょう）徳柏は73歳の老ジャーナリスト。原稿用紙12枚。	
1	35	新帝国主義	ヒュウ・セトン・ワトソン		1963	昭和	38	10	10	書籍	直井武夫訳。自由アジア社。The New Imperialism。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
22	544	北京収容所	佐藤亮一		1963	昭和	38	11	30	書籍	北京の獄舎で佐藤が秘密に書き綴った記録。佐藤は毎日新聞特派員だった。河出書房新社。昭和20年10月10日双十節を期して京津地区に駐屯する北支方面軍隷下の全部隊が武装解除すると北京城内は百鬼夜行の非常な困難に陥ったとある。	
15	28	高島辰彦書簡	高島辰彦	今井武夫	1963	昭和	38	12	23	書簡	12月15日の写真できた旨。15-27に挿入。	
2	21	神仏の心	今村均		1963	昭和	38	12	25	冊子		
21	105	社団法人日本イスラエル協会 誌観	日本イスラエル協会		1963	昭和	38	12		書類		
8	30	橋本大佐の手記	中野雅夫		1963	昭和	38			書籍	15, 82, 84, 91, 101頁に関連して根本（博中将）から聞いたと思われる今井の自筆メモ追加記述あり。134頁に今井に関する記載あり。みすず書房。	
21	330	大谷照乗書簡	大谷照乗	今井武夫	1963	昭和	39	1	1	書簡	年賀状。北京の思い出。感謝しております。	
13	180	今井武夫手帳	今井武夫		1964	昭和	39	1	1	手帳	1964年12月31日迄。	
23	8	河辺正三書簡	河辺正三	今井武夫	1964	昭和	39	1	4	書簡	河辺正三大将から 今井宛の年賀状	
23	7	河辺正三書簡	河辺正三	今井武夫	1963	昭和	38	1	5	書簡	河辺正三大将から 今井宛の年賀状	
12	95	北平（北京）の集いの記	三島敏太郎		1964	昭和	39	1	25	書類	第一回北平会の記録と思われる。2枚。新橋「橋善」2階。参集者18名。今井は参加しておらず。	
15	68	昭和39年賀状 発送先	今井武夫		1964	昭和	39	1		名簿		
8	26	汪政権の開場與収場 第五冊	朱子家		1964	昭和	39	2		書籍	朱子家は金雄白の筆名。1-64、1-65参照。春秋雑誌社印行。	
11	212	伊藤正徳・稿 硫黄島の決戦	硫黄島戦没者慰霊祭執行委員会		1964	昭和	39	3	17	冊子	文藝春秋新社発行・伊藤正徳「帝国陸軍の最後・特攻編」からの転載収録。	
18	332	「マッカーサー回想記 72 コレヒドール陥落」	朝日新聞社		1964	昭和	39	3	17	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
18	333	「マッカーサー回想記 73 死の行進」	朝日新聞社		1964	昭和	39	3	18	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
4	25	黄浦江の濁浪	朱子家		1964	昭和	39	3		書籍	朱子家は金雄白の筆名。呉興記書報社。中国文。汪兆銘のことを回顧している。春秋雑誌社。汪精衛逝世前国事遺言巻末にあり。日本の毎日新聞のスクープ前に出たものか。	
8	9	軍事史研究 No. 5	国防史学会		1964	昭和	39	4	1	雑誌		
21	124	川上護書簡	川上護	今井武夫	1964	昭和	39	4	15	書簡	戦後の手紙。ソ連船通訳のこと。昔のことのやり取りの様で、川上は「今井の富山第69連隊時代、自分は今井の教官ではなく、見習い士官兼教官見習いで、責任ない」と冗談を言っている。年度は全くの推定。	
19	141	故佐藤堅司博士作 孫子百首	高島辰彦		1964	昭和	39	4	18	冊子	駒沢大学佐藤堅司作。正誤表添付。	
12	141	1944年「ウ」号作戦に関する国会図書館における説明資料	牟田口廉也		1964	昭和	39	4	23	冊子		
9	26	現代史資料 (七) 満州事変	みすず書房		1964	昭和	39	4	25	書籍		
9	27	島田俊彦 「軍令部戦史部始末記」	みすず書房		1964	昭和	39	4	25	冊子	現代史資料月報。9-26に挿入。付録。	
3	107	桜美林物語	清水安三		1964	昭和	39	4	29	書籍	2版。13-35参考。桜美林学園発行。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
22	486	「汪精衛氏の遺書を発見」 「汪精衛氏の国事遺書 (上)」	毎日新聞社		1964	昭和	39	4	29	新聞	毎日新聞。新聞切抜。	
4	8	遜清宣統皇帝自伝 我的前半生 (第一集)	愛新覚羅溥儀		1964	昭和	39	4		書籍	香港文通書店。	
22	487	「汪精衛氏の国事遺書 (下)」	毎日新聞社		1964	昭和	39	5	1	新聞	毎日新聞。新聞切抜。	
22	488	「憂楽帳 最後の心情」	毎日新聞社		1964	昭和	39	5	1	新聞	毎日新聞。新聞切抜。汪兆銘の遺書について。	
22	489	「汪精衛氏の国事遺書を読んで 今井武夫氏談『残念な日本の背信』 清水董三氏談『これぞ真実の遺書』」	毎日新聞社		1964	昭和	39	5	2	新聞	毎日新聞。新聞切抜。清水は東亜同文書院12期生。	
22	490	「余禄 汪精衛氏の国事に対する遺書について」	毎日新聞社		1964	昭和	39	5	2	新聞	毎日新聞。新聞切抜。	
22	491	胡蘭成「汪精衛氏の国事遺書 思考の混乱反映 和平は策略 ではなかった」	毎日新聞社		1964	昭和	39	5	15	新聞	毎日新聞。同一2部あり。新聞切抜。	
22	97	胡蘭成	胡蘭成		1964	昭和	39	5	15	名刺	胡蘭成については22-491参照。年月日は全くの推定。	
21	140	風間阜書簡	風間阜	今井武夫	1964	昭和	39	5	20	書簡	汪兆銘の号「精衛」についての説明。	
14	278	永井洵一書簡	永井洵一	今井武夫	1964	昭和	39	5	28	書簡	盧溝橋事件のときの芦山会議について。安内攘夷は汪兆銘が昭和12年2月に言い出したことである。	
☆	☆				1964	昭和	39	5	30	☆	松代公園、松代大本営跡に行き夜は渋温泉。泊まり。渋温泉の泊まりは全23名。	長野中学同級会 卒業50周年記念会に出席
19	176	長野中学卒業50年会 於渋温泉			1964	昭和	39	5	30	写真	於渋温泉。全23名。今井、滝沢工、吉沢十助、左治木小次郎、野池固根、井原馨、小山、小林章、近山、伴国男、竹村波次、清水豊治、田中泉、関川寛平、井上、新井信義、菊池実、町田一二三、長谷部一太郎、山上重貞、松林高治、田中盤根、清水豊治。	
19	173	長野中学卒業50年会 於松代町公園	島田謹吾		1964	昭和	39	5	30	写真	島田は長野中学同級生。	
19	174	長野中学卒業50年会 於松代町公園	島田謹吾		1964	昭和	39	5	30	写真	於松代町公園。	
19	175	長野中学卒業50年会 於松代町大本営跡	島田謹吾		1964	昭和	39	5	30	写真		
11	146	特別企画・汪精衛国事遺書の秘められた内側 「雨花台上、露と消えた岳父の意志」 太田元次 「最期まで国事を愛えた汪精衛先生」	中京出版社		1964	昭和	39	6	1	雑誌	「新中京 6月号」。今井について記載あり。太田は名古屋で汪精衛の最期を看取った医者。掖済会病院長。	
1	91	沖縄の島守島田叡 親しきものの追憶から	島田叡氏事跡顕彰会		1964	昭和	39	6	28	書籍	島田叡（あきら）は沖縄県知事。今井と島田は交友があった。	
11	75	寺平忠輔 「盧溝橋畔 不法の十八発」	偕行社		1964	昭和	39	7	1	冊子	「偕行 7月 157号」。切抜。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
★	★				1964	昭和	39	7	7	☆	於東京九段 日本山妙法寺。	北京暁月会に出席
22	32	北京暁月会の河辺正三 牟田口廉也 今井	大河内伸男		1964	昭和	39	7	7	写真	於九段日本山妙法寺。開催場所はそれまでの渋谷から、九段に変わっている。	
21	331	大谷照乗・寿子書簡	大谷照乗・寿子	今井武夫	1964	昭和	39	7	21	書簡	暑中見舞。先般テレビを拝見しました。おなつかしく。大谷は西本願寺の連枝。	
12	72	今井「随想 困難な平和の回復」	信濃毎日新聞社		1964	昭和	39	7	22	新聞	信濃毎日新聞 夕刊。11-147と同じ。新聞切抜。	
11	147	今井「随想 困難な平和の回復」	信濃毎日新聞社		1964	昭和	39	7	22	新聞	信濃毎日新聞 夕刊。新聞切抜。同一2部あり。	
11	81	皆藤喜代志「運命の鴛鴦」			1964	昭和	39	8	1	雑誌	大陸問題 13 8号。切抜。	
★	★				1964	昭和	39	8	3	☆		青木一男と共に四谷の郷友連本部を訪問 後宮会長、塩沢理事長、野元副理事長と会見
15	2	横尾深林人書簡	横尾深林人	今井武夫	1964	昭和	39	8	6	書簡	テレビで久しぶりにお姿を見て懐かしく思った。年は推定。戦後の住所から要年度推定。横尾は戦前翠田と号した画家。	
13	155	桐工作 石井秋穂大佐回想録抜書ほか	今井武夫		1964	昭和	39	8		メモ	石井回想録は1946年春脱稿と今井が書いている。1940年7月29日今井と片山少佐、10月1日今井、鈴木中佐、東条陸相へ桐工作につき報告。戦後、1964年郷友連訪問のことも書いてある。ノートに記載。月は推定。	
7	29	人物往来 9月号 13巻6号	人物往来社		1964	昭和	39	9	1	雑誌		
11	76	池田純久「支那事変の発端について」	偕行社		1964	昭和	39	9	1	冊子	「偕行 9月 159号」。切抜。	
11	173	今井「盧溝橋事件の演出家」 岩畔豪雄「柳条溝から真珠湾まで」	拓殖大学海外事情研究所		1964	昭和	39	9	5	雑誌	海外事情 12巻9号。特集太平洋戦争への道。	
12	74	今井「盧溝橋事件の演出家」	拓殖大学海外事情研究所		1964	昭和	39	9	5	雑誌	海外事情 12巻9号。11-173の切抜。	
11	78	岩畔豪雄「柳条溝から真珠湾まで」	拓殖大学海外事情研究所		1964	昭和	39	9	5	雑誌	海外事情 12巻9号。切抜。本誌11-173にあり。	
18	72	高橋正衛「現代史資料を編集して」	読売新聞社		1964	昭和	39	9	6	新聞	今井について記述あり。高橋はみすず書房編集部勤務。新聞切抜。	
11	79	寺平忠輔書簡	寺平忠輔	今井武夫	1964	昭和	39	9	6	書簡	盧溝橋事件について。岩畔（豪雄）説と池田（純久）説について。	
★	★				1964	昭和	39	9	22	☆		郷友連本部を訪問 塩沢理事長、野元副理事長と会見
9	23	現代史資料 (九) 日中戦争 (二)	みすず書房		1964	昭和	39	9	30	書籍	臼井勝美 稲葉正夫解説。稲葉は元陸軍中佐。一. 作戦段階 1937年7月～1938年11月 二. 持久対峙段階 1938年11月～1941年12月	
22	565	寺平忠輔 「盧溝橋畔の銃声」	みすず書房		1964	昭和	39	9	30	冊子	現代史資料月報。9-23。『現代史資料 (九) 日中戦争 (二)』に挿入。付録。複写。寺平は陸士35期。北京特務機関補佐官。大尉。寺平の妹は今井が親しかつた海軍大佐桑原重遠大佐に嫁す。	
★	★				1964	昭和	39	9	30	☆		『支那事変の回想』（みすず書房）を発刊
22	192	みすず書房/新刊ご通知	みすず書房		1964	昭和	39	9		冊子	今井武夫著 『支那事変の回想』の紹介。	
2	33	鉄枷の声 —死刑囚から生還した中国戦犯の手記—	荒木和夫		1964	昭和	39	9		冊子		

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
21	101	茶麦利用開発の過去現在及将来と当社の関係	居初油化工業株式会社		1964	昭和	39	9		冊子	株主への説明書。	
18	35	有木可及書簡	有木可及	今井武夫	1964	昭和	39	10	2	書簡	有木可及は第141連隊で死亡した有木道博少尉の友人。『支那事変の回想』で、故人の有木少尉の最後を読み、落涙した。10-37関連。	
18	79	小阪武雄書簡	小阪武雄	今井武夫	1964	昭和	39	10	5	書簡	『支那事変の回想』受け取った。編集に廻す。	
★	★				1964	昭和	39	10	5	☆	「日中和平工作」190頁。	永井洵一に会い 戦前のステュアート工作に付き話を聞く。(外務省では「傳涇波工作」と称した田尻愛義と杉原荒太の画策によるもの)
22	206	川上護書簡	川上護	今井武夫	1964	昭和	39	10	6	書簡	『支那事変の回想』途中まで読んだ。盧溝橋事件の日、招魂社に祈念する場面には泣かされた。	
22	215	佐野増彦書簡	佐野増彦	今井武夫	1964	昭和	39	10	6	書簡	『支那事変の回想』読んでいる。影佐氏など懐旧の情しきりです。	
22	208	松沢美雄書簡	松沢美雄	今井武夫	1964	昭和	39	10	7	書簡	『支那事変の回想』恵贈のお礼。同著と同級生の松本重治の活動など出てきて、懐かしい。松沢は長野中学同級生。	
22	194	「愛楽帳 同文同種」	毎日新聞社		1964	昭和	39	10	8	新聞	毎日新聞。今井の『支那事変の回想』が言及されている。新聞切抜。杉本洋吉が著者と今井は書いている。	
22	193	『支那事変の回想』への書評	毎日新聞社		1964	昭和	39	10	12	新聞	毎日新聞。日中関係史の貴重な証言。新聞切抜。	
18	33	佐原憲次書簡	佐原憲次	今井武夫	1964	昭和	39	10	16	書簡	書評。今更ながら知って驚く事あり。	
22	195	『支那事変の回想』への書評	信濃毎日新聞社		1964	昭和	39	10	16	新聞	信濃毎日新聞。「現地責任者の生々しい記録」。新聞切抜。18-73に同じ。	
18	73	『支那事変の回想』への書評	信濃毎日新聞社		1964	昭和	39	10	16	新聞	信濃毎日新聞。「現地責任者の生々しい記録」。新聞切抜。22-195に同じ。	
22	217	那須義雄書簡	那須義雄	今井武夫	1964	昭和	39	10	17	書簡	貴著に同感。時局のことを述べ、貴君の対中観察を期待している。	
18	38	寺平忠輔書簡	寺平忠輔	今井武夫	1964	昭和	39	10	18	書簡	11-78岩畦豪雄主張の「盧溝橋事件は日本軍が中国軍を買収してやらせた謀略説」を批判(11月12日の書簡18-39に続く)。『支那事変の回想』に出てくる馮執鵬は馮寿彭ではないか。	
22	196	島田俊彦「和平運動の情熱を内蔵 未発表資料含んだ当事者の回想 『支那事変の回想』への書評」	日本出版協会		1964	昭和	39	10	19	新聞	日本読書新聞。新聞切抜。18-41に同じ。	
18	41	島田俊彦「和平運動の情熱を内蔵 未発表資料含んだ当事者の回想 『支那事変の回想』への書評」	日本出版協会		1964	昭和	39	10	19	新聞	日本読書新聞。複写。22-196に同じ。	
18	30	川上護書簡	川上護	今井武夫	1964	昭和	39	10	20	書簡	今井の著書読んでいる。読後感また送る。川上については13-60参照。	
18	37	今井良雄書簡	今井良雄	今井武夫	1964	昭和	39	10	20	書簡	良雄は武夫の甥。『支那事変の回想』今読んでいる。	
22	197	島田俊彦「風土と人への深い愛 正確なデータで和平工作を語る 『支那事変の回想』への書評」	東京新聞社		1964	昭和	39	10	21	新聞	東京新聞 夕刊。新聞切抜。18-29に同じ。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
18	29	島田俊彦「風土と人への深い愛 正確なデータで和平工作を語る『支那事変の回想』への書評」	東京新聞社		1964	昭和	39	10	21	新聞	東京新聞 夕刊。新聞切抜。22-197に同じ。	
22	198	臼井勝美「日中戦争 和平工作の記録 感傷まじえない根本資料『支那事変の回想』への書評」	図書新聞社		1964	昭和	39	10	24	新聞	図書新聞。新聞切抜。	
18	34	松岡勝三書簡	松岡勝三	今井武夫	1964	昭和	39	10	25	書簡	松岡は第141連隊時代の中隊長。書評。子供達に何よりの記念となる。12-66参照。	
22	216	新栄国城書簡	新栄国城	今井武夫	1964	昭和	39	10	27	書簡	『支那事変の回想』を繰り返し読んでいる。	
18	36	今井武夫書簡	今井武夫	有木可及の下書き	1964	昭和	39	10		書簡	18-35に挿入。青木一男後援会趣意書の裏に下書きあり。月は推定。	
11	77	寺平忠輔「再び不法十八発の実相について」	偕行社		1964	昭和	39	11	1	冊子	「偕行 11月 161号」。切抜。	
22	553	ビルマ戦線	歩兵第58連隊		1964	昭和	39	11	1	書籍	非売品。4-12「アラカンに届け」参照。第58連隊は 新潟高田編成で、当初 第13師団 隷下であったが、昭和18年から 第31師団（第15軍隷下、秘匿名「烈」、師団長 佐藤幸徳中将、昭和19年7月から 河田槌太郎中将）の隷下に入った。中隊長でもあった発行人の西田将から 今井宛に謹呈されたもの。	
22	199	橘善守「史実の空白を埋める敗者の側からの貴重な歴史の証言として『支那事変の回想』への書評」	週刊読書人		1964	昭和	39	11	2	新聞	週刊読書人。新聞切抜。18-75に同じ。	
18	75	橘善守「史実の空白を埋める敗者の側からの貴重な歴史の証言として『支那事変の回想』への書評」	週刊読書人		1964	昭和	39	11	2	新聞	週刊読書人。複写。22-199に同じ。	
22	200	風間古城「紹介『支那事変の回想』」	中央月島新聞社		1964	昭和	39	11	5	新聞	中央月島新聞。新聞切抜。複写。	
22	212	木村辰男書簡	木村辰男	今井武夫	1964	昭和	39	11	7	書簡	『支那事変の回想』は資料の正確さと著者の人格が出ている。	
22	211	園田次郎書簡	園田次郎	今井武夫	1964	昭和	39	11	8	書簡	園田は朝日新聞記者。『支那事変の回想』は貴重な歴史的な文献になる。	
22	219	中井豊太郎書簡	中井豊太郎	みすず書房	1964	昭和	39	11	10	書簡	『支那事変の回想』読者カード。裏面に活躍した著者の努力に敬服。	
18	78	川上護書簡	川上護	今井武夫	1964	昭和	39	11	11	書簡	川上は自分を川上和尚と書いてきている。子供を亡くしたときの話とか話の話など。プライベートな話。貴著を今読んでいる。	
18	39	寺平忠輔書簡	寺平忠輔	今井武夫	1964	昭和	39	11	12	書簡	18-38の続き。結局11-78の岩哇豪雄から返事なく、盧溝橋事件の「日本軍策謀説」は真実ではない。右友三の寝返り活動について回想。	
22	220	熊埜御堂健児書簡	熊埜御堂健児	今井武夫	1964	昭和	39	11	15	書簡	『支那事変の回想』面白くもあり為になる。熊埜御堂は長野中学時代の友人。弁護士。	
18	76	今井武夫宛封筒	熊野御堂健児	今井武夫	1964	昭和	39	11	15	封筒	中身の手紙無し。中身は22-220か。	
22	213	村上知行書簡	村上知行	今井武夫	1964	昭和	39	11	16	書簡	『支那事変の回想』に対する意見。今の日本人同志は決して同胞でない。恥と信を知ることから出発しなければならない。近日会いたい。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
22	214	常安弘通書簡	常安弘通	今井武夫	1964	昭和	39	11	20	書簡	『支那事変の回想』で劉少奇が北平図書館書記に務めていたことを発見し驚いた。歴史の真実を伝えるものとしてご健筆を絶対に信頼します。あれから27年。夢の如し。再会を切に念願。	
22	201	橋川文三 「無限の教訓を示す『支那事変の回想』への書評」	南日本新聞社		1964	昭和	39	11	21	新聞	南日本新聞。新聞切抜。	
22	204	「新刊紹介 『支那事変の回想』」	霞山会		1964	昭和	39	12	1	雑誌	東亜時論 6巻12号。複写。著者は古田時夫と今井がノートに記載している。	
22	221	前田正之書簡	前田正之	今井武夫	1964	昭和	39	12	5	書簡	終戦時南京にて中日貿易の会社を経営していた。当時のことが懐かしく読んだ。	
22	202	原敬吾「真実をかたる資料、史論『支那事変の回想』への書評」	読売新聞社		1964	昭和	39	12	6	新聞	読売新聞。新聞切抜。	
18	31	井上一郎書簡	井上一郎	みすず書房	1964	昭和	39	12	7	書簡	『支那事変の回想』への書評。感銘深く読んだ。井上は長野中学同期生。三菱商事に勤務。	
22	210	渡辺渡書簡	渡辺渡	今井武夫	1964	昭和	39	12	12	書簡	渡辺は陸士同期。少将。『支那事変の回想』についての意見。自分は当時北支にいて汪工作には反対していた。日本軍の占領地内での政府樹立は実際問題として見戯に類すると思っていた。	
11	83	松本清張「軍部の妖怪」	文藝春秋社		1964	昭和	39	12	14	雑誌	別冊 文藝春秋 9号。切抜。田中隆吉のことを変名にして書いている。	
21	235	柿沢進 (59才) 略歴	今井武夫		1964	昭和	39	12	15	履歴書	元 天津男子高級中学校副校長。	
22	203	「回顧」	日本出版協会		1964	昭和	39	12	21	新聞	日本読書新聞。『支那事変の回想』についても言及。新聞切抜。	
9	24	現代史資料 (十) 日中戦争 (三)	みすず書房		1964	昭和	39	12	25	書籍	張鼓峯事件、ノモンハン事件、日独伊三国協定問題、北部仏印進駐、南進論、泰仏印間国境紛争調停、南部仏印調停など。	
9	25	防共協定強化問題に関し 大島浩元駐独大使との質疑応答 (現代史資料月報)	みすず書房		1964	昭和	39	12	25	冊子	9-24に挿入。付録。月報の日付は12月5日となっているが 本体の9-24に合わせた。	
18	43	内村秀祐書簡	内村秀祐	今井武夫	1964	昭和	39	12	29	書簡	『支那事変の回想』興味深く読んだ。内村は夏第9853部隊員。宮崎県からの手紙。19-42参照。	
18	299	中国と私の迎春風景	今井武夫		1964	昭和	39	12		原稿	12-76の原稿か。年月は推定。	
22	222	聯盟参与今井武夫著『支那事変の回想』の紹介	郷友聯盟		1964	昭和	39	12		冊子	郷友12月号。「回想」を「回顧」と間違えている。	
22	191	『支那事変の回想』論評 昭和39年秋起	今井武夫		1964	昭和	39			論評	22箱-東5所収のファイル。1冊のノートに3つの書評ファイルあり。	
22	207	川上護書簡	川上護	今井武夫	1964	昭和	39			書簡	川上は自分のことを和尚と書いている。終戦のころの貴兄の心中を思い、『支那事変の回想』読み続けることが出来ず、一時読むことを放棄。	
18	32	第三者からの『支那事変の回想』読後感・コメント集	神保信彦ほか		1964	昭和	39			論評	読後感を寄せた25人の名前・住所とコメント記載。神保信彦には「和知、辻、林の批判要」と記載あり。	
1	55	何応欽將軍 中日関係言論選輯 于右任	中日文化経済協会		1964	昭和	39			書籍		
1	75	南院国師行状 解訓	山岸碩見		1964	昭和	39			冊子	南禅寺蔵の書類の解説。南院国師も山岸も長野県朝陽村出身。昭和39年秋とある。	
11	80	満州事変の一考察 ―その初期段階の分析―	中村菊男		1964	昭和	39			冊子	法学研究 37巻12号。板倉卓造先生追悼論文集。年は推定。	
13	101	橋善守	橋善守		1964	昭和	39			名刺	毎日新聞社東亜部長。論説。1964年に汪兆銘の「最後之心情」で今井に取材。年は推定。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
13	104	若菜正義	若菜正義		1964	昭和	39			名刺	毎日新聞社東亜部。年は推定。	
13	105	岩井良太郎	岩井良太郎		1964	昭和	39			名刺	毎日新聞社論説委員。年は推定。	
13	106	宮森喜久二	宮森喜久二		1964	昭和	39			名刺	毎日新聞社世論調査部副主査。年は推定。	
11	204	翻訳	今井孝子		1964	昭和	39			書類	発見された汪兆銘の遺言状ほかについて書かれた英文の日本語翻訳と思われる。翻訳今井孝子（次女）。年は推定。	
22	485	汪兆銘遺書スクープ新聞切抜の封書	今井武夫		1964	昭和	39			封筒	22箱-東11所収のファイル。「汪兆銘政権の誤算」と封書に自筆記入。	
13	195	住所録	今井武夫		1964	昭和	39			名簿	戦後30年代までのものか。年は推定。	
22	76	居初寛二郎	居初寛二郎		1964	昭和	39			名刺	居初は居初油化工業株式会社社長。会社については21-101参照。年は推定。	
11	219	今井「迎春風景いろいろ」	霞山会		1965	昭和	40	1	1	雑誌	東亜時論 7巻1号。	
12	76	今井「迎春風景いろいろ」	霞山会		1965	昭和	40	1	1	雑誌	東亜時論 7巻1号。11-219の切抜。原稿は18--299か。	
22	209	松沢美雄書簡	松沢美雄	今井武夫	1965	昭和	40	1	1	書簡	年賀状。『支那事変の回想』手許に於いて、再三読んでいる。吉家君のことなど。一度お目にかかりたい。松沢は長野中学同級生。高岡村長を務めた。	
18	28	牟田口廉也・登史書簡	牟田口廉也・登史	今井武夫	1965	昭和	40	1	1	書簡	年賀。中共に囚われ残念。池田純久の論を読んだ。	
23	9	小林浅三郎書簡	小林浅三郎	今井武夫	1965	昭和	40	1	1	書簡	小林浅三郎中将から 年賀状	
23	10	山本有三書簡	山本有三	今井武夫	1965	昭和	40	1	1	書簡	作家 山本有三から 今井宛の年賀状	
11	33	今井武夫手帳	今井武夫		1965	昭和	40	1	1	手帳	1965年12月31日迄。	
18	303	永井洵一から聞いた話	今井武夫		1965	昭和	40	1	2	メモ	昭和12年天津の水害を未然に防いだ話。18-302に挿入。3枚。	
21	32	霞山會報 2号	霞山会		1965	昭和	40	1	10	冊子	霞山会報は霞山会の機関紙。年2回発行。 1964年8月20日創刊。	
18	42	内村秀祐書簡	内村秀祐	今井武夫	1965	昭和	40	1	17	書簡	東京にも家を構えたので時々宮崎から上京する。内村は夏第9853部隊員。18-42参照。	
☆	☆				1965	昭和	40	1	19	☆		太田一郎大使と会談 太田大使談 繆斌に関する緒方武虎の著書は誤判 重光の説が正しい
22	224	小林浅三郎書簡	小林浅三郎	今井武夫	1965	昭和	40	1	20	書簡	『支那事変の回想』を想出深く読んだ。事変当時よりの努力、就中、終戦時の心労に対し心から感謝いたします。	
11	96	宮本利直「林彪は土匪の頭目だった」	全貌社		1965	昭和	40	1		雑誌	全貌。切抜。宮本は4-44宮元利直と同じ人物か。	
22	264	馬晋三書簡	馬晋三	今井武夫	1965	昭和	40	2	5	書簡	馬の字は崇六。『支那事変の回想』268頁記載の鈕先銘の妻の再婚相手は自分ではない。事実と違うとの抗議・訂正依頼。なお、この後今井は、正しくは馬ではなくて頼光大が正しいことを知る。	
☆	☆				1965	昭和	40	2	6	☆		第二回北平会に出席 顧問に就任
22	218	遠藤三郎書簡	遠藤三郎	今井武夫	1965	昭和	40	2	23	書簡	『支那事変の回想』は記録の正確さと貴兄の人柄が出て尊敬の念禁じえない。遠藤は陸軍中将。	
12	89	今井「北平会入会のご挨拶」 「第二回北平会開催 今井を顧問に」	三島敏太郎		1965	昭和	40	2	28	冊子	北平会々報 3号。日付は 2月30日となっているが28日の間違いか。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
☆	☆				1965	昭和	40	2		☆		青木一男 『祖国の安泰と民族繁栄のための基本問題』（青木一男後援会） 今井は著書発行人
22	1	岡村寧次書簡	岡村寧次	今井武夫	1965	昭和	40	2		書簡	防衛庁戦史室に提出する戦史史料原稿への修正依頼。今井のほか小林浅三郎、西浦進、宮崎舜市、小笠原清にも同文にて岡村大将は依頼している。	
22	265	馬晋三宛返書の草稿	今井武夫		1965	昭和	40	2		書簡	22-264関連。今井の馬に送ったと思われる事実誤認の詫び状の草稿。22-264に同封。1965年2月3日付の「アジア研究」の裏に記載。	
22	506	菊地容斉、勝海舟、諏訪忠誠などについて	今井武夫		1965	昭和	40	2		メモ	昭和40年2月今井が発行した青木和男「祖国の安泰と民族繁栄のための基本問題」発行案内と代金受領書の裏に記載。3枚。月は推定。	
22	205	佐原賢治「『支那事変の回想』を読む」	華交互助会		1965	昭和	40	3	20	新聞	華交互助会報。新聞切抜。	
9	10	小倉正恒	小倉正恒伝記編集会		1965	昭和	40	3	20	書籍	今井「国民政府の小倉経済最高顧問」。	
1	36	人的運氣	雙桐館主		1965	昭和	40	3	25	冊子	中国科学命理叢書之一。21-176参照。中文。人間の運勢について。	
21	90	「河辺正三師を悼む 仏陀に帰依した晩年」	中央月島新聞社		1965	昭和	40	3	25	新聞	中央月島新聞。 この記事は、風間阜（古城）が書いたものか。新聞切抜。	
22	225	道免一馬書簡	道免一馬	今井武夫	1965	昭和	40	3	31	書簡	今井閣下の本を読んでいる。終戦間近での上海の宋氏のことが思い出される。道免は支那派遣軍総司令部時代の副官。	
3	16	昭和戦争文学全集 別巻 戦争と読書 月報 8	集英社		1965	昭和	40	3		冊子	3-14に挿入。	
12	80	共同研究 日本の百年 今井・衛藤藩吉・児島襄 「泥沼におちた日中戦争」	人物往来社		1965	昭和	40	4	1	雑誌	人物往来 4月号 14巻4号。7-30の切抜。	
12	82	共同研究 日本の百年 今井・衛藤藩吉・児島襄 「泥沼におちた日中戦争」	人物往来社		1965	昭和	40	4	1	雑誌	人物往来 4月号 14巻4号。7-30の切抜。12-80に同じ。	
7	30	共同研究 日本の百年 今井・衛藤藩吉・児島襄 「泥沼におちた日中戦争」	人物往来社		1965	昭和	40	4	1	雑誌	人物往来 4月号 14巻4号。	
7	31	共同研究 日本の百年 今井・衛藤藩吉・児島襄 「泥沼におちた日中戦争」	人物往来社		1965	昭和	40	4	1	雑誌	人物往来 4月号 14巻4号。複写。今井の校正あり。7-30に挿入。	
11	125	「故河辺正三大将の晩年について」 「秩父宮雍仁親王」	偕行社		1965	昭和	40	4	1	冊子	「偕行 4月 166号」。切抜。	
22	58	今井武夫宛本の借用書	熊谷一乗	今井武夫	1965	昭和	40	4	7	書類	名刺に記載。熊谷は毎日新聞社芸部。影佐禎昭著「曾走路我記」1部借用書。	
2	27	陸軍中将永田鉄山小伝	永田鉄山中将胸像復旧期成同盟会		1965	昭和	40	4	11	冊子	同一2部あり。	
4	26	伊東重と養生会（新民族主義の基礎原理）	養生会		1965	昭和	40	4	16	冊子		
19	32	郵便長との会同			1965	昭和	40	4	16	写真	今井を中心に記念写真。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備 考	今 井 武 夫 年 譜
2	59	南京作戦の真相 熊本第六師団 戦記	下野一霍		1965	昭和	40	4	24	書籍	5版。下野は元陸軍中将。熊本第6師団参謀長。1967年9月17日大阪ロイヤルホテルで下野から今井に贈呈される。東京情報社。	
12	81	「昭和経済史への証言 (51) 現地解決つづいた日本政府 盧溝橋事件」	毎日新聞社		1965	昭和	40	4	27	雑誌	語る人 今井。聞き手 安藤良雄。エコノミスト。切抜。	
22	3	戦場体験記録 第一篇 降伏 から帰還まで 「其一」	岡村寧次		1965	昭和	40	4		冊子		
22	4	戦場体験記録 第一篇 降伏 から帰還まで 「其二」	岡村寧次		1965	昭和	40	4		冊子		
22	5	戦場体験記録 第一篇 降伏 から帰還まで 「其三」	岡村寧次		1965	昭和	40	4		冊子		
22	6	戦場体験記録 第一篇 降伏 から帰還まで 「其四」	岡村寧次		1965	昭和	40	4		冊子		
3	4	軍事史学 創刊号	軍事史学会		1965	昭和	40	5	1	雑誌		
13	134	今井武夫日記	今井武夫		1965	昭和	40	5	1	日記	6月2日迄。13-135と同一のノートに記載。	
1	12	松代皇居への道 おお兄弟よ!!	馬場英一		1965	昭和	40	6	1	書籍	馬場は長野中学先輩。元満州帝国国立法制大学兼軍官学校教授。華書房。	
7	32	今井「かくて汪兆銘出現す (梅機関)」	人物往来社		1965	昭和	40	6	1	雑誌	人物往来 6月号 14巻6号。	
9	11	「えつらん室 小倉正恒 吉 野俊彦の書評」	朝日新聞社		1965	昭和	40	6	8	新聞	朝日新聞。新聞切抜。9-10に挿入。	
12	36	「毛体制 だれが継ぐ」	朝日新聞社		1965	昭和	40	6	9	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
★	★				1965	昭和	40	6	17	☆		リサーチ会準備会に出席 (於ホテルオークラ)
22	27	リサーチ会準備会			1965	昭和	40	6	17	写真	於ホテル大倉。全16名。	
12	144	二つの「平和共存」とその経 済的背景	鹿島宗二郎		1965	昭和	40	6	25	冊子	国士舘大学政経論叢第3号所収。抜刷。吉田東祐の本名は鹿島宗二郎といった。	
12	83	「ある中国人の考え方 I」	大陸問題研究所		1965	昭和	40	6		雑誌	大陸問題 6月号。筆者 I とは今井のこと。切抜。	
11	84	日高正巳「走狗」	私小説社		1965	昭和	40	7	1	雑誌	大衆文芸 25巻7号。切抜。	
12	90	今井 「同文同種」			1965	昭和	40	7	15	新聞	在京 更埴新報。新聞切抜。	
21	231	秘められた昭和史	林正義編		1965	昭和	40	7	15	書籍	園田次郎「盧溝橋事件の謎」に今井について記載あり。鹿島研究所出版会発行。園田は元朝日新聞中国特派員。	
11	156	研究中国哲学之道	汪季高		1965	昭和	40	7		書籍	五行研究社。	
18	312	終戦の頃の南京から	今井武夫		1965	昭和	40	7		原稿	「アジア研究」1965年2月5日号の裏紙に記載。12-29の原稿か。年月は推定。	
18	313	終戦の頃のこと	今井武夫		1965	昭和	40	7		原稿	「アジア研究」1965年2月15日号の裏紙に記載。12-29の原稿か。年月は推定。	
12	85	今井「日本へ来た中国人 汪精 衛のこと」	文藝春秋新社		1965	昭和	40	8	1	雑誌	文藝春秋 13巻8号。切抜。	
3	5	島田俊彦「張作霖爆殺事件」	軍事史学会		1965	昭和	40	8	1	雑誌	軍事史学 2号。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
12	86	今井「日華和平交渉について」 福富繁「大東亜戦争開戦時の 海軍作戦構想と重大誤算」	拓殖大学海外事 情研究所		1965	昭和	40	8	5	雑誌	海外事情 13巻8号。11-210の切抜。	
11	210	今井「日華和平交渉について」 福富繁「大東亜戦争開戦時の 海軍作戦構想と重大誤算」	拓殖大学海外事 情研究所		1965	昭和	40	8	5	雑誌	海外事情 13巻8号。同一2部あり。12-86に切抜あり。	
22	223	矢口音吉書簡	矢口音吉	今井武夫	1965	昭和	40	8	5	書簡	矢口は、池浦すみ（旧姓今井。姉の縁者）の義理の伯父。盧溝橋事 件当時通信省の情報関係をしていた。『支那事変の回想』を読んで、 わが国が突入した泥沼の苦悩が分かった。	
12	91	現代史研究 特輯 3号 八月十 五日の私	現代史研究会		1965	昭和	40	8	15	冊子	今井も筆者36人の一人。	
12	139	現代史研究 特輯 3号 八月十 五日の私	現代史研究会		1965	昭和	40	8	15	冊子	今井も筆者36人の一人。12-91に同じ。	
21	15	二・二六事件 昭和維新の思 想と行動	高橋正衛		1965	昭和	40	8	20	書籍	中央公論社。高橋はみすず書房編集長。	
12	29	今井生「随想 終戦の頃の南京 から」	大陸問題研究所		1965	昭和	40	8		雑誌	大陸問題 8月号。今井生とは今井武夫のこと。切抜。	
12	84	今井生「随想 終戦の頃の南京 から」	大陸問題研究所		1965	昭和	40	8		雑誌	大陸問題 8月号。切抜。12-29と同じ。	
22	228	森山誠之書簡	森山誠之	今井武夫	1965	昭和	40	8		書簡	『支那事変の回想』を感激して読んだ。殷汝耕救出の荒木某は荒木 五郎氏である。森山は長野中学の後輩で長野市南堀出身。Kirin Trading Company Ltd. の罫紙に記載。	
21	42	陸士三十期生会 規約・会員 名簿 13号	陸士三十期生会		1965	昭和	40	8		冊子		
7	33	園田次郎「動乱の大陸に挑む —南京事件から盧溝橋事件ま で—」	人物往来社		1965	昭和	40	9	1	雑誌	人物往来 9月号 14巻9号。今井に関する記述あり。	
3	160	日本戦争外史 従軍記者	新聞時代社		1965	昭和	40	9	10	書籍	付録として明治・大正・昭和の軍事年表あり。新聞時代社。	
★	★				1965	昭和	40	9	19	☆		全国七五会（歩兵第75連隊関係者 の集い） 慰霊祭に出席
15	23	慰霊祭記念写真	全国七五会		1965	昭和	40	9	19	冊子	正誤表挿入あり。歩兵第75連隊出身者の集まり。	
3	86	歩兵第七十五連隊 連隊歴史の 概要(資料)	全国七五会		1965	昭和	40	9	19	冊子	今井は歩兵第75連隊に所属していた。	
12	93	今井「支那派遣軍大陸勇戦譜」	潮書房		1965	昭和	40	10	1	雑誌	丸 10月号。 3-20はこの再掲載。切抜。	
15	24	全国七五会慰霊祭終了報告	高良弼		1965	昭和	40	10	15	書類	14-21に挿入。高は全国七五会委員長。第75連隊は大正9年10月朝 鮮会寧の地に創設された。	
4	37	中国 これからの三十年	ロベール・ギラ ン		1965	昭和	40	10	25	書籍	井上勇訳。2刷。文藝春秋社。	
11	85	畠山清行「秘密戦士 陸軍 中野学校 盧溝橋・銃声2時間前 の暗号」	サンケイ新聞社		1965	昭和	40	10	25	雑誌	週刊サンケイ 10月25日号。切抜。	
4	81	関東軍	島田俊彦		1965	昭和	40	10	25	書籍	中央公論社。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
12	140	教育勅語現代謹解の要旨	高島辰彦		1965	昭和	40	10	30	冊子	報徳家庭の友 10月10日号附録。	
12	147	戦争文学論（三）	森安理文		1965	昭和	40	10		冊子	相模女子大学紀要22号別刷。	
5	18	今井 「野口進君を憶う」	陸士三十期生会		1965	昭和	40	10		冊子	昭和38年以降 追悼録（第三回補足）。5-16の続き。昭和四十年十月記とある。	
21	104	1964年の主要経済指標（中共）	前田寿夫		1965	昭和	40	10		書類	前田は防衛研究所第一研究室長。2枚。	
18	288	中国に対する終戦工作	今井武夫		1965	昭和	40	10		原稿	3-15、18-414の原稿。6枚。年月は推定。	
4	12	アラカンにとどけ 戦誌 「ビルマ戦線」 読後感集	五八会編		1965	昭和	40	11	1	冊子	全140編。五八会とは歩兵第五八連隊戦友会。22-553 歩兵第58連隊『ビルマ戦線』参照。	
3	6	中村菊男 「満州事変(上)」	軍事史学会		1965	昭和	40	11	1	雑誌	軍事史学 3号。	
13	9	信濃育英会役員名簿			1965	昭和	40	11	1	冊子	今井は理事。	
11	127	「敬仰 宮崎繁三郎将軍」	偕行社		1965	昭和	40	11	1	冊子	「偕行 11月 173号」。切抜。	
12	32	高杉正秋「国共合作と台湾の独立」	霞山会		1965	昭和	40	11	1	雑誌	東亜時論 11月号。切抜。	
12	27	佐藤慎一郎「中国人の生活からみた中ソ論争（上）」	全国師友協会		1965	昭和	40	11	10	雑誌	師と友 11月号。切抜。日付は推定。	
12	148	今井武夫宛封筒	森安理文	今井武夫	1965	昭和	40	11	15	封筒	受信済みの封筒のみ。中身なし。12-147に挿入。	
4	63	黄土の狼	伊藤桂一		1965	昭和	40	11	25	書籍	講談社。	
4	13	ホセ・リサール博士の生涯	桐生巧		1965	昭和	40	11	30	冊子		
4	92	昭和経済史への証言 上	安藤良雄		1965	昭和	40	11	30	書籍	毎日新聞社。	
12	88	今井「中国に対する終戦工作」	集英社		1965	昭和	40	11		冊子	昭和戦争文学全集 別巻 知られざる記録 月報16。3-15、18-414に同じ。	
3	15	今井「中国に対する終戦工作」	集英社		1965	昭和	40	11		冊子	昭和戦争文学全集 別巻 知られざる記録 月報16。3-14に挿入。同一6部あり。18-288に原稿あり。	
18	414	今井「中国に対する終戦工作」	集英社		1965	昭和	40	11		冊子	昭和戦争文学全集 別巻 知られざる記録 月報16。3-15、12-88、に同じ。原稿は18-288。	
12	30	甲谷悦雄 「欧米専門家の毛沢東思想評価（上）」			1965	昭和	40	12	1	雑誌	主張と解放。切抜。	
12	92	今井「十二月八日の私」	現代史研究会		1965	昭和	40	12	8	冊子	現代史研究 特輯 5号。十二月八日の私。荒木貞夫、伊藤桂一ほか。今井も筆者36人の一人。	
12	28	佐藤慎一郎「中国人の生活からみた中ソ論争（下）」	全国師友協会		1965	昭和	40	12	10	雑誌	「師と友」。切抜。月は推定。	
12	31	甲谷悦雄「欧米専門家の毛沢東思想評価（下）」			1965	昭和	40	12	15	雑誌	主張と解放。切抜。	
22	45	土居善二郎と 今井武夫			1965	昭和	40	12	24	写真	土居氏宅の近くで。	
9	79	今日出海「終らぬ話 海賊 一後記一」	毎日新聞社		1965	昭和	40	12	28	新聞	毎日新聞 夕刊。新聞切抜。9-78に挿入。今井の日中和平工作について。	
12	87	「昭和秘史 第7回柳条溝事件をめぐって関東軍の内情をさぐる 語る人今井 聞く人 中村菊男」	時事問題研究所		1965	昭和	40	12		雑誌	時の課題 12月号。後に4-27に記載される。切抜。	
21	176	五行研究社章程（摘要）			1965	昭和	40	12		書類	2枚。社長は汪季高（雙桐館主）。1-36参照。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
12	33	「戦後20年：日中関係年表(4)」			1965	昭和	40			雑誌	掲載紙不明。切抜。	
12	34	「戦後20年：日中関係年表(5)」			1965	昭和	40			雑誌	掲載紙不明。切抜。	
12	37	原稿綴	今井武夫		1965	昭和	40			原稿	12箱-束2所収のファイル。12-2～12-36まで。	
1	82	柳条溝事件の頃	今井武夫		1965	昭和	40			原稿	当時は柳条湖のことを柳条溝と読んでいた。年は推定。	
18	300	柳条溝事件の頃	今井武夫		1965	昭和	40			原稿	メモあり。年は推定。	
22	2	昭和21年1月1日 4月24日の行動	今井武夫		1965	昭和	40			メモ	2-1に挿入。3枚。岡村大将の第2稿に対する修正意見か。	
22	90	藤木伸三	藤木伸三		1965	昭和	40			名刺	藤木は人物往来編集部長。今井著の『近代の戦争 5 中国との戦い』出版の関係か。	
22	227	揚揆一の遺影	黄天龍		1965	昭和	40			写真	黄天龍の寄贈。黄の岳父は揚揆一か。22-191に貼付。揚は1947年6月24日に雨花台の露と消えたと記載あり。	
13	85	韓国人リスト			1965	昭和	40			書類	複写。朴正熙大統領ほか約30名のリスト。	
19	140	及川貞作「中共の原子核開発一核実験への論理一」	民主主義研究会		1965	昭和	40			冊子	民主主義研究会及川の報告書。対象期間1949年10月から1964年10月16日まで。年は推定。	
18	302	天津の水害	今井武夫		1965	昭和	40			原稿	昭和12年永井洵一天津領事が水害を防いだ話。	
11	157	汪季高	汪季高		1965	昭和	40			名刺	11-156に挿入。年は推定。	
21	66	自衛隊 市ヶ谷記念館案内	自衛隊		1965	昭和	40			冊子	昭和40年以降のもの。複写。年度は全くの推定。	
1	39	中国大陸観光漫感	鹿島宗二郎		1965	昭和	40			冊子	中国文。	
18	278	盧溝橋事件突発時の陸軍部内	今井武夫		1965	昭和	40			原稿	「アジア研究」1964年12月7日号の裏紙に記載。1枚。2pとあり。年度は全くの推定。全くの下書き。	
18	279	盧溝橋事件前の中国情勢	今井武夫		1965	昭和	40			原稿	「アジア研究」1964年12月11日号の裏紙に記載。1枚。10pとあり。年度は全くの推定。	
18	285	日中和平交渉	今井武夫		1965	昭和	40			原稿	p. 24からp. 28まで。6枚。「アジア研究」1964年12月16日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	
18	286	日中和平交渉	今井武夫		1965	昭和	40			原稿	p. 25に入るもの。「アジア研究」1964年12月4日号の裏紙に記載。2枚。年度は全くの推定。	
18	330	終戦後の南京について	今井武夫		1965	昭和	40			原稿	「アジア研究」1964年11月30日号の裏紙に記載。2枚。年度は全くの推定。	
18	334	孫文、張自忠のことなど	今井武夫		1965	昭和	40			原稿	5-1、5-2、5-3、12p。「アジア研究」1964年12月4日号の裏紙に記載。4枚。年度は全くの推定。	
12	94	今井「街を清潔に」	霞山会		1965	昭和	40	1	1	冊子	霞山会報 4号。切抜。	
23	11	津久井龍雄書簡	津久井龍雄	今井武夫	1966	昭和	41	1	1	書簡	評論家の津久井龍雄から今井宛の年賀状	
21	102	山下良平書簡	山下良平	宛先不明	1966	昭和	40	1	1	書簡	「引揚帰国者の開業御挨拶」。山下は盧溝橋事件当時北京にいた小児科医師、針灸科医師。	
21	103	日米座談会 猪木正道、ジョージ・E・テラーほか「アメリカと中国 もっと知り合え」	読売新聞社		1966	昭和	40	1	1	新聞	読売新聞。新聞切抜。2頁。	
13	181	今井武夫手帳	今井武夫		1966	昭和	41	1	1	手帳	1966年12月31日迄。	
21	333	村田省蔵書簡	村田省蔵	今井武夫	1966	昭和	41	1	1	書簡	年賀状。村田はフィリピン協会会長。	
7	20	「偕行 1月」	偕行社		1966	昭和	41	1	1	冊子		

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
11	65	李聖五談	今井武夫		1966	昭和	41	1	4	メモ	曾参加和平運動現留京者、現留香港者ほか。於帝国ホテル。李は国民政府外交部総務司長、外交部総務等を歴任。1899年生まれ。	
4	83	現代中国の歴史 1	岩村三千夫		1966	昭和	41	1	10	書籍	徳間書店。	
4	93	昭和経済史への証言 中	安藤良雄編集		1966	昭和	41	1	20	書籍	今井「盧溝橋事件」。毎日新聞社。	
22	230	『近代の戦争 5 中国との戦い』 宣伝冊子	人物往来社		1966	昭和	41	1		冊子	全8巻の中、5巻が今井の著の「中国との戦い」。22-230に挿入。	
3	63	一生之回憶	曹汝霖		1966	昭和	41	1		書籍	同一2部あり。曹は親日中国人。春秋雑誌社。	
15	69	昭和41年賀状 発送先	今井武夫		1966	昭和	41	1		名簿	島田俊彦の名前あり。	
3	7	中村菊男「満州事変(下)」	軍事史学会		1966	昭和	41	2	1	雑誌	軍事史学 4号。今井に関する記載あり。12-87「時の課題」1965年12月号より抄録。	
11	87	高木俊郎「汚名 一棚橋連隊長の死 (上)」	朝日新聞社		1966	昭和	41	2	4	雑誌	週刊朝日。切抜。	
11	88	高木俊郎「汚名 一棚橋連隊長の死 (下)」	朝日新聞社		1966	昭和	41	2	11	雑誌	週刊朝日。11-87の次号と思われる。発効日推定。切抜。	
9	21	機密日露戦史 明治百年史叢書	谷壽夫		1966	昭和	41	2	25	書籍	付図・付表あり。原書房。	
5	29	陸士三十期生恩師名簿 (訓育関係) ほか	陸士三十期生会		1966	昭和	41	2	28	冊子	名簿。遺族の住所あり。	
2	14	中日民族文化交流史	宋越倫		1966	昭和	41	2		書籍	4版。正中書局印行。中国文。庚戌6月寄贈とあるから1970年に今井がもらったもの。	
9	22	明治百年史叢書月報 1966. 2 No. 3	原書房		1966	昭和	41	2		冊子	9-21の付録。	
12	96	今井「三百万歩兵かく戦えり」 小山内宏「現代の陸軍師団はかく変わった」	潮書房		1966	昭和	41	3	1	雑誌	丸 19巻3号。切抜。	
12	166	第3回虎ノ門懇話会 日中関係の基本条約(3) 「中共の原則性について」	桑原寿二		1966	昭和	41	3	1	書類		
7	21	徳不孤必有隣 (太平洋戦争結末時受中菲两国元首拯救的日本軍官的故事)	神保信彦		1966	昭和	41	3	1	冊子		
★	★	近代の戦争 5 中国との戦い	人物往来社		1966	昭和	41	3	10	☆		『近代の戦争 5 中国との戦い』 (人物往来社) を 発刊
★	★	近代の戦争 月報 3	人物往来社		1966	昭和	41	3	10	☆	『近代の戦争 5 中国との戦い』 (人物往来社) に 附属「座談 盧溝橋事件の真相」 東大助教授 江藤瀧吉 評論家 今井武夫 評論家 児島襄 「執筆を終えて」 今井武夫	「近代の戦争 月報 3」
4	85	現代中国の歴史 2	岩村三千夫		1966	昭和	41	3	20	書籍	172, 173頁に今井に関する記載あり。徳間書店。	
12	167	第3回虎ノ門懇話会 日中関係の基本条約(4) 「中共の原則性について」	甲谷悦雄		1966	昭和	41	3	23	書類		
22	236	「戦史物ブームを切る」	日本共産党中央委員会		1966	昭和	41	3	27	新聞	赤旗。「中国との戦い」につき言及。新聞切抜。貼付。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
22	231	村上知行書簡	村上知行	今井武夫	1966	昭和	41	3	27	書簡	『近代の戦争 5 中国との戦い』を読んで教えられた。	
22	232	一読者書簡	一読者	今井武夫	1966	昭和	41	3	28	書簡	一読者とする。『近代の戦争 5 中国との戦い』でノモンハン事件のところで、師団名、司令官の名前に数箇所間違いあり。第71連隊の行動に明瞭さを書いていると指摘あり。	
12	170	虎ノ門懇話会資料	田尻愛義		1966	昭和	41	3		書類		
19	239	高島辰彦「東洋兵学概説」			1966	昭和	41	3		雑誌	掲載紙不明。切抜。	
7	34	趙毓松「私はなぜ日本に亡命したか」	人物往来社		1966	昭和	41	4	1	雑誌	人物往来 4月号 15巻4号。今井提供の写真が使用されている。趙毓松（チョウイクショウ）は元南京政府・行政院農鉱部長。	
11	89	内山英太郎「史書は公正を旨とし編集に責任を負うべし」	偕行社		1966	昭和	41	4	1	冊子	「偕行 4月 178号」。切抜。	
22	237	「中国との戦い」に対する書評	日本海新聞社		1966	昭和	41	4	4	新聞	日本海新聞。新聞記事添付なし。	
22	233	稲森利助書簡	稲森利助	今井武夫	1966	昭和	41	4	4	書簡	稲森は陸士同期。今井著『近代の戦争 5 中国との戦い』は闇夜に燈火を得たおもしろいである。瀬戸山氏にも本日薦めておいた。	
22	238	「中国との戦い」に対する書評	愛媛新聞社		1966	昭和	41	4	5	新聞	愛媛新聞。新聞記事添付なし。	
22	235	「日本軍の立場から 当事者が書いた戦史 『近代の戦争 5 中国との戦い』に対する書評」	信濃毎日新聞社		1966	昭和	41	4	9	新聞	信濃毎日新聞。新聞切抜。貼付。	
22	234	『近代の戦争 5 中国との戦い』 月報 4	人物往来社		1966	昭和	41	4	10	冊子	『近代の戦争 5 中国との戦い』 に対する「読者の声」欄の切抜。14名分。切抜して貼付。	
22	239	『近代の戦争 5 中国との戦い』に対する書評	華北新聞社		1966	昭和	41	4	11	新聞	華北新聞。新聞記事添付なし。	
12	168	第3回虎ノ門懇話会 日中関係の基本条約(5) 「中共の原則性について」	陸井三郎		1966	昭和	41	4	13	書類		
7	46	軍事史学 第5号	甲陽書房		1966	昭和	41	5	1	雑誌		
1	7	日本の栄光	瀬戸山三男		1966	昭和	41	5	1	書籍	朝日書院。瀬戸山は元建設大臣。	
12	105	今井「皇道派と統制派 一歴史の曲り角 -」	現代史研究会		1966	昭和	41	5	10	冊子	現代史研究 8号。	
2	8	首相官邸 大陸進攻篇	立野信之		1966	昭和	41	5	25	書籍	187～194, 232～234, 239頁に今井関連記事あり。講談社。	
4	38	首相官邸 日米開戦篇	立野信之		1966	昭和	41	5	25	書籍	55頁に今井関連記事あり。講談社。	
22	240	「新刊紹介 中国との戦い」	中央月島新聞社		1966	昭和	41	5	25	新聞	中央月島新聞。新聞切抜。複写。	
11	158	「張自忠の最期」と題した新聞コピーのファイル	今井武夫		1966	昭和	41	6	2	書類	11箱-東7所収の書類。	
11	159	「悲劇の名将 張自忠 1」			1966	昭和	41	6	2	新聞	掲載紙不明。複写。	
11	160	「悲劇の名将 張自忠 2」			1966	昭和	41	6	3	新聞	掲載紙不明。複写。	
☆	☆				1966	昭和	41	6	4	☆		陸士同期の稲森利助の斡旋で九州で講演した折 霧島神社を訪問

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
22	49	陸士同期の稲森利助と田中義男と今井の3人	稲森利助		1966	昭和	41	6	4	写真		
11	161	「悲劇の名将 張自忠 3」			1966	昭和	41	6	4	新聞	掲載紙不明。複写。	
11	162	「悲劇の名将 張自忠 4」			1966	昭和	41	6	6	新聞	掲載紙不明。複写。	
11	163	「悲劇の名将 張自忠 5」			1966	昭和	41	6	7	新聞	掲載紙不明。複写。	
10	468	「松村氏 中国 政策転換迫る」	宮崎日日新聞社		1966	昭和	41	6	7	新聞	宮崎日日新聞。新聞切抜。	
11	164	「悲劇の名将 張自忠 6」			1966	昭和	41	6	8	新聞	掲載紙不明。複写。	
9	78	海賊	今日出海		1966	昭和	41	6	15	書籍	毎日新聞 夕刊連載小説。49～53、305、315、321、324～325、332頁ほかに今井の名がこの小説に出てくる。毎日新聞社。日中和平工作について。	
9	80	「書評 今日出海著 海賊」	朝日新聞社		1966	昭和	41	6	19	新聞	朝日新聞。新聞切抜。9-78に挿入。	
★	★				1966	昭和	41	6	21	☆		TV 番組「日本回顧録」に出演
22	50	常安弘道書簡	常安弘道	今井武夫	1966	昭和	41	6	22	書簡	6月21日の「日本回顧録」懐かしく見た。張家口で懇意にしてもらった金井さんも懐かしかった。	
★	★				1966	昭和	41	6	27	☆	於中国飯店。	李聖五（元汪政権司法行政部長）と陳君璧の歓迎会に出席 安岡正篤 松方三郎 影佐幸子 清水董三 岩井英一ほか
19	3	李聖五 陳君璧 歓迎会 於中国飯店			1966	昭和	41	6	27	写真	安岡正篤、松方三郎、影佐幸子、清水董三、岩井英一ほか。李は国民政府外交部総務司長、外交部総務等を歴任。1899年生まれ。南京政府では教育部長兼外交部長。	
21	337	三帰依文			1966	昭和	41	6		書類		
11	148	「歴史はここに始る (26) 盧溝橋」	毎日新聞社		1966	昭和	41	7	3	新聞	毎日新聞。今井について記載あり。新聞切抜。	
11	213	寺平忠輔「盧溝橋事件と河辺将軍」	軍事研究社		1966	昭和	41	7	5	雑誌	軍事研究 臨時増刊 河辺正三。編集小川徳重。今井について記載あり。	
9	28	現代史資料 (十三) 日中戦争 (五)	白井勝美編		1966	昭和	41	7	30	書籍	409～433頁、情報会議書類（昭和15年7月・12月・同16年四月・7月今井武夫大佐）。影佐禎昭「曾走路我記」を含む。みすず書房。	
9	29	現代史資料月報 7月	みすず書房		1966	昭和	41	7		冊子	9-28に挿入。角田順「北海事件と盧溝橋事件 一海軍反応一」「座談会 「満州事変、日中戦争」 の刊行を終えて 出席者 角田順 稲葉正夫 小林龍夫」	
1	25	劉汝明回憶録 原名「一個行伍軍人的回憶」	劉汝明		1966	昭和	41	8	1	書籍	劉は盧溝橋事件当時第143師長で張家口附近にいた。伝記文学出版社。	
19	42	今井武夫			1966	昭和	41	8	17	写真	於銀座事務所。	
4	94	昭和経済史への証言 下	安藤良雄		1966	昭和	41	8	30	書籍	毎日新聞社。	
11	91	岩畔豪雄「平和への戦い、'41年1月～8月」	文藝春秋社		1966	昭和	41	8		雑誌	文藝春秋。切抜。	
11	120	児島襄「太平洋戦争”最強部隊”の勇者たち」	光文社		1966	昭和	41	9	1	雑誌	宝石。切抜。	
11	93	高木俊郎「戦死 ④」	朝日新聞社		1966	昭和	41	9	2	雑誌	週刊朝日。切抜。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
★	★				1966	昭和	41	9	9	☆		東京12チャンネル「私の昭和史 No. 124 支那派遣軍の降伏（芷江会談）」に出演 木村辰男と再会
11	123	私の昭和史 No. 124 支那派遣軍の降伏（芷江会談）	東京12チャンネル報道部		1966	昭和	41	9	9	書類	9月9日放映のシナリオと思われる。4-73関連。	
11	94	高木俊郎「戦死 ⑤」	朝日新聞社		1966	昭和	41	9	9	雑誌	週刊朝日。切抜。11-93と同じ綴り。	
3	71	陸軍中野学校	畠山清行		1966	昭和	41	9	10	書籍	33頁に今井関連記事あり。サンケイ新聞出版局。	
11	90	「2号頭目から転落した劉少奇」	中華週報社		1966	昭和	41	9	12	雑誌	中華週報。切抜。	
11	95	高木俊郎「戦死 ⑥」	朝日新聞社		1966	昭和	41	9	16	雑誌	週刊朝日。切抜。11-93と同じ綴り。	
3	57	「今日の問題 ビルマの国賓」			1966	昭和	41	9	19	新聞	掲載紙不明記事。新聞切抜。3-56に挿入。	
3	58	「ネウイン氏来日」			1966	昭和	41	9	20	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。3-56に挿入。	
11	92	邵毓麟 「弔念降将岡村審次」	東南印務出版社		1966	昭和	41	9	24	雑誌	新聞天地。切抜。今井のメモで事実無根とある。邵（1909-1984）は九州帝大で経済学を修めたあと東大大学院で研究を続けた。国民政府の高級部員で、日本・朝鮮の専門家とされ、戦後駐韓大使となった。	
22	241	「中国との戦いに対する書評」	華交互助会		1966	昭和	41	9	30	新聞	華交互助会報。作者は佐原賢治と今井が記入している。新聞切抜。複写。	
12	97	今井「外交史上から見た国民性」	霞山会		1966	昭和	41	10	1	冊子	霞山會報 5号。切抜。	
11	126	「故永田鉄山中将の思い出」	偕行社		1966	昭和	41	10	1	冊子	「偕行 10月 184号」。1965年と書かれているが、号数から考えると1966年発行と思われる。切抜。	
4	41	明治外交秘話	小松緑		1966	昭和	41	10	10	書籍		
11	97	龔念年「蒋介石與板垣征四郎的長沙会談 今井武夫回憶録透露的蔣日勾結秘史之一」			1966	昭和	41	10	12	新聞	大公報 海外航空版。新聞切抜。10月10日付けの同一のものあり。	
11	98	龔念年「今井武夫回憶録透露的蔣日勾結秘史之二」			1966	昭和	41	10	13	新聞	大公報 海外航空版。11-97の裏に添付。新聞切抜。	
11	99	龔念年「今井武夫回憶録透露的蔣日勾結秘史之三」			1966	昭和	41	10	14	新聞	大公報 海外航空版。11-97の裏に添付。新聞切抜。10月12日付けの同一のものあり。	
11	195	「激動する中国」	朝日新聞社		1966	昭和	41	10	15	雑誌	週刊朝日。	
11	100	龔念年「今井武夫回憶録透露的蔣日勾結秘史之四」			1966	昭和	41	10	15	新聞	大公報 海外航空版。11-97の裏に添付。新聞切抜。	
12	154	蔣總統的思想、生活、操持	自由新聞社		1966	昭和	41	11	1	雑誌		
6	32	F機関	藤原岩市		1966	昭和	41	11	15	書籍	藤原は元大佐。原書房。FはFreedom、Friendshipと藤原のFに因んだもの。	
6	33	今井の関心事項と頁数記入メモ	今井武夫		1966	昭和	42	11	15	メモ	6-32に挿入。今井の6-32の関心事項と記載ページのメモ。年月日は全くの推定。	
★	★				1967	昭和	41	11	18	☆		東京12チャンネル「私の昭和史 No. 134 汪兆銘工作回想 -みのらなかつた日中和平-」に出演

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
4	72	私の昭和史 No. 134 汪兆銘工作回想 一みのらなかつた日中和平一	東京12チャンネル報道部		1966	昭和	41	11	18	書類	11月18日放映のシナリオと思われる。4-68に挿入。	
4	22	宿命の戦争 大東亜戦争をみなおそう	中堂観恵		1966	昭和	41	11	20	書籍	中堂は元大本営海軍部情報担当課長。海軍少将。盧溝橋事件はソ連の演出と述べている。自由アジア社。	
12	138	田中静壹大将の統率	高島辰彦		1966	昭和	41	11		冊子	陸上自衛隊幹部学校修親会幹部学校記事からの抜刷と思われる。同一2部あり。	
9	20	広田弘毅	広田弘毅伝記刊行会		1966	昭和	41	12	1	書籍	中央公論事業出版。	
21	16	「高橋正衛 二・二六事件とその虚構」	朝日新聞社		1966	昭和	41	12	2	新聞	5-15に挿入。朝日新聞夕刊。新聞切抜。	
4	40	内蒙三国志	松井忠雄		1966	昭和	41	12	5	書籍	松井は元陸軍中佐。原書房。察哈爾、綏遠、寧夏の3省は内蒙古と称されていた。綏遠事件の経緯が詳しく書かれている。	
11	102	周恩来総理	今井武夫		1966	昭和	41	12	20	メモ	周恩来総理、朱徳副総理、林彪副総理、劉少奇副総理ほか履歴。11枚。	
12	142	「今日の問題 インパール作戦」	朝日新聞社		1966	昭和	41			新聞	朝日新聞。12-141に貼付。新聞切抜。	
12	161	人三昧	有留輝山		1966	昭和	41			冊子	有留は30期第一中隊区隊長。輝山は号で名は輝三。1966年今井に寄贈。	
12	169	虎ノ門懇話会報告	鈴木憲一		1966	昭和	41			書類		
22	226	有木歌子書簡	有木歌子	今井武夫	1966	昭和	41			書簡	有木はパターンで戦死した有木道博中尉の母。もう24年になります。ご本を送ってください。10-37関連。	
22	229	『近代の戦争 5 中国との戦い』 論評 昭和41年春起	今井武夫		1966	昭和	41			論評	22箱-東6所収のファイル。22-191と同じノート。	
11	101	「悲劇の少隊長の母へ」			1966	昭和	41			新聞	11-94記載の大橋少尉関連。掲載紙不明。新聞切抜。	
11	214	河辺正三と牟田口廉也について	今井武夫		1966	昭和	41			メモ	11-213に挿入。12-120参照。年は推定。	
11	121	ベリリュウ一島に関して	今井武夫		1966	昭和	41			メモ	11-120に挿入。年代は推定。	
4	84	岩村三千夫「だれが孫文を継いでいるか」	岩間書店		1966	昭和	41			冊子	現代中国の歴史 1 月報。4-83に挿入。	
4	86	二階堂善助「満州事変勃発の夜」	岩間書店		1966	昭和	41			冊子	現代中国の歴史 2 月報。4-85に挿入。	
11	215	小川徳重書簡	小川徳重	宛先不明	1966	昭和	41			書簡	河辺正三胸像資金への寄付支払いへのお礼。11-213に挿入。小川は河辺大将の元副官。年は推定。河辺大将は昭和40年3月死去。	
12	41	曹汝霖談 西安事件について	今井武夫		1966	昭和	41			メモ	(株) 三大洋行の罫紙に書かれている。曹については3-63参照。年度は全くの推定。	
12	116	中国 金鐘河のあたりの図	今井武夫		1966	昭和	41			地図	角田氏『近代の戦争 5 中国との戦い』 126頁関連。所収12箱-東2ファイルに挿入。年は推定。	
18	318	汪精衛墓	今井武夫		1966	昭和	41			原稿	「アジア研究」1965年4月21日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	
18	319	陳璧君	今井武夫		1966	昭和	41			原稿	「アジア研究」1965年4月21日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	
22	495	汪兆銘について	今井武夫		1966	昭和	41			メモ	汪は気が弱いほか。頁数記載あり。1枚。昭和40年今井が発行した青木一男「祖国の安泰と民族繁栄のための基本問題」代金受領書の裏に記載。年度は全くの推定。	
21	173	杉工作について	今井武夫		1966	昭和	41			メモ	贋造偽紙幣工作。1965年5月19日「アジア研究」の裏に記載。年度は全くの推定。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
11	34	今井武夫手帳	今井武夫		1966	昭和	42	1	1	手帳	1967年12月31日迄。	
3	84	根本博を語る 為三郎手記	根本博顕彰会		1967	昭和	42	1	10	冊子	二三期会報第1輯。根本博伝記編纂資料。根本は陸士23期。	
3	85	富田民雄住所			1967	昭和	42	1	10	名刺	富田は根本博の女婿。3-84で岳父について記載している。3-84に挿入。	
3	68	關魂・ペリリュー島	堀江芳孝		1967	昭和	42	2	25	書籍	ペリリュー・アンガウル両島玉砕記。	
11	103	「昭和史ドキュメント これが昭和維新なのだ」	文藝春秋社		1967	昭和	42	2		雑誌	文藝春秋 2月号。切抜。	
5	14	戦争史論	岩畔豪雄		1967	昭和	42	3	15	書籍	岩畔は今井の陸士同期。	
19	237	百窓 4号	信濃育英会小平寮		1967	昭和	42	3	20	冊子	開寮十周年記念。	
11	104	「磯部浅一の獄中手記 二・二六事件新発見資料」ほか	河田書房		1967	昭和	42	3		雑誌	文芸 特大号。切抜。	
13	131	会報記録・今井武夫日記	今井武夫		1967	昭和	42	4	1	日記	会議記録は1965年1月4日。日記は1967年4月1日より4月7日迄の間。	
★	★				1967	昭和	42	4	7	☆		軍馬慰霊祭のため靖国神社へ 出席7名 青木一男に会う
1	49	有賀幸作君記念碑の葉	有賀幸作君記念碑建設委員会		1967	昭和	42	5	6	冊子	有賀は戦艦大和の艦長。海軍大佐であったが進級して海軍中将となる。長野県諏訪出身。	
19	147	稲森利助書簡	稲森利助	今井武夫	1967	昭和	42	5	12	書簡	19-146に挿入。昨年訪問したことへの礼と冊子送付について。	
3	56	ビルマ独立秘史 その名は南謀略機関	泉谷達郎		1967	昭和	42	5	15	書籍	泉谷は元南機関陸軍大尉。徳間書店。南機関長だった鈴木敬司少将は今井の陸士同期。陸大41期。	
★	★				1967	昭和	42	5	20	☆		根本博中将一周忌に出席
4	16	根本博中将一周忌の今井			1967	昭和	42	5	20	写真	4-15に挿入。	
6	15	昭和四十二年五月二十四日 根本博 一周忌追悼記念 第一集	根本軍四郎		1967	昭和	42	5	24	冊子		
12	130	安倍邦夫「多田駿大将の統率」	陸上自衛隊幹部学校修親会		1967	昭和	42	5		雑誌	幹部学校記事 昭和42年5月号。切抜。同一2部あり。	
22	527	参謀本部の根本中佐	今井武夫		1967	昭和	42	6	30	原稿	原稿用紙に記載。5枚。	
1	50	有賀幸作君記念碑建設委員会書簡	有賀幸作君記念碑建設委員会	宛先不明	1967	昭和	42	6		書簡	送り状。1-49に挿入。	
1	51	収支報告書			1967	昭和	42	6		書類	有賀幸作建設委員会のものか。1-49に挿入。	
12	102	白井勝美著 日中戦争（中央公論社）	図書新聞社		1967	昭和	42	7	1	新聞	12-101に貼付。切抜。今井がこの本につき12-101で論評している。	
4	46	余命	北原一視		1967	昭和	42	7	1	冊子	北原は元陸軍少将。短歌集。	
22	256	寺内正元「中公新書 太平洋戦争を読んで」			1967	昭和	42	7	1	冊子	「偕行 7月 193号」。今井について記載あり。切抜。複写。	
22	51	常安弘道書簡	常安弘道	今井武夫	1967	昭和	42	7	7	書簡	30年前のこの日（7月7日）の盧溝橋事件を回想している。	
6	2	安岡正篤「汪精衛工作と誤られた王倫」	全国師友協会		1967	昭和	42	7	10	雑誌	師と友 213 7月号。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
★	★				1967	昭和	42	7	11	☆	於ほととぎす。	長野中学同級会に出席
19	177	長野中学同級会			1967	昭和	42	7	11	写真	於ほととぎす。7名。今井、山中庸雅、松沢、菊池、古宮、田中、三村。	
19	178	長野中学同級会			1967	昭和	42	7	11	写真	於ほととぎす。今井と古宮。	
9	83	太平洋戦争への道程 盧溝橋より真珠湾へ	デビッド・J・ルー		1967	昭和	42	7	15	書籍	田島周子訳、原書房。著者は米国バックネル大学日本研究所長。原題 "From the Marco Polo Bridge to Pearl Harbor" (Public Affairs Press, 1961)。田島は松岡洋右の娘。	
★	★				1967	昭和	42	7	15	☆		『昭和の謀略』（原書房）を発刊
★	★				1967	昭和	42	8	1	☆		日本郷友連盟 中野区郷友会顧問
21	296	日本郷友連盟中野区郷友会書簡	日本郷友連盟中野区郷友会	今井武夫	1967	昭和	42	8	1	書簡	倉田定雄会長から今井に顧問委嘱。	
7	35	岡田益吉「盧溝橋事件の謎を解く」	経済往来社		1967	昭和	42	8	1	雑誌	経済往来 8月号 19巻（通巻29巻）。今井に関する記述あり。	
11	113	岡田益吉「盧溝橋事件の謎を解く」	経済往来社		1967	昭和	42	8	1	雑誌	経済往来 8月号 19巻（通巻29巻）。今井に関する記述あり。7-35の切抜。	
3	62	毛沢東世界戦略	市川宗明		1967	昭和	42	8	15	書籍	191頁に今井関連記事あり。原書房。	
3	157	黄塵万丈 ある中国人の証言する日中事変秘録 盧溝橋事件三十周年記念	夏文運		1967	昭和	42	8	15	書籍	84, 89頁に今井に関する記載あり。現代書房。夏文運は冀察政務委員会、維新政府の要職を歴任。蕭振瀛の顧問をした。	
2	50	紅炎・白蓮	富岳会		1967	昭和	42	8	20	冊子	津森藤吉遺稿・追悼集。	
22	252	「『昭和の謀略』に対する書評 陸軍の暴状まざまざ」	産経新聞社		1967	昭和	42	8	24	新聞	サンケイ新聞。新聞切抜。	
22	250	『昭和の謀略』に対する書評「血であがなった反省日中戦争の真実を証言」	徳間書店		1967	昭和	42	8	25	新聞	東京タイムズ。新聞切抜。	
22	251	「昭和史を考える一助に 中枢参謀の見た実録 『昭和の謀略』の今井武夫氏」	共同通信社		1967	昭和	42	8	25	新聞	共同通信。「原稿作成をしたのはは文化部井上満」と今井のメモにある。新聞切抜。	
22	258	「『昭和の謀略』の今井武夫氏 昭和史を考える一助に 中枢参謀の見た実録」	北国新聞社		1967	昭和	42	8	27	新聞	北国新聞。新聞切抜。	
22	257	「本と私 『昭和の謀略』の今井武夫氏 武力暴走の内幕」	山陽新聞社		1967	昭和	42	8	31	新聞	山陽新聞。新聞切抜。	
12	131	寺崎隆治「小沢治三郎中将の統率（その1）」	陸上自衛隊幹部学校修親会		1967	昭和	42	8		雑誌	幹部学校記事 昭和42年8月号。切抜。	
12	101	今井「白井勝美著 日中戦争（中央公論社）への論評」	潮出版社		1967	昭和	42	8		雑誌	潮 8月号。切抜。	
12	98	今井「アジア独立に果たした盟主日本軍の功罪」	潮書房		1967	昭和	42	9	1	雑誌	「丸 20巻9号」。切抜。ビルマ作戦について。戦場の変化に幻惑された大本営。陸士同期鈴木敬司少将の活躍について記載あり。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
1	19	従参加抗戦到目睹日軍投降	冷欣		1967	昭和	42	9	1	書籍	冷欣は国民政府陸軍中將。今井に關係する記事あり。伝記文学出版社。	
7	22	自序	神保信彦		1967	昭和	42	9	1	書類	7-21に挿入。	
22	254	大橋武夫「盧溝橋の銃声 支那事変の発端は中共の謀略であった 一謀略二書の読後感一」	偕行社		1967	昭和	42	9	1	冊子	「偕行 9月 195号」。謀略二書には、今井の『昭和の謀略』を含む。大橋は、盧溝橋事件当時支那派遣軍砲兵中尉。11-106に同じ。切抜。複写。	
11	106	大橋武夫「盧溝橋の銃声 支那事変の発端は中共の謀略であった 一謀略二書の読後感一」	偕行社		1967	昭和	42	9	1	冊子	「偕行 9月 195号」。謀略二書（含む今井『昭和の謀略』）の読後感。切抜。22-254に同じ。大橋は、盧溝橋事件当時、支那派遣軍の砲兵中尉。	
1	23	勝利前後	邵毓麟		1967	昭和	42	9	1	書籍	今井に關する關係記事あり。1-17が本書の訳。台北 伝記文学出版社。邵（1909-1984）は、九州大学で経済学を修めた後、東京帝大で研究を行い、その後、国民政府の高級部員となり、戦後、駐韓大使を務めた。	
18	74	司馬遼太郎「軽薄へのエネルギー 日本人の特性の一つ 時にはそれが歴史もつくる」	朝日新聞社		1967	昭和	42	9	4	新聞		
22	259	「本と人 『昭和の謀略』 今井武夫 陸軍の動き正確に昭和史を考える一助に」	西日本新聞社		1967	昭和	42	9	16	新聞	西日本新聞。新聞切抜。	
★	★				1967	昭和	42	9	17	☆	このとき 下野一霍中將から 2-59 『南京作戦の真相 熊本第六師団戦記』を贈られる	10月1日放映の朝日放送テレビ「日本この100年 終わらなき戦線-支那事変-」に出演のため大阪ロイヤルホテルに宿泊
11	211	日本この100年 終わらなき戦線 一支那事変一	朝日放送テレビ報道部		1967	昭和	42	9	17	冊子	10月1日今井出演の放送番組のシナリオと思われる。	
★	★				1967	昭和	42	9	26	☆	於ホテルニュージャパン。	故 洪思翊將軍を偲ぶ会に出席
12	155	故洪思翊將軍を偲ぶ	故洪思翊將軍を偲ぶ会		1967	昭和	42	9	26	冊子	於ホテルニュージャパン。洪思翊は中將。陸士26期。マニラで刑死。	
12	157	故洪思翊將軍を偲ぶ会 出席者名簿	故洪思翊將軍を偲ぶ会		1967	昭和	42	9	26	名簿		
1	93	「ビルマに関する戦記文学をめぐる問題と戦場における人間性について」	竹ノ谷秋男		1967	昭和	42	9	28	冊子	現代史研究会 九月例会資料。	
1	94	現代史研究会 9月例会案内	現代史研究会		1967	昭和	42	9	28	書類	例会題目 「インパール作戦をめぐる -祭兵団の真実-」。2枚。1-93に挿入。「祭」は 第15師団（師団長、山内正文中將）の通称。第15軍（牟田口廉也中將）隷下。第15軍隷下には、このほか、第31師団（「烈」、師団長佐藤幸徳）、第33師団（「弓」、師団長柳田元三）の3師団があった。	
1	95	ビルマ方面戦没者調査一覧表	ビルマ親善協会		1967	昭和	42	9	28	書類	1-93に挿入。	
22	260	譚覚眞書簡	譚覚眞	今井武夫	1967	昭和	42	9	28	書簡	『昭和の謀略』に感謝。汪兆銘の”最後の心情”の発信人はまだ分かっていない。本物かどうか内容は怪しい。	
22	261	譚覚眞書簡	譚覚眞	今井武夫	1967	昭和	42	9	29	書簡	貴重な文献として、敬意を表します。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
12	132	寺崎隆治「小沢治三郎中将の統率（その2）」	陸上自衛隊幹部学校修親会		1967	昭和	42	9		雑誌	幹部学校記事 昭和42年9月号。切抜。	
★	★				1967	昭和	42	9		☆		現代史研究会 9月例会に出席
18	26	青江舜二郎「盧溝橋事件から30年 上」	朝日新聞社		1967	昭和	42	9		新聞	朝日新聞夕刊。切抜。	
18	27	臼井勝美「盧溝橋事件から30年 下」	朝日新聞社		1967	昭和	42	9		新聞	朝日新聞夕刊。切抜。	
11	108	棟田博「新戦塵訓 物言わぬ戦士」	潮書房		1967	昭和	42	9		雑誌	丸 9月号 20巻9号。切抜。	
★	★				1967	昭和	42	10	1	☆		出演した朝日放送テレビ「日本この100年 終わらなき戦線 -支那事変-」放映される
22	255	大橋武夫「運命の支那事変 中国側の当事者が見ても中共の謀略であった」	偕行社		1967	昭和	42	10	1	冊子	「偕行 10月196号」。謀略二書（今井『昭和の謀略』を含む）の読後感（承前）。切抜。11-107に同じ。切抜複写。	
11	107	大橋武夫「運命の支那事変 中国側の当事者が見ても中共の謀略であった」	偕行社		1967	昭和	42	10	1	冊子	「偕行 10月196号」。謀略二書（今井『昭和の謀略』を含む）の読後感（承前）。切抜。22-255に同じ。	
22	262	吉田茂登彦書簡	吉田茂登彦	今井武夫	1967	昭和	42	10	5	書簡	吉田はバターン戦線に従事。寺内正元「中公新書 太平洋戦争を読んで」で、捕虜虐殺についてフィリピンにいた全部隊に誤解を与える恐れはないか。自分は辻参謀命令を黙殺、握りつぶした。	
22	263	吉田茂登彦書簡	吉田茂登彦	今井武夫	1967	昭和	42	10	10	書簡	二便。今井の返事で了解。感謝します。	
★	★				1967	昭和	42	10	14	☆	於靖国神社。	陸士41期生全国大会に恩師の一員として出席
21	62	陸士四十一期生全国大会出席者名簿	陸士四十一期生全国大会準備委員		1967	昭和	42	10	14	冊子	出席写真は21-70にあり。今井は一時期四十一期生の区隊長を勤めた。	
21	70	陸士四十一期生全国大会	惣島写真館		1967	昭和	42	10	14	写真	出席名簿は21-62にあり。今井も出席。	
○	○				1967	昭和	42	10	16	○		(三兄) (木田) 慶知 死去 (73歳)
11	190	「季刊東亜」 第1集	霞山会・東亜学院		1967	昭和	42	10	20	冊子	「東亜時論」改題。通巻第101号。	
12	133	渡邊利玄「鈴木第35軍司令官を偲ぶ（その1）」	陸上自衛隊幹部学校修親会		1967	昭和	42	10		雑誌	幹部学校記事 昭和42年10月号。切抜。	
2	25	四一会誌	第四十一期生会		1967	昭和	42	10		冊子	陸士四十一期生会誌。今井は一時期四十一期生の区隊長を勤めた。	
22	508	今井武夫書簡	今井武夫	太田泰幸	1967	昭和	42	11	3	書簡	22-507に対する返事。厳格に言って五言律でなくとも五言律といひ、五言古詩とは言わない。資料貼付。	
3	155	関東軍始末記	梅本捨三		1967	昭和	42	11	10	書籍	原書房。	
18	389	第65旅団（フィリピン・ラバウル）第141連隊在京の方々	柴田善次郎		1967	昭和	42	11	10	書類	依田と書いてあるが「旅団」の間違い。	
21	305	今井武夫宛委嘱状	青木一男	今井武夫	1967	昭和	42	11	15	書類	善光寺日本忠霊殿営奉賛会参与の委嘱。青木は会長。	
★	★				1967	昭和	42	11	21	☆		第7回 霞山会研究会で講話
11	114	第7回 霞山会研究会講話要旨			1967	昭和	42	11	21	書類	今井の講話要旨。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
☆	☆				1967	昭和	42	11	22	☆		矢崎勘十 元陸軍中将（元汪兆銘国民政府最高軍事顧問）に会い汪兆銘の遺言と最後の状況を聞く
12	134	渡邊利亥「鈴木第35軍司令官を偲ぶ（その2）」	陸上自衛隊幹部学校修親会		1967	昭和	42	11		雑誌	幹部学校記事 昭和42年11月号。切抜。鈴木宗作中将のこと。	
11	115	三宅喜二郎「外交秘話 大東亜戦争への道 一その七」	日本国際問題研究所		1967	昭和	42	11		雑誌	掲載雑誌は「国際問題」か。切抜。	
22	507	太田泰幸書簡	太田泰幸	今井武夫	1967	昭和	42	11		書簡	今井著『近代の戦争 5 中国との戦い』220～221頁の汪兆銘の詩は五言律詩か。五言古詩ではないか。	
11	129	井崎喜代太「汪兆銘夫人陳璧君と梅蘭芳」	霞山会		1967	昭和	42	12	1	冊子	「霞山会報 11号」。切抜。井崎は霞山会の事務局長。梅は中国の名優。	
18	416	片山憲四郎書簡	片山憲四郎	今井武夫	1967	昭和	42	12	3	書簡	今井から、要求のあったニューブリテン島における第141連隊の戦況及びその他主要事項を送る。片山は第3代歩兵141連隊長。	
18	417	ラバウル附近要図	片山憲四郎		1967	昭和	42	12	3	書類	18-416に挿入。	
18	418	ツルブ附近 松田支隊配備要図	片山憲四郎		1967	昭和	42	12	3	書類	18-416に挿入。松田とは松田巖少将（第4代第65旅団長）のことか。	
18	419	三角山附近要図	片山憲四郎		1967	昭和	42	12	3	書類	18-416に挿入。三角山は昭和18年141連隊が激戦したところ。	
18	420	カ号作戦（ラバウルへの転進）要図	片山憲四郎		1967	昭和	42	12	3	書類	18-416に挿入。昭和19年1月末軍令によりラバウルへ転進する。	
18	421	昭和18年7月5日以降第141連隊（夏9853部隊）の戦況及主要事項の概要	片山憲四郎		1967	昭和	42	12	3	書類	18-416に挿入。	
4	89	女への文字	藤堂明保		1967	昭和	42	12	5	書籍	藤堂は支那で通訳をしていた。戦前の姓は「今井」。戦後中国語の教授。山王書房。	
22	552	ビルマの死闘	越智春海		1967	昭和	42	12	5	書籍	原書房。	
11	128	寺岡謹平「酒井直次陸軍中將を弔う」	全国戦争犠牲者援護会		1967	昭和	42	12	15	新聞	援護 149号。	
3	64	ノモンハン秘史	辻政信		1967	昭和	42	12	20	書籍	原書房。	
12	135	平田皓二・杉本正六・守本正「第54歩兵団長木庭少将の統率（その1）」	陸上自衛隊幹部学校修親会		1967	昭和	42	12		雑誌	幹部学校記事。昭和42年12月号。切抜。	
11	116	三宅喜二郎「外交秘話 大東亜戦争への道 一その八」	日本国際問題研究所		1967	昭和	42	12		雑誌	掲載雑誌は「国際問題」か。切抜。	
22	242	『昭和の謀略』に対する論評 昭和42年夏起	今井武夫		1967	昭和	42			論評	22箱-東7所収のファイル。22-191と同じノート。	
11	112	昭和42年 参考綴（其二）	今井武夫		1967	昭和	42			書類	11箱-東5所収の書類。	
19	146	波乱渦巻く草原蒙古を越えて	稲森利助		1967	昭和	42			冊子	綏東事件について。稲森は当時関東軍特情長。	
18	271	『昭和の謀略』の原稿か	今井武夫		1967	昭和	42			原稿	1枚。No. 366とある。『昭和の謀略』の原稿か。年度は全くの推定。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
17	32	陸士第四十一期 死没者名簿			1967	昭和	42			名簿	二・二六事件に関与したのは栗原安秀、対馬勝雄、中橋基明の3名。順序不同とある。発行年は推定。	
22	497	汪兆銘	今井武夫		1967	昭和	42			原稿	1965年、66年の「アジア研究」の裏に記載。32枚。年度は全くの推定。	
22	498	汪兆銘と陳璧君	今井武夫		1967	昭和	42			原稿	1966年の「アジア研究」の裏に記載。2枚。年度は全くの推定。	
18	346	曾拔情と劉玉書について	今井武夫		1967	昭和	42			メモ	18-345に挿入。年は推定。曾は何応欽のプレーンで劉は何と特別な関係にいた人。劉は天津警察局長だった。	
23	12	清水董三 書簡	清水董三	今井武夫	1967	昭和	42	1	1	書簡	清水董三から 今井武夫への年賀状	
12	143	今井「東亜問題百年の回想と展望」	霞山会		1967	昭和	43	1	1	冊子	霞山会報 12号。	
22	253	島田謹吾書簡	島田謹吾	今井武夫	1968	昭和	43	1	1	書簡	年賀状。今井の第二作を読んでいる。島田は長野中学の同級生。	
23	14	井上喬之 書簡 殷(旧姓 井上) 民江	井上喬之 殷(旧姓 井上) 民江	今井武夫	1968	昭和	43	1	1	書簡	井上喬之 殷(旧姓井上) 民江から今井宛の年賀状	
23	16	川上護書簡	川上護	今井武夫	1968	昭和	43	1	1	書簡	川上護大佐から今井武夫宛年賀状	
23	15	小林浅三郎書簡	小林浅三郎	今井武夫	1968	昭和	43	1	1	書簡	小林浅三郎中將から 年賀状	
23	13	苗剣秋書簡	苗剣秋	今井武夫	1968	昭和	43	1	1	書簡	苗剣秋から今井宛。明治百年元旦挨拶状（中国語）。	
11	122	今井「東亜問題百年の回想と展望」	霞山会		1968	昭和	43	1	1	冊子	霞山会報 12号。	
13	144	今井武夫日記	今井武夫		1968	昭和	43	1	1	日記	1968年12月31日迄。	
13	182	今井武夫手帳	今井武夫		1968	昭和	43	1	1	手帳	1968年12月31日迄。	
11	183	毛沢東思想概論	草野文男		1968	昭和	43	1	7	冊子		
1	26	杉山元帥伝	杉山元帥伝記刊行会		1968	昭和	43	1	25	書籍	原書房。	
12	136	平田皓二・杉本正六・守本正 「第54歩兵団長木庭少将の統率（その2）」	陸上自衛隊幹部学校修親会		1968	昭和	43	1		雑誌	幹部学校記事 昭和43年1月号。切抜。	
12	162	兵火燃え立つ中に踊る暗号戦	稲森利助		1968	昭和	43	1		冊子	稲森の今井についてのメモ追加あり。稲森は士官学校の同期生。	
19	238	兵火燃え立つ中に踊る暗号戦	稲森利助		1968	昭和	43	1		冊子	稲森は当時関東軍特情長。陸士同期。年度初頭。月は推定。	
11	117	三宅喜二郎「外交秘話 大東亜戦争への道 一その九」	日本国際問題研究所		1968	昭和	43	1		雑誌	掲載雑誌は「国際問題」か。切抜。	
☆	☆				1968	昭和	43	2	2	☆		蔣君輝に会う 蔣談 繆斌工作は繆斌の強い自薦運動により実現したもので 蔣介石と戴笠だけが知っていた
13	11	会員室管理改善説明会進行順序と出席者名簿			1968	昭和	43	2	2	名簿	於霞山会館。	
2	5	清水安三書簡	清水安三	今井武夫	1968	昭和	43	2	10	書簡	桜美林学園に経済学部設立認可されたことについて。2-4に挿入。	
22	266	築場市郎左衛門書簡	築場市郎左衛門	今井武夫	1968	昭和	43	2	15	書簡	『近代の戦争 5 中国との戦い』に関する意見。11頁にわたる修正点等の意見。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
12	137	平田皓二・杉本正六・守本正 「第54歩兵団長木庭少将の統率（その3・完）」	陸上自衛隊幹部 学校修親会		1968	昭和	43	2		雑誌	幹部学校記事 昭和43年2月号。切抜。	
11	118	三宅喜二郎「外交秘話 大東 亜戦争への道 一その十」	日本国際問題研 究所		1968	昭和	43	2		雑誌	掲載雑誌は「国際問題」か。切抜。	
7	25	今井「証言＝日中戦争とヴェ トナム戦争」 今井「英知と勇気を 一通州事 件のことなど一」	徳間書店		1968	昭和	43	3	1	雑誌	中国 1968年3月号 52号。	
12	99	今井「証言＝日中戦争とヴェ トナム戦争」 今井「英知と勇気を 一通州事 件のことなど一」	徳間書店		1968	昭和	43	3	1	雑誌	中国 1968年3月号 52号。7-25の切抜。	
12	150	中共の国際関係	田尻愛義		1968	昭和	43	3	1	冊子	田尻は元中国公使。終戦時の大東亜省次官。黎明叢書33号。	
17	11	中田稔「民族精神高揚論を考 える」	朝日新聞社		1968	昭和	43	3	14	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
☆	☆				1968	昭和	43	3	17	☆	於日本閣。	第11回南京会に出席 三笠宮を囲んで清水菊三ほかとの 写真
22	23	南京会			1968	昭和	43	3	17	写真	三笠宮ご臨席。 於日本閣。全3枚。清水菊三、山根定吉、今関靖夫 も出席。	
21	59	南京会			1968	昭和	43	3	17	写真	三笠宮を囲んで、清水菊三、今井ほか全8名の写真。於日本閣屋上 で撮影。	
21	60	南京会			1968	昭和	43	3	17	写真	三笠宮を囲んで全員の写真。	
3	144	南京会			1968	昭和	43	3	17	写真	南京会。片岡沢治と今井。	
9	40	宇垣一成日記 1	宇垣一成		1968	昭和	43	3	25	書籍	自明治三十五年九月 至昭和六年六月。みすず書房。	
22	7	書評今井武夫氏著『昭和の謀 略』	華交互助会		1968	昭和	43	3	30	冊子	華交。	
9	41	みすず書房 新刊御通知 1968 3	みすず書房		1968	昭和	43	3		書類	宇垣一成日記について。9-40に挿入。	
11	119	三宅喜二郎「外交秘話 大東 亜戦争への道 一最終回」	日本国際問題研 究所		1968	昭和	43	3		雑誌	掲載雑誌は「国際問題」か。切抜。	
7	24	支那事変の研究	三宅喜二郎		1968	昭和	43	3		冊子	三宅は外務省研修所長。研修参考資料。2, 57, 62頁に今井に関する記 述あり。私家版。	
☆	☆				1968	昭和	43	4	7	☆	於靖国神社。	陣没軍馬慰霊行事に出席
22	518	靖国神社社務所書簡	靖国神社社務所	今井武夫	1968	昭和	43	4	12	書簡	4月7日の陣没軍馬慰霊行事参加のお礼と写真送付連絡。封筒なし。	
9	57	井本熊男書簡	井本熊男	今井武夫	1968	昭和	43	4	17	書簡	11-183に挿入。支那派遣軍司令部の編成の当初から第四課に「思想 戦班」があったかどうかの問い合わせ。後に井本は自著『作戦日誌で 綴る支那事変』に思想班のことを述べている。	
8	24	稲森利助書簡	稲森利助	今井武夫	1968	昭和	43	4	20	書簡	武藤章が蒙古へ行ったときのエピソードを書いた葉書。稲森は今井 の陸士同期生。8-23に挿入。	
19	37	在りし日の 根本博中将の礼 装写真	高島辰彦		1968	昭和	43	4	29	写真	今井のメモで、昭和43年4月29日高島からもらうとある。12-107関 連か。写真はこの日付より古い。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
21	74	学校要覧	長野県長野高等学校		1968	昭和	43	4		冊子	明治34年4月に第1回長野中学卒業生50名を出す。	
5	19	昭和四十一年以降昭和四十二年迄 追悼録(第四回補足) 那須義雄 「鈴木敬司君を悼ふ」 川島威伸 「鈴木敬司閣下のことども」	陸士三十期生会		1968	昭和	43	5	1	冊子	5-17の続き。川島は陸士48期で今井の『昭和の謀略』につき言及。	
7	26	中国 1968年5月号 54号	徳間書店		1968	昭和	43	5	1	雑誌		
★	★				1968	昭和	43	5	5	☆	出席正会員 112名。於靖国会館、私学会館、旅館。	第三十期生会 任官50周年記念に出席(大会副委員長として総会の司会)～6日(都内巡遊 希望者のみ)
21	43	第三十期生会 規約・会員名簿 14号	陸士三十期生会		1968	昭和	43	5	5	冊子		
★	★				1968	昭和	43	5	16	☆	読売新聞記者松崎昭一のインタビュー。	読売新聞 「昭和史の天皇」オーラルヒストリー インタビュー
4	9	「元皇帝死してなお非難をあびる」	朝日新聞社		1968	昭和	43	5	21	新聞	朝日新聞記事。新聞記事。4-8に貼付。紅衛兵機関紙が溥儀を批判。	
4	15	今井「参謀本部の根本中佐」	根本博顕彰会		1968	昭和	43	5	24	冊子	昭和四十三年五月二十四日 根本博三周忌追悼記念 第二集 編集者今井・吉村是二。2-28に同じ。第一集は6-15にあり。原稿22-527にあり。	
2	28	今井「参謀本部の根本中佐」	根本博顕彰会		1968	昭和	43	5	24	冊子	昭和四十三年五月二十四日 根本博三周忌追悼記念 第二集 編集者今井・吉村是二。第一集は6-15にあり。同一 3部あり。原稿22-527にあり。	
4	27	昭和陸軍秘史	中村菊男		1968	昭和	43	5	30	書籍	今井「柳条溝事件をめぐって関東軍の内情を探る」(著者中村との対談)。12-87を記載したもの。番町書房。	
21	44	第三十期生会 規約・会員名簿 14号付録 郵便番号簿	陸士三十期生会		1968	昭和	43	5		書類	21-43に挿入。	
18	235	根本博将軍の遺稿についてほか	今井武夫		1968	昭和	43	5		メモ	赤字で重要(保存)と記載あり。2-28関連か。根本中佐は1966年5月死去。年月は推定。	
4	31	明治・東京時計塔記	平野光男		1968	昭和	43	6	10	書籍	改定増補版。明啓社。	
7	28	「風間さん逝く」	世界民主出版部		1968	昭和	43	6	15	雑誌	主張と解説 風間丈吉追悼号 No. 418。	
★	★				1968	昭和	43	7	4	☆	読売新聞記者松崎昭一のインタビュー。	読売新聞 「昭和史の天皇」オーラルヒストリー インタビュー
★	★				1968	昭和	43	7	7	☆	於新宿区市ケ谷につしよ会館。全42名	北京曉月会に出席
22	33	北京曉月会出席者全員			1968	昭和	43	7	7	写真	全42名。於新宿区市ケ谷につしよ会館。	
21	72	衛藤藩吉「小論」	図書新聞社		1968	昭和	43	7	13	新聞	図書新聞。新聞切抜。	
21	71	「石城東山の新史料発見」	信濃毎日新聞社		1968	昭和	43	7	27	新聞	信濃毎日新聞。東山は幕末の信州高島藩で諏訪藩校長善館の館長。新聞切抜。今井の私設秘書をした石城小三郎は東山の孫。	
12	100	今井「遅参その意を得ず 盧溝橋事件勃発の日 朝寝した男の話」	潮出版社		1968	昭和	43	7		雑誌	潮 7月号(通号98号)。切抜。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
21	260	今井「総会報告」 今井「大会こぼれ話」 座談会「大会を顧みて」	陸士三十期生会		1968	昭和	43	8	15	冊子	第三十期生会 会誌8号 任官50周年記念大会 特別号。今井は座談会に参加。大会は5月5日東京で泊りがけで開催された。	
8	11	自由 昭和43年9月号	自由社		1968	昭和	43	9	1	雑誌		
12	103	今井「主張 国防の基礎」	日本財政経済研究所		1968	昭和	43	9		雑誌	日本財政経済研究月報 9月号。切抜。	
12	104	「ケナン氏が見た30年前の チェコ」	朝日新聞社		1968	昭和	43	10	5	新聞	朝日新聞。12-103の裏に貼付。新聞切抜。	
7	47	宣教師の見た明治の頃	キリシタン文化研究会		1968	昭和	43	11	3	書籍	H・チースリック訳。	
★	★				1968	昭和	43	11	4	☆		長野 善光寺 日本忠霊殿造営奉賛会「参与」に就任
21	306	今井武夫宛委嘱状	青木一男	今井武夫	1968	昭和	43	11	4	書類	善光寺日本忠霊殿造営奉賛会参与の委嘱。青木は会長。21-305と同じ内容だが年度が異なる。	
1	17	抗日戦争勝利の前後 中国から みた終戦秘話	邵毓麟		1968	昭和	43	11	20	書籍	本郷賀一訳。時事通信社。今井について 94頁 121頁に記載あり。1-23の訳か。1969年7月1日 「今井先生恵存」とある。時事通信社。邵は国民政府の高級部員で戦後駐韓大使となった。	
22	189	山東塩業株式会社史 昭和12 年の設立から昭和21年GHQ により閉鎖されるまで	朝倉文夫		1968	昭和	43	12	14	書類	朝倉は元山東塩業株式会社員。	
22	190	青島塩輸入取扱に関する陳情 書	朝倉文夫		1968	昭和	43	12	14	書類	22-189に附属の書類。	
18	1	片山憲四郎書簡	片山憲四郎	今井武夫	1968	昭和	43	12	14	書簡	片山は141連隊後任第3代連隊長・大佐。片山の弟も陸士三十期生。141連隊の今井離任後の状況問い合わせに対する返事。	
18	3	第141連隊歴史の抜粋の一部	片山憲四郎		1968	昭和	43			書類	18-1に挿入。年代は推定。中嶋正司大佐が第2代の第141連隊長当時のもの。	
21	18	「血気の反乱将校 陸相に迫 る」			1968	昭和	43			新聞	5-15に挿入。掲載紙不明。新聞切抜。年は推定。	
1	60	中日両国、合分則同利害、語文 通、萬事具備	沈膺		1968	昭和	43			冊子		
1	61	沈膺書簡書簡	沈膺	宛先不明	1968	昭和	43			書簡	1-60に挿入。	
19	148	日華事変の原因は何か 蒙古の端から挑んだ諜報戦 蒙古の秘境を探りて	稲森利助		1968	昭和	43			冊子	陸士同期の稲森は3つのテーマについて書いている。	
13	183	少尉アレキサーダーについて	今井武夫		1968	昭和	43			メモ	13-182に挿入。	
11	185	長野県長野高等学校校史	長野県高等学校 同窓会		1968	昭和	43			冊子	今井は長野高校の前身の長野中学卒。	
17	62	松橋久左エ門書簡	松橋久左エ門	長野高校同窓会幹 事	1968	昭和	43			書簡	校史贈呈並びに写真借用のお願い。松橋は長野高校同窓会長。年は推定。	
18	336	大亜細亜主義	今井武夫		1968	昭和	43			原稿	1Pから2Pまで。2枚。「アジア研究」1967年5月10日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	
18	337	大亜細亜主義	今井武夫		1968	昭和	43			原稿	2-1P。2枚。「アジア研究」1964年12月7日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	
18	338	原稿	今井武夫		1968	昭和	43			原稿	3Pから5Pまで。3枚。18-337の続きか。「アジア研究」1967年4月14日号と5月10号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
18	339	原稿	今井武夫		1968	昭和	43			原稿	6Pから9Pまで。4枚。18-338の続きか。「アジア研究」1964年12月11日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	
18	340	張自忠、湯恩伯上将ほか	今井武夫		1968	昭和	43			原稿	12Pから19Pまで。8枚。「アジア研究」1964年12月14日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	
18	341	原稿	今井武夫		1968	昭和	43			原稿	30Pと18-1P。2枚。「アジア研究」1964年12月7日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	
18	377	質問事項ほか	今井武夫		1968	昭和	43			メモ	1枚。「アジア研究」1967年4月19号の裏に記載。年度は全くの推定。	
12	151	日中友好について	今井武夫		1968	昭和	43			メモ	12-150に挿入。年は推定。	
18	304	張志譚の漢詩	今井武夫		1968	昭和	43			メモ	18-302に挿入。張志譚の漢詩と思われる。年は推定。	
12	106	今井「根本博中将の思い出(その1)」	陸上自衛隊幹部学校修親会		1968	昭和	44	1	1	雑誌	幹部学校記事 17巻昭和44年1月号。8-8に同じ。1-48の切抜。	
23	18	大谷照乗・大谷寿子書簡	大谷照乗・大谷寿子	今井武夫	1969	昭和	44	1	1	書簡	西本願寺連枝 大谷照乗 寿子夫妻から 今井宛の年賀状	
23	19	塩沢清宣書簡	塩沢清宣	今井武夫	1969	昭和	44	1	1	書簡	塩沢清宣から 今井宛の年賀状	
23	17	中野英光書簡	中野英光	今井武夫	1969	昭和	44	1	1	書簡	中野英光 中将から 年賀状	
1	48	今井「根本博中将の思い出(その1)」	陸上自衛隊幹部学校修親会		1969	昭和	44	1	1	雑誌	幹部学校記事 17巻昭和44年1月号。	
3	91	根本博中将の思い出(その1)	今井武夫		1969	昭和	44	1	1	冊子	1-48幹部学校記事 昭和44年1月号記載部分の抜刷。3-89に挿入。	
13	132	今井武夫日記	今井武夫		1969	昭和	44	1	1	日記	8月22日迄。	
13	184	今井武夫手帳	今井武夫		1969	昭和	44	1	1	手帳	1969年12月31日迄。	
8	8	今井「根本博中将の思い出(その1)」	陸上自衛隊幹部学校修親会		1969	昭和	44	1	1	雑誌	幹部学校記事 17巻昭和44年1月号。同一5部あり。1-48の切抜。	
21	159	「天声人語 北ベトナム問題について」	朝日新聞社		1969	昭和	44	1	6	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
7	45	日米安全保障条約（日米安保体制）に関する政府の見解について	防衛庁長官官房広報課		1969	昭和	44	1	15	冊子		
15	70	昭和44年賀状 発送先	今井武夫		1969	昭和	44	1		名簿	(株)中央電機工業社の罫紙に記載。	
1	28	原書房編集部書簡	原書房編集部	今井武夫	1969	昭和	44	2	13	書簡	『杉山元帥伝』訂正につき。1-26に挿入。	
21	20	ホセ・リサール記念碑の由来	日本リサール協会		1969	昭和	44	2	28	書類	リサールは1888年2月28日米国へ亡命の途中日本に上陸。同一2部。	
12	107	高島辰彦「根本博中将の思い出(その2・1)」	陸上自衛隊幹部学校修親会		1969	昭和	44	2		雑誌	幹部学校記事 17巻昭和44年2月号。切抜。19-37に写真あり。	
1	27	坂間訓一書簡	坂間訓一	宛先不明	1969	昭和	44	2		書簡	『杉山元帥伝』刊行につき。坂間は杉山元帥伝記刊行会事務局員。1-26に挿入。坂間は陸士31期。少将。	
21	98	江藤小三郎の覚醒書	全日本愛国者団体会議		1969	昭和	44	2		書類	江藤は建国記念日に皇居前で自決した。	
21	17	「河野司 二・二六事件と現代」	大勢新聞社		1969	昭和	44	3	6	新聞	5-15に挿入。新聞切抜。大勢新聞。河野は仏心会代表。二・二六事件の河野寿大尉の父。	
1	67	中国戦区中国陸軍総司令部 受降報告書	中国戦区中国陸軍総司令部		1969	昭和	44	3	30	書籍	再版。	
12	108	高島辰彦「根本博中将の思い出(その2・完)」	陸上自衛隊幹部学校修親会		1969	昭和	44	3		雑誌	幹部学校記事 17巻昭和44年3月号。切抜。12-107の続き。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
1	56	何応欽将軍 中日関係講詞選輯	中日文化経済協会		1969	昭和	44	3		書籍	5月30日今井武夫先生存念 何応欽 敬贈とある。神佑がこの本の敬贈の由来について本の扉に書いてある。	
1	59	何応欽将軍 中日関係講詞選輯	中日文化経済協会		1969	昭和	44	3		書籍	1-56と同じもの。1-58と同じカバーに挿入。	
1	58	世界道徳重整運動和龍劇	何子宗親会		1969	昭和	44	3		書籍	1-59と同じカバーに挿入。	
12	109	山田正之「幕僚活動の基本について」	陸上自衛隊幹部学校修親会		1969	昭和	44	4	1	雑誌	幹部学校記事 17巻昭和44年4月号。切抜。	
2	11	忘れてならぬ歴史の一頁 一徳をもって怨に酬ゆる一	大久保伝蔵		1969	昭和	44	4	1	書籍	3刷。時事通信社。	
★	★				1969	昭和	44	4	2	☆	陳公博、汪兆銘ほかについて。読売新聞記者松崎昭一のインタビュー 国会図書館にトランスクリプション等30枚あり。国会図書館「昭和史の天皇」松崎分の資料番号1-26-12等。陳公博に関して（汪兆銘に招かれて南京政府に参加の経緯、日本亡命までの経緯、戦後の重慶前進部隊の南京入り、日本亡命中の陳公博）	読売新聞 「昭和史の天皇」オーラルヒストリー インタビュー
18	244	今井武夫書簡	今井武夫	外務省文書課長(原稿)	1969	昭和	44	4	5	書簡	文書閲覧願(原稿)。「アジア研究」1968年6月19日号の裏紙に記載。	
18	245	履歴書原稿	今井武夫		1969	昭和	44	4	5	履歴書	18-244に添付。「アジア研究」1970年6月19日号の裏紙に記載。	
18	402	夏部隊御芳名			1969	昭和	44	4	10	書類		
21	110	「悲劇の官軍隊長 相楽総三」	朝日新聞社		1969	昭和	44	4	26	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
21	55	日本人の対ソ観	広西元信		1969	昭和	44	4		冊子	「外交時報 昭和44年11月号」の抜刷。	
19	190	今井「日本語のわからない馬」	中央月島新聞社		1969	昭和	44	5	5	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	
★	★				1969	昭和	44	5	6	☆	於豊島園池畔亭。	長野中学同級会に出席
19	179	長野中学同級会			1969	昭和	44	5	6	写真	於豊島園池畔亭。カラー写真。10名。	
19	180	長野中学同級会			1969	昭和	44	5	6	写真	於豊島園池畔亭。白黒写真。6名。	
21	160	「天声人語 保険医療問題 架空請求」	朝日新聞社		1969	昭和	44	5	16	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
1	57	神佑来書簡	神佑来	今井武夫	1969	昭和	44	5	30	書簡	1-56何応欽自著の裏に記載。	
4	11	動向 6 改憲か革命か	動向社		1969	昭和	44	6	1	雑誌		
4	74	証言 私の昭和史 1	東京12チャンネル 報道部		1969	昭和	44	6	23	書籍	森島守人・宮内靈勝「満州某重大事件 -張作霖爆死の真相」武内文彬・片倉衷・竹久義明「満州事件勃発す」。学芸書林。	
2	29	広島行	何応欽		1969	昭和	44	6		冊子	初版。編集者吉村是二。この版には今井の寄稿文なし。21-248に関連。吉村は根本博の通訳兼副官的存在。	
21	132	松本秀夫「カイゼルと西園寺公」	日本経済新聞社		1969	昭和	44	7	4	新聞	日本経済新聞。新聞切抜。	
19	191	今井「盧溝橋のミステリー」	中央月島新聞社		1969	昭和	44	7	5	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	
★	★				1969	昭和	44	7	7	☆		暁月会に出席
21	33	今井「盧溝橋事件について」 今井「河辺正三・牟田口廉也将軍を憶う」	北京暁月会事務所		1969	昭和	44	7	7	冊子	北京暁月会 特集号。 「河辺正三・牟田口廉也将軍を憶う」の原稿は12-120か。11-213参照。 本冊子の後ろに会員の名簿と住所の記載あり。今井のメモ記載あり。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
21	111	「追われる維新の農民工作隊 無頼官軍」	朝日新聞社		1969	昭和	44	7	9	新聞	朝日新聞夕刊。新聞切抜。	
18	276	NHK 内田九州大学名誉教授 談	今井武夫		1969	昭和	44	7	15	メモ	昆虫に関するメモ。「アジア研究」1968年7月8日号の裏紙に記載。	
21	325	阪田誠盛書簡	阪田誠盛	今井武夫	1969	昭和	44	7	20	書簡	戦後は井戸垣駿主計大佐、次いで石光主計大佐に身を任せたがうまくいかない。悔悟の24年間である。坂田は昔の軍属。佐野真一『阿片王 満州国の夜』（新潮社）に270～271頁に戦後の坂田について記載あり。	
4	68	証言 私の昭和史 2	東京12チャンネル 報道部		1969	昭和	44	7	31	書籍	牟田口廉也・今井「盧溝橋の銃声」。 今井・清水董三「汪兆銘工作回想-みのらなかつた日中和平-」。学芸書林。	
12	120	河辺正三大将と牟田口廉也中 将	今井武夫		1969	昭和	44	7		原稿	中央電機工業社の罫紙に2枚の原稿。未完。11-214参照。21-33の原稿か。年月は推定。	
1	33	The Sinister Face of the Mukden Incident	Chin-tung Liang		1969	昭和	44	7		書籍	Mukdenは旧奉天・盛京（現瀋陽）のこと。the Mukden Incidentとは柳条湖事件のこと。宋越倫から送ってきた本。The St. John's University Press。	
21	73	「むかしばなし 50年前の東 部地区」	青少年対策東部 地区委員会		1969	昭和	44	8	1	新聞	東京都中野区役所の機関紙「つどい」。東中野地区の昔の概況について。新聞切抜。	
21	112	鹿野政直「呼戻された志士 相楽総三」	朝日新聞社		1969	昭和	44	8	4	新聞	朝日新聞夕刊。新聞切抜。	
22	16	何応欽將軍著 広島行の出版に あたって	吉村是二		1969	昭和	44	8	6	書類	初版2-29発行の際の前書きにあたる。根本博中將のことなど。21-248に同じ。吉村は根本中將の副官兼通訳的存在。	
21	248	何応欽將軍著 広島行の出版に あたって	吉村是二		1969	昭和	44	8	6	書類	初版2-29発行の際の前書きにあたる。根本博中將のことなど。22-16に同じ。	
11	189	今井「日本語のわからない馬」	騒人社		1969	昭和	44	8	10	雑誌	騒人 2号。	
6	19	怒濤の中の太陽	鈴木武		1969	昭和	44	8	15	書籍	鈴木貫太郎首相と孝雄大将兄弟伝。鈴木貫太郎首相秘録編纂委員会。	
☆	☆				1969	昭和	44	8	20	☆		陳君璧 上京 日本倶楽部で面会 「周蔭庠は動静不明 死亡に非ずや」と
4	70	読売新聞 昭和44年8月21日号	読売新聞社		1969	昭和	44	8	21	新聞		
13	133	今井武夫日記	今井武夫		1969	昭和	44	8	23	日記	1970年8月31日迄。約一年間。	
4	71	「カラ・ホト工作員の悲劇」	日本経済新聞社		1969	昭和	44	8	26	新聞	日本経済新聞。新聞切抜。4-68に挿入。	
12	123	満州事変を激発した原因	今井武夫		1969	昭和	44	8		原稿	1-66の今井「満州事変激発に対する一考察」の原稿58枚と思われるが、かなり相違あり。末尾に参考書の記載あり。月は推定。	
1	66	今井「満州事変激発に対する 一考察」	霞山会・東亜学 院		1969	昭和	44	9	1	雑誌	季刊「東亜 8集」。同一2部あり。12-123に原稿あり。	
11	181	寺田浄書簡	寺田浄	今井武夫	1969	昭和	44	9	8	書簡	石友三將軍のことにつき問い合わせ。連隊長の「討つてよろしい」との命令について。11-180に挿入。年は推定。寺田は北平にいた元憲兵大尉。11-81を出版。	
11	169	中村元「シナと「中国」	朝日新聞社		1969	昭和	44	9	14	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
11	64	寺平忠輔書簡	寺平忠輔	今井武夫	1969	昭和	44	9	18	書簡	盧溝橋事件について。犬養健との見解の相違ほか。書籍発行準備中とあるので1969年か。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
4	73	証言 私の昭和史 5	東京12チャンネル 報道部		1969	昭和	44	10	31	書籍	今井・木村辰男「支那派遣軍の降伏 - 芷江会談-」東京12チャンネル報道部篇 『証言 私の昭和史 5 終戦前後』。1966年9月9日TV出演したときの記録。11-123にシナリオあり。学芸書林刊。	
☆	☆				1969	昭和	44	11	1	☆	於港区芝西応寺。江梅会は汪兆銘にゆかりの人の集り。	江梅会に出席
13	5	江梅会出席者一同			1969	昭和	44	11	1	写真	於港区芝西応寺。	
8	6	学園歳時記	生江義男		1969	昭和	44	11	15	書籍		
1	34	宋越倫 書簡	宋越倫	今井武夫	1969	昭和	44	11	25	書簡	書籍送り状。宋越倫は中華民国駐日大使館員。1-33に挿入。	
5	4	われら荊沙の地に 一或る警備 兵団の戦記一	池田寿亀		1969	昭和	44	12	15	書籍	池田は元陸軍少尉。戦記研究懇話会。	
4	69	東京12チャンネル 報道部 ” 私の昭和史” 係書簡	東京12チャンネル 報道部 ”私 の昭和史” 係	宛先不明	1969	昭和	44			書籍	テレビ出演内容を本にすることを快諾したことへのお礼。今井宛か。	
21	97	北ベトナムの表情	山本薩夫		1969	昭和	44			冊子	現代史研究会発行。講演記録。	
18	435	台湾宜蘭県地図			1969	昭和	44			地図	栽培候補地に印あり。	
21	218	宋越倫	宋越倫		1969	昭和	44			名刺	肩書は中華民国駐日本国大使館顧問。1-34参照。年度は全くの推定。	
13	146	雑記帳ノート	今井武夫		1969	昭和	44			メモ	2-11大久保伝蔵の「忘れてならぬ歴史の一部」読後感、勝海舟の原稿、米ソの武力の比較ほか。年は推定。	
11	13	相手側の立場で考えよう	今井武夫		1969	昭和	44			原稿	「中央月島新聞原稿用紙」 11枚。18-268関連。年は推定。	
18	268	相手方の立場で考える必要	今井武夫		1969	昭和	44			原稿	「アジア研究」1968年7月29日号の裏紙に記載。11-13関連。年度は全くの推定。	
18	246	冀察軍の中国将軍連	今井武夫		1969	昭和	44			原稿	「アジア研究」1968年6月7日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	
18	256	投降式で岡村大将自殺の情報	今井武夫		1969	昭和	44			原稿	「アジア時報」1968年6月10日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	
21	258	敗戦後の芷江連絡	今井武夫		1969	昭和	44			原稿	「アジア研究」1968年10月14日付の裏に記載。3枚。年度は全くの推定。	
13	185	今井武夫手帳	今井武夫		1969	昭和	45	1	1	手帳	1970年12月31日迄。	
23	52	秋定鶴造書簡	秋定鶴造	今井武夫	1970	昭和	45	1	1	書簡	秋定鶴造から 年賀状	
23	22	月野木正雄書簡	月野木正雄	今井武夫	1970	昭和	45	1	1	書簡	月野木正雄（今井の陸士時代の中隊長・中尉）から今井宛の年賀状	
23	20	永津佐比重書簡	永津佐比重	今井武夫	1970	昭和	45	1	1	書簡	永津佐比重中将から 年賀状	
23	21	中野英光書簡	中野英光	今井武夫	1970	昭和	45	1	1	書簡	中野英光中将から 年賀状	
19	192	今井「迎春風景いろいろ」	中央月島新聞社		1970	昭和	45	1	5	新聞	中央月島新聞。ここでは「無風」でなく、「今井生」となっている。	
5	7	現代の黒幕 児玉誉士夫の虚像 と実像	猪野健治		1970	昭和	45	1	7	書籍	2版。288～289頁に今井に関する記載あり。創魂出版。	
5	5	池田寿亀書簡	池田寿亀	今井武夫	1970	昭和	45	1	8	書簡	拙著送付について。5-4に挿入。	
21	327	矢部忠太・桑原寿二対談、司 会武内昌次「中ソ国境紛争と 日本」	国際善隣倶楽部		1970	昭和	45	1	10	冊子	正誤表挿入あり。	
21	122	「テレタイプ 望み薄かへ ス釈放」			1970	昭和	45	1	13	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
21	21	鹿島宗二郎書簡書簡	鹿島宗二郎	宛先不明	1970	昭和	45	1		書簡	冊子の送り状。	
21	22	中国大陸観光漫感 序文和訳	鹿島宗二郎		1970	昭和	45	1		冊子	21-21に封入されたもの。	
19	193	今井「よなげ屋の優越感」	中央月島新聞社		1970	昭和	45	2	5	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	
9	12	岡村寧次大将資料（上）一戦場回想編一	稲葉正夫		1970	昭和	45	2	20	書籍	原書房。東条陸相からの内密依頼の対重慶連絡工作について記載あり。稲葉は元陸軍中佐。	
5	20	今井「石井勇之助君をしのぶ」	陸士三十期生会		1970	昭和	45	2		冊子	前回迄の追補会誌。昭和43年以降昭和44年迄 追悼録(第五回補足)。5-18の続き。	
18	264	余剰米	今井武夫		1970	昭和	45	3	3	原稿	「アジア研究」1969年11月19日号の裏紙に記載。岩手大学教授の話。年は推定。	
★	★				1970	昭和	45	3	5	☆		夏部隊会に出席
11	184	「特別企画 日本陸軍」	読売新聞社		1970	昭和	45	3	13	雑誌	週刊読売 特別号。切抜。	
4	120	昭和史の天皇 10	読売新聞社		1970	昭和	45	3	25	書籍	神保信彦の今井宛1972年3月31日付書簡 4-121が表紙に記載されている。	
13	157	雑記帳ノート	今井武夫		1970	昭和	45	3	28	メモ	ノートに記載。講話準備のためのノートか。3月28日付けの懐風草堂に於いての準備内容項目ほか。『昭和史の天皇 3』の頁数を記載し、かなり言及している。	
12	110	今井「通州事件の顛末」	外交時報社		1970	昭和	45	4	1	雑誌	外交時報 1073号4月号。1-77の切抜。	
1	77	今井「通州事件の顛末」	外交時報社		1970	昭和	45	4	1	雑誌	外交時報 1073号4月号。	
21	244	曹大中書簡	曹大中	今井武夫	1970	昭和	45	4	4	書簡	曹大中の名刺に記載。互いに祖国のために邁進しましょう。	
3	99	偉大なる東洋人 ホセ・リサール	日本リサール協会		1970	昭和	45	4	13	冊子	ホセ・リサールはフィリピンの英雄。	
19	194	今井「水牛の亡霊」	中央月島新聞社		1970	昭和	45	4	15	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。3-40関連。	
18	273	水牛について	今井武夫		1970	昭和	45	4		原稿	年月は全くの推定。3-40, 19-194関連。	
9	13	中野英光書簡	中野英光	今井武夫	1970	昭和	45	5	2	書簡	岡村資料に対する感想。9-12に挿入。中野は元済南特務機関長。中将。	
19	201	今井「真田幸村のこと」	中央月島新聞社		1970	昭和	45	5	5	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	
11	180	第一線の見た 盧溝橋事件記	寺田浄		1970	昭和	45	5	20	書籍	中央公論事業出版。寺田は元憲兵大尉だが、安井三吉は『柳条湖事件から盧溝橋事件へ 1930年代華北をめぐる日中の対抗』（2003年研文出版）で寺田を憲兵軍曹と言っている。北平時代今井夫妻が親しかった赤藤憲兵分隊長の名前が本書に出てくる。	
21	67	日比のかけ橋 ホセ・リサール	木村毅		1970	昭和	45	6	10	冊子	日本ホセ・リサール協会事務局発行。リサール叢書1巻。マルコス大統領訪日記念。木村は早大教授。4-14と同じ。	
4	14	日比のかけ橋 ホセ・リサール	木村毅		1970	昭和	45	6	10	冊子	同一2部あり。1部は裏に今井のメモあり。リサール叢書1巻。木村は早大教授。21-67と同じ。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
1	18	中浜軍治「異国の友」	日本経済新聞社		1970	昭和	45	6	15	新聞	日本経済新聞。記事中に邵統麟の記載あり。1-17に挿入。邵は国民政府の高級部員で戦後駐韓大使となった。	
19	195	今井「猫の非妥協性」	中央月島新聞社		1970	昭和	45	6	15	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	
19	196	今井「江藤新平佐賀の乱」	中央月島新聞社		1970	昭和	45	6	25	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	
3	70	満州国史 総論	満州国史編纂刊行会		1970	昭和	45	6	30	書籍	満蒙同胞援護会。「満蒙」とは 満洲と内蒙古（華北5省のうち熱河・察哈爾・綏遠の3省）をさす	
12	152	善隣月報	金沢辰夫		1970	昭和	45	7	1	雑誌	村井宇一 「日本の北方固有領土」。	
8	5	続・千山萬里	庄子勇之助		1970	昭和	45	7	1	書籍	東亜同文書院第二十八期生。	
19	197	今井「台湾生蕃征討事件」	中央月島新聞社		1970	昭和	45	7	5	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	
★	★				1970	昭和	45	7	7	☆		北京曉月会に出席 全29名
22	34	北京曉月会出席者全員			1970	昭和	45	7	7	写真	全29名。	
9	18	盧溝橋事件 一日本の悲劇一	寺平忠輔		1970	昭和	45	7	20	書籍	8, 34, 51～53, 89, 175～176, 292, 403～404, , 406, 451頁に今井について記載あり。読売新聞社。	
2	1	天皇：昭和史覚書	栗原健		1970	昭和	45	8	10	書籍	110頁に今井に関する記載あり。原書房。	
19	198	今井「歩行者天国」	中央月島新聞社		1970	昭和	45	8	15	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	
18	215	支那事変と殿下	今井武夫		1970	昭和	45	8		原稿	3-161「秩父宮雍仁親王」の原稿と思われる。毎日新聞社（東京）の裏紙に記載。作成月は推定。	
2	20	善光寺日本忠霊殿史	善光寺日本忠霊殿造営奉賛会		1970	昭和	45	9	1	冊子	今井は善光寺日本忠霊殿造営奉賛会設立準備委員。	
3	161	秩父宮雍仁親王	秩父宮を偲ぶ会、鈴木昌鑑監修・芦沢紀之編		1970	昭和	45	9	1	書籍	768～769、771、787～788、800～801頁に今井のことが記載されている。18-215に原稿と思われるものあり。	
13	135	今井武夫日記	今井武夫		1970	昭和	45	9	1	日記	1971年2月11日迄。13-134と同一のノートに記載。	
13	161	今井武夫パスポート	外務省		1970	昭和	45	9	3	書類	今井のパスポート。1970年10月13日～23日迄台湾へ。天然痘予防接種証明書挿入あり。	
19	199	今井「腕時計のバンド」	中央月島新聞社		1970	昭和	45	9	5	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	
★	★				1970	昭和	45	9	8	☆	於霞山会。田尻愛義、塚本毅 同席。	永井洵一から 永井と河相達夫が終戦間近に行なった「スチュワート工作」について話を聞く
22	500	外務省の行なったスチュワート工作についての永井洵一からの聞き取りメモ	今井武夫		1970	昭和	45	9	8	メモ	永井と河相達夫が終戦間近に行なった「スチュワート工作」について聞いた話のメモ（於霞山会、田尻愛義、塚本毅 同席）。1956年「アジア研究」の裏に記載。3枚。	
18	277	高知図書館長	今井武夫		1970	昭和	45	9	13	メモ	植物の根についてのメモ。「アジア研究」1969年6月23日号の裏紙に記載。9月13日付。年度は全くの推定。	
4	47	歌集 我を観む	北原一視		1970	昭和	45	9	15	冊子	北原の4-46に続く歌集。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
9	19	「書評 真相究明の集大成」	読売新聞社		1970	昭和	45	9	24	新聞	読売新聞。今井の名も記載あり。新聞切抜。9-18に挿入。	
11	207	東京長中会会員名簿（長野高校同窓会員名簿付）	東京長中会事務所		1970	昭和	45	9		冊子	今井は長野中学卒。	
7	27	中国 1970年10月号 83号	徳間書店		1970	昭和	45	10	1	雑誌		
9	42	宇垣一成日記 2	宇垣一成		1970	昭和	45	10	5	書籍	自昭和六年六月 至昭和十四年二月。みすず書房。	
9	76	American Express	American Express International Banking Corp		1970	昭和	45	10	12	書類	100ドル両替。	
★	★				1970	昭和	45	10	13	☆		10月23日迄台湾へ旅行
19	200	今井「子供の幸福は両親の健在から」	中央月島新聞社		1970	昭和	45	10	15	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	
21	156	余仲剛書簡	余仲剛	永野巖	1970	昭和	45	10	19	書簡	日華協力。台湾宜蘭県と福山市からの蘭草栽培供給について。複写。同一2枚あり。21-171参照。	
4	90	藤堂明保書簡	藤堂明保	今井武夫	1970	昭和	45	10	23	書簡	10月に東大を辞任しました。4-89に挿入。藤堂は昔の通訳。旧姓は今井。	
6	3	信濃財政経済会会員名簿 昭和四十五年十月版	信濃財政経済会		1970	昭和	45	10		書類	名簿。今井は日本リサーチ協会理事、著述家で登録。	
19	202	今井「台湾を旅行しての所見」	中央月島新聞社		1970	昭和	45	11	5	新聞	中央月島新聞。「無風」は今井武夫のペンネームと、ここで明かされている。	
★	★				1970	昭和	45	11	12	☆	西浦は5日に死去。	西浦進の葬儀に参列（於市ヶ谷旧士官学校講堂）
19	203	今井「恩田奎(おんだもく)の藩政改革」	中央月島新聞社		1970	昭和	45	11	15	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	
★	★				1970	昭和	45	11	20	☆		鼓楼会に出席（陳昭凱中将中華民国大使館高級顧問来任歓迎会を兼ねる）
21	95	今瀬順義「フィリピン独立の父 国民的英雄ホセ・リサール」			1970	昭和	45	11	25	新聞	社会モニター新聞。昭和45年11月25日号。	
19	204	今井「徳をもって怨みに報ゆ 一蒋介石総統の布石一」	中央月島新聞社		1970	昭和	45	11	25	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	
★	★				1970	昭和	45	11	26	☆	岩畔は22日に死去。	岩畔豪雄の葬儀に参列（於築地本願寺）
7	39	児島襄「バターン半島攻略戦”文人”本間雅晴中将の弱点”」	小学館		1970	昭和	45	12	11	雑誌	週刊ポスト。今井に関する記述あり。	
19	205	今井「殺生を禁じた犬公方のこと」	中央月島新聞社		1970	昭和	45	12	25	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	
12	224A	日華協力の中小企業歓迎	余仲剛		1970	昭和	45			書類	21-156関連か。	
1	79	記録にない教訓	今井武夫		1970	昭和	45			原稿	「無風」は今井の号。「中央月島新聞原稿用紙」10枚。	
1	80	記録にないニュース	今井武夫		1970	昭和	45			原稿	1-79の元原稿と思われる。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
21	99	早乙女貢著「奇兵隊の反乱」に対する池田岬の書評			1970	昭和	45			新聞	掲載紙不明。新聞切抜。	
21	171	椎茸、蘭草、郎草の台湾宜蘭県での栽培について	今井武夫		1970	昭和	45			メモ	3枚。21-156関連。	
18	269	ニクソン外交と対中国政策	今井武夫		1970	昭和	45			原稿	2枚。	
13	149	雑記帳ノート	今井武夫		1970	昭和	45			メモ	1969年6月28日永井洵一からの電話内容。1970年1月9日田尻愛義談。相楽総三についてはか。年代は推定。	
18	283	板垣修 台北駐在大使と蒋介石の会談	今井武夫		1970	昭和	45			原稿	日本の中共に対する態度について。年は推定。板垣は1969年6月から中華民国大使。	
18	293	東条陸相の日中和平工作	今井武夫		1970	昭和	45			メモ	昭和16年7月岡村寧次北支那司令官に個人的に岡村・殷同・王大楨ラインによる実施を依頼。「アジア研究」1970年1月14日号の裏紙に記載。9-12関連か。年は推定。	
18	344	閻錫山工作、東条陸相の和平工作	今井武夫		1970	昭和	45			メモ	「アジア研究」1970年1月14日号の裏紙に記載。9-12関連か。年は推定。	
11	208	東京長高会役員（案）			1970	昭和	45			書類	11-207に挿入。今井は顧問。長高は長野高校の略。	
18	243	女丈夫	今井武夫		1970	昭和	45			原稿	本間中将の天津における私行。昭和14年天津に駐屯していた本間正晴中将が中国人に預けていた金時計を日本に持ってきたが、本間中将の未亡人が受け取らない話。「アジア研究」1969年2月21日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	
21	256	桐工作について	今井武夫		1970	昭和	45			原稿	「アジア研究」1969年5月27日付の裏に記載。3枚。年度は全くの推定。	
21	257	日本軍の政謀略	今井武夫		1970	昭和	45			原稿	「アジア研究」1969年7月11日付の裏に記載。3枚。年度は全くの推定。	
18	275	病院のインターン学生の待遇	今井武夫		1970	昭和	45			原稿	「アジア研究」1969年2月28日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	
18	290	中国におけるソ連軍との戦闘	今井武夫		1970	昭和	45			原稿	「アジア研究」1969年7月7日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	
18	284	中国からの引揚げに関するメモ	今井武夫		1970	昭和	45			メモ	「アジア研究」1969年6月9日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	
12	112	今井「支那事変終末工作と大本営」	外交時報社		1970	昭和	46	1	1	雑誌	外交時報 1081号 1月号。1-78の切抜。	
1	78	今井「支那事変終末工作と大本営」	外交時報社		1971	昭和	46	1	1	雑誌	外交時報 1081号 1月号。同一2部あり。	
13	186	今井武夫手帳	今井武夫		1971	昭和	46	1	1	手帳	1971年12月31日迄。	
22	267	黄亦星書簡	黄亦星	今井武夫	1971	昭和	46	1	4	書簡	「昭和史の天皇」を読んで感涙した。黄の祖父は早稲田大学卒。父の黄星は初代駐日大使褚民誼の片腕であった。1970年代のものか。年は推定。	
9	43	宇垣一成日記 3	宇垣一成		1971	昭和	46	1	25	書籍	自昭和十四年三月 至昭和二十四年七月。みすず書房。	
11	151	ジョン・トーランド「Z旗墮つ⑤」	毎日新聞社		1971	昭和	46	1	31	雑誌	サンデー毎日。今井部隊について記載あり。複写。	
19	206	今井「井戸端会議」	中央月島新聞社		1971	昭和	46	2	5	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	
11	152	ジョン・トーランド「Z旗墮つ⑥」	毎日新聞社		1971	昭和	46	2	7	雑誌	サンデー毎日。複写。11-151と同じ綴り。	
19	207	今井「高齢者の健康法」	中央月島新聞社		1971	昭和	46	2	15	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
21	147	西浦氏追悼録編纂準備委員会書簡	西浦氏追悼録編纂準備委員会	今井武夫	1971	昭和	46	2		書簡	追悼録作成の発起人依頼。	
19	208	今井「五十年の変化」	中央月島新聞社		1971	昭和	46	3	5	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	
21	145	小笠原清書簡	小笠原清	今井武夫	1971	昭和	46	3	8	書簡	西浦進氏追悼録編纂発起人名簿に、今井の名前を勝手に入れたが、ご了承ください。西浦との回想追悼記の依頼。	
★	★				1971	昭和	46	3	12	☆		夏部隊会に出席
19	209	今井「昔のはなし 小学校のプール問題で都知事から紹介状」	中央月島新聞社		1971	昭和	46	3	15	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	
21	161	「天声人語 ズウの生態について」	朝日新聞社		1971	昭和	46	3	18	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
★	★				1971	昭和	46	3	19	☆	盧溝橋事件 満洲事変ほかについて。読売新聞記者松崎昭一のインタビュー 国会図書館にテープとトランスクリプション28枚あり。国会図書館 資料番号1-26-13。盧溝橋事件直後の状況と大谷光瑞の訪問、満洲事変当時の現地の状況、石原莞爾と錦州爆撃、今井武夫 十月事件後の足どり、石友三と七月七日のうわさ	読売新聞 「昭和史の天皇」オーラルヒストリー
19	210	今井「考えさせる維新の歴史」	中央月島新聞社		1971	昭和	46	3	25	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	
4	99	昭和史の天皇 14	読売新聞社		1971	昭和	46	3	30	書籍	107、109頁以下陳公博に関して、ところどころに、今井の証言あり。読売新聞社。	
21	142	西浦進氏追悼編纂趣意書	西浦進氏追悼編纂委員会		1971	昭和	46	3		書類	追悼録委員会が正しいのであろう。	
21	143	西浦進氏追悼録編纂委員会書簡	西浦進氏追悼録編纂委員会	今井武夫	1971	昭和	46	3		書類	回想記事5枚と追悼記事3枚の原稿依頼。	
21	144	西浦進氏追悼録編纂発起人名簿と編纂委員名簿	西浦進氏追悼録編纂委員会		1971	昭和	46	3		書類	西浦は陸士34期。	
21	146	西浦進氏追悼録 支那派遣軍総司令部時代執筆者	西浦進氏追悼録編纂委員会		1971	昭和	46	3		書類	今井には支那派遣軍第一課長時代を中心に原稿5枚依頼。西浦は戦後防衛庁戦史室長だった。	
11	220	十月事件(一)	苅田徹		1971	昭和	46	3		冊子	東京都立大学法学会雑誌 11巻2号。抜刷。	
★	★				1971	昭和	46	4	6	☆		防衛庁戦史室訪問 (島貫武治室長らと懇談)
19	40	於防衛庁戦史室に於いて都甲長尾 今井 島貫武治 季			1971	昭和	46	4	6	写真		
10	457	「昭和史の天皇 1441 近衛と軍 5 意想外の書記官長」	読売新聞社		1971	昭和	46	4	9	新聞	読売新聞。新聞切抜。	
10	458	「昭和史の天皇 1442 近衛と軍 6 巨大施策の決定」	読売新聞社		1971	昭和	46	4	10	新聞	読売新聞。新聞切抜。	
10	459	「昭和史の天皇 1443 近衛と軍 7 参謀本部での石原」	読売新聞社		1971	昭和	46	4	11	新聞	読売新聞。新聞切抜。	
21	148	西浦進氏追悼録編纂委員会書簡	西浦進氏追悼録編纂委員会	宛先不明	1971	昭和	46	4	12	書簡	募金依頼。一口千円。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
14	269	「昭和史の天皇 1444、近衛と軍 8 重病の高級幹部」	読売新聞社		1971	昭和	46	4	13	新聞	読売新聞。新聞切抜。今井に関する記載あり。	
15	18	「昭和史の天皇 1444 近衛と軍 8 重病の高級幹部」	読売新聞社		1971	昭和	46	4	13	新聞	読売新聞。新聞切抜。今井に関する記載あり。	
15	19	「昭和史の天皇 1445 近衛と軍 9 タカ派課長の述懐」	読売新聞社		1971	昭和	46	4	14	新聞	読売新聞。新聞切抜。永津佐比重大将の証言。	
4	103	田代皎書簡	田代皎	今井武夫	1971	昭和	46	4	14	書簡	皎は田代統一郎中将の長男。陸士50期。読売新聞の昭和史の天皇の記事における今井の田代統一郎評に感謝。4-102に挿入。	
15	20	「昭和史の天皇 1446 近衛と軍 10 不拡大論の矛盾」	読売新聞社		1971	昭和	46	4	15	新聞	読売新聞。新聞切抜。高橋坦中将の証言。	
21	149	西浦進氏追悼録編纂委員会書簡	西浦進氏追悼録編纂委員会	今井武夫	1971	昭和	46	4	15	書簡	寄付金恵送に対するお礼。伊藤の印のある寄付金領収書同封あり。	
15	21	「昭和史の天皇 1447 近衛と軍 11 満州欠く地図では」	読売新聞社		1971	昭和	46	4	16	新聞	読売新聞。今井について記載あり。新聞切抜。高橋坦中将の証言(続き)。	
10	460	「昭和史の天皇 1448 近衛と軍 12 軍中央の一撃論」	読売新聞社		1971	昭和	46	4	17	新聞	読売新聞。新聞切抜。	
21	323	高橋坦書簡	高橋坦	今井武夫	1971	昭和	46	4	20	書簡	読売新聞社からインタビュー2時間ばかり受けた。記事は多少修飾してある。田代閣下のことはあの通りです。「昭和史の天皇」のことか。	
★	★				1971	昭和	46	4	25	☆		陸士三十期生会総会（於借行社）に出席
21	47	昭和45年度会計報告	陸士三十期生会		1971	昭和	46	4	25	書類	21-45に挿入。	
2	55	幕僚勤務の体験	吉橋戒三		1971	昭和	46	5	5	書籍	235、279頁今井関連記事あり。吉橋は元侍従武官・陸軍大佐。防衛大学教授。朝雲新聞社。	
21	247	一星会運動に就いて	吉村是二		1971	昭和	46	5	10	冊子	『師と友 5月号』「中国の想出」からの抜刷。日付は推定。	
12	149	東南ア華僑の組織	倉岡克行		1971	昭和	46	5	15	書籍	学術選書。付録 シンガポールは第3の中国になるだろうか？	
3	89	根本博追悼記念一第3集一	根本博顕彰会		1971	昭和	46	5	24	冊子	根本は陸士23期。中将。今井が参謀本部勤務になったときの班長。	
19	211	今井「鳩と象の情愛」	中央月島新聞社		1971	昭和	46	5	25	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	
21	283	何応欽將軍に 感謝署名簿拝呈の辞	一星会同人		1971	昭和	46	6	1	書類	一星会は吉村是二、今井らが率いるもの。	
21	284	一星会由来	一星会同人		1971	昭和	46	6	1	書類	21-283に添付。	
19	212	今井「日中問題 国策は基本から 慎重な研究が必要」	中央月島新聞社		1971	昭和	46	6	5	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	
4	76	北京暁月会々報 2号	暁月会事務局		1971	昭和	46	6	15	書類	今井「在支談片録(1) 何応欽將軍」。21-240に同じ。会報だが1枚のみ。21-240に同じ。風間古城の漢詩あり。	
21	240	北京暁月会々報 2号	暁月会事務局		1971	昭和	46	6	15	書類	今井「在支談片録(1) 何応欽將軍」。会報だが1枚のみ。表裏記載あり。4-76に同じ。風間古城の漢詩あり。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
19	213	今井「道義の振興と民族の盛衰 終戦時を顧みて」	中央月島新聞社		1971	昭和	46	6	15	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	
4	111	大日本帝国の興亡 2 昇る太陽	ジョン・トーランド		1971	昭和	46	6	20	書籍	毎日新聞社訳。138～139、141、185、194、204頁、巻末ノートのI X頁に、今井に関する記載あり。毎日新聞社。	
4	100	昭和史の天皇 15	読売新聞社		1971	昭和	46	6	25	書籍	「第八中隊」375頁以下に今井の証言あり。	
14	242	松山良政書簡	松山良政	今井武夫	1971	昭和	46	7	3	書簡	盧溝橋の時の証言。重要。松山は陸士29期。旅団司令部高級副官。のち第6連隊長。	
19	214	今井「日中復交に就て 過度の卑屈を排す」	中央月島新聞社		1971	昭和	46	7	5	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	
19	215	今井「政権維持に必要なことは道義」	中央月島新聞社		1971	昭和	46	7	15	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	
8	25	悲憤の碑文	神山誠		1971	昭和	46	7	20	書籍		
4	18	停年まで	今井勇之進		1971	昭和	46	7		冊子	今井勇之進は東北大学名誉教授。今井の長野時代からの友人（後輩）。	
21	45	第三十期生会 規約・会員名簿 15号	陸士三十期生会		1971	昭和	46	7		冊子	正誤表挿入あり。	
14	263	中野英光書簡	中野英光	今井武夫	1971	昭和	46	8	1	書簡	台湾を見捨てぬ佐藤総理訪問にホットした。蒋介石の嗣子はソ連の女房なので、がたつくのではないかと心配。	
12	113	今井「何応欽將軍と日本人の帰国」	ミツワ印刷会社		1971	昭和	46	8	1	冊子	2-30の切抜。	
2	30	今井「何応欽將軍と日本人の帰国」	何応欽		1971	昭和	46	8	1	冊子	広島行。初版2-29の再版。1971年7月1日記と末尾にあり。	
21	249	今井「何応欽將軍と日本人の帰国」	何応欽		1971	昭和	46	8	1	冊子	初版2-29の再版。追加。1971年7月1日記と末尾にあり。2-30と同じだが今井の訂正箇所あり。	
19	216	今井「農村の花嫁難」	中央月島新聞社		1971	昭和	46	8	5	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	
21	106	小笠原清書簡	小笠原清	今井武夫	1971	昭和	46	8	23	書簡	今井からの陳公博の日本亡命日時と岡村大将の復員日の問い合わせに対する、小笠原からの返事。年度は全くの推定。	
19	217	今井「嘘と大言壮語」	中央月島新聞社		1971	昭和	46	8	25	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	
21	46	陸士三十期生会 東京世話人会 書簡	陸士三十期生会 東京世話人会	陸士三十期生会員	1971	昭和	46	8	26	書簡	21-45に挿入。4月25日借行社での総会変更通知。	
21	48	第三十期生会 規約・会員名簿 15号 正誤表	陸士三十期生会		1971	昭和	46	8	28	書類	21-45に挿入。	
21	250	吉村是二書簡	吉村是二	今井武夫	1971	昭和	46	9	2	書簡	根本博の冊子を作ることでの相談。「広島行」を送る。21-249に挿入。内外動燃株の野紙に記載。	
4	19	今井勇之進書簡	今井勇之進	今井武夫	1971	昭和	46	9	6	書簡	拙文送付と台湾行きにつき。4-19に挿入。	
4	98	日本外交史 24	太田一郎		1971	昭和	46	9	15	書籍	今井について記述あり。	
★	★				1971	昭和	46	9	24	☆		信州高遠町に遊ぶ
11	131	児島襄「バルジ大反撃の立案者ヨードルの”誤算”」	小学館		1971	昭和	46	9	24	雑誌	週刊ポスト。切抜。	
21	304	民族のいのち 8号	伊東六十次郎		1971	昭和	46	10	10	書類	21-300に挿入。伊東は長野県出身の歴史家。	
4	102	昭和史の天皇 16	読売新聞社		1971	昭和	46	10	10	書籍	「重病の高級幹部」39頁以下に今井の田代皖一郎支那駐屯軍司令官に対する評あり。	
9	38	アッツキスカ軍司令官の回想録	樋口季一郎		1971	昭和	46	10	11	書籍	376頁に今井に関する記載あり。樋口は元陸軍中將。芙蓉書房。ハルビン特務機関長時代2万人のユダヤ移民を救った。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
21	368	過疎地への自立を愛する人の移住について	今井武夫		1971	昭和	46	10	23	メモ		
11	130	児島襄「中国風思考に敗れた今井大佐の桐工作」	小学館		1971	昭和	46	10	29	雑誌	週刊ポスト。3巻44号。切抜。	
19	218	今井「武田勝頼奮戦の地 ー 高遠に遊ぶー」	中央月島新聞社		1971	昭和	46	11	5	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	
21	200	今井「鼓楼会」	西浦進氏追悼編集委員会		1971	昭和	46	11	15	冊子	西浦進。複写。21-143～146関連。陳昭凱参謀のことも記載あり。西浦は前年の昭和45年11月5日に死去。	
19	219	今井「七億五千万人口の中国の姓氏録」	中央月島新聞社		1971	昭和	46	11	15	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	
★	★				1971	昭和	46	12	2	☆		曹大中、王延齡、三石照雄と会食 (於帝国ホテル)
21	246	曹大中の長男曹彤・小陽夫妻	周少陽		1971	昭和	46	12	2	写真	今井武夫伯父・伯母宛姪敬呈とある。台湾永和撮影したもの。	
21	243	曹大中、王延齡、三石照雄、今井の会食			1971	昭和	46	12	8	写真	於帝国ホテル地下中国飯店。ポラロイド写真。	
1	74	今井「何応欽將軍と日本人の帰国」	関西師友協会		1971	昭和	46	12	10	雑誌	関西師友 12月号。同一2部あり。	
3	90	根本博顕彰会書簡	根本博顕彰会	今井武夫	1971	昭和	46			書簡	根本博顕彰会からの3-89冊子送付状と思われる。3-89に挿入。	
21	166	陸上自衛隊幹部学校修親会の封筒	中島賢		1971	昭和	46			写真	今井武夫宛。封筒の中身なし、中島は二佐。21-149を入れた封筒か。	
21	217	陳昭凱	陳昭凱		1971	昭和	46			名刺	陳の肩書は中華民国駐日本国大使館顧問。陸軍中将で終戦時支那派遣軍総司令部と緊密な交渉にあたった参謀。21-200参照。Chen Chao-Kai。	
22	499	対重慶和平	今井武夫		1971	昭和	46			原稿	1970年「アジア研究」の裏に記載。1枚。年度は全くの推定。	
22	505	南京政府の対米英戦線と重慶政府との連絡	今井武夫		1971	昭和	46			原稿	1970年「アジア研究」の裏に記載。1枚。年度は全くの推定。	
18	282	河相達夫公使の和平交渉	今井武夫		1971	昭和	46			原稿	「アジア研究」1970年8月10日号の裏紙に記載。2枚。年度は全くの推定。	
21	271	終戦後中華民国の好意的態度 日本の中共と中華民国への態度	今井武夫		1971	昭和	46			原稿	日中国交回復前のものか。「アジア研究」1970年1月9日の裏に記入。5枚。年度は全くの推定。	
22	503	児玉源太郎について	今井武夫		1971	昭和	46			メモ	1970年「アジア研究」の裏に記載。1枚。年度は全くの推定。	
22	504	周仏海の重慶の通牒ほか	今井武夫		1971	昭和	46			メモ	1970年「アジア研究」の裏に記載。1枚。年度は全くの推定。	
18	237	参考文書	今井武夫		1971	昭和	46			メモ	11冊の本の紹介。「アジア研究」1970年8月12日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	
18	353	39師団澄田ほか	今井武夫		1971	昭和	46			メモ	「アジア研究」1970年5月1日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	
21	370	今井武夫書簡	今井武夫	宛先不明	1971	昭和	46			書簡	手紙の返事の草案。写真同封とある。内容まとまっておらず。「アジア研究」1970年10月14日号の裏に記載。年度は全くの推定。	
21	178	メモと図	今井武夫		1971	昭和	46			メモ	一星会の罫紙の裏に記載、21-177の写真に同封。年は推定。	
16	7	中国と父と私	酒井洋		1971	昭和	46			冊子	洋は酒井隆中将の息子。戦後刑死した父の中将のことを回想したもの。ピンボン外交の頃。年は推定。	
18	236	林檎の伝説	今井武夫		1971	昭和	46			原稿	「アジア研究」1970年6月29日号の裏に記載。1枚。年は推定。	
13	187	今井武夫手帳	今井武夫		1972	昭和	47	1	1	手帳	1972年12月31日迄。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
23	25	大谷照乗・大谷寿子書簡	大谷照乗・大谷寿子	今井武夫	1972	昭和	47	1	1	書簡	西本願寺連枝大谷照乗・寿子夫妻から今井宛の年賀状	
23	24	角田房子書簡	角田房子	今井武夫	1972	昭和	47	1	1	書簡	作家角田房子から 年賀状	
19	220	今井「子供の幸福は両親の健在から」	中央月島新聞社		1972	昭和	47	1	5	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載 19-200と同じ内容が記載されている。	
6	41	軍参謀長 岩畔豪雄	岩畔参謀長追悼録編纂委員会		1972	昭和	47	1	29	冊子	岩畔は今井の同期。昭和45年11月25日死去。	
4	43	津田静枝さんを偲んで	「津田静枝さんを偲んで」出版世話人会		1972	昭和	47	2	29	冊子	今井「無欲恬淡な酒仙、津田さん」。津田は元海軍中将。	
★	★				1972	昭和	47	3	7	☆		TBS プリタニカ 編集局長から 今井宛「プリタニカ国際百科辞典」への「日華事変」に関する執筆依頼
21	264	TBSプリタニカ編集局長書簡	TBS プリタニカ 編集局長	今井武夫	1972	昭和	47	3	7	書簡	「プリタニカ国際百科辞典」への「日華事変」執筆依頼。21-276関連。TBSプリタニカは現在阪急電鉄の子会社となり阪急コミュニケーションズとなっている。21-263に挿入。	
21	265	今井武夫宛 原稿依頼伝票	TBS プリタニカ 編集局	今井武夫	1972	昭和	47	3	7	書類	締切 7月30日。250字で70枚。21-263に挿入。	
13	7	日本郷友連盟参与 名簿	日本郷友連盟		1972	昭和	47	3	10	名簿	今井は参与。	
21	326	蒙古についての講話要旨	矢野光二		1972	昭和	47	3	10	冊子	矢野は元大佐。	
9	82	参謀	児島襄		1972	昭和	47	3	15	書籍	列伝として今井の項あり。辻政信の項にも今井の記述あり。週刊ポスト（11-130）の書籍化。文藝春秋。	
19	221	今井「小学校入学前の準備教育は！」	中央月島新聞社		1972	昭和	47	3	15	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	
★	★				1972	昭和	47	3	26	☆		三男貞夫の結婚式出席のため家族と大阪へ 長野中学後輩小林周三（信越化学社長）と話す
★	★				1972	昭和	47	3	27	☆		兵庫県篠山の和田二郎氏宅（義理の甥）を訪問
4	121	神保信彦書簡	神保信彦	今井武夫	1972	昭和	47	3	31	書簡	神保のバターン戦歴のことが書かれている『昭和史の天皇10』（4-120）の表紙に記載されている。今井宛の贈呈書。	
11	142	伊東六十次郎「日本の満州政策と張政権」	日本教育文化協会		1972	昭和	47	3		冊子	かがみ 3月号。切抜。	
21	153	「日華事変」内容構成			1972	昭和	47	3		書類	21-158プリタニカ関連（1972年頃）か。Mi1. とあり裏に国際開発センターフロンティア協会事業団中村末一の名前の記載あり。年月は推定。	
21	158	プリタニカ編集局に対する質問	今井武夫		1972	昭和	47	3		メモ	21-153関連か。年月は推定。	
21	266	TBSプリタニカから依頼された「日華事変」原稿の目次構成	今井武夫		1972	昭和	47	3		原稿	「アジア研究」1971年2月1日の裏に記入。1枚。21-263に挿入。	
18	310	日華事変	今井武夫		1972	昭和	47	3		原稿	プリタニカ国際百科事典の罫紙に記載。年月は推定。21-264、276関連。70枚。	
18	311	第二次世界大戦中の中国における戦闘	今井武夫		1972	昭和	47	3		原稿	プリタニカ国際百科事典の罫紙に記載。年月は推定。21-264、276関連。20枚。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
12	121	日中和平工作原稿	今井武夫		1972	昭和	47			原稿		
12	122	ブリタニカ原稿修正メモ	今井武夫		1972	昭和	47	3		原稿	ブリタニカ原稿修正とある。なぜか12-121に挿入。年月は推定。	
★	★				1972	昭和	47	4	4	☆		NHKT Vに出演 「文化展望 碑文の謎 好太王碑文改変論争」 (井上光貞、李進熙ほか)
21	36	今井が出演したNHKT V放送台本 文化展望 碑文の謎 好太王碑文改変論争	日本放送協会		1972	昭和	47	4	4	冊子	出演 今井、井上光貞、李進熙ほか。放送日4月4日。収録日2月28日。	
★	★				1972	昭和	47	4	7	☆	於靖国神社。	軍馬慰霊祭に出席
21	316	葦津珍彦「S・C ボースと汪精衛と」 葦津珍彦「地下活動に終始した 故伊藤芳男君の横顔」	新勢力社		1972	昭和	47	4	15	雑誌	「新勢力 4」。「新勢力」は新勢カクラブ機関紙。西村展蔵につき記載あり。葦津は小川平吉と組んで和平工作を行なった萱野長知の親友 葦津耕次郎の息子。S・Cは スパス・チャンドラの略。	
11	143	伊東六十次郎「満州在住日本民族の蹶起」	日本教育文化協会		1972	昭和	47	4	20	冊子	かがみ 4月号。切抜。	
19	222	今井「結婚記念の植樹」	中央月島新聞社		1972	昭和	47	4	25	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	
4	23	忘れてならぬ歴史の一頁 — 徳をもって怨に酬ゆる —	大久保伝蔵		1972	昭和	47	5	1	書籍	心情公論社。改定版。2-11に改訂前の3刷のものあり。	
8	2	中国国民革命史	波多博・清水董三・蔵井良造		1972	昭和	47	5	1	冊子	今井は中国国民革命史編集委員会の委員。	
11	132	「終戦秘話—根本博将軍・回想録（一）—」	全国師友協会		1972	昭和	47	5	10	雑誌	師と友 5月号。切抜。発行日は推定。	
19	223	今井「軍馬の慰霊」	中央月島新聞社		1972	昭和	47	5	15	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	
4	113	菊と龍	相良俊輔		1972	昭和	47	5	20	書籍	12刷。光人社。「菊」は第18師団、「龍」は第56師団の通称。	
19	224	今井「観世音菩薩と因果律」	中央月島新聞社		1972	昭和	47	5	25	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	
19	225	今井「首陽山を思い出す 蕨とクローバ」	中央月島新聞社		1972	昭和	47	6	5	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	
4	42	台湾処分と日本人	林景明		1972	昭和	47	6	10	書籍	21-100参照。	
11	133	「終戦秘話—根本博将軍・回想録（二）—」	全国師友協会		1972	昭和	47	6	10	雑誌	師と友 6月号。切抜。発行日は推定。	
19	226	今井「有名人の大食較べ」	中央月島新聞社		1972	昭和	47	6	25	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。今村均大将について。	
11	138	常安弘通書簡	常安弘通	今井武夫	1972	昭和	47	6	29	書簡	張自忠に関する記事拝読し感銘。常安は中国にいた記者。晝月会欠席。	
3	145	李燼己先生30周年追悼法会			1972	昭和	47	6	29	写真	浅草東本願寺別院にて。	
9	36	秘録 板垣征四郎	板垣征四郎刊行会		1972	昭和	47	7	1	書籍	各処に今井の証言あり。今井は板垣征四郎刊行会の一員。芙蓉書房。	
11	137	松山良政書簡	松山良政	今井武夫	1972	昭和	47	7	3	書簡	盧溝橋事件の時の証言。松山は当時河辺正三旅団司令部高級副官。松山は陸士29期。のち第6連隊長。	
3	146	芙蓉出版社、日本クラブ			1972	昭和	47	7	4	写真	4枚あり。	
11	154	「盧溝橋事件35年 真相はな おナゾ」	大勢新聞社		1972	昭和	47	7	5	新聞	大勢新聞。新聞切抜。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
19	227	今井「国語発音の変化」	中央月島新聞社		1972	昭和	47	7	5	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	
★	★				1972	昭和	47	7	8	☆	於丸の内・日本倶楽部。	「波多博先生出版記念会」に出席
8	3	波多博先生出版記念会			1972	昭和	47	7	8	写真	於丸の内・日本倶楽部。 8-2に挿入。	
11	134	「終戦秘話 ー根本博将軍・回想録（三）ー」	全国師友協会		1972	昭和	47	7	10	雑誌	師と友 7月号。切抜。発行日は推定。	
21	321	マニラへの道	日本リサール協会		1972	昭和	47	7	10	冊子	4月26日東京会館で行なわれた日比学生交換打合会議についての報告。今井は日本リサール協会理事として出席。	
22	545	私の歩いた道 20人集 2	現代信濃人物誌刊行会		1972	昭和	47	7	10	書籍	酒井宇志夫からの寄贈。「酒井宇志夫」の項 200頁、「小林周蔵」の項 234頁に、今井について記載あり。今井の修正箇所10箇所近くあり。小林は、今井の長野中学2年後輩。長野西沢書店販売。	
19	228	今井「天命を知ること 艱難は汝を玉にする」	中央月島新聞社		1972	昭和	47	7	15	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	
19	229	今井「中国の天下思想 ー東夷、南蛮、北狄、西戎ー」	中央月島新聞社		1972	昭和	47	7	25	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	
21	49	米中・日中関係の新評価	田尻愛義		1972	昭和	47	8	1	冊子	黎明会。黎明叢書87号。田尻は元中国公使。	
11	135	「終戦秘話 ー根本博将軍・回想録（四）ー」	全国師友協会		1972	昭和	47	8	10	雑誌	師と友 8月号。切抜。発行日は推定。	
19	230	今井「故人追悼録の問題 長短併せて記すべき？」	中央月島新聞社		1972	昭和	47	8	15	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	
19	231	今井「俺はシーマダ シーマダ 馬の訓練に自分を名乗る」	中央月島新聞社		1972	昭和	47	8	25	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	
11	136	「終戦秘話ー根本博将軍・回想録（五）ー」	全国師友協会		1972	昭和	47	9	10	雑誌	師と友 9月号。切抜。発行日は推定。	
19	232	今井「維新史と中浜万次郎」	中央月島新聞社		1972	昭和	47	9	15	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	
21	309	何応欽「田中首相の政策転向に忠告する」	自由アジア社		1972	昭和	47	9	15	雑誌	自由世界 9月号。21-283の「一星会」は吉村、今井らが率いると言及している。	
19	233	今井「気宇闊達の大谷光瑞」	中央月島新聞社		1972	昭和	47	9	25	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	
10	448	「好大王碑 貴重な碑文を改造？」	産経新聞社		1972	昭和	47	10	7	新聞	10-447関連。産経新聞。複写。	
11	198	Bennet Voorhies, Jr. 書簡	Bennet Voorhies, Jr.	John Toland	1972	昭和	47	10	12	書簡	複写。今井大佐の捕虜釈放に感動したので今井のことを知らせてほしい。11-197に挿入。	
19	234	今井「日中国交正常化に一言する」	中央月島新聞社		1972	昭和	47	10	15	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	
19	235	今井「著書における正誤の判断 見方の相違も」	中央月島新聞社		1972	昭和	47	10	25	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	
11	221	十月事件（四・完）	荻田徹		1972	昭和	47	10		冊子	東京都立大学法学会雑誌 13巻1号抜刷。	
★	★				1972	昭和	47	11	1	☆		「日華時評」（中華民国支援日本委員会）からの、田中内閣の「日中国交正常化」をどう評価するかアンケートに答える

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
21	25	藤岡英雄「デッチ上げられた？南京事件」	日本郷友連盟		1972	昭和	47	11	1	雑誌	郷友 11月号。藤岡は連盟理事。	
21	281	今井「田中内閣の日中国交正常化」を評価するかのアンケートに対する答え」	中華民国支授日本委員会		1972	昭和	47	11	1	冊子	日華時報。支授は支援の間違いか。	
18	265	動物愛護	今井武夫		1972	昭和	47	11	2	原稿	「アジア研究」1970年8月26日号の裏紙に記載。11-17関連。18-247の前段階の原稿。	
10	450	「白熱する広開土王陵碑論争」	朝日新聞社		1972	昭和	47	11	11	新聞	10-447関連。朝日新聞夕刊。複写。	
10	449	「再検討始った日朝関係史」	朝日新聞社		1972	昭和	47	11	15	新聞	10-447関連。朝日新聞。複写。	
9	35	日中友好の捨石 秘録 土肥原賢二	土肥原賢二刊行会		1972	昭和	47	11	15	書籍	今井は土肥原賢二刊行会の一員。各処に土肥原の謀略につき今井の証言あり。今井提供の写真あり（3-127）。芙蓉書房。	
19	236	今井「日独伊三国同盟と松岡洋右の役割」	中央月島新聞社		1972	昭和	47	11	25	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	
11	15	札幌農学校長クラーク	今井武夫		1972	昭和	47	11		原稿	「中央月島新聞原稿用紙」 6枚。18-267関連。	
18	267	ウィリアム スミス クラーク	今井武夫		1972	昭和	47	11	19	原稿	「アジア研究」1970年8月26日号の裏紙に記載。NHK農業コボレ話。11-15関連。実質1枚。	
11	17	動物愛護に就いて	今井武夫		1972	昭和	47	11		原稿	「中央月島新聞原稿用紙」7枚。 18-247関連。年月は推定。	
18	247	動物愛護	今井武夫		1972	昭和	47	11		原稿	「アジア時報」1970年12月16日号の裏紙に記載。11-17関連。年月は推定。	
5	10	風雲 上巻 児玉誉士夫選集	児玉誉士夫		1972	昭和	47	12	1	書籍	日本及日本人社。	
5	11	風雲 中巻 児玉誉士夫選集	児玉誉士夫		1972	昭和	47	12	1	書籍	154, 157～158, 440頁に今井に関する記載あり。日本及日本人社。	
5	12	風雲 下巻 児玉誉士夫選集	児玉誉士夫		1972	昭和	47	12	1	書籍	日本及日本人社。	
18	260	婦人工作員	今井武夫		1972	昭和	47	12	5	メモ	18-257と同じ綴り。「アジア研究」1969年12月24日号の裏紙に記載。	
12	114	今井「和平工作の思い出」	みすず書房		1972	昭和	47	12	10	冊子	現代史資料月報 太平洋戦争（四）付録。9-31に同じ。日付は推定。	
9	31	今井「和平工作の思い出」	みすず書房		1972	昭和	47	12	10	冊子	現代史資料月報 太平洋戦争（四）付録。9-30に挿入。付録。同一3部あり。日付は推定。	
9	30	現代史資料（三八）太平洋戦争（四）	みすず書房		1972	昭和	47	12	10	書籍	337頁～今井が出席の日中終戦交渉会談録あり。398頁～終戦前の和平工作に今井に関する記述あり。466頁に支那派遣軍各軍司令官等氏名一覧表あり。	
19	55	現代史資料月報 第三七回配本「太平洋戦争」（四）付録			1972	昭和	47	12		資料	今井武夫「和平工作の思い出」	
3	73	満州忘じがたし	満州教育専門学校同窓会・綾南会		1972	昭和	47	12	24	書籍	満州教育専門学校同窓会・綾南会。昭和47年12月28日森山誠之から送られたもの。	
3	74	満州教育専門学校同窓会・綾南会本部書簡	満州教育専門学校同窓会・綾南会本部	書籍申込者	1972	昭和	47	12	24	書簡	『満州忘じがたし』 配本について。3-73に挿入。	
1	29	中山優選集	中山優		1972	昭和	47	12	25	書籍	中山は元満州国駐中華公使。満州国建国大学教授・中山優選集刊行委員会。非売品。	
6	23	富岡幸枝・富岡越書簡	富岡幸枝・富岡越	宛先不明	1972	昭和	47	12		書簡	富岡天行（健次）三周忌を迎えて。復刻版送付。6-22に挿入。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
18	257	日清戦争以来の婦人工作員について	今井武夫		1972	昭和	47	12		原稿	18-257～279は同じ綴り。「アジア研究」1969年10月15日号の裏紙に記載。	
18	258	河原操子	今井武夫		1972	昭和	47	12		原稿	18-257～279は同じ綴り。「アジア研究」1969年10月15日号の裏紙に記載。	
18	259	川島芳子	今井武夫		1972	昭和	47	12		原稿	18-257～279は同じ綴り。「アジア研究」1969年12月24日号の裏紙に記載。18-261の原稿。	
5	21	昭和四十四年以前 昭和四十五年以降昭和四十六年末迄 追悼録(第六回補足)	陸士三十期生会		1972	昭和	47			冊子	5-19の続き。	
3	100	Roxas and Jimbo	Rizal Society of Japan		1972	昭和	47			冊子	ロハス フィリピン大統領と神保中佐。	
21	126	「優柔不断な野心家像」			1972	昭和	47			新聞	掲載紙不明。岡義武著「近衛文麿 運命の政治家」（岩波新書）に対する書評。新聞切抜。	
11	139	回想 乱調子	常安弘通		1972	昭和	47			書類	11-138に挿入。	
21	263	執筆要領	TBS プリタニカ 編集局		1972	昭和	47			冊子		
18	292	南京攻撃戦	今井武夫		1972	昭和	47			メモ	評論家鈴木明の説によると、山田部隊将兵の談として捕虜を「始末せよ」といった責任者は朝香宮で、参謀は長勇大佐であったことは間違いない。「アジア研究」1970年4月8日号の裏紙に記載。	
18	390	歩兵第141連隊史			1972	昭和	47			書類	18-401に符号説明あり。	
18	401	広島師団史追録 歩兵第141連隊史			1972	昭和	47			書類	18-390と同じだが、軍隊符号の説明があり、付記が欠落。	
10	446	堀田謹吾書簡	堀田謹吾	今井武夫	1972	昭和	47			書簡	堀田はNHK所属と思われる。資料送付と番組での紹介依頼。戦争と地図について。年代は推定。21-36好太王碑文改変論争に関するTV出演関連。	
10	447	高句麗王碑の謎			1972	昭和	47			書類	21-36関連。NHKの企画書か。年代は推定。	
18	367	米国John Toland宛封筒	今井武夫	米国John Toland	1972	昭和	47			封筒	封筒のみで中身なし。年は推定。	
4	101	「昭和史の天皇」既刊分1～20巻の内容紹介	読売新聞社		1972	昭和	47			書類	4-100に挿入。年は推定。	
18	240	読者に対する誤解の訂正	今井武夫		1972	昭和	47			原稿	今井に連絡のあった誤解の訂正・反駁文。「アジア研究」1970年2月23日号の裏紙に記載。年は推定。	
4	24	反響呼ぶ「忘れてならぬ歴史の一頁」中国の新聞 大久保氏の書評を掲載			1972	昭和	47			書類	中国の新聞・中央日報に書かれた書評の要旨。4-23に挿入。年は推定。	
21	100	台湾問題と日本の国益	台湾愛国会		1972	昭和	47			冊子	著者は林景明か。年度は全くの推定。林については4-42参照。	
11	9	戦勝軍の敗戦軍に対する態度	今井武夫		1972	昭和	47			原稿	「中央月島新聞原稿用紙」 9枚。年度は全くの推定。	
11	10	権力者のモラル	今井武夫		1972	昭和	47			原稿	「中央月島新聞原稿用紙」 10枚。年度は全くの推定。	
1	84	権力者のモラル	今井武夫		1972	昭和	47			原稿	年度は全くの推定。	
11	12	協力	今井武夫		1972	昭和	47			原稿	「中央月島新聞原稿用紙」 11枚。 年度は全くの推定。	
1	85	協力の要訣	今井武夫		1972	昭和	47			原稿	年度は全くの推定。	
18	249	中国人の見た日本婦人	今井武夫		1972	昭和	47			原稿	「アジア時報」1971年3月3日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
18	251	序 日中事変前の情況	今井武夫		1972	昭和	47			原稿	「アジア時報」1971年11月24日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	
18	252	一 盧溝橋事件	今井武夫		1972	昭和	47			原稿	18-251に添付。「アジア時報」1971年11月24日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	
18	254	二 南京陥落	今井武夫		1972	昭和	47			原稿	「アジア時報」1971年11月17日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	
18	255	三 徐州、武漢、広東の攻略	今井武夫		1972	昭和	47			原稿	18-254に添付。「アジア時報」1971年11月17日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	
18	263	江戸城開城	今井武夫		1972	昭和	47			原稿	「アジア研究」1971年5月19日号の裏紙に記載。山岡鉄舟の活躍について。年度は全くの推定。	
18	274	敗戦に対する取扱	今井武夫		1972	昭和	47			原稿	アジア時報1971年6月16日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	
21	267	原稿メモ	今井武夫		1972	昭和	47			メモ	日中戦争の原稿の項目列挙してある。「アジア研究」1971年4月17日の裏に記入。3枚。年は推定。年度は全くの推定。	
18	294	中国における協定と事件・工作	今井武夫		1972	昭和	47			メモ	「アジア時報」1971年2月10日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	
11	144	伊東六十次郎「満州事変勃発の真相」	日本教育文化協会		1972	昭和	47			冊子	かがみ。切抜。年度は全くの推定。	
11	145	伊東六十次郎「石原戦争と満州国の建設（その二）」	日本教育文化協会		1972	昭和	47			冊子	かがみ。切抜。年度は全くの推定。	
18	232	対重慶直接交渉の工作	今井武夫		1972	昭和	47			原稿	「アジア時報」1971年8月25日号の裏に記載。3枚。年は推定。	
18	233	日本の北進南進	今井武夫		1972	昭和	47			原稿	18-232と同じファイル。「アジア時報」1971年10月6日号の裏に記載。年は推定。1枚。項目16とある。	
18	234	序	今井武夫		1972	昭和	47			原稿	18-232と同じファイル。「アジア時報」1971年10月6日号の裏に記載。1枚。年は推定。	
18	391	戸伏長之「小森支隊長 小森政光中佐」	偕行社		1972	昭和	48	1	1	冊子	「偕行 1月」。切抜。戸伏は第141連隊所属。陸士44期。	
18	392	「マーカス」の戦場にその徳を偲ぶ	戸伏長之		1973	昭和	48	1	1	冊子	18-391を冊子にしたもの。戸伏は第141連隊所属。陸士44期。同一2部あり。	
13	188	今井武夫手帳	今井武夫		1973	昭和	48	1	1	手帳	1973年12月31日迄。	
23	27	川上護書簡	川上護	今井武夫	1973	昭和	48	1	1	書簡	川上護大佐から 今井武夫宛年賀状	
23	26	村上知行書簡	村上知行	今井武夫	1973	昭和	48	1	1	書簡	作家村上知行から 年賀状	
18	261	今井「女子工作員 川島芳子」	中央月島新聞社		1973	昭和	48	1	5	新聞	中央月島新聞。新聞切抜。18-259が原稿。日付は推定。	
11	199	今井武夫書簡	今井武夫	Bennet Voorhies, Jr.	1973	昭和	48	1	11	書簡	フィリピンで捕虜を釈放したことについて。英文の手紙の控えと思われる。11-197に挿入。	
11	200	今井武夫書簡	今井武夫	Bennet Voorhies Jr.	1973	昭和	48	1	11	書簡	11-199の書簡原稿（日本語）。11-197に挿入。年月は推定。	
18	262	今井「女子工作員 永田・中島両女史」	中央月島新聞社		1973	昭和	48	1	15	新聞	中央月島新聞。新聞切抜。	
11	8	子供の教育と自然	今井武夫		1973	昭和	48	1	18	原稿	「中央月島新聞原稿用紙」7枚。18-266関連。月日は推定。	
18	266	自然と遠ざかった生活	今井武夫		1973	昭和	48	1	18	原稿	「アジア研究」1970年4月20日号の裏紙に記載。11-8関連か。2枚。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
10	101	戦陣訓及び派遣軍将兵に告ぐに関する研究のまとめ	和田盛哉		1973	昭和	48	2	20	冊子	於防衛研究室戦史室。	
★	★				1973	昭和	48	3	21	☆		信濃育英会に出席
18	250	中国の人民	今井武夫		1973	昭和	48	3		原稿	雑誌「滬友 32」の原稿か。「アジア研究」1970年8月24日号の裏紙に記載。11-11関連。年月は推定。	
1	45	黒川利雄「汪精衛を想う」	学士会		1973	昭和	48	4	1	雑誌	学士会会報 1978-II。今井の注書あり。719号。黒川は汪兆銘の最後に立ち会った東北大学教授・医学博士。	
9	58	井本熊男書簡	井本熊男	今井武夫	1973	昭和	48	4	7	書簡	桐工作に関する問い合わせ。	
9	59	井本熊男書簡	井本熊男	今井武夫	1973	昭和	48	4	10	書簡	問い合わせに対する返事のお礼。9-58と同じ封筒に挿入。	
10	102	和田盛哉書簡	和田盛哉	今井武夫	1973	昭和	48	4	12	書簡	書類送付と意見・教示に対する礼。10-101に挿入。	
6	12	日本の東亜政策と満州問題（第一分冊）	伊東六十次郎		1973	昭和	48	4	28	書籍	伊東は元大同学院教授。長野出身。民族建設研究所。	
7	1	今井「三十期 会員の消息 今井武夫君」	偕行社		1973	昭和	48	5	1	冊子	「偕行 5月」。	
★	★				1973	昭和	48	5	15	☆	於明治神宮参集殿。	任官55周年記念大会に出席
4	44	中国革命の舞台裏 —北京・宮元公館—	花村一平		1973	昭和	48	5	25	書籍	原書房。本書に書かれている宮元利直から今井への贈呈。宮元は11-96宮本利直と同じ人物か。冀東政権と冀察政権についても記載あり。	
11	218	歴史とともに歩んだ私の前半生 —昭和七年末から昭和二十年まで—	甲谷悦雄		1973	昭和	48	5		冊子	甲谷は元陸軍大佐。参謀本部ロシア班長。大佐。	
★	★				1973	昭和	48	6	10	☆	於赤坂飯店。	岩井英一、松平忠久、鐘任寿らと会合
19	41	岩井英一、松平忠久、鐘任寿ほか			1973	昭和	48	6	10	写真	於赤坂飯店。	
2	60	日本の反省 鍋山貞親選集 上巻	鍋山貞親		1973	昭和	48	6	10	書籍	非売品。ジャーナル社。661頁。	
2	61	日本の反省 鍋山貞親選集 下巻	鍋山貞親		1973	昭和	48	6	10	書籍	2-60と同一の箱。非売品。ジャーナル社。642頁。	
21	335	奈須田敬「活人・活書 参題—国家・政治・外交に関する—」	全国師友協会		1973	昭和	48	6	10	雑誌	「師と友」 6月号。	
21	336	橋川文三著 「順逆の思想」に対する書評	聖教新聞社		1973	昭和	48	6	10	新聞	21-335に挿入。新聞切抜。聖教新聞。	
★	★				1973	昭和	48	7	7	☆	於日傷会館。	北京曉月会に出席
22	35	北京曉月会			1973	昭和	48	7	7	写真	於日傷会館。2枚。	
7	44	今井「心ふくらむ一日」	陸士三十期生会			昭和	48	8	1	冊子	任官55周年記念大会特集号。18頁。会誌 9号。1-72に陸士三十期生任官65周年記念誌がある。	
21	332	大谷照乗書簡	大谷照乗	今井武夫	1973	昭和	48	8	7	書簡	先日光岡良雄氏夫妻来訪あり。北京の昔話に花が咲きました。大谷は西本願寺連枝。	
4	10	日露戦争の軍政史録	大山梓		1973	昭和	48	8	25	書籍	芙蓉書房。	
11	140	谷田勇「田中隆吉を思う（上）」	偕行社		1973	昭和	48	10	1	冊子	「偕行 10月」。切抜。2枚。谷田は陸士27期。田中は26期。	
5	25	今井「近況報告」	陸士三十期生会		1973	昭和	48	10	12	冊子	38頁今井の近況報告。会誌 7号特号	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
7	10	間瀬坦平書簡	間瀬坦平	今井武夫	1973	昭和	48	10	23	書簡	同期立花啓一の死について。間瀬も同期生。7-9に挿入。5-24参照。	
21	255	10月29日愛宕山NHK講演	今井武夫		1973	昭和	48	10	29	メモ	2枚。裏もあり。	
11	141	谷田勇「田中隆吉を思う (下)」	偕行社		1973	昭和	48	11	1	冊子	「偕行 11月」。切抜。表裏に記載。1枚。	
3	97	ソ連抑留思い出の記 第四号 ウスカメを中心として	ウスカメ会		1973	昭和	48	11	1	冊子		
21	26	「戦時下に出版されていた南京大虐殺」	朝日新聞社		1973	昭和	48	11	6	新聞	21-25に挿入。新聞切抜。朝日新聞夕刊。	
21	27	「南京大虐殺 私が書いた」	朝日新聞社		1973	昭和	48	11	6	新聞	21-25に挿入。朝日新聞夕刊。新聞切抜。	
☆	☆				1973	昭和	48	11	9	☆	於霞山クラブ。	汪兆銘33回忌に出席
9	32	陸軍大学校	上法快男		1973	昭和	48	12	1	書籍	「陸軍大学校を如何に見るや」に今井武夫の見解あり。305頁～306頁。芙蓉書房。	
4	104	財界人太平洋戦記 上	亀岡太郎		1973	昭和	48	12	10	書籍	「死の行進 日本側の見方」。 「関西師団がみせたど根性」。第141連隊は41連隊の留守部隊として創設された。老兵65集団と書かれている。18-408～411の記事の製本化。文藝春秋。	
18	408	財界人太平洋戦記 ⑪ 亀岡太郎「物量で制したパターン作戦」			1973	昭和	48			雑誌	週刊文春。複写。年は推定。	
18	409	財界人太平洋戦記 ⑫ 亀岡太郎「関西師団がみせたど根性」			1973	昭和	48			雑誌	18-408と同じ綴り。週刊文春。複写。年は推定。	
18	410	財界人太平洋戦記 ⑬ 亀岡太郎「死の行進」日本側の見方」			1973	昭和	48			雑誌	18-408と同じ綴り。週刊文春。複写。年は推定。	
18	411	財界人太平洋戦記 ⑭ 亀岡太郎「コスト高だった比島攻略戦」			1973	昭和	48			雑誌	18-408と同じ綴り。週刊文春。複写。年は推定。	
11	11	中国の人民	今井武夫		1973	昭和	48			原稿	「中央月島新聞原稿用紙」 8枚。18-250関連。年は推定。	
11	203	An Outrageous Order in the Bataan Front	Takeo Imai		1973	昭和	48			原稿	捕虜処刑の非常識な命令について英文にしたもの。未発表か。年は推定。	
19	159	パターン戦線の怪命令	今井武夫		1973	昭和	48			原稿	ジンボラス株式会社の罫紙に記載。今井武夫行跡としてパターン作戦時の今井の年譜あり。年は推定。	
12	70	陣中の怪命令	今井武夫		1973	昭和	48			原稿	昌栄通商（株）の罫紙に7枚。年は推定。	
11	7	良寛和尚	今井武夫		1973	昭和	48			原稿	「無風」は今井の号。「中央月島新聞原稿用紙」に7枚。18-230関連。原稿か。年度は全くの推定。	
18	230	良寛和尚	今井武夫		1973	昭和	48			原稿	11-7関連。「アジア研究」1971年3月1日号の裏紙に記載。中央月島新聞に書かれたか、書く予定の原稿（発表された記事見つからず）。年度は全くの推定。	
11	14	鈕少将の数奇な運命	今井武夫		1973	昭和	48			原稿	「中央月島新聞原稿用紙」10枚。鈕は中国軍鈕先銘少将のこと。18-253関連。年度は全くの推定。	
18	253	鈕少将の数奇な運命	今井武夫		1973	昭和	48			原稿	「アジア時報」1971年3月24日号の裏紙に記載。11-14関連。年度は全くの推定。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
11	16	近衛文麿	今井武夫		1973	昭和	48			原稿	「中央月島新聞原稿用紙」8枚。18-248関連。年度は全くの推定。	
18	248	近衛文麿	今井武夫		1973	昭和	48			原稿	「アジア研究」1971年3月1日号の裏紙に記載。11-16関連。年度は全くの推定。	
13	189	今井武夫手帳	今井武夫		1973	昭和	49	1	1	手帳	1974年12月31日迄。鐘壬寿ほかの住所あり。	
23	29	小林浅三郎書簡	小林浅三郎	今井武夫	1974	昭和	49	1	1	書簡	小林浅三郎中将から 年賀状	
23	28	村上知行書簡	村上知行	今井武夫	1974	昭和	49	1	1	書簡	作家村上知行から 年賀状	
9	84	落日燃ゆ	城山三郎		1974	昭和	49	1	20	書籍	3刷。新潮社。	
4	3	満州におけるオロチョン族の研究	郡司彦		1974	昭和	49	1		冊子	興安友愛の記・別冊。	
4	50	連合軍反撃せよ クレマンソー 勝利への記録	J.H.・モルダック		1974	昭和	49	2	12	書籍	酒井鑄次訳。酒井は陸軍中將。芙蓉書房。	
☆	☆				1974	昭和	49	2		☆		夏部隊会に出席
18	9	夏部隊会			1974	昭和	49	2		写真	夏部隊会の集まり。	
6	29	日中戦争裏方記	岡田西次		1974	昭和	49	3	20	書籍	岡田は元陸軍主計少将。321頁に今井に関する記載あり。東洋経済新報社。	
22	21	南京会			1974	昭和	49	3	24	写真	三笠宮ご臨席。渡辺はま子も出席。於雅叙園。全13枚。21-75にも写真あり。	
21	75	南京会出席者全員			1974	昭和	49	3	24	写真	出席者全員の写真。於雅叙園。	
21	76	南京会出席者			1974	昭和	49	3	24	写真	三笠宮を囲んで出席者11名の写真。於雅叙園。22-21にも写真あり。	
9	60	井本熊男書簡	井本熊男	今井武夫	1974	昭和	49	4	4	書簡	桐工作と井本の当時の日記について。	
18	24	瀬島竜三ほか座談会「マッカーサー回想記を読んで」	朝日新聞社		1974	昭和	49	4	8	新聞	朝日新聞夕刊。新聞切抜。	
21	300	アジア復興運動の実践者 中村寧小伝	伊東六十次郎		1974	昭和	49	4	10	冊子	伊東は長野出身の歴史家。表紙の扉の裏に「今井武夫様御恵存 森山誠之 昭和49年4月29日」とある。	
8	7	統率の実際 第二次大戦の将軍たち 1	陸上自衛隊幹部学校修親会		1974	昭和	49	4	15	書籍		
21	301	森山誠之書簡	森山誠之	今井武夫	1974	昭和	49	4	30	書簡	伊東六十次郎著の冊子を送る。満州事変について意見乞う。21-300に挿入。21-302と同じ資料。	
18	5	松浦修一「フィリピン収骨行（ミンダナオ島班）」	修親刊行事務局		1974	昭和	49	5	1	雑誌	修親5月号。複写。修身は陸上自衛隊の雑誌。18-4に挿入。	
21	302	満州事変の評価に関する今井の考え	今井武夫		1974	昭和	49	5	2	メモ	21-301に対する今井の返事案。21-301の末尾に記載されている。5月2日返事とある。21-301と同じ資料。	
21	303	満州事変に関する意見メモ	今井武夫		1974	昭和	49	5	2	メモ	1枚。4項記載あり。21-300に挿入。 日付は推定。	
5	22	今井「飛松伸三君を悼む」 今井「加藤年雄君を偲ぶ」 今井「馬淵逸雄君を悼む」	陸士三十期生会		1974	昭和	49	5	26	冊子	5-20の続き。昭和47年以降昭和48年末迄 追悼録（第七回補足）。	
6	30	「新刊抄」	朝日新聞社		1974	昭和	49	5	27	新聞	朝日新聞。新聞切抜。6-29に貼付。	
9	70	徐州から巢鴨まで	斉藤弼国		1974	昭和	49	6	1	冊子		
18	4	渡辺健一書簡	渡辺健一	今井武夫	1974	昭和	49	6	3	書簡	発信年は1973年か74年か。渡辺は第141連隊本部付。沖信中尉の戦死の記事同封する。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
6	36	扶桑七十年の夢	蔣君輝		1974	昭和	49	6	15	書籍	序文日訳に朋友として、今井の名が記載されている。紀伊国屋書店販売。蔣君輝は、自分が関与した繆斌工作につき詳細に述べている。蔣は1892年7月3日生まれだから81歳。元中国の光華大学教授。	
22	86	蔣君輝	蔣君輝		1974	昭和	49	6	15	名刺	C H Tsiang。年月は推定。	
11	194	統率の実際 第二次大戦の将軍たち 2	陸上自衛隊幹部学校修親会		1974	昭和	49	6	25	書籍	今井「根本博中將の思い出(その1)」。8-8、1-48記載と同じ内容。	
18	220	今井「軍馬二題 その一、終戦後の軍馬」	やすくに		1974	昭和	49	7	1	新聞	やすくに新聞。新聞切抜。今井は「無風」のペンネームで記載。新聞切抜。	
14	243	松山良政書簡	松山良政	今井武夫	1974	昭和	49	7	5	書簡	支那事変の時の証言。陸士29期。	
18	241	中野寛孝「馬の顔」	日刊工業新聞社		1974	昭和	49	7	5	新聞	日刊工業新聞。新聞切抜。	
☆	☆				1974	昭和	49	7	7	☆		北京晩月会に出席
4	17	暁月会の時の今井	吉野次郎平		1974	昭和	49	7	7	写真	4-15に挿入。	
2	56	吉橋戒三書簡	吉橋戒三	今井武夫	1974	昭和	49	7	11	書簡	書籍送付。2-55に挿入。	
1	16	四王天延孝回顧録	四王天延孝		1974	昭和	49	7	25	書籍	四王天は元陸軍中將・衆議院議員 陸士11期。 みすず書房。	
2	31	今井「終戦前後の木村辰男君」	三石照雄		1974	昭和	49	7		冊子	「木村辰男さんを偲んで」（私家版）。冒頭・85頁に今井の写真・記事あり。三石は南京連絡班員。大尉。	
18	221	今井無風「軍馬二題 その二、日本語のわからない軍馬」	やすくに		1974	昭和	49	8	1	新聞	やすくに新聞。新聞切抜。「無風」は今井武夫の号。	
☆	☆				1974	昭和	49	8	7	☆		テレビ番組 「証言 私の昭和史」のため 三国一朗との対談編録 「実らず日中和平工作」
4	75	三国一朗書簡	三国一朗	今井武夫	1974	昭和	49	8	14	書簡	貴重な印刷物拝借のお礼。三国はテレビ番組「証言 私の昭和史」で司会をしていた。	
19	189	今井武夫履歴書	今井武夫		1974	昭和	49	8	19	履歴書	長野県庁保管の今井の履歴書（1974年8月19日発行したもの）の自筆の写し。	
1	5	統率の実際 第2次大戦の将軍たち 3	陸上自衛隊幹部学校修親会		1974	昭和	49	8	30	書籍	原書房。栗林忠道大将について記載（昭和41年8月）あり。著者は藤原環。硫黄島のときは混成第17連隊第三大隊長・少佐。森田徹少将についても記載あり。	
1	6	統率の実際 記者者および記載年月	今井武夫		1974	昭和	49	8		メモ	1-5に挿入。月は推定。	
19	62	鶴見俊輔「論壇時評 下 角田房子の甘粕大尉への論評」	朝日新聞社		1974	昭和	49	8	30	新聞	朝日新聞夕刊。今井に関して記載あり。新聞切抜。	
2	32	世話人智原喜太郎・佐藤信一郎・岡田清・三石照雄書簡	世話人智原喜太郎・佐藤信一郎・岡田清・三石照雄	宛先不明	1974	昭和	49	8		書簡	2-31「終戦前後の木村辰男君」に挿入。発刊の案内。三石は大尉。岡田は囑託。どちらも南京連絡班員。	
11	18	滬友 35	滬友会		1974	昭和	49	9		雑誌	東亜同文書院の同窓会報。滬は上海のこと。	
21	276	ブリタニカ国際大百科事典 15	TBS・ブリタニカ		1974	昭和	49	10	1	書籍	今井「日華事変」切抜。複写。5枚。7頁。21-264関連。18-310と18-311は原稿か。	
18	70	「比島とニューブリテン島で奮戦 戦没者慰霊碑建つ」	瀬戸内海新聞社		1974	昭和	49	10	5	新聞	瀬戸内海新聞。新聞切抜。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
21	298	陸士四十一期生会 会誌 任官45周年記念	陸士四十一期生会		1974	昭和	49	10	25	冊子	今井は恩師の一人として登場。	
6	16	革命揺籃期の北京 辛亥革命から山東出兵まで	藤原鎌兄		1974	昭和	49	10	30	書籍	小島麗逸編。社会思想社。	
4	34	中日関係と世界の前途	何応欽		1974	昭和	49	10		書籍	236頁に今井に関する記載あり。正中書局印行。付録一「岡村将軍対談記」『文藝春秋 4月号』（何応欽との対談記 昭和28年）付録二 昭和26年 1月16日 岡村寧次 「何応欽将軍感謝会挨拶」付録三 昭和26年2月3日 幣原喜重郎 「何応欽将軍 歓迎の辞」)	
★	★				1974	昭和	49	11	3	☆	於福山市護国神社。	夏部隊慰霊碑建立・慰霊祭（於福山市）
18	7	夏部隊慰霊碑建立・慰霊祭			1974	昭和	49	11	3	写真	4枚。	
15	35	第65旅団戦没者慰霊碑開眼供養			1974	昭和	49	11	3	写真	於福山市。7枚。	
11	201	Modern China Studies International Bulletin 書簡	Modern China Studies International Bulletin	今井武夫	1974	昭和	49	11	15	書簡	1975年版に 英文ニュース記載について。付録あり。	
11	202	Modern China Studies International Bulletin 書簡（翻訳）	Modern China Studies International Bulletin	今井武夫	1974	昭和	49	11	15	書簡	11-201の翻訳。11-201に挿入。翻訳今井孝子（武夫次女）。	
18	222	松本岩吉「軍馬五景 その一、輸送中の軍馬」	やすくに		1974	昭和	49	12	1	新聞	やすくに新聞。新聞切抜。	
9	69	堀場一雄 反骨の記録 ある作戦参謀の悲劇	芦澤紀之		1974	昭和	49	12	20	書籍	221, 223～225, 235～236, 238, 230, 413～414に今井に関する記述あり。芙蓉書房。	
5	26	会員名簿（第15号）訂正表	陸士三十期生会		1974	昭和	49			書類	2枚。5-27の前のもの。発行年は推定。	
6	31	東大助教授原朗氏書評について	今井武夫		1974	昭和	49			メモ	6-29に挿入。年代は推定。	
4	4	郡司彦	郡司彦		1974	昭和	49			名刺	4-31に挿入。興安会理事長	
13	190	今井武夫手帳	今井武夫		1974	昭和	50	1	1	手帳	1975年12月31日迄。	
23	30	村上知行書簡	村上知行	今井武夫	1975	昭和	50	1	1	書簡	作家村上知行から年賀状 千葉の自宅の家の廻りの俗化を嘆く	
23	31	立川演武書簡	立川演武	今井武夫	1975	昭和	50	1	12	書簡	死去した立川中隊長の息子 立川演武から 今井宛 悔みのお礼	
2	12	「蔣総統こそ日本の分割統治阻止の最大功労者」	中華週報社		1975	昭和	50	1	13	雑誌	中華週報。切抜。2-11に挿入。	
13	145	今井武夫のパスポート	外務省		1975	昭和	50	1	16	書類	1975年7月27日～31日迄台湾へ。1978年5月25日～5月28日フィリピンへ。全日空搭乗券とコレラ予防接種証明書挿入あり。	
1	2	わが父を語る	蔣経国		1975	昭和	50	2	4	書籍	新人物往来社。	
18	11	歩兵第141連隊野砲戦友会（第2回ラバウル花原会）			1975	昭和	50	2	11	写真	今井は出席しておらず。	
7	3	増田梅喜書簡	増田梅喜	今井武夫	1975	昭和	50	2	23	書簡	陸士三十期（同期）を代表して喜寿の祝いと健康管理についての投稿依頼。7-2に挿入。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
18	223	松本岩吉「軍馬五景 その二、泥濘破破、難行中の軍馬」	やすくに		1975	昭和	50	3	1	新聞	やすくに新聞。新聞切抜。	
8	10	アジアの潮 プリヤート・モンゴルの高僧を迎えて	アジア文化交流協会 阪本福史		1975	昭和	50	3	3	冊子		
3	156	インパール作戦秘史 陸軍崩壊の内側	片倉衷		1975	昭和	50	3	10	書籍	片倉は元陸軍少将。経済往来社。	
★	★				1975	昭和	50	3	15	☆	於福山市のホテル。	夏友会に出席
18	8	夏友会 於福山市ホテル	中川		1975	昭和	50	3	15	写真		
18	405	夏部隊（第65旅団）生存者戦友名簿	夏友会		1975	昭和	50	3	20	書類		
11	19	滬友 36	滬友会		1975	昭和	50	3		雑誌	東亜同文書院の同窓会報。滬は上海のこと。	
13	3	江梅会 会員名簿	江梅会		1975	昭和	50	4	1	名簿	4枚。73名。物故者13名の遺族の名簿も。	
★	★				1975	昭和	50	4	7	☆		蒋介石追悼のコメント（朝日新聞と毎日新聞に）
12	127	「蒋介石氏の死去に思う」	朝日新聞社		1975	昭和	50	4	7	新聞	朝日新聞。今井も一言あり。新聞切抜。12箱東-4に挿入。	
12	128	「今井武夫氏談（蒋介石氏は）ウソを言わぬ人だった」	毎日新聞社		1975	昭和	50	4	7	新聞	毎日新聞。新聞切抜。12箱-東4に挿入。蒋介石を追悼して。	
7	4	偕行 5月への投稿原稿	今井武夫		1975	昭和	50	4		原稿	偕行への投稿原稿と思われる。7-2に挿入。年代は推定。	
3	1	今井「随筆 敵か友か」	霞山会		1975	昭和	50	5	1	雑誌	霞山 95号。今井は（財）霞山会の会員。	
12	115	今井「随筆 敵か友か」	霞山会		1975	昭和	50	5	1	雑誌	霞山 95号。3-1の切抜。	
7	2	今井「三十期 会員の消息 今井武夫君」	偕行社		1975	昭和	50	5	1	冊子	「偕行 5月」。	
18	224	松本岩吉「軍馬五景 太鼓橋から転落した軍馬」	やすくに		1975	昭和	50	5	1	新聞	やすくに新聞。新聞切抜。	
3	2	杉原荒太書簡	杉原荒太	今井武夫	1975	昭和	50	5	5	書簡	今井の随筆を多大の興味と敬意で読んだ。3-1に挿入。杉原は社団法人霞山会の理事でもある。	
21	288	昭和50年度陸士三十期生会定期総会出席者一覧表	陸士三十期生会		1975	昭和	50	5	22	書類	21-286に挿入。於明治神宮会館。今井出席。正会員38名。	
★	★				1975	昭和	50	5	24	☆	於明治神宮会館。	陸士三十期生会総会に出席
21	297	「実証・以德報怨 30年目に聞く日本側の”秘められた声”」	産経新聞出版局		1975	昭和	50	5	27	雑誌	週刊サンケイ 緊急増刊 蒋介石総統のすべて。114～116頁に今井の証言あり。	
3	3	送付先メモ	今井武夫		1975	昭和	50	5		メモ	送付先メモ。3-1に挿入。3-1送付先リストか。	
5	27	会員名簿（第16号）	陸士三十期生会		1975	昭和	50	5		冊子		
21	286	第三十期生会 会員名簿 16号 規約並びに会費基金付金醸金状況一覧	陸士三十期生会		1975	昭和	50	5		冊子	現存者173名。	
21	287	昭和49年度決算報告書	陸士三十期生会		1975	昭和	50	5		書類	21-286に挿入。同一2枚あり。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
16	10	総統 蔣介石世新聞英撮影彙輯 日本報章雑誌刊記載	亜東関係協会・ 東京弁事処		1975	昭和	50	6	1	冊子		
6	7	北京清譚 体験の中国	清水安三		1975	昭和	50	6	2	書籍	教育出版。	
4	118	兵隊日本史	棟田博		1975	昭和	50	6	10	書籍	今井について記載あり。盧溝橋事件のときの中国共産党の北方局について記載あり。新人物往来社。	
3	154	蔣介石秘録 3 中華民国の誕生	サンケイ新聞社		1975	昭和	50	6	30	書籍	袁世凱が臨時大統領に擬せられたのは汪兆銘の策略があったからと蔣介石は述べている。	
★	★				1975	昭和	50	7	7	☆	於傷兵ビル。全29名。	北京曉月会に出席
22	36	北京曉月会出席者全員			1975	昭和	50	7	7	写真	全29名。於傷兵ビル。	
★	★				1975	昭和	50	7	27	☆	随筆 台北旅行 原稿あり。	7月31日迄台湾へ旅行（同行小笠原清 元中佐） 蔣介石総統の靈柩に直面 日本軍の降服・接収・帰還などに 関与した日中両国関係者と対談 何応欽將軍らと久闊を叙す
13	102	何応欽	何応欽		1975	昭和	50	7	27	名刺	1級上將。台北の住所。年月は推定。	
16	32	何応欽書簡	何応欽	宛先不明	1975	昭和	50	7	30	書簡	午後7時からの16-30記載の何応欽の所への招待状。年は推定。	
22	54	中華民国の観光記念絵葉書			1975	昭和	50	7		絵葉書	台湾の絵葉書9枚。Views of Jiayih とある。封筒あり。年月は推定。Jiayihは台湾の嘉義。	
22	55	中華民国の観光記念絵葉書			1975	昭和	50	7		絵葉書	台湾の絵葉書6枚。Views of Jiayih とある。封筒あり。Jiayihは台湾の嘉義。一部22-54と重複。年月は推定。	
21	220	黄金発	黄金発		1975	昭和	50	7		名刺	肩書は彰化商業銀行宜蘭分行。	
21	222	何応欽	何応欽		1975	昭和	50	7		名刺	肩書は陸軍一級上將。Ho Ying-Chin	
21	285	何応欽	何応欽		1975	昭和	50	7		名刺	肩書は陸軍一級上將。Ho Ying-Chin。21-222と同じだが台北の住所が記載されている。年は推定。	
21	270	「台湾の民間機 台北で墜落・炎上」	朝日新聞社		1975	昭和	50	8	1	新聞	朝日新聞。新聞切抜。「アジア研究」1969年5月23日の裏に貼付。21-269に添付。	
★	★				1975	昭和	50	8	15	☆		戦後30年全国戦没者追悼式（於日本武道館）に出席
4	29	支那事変 その秘められた史実	山岡貞次郎		1975	昭和	50	8	15	書籍	34, 46, 59, 73, 77, 82頁に今井に関する記事記載あり。原書房。	
★	★				1975	昭和	50	8	16	☆		香港の雑誌「新聞天地」に国民政府の礼欣 馬樹礼の2將軍たちと今井、小笠原清中佐の宴席の写真が「三十年前事不堪回首」と書かれて表紙を飾る
17	8	表紙写真 礼欣、馬樹礼、今井、小笠原の会食写真	新聞天地社		1975	昭和	50	8	16	雑誌	新聞天地。礼欣、馬樹礼、今井、小笠原の4人が東京アメリカンクラブでの宴席の写真が表紙を飾る。	
21	254	台湾旅行について	今井武夫		1975	昭和	50	8		原稿	「アジア研究」1969年5月23日付の裏に記載。3枚。	
21	269	随筆 台北旅行の原稿	今井武夫		1975	昭和	50	8		原稿	「アジア研究」1969年5月23日と1970年8月7日の裏に記入。9枚。	
18	272	山岡貞次郎「支那事変」についての論評	今井武夫		1975	昭和	50	8		原稿	4-29に対する論評。ア火ア研究1970年8月19日号の裏に記載。2枚。月は推定。	
18	228	記念歌集 閃光	中支派遣独立野砲兵第十大隊第三中隊		1975	昭和	50	9		冊子	18-227に同封。複写。愛馬を歌った歌など。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
11	20	滬友 37	滬友会		1975	昭和	50	10		雑誌	東亜同文書院の同窓会報。滬は上海のこと。	
3	28	今井「日本捕虜志を再読す」	新小説社		1975	昭和	50	11	10	雑誌	劇と新小説・1号 長谷川伸先生追悼誌。昭和30年の長谷川伸著「日本捕虜志」（新小説社）の再読。長谷川伸は昭和38年に79歳ですでに死去している。今井は長谷川の弟子たちが続けた勉強会に出席していた。	
6	28	満州建国の夢と現実	国際善隣協会		1975	昭和	50	11	28	書籍	国際善隣協会。	
23	32	横田ハル書簡	横田ハル	今井武夫	1975	昭和	50	12		書籍	新聞記者の横田寅氏未亡人横田ハルから今井宛の喪中の挨拶	
11	223	日本研究 百期記念	中日関係研究会		1975	昭和	50	12	1	雑誌		
☆	☆				1975	昭和	50	12	6	☆		中日和平運動殉難烈士慰霊集会（於 西応寺）に出席（発起人の一人として）
18	328	中日和平運動殉難烈士慰霊集会開催趣意書	中日和平運動殉難烈士慰霊集会発起人		1975	昭和	50	12	6	書類	発起人は 安岡正篤、日高新六郎、松本重治、沖野亦男と今井の5人。	
18	329	中日和平運動殉難烈士を祭る文	中日和平運動殉難烈士慰霊集会発起人		1975	昭和	50	12	6	書類		
16	30	今井武夫宛 封筒	何応欽	今井武夫	1975	昭和	50			封筒	年は推定。	
21	51	英雄ホセ・リサール博士と日本リサール協会	日本リサール協会		1975	昭和	50			冊子	今井は日本リサール協会の理事。	
13	196	住所録	今井武夫		1975	昭和	50			名簿	昭和50年前後のものか。年は推定。	
21	223	伊藤博教	伊藤博教		1975	昭和	50			名刺	肩書は在中華民国日本国大使館公使。	
18	422	片岡修身書簡	片岡修身	今井武夫、片山憲四郎	1975	昭和	50			書簡	第141連隊史を書いているが、教示してほしい。片岡は福山市在住の旧福山連隊の研究家。複写。	
21	219	冷欣 容庵	冷欣		1975	昭和	50			名刺	肩書は国防研究院講座東呉大学教授 中国文化学院教授。台北と今井の自筆記載あり。年は推定。元中將。	
21	221	王武	王武		1975	昭和	50			名刺	台北在住。元大佐。Wang Wu。年は推定。	
13	103	鈕先銘	鈕先銘		1975	昭和	50			名刺	台北の住所。年は推定。	
13	52	山本薩夫書簡	山本薩夫	今井武夫	1976	昭和	51	1	1	書簡	賀状。山本は映画監督。	
23	33	衛藤瀋吉書簡	衛藤瀋吉	今井武夫	1976	昭和	51	1	1	書簡	衛藤瀋吉から 今井宛の年賀状	
23	34	小林睦廣書簡	小林睦廣	今井武夫	1976	昭和	51	1	1	書簡	北京時代今井の副官だった小林睦廣から年賀状	
23	35	大谷昭典書簡	大谷昭典	今井武夫	1976	昭和	51	1	1	書簡	西本願寺連枝 大谷昭典（大谷照乘息子 福田寺）から今井宛の年賀状	
23	36	永津佐比重書簡	永津佐比重	今井武夫	1976	昭和	51	1	1	書簡	永津佐比重中將から 年賀状	
23	53	中村文代書簡	中村文代	今井武夫	1976	昭和	51	1	1	書簡	中村文代から 年賀状	
23	54	山崎重三郎書簡	山崎重三郎	今井武夫	1976	昭和	51	1	1	書簡	山崎重三郎から 年賀状	
13	191	今井武夫手帳	今井武夫		1976	昭和	51	1	1	手帳	1976年12月31日迄。	
3	96	日本武士道の成れの果て	林義秀		1976	昭和	51	1	23	冊子	フィリピン大蔵大臣サントス他の殺害事件について。林は元陸軍中將。陸士26期。同期和知鷹二中將、川口清健少將等を非難。13-47参照。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
12	163	蒙古大草原の中に渦巻く綏東事件（関東軍蒙古謀略戦）	稲森利助		1976	昭和	51	1		書類	稲森は士官学校の同期生。	
12	164	蒙古のはては包頭特務機関長時代の今昔	稲森利助		1976	昭和	51	1		書類	稲森は士官学校の同期生。	
22	502	相楽総三と石城東山について	今井武夫		1976	昭和	51	1		原稿	3-29の原稿か。1966年「アジア研究」の裏に記載。15枚。年月は推定。	
3	29	今井「相楽総三の墓に参拝」	新小説社		1976	昭和	51	2	15	雑誌	劇と新小説・2号 長谷川伸先生記念紙。	
8	16	支那事変陸軍作戦（2）昭和十四年九月まで	防衛庁防衛研究所戦史室		1976	昭和	51	2	25	書籍	259, 265～270, 448頁に今井についての記載あり。付図4枚あり。朝雲新聞社。	
8	17	大東亜（太平洋）戦争戦史叢書	朝雲新聞社		1976	昭和	51	2	25	冊子	8-16に挿入。日付は推測。	
4	45	現代中国の政治と経済	吉田忠雄・李天民編集		1976	昭和	51	2	28	書籍	新評論。	
★	★				1976	昭和	51	3	14	☆		夏友会有志59名と靖国神社に昇殿参拝 祭文を奉げる
18	6	夏友会靖国神社昇殿参拝記念			1976	昭和	51	3	14	写真	18-96参照。	
18	96	夏友会代表 祭文原稿	今井武夫		1976	昭和	51	3	14	原稿	有志59名と靖国神社に昇殿 参拝の折のもの。18-6参照。	
18	97	夏友会 出席者名簿			1976	昭和	51	3	14	名簿	18-96関連。所属部隊名も記載あり。	
★	★				1976	昭和	51	3	21	☆		南京会に出席（三笠宮殿下ご臨席 於東中野の日本閣）
22	24	南京会			1976	昭和	51	3	21	写真	三笠宮ご臨席。 於日本閣。全12枚。	
3	33	司馬遼太郎「翔ぶが如く（1517）」	毎日新聞社		1976	昭和	51	3	21	新聞	毎日新聞。新聞切抜。3-31に挿入。	
21	77	南京会出席者全員			1976	昭和	51	3	21	写真	出席者全員の写真。於日本閣。	
21	78	南京会出席者			1976	昭和	51	3	21	写真	三笠宮を囲んで出席者9名の写真。於日本閣。	
21	79	南京会出席者			1976	昭和	51	3	21	写真	三笠宮を囲んで出席者10名の写真。於日本閣。	
21	80	南京会出席者			1976	昭和	51	3	21	写真	三笠宮を囲んで万歳をしている写真。於日本閣。	
11	21	岩井英一「上海時代（後期）の思い出（一）」	滬友会		1976	昭和	51	3		雑誌	滬友 38。今井に関する記載あり（63頁）。滬は上海のこと。東亜同文書院の卒業生・教職員などにより同窓会「滬友会」が組織されている	
7	5	今井「三十期 会員の消息 今井武夫君」	偕行社		1976	昭和	51	4	1	冊子	「偕行 4月」。	
1	13	蔣介石秘録2 革命の夜明け	サンケイ新聞社		1976	昭和	51	4	30	書籍	13刷。	
19	61	竹田恒徳「私の履歴書 29 戦後に終止符を」	日本経済新聞社		1976	昭和	51	4	30	新聞	日本経済新聞。新聞切抜。	
5	23	今井「織田勝君と戦後の対面」 今井「森田豊秋君を悼む」	陸士三十期会		1976	昭和	51	5	1	冊子	5-21の続き。昭和49年以降昭和50末迄 追悼録（第八回補足）。	
3	30	今井「陳公博の刑死」	新小説社		1976	昭和	51	5	15	雑誌	劇と新小説・3号 長谷川伸先生記念誌。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
★	★				1976	昭和	51	5	17	☆	於郵便貯金会館。	陸士三十期生会総会に出席
5	28	陸士三十期生会総会 出席予定者名簿	陸士三十期生会		1976	昭和	51	5	17	名簿	総会は於郵便貯金会館で開催。男38名、女性24名出席。	
21	252	飛内正六「惜しい人・尾崎秀実」 永津佐比重「若きある日の出来ごと」	北願会		1976	昭和	51	6	10	冊子	北願会。	
19	63	「蒋介石秘録 盧溝橋事件 3 全軍を戦時体制に」	サンケイ新聞社		1976	昭和	51	6	11	新聞	サンケイ新聞。新聞切抜。	
1	4	蒋介石秘録 9 満州事変	サンケイ新聞社		1976	昭和	51	6	30	書籍	サンケイ新聞。	
★	★				1976	昭和	51	7	7	☆	於日傷会館。全20名。	北京暁月会に出席
22	37	北京暁月会出席者全員			1976	昭和	51	7	7	写真	於日傷会館。全20名。	
19	69	村上武 「回光」			1976	昭和	51	7	15	新聞	編集後記に今井について記載あり。	
19	64	「蒋介石秘録 泥沼の大陸戦線 9 ” 和平 ” 掲げ懐柔策も」	サンケイ新聞社		1976	昭和	51	7	20	新聞	サンケイ新聞。新聞切抜。	
6	24	天津監獄 1532日 日本人・父と娘の手記	柿崎進		1976	昭和	51	7	31	書籍	現代企画室。柿崎は長野県の芯華貿易という中国との朝貢専門の友好商社の経営者で娘と共に1967年逮捕された。茂川秀和との関係か。関川英之『帝国陸軍 見果てぬ「防共回廊」』194～197頁に記載あり。	
12	126	敗戦軍の馬と犬	今井武夫		1976	昭和	51	7		原稿	原稿。3-31の原稿と思われる。年月は推定。	
19	66	「蒋介石秘録 大東亜への野望 8 張自忠が壮烈な死」	サンケイ新聞社		1976	昭和	51	8	10	新聞	サンケイ新聞。新聞切抜。	
19	65	「蒋介石秘録 泥沼の大陸戦線 10 軍 宇垣工作つぶす」	サンケイ新聞社		1976	昭和	51	8	11	新聞	サンケイ新聞。新聞切抜。	
3	31	今井「軍馬と軍犬」と新小説・4号	新小説社		1976	昭和	51	8	15	雑誌	劇と新小説・4号 2巻3号。原稿は12-126と思われる。	
11	22	岩井英一「上海時代（後期）の思い出（二）（附）私と児玉誉士夫」	滬友会		1976	昭和	51	9		雑誌	滬友 39。今井に関する記載あり（71～72頁）。滬は上海のこと。汪兆銘工作について触れている。	
21	318	若き日の遍歴	団野信夫		1976	昭和	51	9		冊子	団野は元大阪朝日新聞記者。40頁に今井と辻政信のことを記載している。昭和48年8月25日～昭和50年3月25日まで「えんぴつ」は朝日新聞東京本社編集局で作っている月刊小冊子。団野については14-627参照。	
21	319	団野信夫	団野信夫		1976	昭和	51	9		名刺	21-318に挿入。肩書きは日本農業研究所。	
★	★				1976	昭和	51	10	10	☆		香港の大公報に今井の著『支那事変の回想』の訳文が連載される

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
14	247	徐克弱 「也算 総統 秘録」 汪公開投降 蔣秘密談和			1976	昭和	51	10	14	新聞	香港大公報。今井回憶録原文記載あり。複写。14-246に挿入。『支那事変の回想』117頁。克弱附註あり。	
15	1	大塚賢三書簡	大塚賢三	今井武夫	1976	昭和	51	10	18	書簡	香港の新聞「大公報」に『支那事変の回想』の訳文が10月10日から連載されている旨の連絡。大塚は支那事変の時の通訳官。昔興亜院華北連絡部政務局に勤め、その後ラジオプレスに勤めていた。暁月会のメンバー。	
21	29	徐克弱 「附註 也算蔣総統秘録」			1976	昭和	51	10	23	新聞	新聞切抜。大公報。桐工作について。	
21	30	大公報要旨の翻訳			1976	昭和	51	10	23	書類	21-29に貼付。21-29の要旨の日本語訳。日付は推定。	
14	244	大塚賢三書簡	大塚賢三	今井武夫	1976	昭和	51	10	25	書簡	香港の新聞「大公報」に『支那事変の回想』連載中に関する10月19日の今井の質問に対する返事。大塚は本日船橋ヘルスセンターで行なわれた第29師団300名の集合に参加した。本間雅晴中将の令嬢も参加していた。	
★	★				1976	昭和	51	10	25	☆		信濃育英会に出席
★	★				1976	昭和	51	10	27	☆		松本重治宛に文化功労賞の荣誉のお祝いの手紙を出す
1	14	蒋介石秘録11 真相・西安事件	サンケイ新聞社		1976	昭和	51	10	29	書籍	サンケイ新聞社。	
4	1	松本重治書簡	松本重治	今井武夫	1976	昭和	51	11	1	書籍	汪兆銘33回忌法要欠席。13-2参照。「近衛時代」執筆構想について。	
11	149	今井「親日汪政権の回顧 和平工作を語る」	大勢新聞社		1976	昭和	51	11	5	新聞	大勢新聞。新聞切抜。	
★	★				1976	昭和	51	11	9	☆	於霞山クラブ。	汪兆銘33周忌に出席
15	30	汪兆銘33周忌			1976	昭和	51	11	9	写真	於霞山クラブ 4-1、13-2参照。	
13	2	汪兆銘 33周忌			1976	昭和	51	11	9	写真	4-1参照。4枚。於霞山会館 今井ほか。	
21	253	汪兆銘33回忌法要席での挨拶文	今井武夫		1976	昭和	51	11	9	原稿	中央電機工業社の罫紙に記載。3枚。	
3	34	今井「汪兆銘夫人陳璧君女史」	新小説社		1976	昭和	51	11	15	雑誌	劇と新小説・5号 長谷川伸先生記念紙。同一2部あり。	
18	212	戦友連 昭和51年11月25日号	全国戦友会連合会		1976	昭和	51	11	25	新聞		
4	91	一下級将校の見た帝国陸軍	山本七平		1976	昭和	51	12	20	書籍	150頁に今井について記載あり。3刷。文藝春秋。	
18	213	戦友連 昭和51年12月25日号	全国戦友会連合会		1976	昭和	51	12	25	新聞		
14	245	大塚賢三書簡	大塚賢三	今井武夫	1976	昭和	51	12	26	書簡	香港大公報に連載中の『支那事変の回想』に今井の誤った箇所指摘あり。	
18	110	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 812」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。今井について記載あり。新聞切抜。	
18	111	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 813」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	
18	112	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 814」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。今井について記載あり。	
18	113	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 815」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。今井について記載あり。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備 考	今 井 武 夫 年 譜
18	114	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 816」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	
18	115	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 817」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	
18	116	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 818」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。今井について記載あり。	
18	117	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 819」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。今井について記載あり。	
18	118	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 820」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。今井について記載あり。	
18	119	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 821」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	
18	120	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 822」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	
18	121	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 823」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	
18	122	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 824」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	
18	123	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 826」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。825は欠落。今井について記載あり。	
18	124	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 827」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。今井について記載あり。	
18	125	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 828」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	
18	126	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 829」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。今井について記載あり。	
18	127	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 830」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	
18	128	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 831」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	
18	129	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 832」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	
18	130	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 833」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	
18	131	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 834」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。今井について記載あり。	
18	132	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 835」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	
18	133	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 836」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。今井について記載あり。	
18	134	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 837」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。今井について記載あり。	
18	135	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 838」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。今井について記載あり。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備 考	今 井 武 夫 年 譜
18	136	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 839」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	
18	137	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 840」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。今井について記載あり。	
18	138	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 841」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	
18	139	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 842」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	
18	140	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 843」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	
18	141	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 844」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。今井について記載あり。	
18	142	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 845」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	
18	143	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 846」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	
18	144	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 847」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	
18	145	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 848」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	
18	146	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 849」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	
18	147	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 850」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	
18	148	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 851」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	
18	149	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 852」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	
18	150	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 853」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	
18	151	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 854」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	
18	152	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 855」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。今井について記載あり。	
18	153	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 856」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	
18	154	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 857」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	
18	155	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 858」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	
18	156	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 859」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	
18	157	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 860」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
18	158	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 861」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	
18	159	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 862」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	
18	160	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 863」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。今井について記載あり。	
18	161	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 864」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	
18	162	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 865」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。今井について記載あり。	
18	163	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 866」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	
10	455	日本地図	内外地図株式会社		1976	昭和	51			地図	200万分の1。	
19	123	台北市地図	大興出版社		1976	昭和	51			地図	表裏に市街図と全図あり。	
18	368	バターン戦記	今井武夫		1976	昭和	51			原稿	1枚のみ。p. 41。年は推定。	
18	369	バターン戦記	今井武夫		1976	昭和	51			原稿	1枚のみ。p. 42-2。3-25の原稿か。年は推定。	
18	370	バターン戦記	今井武夫		1976	昭和	51			原稿	1枚のみ。p. 46。3-25の原稿か。年は推定。	
18	371	バターン戦記	今井武夫		1976	昭和	51			原稿	1枚のみ。p. 52。3-25の原稿か。年は推定。	
18	372	バターン戦記	今井武夫		1976	昭和	51			原稿	1枚のみ。p. 65。3-25の原稿か。年は推定。	
13	192	今井武夫手帳	今井武夫		1976	昭和	52	1	1	手帳	1977年12月31日迄。	
23	37	衛藤藩吉書簡	衛藤藩吉	今井武夫	1977	昭和	52	1	1	書簡	衛藤藩吉から 今井宛の年賀状	
23	38	小林睦廣書簡	小林睦廣	今井武夫	1977	昭和	52	1	1	書簡	小林睦廣から年賀状	
23	39	鳥谷部定吉書簡	鳥谷部定吉	今井武夫	1977	昭和	52	1	1	書簡	北京大使館時代 今井に世話になった 鳥谷部定吉（青森運送株式会社）から今井宛の年賀状	
23	55	内藤秀男書簡	内藤秀男	今井武夫	1977	昭和	52	1	1	書簡	内藤秀男から 年賀状	
★	★				1977	昭和	52	1		☆	於帝国ホテル。	青木一男元大東亜相の米寿の会に出席
12	119	夏友会戦史	今井武夫		1977	昭和	52	1		原稿	3-25「夏友会戦史」の原稿。前書きを含めて99枚。年月は推定。	
21	317	頭山統一「埋没された情熱の復権 日華和平工作史文献紹介」	小日本社		1977	昭和	52	2	1	雑誌	小日本。統一は「もとかず」。	
3	35	今井「英烈千秋の將軍張自忠」	新小説社		1977	昭和	52	2	15	雑誌	劇と新小説・6号 長谷川伸先生追悼誌。	
★	★				1977	昭和	52	2	23	☆		「夏友会戦史 元第65旅団連隊歩第141連隊」発刊
3	25	夏友会戦史 元第65旅団連隊歩第141連隊	今井武夫		1977	昭和	52	2	23	冊子	今井が連隊長をした連隊のフィリピンにおける戦史。12-119に原稿あり。同一2部あり。私家版。58頁。	
3	26	夏友会戦史 元第65旅団連隊歩第141連隊	今井武夫		1977	昭和	52	2	23	冊子	3-25と同一だが、今井が自筆訂正している。原稿あり。私家版。58頁。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
12	223	封筒			1977	昭和	52	2	24	書類	12箱-東8所収の封筒。木村宇一郎寄贈。日露、満州、日中戦争写真86枚とあるがそれ以上あり。21-44所収の写真も木村から送られたもの。	
12	224B	木村宇一郎書簡	木村宇一郎	今井武夫	1977	昭和	52	2	24	書簡	写真送付状。	
★	★				1977	昭和	52	3	20	☆	於遺族会館。	夏友会に出席
18	10	ラバウル友の会			1977	昭和	52	3	20	写真	今井は出席しておらず。於鹿児島吹上荘。	
15	17	夏友会 於遺族会館			1977	昭和	52	3	20	写真		
18	69	夏友会 出席者名簿			1977	昭和	52	3	20	名簿	於遺族会館。今井も出席。	
3	32	今井「靖国神域の馬像」	全国戦友会連合会		1977	昭和	52	3	25	雑誌	戦友連98号、3-31に挿入、同一3部あり。原稿は18-281か。18-280、19-25の写真も関連。昭和33年4月7日除幕式依頼の経過。日清・日露戦争を含めて軍馬の出征80万頭。その殆どが帰らなかった。	
11	153	今井「靖国神域の馬像」	全国戦友会連合会		1977	昭和	52	3	25	雑誌	戦友連98号、3-32に同じ。18-280、281に原稿あり。日清・日露戦争を含めて軍馬の出征80万頭。その殆どが帰らなかった。	
11	217	「桐工作」について	今井武夫		1977	昭和	52	3	31	原稿	「みすず」4月号（3-27）の初校ゲラ。	
18	280	靖国の馬像	今井武夫		1977	昭和	52	3		原稿	3-32関連。「アジア研究」1968年6月24日号の裏紙に記載。年月は推定。	
18	281	靖国神社境内の馬像	今井武夫		1977	昭和	52	3		原稿	3-32の原稿か。「アジア時報」1968年12月25日号の裏紙に記載。年月は推定。	
7	6	今井「三十期 会員の消息 今井武夫君」	偕行社		1977	昭和	52	4	1	冊子	「偕行 4月」。	
★	★				1977	昭和	52	4	3	☆	三笠宮ご臨席。於日本閣。	南京会に出席 第20回
22	20	南京会			1977	昭和	52	4	3	写真	三笠宮ご臨席。於日本閣。全15枚。	
21	82	南京会出席者			1977	昭和	52	4	3	写真	三笠宮を囲んで出席者12名の写真。於日本閣。	
13	12	竹中敬太郎書簡	竹中敬太郎	大久保正次	1977	昭和	52	4	6	書簡	第20回南京会に三笠宮が出席された際の配慮に対する代理のお礼。竹中は三笠宮付事務官。大久保は南京会代表か。複写。	
8	18	漢奸裁判史 1946-1948	益井康一		1977	昭和	52	4	8	書籍	33, 35, 301, 338, 340~342, 347~348頁に今井についての記載あり。資料として①「影佐禎昭供述書」 ②汪兆銘「最後之心情」の訳 添付あり。表紙の裏に「今井武夫先生 乞御高覧 益井康一」と署名記載あり。みすず書房。平成21年10月20日に新版 解説を加えて出版される。	
3	27	今井 「桐工作について」	みすず書房		1977	昭和	52	4	15	雑誌	1977年1月2日付。『みすず 1977. 4』。初稿ゲラ（3月31日付け）は、11-217。	
21	307	今井武夫宛委嘱状	神林美治	今井武夫	1977	昭和	52	4	16	書類	信濃育英会から今井宛に理事の委嘱。神林は会長。	
2	7	北支憲兵と支那事変 従軍憲兵の手記	荒木和夫		1977	昭和	52	4	29	書籍	10~11, 71~72, 82~84, 115~116, 118, 150~152, 198, 230頁に今井関連記事あり。18-80参照。金剛出版。	
1	15	蒋介石秘録15 大陸奪還の誓い	サンケイ新聞社		1977	昭和	52	4	30	書籍		
22	53	12名の記念写真			1977	昭和	52	4		写真	於望川楼。含む今井。長野中学の同窓生とその家族か。	
11	187	南京会 名簿	大久保正治		1977	昭和	52	4		名簿	南京会は支那派遣軍総司令部にいた人の集り。92頁からなる冊子。	
7	7	加登川幸太郎「桐工作の記事に異義あり」	偕行社		1977	昭和	52	5	1	冊子	「偕行 5月」。8頁に今井に関する記載あり。	
9	37	陸軍省人事局長の回想	額田坦		1977	昭和	52	5	1	書籍	芙蓉書房。額田は陸士29期。陸大は今井と同期。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備 考	今 井 武 夫 年 譜
19	73	「雑誌から」欄に「桐工作について」のコメント記事	朝日新聞社		1977	昭和	52	5	9	新聞	今井の桐工作についての記事あり。朝日新聞。新聞切抜。	
3	36	今井「土肥原賢二大将の謀略」	新小説社		1977	昭和	52	5	15	雑誌	劇と新小説・7号 長谷川伸先生追悼誌。	
9	61	井本熊男書簡	井本熊男	今井武夫	1977	昭和	52	5	17	書簡	執筆活動、桐工作、バターン戦記などについて。	
1	9	小説 ジンギスカン 上	梅本捨三		1977	昭和	52	5	20	書籍	原書房。	
1	10	小説 ジンギスカン 下	梅本捨三		1977	昭和	52	5	20	書籍	原書房。	
14	246	大塚賢三 書簡	大塚賢三	今井武夫	1977	昭和	52	6	3	書簡	往時の回顧と大公報所載の徐克弱の今井に関する記事送付。	
6	14	森山誠之の会社での今井ほか			1977	昭和	52	6	27	写真	6-12に挿入。	
21	28	常安弘通書簡	常安弘通	今井武夫	1977	昭和	52	6	28	書簡	もう北京に住んでいた新聞人は皆あの世に旅立ち暁月会に顔を出しても語り合える人は今井武官あるのみとも思う。40年前の朝日新聞コピーを同封する。	
16	11	譚覚真「ある革命家の生涯 1」	月刊時事社		1977	昭和	52	7	1	雑誌	月刊時事 22巻 7号。複写。	
★	★				1977	昭和	52	7	7	☆	全24名。	北京暁月会に出席 40周年記念
22	38	北京暁月会出席者全員			1977	昭和	52	7	7	写真	40周年記念。全24名。	
22	39	北京暁月会			1977	昭和	52	7	7	写真		
3	149	盧溝橋畔に立つ乾隆皇帝の碑文「盧溝暁月」の拓本の前の今井			1977	昭和	52	7	7	写真	晩年のものと思われる。北京暁月会での写真。年は推定。	
9	34	関東軍参謀副長の手記	松村知勝		1977	昭和	52	7	10	書籍	芙蓉書房。松村は陸軍少将。陸士33期。昭和20年3月1日関東軍参謀副長。戦後ソ連に抑留され 東京裁判にソ連側の承認として出廷させられた。昭和31年12月に帰国	
11	171	今井「敵か友か（上）」	全国師友協会		1977	昭和	52	7	10	雑誌	師と友 330 7月号。	
8	22	譚覚真書簡	譚覚真	今井武夫	1977	昭和	52	7	12	書簡	拙稿 お目通しへの礼。8-21に挿入。	
2	4	石ころの生涯 一崇貞・桜美林物語一	清水安三		1977	昭和	52	7	25	書籍	清水は桜美林学園創立者。初版。キリスト新聞社。	
1	1	石ころの生涯 一崇貞・桜美林物語一	清水畏三		1977	昭和	52	7	25	書籍	桜美林学園創立者清水安三遺稿集、改訂4版、3-107、13-35参照。御会葬御礼 喪主清水畏三とある。キリスト新聞社。	
16	12	譚覚真「ある革命家の生涯 2」	月刊時事社		1977	昭和	52	8	1	雑誌	月刊時事 22巻 8号。複写。	
11	172	今井「敵か友か（下）」	全国師友協会		1977	昭和	52	8	10	雑誌	師と友 331 8月号。	
3	37	今井「帷幄謀略の板垣征四郎大将」	新小説社		1977	昭和	52	8	15	雑誌	劇と新小説・8号 長谷川伸先生追悼誌。同一2部あり。	
9	62	井本熊男書簡	井本熊男	今井武夫	1977	昭和	52	8	20	書簡	井本の支那事変に関する著作執筆について。	
3	98	海への郷愁	尾崎隆		1977	昭和	52	8	20	冊子	尾崎は元海軍少佐。	
14	264	井本熊男書簡	井本熊男	今井武夫	1977	昭和	52	8	25	書簡	今井が寄稿した「師と友」を送付したことに對する礼。「歴史的資料として価値ありと思う」と。11-171と172関連。	
18	394	関耕太「バターン”死の行進”の真相」	中央公論社		1977	昭和	52	8		雑誌	歴史と人物 8月号。切抜。今井について記載あり。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
18	395	相良俊輔「インパール作戦の敗将 牟田口中将の晩年」	中央公論社		1977	昭和	52	8		雑誌	歴史と人物 8月号。切抜。18-394と同じ綴り。	
16	13	譚覚真「ある革命家の生涯3」	月刊時事社		1977	昭和	52	9	1	雑誌	月刊時事 22巻 9号。複写。	
16	14	譚覚真「ある革命家の生涯4」	月刊時事社		1977	昭和	52	10	1	雑誌	月刊時事 22巻 10号。複写。	
18	80	荒木和夫書簡	荒木和夫	今井武夫	1977	昭和	52	10	3	書簡	河辺旅団長が不機嫌となった牟田口連隊長の竜王廟の夜襲の件。豊台所長だった寺田浄の手紙を荒木が書き写したものが別紙として添付。荒木については2-7参照。寺田は元憲兵大尉。年度は全くの推定。	
8	21	潜行三十年	譚覚真		1977	昭和	52	10	15	書籍	147頁の写真に 今井に関する記載あり。文言社。	
★	★				1977	昭和	52	10	18	☆	於離宮飯店。	鼓樓会に出席
21	81	鼓樓会			1977	昭和	52	10	18	写真	出席者12名の写真。於離宮飯店。	
★	★				1977	昭和	52	10	27	☆		霞山会に出席
★	★				1977	昭和	52	11	3	☆	於遺族会館。	夏部隊戦死死者法要と懇談会に出席
7	8	偕行 偕行社創立百周年記念号臨時増刊	偕行社		1977	昭和	52	11	3	冊子		
18	44	夏部隊戦死死者法要式次第及懇談会	夏友会		1977	昭和	52	11	3	書類	今井は懇談会で挨拶。同一2部あり。	
1	3	鄧小平	石原栄次		1977	昭和	52	11	15	書籍	大陸研究社。	
3	38	今井「勝海舟の側面観」	新小説社		1977	昭和	52	11	15	雑誌	劇と新小説・9号 長谷川伸追悼誌。同一2部あり。	
3	167	「小別当さんを偲んで」刊行世話人会書簡	「小別当さんを偲んで」刊行世話人会	今井武夫	1977	昭和	52	11	16	書簡	発刊記念会の案内。今井も世話人の一人。3-166に挿入。小別当とは小別当惣三のこと。	
3	166	小別当さんを偲んで	「小別当さんを偲んで」刊行世話人会		1977	昭和	52	11	31	書籍	今井「小別当君の思い出」。小別当とは小別当惣三のこと。	
18	229	明石一郎「在日中国諜報機関の機密」	ジャパン・ミリタリー・レビュー		1977	昭和	52	11		雑誌	軍事研究。複写。盧溝橋事件の仕掛けは中国共産党説。	
22	501	勝海舟の書	今井武夫		1977	昭和	52	11		原稿	3-38の原稿。1966年「アジア研究」の裏に記載。7枚。年月は推定。	
11	188	旧海軍中国関係者列伝	沖野亦男		1977	昭和	52	11		冊子	沖野は海兵47期。陸軍だが今井について42頁に記載あり。	
6	8	民族を結ぶころころシリーズ6	北都書房		1977	昭和	52	12	1	書籍	今井「敵か友か」。	
18	45	御田重宝「人間の記録790 郷土兵士の足跡 パターン戦1 初期作戦は順調」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	9	新聞	中国新聞連載開始。複写。	
18	46	御田重宝「人間の記録791 郷土兵士の足跡 パターン戦2 65旅団第一線へ」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	10	新聞	中国新聞。複写。	
18	47	御田重宝「人間の記録792 郷土兵士の足跡 パターン戦3 国際感覚欠く陸軍」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	11	新聞	中国新聞。複写。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
18	48	御田重宝「人間の記録793 郷 土兵士の足跡 バターン戦4 強 硬な対日政策」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	13	新聞	中国新聞。複写。	
18	49	御田重宝「人間の記録794 郷 土兵士の足跡 バターン戦5 日 米戦略で対立」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	14	新聞	中国新聞。複写。	
18	50	御田重宝「人間の記録795 郷 土兵士の足跡 バターン戦6 反 乱事件相次ぐ」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	15	新聞	中国新聞。複写。	
18	51	御田重宝「人間の記録796 郷 土兵士の足跡 バターン戦7 急 つげる御前会議」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	16	新聞	中国新聞。複写。	
18	52	御田重宝「人間の記録797 郷 土兵士の足跡 バターン戦8 日 米交渉が決裂」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	17	新聞	中国新聞。複写。	
18	462	御田重宝「人間の記録797 郷 土兵士の足跡 バターン戦8 日 米交渉が決裂」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	17	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	461	バタアン作戦 新聞切抜 ス クラブ	今井武夫		1977	昭和	52	12	17	新聞	18箱-東19所収のファイル。「敵を知り己を知らざれば我に勝算なし、兵法の大原則を無視せるバタン作戦」と書いてある。	
18	53	御田重宝「人間の記録798 郷 土兵士の足跡 バターン戦9 陸 軍がゴリ押し」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	18	新聞	中国新聞。複写。	
18	463	御田重宝「人間の記録798 郷 土兵士の足跡 バターン戦9 陸 軍がゴリ押し」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	18	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	54	御田重宝「人間の記録799 郷 土兵士の足跡 バターン戦10 戦闘準備を発令」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	20	新聞	中国新聞。複写。	
3	65	評伝 真崎甚三郎	田崎末松		1977	昭和	52	12	20	書籍	芙蓉書房。	
3	66	今井の関心事と記載頁	今井武夫		1977	昭和	52	12	20	メモ	3-65に挿入。実質2枚。年月は全くの推定。	
18	464	御田重宝「人間の記録799 郷 土兵士の足跡 バターン戦10 戦闘準備を発令」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	20	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	55	御田重宝「人間の記録800 郷 土兵士の足跡 バターン戦11 開戦日が決まる」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	21	新聞	中国新聞。複写。	
18	465	御田重宝「人間の記録800 郷 土兵士の足跡 バターン戦11 開戦日が決まる」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	21	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	466	御田重宝「人間の記録800 郷 土兵士の足跡 バターン戦11 開戦日が決まる」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	21	新聞	中国新聞。新聞切抜。18-465に同じ。	
18	56	御田重宝「人間の記録801 郷 土兵士の足跡 バターン戦12 お粗末な機械化」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	22	新聞	中国新聞。複写。18-164に本紙あり。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
18	164	御田重宝「人間の記録801 郷 土兵士の足跡 バターン戦12 お粗末な機械化」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	22	新聞	中国新聞。18-56の本紙。新聞切抜。	
18	467	御田重宝「人間の記録801 郷 土兵士の足跡 バターン戦12 お粗末な機械化」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	22	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	468	御田重宝「人間の記録801 郷 土兵士の足跡 バターン戦12 お粗末な機械化」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	22	新聞	中国新聞。18-56の本紙。新聞切抜。	
18	57	御田重宝「人間の記録802 郷 土兵士の足跡 バターン戦13 65旅団編成される」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	23	新聞	中国新聞。複写。今井の談話あり。自筆修正した本紙新聞切抜あり。 18-107参照	
18	107	御田重宝「人間の記録802 郷 土兵士の足跡 バターン戦13 65旅団編成される」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	23	新聞	中国新聞。今井の談話あり。修正箇所あり。18-57の本紙。新聞切抜。	
18	469	御田重宝「人間の記録802 郷 土兵士の足跡 バターン戦13 65旅団編成される」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	23	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の談話あり。	
18	58	御田重宝「人間の記録803 郷 土兵士の足跡 バターン戦14 福山兵営を出陣」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	24	新聞	中国新聞。今井に関する記事あり。複写。18-165に本紙あり。	
18	165	御田重宝「人間の記録803 郷 土兵士の足跡 バターン戦14 福山兵営を出陣」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	24	新聞	中国新聞。今井に関する記事あり。18-58の本紙。新聞切抜。	
18	470	御田重宝「人間の記録803 郷 土兵士の足跡 バターン戦14 福山兵営を出陣」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	24	新聞	中国新聞。今井に関する記事あり。新聞切抜。	
18	59	御田重宝「人間の記録804 郷 土兵士の足跡 バターン戦15 宇品出港し台湾へ」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	25	新聞	中国新聞。複写。18-166に本紙あり。	
18	166	御田重宝「人間の記録804 郷 土兵士の足跡 バターン戦15 宇品出港し台湾へ」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	25	新聞	中国新聞。18-59の本紙。新聞切抜。	
18	471	御田重宝「人間の記録804 郷 土兵士の足跡 バターン戦15 宇品出港し台湾へ」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	25	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の談話あり。	
18	60	御田重宝「人間の記録805 郷 土兵士の足跡 バターン戦16 台湾基地で待機」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	27	新聞	中国新聞。複写。今井の談話あり。18-167に本紙あり。	
18	167	御田重宝「人間の記録805 郷 土兵士の足跡 バターン戦16 台湾基地で待機」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	27	新聞	中国新聞。今井の談話あり。18-60の本紙。新聞切抜。	
18	472	御田重宝「人間の記録805 郷 土兵士の足跡 バターン戦16 台湾基地で待機」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	27	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の談話あり。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
18	473	御田重宝「人間の記録805 郷 土兵士の足跡 バターン戦16 台湾基地で待機」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	27	新聞	中国新聞。今井の談話あり。新聞切抜。	
18	61	御田重宝「人間の記録806 郷 土兵士の足跡 バターン戦17 ひっそりと召集」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	28	新聞	中国新聞。複写。18-168に本紙あり。	
18	168	御田重宝「人間の記録806 郷 土兵士の足跡 バターン戦17 ひっそりと召集」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	28	新聞	中国新聞。18-61の本紙。新聞切抜。	
18	474	御田重宝「人間の記録806 郷 土兵士の足跡 バターン戦17 ひっそりと召集」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	28	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	62	御田重宝「人間の記録807 郷 土兵士の足跡 バターン戦18 開戦へ爆撃機発信」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	29	新聞	中国新聞。複写。今井の談話あり。18-169に本紙あり。	
18	169	御田重宝「人間の記録807 郷 土兵士の足跡 バターン戦18 開戦へ爆撃機発信」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	29	新聞	中国新聞。今井の談話あり。18-62の本紙。新聞切抜。	
18	63	御田重宝「人間の記録808 郷 土兵士の足跡 バターン戦19 霧で出撃計画変更」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	30	新聞	中国新聞。複写。	
18	475	御田重宝「人間の記録808 郷 土兵士の足跡 バターン戦19 霧で出撃計画変更」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	30	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	64	御田重宝「人間の記録809 郷 土兵士の足跡 バターン戦20 初戦は一方的勝利」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	31	新聞	中国新聞。複写。	
21	184	写真送付状	木村宇一郎		1977	昭和	52	12	31	封筒	木村から送られた写真には12-所収のものもある。21-4所収の封筒。	
18	305	バターン戦の捕虜について	今井武夫		1977	昭和	52			原稿	6枚。「アジア研究」1969年7月4日号の裏に記載。	
21	315	賀陽恒憲年賀状書簡	賀陽恒憲	今井武夫	1977	昭和	53	1	1	書簡		
23	40	小平（村上）マリ書簡	小平（村上）マリ	今井武夫	1978	昭和	53	1	1	書簡	小平（村上）マリ（村上知行 娘）から年賀状	
23	56	千田祥隆書簡	千田祥隆	今井武夫	1978	昭和	53	1	1	書簡	千田祥隆から年賀状	
23	57	山崎重三郎書簡	山崎重三郎	今井武夫	1978	昭和	53	1	1	書簡	山崎重三郎から年賀状	
11	35	今井武夫手帳	今井武夫		1978	昭和	53	1	1	手帳	1978年12月31日迄。	
18	65	御田重宝「人間の記録810 郷 土兵士の足跡 バターン戦21 比島に第一歩印す」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	3	新聞	中国新聞。複写。	
18	476	御田重宝「人間の記録810 郷 土兵士の足跡 バターン戦21 比島に第一歩印す」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	3	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	66	御田重宝「人間の記録811 郷 土兵士の足跡 バターン戦22 爆撃思わず大地震」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	4	新聞	中国新聞。複写。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
18	477	御田重宝「人間の記録811 郷 土兵士の足跡 バターン戦22 爆撃思わず大地震」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	4	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の談話あり。	
18	67	御田重宝「人間の記録812 郷 土兵士の足跡 バターン戦23 懸命に生きた青春」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	5	新聞	中国新聞。複写。	
18	478	御田重宝「人間の記録812 郷 土兵士の足跡 バターン戦23 懸命に生きた青春」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	5	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	68	御田重宝「人間の記録813 郷 土兵士の足跡 バターン戦24 65旅団も比島上陸」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	6	新聞	中国新聞。複写。今井の談話あり。	
18	479	御田重宝「人間の記録813 郷 土兵士の足跡 バターン戦24 65旅団も比島上陸」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	6	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の談話あり。	
18	170	御田重宝「人間の記録814 郷 土兵士の足跡 バターン戦25 第一線へ出動命令」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	7	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井について記載あり。	
18	480	御田重宝「人間の記録814 郷 土兵士の足跡 バターン戦25 第一線へ出動命令」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	7	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井について記載あり。	
18	171	御田重宝「人間の記録815 郷 土兵士の足跡 バターン戦26 約20キロを夜行軍」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	8	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	481	御田重宝「人間の記録815 郷 土兵士の足跡 バターン戦26 約20キロを夜行軍」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	8	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	172	御田重宝「人間の記録816 郷 土兵士の足跡 バターン戦27 強行軍で第一線へ」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	10	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の談話記事あり。	
18	482	御田重宝「人間の記録816 郷 土兵士の足跡 バターン戦27 強行軍で第一線へ」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	10	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の談話記事あり。	
18	173	御田重宝「人間の記録817 郷 土兵士の足跡 バターン戦28 200キロを越す行軍」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	11	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の談話記事あり。	
18	483	御田重宝「人間の記録817 郷 土兵士の足跡 バターン戦28 200キロを越す行軍」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	11	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の談話記事あり。	
18	174	御田重宝「人間の記録818 郷 土兵士の足跡 バターン戦29 不見識な追撃命令」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	12	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の談話記事あり。今井の修正あり。	
18	484	御田重宝「人間の記録818 郷 土兵士の足跡 バターン戦29 不見識な追撃命令」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	12	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の談話記事あり。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
18	175	御田重宝「人間の記録819 郷 土兵士の足跡 バターン戦30 14軍主力が上陸」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	13	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	485	御田重宝「人間の記録819 郷 土兵士の足跡 バターン戦30 14軍主力が上陸」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	13	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	176	御田重宝「人間の記録820 郷 土兵士の足跡 バターン戦31 軍参謀を追い返す」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	14	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	486	御田重宝「人間の記録820 郷 土兵士の足跡 バターン戦31 軍参謀を追い返す」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	14	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	177	御田重宝「人間の記録821 郷 土兵士の足跡 バターン戦32 作戦の混乱招く」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	15	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	178	御田重宝「人間の記録822 郷 土兵士の足跡 バターン戦33 アグノ河に進出」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	17	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	487	御田重宝「人間の記録822 郷 土兵士の足跡 バターン戦33 アグノ河に進出」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	17	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	179	御田重宝「人間の記録823 郷 土兵士の足跡 バターン戦34 マ司令部がコ島へ」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	18	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	488	御田重宝「人間の記録823 郷 土兵士の足跡 バターン戦34 マ司令部がコ島へ」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	18	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
14	265	井本熊男書簡	井本熊男	今井武夫	1978	昭和	53	1	19	書簡	旧年中ご迷惑をかけたことへの礼。井本の著書「作戦日誌でつづる 支那事変」に対する序文寄稿依頼。	
18	180	御田重宝「人間の記録824 郷 土兵士の足跡 バターン戦35 5 つの防御線敷く」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	19	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	489	御田重宝「人間の記録824 郷 土兵士の足跡 バターン戦35 5 つの防御線敷く」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	19	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	181	御田重宝「人間の記録825 郷 土兵士の足跡 バターン戦36 マニラ攻撃を決定」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	20	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	490	御田重宝「人間の記録825 郷 土兵士の足跡 バターン戦36 マニラ攻撃を決定」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	20	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	182	御田重宝「人間の記録826 郷 土兵士の足跡 バターン戦37 マニラ向け前進」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	21	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	491	御田重宝「人間の記録826 郷 土兵士の足跡 バターン戦37 マニラ向け前進」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	21	新聞	中国新聞。新聞切抜。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
14	267	井本熊男書簡	井本熊男	今井武夫	1978	昭和	53	1	22	書簡	今井の序文寄稿お断り了承。今井の示唆で書いた部分削除する。未発表の、たとえば「西尾司令官の意向は板垣総参謀長が停戦地域に出て行くことに乗り気でなかった」ことは書かないことにすると。	
18	183	御田重宝「人間の記録827 郷土兵士の足跡 バターン戦38 48師団にブレーキ」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	22	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	492	御田重宝「人間の記録827 郷土兵士の足跡 バターン戦38 48師団にブレーキ」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	22	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	184	御田重宝「人間の記録828 郷土兵士の足跡 バターン戦39 まさに破竹の進撃」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	24	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	493	御田重宝「人間の記録828 郷土兵士の足跡 バターン戦39 まさに破竹の進撃」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	24	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	185	御田重宝「人間の記録829 郷土兵士の足跡 バターン戦40 米軍がマニラ放棄」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	25	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	494	御田重宝「人間の記録829 郷土兵士の足跡 バターン戦40 米軍がマニラ放棄」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	25	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	186	御田重宝「人間の記録830 郷土兵士の足跡 バターン戦41 放火・略奪相次ぐ」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	26	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	495	御田重宝「人間の記録830 郷土兵士の足跡 バターン戦41 放火・略奪相次ぐ」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	26	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	187	御田重宝「人間の記録831 郷土兵士の足跡 バターン戦42 米比軍を甘く見る」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	27	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	496	御田重宝「人間の記録831 郷土兵士の足跡 バターン戦42 米比軍を甘く見る」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	27	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	188	御田重宝「人間の記録832 郷土兵士の足跡 バターン戦43 米比軍を追撃へ」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	28	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井部隊について記載あり。	
18	497	御田重宝「人間の記録832 郷土兵士の足跡 バターン戦43 米比軍を追撃へ」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	28	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井部隊について記載あり。	
18	189	御田重宝「人間の記録833 郷土兵士の足跡 バターン戦44 65旅団と戦線交代」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	29	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の談話記事あり。	
18	498	御田重宝「人間の記録833 郷土兵士の足跡 バターン戦44 65旅団と戦線交代」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	29	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の談話記事あり。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
18	190	御田重宝「人間の記録834 郷土兵士の足跡 バターン戦45 独力攻撃が決まる」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	31	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	499	御田重宝「人間の記録834 郷土兵士の足跡 バターン戦45 独力攻撃が決まる」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	31	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
14	266	井本熊男宛返信案	今井武夫		1978	昭和	53	1		書簡	14-265に挿入。芙蓉書房から出版「作戦日誌で綴る支那事変」の序文寄稿にお断りの案。中央電気工業の野紙に記載。	
11	191	36年ぶりに バタアン半島の戦跡を訪ねて	園生尊一		1978	昭和	53	1		冊子	園生上等兵は141連隊の第二中隊所属だった。	
21	63	「楊大将の母上も女性」	上海タイムス支社		1978	昭和	53	2	1	新聞	サンハイ・タイムス。	
18	191	御田重宝「人間の記録835 郷土兵士の足跡 バターン戦46 整然とした命令」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	1	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	500	御田重宝「人間の記録835 郷土兵士の足跡 バターン戦46 整然とした命令」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	1	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井連隊は左翼隊。	
18	192	御田重宝「人間の記録836 郷土兵士の足跡 バターン戦47 まず密林と苦闘」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	2	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の談話記事あり。	
18	501	御田重宝「人間の記録836 郷土兵士の足跡 バターン戦47 まず密林と苦闘」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	2	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の談話記事あり。	
18	193	御田重宝「人間の記録837 郷土兵士の足跡 バターン戦48 二日ぶり敵陣発見」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	3	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の談話記事あり。	
18	502	御田重宝「人間の記録837 郷土兵士の足跡 バターン戦48 二日ぶり敵陣発見」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	3	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の談話記事あり。	
18	194	御田重宝「人間の記録838 郷土兵士の足跡 バターン戦49 敵の地雷にかかる」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	4	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	503	御田重宝「人間の記録838 郷土兵士の足跡 バターン戦49 敵の地雷にかかる」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	4	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	195	御田重宝「人間の記録839 郷土兵士の足跡 バターン戦50 統出する死傷者」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	5	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	504	御田重宝「人間の記録839 郷土兵士の足跡 バターン戦50 統出する死傷者」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	5	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	196	御田重宝「人間の記録840 郷土兵士の足跡 バターン戦51 せつ斥候選出に涙」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	7	新聞	中国新聞。新聞切抜。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備 考	今 井 武 夫 年 譜
18	505	御田重宝「人間の記録840 郷 土兵士の足跡 バターン戦51 せつ侯選出に涙」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	7	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	197	御田重宝「人間の記録841 郷 土兵士の足跡 バターン戦52 マバタンは特級戦」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	8	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	506	御田重宝「人間の記録841 郷 土兵士の足跡 バターン戦52 マバタンは特級戦」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	8	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	198	御田重宝「人間の記録842 郷 土兵士の足跡 バターン戦53 物量戦に押される」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	9	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	507	御田重宝「人間の記録842 郷 土兵士の足跡 バターン戦53 物量戦に押される」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	9	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	199	御田重宝「人間の記録843 郷 土兵士の足跡 バターン戦54 兵士にも不満の声」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	10	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	508	御田重宝「人間の記録843 郷 土兵士の足跡 バターン戦54 兵士にも不満の声」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	10	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	200	御田重宝「人間の記録844 郷 土兵士の足跡 バターン戦55 友軍見失い孤立」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	11	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	509	御田重宝「人間の記録844 郷 土兵士の足跡 バターン戦55 友軍見失い孤立」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	11	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	201	御田重宝「人間の記録845 郷 土兵士の足跡 バターン戦56 重火器なく苦闘」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	12	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井について記載あり。	
18	510	御田重宝「人間の記録845 郷 土兵士の足跡 バターン戦56 重火器なく苦闘」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	12	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井について記載あり。	
18	202	御田重宝「人間の記録846 郷 土兵士の足跡 バターン戦57 浮田隊が高地奪取」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	14	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井について記載あり。	
18	511	御田重宝「人間の記録846 郷 土兵士の足跡 バターン戦57 浮田隊が高地奪取」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	14	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井について記載あり。	
18	203	御田重宝「人間の記録847 郷 土兵士の足跡 バターン戦58 142連隊も一線進出」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	15	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	512	御田重宝「人間の記録847 郷 土兵士の足跡 バターン戦58 142連隊も一線進出」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	15	新聞	中国新聞。新聞切抜。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
18	204	御田重宝「人間の記録848 郷 土兵士の足跡 バターン戦59 敵陣攻めあぐむ」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	16	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	513	御田重宝「人間の記録848 郷 土兵士の足跡 バターン戦59 敵陣攻めあぐむ」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	16	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	205	御田重宝「人間の記録849 郷 土兵士の足跡 バターン戦60 薄暮攻撃通用せず」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	17	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	514	御田重宝「人間の記録849 郷 土兵士の足跡 バターン戦60 薄暮攻撃通用せず」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	17	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	206	御田重宝「人間の記録850 郷 土兵士の足跡 バターン戦61 近距離で撃ち合い」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	18	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	515	御田重宝「人間の記録850 郷 土兵士の足跡 バターン戦61 近距離で撃ち合い」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	18	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	207	御田重宝「人間の記録851 郷 土兵士の足跡 バターン戦62 是田小隊が全滅」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	19	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	516	御田重宝「人間の記録851 郷 土兵士の足跡 バターン戦62 是田小隊が全滅」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	19	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	208	御田重宝「人間の記録852 郷 土兵士の足跡 バターン戦63 喚声あげ敵陣突破」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	21	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	517	御田重宝「人間の記録852 郷 土兵士の足跡 バターン戦63 喚声あげ敵陣突破」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	21	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	209	御田重宝「人間の記録853 郷 土兵士の足跡 バターン戦64 増える収容患者」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	22	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	518	御田重宝「人間の記録853 郷 土兵士の足跡 バターン戦64 増える収容患者」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	22	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	210	御田重宝「人間の記録854 郷 土兵士の足跡 バターン戦65 密林で道に迷う」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	23	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の談話あり。	
18	519	御田重宝「人間の記録854 郷 土兵士の足跡 バターン戦65 密林で道に迷う」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	23	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の談話あり。	
18	211	御田重宝「人間の記録855 郷 土兵士の足跡 バターン戦66 九連隊と連絡つく」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	24	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の談話あり。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
18	520	御田重宝「人間の記録855 郷 土兵士の足跡 バターン戦66 九連隊と連絡つく」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	24	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の談話あり。	
3	39	今井「終戦当時を回想の一端」	新小説社		1978	昭和	53	2	25	雑誌	劇と新小説・10号 長谷川伸先生追悼誌。	
18	521	御田重宝「人間の記録856 郷 土兵士の足跡 バターン戦67 今夜こそ戦死か」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	25	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	522	御田重宝「人間の記録857 郷 土兵士の足跡 バターン戦68 1ヶ月ぶり体洗う」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	26	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	523	御田重宝「人間の記録858 郷 土兵士の足跡 バターン戦69 大みえ切った報告」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	28	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
21	64	「楊大将の母上も女性」	上海タイムス支 社		1978	昭和	53	3	1	新聞	サンハイ・タイムス。21-63の続き。	
18	547	柳生大尉書簡	柳生大尉	今井武夫	1978	昭和	53	3	1	書簡	一別以来のこと。中国新聞の切抜送る。柳生は留守第65旅団の電報 班長をしていた。18-19に挿入。	
18	524	御田重宝「人間の記録859 郷 土兵士の足跡 バターン戦70 悲惨な敵陣上陸」	中国新聞社		1978	昭和	53	3	1	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	525	御田重宝「人間の記録860 郷 土兵士の足跡 バターン戦71 上陸地点わからず」	中国新聞社		1978	昭和	53	3	2	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	526	御田重宝「人間の記録 861 郷 土兵士の足跡 バターン戦72 撤退の電報届かず」	中国新聞社		1978	昭和	53	3	3	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	527	御田重宝「人間の記録 862 郷 土兵士の足跡 バターン戦73 無意味な海上作戦」	中国新聞社		1978	昭和	53	3	4	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	528	御田重宝「人間の記録 863 郷 土兵士の足跡 バターン戦74 攻略か封鎖かで動揺」	中国新聞社		1978	昭和	53	3	5	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	529	御田重宝「人間の記録 864 郷 土兵士の足跡 バターン戦75 大勢占めた消極論」	中国新聞社		1978	昭和	53	3	7	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	530	御田重宝「人間の記録 865 郷 土兵士の足跡 バターン戦76 戦線を放棄し撤退」	中国新聞社		1978	昭和	53	3	8	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の談話あり。	
18	531	御田重宝「人間の記録 866 郷 土兵士の足跡 バターン戦77 日ごとに兵力増加」	中国新聞社		1978	昭和	53	3	9	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	532	御田重宝「人間の記録 867 郷 土兵士の足跡 バターン戦78 まず警戒陣地奪う」	中国新聞社		1978	昭和	53	3	10	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
6	46	陸軍中野学校	中野校友会		1978	昭和	53	3	10	書籍	269, 271, 276～279, 281頁に今井に関する記載あり。原書房。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
18	227	陣内利彦書簡	陣内利彦	靖国神社	1978	昭和	53	3	10	書簡	なき愛馬の供養にと歌集を送る。中支派遣独立野砲兵第十大隊陣内は第三中隊の元軍曹。	
18	533	御田重宝「人間の記録 868 郷土兵士の足跡 バターン戦79 総攻撃の態勢整う」	中国新聞社		1978	昭和	53	3	11	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	534	御田重宝「人間の記録 869 郷土兵士の足跡 バターン戦80 河をはさんで対陣」	中国新聞社		1978	昭和	53	3	12	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
4	114	昭和初期政治・外交史研究	荻田徹		1978	昭和	53	3	12	書籍	53, 59, 70, 73, 76, 273頁に今井について記載あり。人間の科学社。	
18	535	御田重宝「人間の記録870 郷土兵士の足跡 バターン戦81 敵の猛攻撃受ける」	中国新聞社		1978	昭和	53	3	14	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	536	御田重宝「人間の記録871 郷土兵士の足跡 バターン戦82 火門300間で総攻撃」	中国新聞社		1978	昭和	53	3	15	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	537	御田重宝「人間の記録872 郷土兵士の足跡 バターン戦83 渡河に成功し追撃」	中国新聞社		1978	昭和	53	3	16	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の回想あり。	
18	538	御田重宝「人間の記録873 郷土兵士の足跡 バターン戦84 破竹の勢いで進撃」	中国新聞社		1978	昭和	53	3	17	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	539	御田重宝「人間の記録874 郷土兵士の足跡 バターン戦85 敵の投稿者が続出」	中国新聞社		1978	昭和	53	3	18	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の回想あり。	
18	540	御田重宝「人間の記録875 郷土兵士の足跡 バターン戦86 捕虜せん滅の命令」	中国新聞社		1978	昭和	53	3	19	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の談話あり。	
18	541	御田重宝「人間の記録876 郷土兵士の足跡 バターン戦87 捕虜9万人超える」	中国新聞社		1978	昭和	53	3	23	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井について記載あり。	
18	542	御田重宝「人間の記録877 郷土兵士の足跡 バターン戦88 ”死の行進”に疑問」	中国新聞社		1978	昭和	53	3	24	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の談話あり。	
18	543	御田重宝「人間の記録878 郷土兵士の足跡 バターン戦89 13時間で戦闘終了」	中国新聞社		1978	昭和	53	3	25	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	544	御田重宝「人間の記録879 郷土兵士の足跡 バターン戦90 ウ中將が投降命令」	中国新聞社		1978	昭和	53	3	26	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	545	御田重宝「人間の記録880 郷土兵士の足跡 バターン戦91 戦死者は4千130人」	中国新聞社		1978	昭和	53	3	28	新聞	中国新聞。新聞切抜。	
18	546	御田重宝「人間の記録881 郷土兵士の足跡 バターン戦92 民衆離反し敗北へ」	中国新聞社		1978	昭和	53	3	30	新聞	中国新聞。新聞切抜。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
21	65	「楊大将の母上も女性」	上海タイムス支社		1978	昭和	53	4	1	新聞	サンハイ・タイムス。21-64の続き。	
7	9	今井「三十期 会員の消息 今井武夫君」	偕行社		1978	昭和	53	4	1	冊子	「偕行 4月 327号」。花だより三十期に今井が80歳になった心境を語っている。士官学校時代の第三中隊の後藤十郎古参区隊長の近況について報告。	
18	100	三好弘書簡	三好弘	今井武夫	1978	昭和	53	4	7	書簡	旅の栞（18-82）に挨拶文の依頼。関連。	
18	92	三好弘書簡	三好弘	今井武夫	1978	昭和	53	4	8	書簡	旅行参加の手続きについて。	
18	93	山口清書簡	山口清	今井武夫	1978	昭和	53	4	25	書簡	山口は夏友会世話人代表。元141連隊機関銃中隊小隊長。旅行参加のスケジュール連絡。	
21	238	人情味豊かな寺内元帥	今井武夫		1978	昭和	53	4		原稿	1-8の原稿。「アジア研究」1969年10月6日号の裏に記載。4枚。月は推定。	
21	239	人情味豊かな寺内元帥	今井武夫		1978	昭和	53	4		原稿	1-8の原稿。原稿用紙に記載。3枚。月は推定。	
18	225	間瀬坦平君を悼む	今井武夫		1978	昭和	53	4		原稿	5-24の原稿。月は推定。間瀬は陸士同期。	
18	226	米丸正熊君を悼む	今井武夫		1978	昭和	53	4		原稿	5-24の原稿。18-225と同じ綴り。月は推定。米丸は陸士同期。岡田資中將の副官で、横浜軍事裁判で20年の重労働判決を受けた。	
21	292	昭和49年度決算報告書	陸士三十期生会		1978	昭和	53	4		書類	21-291に挿入。	
21	291	第三十期生会 会員名簿 17号 同期生会規約、内規、会費、基金 寄付金一覧	陸士三十期生会		1978	昭和	53	4		冊子	現存者141名。	
5	24	今井「米丸正熊君を悼む」 今井「間瀬 坦平君を偲ぶ」	陸士三十期生会		1978	昭和	53	5	1	冊子	5-22の続き。昭和51年以降昭和52年末迄。追悼録(第九回補足)。間瀬については7-10参照。18-225、18-226に原稿あり。米丸は岡田資中將の副官を務め、横浜軍事裁判で重労働20年の判決を受けた。	
18	102	日本旅行福山営業所書簡	日本旅行福山営業所	今井武夫	1978	昭和	53	5	1	書簡	5月11日旅行説明会の案内。於備後遺族会館。	
18	94	山口清書簡	山口清	今井武夫	1978	昭和	53	5	12	書簡	旅行参加のスケジュール連絡。山口は元141連隊機関銃中隊小隊長。	
18	95	三好弘書簡	三好弘	今井武夫	1978	昭和	53	5	16	書簡	旅行参加のスケジュール連絡。三井は第141連隊の軍医。	
★	★				1978	昭和	53	5	25	☆		5月28日までフィリピン戦跡訪問及慰霊旅行（バターン半島の戦跡を訪ねる） マニラの日本人墓地、本間中將の墓等にお参り
★	★				1978	昭和	53	5	25	☆		京都で行なわれた陸士三十期生の任官60周年記念大会に欠席
3	40	今井「水牛の亡霊」	新小説社		1978	昭和	53	5	25	雑誌	劇と新小説・11号 4巻2号。長谷川伸追悼誌。同一2部あり。19-194関連。	
18	86	マニラ観光御日程表	JTC Philippines		1978	昭和	53	5	25	書類	18-80に挿入。旅行スケジュール。	
18	406	第一次比島戦跡訪問及慰霊の旅を終えて（昭和53. 5. 24～5. 28）	夏友会		1978	昭和	53	5		書類	夏友会を代表して今井の英霊に対する追悼文あり。18-82は「御挨拶」。今井に言及する記述数箇所あり。月は推定。	
18	12	ナチブ山上から写す			1978	昭和	53	5		写真		

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
18	13	フィリピンのクリス村附近の 写真2枚と35年前の戦場の解説 文			1978	昭和	53	5		写真	35年前とあるが36年前ではないか。	
18	14	ナチブ山より リマイ山の方 角にむけて			1978	昭和	53	5		写真	1943年1月20日頃より2月中旬の戦場。	
18	15	リマイ、オリオンの山			1978	昭和	53	5		写真		
18	16	1943年1月14日頃の第141連隊 第一大隊の激戦地			1978	昭和	53	5		写真		
18	17	サマット山より リマイ山と マリベレス山を望む	津川忠士		1978	昭和	53	5		写真		
18	18	サマット山より ナチブ山を 望む	津川忠士		1978	昭和	53	5		写真		
15	31	サマット山より リマイ山を 望む			1978	昭和	53	5		写真		
18	19	リングエン湾旅行	山口清		1978	昭和	53	5		写真	4枚。山口は夏友会世話人代表。山口は元141連隊機関銃中隊小隊長。	
18	20	バターン	山口清		1978	昭和	53	5		写真	2枚。山口は元141連隊機関銃中隊小隊長。	
18	21	フィリピン戦跡			1978	昭和	53	5		写真	4枚。	
15	32	フィリピンの本間雅晴中将の 墓			1978	昭和	53	5		写真		
15	33	マニラの日本人墓地			1978	昭和	53	5		写真		
15	34	フィリピン戦跡訪問の旅			1978	昭和	53	5		写真	31枚。	
18	83	比島現地慰霊法会に就いて	夏友会		1978	昭和	53	5		書類	18-80に挿入。本間閣下、山下閣下、バギオ慰霊碑前で献花と焼香。	
18	84	三好弘書簡	三好弘	今井武夫	1978	昭和	53	5		書簡	18-80に挿入。旅のしおり送付とスケジュールについて。三好は夏友会旅行の世話人。	
18	85	夏友会・比島戦跡視察及現地 追悼法会			1978	昭和	53	5		書類	18-80に挿入。5月25日から28日までのスケジュール。	
18	89	「旧第65旅団の夏友会 比島の 戦跡訪ねる 遺族からの供え物 受け付け」			1978	昭和	53	5		新聞	掲載紙不明。新聞切抜。	
18	91	比島戦跡訪問及慰霊の旅に当 り	夏友会世話係一 同		1978	昭和	53	5		書類	4-83「比島現地慰霊法会に就いて」が添付。	
18	98	山口清書簡	山口清	今井武夫	1978	昭和	53	5		書簡	バターン半島激戦地附近で代表して祭文を読むことの依頼文。山口は元141連隊機関銃中隊小隊長。	
18	82	今井「ご挨拶」	夏友会		1978	昭和	53	5		冊子	5月25日から28日までの旅行。比島戦跡訪問慰霊の旅。18-406には英霊に対する「追悼文」あり。	
1	8	元帥 寺内寿一	寺内寿一刊行会 上法快男		1978	昭和	53	6	1	書籍	今井「人情味豊かな寺内元帥」。芙蓉書房。原稿21-238～239にあり。	
9	68	戦争と人間の記録 バターン戦	御田重宝		1978	昭和	53	6	10	書籍	37, 84, 88, 91, 99, 142, 172, 188, 194, 197, 198, 204, 259, 262頁に今井に関する記述あり。現代史出版会。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
21	293	陸士三十期生任官60周年記念大会実施の通知	陸士三十期生会 東京世話人会		1978	昭和	53	6	25	書類	5月25日に日実施した内容の事後報告。於かんぽール京都。今井は欠席。	
21	294	陸士三十期生京都記念大会出席者	陸士三十期生会		1978	昭和	53	6	25	書類	正准会員合計144名出席。正会員は51名出席。	
21	295	陸士三十期生任官60周年記念大会会計報告書	陸士三十期生会		1978	昭和	53	6	25	書類	任官50周年大会、55周年大会についても参考として記載あり。	
18	88	「指揮責任は誤審 山下、本間 将軍の軍事裁判 米作家が批判」	朝日新聞社		1978	昭和	53	6	27	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
9	56	作戦日誌で綴る支那事変	井本熊男		1978	昭和	53	6	30	書籍	井本は元陸軍大佐。60～61, 84, 86, 92～95, 99, 398, 409, 411～, 412, 415, 420, 423～424, 477頁に今井に関する記事あり。芙蓉書房。	
16	19	新中国の地政学的一考察	成瀬恭		1978	昭和	53	7	1	冊子	日本国防協会「日本の国防 59号」からの抜粋。成瀬は原書房社長。	
16	31	今井武夫書簡	今井武夫	何応欽	1978	昭和	53	7	21	書簡	蔣経国総統就任を祝う閑院宮純仁殿下の親書を三田忠一に託した。16-30に挿入。	
15	36	市谷会館に於ける会食写真			1978	昭和	53	7	22	写真	全4枚。今井を含めて全8名。	
14	668	抗議声明書	長谷川敏三		1978	昭和	53	7	25	書類	14-667に同封。	
14	667	長谷川敏三書簡	長谷川敏三	今井武夫	1978	昭和	53	7	31	書簡	長谷川は元在華日本人民反戦同盟代表。	
19	67	「大東亜要人の亡命工作」	毎日新聞社		1978	昭和	53	7	31	新聞	毎日新聞。南京政府首席代理陳公博とビルマ政府首相バー・モウについて。新聞切抜。	
16	20	成瀬恭書簡	成瀬恭	宛先不明	1978	昭和	53	8	1	書簡	冊子送付と叱正願ひ。案内複写16-19に挿入。成瀬は原書房社長。	
7	37	今井「日中和平 桐工作 の全貌」 相良俊輔「盧溝橋事件の謎を解く」 陳公博「汪兆銘狙撃さる」 (岡田西次訳)	中央公論社		1978	昭和	53	8	1	雑誌	歴史と人物 8月号。今井に関する記述あり。	
19	60	「日中決着 感慨ひとしお、反戦と日中友好にかけた生涯 エスペランチスト長谷川テル」	朝日新聞社		1978	昭和	53	8	11	新聞	朝日新聞。新聞切抜。日中平和友好条約調印前日の新聞。	
6	47	桜書簡	桜	今井武夫	1978	昭和	53	8	28	書簡	支那部会担当委員に対する指導の札と書籍送付について。桜は桜一郎と思われる。中野校友会会長の太郎良定夫の代理としての書簡。6-46に挿入。	
9	33	有楽会 会員名簿	有楽会		1978	昭和	53	9		名簿	18人の名簿。今井も会員。9-32に挿入。	
3	147	鼓楼会			1978	昭和	53	9		写真	3枚あり。	
2	46	声なき声 250万英霊にこたえる道	板垣正		1978	昭和	53	10	1	書籍	板垣は日本遺族会事務局長。原書房。	
18	81	夏部隊関連の袋			1978	昭和	53	10	3	写真	18箱-東79所収の袋。	
★	★				1978	昭和	53	10	22	☆	於土浦京成ホテル。	第75連隊十一中隊会に出席
22	17	第75連隊十一中隊会			1978	昭和	53	10	22	写真	於土浦京成ホテル。全39名。出席者の名前記載書類添付あり。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
15	37	今井ら4名			1978	昭和	53	10	29	写真		
☆	☆				1978	昭和	53	10	31	☆	於東京大飯店。	今井と小笠原清 中国馬樹礼少将 (駐日代表) と会食
11	205	Western Language Publications	CMC, Inc.		1978	昭和	53	11	1	書類		
6	17	福山連隊史 中国編	片岡修身		1978	昭和	53	11	3	書籍	福山歩兵第41聯隊記念碑建設世話人会。古川書店。	
19	59	王必威「馬樹礼與今井武夫一段交往」			1978	昭和	53	11	14	新聞	聯合報。10月31日に今井、小笠原と東京飯店で会食。	
11	206	A Special List on Library Science and Library Aids	CMC, Inc.		1978	昭和	53	11	30	書類	不要か。	
3	20	今井「支那派遣軍大陸勇戦譜」	潮書房		1978	昭和	53	12	15	雑誌	丸 エキストラ版 「特集 空と海の戦記」 62号。12-93の再掲載。	
22	549	夢春庵推敲	島田謹吾		1978	昭和	53	12	25	書籍	非売品。昭和44年1月19日付け島田からの年賀を兼ねた送付状の手紙同封あり。島田は長野中学同級生。225頁。	
18	108	片岡修身書簡	片岡修身	今井武夫	1978	昭和	53	12		書簡	第141連隊史を書いている。資料があったらお願いします。知人に同封の年賀状を出してほしい。片岡は福山市在住の旧福山連隊の研究者。	
14	669	支那派遣軍にみる日本陸軍最後の栄光	丹羽敏明		1978	昭和	53			書類	14-667に同封。複写。丹羽は元118師団砲兵隊所属。年度は全くの推定。	
14	670	元在華中国人民反戦同盟について	今井武夫		1978	昭和	53			メモ	メモ2枚。14-667関連。	
2	47	板垣正書簡	板垣正	宛先不明	1978	昭和	53			書簡	書籍送付。2-46に挿入。	
18	87	南方全般攻略作戦経過要図			1978	昭和	53			書類	18-80に挿入。1-8「元帥寺内寿一」の付図。旅行に携帯したものか。	
18	99	三好弘書簡	三好弘	今井武夫	1978	昭和	53			書簡	比島訪問旅行に就いての連絡。	
18	101	日本旅行福山営業所書簡	日本旅行福山営業所	今井武夫	1978	昭和	53			書簡	比島訪問参加申込書記入・返送の依頼。	
18	103	各世話係の方へお知らせと御願ひ	夏友会		1978	昭和	53			書類	比島戦跡訪問及慰霊の旅を終えての記念アルバムと冊子作りについて。	
18	104	比島戦跡訪問及慰霊の旅について	木曾武雄		1978	昭和	53			書類	木曾はフィリピンに現住し現地参加。旅行案内をした。18-49参照。フィリピン戦闘の手書き地図添付。	
18	105	夏部隊パターン半島戦場について	今井武夫		1978	昭和	53			メモ	パターン半島での戦闘と戦後フィリピンを訪問したときのメモ。表裏あり。1枚	
18	106	夏部隊パターン半島戦場について	今井武夫		1978	昭和	53			メモ	37年後訪問の印象。	
19	144	亜東親善協会 会員名簿	亜東親善協会		1978	昭和	53			名簿	今井は理事。	
11	209	霞山会 会員名簿	霞山会		1978	昭和	53			名簿	昭和41年～53年樺原神宮紀元祭奉賛芳名名簿控、『支那事変の回想』追記4頁、266頁追加文章ほか。重要メモか。	
7	11	座談会「第二次大戦と在外武官(4)」	借行社		1978	昭和	54	1	1	冊子	「借行 1月」。出席者リストに今井の名前。三十期藤村益蔵の葬儀に参列。	
19	68	汪精衛政権 陸軍総司令官だった鄒平凡(すうへいぼん)の訃報記事	朝日新聞社		1979	昭和	54	1	1	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	
11	36	今井武夫手帳	今井武夫		1979	昭和	54	1	1	手帳	1979年12月31日迄。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
18	109	山県香吉年賀状	山県香吉	宛先不明	1979	昭和	54	1	1	書簡	18-108に挿入。山県は歩兵41連隊記念碑建設世話人。年賀状に印刷。福山の研究家片岡修身さん『福山連隊史・中国編』を出版。日記・生存者の話をもとに構成。	
23	41	有末精三書簡	有末精三	今井武夫	1979	昭和	54	1	1	書簡	有末中将から年賀状	
23	42	波多野和夫書簡	波多野和夫	今井武夫	1979	昭和	54	1	1	書簡	波多野和夫（桐朋学園）から年賀状	
23	43	板垣修・板垣ふじ書簡	板垣修・板垣ふじ	今井武夫	1979	昭和	54	1	1	書簡	外交官の垣修夫妻(妻 ふじ) から年賀状	
23	58	中村文代書簡	中村文代	今井武夫	1979	昭和	54	1	1	書簡	年賀状	
18	400	夏友会出席者 名簿			1979	昭和	54	3	11	名簿	於（福山市の？）遺族会館。今井は出席名簿になし。	
4	35	昭和の戦乱に終始した一将校の老癩までの歩み	伊藤昇		1979	昭和	54	3	12	冊子	伊藤は元陸軍中佐。非売品。	
★	★				1979	昭和	54	3	25	☆	三笠宮殿下ご臨席。於日本閣。	第22回南京会に出席
3	148	南京会 三笠宮を囲んで 於日本閣			1979	昭和	54	3	25	写真	8枚。	
22	22	南京会 於日本閣			1979	昭和	54	3	25	写真	三笠宮ご臨席。 於日本閣。全2枚。	
15	29	南京会 於日本閣			1979	昭和	54	3	25	写真	3枚。日付は昭和55年になっているが54年ではないか。	
21	83	南京会出席者全員 於日本閣			1979	昭和	54	3	25	写真	第22回。於日本閣。	
21	84	南京会出席者14名			1979	昭和	54	3	25	写真	第22回。三笠宮を囲んで14名。於日本閣。	
3	88	昭和五十四年度会員総会議事録	アジア親善交流協会		1979	昭和	54	4	27	冊子		
★	★				1979	昭和	54	5	14	☆	出席者遺族を含めて52名（偕行 7月）	陸士三十期生会総会に出席 於郵便貯金会館
21	58	陸士三十期生会	陸士三十期生会		1979	昭和	54	5	14	写真		
18	307	「元陸軍少尉木曾武雄さん」	朝日新聞社		1979	昭和	54	5	22	新聞	18-306に挿入。朝日新聞。新聞切抜。	
17	45	財団法人 信濃育英会役員名簿（副理事長）			1979	昭和	54	5	27	書類	今井は副理事長。	
17	46	田中重彌書簡	田中重彌	今井武夫	1979	昭和	54	5	27	書簡	信濃育英会小平寮対策委員を委嘱。田中は理事長。	
18	306	私の太平洋戦争は終わった	木曾武雄		1979	昭和	54	5		書類	木曾は元第141連隊の第一大隊浮田幸雄中尉の第一中隊に所属した少尉。年月は推定。18-307関連。	
1	41	中国大陸の人権問題	李正中		1979	昭和	54	5		書籍	世界反共連盟中華民国分会・アジア反共連盟中華総会発行。	
21	92	1979年5月中のソ・中関係経過対照一覧表	KDK麹町研究所		1979	昭和	54	5		書類		

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
21	236	河辺虎四郎回想録 245頁の転記	今井武夫		1979	昭和	54	6		メモ	昭和20年7月18日（水）の日記か。「南京で今井少将と会い重慶工作の説明詳取。今井と何柱国との会話は興味ある話」とある。毎日新聞から出された本の発行日は、7月。「河辺虎四郎回想録」は、柴田所有とある。	
1	44	最後の満州 錦州終戦前夜	品川安衛・新川吹雄・竹内将晃・森山誠之		1979	昭和	54	8	1	書籍	錦州会。会長は森山誠之。	
1	42	中京の対日統一戦線戦術とその最終目標	朱少先		1979	昭和	54	9		書籍	世界反共連盟中華民国分会・アジア反共連盟中華総会発行。	
3	53	毛沢東の悲劇 3 文化大革命の混迷	柴田穂		1979	昭和	54	10	1	書籍	サンケイ新聞社。	
12	35	日本経済新聞	日本経済新聞社		1979	昭和	54	12	8	新聞	「私の履歴書 犬丸徹三 38」。切抜。犬丸は帝国ホテル社長。年は推定。1980年に単行本が出ている。1981年4月死去。	
4	36	伊藤昇書簡	伊藤昇	宛先不明	1979	昭和	54			書簡	本の贈呈。4-35に挿入。年代は推定。	
11	186	研究資料 昭和五十四年度 3	アジア親善交流会		1979	昭和	54			冊子		
11	37	今井武夫手帳	今井武夫		1979	昭和	55	1	1	手帳	1980年12月31日迄。	
23	59	千田広子書簡	千田広子	今井武夫	1980	昭和	55	1	1	書簡	千田広子から年賀状	
23	44	沈膺書簡	沈膺	今井武夫	1980	昭和	55	1	1	書簡	東京在住の沈膺（しんゆう）から今井武夫夫妻孝子宛の年賀状	
23	45	有末精三書簡	有末精三	今井武夫	1980	昭和	55	1	1	書簡	有末精三 中将から年賀状	
23	46	小平（村上）マリ書簡	小平（村上）マリ	今井武夫	1980	昭和	55	1	1	書簡	小平（村上）マリ（村上知行 娘）から年賀状	
6	18	福山聯隊史 マレー・バターン編	片岡修身		1980	昭和	55	3	10	書籍	今井「発刊を祝して」。今井は元福山歩兵第141連隊長。163～166, 171～173, 179～180, 191, 196, 201～202, 224, 247, 266～267, 338, 352～353, 357, 364, 402頁に今井に関する記載あり。同一2部あり。福山聯隊慰霊碑建設世話人会。古川書店。	
18	90	三好弘書簡	三好弘	今井武夫	1980	昭和	55	3	15	書簡	三好は夏友会旅行の世話人。第二次フィリピン戦跡訪問及慰霊旅行招待の案内。18-40関連。	
★	★				1980	昭和	55	3	25	☆	於日本閣。	南京会に出席
22	25	南京会			1980	昭和	55	3	25	写真	於日本閣。今井が挨拶している写真。21-85関連。	
21	85	南京会			1980	昭和	55	3	25	写真	於日本閣。今井が万歳している写真。22-25関連。	
6	4	黄河・揚子江・珠江 —中国勤務の思い出—	宇都宮直賢		1980	昭和	55	4	5	冊子	宇都宮は元陸軍少将。178～179, 181, 305, 330, 332頁に今井について記載あり。	
7	36	秦郁彦「影佐偵昭 —汪政権の生みの親—」	経済往来社		1980	昭和	55	5	1	雑誌	経済往来 5月号 32巻（通巻42巻）。今井に関する記述あり。	
★	★				1980	昭和	55	5	20	☆	出席者43名（偕行 7月に記載あり）。（於東京港区郵便貯金会館）	陸士三十期生会総会に出席

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
3	102	機密文書でつづる ロシアの太平洋侵略史	伊東六十次郎		1980	昭和	55	5	20	書籍	伊東は元大同学院教授。日本生活問題研究所出版局。	
18	40	第二次比島戦跡訪問及慰霊の旅を終えて	夏友会		1980	昭和	55	5		冊子	5月23日から26日までの旅行。18-90関連。	
11	192	第二次比島戦跡訪問及慰霊の旅を終えて	夏友会		1980	昭和	55	5		冊子	5月23日から26日までの旅行。18-90関連。18-40に同じ。	
12	153	常安弘通書簡	常安弘通	北京暁月会事務所	1980	昭和	55	6	30	書簡	暁月会案内の礼。富士書苑刊大東亜戦史「中国編」(1969年刊行)で今井の奮闘を描いた文章が脈打っている。	
21	259	「見直される中国封建制論」			1980	昭和	55	7		雑誌	掲載誌不明。雑誌切抜。複写。1枚。	
21	123	「独占スクープ記事証言 私 は辻政信参謀を処刑した」	読売新聞社		1980	昭和	55	8	3	雑誌	週刊読売。切抜。	
22	550	日華・風雲の七十年	張群		1980	昭和	55	8	30	書籍	サンケイ出版。古屋奎二訳。張は蒋介石の右腕だった。	
21	52	鄧小平の戦略	アジア親善交流 協会		1980	昭和	55	8		冊子	8月21日開催第4回研究会報告。講師は亜細亜大学講師清水徳三氏。	
21	237	影佐禎昭さん	今井武夫		1980	昭和	55	8		原稿	3-54の原稿か。ばらばらで全6枚。	
21	268	影佐禎昭33回忌にあたっての 原稿	今井武夫		1980	昭和	55	8		原稿	21-237とは別のもの。裏もあり。3-54の原稿か。	
3	54	人間影佐禎昭	人間・影佐禎昭 出版世話人会		1980	昭和	55	9	10	書籍	今井「影佐禎昭さん」。今井は「人間・影佐禎昭出版世話人会」の一員。出版日は影佐の33回忌祥月命日に当たる。原稿は21-237か。21-268もあり。	
11	222	戦陣の断章	塚本博利		1980	昭和	55	9	10	冊子	塚本は元141連隊大隊本部付。第二中隊小隊長。当時の資料を使って自費出版したもの。11-226に塚本のことが書かれている。	
9	14	岡村チエ	岡村チエ		1980	昭和	55	9	30	名刺	9-12に貼付。チエは岡村大将夫人か。	
9	15	昭和戦争史の証言	西浦進		1980	昭和	55	9		書籍	西浦は元陸軍大佐。初代陸上自衛隊幹部学校戦史室長。みすず書房。	
23	47	風間駿書簡	風間駿	今井武夫	1980	昭和	55	12		書簡	風間阜の息子風間駿から、喪中の挨拶状	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
4	53	田中徹雄を語る	「田中徹雄を語る」刊行委員会		1980	昭和	55	12	14	冊子	制作 株サンリオ。田中は一時期「梅機関」に務めていた。	
4	54	「田中徹雄を語る」出版計画・実行事務局書簡	「田中徹雄を語る」出版計画・実行事務局	故田中徹雄さんをご存知の皆様	1980	昭和	55	12	14	書簡	本の送付。4-53に挿入。	
21	61	森山誠之「北京・沈陽・丹東走馬看花の記」			1980	昭和	55			雑誌	掲載紙不明。切抜。	
23	48	松山良政書簡	松山良政	今井武夫	1981	昭和	56	1	1	書簡	鹿児島島の松山良政から 今井武夫宛の年賀状	
23	49	今井武夫書簡	今井武夫	宛先不明	1981	昭和	56	1		書簡	今井武夫名義 次女孝子葬儀 会葬御礼の挨拶	
21	320	桜井弘之書簡	桜井弘之	今井武夫	1980	昭和	56	2		書簡	桜井弘之は徳太郎の弟。徳太郎が12月28日83歳で死去したことの連絡。	
21	310	原勝書簡	原勝	今井武夫	1981	昭和	56	3	5	書簡	娘のモスクワ飛行機事故に関する本の送付。原は戦前から付き合いのあるジャーナリスト。新国民外交調査会理事長。	
21	311	原勝書簡	原勝	今井武夫	1981	昭和	56	3	10	書簡	次女孝子の病気見舞い。	
21	241	曹大中先生治喪委員会書簡	曹大中先生治喪委員会	今井武夫	1981	昭和	56	3		書簡	曹大中將軍3月4日死去の訃報連絡。74歳。	
21	242	曹大中遺像写真	曹大中先生治喪委員会		1981	昭和	56	3		写真	裏に曹大中の業績記載あり。21-241に挿入。	
2	16	中国近代史1 アヘン戦争と太平天国革命	復旦大学歴史系・上海師範大学歴史系		1981	昭和	56	5	1	書籍	野原四郎・小島晋治監訳。三省堂。	
13	4	江梅会 会員名簿			1981	昭和	56	9	1	名簿	6頁からなる冊子。	
★	★				1981	昭和	56	10	21	☆	脳腫瘍手術後 回復せず。	(次女) 今井孝子病死 (39歳)
13	6	江梅会襍記 第二集	江梅会		1981	昭和	56	10		冊子	江梅会襍記。石原幸次「軍事顧問部の思い出」。今井についての記載あり。石原は「梅機関」の一員だった。	
21	91	江梅会だより	江梅会幹事		1981	昭和	56	10		書類	幹事は三石照雄と佃正道。江梅雑記第二集と名簿配布の件。	
16	29	南條範夫「辻政信という男」	中央公論社		1981	昭和	56	10		雑誌	中央公論 10月号。複写。	
★	★				1981	昭和	56	11	3	☆		緊急入院
21	312	原勝書簡	原勝	今井武夫・俊子	1981	昭和	56	12	8	書簡	次女孝子の死に対する悔やみ。この頃今井は入院中。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
11	226	今井武夫「曾遊の地 元少将台湾訪問記」	柴田善次郎		1981	昭和	56	12	8	冊子	「烙印を押された補充兵始末記」。26～28頁に今井の記。17～18頁に今井の人柄について記載あり。柴田は元第141連隊所属。今井のほか松岡勝三、渡辺健一、塚本博利など当時の思い出の人を記載している。	
23	50	鳥谷部定吉書簡	鳥谷部定吉	今井武夫	1982	昭和	57	1	1	書簡	鳥谷部定吉（青森運送株式会社）から今井宛の年賀状	
23	60	佐々木正廣書簡	佐々木正廣	今井武夫	1982	昭和	57	1	1	書簡	佐々木正廣から年賀状	
23	61	野本義松書簡	野本義松	今井武夫	1982	昭和	57	1	1	書簡	野本義松から年賀状	
7	12	三十期「会員の消息」	偕行社		1981	昭和	57	3	1	冊子	「偕行 3月」。今井の入院についての記載あり。	
1	30	将軍の裁判 マッカーサーの復讐	ローレンス・テイラー		1982	昭和	57	4	10	書籍	武内孝夫・月守晋訳。99頁に今井関連記事あり。立風書房。	
7	13	陸士三十期「会員の消息」	偕行社		1982	昭和	57	6	1	冊子	「偕行 6月」。今井入院中の記載あり。	
★	★				1982	昭和	57	6	12	☆	於東京都杉並区前田病院。	午後3時35分脳梗塞で死去
21	5	今井武夫の訃報記事	信濃毎日新聞社 ほか		1982	昭和	57	6	15	新聞	複写。日経、朝日、毎日、読売記事もあり。	
21	89	今井武夫の訃報記事	読売新聞社		1982	昭和	57	6	15	新聞	読売新聞。新聞切抜。21-88に貼付。	
★	★				1982	昭和	57	6	16	☆	於東京都中野区仙寺。墓は府中の多磨墓地。第14区 23側。	告別式 法名最勝院釈武徳
18	404	第三次比島戦跡訪問及慰霊の旅を終えて	夏友会		1982	昭和	57	6		書類	5月13日～5月17日まで。発行月は推定。	
7	48	竹内春夫「盧溝橋事件の謀略性を示す一つの問題」	偕行社		1982	昭和	57	11	1	冊子	「偕行 11月」。竹内は陸士52期。	
5	30	今井俊子「思い出の記」 那須義雄「今井武夫君を悼む」 堀内晴文「同郷の友故今井武夫君」 半井顕夫「今井武夫君の思い出」	陸士三十期生会		1982	昭和	58	2		冊子	自昭和53年至昭和58年1月追悼録(第十回補足)。5-24の続き。	
18	403	夏友会総会出席者 名簿	夏友会		1983	昭和	58	3	6	名簿		
6	44	夏部隊の足跡	夏友会事務局		1983	昭和	58	3		書籍	今井「ごあいさつ」。今井の死後発刊されたもの。今井は初代第141連隊長。第65旅団は「夏」、第141連隊は「夏9853部隊」と略称。	
1	72	陸士三十期生会 会誌	陸士三十期生会		1983	昭和	58	10	1	冊子	陸士三十期生任官65周年記念誌。7-42に任官55周年記念誌あり。	
19	149	書類を入れた封筒			1983	昭和	58			封筒	今井俊子整理。	
18	415	南京会世話人書簡	南京会世話人	今井貞夫	1983	昭和	59	1	18	書簡	3月11日の案内。於て日本閣。第27回。今井は既に他界している。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
15	54	南京会 名簿	大久保正治・竹部俊三		1984	昭和	59	1		名簿	今井の死亡時刻記載あり。	
7	14	座談会「軍事顧問部を語る－汪兆銘およびその政権と共に－」	偕行社		1984	昭和	60	4	1	冊子	「偕行 4月」。今井について記載されている。	
7	15	座談会「軍事顧問部を語る－汪兆銘およびその政権と共に－②」	偕行社		1985	昭和	60	5	1	冊子	「偕行 5月」。今井について記載されている。	
14	270	「終戦直前 師・繆斌の工作は本物だった」	中日新聞東京本社		1985	昭和	60	5	13	新聞	東京新聞。今井に関する記載あり。	
7	16	座談会「軍事顧問部を語る－汪兆銘およびその政権と共に－③」	偕行社		1985	昭和	60	6	1	冊子	「偕行 6月」。今井について記載されている。	
7	17	座談会「軍事顧問部を語る－汪兆銘およびその政権と共に－④」	偕行社		1985	昭和	60	7	1	冊子	「偕行 7月」。今井について記載されている。	
22	568	高橋久志「日華事変初期における陸軍中枢部 一不拡大派の挫折から汪兆銘工作へ」	山川出版社		1985	昭和	60	10	30	雑誌	「年報近代日本会研究 7 日本外交の危機認識」。今井について記載あり。複写。	
6	13	伊東六十次郎「満州国は関東軍の軍政下にあった」	朝日新聞社		1985	昭和	60			新聞	朝日新聞。新聞切抜。6-12に挿入。	
21	375	高橋久志「第6章 支那事変 中華民族抵抗への誤算」	PHP研究所		1985	昭和	61	2	13	雑誌	「国家戦略の分裂と錯誤（中）－日本近代と戦争 3」。複写。259頁～298頁。	
7	18	「将軍は語る 31期小野寺信少将（上）」	偕行社		1986	昭和	61	3	1	冊子	「偕行 3月」。今井に関して記載されている。	
6	45	続 夏部隊の足跡（総集編）	夏友会事務局		1986	昭和	61	3	9	書籍	今井の夏部隊英霊への追悼文あり（834～835頁）。今井俊子（長女・遺族）「思い出の記」。三好弘「今井閣下」。280～281頁に今井に関する記載あり。三井は第141連隊の軍医曹長だった。	
18	384	夏友会復員40周年記念大会	夏友会事務局		1986	昭和	61	3	9	写真		
☆	☆				1986	昭和	61	3	10	☆		（妻） 今井きみ子死去（79歳）
7	19	満和会（陸士三十期生会）「花だより」	偕行社		1986	昭和	61	5	1	冊子	「偕行 5月」。今井きみ子（妻）の訃報について記載あり。	
21	299	高橋久志「支那事変の泥沼化と国家戦略の行き詰まり」	PHP研究所		1986	昭和	61	5	7	雑誌	「国家戦略の分裂と錯誤（下）－日本近代と戦争 4」。1939年5月16日付けの田尻愛義（総領事）「竹内工作に関する今井大佐との会談記」（外務省外交史料館蔵「支那事変ニ際シ支那新政府樹立関係一件（第二巻）に所収）」について言及。	
4	87	昭和史への一証言	松本重治		1986	昭和	61	6	20	書籍	56、99～102頁に今井に関する記事あり。毎日新聞社。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
11	225	高橋久志「日中学術交流を顧みて」			1986	昭和	61	8		雑誌	現代の安全保障 49号 1986年8月号。複写。	
4	80	秦郁彦「解説と分析 現場大隊長が明かした貴重な証言」	朝日新聞社		1987	昭和	63	1	10	新聞	朝日新聞。新聞記事中に「吉祥凶案解題」と野崎誠近の名が出てくる。切抜。	
4	110	思い出す事々	今井俊子		1988	昭和	63	8		書類	今井武夫の若かりし頃のエピソード。父武夫から長女今井俊子が聞いた思い出など。	
22	548	高橋久志「汪兆銘南京政権参戦問題をめぐる日中関係」	日本国際学界編		1988	平成	1	5		雑誌	国際政治91号。「日中戦争から日英米戦争へ」。複写。	
21	6	日中戦争・太平洋戦争と今井武夫 一戦線不拡大・日中平等に尽力した異色の郷土出身陸軍高官一	高木寛		1995	平成	8	1		冊子	『市誌研究ながの 第3号』からの抜刷。高木は長野市誌編集委員。	
3	168	「今井武夫生誕100年・17回忌に寄せて」			1998	平成	10	6	27	新聞	長野市民新聞。複写。	
☆	☆				1999	平成	11	10	23	☆	テレビ信州作成のビデオは長女所蔵。	テレビ信州 「長野高校創立100周年記念特別番組 54年目のメッセージ 太平洋戦争と金鶏健児」に長女今井俊子出演し 父の思い出を語る
3	163	上坂冬子書簡	上坂冬子	今井貞夫	1999	平成	12	1	14	書簡	『我は苦難の道を行く』に関連して、政界の重鎮からも手紙もらった。当時を知る多くの日本人は汪兆銘に申し訳ない気であるようです。	
21	7	肉親への手紙等にみる人間栗林忠道	高木寛		2000	平成	12	1		冊子	「市誌研究ながの」平成12年1月号抜刷。	
22	556	研究会 日中戦争和平工作研究の動向と現状	戸部良一		2000	平成	13	6	29	冊子	『外交史料館報第15号』。抜刷。外務省外交史料館。	
3	162	ふるさと朝陽	朝陽地区市制100周年記念事業実行委員会		2001	平成	15	2	1	書籍	今井没後のものであるが、甥の今井良雄が中心になって本誌をまとめた。70頁に今井に関する記述あり。3-81参照。ふるさと朝陽出版部会。	
22	557	研究ノート 汪兆銘のハノイ脱出をめぐって - 関係者の回想と外務省記録 -	戸部良一		2005	平成	17	9	30	冊子	外交史料館報 第19号。抜刷。外務省外交史料館。	
21	12	高木寛書簡	高木寛	今井良雄	2005	平成	18	1	1	書簡	賀状。高木は長野市誌編集委員。複写。	
21	14	高原英男書簡	高原英男	今井良雄	2006	平成	18	1	1	書簡	複写。21-12に貼付。9月に今井武夫について講演会を行うのでよろしく。高原は長野郷土史研究会朝陽支部長。複写。	
22	567	文藝協会ニュース 平成18年2月 No. 654	日本文藝家協会		2006	平成	18	2		冊子	大野芳（かおる）「史実は曲げられない」。複写。硫黄島の西竹一中尉について。「パロン西出てきなさい」という逸話は史実ではない。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
21	11	土屋真書簡	土屋真	今井良雄	2006	平成	18	3	28	書簡	今井家の家系・先祖について。今井四郎兼平との関係について。土屋は今井の甥（姉てるの息子）。今井武夫の甥にあたる。複写。	
21	13	高木寛書簡	高木寛	今井良雄	2006	平成	18	3		書簡	複写。今井史料について。9月に今井武夫について話すようにいわれている。21-12に貼付。複写。	
21	3	今井貞夫書簡	今井貞夫	今井良雄	2006	平成	18	4	8	書簡	今井良雄宛今井家の本家にある武夫資料についての質問ほか。	
21	9	(父) 今井熊太郎戸籍謄本	鷺澤正一		2006	平成	18	4	27	書類	鷺澤は長野市長。複写。	
21	10	(長兄) 今井亮三郎戸籍謄本	鷺澤正一		2006	平成	18	4	27	書類	鷺澤は長野市長。複写。昭和3年12月の武夫夫妻と長男宏の長野今井家からの分家独立についても記載あり。	
21	4	今井良雄書簡	今井良雄	今井貞夫	2006	平成	18	5	12	書簡	今井家の本家に存在する今井武夫関係資料について。21-3に対する回答。同封今井本家累代系図5月12日版（最新版は21-2にあり）。	
21	8	今井家親族関係者（覚）	今井良雄		2006	平成	18	5	16	書類	今井貞夫が平成18年5月16日今井の甥の良雄から入手。生年月日、死亡年月日記載あり。複写。	
22	543	CIA「日本の大物役立たず」	読売新聞社		2006	平成	19	2	26	新聞	1953年CIAが辻政信、児玉誉士夫に接近したが役立たず。読売新聞。複写。	
22	561	巢鴨獄中歌にみる 人間青木一男	高木寛		2007	平成	19	2		冊子	「市誌研究ながの」平成19年2月 第14号記載抜刷。今井の写真本冊子中にあり。	
22	541	「朝陽門外の虹」中国語版を出版 山崎朋子さん著			2007	平成	19	6	2	新聞	朝日新聞記事複写。	
21	2	今井本家累代系図	今井良雄		2007	平成	19	6	21	書類	平成19年6月21日今井の甥の今井良雄から今井俊子・貞夫宛に送られたもの。含手紙。改訂版あり。	
14	780	「近衛文麿首相の側近 風見章日記・関係資料公刊 大政翼賛会結成の裏側 大政翼賛会結成の裏側」	読売新聞社		2008	平成	20	3	17	新聞	論壇。複写。伊藤隆東大名誉教授のコメントあり。	
22	551	上海十話 ～あのこ（滬）は今、そして～	新世紀菜の花会		2008	平成	20	9	1	冊子	私家版。柴田誠 「第七話 福民医院長頓宮寛と中国人のかかわり-租界期最後の上海における日中交流の一側面-」。柴田は元千葉商業高等学校教諭。上海国民学校出身、1934年生まれ。	
22	554	「軍事史関係史料館探訪 49 平頂山惨案記念館」	広中一成		2008	平成	20	12	25	雑誌	『季刊 軍事史学会 185号』。153～156頁。複写。1932年9月16日の平頂山事件に関する記念館。	
22	555	中華民国臨時政府成立過程における王克敏擁立をめぐる特務部の動向 - 華北経済開発と浙江財閥 -	広中一成		2008	平成	20	12		冊子	抜刷。『中国研究月報 第62巻 第12号』。広中は愛知大学現代中国学会所属。今井について記載あり。	
22	562	「幻の日中和平工作を執筆して 今井貞夫インタビュー」インタビューー 三好章・広中一成は愛知大学現代中国学会。	広中一成		2009	平成	21	5	30	冊子	『中国 21 Vol. 31 特集：帝国の周辺 対日協力政権・植民地・同盟国』（東方書店）の抜刷。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
22	564	「長野出身 栗林大将と今井少将 顕彰碑建立目指し募金」	読売新聞社		2009	平成	21	7	8	新聞	長野版。複写。切抜。	
1	81	老北京の集い	今井武夫			昭和				原稿	極東経済研究所原稿用紙に5枚。	
1	83	少年の教育	今井武夫			昭和				原稿	「騒人」掲載用原稿。	
1	86	汪兆銘政府成立と日中和平工作	今井武夫			昭和				原稿		
22	492	汪兆銘伝原稿	今井武夫			昭和				原稿	22箱-東12所収のファイル。22-492～498で1綴	
22	493	汪兆銘	今井武夫			昭和				原稿	上海での汪兆銘との初めての出会いについて。原稿用紙に5枚。	
22	494	汪精衛と私	今井武夫			昭和				原稿	汪兆銘に初めて会ったときのこと。白梅と詩集について。3枚。	
18	323	汪精衛 及 陳璧君の 澳門工作	今井武夫			昭和				原稿		
22	509	汪兆銘について	不明			昭和				原稿	原稿用紙に清書したもの。1枚で切れている。	
18	362	汪工作の所見	今井武夫			昭和				原稿	呉佩孚工作との違い。防衛研修所の罫紙に記載。2枚。	
18	317	宋慶齡 宋美齡 何香凝について	今井武夫			昭和				原稿	何香凝は、廖仲愷の妻。廖承志の母。	
18	308	周仏海	今井武夫			昭和				原稿		
18	309	陳公博	今井武夫			昭和				原稿	18-308と同じ綴り。	
18	216	事変前夜の北京	今井武夫			昭和				原稿	18-215と同じ綴り。1～6頁。	
18	217	麻穀と狼	今井武夫			昭和				原稿	18-215と同じ綴り。6～6頁。	
18	218	渦巻く現地交渉	今井武夫			昭和				原稿	18-215と同じ綴り。6～6頁。	
18	219	南京の終戦	今井武夫			昭和				原稿	18-215と同じ綴り。16～24頁。「以下は『支那事変の回想』270頁～272頁」と今井の記載あり。	
18	231	盧溝橋事件交渉後の浮沈	今井武夫			昭和				原稿	原稿用紙8枚に記載。	
18	238	大マニラ防衛隊に関して	今井武夫			昭和				原稿	原稿用紙1枚。夏部隊。	
18	239	パターン戦線の戦闘	今井武夫			昭和				原稿	パターン半島のパニーアウエル附近の戦闘について。原稿用紙が半分に分けられ、記載されている。	
19	241	日華国交基本要綱について	今井武夫			昭和				原稿	19-240に挿入。一枚のみ。Far Eastern Economic Researchの罫紙に記載。	
18	295	日中戦争の中国軍一. 中国の民族主義	今井武夫			昭和				原稿	原稿用紙 20枚。	
18	296	二. 中国の二將軍	今井武夫			昭和				原稿	18-295と同じ綴り。原稿用紙 6枚。張自忠將軍は山東省出身で幸伍出身であった。もう一人の將軍はほとんど書かれていない。傳作義(ふさくぎ)のことか。	
18	297	三. 中国の戦争指導	今井武夫			昭和				原稿	18-295と同じ綴り。原稿用紙 15枚。	
21	261	ロシアの東亞侵略満州問題				昭和				原稿	原稿用紙1枚めのみ。はしがきと目次冒頭部分のみ。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
21	262	欠落原稿				昭和				原稿	78ページのみ。タイプ印刷してある。最後のページで2行のみ。原稿から欠落したもの。	
18	270	日本軍の戦況	今井武夫			昭和				原稿	中央電気工業社の罫紙に記載。4枚。	
18	301	和平交渉中断の悔	今井武夫			昭和				原稿		
18	289	ベトナム問題と中共の軍勢力	今井武夫			昭和				原稿	人物往来社の罫紙に記載。	
18	298	南京神社の建立	今井武夫			昭和				原稿		
18	345	満州問題	今井武夫			昭和				原稿	満州事変の起きるまで。国民党は満州に関心が薄かった。	
18	347	第一次・第二次奉直戦争ほか	今井武夫			昭和				原稿		
18	354	核国防体制について	今井武夫			昭和				原稿		
18	363	西義頭の昭和14年の和平工作	今井武夫			昭和				原稿	裏にも記載あり。未完。	
18	364	松岡洋右の銭永銘との工作	今井武夫			昭和				原稿	裏にも記載あり。未完。	
18	365	松岡洋右の銭永銘との工作	今井武夫			昭和				原稿		
18	373	日中和平交渉について	今井武夫			昭和				原稿	海外事業原稿用紙に記載。26頁～28頁まで3枚。	
18	374	日中和平交渉について	今井武夫			昭和				原稿	12頁。1枚。	
18	375	原稿	今井武夫			昭和				原稿	1枚。表裏に記載あり。	
18	376	原稿	今井武夫			昭和				原稿	1枚。	
18	378	昭和12年の殷汝耕からの助命の電話ほか	今井武夫			昭和				原稿	1枚。	
18	379	原稿	今井武夫			昭和				原稿	1枚。表裏あり。裏はメモ。	
18	382	支那事変の経緯	今井武夫			昭和				原稿	46頁の途中までで、切れている。原稿用紙に記載。	
18	349	日本の将来の中共承認の要件	今井武夫			昭和				原稿		
22	539	ゲーリング チャーチル等	今井武夫			昭和		8	2	メモ	8月2日サンデー毎日。ゲーリング、チャーチル等の名前あり。	
21	155	陳伯藩談	今井武夫			昭和		10	19	メモ	封筒の裏に記載。陳伯藩は汪南京政権の外交部公使だった。呉佩孚は蔣介石から月10万円の補助を受けたが歯科医に毒殺された。10月19日付。	
12	77	第一次豊台事件	今井武夫			昭和				メモ	所収12箱-東2ファイルに挿入。	
1	87	城戸俊三中佐と愛馬の「久軍号」他（原稿）	今井武夫			昭和				原稿		
12	129	原稿「日中戦争」	今井武夫			昭和				原稿	15枚。	
12	118	通州は古い都である…	今井武夫							原稿	4枚。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
12	67	パターン半島攻略戦 米軍戦史からの摘録	今井武夫			昭和				メモ	日本硫鉄（株）の罫紙に7枚。1942年1月9日～23日までのパターン半島アブカイでの戦闘について。	
4	108	今井家系図（8代幸右エ門以降）	今井武夫			昭和				メモ	複写。	
4	109	今井家系図（8代幸右エ門以降）	今井武夫			昭和				メモ	4-108の下書き。複写。	
9	64	風間卓住所	今井武夫			昭和				メモ	北京週報。晩年の字体。風間については13-22参照。	
13	88	山本武雄住所	今井武夫			昭和				メモ	山本については13-67参照。	
3	92	若菜正義	今井武夫			昭和				メモ	3-89に挿入。根本博稿評について。	
11	26	Address Book	今井武夫							名簿	名簿。1冊。	
18	398	名簿								名簿		
11	72	盧溝橋事件当時のメモほか	今井武夫			昭和				メモ	松井、大木、寺平 1937年7月26日手紙を宗哲元に交付のこと。	
11	82	汪兆銘の履歴	今井武夫			昭和				メモ	3枚。	
18	335	汪兆銘作の梅花に関する詩と汪兆銘の家族の名前ほか	今井武夫			昭和				メモ		
18	348	汪兆銘の病名と医師団の名前	今井武夫			昭和				メモ	名古屋帝大の医師団の名前。多発性骨髄腫。	
13	147	永世中立国スイスの国防と財政	今井武夫			昭和				メモ	外務省調査局の翻訳。	
13	151	ノモンハン記念ほか	今井武夫			昭和				メモ	2枚。 3-149に挿入。	
13	156	宇都宮の中共観は正しいほか	今井武夫			昭和				メモ	13-155に挿入。富士銀行の罫紙に記載。	
13	158	雑記帳ノート	今井武夫			昭和				メモ	満州事変後における中国一般情勢ほか。	
21	163	日台合弁等のメモ	今井武夫			昭和				メモ	裏にも記載あり。	
21	164	民主同盟等中国語の単語の羅列				昭和				メモ	中国人の書いたメモか。日本硫鉄株式会社の罫紙に記載。2枚は裏にも記載あり。3枚。	
21	169	梅桜林についてと石坂泰三らの人名	今井武夫			昭和				メモ	2枚。	
21	170	徐樹錚に関する史話	今井武夫			昭和				メモ		
19	188	恩給控え	今井武夫			昭和				メモ		
21	272	中国の民情 講話案 項目メモ	今井武夫			昭和				メモ	中央電機工業社の罫紙に記載。2枚。	
18	314	辻村憲吉から聞いた内容メモ（通州事件か）	今井武夫			昭和				メモ	戦史室の罫紙に記載。4枚。戦後のもの。	
18	315	松井大佐から聞いた内容（通州事件か）	今井武夫			昭和				メモ	戦史室の罫紙に記載。6枚。戦後のもの。	
18	351	小川愛次郎の昭和14年当時の蒋介石との和平行動の手記	今井武夫			昭和				メモ	小川は満鉄上海公社。みずず書房編集長高橋正衛の控えを今井が筆記したもの。18-352を清書したもの。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
18	352	小川愛次郎の昭和14年当時の 蒋介石との和平方動の手記	今井武夫			昭和				メモ	18-351の清書前の走り書き。小川は満鉄上海公社。14-137参照。	
18	356	盧溝橋事件について	今井武夫			昭和				メモ	森田徹、一木清直のこと。1枚。	
18	357	盧溝橋事件について	今井武夫			昭和				メモ	防衛研修所の罫紙に記載。志村菊次郎便意のため一時行方不明ほか。	
18	358	中国の近代の年号	今井武夫			昭和				メモ	光緒、宣統、民国の年号。1枚。第一ホテルの罫紙。	
18	359	陳公博 林柏生 周仏海メモ	今井武夫			昭和				メモ	1枚。	
18	360	トラウトマン工作 汪精衛 龍雲	今井武夫			昭和				メモ	1枚。	
18	361	戦後の陳公博一行の日本スケ ジュールほか	今井武夫			昭和				メモ	1枚。表裏記載あり。	
18	366	寺平と桜井の名前	今井武夫			昭和				メモ	防衛研修所の罫紙に記載。3行。	
10	442	第一次攻撃について元第141連 隊参加者の戦後フィリピン戦 地訪問メモ	合田			昭和				メモ	10-441の地図と同じ紙面に記載。複写。	
22	176	今井武夫履歴書	今井武夫			昭和				履歴書	2枚。同一2枚。原稿。	
11	25	今井武夫手帳	今井武夫			昭和				手帳		
13	194	今井武夫手帳	今井武夫			昭和				手帳	従軍手帳。記載なし。	
11	38	従軍手帖	今井武夫							名簿	内容は知人名簿。1冊。	
13	84	人名リスト				昭和				名簿	来日中国人と歓迎団リストか。日本美術家代表团ほか。	
13	150	満州馬隊 一覧表				昭和				名簿		
21	151	東京長高会 役員（案）				昭和				名簿	今井は顧問。	
13	83	中華民国駐日代表団 人名表				昭和				名簿	中日実業株式会社の罫紙に記載。13-99参照。	
19	108	亜細亜学園 役員	亜細亜学園			昭和				名簿		
14	683	弾圧治罪権に関する首席公使 「コロガン」の清国全権宛書 簡	今井武夫	弾圧治罪権に関す る首席公使「コロ ガン」の清国全権		昭和				書類	仮訳文。	
12	175	付記				昭和				書類	パターン戦史に関するものの付記と思われる。	
4	105	今井家系図 武夫の長兄よりの 聞き書き	今井俊子			昭和				書類	封筒表書き。複写	
22	26	南京会出席者全員写真の名前				昭和				書類	21-75か21-77より後の南京会と思われる。写真の説明だが実物の写真なし。	
21	1	今井家の家祖今井四郎左エ門 貞尚 同僚 新九郎貞芳につ いてのメモ	今井亮三郎			昭和				書類	15代今井の長兄亮三郎が生前書いておいたものの複写。平成18年5月16日今井貞夫が16代当主今井良雄から入手。	
11	40	参考綴（其一）	今井武夫			昭和				書類	11箱-東4所収の書類。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
17	54	漢詩				昭和				書類	毛筆で書かれている。年号は推定。	
21	138	東方文化大学草案				昭和				書類	中日文化交流基金などにより大阪千里丘に設立の案。	
21	157	中国国民革命史目次（草案）				昭和				書類		
21	174	中華語文・日本語文の翻訳コンピューターの研究・開発・製作計画案				昭和				書類		
21	175	台北における私立特許理工専科学校設立計画				昭和				書類	今井武夫閣下とある。	
21	201	Essays in the History of the Chinese Republic	Center for Asian Studies			昭和				書類	Matsumoto Shigeharu in Shanghai by Noriko Kamachiもある。	
21	202	Some Articles to Appear in Future Issues	Center for Asian Studies			昭和				書類	裏もあり。	
21	203	Establishment of a Korean Legation in the United States : 1887-1890	Center for Asian Studies			昭和				書類		
20	276	離宮喇嘛寺名称見出表				昭和				書類		
18	287	短歌 百日祭ほか				昭和				書類	2枚。	
18	326	二・二六事件の経過と問題点				昭和				書類	戦後の研究会資料か。	
18	350	目次				昭和				書類	今井の支那事変に関する本の目次か。原稿用紙に2枚。	
10	453	（自衛隊）記念館案内				昭和				書類	複写。	
13	64	石川順書簡	石川順	今井武夫		昭和		9	9	書簡	石川はジャーナリスト。元毎日新聞北京支局長。戦後成田町長になる。11-41参照。成田にご来遊ください。石川は昭和35年5月に『砂漠に咲く花』を書いている。9月9日付け。	
13	65	梶谷清一郎書簡	梶谷清一郎	今井武夫		昭和		5	1	書簡	5月1日付け金沢への転任挨拶。梶谷は金沢通信局総務部長。戦前支那派遣軍に通信省から派遣されていた。名刺に記載されている。3-94参照。	
21	109	日高信六郎書簡	日高信六郎	今井武夫		昭和		3	26	書簡	興亜会について。社団法人から任意団体として存続と決定。戦後のもの。日高は1946年イタリアから帰国し 1976年に死去している。3月26日付け。	
22	71	朴濟煥書簡	朴濟煥	崔氏		昭和				書簡	名刺に書かれた韓国水産研究長張錫来（または成？）氏の海務庁崔庁長宛紹介状。朴は農林部長官。名刺を少し写真拡大したもの。	
3	8	稲田正純書簡	稲田正純	宛先不明		昭和				書簡	差出人は稲田としか書いてないが、稲田正純から今井宛と思われる。国防史学会の機関紙について。	
16	36	曹大中書簡	曹大中	今井武夫		昭和				書簡	戦後のもの。大野・宮永両氏の使命に賛助を得られたので自分も先輩各位の指導のもとに微力を尽す。	
12	12	「終戦時・日本陸海軍の配備図 中国方面」	読売新聞社			昭和				雑誌	週刊読売。切抜。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
12	13	「終戦時・日本陸海軍の配備図 満州方面」	読売新聞社			昭和				雑誌	週刊読売。切抜。	
12	174	「士官候三十期」に今井の略 歴」				昭和				雑誌	今井の略歴記載あり。掲載紙不明。複写。	
11	124	稲葉正夫「編集余聞」				昭和				雑誌	掲載紙不明。切抜。稲葉は元陸軍中佐。	
11	155	伊地知進「小説 岡村寧次大 将」				昭和				雑誌	掲載紙不明。切抜。伊地知は 陸士卒。直木賞候補にもなった作家。筆名秋葉二郎。	
11	166	蕭鉄笛「上海の焰(一) — 中日戦争秘録—」				昭和				雑誌	掲載誌不明。切抜。	
11	227	酒井洋「私は陸軍二等兵と海 軍主計少尉とともに経験し た」	読売新聞社			昭和				雑誌	週刊読売。酒井は、酒井隆中将の息子。複写。	
9	74	日本への亡命者に関する調査				昭和				冊子	満州国、華北政務委員会、維新政府、汪政府からの亡命者に対する調査。発行は戦後数年後のものか。	
13	10	市ヶ谷台案内				昭和				冊子	自衛隊市ヶ谷駐屯地の案内書。1960年代のものか。	
21	68	新中国の教育を覗く	村田省蔵			昭和				冊子	国民外交会発行。国民外交資料 2。	
12	124	「読書メモ 信長殺し」				昭和				新聞	12-123に挿入。掲載紙不明。新聞切抜。	
21	127	角田時雄「鳥獣哀史 日本人 に慕いよる軍馬」				昭和				新聞	掲載紙不明。新聞切抜。	
13	148	高柳賢三「永世中立の悩み」				昭和				新聞	13-147に挿入。	
19	253	大陸中国共産党	今井武夫			昭和				書類	19箱-東12所収の新聞切抜スクラップブック。	
19	271	「中共と台湾」				昭和				新聞	掲載紙不明。新聞切抜。	
10	463	「反戦兵士 帰国に注意 旧陸 軍の極秘電報」	毎日新聞社			昭和				新聞	毎日新聞。新聞切抜。	
20	502	写真ネガ				昭和				ネガ	10枚。	
20	509	写真ネガ				昭和				ネガ	1枚。	
20	510	写真ネガ				昭和				ネガ	12枚。	
20	515	写真ネガ				昭和				ネガ	22枚。	
20	517	写真ネガ				昭和				ネガ	7枚。主に家族の写真か。	
20	528	写真ネガ				昭和				ネガ		
20	529	写真ネガ				昭和				ネガ	28枚。	
17	57	第二中隊				大正				写真	富山歩兵第69連隊時代のものか。年号は推定。	
17	38	第八中隊				大正				写真	富山歩兵第69連隊のものか。17-8に挿入。	
17	41	写真				大正				写真	富山歩兵第69連隊時代のものか。	
17	42	写真				大正				写真	富山歩兵第69連隊時代のものか。	
22	153	演習				大正				写真	3枚。セピア色でかなり古い。年号は推定。	
21	358	家の前の記念写真				大正				写真	結婚式の時に集合した親戚の写真か。年号は大正か昭和か。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備 考	今 井 武 夫 年 譜
19	50	軍隊の行進				大正				写真	富山歩兵69連隊の行進写真か。古い。年号は推定。	
22	40	軍馬				昭和				写真	全46枚。調教訓練ほか。	
20	534	軍服の今井ともう一人私服の人物				昭和				写真	今井は天保銭をつけているから昭和初期か。	
20	456	今井の写真				昭和				写真		
20	460	今井の写真				昭和				写真	軍服で立っている。背景庭。	
20	461	今井の横顔写真				昭和				写真	軍服。	
20	467	今井の肖像写真				昭和				写真	私服で眼鏡。20-365に眼鏡をしたもの。	
20	486	今井の写真				昭和				写真	2種類。	
20	539	今井の写真				昭和				写真	私服。自動車の前。	
20	538	今井の写真				昭和				写真	軍服姿。2種。年号は推定。	
20	540	今井の写真				昭和				写真	飛行機の前の私服姿。	
20	466	軍人				昭和				写真		
20	465	飛行機の写真				昭和				写真		
20	487	今井ともう一人軍人				昭和				写真	今井は天保銭をつけている。	
20	503	写真				昭和				写真	17枚。	
20	504	外人と列車前での写真				昭和				写真	全9名。	
20	508	写真				昭和				写真	9枚。	
20	512	写真				昭和				写真	一部20-510のネガに出た写真あり。15枚。	
20	514	座談会				昭和				写真	13名。軍服は今井を入れて2名のみ。	
20	516	今井を含めて5名				昭和				写真	すべて私服。	
20	518	今井を含めて5名				昭和				写真	化学物質をチェックしている写真。	
20	520	写真				昭和				写真	10枚。	
20	522	写真				昭和				写真	32枚。	
20	523	写真				昭和				写真	20種。すべて同一2枚あり。合計全40枚。	
20	524	日本語の授業風景				昭和				写真		
20	525	人物写真				昭和				写真	親戚か。	
20	535	中国の列車の駅における今井ともう一人の軍人				昭和				写真	今井は私服。着帽。	
20	541	日本軍と中国軍との交渉風景写真か				昭和				写真	8名。	
20	544	将校				昭和				写真	天保銭をつけている軍人一人が中心。年号は推定。	
20	547	将校たち				昭和				写真	3種。年号は推定。	
20	549	今井ほかの写真				昭和				写真		
20	550	今井ほかの写真				昭和				写真		

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備 考	今 井 武 夫 年 譜
20	551	今井を含めて全8名				昭和				写真		
12	324	写真				昭和				写真	9枚。	
20	552	写真				昭和				写真	1枚は士官学校時代のものか。	
22	41	会議写真				昭和				写真	洋服姿。	
22	42	会議写真				昭和				写真	洋服姿。	
22	43	会議写真				昭和				写真	洋服姿。	
22	46	富山城天守閣	成田			昭和				写真	旧県庁跡。	
22	47	富山佐藤美術館	成田			昭和				写真	旧県庁跡。	
22	48	富山県営野球場	成田			昭和				写真	旧練兵場跡。	
22	52	人物14名	Abany Ali Ping			昭和				写真	全14名の写った写真3枚。With Best Wishes to General T. Imaiとある。	
19	4	土肥原賢二と今井				昭和				写真	土肥原賢二の直筆サインあり。	
19	11	土肥原賢二				昭和				写真	19-29にも写真あり。直筆サインつき写真。	
19	29	土肥原賢二				昭和				写真	土肥原賢二本人の直筆サインつき。19-11を若干大きくしたもの。	
20	100	土肥原賢二釣りの写真				昭和				写真		
20	101	土肥原賢二釣りの写真				昭和				写真		
3	127	土肥原賢二釣りの写真				昭和				写真	9-35の冒頭に使用した写真。	
20	59	土肥原賢二中将と16名				昭和				写真	半数は民間人か。土肥原機関員か。全16名。	
9	5	満州国内の写真帖				昭和				写真	写真24枚。1942以降のものと思われる。	
15	12	二人の乗馬行進の写真				昭和				写真	7枚。	
18	22	冬の写真				昭和				写真		
18	25	外人3人と今井				昭和				写真	今井は参謀肩章をつけている。	
15	38	雑多写真				昭和				写真	3枚。	
15	43	坂井少佐 松田少佐 井村大尉ほか				昭和				写真	井村は主計大尉か。全27名。	
19	43	中華飯店での会合				昭和				写真	戦後のものか。	
19	44	今井の写真				昭和				写真	戦後のもの。	
19	45	今井の写真				昭和				写真	戦後のもの。	
19	46	今井の写真				昭和				写真		
15	51	写真				昭和				写真	雑多写真2枚。	
17	52	山頂の写真				昭和				写真	富山連隊の頃のものか。	
19	53	中国人3人の写真				昭和				写真	小型カメラでとったもの。	
19	54	飛行場に於ける将校				昭和				写真	小型カメラでとったもの。参謀肩章をつけている。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備 考	今 井 武 夫 年 譜
20	54	将校の写真				昭和				写真	料亭での記念写真と思われる。	
20	91	食堂における将校たち				昭和				写真	年号は推定。	
20	93	鉄道線路近くにおける写真等				昭和				写真	3枚。年号は推定。	
1	96	写真帖				昭和				写真	写真なし。年号は推定。	
20	97	将校				昭和				写真	年号は推定。	
3	169	近衛文麿 東条英機 今井ほか1人				昭和				写真		
3	126	雑多写真				昭和				写真	4枚。	
22	510	船内に立つスーツ姿の男				昭和				写真	年号は推定。	
20	156	景色の写真				昭和				写真	万里の長城の一部か。	
20	157	人物記念写真				昭和				写真	東京ステーションホテルのカバーに封入。戦後のものか。今井を含め5名の記念写真。20-401と同じときのもの。	
20	401	今井の写真	東京ステーションホテル			昭和				写真	東京ステーションホテルのカバーに封入。戦後のものか。20-157と同じときのもの。	
20	163	今井の写真				昭和				写真	2枚。	
19	165	料亭での記念写真				昭和				写真	料亭での記念写真と思われる。	
20	168	中国の建物と将校ほか				昭和				写真		
21	185	勲章の写真				昭和				写真	各種勲章。	
20	190	中国か満州人				昭和				写真	中国か満州人のあつまりか。清郷、難局審判の文字あり。	
20	225	北支山西省大同仏古寺仏像				昭和				写真	4枚。	
20	227	皇軍				昭和				写真		
20	236	中国の景色				昭和				写真	4枚。	
20	241	将校				昭和				写真	今井ほか 全7名。	
20	242	今井以下将校と民間人 女性を含む35名 於中国				昭和				写真	20-241と同じ場所で撮影。	
20	243	将校ほか12名				昭和				写真	耐寒帽を被っている者あり。	
20	262	将校記念写真				昭和				写真	全28名。	
21	251	何応欽將軍の肖像写真				昭和				写真	21-249に挿入。	
20	261	閲兵写真				昭和				写真		
20	288	汽車の写真				昭和				写真	先頭の部分。	
20	263	寺院における3人				昭和				写真	将校2人。	
20	290	駅における日本将校4名と民間人1名				昭和				写真		
20	300	無蓋車者に乗る軍人ほか				昭和				写真		
20	299	中国人の父親と娘の写真				昭和				写真	列車の駅で。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備 考	今 井 武 夫 年 譜
20	303	兵営に入る将校の写真				昭和				写真		
20	354	舞台上立つ中国人劇団女性2名				昭和				写真		
21	359	剣道場での記念写真				昭和				写真	胴着をつけた小学生たちと大人との写真。全42名。	
20	285	今井ほか4名				昭和				写真	軍服を着たものは2名。	
20	286	今井ほか3名				昭和				写真	於料亭。	
20	287	今井ほか2名				昭和				写真	於大日本航空会社。同一2枚あり。	
20	254	今井の写真				昭和				写真		
20	252	今井の写真				昭和				写真	同一4枚あり。パスポート用か。	
20	291	今井ほか2名の写真				昭和				写真		
20	292	外人3名の写真				昭和				写真		
20	294	外人4名の写真				昭和				写真	場所は中国。	
20	295	飛行機内の今井				昭和				写真	同一2枚あり。	
20	259	今井ともう一人の参謀				昭和				写真		
20	253	今井の写真				昭和				写真	眼鏡かけておらず。	
20	280	今井の写真				昭和				写真	参謀肩章した軍服姿。	
19	307	人物写真				昭和				写真	橘善守の写真か。	
20	325	今井の写真				昭和				写真	買物をしているのか。	
20	326	今井の写真				昭和				写真	軍人と2人。	
20	327	今井の写真				昭和				写真	軍人と2人。	
20	353	今井と中国服 4名				昭和				写真	一人は喜多誠一少将か。	
21	353	今井の軍服姿の写真各種				昭和				写真	6種類 7枚。	
20	284	今井の写真				昭和				写真		
21	354	今井の肖像写真				昭和				写真	戦後のもの。洋服姿。パスポート用か。同一2枚。	
20	355	今井の写真				昭和				写真	マントを着ている。	
21	355	今井の写真				昭和				写真	軍服で縁側に腰掛けている写真。	
21	356	今井の写真				昭和				写真	戦前。着物姿でくつろいでいる。	
21	357	今井の肖像写真				昭和				写真	洋服姿のもの。	
20	244	今井ほか4名				昭和				写真	1名は外人。中国の名所と思われる所にて記念撮影したもの。2枚。	
20	365	今井の肖像写真				昭和				写真	私服で眼鏡せず。同一4枚あり。眼鏡をしたものが20-407.	
20	366	今井の肖像写真				昭和				写真	私服で眼鏡。	
20	374	今井の肖像写真				昭和				写真	20-373と同じポーズ。	
21	374	雑写真				昭和				写真	全34枚。戦前と戦後のものが混在している。家族のものが多い。	
20	395	今井ほかの写真				昭和				写真	今井は私服。軍服1人。全4名。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備 考	今 井 武 夫 年 譜
20	396	今井と中国服の男				昭和				写真		
20	402	記念写真				昭和				写真	約80名。同年代の男性。無帽。軍服と洋服入りまじる。	
20	422	会合写真	東京日日新聞社 写真部			昭和				写真	全10名。今井を含めた座談会か。T. Nakayamaと裏にサインあり。	
18	427	写真				昭和				写真	10枚。	
20	432	今井を含めて4名の将校				昭和				写真		
20	435	城門（山西・大同）				昭和				写真	印刷された説明文添付あり。	
20	436	古都大同				昭和				写真	20-435の裏にあり。印刷された説明文添付あり。	
20	437	四牌楼附近（山西・大同）				昭和				写真		
20	438	経幢と鉄炉（山西・大同）				昭和				写真	20-437の裏にあり。	
20	439	華嚴寺大雄宝殿（山西・大同）				昭和				写真		
20	440	梳粧楼（山西・大同）				昭和				写真	20-439の裏にあり。	
20	441	九龍壁（山西・大同）				昭和				写真		
20	442	崩れ行く城壁（山西・大同）				昭和				写真	20-441の裏にあり。	
20	443	大同城外（山西省）				昭和				写真		
20	444	街の金物家（山西・大同）				昭和				写真	20-443の裏にあり。	
20	342	大同門の仏像か				昭和				写真		
20	343	仏像の写真				昭和				写真		
22	44	原勝	原勝			昭和				名刺	肩書は新国民外交調査会理事長	
22	59	商震	商震			昭和				名刺	東京世田谷区在住。Thang Chen。商震は元河北省主席。元蒋介石の部下だった。	
13	111	苗劍秋	苗劍秋			昭和				名刺	中華民国駐日代表団専員。亡命前のものか。	
22	60	苗劍秋	苗劍秋			昭和				名刺	東京港区在住。戦後日本に亡命した。Miao Chien Chiu。かつては宋哲元の部下。上將。東京裁判の処刑に立ち会った。西安事件の関係者の一人。『支那事変の回想』16頁に記載あり。	
22	61	曹大中	曹大中			昭和				名刺	裏に商震（22-59）、苗劍秋（22-60）の各住所と電話番号今井が記載している。曹の住所は瀋陽市。	
21	245	曹大中	曹大中			昭和				名刺	肩書は人生哲学研究会常務理事ほか。今井武夫夫妻の健勝を祈ると書いてある。戦後のもの。曹は日本の陸士出身。	
22	62	阪田誠盛	阪田誠盛			昭和				名刺	阪田からの葉書の住所と名前を切り取って名刺代わりにしたもの。坂田は昔の軍属。佐野真一『阿片王 満州国の夜』（新潮社）に270～271頁に戦後の阪田について記載あり。	
22	63	大島浩	大島浩			昭和				名刺	1955年12月釈放後のもの。	
22	64	今井勇之進	今井勇之進			昭和				名刺	同郷長野出身。東北大学教授の肩書。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
22	65	赤松貞雄	赤松貞雄			昭和				名刺	赤松は元大佐。東条首相秘書官。戦後のもの。	
22	66	川越茂	川越茂			昭和				名刺	年号は推定。	
22	67	那須義雄	那須義雄			昭和				名刺	肩書は小松製作所となっている。那須は陸士・陸大同期。	
22	68	金雄白	金雄白			昭和				名刺	P. O. Boxは香港九龍。Y. B. King.。今井武夫先生と自書あり。	
22	69	金雄白	金雄白			昭和				名刺	P. O. Boxの他に住所記載あり。	
22	70	小別当惣三	小別当惣三			昭和				名刺	小別当は1974年11月になくなっている。住所は千葉県我孫子町となっている。	
22	72	石川昌	石川昌			昭和				名刺	石川は毎日新聞社外信部所属。	
22	73	斎藤明	斎藤明			昭和				名刺	斎藤は毎日新聞社東京本社政治部所属。	
22	74	山内寿夫	山内寿夫			昭和				名刺	山内は毎日新聞社学芸部副部長。	
22	75	陳昭凱	陳昭凱			昭和				名刺	名刺の裏に今井のメモあり。武官處の中目黒の住所と電話番号記載。陳については21-217参照。	
22	77	黄天龍	黄天龍			昭和				名刺	黄天龍の本名は民星。日本孫文記念会記念事業部所属。名刺の裏に記載。田中主幹への協力宜しく。病床で快方をお待ちしています。	
22	78	賀陽恒憲	賀陽恒憲			昭和				名刺	賀陽は元皇族。	
22	79	久山秀雄	久山秀雄			昭和				名刺	裏に地図のメモあり。久山は元内務省官僚。	
22	80	古田重二良	古田重二良			昭和				名刺	日本大学会頭。	
22	81	内海丁三	内海丁三			昭和				名刺	NHK解説委員。	
22	82	柳昌烈	柳昌烈			昭和				名刺	肩書は国会議員とあるが日本ではない？	
22	83	西田當元	西田當元			昭和				名刺	肩書は太平洋殖産株式会社取締役。年号は推定。	
22	84	朱振聲	朱振聲			昭和				名刺	香港の作家。Chu Chun-Shing。	
22	85	今日出海	今日出海			昭和				名刺		
22	87	与謝野秀	与謝野秀			昭和				名刺	与謝野は外務省研修所所長。年号は推定。	
22	88	野本義松	野本義松			昭和				名刺	野本は酒田石油株式会社社長。年号は推定。	
22	89	三谷隆信	三谷隆信							名刺		
22	91	石崎申之	石崎申之			昭和				名刺	富山県西砺波郡福光町の河合八重子、井波町の近江ふさ子という名前記載あり。船橋市在住。石崎は今井の陸士同期生。	
22	92	小日向白朗	小日向白朗							名刺	事務所と自宅の住所のみ記載。	
22	93	鈕之聖	鈕之聖							名刺	鈕は中華駐日本国大使館参事。	
22	94	愛澤誠	愛澤誠			昭和				名刺	愛澤は間組副理事。年号は推定。	
22	95	黒岩義之	黒岩義之			昭和				名刺	黒岩はエコノミスト編集部。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
22	96	蕭光夏	蕭光夏							名刺	蕭は海外連合会社の經理。K. H Hsiao。	
22	98	三木武夫	三木武夫			昭和				名刺	三木は科学技術庁長官。	
22	99	宇都宮徳馬	宇都宮徳馬			昭和				名刺	宇都宮は衆議院議員。	
16	3	名刺帖 約470名の名刺	今井武夫			昭和				名刺	戦後のもの。寺平忠輔、中村法輔、西義頭、晴気慶胤、松本重治、矢野征記、安岡正篤など。	
15	53	名刺帖	今井武夫			昭和				名刺	戦後のもの。約280名の名刺。	
16	4	名刺帖	今井武夫			昭和				名刺	戦後のもの。桐工作の張治平など約100名の名刺。	
2	53	So Men Want	So Men Want			昭和				名刺	2-52に挿入。	
2	54	羅文平	羅文平			昭和				名刺	2-52に挿入。	
21	88	今井武夫	今井武夫			昭和				名刺	中野区東中野の住所のみ記載。	
13	89	山崎靖純	山崎靖純			昭和				名刺	住所と事務所。	
13	90	桑原重遠	桑原重遠			昭和				名刺	海軍大佐。北平で同時期を過ごす。株式会社清水組の名刺。	
13	91	松室孝良	松室孝良			昭和				名刺	13-29参照。住所。	
13	94	桑原徳器	桑原徳器			昭和				名刺	旧姓安藤。読売新聞論説委員。	
13	96	清水董三	清水董三			昭和				名刺	外務省囑託。清水は東亜同文書院12期生。	
13	97	日高信六郎	日高信六郎			昭和				名刺	住所。元特命全権公使。	
13	98	矢部貞治	矢部貞治			昭和				名刺	住所。	
13	99	全先喬	全先喬			昭和				名刺	中日実業株式会社総務部長。13-83参照。	
13	107	松室正憲	松室正憲			昭和				名刺	住所。	
13	108	及川六三四	及川六三四			昭和				名刺	東京新聞論説委員。	
13	109	横田實	横田實			昭和				名刺	世界日報社社長。同一2枚あり。	
13	110	宇多武次	宇多武次			昭和				名刺	世界日報社取締役。	
13	112	柴山兼四郎	柴山兼四郎			昭和				名刺	中日貿易株式会社社会長。	
13	113	宮崎龍介	宮崎龍介			昭和				名刺	自宅と事務所。孫文の革命を陰で支えた宮崎滔天の息子。	
13	114	唐島基智三	唐島基智三			昭和				名刺	住所。	
13	116	安岡正篤	安岡正篤			昭和				名刺		

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備 考	今 井 武 夫 年 譜
13	117	十河信二	十河信二			昭和				名刺		
13	118	大野信三	大野信三			昭和				名刺	中央大学教授。大野は今井の友人。	
21	224	井口貞夫	井口貞夫			昭和				名刺		
21	341	長田正治	長田正治			昭和				名刺	肩書は陸軍砲兵中尉。17兵団衛生隊治療とメモあり。	
18	428	台津行総行	台津行総行			昭和				名刺	天津の台津行総行の名刺。	
19	85	北京及同城外略図索引				明治				地図	燕塵3年8号付録。	
14	54	中国萬寿山地図				昭和				地図		
14	55	中国王荘地図				昭和				地図		
19	103	中国の地図								地図		
19	79	亜細亜大陸図				昭和				地図		
19	82	亜細亜大陸図				昭和				地図	右上（共四面）。	
19	120	亜細亜大陸図				昭和				地図	戦前のもの	
19	99	大沽天津唐官屯間地形一般図								地図		
12	111	天津の図 明治3年	今井武夫			昭和				地図	明治3年頃の図か。	
19	98	円明園地図								地図	円明園は北京市内にある。	
19	106	北京近郊地図								地図	手書きのもの。	
19	109	和歌浦揚陸施設略図								地図		
19	112	天安門至保和殿地図								地図		
19	115	豊台附近地図								地図		
19	127	中国の地図				昭和				地図	「第一張」の地図。年号は推定。	
19	128	中国の地図				昭和				地図	「第二張」の地図。年号は推定。	
19	129	中国の地図				昭和				地図	「第三張」の地図。年号は推定。	
19	130	中国の地図				昭和				地図	「第四張」の地図。年号は推定。	
14	53	中国の地図				昭和				地図	「第五張」の地図。年号は推定。	
19	131	中国の地図				昭和				地図	「第六張」の地図。年号は推定。	
19	132	中国の地図				昭和				地図	「第七張」の地図。年号は推定。	
19	133	中国の地図				昭和				地図	「第八張」の地図。年号は推定。	
19	134	中国の地図				昭和				地図	「第九張」の地図。年号は推定。	
19	135	中国の地図				昭和				地図	「第十張」の地図。年号は推定。	
19	136	中国の地図				昭和				地図	「第十一張」の地図。年号は推定。	
19	137	中国の地図				昭和				地図	「第十二張」の地図。年号は推定。	
19	138	中国の地図				昭和				地図	「第十三張」の地図。年号は推定。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備 考	今 井 武 夫 年 譜
19	139	中国の地図				昭和				地図	「第十四張」の地図。年号は推定。	
19	187	台北市南港区麓山里山坡地間 発計画区域画分図				昭和				地図	複写。	
18	440	中国の地図				昭和				地図		
10	443	付図第12 20A作戦経過 その1 進攻				昭和				地図	中国湖南省地図に記載。	
18	242	アブケイ線軍陣地要図	今井武夫			昭和				地図	フィリピン戦線軍の所在地図。	
10	445	フィリピン地図				昭和				地図		
18	457	バターン半島地図	War Department, Corps of Engineers, US Army			昭和				地図	英文。	
18	459	Bataan Peninsula, Philippine Islandsの地図	Corps of Engineers, US Army			昭和				地図		
19	78	仏領印度支那精図	南支調査会			昭和				地図		
18	432	マレー地図				昭和				地図	英文。	
18	456	Road Map of Malaya	The Shell Company of Singapore Limited			昭和				地図		
10	441	比島攻略作戦付図第六				昭和				地図	第141連隊中隊長松田氏より取得と記載あり。10-442と同じ紙面。複写。	
10	444	交趾支那—マレー・スマトラ 地図				昭和				地図		
19	118	ビルマ要図	ビルマ協会							地図		
19	122	DJAWA								地図	ジャワの地図。オランダ語か。	
19	124	マカッサル市内図								地図	マカッサルは現在のインドネシアにある。	
17	14	東岩瀬附近に於ける歩兵第69 連隊 留守部隊 演習				大正				絵葉書	5枚。東岩瀬は富山港の近くの地名。	
22	148	大坂商船主要航路図				大正				絵葉書	1枚。年号は推定。	
22	540	種牡サラブレッド馬 ラシ カッター				大正				絵葉書	明治43年英国から奥羽牧場に2万5千円で購入した名馬ラシカッター。年号は推定。仔を軍馬にしたものかどうかは不明。1枚。	
22	109	女優写真				大正				絵葉書	4枚。年号は推定。	
16	18	長野県大河原上蔵の福德寺				昭和				絵葉書	3枚。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	今井武夫年譜
22	117	長野県大河原の写真				昭和				絵葉書	5枚。	
22	118	信州戸隠の写真				昭和				絵葉書	4枚。	
22	119	長野県飯坂温泉の写真				昭和				絵葉書	6枚。	
22	106	茨城の笠間								絵葉書	4枚。年号は推定。	
22	127	筑波山の写真								絵葉書	4枚。	
22	121	水戸の写真								絵葉書	4枚。	
22	123	下館の写真								絵葉書	5枚。	
22	124	日光の写真								絵葉書	8枚。	
22	125	鬼怒川温泉の写真								絵葉書	5枚。	
22	151	榛名・伊香保の写真								絵葉書	5枚。	
22	126	讃岐高松停車場の写真				昭和				絵葉書	2枚。	
16	21	讃岐高松岩清水尾八幡宮絵馬堂				昭和				絵葉書		
22	128	陸軍演習写真				昭和				絵葉書	8枚。状況説明の記載あり。年号は推定。	
22	137	絵葉書各種				昭和				絵葉書	11枚。ツエッペリン伯号機関室内ほか。	
22	138	軍事郵便教訓絵葉書				昭和				絵葉書	5枚。	
22	144	軍事郵便絵葉書	陸軍省恤兵部			昭和				絵葉書	12枚。	
22	145	絵葉書	陸軍省恤兵部			昭和				絵葉書	2枚。	
22	147	絵葉書	陸軍大臣官房			昭和				絵葉書	2枚。	
22	56	絵葉書	「産馬活惚」他							絵葉書	5枚。	
22	103	渡鮮の味	陸軍運輸部釜山出張所							冊子		
22	150	戦時の絵葉書	凸版印刷			昭和				絵葉書	2枚。飛行機と兵隊の絵。	
15	16	第二回大東亜戦争美術展覧出品（迫撃）の写真絵葉書	永井保			昭和				絵葉書	永井保作第二回大東亜戦争美術展覧出品（迫撃）の写真。	
21	324	軍旗の写真と富山第69連隊の代々の連隊長名記載絵葉書	富山県護国記念館			昭和				絵葉書	戦後のもの。21-371に今井が名前修正したものあり。	
21	371	軍旗の写真と富山第69連隊の代々の連隊長名記載絵葉書	富山県護国記念館			昭和				絵葉書	戦後のもの。21-324と同じだが、今井による連隊長の名前修正あり。	
21	314	梨本宮殿下と富山県護国記念館	富山県護国記念館			昭和				絵葉書	戦後のもの。	

今井武夫関係文書（寄託）目録

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備 考	今 井 武 夫 年 譜
18	77	今井武夫宛封筒	前田正行	今井武夫		昭和		12	5	封筒	封筒のみ。	
14	261	今井武夫宛書簡の封筒	土肥原賢二	今井武夫の封筒		昭和				封筒	封筒のみ。	
15	27	各種写真を入れた封筒				昭和				封筒	戦後のもの。	
18	214	未掲載原稿を入れた封筒	今井武夫			昭和				封筒	中国総合研究所の封筒。	
19	126	京兆各県村鎮詳細地図を入れたカバー				昭和				封筒		
11	6	今井武夫随筆 未発表原稿を入れた封筒	今井俊子			昭和				封筒		
21	165	陸上自衛隊調査学校の封筒				昭和				封筒	今井武夫宛。封筒のみ。	
20	360	今井の肖像写真を入れた封筒				昭和				封筒		

附録1

今井武夫関係文書(寄託)目録

請求番号 (箱) - 枝番号順

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
1	1	石ころの生涯 一崇貞・桜美林物語一	清水畏三		1977	昭和	52	7	25	書籍	桜美林学園創立者清水安三遺稿集、改訂4版。3-107, 13-35参照。御会葬御礼 喪主清水畏三とある。キリスト新聞社。	1	1
1	2	わが父を語る	蔣経国		1975	昭和	50	2	4	書籍	新人物往来社。	1	1
1	3	鄧小平	石原栄次		1977	昭和	52	11	15	書籍	大陸研究社。	1	1
1	4	蒋介石秘録 9 満州事変	サンケイ新聞社		1976	昭和	51	6	30	書籍	サンケイ新聞。	1	1
1	5	統率の実際 第2次大戦の将軍たち 3	陸上自衛隊幹部学校 修親会		1974	昭和	49	8	30	書籍	原書房。栗林忠道大将について記載（昭和41年8月）あり。著者は藤原環。硫黄島のときは混成第17連隊第三大隊長・少佐。森田徹少将についても記載あり。	1	1
1	6	統率の実際 記者者および記載年月	今井武夫		1974	昭和	49	8		メモ	1-5に挿入。月は推定。	1	1
1	7	日本の栄光	瀬戸山三男		1966	昭和	41	5	1	書籍	朝日書院。瀬戸山は元建設大臣。	1	1
1	8	元帥 寺内寿一	寺内寿一刊行会 上 法快男		1978	昭和	53	6	1	書籍	今井「人情味豊かな寺内元帥」。芙蓉書房。原稿21-238～239にあり。	1	1
1	9	小説 ジングスカン 上	梅本捨三		1977	昭和	52	5	20	書籍	原書房。	1	1
1	10	小説 ジングスカン 下	梅本捨三		1977	昭和	52	5	20	書籍	原書房。	1	1
1	11	印度洋の常陸丸	長谷川伸		1962	昭和	37	3	15	書籍	3刷。新小説社。「日本捕虜志」の姉妹編。	1	1
1	12	松代皇居への道 おお兄弟よ!!	馬場英一		1965	昭和	40	6	1	書籍	馬場は長野中学先輩。元満州帝国国立法制大学兼軍官学校教授。華書房。	1	1
1	13	蒋介石秘録2 革命の夜明け	サンケイ新聞社		1976	昭和	51	4	30	書籍	13刷。	1	1
1	14	蒋介石秘録11 真相・西安事件	サンケイ新聞社		1976	昭和	51	10	29	書籍	サンケイ新聞社。	1	1
1	15	蒋介石秘録15 大陸奪還の誓い	サンケイ新聞社		1977	昭和	52	4	30	書籍		1	1
1	16	四王天延孝回顧録	四王天延孝		1974	昭和	49	7	25	書籍	四王天は元陸軍中将・衆議院議員 陸士11期。 みすず書房。	1	1
1	17	抗日戦争勝利の前後 中国からみた終戦秘話	邵毓麟		1968	昭和	43	11	20	書籍	本郷賀一訳。時事通信社。今井について 94頁 121頁に記載あり。1-23の訳か。1969年7月1日 「今井先生恵存」とある。時事通信社。邵は国民政府の高級部員で戦後駐韓大使となった。	1	1
1	18	中浜軍治「異国の友」	日本経済新聞社		1970	昭和	45	6	15	新聞	日本経済新聞。記事中に邵毓麟の記載あり。1-17に挿入。邵は国民政府の高級部員で戦後駐韓大使となった。	1	1
1	19	従参加抗戦に目撃日軍投降	冷欣		1967	昭和	42	9	1	書籍	冷欣は国民政府陸軍中将。今井に係する記事あり。伝記文学出版社。	1	1
1	20	冷欣「日本投降の前奏①」			1945	昭和	20	10		新聞	台北人民日報。今井関係記事あり。1-19に挿入。新聞切抜。	1	1
1	21	冷欣「日本投降の前奏②」			1945	昭和	20	10		新聞	台北人民日報。今井関係記事あり。1-19に挿入。新聞切抜。	1	1
1	22	冷欣「日本投降の前奏③」			1945	昭和	20	10		新聞	台北人民日報。今井関係記事あり。1-19に挿入。新聞切抜。	1	1
1	23	勝利前後	邵毓麟		1967	昭和	42	9	1	書籍	今井に関する関係記事あり。1-17が本書の訳。台北 伝記文学出版社。邵（1909-1984）は、九州大学で経済学を修めた後、東京帝大で研究を行い、その後、国民政府の高級部員となり、戦後、駐韓大使を務めた。	1	1
1	24	蔣委員長西安半月記 蔣夫人西安事変回憶録	蔣中正・蔣宋美齡		1937	昭和	12	6		書籍	正中書局。中文。	1	1
1	25	劉汝明回憶録 原名「一個行伍軍人的回憶」	劉汝明		1966	昭和	41	8	1	書籍	劉は盧溝橋事件当時第143師長で張家口附近にいた。伝記文学出版社。	1	1
1	26	杉山元帥伝	杉山元帥伝刊行会		1968	昭和	43	1	25	書籍	原書房。	1	1
1	27	坂間訓一書簡	坂間訓一	宛先不明	1969	昭和	44	2		書簡	『杉山元帥伝』刊行につき。坂間は杉山元帥伝刊行会事務局員。1-26に挿入。坂間は陸士31期。少将。	1	1
1	28	原書房編集部書簡	原書房編集部	今井武夫	1969	昭和	44	2	13	書簡	『杉山元帥伝』訂正につき。1-26に挿入。	1	1
1	29	中山優選集	中山優		1972	昭和	47	12	25	書籍	中山は元満州国駐中華公使。満州国建国大学教授・中山優選集刊行委員会。非売品。	1	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
1	30	将軍の裁判 マッカーサーの復讐	ローレンス・ティ ラー		1982	昭和	57	4	10	書籍	武内孝夫・月守晋訳。99頁に今井関連記事あり。立風書房。	1	1
1	31	亜細亜の共感 戦ひを通じて見た中国	辻政信		1950	昭和	25	12	23	書籍	亜東書房。	1	1
1	32	第二次世界大戦 欧州争奪戦	Chester Wilmot		1954	昭和	29	3	12	書籍	鈕先鍾訳。軍事訳粹社出版。	1	1
1	33	The Sinister Face of the Mukden Incident	Chin-tung Liang		1969	昭和	44	7		書籍	Mukdenは旧奉天・盛京（現瀋陽）のこと。the Mukden Incident とは柳条湖事件のこと。宋越倫から送ってきた本。The St. John's University Press。	1	1
1	34	宋越倫 書簡	宋越倫	今井武夫	1969	昭和	44	11	25	書簡	書籍送り状。宋越倫は中華民国駐日大使館員。1-33に挿入。	1	1
1	35	新帝国主義	ヒュー・セトン・ワト ソン		1963	昭和	38	10	10	書籍	直井武夫訳。自由アジア社。The New Imperialism。	1	1
1	36	人的運氣	雙桐館主		1965	昭和	40	3	25	冊子	中国科学命理叢書之一。21-176参照。中文。人間の運勢について。	1	1
1	37	偉大的治淮工程	治淮委員会		1952	昭和	27	8		書籍	再販。中国文。華東人民出版社。	1	1
1	38	中国近代革命史	嚴鈴善		1958	昭和	33	7	7	書籍	集成公司印刷部。	1	1
1	39	中国大陸観光漫感	鹿島宗二郎		1965	昭和	40			冊子	中国文。	1	1
1	40	何応欽将軍の日本における講演集			1951	昭和	25	2		冊子	1951年1月19日、2月3日、2月5日、2月14日の4講演集。	1	1
1	41	中国大陸の人権問題	李正中		1979	昭和	54	5		書籍	世界反共連盟中華民国分会・アジア反共連盟中華総会発行。	1	1
1	42	中京の対日統一戦線戦術とその最終目標	朱少先		1979	昭和	54	9		書籍	世界反共連盟中華民国分会・アジア反共連盟中華総会発行。	1	1
1	43	今井「日華事変の和平路線 一国民政府の遷都と汪精衛の真意一」	世界民主出版部		1954	昭和	29	7	5	雑誌	新生亜細亜 2巻7号。同一3部有り。	1	1
1	44	最後の満州 錦州終戦前夜	品川安衛・新川吹雄・ 竹内将晃・森山誠之		1979	昭和	54	8	1	書籍	錦州会。会長は森山誠之。	1	1
1	45	黒川利雄「汪精衛を想う」	学士会		1973	昭和	48	4	1	雑誌	学士会会報 1978-II。今井の注書あり。719号。黒川は汪兆銘の最後に立ち会った東北大学教授・医学博士。	1	1
1	46	私と中国	高木陸郎		1956	昭和	31	10	20	書籍	高木翁喜寿祝賀会。汪精衛、唐紹儀などについての人物月旦あり。	1	1
1	47	高木陸郎書簡	高木陸郎	今井武夫	1953	昭和	28	1	8	書簡	年賀状。1-46に挿入。	1	1
1	48	今井「根本博中将の思い出(その1)」	陸上自衛隊幹部学校 修親会		1969	昭和	44	1	1	雑誌	幹部学校記事 17巻昭和44年1月号。	1	1
1	49	有賀幸作君記念碑の栞	有賀幸作君記念碑建 設委員会		1967	昭和	42	5	6	冊子	有賀は戦艦大和の艦長。海軍大佐であったが進級して海軍中将となる。長野県諏訪出身。	1	1
1	50	有賀幸作君記念碑建設委員会書簡	有賀幸作君記念碑建 設委員会	宛先不明	1967	昭和	42	6		書簡	送り状。1-49に挿入。	1	1
1	51	収支報告書			1967	昭和	42	6		書類	有賀幸作建設委員会のものか。1-49に挿入。	1	1
1	52	人生的科学分析	汪李高		1962	昭和	37	6		書籍	雙桐館叢書之一。中華儒学研究所。	1	1
1	53	今井武夫に関する占い	汪李高		1962	昭和	37			書類	1-52に挿入。2枚	1	1
1	54	今井「大陸在留邦人の帰国」	世界民主出版部		1954	昭和	29	12	5	雑誌	新生亜細亜 12月号 2巻12号。	1	1
1	55	何応欽将軍 中日関係言論選輯 于右任	中日文化経済協会		1964	昭和	39			書籍		1	1
1	56	何応欽将軍 中日関係講詞選輯	中日文化経済協会		1969	昭和	44	3		書籍	5月30日今井武夫先生存念 何応欽 敬贈とある。神佑がこの本の敬贈の由来について本の扉に書いてある。	1	1
1	57	神佑来書簡	神佑来	今井武夫	1969	昭和	44	5	30	書簡	1-56何応欽自著の裏に記載。	1	1
1	58	世界道徳重整運動和龍劇	何子宗親会		1969	昭和	44	3		書籍	1-59と同じカバーに挿入。	1	1
1	59	何応欽将軍 中日関係講詞選輯	中日文化経済協会		1969	昭和	44	3		書籍	1-56と同じもの。1-58と同じカバーに挿入。	1	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
1	60	中日両国、合分則同利害、語文通、萬事具備	沈膺		1968	昭和	43			冊子		1	1
1	61	沈膺書簡書簡	沈膺	宛先不明	1968	昭和	43			書簡	1-60に挿入。	1	1
1	62	満州事変・支那駐屯軍記念写真帖	陸軍恤兵部		1932	昭和	7	12	20	写真		1	1
1	63	今井「南方と日本民族」	財団法人社会教育協会		1943	昭和	18	7	20	雑誌	国民講座 484輯。今井は青木大臣と訪問した東南アジアの諸国（フィリピン、スマトラ、ジャワ、ボルネオなど）と日本との関係を述べている。「6月の木曜研究会で今井が講演したものに加筆訂正したもの」とある。「南方共栄圏の建設は日本人の手で」と述べている。	1	1
1	64	汪政権実録（上集） 原名「汪政権の開場與収場」	金雄白		1961	昭和	36	5		書籍	金雄白は汪兆銘派のジャーナリスト。筆名朱子家。8-26参照。春秋雑誌社（香港）。	1	1
1	65	汪政権実録（下集） 原名「汪政権の開場與収場」	金雄白		1961	昭和	36	5		書籍	215頁、217頁に今井関連記事あり。春秋雑誌社（香港）。	1	1
1	66	今井「満州事変激発に対する一考察」	霞山会・東亜学院		1969	昭和	44	9	1	雑誌	季刊「東亜 8集」。同一2部あり。12-123に原稿あり。	1	1
1	67	中国戦区中国陸軍総司令部 受降報告書	中国戦区中国陸軍総司令部		1969	昭和	44	3	30	書籍	再版。	1	1
1	68	週刊文春 6月13日号	文藝春秋社		1960	昭和	35	6	13	雑誌		1	1
1	69	南十字星 7月22日号	比島派遣軍報道部		1942	昭和	17	7	22	冊子	フィリピン戦線における陣中冊子。	1	1
1	70	南十字星 1月22日号	比島派遣軍報道部		1943	昭和	18	1	22	冊子	フィリピン戦線における陣中冊子。	1	1
1	71	南十字星 5月8日号	比島派遣軍報道部		1943	昭和	18	5	8	冊子	第96号。コレヒドール陥落一周年記念号。フィリピン戦線における陣中冊子。72頁。	1	1
1	72	陸士三十期生会 会誌	陸士三十期生会		1983	昭和	58	10	1	冊子	陸士三十期生任官65周年記念誌。7-42に任官55周年記念誌あり。	1	1
1	73	今井「支那派遣軍終戦顛末記」	東日本新聞社		1957	昭和	32	8	15	雑誌	サンデー日本 39号。	1	1
1	74	今井「何応欽將軍と日本人の帰国」	関西師友協会		1971	昭和	46	12	10	雑誌	関西師友 12月号。同一2部あり。	1	1
1	75	南院国師行状 解訓	山岸碩見		1964	昭和	39			冊子	南禅寺蔵の書類の解説。南院国師も山岸も長野県朝陽村出身。昭和39年秋とある。	1	1
1	76	日本週報 207号			1952	昭和	27	5	5	雑誌	臨時増刊。	1	1
1	77	今井「通州事件の顛末」	外交時報社		1970	昭和	45	4	1	雑誌	外交時報 1073号4月号。	1	1
1	78	今井「支那事変終末工作と大本営」	外交時報社		1971	昭和	46	1	1	雑誌	外交時報 1081号 1月号。同一2部あり。	1	1
1	79	記録にない教訓	今井武夫		1970	昭和	45			原稿	「無風」は今井の号。「中央月島新聞原稿用紙」10枚。	1	1
1	80	記録にないニュース	今井武夫		1970	昭和	45			原稿	1-79の元原稿と思われる。	1	1
1	81	老北京の集い	今井武夫			昭和				原稿	極東経済研究所原稿用紙に5枚。	1	1
1	82	柳条溝事件の頃	今井武夫		1965	昭和	40			原稿	当時は柳条湖のことを柳条溝と読んでいた。年は推定。	1	1
1	83	少年の教育	今井武夫			昭和				原稿	「騒人」掲載原稿。	1	1
1	84	権力者のモラル	今井武夫		1972	昭和	47			原稿	年度は全くの推定。	1	1
1	85	協力の要訣	今井武夫		1972	昭和	47			原稿	年度は全くの推定。	1	1
1	86	汪兆銘政府成立と日中和平工作	今井武夫			昭和				原稿		1	1
1	87	城戸俊三中佐と愛馬の「久軍号」他 (原稿)	今井武夫			昭和				原稿		1	1
1	88	今井「私は知っている 火を噴いた盧溝橋事件の真相」	東日本新聞社		1957	昭和	32	9	15	雑誌	サンデー日本 41号。同一2部。	1	1
1	89	サンデー日本 51号	東日本新聞社		1958	昭和	33	6	7	雑誌		1	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
1	90	今井「思ひ出」 村上剛「今井武夫」	支那派遣軍報道部		1943	昭和	18	6	20	冊子	紙弾。村上剛（つよし）は文友筆。21-334にもあり。	1	1
1	91	沖繩の島守島田叡 親しきものの追憶から	島田叡氏事跡顕彰会		1964	昭和	39	6	28	書籍	島田叡（あきら）は沖縄県知事。今井と島田は交友があった。	1	1
1	92	随筆 愛国心に就いて	今村均		1955	昭和	30	5	1	冊子		1	1
1	93	「ビルマに関する戦記文学をめぐる問題と戦場における人間性について」	竹ノ谷秋男		1967	昭和	42	9	28	冊子	現代史研究会 九月例会資料。	1	1
1	94	現代史研究会 9月例会案内	現代史研究会		1967	昭和	42	9	28	書類	例会題目 「インパール作戦をめぐる一祭兵団の真実」。2枚。1-93に挿入。「祭」は 第15師団（師団長、山内正文中将）の通称。第15軍（牟田口廉也中将）隷下。第15軍隷下には、このほか、第31師団（「烈」、師団長佐藤幸徳）、第33師団（「弓」、師団長柳田元三）の3師団があった。	1	1
1	95	ビルマ方面戦没者調査一覧表	ビルマ親善協会		1967	昭和	42	9	28	書類	1-93に挿入。	1	1
1	96	写真帖				昭和				写真	写真なし。年号は推定。	1	1
2	1	天皇：昭和史覚書	栗原健		1970	昭和	45	8	10	書籍	110頁に今井に関する記載あり。原書房。	2	1
2	2	弾雨を超越して 教え子のために	堤正賢		1932	昭和	7	10	10	書籍	兵書出版社。3月23日に西尹家店で戦死した栗崎忠盛大尉の追悼書籍。	2	1
2	3	転向十五年	鍋山貞親・佐野学		1948	昭和	24	2	15	書籍	労働民主シリーズ第7集。鍋山「心の足跡」、佐野「獄中記」。労働出版部。	2	1
2	4	石ころの生涯 一崇貞・桜美林物語一	清水安三		1977	昭和	52	7	25	書籍	清水は桜美林学園創立者。初版。キリスト新聞社。	2	1
2	5	清水安三書簡	清水安三	今井武夫	1968	昭和	43	2	10	書簡	桜美林学園に経済学部設立認可されたことについて。2-4に挿入。	2	1
2	6	再軍備論	小堀基二		1951	昭和	26	10	1	書籍	国民教育社。小堀は読売新聞嘱託論説委員。	2	1
2	7	北支憲兵と支那事変 従軍憲兵の手記	荒木和夫		1977	昭和	52	4	29	書籍	10～11, 71～72, 82～84, 115～116, 118, 150～152, 198, 230頁に今井関連記事あり。18-80参照。金剛出版。	2	1
2	8	首相官邸 大陸進攻篇	立野信之		1966	昭和	41	5	25	書籍	187～194, 232～234, 239頁に今井関連記事あり。講談社。	2	1
2	9	日暮硯 恩田杢	瀧沢七郎		1957	昭和	32	2	21	書籍	序は安岡正篤。明德出版社。	2	1
2	10	今井「日暮硯を読みて」	郷友信濃社		1957	昭和	32	5	25	新聞	郷友信濃新聞。2-9に挿入。新聞切抜。	2	1
2	11	忘れてならぬ歴史の一頁 一徳をもって怨に酬ゆる一	大久保伝蔵		1969	昭和	44	4	1	書籍	3刷。時事通信社。	2	1
2	12	「蔣総統こそ日本の分割統治阻止の最大功労者」	中華週報社		1975	昭和	50	1	13	雑誌	中華週報。切抜。2-11に挿入。	2	1
2	13	死の島ガダルカナル	西野源		1956	昭和	31	9	25	書籍	従軍秘録。鱒書房。	2	1
2	14	中日民族文化交流史	宋越倫		1966	昭和	41	2		書籍	4版。正中書局印行。中国文。庚戌6月寄贈とあるから1970年に今井がもらったもの。	2	1
2	15	我が日本学	中山忠直		1939	昭和	14	7	20	書籍	3版。嵐山荘。	2	1
2	16	中国近代史1 アヘン戦争と太平天国革命	復旦大学歴史系・上海師範大学歴史系		1981	昭和	56	5	1	書籍	野原四郎・小島晋治監訳。三省堂。	2	1
2	17	改造世界	尹立言		1960	昭和	35	12		書籍	英文題 World Reformance。1961年2月12日今井先生指教 尹重儀敬贈とある。正声出版社印行。	2	1
2	18	天孫民族と神選民族	酒井勝軍		1938	昭和	13	11	7	書籍	神秘の日本社。酒井は「酒井勝軍君の渡米苦学実話」で知られている。	2	1
2	19	支那外交秘史	李定夷		1920	大正	9	12	18	書籍	宮崎八百吉訳。世界公論社。	2	1
2	20	善光寺日本忠霊殿史	善光寺日本忠霊殿造営奉賛会		1970	昭和	45	9	1	冊子	今井は善光寺日本忠霊殿造営奉賛会設立準備委員。	2	1
2	21	神仏の心	今村均		1963	昭和	38	12	25	冊子		2	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
2	22	支那近代の政治経済	日華実業協会		1931	昭和	6	12	28	書籍	外交時報社。	2	1
2	23	岩熊吾録	岩熊吾録		1931	昭和	6	12		名刺	2-22に挿入。年月は推定。	2	1
2	24	随筆 愛国心に就いて	今村均		1955	昭和	30	5	1	冊子	5版。	2	1
2	25	四一会誌	第四十一期生会		1967	昭和	42	10		冊子	陸士四十一期生会誌。今井は一時期四十一期生の区隊長を勤めた。	2	1
2	26	比島攻略戦側背攻撃の奮戦記 附 日・米比日作戦基本方策の観察	渡辺 三郎		1962	昭和	37	3	11	冊子	渡邊は元京都第16師団参謀長で今井の陸士同期。	2	1
2	27	陸軍中將永田鉄山小伝	永田鉄山中將胸像復旧期成同盟会		1965	昭和	40	4	11	冊子	同一2部あり。	2	1
2	28	今井「参謀本部の根本中佐」	根本博顕彰会		1968	昭和	43	5	24	冊子	昭和四十三年五月二十四日 根本博三周忌追悼記念 第二集。編集者今井・吉村は二。第一集は6-15にあり。同一 3部あり。原稿22-527にあり。	2	1
2	29	広島行	何応欽		1969	昭和	44	6		冊子	初版。編集者吉村は二。この版には今井の寄稿文なし。21-248に関連。吉村は根本博の通訳兼副官的存在。	2	1
2	30	今井「何応欽將軍と日本人の帰国」	何応欽		1971	昭和	46	8	1	冊子	広島行。初版2-29の再版。1971年7月1日記と末尾にあり。	2	1
2	31	今井「終戦前後の木村辰男君」	三石照雄		1974	昭和	49	7		冊子	「木村辰男さんを偲んで」（私家版）。冒頭・85頁に今井の写真・記事あり。三石は南京連絡班員。大尉。	2	1
2	32	世話人智原喜太郎・佐藤信一郎・岡田清・三石照雄書簡	世話人智原喜太郎・佐藤信一郎・岡田清・三石照雄	宛先不明	1974	昭和	49	8		書簡	2-31「終戦前後の木村辰男君」に挿入。発刊の案内。三石は大尉。岡田は嘱託。どちらも南京連絡班員。	2	1
2	33	鉄枷の声 一死刑囚から生還した中国戦犯の手記一	荒木和夫		1964	昭和	39	9		冊子		2	1
2	34	孫文革命戦史	能勢岩吉		1943	昭和	18	3	28	書籍	能勢は大東亜文化会理事長。連合出版社。	2	1
2	35	二つの国にかける橋	吉田東祐		1958	昭和	33	3	10	書籍	114～118、135～142、209頁今井関連記事あり。東京ライフ社。東京選書。吉田は上海申報社の論説委員長だった。	2	1
2	36	大激戦	今村均		1960	昭和	35	11	10	書籍	自由アジア社。	2	1
2	37	敗るゝ日まで	岩淵辰雄		1946	昭和	21	12	9	書籍	日本週報社。	2	1
2	38	大陸の思想戦	丸山学		1942	昭和	17	9	30	書籍	目黒書店。	2	1
2	39	随筆 大陸	村上知行		1940	昭和	15	12	12	書籍	大阪屋号書店。	2	1
2	40	大東亜戦争史 従軍特派員決死の筆陣	宮居康太郎		1942	昭和	17	6	30	書籍	代々木出版社。	2	1
2	41	戦争史概観	四手井綱正		1943	昭和	18	10	30	書籍	岩波書店。四手井は終戦時東軍参謀副長。陸士27期。陸軍中將。	2	1
2	42	花田仲之助先生の生涯	花田仲之助先生伝記刊行会		1958	昭和	33	10	20	書籍	花田は元軍人。報徳会を組織。非売品。	2	1
2	43	北支の農業経済	梨本祐平		1939	昭和	14	3	30	書籍	白揚社。	2	1
2	44	上海無辺 一つの中国近代史	吉田東祐		1949	昭和	24	3	30	書籍	上海党部主任委員姜豪（チャンハオ）との連絡について。275頁に今井関連の記事あり。中央公論社。14-451参照。	2	1
2	45	中国の赤い星	エドガー・スノウ		1952	昭和	27	7	5	書籍	宇佐美誠次郎訳。筑摩書房。	2	1
2	46	声なき声 250万英霊にこたえる道	板垣正		1978	昭和	53	10	1	書籍	板垣は日本遺族会事務局長。原書房。	2	1
2	47	板垣正書簡	板垣正	宛先不明	1978	昭和	53			書簡	書籍送付。2-46に挿入。	2	1
2	48	革命闘争四十年	能勢岩吉		1954	昭和	29	3	25	書籍	能勢は大東亜文化会代表であった。労務行政研究所。	2	1
2	49	The Western World and Japan	G. R. Sansom		1950	昭和	25	2	6	書籍	6版。The Hadson Craftsmen,]Inc.	2	1
2	50	紅炎・白蓮	富岳会		1967	昭和	42	8	20	冊子	津森藤吉遺稿・追悼集。	2	1
2	51	支那を支配するもの	佐藤俊三		1942	昭和	17	1	20	書籍	大阪屋号書店。	2	1
2	52	現代中華民国満州帝国人名鑑	外務省情報部		1937	昭和	12	10	25	書籍		2	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
2	53	So Men Want	So Men Want			昭和				名刺	2-52に挿入。	2	1
2	54	羅文平	羅文平			昭和				名刺	2-52に挿入。	2	1
2	55	幕僚勤務の体験	吉橋戒三		1971	昭和	46	5	5	書籍	235、279頁今井関連記事あり。吉橋は元侍従武官・陸軍大佐。防衛大学教授。朝雲新聞社。	2	1
2	56	吉橋戒三書簡	吉橋戒三	今井武夫	1974	昭和	49	7	11	書簡	書籍送付。2-55に挿入。	2	1
2	57	永田町一番地 外交敗戦秘録	中村正吾		1946	昭和	21	8	15	書籍	第2版。中村は朝日新聞記者。前国務省秘書官。	2	1
2	58	国会生活の思い出	小林次郎		1950	昭和	25	5	20	書籍	小林は元参議院事務総長。今井の長野中学の先輩。同一2部あり。松籟堂出版部。	2	1
2	59	南京作戦の真相 熊本第六師団戦記	下野一鶴		1965	昭和	40	4	24	書籍	5版。下野は元陸軍中將。熊本第六師団参謀長。1967年9月17日大阪ロイヤルホテルで下野から今井に贈呈される。東京情報社。	2	1
2	60	日本の反省 鍋山貞親選集 上巻	鍋山貞親		1973	昭和	48	6	10	書籍	非売品。ジャーナル社。661頁。	2	1
2	61	日本の反省 鍋山貞親選集 下巻	鍋山貞親		1973	昭和	48	6	10	書籍	2-60と同一の箱。非売品。ジャーナル社。642頁。	2	1
2	62	比島戦記	比島派遣軍報道部		1943	昭和	18	3	30	書籍	柴田賢次郎「山間部隊」は今井部隊の戦記。117、119、131頁に今井部隊の記載あり。今井「リマイ山頂における万歳」写真あり。文藝春秋社。情報係りとして沖信中尉、若い木曾少尉の名が出てくる。	2	1
3	1	今井「随筆 敵か友か」	霞山会		1975	昭和	50	5	1	雑誌	霞山 95号。今井は（財）霞山会の会員。	3	1
3	2	杉原荒太書簡	杉原荒太	今井武夫	1975	昭和	50	5	5	書簡	今井の随筆を多大の興味と敬意で読んだ。3-1に挿入。杉原は社団法人霞山会の理事でもある。	3	1
3	3	送付先メモ	今井武夫		1975	昭和	50	5		メモ	送付先メモ。3-1に挿入。3-1送付先リストか。	3	1
3	4	軍事史学 創刊号	軍事史学会		1965	昭和	40	5	1	雑誌		3	1
3	5	島田俊彦「張作霖爆殺事件」	軍事史学会		1965	昭和	40	8	1	雑誌	軍事史学 2号。	3	1
3	6	中村菊男「満州事変(上)」	軍事史学会		1965	昭和	40	11	1	雑誌	軍事史学 3号。	3	1
3	7	中村菊男「満州事変(下)」	軍事史学会		1966	昭和	41	2	1	雑誌	軍事史学 4号。今井に関する記載あり。12-87「時の課題」1965年12月号より抄録。	3	1
3	8	稲田正純書簡	稲田正純	宛先不明		昭和				書簡	差出人は稲田としか書いてないが、稲田正純から今井宛と思われる。国防史学会の機関紙について。	3	1
3	9	今井「支那派遣軍の降服」	文藝春秋新社		1955	昭和	30	12	5	雑誌	特集文藝春秋 1号。日本陸海軍の総決算。	3	1
3	10	「旧将軍の物の考え方 文春 日本軍の総決算」	朝日新聞社		1955	昭和	30	12	18	雑誌	週刊朝日。記事切抜。3-9に貼付。	3	1
3	11	「放射線 軍人の書く戦記 面白いがまるで反省が無い」	東京新聞社		1955	昭和	30	12	7	新聞	東京新聞 夕刊。新聞切抜。3-9に貼付。	3	1
3	12	「放射線 陸海軍の総決算 抜かれた政治の骨は生えぬ」	東京新聞社		1955	昭和	30	12	8	新聞	東京新聞 夕刊。新聞切抜。3-9に貼付。	3	1
3	13	「中外春秋」	日本経済新聞社		1955	昭和	30	12	3	新聞	日本経済新聞。新聞切抜。3-9に貼付。	3	1
3	14	今井「大陸の和平路線 一潜行会談も既に遅し」	河出書房		1956	昭和	31	7	25	雑誌	別冊知性 1号 太平洋戦争の全貌。末尾に今井の自筆注あり。	3	1
3	15	今井「中国に対する終戦工作」	集英社		1965	昭和	40	11		冊子	昭和戦争文学全集 別巻 知られざる記録 月報16、3-14に挿入。同一6部あり。18-288に原稿あり。	3	1
3	16	昭和戦争文学全集 別巻 戦争と読書 月報 8	集英社		1965	昭和	40	3		冊子	3-14に挿入。	3	1
3	17	「憂楽帳 編集者の戦争責任」	毎日新聞社		1956	昭和	31	8	5	新聞	毎日新聞。3-14に貼付。新聞切抜。	3	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
3	18	今井「対華和平工作史 幾度か手交されんと成らなかつた日支那両国間の和平の鍵物語」 松井太一郎「涯なき日中戦争の発火点」 中村豊一「知られざる宇垣・孔 秘密会談」	河出書房		1956	昭和	31	12	1	雑誌	別冊知性 5号 秘められた昭和史。 松井の記事に今井に関する記述あり。同一2部あり。	3	1
3	19	座談会 今井・井崎喜代太・曾野明・三田和夫 「日本をめぐる米ソ謀略戦」	共栄社		1952	昭和	27	10	1	雑誌	探偵倶楽部 3巻9号。	3	1
3	20	今井「支那派遣軍大陸勇戦譜」	潮書房		1978	昭和	53	12	15	雑誌	丸 エキストラ版 「特集 空と海の戦記」 62号、12-93の再掲載。	3	1
3	21	「臨時増刊 支那事変一年史」	文藝春秋社		1938	昭和	13	7	10	雑誌	「話」 6巻8号 事変一年史 今井 「盧溝橋事件勃発の真相」と目次にあるが35～60頁が切り取られており、12-38に切り取り部分あり。	3	1
3	22	支那事変並に国内・国際情勢一年間早わかり表	文藝春秋社		1938	昭和	13	7	10	書類	「話」 6巻8号 臨時増刊・特別付録。事変一年史。3-21に挿入。 自昭和12年7月1日～至昭和13年6月7日。	3	1
3	23	田中俊一郎「中支那建設群像」	創造社		1942	昭和	17	2	5	雑誌	創造 12巻3号 「臨時増刊号 中支那現状報告」。今井に関する評あり。 創造は昭和6年9月に創刊された雑誌。	3	1
3	24	臨時増刊号 満州現状報告	創造社		1942	昭和	17	11	15	雑誌	創造 12巻13号。	3	1
3	25	夏友会戦史 元第65旅団連隊 歩第141連隊	今井武夫		1977	昭和	52	2	23	冊子	今井が連隊長をした連隊のフィリピンにおける戦史。12-119に原稿あり。同一2部あり。私家版。58頁。	3	1
3	26	夏友会戦史 元第65旅団連隊 歩第141連隊	今井武夫		1977	昭和	52	2	23	冊子	3-25と同一だが、今井が自筆訂正している。原稿あり。私家版。58頁。	3	1
3	27	今井 「桐工作について」	みすず書房		1977	昭和	52	4	15	雑誌	1977年1月2日付。『みすず 1977.4』。 初稿グラ（3月31日付け）は、11-217。	3	1
3	28	今井「日本捕虜志を再読す」	新小説社		1975	昭和	50	11	10	雑誌	劇と新小説・1号 長谷川伸先生追悼誌。昭和30年の長谷川伸著「日本捕虜志」（新小説社）の再読。長谷川伸は昭和38年に79歳ですでに死去している。今井は長谷川の弟子たちが続けた勉強会に出席していた。	3	1
3	29	今井「相楽総三の墓に参拝」	新小説社		1976	昭和	51	2	15	雑誌	劇と新小説・2号 長谷川伸先生記念紙。	3	1
3	30	今井「陳公博の刑死」	新小説社		1976	昭和	51	5	15	雑誌	劇と新小説・3号 長谷川伸先生記念誌。	3	1
3	31	今井「軍馬と軍犬」と新小説・4号	新小説社		1976	昭和	51	8	15	雑誌	劇と新小説・4号 2巻3号。原稿は12-126と思われる。	3	1
3	32	今井「靖国神域の馬像」	全国戦友会連合会		1977	昭和	52	3	25	雑誌	戦友連98号。3-31に挿入。同一3部あり。原稿は18-281か。18-280、19-25の写真も関連。昭和33年4月7日除幕式依頼の経過。日清・日露戦争を含めて軍馬の出征80万頭。その殆どが帰らなかつた。	3	1
3	33	司馬遼太郎「翔ぶが如く(1517)」	毎日新聞社		1976	昭和	51	3	21	新聞	毎日新聞。新聞切抜。3-31に挿入。	3	1
3	34	今井「汪兆銘夫人陳璧君女史」	新小説社		1976	昭和	51	11	15	雑誌	劇と新小説・5号 長谷川伸先生記念紙。同一2部あり。	3	1
3	35	今井「英烈千秋の將軍張自忠」	新小説社		1977	昭和	52	2	15	雑誌	劇と新小説・6号 長谷川伸先生追悼誌。	3	1
3	36	今井「土肥原賢二大将の謀略」	新小説社		1977	昭和	52	5	15	雑誌	劇と新小説・7号 長谷川伸先生追悼誌。	3	1
3	37	今井「帷幄謀略の板垣征四郎大将」	新小説社		1977	昭和	52	8	15	雑誌	劇と新小説・8号 長谷川伸先生追悼誌。同一2部あり。	3	1
3	38	今井「勝海舟の側面観」	新小説社		1977	昭和	52	11	15	雑誌	劇と新小説・9号 長谷川伸追悼誌。同一2部あり。	3	1
3	39	今井「終戦当時を回想の一端」	新小説社		1978	昭和	53	2	25	雑誌	劇と新小説・10号 長谷川伸先生追悼誌。	3	1
3	40	今井「水牛の亡霊」	新小説社		1978	昭和	53	5	25	雑誌	劇と新小説・11号 4巻2号。長谷川伸追悼誌。同一2部あり。19-194関連。	3	1
3	41	皇戦	高嶋辰彦		1938	昭和	13	12	5	書籍	高嶋は今井の陸士同期生。戦争文化研究所。世界創造社発行。	3	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
3	42	揚子江は今も流れている	犬養健		1960	昭和	35	9	10	書籍	6、87～95、98、308～309、314、334～336頁等に今井についての記載あり。著者名の「健」の振り仮名は「けん」となっており「たけし」ではない。犬養の死後発刊。犬養が親しく付き合い、汪兆銘派から離脱した高宗武とか陶希聖などの名前は仮名を使用している。文藝春秋新社。	3	1
3	43	犬養仲子書簡	犬養仲子	今井武夫	1960	昭和	35	9		書簡	犬養仲子は健の未亡人。1900年生まれ。初代同盟通信社岩永裕吉は伯父、白樺派の長与善郎は叔父にあたる。3-42に貼付。	3	1
3	44	今井武夫書簡	今井武夫	犬養健書簡草稿	1959	昭和	34			書簡	犬養健への返事書簡の下書きと思われる。3-42に挿入。中央電機工業社の罫紙に記載。フィリピンのパターン戦について。封筒なし。	3	1
3	45	犬養健書簡	犬養健	今井武夫	1959	昭和	34	5	8	書簡	3-42の原稿作成と今井や石友三将軍についての記述について。犬養は昨年12月27日から5月6日まで慶応病院に入院していた。書籍（「揚子江は今も流れている」）を執筆中との由。3-42に挿入。	3	1
3	46	犬養健書簡	犬養健	今井武夫	1959	昭和	34	10	20	書簡	盧溝橋事件の発端。犬養は安武誠一（当時同盟新聞社北京支局勤務）と今井の説を支持する等。3-42に挿入。	3	1
3	47	犬養健書簡	犬養健	今井武夫	1959	昭和	34	10	25	書簡	データ資料として今井が地図を書いた札。3-42に挿入。	3	1
3	48	犬養健書簡	犬養健	今井武夫	1959	昭和	34	11	9	書簡	上海のスパイのことについて、文藝春秋12月号に寄稿した。3-42に挿入。	3	1
3	49	犬養健書簡	犬養健	今井武夫	1959	昭和	34	12	2	書簡	堀場の問い合わせ葉書。3-42に挿入。	3	1
3	50	犬養健書簡	犬養健	今井武夫	1959	昭和	34			書簡	お礼。病状よくなった。名刺に記載。3-42に挿入。	3	1
3	51	犬養健書簡	犬養健	今井武夫	1959	昭和	34	5		書簡	5月中旬退院したが来客が多くノビてしまった。名刺に記載。3-42に挿入。	3	1
3	52	「誇張のない実録 犬養健著 揚子江は今も流れている」	朝日新聞社		1960	昭和	35	9	9	新聞	朝日新聞による犬養の文藝春秋書籍について力作としての書評。新聞切抜。3-42に挿入。犬養は上梓された本を見ることなく他界した。	3	1
3	53	毛沢東の悲劇 3 文化大革命の混迷	柴田徳		1979	昭和	54	10	1	書籍	サンケイ新聞社。	3	1
3	54	人間影佐禎昭	人間・影佐禎昭 出版世話会		1980	昭和	55	9	10	書籍	今井「影佐禎昭さん」。今井は「人間・影佐禎昭出版世話会」の一員。出版日は影佐の33回忌祥月命日に当たる。原稿は21-237か。21-268もあり。	3	1
3	55	連合艦隊の最後	伊藤正徳		1956	昭和	31	3	30	書籍	文藝春秋新社。12版。	3	1
3	56	ビルマ独立秘史 その名は南謀略機関	泉谷達郎		1967	昭和	42	5	15	書籍	泉谷は元南機関陸軍大尉。徳間書店。南機関長だった鈴木敬司少将は今井の陸士同期。陸大41期。	3	1
3	57	「今日の問題 ビルマの国賓」			1966	昭和	41	9	19	新聞	掲載紙不明記事。新聞切抜。3-56に挿入。	3	1
3	58	「ネウイン氏来日」			1966	昭和	41	9	20	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。3-56に挿入。	3	1
3	59	物価・通貨・民心—中国 経済の動貌	吉田政治		1943	昭和	18	12	30	書籍	三省堂。	3	1
3	60	吉田政治書簡	吉田政治	今井武夫	1944	昭和	19	1		書簡	書籍送り状。3-59に挿入。	3	1
3	61	周仏海日記	周仏海		1953	昭和	28	4	5	書籍	61、95～96、176、251頁に今井関連の記述・註あり。訳述は吉田東祐。建民社。1940年1月1日から12月31日まで。周仏海の署名あり。	3	1
3	62	毛沢東世界戦略	市川宗明		1967	昭和	42	8	15	書籍	191頁に今井関連記事あり。原書房。	3	1
3	63	一生之回憶	曹汝霖		1966	昭和	41	1		書籍	同一2部あり。曹は親日中国人。春秋雑誌社。	3	1
3	64	ノモンハン秘史	辻政信		1967	昭和	42	12	20	書籍	原書房。	3	1
3	65	評伝 真崎甚三郎	田崎末松		1977	昭和	52	12	20	書籍	芙蓉書房。	3	1
3	66	今井の関心事と記載頁	今井武夫		1977	昭和	52	12	20	メモ	3-65に挿入。実質2枚。年月は全くの推定。	3	1
3	67	軍閥興亡史 III 日米開戦にいたるまで	伊藤正徳		1958	昭和	33	12	20	書籍	18、116、171～172、180頁に今井関連の記事あり。文藝春秋新社。	3	1
3	68	關魂・ペリリュウ島	堀江芳孝		1967	昭和	42	2	25	書籍	ペリリュウ・アンガウル両島玉砕記。	3	1
3	69	上海地獄 私はどんな風に毛沢東の特務活動をしたか	陳寒波		1954	昭和	29	10	15	書籍	日刊労働通信社。同社訳。	3	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
3	70	満州国史 総論	満州国史編纂刊行会		1970	昭和	45	6	30	書籍	満蒙同胞援護会。「満蒙」とは 満洲と内蒙古（華北5省のうち熱河・察哈爾・綏遠の3省）をさす	3	1
3	71	陸軍中野学校	島山清行		1966	昭和	41	9	10	書籍	33頁に今井関連記事あり。サンケイ新聞出版局。	3	1
3	72	ヒトラー 「マイン・カンフ」研究	石川淳十郎		1943	昭和	18	6	1	書籍	国際日本協会。	3	1
3	73	満州忘じがたし	満州教育専門学校同窓会・綾南会		1972	昭和	47	12	24	書籍	満州教育専門学校同窓会・綾南会。昭和47年12月28日森山誠之から送られたもの。	3	1
3	74	満州教育専門学校同窓会・綾南会本部 書簡	満州教育専門学校同窓会・綾南会本部	書籍申込者	1972	昭和	47	12	24	書簡	『満州忘じがたし』 配本について。3-73に挿入。	3	1
3	75	昭和の動乱 下巻	重光葵		1952	昭和	27	4	15	書籍	中央公論社。	3	1
3	76	重光葵書簡	重光葵	今井武夫	1951	昭和	26	8	20	書簡	暑中見舞い。3-75に挿入。	3	1
3	77	重光葵書簡	重光葵	今井武夫	1951	昭和	26	12	8	書簡	礼状。3-75に挿入。	3	1
3	78	重光葵書簡	重光葵	今井武夫	1952	昭和	27	1	1	書簡	年賀状。3-75に挿入。	3	1
3	79	重光葵書簡	重光葵	今井武夫	1952	昭和	27	3	26	書簡	祝辞に対する礼状。3-75に挿入。	3	1
3	80	支那の自然科学	能勢岩吉		1943	昭和	18	3	25	書籍	能勢は大東亜文化会代表。連合出版社。	3	1
3	81	朝陽村誌	小林初雄・今井良雄 編纂		1958	昭和	33	3	1	書籍	216～218頁に今井についての記述あり。長野県朝陽村は今井の生誕地。編纂人の今井良雄は武夫の甥。	3	1
3	82	真田信之時代における松代封内の図			1958	昭和	33	3	1	地図	3-81に挿入。	3	1
3	83	近衛文麿手記 平和への努力	近衛文麿		1946	昭和	21	4		書籍	141頁で切れている。	3	1
3	84	根本博を語る 為三郎手記	根本博顕彰会		1967	昭和	42	1	10	冊子	二三期会報第1輯。根本博伝記編纂資料。根本は陸士23期。	3	1
3	85	富田民雄住所			1967	昭和	42	1	10	名刺	富田は根本博の女婿。3-84で岳父について記載している。3-84に挿入。	3	1
3	86	歩兵第七十五連隊 連隊歴史の概要(資料)	全国七五会		1965	昭和	40	9	19	冊子	今井は歩兵第75連隊に所属していた。	3	1
3	87	佐藤賢了氏講述 「弱きが故の戦い(大東亜戦争への足どり)」	陸上自衛隊幹部学校 記事編集委員会		1958	昭和	33	7	10	冊子		3	1
3	88	昭和五十四年度会員総会議事録	アジア親善交流協会		1979	昭和	54	4	27	冊子		3	1
3	89	根本博追悼記念一第3集一	根本博顕彰会		1971	昭和	46	5	24	冊子	根本は陸士23期。中将。今井が参謀本部勤務になったときの班長。	3	1
3	90	根本博顕彰会書簡	根本博顕彰会	今井武夫	1971	昭和	46			書簡	根本博顕彰会からの3-89冊子送付状と思われる。3-89に挿入。	3	1
3	91	根本博中将の思い出(その1)	今井武夫		1969	昭和	44	1	1	冊子	1-48幹部学校記事 昭和44年1月号記載部分の抜刷。3-89に挿入。	3	1
3	92	若菜正義	今井武夫			昭和				メモ	3-89に挿入。根本博稿評について。	3	1
3	93	メレヨン島の真相	伊藤清		1946	昭和	21	7	20	冊子	伊藤は旧陸軍部隊の参謀。	3	1
3	94	終戦後の在中國野戦郵便顛末報告書	梶谷清一郎		1953	昭和	28	3	10	冊子	連峰(16号)別冊。梶谷は金沢郵政局長。13-65参照。	3	1
3	95	梶谷清一郎書簡	梶谷清一郎	今井武夫	1953	昭和	28	4		書簡	冊子送付状。3-94に挿入。	3	1
3	96	日本武士道の成れの果て	林義秀		1976	昭和	51	1	23	冊子	フィリピン大蔵大臣サントス他の殺害事件について。林は元陸軍中将。陸士26期。同期和知鷹二中将、川口清健少将等を非難。13-47参照。	3	1
3	97	ソ連抑留思い出の記 第四号 ウスカ メを中心として	ウスカメ会		1973	昭和	48	11	1	冊子		3	1
3	98	海への郷愁	尾崎隆		1977	昭和	52	8	20	冊子	尾崎は元海軍少佐。	3	1
3	99	偉大なる東洋人 ホセ・リサル	日本リサル協会		1970	昭和	45	4	13	冊子	ホセ・リサルはフィリピンの英雄。	3	1
3	100	Roxas and Jimbo	Rizal Society of Japan		1972	昭和	47			冊子	ロハス フィリピン大統領と神保中佐。	3	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備 考	参考 (箱)	参考 束
3	101	佐藤賢了氏講述「言い残しておくこと（開戦後の亜戦争指導）」	陸上自衛隊幹部学校 記事編集委員会		1958	昭和	33	12	1	冊子		3	1
3	102	機密文書でつづる ロシアの太平洋侵略史	伊東六十次郎		1980	昭和	55	5	20	書籍	伊東は元大同学院教授。日本生活問題研究所出版局。	3	1
3	103	バタアン死の行進	火野葦平		1952	昭和	27	10	5	書籍	小説朝日社。	3	1
3	104	大宅壮一「フィリピン」死の行進のあと	サンケイ新聞社		1960	昭和	35	8	17	新聞	産経新聞。3-103に挿入。	3	1
3	105	陰謀・暗殺・軍刀 一外交官の回想	森島守人		1950	昭和	25	6	10	書籍	2刷。岩波書店。63頁と131頁に今井について記載あり。11-70、71などをまとめたもの。	3	1
3	106	外交官の一生	石射猪太郎		1950	昭和	25	11	10	書籍	読売新聞社。石射は、盧溝橋事件当時、外務省東亜局長だった。	3	1
3	107	桜美林物語	清水安三		1964	昭和	39	4	29	書籍	2版。13-35参考。桜美林学園発行。	3	1
3	108	聴取無線電話（ラジオ）施設許可書	東京都市通信局長		1938	昭和	13	1	22	書類	施設者今井。	3	1
3	109	今井武夫書簡	今井武夫	宛先不明	1931	昭和	6	3	12	書簡	朝鮮会寧歩兵第75連隊大隊副官を免じられ、参謀本部部員への転動挨拶状。今井は陸軍歩兵大尉。	3	1
3	110	秦国外務大臣書簡	秦国外務大臣	今井武夫	1943	昭和	18	4	22	書簡	ヴィジット外相からの4月22日歓迎宴招待状。仏歴2486年。	3	1
3	111	メニュー			1943	昭和	18	4	22	書類	3-110関連。	3	1
3	112	秦国首相招待状	秦国首相	今井武夫	1943	昭和	18	4	23	書簡	ビブン首相からの4月23日歓迎宴招待状。10-72関連。	3	1
3	113	メニュー	盤谷オリエンタルホテル		1943	昭和	18	4	24	書類	青木大東亜大臣主催晩餐会メニュー。	3	1
3	114	桐工作関連 宋子良と称した男			1940	昭和	15	5	17	写真		3	2
3	115	今井武夫 於北平			1936	昭和	11	3		写真		3	2
3	116	今井の愛犬シェパード雲仙号 於南京 高楼門101号			1946	昭和	21	5		写真		3	2
3	117	杉浦と雲仙号 於高楼門101号			1946	昭和	21	5		写真	杉浦は今井の世話係の少年。	3	2
3	118	犬のチビ 於高楼門101号			1946	昭和	21	5		写真	チビは愛犬。	3	2
3	119	於南京鼓楼金銀街 今井武夫			1946	昭和	21	7	10	写真	同じような写真が2枚。	3	2
3	120	於南京鼓楼金銀街応接室の 今井武夫			1946	昭和	21	7	20	写真		3	2
3	121	今井武夫			1946	昭和	21	8		写真		3	2
3	122	黄金発大尉と今井の2人			1946	昭和	21	9	9	写真	黄大尉は敗戦後中国にいたときの岡村・今井らの監視役兼通訳。13-37参照。同じよう写真が2枚。	3	2
3	123	今井武夫 於南京			1946	昭和	21	9	19	写真		3	2
3	124	今井武夫 於双十節 南京にある 孫文の中山陵にて			1946	昭和	21	10	10	写真		3	2
3	125	南京珞珈路11号			1945	昭和	20	10		写真	今井が1944年9月より1945年10月まで居住した場所。年月は推定。	3	2
3	126	雑多写真				昭和				写真	4枚。	3	4
3	127	土肥原賢二釣りの写真				昭和				写真	9-35の冒頭に使用した写真。	3	3
3	128	上海重光堂にて今井 周隆庠 高宗武 梅思平 重光堂予備会談			1938	昭和	13	11	13	写真	左より周隆庠、高宗武、今井、梅思平。日付は15日になっているが、13日の間違いか。『支那事変の回想』に写真あり。	3	3
3	129	盧溝橋事件勃発直後の北平日本大使館			1937	昭和	12	7	8	写真		3	3
3	130	盧溝橋事件勃発直後の北平日本大使館 前			1937	昭和	12	7	8	写真		3	3

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
3	131	国民政府遷都宣言をなす汪代理主席			1940	昭和	15	3	30	写真		3	3
3	132	汪兆銘 国民政府主席就任宣誓式			1940	昭和	15	11	29	写真	於南京行政院大礼堂。	3	3
3	133	北支事変籠城記念撮影写真			1937	昭和	12	8	10	写真		3	3
3	134	北平における集まりか 村上ほか 軍服姿の今井			1937	昭和	12			写真	村上は村上知行のことか。年は推定。	3	3
3	135	北平駐在武官当時の今井			1937	昭和	12			写真	戦後テレビ出演した時のテレビ放映写真か。	3	3
3	136	芷江連絡会議 前川國雄少佐 今井 橋島芳雄中佐 木村辰男囑託 陳昭凱 鈕先銘少将			1945	昭和	20	8	21	写真	同じような写真2枚あり。8月23日付けとなっている。21日は推定。	3	3
3	137	於 芷江連絡会議 中央 今井 左 橋島芳雄中佐 右 前川國雄少佐 木村辰男囑託 陳昭凱			1945	昭和	20	8	21	写真	日付は推定。『支那事変の回想』に写真あり。	3	3
3	138	於南京 降伏調印式入場 前方から 岡村寧次総司令官 小林浅三郎総参謀長 今井 木村辰男囑託			1945	昭和	20	9	9	写真	岡村大將は肺病でもあり、やつれて見える。	3	3
3	139	南京投降式場 空軍代表 張廷孟大佐 海軍司令 陳紹寬上将 陸軍総司令 何応欽上将 陸軍参謀長 蕭毅肅中将 陸軍副総司令 顧祝同上将			1945	昭和	20	9	9	写真		3	3
3	140	中野区立塔山小学校の先生と中国硯を語る今井武夫			1954	昭和	29	10	26	写真	於PTA役員石田一郎宅。今井は塔山小学校のPTA会長を務めた。	3	3
3	141	日本耐火煉瓦火入式 土金商店会長と今井			1957	昭和	32	5	7	写真		3	3
3	142	第141連隊の若手将校か。			1941	昭和	16	12		写真	台湾の護国神社か。年月は全くの推定。	3	3
3	143	大津にて今井 島源四郎 早崎慶三の3人			1963	昭和	38	5	7	写真	仕事の関係か。	3	3
3	144	南京会			1968	昭和	43	3	17	写真	南京会。片岡沢治と今井。	3	3
3	145	李燼己先生30周年追悼法会			1972	昭和	47	6	29	写真	浅草東本願寺別院にて。	3	3
3	146	芙蓉出版社、日本クラブ			1972	昭和	47	7	4	写真	4枚あり。	3	3
3	147	鼓楼会			1978	昭和	53	9		写真	3枚あり。	3	3
3	148	南京会 三笠宮を囲んで 於日本閣			1979	昭和	54	3	25	写真	8枚。	3	3
3	149	盧溝橋畔に立つ乾隆皇帝の碑文「盧溝 曉月」の拓本の前の今井			1977	昭和	52	7	7	写真	晩年のものと思われる。北京曉月会での写真。年は推定。	3	3
3	150	正丸峠にて川上魏と平井夫妻と今井			1958	昭和	33	11	23	写真	写真7枚。仕事関係か。	3	3
3	151	戦争小説 満州事変の後に来るもの?	中山四郎		1932	昭和	7	2	2	書籍	戸張書店。	3	4
3	152	隨筆東京	奥野信太郎		1951	昭和	26	10	20	書籍	東和社。	3	4
3	153	悲劇の将軍 山下奉文・本間雅晴	今日出海		1952	昭和	27	6	15	書籍	再版。文藝春秋新社。	3	4
3	154	蒋介石秘録 3 中華民国の誕生	サンケイ新聞社		1975	昭和	50	6	30	書籍	袁世凱が臨時大統領に擬せられたのは汪兆銘の策略があったからと蒋介石は述べている。	3	4
3	155	関東軍始末記	梅本捨三		1967	昭和	42	11	10	書籍	原書房。	3	4
3	156	インパール作戦秘史 陸軍崩壊の内側	片倉衷		1975	昭和	50	3	10	書籍	片倉は元陸軍少将。経済往来社。	3	4

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備 考	参考 (箱)	参考 束
3	157	黄塵万丈 ある中国人の証言する日中 事変秘録 盧溝橋事件三十周年記念	夏文運		1967	昭和	42	8	15	書籍	84, 89頁に今井に関する記載あり。現代書房。夏文運は冀察政務委員会、維新政府の要職を歴任。蕭振瀛の顧問をした。	3	4
3	158	旧都文物略	北平市政府第一科		1935	昭和	10	12		冊子	同一2部あり。	3	4
3	159	昭和九年 特別大演習写真帖	参謀本部		1934	昭和	9	11	1	写真	13-55関連か。	3	4
3	160	日本戦争外史 従軍記者	新聞時代社		1965	昭和	40	9	10	書籍	付録として明治・大正・昭和の軍事年表あり。新聞時代社。	3	4
3	161	秩父宮雍仁親王	秩父宮を偲ぶ会、鈴木昌鑑監修・芦沢紀之編		1970	昭和	45	9	1	書籍	768～769、771、787～788、800～801頁に今井のことが記載されている。18-215に原稿と思われるものあり。	3	4
3	162	ふるさと朝陽	朝陽地区市制100周年記念事業実行委員会		2001	平成	15	2	1	書籍	今井没後のものであるが、甥の今井良雄が中心になって本誌をまとめた。70頁に今井に関する記述あり。3-81参照。ふるさと朝陽出版部会。	3	4
3	163	上坂冬子書簡	上坂冬子	今井貞夫	1999	平成	12	1	14	書簡	『我は苦難の道を行く』に関連して、政界の重鎮からも手紙もらった。当時を知る多くの日本人は汪兆銘に申し訳ない気です。	3	4
3	164	美しい北京	曹禺・沈從文		1956	昭和	31	8		書籍	香港生活・読書・新知三連書店。	3	4
3	165	内蒙古	善隣協会調査部		1935	昭和	10	6	1	書籍	日本公論社。	3	4
3	166	小別当さんを偲んで	「小別当さんを偲んで」刊行世話人会		1977	昭和	52	11	31	書籍	今井「小別当君の思い出」。小別当とは小別当惣三のこと。	3	4
3	167	「小別当さんを偲んで」刊行世話人会 書簡	「小別当さんを偲んで」刊行世話人会	今井武夫	1977	昭和	52	11	16	書簡	発刊記念会の案内。今井も世話人の一人。3-166に挿入。小別当とは小別当惣三のこと。	3	4
3	168	「今井武夫生誕100年・17回忌に寄せて」			1998	平成	10	6	27	新聞	長野市民新聞。複写。	3	4
3	169	近衛文麿 東条英機 今井ほか1人				昭和				写真		3	2
4	1	松本重治書簡	松本重治	今井武夫	1976	昭和	51	11	1	書簡	汪兆銘33回忌法要欠席。13-2参照。「近衛時代」執筆構想について。	4	1
4	2	汪精衛先生を偲ぶ	鍾任壽		1962	昭和	37			冊子	汪兆銘秘話。日米開戦を中国のために喜ぶ。1960年代の記載か。38頁に今井についての記載あり。同一2部あり。辻政信の失踪後。年は推定。	4	1
4	3	満州におけるオロチョン族の研究	郡司彦		1974	昭和	49	1		冊子	興安友愛の記・別冊。	4	1
4	4	郡司彦	郡司彦		1974	昭和	49			名刺	4-3に挿入。興安会理事長	4	1
4	5	国史読本	大川周明		1935	昭和	10	10	22	書籍	青年社。訂正改定版。5版。有精堂。	4	1
4	6	中国人民解放戦争簡史	寥蓋隆		1951	昭和	25	1		書籍	9版。海燕書店。中国文。	4	1
4	7	秘録宇垣一成	額田坦		1963	昭和	38	6	20	書籍	2刷。芙蓉書房。額田は陸士29期。陸大は今井と同期。	4	1
4	8	遜清宣統皇帝自伝 我的前半生（第一集）	愛新覺羅溥儀		1964	昭和	39	4		書籍	香港文通書店。	4	1
4	9	「元皇帝死してなお非難をあびる」	朝日新聞社		1968	昭和	43	5	21	新聞	朝日新聞記事。新聞記事。4-8に貼付。紅衛兵機関紙が溥儀を批判。	4	1
4	10	日露戦争の軍政史録	大山梓		1973	昭和	48	8	25	書籍	芙蓉書房。	4	1
4	11	動向 6 改憲か革命か	動向社		1969	昭和	44	6	1	雑誌		4	1
4	12	アラカンにとどけ 戦誌 「ビルマ戦線」 読後感集	五八会編		1965	昭和	40	11	1	冊子	全140編。五八会とは歩兵第五八連隊戦友会。22-553 歩兵第58連隊 『ビルマ戦線』 参照。	4	1
4	13	ホセ・リサール博士の生涯	桐生巧		1965	昭和	40	11	30	冊子		4	1
4	14	日比のかけ橋 ホセ・リサール	木村毅		1970	昭和	45	6	10	冊子	同一2部あり。1部は裏に今井のメモあり。リサール叢書1巻。木村は早大教授。21-67と同じ。	4	1
4	15	今井「参謀本部の根本中佐」	根本博顕彰会		1968	昭和	43	5	24	冊子	昭和四十三年五月二十四日 根本博三周忌追悼記念 第二集。編集者今井・吉村是二。2-28に同じ。第一集は6-15にあり。原稿22-527にあり。	4	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
4	16	根本博中将一周忌の今井			1967	昭和	42	5	20	写真	4-15に挿入。	4	1
4	17	暁月会の時の今井	吉野次郎平		1974	昭和	49	7	7	写真	4-15に挿入。	4	1
4	18	停年まで	今井勇之進		1971	昭和	46	7		冊子	今井勇之進は東北大学名誉教授。今井の長野時代からの友人（後輩）。	4	1
4	19	今井勇之進書簡	今井勇之進	今井武夫	1971	昭和	46	9	6	書籍	拙文送付と台湾行きにつき。4-19に挿入。	4	1
4	20	予感	石原廣一郎		1962	昭和	37	11	15	書籍	2刷。今井の感想が306頁に3行書かれている。新小説社。石原は元立命館大学理 事長。	4	1
4	21	戦争・事変・上海	園田日吉		1944	昭和	19	2	10	書籍	園田は上海毎日新聞社記者。207頁に今井の記載あり。中国通信社。	4	1
4	22	宿命の戦争 大東亜戦争をみなおそう	中堂親恵		1966	昭和	41	11	20	書籍	中堂は元大本営海軍部情報担当課長。海軍少将。盧溝橋事件はソ連の演出と述べて いる。自由アジア社。	4	1
4	23	忘れてならぬ歴史の一頁 一徳をもつて 怨に酬ゆる一	大久保伝蔵		1972	昭和	47	5	1	書籍	心情公論社。改定版。2-11に改訂前の3刷のものあり。	4	1
4	24	反響呼ぶ「忘れてならぬ歴史の一頁」 中国の新聞 大久保氏の書評を掲載			1972	昭和	47			書類	中国の新聞・中央日報に書かれた書評の要旨。4-23に挿入。年は推定。	4	1
4	25	黄浦江的濁浪	朱子家		1964	昭和	39	3		書籍	朱子家は金雄白の筆名。興記書報社。中国文。汪兆銘のことを回顧している。 春秋雑誌社。汪精衛逝世前国事遺言巻末にあり。日本の毎日新聞のスクープ前 に出たものか。	4	1
4	26	伊東重と養生会（新民族主義の基礎原理）	養生会		1965	昭和	40	4	16	冊子		4	1
4	27	昭和陸軍秘史	中村菊男		1968	昭和	43	5	30	書籍	今井「柳条溝事件をめぐって関東軍の内情を探る」（著者中村との対談）。12-87 を記載したもの。番町書房。	4	1
4	28	支那は動く 支那を見よ	長野朗		1927	昭和	2	2	5	書籍	長野は陸士21期で石原莞爾と同期。元大尉で拓殖大学教授。再版。	4	1
4	29	支那事変 その秘められた史実	山岡貞次郎		1975	昭和	50	8	15	書籍	34, 46, 59, 73, 77, 82頁に今井に関する記事記載あり。原書房。	4	1
4	30	世界地理民族史	姫岡勤・藤岡謙二郎		1954	昭和	29	9	15	書籍	朝倉書店。	4	1
4	31	明治・東京時計塔記	平野光男		1968	昭和	43	6	10	書籍	改定増補版。明啓社。	4	1
4	32	日本の友 湯恩伯將軍	湯恩伯記念会		1954	昭和	29	12	30	書籍	湯恩伯記念会。非売品。	4	1
4	33	土居明夫書簡	土居明夫	宛先不明	1955	昭和	30	1		書簡	書籍謹呈。土居は湯恩伯記念会代表。4-32に挿入。29期。	4	1
4	34	中日関係と世界の前途	何応欽		1974	昭和	49	10		書籍	236頁に今井に関する記載あり。正中書局印行。付録一「岡村將軍対談記」『文 藝春秋 4月号』（何応欽との対談記 昭和28年） 付録二 昭和26年 1月16 日 岡村寧次 「何応欽將軍感謝会挨拶」 付録三 昭和26年2月3日 幣原喜 重郎 「何応欽將軍 歓迎の辞」	4	1
4	35	昭和の戦乱に終始した一将校の老癡ま での歩み	伊藤昇		1979	昭和	54	3	12	冊子	伊藤は元陸軍中佐。非売品。	4	1
4	36	伊藤昇書簡	伊藤昇	宛先不明	1979	昭和	54			書簡	本の贈呈。4-35に挿入。年代は推定。	4	1
4	37	中国 これからの三十年	ロベール・ギラン		1965	昭和	40	10	25	書籍	井上勇訳。2刷。文藝春秋社。	4	1
4	38	首相官邸 日米開戦篇	立野信之		1966	昭和	41	5	25	書籍	55頁に今井関連記事あり。講談社。	4	1
4	39	中国革命四十年	萱沼洋		1954	昭和	29	3	1	書籍	2刷。福村書店。	4	1
4	40	内蒙三国志	松井忠雄		1966	昭和	41	12	5	書籍	松井は元陸軍中佐。原書房。察哈爾、綏遠、寧夏の3省は内蒙古と称されてい た。綏遠事件の経緯が詳しく書かれている。	4	1
4	41	明治外交秘話	小松緑		1966	昭和	41	10	10	書籍		4	1
4	42	台湾処分と日本人	林景明		1972	昭和	47	6	10	書籍	21-100参照。	4	1
4	43	津田静枝さんを偲んで	「津田静枝さんを偲んで」出版世話人会		1972	昭和	47	2	29	冊子	今井「無欲恬淡な酒仙、津田さん」。津田は元海軍中將。	4	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
4	44	中国革命の舞台裏 ー北京・宮元公館ー	花村一平		1973	昭和	48	5	25	書籍	原書房。本書に書かれている宮元利直から今井への贈呈。宮元は11-96宮本利直と同じ人物か。冀東政権と冀察政権についても記載あり。	4	1
4	45	現代中国の政治と経済	吉田忠雄・李天民編集		1976	昭和	51	2	28	書籍	新評論。	4	1
4	46	余命	北原一視		1967	昭和	42	7	1	冊子	北原は元陸軍少将。短歌集。	4	1
4	47	歌集 我を観む	北原一視		1970	昭和	45	9	15	冊子	北原の4-46に続く歌集。	4	1
4	48	比島戦記 ナチブ山	柴田賢次郎		1943	昭和	18	12	10	書籍	今井部隊のフィリピンにおける戦記。成徳書院。	4	1
4	49	続 支那漫談	村松梢風		1938	昭和	13	4	20	書籍	改造社。	4	1
4	50	連合軍反撃せよ クレマンソー勝利への記録	J. H. ・モルダック		1974	昭和	49	2	12	書籍	酒井鎬次訳。酒井は陸軍中将。芙蓉書房。	4	1
4	51	北支の風物	遠藤泰一		1943	昭和	18	4	30	書籍	アルス（アルス文化叢書）。	4	1
4	52	天皇機関説	尾崎士郎		1951	昭和	26	10	12	書籍	文藝春秋新社。	4	1
4	53	田中徹雄を語る	「田中徹雄を語る」 刊行委員会		1980	昭和	55	12	14	冊子	制作 株サンリオ。田中は一時期「梅機関」に務めていた。	4	1
4	54	「田中徹雄を語る」出版計画・実行事務局書簡	「田中徹雄を語る」 出版計画・実行事務局	故田中徹雄さんをご存知の皆さま	1980	昭和	55	12	14	書簡	本の送付。4-53に挿入。	4	1
4	55	民族日本歴史 封建編	白柳秀湖		1938	昭和	13	2	8	書籍	8版。千倉書房。	4	1
4	56	民族日本歴史 戦国編	白柳秀湖		1938	昭和	13	2	8	書籍	千倉書房。	4	1
4	57	民族日本歴史 近世編	白柳秀湖		1938	昭和	13	2	8	書籍	千倉書房。	4	1
4	58	自衛中立	辻政信		1952	昭和	27	4	5	書籍	3版。亜東書房。	4	1
4	59	繆斌工作	田村眞作		1953	昭和	28	2	5	書籍	三栄出版社。	4	1
4	60	為政三部書 原名「三事（廟堂、風憲、牧民）忠告」	安岡正篤		1938	昭和	13	5	10	書籍	玄黄社。	4	1
4	61	支那は生存し得るか	H.アーベント、A・J・ピリンガム		1937	昭和	12	9	6	書籍	村田孜郎・中村常三訳。教材社。Can China Survive?	4	1
4	62	戦争政略論	佐田弘治郎		1942	昭和	17	8	20	書籍	国際日本協会。	4	1
4	63	黄土の狼	伊藤桂一		1965	昭和	40	11	25	書籍	講談社。	4	1
4	64	百千万民衆に訴ふ 附 西安監禁半月記	蔣介石		1937	昭和	12	6	8	書籍	村田孜郎訳。河出書房。	4	1
4	65	大本営機密日誌	種村佐孝		1952	昭和	27	3	25	書籍	種村は元大本営参謀。「昭和20年7月3日（日付不正確）。今井から、重慶工作につき連絡あり」との記載あり。ダイヤモンド社。	4	1
4	66	大東亜戦争全史 1巻	服部卓四郎		1953	昭和	28	3	25	書籍	3版。鱒書房。 全4巻のうちの1巻。	4	1
4	67	大東亜戦争全史 第1巻 付録	鱒書房		1953	昭和	28			書類	本書公刊由来記。4-66に挿入。	4	1
4	68	証言 私の昭和史 2	東京12チャンネル 報道部		1969	昭和	44	7	31	書籍	牟田口廉也・今井「盧溝橋の銃声」。 今井・清水董三「汪兆銘工作回想-みのらなかつた日中和平-」。学芸書林。	4	1
4	69	東京12チャンネル 報道部 ”私の昭和史” 係書簡	東京12チャンネル 報道部 ”私の昭和史” 係	宛先不明	1969	昭和	44			書簡	テレビ出演内容を本にすることを快諾したことへのお礼。今井宛か。	4	1
4	70	読売新聞 昭和44年8月21日号	読売新聞社		1969	昭和	44	8	21	新聞		4	1
4	71	「カラ・ホト工作員の悲劇」	日本経済新聞社		1969	昭和	44	8	26	新聞	日本経済新聞。新聞切抜。4-68に挿入。	4	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
4	72	私の昭和史 No.134 汪兆銘工作回想 一みのらなかつた日中和平一	東京12チャンネル報道部		1966	昭和	41	11	18	書類	11月18日放映のシナリオと思われる。4-68に挿入。	4	1
4	73	証言 私の昭和史 5	東京12チャンネル報道部		1969	昭和	44	10	31	書籍	今井・木村辰男「支那派遣軍の降伏 - 芷江会談-」東京12チャンネル報道部篇『証言 私の昭和史 5 終戦前後』。1966年9月9日TV出演したときの記録。11-123にシナリオあり。学芸書林刊。	4	1
4	74	証言 私の昭和史 1	東京12チャンネル報道部		1969	昭和	44	6	23	書籍	森島守人・宮内靈勝「満州某重大事件 - 張作霖爆死の真相」武内文彬・片倉衷・竹入義明「満州事件勃発す」。学芸書林。	4	1
4	75	三国一朗書簡	三国一朗	今井武夫	1974	昭和	49	8	14	書簡	貴重な印刷物拝借のお礼。三国はテレビ番組「証言 私の昭和史」で司会をしていた。	4	1
4	76	北京曉月会々報 2号	曉月会事務局		1971	昭和	46	6	15	書類	今井「在支談片録(1) 何応欽將軍」。21-240に同じ。会報だが1枚のみ。21-240に同じ。風間古城の漢詩あり。	4	1
4	77	吉祥凶案解題 支那風俗の一研究 上	野崎誠近		1940	昭和	15	2		冊子	1927年に初版されたものを、加筆修正の上再刊したもの。段祺端の書が序にある。野崎は天津の大商人であった。	4	1
4	78	吉祥凶案解題 支那風俗の一研究 下	野崎誠近		1940	昭和	15	2		冊子	4-77と同じカバーにある。	4	1
4	79	野崎誠近書簡	野崎誠近	今井武夫	1940	昭和	15			書簡	本の送り状。4-77と同じカバー内に同封。年は推定。	4	1
4	80	秦郁彦「解説と分析 現場大隊長が明 かした貴重な証言」	朝日新聞社		1987	昭和	63	1	10	新聞	朝日新聞。新聞記事中に「吉祥凶案解題」と野崎誠近の名が出てくる。切抜。	4	1
4	81	関東軍	島田俊彦		1965	昭和	40	10	25	書籍	中央公論社。	4	1
4	82	先覚諸家 南方建設論選集	田中末廣		1943	昭和	18	9	10	書籍	帝国書院。	4	1
4	83	現代中国の歴史 1	岩村三千夫		1966	昭和	41	1	10	書籍	徳間書店。	4	1
4	84	岩村三千夫「だれが孫文を継いでいる か」	岩間書店		1966	昭和	41			冊子	現代中国の歴史 1 月報。4-83に挿入。	4	1
4	85	現代中国の歴史 2	岩村三千夫		1966	昭和	41	3	20	書籍	172、173頁に今井に関する記載あり。徳間書店。	4	1
4	86	二階堂善助「満州事変勃発の夜」	岩間書店		1966	昭和	41			冊子	現代中国の歴史 2 月報。4-85に挿入。	4	1
4	87	昭和史への一証言	松本重治		1986	昭和	61	6	20	書籍	56、99～102頁に今井に関する記事あり。毎日新聞社。	4	1
4	88	軍国太平記	高宮太平		1951	昭和	25	7	5	書籍	高宮は戦前、朝日新聞の陸軍担当の記者であった。 酣灯社。	4	1
4	89	女へんの文字	藤堂明保		1967	昭和	42	12	5	書籍	藤堂は支那で通訳をしていた。戦前の姓は「今井」。戦後中国語の教授。山王書房。	4	1
4	90	藤堂明保書簡	藤堂明保	今井武夫	1970	昭和	45	10	23	書簡	10月に東大を辞任しました。4-89に挿入。藤堂は昔の通訳。旧姓は今井。	4	1
4	91	一下級将校の見た帝国陸軍	山本七平		1976	昭和	51	12	20	書籍	150頁に今井について記載あり。3刷。文藝春秋。	4	1
4	92	昭和経済史への証言 上	安藤良雄		1965	昭和	40	11	30	書籍	毎日新聞社。	4	1
4	93	昭和経済史への証言 中	安藤良雄編集		1966	昭和	41	1	20	書籍	今井「盧溝橋事件」。毎日新聞社。	4	1
4	94	昭和経済史への証言 下	安藤良雄		1966	昭和	41	8	30	書籍	毎日新聞社。	4	1
4	95	日本終戦史 上巻 八月十五日のク データーほか	林茂		1962	昭和	37	7	1	書籍	読売新聞社。	4	1
4	96	読売新聞社出版局「日本終戦史」編集 委員会書簡	読売新聞社出版局 「日本終戦史」編集 委員会	宛先不明	1962	昭和	37	7	1	書簡	週刊読売に連載のものの上梓と本の送付。4-95に挿入。年月日は推定。	4	1
4	97	日本終戦史 中巻 まぼろしの和平工 作	林茂		1962	昭和	37	8	1	書籍	39、42、54、58、177～180頁に今井についての記述あり。 読売新聞社。	4	1
4	98	日本外交史 24	太田一郎		1971	昭和	46	9	15	書籍	今井について記述あり。	4	1
4	99	昭和史の天皇 14	読売新聞社		1971	昭和	46	3	30	書籍	107、109頁以下陳公博に関して、ところどころに、今井の証言あり。読売新聞社。	4	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
4	100	昭和史の天皇 15	読売新聞社		1971	昭和	46	6	25	書籍	「第八中隊」375頁以下に今井の証言あり。	4	1
4	101	「昭和史の天皇」既刊分1～20巻の内容紹介	読売新聞社		1972	昭和	47			書類	4-100に挿入。年は推定。	4	1
4	102	昭和史の天皇 16	読売新聞社		1971	昭和	46	10	10	書籍	「重病の高級幹部」39頁以下に今井の田代皖一郎支那駐屯軍司令官に対する評あり。	4	1
4	103	田代皎書簡	田代皎	今井武夫	1971	昭和	46	4	14	書簡	皎は田代皖一郎中将の長男。陸士50期。読売新聞の昭和史の天皇の記事における今井の田代皖一郎評に感謝。4-102に挿入。	4	1
4	104	財界人 太平洋戦記 上	亀岡太郎		1973	昭和	48	12	10	書籍	「死の行進 日本側の見方」。「関西師団がみせたど根性」。第141連隊は41連隊の留守部隊として創設された。老兵65集団と書かれている。18-408～411の記事の製本化。文藝春秋。	4	1
4	105	今井家系図 武夫の長兄よりの聞き書き	今井俊子			昭和				書類	封筒表書き。複写	4	2
4	106	今井家歴代当主（系図）	今井武夫		1957	昭和	32			書類	昭和38年長野今井家13代亮三郎死去まで記載あり。亮三郎保管資料から筆写。2枚。複写。	4	2
4	107	今井家系図	今井武夫		1957	昭和	32			書類	4-106の下書き。長野今井家12代熊太郎迄記載あり。複写。	4	2
4	108	今井家系図（8代幸右エ門以降）	今井武夫			昭和				メモ	複写。	4	2
4	109	今井家系図（8代幸右エ門以降）	今井武夫			昭和				メモ	4-108の下書き。複写。	4	2
4	110	思い出す事々	今井俊子		1988	昭和	63	8		書類	今井武夫の若かりし頃のエピソード。父武夫から長女今井俊子が聞いた思い出など。	4	2
4	111	大日本帝国の興亡 2 昇る太陽	ジョン・トーランド		1971	昭和	46	6	20	書籍	毎日新聞社訳。138～139、141、185、194、204頁、巻末ノートのI X頁に、今井に関する記載あり。毎日新聞社。	4	2
4	112	昭和史	遠山茂樹・今井清一・藤原彰		1960	昭和	35	6	30	書籍	岩波書店。岩波新書。	4	2
4	113	菊と龍	相良俊輔		1972	昭和	47	5	20	書籍	12刷。光人社。「菊」は第18師団、「龍」は第56師団の通称。	4	2
4	114	昭和初期政治・外交史研究	荻田徹		1978	昭和	53	3	12	書籍	53, 59, 70, 73, 76, 273頁に今井について記載あり。人間の科学社。	4	2
4	115	民族日本歴史 王朝編	白柳秀湖		1938	昭和	13	2	8	書籍	千倉書房。	4	2
4	116	中国のなかのソ連	蔣介石		1957	昭和	32	12	20	書籍	毎日新聞社外信部訳。毎日新聞社。	4	3
4	117	橘善守	橘善守		1957	昭和	32	12	20	名刺	4-116に挿入。毎日新聞社編集局次長兼外信部長。今井先生 乞御高評とある。	4	3
4	118	兵隊日本史	棟田博		1975	昭和	50	6	10	書籍	今井について記載あり。盧溝橋事件のときの中国共産党の北方局について記載あり。新人物往来社。	4	3
4	119	市ヶ谷台から市ヶ谷台へ	河辺虎四郎		1962	昭和	37	11	15	書籍	時事通信社。	4	3
4	120	昭和史の天皇 10	読売新聞社		1970	昭和	45	3	25	書籍	神保信彦の今井宛1972年3月31日付書簡 4-121が表紙に記載されている。	4	3
4	121	神保信彦書簡	神保信彦	今井武夫	1972	昭和	47	3	31	書簡	神保のパターン戦歴のことが書かれている『昭和史の天皇10』（4-120）の表紙に記載されている。今井宛の贈呈書。	4	3
4	122	民族日本歴史 建国編	白柳秀湖		1938	昭和	13	2	8	書籍	千倉書房。	4	1
5	1	外遊日記 世界の顔	鳩山一郎		1938	昭和	13	3	21	書籍	再版。中央公論社。	5	1
5	2	悲劇の証人 一日華和平工作秘史一	西義頭		1962	昭和	37	3	21	書籍	文献社。	5	1
5	3	書評「汪兆銘政権の裏面史」	朝日新聞社		1962	昭和	37	4	29	新聞	朝日新聞。新聞切抜。5-2に挿入。	5	1
5	4	われら荊沙の地に 一或る警備兵団の戦記一	池田寿亀		1969	昭和	44	12	15	書籍	池田は元陸軍少尉。戦記研究懇話会。	5	1
5	5	池田寿亀書簡	池田寿亀	今井武夫	1970	昭和	45	1	8	書簡	拙著送付について。5-4に挿入。	5	1
5	6	私の昭和史	末松太平		1963	昭和	38	2	20	書籍	末松は二・二六事件関係者。第3刷。みずず書房。	5	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
5	7	現代の黒幕 児玉誉士夫の虚像と実像	猪野健治		1970	昭和	45	1	7	書籍	2版。288～289頁に今井に関する記載あり。創魂出版。	5	1
5	8	獄中獄外	児玉誉士夫		1942	昭和	17	10	30	書籍	アジア青年社。	5	1
5	9	芝草はふまれても 巣鴨戦犯の記録	児玉誉士夫		1955	昭和	31	1	1	書籍	アジア青年社。	5	1
5	10	風雲 上巻 児玉誉士夫選集	児玉誉士夫		1972	昭和	47	12	1	書籍	日本及日本人社。	5	1
5	11	風雲 中巻 児玉誉士夫選集	児玉誉士夫		1972	昭和	47	12	1	書籍	154, 157～158, 440頁に今井に関する記載あり。日本及日本人社。	5	1
5	12	風雲 下巻 児玉誉士夫選集	児玉誉士夫		1972	昭和	47	12	1	書籍	日本及日本人社。	5	1
5	13	日華対訳 中華民国習慣調査録 附満州国	中華法令編印館		1943	昭和	18	5	30	書籍		5	1
5	14	戦争史論	岩畔豪雄		1967	昭和	42	3	15	書籍	岩畔は今井の陸士同期。	5	1
5	15	今井「石井春吉君を憶う」 今井「光華門の伊藤善光君」 今井「伊藤鈴嗣君を偲ぶ」 今井「遠藤庄一君のこと」 今井「清田君を憶う」清田幸生 今井「栗林君の俳」栗林熊尾 今井「黒田茂君を想う」 今井「小西哲雄君を偲ぶ」 今井「恒広君の奮戦」恒広成良	陸士三十期生会		1959	昭和	34	2		冊子	昭和34年春 追悼録。 伊藤善光所属の脇坂部隊は南京占領一番乗りを果たすが伊藤は昭和12年12月9日戦死。今井は「光華門」を「江華門」と書いているが間違いか。 伊藤鈴嗣 遠藤と黒田は陸大でも同期。 小西は昭和12年11月21日山西省太原作戦の途中河北省で戦死 栗林熊尾は長野中学以来の同窓生。栗林忠道大将の弟。砲兵第18連隊中尉。 恒広成良は昭和17年2月 バターン半島で戦死。	5	1
5	16	昭和三十四年以降 追悼録(補足)	陸士三十期生会		1962	昭和	37			冊子	5-15の続き。5-16～5-24まで一束。	5	2
5	17	今井「入江克巳君を憶う」 山下哲夫「専田盛寿君の憶出」	陸士三十期生会		1963	昭和	38	4		冊子	昭和37年以降 追悼録（第二回補足）。 専田は昭和36年1月9日死去。	5	2
5	18	今井 「野口進君を憶う」	陸士三十期生会		1965	昭和	40	10		冊子	昭和38年以降 追悼録（第三回補足）。 5-16の続き。昭和四十年十月記とある。	5	2
5	19	昭和四十一年以降昭和四十二年迄 追悼録(第四回補足) 那須義雄 「鈴木敬司君を悼ふ」 川島威伸 「鈴木敬司閣下のことども」	陸士三十期生会		1968	昭和	43	5	1	冊子	5-17の続き。川島は陸士48期で今井の『昭和の謀略』につき言及。	5	2
5	20	今井「石井勇之助君をしのぶ」	陸士三十期生会		1970	昭和	45	2		冊子	前回迄の追補会誌。 昭和43年以降昭和44年迄 追悼録(第五回補足)。 5-18の続き。	5	2
5	21	昭和四十四年以前 昭和四十五年以降 昭和四十六年末迄 追悼録(第六回補足)	陸士三十期生会		1972	昭和	47			冊子	5-19の続き。	5	2
5	22	今井「飛松伸三君を悼む」 今井「加藤年雄君を偲ぶ」 今井「馬淵逸雄君を悼む」	陸士三十期生会		1974	昭和	49	5	26	冊子	5-20の続き。昭和47年以降昭和48年末迄 追悼録（第七回補足）。	5	2
5	23	今井「織田勝君と戦後の対面」 今井「森田豊秋君を悼む」	陸士三十期生会		1976	昭和	51	5	1	冊子	5-21の続き。昭和49年以降昭和50末迄 追悼録(第八回補足)。	5	2
5	24	今井「米丸正熊君を悼む」 今井「間瀬 坦平君を偲ぶ」	陸士三十期生会		1978	昭和	53	5	1	冊子	5-22の続き。昭和51年以降昭和52年末迄。追悼録(第九回補足)。間瀬については7-10参照。18-225、18-226に原稿あり。米丸は岡田資中將の副官を務め、横浜軍事裁判で重労働20年の判決を受けた。	5	2
5	25	今井「近況報告」	陸士三十期生会		1973	昭和	48	10	12	冊子	38頁今井の近況報告。会誌 7号特号	5	3
5	26	会員名簿（第15号）訂正表	陸士三十期生会		1974	昭和	49			書類	2枚。5-27の前のもの。発行年は推定。	5	3
5	27	会員名簿（第16号）	陸士三十期生会		1975	昭和	50	5		冊子		5	3

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
5	28	陸士三十期生会総会 出席予定者名簿	陸士三十期生会		1976	昭和	51	5	17	名簿	総会は於郵便貯金会館で開催。男38名、女性24名出席。	5	3
5	29	陸士三十期生恩師名簿（訓育関係） ほか	陸士三十期生会		1966	昭和	41	2	28	冊子	名簿。遺族の住所あり。	5	3
5	30	今井俊子「思い出の記」 那須義雄「今井武夫君を悼む」 堀内晴文「同郷の友故今井武夫君」 半井顕夫「今井武夫君の思い出」	陸士三十期生会		1982	昭和	58	2		冊子	自昭和53年至昭和58年1月 追悼録(第十回補足)。5-24の続き。	5	3
6	1	今井「中国及中国人への心の在り方」	世界民主出版部		1953	昭和	28	11	5	雑誌	新生亜細亜 11月号 1巻2号。同一3部あり。	6	1
6	2	安岡正篤「汪精衛工作と誤られた王倫」	全国師友協会		1967	昭和	42	7	10	雑誌	師と友 213 7月号。	6	1
6	3	信濃財政経済会会員名簿 昭和四十五年十月版	信濃財政経済会		1970	昭和	45	10		書類	名簿。今井は日本リサーチ協会理事、著述家で登録。	6	1
6	4	黄河・揚子江・珠江 一中国勤務の思い出	宇都宮直賢		1980	昭和	55	4	5	冊子	宇都宮は元陸軍少将。178～179, 181, 305, 330, 332頁に今井について記載あり。	6	1
6	5	二十世紀後半に於ける 人類の最大使命	野崎四郎		1960	昭和	35	4	1	冊子		6	1
6	6	大東亜戦争 陸軍報道班員手記（バタン コレヒ ドール攻略戦）	文化奉公会		1942	昭和	17	7	18	書籍	大日本雄弁会講談社。	6	1
6	7	北京清譚 体験の中国	清水安三		1975	昭和	50	6	2	書籍	教育出版。	6	1
6	8	民族を結ぶところ ころころシリーズ6	北都書房		1977	昭和	52	12	1	書籍	今井「敵か友か」。	6	1
6	9	新日本の外政指標	原勝		1943	昭和	18	3	10	書籍	序文は土肥原賢二、序は川越茂が書いている。日本青年外交協会出版部。非売品。	6	1
6	10	原勝書簡	原勝	宛先不明	1943	昭和	18	3	10	書籍	本の送り状。叱正願ひ。6-9に挿入。日付は本の発効日として推定。	6	1
6	11	北平より東京へ	村上知行		1947	昭和	22	4	15	書籍	桜井書店。	6	1
6	12	日本の東亜政策と満州問題（第一分冊）	伊東六十次郎		1973	昭和	48	4	28	書籍	伊東は元大同学院教授。長野出身。民族建設研究所。	6	1
6	13	伊東六十次郎「満州国は関東軍の軍政下にあった」	朝日新聞社		1985	昭和	60			新聞	朝日新聞。新聞切抜。6-12に挿入。	6	1
6	14	森山誠之の会社での今井ほか			1977	昭和	52	6	27	写真	6-12に挿入。	6	1
6	15	昭和四十二年五月二十四日 根本博一周忌追悼記念 第一集	根本軍四郎		1967	昭和	42	5	24	冊子		6	1
6	16	革命揺籃期の北京 辛亥革命から山東出兵まで	藤原鎌兄		1974	昭和	49	10	30	書籍	小島麗逸編。社会思想社。	6	1
6	17	福山連隊史 中国編	片岡修身		1978	昭和	53	11	3	書籍	福山歩兵第41聯隊記念碑建設世話人会。古川書店。	6	1
6	18	福山聯隊史 マレー・バターン編	片岡修身		1980	昭和	55	3	10	書籍	今井「発刊を祝して」。今井は元福山歩兵第141連隊長。163～166, 171～173, 179～180, 191, 196, 201～202, 224, 247, 266～267, 338, 352～353, 357, 364, 402頁に今井に関する記載あり。同一2部あり。福山聯隊慰霊碑建設世話人会。古川書店。	6	1
6	19	怒濤の中の太陽	鈴木武		1969	昭和	44	8	15	書籍	鈴木貫太郎首相と孝雄大将兄弟伝。鈴木貫太郎首相秘録編纂委員会。	6	1
6	20	海南島読本	南支調査会		1939	昭和	14	4	15	書籍		6	1
6	21	謀略の上海	晴気慶胤		1951	昭和	26	11	5	書籍	晴気は元参謀本部支那課長。大佐。亜東書房。汪政権の清郷工作について触れている。小野寺信中佐の対中和平工作は偽戴笠に騙されたと書いてある。	6	1
6	22	中共軍と行く	富岡天行		1949	昭和	24	4	15	冊子	復刻版。	6	1
6	23	富岡幸枝・富岡越書簡	富岡幸枝・富岡越	宛先不明	1972	昭和	47	12		書簡	富岡天行（健次）三周忌を迎えて。復刻版送付。6-22に挿入。	6	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
6	24	天津監獄 1532日 日本人・父と娘の手記	柿崎進		1976	昭和	51	7	31	書籍	現代企画室。柿崎は長野県の芯華貿易という中国との朝貢専門の友好商社の経営者で娘と共に1967年逮捕された。茂川秀和との関係か。関川英之『帝国陸軍見果てぬ「防共回廊」』194～197頁に記載あり。	6	1
6	25	巢鴨の十三階段 陸軍中将岡田資遺稿	岡田資		1952	昭和	27	8	15	書籍	亜東書房。岡田は陸軍士官学校時代今井の区隊長だった恩師。中将。	6	1
6	26	ニューギニアの自然と民族	太平洋協会		1943	昭和	18	5	10	書籍	日本評論社。	6	1
6	27	ニューギニアの地図			1943	昭和	18	5	10	地図	6-26に挿入。年は推定。	6	1
6	28	満州建国の夢と現実	国際善隣協会		1975	昭和	50	11	28	書籍	国際善隣協会。	6	1
6	29	日中戦争裏方記	岡田酉次		1974	昭和	49	3	20	書籍	岡田は元陸軍主計少将。321頁に今井に関する記載あり。東洋経済新報社。	6	1
6	30	「新刊抄」	朝日新聞社		1974	昭和	49	5	27	新聞	朝日新聞。新聞切抜。6-29に貼付。	6	1
6	31	東大助教授原朗氏書評について	今井武夫		1974	昭和	49			メモ	6-29に挿入。年代は推定。	6	1
6	32	F機関	藤原岩市		1966	昭和	41	11	15	書籍	藤原は元大佐。原書房。FはFreedom、Friendshipと藤原のFに因んだもの。	6	1
6	33	今井の関心事項と頁数記入メモ	今井武夫		1966	昭和	42	11	15	メモ	6-32に挿入。今井の6-32の関心事項と記載ページのメモ。年月日は全くの推定。	6	1
6	34	頭山翁清話	柴田徳次郎		1940	昭和	15	12	28	書籍	再版。大民社出版部。	6	1
6	35	海軍兵学校	田中常治		1957	昭和	32	5	1	書籍	鱒書房。	6	1
6	36	扶桑七十年の夢	蔣君輝		1974	昭和	49	6	15	書籍	序文日訳に朋友として、今井の名が記載されている。紀伊国屋書店販売。蔣君輝は、自分が関与した繆斌工作につき詳細に述べている。蔣は1892年7月3日生まれだから81歳。元中国の光華大学教授。	6	1
6	37	失われたる記録 対華・南方攻略秘史	丸山静雄		1949	昭和	25	1	1	書籍	93～94、203頁に今井の名が記載されている。後楽書房。	6	1
6	38	アンコール遺跡	藤岡道夫・鈴木博高		1943	昭和	18	6	30	書籍	三省堂。	6	1
6	39	グランドホテルドアンコールのディナーメニュー	グランドホテルドアンコール		1944	昭和	19	2	10	書類	6-38に挿入。裏面にアンコール遺跡への地図あり。	6	1
6	40	グランドホテルドアンコールのディナーメニュー	グランドホテルドアンコール		1944	昭和	19	2	11	書類	6-38に挿入。	6	1
6	41	軍参謀長 岩畔豪雄	岩畔参謀長追悼録編集委員会		1972	昭和	47	1	29	冊子	岩畔は今井の同期。昭和45年11月25日死去。	6	1
6	42	中共計画経済の実証的研究	草野文男		1959	昭和	34	5		冊子	草野は盧溝橋事件当時今井の秘書。旧名織田文男。	6	1
6	43	支那革命ノ策源地 広東概観	島谷忠義		1930	昭和	5	7	15	書籍	泰山堂書店。後の1933年4月11日に今井は著者に広東で会っている	6	1
6	44	夏部隊の足跡	夏友会事務局		1983	昭和	58	3		書籍	今井「ごあいさつ」。今井の死後発刊されたもの。今井は初代第141連隊長。第65旅団は「夏」、第141連隊は「夏9853部隊」と略称。	6	1
6	45	続 夏部隊の足跡（総集編）	夏友会事務局		1986	昭和	61	3	9	書籍	今井の夏部隊英霊への追悼文あり（834～835頁）。今井俊子（長女・遺族）「思い出の記」。三好弘 「今井閣下」。280～281頁に今井に関する記載あり。三井は第141連隊の軍医曹長だった。	6	1
6	46	陸軍中野学校	中野校友会		1978	昭和	53	3	10	書籍	269, 271, 276～279, 281頁に今井に関する記載あり。原書房。	6	1
6	47	桜書簡	桜	今井武夫	1978	昭和	53	8	28	書簡	支那部会担当委員に対する指導の礼と書籍送付について。桜は桜一郎と思われる。中野校友会会長の太郎良定夫の代理としての書簡。6-46に挿入。	6	1
6	48	我が大陸経営失敗の真相	綾川武治		1935	昭和	10	7	30	書籍	兵書出版社。	6	1
6	49	支那事变戦争指導史	堀場一雄		1962	昭和	37	9	10	書籍	随所に今井の意見記載あり。205, 363, 389, 593頁に今井に関して記載あり。時事通信社。栞（しおり）に陸士同期（34期）西原進大佐の堀場の人柄に対するコメントあり。	6	2

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
6	50	堀場一雄著『支那事変戦争指導史』に対する所見	今井武夫		1962	昭和	37			論評	昭和37年9月発行の堀場の著作に対するもの。トラウトマン和平問題ほか。6-49に挿入。	6	2
6	51	支那事変戦争指導史 一統計資料一	堀場一雄		1962	昭和	37	9	10	書籍	6-48と同じ箱に挿入。時事通信社。	6	2
6	52	支那事変戦争指導史付録	堀場一雄		1962	昭和	37			書類	作戦経過概見表。昭和十二年及昭和十三年作戦経過要図。支那派遣軍戦略態勢要図。支那派遣軍態勢概見図。支那資源分布主要地域図。6-49と同じ箱に挿入。	6	2
6	53	支那事変戦争指導史	時事通信社		1962	昭和	37			冊子	6-49と同じ箱に挿入。	6	2
7	1	今井「三十期 会員の消息 今井武夫君」	偕行社		1973	昭和	48	5	1	冊子	「偕行 5月」。	7	1
7	2	今井「三十期 会員の消息 今井武夫君」	偕行社		1975	昭和	50	5	1	冊子	「偕行 5月」。	7	1
7	3	増田梅喜書簡	増田梅喜	今井武夫	1975	昭和	50	2	23	書簡	陸士三十期（同期）を代表して喜寿の祝いと健康管理についての投稿依頼。7-2に挿入。	7	1
7	4	偕行 5月への投稿原稿	今井武夫		1975	昭和	50	4		原稿	偕行への投稿原稿と思われる。7-2に挿入。年代は推定。	7	1
7	5	今井「三十期 会員の消息 今井武夫君」	偕行社		1976	昭和	51	4	1	冊子	「偕行 4月」。	7	1
7	6	今井「三十期 会員の消息 今井武夫君」	偕行社		1977	昭和	52	4	1	冊子	「偕行 4月」。	7	1
7	7	加登川幸太郎「桐工作の記事に異義あり」	偕行社		1977	昭和	52	5	1	冊子	「偕行 5月」。8頁に今井に関する記載あり。	7	1
7	8	偕行 偕行社創立百周年記念号 臨時増刊	偕行社		1977	昭和	52	11	3	冊子		7	1
7	9	今井「三十期 会員の消息 今井武夫君」	偕行社		1978	昭和	53	4	1	冊子	「偕行 4月 327号」。花だより三十期に今井が80歳になった心境を語っている。士官学校時代の第三中隊の後藤十郎古参区隊長の近況について報告。	7	1
7	10	間瀬坦平書簡	間瀬坦平	今井武夫	1973	昭和	48	10	23	書簡	同期立花啓一の死について。間瀬も同期生。7-9に挿入。5-24参照。	7	1
7	11	座談会「第二次大戦と在外武官(4)」	偕行社		1978	昭和	54	1	1	冊子	「偕行 1月」。出席者リストに今井の名前。三十期藤村益蔵の葬儀に参列。	7	1
7	12	三十期「会員の消息」	偕行社		1981	昭和	57	3	1	冊子	「偕行 3月」。今井の入院についての記載あり。	7	1
7	13	陸士三十期「会員の消息」	偕行社		1982	昭和	57	6	1	冊子	「偕行 6月」。今井入院中の記載あり。	7	1
7	14	座談会「軍事顧問部を語る一汪兆銘およびその政権と共に一」	偕行社		1984	昭和	60	4	1	冊子	「偕行 4月」。今井について記載されている。	7	1
7	15	座談会「軍事顧問部を語る一汪兆銘およびその政権と共に一②」	偕行社		1985	昭和	60	5	1	冊子	「偕行 5月」。今井について記載されている。	7	1
7	16	座談会「軍事顧問部を語る一汪兆銘およびその政権と共に一③」	偕行社		1985	昭和	60	6	1	冊子	「偕行 6月」。今井について記載されている。	7	1
7	17	座談会「軍事顧問部を語る一汪兆銘およびその政権と共に一④」	偕行社		1985	昭和	60	7	1	冊子	「偕行 7月」。今井について記載されている。	7	1
7	18	「将軍は語る 31期小野寺信少将(上)」	偕行社		1986	昭和	61	3	1	冊子	「偕行 3月」。今井に関して記載されている。	7	1
7	19	満和会（陸士三十期生会）「花だより」	偕行社		1986	昭和	61	5	1	冊子	「偕行 5月」。今井きみ子（妻）の訃報について記載あり。	7	1
7	20	「偕行 1月」	偕行社		1966	昭和	41	1	1	冊子		7	1
7	21	徳不孤必有隣（太平洋戦争結束時受中菲両国元首拯救的日本軍官の故事）	神保信彦		1966	昭和	41	3	1	冊子		7	1
7	22	自序	神保信彦		1967	昭和	42	9	1	書類	7-21に挿入。	7	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
7	23	カルロス・ビー・ガルシア書簡	カルロス・ビー・ガルシア	神保信彦	1958	昭和	33	1	28	書簡	文書受け取りの礼状。「フィリピンの夜明けの前書」。ガルシアは戦後第4代フィリピン大統領（任期1957年3月18日から1961年12月30日）。7-21に挿入。	7	1
7	24	支那事変の研究	三宅喜二郎		1968	昭和	43	3		冊子	三宅は外務省研修所長。研修参考資料。2, 57, 62頁に今井に関する記述あり。私家版。	7	1
7	25	今井「証言＝日中戦争とヴェトナム戦争」 今井「英知と勇気を 一通州事件のことなど」	徳間書店		1968	昭和	43	3	1	雑誌	中国 1968年3月号 52号。	7	1
7	26	中国 1968年5月号 54号	徳間書店		1968	昭和	43	5	1	雑誌		7	1
7	27	中国 1970年10月号 83号	徳間書店		1970	昭和	45	10	1	雑誌		7	1
7	28	「風間さん逝く」	世界民主出版部		1968	昭和	43	6	15	雑誌	主張と解説 風間丈吉追悼号 No. 418。	7	1
7	29	人物往来 9月号 13巻6号	人物往来社		1964	昭和	39	9	1	雑誌		7	1
7	30	共同研究 日本の百年 今井・衛藤藩吉・ 児島襄 「泥沼におちた日中戦争」	人物往来社		1965	昭和	40	4	1	雑誌	人物往来 4月号 14巻4号。	7	1
7	31	共同研究 日本の百年 今井・衛藤藩吉・ 児島襄 「泥沼におちた日中戦争」	人物往来社		1965	昭和	40	4	1	雑誌	人物往来 4月号 14巻4号。複写。今井の校正あり。7-30に挿入。	7	1
7	32	今井「かくて汪兆銘出現す（梅機 関）」	人物往来社		1965	昭和	40	6	1	雑誌	人物往来 6月号 14巻6号。	7	1
7	33	園田次郎「動乱の大陸に挑む 一南京 事件から盧溝橋事件まで」	人物往来社		1965	昭和	40	9	1	雑誌	人物往来 9月号 14巻9号。今井に関する記述あり。	7	1
7	34	趙毓松「私はなぜ日本に亡命したか」	人物往来社		1966	昭和	41	4	1	雑誌	人物往来 4月号 15巻4号。今井提供の写真が使用されている。趙毓松（チョウイクショウ）は元南京政府・行政院農林部長。	7	1
7	35	岡田益吉「盧溝橋事件の謎を解く」	経済往来社		1967	昭和	42	8	1	雑誌	経済往来 8月号 19巻（通巻29巻）。今井に関する記述あり。	7	1
7	36	秦郁彦「影佐偵昭 一汪政権の生みの 親」	経済往来社		1980	昭和	55	5	1	雑誌	経済往来 5月号 32巻（通巻42巻）。今井に関する記述あり。	7	1
7	37	今井「日中和平 桐工作 の全貌」 相良俊輔「盧溝橋事件の謎を解く」 陳公博「汪兆銘狙撃さる」（岡田西次 訳）	中央公論社		1978	昭和	53	8	1	雑誌	歴史と人物 8月号。今井に関する記述あり。	7	1
7	38	「週刊読売 臨時増刊 日本の秘密戦」 今井武夫 「宋子良となる男」	読売新聞社		1956	昭和	31	12	8	雑誌	同一2部あり。今井武夫 「宋子良と名の男」のほか、山口源等（陸軍少佐）「F機関 潜行記」、岩畔豪雄 「準備されていた秘密戦」、「岩畔機関 始末記」、山本敏（陸軍少将 光機関長）「革命児海を渡る」（チャンドラ・ボースについて）、杉井満「ビルマ独立運動と南機関 -風雲児オンサンンの思い出-」などの記事多々あり。	7	1
7	39	児島襄「パターン半島攻略戦 文人” 本間雅晴中將の弱点”」	小学館		1970	昭和	45	12	11	雑誌	週刊ポスト。今井に関する記述あり。	7	1
7	40	冊子・気学入門 全	田中胎東		1929	昭和	4	5	20	冊子	再版。	7	1
7	41	皇軍必携 馬來語会話	大本營陸軍部		1941	昭和	16	8		冊子		7	1
7	42	軍用 華語馬來語教本	新興亜学院		1941	昭和	16			冊子	年代は推定。	7	1
7	43	情報学	湯炎光		1961	昭和	36	2	10	冊子		7	1
7	44	今井「心ふくらむ一日」	陸士三十期生会			昭和	48	8	1	冊子	任官55周年記念大会特集号。18頁。会誌 9号。1-72に陸士三十期生任官65周年記念誌がある。	7	1
7	45	日米安全保障条約（日米安保体制）に 関する政府の見解について	防衛庁長官官房広報課		1969	昭和	44	1	15	冊子		7	1
7	46	軍事史学 第5号	甲陽書房		1966	昭和	41	5	1	雑誌		7	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
7	47	宣教師の見た明治の頃	キリシタン文化研究会		1968	昭和	43	11	3	書籍	H・チースリク訳。	7	1
7	48	竹内春夫「盧溝橋事件の謀略性を示す一つの問題」	偕行社		1982	昭和	57	11	1	冊子	「偕行 11月」。竹内は陸士52期。	7	1
8	1	支那の歴史	星一		1938	昭和	13	3	25	書籍	星同窓会。	8	1
8	2	中国国民革命史	波多博・清水董三・蔵井良造		1972	昭和	47	5	1	冊子	今井は中国国民革命史編集委員会の委員。	8	1
8	3	波多博先生出版記念会			1972	昭和	47	7	8	写真	於丸の内・日本倶楽部。8-2に挿入。	8	1
8	4	日満支経済懇談会報告書	日満支経済懇談会事務局・日満中央協会		1929	昭和	4	5	30	冊子		8	1
8	5	続・千山萬里	庄子勇之助		1970	昭和	45	7	1	書籍	東亜同文書院第二十八期生。	8	1
8	6	学園歳時記	生江義男		1969	昭和	44	11	15	書籍		8	1
8	7	統率の実際 第二次大戦の将軍たち 1	陸上自衛隊幹部学校修親会		1974	昭和	49	4	15	書籍		8	1
8	8	今井「根本博中将の思い出(その1)」	陸上自衛隊幹部学校修親会		1969	昭和	44	1	1	雑誌	幹部学校記事 17巻昭和44年1月号。同一5部あり。1-48の切抜。	8	1
8	9	軍事史研究 No. 5	国防史学会		1964	昭和	39	4	1	雑誌		8	1
8	10	アジアの潮 ブリヤート・モンゴルの高僧を迎えて	アジア文化交流協会 阪本福史		1975	昭和	50	3	3	冊子		8	1
8	11	自由 昭和43年9月号	自由社		1968	昭和	43	9	1	雑誌		8	1
8	12	米ソ戦と日本	大陸問題研究所		1951	昭和	26	12		冊子		8	1
8	13	米ソ戦と日本頒布についてのお願ひ	大陸問題研究所		1951	昭和	26	12	25	書類	8-12に挿入。	8	1
8	14	大陸問題研究所準則	大陸問題研究所		1951	昭和	26			書類	8-12に挿入。年代は推定。	8	1
8	15	土居明夫書簡	土居明夫	宛先不明	1952	昭和	27	1	1	書簡	年賀。8-12に挿入。土居は元陸軍中将。ロシア通。29期。	8	1
8	16	支那事变陸軍作戦 (2) 昭和十四年九月まで	防衛庁防衛研究所戦史室		1976	昭和	51	2	25	書籍	259, 265～270, 448頁に今井についての記載あり。付図4枚あり。朝雲新聞社。	8	1
8	17	大東亜(太平洋) 戦争戦史叢書	朝雲新聞社		1976	昭和	51	2	25	冊子	8-16に挿入。日付は推測。	8	1
8	18	最後之心情	汪兆銘		1944	昭和	19	10		書類	訳文。翻訳は8-18益井康一『漢奸裁判史』に記載されている。	8	
8	18	影佐禎昭供述書	影佐禎昭		1947	昭和	22	6	11	書類	東京裁判で出張尋問記録とともに朗読されたもの。内容は8-18益井康一『漢奸裁判史』に記載されている。	8	
8	18	漢奸裁判史 1946-1948	益井康一		1977	昭和	52	4	8	書籍	33, 35, 301, 338, 340～342, 347～348頁に今井についての記載あり。資料として①「影佐禎昭供述書」②汪兆銘「最後之心情」の訳 添付あり。表紙の裏に「今井武夫先生 乞御高覧 益井康一」と署名記載あり。みずが書房。平成21年10月20日に新版 解説を加えて出版される。	8	1
8	19	日露戦争秘史中の河原操子	福島貞子		1934	昭和	9	12	20	書籍	4版。婦女新聞社。	8	1
8	20	軍事機密 統帥綱領・統帥参考	偕行社		1962	昭和	37	12	8	書籍		8	1
8	21	潜行三十年	譚覚真		1977	昭和	52	10	15	書籍	147頁の写真に 今井に関する記載あり。文言社。	8	1
8	22	譚覚真書簡	譚覚真	今井武夫	1977	昭和	52	7	12	書簡	拙稿 お目通しへの礼。8-21に挿入。	8	1
8	23	比島から巣鴨へ	武藤章		1952	昭和	27	11	26	書籍	実業之日本社。	8	1
8	24	稲森利助書簡	稲森利助	今井武夫	1968	昭和	43	4	20	書簡	武藤章が蒙古へ行ったときのエピソードを書いた葉書。稲森は今井の陸士同期生。8-23に挿入。	8	1
8	25	悲憤の碑文	神山誠		1971	昭和	46	7	20	書籍		8	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
8	26	汪政権の開場與収場 第五冊	朱子家		1964	昭和	39	2		書籍	朱子家は金雄白の筆名。1-64、1-65参照。春秋雑誌社印行。	8	1
8	27	印度の宗教対立	C・マンシャート		1942	昭和	17	11	26	書籍	総合インド研究室訳。	8	1
8	28	樹海	柴田賢次郎		1943	昭和	18	3	15	書籍	フィリピン作戦従軍記。秘密ということで、部隊名は変名だが、今井部隊のことが書かれている。櫻井書店。	8	1
8	29	安南の歴史	水谷乙吉		1942	昭和	17	7	20	書籍	育成社弘道閣。安南は現在のベトナム。	8	1
8	30	橋本大佐の手記	中野雅夫		1963	昭和	38			書籍	15、82、84、91、101頁に関連して根本（博中将）から聞いたと思われる今井の自筆メモ追加記述あり。134頁に今井に関する記載あり。みすず書房。	8	1
8	31	ノモンハン	辻政信		1950	昭和	25	8	20	書籍	再版。垂東書房。	8	1
8	32	ガダルカナル 世紀の死斗	養徳社		1950	昭和	25			書類	辻政信の著書の宣伝。8-31に挿入。年代は推定。	8	1
8	33	陸軍葬儀委員長 支那事変より東京裁判まで	池田純久		1953	昭和	28	3	5	書籍	日本出版協同株式会社。池田は陸軍中將。	8	1
8	34	日本国政辞典 2	外川文平		1953	昭和	28	11	20	書籍	日本国政辞典第一巻正誤表付き。 連合出版社。	8	1
8	35	出版評論			1953	昭和	28			書類	武者小路実篤, 木村毅, 天野貞祐の出版評論。8-34に挿入。年代は推定。	8	1
8	36	蒋介石	日本外政学会		1955	昭和	30	12	26	書籍	日本外政学会出版局。	8	1
8	37	支那関係條約集	半澤玉城		1930	昭和	5	9	10	書籍	外交時報社。	8	1
8	38	皇帝溥儀 私は日本を裏切ったか	工藤忠		1952	昭和	27	11	30	書籍	工藤は元満州国侍衛官長。若いときは工藤鉄三郎と言い、支那浪人だった。秋永芳郎の小説『黒い落日』（東都書房、昭和40年）のモデル。世界社。	8	1
8	39	中日対訳 中華民国新六法	中華法令編印館		1939	昭和	14	3	1	書籍	中華法令編印館編訳。	8	1
8	40	蒙古大観 昭和十三年版	善隣協会		1938	昭和	13	10	20	書籍	改造社。	8	1
8	41	中国政治経済総覧	アジア政経学会		1960	昭和	35	10	15	書籍	一橋書房。	8	1
8	42	対支経済政策成基本問題	斉藤良衛		1938	昭和	13	6	20	書籍	非売品。	8	1
9	1	新生日本外交百年史	東京日日新聞		1952	昭和	27	8	15	書籍	東京日日新聞社。	9	1
9	2	板倉機八士忠魂碑 地鎮祭写真集	満州航空株式会社写真班		1935	昭和	10	4	23	写真	実物写真貼り付け。	9	1
9	3	冀東紀念專刊 卷上	殷汝耕		1936	昭和	11	11	25	書籍	殷は冀東政府の政務長官。この日は成立1周年記念にあたる。	9	1
9	4	冀東紀念專刊 卷下	殷汝耕		1936	昭和	11	11	25	書籍	9-3と同じカバー。この日は成立1周年記念にあたる。	9	1
9	5	満州国内の写真帖				昭和				写真	写真24枚。1942以降のものと思われる。	9	1
9	6	昭和六・七年満州事変 関東軍記念写真帖	陸軍恤従兵部		1933	昭和	8	6	20	写真		9	1
9	7	陸軍写真帖	陸軍省つはもの編輯部		1935	昭和	10	7	15	写真		9	1
9	8	大東亜戦争全史	服部卓二郎		1953	昭和	28	6		書籍	1075～1086頁の切抜。服部の「所懐の一端」。鱒書房。	9	1
9	9	閑院参謀総長宮殿下 中支戦線御視察			1939	昭和	14	10		写真	写真20枚。日付は10月末か。	9	1
9	10	小倉正恒	小倉正恒伝記編集会		1965	昭和	40	3	20	書籍	今井「国民政府の小倉経済最高顧問」。	9	1
9	11	「えつらん室 小倉正恒 吉野俊彦の書評」	朝日新聞社		1965	昭和	40	6	8	新聞	朝日新聞。新聞切抜。9-10に挿入。	9	1
9	12	岡村寧次大将資料（上）一戦場回想編一	稲葉正夫		1970	昭和	45	2	20	書籍	原書房。東条陸相からの内密依頼の対重慶連絡工作について記載あり。稲葉は元陸軍中佐。	9	1
9	13	中野英光書簡	中野英光	今井武夫	1970	昭和	45	5	2	書簡	岡村資料に対する感想。9-12に挿入。中野は元済南特務機関長。中將。	9	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
9	14	岡村チエ	岡村チエ		1980	昭和	55	9	30	名刺	9-12に貼付。チエは岡村大将夫人か。	9	1
9	15	昭和戦争史の証言	西浦進		1980	昭和	55	9		書籍	西浦は元陸軍大佐。初代陸上自衛隊幹部学校戦史室長。みすず書房。	9	1
9	16	今村均陸軍中將			1940	昭和	15			写真	人物は推定。陸軍中將の軍服着用。9-15に挿入。年は推定。	9	1
9	17	私服の今井			1940	昭和	15	3		写真	9-15に挿入。	9	1
9	18	盧溝橋事件 一日本の悲劇一	寺平忠輔		1970	昭和	45	7	20	書籍	8, 34, 51～53, 89, 175～176, 292, 403～404, , 406, 451頁に今井について記載あり。読売新聞社。	9	1
9	19	「書評 真相究明の集大成」	読売新聞社		1970	昭和	45	9	24	新聞	読売新聞。今井の名も記載あり。新聞切抜。9-18に挿入。	9	1
9	20	広田弘毅	広田弘毅伝記刊行会		1966	昭和	41	12	1	書籍	中央論議事業出版。	9	1
9	21	機密日露戦史 明治百年史叢書	谷壽夫		1966	昭和	41	2	25	書籍	付図・付表あり。原書房。	9	1
9	22	明治百年史叢書月報 1966. 2 No. 3	原書房		1966	昭和	41	2		冊子	9-21の付録。	9	1
9	23	現代史資料 (九) 日中戦争 (二)	みすず書房		1964	昭和	39	9	30	書籍	白井勝美 稲葉正夫解説。稲葉は元陸軍中佐。一. 作戦段階 1937年7月～1938年11月 二. 持久対峙段階 1938年11月～1941年12月	9	1
9	24	現代史資料 (十) 日中戦争 (三)	みすず書房		1964	昭和	39	12	25	書籍	張鼓峯事件、ノモンハン事件、日独伊三国協定問題、北部仏印進駐、南進論、泰仏印間国境紛争調停、南部仏印調停など。	9	1
9	25	防共協定強化問題に関し 大島浩元駐 独大使との質疑応答 (現代史資料月 報)	みすず書房		1964	昭和	39	12	25	冊子	9-24に挿入。付録。月報の日付は12月5日となっているが 本体の9-24に合わせた。	9	1
9	26	現代史資料 (七) 満州事変	みすず書房		1964	昭和	39	4	25	書籍		9	1
9	27	島田俊彦 「軍令部戦史部始末記」	みすず書房		1964	昭和	39	4	25	冊子	現代史資料月報。9-26に挿入。付録。	9	1
9	28	現代史資料 (十三) 日中戦争 (五)	白井勝美編		1966	昭和	41	7	30	書籍	409～433頁、情報会議書類(昭和15年7月・12月・同16年四月・7月今井武夫大佐)。影佐禎昭「曾走路我記」を含む。みすず書房。	9	1
9	29	現代史資料月報 7月	みすず書房		1966	昭和	41	7		冊子	9-28に挿入。角田順「北海事件と盧溝橋事件 一海軍反応一」「座談会「満州事変、日中戦争」の刊行を終えて 出席者 角田順 稲葉正夫 小林龍夫」	9	1
9	30	現代史資料 (三八) 太平洋戦争 (四)	みすず書房		1972	昭和	47	12	10	書籍	337頁～今井が出席の日中終戦交渉会談録あり。398頁～終戦前の和平工作に今井に関する記述あり。466頁に支那派遣軍各軍司令官等氏名一覧表あり。	9	1
9	31	今井「和平工作の思い出」	みすず書房		1972	昭和	47	12	10	冊子	現代史資料月報 太平洋戦争(四)付録。9-30に挿入。付録。同一3部あり。日付は推定。	9	1
9	32	陸軍大学校	上法快男		1973	昭和	48	12	1	書籍	「陸軍大学校を如何に見るや」に今井武夫の見解あり。305頁～306頁。芙蓉書房。	9	1
9	33	有楽会 会員名簿	有楽会		1978	昭和	53	9		名簿	18人の名簿。今井も会員。9-32に挿入。	9	1
9	34	関東軍参謀副長の手記	松村知勝		1977	昭和	52	7	10	書籍	芙蓉書房。松村は陸軍少将。陸士33期。昭和20年3月1日関東軍参謀副長。戦後ソ連に拘留され 東京裁判にソ連側の承認として出廷させられた。昭和31年12月に帰国	9	1
9	35	日中友好の捨石 秘録 土肥原賢二	土肥原賢二刊行会		1972	昭和	47	11	15	書籍	今井は土肥原賢二刊行会の一員。各処に土肥原の謀略につき今井の証言あり。今井提供の写真あり(3-127)。芙蓉書房。	9	1
9	36	秘録 板垣征四郎	板垣征四郎刊行会		1972	昭和	47	7	1	書籍	各処に今井の証言あり。今井は板垣征四郎刊行会の一員。芙蓉書房。	9	1
9	37	陸軍省人事局長の回想	額田坦		1977	昭和	52	5	1	書籍	芙蓉書房。額田は陸士29期。陸大は今井と同期。	9	1
9	38	アツキスカ軍司令官の回想録	樋口季一郎		1971	昭和	46	10	11	書籍	376頁に今井に関する記載あり。樋口は元陸軍中將。芙蓉書房。ハルビン特務機関長時代2万人のエダヤ移民を救った。	9	1
9	39	現代中国辞典	中国研究所編		1950	昭和	25	9	1	書籍	現代中国辞典刊行会。	9	1
9	40	宇垣一成日記 1	宇垣一成		1968	昭和	43	3	25	書籍	自明治三十五年九月 至昭和六年六月。みすず書房。	9	1
9	41	みすず書房 新刊御通知 1968 3	みすず書房		1968	昭和	43	3		書類	宇垣一成日記について。9-40に挿入。	9	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
9	42	宇垣一成日記 2	宇垣一成		1970	昭和	45	10	5	書籍	自昭和六年六月 至昭和十四年二月。みすず書房。	9	1
9	43	宇垣一成日記 3	宇垣一成		1971	昭和	46	1	25	書籍	自昭和十四年三月 至昭和二十四年七月。みすず書房。	9	1
9	44	情報会議書類（昭和15年7月・12月・同16年4月・7月）	今井武夫		1941	昭和	16	7		書類	9-束2所収のファイル。9-28記載の原本。月は推定。	9	2
9	45	情報主任参謀会同席上ニ於ケル総参謀長挨拶要旨	支那派遣軍総司令部		1940	昭和	15	7	4	書類		9	2
9	46	情報主任会同席上ニ於ケル第二課長口演要旨（対支一般情勢）	支那派遣軍総司令部		1940	昭和	15	7	4	書類		9	2
9	47	情報主任参謀会同席上ニ於ケル総参謀長挨拶要旨	支那派遣軍総司令部		1940	昭和	15	12	22	書類		9	2
9	48	情報主任参謀会同席上ニ於ケル第二課長口演要旨	支那派遣軍総司令部		1940	昭和	15	12	22	書類		9	2
9	49	情報主任参謀会同席上ニ於ケル総参謀長口演要旨	支那派遣軍総司令部		1941	昭和	16	4	3	書類		9	2
9	50	情報主任者会同席上ニ於ケル第二課長口演要旨	支那派遣軍総司令部		1941	昭和	16	4	3	書類		9	2
9	51	対支一般情勢観察	支那派遣軍総司令部		1941	昭和	16	4	3	書類		9	2
9	52	情報会議席上ニ於ケル総参謀長口演要旨	支那派遣軍総司令部		1941	昭和	16	7	18	書類		9	2
9	53	情報会議席上ニ於ケル第二課長口演要旨（対支一般情勢）	支那派遣軍総司令部		1941	昭和	16	7	18	書類		9	2
9	54	対支一般情勢観察	支那派遣軍総司令部		1941	昭和	16	7	18	書類		9	2
9	55	英米蘇支軍事合作ニ関スル情報蒐録	支那派遣軍参謀部		1941	昭和	16	7	15	書類	米国 対日航空用ガソリン輸出禁止	9	2
9	56	作戦日誌で綴る支那事変	井本熊男		1978	昭和	53	6	30	書籍	井本は元陸軍大佐。60～61, 84, 86, 92～95, 99, 398, 409, 411～, 412, 415, 420, 423～424, 477頁に今井に関する記事あり。芙蓉書房。	9	3
9	57	井本熊男書簡	井本熊男	今井武夫	1968	昭和	43	4	17	書簡	11-183に挿入。支那派遣軍司令部の編成の当初から第四課に「思想戦班」があったかどうかの問い合わせ。後に井本は自著『作戦日誌で綴る支那事変』に思想班のことを述べている。	9	3
9	58	井本熊男書簡	井本熊男	今井武夫	1973	昭和	48	4	7	書簡	桐工作に関する問い合わせ。	9	3
9	59	井本熊男書簡	井本熊男	今井武夫	1973	昭和	48	4	10	書簡	問い合わせに対する返事のお礼。9-58と同じ封筒に挿入。	9	3
9	60	井本熊男書簡	井本熊男	今井武夫	1974	昭和	49	4	4	書簡	桐工作と井本の当時の日記について。	9	3
9	61	井本熊男書簡	井本熊男	今井武夫	1977	昭和	52	5	17	書簡	執筆活動、桐工作、パターン戦記などについて。	9	3
9	62	井本熊男書簡	井本熊男	今井武夫	1977	昭和	52	8	20	書簡	井本の支那事変に関する著作執筆について。	9	3
9	63	冀察政務委員会閲兵典礼紀念冊	容豊美術照相楼・華北美術照相館		1936	昭和	11	1	1	写真	宋哲元 贈。写真51枚のアルバム。	9	3
9	64	風間卓住所	今井武夫			昭和				メモ	北京週報。晩年の字体。風間については13-22参照。	9	3
9	65	今井俊子絵日記	今井俊子		1937	昭和	12	7	1	日記	北平にいて盧溝橋事件を体験した7歳の俊子（長女）の小学校の絵日記。8月19日まで。	9	3
9	66	北京に行った時どんなだったか	今井俊子		1937	昭和	12			書類	俊子（長女）7歳の作文。	9	3
9	67	中国北平の小学校 俊子（長女）7歳の同級生32名の名簿			1937	昭和	12			名簿	保護者名と住所・本籍あり。保護者に松山良政、小沢開作（満州協和会、征爾の父）の名が見える。	9	3
9	68	戦争と人間の記録 バターン戦	御田重宝		1978	昭和	53	6	10	書籍	37, 84, 88, 91, 99, 142, 172, 188, 194, 197, 198, 204, 259, 262頁に今井に関する記述あり。現代史出版会。	9	3

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
9	69	堀場一雄 反骨の記録 ある作戦参謀の悲劇	芦澤紀之		1974	昭和	49	12	20	書籍	221, 223～225, 235～236, 238, 230, 413～414に今井に関する記述あり。芙蓉書房。	9	3
9	70	徐州から巢鴨まで	斉藤弼国		1974	昭和	49	6	1	冊子		9	3
9	71	湖南省総覧	神田正雄		1937	昭和	12	11	25	書籍	海外社。	9	3
9	72	湖南省全図	海外社		1937	昭和	12			地図	湖南省総覧付図。9-71に挿入。年代は推定。	9	3
9	73	春秋正義證釈	呉佩孚		1937	昭和	12	6		冊子	呉佩孚は1939年4月に亡くなっている。隠公六七年。春秋左伝浅解釈とある。丁丑仲夏。呉佩孚題。	9	3
9	74	日本への亡命者に関する調査				昭和				冊子	満州国、華北政務委員会、維新政府、汪政府からの亡命者に対する調査。発行は戦後数年後のものか。	9	3
9	75	清露秘密協定（日本語訳）			1896	明治	29	5	22	書類	1896年5月22日締結の同盟条約の日本語訳。複製。清国の李鴻章とロシアのウイッテとの間での軍事同盟。日本が攻めてきた場合。両国は共同で立ち向かう。	9	3
9	76	American Express	American Express International Banking Corp		1970	昭和	45	10	12	書類	100ドル両替。	9	3
9	77	田尻来寧	今井武夫		1940	昭和	15	2	7	メモ	昭和15年2月7日東亜第一課長田尻来寧。重慶工作を話す。メモ小片1枚。	9	3
9	78	海賊	今日出海		1966	昭和	41	6	15	書籍	毎日新聞 夕刊連載小説。49～53、305、315、321、324～325、332頁ほか。今井の名がこの小説に出てくる。毎日新聞社。日中和平工作について。	9	3
9	79	今日出海「終らぬ話 海賊 一後記一」	毎日新聞社		1965	昭和	40	12	28	新聞	毎日新聞 夕刊。新聞切抜。9-78に挿入。今井の日中和平工作について。	9	3
9	80	「書評 今日出海著 海賊」	朝日新聞社		1966	昭和	41	6	19	新聞	朝日新聞。新聞切抜。9-78に挿入。	9	3
9	81	南方亜細亜の民族と社会	満鉄東亜経済調査局 「新亜細亜」編集部		1932	昭和	7	7	20	書籍	大和書店。	9	3
9	82	参謀	児島襄		1972	昭和	47	3	15	書籍	列伝として今井の項あり。辻政信の項にも今井の記述あり。週刊ポスト（11-130）の書籍化。文藝春秋。	9	3
9	83	太平洋戦争への道程 盧溝橋より真珠湾へ	デビッド・J・ルー		1967	昭和	42	7	15	書籍	田島周子訳。原書房。著者は米国バックネル大学日本研究所長。原題 "From the Marco Polo Bridge to Pearl Harbor" (Public Affairs Press, 1961)。田島は松岡洋右の娘。	9	3
9	84	落日燃ゆ	城山三郎		1974	昭和	49	1	20	書籍	3刷。新潮社。	9	3
9	85	悲劇の将軍 人間山下奉文	沖修二		1959	昭和	34	4	20	書籍	6版。	9	3
9	86	私の人物案内	今日出海		1951	昭和	26	9	30	書籍	「近衛文麿」、「野人白洲次郎」などの随筆記載あり。創元社。	9	3
9	87	占領秘録	住本利男		1952	昭和	27	9	10	書籍	5版。住本は毎日新聞社政治部長。毎日新聞社。	9	3
9	88	天皇 誰が日本民族の主人であるか	蜷川新		1952	昭和	27	9	5	書籍	6版。光文社。	9	3
9	89	日本終戦史 決定的瞬間を迎えて 下巻	林茂		1962	昭和	37	9	1	書籍	読売新聞社。	9	3
9	90	昭和の動乱 下巻	重光葵		1952	昭和	27	4	15	書籍	3-75と同じだが4版。中央公論社。	9	3
10	1	軍旗拝受ニ関スル綴			1941	昭和	16	8		書類	10-東1所収のファイル	10	1
10	2	軍旗拝受記念 宮城二重橋前			1941	昭和	16	9	10	写真	10-1に挿入。2枚。	10	1
10	3	西軍参動第723号 軍旗親授ノ儀ニ関スル件達牒	藤江恵輔	歩兵第141連隊長今井武夫	1941	昭和	16	8	28	書類	藤江は西部軍司令官。中将。陸士18期。後に大将。	10	1
10	4	西軍参動第724号 軍旗親授ノ為上京者ノ宿舍等ニ関スル件通牒	佐々真之助	歩兵第141連隊長今井武夫	1941	昭和	16	8	28	書類	佐々は西部軍参謀長。少将。	10	1
10	5	記念祭委員業務分担表(案)			1941	昭和	16	8		書類		10	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
10	6	電報(案)			1941	昭和	16	8		電報	軍旗拝受式終了後の所属長への電報案。	10	1
10	7	軍旗輸送計画表			1941	昭和	16	8		書類	9月10から9月12日までの東京からの輸送日程表。	10	1
10	8	今井武夫宛電報	イマブチ	今井武夫	1941	昭和	16	9		電報	遥拝式は10日に行う旨の連絡。	10	1
10	9	歩兵第二百二十九、五十八、百六、百四十一、百四十五、百五、百三十一連隊軍旗親授式ニ関スル細部ノ打合せ事項	陸軍大臣官房		1941	昭和	16	9	1	書類	付図と奉答様式添付あり。	10	1
10	10	電報(案)	六三部隊		1941	昭和	16	9	10	電報	(福山にて) 遥拝す。日付は推定。西部63部隊。	10	1
10	11	軍旗拝受式要領			1941	昭和	16	9		書類		10	1
10	12	勅語写		歩兵第141連隊	1941	昭和	16	9		書類		10	1
10	13	奉答文写			1941	昭和	16	9	10	書類	歩兵第141連隊長。	10	1
10	14	軍旗親授式御模様	今井武夫		1941	昭和	16	9	10	書類	式後の奉安までの経過も記載あり。	10	1
10	15	夏三戦詳第一号 自昭和十六年十一月八日至昭和十七年一月八日 第一次「バタアン」作戦戦闘詳報 輸送及行軍間ニ於ケル行動詳報	歩兵第四百四十一連隊		1941	昭和	16	11	8	書類	今井は歩兵第141連隊長。	10	2
10	16	夏三戦詳第二号 自昭和十七年一月九日至昭和十七年一月二十八日 第一次「バタアン」作戦戦闘詳報 「ナチブ」山附近戦闘経過	歩兵第四百四十一連隊		1942	昭和	17	1	9	書類	今井は歩兵第141連隊長。	10	2
10	17	夏三戦詳第三号 自昭和十七年一月二十九日至昭和十七年二月二十四日 第一次「バタアン」作戦戦闘詳報 「サマツ」山附近ノ戦闘及陽攻	歩兵第四百四十一連隊		1942	昭和	17	1	29	書類	今井は歩兵第141連隊長。	10	2
10	18	夏三戦詳第四号 自昭和十七年二月二十五日至昭和十七年三月八日 南部「バタアン」半島封鎖作戦	歩兵第四百四十一連隊		1942	昭和	17	2	25	書類	今井は歩兵第141連隊長。	10	2
10	19	夏三戦詳第五号 自昭和十七年三月九日至昭和十七年四月十六日 第二次「バタアン」作戦戦闘詳報 「マリベレス」山附近戦闘	歩兵第四百四十一連隊		1942	昭和	17	3	9	書類	今井は歩兵第141連隊長。	10	2
10	20	夏三戦詳別冊 昭和十七年四月「バタアン」攻略戦戦闘詳報 作戦地一般ノ景況及其他	歩兵第四百四十一連隊		1942	昭和	17	4		書類	今井は歩兵第141連隊長。	10	2
10	21	行動詳報第一号(自昭和十六年十一月八日至昭和十七年一月八日) 輸送及行軍間ニ於ケル行動詳報	歩兵第四百四十一連隊 第一大隊		1941	昭和	16	11	8	書類	今井は歩兵第141連隊長。	10	2
10	22	戦闘詳報第二号(自昭和十七年一月九日至一月二十六日) 第一次「バタアン」作戦 「ナチブ」山附近戦闘経過	歩兵第四百四十一連隊 第一大隊		1942	昭和	17	1	9	書類	今井は歩兵第141連隊長。	10	2
10	23	戦闘詳報第三号(自昭和十七年一月二十七日至二月二十三日) 第一次「バタアン」作戦 「サマツ」山附近戦闘詳報	歩兵第四百四十一連隊 第一大隊		1942	昭和	17	1	27	書類	今井は歩兵第141連隊長。	10	2

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
10	24	戦闘詳報第四号（自昭和十七年二月二十三日 至三月二十六日）南部「バタアン」半島ノ封鎖 作戦戦闘詳報	歩兵第四百一連隊 第一大隊		1942	昭和	17	2	23	書類	今井は歩兵第141連隊長。	10	2
10	25	戦闘詳報第五号（自昭和十七年三月二十六日 至四月九日）戦闘詳報第五号（第二次「バタアン」 作戦戦闘詳報	歩兵第四百一連隊 第一大隊		1942	昭和	17	3	26	書類	今井は歩兵第141連隊長。	10	2
10	26	戦闘詳報第六号（自昭和十七年四月十一日 至六月十三日）中部呂栄戴定作戦戦闘詳報	歩兵第四百一連隊 第一大隊		1942	昭和	17	4	11	書類	今井は歩兵第141連隊長。	10	2
10	27	自昭和十六年十一月八日至昭和十七年一月八日 輸送及行軍間ニ於ケル行動詳報 第一号	歩兵第四百一連隊 第二大隊		1941	昭和	16	11	8	書類	今井は歩兵第141連隊長。	10	2
10	28	自昭和十七年一月九日至昭和十七年一月二十八日 第一次「バタアン」作戦「ナチブ」山附近ノ 戦闘詳報 第二号	歩兵第四百一連隊 第二大隊		1942	昭和	17	1	9	書類	今井は歩兵第141連隊長。	10	2
10	29	自昭和十七年一月二十九日至昭和十七年二月 二十四日 第一次「バタアン」作戦「サマツ」山 附近ノ戦闘詳報 第三号	歩兵第四百一連隊 第二大隊		1942	昭和	17	1	29	書類	今井は歩兵第141連隊長。	10	2
10	30	自昭和十七年二月二十五日至三月二十六日 南部「バタアン」半島ノ封鎖作戦戦闘詳報 第四号	歩兵第四百一連隊 第二大隊		1942	昭和	17	2	25	書類	今井は歩兵第141連隊長。	10	2
10	31	自昭和十七年三月二十七日至四月十一日 第二次「バタアン」作戦「マリベレス」山附近ノ 戦闘詳報 第五号	歩兵第四百一連隊 第二大隊		1942	昭和	17	3	27	書類	今井は歩兵第141連隊長。	10	2
10	32	自昭和十七年四月十二日至昭和十七年五月二日 中部呂栄ヘノ転進及戴定作戦間ニ於ケル行動詳報 第六号	歩兵第四百一連隊 第二大隊		1942	昭和	17	4	12	書類	今井は歩兵第141連隊長。	10	2
10	33	自昭和十七年一月十日至昭和十七年一月二十一日 第一次バタアン攻略戦 カラギナン附近戦闘詳報	歩兵第四百一連隊 第三中隊		1942	昭和	17	1	10	書類	今井は歩兵第141連隊長。	10	2
10	34	陣中美談集	歩兵第四百一連隊		1942	昭和	17	7		書類	今井は歩兵第141連隊長。赤木（久雄大尉）の印あり。174頁。月は推定。本間軍司令官の賞詞。忠節之部、10人。武勇之部、4人。攻撃精神之部、19人。必勝之信念之部、2人。犠牲的精神之部、20人。責任観念之部、19人。戦友愛之部、7人。兵器尊重之部、3人。愛馬心之部、1人。其の他之部、3人。	10	2
10	35	歩兵第四百一連隊将校職員表	歩兵第四百一連隊		1942	昭和	17	8	1	名簿	1942年8月1日調。	10	2
10	36	歩兵第四百一連隊将校 職員表			1942	昭和	17	9	1	名簿	1942年9月1日調。	10	2
10	37	今井連隊長宛連絡	有木道博	今井連隊長	1942	昭和	17	1	10	書類	斥候の通信中隊有木少尉から今井連隊長宛の連絡。裏に地図あり。4-25「夏友会戦史」20頁参照。年代は推定。この後有木は第141連隊の戦死第1号となった。	10	2
10	38	密林地帯ニ於ケル行動			1942	昭和	17			書類	陸軍野紙に記載。年代は推定。	10	2
10	39	南方旅行記念 自昭和十八年四月十日 至同年五月十五日 期間三十日 鵬程二万 千	今井武夫		1943	昭和	18	4	10	書類	10箱-東3所収のファイル。日付は推定。	10	3

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備 考	参考 (箱)	参考 束
10	40	「青木亜相南方歴訪 今井少将等を帯同 きのふ東京発」			1943	昭和	18	4	17	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。随員は今井参事官、愛知揆一総務局経済課長、萩原徹政務課長、谷岡平八郎調査官・海軍少佐、渡辺修大臣秘書官の全5名。	10	3
10	41	「磯谷総督と会見 香港島を視察」			1943	昭和	18	4	17	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。日付は推定。磯谷廉介香港総督。	10	3
10	42	「広東の事情聴取」			1943	昭和	18	4	17	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。日付は推定。	10	3
10	43	「青木東亜相ドクー総督会談」			1943	昭和	18	4	20	新聞	掲載紙不明。記事切抜。日付は推定。	10	3
10	44	「仏印に大なる感動」			1943	昭和	18	4	20	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。日付は推定。	10	3
10	45	「仏印への認識深む」			1943	昭和	18	4	20	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。日付は推定。	10	3
10	46	「西貢で大使府首脳と懇談」			1943	昭和	18	4	25	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。日付は推定。	10	3
10	47	「青木大東亜相ドクー総督会談」			1943	昭和	18	4	20	新聞	掲載紙不明。記事切抜。日付は推定。	10	3
10	48	仏印ドクー総督訪問			1943	昭和	18	4	19	写真	青木大臣、ドクー総督、芳沢大使	10	3
10	49	仏印総督訪問			1943	昭和	18	4	19	写真	青木大臣、ドクー総督、芳沢大使	10	3
10	50	仏印総督官邸辞去			1943	昭和	18	4	19	写真	青木大臣、芳沢大使、萩原	10	3
10	51	仏印総督と懇談			1943	昭和	18	4	19	写真	青木大臣、ドクー総督、芳沢大使、今井を含む随員5名 全8名	10	3
10	52	仏印総督答訪			1943	昭和	18	4	19	写真	青木大臣、ドクー総督、芳沢大使、今井を含む随員5名 全8名	10	3
10	53	ショロン市視察			1943	昭和	18	4	21	写真		10	3
10	54	「泰国の協力に感銘 青木大東亜相盤谷着」			1943	昭和	18	4	22	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。日付は推定。	10	3
10	55	盤谷到着 ドンムアン飛行場			1943	昭和	18	4	22	写真		10	3
10	56	坪上大使出迎 ドンムアン飛行場			1943	昭和	18	4	22	写真	タイ駐在坪上貞二大使。	10	3
10	57	泰側代表出迎 ドンムアン飛行場			1943	昭和	18	4	22	写真	リヤム儀典局長。	10	3
10	58	日泰協会歓迎頸飾花輪を懸く ドンムアン飛行場			1943	昭和	18	4	22	写真	ヴィジット外相、中村明人司令官ほか。	10	3
10	59	ヴィジット外相出迎 ドンムアン飛行場			1943	昭和	18	4	22	写真		10	3
10	60	エメラルド仏陀参拝 ワットブラケオ			1943	昭和	18	4	22	写真		10	3
10	61	仏陀参拝 ワットブラケオ			1943	昭和	18	4	22	写真		10	3
10	62	仏陀礼拝を終わって退出 ワットブラケオ			1943	昭和	18	4	22	写真		10	3
10	63	仏陀礼拝大臣献燭 ワットブラケオ			1943	昭和	18	4	22	写真		10	3
10	64	エメラルド仏陀参拝 ワットブラケオ			1943	昭和	18	4	22	写真		10	3
10	65	泰首相訪問 総理官邸			1943	昭和	18	4	22	写真	首相、青木、今井、愛知、渡辺、西野。	10	3
10	66	ピブン首相訪問 総理官邸			1943	昭和	18	4	22	写真	首相、青木、今井、愛知、萩原、渡辺、坪上、西野。	10	3
10	67	総理官邸辞去			1943	昭和	18	4	22	写真		10	3
10	68	泰国外相公式訪問			1943	昭和	18	4	22	写真		10	3
10	69	泰国外相に挨拶			1943	昭和	18	4	22	写真		10	3
10	70	ワンワイ殿下訪問 バンコック私邸			1943	昭和	18	4	22	写真	王室記帳の折か。	10	3
10	71	戦勝記念塔参拝 バンコック			1943	昭和	18	4	22	写真		10	3

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
10	72	泰國首相歓迎宴			1943	昭和	18	4	23	写真	3-112 に招待状あり。	10	3
10	73	「青木大東亜相泰首相歓迎会へ」			1943	昭和	18	4	24	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。日付は推定。	10	3
10	74	「日泰血盟更に深む 青木大東亜相訪泰の収穫大」			1943	昭和	18	4	24	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。日付は推定。	10	3
10	75	「共同の運命再確認 青木・ビフィン会談 日泰共同声明発表」			1943	昭和	18	4	25	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。日付は推定。	10	3
10	76	記者団会見			1943	昭和	18	4	22	写真	於ペントムシン宿舍	10	3
10	77	ビルマ ラングーン パーモ長官と会談			1943	昭和	18	4	25	写真		10	3
10	78	「パーモ長官と会談 青木大東亜相ラングーンから昭南着」			1943	昭和	18	4	25	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。日付は推定。	10	3
10	79	ビルマ要人引見			1943	昭和	18	4	25	写真	於蘭貢貴賓宿舍「ビクトリア」湖畔。	10	3
10	80	ビルマ要人			1943	昭和	18	4	25	写真	於蘭貢貴賓宿舍。	10	3
10	81	青木大臣ビルマ行政府長官ドクターパーモと握手			1943	昭和	18	4	25	写真	於蘭貢貴賓宿舍。	10	3
10	82	青木大臣ビルマラングーン モンキーポイント砲台視察			1943	昭和	18	4	25	写真		10	3
10	83	昭南 寺内総司令官訪問			1943	昭和	18	4	26	写真	愛知、寺内、今井、青木。	10	3
10	84	「青木大東亜相昭南到着」			1943	昭和	18	4	26	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。日付は推定。	10	3
10	85	「青木大東亜相昭南発」			1943	昭和	18	4	28	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。	10	3
10	86	「寺内南方軍司令官と懇談する青木大東亜相」			1943	昭和	18	4	26	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。日付は推定。	10	3
10	87	「寺内南方軍司令官と懇談する青木大東亜相」			1943	昭和	18	4	26	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。日付は推定。	10	3
10	88	「青木大東亜相クチン視察」			1943	昭和	18	4	28	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。日付は推定。	10	3
10	89	昭南 陸軍病院慰問（第一陸軍病院）			1943	昭和	18	4	30	写真		10	3
10	90	大東亜大臣一行イバン舞踏観覧			1943	昭和	18	4	28	写真	19時30分。ボルネオ守備軍司令官山脇正隆中将と。左からイバン人二人、馬奈木、今井、谷岡、青木大臣、萩原、愛知、山脇中将、徳野。『支那事変の回想』に写真あり。	10	3
10	91	ボルネオのバリックパパン訪問 於マロス飛行場			1943	昭和	18	5	7	写真	9.00am。	10	3
10	92	比島マニラ 比島要人と懇談 マニラホテル			1943	昭和	18	5	11	写真		10	3
10	93	「青木大東亜相マニラ訪問」			1943	昭和	18	5	12	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。日付は推定。	10	3
10	94	「マニラ再び沸く 青木大東亜相を歓迎」			1943	昭和	18	5	12	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。日付は推定。5月5日に東条首相がマニラを訪問しているので、「再び沸く」と書いてあるのか。	10	3
10	95	「比島独立確信 青木大東亜相語る」			1943	昭和	18	5	12	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。日付は推定。	10	3
10	96	比島行政府長官招宴			1943	昭和	18	5	11	写真		10	3
10	97	「力強し建設の進捗 南方一巡 青木大東亜相帰る」			1943	昭和	18	5	15	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。	10	3
10	98	「青木大東亜相 けふ内地帰還」			1943	昭和	18	5	15	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。	10	3
10	99	「政策の的確推進期待 青木大東亜相 けさ帰京」			1943	昭和	18	5	15	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。	10	3

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
10	100	「大東亜相けふ帰京 南方視察の使命完了」			1943	昭和	18	5	15	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。	10	3
10	101	戦陣訓及び派遣軍将兵に告ぐに関する研究のまとめ	和田盛哉		1973	昭和	48	2	20	冊子	於防衛研究室戦史室。	10	4
10	102	和田盛哉書簡	和田盛哉	今井武夫	1973	昭和	48	4	12	書簡	書類送付と意見・教示に対する礼。10-101に挿入。	10	4
10	103	フィリピンの陥落 戦史資料第15号第1巻	陸上自衛隊幹部学校		1955	昭和	30	3		冊子	米国側資料の翻訳と思われる。386頁。	10	4
10	104	フィリピンの陥落 戦史資料第15号第2巻	陸上自衛隊幹部学校		1955	昭和	30	3		冊子	米国側資料の翻訳と思われる。今井部隊についての記載あり。445頁。	10	4
10	105	フィリピンの陥落 戦史資料第15号第3巻	陸上自衛隊幹部学校		1955	昭和	30	3		冊子	米国側資料の翻訳と思われる。247頁。	10	4
10	106	米国側資料の翻訳メモ	今井武夫		1955	昭和	30	3		メモ	米国側資料の翻訳と思われる。防衛研研究所の罫紙に書かれている。シャープ将軍の降伏決心について。10-105に挿入。年月は推定。	10	4
10	107	スクラップブック			1938	昭和	13			封筒	10箱-東5所収のスクラップブック。	10	5
10	108	「首相・世界に告ぐ 真の戦は今をはじめ 防共緊密世界秩序再建に邁進」	朝日新聞社		1938	昭和	13	11	4	新聞	朝日新聞。第2次近衛声明。新聞切抜。	10	5
10	109	「1月声明に反せず 新秩序の意義重大」	朝日新聞社		1938	昭和	13	11	4	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	10	5
10	110	「近衛首相、中外に声明 日支国交調整」	香港日報社		1938	昭和	13	12	23	新聞	香港日報 夕刊。第3次近衛声明。新聞切抜。	10	5
10	111	「近衛発表狂妄声明」			1938	昭和	13	12	23	新聞	工商日報。新聞切抜。	10	5
10	112	「汪将赴歐訊」			1938	昭和	13	12	22	新聞	工商日報。新聞切抜。	10	5
10	113	「汪副総裁 滬電證明確赴河内」			1938	昭和	13	12	23	新聞	大公晩報。新聞切抜。大公報は蒋介石系の中国中央機関紙である。	10	5
10	114	「社論 侵略者の哀鳴」			1938	昭和	13	12	24	新聞	珠江日報。新聞切抜。	10	5
10	115	「汪精衛的謎 和平空気が高一時」			1938	昭和	13	12	24	新聞	珠江日報。新聞切抜。	10	5
10	116	「汪精衛 飛河内医 宿疾」			1938	昭和	13	12	24	新聞	星島日報。星島日報は蒋介石系ではなく傍系新聞。新聞切抜。	10	5
10	117	「社評 論近衛対華新政策宣言」			1938	昭和	13	12	24	新聞	申報。申報は蒋介石系新聞。新聞切抜。	10	5
10	118	「社論 近衛宣言與和平謠言 金仲華」			1938	昭和	13	12	24	新聞	星島日報。新聞切抜。	10	5
10	119	「小評 汪精衛氏離滬赴越」			1938	昭和	13	12	24	新聞	申報。新聞切抜。	10	5
10	120	「汪精衛已離国抵達海防 近衛对中国求和之表示」			1938	昭和	13	12	25	新聞	工商日報。新聞切抜。	10	5
10	121	「星期專論 青年的主要責任 周佛海」			1938	昭和	13	12	25	新聞	南華日報。新聞切抜。主筆は汪派の林柏生。	10	5
10	122	「伝汪精衛已抵本港」			1938	昭和	13	12	25	新聞	星島晩報。新聞切抜。	10	5
10	123	「汪精衛並到港」			1938	昭和	13	12	25	新聞	華字晩報。新聞切抜。	10	5
10	124	「欣然同憂具眼の士を歓迎 中支派遣軍当局重大声明」			1938	昭和	13	12	24	新聞	香港日報。新聞切抜。	10	5
10	125	「從重慶到河内」			1938	昭和	13	12	26	新聞	星島日報。新聞切抜。	10	5
10	126	金仲華「社論 最近中樞之政治動態」			1938	昭和	13	12	26	新聞	星島日報。新聞切抜。	10	5
10	127	「陳公博因病請暇」			1938	昭和	13	12	26	新聞	華字晩報。新聞切抜。	10	5
10	128	「周佛海日內可到港」			1938	昭和	13	12	26	新聞	大公晩報。新聞切抜。	10	5

今井武夫關係文書（寄託）目錄附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
10	129	「近衛の 鏡湖」			1938	昭和	13	12	26	新聞	星島晚報。新聞切抜。	10	5
10	130	「周佛海将来港」			1938	昭和	13	12	26	新聞	華字晚報。新聞切抜。	10	5
10	131	「汪精衛来港説不確」			1938	昭和	13	12	26	新聞	星島日報。新聞切抜。	10	5
10	132	「小子何足道哉！」			1938	昭和	13	12	26	新聞	星島日報。新聞切抜。	10	5
10	133	「汪精衛並未抵港」			1938	昭和	13	12	27	新聞	申報。新聞切抜。	10	5
10	134	「当局派王外長勸汪返渝養病否則留越 静養」			1938	昭和	13	12	27	新聞	申報。新聞切抜。	10	5
10	135	「小評 掃蕩 和平 空気」			1938	昭和	13	12	27	新聞	申報。新聞切抜。	10	5
10	136	「短評 汪精衛応返渝養病」			1938	昭和	13	12	27	新聞	華字晚報。新聞切抜。	10	5
10	137	「王外長勸汪返渝養病」			1938	昭和	13	12	27	新聞	南中報。新聞切抜。	10	5
10	138	「詩 ××雜詠 汪有出国訊」			1938	昭和	13	12	27	新聞	南中報。新聞切抜。	10	5
10	139	「張君邁著論 攻毛沢東」			1938	昭和	13	12	27	新聞	華字晚報。新聞切抜。	10	5
10	140	「陳公博亦抵河内」			1938	昭和	13	12	27	新聞	華字晚報。新聞切抜。	10	5
10	141	「日本日暮途窮」			1938	昭和	13	12	27	新聞	大公晚報。新聞切抜。	10	5
10	142	「汪到河内消息種々」			1938	昭和	13	12	28	新聞	探海灯日報。新聞切抜。	10	5
10	143	「蔣委員長在紀念週中重要訓話 汪愛党 国必貫徹抗戰目的」			1938	昭和	13	12	28	新聞	香港工商日報。新聞切抜。	10	5
10	144	「汪精衛来港説 曾仲鳴氏偕行」			1938	昭和	13	12	28	新聞	申報。新聞切抜。	10	5
10	145	「杜月笙等一行飛滇籌弁実業」			1938	昭和	13	12	28	新聞	申報。新聞切抜。	10	5
10	146	「土肥原抵港？」			1938	昭和	13	12	28	新聞	申報。新聞切抜。	10	5
10	147	「致毛沢東先生一封公開信 張君勵」			1938	昭和	13	12	28	新聞	申報。新聞切抜。	10	5
10	148	「小評 日本对華南新陰謀」			1938	昭和	13	12	28	新聞	申報。新聞切抜。	10	5
10	149	「張君勵先生的 規勸」			1938	昭和	13	12	28	新聞	申報。新聞切抜。	10	5
10	150	「張君勵與共産党」			1938	昭和	13	12	28	新聞	探海灯日報。新聞切抜。	10	5
10	151	馮列山「社論 汪精衛先生與抗戰」			1938	昭和	13	12	28	新聞	星島日報。新聞切抜。	10	5
10	152	「時評 希望汪先生為国自重」			1938	昭和	13	12	28	新聞	大公晚報。新聞切抜。	10	5
10	153	顧孟餘「辭職不確」			1938	昭和	13	12	28	新聞	香港朝報。新聞切抜。	10	5
10	154	「土肥原忽抵港之謠」			1938	昭和	13	12	28	新聞	華字晚報。新聞切抜。	10	5
10	155	「社論 抗戰国策沒有變更」			1938	昭和	13	12	28	新聞	大衆日報。新聞切抜。	10	5
10	156	「土肥原南来」			1938	昭和	13	12	28	新聞	華字晚報。新聞切抜。	10	5
10	157	「時評 關於汪副總裁離渝的話」			1938	昭和	13	12	28	新聞	香港朝報。新聞切抜。	10	5
10	158	「伝汪去意堅決」			1938	昭和	13	12	28	新聞	星報。星報は蔣介石系ではなく傍系新聞。新聞切抜。	10	5
10	159	「延安民衆召開 擁護蔣委員長大会」			1938	昭和	13	12	28	新聞	星報。新聞切抜。	10	5
10	160	「蔣委員長紀念週訓話原文 詳細駁斥近 衛之声明」			1938	昭和	13	12	29	新聞	大公報。新聞切抜。	10	5
10	161	「社評 論汪精衛先生離渝」			1938	昭和	13	12	29	新聞	申報。新聞切抜。	10	5
10	162	「社論 汪精衛先生病」			1938	昭和	13	12	29	新聞	華僑日報。新聞切抜。	10	5

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
10	163	「渝各界昨蔣百里先生最高当局親臨主祭」			1938	昭和	13	12	29	新聞	大公報。新聞切抜。	10	5
10	164	「譏汪精衛 今後汪氏行動不必加以注意」			1938	昭和	13	12	29	新聞	華僑日報。新聞切抜。	10	5
10	165	「讓汪養病 微言」			1938	昭和	13	12	29	新聞	探海灯日報。新聞切抜。	10	5
10	166	流沙「社論 三民主義與共產主義」			1938	昭和	13	12	29	新聞	南華日報。新聞切抜。「南華日報」の主筆林柏生は汪兆銘擁護の論陣を張った。	10	5
10	167	「駐港汪系要人 否認汪氏抵港 汪将有意見発表」			1938	昭和	13	12	29	新聞	華字晚報新聞切抜。	10	5
10	168	「重慶捜査捕反動份子」			1938	昭和	13	12	29	新聞	星報。新聞切抜。	10	5
10	169	「汪副總裁 将有重要談話発表」			1938	昭和	13	12	29	新聞	循環晚報。新聞切抜。	10	5
10	170	「汪精衛離渝後 抗戰前途反更抱樂觀」			1938	昭和	13	12	29	新聞	南中報。新聞切抜。	10	5
10	171	「汪活動伝説多 今井啣命南来」			1938	昭和	13	12	29	新聞	星報。新聞切抜。	10	5
10	172	「社論 土肥原的活動」			1938	昭和	13	12	29	新聞	星報。新聞切抜。	10	5
10	173	「蔣委員長紀念週訓話原文（続） 詳細駁斥近衛之声明」			1938	昭和	13	12	30	新聞	大公報。新聞切抜。	10	5
10	174	「陳公博 昨由河内飛抵港」			1938	昭和	13	12	30	新聞	星島日報。新聞切抜。	10	5
10	175	「新華日報論 汪精衛出国」			1938	昭和	13	12	30	新聞	星島日報。新聞切抜。	10	5
10	176	「陳医生夫婦 来港会汪精衛病」			1938	昭和	13	12	30	新聞	中国晚報。新聞切抜。	10	5
10	177	「真相将明 汪精衛先生病」			1938	昭和	13	12	30	新聞	香港工商日報。新聞切抜。	10	5
10	178	「汪精衛某信談 汪氏或将有宣言発表」			1938	昭和	13	12	30	新聞	循環晚報。新聞切抜。	10	5
10	179	「社論 中国政府内部実無主和派」			1938	昭和	13	12	30	新聞	香港工商日報。新聞切抜。	10	5
10	180	「社評 汪精衛先生病」			1938	昭和	13	12	30	新聞	大公報。新聞切抜。	10	5
10	181	「時評 蔣委員長の訓詞」			1938	昭和	13	12	30	新聞	星島晚報。新聞切抜。	10	5
10	182	「汪副總裁 将有文字発表」			1938	昭和	13	12	30	新聞	大公報。新聞切抜。艶電鋸。『支那事変の回想』90頁から91頁に日本語の訳文記載あり。艶とは29を指す。	10	5
10	183	「短評 汪離渝後之謠言」			1938	昭和	13	12	30	新聞	華字晚報。新聞切抜。	10	5
10	184	「軍事外交日益好転 委座表字前途樂觀」			1938	昭和	13	12	14	新聞	星島日報。新聞切抜。	10	5
10	185	「周部長在演講演 抗戰前後之形勢」			1938	昭和	13	12	14	新聞	星島日報。新聞切抜。	10	5
10	186	「時評 警告汪精衛！」			1938	昭和	13	12	30	新聞	香港工商晚報。新聞切抜。	10	5
10	187	「汪精衛與近衛の主張一様」			1938	昭和	13	12	31	新聞	自然日報。新聞切抜。	10	5
10	188	「汪精衛竟主講和」			1938	昭和	13	12	31	新聞	大公報。新聞切抜。	10	5
10	189	汪精衛に対する風刺漫画			1938	昭和	13	12	31	新聞	浩然報。新聞切抜。	10	5
10	190	「汪精衛対時局宣言 今明即可發出」			1938	昭和	13	12	30	新聞	華字晚報。新聞切抜。	10	5
10	191	「蔣委員長紀念週訓話原文（続） 詳細駁斥近衛之声明」			1938	昭和	13	12	31	新聞	大公報。新聞切抜。	10	5
10	192	「去国後之汪精衛 向中央建議対日言和」			1938	昭和	13	12	31	新聞	華僑日報。新聞切抜。	10	5
10	193	石泉「社論 汪先生之重要建議」			1938	昭和	13	12	31	新聞	南華日報。新聞切抜。「南華日報」の主筆林柏生は汪兆銘擁護の論陣を張った。	10	5

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
10	194	金仲華「社論 汪精衛の真面目」			1938	昭和	13	12	31	新聞	星島日報。新聞切抜。	10	5
10	195	星報 昭和13年12月29日号			1938	昭和	13	12	29	新聞	10-171, 172が記載されたもの。	10	5
10	196	スクラップブック			1938	昭和	13			封筒	10箱-東6所収のスクラップブック。	10	6
10	197	「汪精衛之真面目 竟公然主張言和！」			1938	昭和	13	12	31	新聞	星島日報。新聞切抜。	10	6
10	198	「社論 読汪精衛建議感言」			1938	昭和	13	12	31	新聞	天演日報。新聞切抜。	10	6
10	199	「汪精衛公然主張與日謀和 竟中×人謀我之計」			1938	昭和	13	12	31	新聞	循環日報。新聞切抜。	10	6
10	200	「社論 汪精衛竟響応近衛声明」			1938	昭和	13	12	31	新聞	工商日報。新聞切抜。	10	6
10	201	「時評 汪精衛竟有這樣建議！」			1938	昭和	13	12	31	新聞	星島晨報。新聞切抜。	10	6
10	202	「汪精衛公然主和 微言」			1938	昭和	13	12	31	新聞	探海灯日報。新聞切抜。	10	6
10	203	「時局急劇変化 汪在華南組府 伝何応欽已被免職」			1938	昭和	13	12	31	新聞	華字晩報。新聞切抜。	10	6
10	204	「時評 汪精衛竟主張議和」			1938	昭和	13	12	31	新聞	星島晩報。新聞切抜。	10	6
10	205	「拳国堅決抗戦中 汪精衛竟自掘墳墓胆中途言和」			1938	昭和	13	12	31	新聞	星島晩報。新聞切抜。	10	6
10	206	「時評 王先生竟主張対日妥協 公言」			1938	昭和	13	12	31	新聞	循環晩報。新聞切抜。	10	6
10	207	「汪精衛離渝出国真相大白 原来欲與×人言和」			1938	昭和	13	12	31	新聞	南中報晩報。新聞切抜。	10	6
10	208	「美洲華僑老国民党員楊昔川 擁護汪副総裁建議」			1939	昭和	14	1	1	新聞	南華日報。新聞切抜。主筆は汪派の林柏生。	10	6
10	209	「社論 二十八年的新局勢」			1939	昭和	14	1	1	新聞	南華日報。新聞切抜。主筆は汪派の林柏生。	10	6
10	210	「汪兆銘公然主和 輿論一致申斥」			1939	昭和	14	1	1	新聞	申報。新聞切抜。	10	6
10	211	「汪兆銘通電主和 確與×方有勾決」			1939	昭和	14	1	1	新聞	立報。新聞切抜。	10	6
10	212	撃「評論 汪精衛的陰險面目」			1939	昭和	14	1	1	新聞	実報。新聞切抜。	10	6
10	213	「社論 内地居住営業自由権 汪精衛主和論中之一点」			1939	昭和	14	1	1	新聞	華僑日報。新聞切抜。	10	6
10	214	蔡若虹作「一年来抗戦画史」			1939	昭和	14	1	1	新聞	星島日報。新聞切抜。	10	6
10	215	「一年来画史」			1939	昭和	14	1	1	新聞	大公報。新聞切抜。	10	6
10	216	「敵若一人」			1939	昭和	14	1	1	新聞	立報。新聞切抜。	10	6
10	217	「去旧更新」			1939	昭和	14	1	1	新聞	星島日報。新聞切抜。	10	6
10	218	「汪精衛永遠開除党籍 中央執監連席会議昨議決」			1939	昭和	14	1	2	新聞	大公報。新聞切抜。	10	6
10	219	「汪精衛艶電発表後時局突起騒動」			1939	昭和	14	1	2	新聞	華字晩報。新聞切抜。	10	6
10	220	「今日評論 咄咄汪精衛叛国之大陰謀」			1939	昭和	14	1	2	新聞	中国晩報。新聞切抜。	10	6
10	221	「時評 汪精衛開除党籍」			1939	昭和	14	1	2	新聞	大公報。新聞切抜。	10	6
10	222	「時評 關於汪精衛」			1939	昭和	14	1	2	新聞	星島晩報。新聞切抜。	10	6
10	223	「汪氏叛変詳細經過川滇領袖神明大義」			1939	昭和	14	1	2	新聞	中国晩報。中国日報は蒋介石系ではなく傍系新聞。新聞切抜。	10	6
10	224	「短評 焦土抗戦與対日妥協」			1939	昭和	14	1	2	新聞	華字晩報。新聞切抜。	10	6

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
10	225	「各方一致対汪××」			1939	昭和	14	1	2	新聞	南中報。新聞切抜。	10	6
10	226	「中執常委会決議 褫汪党籍及撤除職務」	華字日報有限公司		1939	昭和	14	1	3	新聞	華星早報。新聞切抜。『支那事變の回想』に写真あり。	10	6
10	227	流沙「社論 我們的鄭重抗議」			1939	昭和	14	1	3	新聞	南華日報。新聞切抜。主筆は汪派の林柏生。	10	6
10	228	「社論 汪精衛行動絶不影響大局」			1939	昭和	14	1	3	新聞	華僑日報。新聞切抜。	10	6
10	229	「短兵」			1939	昭和	14	1	3	新聞	華僑日報。新聞切抜。	10	6
10	230	「短評 中央革除汪党籍」			1939	昭和	14	1	3	新聞	華字晚報。新聞切抜。	10	6
10	231	「伝土肥原抵港 促汪出任偽職」			1939	昭和	14	1	3	新聞	中国晚報。新聞切抜。	10	6
10	232	篤公「汪精衛主和通電之批判」			1939	昭和	14	1	3	新聞	循環日報。新聞切抜。	10	6
10	233	華「社論 失敗主義者の末路」			1939	昭和	14	1	3	新聞	星島日報。新聞切抜。	10	6
10	234	「社論 華南将領一致斥連電日內発表」			1939	昭和	14	1	3	新聞	華字晚報。新聞切抜。	10	6
10	235	「余漢謀 擁護抗戰」			1939	昭和	14	1	3	新聞	星島晚報。新聞切抜。	10	6
10	236	「汪精衛受各方猛烈反対後 已由某地返抵河内」			1939	昭和	14	1	3	新聞	循環晚報。新聞切抜。『支那事變の回想』に写真記載あり。	10	6
10	237	「時評 中国自有史以来的第一個大奸佞」			1939	昭和	14	1	3	新聞	工商晚報。新聞切抜。	10	6
10	238	愈堅「時評 汪永遠开除党籍」			1939	昭和	14	1	3	新聞	循環晚報。新聞切抜。	10	6
10	239	「時評 汪精衛の下場」			1939	昭和	14	1	3	新聞	星島晚報。新聞切抜。	10	6
10	240	「小評 懲汪声中应注意三点」			1939	昭和	14	1	3	新聞	申報。新聞切抜。	10	6
10	241	「斥汪兆銘」			1939	昭和	14	1	3	新聞	申報。新聞切抜。	10	6
10	242	流沙「社論 和與戰」			1939	昭和	14	1	4	新聞	南華日報。新聞切抜。	10	6
10	243	「五中全会能否依期？」			1939	昭和	14	1	4	新聞	南華日報。新聞切抜。	10	6
10	244	「社論 哀汪兆銘」			1939	昭和	14	1	4	新聞	華僑日報。新聞切抜。	10	6
10	245	「新聞記者公会発表厳正宣言」			1939	昭和	14	1	4	新聞	華僑日報。新聞切抜。	10	6
10	246	君浩「和戰問題與民族氣節」			1939	昭和	14	1	4	新聞	循環日報。新聞切抜。	10	6
10	247	慎公「社論 汪兆銘往何處去」			1939	昭和	14	1	4	新聞	華字晚報。新聞切抜。	10	6
10	248	「社論 為中央除汪党籍事進一言」			1939	昭和	14	1	4	新聞	天演日報。新聞切抜。	10	6
10	249	「畢竟渺小！」			1939	昭和	14	1	4	新聞	星島日報。新聞切抜。	10	6
10	250	「汪兆銘將做偽總統」			1939	昭和	14	1	4	新聞	立報。新聞切抜。	10	6
10	251	「時評 嚴汪兆銘」			1939	昭和	14	1	4	新聞	循環晚報。新聞切抜。	10	6
10	252	「左傾份子將繼任副總裁 国民党增強国共合作」			1939	昭和	14	1	4	新聞	工商晚報。新聞切抜。	10	6
10	253	「各方面最後勸汪促赴歐養病待罪」			1939	昭和	14	1	5	新聞	申報。新聞切抜。	10	6
10	254	「今日評論 提防汪精衛的陰謀」			1939	昭和	14	1	4	新聞	中国晚報。新聞切抜。	10	6
10	255	少飛「東京也有傀儡戲」			1939	昭和	14	1	5	新聞	星島日報。新聞切抜。	10	6
10	256	「雲南省主席龍雲電 致電国府効忠」			1939	昭和	14	1	4	新聞	中国晚報。新聞切抜。	10	6
10	257	「汪兆銘逃亡後 中枢要員將有更動」			1939	昭和	14	1	5	新聞	華僑日報。新聞切抜。	10	6

今井武夫關係文書（寄託）目錄附錄1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
10	258	「汪兆銘叛国志決 王寵惠勸駕竟拒接見」			1939	昭和	14	1	5	新聞	華僑日報。新聞切抜。	10	6
10	259	「毎日展望」			1939	昭和	14	1	5	新聞	星島日報。新聞切抜。	10	6
10	260	「白崇禧談西南軍事」			1939	昭和	14	1	5	新聞	天演日報。新聞切抜。	10	6
10	261	「汪逆叛国個人行動 对我外交豪無影響」			1939	昭和	14	1	4	新聞	星島晚報。新聞切抜。	10	6
10	262	「社論 馮玉祥談汪精衛叛国」			1939	昭和	14	1	5	新聞	華僑日報。新聞切抜。	10	6
10	263	石泉「社論 我們的立場」			1939	昭和	14	1	5	新聞	南華日報。新聞切抜。主筆は汪派の林柏生。	10	6
10	264	郭耀城「来件 对和平問題的意見」			1939	昭和	14	1	5	新聞	南華日報。新聞切抜。主筆は汪派の林柏生。	10	6
10	265	「短評 近衛去後之汪精衛」			1939	昭和	14	1	5	新聞	華字晚報。新聞切抜。	10	6
10	266	流沙「毎日座談 見首不見尾」			1939	昭和	14	1	5	新聞	中国晚報。新聞切抜。	10	6
10	267	「孫科繼任副總裁 伝陳友仁将出長外交」			1939	昭和	14	1	5	新聞	南中報。新聞切抜。孫科は孫文の子。	10	6
10	268	「時評 日本の新内閣」			1939	昭和	14	1	5	新聞	大公晚報。新聞切抜。	10	6
10	269	「×国内閣改造」			1939	昭和	14	1	5	新聞	循環晚報。新聞切抜。	10	6
10	270	「日本政変及其動向的剖述」			1939	昭和	14	1	5	新聞	申報。新聞切抜。	10	6
10	271	「近衛場台耶」			1939	昭和	14	1	5	新聞	工商日報。新聞切抜。	10	6
10	272	スクラップブック			1939	昭和	14	1	5	封筒	10箱-東7所収のスクラップブック。	10	7
10	273	「社論 日本内閣の更迭」			1939	昭和	14	1	5	新聞	大公報。新聞切抜。	10	7
10	274	「社論 近衛内閣の顛覆」			1939	昭和	14	1	5	新聞	星島日報。新聞切抜。	10	7
10	275	卓爾「来論 汪副総裁発表和平建議後本港言論之分析」			1939	昭和	14	1	6	新聞	香港日報。新聞切抜。	10	7
10	276	「社論 近衛場台的分析」			1939	昭和	14	1	6	新聞	華僑日報。新聞切抜。	10	7
10	277	子達「社論 評中宣部之声明」			1939	昭和	14	1	6	新聞	南華日報。新聞切抜。主筆は汪派の林柏生。	10	7
10	278	「社論 平沼真個要上場嗎」			1939	昭和	14	1	6	新聞	工商日報。新聞切抜。	10	7
10	279	君浩「日本内閣之更迭」			1939	昭和	14	1	6	新聞	循環日報。新聞切抜。	10	7
10	280	「社論 対日本新内閣の認識」			1939	昭和	14	1	6	新聞	珠江日報。新聞切抜。	10	7
10	281	「毎日展望」			1939	昭和	14	1	6	新聞	星島日報。新聞切抜。	10	7
10	282	「汪兆銘在港」			1939	昭和	14	1	6	新聞	申報。新聞切抜。	10	7
10	283	「擁汪兆銘」			1939	昭和	14	1	6	新聞	華僑日報。新聞切抜。	10	7
10	284	「汪兆銘 即将発表声明」			1939	昭和	14	1	6	新聞	申報。新聞切抜。	10	7
10	285	「時評 日本平沼内閣成立」			1939	昭和	14	1	6	新聞	大公晚報。新聞切抜。	10	7
10	286	「汪逆精衛背叛党国後 仍居河内状局極懊喪」			1939	昭和	14	1	6	新聞	星島晚報。新聞切抜。	10	7
10	287	「郭顧兩大使關謠」			1939	昭和	14	1	6	新聞	大公晚報。新聞切抜。	10	7
10	288	「時評 我們已見到第一步勝利的曙光了！」			1939	昭和	14	1	6	新聞	工商晚報。新聞切抜。	10	7
10	289	「時評 日本之法西斯波新聞」			1939	昭和	14	1	6	新聞	循環日報。新聞切抜。	10	7

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
10	290	「短兵」			1939	昭和	14	1	7	新聞	華僑日報。新聞切抜。	10	7
10	291	「短評 ×人之謠」			1939	昭和	14	1	6	新聞	華字晚報。新聞切抜。	10	7
10	292	「近衛場台 陳明」			1939	昭和	14	1	6	新聞	星島晚報。新聞切抜。	10	7
10	293	「社論 近衛與精衛」			1939	昭和	14	1	7	新聞	工商日報。新聞切抜。	10	7
10	294	流沙「社論 從近衛内閣到平沼内閣」			1939	昭和	14	1	7	新聞	南華日報。新聞切抜。主筆は汪派の林柏生。	10	7
10	295	「社論 可笑的×人造謠」			1939	昭和	14	1	7	新聞	華僑日報。新聞切抜。	10	7
10	296	「粵籍中委 連電請嚴処汪精衛」			1939	昭和	14	1	7	新聞	華僑日報。新聞切抜。	10	7
10	297	「滬伝汪逆精衛 企圖組織新党」			1939	昭和	14	1	7	新聞	星島晚報。新聞切抜。	10	7
10	298	「時評 防止失敗主義者の造謠」			1939	昭和	14	1	7	新聞	星島晚報。新聞切抜。	10	7
10	299	「今日評論」			1939	昭和	14	1	7	新聞	中国晚報。新聞切抜。	10	7
10	300	愈堅「時評 張余電請国府下令緝汪」			1939	昭和	14	1	7	新聞	循環晚報。新聞切抜。	10	7
10	301	「時評 大局形勢遠勝去年」			1939	昭和	14	1	7	新聞	大公晚報。新聞切抜。	10	7
10	302	「靖国丸船客」			1939	昭和	14	1	7	新聞	香港日報。新聞切抜。	10	7
10	303	「蔣委員長談話 軍事外交形勢優勝」			1939	昭和	14	1	7	新聞	大公晚報。新聞切抜。	10	7
10	304	「粵籍中委対汪 表示憤懣」			1939	昭和	14	1	7	新聞	華字晚報。新聞切抜。	10	7
10	305	「全国将士 電請制裁汪逆」			1939	昭和	14	1	8	新聞	申報。新聞切抜。	10	7
10	306	「公開討論和戦問題」			1939	昭和	14	1	8	新聞	南華日報。新聞切抜。主筆は汪派の林柏生。	10	7
10	307	郵民「社論 老实话從今已矣」			1939	昭和	14	1	8	新聞	南華日報。新聞切抜。主筆は汪派の林柏生。	10	7
10	308	「全国将領電呈委座 請制裁汪逆」			1939	昭和	14	1	8	新聞	珠江日報。新聞切抜。	10	7
10	309	「全国各将領 聆朕電中央 請制裁汪精衛」			1939	昭和	14	1	8	新聞	工商日報。新聞切抜。	10	7
10	310	「汪逆開除党籍前後」			1939	昭和	14	1	8	新聞	星島日報。新聞切抜。	10	7
10	311	風刺漫画			1939	昭和	14	1	8	新聞	珠江日報。新聞切抜。	10	7
10	312	朱家驊「共党指摘」			1939	昭和	14	1	8	新聞	南華日報。新聞切抜。主筆は汪派の林柏生。	10	7
10	313	「汪出走後 我更団結」			1939	昭和	14	1	8	新聞	星島日報。新聞切抜。	10	7
10	314	「毎日展望」			1939	昭和	14	1	8	新聞	星島日報。新聞切抜。	10	7
10	315	「遍地荆棘」			1939	昭和	14	1	8	新聞	星島日報。新聞切抜。	10	7
10	316	「小評 叛国份子の活動」			1939	昭和	14	1	8	新聞	申報。新聞切抜。	10	7
10	317	「跳火坑」			1939	昭和	14	1	8	新聞	珠江日報。新聞切抜。	10	7
10	318	「時評 ×極力羅掘戦費」			1939	昭和	14	1	8	新聞	工商晚報。新聞切抜。	10	7
10	319	「Japanese Terms for Ending War」			1938	昭和	13	12	23	新聞	Hong Kong Daily Press。新聞切抜。	10	7
10	320	「Policy Outlined Japanese demands on China made known by Japanese Premier」			1938	昭和	13	12	24	新聞	South China Morning Post。新聞切抜。	10	7

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
10	321	「Full Text of Konoye Offer Demands on China Uncompromisingly Rejected by Chinese Leader」			1938	昭和	13	12	25	新聞	Hong Kong Sunday Herald. 新聞切抜。	10	7
10	322	「Resignation of Konoye is Expected Before Week Ends」			1939	昭和	14	1	4	新聞	Hong Kong Daily Press. 新聞切抜。	10	7
10	323	「Attempt at Political Dismemberment of China」			1938	昭和	13	12	27	新聞	Hong Kong Daily Press. 新聞切抜。	10	7
10	324	「Doubt Cast on Authenticity of Wang Ching-wei Plea」			1939	昭和	14	1	1	新聞	Hong Kong Sunday Herald. 新聞切抜。	10	7
10	325	「Wang in Hong Kong」			1939	昭和	14	1	5	新聞	South China Morning Post. 新聞切抜。	10	7
10	326	「Japanese Cabinet Baron Hiranuma New Prime Minister」			1939	昭和	14	1	6	新聞	South China Morning Post. 新聞切抜。	10	7
10	327	「陳誠薛岳各將領 電請制裁汪兆銘」			1939	昭和	14	1	8	新聞	中国晚報. 新聞切抜。	10	7
10	328	「局部更動」			1939	昭和	14	1	8	新聞	星島晚報. 新聞切抜。	10	7
10	329	「時評 滇緬公路與抗戰」			1939	昭和	14	1	8	新聞	星島晚報. 新聞切抜。	10	7
10	330	「英府決以實力助我 英輪多艘載軍品抵步」			1939	昭和	14	1	8	新聞	南中報. 新聞切抜。	10	7
10	331	「五中前会 定廿日開幕」			1939	昭和	14	1	8	新聞	工商晚報. 新聞切抜。	10	7
10	332	「全国將領電請中央 通緝汪逆」			1939	昭和	14	1	8	新聞	南中報. 新聞切抜。	10	7
10	333	「潮汕人民 声討汪逆精衛」			1939	昭和	14	1	8	新聞	南中報. 新聞切抜。	10	7
10	334	「×参謀部侵華 陷入長期戰爭」			1939	昭和	14	1	8	新聞	工商晚報. 新聞切抜。	10	7
10	335	「言之醜也 汪精衛云会致書中常会」			1939	昭和	14	1	9	新聞	循環日報. 新聞切抜。	10	7
10	336	「Wang Ching-wei Issues Another Statement」			1939	昭和	14	1	9	新聞	Hong Kong Daily Press. 新聞切抜。	10	7
10	337	「全国一致討汪」			1939	昭和	14	1	9	新聞	工商日報. 新聞切抜。	10	7
10	338	「李白通電 声討汪精衛」			1939	昭和	14	1	9	新聞	工商日報. 新聞切抜。	10	7
10	339	「自由論談 指正中宣部政治部對於汪先生各点 華僑譚泳洲」			1939	昭和	14	1	9	新聞	南華日報. 新聞切抜。主筆は汪派の林柏生。	10	7
10	340	少飛「衆矢之的」			1939	昭和	14	1	9	新聞	星島日報. 新聞切抜。	10	7
10	341	石泉「社論 我們的態度」			1939	昭和	14	1	9	新聞	南華日報. 新聞切抜。主筆は汪派の林柏生。	10	7
10	342	「社論 日本要來一回百年戰」			1939	昭和	14	1	9	新聞	工商日報. 新聞切抜。	10	7
10	343	「重慶掃蕩論 汪兆銘永遠開除黨籍」			1939	昭和	14	1	9	新聞	星島日報. 新聞切抜。	10	7
10	344	「上海輿論界声討汪精衛（続完）」			1939	昭和	14	1	9	新聞	星島日報. 新聞切抜。	10	7
10	345	「李宗仁 白崇禧 電請中央通緝汪逆」			1939	昭和	14	1	9	新聞	星島日報. 新聞切抜。	10	7
10	346	「經濟部擬復興 遷川重工業」			1939	昭和	14	1	9	新聞	申報. 新聞切抜。	10	7
10	347	「陳友仁否認 出長外部」			1939	昭和	14	1	9	新聞	申報. 新聞切抜。	10	7
10	348	「Wang Ching-wei」			1939	昭和	14	1	9	新聞	South China Morning Post. 新聞切抜。	10	7
10	349	「Letters Wang Ching-wei」			1939	昭和	14	1	9	新聞	The Hong Kong Telegraph. 新聞切抜。	10	7
10	350	長沙「華中新×會 山田謀短期內犯」			1939	昭和	14	1	9	新聞	工商晚報. 新聞切抜。	10	7

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
10	351	「時評 ×人已踏入百年戦争之門」			1939	昭和	14	1	9	新聞	工商晩報。新聞切抜。	10	7
10	352	「時評 日本対華百年戦争」			1939	昭和	14	1	9	新聞	星島晩報。新聞切抜。	10	7
10	353	「重慶挙行軍政要会 討論整理川軍開 発西南」			1939	昭和	14	1	10	新聞	工商日報。新聞切抜。	10	7
10	354	心危「社論 無畏與怯懦」			1939	昭和	14	1	10	新聞	南華日報。新聞切抜。主筆は汪派の林柏生。	10	7
10	355	「汪先生離渝前 会晤蔣力陳和戦利害」			1939	昭和	14	1	10	新聞	南華日報。新聞切抜。主筆は汪派の林柏生。	10	7
10	356	「論説 汪兆銘毋再嘯」			1939	昭和	14	1	10	新聞	循環日報。新聞切抜。	10	7
10	357	「特写 汪叛国訊伝至粵南後」			1939	昭和	14	1	10	新聞	華僑日報。新聞切抜。	10	7
10	358	「汪兆銘致中常委函」			1939	昭和	14	1	10	新聞	天演日報。新聞切抜。	10	7
10	359	「五中全会後 中央人事有更動」			1939	昭和	14	1	10	新聞	申報。新聞切抜。	10	7
10	360	「持久抗戦」			1939	昭和	14	1	10	新聞	珠江日報。新聞切抜。	10	7
10	361	少飛「大挙反攻の歩伐声」			1939	昭和	14	1	10	新聞	星島日報。新聞切抜。	10	7
10	362	「伝汪兆銘在河内 與×代表会見」			1939	昭和	14	1	10	新聞	申報。新聞切抜。	10	7
10	363	「社論 政局澄清以後」			1939	昭和	14	1	10	新聞	星島日報。新聞切抜。	10	7
10	364	「社論 ×経済困局必難打開」			1939	昭和	14	1	10	新聞	工商日報。新聞切抜。	10	7
10	365	「麥與兵隊 值得説嗎」			1939	昭和	14	1	10	新聞	申報。新聞切抜。	10	7
10	366	「汪の処置に苦悩 中央、暫く形勢を 観望」	大陸新報社		1939	昭和	14	1	9	新聞	上海 大陸新報。新聞切抜。大陸新報はこの年1月1日に創刊されたばかりの新聞。	10	7
10	367	「社論 五中全会定期開会」			1939	昭和	14	1	10	新聞	珠江日報。新聞切抜。	10	7
10	368	「Wang Chin-wei, Strong Opposition by Puppet in Nanking」			1939	昭和	14	1	10	新聞	South China Morning Post。新聞切抜。	10	7
10	369	「時評 領袖與群衆」			1939	昭和	14	1	10	新聞	循環日報。新聞切抜。	10	7
10	370	「蔣委員長指示四大国策」			1939	昭和	14	1	10	新聞	南中報。新聞切抜。	10	7
10	371	「社評 汪兆銘叛国的国際背景」			1939	昭和	14	1	13	新聞	上海華美晨報。新聞切抜。	10	7
10	372	「汪精衛叛国難道是偶然的嗎？」			1939	昭和	14	1	13	新聞	上海華美晨報。新聞切抜。	10	7
10	373	「汪兆銘叛国前後 重慶見聞雑記 (上)」			1939	昭和	14	1	13	新聞	上海導報。新聞切抜。	10	7
10	374	「蔣政權を反撃す 反蔣に終始した巨 頭汪精衛」	大陸新報社		1939	昭和	14	1	14	新聞	上海大陸新報。新聞切抜。	10	7
10	375	「龍雲 中央に反撥」	大陸新報社		1939	昭和	14	1	13	新聞	上海大陸新報。新聞切抜。	10	7
10	376	「軍政の単一化 陳誠 共産派の擒に」	東京日日新聞社		1939	昭和	14	1	15	新聞	東京日日新聞。新聞切抜。	10	7
10	377	「軍隊民衆全く背反 重慶に血の殺戮」	大陸新報社		1939	昭和	14	1	15	新聞	上海大陸新報。新聞切抜。	10	7
10	378	「汪兆銘第三次声明発表」	朝日新聞社		1939	昭和	14	4	2	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	10	7
10	379	「重慶に同志多数 汪兆銘所感述ぶ」	読売新聞社		1939	昭和	14	4	3	新聞	読売新聞。新聞切抜。	10	7
10	380	スクラップブック			1938	昭和	13			封筒	10箱-東8所収のスクラップブック。	10	8
10	381	「支国交調整の根幹 政府・画期的声明 発表」	朝日新聞社		1938	昭和	13	12	23	新聞	10箱-東6所収のファイル	10	8
10	382	「治法撤廃・租界返還」	朝日新聞社		1938	昭和	13	12	23	新聞	10箱-東7所収のファイル	10	8

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
10	383	「近衛声明と各国の反響」	朝日新聞社		1938	昭和	13	12	23	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	10	8
10	384	「近衛声明の反響」	朝日新聞社		1938	昭和	13	12	24	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	10	8
10	385	「同志と益々結束」	朝日新聞社		1938	昭和	13	12	24	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	10	8
10	386	「汪兆銘重慶を去り突如仏印に飛来」	朝日新聞社		1938	昭和	13	12	24	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	10	8
10	387	「ニュース展望」	朝日新聞社		1938	昭和	13	12	24	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	10	8
10	388	「果然・蔣政権に動揺」	朝日新聞社		1938	昭和	13	12	25	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	10	8
10	389	「汪兆銘・香港より外遊」	朝日新聞社		1938	昭和	13	12	25	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	10	8
10	390	「支国交調整の根幹 政府・画期的声明発表」	朝日新聞社		1938	昭和	13	12	25	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	10	8
10	391	「戦勝者・日本側から先ず和議提唱を近衛声明に呉佩孚氏語る」	朝日新聞社		1938	昭和	13	12	25	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	10	8
10	392	「汪兆銘派の要人 辞表提出・重慶より総退却」	朝日新聞社		1938	昭和	13	12	25	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	10	8
10	393	「興亜外交の一飛躍」	朝日新聞社		1938	昭和	13	12	26	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	10	8
10	394	「支国交調整の根幹 政府・画期的声明発表」	朝日新聞社		1938	昭和	13	12	28	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	10	8
10	395	「蔣・汪兆銘脱出を釈明」	朝日新聞社		1938	昭和	13	12	28	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	10	8
10	396	「国共共同委員会 遂に設置に傾く 汪兆銘退去の一因」	朝日新聞社		1938	昭和	13	12	28	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	10	8
10	397	「蔣政権と内部的情勢」	朝日新聞社		1938	昭和	13	12	29	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	10	8
10	398	「注目の汪兆銘 河内に滞るか」	朝日新聞社		1938	昭和	13	12	29	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	10	8
10	399	「汪兆銘の重慶脱出 蔣と暗黙の了解か 釈明・外人側は信ぜず」	朝日新聞社		1938	昭和	13	12	29	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	10	8
10	400	「中央の委託を受け汪・欧州に向はん 香港着の陳公博語る」	朝日新聞社		1938	昭和	13	12	30	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	10	8
10	401	「蔣介石等一派に対し汪兆銘重大声明発表 ”速やかに抗戦を止めよ”」	朝日新聞社		1938	昭和	13	12	31	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	10	8
10	402	「東亞諸国の開放へ 首相・新春の第一声」	朝日新聞社		1939	昭和	14	1	1	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	10	8
10	403	「愕然たる上海外交界英大使館協議を続く 汪声明の波紋を凝視」	朝日新聞社		1939	昭和	14	1	1	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	10	8
10	404	「”汪声明受領せず” 蔣政権批評を拒む」	朝日新聞社		1939	昭和	14	1	2	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	10	8
10	405	「汪の国民党除名は蔣政権の大損失 在支外人筋の観測」	朝日新聞社		1939	昭和	14	1	4	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	10	8
10	406	「蔣政権の重要部署 共産派次々に掌握 蔣の立場は益々不利に」	朝日新聞社		1939	昭和	14	1	6	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	10	8
10	407	「四川、雲南の混乱 佛人記者・実情を視察」	朝日新聞社		1939	昭和	14	1	7	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	10	8
10	408	「汪兆銘の離脱に蔣・心境淋し」	朝日新聞社		1939	昭和	14	1	8	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	10	8

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
10	409	「近衛声明（12月22日）に答え和平交渉の基礎とせよ 汪兆銘・中央宛書簡発表」	朝日新聞社	「近衛声明（12月22日）に答え和平交渉の基礎とせよ 汪兆銘・中央発表」	1939	昭和	14	1	9	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	10	8
10	410	「汪兆銘離脱の影響」	朝日新聞社		1939	昭和	14	1	9	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	10	8
10	411	「興亜 防共外交不動 汪声明に支那側動く」	朝日新聞社		1939	昭和	14	1	9	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	10	8
10	412	「蔣、各将領の背反憂慮」	朝日新聞社		1939	昭和	14	1	10	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	10	8
10	413	「五中全会を糊塗し 和平問題を圧殺」	朝日新聞社		1939	昭和	14	1	10	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	10	8
10	414	「赤色政権樹立へ 共産党頻りに活躍」	朝日新聞社		1939	昭和	14	1	11	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	10	8
10	415	「ソ連との提携は緊密 孫科突如記者団に声明」	朝日新聞社		1939	昭和	14	1	11	新聞	朝日新聞。新聞切抜。孫科は孫文の子。	10	8
10	416	「汪を隠れ家に訪ひ その心境を聴く」	朝日新聞社		1939	昭和	14	1	12	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	10	8
10	417	「問題は汪、蔣間に諒解の有無 梁院員記者団に語る」	朝日新聞社		1939	昭和	14	1	12	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	10	8
10	418	「発端は蔣の行過ぎ 孔祥熙攻撃をめぐる内紛 汪兆銘脱出の真相」	朝日新聞社		1939	昭和	14	1	14	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	10	8
10	419	「援助契約の締結は遂に時期を失す」	朝日新聞社		1939	昭和	14	1	12	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	10	8
10	420	「共産党の三要求 五中全会に貫徹を期す」	朝日新聞社		1939	昭和	14	1	18	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	10	8
10	421	「汪兆銘の和平通電に重慶政府の態度微妙」	朝日新聞社		1939	昭和	14	1	15	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	10	8
10	422	「林柏生襲はる」	朝日新聞社		1939	昭和	14	1	17	新聞	朝日新聞。新聞切抜。林柏生は汪兆銘擁護の論陣を張ってきた香港の「南華日報」の主筆。	10	8
10	423	「汪兆銘第三通電 国を誤るは売国奴」	朝日新聞社		1939	昭和	14	1	25	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	10	8
10	424	「近代国家への途は日支合作にあり 汪兆銘の時局討論」	朝日新聞社		1939	昭和	14	1	31	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	10	8
10	425	「新局面の展開確信 冷静・風雲を待つ 汪兆銘の心境を叩く」	朝日新聞社		1939	昭和	14	1	31	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	10	8
10	426	「汪派の団結力強し 更に要人離脱せん」	朝日新聞社		1939	昭和	14	2	4	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	10	8
10	427	「汪精衛ハノイ脱出記 ① 森本太真夫特派員」			1939	昭和	14	5		新聞	掲載紙不明。新聞切抜。	10	8
10	428	「汪精衛ハノイ脱出記 ② 森本太真夫特派員」			1939	昭和	14	5		新聞	掲載紙不明。新聞切抜。	10	8
10	429	「還都随想 ① 駐華帝国大使館書記官 清水董三」			1940	昭和	15			新聞	掲載紙不明。新聞切抜。清水は東亜同文書院12期生。	10	8
10	430	「還都随想 ② 駐華帝国大使館書記官 清水董三」			1940	昭和	15			新聞	掲載紙不明。新聞切抜。	10	8
10	431	「還都随想 ③ 駐華帝国大使館書記官 清水董三」			1940	昭和	15			新聞	掲載紙不明。新聞切抜。	10	8
10	432	「派遣軍将兵に告ぐ」	朝日新聞社		1940	昭和	15	4	29	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	10	8
10	433	「全面和平完成の飛躍的段階へ 還都第二年への発足」			1941	昭和	16			新聞	掲載紙不明。新聞切抜。	10	8

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
10	434	「戦後10年秘史 豪語を捨てて敗退 政府、ついに汪政権承認」	東京タイムス社		1956	昭和	31	10	18	新聞	東京タイムス。新聞切抜。	10	8
10	435	草野心平 「黄瀛は生きていた 上」			1962	昭和	37	4	1	新聞	掲載紙不明。黄瀛は国民政府 陸軍少将で詩人。芷江休戦会談に出席。新聞切抜。草野と黄の関係は『支那事変の回想』に記載されている。黄は日本人 太田喜智を母とし、草野の親友で詩人。宮沢賢治を愛した。	10	8
10	436	草野心平 「黄瀛は生きていた 下」			1962	昭和	37	4	2	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。草野と黄の関係は『支那事変の回想』に記載されている。黄は日本人を母とし、草野の親友で詩人。宮沢賢治を愛した。	10	8
10	437	杉山平助「東亜共同体論を批判す(1)」	朝日新聞社		1939	昭和	14	2	13	新聞	新聞切抜。杉山は昭和21年12月に亡くなっている。年は推定。	10	8
10	438	杉山平助「東亜共同体論を批判す(2)」	朝日新聞社		1939	昭和	14	2	14	新聞	新聞切抜。年は推定。	10	8
10	439	杉山平助「東亜共同体論を批判す(3)」	朝日新聞社		1939	昭和	14	2	15	新聞	新聞切抜。年は推定。	10	8
10	440	歩百四十一連隊資料 比島戦線を含む			1942	昭和	17			封筒	10箱-東9所収の封筒。	10	9
10	441	比島攻略作戦付図第六				昭和				地図	第141連隊中隊長松田氏より取得と記載あり。10-442と同じ紙面。複写。	10	9
10	442	第一次攻撃について元第141連隊参加者の戦後フィリピン戦地訪問メモ	合田			昭和				メモ	10-441の地図と同じ紙面に記載。複写。	10	9
10	443	付図第12 20A作戦経過 その1進攻				昭和				地図	中国湖南省地図に記載。	10	9
10	444	交趾支那一マレー・スマトラ地図				昭和				地図		10	9
10	445	フィリピン地図				昭和				地図		10	9
10	446	堀田謹吾書簡	堀田謹吾	今井武夫	1972	昭和	47			書簡	堀田はNHK所属と思われる。資料送付と番組での紹介依頼。戦争と地図について。年代は推定。21-36好大王碑文改変論争に関するTV出演関連。	10	9
10	447	高句麗王碑の謎			1972	昭和	47			書類	21-36関連。NHKの企画書か。年代は推定。	10	9
10	448	「好大王碑 貴重な碑文を改造？」	産経新聞社		1972	昭和	47	10	7	新聞	10-447関連。産経新聞。複写。	10	9
10	449	「再検討始めた日朝関係史」	朝日新聞社		1972	昭和	47	11	15	新聞	10-447関連。朝日新聞。複写。	10	9
10	450	「白熱する広開土王陵碑論争」	朝日新聞社		1972	昭和	47	11	11	新聞	10-447関連。朝日新聞夕刊。複写。	10	9
10	451	参謀本部長有栖川熾仁親王宛 上申書	長谷川又次	参謀本部長有栖川熾仁親王	1886	明治	19	2	1	書類	清国分駐者ヲ裁減シ更ニ浦潮斯徳工増員 安南（現ベトナム）印度地方へ分遣相成度儀上申。参謀本部の野紙に記載。複写。21-36関連か。	10	9
10	452	大山巖参謀本部長宛 報告書	酒匂景信	大山巖参謀本部長	1883	明治	16	8	8	報告書	好大王碑文関連。参謀本部の野紙に記載。複写。酒匂は陸軍大尉。21-36参照。	10	9
10	453	(自衛隊) 記念館案内				昭和				書類	複写。	10	9
10	454	第16師団の特命検閲 渡辺錠太郎大将 蒲穆中將 下元熊弥少將他			1933	昭和	8			写真	複写。蒲穆中將は昭和8年3月18日から昭和10年7月末まで第16師団長だった。年度は全くの推定。	10	9
10	455	日本地図	内外地図株式会社		1976	昭和	51			地図	200万分の1。	10	9
10	456	南十字星	渡司宣伝斑		1942	昭和	17	5	14	冊子	フィリピン戦線における陣中冊子。	10	10
10	457	「昭和史の天皇 1441 近衛と軍 5 意想外の書記官長」	読売新聞社		1971	昭和	46	4	9	新聞	読売新聞。新聞切抜。	10	10
10	458	「昭和史の天皇 1442 近衛と軍 6 巨大施策の決定」	読売新聞社		1971	昭和	46	4	10	新聞	読売新聞。新聞切抜。	10	10
10	459	「昭和史の天皇 1443 近衛と軍 7 参謀本部での石原」	読売新聞社		1971	昭和	46	4	11	新聞	読売新聞。新聞切抜。	10	10
10	460	「昭和史の天皇 1448 近衛と軍 12 軍中央の一撃論」	読売新聞社		1971	昭和	46	4	17	新聞	読売新聞。新聞切抜。	10	10
10	461	「故人寸描 親泊朝省元陸軍大佐」	全国戦争犠牲者援護会		1958	昭和	33	12	15	新聞	援護。新聞切抜。	10	10

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
10	462	「あばかれた海烈号事件」	毎日新聞社		1949	昭和	24	10	30	新聞	毎日新聞。新聞切抜。21-128関連。佐野真一『阿片王 満州国の夜と霧』（新潮社、2005年）268頁～269頁に詳しく解説しているが、佐野記載の日付3月30日は10月の間違い。8月17日に横浜港湾局に検挙され、明日10月1日に三上卓や阪田誠盛は、横浜軍事裁判所で裁判される。その後、クリスマス特赦で恩赦となる。	10	10
10	463	「反戦兵士 帰国に注意 旧陸軍の極秘電報」	毎日新聞社			昭和				新聞	毎日新聞。新聞切抜。	10	10
10	464	「台湾攻防の軍勢」			1950	昭和	25	2	10	新聞	掲載紙不明。切抜。	10	10
10	465	「日本人募兵問題の真相」	新夕刊新聞社		1950	昭和	25	3	11	新聞	日本夕刊 昭和25年3月11日号。今井について記載と写真あり。	10	10
10	466	「募兵問題 台湾へ出航直前の捷信号船上」	新夕刊新聞社		1950	昭和	25	3	17	新聞	日本夕刊新聞切抜。	10	10
10	467	「再軍備へ胎動する旧軍人たち」	東京新聞社		1952	昭和	27	1	2	新聞	東京新聞。新聞切抜。	10	10
10	468	「松村氏 中国 政策転換迫る」	宮崎日日新聞社		1966	昭和	41	6	7	新聞	宮崎日日新聞。新聞切抜。	10	10
10	469	「東京裁判 判決第四日」	朝日新聞社		1948	昭和	23	11	10	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	10	10
10	470	「東京裁判・25被告に判決下る」	朝日新聞社		1948	昭和	23	11	13	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	10	10
10	471	「東京裁判・25被告に断罪下る」	毎日新聞社		1948	昭和	23	11	13	新聞	毎日新聞。新聞切抜。	10	10
10	472	「東京裁判・25被告に断罪下る」	読売新聞社		1948	昭和	23	11	13	新聞	読売新聞。新聞切抜。	10	10
10	473	「東条ら7戦犯 絞首刑執行さる」	朝日新聞社		1948	昭和	23	12	23	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	10	10
10	474	「ボツリと七つの窓 その夜の巢鴨」	朝日新聞社		1948	昭和	23	12	23	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	10	10
10	475	「東条ら7戦犯 処刑」	読売新聞社		1948	昭和	23	12	23	新聞	読売新聞。新聞切抜。	10	10
11	1	大陸の自然と風物	岡村寧次		1953	昭和	28			冊子		11	4
11	2	南洋地名索引表	軍令部		1942	昭和	17	1	22	冊子		11	4
11	3	軍事秘密 英領ボルネオ事情	大本営陸軍部		1941	昭和	16	9	15	冊子		11	4
11	4	軍事秘密 英領馬來事情	大本営陸軍部		1941	昭和	16	9	17	冊子	英軍の防備体制の付図あり。同一2部あり。	11	4
11	5	軍事秘密 緬甸事情	参謀本部		1941	昭和	16	9	20	冊子	同一2部あり。	11	4
11	6	今井武夫随筆 未発表原稿を入れた封筒	今井俊子			昭和				封筒		11	2
11	7	良寛和尚	今井武夫		1973	昭和	48			原稿	「無風」は今井の号。「中央月島新聞原稿用紙」に7枚。18-230関連。原稿か。年度は全くの推定。	11	7
11	8	子供の教育と自然	今井武夫		1973	昭和	48	1	18	原稿	「中央月島新聞原稿用紙」7枚。18-266関連。月日は推定。	11	7
11	9	戦勝軍の敗戦軍に対する態度	今井武夫		1972	昭和	47			原稿	「中央月島新聞原稿用紙」9枚。年度は全くの推定。	11	2
11	10	権力者のモラル	今井武夫		1972	昭和	47			原稿	「中央月島新聞原稿用紙」10枚。年度は全くの推定。	11	2
11	11	中国の人民	今井武夫		1973	昭和	48			原稿	「中央月島新聞原稿用紙」8枚。18-250関連。年は推定。	11	7
11	12	協力	今井武夫		1972	昭和	47			原稿	「中央月島新聞原稿用紙」11枚。年度は全くの推定。	11	2
11	13	相手側の立場で考えよう	今井武夫		1969	昭和	44			原稿	「中央月島新聞原稿用紙」11枚。18-268関連。年は推定。	11	2
11	14	鈕少将の数奇な運命	今井武夫		1973	昭和	48			原稿	「中央月島新聞原稿用紙」10枚。鈕は中国軍鈕先銘少将のこと。18-253関連。年度は全くの推定。	11	7
11	15	札幌農学校長クラーク	今井武夫		1972	昭和	47	11		原稿	「中央月島新聞原稿用紙」6枚。18-267関連。	11	7
11	16	近衛文麿	今井武夫		1973	昭和	48			原稿	「中央月島新聞原稿用紙」8枚。18-248関連。年度は全くの推定。	11	7
11	17	動物愛護に就いて	今井武夫		1972	昭和	47	11		原稿	「中央月島新聞原稿用紙」7枚。18-247関連。年月は推定。	11	7

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
11	18	滬友 35	滬友会		1974	昭和	49	9		雑誌	東亜同文書院の同窓会報。滬は上海のこと。	11	3
11	19	滬友 36	滬友会		1975	昭和	50	3		雑誌	東亜同文書院の同窓会報。滬は上海のこと。	11	3
11	20	滬友 37	滬友会		1975	昭和	50	10		雑誌	東亜同文書院の同窓会報。滬は上海のこと。	11	3
11	21	岩井英一「上海時代（後期）の思い出 （一）」	滬友会		1976	昭和	51	3		雑誌	滬友 38。今井に関する記載あり（63頁）。滬は上海のこと。東亜同文書院の卒業生・教職員などにより同窓会「滬友会」が組織されている	11	3
11	22	岩井英一「上海時代（後期）の思い出 （二）（附）私と児玉誉士夫」	滬友会		1976	昭和	51	9		雑誌	滬友 39。今井に関する記載あり（71～72頁）。滬は上海のこと。汪兆銘工作について触れている。	11	3
11	23	軍用華語馬來語教本	新興亜学院		1943	昭和	18	7	20	冊子		11	4
11	24	今井武夫日記	今井武夫		1928	昭和	3	1	1	日記	1928年12月31日迄。長男宏誕生（10月）。陸大卒業（12月）などを記載した手帳形式日記。ただし、昭和3年2月24日から10月18日迄は日記の記載なし。今井が遺した現存する一番古い日記。13-123に続く。	11	7
11	25	今井武夫手帳	今井武夫			昭和				手帳		11	3
11	26	Address Book	今井武夫							名簿	名簿。1冊。	11	3
11	27	今井武夫手帳	今井武夫		1935	昭和	11	1	1	手帳	1936年12月31日迄。北平駐在武官補時代のもの。満洲航空株式会社の小型手帳。康德 3年（昭和11年）。	11	7
11	28	今井武夫手帳	今井武夫		1943	昭和	18	4		手帳	昭和18年4月の南方視察関係。年は推定。	11	7
11	29 (欠番)												
11	30	諸経費帳簿	今井武夫		1935	昭和	10	11	25	メモ	1935年12月15日迄。	11	7
11	31	今井武夫手帳	今井武夫		1954	昭和	29	1	1	手帳	1954年12月31日迄。	11	7
11	32	今井武夫日記	今井武夫		1962	昭和	37	4	11	日記	1962年11月8日迄。	11	7
11	33	今井武夫手帳	今井武夫		1965	昭和	40	1	1	手帳	1965年12月31日迄。	11	7
11	34	今井武夫手帳	今井武夫		1966	昭和	42	1	1	手帳	1967年12月31日迄。	11	7
11	35	今井武夫手帳	今井武夫		1978	昭和	53	1	1	手帳	1978年12月31日迄。	11	7
11	36	今井武夫手帳	今井武夫		1979	昭和	54	1	1	手帳	1979年12月31日迄。	11	7
11	37	今井武夫手帳	今井武夫		1979	昭和	55	1	1	手帳	1980年12月31日迄。	11	7
11	38	従軍手帖	今井武夫							名簿	内容は知人名簿。1冊。	11	3
11	39	住所録	今井武夫		1953	昭和	28			名簿	第一銀行創立80周年 発行住所録に記載。1873年創立。年は推定。	11	3
11	40	参考綴（其一）	今井武夫			昭和				書類	11箱-束4所収の書類。	11	4
11	41	矢部貞治「日華事変に寄せて」 石川順「日華事変への反省」	世界民主出版部		1954	昭和	29	7	5	雑誌	新生亜細亜 2巻7号。切抜。石川は元毎日新聞北京支局長。	11	3
11	42	橋善守「通州惨劇とその前後」	文藝春秋社		1938	昭和	13	7	10	雑誌	3-21の雑誌「話」 6巻8号 事変一年史。51～60頁の 切抜。橋は前東日天津支局長誌。	11	3
11	43	宮元利直「邦人虐殺の元凶李徳全」	日本週報社		1954	昭和	29	10	25	雑誌	日本週報 305号。切抜。	11	3
11	44	田尻愛義「運命の十一月三十日—対華 和平交渉秘録—」 河相達夫「敗戦前夜の密使行」	東京社		1952	昭和	27	6	5	雑誌	話 六月独立記念号。切抜。田尻は銭永銘工作、河相はスチューアート工作について書いている。	11	3
11	45	三文字正平「葬られた繆斌工作」	人物往来社		1956	昭和	31	2	1	雑誌	人物往来 2月号 5巻2号。切抜。	11	3
11	46	影佐禎昭「影佐機関・秘録」	文藝春秋社		1956	昭和	31	12	5	雑誌	特集文藝春秋 1号。切抜。娘婿の谷垣専一が影佐禎昭の遺稿の一部を抜粋したもの。33から37頁まで。5枚。	11	3
11	47	晴気慶胤「魔都上海の暗殺王」 田尻愛義「消えた重慶和平交渉」	人物往来社		1956	昭和	31	2	1	雑誌	人物往来 2月号 5巻2号。切抜。	11	3

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
11	48	阪田誠盛「香港謀略団」	東京社		1952	昭和	27	10	1	雑誌	話 2巻7号。切抜。坂田は元南京松機関長。「桐工作」について。今井のことも語っている。佐野真一『阿片王 満州国の夜』（新潮社）270～271頁に戦後の阪田について記載あり。	11	3
11	49	天羽英二「和平交渉すべて空し」 福留繁「開戦前夜の海軍作戦室」	河出書房		1956	昭和	31	7	25	雑誌	天羽は元情報局総裁。別冊知性 1号 太平洋戦争の全貌。切抜。雑誌全体は3-14にあり。	11	3
11	50	木村辰男「南京の若杉参謀」	朝日新聞社		1952	昭和	27	3	25	雑誌	週刊朝日 春秋増刊号。切抜。辰雄は辰男の間違い。若杉参謀とは三笠宮の秘匿名。	11	3
11	51	木村辰男「金塊三トンの贈り物」	ダイヤモンド社		1952	昭和	27	11	25	雑誌	ダイヤモンド 1巻3号。辰雄は辰男の間違い。切抜。	11	3
11	52	森岡阜「バターン死の行進」の真相は こうだ！」	東京社		1952	昭和	27	6	5	雑誌	森岡は元16師団長。中將。話 6月特別号 2巻6号。切抜。	11	3
11	53	「戦犯は誰だ！ 辻もと参謀への公開 状」	読売新聞社		1952	昭和	27	3	25	雑誌	川口清健少将(26期)の辻政信糾弾。「週刊読売 春季特別増大号」。切抜。フィリピン ホセ・サンタスの処刑も、辻政信元参謀の命令によるものであった。川口はそのためモンテンルパで戦犯となり刑期についた。	11	3
11	54	「恨みは深し山西残留部隊」	日本週報社		1954	昭和	29	10	25	雑誌	日本週報 305号。切抜。	11	3
11	55	川口清健「ウソ偽りの” 潜行三千 里”」	日本週報社		1954	昭和	29	12	25	雑誌	日本週報 311号。切抜。川口清健は26期。	11	3
11	56	矢野謙三「人間に裁かれた日本軍の悲 劇 將軍暁に死す 戦犯処刑物語」	東京社		1952	昭和	27	6	5	雑誌	話 2巻6号。切抜。矢野は元富山県知事。メダンで刑死した谷萩那華雄少将の最後について同情的に書いている。	11	3
11	57	「日ソ交渉物語 ⑦ 広田・マリク会 談」	毎日新聞社		1956	昭和	31	9	4	新聞	毎日新聞。新聞切抜。	11	6
11	58	秦郁彦書簡	秦郁彦	今井武夫	1957	昭和	32			書簡	「アジア研究」掲載論文についての意見依頼。	11	2
11	59	根本博「” 台湾募兵事件” の真相」	産経新聞社		1952	昭和	27	3	25	雑誌	別冊週刊サンケイ。切抜。	11	3
11	60	中島成子「戦乱の大陸にかける橋」	中央公論社		1959	昭和	34	11	1	雑誌	婦人公論 14巻14号。切抜き。	11	3
11	61	中華週報	中華民国駐日大使館		1960	昭和	35	3	22	冊子	蒋介石・陳誠 略伝。	11	3
11	62	日華事変の原因と発展の由来	中村菊男		1960	昭和	35			冊子	法学研究33巻1号。年は推定。	11	4
11	63	盧溝橋事件の勃発と発展	中村菊男		1960	昭和	35			冊子	法学研究33巻2号。及川恒忠先生追悼論文集。1960年発行か。今井から、教示を得たとある。	11	4
11	64	寺平忠輔書簡	寺平忠輔	今井武夫	1969	昭和	44	9	18	書簡	盧溝橋事件について。犬養健との見解の相違ほか。書籍発行準備中とあるので1969年か。	11	2
11	65	李聖五談	今井武夫		1966	昭和	41	1	4	メモ	曾参加和平運動現留京者、現留香港者ほか。於帝国ホテル。李は国民政府外交部総務司長、外交部総務等を歴任。1899年生まれ。	11	7
11	66	秦郁彦「日華事変における拡大派と不 拡大派」			1960	昭和	35			冊子	国際法外交雑誌 59巻4号。抜刷。	11	4
11	67	秦郁彦「日華事変における拡大派と不 拡大派（二）」			1960	昭和	35			冊子	国際法外交雑誌 59巻5号。抜刷。	11	4
11	68	「ジャングル戦線を征く」	毎日新聞社		1943	昭和	18	7	28	雑誌	サンデー毎日。切抜。	11	3
11	69	吉田東祐「和平の轡」/大山郁夫「戦 争責任と天皇の退位」	中央公論社		1948	昭和	23	8		雑誌	中央公論 8月号。切抜き。吉田は支那派遣軍の囑託。中国文化協会理事。小野寺信の知遇を得た。	11	3
11	70	世界 10月号	岩波書店		1949	昭和	24	10		雑誌	森島守人「陰謀・爆薬・軍刀」。日本外交の回想(2)。切抜き。41頁に今井について言及あり。切抜き。	11	3
11	71	世界 11月号	岩波書店		1949	昭和	24	11		雑誌	森島守人「運命の七月七日」。日本外交の回想(3)。52頁に今井について言及あり。切抜き。	11	3
11	72	盧溝橋事件当時のメモほか	今井武夫			昭和				メモ	松井、大木、寺平 1937年7月26日手紙を宗哲元に交付のこと。	11	4
11	73	「第一章 中国に対する戦争終結工作」	衛藤瀧吉		1958	昭和	33			冊子	日本外交学会編『太平洋戦争終結論』（東大出版会）。抜刷。今井について記載あり。	11	5

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
11	74	寺平忠輔「王城 北京を兵火より護る」	借行社		1963	昭和	38	6		冊子	「借行 6月」。切抜。	11	4
11	75	寺平忠輔「盧溝橋畔 不法の十八発」	借行社		1964	昭和	39	7	1	冊子	「借行 7月 157号」。切抜。	11	4
11	76	池田純久「支那事変の発端について」	借行社		1964	昭和	39	9	1	冊子	「借行 9月 159号」。切抜。	11	4
11	77	寺平忠輔「再び不法十八発の実相について」	借行社		1964	昭和	39	11	1	冊子	「借行 11月 161号」。切抜。	11	4
11	78	岩畔豪雄「柳条溝から真珠湾まで」	拓殖大学海外事情研究所		1964	昭和	39	9	5	雑誌	海外事情 12巻9号。切抜。本誌11-173にあり。	11	3
11	79	寺平忠輔書簡	寺平忠輔	今井武夫	1964	昭和	39	9	6	書簡	盧溝橋事件について。岩畔（豪雄）説と池田（純久）説について。	11	2
11	80	満州事変の一考察 ―その初期段階の分析―	中村菊男		1964	昭和	39			冊子	法学研究 37巻12号。板倉卓造先生追悼論文集。年は推定。	11	4
11	81	皆藤喜代志「運命の鴛鴦」			1964	昭和	39	8	1	雑誌	大陸問題 13 8号。切抜。	11	3
11	82	汪兆銘の履歴	今井武夫			昭和				メモ	3枚。	11	4
11	83	松本清張「軍部の妖怪」	文藝春秋社		1964	昭和	39	12	14	雑誌	別冊 文藝春秋 9号。切抜。田中隆吉のことを変名にして書いている。	11	3
11	84	日高正巳「走狗」	私小説社		1965	昭和	40	7	1	雑誌	大衆文芸 25巻7号。切抜。	11	3
11	85	畠山清行「秘密戦士 陸軍中野学校 盧溝橋・銃声2時間前の暗号」	サンケイ新聞社		1965	昭和	40	10	25	雑誌	週刊サンケイ 10月25日号。切抜。	11	3
11	86	資料 清水節郎手記 秦郁彦編「アジア政経学会 アジア研究 六月 盧溝橋事件 - 七月七日夜から八日夜まで -」	清水節郎		1963	昭和	38	6		冊子	清水は盧溝橋事件のときの当事者である第八中隊長。アジア政経学会「アジア研究六月」。抜刷。今井についてかなり記載あり。	11	4
11	87	高木俊郎「汚名 一棚橋連隊長の死(上)」	朝日新聞社		1966	昭和	41	2	4	雑誌	週刊朝日。切抜。	11	3
11	88	高木俊郎「汚名 一棚橋連隊長の死(下)」	朝日新聞社		1966	昭和	41	2	11	雑誌	週刊朝日。11-87の次号と思われる。発効日推定。切抜。	11	3
11	89	内山英太郎「史書は公正を旨とし編集に責任を負うべし」	借行社		1966	昭和	41	4	1	冊子	「借行 4月 178号」。切抜。	11	5
11	90	「2号頭目から転落した劉少奇」	中華週報社		1966	昭和	41	9	12	雑誌	中華週報。切抜。	11	3
11	91	岩畔豪雄「平和への戦い、'41年1月～8月」	文藝春秋社		1966	昭和	41	8		雑誌	文藝春秋。切抜。	11	3
11	92	邵毓麟「弔念降将岡村寧次」	東南印務出版社		1966	昭和	41	9	24	雑誌	新聞天地。切抜。今井のメモで事実無根とある。邵（1909-1984）は九州帝大で経済学を修めたあと東大大学院で研究を続けた。国民政府の高級部員で、日本・朝鮮の専門家とされ、戦後駐韓大使となった。	11	3
11	93	高木俊郎「戦死 ④」	朝日新聞社		1966	昭和	41	9	2	雑誌	週刊朝日。切抜。	11	3
11	94	高木俊郎「戦死 ⑤」	朝日新聞社		1966	昭和	41	9	9	雑誌	週刊朝日。切抜。11-93と同じ綴り。	11	3
11	95	高木俊郎「戦死 ⑥」	朝日新聞社		1966	昭和	41	9	16	雑誌	週刊朝日。切抜。11-93と同じ綴り。	11	3
11	96	宮本利直「林彪は土匪の頭目だった」	全貌社		1965	昭和	40	1		雑誌	全貌。切抜。宮本は4-44宮元利直と同じ人物か。	11	3
11	97	龔念年「蔣介石與板垣征四郎の長沙会談 今井武夫回憶録透露的蔣日勾結秘史之一」			1966	昭和	41	10	12	新聞	大公報 海外航空版。新聞切抜。10月10日付けの同一のものあり。	11	6
11	98	龔念年「今井武夫回憶録透露的蔣日勾結秘史之二」			1966	昭和	41	10	13	新聞	大公報 海外航空版。11-97の裏に添付。新聞切抜。	11	6
11	99	龔念年「今井武夫回憶録透露的蔣日勾結秘史之三」			1966	昭和	41	10	14	新聞	大公報 海外航空版。11-97の裏に添付。新聞切抜。10月12日付けの同一のものあり。	11	6

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
11	100	龔念年「今井武夫回億録透露的蔣日勾結秘史之四」			1966	昭和	41	10	15	新聞	大公報 海外航空版 。11-97の裏に添付。新聞切抜。	11	6
11	101	「悲劇の少隊長の母へ」			1966	昭和	41			新聞	11-94記載の大橋少尉関連。掲載紙不明。新聞切抜。	11	6
11	102	周恩来総理	今井武夫		1966	昭和	41	12	20	メモ	周恩来総理、朱徳副総理、林彪副総理、劉少奇副総理ほか履歴。11枚。	11	7
11	103	「昭和史ドキュメント これが昭和維新なのだ」	文藝春秋社		1967	昭和	42	2		雑誌	文藝春秋 2月号。切抜。	11	3
11	104	「磯部浅一の獄中手記 二・二六事件新発見資料」ほか	河田書房		1967	昭和	42	3		雑誌	文芸 特大号。切抜。	11	3
11	105	田中隆吉「かくて天皇は無罪になった」	文藝春秋社		1963	昭和	38	2		雑誌	文藝春秋。切抜。	11	3
11	106	大橋武夫「盧溝橋の銃声 支那事変の発端は中共の謀略であった 一謀略二書の読後感一」	借行社		1967	昭和	42	9	1	冊子	「借行 9月 195号」。謀略二書（含む今井『昭和の謀略』の読後感。切抜。22-254に同じ。大橋は、盧溝橋事件当時、支那派遣軍の砲兵中尉。	11	4
11	107	大橋武夫「運命の支那事変 中国側の当事者が見ても中共の謀略であった」	借行社		1967	昭和	42	10	1	冊子	「借行 10月196号」。謀略二書（今井『昭和の謀略』を含む）の読後感（承前）。切抜。22-255に同じ。	11	4
11	108	棟田博「新戦塵訓 物言わぬ戦士」	潮書房		1967	昭和	42	9		雑誌	丸 9月号 20巻9号。切抜。	11	3
11	109	土井章「水谷川忠麿と重慶工作（上）」	昭和同人会		1961	昭和	36	7	10	冊子	昭和同人。今井についての記載あり。切抜。水谷川（みやがわ）は近衛文麿の末弟。男爵。土井は元満鉄経済調査局。何世禎工作。	11	4
11	110	土井章「水谷川忠麿と重慶工作（中）」	昭和同人会		1961	昭和	26	8	1	冊子	昭和同人。切抜。発行月は8月か9月。水谷川は近衛文麿の弟。男爵。土井は元満鉄経済調査局。何世禎工作。	11	4
11	111	土井章「水谷川忠麿と重慶工作（下）」	昭和同人会		1961	昭和	36	10	10	冊子	昭和同人。今井についての記載あり。切抜。水谷川は近衛文麿の弟。男爵。土井は元満鉄経済調査局。何世禎工作。	11	4
11	112	昭和42年 参考綴（其二）	今井武夫		1967	昭和	42			書類	11箱-束5所収の書類。	11	7
11	113	岡田益吉「盧溝橋事件の謎を解く」	経済往来社		1967	昭和	42	8	1	雑誌	経済往来 8月号 19巻（通巻29巻）。今井に関する記述あり。7-35の切抜。	11	3
11	114	第7回 霞山会研究会講話要旨			1967	昭和	42	11	21	書類	今井の講話要旨。	11	1
11	115	三宅喜二郎「外交秘話 大東亜戦争への道 一その七」	日本国際問題研究所		1967	昭和	42	11		雑誌	掲載雑誌は「国際問題」か。切抜。	11	3
11	116	三宅喜二郎「外交秘話 大東亜戦争への道 一その八」	日本国際問題研究所		1967	昭和	42	12		雑誌	掲載雑誌は「国際問題」か。切抜。	11	3
11	117	三宅喜二郎「外交秘話 大東亜戦争への道 一その九」	日本国際問題研究所		1968	昭和	43	1		雑誌	掲載雑誌は「国際問題」か。切抜。	11	3
11	118	三宅喜二郎「外交秘話 大東亜戦争への道 一その十」	日本国際問題研究所		1968	昭和	43	2		雑誌	掲載雑誌は「国際問題」か。切抜。	11	3
11	119	三宅喜二郎「外交秘話 大東亜戦争への道 一最終回」	日本国際問題研究所		1968	昭和	43	3		雑誌	掲載雑誌は「国際問題」か。切抜。	11	3
11	120	児島襄「太平洋戦争”最強部隊”の勇者たち」	光文社		1966	昭和	41	9	1	雑誌	宝石。切抜。	11	3
11	121	ベリリュウー島に関して	今井武夫		1966	昭和	41			メモ	11-120に挿入。年代は推定。	11	7
11	122	今井「東亜問題百年の回想と展望」	霞山会		1968	昭和	43	1	1	冊子	霞山会報 12号。	11	4
11	123	私の昭和史 No. 124 支那派遣軍の降伏（芷江会談）	東京12チャンネル報道部		1966	昭和	41	9	9	書類	9月9日放映のシナリオと思われる。4-73関連。	11	1
11	124	稲葉正夫「編集余聞」				昭和				雑誌	掲載紙不明。切抜。稲葉は元陸軍中佐。	11	5
11	125	「故河辺正三大将の晩年について」 「秩父宮雍仁親王」	借行社		1965	昭和	40	4	1	冊子	「借行 4月 166号」。切抜。	11	4

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
11	126	「故永田鉄山中将の思い出」	借行社		1966	昭和	41	10	1	冊子	「借行 10月 184号」。1965年と書かれているが、号数から考えると1966年発行と思われる。切抜。	11	4
11	127	「敬仰 宮崎繁三郎将軍」	借行社		1965	昭和	40	11	1	冊子	「借行 11月 173号」。切抜。	11	4
11	128	寺岡謹平「酒井直次陸軍中将を弔う」	全国戦争犠牲者援護会		1967	昭和	42	12	15	新聞	援護 149号。	11	3
11	129	井崎喜代太「汪兆銘夫人陳璧君と梅蘭芳」	霞山会		1967	昭和	42	12	1	冊子	「霞山会報 11号」。切抜。井崎は霞山会の事務局長。梅は中国の名優。	11	4
11	130	児島襄「中国風思考に敗れた今井大佐の桐工作」	小学館		1971	昭和	46	10	29	雑誌	週刊ポスト。3巻44号。切抜。	11	3
11	131	児島襄「バルジ大反撃の立案者ヨーデルの”誤算”」	小学館		1971	昭和	46	9	24	雑誌	週刊ポスト。切抜。	11	3
11	132	「終戦秘話—根本博将軍・回想録(一)—」	全国師友協会		1972	昭和	47	5	10	雑誌	師と友 5月号。切抜。発行日は推定。	11	3
11	133	「終戦秘話—根本博将軍・回想録(二)—」	全国師友協会		1972	昭和	47	6	10	雑誌	師と友 6月号。切抜。発行日は推定。	11	3
11	134	「終戦秘話—根本博将軍・回想録(三)—」	全国師友協会		1972	昭和	47	7	10	雑誌	師と友 7月号。切抜。発行日は推定。	11	3
11	135	「終戦秘話—根本博将軍・回想録(四)—」	全国師友協会		1972	昭和	47	8	10	雑誌	師と友 8月号。切抜。発行日は推定。	11	3
11	136	「終戦秘話—根本博将軍・回想録(五)—」	全国師友協会		1972	昭和	47	9	10	雑誌	師と友 9月号。切抜。発行日は推定。	11	3
11	137	松山良政書簡	松山良政	今井武夫	1972	昭和	47	7	3	書簡	盧溝橋事件の時の証言。松山は当時河辺正三旅団司令部高級副官。松山は陸士29期。のち第6連隊長。	11	2
11	138	常安弘通書簡	常安弘通	今井武夫	1972	昭和	47	6	29	書簡	張自忠に関する記事拝読し感銘。常安は中国にいた記者。暁月会欠席。	11	2
11	139	回想 乱調子	常安弘通		1972	昭和	47			書類	11-138に挿入。	11	1
11	140	谷田勇「田中隆吉を思う(上)」	借行社		1973	昭和	48	10	1	冊子	「借行 10月」。切抜。2枚。谷田は陸士27期。田中は26期。	11	4
11	141	谷田勇「田中隆吉を思う(下)」	借行社		1973	昭和	48	11	1	冊子	「借行 11月」。切抜。表裏に記載。1枚。	11	4
11	142	伊東六十次郎「日本の満州政策と張政権」	日本教育文化協会		1972	昭和	47	3		冊子	かがみ 3月号。切抜。	11	4
11	143	伊東六十次郎「満州在住日本民族の蹶起」	日本教育文化協会		1972	昭和	47	4	20	冊子	かがみ 4月号。切抜。	11	4
11	144	伊東六十次郎「満州事変勃発の真相」	日本教育文化協会		1972	昭和	47			冊子	かがみ。切抜。年度は全くの推定。	11	5
11	145	伊東六十次郎「石原戦争学と満州国の建設(その二)」	日本教育文化協会		1972	昭和	47			冊子	かがみ。切抜。年度は全くの推定。	11	5
11	146	特別企画・汪精衛国事遺書の秘められた内側 「雨花台上、露と消えた岳父の意志」 太田元次 「最期まで国事を憂えた汪精衛先生」	中京出版社		1964	昭和	39	6	1	雑誌	「新中京 6月号」。今井について記載あり。太田は名古屋で汪精衛の最期を看取った医者。掖済会病院長。	11	3
11	147	今井「随想 困難な平和の回復」	信濃毎日新聞社		1964	昭和	39	7	22	新聞	信濃毎日新聞 夕刊。新聞切抜。同一2部あり。	11	6
11	148	「歴史はここに始る (26) 盧溝橋」	毎日新聞社		1966	昭和	41	7	3	新聞	毎日新聞。今井について記載あり。新聞切抜。	11	6
11	149	今井「親日汪政権の回顧 和平工作を語る」	大勢新聞社		1976	昭和	51	11	5	新聞	大勢新聞。新聞切抜。	11	6
11	150	今井「大本營の過失か? 悲劇の福知山連隊」	東日本新聞社		1957	昭和	32	11	11	雑誌	サンデー日本 44号。福知山でなく福山が正しい。	11	3

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
11	151	ジョン・トーランド「Z旗墮つ⑤」	毎日新聞社		1971	昭和	46	1	31	雑誌	サンデー毎日。今井部隊について記載あり。複写。	11	3
11	152	ジョン・トーランド「Z旗墮つ⑥」	毎日新聞社		1971	昭和	46	2	7	雑誌	サンデー毎日。複写。11-151と同じ綴り。	11	3
11	153	今井「靖国神域の馬像」	全国戦友会連合会		1977	昭和	52	3	25	雑誌	戦友連98号。3-32に同じ。18-280、281に原稿あり。日清・日露戦争を含めて軍馬の出征80万頭。その殆どが帰らなかった。	11	3
11	154	「盧溝橋事件35年 真相はなおナゾ」	大勢新聞社		1972	昭和	47	7	5	新聞	大勢新聞。新聞切抜。	11	6
11	155	伊地知進「小説 岡村寧次大将」				昭和				雑誌	掲載紙不明。切抜。伊地知は 陸士卒。直木賞候補にもなった作家。筆名秋葉三郎。	11	6
11	156	研究中国哲学之道	汪季高		1965	昭和	40	7		書籍	五行研究社。	11	5
11	157	汪季高	汪季高		1965	昭和	40			名刺	11-156に挿入。年は推定。	11	6
11	158	「張自忠の最期」と題した新聞コピーのファイル	今井武夫		1966	昭和	41	6	2	書類	11箱-東7所収の書類。	11	7
11	159	「悲劇の名将 張自忠 1」			1966	昭和	41	6	2	新聞	掲載紙不明。複写。	11	6
11	160	「悲劇の名将 張自忠 2」			1966	昭和	41	6	3	新聞	掲載紙不明。複写。	11	6
11	161	「悲劇の名将 張自忠 3」			1966	昭和	41	6	4	新聞	掲載紙不明。複写。	11	6
11	162	「悲劇の名将 張自忠 4」			1966	昭和	41	6	6	新聞	掲載紙不明。複写。	11	6
11	163	「悲劇の名将 張自忠 5」			1966	昭和	41	6	7	新聞	掲載紙不明。複写。	11	6
11	164	「悲劇の名将 張自忠 6」			1966	昭和	41	6	8	新聞	掲載紙不明。複写。	11	6
11	165	パターン作戦の頃から大東亜省時代の備忘録	今井武夫		1942	昭和	17			メモ	年代は推定。	11	7
11	166	蕭鉄笛「上海の焰(一) — 中日戦争秘録一」				昭和				雑誌	掲載誌不明。切抜。	11	7
11	167	雙桐館主「看一九六三年世運 (上)」			1963	昭和	38	1	3	新聞	星島晩報。	11	6
11	168	雙桐館主「看一九六三年世運 (下)」			1963	昭和	38	1	4	新聞	星島晩報。新聞切抜。11-167に貼付。日付は推定。	11	6
11	169	中村元「シナと「中国」	朝日新聞社		1969	昭和	44	9	14	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	11	6
11	170	陸軍大学校第四十期生会々会誌 4号	陸軍大学校第四十期生会		1931	昭和	6	12		冊子		11	4
11	171	今井「敵か友か(上)」	全国師友協会		1977	昭和	52	7	10	雑誌	師と友 330 7月号。	11	3
11	172	今井「敵か友か(下)」	全国師友協会		1977	昭和	52	8	10	雑誌	師と友 331 8月号。	11	3
11	173	今井「盧溝橋事件の演出家」 岩畔豪雄「柳条溝から真珠湾まで」	拓殖大学海外事情研究所		1964	昭和	39	9	5	雑誌	海外事情 12巻9号。特集太平洋戦争への道。	11	3
11	174	今井「敗軍の使者として」	潮出版社		1962	昭和	37	7		雑誌	潮 7月号。155～156頁。昭和30年代のもの。年度は全くの推定。	11	7
11	175	軍事秘密 泰国事情	大本営陸軍部		1941	昭和	16	9	5	冊子		11	4
11	176	軍事秘密 蘭印事情	参謀本部		1941	昭和	16	9	22	冊子		11	4
11	177	軍事秘密 比律賓事情	大本営陸軍部		1941	昭和	16	9	12	冊子		11	4
11	178	軍事秘密 仏印事情	参謀本部		1941	昭和	16	10	30	冊子	21-234に同じ。	11	4
11	179	今井「盧溝橋事件の謎」	毎日新聞社		1951	昭和	26	9	10	雑誌	サンデー毎日 新秋特別号。	11	3
11	180	第一線の見た 盧溝橋事件記	寺田浄		1970	昭和	45	5	20	書籍	中央公論事業出版。寺田は元憲兵大尉だが、安井三吉は『柳条湖事件から盧溝橋事件へ 1930年代華北をめぐる日中の対抗』（2003年研文出版）で寺田を憲兵軍曹と言っている。北平時代今井夫妻が親しかった赤藤憲兵分隊長の名前が本書に出てくる。	11	5

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
11	181	寺田浄書簡	寺田浄	今井武夫	1969	昭和	44	9	8	書簡	石友三將軍のことにつき問い合わせ。連隊長の「討ってよるしい」との命令について。11-180に挿入。年は推定。寺田は北平にいた元憲兵大尉。11-81を出版。	11	2
11	182	憲法調査会第二委員会第十二会議議事録	憲法調査会		1959	昭和	34	11	25	冊子		11	4
11	183	毛沢東思想概論	草野文男		1968	昭和	43	1	7	冊子		11	4
11	184	「特別企画 日本陸軍」	読売新聞社		1970	昭和	45	3	13	雑誌	週刊読売 特別号。切抜。	11	3
11	185	長野県長野高等学校校史	長野県高等学校同窓会		1968	昭和	43			冊子	今井は長野高校の前身の長野中学卒。	11	4
11	186	研究資料 昭和五十四年度 3	アジア親善交流会		1979	昭和	54			冊子		11	4
11	187	南京会 名簿	大久保正治		1977	昭和	52	4		名簿	南京会は支那派遣軍総司令部にいた人の集り。92頁からなる冊子。	11	4
11	188	旧海軍中国関係者列伝	沖野亦男		1977	昭和	52	11		冊子	沖野は海兵47期。陸軍だが今井について42頁に記載あり。	11	4
11	189	今井「日本語のわからない馬」	騒人社		1969	昭和	44	8	10	雑誌	騒人 2号。	11	3
11	190	「季刊東亜」 第1集	霞山会・東亜学院		1967	昭和	42	10	20	冊子	「東亜時論」改題。通巻第101号。	11	4
11	191	36年ぶりに バタアン半島の戦跡を訪ねて	園生尊一		1978	昭和	53	1		冊子	園生上等兵は141連隊の第二中隊所属だった。	11	4
11	192	第二次比島戦跡訪問及慰霊の旅を終えて	夏友会		1980	昭和	55	5		冊子	5月23日から26日までの旅行。18-90関連。18-40に同じ。	11	4
11	193	わが満支25年の回顧	国松文雄		1961	昭和	36	11	1	書籍	国松は元朝日新聞特派員。再版。	11	5
11	194	統率の実際 第二次大戦の將軍たち 2	陸上自衛隊幹部学校修親会		1974	昭和	49	6	25	書籍	今井「根本博中将の思い出(その1)」。8-8、1-48記載と同じ内容。	11	5
11	195	「激動する中国」	朝日新聞社		1966	昭和	41	10	15	雑誌	週刊朝日。	11	3
11	196	日本政治史概論	片山重利		1943	昭和	18	8	8	冊子		11	4
11	197	But Not in Shame	John Toland		1961	昭和	36			書籍	バターン戦記が書かれている。今井について記載あり。Random House社。	11	5
11	198	Bennet Voorhies, Jr. 書簡	Bennet Voorhies, Jr.	John Toland	1972	昭和	47	10	12	書簡	複写。今井大佐の捕虜釈放に感動したので今井のことを知らせてほしい。11-197に挿入。	11	2
11	199	今井武夫書簡	今井武夫	Bennet Voorhies, Jr.	1973	昭和	48	1	11	書簡	フィリピンで捕虜を釈放したことについて。英文の手紙の控えと思われる。11-197に挿入。	11	2
11	200	今井武夫書簡	今井武夫	Bennet Voorhies Jr.	1973	昭和	48	1	11	書簡	11-199の書簡原稿（日本語）。11-197に挿入。年月は推定。	11	7
11	201	Modern China Studies International Bulletin 書簡	Modern China Studies International Bulletin	今井武夫	1974	昭和	49	11	15	書簡	1975年版に 英文ニュース記載について。付録あり。	11	2
11	202	Modern China Studies International Bulletin 書簡（翻訳）	Modern China Studies International Bulletin	今井武夫	1974	昭和	49	11	15	書簡	11-201の翻訳。11-201に挿入。翻訳今井孝子（武夫次女）。	11	1
11	203	An Outrageous Order in the Bataan Front	Takeo Imai		1973	昭和	48			原稿	捕虜処刑の非常識な命令について英文にしたもの。未発表か。年は推定。	11	7
11	204	翻訳	今井孝子		1964	昭和	39			書類	発見された汪兆銘の遺言状ほかについて書かれた英文の日本語翻訳と思われる。翻訳今井孝子（次女）。年は推定。	11	7
11	205	Western Language Publications	CMC, Inc.		1978	昭和	53	11	1	書類		11	1
11	206	A Special List on Library Science and Library Aids	CMC, Inc.		1978	昭和	53	11	30	書類	不要か。	11	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
11	207	東京長中会会員名簿（長野高校同窓会 員名簿付）	東京長中会事務所		1970	昭和	45	9		冊子	今井は長野中学卒。	11	4
11	208	東京長高会役員（案）			1970	昭和	45			書類	11-207に挿入。今井は顧問。長高は長野高校の略。	11	7
11	209	霞山会 会員名簿	霞山会		1978	昭和	53			名簿	昭和41年～53年樞原神宮紀元祭奉賛芳名名簿控、『支那事変の回想』追記4頁、266頁追加文章ほか。重要メモカ。	11	4
11	210	今井「日華和平交渉について」 福富繁「大東亜戦争開戦時の海軍作戦 構想と重大誤算」	拓殖大学海外事情研 究所		1965	昭和	40	8	5	雑誌	海外事情 13巻8号。同一2部あり。12-86に切抜あり。	11	3
11	211	日本この100年 終わらなき戦線 一支 那事変一	朝日放送テレビ報道 部		1967	昭和	42	9	17	冊子	10月1日今井出演の放送番組のシナリオと思われる。	11	4
11	212	伊藤正徳・稿 硫黄島の決戦	硫黄島戦没者慰霊祭 執行委員会		1964	昭和	39	3	17	冊子	文藝春秋新社発行・伊藤正徳「帝国陸軍の最後・特攻編」からの転載収録。	11	4
11	213	寺平忠輔「盧溝橋事件と河辺将軍」	軍事研究社		1966	昭和	41	7	5	雑誌	軍事研究 臨時増刊 河辺正三。編集小川徳重。今井について記載あり。	11	5
11	214	河辺正三と牟田口廉也について	今井武夫		1966	昭和	41			メモ	11-213に挿入。12-120参照。年は推定。	11	7
11	215	小川徳重書簡	小川徳重	宛先不明	1966	昭和	41			書簡	河辺正三胸像資金への寄付支払いへのお礼。11-213に挿入。小川は河辺大将の元副官。年は推定。河辺大将は昭和40年3月死去。	11	7
11	216	日本外交史研究 昭和時代	日本国際政治学会		1960	昭和	35	1	31	書籍	秦郁彦「日華事変 一和平工作と講話条件をめぐって」に、今井についての記述あり。	11	5
11	217	「桐工作」について	今井武夫		1977	昭和	52	3	31	原稿	「みすず」4月号（3-27）の初校ゲラ。	11	7
11	218	歴史とともに歩んだ私の前半生 一昭 和七年末から昭和二十年まで一	甲谷悦雄		1973	昭和	48	5		冊子	甲谷は元陸軍大佐。参謀本部ロシア班長。大佐。	11	4
11	219	今井「迎春風景いろいろ」	霞山会		1965	昭和	40	1	1	雑誌	東亜時論 7巻1号。	11	3
11	220	十月事件(一)	荻田徹		1971	昭和	46	3		冊子	東京都立大学法学会雑誌 11巻2号。抜刷。	11	4
11	221	十月事件 (四・完)	荻田徹		1972	昭和	47	10		冊子	東京都立大学法学会雑誌 13巻1号抜刷。	11	4
11	222	戦陣の断章	塚本博利		1980	昭和	55	9	10	冊子	塚本は元141連隊大隊本部付。第二中隊小隊長。当時の資料を使って自費出版したもの。11-226に塚本のことが書かれている。	11	4
11	223	日本研究 百期記念	中日関係研究会		1975	昭和	50	12	1	雑誌		11	3
11	224	東亜協同体論	加田哲二		1939	昭和	14	9	10	書籍	日本青年外交協会出版部。	11	5
11	225	高橋久志「日中学術交流を顧みて」			1986	昭和	61	8		雑誌	現代の安全保障 49号 1986年8月号。複写。	11	3
11	226	今井武夫「曾遊の地 一今井元少将 台湾訪問記一」	柴田善次郎		1981	昭和	56	12	8	冊子	「烙印を押された補充兵始末記」。26～28頁に今井の記。17～18頁に今井の人柄について記載あり。柴田は元第141連隊所屬。今井のほか松岡勝三、渡辺健一、塚本博利など当時の思い出の人を記載している。	11	4
11	227	酒井洋「私は陸軍二等兵と海軍主計少 尉をともに経験した」	読売新聞社			昭和				雑誌	週刊読売。酒井は、酒井隆中將の息子。複写。	11	7
11	228	詩集・遺書	西村皎三		1940	昭和	15	8	13	書籍	揚子江社版。	11	5
11	229	俳句研究会第一回			1946	昭和	21	5	22	書類	今井参加。選者は清水清山(主計中將)。11-229から250まで同じ綴り。敗戦後中国残留中の句会。	11	1
11	230	俳句研究会第二回入選句集			1946	昭和	21	5	30	書類		11	1
11	231	俳句研究会第三回入選句集			1946	昭和	21			書類		11	1
11	232	俳句研究会第四回入選句集			1946	昭和	21			書類	清水清山選。	11	1
11	233	俳句研究会第五回入選句集			1946	昭和	21			書類	清水清山選。	11	1
11	234	俳句研究会第六回入選句集			1946	昭和	21			書類	清水清山選。	11	1
11	235	俳句研究会第七回入選句集			1946	昭和	21			書類	清水清山選。	11	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
11	236	俳句研究会第八回入選句集			1946	昭和	21			書類	清水清山選。	11	1
11	237	俳句研究会第九回入選句集			1946	昭和	21			書類	清水清山選。	11	1
11	238	俳句研究会第十回入選句集			1946	昭和	21			書類	清水清山選。	11	1
11	239	俳句研究会第十一回入選句集			1946	昭和	21			書類	清水清山選。	11	1
11	240	俳句研究会第十二回入選句集			1946	昭和	21			書類	清水清山選。	11	1
11	241	俳句研究会第十三回入選句集			1946	昭和	21			書類	清水清山選。	11	1
11	242	俳句研究会第十四回入選句集			1946	昭和	21			書類	清水清山選。	11	1
11	243	俳句研究会第十五回入選句集			1946	昭和	21	5	15	書類	日付は記載間違いの可能性あり。	11	1
11	244	俳句研究会第二回			1946	昭和	21	5	30	書類		11	1
11	245	俳句研究会第三回			1946	昭和	21			書類		11	1
11	246	俳句研究会第四回			1946	昭和	21			書類		11	1
11	247	俳句研究会第五回			1946	昭和	21			書類		11	1
11	248	俳句研究会第六回			1946	昭和	21			書類		11	1
11	249	野外句会入選句集			1946	昭和	21	4	7	書類	部長官舎に於て 嘯目吟 各人三句。	11	1
11	250	俳句研究会	清水清山		1946	昭和	21	5	15	書類	「清山」は清水菊三主計中将の俳号。日付は推定。	11	1
11	251	俳句集	今井武夫		1945	昭和	20	11	19	書類	今井の1946年12月2日まで作った俳句集。酒井隆中将の刑死を悼む句等あり。	11	7
11	252	北平の天壇			1937	昭和	12	10	26	写真	何故か不明だが 11-251に挿入。年月は推定。	11	8
12	1	昭和36・12 中共関係資料	今井武夫		1961	昭和	36	12		書類	12箱-東1所収のファイル。12-2～12-36まで。	12	1
12	2	若松重吾「瑞金の赤旗 一中共軍の西遷(1)一」	全国師友協会		1961	昭和	36	8		雑誌	「師と友」 8月号。切抜。	12	1
12	3	若松重吾「遵義会議 一中共軍の西遷(2)一」	全国師友協会		1961	昭和	36			雑誌	師と友。切抜。	12	1
12	4	若松重吾「瀘定橋の強襲 一中共軍の西遷(3)一」	全国師友協会		1961	昭和	36			雑誌	師と友。切抜。	12	1
12	5	若松重吾「西遷の教訓 一中共軍の西遷(完)一」	全国師友協会		1961	昭和	36			雑誌	師と友。切抜。	12	1
12	6	安岡正篤「日本の国号」	全国師友協会		1961	昭和	36	3		雑誌	「師と友」 3月号。切抜。	12	1
12	7	宮本武雄「大詰めに来た中共の国連加入」 坂上昇「高崎達之助氏訪中の背景」	霞山会		1960	昭和	35	11		雑誌	東亜時論11月号切抜。東亜時論は霞山会学術誌。月刊。	12	1
12	8	今井「ジャングルの兵士」	拓殖大学海外事情研究所		1960	昭和	35	8	5	雑誌	海外事情 1960 8。切抜。	12	1
12	9	加藤通夫「深み行く蔣総統の悩み」	霞山会		1961	昭和	36	12	1	雑誌	東亜時論 12月号。切抜。	12	1
12	10	高田富佐男「香港の中共系中国人」			1961	昭和	26	7		雑誌	主張と解放。切抜。	12	1
12	11	小竹文夫「中華思想と中共中国(上)」			1961	昭和	36	11		雑誌	主張と解放。切抜。	12	1
12	12	「終戦時・日本陸海軍の配備図 中国方面」	読売新聞社			昭和				雑誌	週刊読売。切抜。	12	1
12	13	「終戦時・日本陸海軍の配備図 満州方面」	読売新聞社			昭和				雑誌	週刊読売。切抜。	12	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
12	14	青葉翰於「見たままの中華人民共和国」	国際事情研究会		1961	昭和	36	5	10	雑誌	国際事情 特報。切抜。	12	1
12	15	「昔・むかし・いま 陸軍士官学校卒業人員表」	偕行社		1962	昭和	37	2	1	冊子	「偕行 2月」。切抜。	12	1
12	16	「昔・むかし・いま 師団名で新編成の陸上自衛隊」	偕行社		1961	昭和	37	1	1	冊子	「偕行 1月」。切抜。	12	1
12	17	「昔・むかし・いま 終戦時における主要部隊概見表（その1）」	偕行社		1962	昭和	37	3	1	冊子	「偕行 3月」。切抜。	12	1
12	18	「昔・むかし・いま 終戦時における主要部隊概見表（その2）」	偕行社		1962	昭和	37	4	1	冊子	「偕行 4月」。切抜。	12	1
12	19	「獄中で青酸カリを仰いだ総督」	読売新聞社		1962	昭和	37	4	1	雑誌	週刊読売。切抜。	12	1
12	20	曹大中との会見メモ	今井武夫		1962	昭和	37	3	29	メモ	神保信彦立会い。	12	1
12	21	実方清「人間の不安と孤独」	経済往来社		1962	昭和	37	4		雑誌	経済往来 4月号。切抜。	12	1
12	22	小竹文夫「中国人の集団性」	霞山会		1961	昭和	36	5		雑誌	東亜時論 5月号。切抜。	12	1
12	23	「ふたりの総統に救われた人」	中華週報社		1962	昭和	37	2	1	雑誌	中華週報。切抜。	12	1
12	24	「昔・むかし・いま 陸軍大臣歴代表」	偕行社		1961	昭和	36	12	1	冊子	「偕行 12月」。切抜。	12	1
12	25	「昔・むかし・いま 陸軍大将名簿」	偕行社		1961	昭和	36	11	1	冊子	「偕行 11月」。切抜。	12	1
12	26	「汪精衛の墳墓爆破の秘密」	アジア研究所		1961	昭和	36	5	10	雑誌	「アジア研究」。切抜。	12	1
12	27	佐藤慎一郎「中国人の生活からみた中ソ論争（上）」	全国師友協会		1965	昭和	40	11	10	雑誌	師と友 11月号。切抜。日付は推定。	12	1
12	28	佐藤慎一郎「中国人の生活からみた中ソ論争（下）」	全国師友協会		1965	昭和	40	12	10	雑誌	「師と友」。切抜。月は推定。	12	1
12	29	今井生「随想 終戦の頃の南京から」	大陸問題研究所		1965	昭和	40	8		雑誌	大陸問題 8月号。今井生とは今井武夫のこと。切抜。	12	1
12	30	甲谷悦雄「欧米専門家の毛沢東思想評価（上）」			1965	昭和	40	12	1	雑誌	主張と解放。切抜。	12	1
12	31	甲谷悦雄「欧米専門家の毛沢東思想評価（下）」			1965	昭和	40	12	15	雑誌	主張と解放。切抜。	12	1
12	32	高杉正秋「国共合作と台湾の独立」	霞山会		1965	昭和	40	11	1	雑誌	東亜時論 11月号。切抜。	12	1
12	33	「戦後20年：日中関係年表（4）」			1965	昭和	40			雑誌	掲載紙不明。切抜。	12	1
12	34	「戦後20年：日中関係年表（5）」			1965	昭和	40			雑誌	掲載紙不明。切抜。	12	1
12	35	日本経済新聞	日本経済新聞社		1979	昭和	54	12	8	新聞	「私の履歴書 犬丸徹三 38」。切抜。犬丸は帝国ホテル社長。年は推定。1980年に単行本が出ている。1981年4月死去。	12	1
12	36	「毛体制 だれが継ぐ」	朝日新聞社		1965	昭和	40	6	9	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	12	1
12	37	原稿綴	今井武夫		1965	昭和	40			原稿	12箱-東2所収のファイル。12-2～12-36まで。	12	2
12	38	今井「盧溝橋事件勃発の真相」 桜井徳太郎「北京公安門決死の調停」	文藝春秋社		1938	昭和	13	7	10	雑誌	「話」 6巻8号 事変一年史 「臨時増刊 支那事変一年史」。「事変勃発に至る半年間の支那全面的抗日暴状」 3-21の雑誌 「話」 35～50頁の切抜。	12	2
12	39	森島守人 「対華謀略工作の一こま」 座談会 「汪兆銘脱出行」 今井武夫 伊藤芳男 西義顕 矢野征記 清水董三 (司会 森島守人)	日本評論社		1950	昭和	25	11	1	雑誌	日本評論 25巻11号。切抜。西義賢は西義顕の間違いか。	12	2
12	40	今井「盧溝橋事件の謎」	毎日新聞社		1951	昭和	26	9	10	雑誌	サンデー毎日 新秋特別号。11-179の切抜。	12	2

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
12	41	曹汝霖談 西安事件について	今井武夫		1966	昭和	41			メモ	(株) 三大洋行の罫紙に書かれている。曹については3-63参照。年度は全くの推定。	12	2
12	42	今井「中国及中国人への心の在り方」	世界民主出版部		1953	昭和	28	11	5	雑誌	新生亜細亜 11月号 1巻2号。6-1の切抜。	12	2
12	43	今井「日華事変の和平路線 一国民政府の遷都と汪精衛の真意一」	世界民主出版部		1954	昭和	29	7	5	雑誌	新生亜細亜 2巻7号。1-43の切抜。14-396陶希聖からの手紙についても言及している。	12	2
12	44	今井「大陸在留邦人の帰国」	世界民主出版部		1954	昭和	29	12	5	雑誌	新生亜細亜 12月号 2巻12号。1-54の切抜。	12	2
12	45	今井「支那派遣軍の降服」	文藝春秋新社		1955	昭和	30	12	5	雑誌	特集文藝春秋 1号。 日本陸海軍の総決算。3-9の切抜。	12	2
12	46	今井「観察の態度 一中国見本市を見て一」	拓殖大学海外事情研究所		1956	昭和	31	1	5	雑誌	海外事情 4巻1号。切抜。	12	2
12	47	今井「あの日あゝのころ 共産スパイの陰謀で爆発 一盧溝橋事件の真相一」	東京新聞社		1956	昭和	31	7	7	雑誌	週刊東京 42号。切抜。	12	2
12	48	今井「大陸の和平路線 一潜行会談も既に遅し一」	河出書房		1956	昭和	31	7	25	雑誌	別冊知性 1号 太平洋戦争の全貌。末尾に今井の自筆注あり。3-14の切抜。	12	2
12	49	永井洵一書簡	永井洵一	今井武夫	1956	昭和	31	8		書簡	永井は元天津領事。尊筆について。スチュワート大使をめぐる工作について。月は推定。	12	2
12	50	今井「困難な情勢判断」	拓殖大学海外事情研究所		1956	昭和	31	10	5	雑誌	海外事情 4巻10号。切抜。	12	2
12	51	今井「宋子良となる男」	読売新聞社		1956	昭和	31	12	8	雑誌	週刊読売 臨時増刊 日本の秘密戦。7-38の切抜。	12	2
12	52	対華和平工作史	今井武夫		1956	昭和	31	12	1	メモ	3-18『別冊知性 5号 秘められた昭和史』記載の今井「対華和平工作史 幾度か手交されんとし成らなかった日支那両国間の和平の鍵物語」のことで、河南会談に関連して、呉相湘（台湾大学歴史教授）の名前の付箋あり。	12	2
12	53	「天鼓」	産業経済新聞東京本社		1957	昭和	32	9	21	新聞	産経時事。新聞切抜。	12	2
12	54	今井「馬像」	日本雄飛会		1957	昭和	32	6	1	新聞	雄飛新聞 2号。新聞切抜。	12	2
12	55	今井「戦争中の和平 一支那事変の和平会談一」	拓殖大学海外事情研究所		1957	昭和	32	6	5	雑誌	海外事情 5巻6号。切抜。	12	2
12	56	「蒋介石回顧録を読んで（上）」	毎日新聞社		1957	昭和	32	7	22	新聞	毎日新聞。新聞切抜。	12	2
12	57	「蒋介石回顧録を読んで（下）」	毎日新聞社		1957	昭和	32	7	23	新聞	毎日新聞。今井の談話あり。新聞切抜。	12	2
12	58	李嘉「「蒋介石回顧録を読んで」を読む」			1957	昭和	32	7		新聞	掲載紙不明。新聞切抜。12-57の裏に添付。切抜	12	2
12	59	風間阜書簡	風間阜	今井武夫	1957	昭和	32	7	25	書簡	「蒋介石回顧録を読んで」の今井の談話についての感想。風間は戦前北京で邦人新聞を発行していたジャーナリスト。	12	2
12	60	今井「硫黄のP・R」	硫黄工業会		1957	昭和	32	7	1	冊子	硫黄。切抜。	12	2
12	61	今井「支那派遣軍終戦顛末記」	東日本新聞社		1957	昭和	32	8	15	雑誌	サンデー日本 39号。1-73の切抜。	12	2
12	62	今井「駐留軍人の裁判」	日本雄飛会		1957	昭和	32	9	1	新聞	雄飛新聞 5号。新聞切抜。今井は雄飛新聞の理事。支那事件前の北京での英国兵による日本人殺人。	12	2
12	63	今井「私は知っている 火を噴いた盧溝橋事件の真相」	東日本新聞社		1957	昭和	32	9	15	雑誌	サンデー日本 41号。1-88の切抜。	12	2
12	64	松本隆芳書簡	松本隆芳	今井武夫	1957	昭和	32	10	18	書簡	サンデー日本 44号（12-68）を読んでの感想。松本は第141連隊の元旗手。ニューブリテン島での転戦のことなど。	12	2
12	65	山本博武書簡	山本博武	今井武夫	1957	昭和	32	10	25	書簡	サンデー日本 44号（12-68）を読んでの読後感。山本は夏部隊工兵隊所属。	12	2
12	66	松岡勝三書簡	松岡勝三	今井武夫	1957	昭和	32	10	27	書簡	サンデー日本 44号（12-68）を読んでの読後感。松岡は第141連隊初代中隊長。	12	2
12	67	パターン半島攻略戦 米軍戦史からの摘録	今井武夫			昭和				メモ	日本硫鉄（株）の罫紙に7枚。1942年1月9日～23日までのパターン半島アブカイでの戦闘について。	12	2

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
12	68	今井「大本營の過失か？ 悲劇の福知山連隊」	東日本新聞社		1957	昭和	32	11	11	雑誌	サンデー日本 44号。11-150の切抜。今井の書き込みあり。福知山は福山の間違い。	12	2
12	69	今井「ジャングルの兵士」	拓殖大学海外事情研究所		1960	昭和	35	8	5	雑誌	海外事情 1960 8。切抜。12-8と同じ。	12	2
12	70	陣中の怪命令	今井武夫		1973	昭和	48			原稿	昌栄通商（株）の罫紙に7枚。年は推定。	12	2
12	71	今井「大本營の過失か？ 悲劇の福知山連隊」	東日本新聞社		1957	昭和	32	11	11	雑誌	サンデー日本 44号。福知山は福山の間違い。12-68と同じだが今井本人の書き込みなし。切抜。	12	2
12	72	今井「随想 困難な平和の回復」	信濃毎日新聞社		1964	昭和	39	7	22	新聞	信濃毎日新聞 夕刊。11-147と同じ。新聞切抜。	12	2
12	73	メモ「宋子良工作は蒋介石・戴笠の直接実施である」	今井武夫		1954	昭和	29	6		メモ	戦後1954年6月12日に語った内容。宋子良工作は蒋介石・戴笠の直接実施である。年代は全くの推定。	12	2
12	74	今井「盧溝橋事件の演出家」	拓殖大学海外事情研究所		1964	昭和	39	9	5	雑誌	海外事情 12巻9号。11-173の切抜。	12	2
12	75	今井「盧溝橋事件の現地交渉」	朝日新聞社		1963	昭和	38	1		冊子	太平洋戦争への道 4巻付録。	12	2
12	76	今井「迎春風景いろいろ」	霞山会		1965	昭和	40	1	1	雑誌	東亜時論 7巻1号。11-219の切抜。原稿は18-299か。	12	2
12	77	第一次豊台事件	今井武夫			昭和				メモ	所収東2ファイルに挿入。	12	2
12	78	1951年9月15日のサンデー日本（11-179）と1957年9月15日のサンデー日本の記載メモ	今井武夫		1957	昭和	32			メモ	12箱-東2ファイルに挿入。年度は全くの推定。	12	2
12	79	中国の一般情勢	今井武夫		1947	昭和	22	3	19	冊子	「民主策進懇話会」での今井の講演内容。この時点で中国残留戦犯容疑者1800名、そのほか居留民大陸に約7千名とある。全14頁。	12	2
12	80	共同研究 日本の百年 今井・衛藤藩吉・児島襄 「泥沼におちた日中戦争」	人物往来社		1965	昭和	40	4	1	雑誌	人物往来 4月号 14巻4号。7-30の切抜。	12	2
12	81	「昭和経済史への証言（51）現地解決つづいた日本政府 盧溝橋事件」	毎日新聞社		1965	昭和	40	4	27	雑誌	語る人 今井。聞き手 安藤良雄。エコノミスト。切抜。	12	2
12	82	共同研究 日本の百年 今井・衛藤藩吉・児島襄 「泥沼におちた日中戦争」	人物往来社		1965	昭和	40	4	1	雑誌	人物往来 4月号 14巻4号。7-30の切抜。12-80と同じ。	12	2
12	83	「ある中国人の考え方 I」	大陸問題研究所		1965	昭和	40	6		雑誌	大陸問題 6月号。筆者 I とは今井のこと。切抜。	12	2
12	84	今井生「随想 終戦の頃の南京から」	大陸問題研究所		1965	昭和	40	8		雑誌	大陸問題 8月号。切抜。12-29と同じ。	12	2
12	85	今井「日本へ来た中国人 汪精衛のこと」	文藝春秋新社		1965	昭和	40	8	1	雑誌	文藝春秋 13巻8号。切抜。	12	2
12	86	今井「日華和平交渉について」 福富繁「大東亜戦争開戦時の海軍作戦構想と重大誤算」	拓殖大学海外事情研究所		1965	昭和	40	8	5	雑誌	海外事情 13巻8号。11-210の切抜。	12	2
12	87	「昭和秘史 第7回柳条溝事件をめぐって関東軍の内情をさぐる 語る人今井 聞く人 中村菊男」	時事問題研究所		1965	昭和	40	12		雑誌	時の課題 12月号。後に4-27に記載される。切抜。	12	2
12	88	今井「中国に対する終戦工作」	集英社		1965	昭和	40	11		冊子	昭和戦争文学全集 別巻 知られざる記録 月報16。3-15、18-414に同じ。	12	2
12	89	今井「北平会入会のご挨拶」 「第二回北平会開催 今井を顧問に」	三島敏太郎		1965	昭和	40	2	28	冊子	北平会々報 3号。日付は 2月30日となっているが28日の間違いか。	12	2
12	90	今井 「同文同種」			1965	昭和	40	7	15	新聞	在京 更埴新報。新聞切抜。	12	2
12	91	現代史研究 特輯 3号 八月十五日の私	現代史研究会		1965	昭和	40	8	15	冊子	今井も筆者36人の一人。	12	2
12	92	今井「十二月八日の私」	現代史研究会		1965	昭和	40	12	8	冊子	現代史研究 特輯 5号。十二月八日の私。荒木貞夫、伊藤桂一ほか。今井も筆者36人の一人。	12	2
12	93	今井「支那派遣軍大陸勇戦譜」	潮書房		1965	昭和	40	10	1	雑誌	丸 10月号。 3-20はこの再掲載。切抜。	12	2

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
12	94	今井「街を清潔に」	霞山会		1965	昭和	40	1	1	冊子	霞山会報 4号。切抜。	12	2
12	95	北平（北京）の集いの記	三島敏太郎		1964	昭和	39	1	25	書類	第一回北平会の記録と思われる。2枚。新橋「橋善」2階。参集者18名。今井は参加しておらず。	12	2
12	96	今井「三百万歩兵かく戦えり」 小山内宏「現代の陸軍師団はかく変わった」	潮書房		1966	昭和	41	3	1	雑誌	丸 19巻3号。切抜。	12	2
12	97	今井「外交史上から見た国民性」	霞山会		1966	昭和	41	10	1	冊子	霞山会報 5号。切抜。	12	2
12	98	今井「アジア独立に果たした盟主日本軍の功罪」	潮書房		1967	昭和	42	9	1	雑誌	「丸 20巻9号」。切抜。ビルマ作戦について。戦場の変化に幻惑された大本營。陸士同期鈴木敬司少将の活躍について記載あり。	12	2
12	99	今井「証言＝日中戦争とヴェトナム戦争」 今井「英知と勇気を 一通州事件のことなどー」	徳間書店		1968	昭和	43	3	1	雑誌	中国 1968年3月号 52号。7-25の切抜。	12	2
12	100	今井「遅参その意を得ず 盧溝橋事件勃発の日 朝寝した男の話」	潮出版社		1968	昭和	43	7		雑誌	潮 7月号（通号98号）。切抜。	12	2
12	101	今井「白井勝美著 日中戦争（中央公論社）への論評」	潮出版社		1967	昭和	42	8		雑誌	潮 8月号。切抜。	12	2
12	102	白井勝美著 日中戦争（中央公論社）	図書新聞社		1967	昭和	42	7	1	新聞	12-101に貼付。切抜。今井がこの本につき12-101で論評している。	12	2
12	103	今井「主張 国防の基礎」	日本財政経済研究所		1968	昭和	43	9		雑誌	日本財政経済研究月報 9月号。切抜。	12	2
12	104	「ケナン氏が見た30年前のチェコ」	朝日新聞社		1968	昭和	43	10	5	新聞	朝日新聞。12-103の裏に貼付。新聞切抜。	12	2
12	105	今井「皇道派と統制派 ー歴史の曲り角-」	現代史研究会		1966	昭和	41	5	10	冊子	現代史研究 8号。	12	2
12	106	今井「根本博中将の思い出(その1)」	陸上自衛隊幹部学校 修親会		1968	昭和	44	1	1	雑誌	幹部学校記事 17巻昭和44年1月号。8-8に同じ。1-48の切抜。	12	2
12	107	高島辰彦「根本博中将の思い出(その2・1)」	陸上自衛隊幹部学校 修親会		1969	昭和	44	2		雑誌	幹部学校記事 17巻昭和44年2月号。切抜。19-37に写真あり。	12	2
12	108	高島辰彦「根本博中将の思い出(その2・完)」	陸上自衛隊幹部学校 修親会		1969	昭和	44	3		雑誌	幹部学校記事 17巻昭和44年3月号。切抜。12-107の続き。	12	2
12	109	山田正之「幕僚活動の基本について」	陸上自衛隊幹部学校 修親会		1969	昭和	44	4	1	雑誌	幹部学校記事 17巻昭和44年4月号。切抜。	12	2
12	110	今井「通州事件の顛末」	外交時報社		1970	昭和	45	4	1	雑誌	外交時報 1073号4月号。1-77の切抜。	12	2
12	111	天津の図 明治3年	今井武夫			昭和				地図	明治3年頃の図か。	12	2
12	112	今井「支那事变終末工作と大本營」	外交時報社		1970	昭和	46	1	1	雑誌	外交時報 1081号 1月号。1-78の切抜。	12	2
12	113	今井「何応欽將軍と日本人の帰国」	ミツフ印刷会社		1971	昭和	46	8	1	冊子	2-30の切抜。	12	2
12	114	今井「和平工作の思い出」	みすず書房		1972	昭和	47	12	10	冊子	現代史資料月報 太平洋戦争（四）付録。9-31に同じ。日付は推定。	12	2
12	115	今井「随筆 敵か友か」	霞山会		1975	昭和	50	5	1	雑誌	霞山 95号。3-1の切抜。	12	2
12	116	中国 金鐘河のあたりの図	今井武夫		1966	昭和	41			地図	角田氏『近代の戦争 5 中国との戦い』 126頁関連。所収東2ファイルに挿入。年は推定。	12	2
12	117	盟判汪政府宣戦英美	奥村恭平		1943	昭和	18	1		書類	漢詩。南城は奥村の号か。所収東2ファイルに挿入。年月は推定。	12	3
12	118	通州は古い都である…	今井武夫							原稿	4枚。	12	3
12	119	夏友会戦史	今井武夫		1977	昭和	52	1		原稿	3-25「夏友会戦史」の原稿。前書きを含めて99枚。年月は推定。	12	3
12	120	河辺正三大将と牟田口廉也中将	今井武夫		1969	昭和	44	7		原稿	中央電機工業社の罫紙に2枚の原稿。未完。11-214参照。21-33の原稿か。年月は推定。	12	3

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
12	121	日中和平工作原稿	今井武夫		1972	昭和	47			原稿		12	3
12	122	ブリタニカ原稿修正メモ	今井武夫		1972	昭和	47	3		原稿	ブリタニカ原稿修正とある。なぜか12-121に挿入。年月は推定。	12	3
12	123	満州事変を激発した原因	今井武夫		1969	昭和	44	8		原稿	1-66の今井「満州事変激発に対する一考察」の原稿58枚と思われるが、かなり相違あり。末尾に参考書の記載あり。月は推定。	12	3
12	124	「読書メモ 信長殺し」				昭和				新聞	12-123に挿入。掲載紙不明。新聞切抜。	12	3
12	126	敗戦軍の馬と犬	今井武夫		1976	昭和	51	7		原稿	原稿。3-31の原稿と思われる。年月は推定。	12	4
12	127	「蒋介石氏の死去に思う」	朝日新聞社		1975	昭和	50	4	7	新聞	朝日新聞。今井も一言あり。新聞切抜。12箱東-4に挿入。	12	4
12	128	「今井武夫氏談（蒋介石氏は）ウソを言わぬ人だった」	毎日新聞社		1975	昭和	50	4	7	新聞	毎日新聞。新聞切抜。東-4に挿入。蒋介石を追悼して。	12	4
12	129	原稿「日中戦争」	今井武夫			昭和				原稿	15枚。	12	4
12	130	安倍邦夫「多田駿大将の統率」	陸上自衛隊幹部学校 修親会		1967	昭和	42	5		雑誌	幹部学校記事 昭和42年5月号。切抜。同一2部あり。	12	5
12	131	寺崎隆治「小沢治三郎中将の統率（その1）」	陸上自衛隊幹部学校 修親会		1967	昭和	42	8		雑誌	幹部学校記事 昭和42年8月号。切抜。	12	5
12	132	寺崎隆治「小沢治三郎中将の統率（その2）」	陸上自衛隊幹部学校 修親会		1967	昭和	42	9		雑誌	幹部学校記事 昭和42年9月号。切抜。	12	5
12	133	渡邊利亥「鈴木第35軍司令官を偲ぶ（その1）」	陸上自衛隊幹部学校 修親会		1967	昭和	42	10		雑誌	幹部学校記事 昭和42年10月号。切抜。	12	5
12	134	渡邊利亥「鈴木第35軍司令官を偲ぶ（その2）」	陸上自衛隊幹部学校 修親会		1967	昭和	42	11		雑誌	幹部学校記事 昭和42年11月号。切抜。鈴木宗作中将のこと。	12	5
12	135	平田皓二・杉本正六・守本正「第54歩兵団長木庭少将の統率（その1）」	陸上自衛隊幹部学校 修親会		1967	昭和	42	12		雑誌	幹部学校記事。昭和42年12月号。切抜。	12	5
12	136	平田皓二・杉本正六・守本正「第54歩兵団長木庭少将の統率（その2）」	陸上自衛隊幹部学校 修親会		1968	昭和	43	1		雑誌	幹部学校記事 昭和43年1月号。切抜。	12	5
12	137	平田皓二・杉本正六・守本正「第54歩兵団長木庭少将の統率（その3・完）」	陸上自衛隊幹部学校 修親会		1968	昭和	43	2		雑誌	幹部学校記事 昭和43年2月号。切抜。	12	5
12	138	田中静壹大将の統率	高島辰彦		1966	昭和	41	11		冊子	陸上自衛隊幹部学校修親会幹部学校記事からの抜刷と思われる。同一2部あり。	12	5
12	139	現代史研究 特輯 3号 八月十五日の私	現代史研究会		1965	昭和	40	8	15	冊子	今井も筆者36人の一人。12-91に同じ。	12	5
12	140	教育勅語現代謹解の要旨	高島辰彦		1965	昭和	40	10	30	冊子	報徳家庭の友 10月10日号附録。	12	5
12	141	1944年「ウ」号作戦に関する国会図書館における説明資料	牟田口廉也		1964	昭和	39	4	23	冊子		12	5
12	142	「今日の問題 インパール作戦」	朝日新聞社		1966	昭和	41			新聞	朝日新聞。12-141に貼付。新聞切抜。	12	5
12	143	今井「東亜問題百年の回想と展望」	霞山会		1967	昭和	43	1	1	冊子	霞山会報 12号。	12	5
12	144	二つの「平和共存」とその経済的背景	鹿島宗二郎		1965	昭和	40	6	25	冊子	国士舘大学政経論叢第3号所収。抜刷。吉田東祐の本名は鹿島宗二郎といった。	12	5
12	145	廢兩改元、幣制改革と幣革当時における日本の態度	関公平		1957	昭和	32			冊子	亜細亜大学「諸学紀要」創刊号抜刷。関は戦前北京にいたジャーナリスト。抜刷。年は推定。	12	5
12	146	元軍人団の中国訪問記	訪中元軍人団世話人会		1956	昭和	31			冊子		12	5
12	147	戦争文学論（三）	森安理文		1965	昭和	40	10		冊子	相模女子大学紀要22号別刷。	12	5
12	148	今井武夫宛封筒	森安理文	今井武夫	1965	昭和	40	11	15	封筒	受信済みの封筒のみ。中身なし。12-147に挿入。	12	5
12	149	東南ア華僑の組織	倉岡克行		1971	昭和	46	5	15	書籍	学術選書。付録 シンガポールは第3の中国になるだろうか？	12	5

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
12	150	中共の国際関係	田尻愛義		1968	昭和	43	3	1	冊子	田尻は元中国公使。終戦時の大東亜省次官。黎明叢書33号。	12	5
12	151	日中友好について	今井武夫		1968	昭和	43			メモ	12-150に挿入。年は推定。	12	5
12	152	善隣月報	金沢辰夫		1970	昭和	45	7	1	雑誌	村井宇一 「日本の北方固有領土」。	12	5
12	153	常安弘通書簡	常安弘通	北京暁月会事務所	1980	昭和	55	6	30	書簡	暁月会案内の礼。富士書苑刊大東亜戦史「中国編」(1969年刊行)で今井の奮闘を描いた文章が脈打っている。	12	5
12	154	蔣総統的思想、生活、操持	自由新聞社		1966	昭和	41	11	1	雑誌		12	5
12	155	故洪思翊將軍を偲ぶ	故洪思翊將軍を偲ぶ会		1967	昭和	42	9	26	冊子	於ホテルニュージャパン。洪思翊は中将。陸士26期。マニラで刑死。	12	5
12	156	洪思翊中将			1944	昭和	19			写真	故洪思翊將軍の遺影。12-155に挿入。1946年9月マニラで刑死。年度は全くの推定。洪思翊は中将。陸士26期。	12	5
12	157	故洪思翊將軍を偲ぶ会 出席者名簿	故洪思翊將軍を偲ぶ会		1967	昭和	42	9	26	名簿		12	5
12	158	中華民国 重要事年表	中華民国駐日大使館		1961	昭和	36	10	10	冊子	中華週報 中華民国五十週年 国慶記念特別。	12	5
12	159	「自主外交をいかにして確立するか」	松浦周太郎・宇都宮徳馬・野田武夫・平野三郎・千葉成夫		1962	昭和	37	4		冊子	『再建』1962年4月号掲載座談会。抜刷。	12	5
12	160	「印度支那三国開放十周年記念座談会(未定稿)」	国民外交会		1955	昭和	30	3	9	冊子	国民外交資料 3 印度支那三国独立の秘話。	12	5
12	161	人三昧	有留輝山		1966	昭和	41			冊子	有留は30期第一中隊区隊長。輝山は号で名は輝三。1966年今井に寄贈。	12	5
12	162	兵火燃え立つ中に踊る暗号戦	稲森利助		1968	昭和	43	1		冊子	稲森の今井についてのメモ追加あり。稲森は士官学校の同期生。	12	5
12	163	蒙古大草原の中に渦巻く綏東事件（関東軍蒙古謀略戦）	稲森利助		1976	昭和	51	1		書類	稲森は士官学校の同期生。	12	5
12	164	蒙古のはて包頭特務機関長時代の今昔	稲森利助		1976	昭和	51	1		書類	稲森は士官学校の同期生。	12	5
12	165	中国共産党1937年史	外務省情報部		1938	昭和	13	6		書類	127～128頁複写。「合作いよいよ成立す」	12	5
12	166	第3回虎ノ門懇話会 日中関係の基本条約(3) 「中共の原則性について」	桑原寿二		1966	昭和	41	3	1	書類		12	5
12	167	第3回虎ノ門懇話会 日中関係の基本条約(4) 「中共の原則性について」	甲谷悦雄		1966	昭和	41	3	23	書類		12	5
12	168	第3回虎ノ門懇話会 日中関係の基本条約(5) 「中共の原則性について」	陸井三郎		1966	昭和	41	4	13	書類		12	5
12	169	虎ノ門懇話会報告	鈴木憲一		1966	昭和	41			書類		12	5
12	170	虎ノ門懇話会資料	田尻愛義		1966	昭和	41	3		書類		12	5
12	171	中共の本質と内外政策の基本路線			1960	昭和	35			書類	取扱注意と書かれ執筆者の名前なし。1960年代岸内閣時代の作成と思われる。年は推定。	12	5
12	172	中共軍を主体とする歴史年表	岡田芳政		1957	昭和	32	12		書類	1921年から1957年まで。	12	5
12	173	党史学習参考資料 46号	中共中央内蒙古分局 宣伝部		1955	昭和	30			書籍	「中共中央が公佈国共合作宣言-1937年7月15日-」。3輯。複写。	12	5
12	174	「士官候三十期」に今井の略歴				昭和				雑誌	今井の略歴記載あり。掲載紙不明。複写。	12	5
12	175	付記				昭和				書類	パターン戦史に関するものの付記と思われる。	12	5
12	176	麟鷲園主人「汪精衛詩伝(上)」			1962	昭和	37		10	雑誌	掲載紙不明。掲載紙は安岡正篤主催の雑誌「師友」か「関西師友」で1961年か62年のものと思われる。切抜。年月は推定。	12	6
12	177	麟鷲園主人「汪精衛詩伝(中)」			1962	昭和	37		10	雑誌	掲載紙不明。切抜。年月は推定。	12	6

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
12	178	麟鷲園主人「汪精衛詩伝（完）」			1962	昭和	37		10	雑誌	掲載紙不明。切抜。年月は推定。	12	6
12	179	草野心平「運命の人（1）」	読売新聞社		1954	昭和	29	6	8	新聞	画 坂口茂雄。読売新聞 夕刊。新聞切抜。この日から連載開始。昭和30年に新潮社から上梓される。	12	7
12	180	草野心平「運命の人（2）」	読売新聞社		1954	昭和	29	6	9	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。	12	7
12	181	草野心平「運命の人（3）」	読売新聞社		1954	昭和	29	6	10	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。	12	7
12	182	草野心平「運命の人（4）」	読売新聞社		1954	昭和	29	6	11	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。	12	7
12	183	草野心平「運命の人（5）」	読売新聞社		1954	昭和	29	6	12	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。	12	7
12	184	草野心平「運命の人（6）」	読売新聞社		1954	昭和	29	6	13	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。	12	7
12	185	草野心平「運命の人（7）」	読売新聞社		1954	昭和	29	6	14	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。	12	7
12	186	草野心平「運命の人（9）」	読売新聞社		1954	昭和	29	6	16	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。(8)は欠。	12	7
12	187	草野心平「運命の人（10）」	読売新聞社		1954	昭和	29	6	17	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。	12	7
12	188	草野心平「運命の人（11）」	読売新聞社		1954	昭和	29	6	18	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。	12	7
12	189	草野心平「運命の人（12）」	読売新聞社		1954	昭和	29	6	19	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。	12	7
12	190	草野心平「運命の人（13）」	読売新聞社		1954	昭和	29	6	20	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。	12	7
12	191	草野心平「運命の人（14）」	読売新聞社		1954	昭和	29	6	21	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。	12	7
12	192	草野心平「運命の人（15）」	読売新聞社		1954	昭和	29	6	22	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。	12	7
12	193	草野心平「運命の人（16）」	読売新聞社		1954	昭和	29	6	23	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。	12	7
12	194	草野心平「運命の人（17）」	読売新聞社		1954	昭和	29	6	24	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。	12	7
12	195	草野心平「運命の人（19）」	読売新聞社		1954	昭和	29	6	26	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。(18)は欠。	12	7
12	196	草野心平「運命の人（20）」	読売新聞社		1954	昭和	29	6	27	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。	12	7
12	197	草野心平「運命の人（23）」	読売新聞社		1954	昭和	29	6	30	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。(21)～(22)は欠。	12	7
12	198	草野心平「運命の人（24）」	読売新聞社		1954	昭和	29	7	1	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。	12	7
12	199	草野心平「運命の人（48）」	読売新聞社		1954	昭和	29	7	25	新聞	今井について記述あり。読売新聞夕刊。新聞切抜。(25)～(47)は欠。	12	7
12	200	草野心平「運命の人（50）」	読売新聞社		1954	昭和	29	7	27	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。(49)は欠。	12	7
12	201	草野心平「運命の人（52）」	読売新聞社		1954	昭和	29	7	29	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。(51)は欠。	12	7
12	202	草野心平「運命の人（53）（54）」	読売新聞社		1954	昭和	29	7	30	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。	12	7
12	203	草野心平「運命の人（55）」	読売新聞社		1954	昭和	29	8	1	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。	12	7
12	204	草野心平「運命の人（56）」	読売新聞社		1954	昭和	29	8	2	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。	12	7
12	205	草野心平「運命の人（58）」	読売新聞社		1954	昭和	29	8	4	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。(57)は欠。	12	7
12	206	草野心平「運命の人（60）」	読売新聞社		1954	昭和	29	8	6	新聞	今井についての記述あり。読売新聞 夕刊。新聞切抜。(59)は欠。	12	7
12	207	草野心平「運命の人（87）」	読売新聞社		1954	昭和	29	9	2	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。(61)～(86)は欠。同一2部あり。今井について記述あり。	12	7
12	208	草野心平「運命の人（89）」	読売新聞社		1954	昭和	29	9	4	新聞	今井についての記述あり。読売新聞 夕刊。新聞切抜。(88)は欠。同一2部あり。	12	7
12	209	草野心平「運命の人（90）」	読売新聞社		1954	昭和	29	9	5	新聞	今井についての記述あり。読売新聞 夕刊。新聞切抜。同一2部あり。	12	7
12	210	草野心平「運命の人（91）」	読売新聞社		1954	昭和	29	9	6	新聞	今井についての記述あり。読売新聞 夕刊。新聞切抜。同一2部あり。	12	7
12	211	草野心平「運命の人（94）」	読売新聞社		1954	昭和	29	9	9	新聞	今井について記述あり。読売新聞 夕刊。新聞切抜。(92)～(93)は欠。	12	7

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
12	212	草野心平「運命の人（125）」	読売新聞社		1954	昭和	29	10	10	新聞	今井について記述あり。読売新聞夕刊。新聞切抜。(95)～(124)は欠。	12	7
12	213	草野心平「運命の人（126）」	読売新聞社		1954	昭和	29	10	11	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。今井について記述あり。	12	7
12	214	草野心平「運命の人（127）」	読売新聞社		1954	昭和	29	10	12	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。今井について記述あり。	12	7
12	215	草野心平「運命の人（130）」	読売新聞社		1954	昭和	29	10	15	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。今井について記述あり。(128)～(129)は欠。	12	7
12	216	草野心平「運命の人（131）」	読売新聞社		1954	昭和	29	10	16	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。今井について記述あり。	12	7
12	217	草野心平「運命の人（132）」	読売新聞社		1954	昭和	29	10	17	新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。今井について記述あり。	12	7
12	218	草野心平「運命の人（133）」	読売新聞社		1954	昭和	29	10	18	新聞	読売新聞 夕刊切抜。今井について記述あり。	12	7
12	219	草野心平「運命の人（134）」	読売新聞社		1954	昭和	29	10	19	新聞	読売新聞 夕刊。今井について記述あり。新聞切抜。	12	7
12	220	草野心平「運命の人（148）」	読売新聞社		1954	昭和	29	11	2	新聞	読売新聞 夕刊。今井について記述あり。新聞切抜。連載は160回までだが、これが切抜最後の回と思われる。	12	7
12	221	草野心平「運命の人」	読売新聞社		1954	昭和	29			新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。連載回数不明。一部欠損してなし。	12	7
12	222	草野心平「運命の人」	読売新聞社		1954	昭和	29			新聞	読売新聞 夕刊。新聞切抜。連載回数不明。半ば欠損してなし。	12	7
12	223	封筒			1977	昭和	52	2	24	書類	12箱-東8所収の封筒。木村宇一郎寄贈。日露、満州、日中戦争写真86枚とあるがそれ以上あり。21-44所収の写真も木村から送られたもの。	12	8
12	225	畑俊六大将			1943	昭和	18			写真	年は推定。	12	8
12	226	中支那派遣軍司令官 畑俊六大将			1938	昭和	13			写真		12	8
12	227	第16師団長牧野四郎中将 レイテにて玉砕			1945	昭和	20			写真		12	8
12	228	第16師団のレイテ玉砕に際し運命を共にした歩兵第9連隊軍旗			1945	昭和	20			写真		12	8
12	229	阿南惟幾大将			1943	昭和	18			写真	年は推定。	12	8
12	230	陸大校長 広瀬猛中将			1933	昭和	8			写真	陸士13期。	12	8
12	231	教育総監 武藤信義大将			1931	昭和	6			写真		12	8
12	232	第20師団長 三宅光治中将			1935	昭和	10			写真		12	8
12	233	第21軍司令官安藤利吉中将			1939	昭和	14			写真		12	8
12	234	第4師団長 建川美次中将			1935	昭和	10			写真		12	8
12	235	歩兵第20連隊長 土橋勇逸大佐			1935	昭和	10			写真		12	8
12	236	第4師団長 東久邇稔彦王殿下			1934	昭和	9			写真		12	8
12	237	第2軍司令官東久邇稔彦王殿下			1937	昭和	12			写真		12	8
12	238	第16師団長 渋谷伊之彦中将			1935	昭和	10			写真		12	8
12	239	第29軍顧問桜井徳太郎中佐と歩兵第1連隊長牟田口廉也大佐			1937	昭和	12			写真		12	8
12	240	軍事参議官 松井石根大将			1934	昭和	9			写真		12	8
12	241	砲兵監 山室宗武中将			1936	昭和	11			写真		12	8
12	242	ハルピン特務機関長 小松原道太郎歩兵大佐			1936	昭和	11			写真	砲兵監。	12	8
12	243	教育総監 渡辺錠太郎大将			1935	昭和	10			写真		12	8
12	244	第14師団長松木直亮中将			1932	昭和	7			写真		12	8

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
12	245	第2師団長 梅津美治郎中将			1935	昭和	10			写真		12	8
12	246	関東軍司令部附 板垣征四郎少将			1933	昭和	8			写真		12	8
12	247	支那駐屯軍司令官香月清司中将			1937	昭和	12			写真		12	8
12	248	関東軍総参謀副長 岡村寧次少将			1934	昭和	9			写真		12	8
12	249	陸軍次官 古荘幹郎中将			1935	昭和	10			写真		12	8
12	250	荒木貞夫陸軍大臣 蒲穆第16師団長 大島陸太郎参謀長			1933	昭和	8			写真	年は推定。	12	8
12	251	賀陽宮恒憲王殿下 兼久幸一連隊長 松村正員第19師団長			1935	昭和	10			写真		12	8
12	252	歩兵第22連隊長 山脇正隆大佐			1931	昭和	6			写真	後の大将。	12	8
12	253	参謀本部第一部長 今井清中将			1934	昭和	9			写真		12	8
12	254	第16師団長中島今朝吾中将			1937	昭和	12			写真		12	8
12	255	朝鮮総督 宇垣一成大将夫妻			1936	昭和	11			写真		12	8
12	256	満州事変・独立守備隊司令官 森連中将			1931	昭和	6			写真		12	8
12	257	満州事変・関東憲兵隊長 二宮健市少将			1931	昭和	6			写真		12	8
12	258	満州事変・第20師団長 室兼次中将			1931	昭和	6			写真		12	8
12	259	満州事変・第2師団長 多門二郎中将			1931	昭和	6	11		写真	陸士11期。	12	8
12	260	満州事変・第2師団長 多門二郎中将と上野参謀長			1931	昭和	6	11		写真	11月第2師団はチチハルに入城。関東軍の指揮下に置かれた第2師団は2個旅団弱の兵力で数万と言われた馬占山軍を中央突破により圧倒した 多門は「時の人」となる	12	8
12	261	満州事変・橋本虎之助少将			1931	昭和	6			写真	満州事変当時第二本部長だった橋本虎之助少将（14期）は 昭和7年4月11日に第6代関東軍参謀長となる	12	8
12	262	満州事変・小西邊門城壁より我軍の攻撃			1931	昭和	6			写真		12	8
12	263	満州事変・北満に戦う砲兵部隊			1931	昭和	6			写真		12	8
12	264	満州事変・張学良軍より鹵獲した兵器類の検分			1931	昭和	6			写真		12	8
12	265	満州事変・砲兵営占領直後の馬けい場附近の惨状			1931	昭和	6			写真	競馬場のことか。この地は軍事上の要地であった。	12	8
12	266	満州事変・鏡陽河より前進する装甲列車			1931	昭和	6			写真		12	8
12	267	満州事変・奉天占領とともに掲示された憲兵隊布告			1931	昭和	6	9		写真		12	8
12	268	満州事変・戦利品 青天白日旗			1931	昭和	6			写真		12	8
12	269	第16師団主催の「満州事変展」に出品された中村震太郎大尉の遺品			1931	昭和	6	6	27	写真	6月27日に殺害された陸大同期の中村は死後少佐に進級。	12	8
12	270	上海事変 上海派遣軍司令官 白川義則大将 臨時参謀長 田代統一郎少将 参謀副長 岡村寧次大佐			1932	昭和	7	2	2	写真	日は推定。	12	8
12	271	上海事変・第9師団長植田謙吉中将ほか幕僚			1932	昭和	7	2	2	写真	日は推定。	12	8

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
12	272	上海事変・廟行鎮における爆弾三勇士散華の地			1932	昭和	7	2	22	写真		12	8
12	273	上海事変・混成第24旅団長下元熊弥少将と幕僚			1932	昭和	7	2	2	写真	下元は陸士25期。日は推定。	12	8
12	274	上海事変・上海特別陸戦隊植松練磨海軍少将と幕僚			1932	昭和	7			写真		12	8
12	275	野砲兵第4連隊の軍装検査			1932	昭和	7			写真		12	8
12	276	野砲兵第4連隊の零距離実弾射撃			1932	昭和	7			写真		12	8
12	277	野砲兵第4連隊の安達十六大佐と将校団			1932	昭和	7			写真	ラバウルで自決した安達二十三中将の兄。	12	8
12	278	渡辺錠太郎大将 第16師団の特命検閲蒲穆中将 下元熊弥少将ほか			1933	昭和	8			写真	年は推定。	12	8
12	279	二・二六事件 参謀総長閑院宮仁親王殿下			1936	昭和	11	2		写真		12	8
12	280	二・二六事件 参謀次長杉山元中将			1936	昭和	11	2		写真		12	8
12	281	二・二六事件 陸軍大臣川島義之大将			1936	昭和	11	2		写真		12	8
12	282	二・二六事件 侍従武官長本庄繁大将			1936	昭和	11	2		写真		12	8
12	283	二・二六事件 軍事参議官 寺内寿一大将			1936	昭和	11	2		写真		12	8
12	284	二・二六事件 軍事参議官 阿部信行大将			1936	昭和	11	2		写真		12	8
12	285	二・二六事件 軍事参議官 林銑十郎大将			1936	昭和	11	2		写真		12	8
12	286	二・二六事件 軍事参議官 荒木貞夫大将			1936	昭和	11	2		写真		12	8
12	287	二・二六事件 軍事参議官 植田謙吉大将			1936	昭和	11	2		写真		12	8
12	288	二・二六事件 軍事参議官 西義一大将			1936	昭和	11	2		写真		12	8
12	289	二・二六事件 軍事参議官 真崎甚三郎大将			1936	昭和	11	2		写真		12	8
12	290	二・二六事件 関東軍司令官南次郎大将			1936	昭和	11	2		写真		12	8
12	291	二・二六事件 東京警備司令官香椎浩平中将			1936	昭和	11	2		写真		12	8
12	292	二・二六事件 台湾軍司令官柳川平助中将			1936	昭和	11	2		写真		12	8
12	293	二・二六事件 第一師団長堀丈夫中将			1936	昭和	11	2		写真		12	8
12	294	二・二六事件 歩兵第9連隊長舞伝男大佐			1936	昭和	11	2		写真		12	8
12	295	二・二六事件 反乱軍の襲撃を受けた渡辺錠太郎大将邸			1936	昭和	11	2	26	写真	日は推定。	12	8
12	296	二・二六事件 安藤輝三大尉筆 尊王討奸旗			1936	昭和	11	2	26	写真	日は推定。	12	8
12	297	児玉友雄第16師団長 藤井洋治第19旅団長 平林盛人参謀長			1936	昭和	11			写真		12	8

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
12	298	支那事变初期の重機隊			1937	昭和	12			写真		12	8
12	299	南京城門に殺到する戦車隊			1938	昭和	13	12		写真		12	8
12	300	南京城占領			1938	昭和	13	12	11	写真		12	8
12	301	憲兵学校における教育隊の教練風景			1938	昭和	13			写真		12	8
12	302	靖国神社 遊就館大陳列場			1935	昭和	10			写真		12	8
12	303	日露戦役・旅順港内に撃沈された「ペレスウイト」「ポルタワ」の2艦			1905	明治	38	1		写真		12	8
12	304	日露戦役・旅順富士形砲台背面に飛散した敵の火砲			1905	明治	38	1		写真		12	8
12	305	日露戦役・旅順望台よりの景色			1905	明治	38	1		写真	望台は砲台の誤りか？	12	8
12	306	日露戦役・旅順新市街における分列式			1905	明治	38	1		写真		12	8
12	307	日露戦役・旅順 松樹山砲台背後の惨状			1904	明治	37	12	31	写真		12	8
12	308	日露戦役・旅順富士形砲台に備え付けた海軍砲			1905	明治	38	1		写真		12	8
12	309	日露戦役・旅順二龍山砲台背面			1904	明治	37	12	28	写真		12	8
12	310	日露戦役・旅順砲台の被弾状況			1905	明治	38	1		写真		12	8
12	311	日露戦役・旅順28センチの巨砲			1905	明治	38	1		写真		12	8
12	312	日露戦役・旅順第9師団司令部 大島久直師団長以下幕僚			1905	明治	38	1		写真	第9師団（金沢）は乃木軍に所属。「坂の上の雲 七」によると（52頁）金沢、富山、敦賀、鯖江の4個連隊からなった。	12	8
12	313	日露戦役・大石橋（たいせききょう）における砲戦			1905	明治	38	3	6	写真	乃木第三軍所属 第1師団（東京）か。	12	8
12	314	日露戦役・28センチ巨砲の運搬			1905	明治	38	2		写真		12	8
12	315	日露戦役・日本軍占領後の奉天			1905	明治	38	3	10	写真	日付は推定。	12	8
12	316	日露戦役・日本軍占領後の奉天市街			1905	明治	38	3	10	写真	日付は推定。	12	8
12	317	日露戦役・遼陽附近 歩兵第八連隊の戦闘			1904	明治	37	9		写真	日露戦役の写真は全て戦後今井貞夫が寄贈されたもの。	12	8
12	318	日露戦役・鹵獲せる野砲			1905	明治	38	1		写真		12	8
12	319	日露戦役・出征軍隊激励のため閩兵するニコライ皇帝			1905	明治	38	2		写真	年月は推定。	12	8
12	320	日露戦役・奉天到着のロシアの砲兵部隊			1905	明治	38	2		写真	年月は推定。	12	8
12	321	日露戦役・遼陽附近の俘虜			1904	明治	37	9		写真		12	8
12	322	日露戦役・水師營の会見			1905	明治	38	1	5	写真		12	8
12	323	明治40年頃の反射炉			1907	明治	40			写真		12	8
12	324	写真				昭和				写真	9枚。	12	8
12	325	星馬華文学校適用 馬來亞連合邦各州地理図解	馬連教育文具公司出版		1957	昭和	32			地図	出版年月日記載なし。1957年8月31日マレーシア独立後のもの。	12	9
12	326	雙照樓詩詞藁 掃葉集序	汪兆銘		1940	昭和	15	4	30	書類	汪兆銘から今井に送られた詩稿の自序（今井貞夫写す）。『支那事变の回想』に汪から贈られた詩集のカバー写真あり。	12	9
12	224A	日華協力の中小企業歓迎	余仲剛		1970	昭和	45			書類	21-156関連か。	12	8

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
12	224B	木村宇一郎書簡	木村宇一郎	今井武夫	1977	昭和	52	2	24	書簡	写真送付状。	12	8
13	1	汪兆銘先生17周年追悼記念会 関係者 名簿			1960	昭和	35	11	10	名簿		13	4
13	2	汪兆銘 33周忌			1976	昭和	51	11	9	写真	4-1参照。4枚。於霞山会館 今井ほか。	13	8
13	3	江梅会 会員名簿	江梅会		1975	昭和	50	4	1	名簿	4枚。73名。物故者13名の遺族の名簿も。	13	4
13	4	江梅会 会員名簿			1981	昭和	56	9	1	名簿	6頁からなる冊子。	13	4
13	5	江梅会出席者一同			1969	昭和	44	11	1	写真	於港区芝西応寺。	13	8
13	6	江梅会懐記 第二集	江梅会		1981	昭和	56	10		冊子	江梅会懐記。石原幸次「軍事顧問部の思い出」。今井についての記載あり。石原は「梅機関」の一員だった。	13	4
13	7	日本郷友連盟参与 名簿	日本郷友連盟		1972	昭和	47	3	10	名簿	今井は参与。	13	4
13	8	信武会員名簿			1960	昭和	35	12	1	冊子	長野出身の軍人名簿。今井も会員。	13	4
13	9	信濃育英会役員名簿			1965	昭和	40	11	1	冊子	今井は理事。	13	4
13	10	市ヶ谷台案内				昭和				冊子	自衛隊市ヶ谷駐屯地の案内書。1960年代のものか。	13	4
13	11	会員室管理改善説明会進行順序と出席 者名簿			1968	昭和	43	2	2	名簿	於霞山会館。	13	1
13	12	竹中敬太郎書簡	竹中敬太郎	大久保正次	1977	昭和	52	4	6	書簡	第20回南京会に三笠宮が出席された際の配慮に対する代理のお礼。竹中は三笠宮付事務官。大久保は南京会代表か。複写。	13	2
13	13	小笠原清書簡	小笠原清	今井武夫	1947	昭和	22	3	30	書簡	戦犯者の内地服役工作与軍事合作について。戦犯者の内地服役工作与軍事合作について小笠原は南京残留の総連絡班。陸軍中佐。世田谷区赤堤町の今井宛となっているが、今井は赤堤に住んだことなし。手渡し書簡。	13	2
13	14	小笠原清書簡	小笠原清	今井武夫	1947	昭和	22	5	30	書簡	南京残留の総連絡班小笠原清から、今井宛の手紙。戦犯者の内地服役工作は無理しないように指導ください。手渡し。	13	2
13	15	小笠原清書簡	小笠原清	今井武夫	1947	昭和	22			書簡	伊藤氏経由手渡し。陳参謀からの経済面での日中交易についての企画依頼。	13	2
13	16	横尾翠田書簡	横尾翠田	今井武夫	1938	昭和	13	6	5	書簡	多田（駿）閣下から所望の良寛像描けたので持参するが同行しないかとの誘い。横尾翠田は 今井の長野中学卒業以来の友人で画家（後の横尾深林人）。戦時中のものか。東京都目黒区上目黒6丁目今井宛葉書。年は推定。	13	2
13	17	河辺正三書簡	河辺正三	今井武夫	1952	昭和	27	1	28	書簡	ビルマ関係の仏事に外出しており今井が訪問したとき折悪しく不在。	13	2
13	18	河辺正三書簡	河辺正三	今井武夫	1952	昭和	27	3	27	書簡	敗残の悔恨と自責の念。	13	2
13	19	河辺正三書簡	河辺正三	今井武夫	1958	昭和	33	5	28	書簡	建川美次將軍墓前誌表建設企画への協力依頼。	13	2
13	20	建川將軍墓前誌表建設企画趣意書 (案)	植田謙吉		1958	昭和	33	5		書類	植田大將は発起人代表。5-19に挿入。	13	1
13	21	河辺正三書簡	河辺正三	今井武夫	1952	昭和	27	1		書簡	年賀。漢詩一首。年代は推定。	13	2
13	22	風間阜書簡	風間阜	今井武夫	1958	昭和	33	6	26	書簡	河辺正三から連絡があり、今年の暁月会の会場は昨年どおり。今井に暁月会の司会を依頼。東京銀行の野紙。風間は北京新聞を戦前発行していた。風間については9-64参照。	13	2
13	23	西尾寿造書簡	西尾寿造	今井武夫	1952	昭和	27	1	1	書簡	賀状。	13	2
13	24	西尾寿造書簡	西尾寿造	今井武夫	1952	昭和	27	1	23	書簡	相撲観覧券のお礼。	13	2
13	25	西尾寿造書簡	西尾寿造	今井武夫	1953	昭和	28	3	28	書簡	祝辞に対するお礼。	13	2
13	26	園田次郎書簡	園田次郎	今井武夫	1947	昭和	22	4	2	書簡	園田は朝日新聞記者。今井の無事帰還を祝う。1947年か。7-33参照。	13	2
13	27	新木栄吉書簡	新木栄吉	今井武夫	1951	昭和	26	1	5	書簡	新木は元日銀総裁。戦後初の駐米大使。年賀。	13	2

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
13	28	新木栄吉書簡	新木栄吉	今井武夫	1951	昭和	26	3	11	書簡	祝辞に対する礼状。	13	2
13	29	松室孝良書簡	松室孝良	今井武夫	1947	昭和	22	12	20	書簡	内地帰還の祝辞。懐旧談したい。松室は元陸軍少将。陸士19期。	13	2
13	30	百武末義書簡	百武末義	今井武夫	1947	昭和	22	6	20	書簡	百武は支那にいた報知新聞記者。今後につき相談したい。	13	2
13	31	上田廣書簡	上田廣	今井武夫	1950	昭和	25	10	19	書簡	祝辞に対するお礼。	13	2
13	32	山本熊一書簡	山本熊一	今井武夫	1952	昭和	27	1	1	書簡	謹賀新年。元大東亜省次官。	13	2
13	33	永井八津次書簡	永井八津次	今井武夫	1947	昭和	22	10	10	書簡	至急連絡したい事あり。	13	2
13	34	西尾末廣書簡	西尾末廣	今井武夫	1952	昭和	27	1	1	書簡	賀状。今後の支援宜しく。	13	2
13	35	清水安三・郁子書簡	清水安三・郁子	今井武夫	1948	昭和	23	5	29	書簡	復員後の挨拶状。清水は北京朝陽門外崇貞学園を30年経営していた。	13	2
13	36	中野英光書簡	中野英光	今井武夫	1962	昭和	37	1	1	書簡	賀状。9-13参照。中野は陸士24期。中将。	13	2
13	37	岡村寧次書簡	岡村寧次	今井武夫	1948	昭和	23	5	29	書簡	戦後南京で戦犯裁判中の岡村が中国監視人の黄金発大尉の好意により黄金大尉名義の親展封筒に入れて発信したもの。南京生活の現状報告。黄金発については、3-122参照。	13	2
13	38	岡村寧次書簡	岡村寧次	今井武夫	1951	昭和	26	1	5	書簡	年賀。	13	2
13	39	岡村寧次書簡	岡村寧次	今井武夫	1952	昭和	27	4	5	書簡	追放解除の祝辞に対するお礼。	13	2
13	40	阿部信行書簡	阿部信行	今井武夫	1952	昭和	27	4		書簡	追放解除の祝辞に対するお礼。	13	2
13	41	阿部信行書簡	阿部信行	今井武夫	1955	昭和	30	1	8	書簡	年賀。元陸軍大将。首相。	13	2
13	42	村上知行書簡	村上知行	今井武夫	1955	昭和	30	1	5	書簡	年賀。昨年は不如意のどん底でした。	13	2
13	43	緒方竹虎書簡	緒方竹虎	今井武夫	1955	昭和	30	1	1	書簡	年賀。	13	2
13	44	小林次郎 書簡	小林次郎	今井武夫	1952	昭和	27	1	1	書簡	年賀。小林については2-58参照。	13	2
13	45	岸道三書簡	岸道三	今井武夫	1952	昭和	27	1	1	書簡	岸は日本道路公団初代総裁。近衛文麿内閣秘書官。	13	2
13	46	川口清健書簡	川口清健	今井武夫	1959	昭和	34	6		書簡	封筒のみで、今井への書簡は同封13-47に記載されている。川口は元陸軍少将。26期。	13	2
13	47	辻政信参議院議員への勧告書	川口清健		1959	昭和	34	6	22	書簡	13-46に同封。辻の行った残虐行為に基づく糾弾。11-53、11-55関連。川口は元陸軍少将。26期。	13	1
13	48	辻政信参議院議員への勧告書 説明書	川口清健		1959	昭和	34	6	22	書類	13-47の勧告書の説明書。13-46に同封。川口は元陸軍少将。26期。	13	1
13	49	火野葦平書簡	火野葦平	今井武夫	1950	昭和	25	10	13	書簡	公職追放解除の連絡。3-103参照。玉井勝則が本名だが火野葦平でかかされている。火野の『陸軍』『敵将軍』などの作品は戦争を是認し、影響力は広範かつ多大だったのが主な理由であった（朝日新聞夕刊「新聞と責任 表現者たち 4」に記載されている）。	13	2
13	50	伊藤正徳書簡	伊藤正徳	今井武夫	1958	昭和	33	12	17	書簡	数日前から「帝国陸軍の最後」を書き始めた。稲田（正純）さんを誘って来遊如何。年度は全くの推定。	13	2
13	51	橋島芳雄書簡	橋島芳雄	今井武夫	1947	昭和	22	2	27	書簡	内地帰還の祝辞。北海道で百姓をしている。橋島は支那派遣軍第二課参謀。情報主任。中佐。明治43年生まれ。陸士43期、陸大51期、3-136も参照。	13	2
13	52	山本薩夫書簡	山本薩夫	今井武夫	1976	昭和	51	1	1	書簡	賀状。山本は映画監督。	13	2
13	53	松井太一郎書簡	松井太一郎	今井武夫	1952	昭和	27	4	4	書簡	追放解除の祝辞に対する礼。松井は元南京政府軍事顧問・中将。	13	2
13	54	一木喜徳郎書簡	一木喜徳郎	今井武夫	1931	昭和	6	11	1	書簡	一木は宮内大臣。陸軍特別大演習。	13	2
13	55	湯浅倉平書簡	湯浅倉平	今井武夫	1934	昭和	9	11	1	書簡	陸海軍特別大演習終了後、賜饌のご沙汰あり。湯浅は宮内大臣。3-159関連か。	13	2
13	56	湯浅倉平書簡	湯浅倉平	今井武夫・きみ子	1935	昭和	10	4	12	書簡	天皇・皇后両陛下が新宿御苑での観桜会に招待される。湯浅は宮内大臣。	13	2
13	57	湯浅倉平書簡	湯浅倉平	今井武夫	1935	昭和	10	11	1	書簡	湯浅は宮内大臣。陸海軍特別大演習終了後賜饌のご沙汰あり。	13	2

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
13	58	星野敏書簡	星野敏	今井武夫	1947	昭和	22	10	21	書簡	内地帰還の祝辞。捲土重来を期している。	13	2
13	59	小林浅三郎書簡	小林浅三郎	今井武夫	1947	昭和	22	3	2	書簡	小林は元支那派遣軍総参謀長。中将。無事帰国の祝辞。	13	2
13	60	川上護書簡	川上護	今井武夫	1957	昭和	32	7	22	書簡	5-15記載の追悼記原稿のため今井が自分の陸士同期小西哲雄の消息を川上に問い合わせた返事。川上は今井が士官候補生として富山連隊に配属になったときの指導員。	13	2
13	61	川上護書簡	川上護	今井武夫	1957	昭和	32	9	11	書簡	13-60に続く小西哲雄君の追加の情報連絡。	13	2
13	62	高島菊次郎書簡	高島菊次郎	今井武夫	1951	昭和	26	8	15	書簡	祝辞に対する厚謝。高島は元中支振興総裁・王子製紙社長。	13	2
13	63	土屋寿夫書簡	土屋寿夫	今井武夫	1947	昭和	22	3	10	書簡	帰国の祝辞。味の素と第一ホテルに勤務。プライベートか。年代は推定。	13	2
13	64	石川順書簡	石川順	今井武夫		昭和		9	9	書簡	石川はジャーナリスト。元毎日新聞北京支局長。戦後成田町長になる。11-41参照。成田にご来遊ください。石川は昭和35年5月に『砂漠に咲く花』を書いている。9月9日付け。	13	2
13	65	梶谷清一郎書簡	梶谷清一郎	今井武夫		昭和		5	1	書簡	5月1日付け金沢への転任挨拶。梶谷は金沢通信局総務部長。戦前支那派遣軍に通信省から派遣されていた。名刺に記載されている。3-94参照。	13	2
13	66	白川一雄書簡	白川一雄	今井きみ子	1946	昭和	21			書簡	白川は今井が借りている目黒の家の家主。2月に北支から引き上げてきた。5月25日麻布の自宅が全焼したので5月末までに目黒の借家を明け渡しに欲しい。今井が中国から未だ復員していない1946年の手紙か。	13	2
13	67	山本武雄書簡	山本武雄	今井武夫	1947	昭和	22	2	6	書簡	無事帰国の祝辞。山本が先に中国から帰国した際残留者が託したお金の件。	13	2
13	68	山本武雄書簡	山本武雄	今井武夫	1947	昭和	22	2	28	書簡	山本が先に中国から帰国した際に残留者が託したの金の件。13-67の続き。	13	2
13	69	川島四郎書簡	川島四郎	今井武夫	1951	昭和	26	1		書簡	年賀状。設計図面待ち。GHQの依頼により韓国軍用携帯口糧製造している。プライベートか。	13	2
13	70	渥美圭石書簡	渥美圭石	今井武夫	1949	昭和	24			書簡	山本（武雄）と懇談のうえ回答したい。プライベートか。1949年か。	13	2
13	71	渥美圭石書簡	渥美圭石	今井武夫	1949	昭和	24	7	28	書簡	株式会社設立について。プライベートか。13-71の続きか。	13	2
13	72	今井武夫書簡	今井武夫	渡辺秀生	1948	昭和	23	2	5	書簡	渡辺は同孚行総務部長。林熊光社長宛辞職書だが返還されたものか。プライベートなものか。	13	2
13	73	犬飼正美書簡	犬飼正美	今井武夫	1948	昭和	23	3	6	書簡	犬飼は同孚股份有限公司の人間か。林社長ほかと打ち合わせた結果報告。プライベートなものか。	13	2
13	74	野崎誠近書簡	野崎誠近	今井武夫・きみ子	1946	昭和	21			書簡	ご帰還されたら一報ください。野崎については4-77参照。年代は推定。	13	2
13	75	野崎誠近書簡	野崎誠近	今井武夫	1947	昭和	22	8	4	書簡	復員された後、お訪ねいただきありがとうございます。再会を期している。	13	2
13	76	野崎誠近書簡	野崎誠近	今井武夫	1948	昭和	23	3	8	書簡	訪問を受けた北支関係者の名前を挙げている。戦後の旧交を叙している。年代は1947年か、近況と草野君の動静伺い。野崎については4-77参照。	13	2
13	77	Wuv Bailey書簡	Wuv Bailey	今井武夫・きみ子	1958	昭和	33	12	22	書簡	米国大使館付陸軍士官室の大佐夫妻から。クリスマスカード兼年賀。プライベートか。	13	2
13	78	年賀状控（支那人の部） 昭和12年度	今井武夫		1937	昭和	12	1		名簿	いろは順に中国人の名前記載あり。22-537～538参照。	13	1
13	79	日本人リスト	今井武夫		1937	昭和	12			名簿	日本人12名の住所と名前のリスト。13-78に挿入。年は推定。	13	1
13	80	中国使節団			1947	昭和	23	1	20	書類	1947年時事年鑑505頁抜粋。朱世明中将ほか。	13	1
13	81	中国使節団			1948	昭和	23	1	20	書類	1948年時事年鑑602頁抜粋。商農上將ほか。商農は元河北省主席。	13	1
13	82	駐日中国代表団組織及重要職員表	外務省調査局		1948	昭和	23	1	20	書類		13	1
13	83	中華民国駐日代表団 人名表				昭和				名簿	中日実業株式会社の紙紙に記載。13-99参照。	13	1
13	84	人名リスト				昭和				名簿	来日中国人と歓迎団リストか。日本美術家代表団ほか。	13	1
13	85	韓国人リスト			1965	昭和	40			書類	複写。朴正熙大統領ほか約30名のリスト。	13	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
13	86	今井武夫宛封筒		今井武夫	1943	昭和	18	11	25	封筒	台申公司書類と書いてあるが中身なし。	13	8
13	87	特殊郵便受領証	目黒橋郵便局		1948	昭和	23	2	6	書類	今井が渡辺秀生宛に送った引受け番号記載あり。13-72の送付証明書か。プライベートなものか。	13	1
13	88	山本武雄住所	今井武夫			昭和				メモ	山本については13-67参照。	13	7
13	89	山崎靖純	山崎靖純			昭和				名刺	住所と事務所。	13	8
13	90	桑原重遠	桑原重遠			昭和				名刺	海軍大佐。北平で同時期を過ごす。株式会社清水組の名刺。	13	8
13	91	松室孝良	松室孝良			昭和				名刺	13-29参照。住所。	13	8
13	92	西尾寿造	西尾寿造		1944	昭和	19	7		名刺	東京都長官。御祝辞御礼。西尾は7月25日に東京都長官となる。年月は推定。	13	8
13	93	城戸口準	城戸口準		1940	昭和	15			名刺	陸軍大尉。南支那派遣軍波電部隊。年は推定。	13	8
13	94	桑原徳器	桑原徳器			昭和				名刺	旧姓安藤。読売新聞論説委員。	13	8
13	95	佐野学	佐野学		1949	昭和	24			名刺	住所。共産党からの転向者。年は推定。	13	8
13	96	清水董三	清水董三			昭和				名刺	外務省嘱託。清水は東亜同文書院12期生。	13	8
13	97	日高信六郎	日高信六郎			昭和				名刺	住所。元特命全権公使。	13	8
13	98	矢部貞治	矢部貞治			昭和				名刺	住所。	13	8
13	99	全先喬	全先喬			昭和				名刺	中日実業株式会社総務部長。13-83参照。	13	8
13	100	銭大樾	銭大樾		1940	昭和	15			名刺	中央儲備銀行 副総裁。今井大佐殿となっている。年は推定。	13	8
13	101	橋善守	橋善守		1964	昭和	39			名刺	毎日新聞社東亜部長。論説。1964年に汪兆銘の「最後之心情」で今井に取材。年は推定。	13	8
13	102	何応欽	何応欽		1975	昭和	50	7	27	名刺	1級上将。台北の住所。年月は推定。	13	8
13	103	鈕先銘	鈕先銘		1975	昭和	50			名刺	台北の住所。年は推定。	13	8
13	104	若菜正義	若菜正義		1964	昭和	39			名刺	毎日新聞社東亜部。年は推定。	13	8
13	105	岩井良太郎	岩井良太郎		1964	昭和	39			名刺	毎日新聞社論説委員。年は推定。	13	8
13	106	宮森喜久二	宮森喜久二		1964	昭和	39			名刺	毎日新聞社世論調査部副主査。年は推定。	13	8
13	107	松室正憲	松室正憲			昭和				名刺	住所。	13	8
13	108	及川六三四	及川六三四			昭和				名刺	東京新聞論説委員。	13	8
13	109	横田實	横田實			昭和				名刺	世界日報社社長。同一2枚あり。	13	8
13	110	宇多武次	宇多武次			昭和				名刺	世界日報社取締役。	13	8
13	111	苗劍秋	苗劍秋			昭和				名刺	中華民国駐日代表団専員。亡命前のものか。	13	8
13	112	柴山兼四郎	柴山兼四郎			昭和				名刺	中日貿易株式会社社長。	13	8
13	113	宮崎龍介	宮崎龍介			昭和				名刺	自宅と事務所。孫文の革命を陰で支えた宮崎滔天の息子。	13	8
13	114	唐島基智三	唐島基智三			昭和				名刺	住所。	13	8
13	115	児玉誉士夫	児玉誉士夫		1940	昭和	15			名刺	海軍航空本部嘱託・国民政府最高軍事顧問部嘱託・外務省嘱託。東京と上海の住所記載あり。年度は全くの推定。	13	8
13	116	安岡正篤	安岡正篤			昭和				名刺		13	8
13	117	十河信二	十河信二			昭和				名刺		13	8
13	118	大野信三	大野信三			昭和				名刺	中央大学教授。大野は今井の友人。	13	8

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
13	119	パスポート	外務省		1938	昭和	13	6	9	書類	「佐藤正名義」の今井の偽名パスポート。外務大臣宇垣一成。香港行き。昭和14年5月2日にも同じ名義のパスポート13-120が発行されている。	13	1
13	120	「佐藤正名義」の今井の偽名パスポート	外務省		1939	昭和	14	5	2	書類	外務大臣有田八郎。上海經由香港行き。昭和13年6月9日にも同じ名義のパスポート13-119が発行されている。	13	1
13	121	領収書	英国広東領事館	佐藤正	1940	昭和	15	5	10	書類	出国税。13-120の佐藤正名義のパスポートに挿入。佐藤正宛 8. 20ドルの領収書。英語。	13	1
13	122	今井武夫公用パスポート	外務省		1944	昭和	19	1	15	書類	大東亜参事官今井の仏領インドシナ、泰国へのパスポート。外務大臣重光葵。	13	1
13	123	今井武夫日記	今井武夫		1929	昭和	4	1	1	日記	日記は4月2日迄。11-24の続き。	13	7
13	124	今井武夫日記	今井武夫		1933	昭和	8	1	1	日記	12月31日まで。次に13-159に続く。山海関事件。熱河戦。中国研究員。上海、広東等に滞在。7月から奉天特務機関員兼務。	13	7
13	125	今井武夫日記	今井武夫		1949	昭和	24	8	27	日記	1951年1月3日迄。約1年5ヶ月間。	13	7
13	126	今井武夫日記	今井武夫		1947	昭和	22	1	23	日記	5月19日迄。復員後、妻の実家がある富山県井波町に帰宅。5月12日から5月19日は13-127に入るべきもの。表紙添付。	13	7
13	127	今井武夫日記	今井武夫		1947	昭和	22	4	7	日記	1949年8月26日迄。約2年4ヶ月間。一部13-126と補完の関係。表紙添付。	13	7
13	128	今井武夫日記	今井武夫		1938	昭和	13	9	10	日記	9月17日迄。13-127に紛れ込んでいたもの。2枚。	13	7
13	129	周仏海日記（邦訳）	周仏海		1940	昭和	15	1	1	日記	8月20日迄の周仏海日記の日本語翻訳。手書き。翻訳者不明。今井の戦後のノートに手書き清書してあるもの。3-61参照。	13	1
13	130	今井武夫日記	今井武夫		1943	昭和	18	4	16	日記	5月12日迄。南方旅行。10-39参照。	13	7
13	131	会報記録・今井武夫日記	今井武夫		1967	昭和	42	4	1	日記	会議記録は1965年1月4日。日記は1967年4月1日より4月7日迄の間。	13	7
13	132	今井武夫日記	今井武夫		1969	昭和	44	1	1	日記	8月22日迄。	13	7
13	133	今井武夫日記	今井武夫		1969	昭和	44	8	23	日記	1970年8月31日迄。約一年間。	13	7
13	134	今井武夫日記	今井武夫		1965	昭和	40	5	1	日記	6月2日迄。13-135と同一のノートに記載。	13	7
13	135	今井武夫日記	今井武夫		1970	昭和	45	9	1	日記	1971年2月11日迄。13-134と同一のノートに記載。	13	7
13	136～143（欠番）												
13	144	今井武夫日記	今井武夫		1968	昭和	43	1	1	日記	1968年12月31日迄。	13	7
13	145	今井武夫のパスポート	外務省		1975	昭和	50	1	16	書類	1975年7月27日～31日迄台湾へ。1978年5月25日～5月28日フィリピンへ。全日空搭乗券とコレラ予防接種証明書挿入あり。	13	1
13	146	雑記帳ノート	今井武夫		1969	昭和	44			メモ	2-11大久保伝蔵の「忘れてならぬ歴史の一部」読後感、勝海舟の原稿、米ソの武力の比較ほか。年は推定。	13	7
13	147	永世中立国スイスの国防と財政	今井武夫			昭和				メモ	外務省調査局の翻訳。	13	7
13	148	高柳賢三「永世中立の悩み」				昭和				新聞	13-147に挿入。	13	6
13	149	雑記帳ノート	今井武夫		1970	昭和	45			メモ	1969年6月28日永井洵一からの電話内容。1970年1月9日田尻愛義談。相楽総三についてほか。年代は推定。	13	7
13	150	満州馬隊 一覧表				昭和				名簿		13	1
13	151	ノモンハン記念ほか	今井武夫			昭和				メモ	2枚。3-149に挿入。	13	7
13	152	雑文	吉村竹州		1955	昭和	30	5		書類	竹州で正しいか。竹州は号で寔行か。	13	1
13	153	回想雑記 4号	吉村寔行		1955	昭和	30	1		書類	戦前の華北労働会館の設立のこと。竹州は寔行ことか。5号は13-134。	13	1
13	154	回想雑記 5号	吉村竹州		1955	昭和	30			書類	竹州は寔行のことか。根本博との関係について。息子に遺言4月15日あり。13-132参照。	13	1
13	155	桐工作 石井秋穂大佐回想録抜書ほか	今井武夫		1964	昭和	39	8		メモ	石井回想録は1946年春脱稿と今井が書いている。1940年7月29日今井と片山少佐、10月1日今井、鈴木中佐、東条陸相へ桐工作につき報告。戦後、1964年郷友連訪問のことも書いてある。ノートに記載。月は推定。	13	7

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備 考	参考 (箱)	参考 束
13	156	宇都宮の中共観は正しいほか	今井武夫			昭和				メモ	13-155に挿入。富士銀行の罫紙に記載。	13	7
13	157	雑記帳ノート	今井武夫		1970	昭和	45	3	28	メモ	ノートに記載。講話準備のためのノートか。3月28日付けの懐風草堂に於いての準備内容項目ほか。『昭和史の天皇 3』の頁数を記載し、かなり言及している。	13	7
13	158	雑記帳ノート	今井武夫			昭和				メモ	満州事変後における中国一般情勢ほか。	13	7
13	159	今井武夫日記	今井武夫		1934	昭和	9	1	1	日記	4月23日迄。13-124の続き。	13	7
13	160	今井武夫日記	今井武夫		1961	昭和	36	4	27	日記	1961年9月7日迄。昭和24年以後の日記で、手帳形式のもの。	13	7
13	161	今井武夫パスポート	外務省		1970	昭和	45	9	3	書類	今井のパスポート。1970年10月13日～23日迄台湾へ。天然痘予防接種証明書挿入あり。	13	1
13	162	今井武夫手帳	今井武夫		1942	昭和	18	1	1	手帳	12月31日迄。1980年？	13	7
13	163	今井武夫手帳	今井武夫		1943	昭和	18			メモ	昭和18年旅行要務事項ほか。	13	7
13	164	今井武夫手帳	今井武夫		1946	昭和	21			手帳	青島連絡部ほか。1944年の手帳だが、戦後1946年の記述あり。鈕先銘から送られた12月16日付けの詩記載あり。	13	7
13	165	今井武夫手帳	今井武夫		1943	昭和	18			メモ	大東亜大臣滞支旅行ほか。年は推定。	13	7
13	166	今井武夫手帳	今井武夫		1943	昭和	18			メモ	大東亜圏訪問の時のものか。	13	7
13	167	今井武夫手帳	今井武夫		1950	昭和	25	1	1	手帳	1月12日迄で、あとは記載なし。1950年12月31日迄の手帳。	13	7
13	168	今井武夫手帳	今井武夫		1950	昭和	26	1	1	手帳	1951年12月31日迄。	13	7
13	169	今井武夫手帳	今井武夫		1952	昭和	27	1	1	手帳	1952年12月31日迄。	13	7
13	170	今井武夫手帳	今井武夫		1952	昭和	28	1	1	手帳	1953年12月31日迄。	13	7
13	171	今井武夫手帳	今井武夫		1955	昭和	30	1	1	手帳	1955年12月31日迄	13	1
13	172	今井武夫手帳	今井武夫		1956	昭和	31	1	1	手帳	1956年12月31日迄。	13	7
13	173	今井武夫手帳	今井武夫		1956	昭和	32	1	1	手帳	1957年12月31日迄。	13	7
13	174	今井武夫手帳	今井武夫		1957	昭和	33	1	1	手帳	1958年12月31日迄。	13	7
13	175	今井武夫手帳	今井武夫		1958	昭和	34	1	1	手帳	1959年12月31日迄。	13	7
13	176	今井武夫手帳	今井武夫		1959	昭和	35	1	1	手帳	1960年12月31日迄。	13	7
13	177	今井武夫手帳	今井武夫		1960	昭和	36	1	1	手帳	1961年12月31日迄。	13	7
13	178	今井武夫手帳	今井武夫		1962	昭和	37	1	1	手帳	1962年12月31日迄。	13	7
13	179	今井武夫手帳	今井武夫		1962	昭和	38	1	1	手帳	1963年12月31日迄。	13	7
13	180	今井武夫手帳	今井武夫		1964	昭和	39	1	1	手帳	1964年12月31日迄。	13	7
13	181	今井武夫手帳	今井武夫		1966	昭和	41	1	1	手帳	1966年12月31日迄。	13	7
13	182	今井武夫手帳	今井武夫		1968	昭和	43	1	1	手帳	1968年12月31日迄。	13	7
13	183	少尉アレキサーダーについて	今井武夫		1968	昭和	43			メモ	13-182に挿入。	13	7
13	184	今井武夫手帳	今井武夫		1969	昭和	44	1	1	手帳	1969年12月31日迄。	13	7
13	185	今井武夫手帳	今井武夫		1969	昭和	45	1	1	手帳	1970年12月31日迄。	13	7
13	186	今井武夫手帳	今井武夫		1971	昭和	46	1	1	手帳	1971年12月31日迄。	13	7
13	187	今井武夫手帳	今井武夫		1972	昭和	47	1	1	手帳	1972年12月31日迄。	13	7
13	188	今井武夫手帳	今井武夫		1973	昭和	48	1	1	手帳	1973年12月31日迄。	13	7

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備 考	参考 (箱)	参考 束
13	189	今井武夫手帳	今井武夫		1973	昭和	49	1	1	手帳	1974年12月31日迄。鐘壬寿ほかの住所あり。	13	7
13	190	今井武夫手帳	今井武夫		1974	昭和	50	1	1	手帳	1975年12月31日迄。	13	7
13	191	今井武夫手帳	今井武夫		1976	昭和	51	1	1	手帳	1976年12月31日迄。	13	7
13	192	今井武夫手帳	今井武夫		1976	昭和	52	1	1	手帳	1977年12月31日迄。	13	7
13	193	今井武夫手帳	今井武夫		1942	昭和	17	10		手帳	昭和17年10月陸軍恤兵部発行の従軍手帳であるが、中身は晴気芳胤、阪田誠盛、多田駿などについて住所や電話番号などの戦後のメモと思われる。	13	7
13	194	今井武夫手帳	今井武夫			昭和				手帳	従軍手帳。記載なし。	13	7
13	195	住所録	今井武夫		1964	昭和	39			名簿	戦後30年代までのものか。年は推定。	13	7
13	196	住所録	今井武夫		1975	昭和	50			名簿	昭和50年前後のものか。年は推定。	13	7
14	1	内閣総理大臣の5諮問に対する答申	企画院		1942	昭和	17	7		書類	内閣総理大臣の5諮問に対する答申。極秘とある。	14	1
14	2	大東亜会議記録（日本語版）	大東亜省		1943	昭和	18	11	5	書類	11月5日、6日開催の議事録。汪兆銘の演説記録あり。今井も出席。極秘とある。	14	1
14	3	陸軍支那関係者 一覧表			1939	昭和	14	4	14	名簿	陸軍関係115人の名前と現職年月日記載あり。今井の鉛筆の抹消1964年9月。極秘とある。着任日、現職名、前職名記載あり。	14	1
14	4	今井武夫 支那事変日誌	今井武夫		1937	昭和	12	7	8	書類	14箱-束2所収のファイル。	14	2
14	5	今井武夫 支那事変日誌	今井武夫		1937	昭和	12	7	8	日記	10月26日迄。多分 今井の秘書・草野（旧姓織田）文男が筆記清書したものと思われる。草野は戦後拓大教授。複写用紙を使用しており、陸軍野紙に記載されている。内容は14-717の日記記述と、天候などにわずかだが若干異なる部分あり。盧溝橋事件。	14	2
14	6	秘陸同文 参謀次長宛電報	北平補佐官	参謀次長	1936	昭和	11	12	5	電報	北平補佐官は今井。複写したもの。冀察綏靖公署より得たる諜者報。2枚。陳誠、傅作義（ふさくぎ）の動きについて。当時の参謀次長は西尾壽造。冀察綏遠公署より得たる諜者報。	14	2
14	7	秘陸同文 参謀次長宛電報	北平補佐官	参謀次長	1936	昭和	11	12	14	電報	北平補佐官は今井。複写したもの。綏遠における中国側の勝利祝いと北平市に於ける大学生、中学生の排日デモの動き。当時の参謀次長は西尾壽造。	14	2
14	8	住所録			1937	昭和	12			書類	戦前のもの。昭和12年頃のものか。年代は推定。	14	3
14	9	今井武夫日記	今井武夫		1941	昭和	16	10	10	日記	於福山市西部第63部隊。1942年1月3日迄。	14	3
14	10	今井武夫日記	今井武夫		1946	昭和	21	6	29	日記	南京総連絡班期間中の日誌。1947年1月18日まで。1944年以来1946年5月までの今井の日記は「消失した」と記載されている。戦後遺された初の今井日記。	14	3
14	11	支那視察報告書写	土肥原賢二		1932	昭和	7	8	11	書類	武田用箋の野紙に記載。参考「専田少佐」とある。今井の同期である専田盛俊か。	14	4
14	12	冀東貿易ヲ廃止ス可カラサル理由	細木繁		1937	昭和	12	5	29	書類	細木は通州特務機関長。陸軍中佐。通州事件で戦死。写。極秘とある。何故か14-11と同じファイルにある。冀東政府の関税収入高と使途記載あり。	14	4
14	13	日本の対支政策雑感	今井武夫		1937	昭和	12	2	15	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。	14	5
14	14	冀察ノ指導方針ニ就テ	今井武夫		1937	昭和	12	2	16	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。	14	5
14	15	冀東政権ニ就テ	今井武夫		1937	昭和	12	2	17	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。	14	5
14	16	冀察冀東両政権ノ合流問題	今井武夫		1937	昭和	12	2	17	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。	14	5
14	17	在支警察機構ノ革正ニ就テ	今井武夫		1937	昭和	12	2	18	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。日付は17日とあるが18日か。	14	5

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
14	18	北支独立ノ能否ニ就テ	今井武夫		1937	昭和	12	2	18	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。	14	5
14	19	殷汝耕ノ不満	今井武夫		1937	昭和	12	2	21	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。	14	5
14	20	南京政府本質ノ一面	今井武夫		1937	昭和	12	2	21	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。	14	5
14	21	南京政府ノ統制力ニ就テ	今井武夫		1937	昭和	12	2	21	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。	14	5
14	22	日支両国民性ノ相違ト対支那政策ニ就テ	今井武夫		1937	昭和	12	2	22	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。	14	5
14	23	支那人ノ事大主義ニ対スル対策ノ一端	今井武夫		1937	昭和	12	2	23	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。	14	5
14	24	2月10日ノ殷汝耕ノ談話内容	今井武夫		1937	昭和	12	2	14	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。長城炭鉱の採掘権について。塩の権利、コカインの販売、阿片専売制について、ほか。	14	5
14	25	池宗墨ノ談	今井武夫		1937	昭和	12	2	25	報告書	駐在武官室の記録と思われる。池は冀東政府秘書処長兼外交処長。殷汝耕と同じ浙江省平陽県出身。明治大学を卒業している。陸軍野紙に記載。	14	5
14	26	最近列国ノ対支政策ノ傾向	今井武夫		1937	昭和	12	2	25	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。	14	5
14	27	南京政府ニ対日開戦決意ノ有無	今井武夫		1937	昭和	12	2	26	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。	14	5
14	28	冀東政府ノ財政状態	今井武夫		1937	昭和	12	4	5	報告書	駐在武官室の記録と思われる。9枚。陸軍野紙に記載。井戸垣駿主計少佐から、4月3日扶桑会館で冀東政府財務状態について今井が聴取した話。財政不健全。保安隊1万7000人の費用400万元。殷の機密費月20万元。殷は何処かに貯金している。	14	5
14	29	在支英勢力ノ最近ノ動向	今井武夫		1937	昭和	12	4	13	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。	14	5
14	30	第二十九軍各師長ノ関係	今井武夫		1937	昭和	12	4	22	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。前第二十九軍大佐盧殿文の談話要旨。軍長宋哲元、三十七師長馮治安、三十八師長張自忠、百三十二師長張登禹、百四十三師長劉汝明等の関係について。宋哲元と劉汝明の関係はよくない。	14	5
14	31	冀察要人ノ日本視察ニ表ハシタル態度	今井武夫		1937	昭和	12	5	10	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。	14	5
14	32	北支最近ノ情勢	今井武夫		1937	昭和	12	5	15	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。	14	5
14	33	軍ノ政治指導ニ就テ	今井武夫		1937	昭和	12	6	7	論文	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。	14	5
14	34	支那事変ノ発端ト共産党ノ関係ニ就テ	今井武夫		1937	昭和	12	11		報告書	陸軍野紙に記載。大佐時代の鉛筆修正あり。支那班長としての講演内容と思われる。	14	5
14	35	日支文化提携ニ関スル今井・靳・陳会談記録	今井武夫		1937	昭和	12	7	6	報告書	靳瑞萱と陳于庚。陳は靳の秘書長。北平武官時代のものか。年代月日は推定。陸軍野紙に記載。	14	5
14	36	対支政策の検討 目録	今井武夫		1937	昭和	12			論文	14箱-東6所収のファイル目録。陸軍野紙に記載。	14	6
14	37	一. 所謂対支再認識論	今井武夫		1937	昭和	12			論文	陸軍野紙に記載。	14	6
14	38	二. 支那統一ト日本ノ関係	今井武夫		1937	昭和	12			論文	陸軍野紙に記載。	14	6
14	39	三. 南京政府ノ対日政策	今井武夫		1937	昭和	12			論文	陸軍野紙に記載。	14	6
14	40	四. 冀察政権ノ中央化	今井武夫		1937	昭和	12			論文	陸軍野紙に記載。	14	6
14	41	五. 冀東政権ノ将来	今井武夫		1937	昭和	12			論文	陸軍野紙に記載。	14	6
14	42	六. 対支戦争ノ危機	今井武夫		1937	昭和	12			論文	陸軍野紙に記載。	14	6
14	43	七. 日支国交調整問題	今井武夫		1937	昭和	12			論文	陸軍野紙に記載。	14	6

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
14	44	日支事変一周年に際して	今井武夫		1938	昭和	13			回顧録	2年後に「三周年」として修正している。陸軍野紙に記載。	14	7
14	45	張作霖ノ墓所建設ト張学良ノ復活要望ノ件	今井武夫		1936	昭和	11	4	30	報告書	陸軍野紙に記載。日中戦争前の北平武官時代のものか。年度は全くの推定。なお奉天郊外の寺に安置されたまま扱われていなかった張作霖の葬儀が昭和12年5月に協和会の名で執り行われている。	14	7
14	46	北支浪人層ノ最近ニ於ケル動向	今井武夫		1936	昭和	11			報告書	陸軍野紙に記載。日中戦争前の北平武官時代のものか。年代は推定。	14	7
14	47	支那ノ現情勢ト対支政策ノ新基調	支那駐屯軍司令部		1937	昭和	12	2	26	報告書	北平陸軍武官室受付は3月28日。	14	7
14	48	国際情勢月報（第33号）	参謀本部		1941	昭和	16	10	25	書類	極秘扱い。	14	7
14	49	今井武夫 南方旅行記（日記）	今井武夫		1944	昭和	19	1	25	日記	2月21日迄。台北からサイゴン、昭南、クワラルンプール、ペナン、アロースター、ラングーン、バンコック等を廻った。ノートに記載。	14	7
14	50	声明案			1938	昭和	13	10		書類	広東、武漢三鎮を攻略して支那の要域を裁定した声明案。年代は推定。	14	7
14	51	記念写真の説明	田部		1943	昭和	18	3	27	書類	1843年3月27日～28日の若杉参謀（「若杉」は三笠宮殿下の秘匿名）の写真。「祭」兵団（第15師団）隷下の歩兵51連隊を激励。日付けは推定。	14	7
14	52	家庭薬使用心得	二宮重通		1946	昭和	21	9		書類	二宮は南京日本総連絡班所属少佐。軍医。作成年月は推定。	14	7
14	53	中国の地図				昭和				地図	「第五張」の地図。年号は推定。	14	7
14	54	中国萬寿山地図				昭和				地図		14	7
14	55	中国王荘地図				昭和				地図		14	7
14	56	王自恵の路線	今井武夫		1944	昭和	19	12		書類	繆斌工作中止するよう朝日の松田記者に伝言と追加メモあり。陸軍野紙に記載。年代は1944年12月か1945年か。	14	7
14	57	今井武夫 支那事変手記	今井武夫		1938	昭和	13	6	7	日記	6月9日迄3日間。6月9日から遡及した日付で記載。唐紹儀工作について。陸軍野紙に記載。年代は推定。14-286の一部か。	14	7
14	58	「27日に在平（北京）同胞に引揚げ令」	新支那社		1937	昭和	12	7	27	新聞	新支那号外 第1 昭和12年7月27日号。	14	8
14	59	「今井武官秦徳純と交渉 通州の29軍を追放 引揚げ数 内地人1300名」	新支那社		1937	昭和	12	7	27	新聞	新支那号外 第2 昭和12年7月27日号。	14	8
14	60	新支那号外 第1	新支那社		1937	昭和	12	7	28	新聞	昭和12年7月28日号。	14	8
14	61	「今井陸軍武官談」	新支那社		1937	昭和	12	7	28	新聞	新支那号外 第2 昭和12年7月28日号。	14	8
14	62	新支那号外 第3 昭和12年7月28日号	新支那社		1937	昭和	12	7	28	新聞		14	8
14	63	「今井陸軍武官の時局説明」	新支那社		1937	昭和	12	7	28	新聞	新支那号外 第4 昭和12年7月28日号。	14	8
14	64	「宗哲元以下冀察首脳部ら逃走！」	新支那社		1937	昭和	12	7	29	新聞	新支那号外 第10 昭和12年7月29日号。	14	8
14	65	新支那号外 第12	新支那社		1937	昭和	12	7	29	新聞		14	8
14	66	「元老江朝宗治安維持会に乗り出す」	新支那社		1937	昭和	12	7	30	新聞	新支那号外 第18 昭和12年7月30日号。	14	8
14	67	新支那号外 第20	新支那社		1937	昭和	12	7	30	新聞		14	8
14	68	「北平市地方維持会けふ歴史的に誕生」	新支那社		1937	昭和	12	7	30	新聞	新支那号外 第23 昭和12年7月30日号。	14	8
14	69	新支那号外 第25	新支那社		1937	昭和	12	7	31	新聞	25は24の間違いか。	14	8
14	70	「細木繁中佐殉職」（通州事件で）	新支那社		1937	昭和	12	7	31	新聞	新支那号外 第26 昭和12年7月31日号。	14	8
14	71	新支那号外 第27 昭和12年8月1日号	新支那社		1937	昭和	12	8	1	新聞		14	8
14	72	新支那号外 第28 昭和12年8月1日号	新支那社		1937	昭和	12	8	1	新聞		14	8

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
14	73	新支那号外 第29 昭和12年8月1日号	新支那社		1937	昭和	12	8	1	新聞		14	8
14	74	「今井武官も花輪」	新支那社		1937	昭和	12	8	1	新聞	新支那号外 第30号 昭和12年8月1日号。	14	8
14	75	新支那号外 第31 昭和12年8月1日号	新支那社		1937	昭和	12	8	1	新聞		14	8
14	76	新支那号外 第32 昭和12年8月2日号	新支那社		1937	昭和	12	8	2	新聞		14	8
14	77	新支那号外 第33 昭和12年8月2日号	新支那社		1937	昭和	12	8	2	新聞		14	8
14	78	新支那号外 第34 昭和12年8月2日号	新支那社		1937	昭和	12	8	2	新聞		14	8
14	79	新支那号外 第35 昭和12年8月2日号	新支那社		1937	昭和	12	8	2	新聞		14	8
14	80	新支那号外 第36 昭和12年8月2日号	新支那社		1937	昭和	12	8	2	新聞		14	8
14	81	新支那号外 第37 昭和12年8月3日号	新支那社		1937	昭和	12	8	3	新聞		14	8
14	82	新支那号外 第38 昭和12年8月3日号	新支那社		1937	昭和	12	8	3	新聞		14	8
14	83	新支那号外 第39 昭和12年8月3日号	新支那社		1937	昭和	12	8	3	新聞		14	8
14	84	新支那号外 第40 昭和12年8月3日号	新支那社		1937	昭和	12	8	3	新聞		14	8
14	85	「皇軍部隊今朝入平」	新支那社		1937	昭和	12	8	3	新聞	新支那号外 第41号 昭和12年8月3日号。	14	8
14	86	新支那号外 第42 昭和12年8月4日号	新支那社		1937	昭和	12	8	4	新聞		14	8
14	87	新支那号外 第43 昭和12年8月4日号	新支那社		1937	昭和	12	8	4	新聞		14	8
14	88	新支那号外 第46 昭和12年8月6日号	新支那社		1937	昭和	12	8	6	新聞	第46は45の間違いか。	14	8
14	89	新支那号外 第46 昭和12年8月6日号	新支那社		1937	昭和	12	8	6	新聞		14	8
14	90	新支那号外 第48 昭和12年8月6日号	新支那社		1937	昭和	12	8	6	新聞		14	8
14	91	新支那号外 第49 昭和12年8月6日号	新支那社		1937	昭和	12	8	6	新聞		14	8
14	92	新支那号外 第51 昭和12年8月7日号	新支那社		1937	昭和	12	8	7	新聞		14	8
14	93	今井武夫日記	今井武夫		1940	昭和	16	1	1	日記	8月15日迄。一部分は陸軍野紙に記載。残りは上海（昭和洋行）南京野紙に記載されている。	14	9
14	94	年頭の辞	今井武夫		1941	昭和	16	1	1	書類	14-93に挿入。今井は支那派遣軍報道部長として。タイプ印刷したもの2枚。	14	9
14	95	「長期戦の構え」			1941	昭和	16	1	1	新聞	14-93に挿入。掲載紙不明。今井の年頭の辞の挨拶。新聞切抜。	14	9
14	96	支那派遣軍報道部長談	今井武夫		1941	昭和	16	1	22	書類	14-93に挿入。	14	9
14	97	今井報道部長談「旧正月を目前に重慶財政益々逼迫」	大陸新報社		1941	昭和	16	1	22	新聞	14-93に挿入。東京大陸新報。新聞切抜。	14	9
14	98	支那派遣軍報道部長談	今井武夫		1941	昭和	16	1	24	書類	14-93に挿入。	14	9
14	99	支那派遣軍報道部長談	今井武夫		1941	昭和	16	2		書類	14-93に挿入。	14	9
14	100	支那派遣軍報道部長談	今井武夫		1941	昭和	16	2	18	書類	14-93に挿入。	14	9
14	101	支那派遣軍報道部長談	今井武夫		1941	昭和	16	2	22	書類	14-93に挿入。	14	9
14	102	「感慨深し汪主席 気象台 博物館を視察」			1941	昭和	16	5	3	新聞	掲載紙不明。14-93に貼付。新聞切抜。	14	9
14	103	今井部隊長着任行事			1941	昭和	16	8	6	書類	14-93に挿入。陸軍野紙に記載。福山に着任。	14	9
14	104	今井部隊長着任時挨拶廻り先			1941	昭和	16	8	7	書類	14-93に挿入。陸軍野紙に記載。	14	9
14	105	参考書綴	今井武夫		1938	昭和	13			書類	14箱一束10所収のファイル。	14	10

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
14	106	三木清氏述 支那事変の世界史的意義	昭和研究会事務局		1938	昭和	13	10		書類		14	10
14	107	対支策戦への一示唆 - 歴史地理学的考察一	小牧實繁・米倉二郎		1938	昭和	13			書類	1938年5月13日調査班受付。小牧は京大、米倉は和歌山高商教授。	14	10
14	108	湖北の軍事地理	小牧實繁・米倉二郎		1938	昭和	13			書類		14	10
14	109	特務機関改造ニ関スル意見	柴山兼四郎		1939	昭和	14	4	9	書類	柴山は天津陸軍特務機関長。	14	10
14	110	支那行政区域首都考	大谷光瑞		1938	昭和	13	7	30	書類	支那事変後の首都をどこにするかを論じている。	14	10
14	111	サッスーン家について			1938	昭和	13			書類	調査レポート。陸軍野紙に書かれている。年代は1938年から1939年。	14	10
14	112	支那行政区域首都考	大谷光瑞		1938	昭和	13	7	30	書類	支那事変後の首都をどこにするかを論じている。14-110と重複か。	14	10
14	113	支那事変前後方策	大谷光瑞		1938	昭和	13	7	25	書類		14	10
14	114	西江水力発電計画書	栗原忠三		1939	昭和	14	4	26	書類	陸軍野紙に記載。	14	10
14	115	中国の地図			1938	昭和	13			地図	14箱-東10所収のファイルに挿入。14-110関連か。手書きしたものを印刷したもの。年は推定。	14	10
14	116	参本 今井少佐殿			1947	昭和	22			書類	封筒。14箱-東11所収の封筒。	14	11
14	117	支那事変行賞一時賜金			1943	昭和	18	12	23	書類		14	11
14	118	今井武夫宛「支那事変行賞賜金国債送付ノ件」	名古屋師団行賞賜金取扱復分任官	今井武夫	1943	昭和	18	12	23	書類	今井宛賜金三千元。	14	11
14	119	支那事変行賞 賜金国債 老千円			1940	昭和	15			書類	同一3枚。	14	11
14	120	支那事変行賞賜金国庫債券受領後ノ注意事項			1940	昭和	15			書類	年代は推定。	14	11
14	121	今井武夫宛郵便貯金証明書	小林浅三郎	今井武夫	1945	昭和	20	9	28	書類	10800円。小林は支那派遣軍総司令部参謀長。	14	11
14	122	今井武夫宛郵便貯金証明書	岡村寧次	今井武夫	1945	昭和	20	10	1	書類	8640円。岡村は支那派遣軍総司令官大将。	14	11
14	123	身分証明書「陸軍少将今井武夫」	支那派遣軍総司令部		1945	昭和	20	10	1	書類		14	11
14	124	従軍証明書「陸軍少将今井武夫」	岡村寧次		1947	昭和	22	1	4	書類	岡村は支那派遣軍総司令官。今井は1月4日に予備役編入。	14	11
14	125 (欠番)												
14	126	今井の写真入りポストカード			1937	昭和	12			絵葉書	駐在武官時代のものか。年代は完全に推定。	14	12
14	127	重要書類綴 汪精衛関係	今井武夫		1938	昭和	13			書類	14箱-東13所収のファイル。	14	13
14	128	渡辺工作の現況	今井武夫		1938	昭和	13	11	15	報告書	今井は中佐。高宗武のことを渡辺と仮称。『支那事変の回想』287頁～293頁に記載あり。この頃は 広西 広東 雲南 四川の四省を区域とする。日本軍が占領していない雲南並びに四川に独立政府をつくり 5～10個師の軍隊を編成する予定であった。	14	13
14	129	渡辺工作の現況（第二号）	今井武夫		1938	昭和	13	11	21	報告書	今井は中佐。『支那事変の回想』293頁～298頁に記載あり。15部の内のゼロ号（番号なし）。	14	13
14	130	日華協議記録			1938	昭和	13	11	20	書類	和平条件は中国の主権の尊重、租界の返還、不平等条約の撤回等を主とするもの。『支那事変の回想』80～81頁に記載あり。	14	13
14	131	日華協議記録諒解事項			1938	昭和	13	11	20	書類	（日本側）影佐、今井（中国側）高、梅調印内容。14-128に添付。『支那事変の回想』81頁に記載あり。	14	13
14	132	日華秘密協議記録			1938	昭和	13	11	20	書類	（日本側）影佐、今井（中国側）高、梅調印内容。14-128に添付。『支那事変の回想』81～82頁に記載あり。	14	13
14	133	渡辺工作の現況（第三号）	今井武夫		1938	昭和	13	12	6	報告書	汪兆銘工作の開始。高宗武のことを渡辺と仮称。『支那事変の回想』298頁～299頁に記載あり。	14	13

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
14	134	渡辺工作の現況（第四号）	今井武夫		1939	昭和	14	1	15	報告書	汪兆銘の重慶からの脱出について、蒋介石、中国各新聞の反応など。『支那事変の回想』299頁～305頁に記載あり。15部の内のゼロ号（番号なし）。	14	13
14	135	汪精衛一派ニ依ル蔣政権内部崩壊ニ関する謀略ニ就テ			1939	昭和	14	1		書類	於五相会議席上 板垣陸軍大臣説明案、近衛の辞任後のもので1月中旬のものか。「500万から1000万香港ドル積立必要」と。	14	13
14	136	陶希聖の文書の写真			1940	昭和	15	2	17	写真	汪精衛事件の反響を表した陶希聖の文書の写真資料か。7枚。14-135に添付。	14	13
14	137	支那側ノ和平条件ト之ニ対処スヘキ日本ノ態度 一. 和平条件 二. 支那側ノ真意 三. 日本ノトルヘキ態度	小川愛次郎		1940	昭和	15	3	5	書類	第48号。「重慶大公報」に公表された2月25日付け支那側和平条件についてのコメント。小川は満鉄上海公社。18-351参照。	14	13
14	138	陶希聖「新中央政権 是重慶」			1940	昭和	15			雑誌	掲載誌不明。切抜。雑誌か。年代は全くの推定。	14	13
14	139	南方旅行書類 今井少将	今井武夫		1943	昭和	18	3	22	書類	14箱-東14所収のファイル。	14	14
14	140	南出第1号 南方出張打合せノ件			1943	昭和	18	3	22	書類	大東亜省の罫紙に記載。	14	14
14	141	青木大東亜大臣出張ニ関スル出先へノ通知及発表ノ件			1943	昭和	18	3		書類	大日本帝国政府の罫紙に記載。大臣出発までは極秘とする。	14	14
14	142	青木大東亜大臣ノ出張ニ関シ記事掲載禁止ノ件			1943	昭和	18	3		書類	大日本帝国政府の罫紙に記載。	14	14
14	143	青木大臣南方旅行予定			1943	昭和	18	3		書類	随行者は今井を筆頭に、愛知揆一ほか全5名。予定表添付。月は推定。	14	14
14	144	大東亜大臣飛行予定各地点距離図			1943	昭和	18	3		書類		14	14
14	145	関連部隊構成将官名簿	今井武夫		1943	昭和	18	3		名簿	大本営陸軍部罫紙に記載。14-144関連。岡部隊ほか。月は推定。	14	14
14	146	山本熊一書簡	山本熊一	澤井頼雄（海軍次官）	1943	昭和	18	3	24	書簡	青木大臣一行南方視察ニ関スル件。山本は大東亜次官。大日本帝国政府の罫紙に記載。	14	14
14	147	山本熊一書簡	山本熊一	富永恭次（陸軍次官）	1943	昭和	18	3	24	書簡	青木大臣一行南方視察ニ関スル件。山本は大東亜次官。大日本帝国政府の罫紙に記載。	14	14
14	148	大東亜大臣飛行予定各地点距離図			1943	昭和	18	3		書類	月は推定。	14	14
14	149	航空総監機飛行予定各地点距離図			1943	昭和	18	3		書類	月は推定。	14	14
14	150	関連部隊構成将官名簿	今井武夫		1943	昭和	18	3		名簿	月は推定。	14	14
14	151	南方海軍病院及根拠地隊病舎ニ於ケル入院及入室患者概数			1943	昭和	18	3		書類	海軍罫紙に記載。月は推定。	14	14
14	152	昭和17年12月ニ於クル数			1943	昭和	18	3		書類	陸軍罫紙に記載。入院患者数か。月は推定。	14	14
14	153	軍政機構ノ大様			1943	昭和	18	3		書類	大日本帝国政府の罫紙に記載。月は推定。	14	14
14	154	南方資源開発状況一覽表（地下資源）			1943	昭和	18	3		書類	大日本帝国政府の罫紙に記載。月は推定。	14	14
14	155	南方資源開発状況一覽表（農産資源）			1943	昭和	18	3		書類	大日本帝国政府の罫紙に記載。月は推定。	14	14
14	156	軍用定期運航表	南方航空輸送部		1943	昭和	18	3		書類		14	14
14	157	広東、海口宛電報	大東亜大臣		1943	昭和	18	3		電報	「大臣南方旅行ノ件」。月は推定。写。	14	14
14	158	内務省警保局長、情報局第四部長宛電報	大東亜省総務局長	内務省警保局長、情報局第四部長	1943	昭和	18	3	25	電報	新聞紙等ノ記事掲載禁止方依頼ノ件（案）。大東亜省罫紙に記載。	14	14
14	159	大東亜大臣訪問先への贈与品目リスト			1943	昭和	18	3		書類	大日本帝国政府の罫紙に記載。宛先と値段記入あり。タイのピピン首相への贈り物が一番値段が高い。月は推定。	14	14
14	160	旅費概算額調			1943	昭和	18	3		書類	大東亜省罫紙に記載。月は推定。	14	14

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
14	161a	青木大東亜大臣寄台日程			1943	昭和	18	4	16	書類	追加したので箱番号は14-161-a。	14	
14	161b	台北毎日オオノ宛電報	タナカ	台北毎日オオノ	1943	昭和	18	4	16	電報	帰られたら印象記本紙に掲載させて欲しいと今井少将に伝言頼む。14-14ファイルに挿入。追加したので箱番号は14-161-b。	14	14
14	162	青木大東亜大臣来香時ノ行動予定表	総督部		1943	昭和	18	4	17	書類		14	14
14	163	青木大臣滞台日程			1943	昭和	18	4	17	書類	在広東日本総領事館の罫紙に記載。	14	14
14	164	「オット」前独大使一行南方視察行動 予定表			1943	昭和	18	4	16	書類	裏に4月18日から 5月16日までの予定メモあり。	14	14
14	165	青木大東亜大臣来島視察ノ件通知	海南警備府副官	関係各所轄長	1943	昭和	18	4	16	書類	関係各所轄長宛通知。海南警備府機密台33号ノ11	14	14
14	166	茶会出席者名簿			1943	昭和	18	4	20	書類	4月19日於大使館邸茶会、20日於仏印総督邸晩餐会、於大使館邸茶会出席者リスト	14	14
14	167	青木大東亜大臣西貢滞台日程	在西貢大使府支部		1943	昭和	18	4	21	書類	年は推定。	14	14
14	168	青木大東亜大臣へノ連絡事項			1943	昭和	18	4	18	書類	極秘事項。印度支那駐屯軍の状況。調査部設置の件。仏印の経済情勢の悪化。仏印放送施設の改造・仏人叙勲等問い合わせ・依頼事項記載あり。日付は推定。	14	14
14	169	参謀長宛電報	岡軍政総監	参謀長	1943	昭和	18	4	18	電報	大東亜大臣の視察日程につき、今井少将に伝えられたし。28日クチン、30日サンダカン、2日バレンバンへ出発としたし。岡とは昭南の第7方面軍のこと。南政 899号。	14	14
14	170	仏印衛生機関現在入院患者調査表	信集軍医班		1943	昭和	18	4	21	書類	信とは印度支那の第21師団のことか。	14	14
14	171	自昭和17年2月至11月 部隊患者発生 状況表	信集軍医班		1943	昭和	18	4	7	書類	信とは印度支那の第21師団のことか。	14	14
14	172	昭和17年度月別西貢河内気象対照表	信集軍医班		1943	昭和	18	4	15	書類	信とは印度支那サイゴンの第21師団のことか。	14	14
14	173	昭和17年度西貢河内気象緒元対照表	信集軍医班		1943	昭和	18	4	15	書類	信とは印度支那サイゴンの第21師団のことか。	14	14
14	174	青木大東亜大臣ノ新聞記者ニ対スルす 「ステートメント」	青木一男		1943	昭和	18	4	23	書類	日付は推定。	14	14
14	175	青木大臣タイに於けるスケジュール			1943	昭和	18	4	22	書類		14	14
14	176	タイ協力関係改善得策資料	在タイ国日本帝国大使館		1943	昭和	18	4	22	書類	タイ情勢についての報告文書と提案。在タイ国日本帝国大使館罫紙に記載。日付は推定。	14	14
14	177	日タイ共同コミュニケ			1943	昭和	18	4	25	書類	日タイは共同の運命に立つ両国の結束を再確認し戦争完遂及び大東亜建設の為共同に採るべき方途に付完全なる意見の一致を見た。	14	14
14	178	日タイ共同コミュニケ（案）			1943	昭和	18	4	24	書類	14-177の原稿か。在タイ国日本帝国大使館の罫紙に記載。	14	14
14	179	大東亜大臣行動予定表	森集団司令部		1943	昭和	18	4	21	書類	森とはビルマ方面軍のこと。4月25日から26日までの予定。	14	14
14	180	大東亜大臣行動予定表	南方軍軍政総監部		1943	昭和	18	4	26	書類	日付は推定。	14	14
14	181	大東亜大臣視察計画	灘集団司令部		1943	昭和	18	4	28	書類	灘は第37軍。軍司令官は山脇正隆中將。ボルネオ在。日付は推定。	14	14
14	182	奉祝学芸会順序			1943	昭和	18	4	28	書類	日付は推定。現地人児童劇プログラムか。	14	14
14	183	大東亜大臣行動予定表	軍政総監部		1943	昭和	18	4	29	書類	日付は推定。	14	14
14	184	青木大東亜大臣視察日程第一日			1943	昭和	18	4	30	書類	陸軍罫紙に記載。	14	14
14	185	大東亜大臣ジャワ視察行動予定表	ジャワ軍政監部		1943	昭和	18	5	1	書類		14	14
14	186	青木大東亜相バンドン視察予定	プリアンガン州庁		1943	昭和	18	5	3	書類		14	14
14	187	青木大東亜大臣視察並ニ見学予定ノ件 通知	第21特別根拠地隊副官		1943	昭和	18	5	2	書類		14	14
14	188	スケジュール	今井武夫		1943	昭和	18	5	3	メモ	日付は推定。	14	14

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
14	189	水城（タマンサリ）			1943	昭和	18	5	2	書類	インドネシアの遺跡の説明文。月日は推定。Taman Sari（タマンサリ）とは、インドネシア・ジャワ王族が特別なトリートメントを受けてきた王宮内の「水の宮殿」を意味する。	14	14
14	190	青木大東亜大臣視察日程			1943	昭和	18	5	6	書類	マロス。日付は推定。	14	14
14	191	別紙第1 青木大東亜大臣視察日程			1943	昭和	18	5	8	書類	メナド。日付は推定。	14	14
14	192	青木大東亜大臣視察地図			1943	昭和	18	5	8	地図	日付は推定。	14	14
14	193	青木大東亜相一行視察日程			1943	昭和	18	5	9	書類	ササ飛行場着。	14	14
14	194	大東亜大臣行動予定表			1943	昭和	18	5	10	書類	マニラ。	14	14
14	195	青木大東亜大臣寄台日程			1943	昭和	18	5	13	書類	台北。	14	14
14	196	今井「関東甲信たよりに 近況報告」	陸士三十期生会		1956	昭和	31	6		冊子	第三十期生会 会誌 4号。4月28日第3回総会（於参議院会館）につき記載あり。会報が会誌と名称変更する。21-38に同じ。	14	1
14	197	写真封筒	北村写真館		1943	昭和	18	4	22	封筒	14-198～209までの写真を所収。	14	14
14	198	戦勝記念塔を参拝する青木大臣と坪上大使 バンコックにて	毎日新聞社大阪写真班		1943	昭和	18	4	22	写真	タイ駐在坪上貞二大使。	14	14
14	199	タイのピブン首相を官邸に訪問した青木大東亜省 バンコックにて	毎日新聞社大阪写真班		1943	昭和	18	4	22	写真		14	14
14	200	坪上大使の出迎えを受け飛行場に着いた青木大東亜相 バンコックにて	毎日新聞社大阪写真班		1943	昭和	18	4	22	写真	タイ駐在 上貞二大使。	14	14
14	201	ピブン首相と記念撮影の青木一男大東亜大臣 今井 バンコック首相官邸にて	毎日新聞社大阪写真班		1943	昭和	18	4	22	写真	同一2枚あり。	14	14
14	202	ハノイで 仏印総督官邸を訪問 ドクー総督に挨拶する大東亜大臣	毎日新聞社大阪写真班		1943	昭和	18	4	19	写真		14	14
14	203	ハノイにて 仏印ドクー総督邸を訪問した大東亜大臣と芳沢大使	毎日新聞社大阪写真班		1943	昭和	18	4	19	写真	日付は推定。	14	14
14	204	芳沢大使主催茶会に於ける青木一男大東亜相芳沢大使 ドクー総督随員 谷岡平八郎 今井 萩原修 渡辺修 愛知揆一	毎日新聞社大阪写真班		1943	昭和	18	4	20	写真	中央に大東亜大臣青木一男、向って右に 芳沢大使、左 ドクー総督。後ろに随員。右より谷岡少佐、今井少将、萩原政務課長、愛知経済課長、渡辺秘書官。	14	14
14	205	青木一男大東亜相 今井ら ビルマラングーン モンキーポイント砲台視察	毎日新聞社大阪写真班		1943	昭和	18	4	25	写真		14	14
14	206	青木一男大東亜相とバーモ長官の会見	毎日新聞社大阪写真班		1943	昭和	18	4	25	写真		14	14
14	207	青木一男大東亜相とバーモ長官の会見後列はビルマ幹部 9名	毎日新聞社大阪写真班		1943	昭和	18	4	25	写真		14	14
14	208	昭南 陸軍病院慰問の青木一男大東亜相	毎日新聞社大阪写真班		1943	昭和	18	4	30	写真		14	14
14	209	今井武夫			1942	昭和	17	7		写真	大佐時代のものか。年月は推定。	14	
14	210	緬甸旅行書類 今井参事官	今井武夫		1944	昭和	19	1	25	書類	14箱-東15所収のファイル。緬甸以外にも、仏印、タイ、昭南も廻っている。14-49に日記あり。日付は推定。	14	15
14	211	出張日程表			1944	昭和	19	1	25	書類	大東亜省官房審議室参事官今井。大東亜省の罫紙に記載。	14	15
14	212	緬甸棉作地ト1939—40年ノ植付英反			1944	昭和	19	1		書類	年月は推定。手書きの地図に数字が記載されている。	14	15
14	213	宛先不明電報		宛先不明	1944	昭和	19	1		電報	26号。ビルマ華僑概況ニ関スル件。年月は推定。	14	15
14	214	宛先不明電報		宛先不明	1944	昭和	19	1		電報	今年度実施スヘキ重要政策ニ関スル件。ビルマ関連。年月は推定。	14	15

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
14	215	宛先不明電報		宛先不明	1944	昭和	19	1		電報	ビルマ国内反バー・モウ勢力ノ懐柔ニ関スル件。年月は推定。独立以前からバー・モウを悩ます国防軍との関係。	14	15
14	216	次長 次官 岡宛電報電報	森参謀長	次長 次官 岡	1944	昭和	19	1	22	電報	森方参二電75、76号。ビルマ国政情重要なる事項。森はビルマ方面軍の通称。岡とは第7方面軍。	14	15
14	217	南方旅行報告要旨	今井武夫		1944	昭和	19	2	17	報告書	在仏印大日本特派大使府西貢支部の野紙に記載。年月日は推定。	14	15
14	218	日緬合同戦争協力機関設置要領	森参謀部		1944	昭和	19	1	6	書類	陸軍野紙に記載でタイプで記載。森はビルマ方面軍の通称。	14	15
14	219	戦争協力機関「ビルマ」個人名義			1944	昭和	19	1		書類	14-218の後に挿入。同じ陸軍野紙に記載され、タイプが同じ。年月は推定。	14	15
14	220	当面ノ「タイ」国情勢ニ対スル判断			1944	昭和	19	2	17	書類	日本文化会館の野紙に記載。極秘扱い。月日は推定。14-217の別紙にあたる。ピブン政権と日本軍との関係等。	14	15
14	221	当面ノ対「タイ」施策要領			1944	昭和	19	2	17	書類	日本文化会館の野紙に記載。極秘扱い。月日は推定。14-217の別紙にあたる。	14	15
14	222	アロスター視察所感	萩原書記官		1944	昭和	19	2	1	書類	在「タイ」国日本帝國大使館の野紙に記載。アロスターは英領マラヤが当時日本が占領していた。タイはこの頃マレー4州を日本軍の協力で編入した。日付は推定。5枚。	14	15
14	223	次長宛電報	森部隊参謀長	次長	1944	昭和	19	1	24	電報	75号。極秘親展。森はビルマ方面軍の通称。最近の緬甸の国政に関する重要事項。バー・モウに対する信頼思わしからず。	14	15
14	224-1	次長 次官 岡宛電報	森部隊参謀長	次長 次官 岡	1944	昭和	19	1	24	電報	76号。75号の続き。極秘親展。14-223の続き。最近の緬甸の国政に関する重要事項。独立したバー・モウ政権について。森はビルマ方面軍の通称。岡は第7方面軍。オンサンとバーモの対立。	14	15
14	224-2	次長 次官 岡宛電報	森部隊参謀長	次長 次官 岡	1944	昭和	19	1	24	電報	68号。極秘親展。バー・モウの来訪と懇談内容について。森はビルマ方面軍の通称。岡は第7方面軍。オンサンとバーモの対立。	14	15
14	225	84号 次長 次官 岡宛電報	森部隊参謀長	次長 次官 岡	1944	昭和	19	1	26	電報	極秘。森はビルマ方面軍の通称。岡は第7軍。バー・モウ総理上京の際述べた日緬戦争協力協議機関の設置終了。	14	15
14	226	青木（大東亜大臣）電報	北沢代理大使	青木（大東亜大臣）	1944	昭和	19	2	17	電報	日本人暴徒等のバー・モウ官邸乱入事件 極秘。電信写。17号。	14	15
14	227	青木一男大東亜大臣宛電報	澤田大使	青木（大東亜大臣）	1944	昭和	19	2	19	電報	日本人暴徒等のバー・モウ官邸乱入事件の大使の見舞い。14-226関連。極秘。電信写。22号。	14	15
14	228	青木（大東亜大臣）電報	坪上大使	青木（大東亜大臣）	1944	昭和	19	2	16	電報	極秘。電信写。当面ノ「タイ」国情勢並ニ対「タイ」施策ニ関する件。214号。タイ駐在坪上貞二大使。	14	15
14	229	青木（大東亜大臣）電報	坪上大使	青木（大東亜大臣）	1944	昭和	19	2	16	電報	極秘。電信写。215-1号。当面ノ「タイ」に対する判断。タイ駐在坪上貞二大使。	14	15
14	230	青木（大東亜大臣）電報	坪上大使	青木（大東亜大臣）	1944	昭和	19	2	17	電報	極秘。電信写。215-2号。通知ノ「タイ」国情勢並ニ対「タイ」施策ニ関する件。タイ駐在坪上貞二大使。	14	15
14	231	青木（大東亜大臣）電報	坪上大使	青木（大東亜大臣）	1944	昭和	19	2	17	電報	極秘。電信写。215-3号。当面ノ「タイ」国情勢並ニ対「タイ」施策ニ関する件。タイ駐在坪上貞二大使。	14	15
14	232	青木（大東亜大臣）電報	坪上大使	青木（大東亜大臣）	1944	昭和	19	2	17	電報	極秘。電信写。215-4号。当面ノ「タイ」国情勢並ニ対「タイ」施策ニ関する件。タイ駐在坪上貞二大使。	14	15
14	233	青木（大東亜大臣）電報	坪上大使	青木（大東亜大臣）	1944	昭和	19	2	17	電報	極秘。電信写。215-5号。当面ノ「タイ」国情勢並ニ対「タイ」施策ニ関する件。タイ駐在坪上貞二大使。	14	15
14	234	青木（大東亜大臣）電報	坪上大使	青木（大東亜大臣）	1944	昭和	19	2	17	電報	極秘。電信写。215-6号。当面ノ「タイ」国情勢並ニ対「タイ」施策ニ関する件。タイ駐在坪上貞二大使。	14	15
14	235	青木（大東亜大臣）電報	坪上大使	青木（大東亜大臣）	1944	昭和	19	2	18	電報	極秘。電信写。当面ノ「タイ」国情勢並ニ対「タイ」施策ニ関する件。216号。タイ駐在坪上貞二大使。	14	15
14	236	青木（大東亜大臣）電報	坪上大使	青木（大東亜大臣）	1944	昭和	19	2	14	電報	極秘。電信写。被爆ニ際シ執リタル電信処理状況。14号。タイ駐在坪上貞二大使。	14	15
14	237	青木（大東亜大臣）電報	坪上大使	青木（大東亜大臣）	1944	昭和	19	2	15	電報	極秘。電信写。盤谷被爆ニ関スル件。20号。タイ駐在坪上貞二大使。	14	15
14	238	ビルマ国政情ニ関スル判断	ビルマ方面軍司令部		1944	昭和	19	2	2	書類	極秘。15部の内第8号。自由印度仮政府と印度国民軍との緊密なる関係を反映させる。	14	15
14	239	西尾寿造書簡	西尾寿造	今井武夫	1941	昭和	16	8	11	書簡	西尾は軍事参議官陸軍大将。今井への栄転祝い。名刺に記載。	14	16

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
14	240	西尾寿造書簡	西尾寿造	今井武夫	1941	昭和	16	8	31	書簡	過日外出。御高配感謝と祈勇武。名刺に記載。封筒付き。	14	16
14	241	西尾寿造書簡	西尾寿造	今井武夫	1942	昭和	17	5	17	書簡	パターン攻略での戦果のお祝い。	14	16
14	242	松山良政書簡	松山良政	今井武夫	1971	昭和	46	7	3	書簡	盧溝橋の時の証言。重要。松山は陸士29期。旅団司令部高級副官。のち第6連隊長。	14	16
14	243	松山良政書簡	松山良政	今井武夫	1974	昭和	49	7	5	書簡	支那事変の時の証言。陸士29期。	14	16
14	244	大塚賢三書簡	大塚賢三	今井武夫	1976	昭和	51	10	25	書簡	香港の新聞「大公報」に『支那事変の回想』連載中に関する10月19日の今井の質問に対する返事。大塚は本日船橋ヘルスセンターで行なわれた第29師団300名の集合に参加した。本間雅晴中将の令嬢も参加していた。	14	16
14	245	大塚賢三書簡	大塚賢三	今井武夫	1976	昭和	51	12	26	書簡	香港大公報に連載中の『支那事変の回想』に今井の誤った箇所指摘あり。	14	16
14	246	大塚賢三 書簡	大塚賢三	今井武夫	1977	昭和	52	6	3	書簡	往時の回顧と大公報所載の徐克弱の今井に関する記事送付。	14	16
14	247	徐克弱 「也算 総統 秘録」 汪公開投降 蔣秘密談和			1976	昭和	51	10	14	新聞	香港大公報。今井回憶録原文記載あり。複写。14-246に挿入。『支那事変の回想』117頁。克弱附註あり。	14	16
14	248	寺平忠輔書簡	寺平忠輔	今井武夫	1961	昭和	36	8	26	書簡	盧溝橋事件についての質問。清水節郎大尉からの20通ばかりの詳細な資料を持っている。	14	16
14	249	犬養健書簡	犬養健	今井武夫	1943	昭和	18	12	3	書簡	犬養は初代同盟通信社長岩永裕吉の義理の甥にあたる。ゾルゲ事件の尾崎秀実と仲がよく、前年の1942年4月5日に逮捕されている。「一身上の件 おかげで落着、昭和13年以來の日華問題が懐かしく思い出される」。	14	16
14	250	板垣征四郎書簡	板垣征四郎	今井武夫	1941	昭和	16	8	24	書簡	63部隊への安着おめでとう。板垣が朝鮮軍司令官になってからの近況報告あり。	14	16
14	251	板垣征四郎書簡	板垣征四郎	今井武夫	1943	昭和	18	2	18	書簡	京城に来られた折不在で失礼。日支事件当時が懐かしい。林領事のことを依頼。	14	16
14	252	畑俊六書簡	畑俊六	今井武夫	1941	昭和	16	9	7	書簡	西部63部隊安着おめでとう。支那派遣軍在任中ご苦労様でした。	14	16
14	253	畑俊六書簡	畑俊六	今井武夫	1958	昭和	33	1	2	書簡	年賀状。	14	16
14	254	安岡正篤書簡	安岡正篤	今井武夫	1941	昭和	16	8	12	書簡	武運を祈る。漢詩文の挿入あり。	14	16
14	255	安岡正篤書簡	安岡正篤	今井武夫	1942	昭和	17	6	20	書簡	ご健安大慶に存じます。南方経綸、支那問題山積。	14	16
14	256	安岡正篤書簡	安岡正篤	今井武夫	1950	昭和	25	3	21	書簡	食事の招待。	14	16
14	257	富永恭次書簡	富永恭次	影佐禎昭	1939	昭和	14	11	20	書簡	北支防共駐屯の地域に関する件。富永は参謀本部第一部長。影佐はこのとき支那派遣軍司令部付、少将。	14	16
14	258	本庄繁書簡	本庄繁	今井武夫	1941	昭和	16	8	14	書簡	63部隊長への栄転祝い。	14	16
14	259	後宮淳書簡	後宮淳	今井武夫	1963	昭和	38	5	13	書簡	後宮は1963年から68年まで日本郷友連盟会長、大将。連盟参与就任承認のお礼。年度は全くの推定。今井は1967年8月に顧問になっている。	14	16
14	260	土肥原賢二書簡	土肥原賢二	今井武夫	1942	昭和	17	5	14	書簡	武勲をたたえたことのお祝い。	14	16
14	261	今井武夫宛書簡の封筒	土肥原賢二	今井武夫の封筒		昭和				封筒	封筒のみ。	14	16
14	262	志村寛書簡	志村寛	今井武夫	1952	昭和	27	1	1	書簡	年賀状。79歳。	14	16
14	263	中野英光書簡	中野英光	今井武夫	1971	昭和	46	8	1	書簡	台湾を見捨てぬ佐藤総理訪問にホットした。蒋介石の嗣子はソ連の女房なので、がたつくのではないかと心配。	14	16
14	264	井本熊男書簡	井本熊男	今井武夫	1977	昭和	52	8	25	書簡	今井が寄稿した「師と友」を送付したことに対する礼。「歴史的資料として価値ありと思う」と。11-171と172関連。	14	16
14	265	井本熊男書簡	井本熊男	今井武夫	1978	昭和	53	1	19	書簡	旧年中ご迷惑をかけたことへの礼。井本の著書「作戦日誌でつづる支那事変」に対する序文寄稿依頼。	14	16
14	266	井本熊男宛返信案	今井武夫		1978	昭和	53	1		書簡	14-265に挿入。芙蓉書房から出版「作戦日誌で綴る支那事変」の序文寄稿にお断りの案。中央電気工業の野紙に記載。	14	16

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
14	267	井本熊男書簡	井本熊男	今井武夫	1978	昭和	53	1	22	書簡	今井の序文寄稿お断り了承。今井の示唆で書いた部分削除する。未発表の、たとえば「西尾司令官の意向は板垣総参謀長が停戦地域に出て行くことに乗り気ではなかった」ことは書かないことにすると。	14	16
14	268	新木栄吉書簡	新木栄吉	今井武夫	1952	昭和	27	3	22	書簡	追放解除の報に接しおめでとうございます。新木は元日銀総裁。戦前汪兆銘政権の高級顧問だった。	14	16
14	269	「昭和史の天皇 1444、近衛と軍 8 重病の高級幹部」	読売新聞社		1971	昭和	46	4	13	新聞	読売新聞。新聞切抜。今井に関する記載あり。	14	16
14	270	「終戦直前 師・繆斌の工作は本物だった」	中日新聞東京本社		1985	昭和	60	5	13	新聞	東京新聞。今井に関する記載あり。	14	16
14	271	磯谷廉介書簡	磯谷廉介	今井武夫	1954	昭和	29	8	30	書簡	来駕有難う。胡文虎たちと東亜興隆のためアジア会館設立を進めることに関心あり。	14	16
14	272	磯谷廉介と今井			1954	昭和	29	8		写真	14-271に挿入。	14	16
14	273	磯谷廉介書簡	磯谷廉介	今井武夫	1954	昭和	29	9	18	書簡	胡文虎が死んだのは残念だが引き続き、東亜興隆のためアジア会館設立を進めるのに努力したい。胡文虎と磯谷廉介中将は仲が良かった。	14	16
14	274	阪田城盛書簡	阪田城盛	今井武夫	1947	昭和	22	2	28	書簡	復員おめでとうございます。お会いしたい。	14	16
14	275	自称宋子良 曾紀宏	今井武夫		1940	昭和	15	5	17	写真	於ペニンシュラホテルの鍵穴から撮影したもの。『支那事変の回想』に写真あり。	14	16
14	276	曾紀宏書簡	曾紀宏	今井武夫	1953	昭和	28	1	28	書簡	曾紀宏(桐工作 偽宋子良)からの書簡。戦時中出獄させてもらった礼。今共産党に同僚がスパイで入っているほか。	14	16
14	277	曾紀宏書簡	曾紀宏	今井武夫	1953	昭和	28	7	8	書簡	蔣君輝は近々台北県に移る旨の連絡。年代は全くの推定。	14	16
14	278	永井洵一書簡	永井洵一	今井武夫	1964	昭和	39	5	28	書簡	盧溝橋事件のときの芦山会議について。安内攘夷は汪兆銘が昭和12年2月に言い出したことである。	14	16
14	279	湯恩伯書簡	湯恩伯	今井武夫	1953	昭和	28	4	4	書簡	3月29日に台湾に帰国した。滞在中の接待に感謝。1953年か。年代は推定。	14	16
14	280	黄天龍書簡	黄天龍	今井武夫	1961	昭和	36	5	25	書簡	黄は孫文記念会事業部所属。何柱国との沈邱会談より16年経過。	14	16
14	281	黄天龍書簡	黄天龍	今井武夫	1961	昭和	36	6	4	書簡	いかにしてアジア同胞に遺書を残すか。12-281に挿入。	14	16
14	282	黄天龍書簡	黄天龍	今井武夫	1961	昭和	36	6	15	書簡	「先覚者よ我々残生者は何をすべき?」。何柱国との沈邱会談が成功していたら。	14	16
14	283	「原水協の原爆被害白書によると32万人が犠牲」	中日新聞社		1961	昭和	36	6	15	新聞	12-282に挿入。中日新聞。新聞切抜。	14	16
14	284	邱会談の時の黄民星（天龍の字か）			1945	昭和	20	3	29	写真	12-282に挿入。	14	16
14	285	昭和13年 支那事変手記	今井武夫		1938	昭和	13			書類	14箱-東17所収のファイル。今井中佐と記入あり。	14	17
14	286	今井武夫 支那事変手記	今井武夫		1938	昭和	13	5	24	日記	1939年8月3日迄。14-717の5月20日～23日の続き。6月4日から6月8日なし。この続きが14-288。「汪兆銘工作」。「余漢謀工作」。張鼓峰事件について記載あり。	14	17
14	287	昭和14年 支那事変手記今井大佐	今井武夫		1939	昭和	14			回顧録	14箱-東18所収のファイル。	14	18
14	288	今井武夫 支那事変手記	今井武夫		1939	昭和	14	8	4	日記	翌1940年12月31日迄。「桐工作」の頃の日記。14-286の続き。	14	18
14	289	「西尾、板垣の両将軍 けふ 明治神宮、靖国神社に参拝」	朝日新聞社		1939	昭和	14	9	13	新聞	朝日新聞夕刊。14-288に貼付。新聞切抜。	14	18
14	290	歩兵第141連隊 将校職員表	片山憲四郎		1943	昭和	18	12	20	名簿	18-2の複写。昭和18年12月20日ツルブ附近戦闘直前のもの。戦後記憶によって作成したもの。14-288に挿入されていたが、直接関係ない資料と思われる。1枚。	14	18
14	291	「信州のホープを語る 11 大佐級を探れば… 盧溝橋で名を上げた今井大佐」	信濃毎日新聞社		1940	昭和	15	1	13	新聞	信濃毎日新聞夕刊。14-288に貼付。新聞切抜。	14	18
14	292	「支那派遣軍新聞報道部長 今井大佐決定」	毎日新聞社		1940	昭和	15	12	4	新聞	毎日新聞。14-288に貼付。新聞切抜。	14	18

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
14	293	「派遣軍報道部長 後任に今井大佐」	朝日新聞社		1940	昭和	15	12	4	新聞	朝日新聞。14-288に貼付。新聞切抜。	14	18
14	294	「総軍報道部長後任 今井武夫大佐と決定」	大陸新報社		1940	昭和	15	12	4	新聞	南京大陸新報。14-288に貼付。新聞切抜。	14	18
14	295	「総軍報道部長に 今井武夫大佐」	大陸新報社		1940	昭和	15	12	4	新聞	上海大陸新報。14-288に貼付。新聞切抜。	14	18
14	296	「総軍報道部長 後任に今井大佐」			1940	昭和	15	12	4	新聞	上海毎日。14-288に貼付。新聞切抜。	14	18
14	297	「新旧報道部歓送迎会」			1940	昭和	15	12	7	新聞	上海毎日。14-288に貼付。新聞切抜。	14	18
14	298	「新旧報道部歓送迎 記者倶楽部共同主催」	大陸新報社		1940	昭和	15	12	7	新聞	上海大陸新報。14-288に貼付。新聞切抜。	14	18
14	299	「事変処理は永びく 今井信報道部長記者団と会見」			1940	昭和	15	12	8	新聞	上海毎日。14-288に貼付。新聞切抜。	14	18
14	300	汪工作書類 今井大佐	今井武夫		1938	昭和	13			書類	14箱-束19所収のファイル。	14	19
14	301	謀略実施の概況	今井武夫		1938	昭和	13	10	21	書類	陸軍野紙に記載。土肥原機関7月15日策定謀略実施計画の現状。	14	19
14	302	謀略実施要領	土肥原機関		1938	昭和	13	10	20	書類	陸軍野紙に記載。14-301に関連。「高宗武利用工作ニ関スル概況」の1頁めが抜けている。14-313、14-427に1頁めあり。14-426に同じ。	14	19
14	303	盛文頤ヲ通スル余漢謀独立工作	土肥原機関		1938	昭和	13	10	21	書類	陸軍野紙に記載。14-301に関連。余漢謀に対し「日本側と諒解つきあるも反蔣独立の準準ありや」の照会を行なう。盛文頤は盛宣懷の甥。	14	19
14	304	支那青年層獲得工作			1938	昭和	13	10	21	書類	陸軍野紙に記載。14-301に関連。14-416に同じ	14	19
14	305	呉佩孚及靳雲鵬等新中央政権樹立工作			1938	昭和	13	10	21	書類	陸軍野紙に記載。14-301に関連。14-415に同じ。『支那事変の回想』284頁に記載あり。	14	19
14	306	香港 石野芳男大佐宛電報（案）	庶務課長	石野芳男大佐	1938	昭和	13	11	12	電報	大本営陸軍部野紙に記載。「伊藤氏来滬の件」。「今井中佐より一田中佐へ、伊藤氏へ伝えられたし」とある。伊藤は伊藤芳男か。一田は一田次郎梅機関員。西義顕宛の伝言。日付は推定。滬は上海のこと。	14	19
14	307	今井武夫宛電報	西義顕	今井武夫	1938	昭和	13	11	13	電報	返事は明日する。	14	19
14	308	次官 次長宛電報	台湾軍参謀長	次長	1938	昭和	13	11	3	電報	602号。重慶政府外交部顧問より得た講和条件の腹案。	14	19
14	309	次官 次長宛電報	伊集団特務部長	次長	1938	昭和	13	10	27	電報	168号。土肥原中將への伝達事項。広東、漢口陥落後、戦争の大勢既に決した。周作民戦後の準備をしている。「伊集団」は中支那派遣軍。	14	19
14	310	傳式説等を中心とする新文化運動			1938	昭和	13	11		書類	傳式説は汪兆銘を支持した東大出身の上海大夏大学教授。梅思平の従兄弟、後の汪兆銘政権の行政院鉄道部長、防-6参照。在上海日本総領事館の野紙に記載。年月は推定。梅、高、陶、周作民などの名前が見られる。	14	19
14	311	御前会議決定 日支新関係調整方針			1938	昭和	13	11	30	書類	極秘。30部のうちの29号。華北・揚子江下流域等の特種地域とする。華北・内蒙の駐屯期限なし、撤兵の期限なしなど。御前会議で決定。『支那事変の回想』74頁に記載あり。別紙として「日支新関係調整要綱」及び「日支新関係ニ関スル原則大綱」が添付されている。	14	19
14	311-1	日支新関係調整要綱			1938	昭和	13	11	30	書類	別紙。『支那事変の回想』74～75頁に記載あり。	14	19
14	311-2	日支新関係ニ関スル原則大綱			1938	昭和	13	11	30	書類	別紙。	14	19
14	312	高宗武工作の現況	今井武夫		1938	昭和	13	11	13	報告書	14-314の原稿か。大本営陸軍部野紙に記載。18枚。	14	19
14	313	高宗武利用工作の概況			1938	昭和	13	10	21	書類	陸軍野紙に記載。14-427に同じ。	14	19
14	314	渡辺工作の現況	今井武夫		1938	昭和	13	11	15	報告書	今井は中佐。高宗武のことを渡辺と仮称。15部作ったものの原紙か。	14	19
14	315	渡辺工作の現況（第二号）	今井武夫		1938	昭和	13	11	21	報告書	14-129に同じ。	14	19
14	316	日支協議記録	今井武夫		1938	昭和	13	11	20	会議録	陸軍野紙に記載。印刷前の原稿。11月20日の記録。	14	19

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
14	317	日支秘密協議記録	今井武夫		1938	昭和	13	11	20	会議録	陸軍野紙に記載。印刷前の原稿。	14	19
14	318	日支秘密協議記録案	今井武夫		1938	昭和	13	11	20	会議録	印刷済み。	14	19
14	319	声明案			1938	昭和	13	11		書類	陸軍野紙に記載。第三次近衛声明の案か。	14	19
14	320	外相声明案			1938	昭和	13	11		書類		14	19
14	321	友邦四憶ノ兄弟ニ告グ			1938	昭和	13	11		書類	陸軍野紙に記載。年月は推定。	14	19
14	322	総理大臣談話			1938	昭和	13	11		書類	案文か。年月は推定。	14	19
14	323	日支新関係ニ関スル原則			1938	昭和	13	11		書類	年月は推定。原稿に修正を施している。2枚。	14	19
14	324	声明案			1938	昭和	13	11		書類	陸軍野紙に記載。第3次近衛声明の第二次案か。3枚。	14	19
14	325	日華協議記録			1938	昭和	13	11	20	書類	「日支」が「日華」に、「支那」が「中国」に変更してある。陸軍野紙に記載。4枚。	14	19
14	326	日華協議記録諒解事項			1938	昭和	13	11	20	書類	「日支」が「日華」に、「支那」が「中国」に変更してある。陸軍野紙に記載。1枚。	14	19
14	327	日華秘密協議記録			1938	昭和	13	11	20	書類	「日支」が「日華」に、「支那」が「中国」に変更してある。陸軍野紙に記載。1枚。	14	19
14	328	停戦許容条件			1938	昭和	13	11	12	書類	30部のうちの21号。別紙を含めて6枚。	14	19
14	329	日支協議記録案			1938	昭和	13	11	20	書類	年代は推定。20部のうちの4号。4枚。	14	19
14	330	日支両国東亜ノ新秩序ヲ建設スルタメノ諸条件			1938	昭和	13	11	20	書類	表題なし。年代は推定。20部の内4号。3枚。	14	19
14	331	日華協議記録			1938	昭和	13	11	20	書類	正式なものと思われる。和平条件は中国の主権の尊重、租界の返還、不平等条約の撤回等を主とするもの。4枚。	14	19
14	332	日華協議記録諒解事項			1938	昭和	13	11	20	書類	正式なものと思われる。和平条件は中国の主権の尊重、租界の返還、不平等条約の撤回等を主とするもの。1枚。	14	19
14	333	日華秘密協議記録			1938	昭和	13	11	20	書類	正式なものと思われる。2枚。	14	19
14	334	声明案			1938	昭和	13	11		書類	年月は推定。4枚。	14	19
14	335	声明案			1938	昭和	13	11		書類	陸軍野紙に記載。年月は推定。高宗武等行動予定1枚添付。全4枚。	14	19
14	336	日支交渉のメモ	今井武夫		1938	昭和	13	11		メモ	大本営陸軍部の野紙に記載。4枚。	14	19
14	337	日支新関係設定ノ為締結セラルヘキ事項			1938	昭和	13	11		書類	年月は推定。1枚。	14	19
14	338	日支新関係調整ニ関スル原則			1938	昭和	13	11		書類	年月は推定。2枚。修正している。	14	19
14	339	12月22日近衛声明			1938	昭和	13	12	22	書類	第三次近衛声明。2枚。『支那事変の回想』89頁から90頁に内容記載あり。	14	19
14	340	傅式説氏ノ汪兆銘ニ関スル報告 附 上海ニ於ケル和平運動経路	井上匡四郎		1939	昭和	14	1	26	書類	今井中佐について言及あり。蔣介石と汪兆銘の喧嘩の原因につき記載あり。傅式説は上海大夏大学教授。梅思平の従兄弟。東大工科時代井上の愛弟子。後の汪政権の行政院鉄道部長。14-310参照。南支調査会の野紙に記載。上海で1938年2月頃「低調倶楽部」のメンバーでもある梅子平から 和平運動に協力するように依頼されたとのこと。1月26日台北にて記載とある。8枚。	14	19
14	341	渡辺工作の現況（第三号）	今井武夫		1938	昭和	13	12	6	報告書	14-133と同じだが15部のうち第15号と書かれている。5枚。	14	19
14	342	渡辺工作の現況（第四号）	今井武夫		1939	昭和	14	1	15	報告書	汪兆銘の重慶からの脱出について。蔣介石、中国各新聞の反応など。23枚。	14	19
14	343	渡辺工作の現況第二期計画ニ関スル意見	第二課		1939	昭和	14	2	22	書類	陸軍野紙に記載。7部の内2号。救国同盟会の結成、新軍建設を慫慂すとある。4枚。	14	19

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
14	344	河村洋行商用略語配布表（14年4月5日現在）			1939	昭和	14	4	5	書類	汪兆銘工作の暗号表。汪兆銘は竹内。今井の暗号は佐藤、名和本店員。14年6月現在の複写したものは24-3にあり。26枚。	14	19
14	345	汪工作指導要領（案）			1939	昭和	14	6	4	書類	20部の内の6号。4枚。	14	19
14	346	影佐禎昭書簡	影佐禎昭	今井武夫	1939	昭和	14	8		書簡	汪兆銘が6月15日に提出した「中国主権尊重原則実行ニ関シ日本ニ対スル要望」の取り扱いについて。影佐は少将なので8月以降の書簡か。月は推定。本文は白井大佐および有末大佐に送ったものの参考として今井に送ってきたもの。	14	19
14	347	中国側ノ提出セル時局收拾ニ関スル具体的弁法			1939	昭和	14	5	28	書類	14-346関連。「本案は支那側の一時的提案にして日本側の承認せる物に非ず」と付記されている。50部の内の7号。8枚。『支那事変の回想』306頁～310頁に記載あり。	14	19
14	348	対支謀略ニ関する第二部長口演要旨	第二部長		1939	昭和	14	6	2	書類	樋口季一郎部長。汪と呉佩孚の合作を期待。汪の来朝後のもの。汪兆銘政権樹立のための会合における参謀本部第二部長の口演。大本営直轄の対支謀略は差し当たり「汪」、「呉」、「李白」、「華僑」工作を主流として進め、そのいずれにも属せざる工作はこれを適宜ほかの工作に併せんとす。『支那事変の回想』311頁～313頁に記載あり。	14	19
14	349	現地中央懇談事項			1939	昭和	14	6	3	書類	汪を中心とした中央政府樹立に決定。10月0日10日目標。呉佩孚と汪の合作期待。事変中日本が占拠した地域に於ては日本側の認めざる国旗等は許さず。中央政府をロボット化しないようにする。於陸軍省第一会議室。『支那事変の回想』313頁～314頁に記載あり。	14	19
14	350	中国側提出ノ「時局收拾ニ関する具体的弁法」ニ対スル取扱			1939	昭和	14	6	15	書類	6月5日省部決定。4枚。『支那事変の回想』315頁に記載あり。省部とは陸軍省と参謀本部のこと。	14	19
14	351	中国国民党政綱			1939	昭和	14	6		書類	私案とある。中国文。ガリ版。月は5月か6月か。	14	19
14	352	中国国民党政綱			1939	昭和	14	6		書類	日本文。印刷してある。月は5月か6月か。2枚。	14	19
14	353	三巨頭会議決定事項			1939	昭和	14	9	21	書類	於聚星俱樂部。陸軍昇紙に印刷記載。20-160は南京の聚星俱樂部について記載ある。汪兆銘・王克敏（臨時政府）・梁鴻志（維新政府）の3者会談。この会談結果に基づき21日上海で汪兆銘、22日南京で連合委員会、24日維新政府の声明が北京と南京でなされた。	14	19
14	354	目下研究中の日支新関係調整方針についての要望書	影佐禎昭		1939	昭和	14	9		書類	影佐は少将。1枚。『支那事変の回想』316頁に記載あり。	14	19
14	355	支那側要望第一 中国主権尊重原則実行ニ関シ日本ニ対スル希望	汪兆銘		1939	昭和	14	9		書類	14-356、14-357と同じく汪兆銘の要望と思われる。6枚。『支那事変の回想』316頁～319頁に記載あり。	14	19
14	356	支那側要望第二 新中央政府財政問題ニ関シ日本側ニ対スル希望	汪兆銘		1939	昭和	14	9		書類	竹内提出とある。竹内は汪兆銘の略号。14-344参照。14-355に続くもの。2枚。『支那事変の回想』319頁～321頁に記載あり。	14	19
14	357	支那側要望第三 日本側ニ希望スル雑件	汪兆銘		1939	昭和	14	9		書類	「竹内」提出とある。「竹内」は汪兆銘の略号。14-344参照。14-356に続くもの。2枚。『支那事変の回想』321頁に記載あり。	14	19
14	358	中央政治会議指導要領	興亜院		1939	昭和	14	11	1	書類	興亜院会議決定とある。4枚。14-364まで同じ綴りで全27枚。	14	19
14	359	別紙第一（中央政治会議ニ於テ確定セシムヘキモノ） 新中央政府樹立ニ関スル大綱	興亜院		1939	昭和	14	11	1	書類	14-358の別紙第一。2枚。	14	19
14	360	別紙第二（中央政治会議ニ議シ我方要請事項トシテ諒解セシメ所要ノ措置ヲ為サシムヘキモノ） 新中央政府既成政権間ノ関係調整要綱	興亜院		1939	昭和	14	11	1	書類	14-358の別紙第二。4枚。	14	19
14	361	別紙第三（取扱ニ関シテハ備考参照） 新支那地方政治形態ニ関スル指導腹案	興亜院		1939	昭和	14	11	1	書類	14-358の別紙第三。7枚。	14	19

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
14	362	別紙第四（新中央政府樹立前同政府構成分子ヲシテ日本側ニ対シ確約セシムヘキモノ） 新中央政府樹立前新中央政府主要構成分子ノ日本側ニ対スル確約ニ関スル件（案）	興亜院		1939	昭和	14	11	1	書類	14-358の別紙第四。2枚。末尾に備考を含む。	14	19
14	363	日支新関係調整ニ関スル原則	興亜院		1939	昭和	14	11	1	書類	14-358の別冊。1枚。	14	19
14	364	日支新関係調整要綱	興亜院		1939	昭和	14	11	1	書類	14-363の別紙。末尾に備考を含む。7枚。	14	19
14	365	日支新関係調整ニ関スル協議事項ノ取扱要領案			1939	昭和	14	12	26	書類	「本取り扱ひ案は日本側首脳部のためのもの一切を包括す」とある。4枚。	14	19
14	366	「私はかく闘った 周仏海上 事変拡大に反対 蔣説得を汪精衛に依頼」			1941	昭和	16			新聞	掲載紙不明。新聞切抜。陸軍野紙に貼付。1897年生まれ。周仏海44歳とあるので昭和15年か16年のものか。年代は推定。	14	19
14	367	「私はかく闘った 周仏海中 日本の和平情報収集に高宗武を脱出さす」			1941	昭和	16			新聞	掲載紙不明。新聞切抜。陸軍野紙に貼付。年代は推定。	14	19
14	368	「私はかく闘った 周仏海下 蔣反共の条件を拒否 危機一髪大事露見」			1941	昭和	16			新聞	掲載紙不明。新聞切抜。陸軍野紙に貼付。年代は推定。	14	19
14	369	北支ニ於ケル新中央政府成立ニ伴フ新国旗、国民党、三民主義対策			1940	昭和	15			書類	陸軍野紙に清書して記載してあるが、付箋して赤字で削除・修正している箇所数箇所あり。年度は1939年か1940年か。今井の判が押してある。3枚。	14	19
14	370	中央政治会議前行フ日本側声明ニ具備スヘキ要件			1940	昭和	15	1	25	書類	於青島起案。1枚。『支那事変の回想』323頁に記載あり。	14	19
14	371	中央政治会議前行フ日本側声明			1940	昭和	15	1	25	書類	於青島起案 要旨案。3枚。『支那事変の回想』324頁～325頁に記載あり。	14	19
14	372A	王克敏書簡	王克敏	汪精衛	1940	昭和	15	1	22	書簡	人事について。日本語訳文。『支那事変の回想』321頁～323頁に記載あり。	14	19
14	372B	青島会談後ニ於ケル汪精衛氏談話			1940	昭和	15	1	26	書類	1枚。日本語。『支那事変の回想』325頁～326頁に記載あり。	14	
14	373	新中央政府外交指導方針要綱			1940	昭和	15	2	9	書類	25部のうちの5号。6枚。	14	19
14	374	特派大使機関案			1940	昭和	15	2	9	書類	25部のうちの5号。3枚。	14	19
14	375	日華満共同宣言案中修正の件			1940	昭和	15	10	1	書類	日本語本文においては署名の順序は日、満、華の順とする。9月28日提出。10月1日決定。1枚。	14	19
14	376	了解事項第四修正案			1940	昭和	15	9	28	書類	1枚。9月28日提出。	14	19
14	377	附属秘密協約案			1940	昭和	15	9	28	書類	9月28日提出。3枚。	14	19
14	378	附属秘密協定案			1940	昭和	15	9	28	書類	3枚。9月28日提出。	14	19
14	379	議事録抜粋第四修正案			1940	昭和	15	9	28	書類	9月28日提出。3枚。	14	19
14	380	高工作概況	大本營陸軍部第八課		1938	昭和	13	10	1	書類	陸軍野紙に記載。実質7枚。	14	19
14	381	土肥原賢二中将ニ與フル指示案			1938	昭和	13	10	1	書類	土肥原賢二は1936年3月から41年3月まで中将。陸軍野紙に記載。年月日は推定。各工作費用について記載あり。土肥原賢二機関の予算が書いてある。全800万円。	14	19
14	382	皇紀二千六百一年紀元節 日支和平交渉ノ真相	今井武夫		1941	昭和	16	2	11	回顧録	14箱-東20所収のファイル。月日は推定。	14	20
14	383	緒言	今井武夫		1941	昭和	16	2	11	回顧録	月日は推定。	14	20
14	384	日支和平交渉ノ真相 目次	今井武夫		1941	昭和	16	2	11	回顧録	月日は推定。	14	20
14	385	第一章第一節冒頭に入れるべき文章	今井武夫		1941	昭和	16	2	11	回顧録	陸軍野紙に記載。本人の書き込みあり。年代は推定。月日は推定。	14	20

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
14	386	第一章第三節 解決条件	今井武夫		1941	昭和	16	2	11	回顧録	陸軍野紙に記載。年代は推定。月日は推定。	14	20
14	387	第二章第三節中に入れるべき文章	今井武夫		1941	昭和	16	2	11	回顧録	陸軍野紙に記載。年代は推定。月日は推定。	14	20
14	388	第三章第三節 満州事変以後に於ける汪精衛の対日思想	今井武夫		1941	昭和	16	2	11	回顧録	陸軍野紙に記載。年代は推定。月日は推定。	14	20
14	389	九・一八以後ニ於ケル汪先生対日思想ノ一端	周仏海		1939	昭和	14	5	6	書類	14-388関連。「九・一八」とは 1931年の満州事変のこと。日本語。月日は推定。	14	20
14	390	第四章第七節の終わりに入れるべき文章	今井武夫		1941	昭和	16	2	11	回顧録	陸軍野紙に記載。年代は推定。月日は推定。	14	20
14	391	第四章第八節 汪精衛 王克敏 梁鴻志会談	今井武夫		1941	昭和	16	2	11	回顧録	陸軍野紙に記載。年代は推定。月日は推定。	14	20
14	392	吾人ハ中国復興東亜復興ノ大道ヲスムヘシ	汪精衛		1939	昭和	14	7	9	書類	年代は推定。精衛は兆銘の号。7月9日上海での放送要旨の日本語訳。	14	20
14	393	第四章第八節中に入れるべき文章	今井武夫		1941	昭和	16	2	11	回顧録	陸軍野紙に記載。年代は推定。月日は推定。	14	20
14	394	三巨頭会議決定事項			1939	昭和	14	9	21	書類	於聚星俱樂部。陸軍野紙に記載。14-353と同じだが、手書き記載。汪兆銘・王克敏（臨時政府）・梁鴻志（維新政府）の3者会談。	14	20
14	395	第五章丁黙邨の工作	今井武夫		1941	昭和	16	2	11	回顧録	年代は推定。月日は推定。	14	20
14	395-1	第六章青島会議と高 陶の離脱	今井武夫		1939	昭和	14	2	21	回顧録	年代は推定。月日は推定。	14	
14	395-2	第六章第二節の末節に入れる文章	今井武夫		1941	昭和	16	2	11	回顧録	陸軍野紙に記載。年代は推定。月日は推定。	14	20
14	396	陶希聖書簡 訳文	陶希聖	今井武夫	1940	昭和	15	2	26	書簡	陶希聖から今井宛信書。汪兆銘との訣別の心情を吐露したもの。訳文。陸軍野紙に記載。12-43でもこの手紙のことが言及されている。『支那事変の回想』に封筒と中身の写真あり。105～106頁に訳文記載あり。	14	20
14	397	1月22日附 「大公報」掲載高宗武、陶希聖発表ニヨル「日支国交新調整要綱」全訳	中国通信社		1940	昭和	15	1	22	書類	汪精衛の売国的密約全文を暴露とある。1月14日付けの訳文。日付は推定。	14	20
14	398A	第七章 中央政治会議と国府遷都	今井武夫		1939	昭和	14	2	21	回顧録	年代は推定。月日は推定。	14	20
14	398B	第七章第三節に入れるべき文章	今井武夫		1941	昭和	16	2	11	回顧録	陸軍野紙に記載。年代は推定。月日は推定。7枚。	14	20
14	399A	第八章宋子良を通ずる対重慶工作 第一節 汪兆銘工作ト和平工作	今井武夫		1941	昭和	16	2	11	回顧録	陸軍野紙に記載。年代は推定。月日は推定。4枚。	14	20
14	399B	第八章第二節 第一次会見	今井武夫		1941	昭和	16	2	11	回顧録	年代は推定。月日は推定。	14	20
14	400	第八章第四節中に挿入する文章	今井武夫		1941	昭和	16	2	11	回顧録	陸軍野紙に記載。年代は推定。月日は推定。11枚。	14	20
14	400-1	第九章 日華国交調整条約と日満華共同宣言	今井武夫		1941	昭和	16	2	11	回顧録	年代は推定。月日は推定。	14	
14	400-2	第十章 東亜連盟の基本観念 結語	今井武夫		1941	昭和	16	2	11	回顧録	年代は推定。月日は推定。	14	
14	401	東条風鈴について	今井武夫		1941	昭和	16	2	11	原稿	大本営陸軍部野紙に記載。1枚。年は推定。東条風鈴の本名は辰雄。14-628参照。僧侶。和平工作を行なった。	14	20
14	402	スチュワート燕大校長	今井武夫		1941	昭和	16	2	11	原稿	大本営陸軍部野紙に記載。2枚。年は推定。	14	20
14	403	孔祥熙の和平工作	今井武夫		1941	昭和	16	2	11	原稿	大本営陸軍部野紙に記載。4枚。年は推定。	14	20
14	404	和平政権の要人	今井武夫		1941	昭和	16			原稿	大本営陸軍部野紙に記載。2枚。年は推定。	14	20

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
14	405	芷江会談	今井武夫		1945	昭和	20			原稿	大本営陸軍部野紙に記載。3枚。年は推定。	14	20
14	406	中国戦区日軍投降経過	今井武夫		1945	昭和	20			原稿	大本営陸軍部野紙に記載。和平日報転載。9枚。年は推定	14	20
14	407	河南に於ける和平会談	今井武夫		1945	昭和	20			原稿	5枚。年は推定。	14	20
14	408	第一章 日華事変から太平洋戦争へ	今井武夫		1941	昭和	16	2	11	回顧録	14-382「皇紀二千六百一年紀元節 日支和平交渉ノ真相」の追加の章と思われる。年代は推定。月日は推定。8枚。	14	20
14	409	通州事件メモ	今井武夫		1941	昭和	16			メモ	14箱-東20所収のファイルに挿入。7月29日の通州事件、7月30日殷汝耕救出ほか。年代は全くの推定。	14	20
14	410	十三太保の中国人名簿	今井武夫		1941	昭和	16			名簿	14箱-東20所収のファイルに挿入 年代は全くの推定。	14	20
14	411	書類綴 謀略関係 今井中佐	今井武夫		1938	昭和	13			書類	14箱-東21所収のファイル。	14	21
14	412	昭和維新方略			1938	昭和	13	9		書類	陸軍野紙に記載。	14	21
14	413	傳式説など中国人5人ほどのメモ	今井武夫		1938	昭和	13			メモ	大本営陸軍部野紙に記載。年代は全くの推定。	14	21
14	414	特号 四川合作要領	中支軍参謀部第2課		1938	昭和	13	10	7	書類		14	21
14	415	呉佩孚及靳雲鵬等新中央政權樹立工作			1938	昭和	13	10	21	書類	陸軍野紙に記載。14-301に関連。14-305と同じ。	14	21
14	416	支那青年層獲得工作			1938	昭和	13	10	21	書類	陸軍野紙に記載。14-301に関連。14-304と同じ。	14	21
14	417	次長宛電報	甲集団参謀長	次長	1938	昭和	13	10	22	電報	甲集団とは北支那方面軍の通称。	14	21
14	418	緊急ニ広東独立ヲ促成シ西南分化案ヲ 実行セヨ	呉逸		1938	昭和	13			書類	陸軍野紙に記載。年代は全くの推定。	14	21
14	419	臨時政府及維新政府組織大綱	参謀本部第二部		1938	昭和	13	9	1	書類	『支那事変の回想』281頁～282頁に記載あり。	14	21
14	420	臨時政府並北支諸省一覧表	参謀本部第二部		1938	昭和	13	9	1	書類		14	21
14	421	維新政府並中支諸省一覧表 其一	参謀本部第2部		1938	昭和	13	3	1	書類		14	21
14	422	維新政府並中支諸省一覧表 其二	参謀本部第2部		1938	昭和	13	3	1	書類		14	21
14	423	対支謀略現況表	参謀本部第二部		1938	昭和	13	9	3	書類	①甲集団（北支那方面軍）工作は呉佩孚利用と紅槍会を利用、②伊集団工作（中支那派遣軍）は西南政府樹立と唐紹儀利用、③和知工作についての概況。	14	21
14	424	土肥原機関工作			1938	昭和	13	9	6	書類	14-423に関連。	14	21
14	425	謀略実施の概況	今井武夫		1938	昭和	13	10	21	書類	陸軍野紙に記載。14-301に同じ。	14	21
14	426	謀略実施要領	土肥原機関		1938	昭和	13	10	20	書類	陸軍野紙に記載。14-302に同じ。	14	21
14	427	高宗武利用工作の概況			1938	昭和	13	10	21	書類	陸軍野紙に記載。14-313に同じ。	14	21
14	428	和平条件			1938	昭和	13			書類	陸軍野紙に記載。年度は全くの推定。	14	21
14	429	櫻			1938	昭和	13			書類	陸軍野紙に記載。中国側の意見の記述に見える。年度は全くの推定。	14	21
14	430	情報			1938	昭和	13			書類	陸軍野紙に記載。汪兆銘派の情報。年は推定。	14	21
14	431	中国人2人朱曜、郝鵬の住所	今井武夫		1938	昭和	13			メモ	陸軍野紙に記載。年度は全くの推定。	14	21
14	432	蒋介石側からの停戦の提案について	今井武夫		1938	昭和	13			メモ	陸軍野紙に記載。年度は全くの推定。	14	21
14	433	中堅軍官ノ反蔣反共救国運動	中支那派遣軍司令部		1938	昭和	13	10	16	書類	陸軍野紙に記載。	14	21
14	434	メモ			1938	昭和	13			書類	中国湖南・湖北・江西雲南・貴州・四川軍旅長、団長名ほか。陸軍野紙に記載。年度は全くの推定。	14	21
14	435	工作要領			1938	昭和	13			書類	陸軍野紙に記載。年度は全くの推定。	14	21
14	436	広東工作の概況	中支那派遣軍司令部		1938	昭和	13	10	22	書類	陸軍野紙に記載。都甲徠（とごうきたる）中佐の印あり。	14	21

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
14	437	余漢謀書簡	余漢謀	頓宮	1938	昭和	13			書簡	今井が手紙を自筆で写したものとされる。安昌洋行の罫紙に記載。頓宮とは福民病院長の頓宮寛（とんぐゆたか）博士。年度は全くの推定。	14	21
14	438	林毓を通スル対余漢謀工作			1938	昭和	13	10	21	書類	陸軍野紙に記載。担当として高橋大佐、今井中佐の記載あり。林は朝鮮人。『支那事変の回想』264頁～265頁に記載あり。	14	21
14	439	唐紹儀遺營ヲ利用スル計画			1938	昭和	13	10	21	書類	14-438の末尾にあり。	14	21
14	440	林毓を通スル対余漢謀工作			1938	昭和	13	10	21	書類	陸軍野紙に記載。担当として高橋大佐、今井中佐の記載あり。林は朝鮮人。14-438に同じ。	14	21
14	441	唐紹儀遺營ヲ利用スル計画			1938	昭和	13	10	21	書類	14-440の末尾にあり。14-439に同じ。	14	21
14	442	盛文頤ヲ通スル余漢謀独立工作			1938	昭和	13	10	21	書類	陸軍野紙に記載。14-303に同じ。盛文頤は盛宣懷の甥。	14	21
14	443	カトウノボル宛電報	トング	カトウノボル	1938	昭和	13	10	5	電報	上海のトングからのもの。トングは上海の福民医院長頓宮寛（とんぐゆたか）博士のこと。20-308参照。余漢謀工作のことか。	14	21
14	444	今井中佐宛電報	カワヂ モリマサ	今井中佐	1938	昭和	13	11	13	電報	上海にいる今井宛のもの。	14	21
14	445	今井武夫宛電報	晴気慶胤	今井武夫	1938	昭和	13	11	4	電報	土肥原機関の晴気少佐より、余漢謀工作について今井中佐宛連絡。『支那事変の回想』285頁に記載あり。原電号外四号。	14	21
14	446	余漢謀工作ノ状況	今井武夫		1939	昭和	14	1	15	書類	同一2部あり。『支那事変の回想』286頁～287頁に記載あり。今井は中佐。	14	21
14	447	スノ重慶行ニ関スル王克敏ノ内話要旨	太田		1940	昭和	15	2	16	書類	陸軍野紙に記載。「ス」とはスチュアート燕大校長を指す。太田は書記官の太田一郎のことか。1940年は推定。文中の喜多は喜多誠一興亜院長官のことか。	14	21
14	448	丁黙邨派ハ呉開先、小野寺折衝経過ヲ暴露ス	総司令部上海機関		1940	昭和	15	2	23	書類	陸軍野紙に記載。1940年は推定。	14	21
14	449	直接交渉ノ主張ト其ノ経過	吉田東祐	今井武夫	1940	昭和	15	4	15	書類	吉田は総司令部上海機関。今井に宛てたもの。陸軍野紙に記載。第二課片山参謀の印あり。	14	21
14	450	抗日政權ノ分析”事変解決策ノ研究”	吉田東祐		1939	昭和	14	8		書類	14-449の一部を構成する。陸軍野紙に記載。吉田は総司令部上海機関。小野寺百合子『バルト海のほとりにて』（共同通信社）75頁によると、吉田は共産党シンパだったが転向した人である。	14	21
14	451	吉田、姜豪交渉経過報告	吉田東祐		1939	昭和	14	11	10	書類	吉田が今井に提出したもの。今井について記載あり。12-449の一部を構成する。陸軍野紙に記載。14-452関連。吉田は総司令部上海機関。澳門で国民党上海市党部委員の姜豪と会談した報告。2-44参照。	14	21
14	452	鈴木中佐 姜豪会談ニ就キテノ報告	吉田東祐		1939	昭和	14	12	11	書類	14-449の一部を構成する。陸軍野紙に記載。14-451関連。吉田は総司令部上海機関。鈴木は姜豪と12月10日および1940年1月3日に姜豪と会っている。日付は推定。	14	21
14	453	澳門行き経過報告	吉田東祐		1940	昭和	15	3	15	書類	吉田が今井に提出したもの。14-449の一部を構成する。陸軍野紙に記載。吉田は総司令部上海機関。	14	21
14	454	和平動向	総司令部上海機関		1940	昭和	15			書類	陸軍野紙に記載。	14	21
14	455	「勝海舟ノ対支観」			1940	昭和	15			雑誌	華北評論抜粋。年は推定。勝は征清反対。清国は眠れる獅子にしておいた方がよい。日本戦勝後は講和条件で清から領土を取るべきではないという意見。年は推定。	14	21
14	456	今井武夫	上海陸軍部報道部写真班		1942	昭和	17	8	31	写真	14箱-東21所収のファイルに挿入されているが関係不明。年月日は全くの推定。上海陸軍部創設のときのものか。今井が中心となって訓示を受けている。	14	21
14	457	桐工作綴 其一	今井武夫		1940	昭和	15			書類	14箱-東22所収のファイル。	14	22
14	458	支那派遣軍総司令官西尾寿造宛進退伺書	今井武夫	西尾寿造（支那派遣軍総司令官）	1940	昭和	15	10	8	書類	14-22の冒頭に挿入、西尾に提出して却下されて返却されたもの。オリジナル。武夫儀から始まる文章。2枚。	14	22
14	459	対宋子良工作指導要領	支那派遣軍総司令部		1940	昭和	15	2	17	書類	6部中3号。	14	22
14	460	桐工作経過ノ概要	支那派遣軍総司令部		1940	昭和	15	2	15	書類	井本熊男の『作戦日誌で綴る支那事変』（芙蓉書房、昭和53年6月）では、「桐工作」の名称正式決定は2月19日となっているが、2月15日付。『支那事変の回想』326頁～332頁に記載あり。	14	22

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
14	461	支那派遣軍総司令官西尾寿造宛 桐工作の件指示	閑院宮載仁親王	西尾寿造（支那派遣軍総司令官）	1940	昭和	15	2	21	書類	大陸指第661号。支那派遣軍は、別冊「桐工作指導要領」14-462に基づき、謀略として私的会談を実施するものとする。陸軍野紙に記載。閑院宮は参謀総長。4部の内1号。『支那事変の回想』332頁～333頁に記載あり。	14	22
14	462	桐工作指導要領	閑院宮載仁親王		1940	昭和	15	2	21	書類	14-461の別冊。陸軍野紙に記載。『支那事変の回想』333頁に記載あり。1枚。	14	22
14	463	桐工作の為の条件	閑院宮載仁親王		1940	昭和	15	2	21	書類	14-462の別紙。陸軍野紙に記載。『支那事変の回想』333頁～334頁に記載あり。2枚。	14	22
14	464	陸軍航空兵大佐 臼井茂樹宛 身分証明書	畑俊六	臼井茂樹（陸軍航空兵大佐）	1940	昭和	15	2	27	書類	支那側と協議することの証明。畑は陸軍大臣。押印。	14	22
14	465	陸軍騎兵中佐 鈴木卓爾宛 身分証明書	畑俊六	鈴木卓爾（陸軍騎兵中佐）	1940	昭和	15	2	27	書類	支那側と協議することの証明。畑は陸軍大臣。押印。	14	22
14	466	陸軍歩兵大佐 今井武夫宛 身分証明書	畑俊六	今井武夫	1940	昭和	15	2	27	書類	支那側協議することの証明。畑は陸軍大臣。押印。『支那事変の回想』に写真あり。	14	22
14	467	陸軍航空兵大佐 臼井茂樹宛 身分証明書	畑俊六	臼井茂樹（陸軍航空兵大佐）	1940	昭和	15	2	27	書類	支那側と協議することの証明。畑は陸軍大臣。花押。	14	22
14	468	陸軍騎兵中佐 鈴木卓爾宛 身分証明書	畑俊六	鈴木卓爾（陸軍騎兵中佐）	1940	昭和	15	2	27	書類	支那側と協議することの証明。畑は陸軍大臣。花押。	14	22
14	469	陸軍歩兵大佐 今井武夫宛 身分証明書	畑俊六	今井武夫	1940	昭和	15	2	27	書類	支那側と協議することの証明。畑は陸軍大臣。花押。	14	22
14	470	今井武夫 鈴木卓爾 臼井茂樹の3名を支那事変処理のため 香港に派遣したことの証明書	西尾寿造		1940	昭和	15	3	1	書類	西尾は支那派遣軍総司令官。支那派遣軍総司令官印。『支那事変の回想』334頁～335頁に記載あり。	14	22
14	471	桐工作中国側との交渉時のメモ	今井武夫		1940	昭和	15	3		メモ		14	22
14	472	日本準備会談要領	今井武夫		1940	昭和	15	3		書類		14	22
14	473	会談順序 第一次～第三次会談	今井武夫		1940	昭和	15	3	7	会議録	3月7日から9日までの会談記録メモ。	14	22
14	474	張治平筆			1940	昭和	15			書類	張は桐工作交渉の相手方。陸軍野紙にメモ貼付。年は推定。	14	22
14	475	日支両国覚書			1940	昭和	15	3	9	書類	『支那事変の回想』137頁に記載あり。	14	22
14	476	覚書に関するメモ	今井武夫		1940	昭和	15	3	10	メモ	自筆の間違いか。	14	22
14	477	第四回会談	今井武夫		1940	昭和	15	3	10	メモ	自筆の間違いか。	14	22
14	478	宋子良	今井武夫		1940	昭和	15	5	17	写真		14	22
14	479	自称宋子良 曾紀宏	今井武夫		1940	昭和	15	5	17	写真	14-478と同じ「参考文書」の封筒の中にあり。	14	22
14	480	支那側 和平意見			1940	昭和	15	3	10	書類	中国側の意見。「和平意見」と題する封筒にあり。『支那事変の回想』128頁～129頁に記載あり。	14	22
14	481	支那側 和平意見			1940	昭和	15	3	10	書類	14-480の翻訳か。	14	22
14	482	支那側 和平意見			1940	昭和	15	3	10	書類	14-480の手書きか。	14	22
14	483	桐工作円卓会議ノ経過概要	支那派遣軍総司令部		1940	昭和	15	3	13	書類	『支那事変の回想』335頁～339頁に記載あり。日付は推定。会議録。	14	22
14	484	今井、臼井の桐工作成立に至るまでの予定表（案）	今井武夫		1940	昭和	15	3	11	メモ	3月25日まで。メモ。	14	22
14	485	停戦条件	支那派遣軍総司令部 参謀部		1940	昭和	15	3	14	書類	陸軍野紙に記載。	14	22
14	486	停戦議定書	支那派遣軍総司令部 参謀部		1940	昭和	15	3	14	書類	陸軍野紙に記載。	14	22
14	487	停戦実行要領（第一案）	第一課		1940	昭和	15	3	15	書類	陸軍野紙に記載。	14	22

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
14	488	汪重関係調整指導	支那派遣軍総司令部 参謀部		1940	昭和	15	3	21	書類	汪兆銘と重慶の関係。停戦と和議を分離して取り扱い、この間隔に、（汪兆銘政府と重慶政府との）合流問題を措置すると書かれている。6号中6号。6枚。	14	22
14	489	桐工作指導行事予定			1940	昭和	15	3	21	書類	3月22日から3月30日までの予定表。陸軍野紙に記載。	14	22
14	490	桐工作指導行事予定	支那派遣軍総司令部 参謀部		1940	昭和	15	3	18	書類	陸軍野紙に記載。3月18日から4月20日までの予定。銘ニ曰く「曠古和戦ノ決 唯夫レーノ断アルノミ 二千六百年ノ大舞台 正通ト寛容と胆力ト」。	14	22
14	491	樹立問題ノ規正要領			1940	昭和	15	3	21	書類	中央政府樹立の事か。陸軍野紙に記載。	14	22
14	492	停戦協定ニ於テ東亜連盟結成ヲ確約セシムル必要ニ就イテ（案）	支那派遣軍総司令部 参謀部		1940	昭和	15	3	15	書類	陸軍野紙に記載。5部中3号。7枚。『支那事変の回想』345頁～347頁に記載あり。	14	22
14	493	東亜連盟結成方策（案）	支那派遣軍総司令部 参謀部		1940	昭和	15	3	15	書類	14-492の別冊。陸軍野紙に記載。5枚。『支那事変の回想』347頁～348頁に記載あり。	14	22
14	494	東亜連盟結成共同宣言案	支那派遣軍総司令部 参謀部		1940	昭和	15	3	15	書類	陸軍野紙に記載。14-493の別紙第一。1枚。『支那事変の回想』348頁に記載あり。	14	22
14	495	共同防衛（防共）秘密協定案	支那派遣軍総司令部 参謀部		1940	昭和	15	3	15	書類	陸軍野紙に記載。14-493の別紙第二。2枚。『支那事変の回想』349頁に記載あり。	14	22
14	496	説明	支那派遣軍総司令部 参謀部		1940	昭和	15	3	15	書類	陸軍野紙に記載。実質1枚。	14	22
14	497	支那派遣軍総司令官西尾寿造宛 桐工作の件指示	閑院宮載仁親王	西尾寿造（支那派遣軍総司令官）	1940	昭和	15	3	17	書類	大陸指第676号。閑院宮は参謀総長。軍事機密。6部中1号。『支那事変の回想』339頁～340頁に記載あり。参謀本部情報部長の土橋勇逸少将が18日に南京に飛び支那派遣軍に大陸指を直接伝達したもの。	14	22
14	498	桐工作実施要領	閑院宮載仁親王		1940	昭和	15	3	17	書類	14-497の別冊。『支那事変の回想』340頁に記載あり。	14	22
14	499	停戦ヲ許容スル為準拠スヘキ条件	閑院宮載仁親王		1940	昭和	15	3	17	書類	14-498の別紙第一。『支那事変の回想』340頁に記載あり。	14	22
14	500	停戦ニ関スル要綱	閑院宮載仁親王		1940	昭和	15	3	17	書類	14-498の別紙第二。『支那事変の回想』341頁に記載あり。	14	22
14	501	本工作ト新中央政府樹立工作トノ関係処理要綱	閑院宮載仁親王		1940	昭和	15	3	17	書類	14-498の別紙第三。『支那事変の回想』341頁～342頁に記載あり。	14	22
14	502	支那派遣軍総司令官西尾寿造宛 桐工作の件指示	閑院宮載仁親王	西尾寿造（支那派遣軍総司令官）	1940	昭和	15	3	17	書類	大陸指第676号。閑院宮は参謀総長。14-497の複写。	14	22
14	503	桐工作実施要領	閑院宮載仁親王		1940	昭和	15	3	17	書類	14-502の別冊。14-498に同じ。	14	22
14	504	停戦ヲ許容スル為準拠スヘキ条件	閑院宮載仁親王		1940	昭和	15	3	17	書類	14-503の別紙第一。14-499に同じ。	14	22
14	505	停戦ニ関スル要綱	閑院宮載仁親王		1940	昭和	15	3	17	書類	14-503の別紙第二。14-500に同じ。	14	22
14	506	本工作ト新中央政府樹立工作トノ関係処理要綱	閑院宮載仁親王		1940	昭和	15	3	17	書類	14-503の別紙第三。14-501に同じ。	14	22
14	507	武田軍需工業株式会社（武田洋行）商用略語表			1940	昭和	15	3	21	書類	著者は不明。上海の東亜同文書院を卒業し、外務省情報部・興亜院・大東亜省で支那・中国研究に従事した。	14	22
14	508	停戦条件	支那派遣軍総司令部 参謀部		1940	昭和	15	3	4	書類	陸軍野紙に記載。14-485に似ているが日付が異なる。	14	22
14	509	停戦協定ニ関スル私見	辻政信		1940	昭和	15	3	10	書類	陸軍野紙に記載。辻は少佐。	14	22
14	510	東亜連盟結成ニ関スル折衝資料案	支那派遣軍総司令部		1940	昭和	15	3	15	書類	陸軍野紙に記載。想定問答。5部中3号。11枚。	14	22
14	511	停戦実行要領（第一案）	第一課		1940	昭和	15	3	15	書類	陸軍野紙に記載。5部中3号。5枚。	14	22
14	512	汪重関係調整指導			1940	昭和	15			書類	汪兆銘と重慶の関係。14-488と同じだが日付と作成部署記載なし。陸軍野紙に記載。	14	22
14	513	桐工作指導行事予定属表			1940	昭和	15	3	21	書類	3月22日から3月30日までの予定表。陸軍野紙に記載。14-489に同じ。	14	22
14	514	樹立問題ノ規正要領			1940	昭和	15	3	21	書類	中央政府樹立の事か。陸軍野紙に記載。14-491に同じ。	14	22

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
14	515	停戦及合流指導ニ関スル相互関係			1940	昭和	15	3	21	書類	年は推定。	14	22
14	516	呉啓鼎ニ関スル説明資料	総司令部上海機関		1940	昭和	15	4	10	書類	陸軍野紙に記載。年は推定。	14	22
14	517	会談経過メモ	今井武夫		1940	昭和	15			会議録	一部陸軍野紙に記載。年は推定。	14	22
14	518	情報	今井武夫		1940	昭和	15			書類	年は推定。	14	22
14	519	書類メモ	今井武夫		1940	昭和	15			メモ	書類。年は推定。	14	22
14	520	桐工作綴 其二	今井武夫		1940	昭和	15			書類	14箱-束23所収のファイル。	14	23
14	521	桐工作を担当した今井大佐と鈴木卓爾中佐			1940	昭和	15	9		写真	於南京総司令部。 14-520に挿入。	14	23
14	522	東亜連盟結成方案要旨			1940	昭和	15	6		書類	陸軍野紙に記載。月は推定。	14	23
14	523	東亜連盟協提案			1940	昭和	15	6		書類	14-522の別紙第一。陸軍野紙に記載。月は推定。	14	23
14	524	共同防衛秘密協定案			1940	昭和	15	6		書類	14-522の別紙第二。陸軍野紙に記載。月は推定。	14	23
14	525	説明			1940	昭和	15	6		書類	14-522の説明。陸軍野紙に記載。月は推定。	14	23
14	526	桐工作指導行事予定案	支那派遣軍総司令部 参謀部		1940	昭和	15	3	14	書類	陸軍野紙に記載。3月15日から4月8日までの予定。	14	23
14	527	桐工作指導行事予定	支那派遣軍総司令部 参謀部		1940	昭和	15	3	18	書類	陸軍野紙に記載。3月18日から4月20日までの予定。4-490と同一。	14	23
14	528	桐工作第二次会談	支那派遣軍総司令部 参謀部		1940	昭和	15	5	5	書類	陸軍野紙に記載。年は推定。	14	23
14	529	小物会談ヲ繞ル研究事項			1940	昭和	15			書類	陸軍野紙に記載。年は推定。	14	23
14	530	第一次準備会議について	大本営		1940	昭和	15	5	25	書類	陸軍野紙に記載。大本営とある。	14	23
14	531	伯林会談準備要領	参謀本部第八課		1940	昭和	15	5	16	書類	陸軍野紙に記載。一部停戦地区大物会談準備史料。「伯林」は長沙の隠語。当時の第八課長は白井茂樹大佐。『支那事変の回想』342頁～345頁に記載あり。	14	23
14	532	部分的停戦地区要図			1940	昭和	15			書類	14-531の別紙。陸軍野紙に記載。	14	23
14	533	会談実施ニ方リテノ警戒要領			1940	昭和	15			書類	14-531の別紙。陸軍野紙に記載。	14	23
14	534	長沙飛行場			1939	昭和	14	12	25	書類	14-531の別紙。陸軍野紙に記載。	14	23
14	535	国共軋轢ハ最後ノ段階ニ達セントシアリ（馮報）	支那派遣軍総司令部 上海機関		1940	昭和	15	5	13	書類	陸軍野紙に記載。軍上機特報第287号。4月13日は5月13日の間違いか。年は推定。	14	23
14	536	国共軋轢情況窺知資料（馮報）	支那派遣軍総司令部 上海機関		1940	昭和	15	5	7	書類	陸軍野紙に記載。軍上機特報第272号。年は推定。	14	23
14	537	重慶方面ニ政局ノ重大変化ヲ予測ス（馮報）	支那派遣軍総司令部 上海機関		1940	昭和	15	5	9	書類	陸軍野紙に記載。軍上機特報第283号。年度は全くの推定。	14	23
14	538	浙東方面ノ政局ノ動キニモ重慶政局ノ動キ反映シアリ（馮報）	支那派遣軍総司令部 上海機関		1940	昭和	15	5	17	書類	陸軍野紙に記載。軍上機特報第293号。年度は全くの推定。	14	23
14	539	馮玉祥ニ対スル御質問ニツキテ			1940	昭和	15			書類	陸軍野紙に記載。(B)とあるが作成者か。年は推定。	14	23
14	540	現政局ニ対スル中共同情者宋美齡ノ動向（馮報）	支那派遣軍総司令部 上海機関		1940	昭和	15	5	22	書類	陸軍野紙に記載。軍上機特報第308号。年度は全くの推定。	14	23
14	541	停戦及合流指導ニ関スル相互関係			1940	昭和	15	3	21	書類	第一方式、第二方式、持久方式10例の図式。年は推定。	14	23
14	542	第二次準備会談指導要領	支那派遣軍総司令部 参謀部		1940	昭和	15	5	28	書類	陸軍野紙に記載。	14	23
14	543	第一條取扱各案	支那派遣軍総司令部 参謀部		1940	昭和	15	5	30	書類	満州国承認問題。 3案記載あり。 陸軍野紙に記載。	14	23

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
14	544	訓令案骨子			1940	昭和	15	6	25	書類	陸軍野紙に記載。停戦条件の大綱は第3次近衛声明に準拠するものとする。	14	23
14	545	停戦議定書（案）	支那派遣軍総司令部 参謀部		1940	昭和	15	6	25	書類	陸軍野紙に記載。	14	23
14	546	蒋介石ニ対スル親書（案）	板垣征四郎		1940	昭和	15	6		書類	陸軍野紙に記載。	14	23
14	547	第二次準備会談指導要領	支那派遣軍総司令部 参謀部		1940	昭和	15	5	28	書類	陸軍野紙に記載。14-542と同一だが一部メモあり。	14	23
14	548	桐工作今後ノ指導ニ関シ参謀次長ト総 参謀長ノ懇談事項	支那派遣軍総司令部		1940	昭和	15	5	26	書類	陸軍野紙に記載。	14	23
14	549	第一條取扱各案	支那派遣軍総司令部 参謀部		1940	昭和	15	5	30	書類	満州国承認問題。 3案記載あり。 陸軍野紙に記載。14-543と同じ。今井の自筆 メモあり。	14	23
14	550	第三條取扱各案	支那派遣軍総司令部 参謀部		1940	昭和	15	5	31	書類	防共に関する問題。 3案記載あり。 陸軍野紙に記載。同一2部あり。	14	23
14	551	昭和貿易株式会社（昭和洋行）商用略 語表			1940	昭和	15	6	1	書類	桐工作（現物取引）に関する略語（暗号表）。西尾大將は菊池。今井の暗号は佐 藤。総司令部は昭和洋行総代理店。宋子良は山中又は山路。15-507に似ているが 若干異なる。	14	23
14	552	今井武夫、鈴木卓爾、臼井茂樹の3名 を支那事変処理のため派遣したことの 証明書	西尾寿造		1940	昭和	15	6	1	書類	西尾は支那派遣軍総司令官。支那派遣軍総司令官印。『支那事変の回想』に写真 あり。	14	23
14	553	今井武夫宛委任状	閑院宮載仁親王	今井武夫	1940	昭和	15	6	1	書類	停戦及び和平条件に関する支那側代表との折衝の委任。陸軍野紙に記載。	14	23
14	554	今井武夫、鈴木卓爾、臼井茂樹の3名 を事変処理の会談のため派遣したこ との証明書	板垣征四郎		1940	昭和	15	6	1	書類	板垣は支那派遣軍総参謀長。支那派遣軍総参謀長印。	14	23
14	555	3日間の会談時のメモ	今井武夫		1940	昭和	15			メモ	3日間の会談時のメモと思われる。10枚。	14	23
14	556	桐工作中国側代表3名の証明書	今井武夫		1940	昭和	15	6	2	メモ	6月2日付 蒋介石による中国側代表3名の証明書の書き写しか。陸軍野紙に貼 付。	14	23
14	557	会談時のメモ	今井武夫		1940	昭和	15			メモ	会談時のメモ。8枚。	14	23
14	558	宋子良側情報メモ	今井武夫		1940	昭和	15			メモ		14	23
14	559	桐工作の第二次会談（澳門会議） メモ	今井武夫		1940	昭和	15	6	4	メモ	6月4日から 6日までの3日間会談メモ。9枚。	14	23
14	560	桐工作第二次会談ノ意見			1940	昭和	15	6	6	書類	陸軍野紙に記載。第1条、3条、7条問題。末尾に日付記載。	14	23
14	561	支那側意見			1940	昭和	15			書類	陸軍野紙に記載。年は推定。	14	23
14	562	桐工作第二次会談ノ意見			1940	昭和	15	6	6	書類	冒頭に日付記載。陸軍野紙に記載。	14	23
14	563	支那側意見			1940	昭和	15			書類	陸軍野紙に記載。14-561に同じ。年は推定。	14	23
14	564	桐工作第二次会談ノ意見			1940	昭和	15	6	6	書類	陸軍野紙に記載。陸軍野紙に記載。14-562に同じ。	14	23
14	565	桐工作第二次会談ノ意見			1940	昭和	15	6	6	書類	陸軍野紙に記載。第1条、3条、7条問題。末尾に日付記載。14-560に同じ。	14	23
14	566	次長トノ桐工作関係懇談事項			1940	昭和	15	6	23	書類	陸軍野紙に記載。次長とは沢田茂参謀次長のことか。『支那事変の回想』361頁 に記載あり。	14	23
14	567	桐工作巨頭会談ニ関スル計画	支那派遣軍総司令部		1940	昭和	15	7	12	書類	陸軍野紙に記載。7月下旬の28日、長沙を規定。日支二巨頭を想定。『支那事変の 回想』363頁～372頁に記載あり。	14	23
14	568	汽船ヲ主トスル場合ノ行動基準表	支那派遣軍総司令部		1940	昭和	15	7	12	書類	14-567の付表第一。7月13日から7月31日までの予定表。7月28日を会談第1日と予 定。『支那事変の回想』368頁～369頁に記載あり。	14	23
14	569	飛行機ヲ主トスル場合ノ行動基準表	支那派遣軍総司令部		1940	昭和	15	7	12	書類	14-567の付表第二。7月13日から7月31日までの予定表。7月28日を会談第1日と予 定。『支那事変の回想』370頁～371頁に記載あり。	14	23
14	570	桐工作巨頭会談ニ関スル計画	支那派遣軍総司令部		1940	昭和	15	7	12	書類	陸軍野紙に記載。7月下旬の28日、長沙を規定。14-567に同じ。	14	23

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
14	571	汽船ヲ主トスル場合ノ行動基準表	支那派遣軍総司令部		1940	昭和	15	7	12	書類	14-567の付表第一。7月13日から7月31日までの予定表。7月28日を会談第1日と予定。14-568に同じ。	14	23
14	572	飛行機ヲ主トスル場合ノ行動基準表	支那派遣軍総司令部		1940	昭和	15	7	12	書類	7月13日から7月31日までの予定表。7月28日を会談第1日と予定。3枚。	14	23
14	573	総参謀長宛電報	香港機関長	総参謀長	1940	昭和	15	7	24	電報	暗号電報。香港機関長は鈴木卓爾。23日の工作状況。局地停戦について。特香港電第365号。『支那事変の回想』372頁～373頁に記載あり。	14	23
14	574	総参謀長宛電報	香港機関長	総参謀長	1940	昭和	15	7	25	電報	暗号電報。香港機関長は鈴木卓爾か。実質は今井大佐宛。蒋介石の猜疑心について。	14	23
14	575	桐工作終結指導方針	支那派遣軍総司令部 参謀部		1940	昭和	15	7	27	書類	陸軍野紙に記載。	14	23
14	576	桐工作に関するメモ	今井武夫		1940	昭和	15			メモ	陸軍野紙に記載。	14	23
14	577	局地停戦規約（案）	参謀部第一課		1940	昭和	15	8	2	書類	陸軍野紙に記載。西尾総司令官と蒋介石間の規約案。	14	23
14	578	長沙飛行場整備要領（案）	参謀部第一課		1940	昭和	15	8	3	書類	陸軍野紙に記載。	14	23
14	579	長沙飛行場標識要領（案）	参謀部第一課		1940	昭和	15	8	3	書類	陸軍野紙に記載。	14	23
14	580	日支両国飛行機行動規定（案）	参謀部第一課		1940	昭和	15	8	3	書類	陸軍野紙に記載。	14	23
14	581	岳州長沙附近局地停戦協定（案）	南京総司令部		1940	昭和	15	8	8	書類	陸軍野紙に記載。	14	23
14	582	長沙会談ノタメ局地停戦ニ関スル規約 (案)			1940	昭和	15	8	8	書類	陸軍野紙に記載。	14	23
14	583	桐工作処理	支那派遣軍総司令部 参謀部		1940	昭和	15	8	17	書類	陸軍野紙に記載。	14	23
14	584	蔣ニ與フルノ書			1940	昭和	15			書類	陸軍野紙に記載。年代は推定。	14	23
14	585	蔣汪合作問題ニ関スル保証	板垣征四郎		1940	昭和	15			書類	陸軍野紙に記載。年代は推定。	14	23
14	586	独乙側斡旋誘致ニ関スル意見具申			1940	昭和	15	9	20	書類	陸軍野紙に記載。	14	23
14	587	対重慶工作ニ関スル当面ノ処置			1940	昭和	15	9	28	書類	第二案と書いて削除してある。陸軍野紙に記載。14-624の前段階か。	14	23
14	588	蘭工作澳門作業ノ準拠			1940	昭和	15	9	28	書類	陸軍野紙に記載。	14	23
14	589	停戦条件			1940	昭和	15	9	29	書類	陸軍野紙に記載。	14	23
14	590	桐工作第二次会談ノ意見			1940	昭和	15	6	6	書類	「第二次会談意見」と記載された陸軍封筒に挿入。中国側意見（中国文）	14	23
14	591	桐工作 近衛首相親筆書簡について		桐工作 近衛首相 親筆について	1940	昭和	15	9	3	書類	中国側意見の翻訳か。	14	23
14	592	板垣総参謀長への連絡	参謀総長		1940	昭和	15	10	14	書類	支那派遣軍総参謀副長として赴任する土橋（逸勇）少将伝達。半公式。独逸を中心とする和平促進企画しあり。大陸指676号による停戦交渉は中止。陸軍野紙に記載。「本趣旨を半公式にて伝達すること」とある。『支那事変の回想』374頁～375頁に記載あり。参謀総長は杉山元。	14	23
14	593	土橋勇逸氏持参メモ	今井武夫		1940	昭和	15			メモ	「土橋勇逸氏持参」とあり、14-592に添付。年代は推定。	14	23
14	594	メモ 帰任報告要旨	今井武夫		1940	昭和	15	9	7	メモ	年代は推定。	14	23
14	595	昭和十五年 桐工作綴 其三 第二 (四) 課長	今井武夫		1940	昭和	15			書類	14箱-東24所収のファイル。	14	24
14	596	会談要旨			1940	昭和	15	6	24	書類	汪兆銘、板垣、今井会談。於汪公館。陸軍野紙に記載。	14	24
14	597	訓令（案）			1940	昭和	15			書類	陸軍野紙に記載。年代は推定。	14	24
14	598	停戦基礎条件			1940	昭和	15			書類	14-597の別紙第二。別紙第一はなし。陸軍野紙に記載。年代は推定。	14	24
14	599	訓令案骨子			1940	昭和	15	6	25	書類	陸軍野紙に記載。	14	24

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
14	600	停戦議定書（案）	支那派遣軍総司令部 参謀部		1940	昭和	15	6	25	書類	陸軍野紙に記載。	14	24
14	601	桐工作終結指導方針	支那派遣軍総司令部 参謀部		1940	昭和	15	7	27	書類	陸軍野紙に記載。14-575に同じ。	14	24
14	602	総軍の任務ほか	今井武夫		1940	昭和	15			メモ	理由正当の場合実効。不正当の場合決裂。総軍の任務ほか。陸軍野紙に記載。2枚。年代は推定。	14	24
14	603	停戦許容ノ為和平条件ノ基礎トシテ取 扱フヘキ条件			1940	昭和	15			書類	陸軍野紙に記載。年代は推定。	14	24
14	604	訓令構成ノ思想			1940	昭和	15			書類	陸軍野紙に記載。年代は推定。	14	24
14	605	訓令案			1940	昭和	15	7	23	書類	14-604の別冊。陸軍野紙に記載。	14	24
14	606	附			1940	昭和	15	7	23	書類	14-605の附か。陸軍野紙に記載。年代日付は推定。	14	24
14	607	桐工作三巨頭会談ニ関スル計画	支那派遣軍総司令部		1940	昭和	15	6	24	書類	陸軍野紙に記載。日・汪・支 三巨頭。	14	24
14	608	岳州長沙附近局地停戦協定（案）	南京総司令部		1940	昭和	15	8	8	書類	陸軍野紙に記載。14-581に同じ。	14	24
14	609	長沙会談ノタメ局地停戦ニ関スル規約 (案)			1940	昭和	15	8	8	書類	陸軍野紙に記載。14-582 に同じ。	14	24
14	610	桐工作処理	支那派遣軍総司令部 参謀部		1940	昭和	15	8	17	書類	陸軍野紙に記載。14-583 に同じ。	14	24
14	611	蔣汪合作問題ニ関スル保証	板垣征四郎		1940	昭和	15			書類	陸軍野紙に記載。14-585に同じ。年代は推定。	14	24
14	612	近衛文麿書簡	近衛文麿	蒋介石	1940	昭和	15	8	22	書簡	陸軍野紙に記載。『支那事変の回想』に内容記載あり。	14	24
14	613	宛先不明電信		宛先不明	1940	昭和	15	8	17	電報	電信写。「今井大佐は騙されている」という内容。	14	24
14	614	蔣ニ與フルノ書			1940	昭和	15	8	20	書類	陸軍野紙に記載。14-584は似ているが日付なし。	14	24
14	615	報告メモ	今井武夫		1940	昭和	15	9	12	メモ	報告、9月12日桐工作鈴木談話（？）か。Hotel Rivera Macau の野紙に記載。佐藤宛の要項メモ貼付あり。月日は推定。	14	24
14	616	宋子文、英大使の重慶行きほか	今井武夫		1940	昭和	15			メモ		14	24
14	617	桐工作 支那（重慶政府）側文書			1940	昭和	15	9	3	書類	「支那側文書」の陸軍封筒に挿入。渡された近衛親書に満足せず。要求3点。	14	24
14	618	宛先不明電報の写し（中国側）		宛先不明	1940	昭和	15	9	5	電報	鈴木が持ってきた事を暫く受けない。蒋介石から張治平に重慶に帰って来いと いっている中国側電報のメモ。日付は5/9とある。14-617と同じ封筒にあり。	14	24
14	619	独乙側斡旋誘致ニ関スル意見具申			1940	昭和	15	9	20	書類	陸軍野紙に記載。14-586に同じだが加筆修正箇所が若干異なる。	14	24
14	620	今後ニ於ケル対重慶工作処理要領	支那派遣軍総司令部 参謀部		1940	昭和	15	9	28	書類	陸軍野紙に記載。	14	24
14	621	第一案 対重慶工作ニ関スル当面ノ処 置			1940	昭和	15	9	28	書類	陸軍野紙に記載。	14	24
14	622	対重慶工作ニ関スル当面ノ処置			1940	昭和	15	9	28	書類	第二案と書いて削除してある。陸軍野紙に記載。14-587に同じ。14-624の前段階 か。	14	24
14	623	蘭工作澳門作業ノ準拠			1940	昭和	15	9	28	書類	陸軍野紙に記載。14-588に同じ。	14	24
14	624	対重慶工作ニ関スル当面ノ処置			1940	昭和	15	9	28	書類	陸軍野紙に記載。	14	24
14	625	蘭工作澳門作業ノ準拠	支那派遣軍総司令部 参謀部		1940	昭和	15	9	28	書類	陸軍野紙に記載。	14	24
14	626	停戦条件			1940	昭和	15	9	29	書類	陸軍野紙に記載。14-589に同じ。	14	24
14	627	張熾章（季鸞）について			1940	昭和	15	11		書類	陸軍野紙に記載。年月は全くの推定。張季鸞は大公報の主筆。大阪朝日新聞団野 記者の聞き込みあり。団野については21-318参照。	14	24
14	628	東条辰雄来滬後の行動概要			1940	昭和	15			書類	陸軍野紙に記載。年代は全くの推定。滬は上海のこと。辰雄の別名は風鈴。僧 侶。日中和平工作を行った。	14	24

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
14	629	上海出張報告資料	今井武夫		1940	昭和	15	10	14	書類		14	24
14	630	宋一家ニ関スル調査	支那派遣軍参謀部第二課		1940	昭和	15	8	10	書類	陸軍野紙に記載。今井、白井の面談せる宋子良なる人物真偽疑わしと。	14	24
14	631	宋家兄弟姉妹ノ長幼順序ヲ文献的ニ考証ス	支那派遣軍総司令部上海機関		1940	昭和	15	10	21	書類	陸軍野紙に記載。	14	24
14	632	終戦書類綴	今井武夫		1945	昭和	20			書類	14箱-東25所収のファイル。	14	25
14	633	何柱国上将との会談スケジュール			1945	昭和	20	7	9	書類	7月9日と10日於新站集汎東区司令部。合計4回会談。第3回と4回は通訳なしで対談。『支那事変の回想』375頁に記載あり。	14	25
14	634	芷江会談録 第1号			1945	昭和	20	8	21	書類	8月21日議事録。後刻宿舎で細部連絡をするところ。5枚。『支那事変の回想』377頁に記載あり。	14	25
14	635	細部ニ関スル連絡事項 会議録 第3号			1945	昭和	20	8	21	書類	第3号。2欠とある。備忘録は受け取るにとどめると今井は主張し了解される。今井より「日本側の地区に今日まで、貴方の意思に叛いて、日本側に協力を寄せたる貴国人あるも、彼らの今日までの業績に対しては、我方は極めて感謝しあるところなり。彼らは和平地区民衆の幸福を計り、又法権租界の回収など少なからざる貢献もあり。貢献は別とするも、彼らの罪は日本側が負うべきものにして、彼らの今後に於ける取り扱いについては、寛容に願ひ度し」と要請したが、重慶側の回答を得ることができなかった。8枚。『支那事変の回想』377頁～382頁	14	25
14	636	芷江会談録 第6号			1945	昭和	20	8	22	書類	第4号、5号欠とある。中国と米軍俘虜の人名提出等について。米国パトラー准将から米国人捕虜のことを聞かれ、今井は知る限りのことを答え「南京帰還の後詳細は調査する」と述べた4枚。『支那事変の回想』382頁～384頁に記載あり。	14	25
14	637	芷江会談録 第7号	今井武夫		1945	昭和	20	8	23	書類	備忘録受領の確認。『支那事変の回想』384頁～385頁に内容記載あり。総司令官何応欽上将から 来訪を慰勞され 備忘録の受領について尋ねられる。8月26日から30日以前の期間にかけて 一部の中国部隊を南京に進駐させる旨の話あり。日本軍の協力を要請される。	14	25
14	638	(中央電台) 芷江会議状況			1945	昭和	20	8	22	書類	陸軍野紙に記載。今井は接受後署名捺印した。1枚。	14	25
14	639	重慶中央電台 何応欽將軍ヨリ岡村寧次將軍ニ交付セル備忘録			1945	昭和	20	8	22	書類	陸軍野紙に記載。陸軍野紙に記載。何応欽將軍より岡村寧次將軍に交付せる備忘録の内容。2枚。	14	25
14	640	重慶中央電台 八月二十二日放送			1945	昭和	20	8	22	書類	陸軍野紙に記載。芷江急電。備忘録に書かれた各地の中国側接受の司令長が記載されている。2枚。	14	25
14	641	大陸ノ降服 日本軍は二百万ナリト			1945	昭和	20	8	23	書類	中二B情。陸軍野紙に記載。2枚。裏も記載されている。鉛筆書き。在支日本軍は支那軍に対し飛行機300機を引き渡す予定なり。	14	25
14	642	何応欽交渉状況	中央社		1945	昭和	20	8	24	書類	中二B情。陸軍野紙に記載。1枚。裏も記載あり。今井は中米当事者に答える。22日発。	14	25
14	643	芷江ノ状況	中央社		1945	昭和	20	8	23	書類	陸軍野紙に記載。中B情第2号。今井が中米記者に答える。	14	25
14	644	今井少将ノ記者ニ対スル談話	中央社		1945	昭和	20	8	23	書類	陸軍野紙に記載。中B情第9号。今井は中米各当事者に答えたり。「日本は現在陸軍300万を有しありて 支那には120万を有せり。天皇の命令に服従するのみ」。22日芷江発。	14	25
14	645	何応欽ト中国外人記者団トノ会見	中央社		1945	昭和	20	8	22	書類	陸軍野紙に記載。中B情第1号。記者団58名との対話内容。3枚。芷江21日発。	14	25
14	646	中外記者団質問ニ対する何応欽の応答	中央社		1945	昭和	20	8	24	書類	陸軍野紙に記載。今井との会談に何応欽は満足せり。2枚。	14	25
14	647	「芷江会談厳肅举行 日代表接受我備忘録」			1945	昭和	20	8	22	新聞	中報。1972号。新聞切抜。	14	25
14	648	南京ニ渉外部設置ノ件			1945	昭和	20	8	30	書類	陸軍野紙に記載。今井は渉外部長。総務大田参事官 尾川勘治大佐 本田海軍大佐。部員 陸海大関係 若干名。事務所は旧日本大使館内。『支那事変の回想』375頁～377頁に記載あり。	14	25
14	649	渉外委員業務分担表	支那派遣軍総司令部		1945	昭和	20	8	25	書類		14	25

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
14	650	中国側委員業務分担表	支那派遣軍総司令部		1945	昭和	20	8	25	書類		14	25
14	651	調印式次第			1945	昭和	20	9	9	書類	陸軍野紙に記載。入場から署名までの式次第を書いている。着席位置も記載あり。4枚。	14	25
14	652	「何総司令招待記者会上答問 戦犯問題在处理中」			1946	昭和	21	2	8	新聞	新聞切抜。中央日報。「今井は戦犯でない」と何総司令は答えている。中央日報は国民党の機関紙。	14	25
14	653	「首都高院昨判決 林逆柏生死刑」			1946	昭和	21	6	21	新聞	新聞切抜。掲載紙不明。14-654と同じ紙に貼り付けてある。『支那事変の回想』に写真あり。	14	25
14	654	「周逆隆岸昨公審 依然一套丑表功」			1946	昭和	21	6	2	新聞	新聞切抜。掲載紙不明。日付は2月6日ではなく6月2日が正しいのではないか。14-653と同じ紙に貼り付けてある。『支那事変の回想』に写真あり。	14	25
14	655	「像夢一樣的歲月」			1946	昭和	21	8	25	新聞	和平日報。今井について記載あり。新聞切抜。1年前のことを振り返っている。裏に14-656の記事あり。	14	□
14	656	「周仏海等巨奸 高院昨提公訴」			1946	昭和	21	8	10	新聞	中央日報。新聞切抜。14-655の裏にあり。中央日報は国民党の機関紙。	14	25
14	657	「從芷江到南京 中国戦区日軍投降経過」			1946	昭和	21	9	3	新聞	新聞切抜。掲載紙不明。3月9日の可能性もある。今井について記載あり。裏に14-658あり。	14	25
14	658	趙樸「受降始末」 憶民「周鑄之謎」			1946	昭和	21	9	3	新聞	新聞切抜。中央日報。3月9日の可能性もある。今井について記載あり。受降式は20分で終わった。14-657の裏に添付。中央日報は国民党の機関紙。	14	25
14	659	王冷齋「東京両月記（三）」			1946	昭和	21	8	11	新聞	大公報。年は推定。11月8日かも。	14	25
14	660	「日閩拡大宛平事件 作為侵華籍口」			1946	昭和	21	8	8	新聞	中央日報。新聞切抜。年は推定。『支那事変の回想』に写真あり。中央日報は国民党の機関紙。	14	25
14	661	「周逆仏海昨公審」 劉一鷗「周逆仏海受鞠記」			1946	昭和	21	10	22	新聞	中央日報。新聞切抜。中央日報は国民党の機関紙。	14	25
14	662	「周逆仏海昨二次公審」			1946	昭和	21	11	3	新聞	和平日報。新聞切抜。	14	25
14	663	「明るみに出た敗戦裏面史 東条を暗殺・和平へ」			1946	昭和	21	12	5	新聞	西部朝日新聞。新聞切抜。昭和19年5月の三笠宮を中心とする全面和平工作。石原莞爾、津野田知重少佐と浅原健三の東条暗殺計画。三笠宮、高松宮擁立計画。別項で蒋介石への和平条件提示で今井少将の名前が出てくる。	14	25
14	664	「梅逆思平昨公訴 下旬初公開審訊 高院趙院長親任判長」			1946	昭和	21			新聞	掲載紙不明。新聞切抜。今井と影佐について記載あり。	14	25
14	665	南京連絡班に対する中華民国国防部訓令	陳誠		1946	昭和	21	11	28	書類	1947年6月末まで未了事項を処理するまで勤務期間延期するも、不必要な人間は、1946年12月10日以前に帰国すべし。14-665の末尾に記載あり。陳誠は中国参謀総長。陸軍野紙。1枚。	14	
14	665	南京連絡班長状況報告	今井武夫		1947	昭和	22	1	29	報告書	今井は南京連絡班長としての復員局への報告。陸軍野紙に記載。目次を含めて18枚。南京連絡班編成表、残留連絡班人名表、中華民国国防部訓令（1946年11月28日付け）添付あり。日付は推定。	14	25
14	666	戦犯裁判ほかメモ	今井武夫		1945	昭和	20			メモ	戦犯裁判。酒井隆死刑。高橋坦無期。岡村日誌ほか。2枚。	14	2
14	667	長谷川敏三書簡	長谷川敏三	今井武夫	1978	昭和	53	7	31	書簡	長谷川は元在華日本人民反戦同盟代表。	14	25
14	668	抗議声明書	長谷川敏三		1978	昭和	53	7	25	書類	14-667に同封。	14	25
14	669	支那派遣軍にみる日本陸軍最後の栄光	丹羽敏明		1978	昭和	53			書類	14-667に同封。複写。丹羽は元118師団砲兵隊所属。年度は全くの推定。	14	25
14	670	元在華日本人民反戦同盟について	今井武夫		1978	昭和	53			メモ	メモ2枚。14-667関連。	14	25
14	671	昭和十年以降 備忘録	今井武夫		1934	昭和	10	1		メモ	14箱-東26所収のファイル。	14	26
14	672	今井 「私心無き挙国一致を要望」			1937	昭和	12	1		新聞	掲載紙不明。駐在武官として北平居留民への年初の挨拶。新聞切抜。	14	26
14	673	今井 「胸襟を開いて日支親善努力」			1937	昭和	12	1		新聞	掲載紙不明。14-672の続き。新聞切抜。	14	26
14	674	「西部〇〇部隊今井大佐語る けふ満州事変記念日」			1941	昭和	16	9	18	新聞	合同新聞。新聞切抜。	14	26

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
14	675a	「絶大の信頼受ける 北支の四武官上」			1937	昭和	12			新聞	新聞切抜。今井に関する記載あり。掲載紙不明。	14	28
14	675b	「絶大の信頼受ける 北支の四武官下」			1937	昭和	12			新聞	新聞切抜。今井に関する記載あり。掲載紙不明。	14	28
14	676	須磨弥吉郎「移り行く支那 在支十一年の思い出を語る 7 完」			1937	昭和	12	4		新聞	新聞切抜。掲載紙不明。年月は推定。6は欠落している。須磨は総領事。	14	26
14	677	須磨弥吉郎「移り行く支那 在支十一年の思い出を語る 5」			1937	昭和	12	4		新聞	新聞切抜。掲載紙不明。年月は推定。	14	26
14	678	須磨弥吉郎「移り行く支那 在支十一年の思い出を語る 4」			1937	昭和	12	4		新聞	新聞切抜。掲載紙不明。年月は推定。	14	26
14	679	須磨弥吉郎「移り行く支那 在支十一年の思い出を語る 3」			1937	昭和	12	4		新聞	新聞切抜。掲載紙不明。年月は推定。	14	26
14	680	須磨弥吉郎「移り行く支那 在支十一年の思い出を語る 2」			1937	昭和	12	4		新聞	新聞切抜。掲載紙不明。年月は推定。	14	26
14	681	須磨弥吉郎「移り行く支那 在支十一年の思い出を語る 1」			1937	昭和	12	4		新聞	須磨は南京総領事。駐米大使館参事に就任予定。スペイン大使を経て、戦後衆議院議員（自民党）新聞切抜。掲載紙不明。年月は推定。	14	26
14	682	今井 「情熱」			1939	昭和	14			新聞	新聞切抜。掲載紙不明。年度は1938年か39年か。梅思平のことを匿名で語って褒めている。	14	26
14	683	弾圧治罪権に関する首席公使「コロガン」の清国全権宛書簡	今井武夫	弾圧治罪権に関する首席公使「コロガン」の清国全権		昭和				書類	仮訳文。	14	26
14	684 (欠番)												
14	685	「事変一年 1」			1938	昭和	13	6	20	新聞	新聞切抜。今井について記載あり。このシリーズ切抜は14-26に挿入。掲載紙不明。	14	26
14	686	「事変一年 2」			1938	昭和	13	6	21	新聞	新聞切抜。掲載紙不明。	14	26
14	687	「事変一年 3」			1938	昭和	13	6	22	新聞	新聞切抜。掲載紙不明。	14	26
14	688	「事変一年 4」			1938	昭和	13	6	23	新聞	新聞切抜。掲載紙不明。	14	26
14	689	「事変一年 5」			1938	昭和	13	6	24	新聞	新聞切抜。掲載紙不明。	14	26
14	690	「事変一年 6」			1938	昭和	13	6	25	新聞	新聞切抜。掲載紙不明。	14	26
14	691	「事変一年 7」			1938	昭和	13	6	26	新聞	新聞切抜。掲載紙不明。	14	26
14	692	「事変一年 8」			1938	昭和	13	6	27	新聞	新聞切抜。掲載紙不明。	14	26
14	693	「事変一年 9」			1938	昭和	13	6	28	新聞	新聞切抜。掲載紙不明。	14	26
14	694	「事変一年 10」			1938	昭和	13	6	29	新聞	新聞切抜。掲載紙不明。	14	26
14	695	「事変一年 11」			1938	昭和	13	6	30	新聞	新聞切抜。掲載紙不明。	14	26
14	696	「事変一年 12」			1938	昭和	13	7	1	新聞	新聞切抜。掲載紙不明。	14	26
14	697	「事変一年 13」			1938	昭和	13	7	2	新聞	新聞切抜。掲載紙不明。	14	26
14	698	「事変一年 14」			1938	昭和	13	7	3	新聞	新聞切抜。掲載紙不明。	14	26
14	699	「事変一年 15」			1938	昭和	13	7	4	新聞	新聞切抜。掲載紙不明。	14	26
14	700	「事変一年 完」			1938	昭和	13	7	5	新聞	新聞切抜。掲載紙不明。	14	26
14	701	備忘録	今井武夫		1944	昭和	19	6		メモ	14箱-東27所収のファイル。今井は大東亜省参事官。年月は推定。	14	27
14	702	出張日程表			1944	昭和	19	6	8	書類	6月28日までの出張日程表。大東亜省の罫紙に記載。	14	27

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
14	703	昭和十九年度大陸物資転嫁輸送ニ関スル件	陸軍省整備局第三部		1944	昭和	19	5	22	書類	大東亜省の罫紙に記載。	14	27
14	704	内鮮満支輸送連絡協議会設置ニ関スル件（案）	運輸通信省企画局		1944	昭和	19	5	24	書類	大東亜省の罫紙に記載。	14	27
14	705	今井武夫 満支旅行日誌	今井武夫		1944	昭和	19	6	8	日記	6月20日迄。大日本帝國政府の罫紙に記載。備忘録と名付けられたファイル。	14	27
14	706	ハルピン宮川総領事ほか	今井武夫		1944	昭和	19	6		メモ	在満日本帝國大使館の罫紙に記載。	14	27
14	707	領事会議日程			1944	昭和	19	6	11	書類	6月13日まで。於満州国新京。	14	27
14	708	満州北支旅行報告	今井武夫		1944	昭和	19	6	10	報告書	6月22日迄記載。	14	27
14	709	第4回大陸鉄道輸送協議会			1944	昭和	19	6	12	書類		14	27
14	710	第4回大陸鉄道輸送協議会出席者名簿	大陸鉄道輸送協議会事務局		1944	昭和	19	6	12	書類		14	27
14	711	第5回大陸連絡会議			1944	昭和	19	6	15	書類	16日迄2日間。於張家口。	14	27
14	712	朝鮮 関東軍ほか	今井武夫		1944	昭和	19	6		メモ	2枚。年月は推定。	14	27
14	713	大陸連絡会議出席者名簿			1944	昭和	19	6	15	書類		14	27
14	714	大陸連絡会議出席者張家口案内略図			1944	昭和	19	6	15	書類		14	27
14	715	支那事変手記 1頁め	今井武夫		1937	昭和	12	7	1	日記	14箱-東28所収のファイル。陸軍罫紙に記載。14-779のカバーリング。	14	28
14	716	今井武夫 支那事変手記	今井武夫		1938	昭和	13	1	21	日記	5月19日迄。一部は陸軍罫紙に記載。14-717の続き。	14	28
14	717	今井武夫 支那事変手記	今井武夫		1937	昭和	12	7	1	日記	昭和13年1月20日迄。陸軍罫紙に記載。この続きが14-716。盧溝橋事件。	14	28
14	717	今井武夫 支那事変手記	今井武夫		1938	昭和	13	5	20	日記	1938年5月23日迄の3日間。陸軍罫紙に記載。14-716の続き。1枚。表裏記載。離脱したもの。この続きが14-286。	14	28
14	718	「陸軍武官室発表」			1937	昭和	12	7	8	新聞	掲載紙不明。14-717の7月8日に貼付。新聞切抜。	14	28
14	719	「局面打開折衝纏まらず（八日）」	東京朝日新聞社		1937	昭和	12	7	9	新聞	14-717の7月8日に貼付。新聞切抜複写。	14	28
14	720	事変発生と共に閉鎖されたる哈達門	長嶋上尉		1937	昭和	12	7	8	写真	14-717の7月8日に貼付。「上尉」とは満州国軍の「大尉に」あたる役職。	14	28
14	721	事変発生と共に閉鎖されたる朝陽門	長嶋上尉		1937	昭和	12	7	8	写真	14-717の7月8日に貼付。「上尉」とは満州国軍の「大尉に」あたる役職。	14	28
14	722	緊張せる大使館兵営前	長嶋上尉		1937	昭和	12	7	9	写真	14-717の7月8日に貼付。「上尉」とは満州国軍の「大尉に」あたる役職。	14	28
14	723	防禦工事成れる王府井金城銀行前	長嶋上尉		1937	昭和	12	7	11	写真	14-717の7月8日に貼付。「上尉」とは満州国軍の「大尉に」あたる役職。	14	28
14	724	「第一線部隊に停戦命令 支那側協定を無視し又も我軍に射撃を行なふ」	満洲日日新聞社		1937	昭和	12	7	9	新聞	満洲日日新聞掲載。14-717の7月9日に貼付。新聞切抜。満洲日日新聞は満鉄傘下の日刊紙。	14	28
14	725	「命令不徹底が原因 日支調停委員の現地到着で支那軍撤退を開始 支那側謝意を表明」	満洲日日新聞社		1937	昭和	12	7	9	新聞	満洲日日新聞。14-717の7月9日に貼付。新聞切抜。満洲日日新聞は満鉄傘下の日刊紙。	14	28
14	726	「北平駐在武官室発表 日支両軍は9日午前零時20分大部の撤退を完了した」			1937	昭和	12	7	9	新聞	掲載紙不明。14-717の7月9日に貼付。新聞切抜。	14	28
14	727	「北平附近又も動揺 平津間列車 電話不通」	満洲日日新聞社		1937	昭和	12	7	10	新聞		14	28
14	728	「北平武官室発表」	東京日報社		1937	昭和	12	7	10	新聞	東京日報。14-717の7月11日に貼付。新聞切抜。	14	28
14	729	解決条件			1937	昭和	12	7	11	書類	14-717に記載あり。1枚。	14	28

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
14	730	解決条件			1937	昭和	12	7	11	書類	中国文。14-717に記載あり。1枚。	14	28
14	731	解決条件			1937	昭和	12	7	11	書類	14-717に記載あり。1枚。	14	28
14	732	要求事項			1937	昭和	12	7	11	書類	14-717に記載あり。1枚。	14	28
14	733	北支事変勃発当時の外国武官 外国武官護衛隊長訪問表			1937	昭和	12	7	11	書類	陸軍野紙に記載。14-717に記載あり。1枚。	14	28
14	734	「支那軍不法の裏に国府の抗日煽動 陸軍武官室発表」	満洲日日新聞社		1937	昭和	12	7	11	新聞	14-717の7月11日に貼付。満洲日日新聞。新聞切抜。満洲日日新聞は満鉄傘下の日刊紙。	14	28
14	735	「武官室発表 張允榮氏 我特務機関を訪問」	満洲日日新聞社		1937	昭和	12	7	11	新聞	14-717の7月11日に貼付。満洲日日新聞。新聞切抜。満洲日日新聞は満鉄傘下の日刊紙。	14	28
14	736	「今井武官に秦市長回答」			1937	昭和	12	7	16	新聞	秦は秦徳純。掲載紙不明。14-717の7月16日に貼付。新聞切抜。	14	28
14	737	北支事変原因の怪	今井武夫		1937	昭和	12	7	18	報告書	14-717に記載。陸軍野紙に記載。11枚。	14	28
14	738	「不法を繰返すに於いては 明二十日 独自の行動をとるべき旨冀察当局に通告」			1937	昭和	12	7	19	新聞	掲載紙不明。14-717の7月19日に貼付。新聞切抜。	14	28
14	739	「武官室発表 隠忍の我軍決起す」			1937	昭和	12	7	20	新聞	掲載紙不明。14-717の7月20日に貼付。新聞切抜。	14	28
14	740	「武官室を慰問せる大谷照乘連枝と篁布教師」			1937	昭和	12	7	25	新聞	写真のみ。掲載紙不明。14-717の7月25日に貼付。新聞切抜。	14	28
14	741	「松井機関長ほか宋哲元を訪問」			1937	昭和	12	7	26	新聞	掲載紙不明。14-717の7月26日に貼付。新聞切抜。	14	28
14	742	「香月司令官から宋哲元への通告」			1937	昭和	12	7	27	新聞	掲載紙不明。14-717の7月26日に貼付。新聞切抜。この通告文内容はこのほか、今井武夫『支那事変の回想』36頁にもあり。	14	28
14	743	「廓坊事件に就いて今井武官が嚴重抗議」			1937	昭和	12	7	26	新聞	日本側重傷2名、軽症4名。掲載紙不明。14-717の7月26日に貼付。新聞切抜。	14	28
14	744	「責任支那側にあり」	大阪毎日新聞社		1937	昭和	12	7	26	新聞	大阪毎日新聞。14-717の7月26日に貼付。新聞切抜。	14	28
14	745	「わが方はやむを得ず応戦」			1937	昭和	12	7	26	新聞	掲載紙不明。14-717の7月26日に貼付。新聞切抜。	14	28
14	746	「誠意なき宋哲元 今井武官 秦、張と会見」			1937	昭和	12	7	26	新聞	掲載紙不明。14-717の7月26日に貼付。新聞切抜。秦は秦徳純、張は張自忠。	14	28
14	747	今井武夫宛電報	坦	今井武夫	1937	昭和	12	7	27	電報	「今更交渉の容域に非ずや」。14-717の7月27日に貼付。新聞切抜。坦とは高橋坦支那班長。	14	28
14	748	「広安門の死線を潜る」			1937	昭和	12	7	27	新聞	掲載紙不明。14-717の7月27日に貼付。新聞切抜。	14	28
14	749	「外人記者団に我意図闡明 今井武官堂々応答す」	東京朝日新聞社		1937	昭和	12	7	28	新聞	14-717の7月28日に貼付。東京朝日新聞。新聞切抜。	14	28
14	750	「支那駐屯軍重大声明 万策尽きて膺懲の師を進む」			1937	昭和	12	7	28	新聞	14-717の7月28日に貼付。掲載紙不明。新聞切抜。	14	28
14	751	「皇軍の往く所実に斯の如し 今井武官視察談」			1937	昭和	12	7	29	新聞	掲載紙不明。14-717の7月29日に貼付。新聞切抜。	14	28
14	752	「殷冀東長官健在」			1937	昭和	12	7	30	新聞	掲載紙不明。 14-717の7月30日に貼付。新聞切抜。殷汝耕の救出について。	14	28
14	753	「深夜電話の第一報」			1937	昭和	12	7	31	新聞	14-717の7月31日に貼付。新聞切抜。掲載紙不明。	14	28
14	754	「上海本社特電」	大阪毎日新聞社		1937	昭和	12	8	15	新聞	14-717の8月15日に貼付。大阪毎日新聞切抜。	14	28
14	755	「Lieut. Colonel Im ai」			1937	昭和	12	8	17	新聞	14-717の8月17日に貼付。The Peiping News新聞切抜。	14	28
14	756	吊辞	今井武夫		1937	昭和	12	8	17	書類	陸軍野紙に記載。	14	28
14	757	「冀東銀行捲土重来」			1937	昭和	12	8	18	新聞	14-717の8月18日に貼付。新聞切抜。掲載紙不明。	14	28

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
14	758	「湯恩伯行方不明」			1937	昭和	12	8	24	新聞	14-717の8月24日に貼付。新聞切抜。掲載紙不明。	14	28
14	759	「武官室を慰問せる伯爵大谷光照」			1937	昭和	12	8	29	新聞	14-717の8月29日に貼付。新聞切抜。掲載紙不明。	14	28
14	760	「河北省銀行に関する管理委員会の策動」			1938	昭和	13	8	30	新聞	14-717の8月30日に貼付。新聞切抜。掲載紙不明。	14	28
14	761	「今井武官 民会義勇隊 往訪慰問」			1937	昭和	12	9	19	新聞	14-717の9月19日に貼付。新聞切抜。掲載紙不明。	14	28
14	762	「中原、小山両代議士と北平談論風発何たる奇遇 一木少佐の便り」	信濃毎日新聞社		1937	昭和	12	10	1	新聞	信濃毎日新聞。14-717の9月20日に新聞切抜貼付あり。今井良雄氏も所蔵。9月20日長野県出身の中原、小山両代議士と同じく同県出身の一木清直少佐の会合を今井がアレンジした。	14	28
14	763	一木清直少佐の会合写真			1937	昭和	12	9	20	写真	14-71762会合時の写真3枚貼付。長野県出身の中原、小山両代議士と同じく同県出身の一木清直少佐の会合を今井がアレンジ	14	28
14	764	「今井武官 国防婦人会に五十元寄付」			1937	昭和	12	9	25	新聞	14-717の9月25日に貼付。新聞切抜。掲載紙不明。	14	28
14	765	弔辞	今井武夫		1937	昭和	12	9	26	書類	陸軍弔紙に記載。	14	28
14	766	「今井武官 栄転 後任 吉野弘之少佐」			1937	昭和	12	10	13	新聞	14-717の10月13日に貼付。新聞切抜。掲載紙不明。	14	28
14	767	「艱難を共にした北京同胞と別れるのに離愁の感更に深い！」			1937	昭和	12	10	14	新聞	14-717の10月14日に貼付。北京新聞。	14	28
14	768	「近く栄転する今井武官語る」	新支那社		1937	昭和	12	10	14	新聞	14-717の10月14日に貼付。新支那新聞。	14	28
14	769	「今井武官 記者団招宴」			1937	昭和	12	10	17	新聞	14-717の10月17日に貼付。掲載紙不明	14	28
14	770	「今井武官 30日離任確定」			1937	昭和	12	10	24	新聞	14-717の10月24日に貼付。掲載紙不明。	14	28
14	771	北平陸軍機関業務分担表			1937	昭和	12	10		書類	14-717にi貼付。	14	28
14	772	井上立樹書簡	井上立樹	今井武夫	1948	昭和	23	3	31	書簡	戦後の資金の件。プライベートか。13-68、69の関係か。	14	28
14	773 (欠番)												
14	774 (欠番)												
14	775	「盧溝橋秘話 一」	安藤徳器		1941	昭和	16	7	5	新聞	報知新聞。新聞切抜き。	14	28
14	776	「盧溝橋秘話 二」	安藤徳器		1941	昭和	16	7	6	新聞	報知新聞。新聞切抜き。	14	28
14	777	「盧溝橋秘話 三」	安藤徳器		1941	昭和	16	7	7	新聞	報知新聞。新聞切抜き。	14	28
14	778	「盧溝橋秘話 四」	安藤徳器		1941	昭和	16	7	8	新聞	報知新聞。新聞切抜き。	14	28
14	779 (欠番)												
14	780	「近衛文麿首相の側近 風見章日記・関係資料公刊 大政翼賛会結成の裏側 大政翼賛会結成の裏側」	読売新聞社		2008	平成	20	3	17	新聞	論壇。複写。伊藤隆東大名誉教授のコメントあり。	14	28
15	1	大塚賢三書簡	大塚賢三	今井武夫	1976	昭和	51	10	18	書簡	香港の新聞「大公報」に『支那事変の回想』の訳文が10月10日から連載されている旨の連絡。大塚は支那事変の時の通訳官。昔興亜院華北連絡部政務局に勤め、その後ラジオプレスに勤めていた。暁月会のメンバー。	15	1
15	2	横尾深林人書簡	横尾深林人	今井武夫	1964	昭和	39	8	6	書簡	テレビで久しぶりにお姿を見て懐かしく思った。年は推定。戦後の住所から要年度推定。横尾は戦前翠田と号した画家。	15	1
15	3	パターン第二次攻撃開始の第141連隊	豊島正喜		1942	昭和	17	4	3	写真		15	1
15	4	今井、戸伏少佐、堀地工兵少佐、穴山准尉	豊島正喜		1942	昭和	17	4	5	写真	カトモン渡河前日パターンにて。	15	1
15	5	パターン戦線 軍馬に兵が餌を与える			1942	昭和	17	4		写真		15	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
15	6	占領したリマイ山山頂で今井他3人			1942	昭和	17	4	8	写真	髯がぼうぼうとしている。山頂で万歳をしている。	15	1
15	7	リマイ山山頂で万歳			1942	昭和	17	4	9	写真	髯をそっている。	15	1
15	8	リマイ山山頂で万歳			1942	昭和	17	4	9	写真		15	1
15	9	歩兵第141連隊旗を奉じて今井が挨拶			1942	昭和	17	9		写真		15	1
15	10	マニラ日本人墓地 菅沼貞風墓辺における今井			1942	昭和	17	9	1	写真	菅沼は明治22年7月6日マニラで死去。行年25歳。フィリピン探検家。	15	1
15	11	菅沼貞風墓辺にて			1942	昭和	17	9	1	写真	写真人物の名前不明。	15	1
15	12	二人の乗馬行進の写真				昭和				写真	7枚。	15	1
15	13	陸軍士官8名			1940	昭和	16			写真	8名。矢野、重信、松本、森山、石田、森田、中村、犬飼。第141連隊の士官か。年は推定。	15	1
15	14	軍旗祭の写真か			1936	昭和	11			写真	年度は全くの推定。	15	1
15	15	創立55周年記念長野北高校同窓会 新校舎の写真	長野県長野北高等学校同窓会		1954	昭和	29			絵葉書	長野中学は戦後の昭和23年から昭和32年まで長野北高校と称した。21-273~275にもあり。	15	1
15	16	第二回大東亜戦争美術展覧出品（迫撃）の写真絵葉書	永井保			昭和				絵葉書	永井保作第二回大東亜戦争美術展覧出品（迫撃）の写真。	15	1
15	17	夏友会 於遺族会館			1977	昭和	52	3	20	写真		15	1
15	18	「昭和史の天皇 1444 近衛と軍 8 重病の高級幹部」	読売新聞社		1971	昭和	46	4	13	新聞	読売新聞。新聞切抜。今井に関する記載あり。	15	1
15	19	「昭和史の天皇 1445 近衛と軍 9 タカ派課長の述懐」	読売新聞社		1971	昭和	46	4	14	新聞	読売新聞。新聞切抜。永津佐比重大将の証言。	15	1
15	20	「昭和史の天皇 1446 近衛と軍 10 不牾大論の矛盾」	読売新聞社		1971	昭和	46	4	15	新聞	読売新聞。新聞切抜。高橋坦中将の証言。	15	1
15	21	「昭和史の天皇 1447 近衛と軍 11 満州欠く地図では」	読売新聞社		1971	昭和	46	4	16	新聞	読売新聞。今井について記載あり。新聞切抜。高橋坦中将の証言（続き）。	15	1
15	22	「故人寸描 一吉成弘氏一」	全国戦争犠牲者援護会		1958	昭和	33	11	16	新聞	援護。新聞切抜。	15	1
15	23	慰霊祭記念写真	全国七五会		1965	昭和	40	9	19	冊子	正誤表挿入あり。歩兵第75連隊出身者の集まり。	15	1
15	24	全国七五会慰霊祭終了報告	高良弼		1965	昭和	40	10	15	書類	14-21に挿入。高は全国七五会委員長。第75連隊は大正9年10月朝鮮会寧の地に創設された。	15	1
15	25	蛙の眼	石川順		1948	昭和	23	8	10	冊子	随筆集。石川は戦後千葉の成田町長になったジャーナリスト。元毎日新聞北京支局長。	15	1
15	26	中華民国臨時政府 王行政院長訪日記念			1938	昭和	13	5	1	冊子	王克敏院長 5月1日～8日東京訪問。日付は推定。	15	1
15	27	各種写真を入れた封筒				昭和				封筒	戦後のもの。	15	2
15	28	高島辰彦書簡	高島辰彦	今井武夫	1963	昭和	38	12	23	書簡	12月15日の写真できた旨。15-27に挿入。	15	2
15	29	南京会 於日本閣			1979	昭和	54	3	25	写真	3枚。日付は昭和55年になっているが54年ではないか。	15	2
15	30	汪兆銘33周忌			1976	昭和	51	11	9	写真	於霞山クラブ 4-1、13-2参照。	15	2
15	31	サマット山より リマイ山を望む			1978	昭和	53	5		写真		15	2
15	32	フィリピンの本間雅晴中将の墓			1978	昭和	53	5		写真		15	2
15	33	マニラの日本人墓地			1978	昭和	53	5		写真		15	2
15	34	フィリピン戦跡訪問の旅			1978	昭和	53	5		写真	31枚。	15	2
15	35	第65旅団戦没者慰霊碑開眼供養			1974	昭和	49	11	3	写真	於福山市。7枚。	15	2

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
15	36	市谷会館に於ける会食写真			1978	昭和	53	7	22	写真	全4枚。今井を含めて全8名。	15	2
15	37	今井ら4名			1978	昭和	53	10	29	写真		15	2
15	38	雑多写真				昭和				写真	3枚。	15	2
15	39	フィリピン独立志士の墓の前で 第141連隊。今井、渡辺、松本、柴田			1942	昭和	17	9	1	写真	15-東3所収の封書に挿入。	15	3
15	40	フィリピン独立志士の墓			1942	昭和	17	9	1	写真		15	3
15	41	マニラ日本人墓地 菅沼貞風墓にて 火野葦平			1942	昭和	17	9	1	写真		15	3
15	42	マニラ日本人墓地 菅沼貞風墓地			1942	昭和	17	9	1	写真	菅沼は明治22年7月6日マニラで死去。行年25歳。フィリピン探検家。	15	3
15	43	坂井少佐 松田少佐 井村大尉ほか				昭和				写真	井村は主計大尉か。全27名。	15	3
15	44	今井を中心にマニラ防衛の将校たち。			1942	昭和	17	6		写真	年月は推定。	15	3
15	45	フィリピンのサンバギタ撮影所にて松 本と杉田主計中尉			1942	昭和	17	9	1	写真		15	3
15	46	今井が揮毫した墓碑のある故陸軍兵長 田口保夫の墓			1942	昭和	17			写真	2枚。年は推定。	15	3
15	47	歩兵第141連隊旗奉安			1941	昭和	16	9		写真		15	3
15	48	第141連隊の演習			1942	昭和	17			写真		15	3
15	49	今井ほか5人			1930	昭和	5			写真	1930と裏に記載あり。	15	3
15	50	第14軍か第65旅団連隊の将校たちの記 念写真			1942	昭和	17	12		写真	年月は推定。	15	3
15	51	写真				昭和				写真	雑多写真2枚。	15	3
15	52	昭和10年 名刺帖	今井武夫		1935	昭和	10			名刺	萱野長知、西義頭、田代統一郎、谷萩那華雄、高宗武（国立中央大学教授）、 周作民など約350名の名刺あり。	15	4
15	53	名刺帖	今井武夫			昭和				名刺	戦後のもの。約280名の名刺。	15	4
15	54	南京会 名簿	大久保正治・竹部俊 三		1984	昭和	59	1		名簿	今井の死亡時刻記載あり。	15	4
15	55	亜細亜の解説付の写真集	亜細亜写真大観社		1927	昭和	2			写真	15箱-東5所収のファイル。亜細亜写真大観社は大連所在。年は推定。	15	5
15	56	亜細亜大観趣意書	亜細亜写真大観社		1929	昭和	4	1		書類		15	5
15	57	歳旦の辞	亜細亜写真大観社		1927	昭和	2			書類		15	5
15	58	朝鮮印象記（2）	檳榔子		1927	昭和	2			書類		15	5
15	59	亜細亜大観 8回	亜細亜写真大観社		1927	昭和	2			冊子	年は推定。1927年～1929年か。	15	4
15	60	亜細亜大観 47回	亜細亜写真大観社		1927	昭和	2			冊子	朝鮮（その1）。年は推定。1927年～1929年か。	15	4
15	61	亜細亜大観 48回	亜細亜写真大観社		1927	昭和	2			冊子	朝鮮（その2）。年は推定。1927年～1929年か。	15	4
15	62	亜細亜大観 53回	亜細亜写真大観社		1927	昭和	2			冊子	吉敦線子朝鮮（その2）。年は推定。1927年～1929年か。	15	4
15	63	年賀状 差出先	今井武夫		1956	昭和	31	1		名簿	殷汝耕の未亡人、殷民慧の名前がある。	15	5
15	64	年賀状 受出先	今井武夫		1955	昭和	30	1		名簿	年度不明だが、昭和30年前後のものか。3枚。年は推定。	15	5
15	65	昭和33年賀状 受出先	今井武夫		1958	昭和	33	1		名簿	日本硫鉄樹の郵便に記載。15-71まで同じ綴り。	15	5
15	66	昭和37年賀状 発受	今井武夫		1962	昭和	37	1		名簿		15	5
15	67	昭和38年賀状 発送先	今井武夫		1963	昭和	38	1		名簿		15	5

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
15	68	昭和39年賀状 発送先	今井武夫		1964	昭和	39	1		名簿		15	5
15	69	昭和41年賀状 発送先	今井武夫		1966	昭和	41	1		名簿	島田俊彦の名前あり。	15	5
15	70	昭和44年賀状 発送先	今井武夫		1969	昭和	44	1		名簿	㈱中央電機工業社の罫紙に記載。	15	5
16	1	北平駐在武官時代の写真帖			1936	昭和	11			写真	北平の傘田口連隊の軍旗祭（6月18日）と思われる写真や蒋介石とのもの、家族の写真など約80枚。一部プライベートなもの。年は推定。	16	1
16	2	「支那も日支関係調整熱望」			1936	昭和	11	6	14	新聞	喜多誠一少将（支那公使館付武官）、雨宮翼中佐（南京駐在武官）、今井少佐と蒋介石の会談。掲載紙不明。新聞切抜。16-1に貼付・挿入。年月は推定。	16	1
16	3	名刺帖 約470名の名刺	今井武夫			昭和				名刺	戦後のもの。寺平忠輔、中村法輔、西義顕、晴気慶胤、松本重治、矢野征記、安岡正篤など。	16	1
16	4	名刺帖	今井武夫			昭和				名刺	戦後のもの。桐工作の張治平など約100名の名刺。	16	1
16	5	戦没馬慰霊像奉獻記念	戦没馬慰霊像奉獻協賛会		1958	昭和	33	4	7	絵葉書	4枚。	16	1
16	6	三好喜平書簡	三好喜平	今井武夫	1924	大正	13	11	13	書簡	歓待のお礼。	16	1
16	7	中国と父と私	酒井洋		1971	昭和	46			冊子	洋は酒井隆中將の息子。戦後刑死した父の中將のことを回想したもの。ピンポン外交の頃。年は推定。	16	1
16	8	パターン戦線 軍馬に飼葉を兵が与える	豊島正喜		1942	昭和	17	4		写真		16	1
16	9	畑俊六元帥の葬儀記念			1962	昭和	37	5		写真	畑俊六元帥は5月10日死去。	16	1
16	10	総統 蔣介石逝世新聞英攝影彙輯 日本報章雑誌刊記載	亜東関係協会・東京弁事処		1975	昭和	50	6	1	冊子		16	1
16	11	譚覚真「ある革命家の生涯 1」	月刊時事社		1977	昭和	52	7	1	雑誌	月刊時事 22巻 7号。複写。	16	1
16	12	譚覚真「ある革命家の生涯 2」	月刊時事社		1977	昭和	52	8	1	雑誌	月刊時事 22巻 8号。複写。	16	1
16	13	譚覚真「ある革命家の生涯 3」	月刊時事社		1977	昭和	52	9	1	雑誌	月刊時事 22巻 9号。複写。	16	1
16	14	譚覚真「ある革命家の生涯 4」	月刊時事社		1977	昭和	52	10	1	雑誌	月刊時事 22巻 10号。複写。	16	1
16	15	ご大札東京市奉祝会花電車 記念絵葉書	通信省		1928	昭和	3	12		絵葉書	3種類。月は3月ではなく12月と推定。	16	1
16	16	今井の妻と姪を連れて北平警察部長潘毓桂に帰国の挨拶の記念写真			1937	昭和	12	10	27	写真	妻今井きみ子と姪の太田敦子。潘毓桂のほか、外交委員会専員の林耕宇と何庭流も写真にあり。	16	1
16	17	写真人物の名前記載	今井武夫		1937	昭和	12	10	27	書類	16-16の人物の11名の名前記載。	16	1
16	18	長野県大河原上蔵の福德寺				昭和				絵葉書	3枚。	16	1
16	19	新中国の地政学的一考察	成瀬恭		1978	昭和	53	7	1	冊子	日本国防協会「日本の国防 59号」からの抜粋。成瀬は原書房社長。	16	1
16	20	成瀬恭書簡	成瀬恭	宛先不明	1978	昭和	53	8	1	書簡	冊子送付と叱正願い。案内複写16-19に挿入。成瀬は原書房社長。	16	1
16	21	讃岐高松岩清水尾八幡宮絵馬堂				昭和				絵葉書		16	1
16	22	南方旅行中の写真と絵葉書所収の封筒			1944	昭和	19	2		封筒		16	2
16	23	アンコールワット			1944	昭和	19	2	14	写真	16-22挿入。10枚。	16	2
16	24	南方旅行中の写真			1944	昭和	19	2		写真	16-22挿入。写真7枚。	16	2
16	25	アンコールトム			1944	昭和	19	2	14	絵葉書	16-22挿入。年月は推定。	16	2
16	26	井波町の祭礼			1928	昭和	3	5	9	写真	妻きみ子の実家の太田家で御輿の宿を提供。年は推定。	16	3

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
16	27	霊峰富士山	今井武夫		1938	昭和	13	11	18	写真	汪兆銘工作に中国に向うとき富士の姿を見て幸先がよいと感じた. という。	16	3
16	28	中山門外の蔭介石別邸に於て 蔭介石と喜多誠一少将 雨宮巽中佐 今井少佐ほか			1936	昭和	11	6	13	写真	16-2関連。	16	3
16	29	南條範夫「辻政信という男」	中央公論社		1981	昭和	56	10		雑誌	中央公論 10月号。複写。	16	3
16	30	今井武夫宛 封筒	何応欽	今井武夫	1975	昭和	50			封筒	年は推定。	16	3
16	31	今井武夫書簡	今井武夫	何応欽	1978	昭和	53	7	21	書簡	蔭経国総統就任を祝う閑院宮純仁殿下の親書を三田忠一に託した。16-30に挿入。	16	3
16	32	何応欽書簡	何応欽	宛先不明	1975	昭和	50	7	30	書簡	午後7時からの16-30記載の何応欽の所への招待状。年は推定。	16	3
16	33	今井夫妻結婚式記念写真			1926	大正	15	1	7	写真	日付は推定。	16	3
16	34	北平に於ける招魂祭			1937	昭和	12	4	27	写真		16	3
16	35	今井きみ子	赤藤純子		1937	昭和	12			写真	赤藤は赤藤庄次支那駐屯軍憲兵隊分隊長夫人。きみ子が北平時代仲良くしていた。年代は推定。赤藤分隊長の名前は11-180に出てくる。	16	3
16	36	曹大中書簡	曹大中	今井武夫		昭和				書簡	戦後のもの。大野・宮永両氏の使命に賛助を得られたので自分も先輩各位の指導のもとに微力を尽す。	16	3
16	37	今井の新婚時代・朝鮮第75連隊時代の将校、朝鮮雪の豆満江、長男宏・長女俊子など家族			1931	昭和	6			写真	1928年～31年頃の写真か。年は推定。	16	3
17	1	陸軍士官学校第三十期卒業記念写真帖	赤誠堂出版部		1918	大正	7	5	25	冊子	区隊長の岡田資などの写真あり。	17	1
17	2	陸軍士官学校第三十期入校式			1916	大正	5	12		絵葉書	陸軍士官学校第三十期入校式 3枚。1915年ではなく1916年の間違いか。年月は推定。	17	1
17	3	写真帖			1921	大正	10	4		写真	シベリア出兵したときの写真か。	17	1
17	4	シベリア出兵の写真帖			1921	大正	10			写真	今井は軍旗を奉じている。	17	1
17	5	「首途を飾る栄ある軍旗 昨日の分列式」			1921	大正	10	4		新聞	歩兵第69連隊シベリア出動兵留守隊全部の分列式。掲載紙不明。17-4に挿入。新聞切抜。	17	1
17	6	宇垣軍縮にともなう歩兵第69連隊解隊式に於ける将校団全員			1925	大正	14	4	18	写真		17	1
17	7	今井「あの日あゝのころ 共産スパイの陰謀で爆発 一盧溝橋事件の真相」	東京新聞社		1956	昭和	31	7	7	雑誌	週刊東京 42号。12-42に切抜あり。	17	1
17	8	表紙写真 礼欣、馬樹礼、今井、小笠原の会食写真	新聞天地社		1975	昭和	50	8	16	雑誌	新聞天地。礼欣、馬樹礼、今井、小笠原の4人が東京アメリカンクラブでの宴席の写真が表紙を飾る。	17	1
17	9	於富山 シベリア出兵			1921	大正	10	4		写真	見送る町の人に連隊が挨拶。	17	1
17	10	富山第69連隊解隊式の将校たち全員			1925	大正	14	4	18	写真		17	1
17	11	中田稔「民族精神高揚論を考える」	朝日新聞社		1968	昭和	43	3	14	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	17	1
17	12	井波町のお祭 妻の実家太田呉服店			1928	昭和	3	5	9	写真	妻きみ子の実家前。推定昭和2年か3年。	17	1
17	13	陸軍士官学校生徒連合演習実況写真付			1916	大正	5			絵葉書	1915年ではなく1916年の間違いか。	17	1
17	14	東岩瀬附近に於ける歩兵第69連隊 留守部隊 演習				大正				絵葉書	5枚。東岩瀬は富山港の近くの地名。	17	1
17	15	シベリア出兵の絵葉書			1921	大正	10			絵葉書	年は推定。	17	1
17	16	シベリアのシコトワでの迎春絵葉書	今井武夫		1922	大正	11	1	1	絵葉書	出状年の大正10年は11年の間違いか。	17	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
17	17	第9師団 中・小尉 現地戦術演習員 於金石無線電信所			1920	大正	9	8	13	写真	8月19日まで。金石は石川県。年度は1919年か1920年。	17	1
17	18	シベリア出兵の頃 第69連隊旗を持つ 今井の絵葉書			1921	大正	10			絵葉書		17	1
17	19	バラライカを弾く今井			1921	大正	10			写真	年は推定。シベリア出兵の頃。23歳のときか。	17	1
17	20	天長節 於シコトワ			1921	大正	10	10	31	絵葉書	シベリア出兵。	17	1
17	21	シコトワ全景			1921	大正	10			絵葉書	年は推定。	17	1
17	22	ロシアパルチザンの司令部於港尼			1921	大正	10			絵葉書	年は推定。	17	1
17	23	シベリア出兵			1921	大正	10			写真	15枚。年は推定。	17	1
17	24	シベリア出張の頃の今井			1921	大正	10			写真	年は推定。	17	1
17	25	シベリア出張の頃の写真			1921	大正	10			写真	49枚。年は推定。	17	1
17	26	大正14年4月入校の陸軍士官学校予科 第一学年生徒別明細表			1925	大正	14	4		書類	今井は第三中隊第四教授班の区隊長。区隊員の生徒25名中に 二・二六事件の首謀者の一人である栗原安秀がいた。当時16歳。栗原の父親は予備役陸軍大佐栗原勇。	17	1
17	27	軍人写真			1925	大正	14	4		写真	しかるべき地位の軍人。	17	1
17	28	陸軍士官学校41期生卒業記念写真帖			1927	昭和	2			冊子	今井は一時陸士41期の区隊長を勤めた。	17	1
17	29	陸軍士官学校41期生第三中隊第四区隊 一同書簡	陸軍士官学校 41期生第三中隊第四 区隊一同	今井武夫	1927	昭和	2	3	6	書簡	寄書。陸士の教え子たちから東京市内陸軍大学校内の今井宛寄書の葉書。「最後の区隊会にて」とある。栗原安秀からは「天保中尉殿に憧れて」とある。このころ栗原は陸大にあこがれていた。なお、区隊は異なるが陸士41期からは栗原のほか、対馬勝雄と中橋基明の2名が二・二六事件に参加している。	17	1
17	30	今井と陸士41期第三中隊第四区隊員26 名 全27名			1925	大正	14			写真		17	1
17	31	今井と陸士41期生徒33名			1925	大正	14			写真		17	1
17	32	陸士第四十一期 死没者名簿			1967	昭和	42			名簿	二・二六事件に関与したのは栗原安秀、対馬勝雄、中橋基明の3名。順序不同とある。発行年は推定。	17	1
17	33	第9師団西伯利派遣記念写真帖	雪野慎四郎		1922	大正	11	8	25	写真		17	1
17	34	軍事譯粹 3巻1期	軍事譯粹出版社		1954	昭和	29	4	1	雑誌	台湾の雑誌。	17	1
17	35	手製写真帖・シベリア出兵	今井武夫		1921	大正	10			写真	馬賊掃討などを行っているが 青春をエンジョイするような写真がある。	17	1
17	36	「可愛らしい日永のすさび」			1921	大正	10			新聞	17-35に挿入。掲載紙不明。新聞切抜。年は推定。	17	1
17	37	手製写真帖・シベリア出兵	今井武夫		1921	大正	10			写真		17	1
17	38	第八中隊				大正				写真	富山歩兵第69連隊のものか。17-8に挿入。	17	1
17	39	シベリア出兵の頃の写真付絵葉書			1921	大正	10			絵葉書	4枚。17-8に挿入。年は推定。	17	39
17	40	川上護の青島出勤記念			1927	昭和	2	7	10	写真	川上は富山歩兵69連隊では陸士先輩でもあり、かつ今井の生涯の親友でもあった。	17	1
17	41	写真				大正				写真	富山歩兵第69連隊時代のものか。	17	1
17	42	写真				大正				写真	富山歩兵第69連隊時代のものか。	17	1
17	43	今井夫妻の新婚の頃の記念写真			1927	昭和	2			写真	昭和元年が2年のもの。大正天皇崩御のためか腕に喪章を付けている。	17	1
17	44	長男今井宏			1935	昭和	10			写真	年度は全くの推定。	17	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
17	45	財団法人 信濃育英会役員名簿（副理事長）			1979	昭和	54	5	27	書類	今井は副理事長。	17	1
17	46	田中重彌書簡	田中重彌	今井武夫	1979	昭和	54	5	27	書簡	信濃育英会小平寮対策委員を委嘱、田中は理事長。	17	1
17	47	陸軍士官学校生徒連合演習実況写真絵葉書			1916	大正	5			絵葉書	1915年ではなく1916年の間違いか。	17	1
17	48	陸軍士官学校生徒現地戦術実況写真絵葉書			1916	大正	5			絵葉書	2枚。1915年ではなく1916年の間違いか。	17	1
17	49	陸軍士官学校生徒遊泳演習実況写真絵葉書			1916	大正	5			絵葉書	1915年ではなく1916年の間違いか。	17	1
17	50	陸軍士官学校生徒野営演習実況写真絵葉書			1916	大正	5			絵葉書	1915年ではなく1916年の間違いか。	17	1
17	51	陸軍士官学校生徒側面演習実況写真絵葉書			1916	大正	5			絵葉書	1915年ではなく1916年の間違いか。	17	1
17	52	山頂の写真				昭和				写真	富山連隊の頃のものか。	17	1
17	53	井波町の祭礼の日の太田家			1928	昭和	3			写真	妻きみ子の実家の太田家で御輿の宿を提供したときのもの。	17	1
17	54	漢詩				昭和				書類	毛筆で書かれている。年号は推定。	17	1
17	55	中国語のテキスト	竹藤峰治		1928	昭和	3			冊子		17	1
17	56	陸士41期生第三中隊の写真か			1925	大正	14	8		写真	年月は推定。	17	1
17	57	第二中隊				大正				写真	富山歩兵第69連隊時代のものか。年号は推定。	17	1
17	58	シベリア出兵の頃の写真帖			1921	大正	10			写真	富山歩兵第69連隊時代。連隊旗手として。	17	1
17	59	閑院宮載仁親王 中支那視察旅行記念御写真帖	支那派遣軍総司令部		1939	昭和	14	11		写真	10月29日より約10日間。11月3日支那派遣軍総司令部に御成。	17	1
17	60	大東亜会議次第	大東亜省		1943	昭和	18	11	5	書類	11月6日までの2日間。於東京。	17	1
17	61	大東亜会議写真アルバム			1943	昭和	18	11		冊子	11-60のアルバム。汪兆銘、チャンドラボースなどの写真。	17	1
17	62	松橋久左エ門書簡	松橋久左エ門	長野高校同窓会幹事	1968	昭和	43			書簡	校史贈呈並びに写真借用のお願い。松橋は長野高校同窓会長。年は推定。	17	1
17	63	井波町の祭礼の日の妻の実家太田家			1928	昭和	3	5	9	写真	妻きみ子の実家である太田家で御輿の宿を提供したときのもの。推定昭和2年か3年。	17	1
17	64	井波町の太田家の庭			1928	昭和	3			写真	推定昭和2年か3年。	17	1
17	65	井波町の妻の実家太田家の庭			1928	昭和	3			写真	推定昭和2年か3年。	17	1
17	66	井波町の祭礼の日の妻の実家太田家			1928	昭和	3	5	9	写真	太田家で御輿の宿を提供したときのもの。推定昭和2年か3年。	17	1
17	67	解隊記念	富山歩兵第69連隊将校団		1925	大正	14	5	1	冊子	宇垣軍縮のための解隊記念冊子。この日付けで第13（高田）15（豊橋）17（岡山）18（久留米）の4師団が廃止され、常設は17師団となった。	17	1
18	1	片山憲四郎書簡	片山憲四郎	今井武夫	1968	昭和	43	12	14	書簡	片山は141連隊後任第3代連隊長・大佐。片山の弟も陸士三十期生。141連隊の今井離任後の状況問い合わせに対する返事。	18	1
18	2	歩兵第141連隊 将校職員表	片山憲四郎		1943	昭和	18	12	20	名簿	片山は陸士28期。第3代の141連隊長。昭和18年12月20日ソルブ附近戦闘直前のもの。片山の昭和23年2月6日付け記憶によって作成したもの。14-289の本紙。1枚。	18	1
18	3	第141連隊歴史の抜粋の一部	片山憲四郎		1968	昭和	43			書類	18-1に挿入。年代は推定。中嶋正司大佐が第2代の第141連隊長当時のもの。	18	1
18	4	渡辺健一書簡	渡辺健一	今井武夫	1974	昭和	49	6	3	書簡	発信年は1973年か74年か。渡辺は第141連隊本部付。沖信中尉の戦死の記事同封する。	18	1
18	5	松浦修一「フィリピン収骨行（ミンダナオ島班）」	修親刊行事務局		1974	昭和	49	5	1	雑誌	修親5月号。複写。修身は陸上自衛隊の雑誌。18-4に挿入。	18	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
18	6	夏友会靖国神社昇殿参拝記念			1976	昭和	51	3	14	写真	18-96参照。	18	1
18	7	夏部隊慰霊碑建立・慰霊祭			1974	昭和	49	11	3	写真	4枚。	18	1
18	8	夏友会 於福山市ホテル	中川		1975	昭和	50	3	15	写真		18	1
18	9	夏部隊会			1974	昭和	49	2		写真	夏部隊会の集まり。	18	1
18	10	ラバウル友の会			1977	昭和	52	3	20	写真	今井は出席しておらず。於鹿児島吹上荘。	18	1
18	11	歩兵第141連隊野砲戦友会（第2回ラバウル花原会）			1975	昭和	50	2	11	写真	今井は出席しておらず。	18	1
18	12	ナチブ山上から写す			1978	昭和	53	5		写真		18	1
18	13	フィリピンのクリス村附近の写真2枚と35年前の戦場の解説文			1978	昭和	53	5		写真	35年前とあるが36年前ではないか。	18	1
18	14	ナチブ山より リマイ山の方角にむけて			1978	昭和	53	5		写真	1943年1月20日頃より2月中旬の戦場。	18	1
18	15	リマイ、オリオンの山			1978	昭和	53	5		写真		18	1
18	16	1943年1月14日頃の第141連隊第一大隊の激戦地			1978	昭和	53	5		写真		18	1
18	17	サマット山より リマイ山とマリベレス山を望む	津川忠士		1978	昭和	53	5		写真		18	1
18	18	サマット山より ナチブ山を望む	津川忠士		1978	昭和	53	5		写真		18	1
18	19	リングエン湾旅行	山口清		1978	昭和	53	5		写真	4枚。山口は夏友会世話人代表。山口は元141連隊機関銃中隊小隊長。	18	1
18	20	バターン	山口清		1978	昭和	53	5		写真	2枚。山口は元141連隊機関銃中隊小隊長。	18	1
18	21	フィリピン戦跡			1978	昭和	53	5		写真	4枚。	18	1
18	22	冬の写真				昭和				写真		18	1
18	23	佐々木部隊 軍旗拝受記念	佐々木部隊		1938	昭和	13			写真	今井が中佐の頃のもの。年は推定。	18	1
18	24	瀬島竜三ほか座談会「マッカーサー回想記を読んで」	朝日新聞社		1974	昭和	49	4	8	新聞	朝日新聞夕刊。新聞切抜。	18	1
18	25	外人3人と今井				昭和				写真	今井は参謀肩章をつけている。	18	1
18	26	青江舜二郎「盧溝橋事件から30年上」	朝日新聞社		1967	昭和	42	9		新聞	朝日新聞夕刊。切抜。	18	1
18	27	臼井勝美「盧溝橋事件から30年下」	朝日新聞社		1967	昭和	42	9		新聞	朝日新聞夕刊。切抜。	18	1
18	28	牟田口廉也・登史書簡	牟田口廉也・登史	今井武夫	1965	昭和	40	1	1	書簡	年賀。中共に囚られ残念。池田純久の論を読んだ。	18	1
18	29	島田俊彦「風土と人への深い愛 正確なデータで和平工作を語る 『支那事変の回想』への書評」	東京新聞社		1964	昭和	39	10	21	新聞	東京新聞 夕刊。新聞切抜。22-197に同じ。	18	1
18	30	川上護書簡	川上護	今井武夫	1964	昭和	39	10	20	書簡	今井の著書読んでいる。読後感また送る。川上については13-60参照。	18	1
18	31	井上一郎書簡	井上一郎	みずず書房	1964	昭和	39	12	7	書簡	『支那事変の回想』への書評。感銘深く読んだ。井上は長野中学同期生。三菱商事に勤務。	18	1
18	32	第三者からの『支那事変の回想』読後感・コメント集	神保信彦ほか		1964	昭和	39			論評	読後感を寄せた25人の名前・住所とコメント記載。神保信彦には「和知、辻、林の批判要」と記載あり。	18	1
18	33	佐原憲次書簡	佐原憲次	今井武夫	1964	昭和	39	10	16	書簡	書評。今更ながら知って驚く事あり。	18	1
18	34	松岡勝三書簡	松岡勝三	今井武夫	1964	昭和	39	10	25	書簡	松岡は第141連隊時代の中隊長。書評。子供達に何よりの記念となる。12-66参照。	18	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
18	35	有木可及書簡	有木可及	今井武夫	1964	昭和	39	10	2	書簡	有木可及は第141連隊で死亡した有木道博少尉の友人。『支那事変の回想』で、故人の有木少尉の最後を読み、落涙した。10-37関連。	18	1
18	36	今井武夫書簡	今井武夫	有木可及の下書き	1964	昭和	39	10		書簡	18-35に挿入。青木一男後援会趣意書の裏に下書きあり。月は推定。	18	1
18	37	今井良雄書簡	今井良雄	今井武夫	1964	昭和	39	10	20	書簡	良雄は武夫の甥。『支那事変の回想』今読んでいる。	18	1
18	38	寺平忠輔書簡	寺平忠輔	今井武夫	1964	昭和	39	10	18	書簡	11-78岩哇豪雄主張の「盧溝橋事件は日本軍が中国軍を買収してやらせた謀略説」を批判（11月12日の書簡18-39に続く）。『支那事変の回想』に出てくる馮執鵬は馮寿彭ではないか。	18	1
18	39	寺平忠輔書簡	寺平忠輔	今井武夫	1964	昭和	39	11	12	書簡	18-38の続き。結局11-78の岩哇豪雄から返事なく、盧溝橋事件の「日本軍策謀説」は真実ではない。石友三の寝返り活動について回想。	18	1
18	40	第二次比島戦跡訪問及慰霊の旅を終えて	夏友会		1980	昭和	55	5		冊子	5月23日から26日までの旅行。18-90関連。	18	1
18	41	島田俊彦「和平運動の情熱を内蔵 未発表資料含んだ当事者の回想『支那事変の回想』への書評」	日本出版協会		1964	昭和	39	10	19	新聞	日本読書新聞。複写。22-196に同じ。	18	1
18	42	内村秀祐書簡	内村秀祐	今井武夫	1965	昭和	40	1	17	書簡	東京にも家を構えたので時々宮崎から上京する。内村は夏第9853部隊員。18-42参照。	18	1
18	43	内村秀祐書簡	内村秀祐	今井武夫	1964	昭和	39	12	29	書簡	『支那事変の回想』興味深く読んだ。内村は夏第9853部隊員。宮崎県からの手紙。19-42参照。	18	1
18	44	夏部隊戦死致者法要式次第及懇談会	夏友会		1977	昭和	52	11	3	書類	今井は懇談会で挨拶。同一2部あり。	18	1
18	45	御田重宝「人間の記録790 郷土兵士の足跡 バターン戦1 初期作戦は順調」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	9	新聞	中国新聞連載開始。複写。	18	2
18	46	御田重宝「人間の記録791 郷土兵士の足跡 バターン戦2 65旅団第一線へ」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	10	新聞	中国新聞。複写。	18	2
18	47	御田重宝「人間の記録792 郷土兵士の足跡 バターン戦3 国際感覚欠く陸軍」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	11	新聞	中国新聞。複写。	18	2
18	48	御田重宝「人間の記録793 郷土兵士の足跡 バターン戦4 強硬な対日政策」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	13	新聞	中国新聞。複写。	18	2
18	49	御田重宝「人間の記録794 郷土兵士の足跡 バターン戦5 日米戦略で対立」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	14	新聞	中国新聞。複写。	18	2
18	50	御田重宝「人間の記録795 郷土兵士の足跡 バターン戦6 反乱事件相次ぐ」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	15	新聞	中国新聞。複写。	18	2
18	51	御田重宝「人間の記録796 郷土兵士の足跡 バターン戦7 急つける御前会議」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	16	新聞	中国新聞。複写。	18	2
18	52	御田重宝「人間の記録797 郷土兵士の足跡 バターン戦8 日米交渉が決裂」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	17	新聞	中国新聞。複写。	18	2
18	53	御田重宝「人間の記録798 郷土兵士の足跡 バターン戦9 陸軍がゴリ押し」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	18	新聞	中国新聞。複写。	18	2
18	54	御田重宝「人間の記録799 郷土兵士の足跡 バターン戦10 戦闘準備を発令」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	20	新聞	中国新聞。複写。	18	2
18	55	御田重宝「人間の記録800 郷土兵士の足跡 バターン戦11 開戦日が決まる」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	21	新聞	中国新聞。複写。	18	2
18	56	御田重宝「人間の記録801 郷土兵士の足跡 バターン戦12 お粗末な機械化」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	22	新聞	中国新聞。複写。18-164に本紙あり。	18	2
18	57	御田重宝「人間の記録802 郷土兵士の足跡 バターン戦13 65旅団編成される」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	23	新聞	中国新聞。複写。今井の談話あり。自筆修正した本紙新聞切抜あり。18-107参照	18	2

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
18	58	御田重宝「人間の記録803 郷土兵士の足跡 バターン戦14 福山兵營を出陣」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	24	新聞	中国新聞。今井に関する記事あり。複写。18-165に本紙あり。	18	2
18	59	御田重宝「人間の記録804 郷土兵士の足跡 バターン戦15 宇品出港し台湾へ」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	25	新聞	中国新聞。複写。18-166に本紙あり。	18	2
18	60	御田重宝「人間の記録805 郷土兵士の足跡 バターン戦16 台湾基地で待機」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	27	新聞	中国新聞。複写。今井の談話あり。18-167に本紙あり。	18	2
18	61	御田重宝「人間の記録806 郷土兵士の足跡 バターン戦17 ひっそりと召集」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	28	新聞	中国新聞。複写。18-168に本紙あり。	18	2
18	62	御田重宝「人間の記録807 郷土兵士の足跡 バターン戦18 開戦へ爆撃機発信」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	29	新聞	中国新聞。複写。今井の談話あり。18-169に本紙あり。	18	2
18	63	御田重宝「人間の記録808 郷土兵士の足跡 バターン戦19 霧で出撃計画変更」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	30	新聞	中国新聞。複写。	18	2
18	64	御田重宝「人間の記録809 郷土兵士の足跡 バターン戦20 初戦は一方的勝利」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	31	新聞	中国新聞。複写。	18	2
18	65	御田重宝「人間の記録810 郷土兵士の足跡 バターン戦21 比島に第一歩印す」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	3	新聞	中国新聞。複写。	18	2
18	66	御田重宝「人間の記録811 郷土兵士の足跡 バターン戦22 爆撃思わず大地震」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	4	新聞	中国新聞。複写。	18	2
18	67	御田重宝「人間の記録812 郷土兵士の足跡 バターン戦23 懸命に生きた青春」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	5	新聞	中国新聞。複写。	18	2
18	68	御田重宝「人間の記録813 郷土兵士の足跡 バターン戦24 65旅団も比島上陸」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	6	新聞	中国新聞。複写。今井の談話あり。	18	2
18	69	夏友会 出席者名簿			1977	昭和	52	3	20	名簿	於遺族会館。今井も出席。	18	3
18	70	「比島とニューブリテン島で奮戦 戦没者慰霊碑建つ」	瀬戸内海新聞社		1974	昭和	49	10	5	新聞	瀬戸内海新聞。新聞切抜。	18	3
18	71	学生			1927	昭和	2	6		写真	2枚。呈上今井先生とある。12年前今井が長野で代用教員時代を勤めたころの教え子だった小学生からのものか。	18	3
18	72	高橋正衛「現代史資料を編集して」	読売新聞社		1964	昭和	39	9	6	新聞	今井について記述あり。高橋はみずず書房編集部勤務。新聞切抜。	18	3
18	73	『支那事変の回想』への書評	信濃毎日新聞社		1964	昭和	39	10	16	新聞	信濃毎日新聞。「現地責任者の生々しい記録」。新聞切抜。22-195に同じ。	18	3
18	74	司馬遼太郎「軽薄へのエネルギー 日本人の特性の一つ 時にはそれが歴史もつくる」	朝日新聞社		1967	昭和	42	9	4	新聞		18	3
18	75	橘善守「史実の空白を埋める 敗者の側からの貴重な歴史の証言として『支那事変の回想』への書評」	週刊読書人		1964	昭和	39	11	2	新聞	週刊読書人。複写。22-199に同じ。	18	3
18	76	今井武夫宛封筒	熊野御堂健児	今井武夫	1964	昭和	39	11	15	封筒	中身の手紙無し。中身は22-220か。	18	3
18	77	今井武夫宛封筒	前田正行	今井武夫		昭和		12	5	封筒	封筒のみ。	18	3

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
18	78	川上護書簡	川上護	今井武夫	1964	昭和	39	11	11	書簡	川上は自分を川上和尚と書いてきている。子供を亡くしたときの話とか謡の話など。プライベートな話。貴著を今読んでいる。	18	3
18	79	小阪武雄書簡	小阪武雄	今井武夫	1964	昭和	39	10	5	書簡	『支那事変の回想』受け取った。編集に廻す。	18	3
18	80	荒木和夫書簡	荒木和夫	今井武夫	1977	昭和	52	10	3	書簡	河辺旅団長が不機嫌となった牟田口連隊長の竜王廟の夜襲の件。豊台所長だった寺田浄の手紙を荒木が書き写したものが別紙として添付。荒木については2-7参照。寺田は元憲兵大尉。年度は全くの推定。	18	3
18	81	夏部隊関連の袋			1978	昭和	53	10	3	写真	18箱-東79所収の袋。	18	4
18	82	今井「ご挨拶」	夏友会		1978	昭和	53	5		冊子	5月25日から28日までの旅行。比島戦跡訪問慰霊の旅。18-406には英霊に対する「追悼文」あり。	18	4
18	83	比島現地慰霊法会に就いて	夏友会		1978	昭和	53	5		書類	18-80に挿入。本間閣下、山下閣下、バギオ慰霊碑前で献花と焼香。	18	4
18	84	三好弘書簡	三好弘	今井武夫	1978	昭和	53	5		書簡	18-80に挿入。旅のしおり送付とスケジュールについて。三好は夏友会旅行の世話人。	18	4
18	85	夏友会・比島戦跡視察及現地追悼法会			1978	昭和	53	5		書類	18-80に挿入。5月25日から28日までのスケジュール。	18	4
18	86	マニラ観光御日程表	JTC Philippines		1978	昭和	53	5	25	書類	18-80に挿入。旅行スケジュール。	18	4
18	87	南方全般攻略作戦経過要図			1978	昭和	53			書類	18-80に挿入。1-8「元帥寺内寿一」の付図。旅行に携帯したものか。	18	4
18	88	「指揮責任は誤審 山下、本間將軍の軍事裁判 米作家が批判」	朝日新聞社		1978	昭和	53	6	27	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	18	4
18	89	「旧第65旅団の夏友会 比島の戦跡訪ねる 遺族からの供え物受け付け」			1978	昭和	53	5		新聞	掲載紙不明。新聞切抜。	18	4
18	90	三好弘書簡	三好弘	今井武夫	1980	昭和	55	3	15	書簡	三好は夏友会旅行の世話人。第二次フィリピン戦跡訪問及慰霊旅行招待の案内。18-40関連。	18	4
18	91	比島戦跡訪問及慰霊の旅に当り	夏友会世話係一同		1978	昭和	53	5		書類	4-83「比島現地慰霊法会に就いて」が添付。	18	4
18	92	三好弘書簡	三好弘	今井武夫	1978	昭和	53	4	8	書簡	旅行参加の手続きについて。	18	4
18	93	山口清書簡	山口清	今井武夫	1978	昭和	53	4	25	書簡	山口は夏友会世話人代表。元141連隊機関銃中隊小隊長。旅行参加のスケジュール連絡。	18	4
18	94	山口清書簡	山口清	今井武夫	1978	昭和	53	5	12	書簡	旅行参加のスケジュール連絡。山口は元141連隊機関銃中隊小隊長。	18	4
18	95	三好弘書簡	三好弘	今井武夫	1978	昭和	53	5	16	書簡	旅行参加のスケジュール連絡。三井は第141連隊の軍医。	18	4
18	96	夏友会代表 祭文原稿	今井武夫		1976	昭和	51	3	14	原稿	有志59名と靖国神社に昇殿 参拝の折のもの。18-6参照。	18	4
18	97	夏友会 出席者名簿			1976	昭和	51	3	14	名簿	18-96関連。所属部隊名も記載あり。	18	4
18	98	山口清書簡	山口清	今井武夫	1978	昭和	53	5		書簡	バターン半島激戦地附近で代表して祭文を読むことの依頼文。山口は元141連隊機関銃中隊小隊長。	18	4
18	99	三好弘書簡	三好弘	今井武夫	1978	昭和	53			書簡	比島訪問旅行に就いての連絡。	18	4
18	100	三好弘書簡	三好弘	今井武夫	1978	昭和	53	4	7	書簡	旅の栞（18-82）に挨拶文の依頼。関連。	18	4
18	101	日本旅行福山営業所書簡	日本旅行福山営業所	今井武夫	1978	昭和	53			書簡	比島訪問参加申込書記入・返送の依頼。	18	4
18	102	日本旅行福山営業所書簡	日本旅行福山営業所	今井武夫	1978	昭和	53	5	1	書簡	5月11日旅行説明会の案内。於備後遺族会館。	18	4
18	103	各世話係の方へお知らせと御願い	夏友会		1978	昭和	53			書類	比島戦跡訪問及慰霊の旅を終えての記念アルバムと冊子作りについて。	18	4
18	104	比島戦跡訪問及慰霊の旅について	木曾武雄		1978	昭和	53			書類	木曾はフィリピンに現住し現地参加。旅行案内をした。18-49参照。フィリピン戦闘の手書き地図添付。	18	4
18	105	夏部隊バターン半島戦場について	今井武夫		1978	昭和	53			メモ	バターン半島での戦闘と戦後フィリピンを訪問したときのメモ。表裏あり。1枚	18	4
18	106	夏部隊バターン半島戦場について	今井武夫		1978	昭和	53			メモ	37年後訪問の印象。	18	4

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備 考	参考 (箱)	参考 束
18	107	御田重宝「人間の記録802 郷土兵士の足跡 バターン戦13 65旅団編成される」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	23	新聞	中国新聞。今井の談話あり。修正箇所あり。18-57の本紙。新聞切抜。	18	5
18	108	片岡修身書簡	片岡修身	今井武夫	1978	昭和	53	12		書簡	第141連隊史を書いている。資料があったらお願いします。知人に同封の年賀状を出してほしい。片岡は福山市在住の旧福山連隊の研究者。	18	5
18	109	山県香吉年賀状	山県香吉	宛先不明	1979	昭和	54	1	1	書簡	18-108に挿入。山県は歩兵41連隊記念碑建設世話人。年賀状に印刷。福山の研究者片岡修身さん『福山連隊史・中国編』を出版。日記・生存者の話をもとに構成。	18	5
18	110	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 812」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。今井について記載あり。新聞切抜。	18	5
18	111	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 813」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	18	5
18	112	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 814」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。今井について記載あり。	18	5
18	113	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 815」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。今井について記載あり。	18	5
18	114	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 816」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	18	5
18	115	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 817」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	18	5
18	116	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 818」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。今井について記載あり。	18	5
18	117	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 819」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。今井について記載あり。	18	5
18	118	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 820」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。今井について記載あり。	18	5
18	119	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 821」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	18	5
18	120	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 822」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	18	5
18	121	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 823」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	18	5
18	122	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 824」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	18	5
18	123	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 826」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。825は欠落。今井について記載あり。	18	5
18	124	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 827」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。今井について記載あり。	18	5
18	125	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 828」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	18	5
18	126	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 829」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。今井について記載あり。	18	5
18	127	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 830」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	18	5
18	128	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 831」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	18	5
18	129	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 832」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	18	5

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備 考	参考 (箱)	参考 束
18	130	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 833」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	18	5
18	131	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 834」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。今井について記載あり。	18	5
18	132	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 835」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	18	5
18	133	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 836」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。今井について記載あり。	18	5
18	134	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 837」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。今井について記載あり。	18	5
18	135	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 838」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。今井について記載あり。	18	5
18	136	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 839」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	18	5
18	137	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 840」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。今井について記載あり。	18	5
18	138	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 841」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	18	5
18	139	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 842」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	18	5
18	140	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 843」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	18	5
18	141	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 844」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。今井について記載あり。	18	5
18	142	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 845」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	18	5
18	143	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 846」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	18	5
18	144	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 847」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	18	5
18	145	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 848」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	18	5
18	146	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 849」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	18	5
18	147	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 850」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	18	5
18	148	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 851」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	18	5
18	149	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 852」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	18	5
18	150	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 853」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	18	5
18	151	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 854」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	18	5
18	152	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 855」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。今井について記載あり。	18	5
18	153	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 856」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	18	5

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
18	154	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 857」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	18	5
18	155	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 858」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	18	5
18	156	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 859」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	18	5
18	157	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 860」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	18	5
18	158	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 861」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	18	5
18	159	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 862」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	18	5
18	160	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 863」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。今井について記載あり。	18	5
18	161	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 864」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	18	5
18	162	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 865」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。今井について記載あり。	18	5
18	163	片岡修身「福山連隊第141連隊史 軍旗は征く 866」	太陽新聞社		1976	昭和	51			新聞	太陽新聞。新聞切抜。	18	5
18	164	御田重宝「人間の記録801 郷土兵士の足跡 バターン戦12 お粗末な機械化」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	22	新聞	中国新聞。18-56の本紙。新聞切抜。	18	6
18	165	御田重宝「人間の記録803 郷土兵士の足跡 バターン戦14 福山兵営を出陣」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	24	新聞	中国新聞。今井に関する記事あり。18-58の本紙。新聞切抜。	18	6
18	166	御田重宝「人間の記録804 郷土兵士の足跡 バターン戦15 宇品出港し台湾へ」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	25	新聞	中国新聞。18-59の本紙。新聞切抜。	18	6
18	167	御田重宝「人間の記録805 郷土兵士の足跡 バターン戦16 台湾基地で待機」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	27	新聞	中国新聞。今井の談話あり。18-60の本紙。新聞切抜。	18	6
18	168	御田重宝「人間の記録806 郷土兵士の足跡 バターン戦17 ひっそりと召集」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	28	新聞	中国新聞。18-61の本紙。新聞切抜。	18	6
18	169	御田重宝「人間の記録807 郷土兵士の足跡 バターン戦18 開戦へ爆撃機発信」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	29	新聞	中国新聞。今井の談話あり。18-62の本紙。新聞切抜。	18	6
18	170	御田重宝「人間の記録814 郷土兵士の足跡 バターン戦25 第一線へ出動命令」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	7	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井について記載あり。	18	6
18	171	御田重宝「人間の記録815 郷土兵士の足跡 バターン戦26 約20キロを夜行軍」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	8	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	6
18	172	御田重宝「人間の記録816 郷土兵士の足跡 バターン戦27 強行軍で第一線へ」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	10	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の談話記事あり。	18	6
18	173	御田重宝「人間の記録817 郷土兵士の足跡 バターン戦28 200キロを超す行軍」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	11	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の談話記事あり。	18	6

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備 考	参考 (箱)	参考 束
18	174	御田重宝「人間の記録818 郷土兵士の足跡 バターン戦29 不見識な追撃命令」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	12	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の談話記事あり。今井の修正あり。	18	6
18	175	御田重宝「人間の記録819 郷土兵士の足跡 バターン戦30 14軍主力が上陸」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	13	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	6
18	176	御田重宝「人間の記録820 郷土兵士の足跡 バターン戦31 軍参謀を追い返す」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	14	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	6
18	177	御田重宝「人間の記録821 郷土兵士の足跡 バターン戦32 作戦の混乱招く」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	15	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	6
18	178	御田重宝「人間の記録822 郷土兵士の足跡 バターン戦33 アグノ河に進出」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	17	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	6
18	179	御田重宝「人間の記録823 郷土兵士の足跡 バターン戦34 マ司令部がコ島へ」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	18	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	6
18	180	御田重宝「人間の記録824 郷土兵士の足跡 バターン戦35 5つの防御線敷く」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	19	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	6
18	181	御田重宝「人間の記録825 郷土兵士の足跡 バターン戦36 マニラ攻撃を決定」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	20	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	6
18	182	御田重宝「人間の記録826 郷土兵士の足跡 バターン戦37 マニラ向け前進」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	21	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	6
18	183	御田重宝「人間の記録827 郷土兵士の足跡 バターン戦38 48師団にブレーキ」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	22	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	6
18	184	御田重宝「人間の記録828 郷土兵士の足跡 バターン戦39 まさに破竹の進撃」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	24	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	6
18	185	御田重宝「人間の記録829 郷土兵士の足跡 バターン戦40 米軍がマニラ放棄」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	25	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	6
18	186	御田重宝「人間の記録830 郷土兵士の足跡 バターン戦41 放火・略奪相次ぐ」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	26	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	6
18	187	御田重宝「人間の記録831 郷土兵士の足跡 バターン戦42 米比軍を甘く見る」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	27	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	6
18	188	御田重宝「人間の記録832 郷土兵士の足跡 バターン戦43 米比軍を追撃へ」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	28	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井部隊について記載あり。	18	6
18	189	御田重宝「人間の記録833 郷土兵士の足跡 バターン戦44 65旅団と戦線交代」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	29	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の談話記事あり。	18	6
18	190	御田重宝「人間の記録834 郷土兵士の足跡 バターン戦45 独力攻撃が決まる」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	31	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	6

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備 考	参考 (箱)	参考 束
18	191	御田重宝「人間の記録835 郷土兵士の足跡 バターン戦46 整然とした命令」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	1	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	6
18	192	御田重宝「人間の記録836 郷土兵士の足跡 バターン戦47 まぎ密林と苦闘」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	2	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の談話記事あり。	18	6
18	193	御田重宝「人間の記録837 郷土兵士の足跡 バターン戦48 二日ぶり敵陣発見」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	3	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の談話記事あり。	18	6
18	194	御田重宝「人間の記録838 郷土兵士の足跡 バターン戦49 敵の地雷にかかる」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	4	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	6
18	195	御田重宝「人間の記録839 郷土兵士の足跡 バターン戦50 続出する死傷者」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	5	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	6
18	196	御田重宝「人間の記録840 郷土兵士の足跡 バターン戦51 せつ斥侯選出に涙」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	7	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	6
18	197	御田重宝「人間の記録841 郷土兵士の足跡 バターン戦52 マバタンは特級戦」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	8	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	6
18	198	御田重宝「人間の記録842 郷土兵士の足跡 バターン戦53 物量戦に押される」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	9	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	6
18	199	御田重宝「人間の記録843 郷土兵士の足跡 バターン戦54 兵士にも不満の声」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	10	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	6
18	200	御田重宝「人間の記録844 郷土兵士の足跡 バターン戦55 友軍見失い孤立」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	11	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	6
18	201	御田重宝「人間の記録845 郷土兵士の足跡 バターン戦56 重火器なく苦闘」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	12	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井について記載あり。	18	6
18	202	御田重宝「人間の記録846 郷土兵士の足跡 バターン戦57 浮田隊が高地奪取」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	14	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井について記載あり。	18	6
18	203	御田重宝「人間の記録847 郷土兵士の足跡 バターン戦58 142連隊も一線進出」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	15	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	6
18	204	御田重宝「人間の記録848 郷土兵士の足跡 バターン戦59 敵陣攻めあぐむ」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	16	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	6
18	205	御田重宝「人間の記録849 郷土兵士の足跡 バターン戦60 薄暮攻撃通用せず」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	17	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	6
18	206	御田重宝「人間の記録850 郷土兵士の足跡 バターン戦61 近距離で撃ち合い」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	18	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	6
18	207	御田重宝「人間の記録851 郷土兵士の足跡 バターン戦62 是田小隊が全滅」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	19	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	6
18	208	御田重宝「人間の記録852 郷土兵士の足跡 バターン戦63 喚声あげ敵陣突破」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	21	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	6

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
18	209	御田重宝「人間の記録853 郷土兵士の足跡 バターン戦64 増える収容患者」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	22	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	6
18	210	御田重宝「人間の記録854 郷土兵士の足跡 バターン戦65 密林で道に迷う」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	23	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の談話あり。	18	6
18	211	御田重宝「人間の記録855 郷土兵士の足跡 バターン戦66 九連隊と連絡つく」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	24	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の談話あり。	18	6
18	212	戦友連 昭和51年11月25日号	全国戦友会連合会		1976	昭和	51	11	25	新聞		18	7
18	213	戦友連 昭和51年12月25日号	全国戦友会連合会		1976	昭和	51	12	25	新聞		18	7
18	214	未掲載原稿を入れた封筒	今井武夫			昭和				封筒	中国総合研究所の封筒。	18	8
18	215	支那事変と殿下	今井武夫		1970	昭和	45	8		原稿	3-161「秩父宮雍仁親王」の原稿と思われる。毎日新聞社（東京）の罫紙に記載。作成月は推定。	18	8
18	216	事変前夜の北京	今井武夫			昭和				原稿	18-215と同じ綴り。1～6頁。	18	8
18	217	麻殻と狼	今井武夫			昭和				原稿	18-215と同じ綴り。6～6頁。	18	8
18	218	渦巻く現地交渉	今井武夫			昭和				原稿	18-215と同じ綴り。6～6頁。	18	8
18	219	南京の終戦	今井武夫			昭和				原稿	18-215と同じ綴り。16～24頁。「以下は『支那事変の回想』270頁～272頁」と今井の記載あり。	18	8
18	220	今井「軍馬二題 その一、終戦後の軍馬」	やすくに		1974	昭和	49	7	1	新聞	やすくに新聞。新聞切抜。今井は「無風」のペンネームで記載。新聞切抜。	18	9
18	221	今井無風「軍馬二題 その二、日本語のわからない軍馬」	やすくに		1974	昭和	49	8	1	新聞	やすくに新聞。新聞切抜。「無風」は今井武夫の号。	18	9
18	222	松本岩吉「軍馬五景 その一、輸送中の軍馬」	やすくに		1974	昭和	49	12	1	新聞	やすくに新聞。新聞切抜。	18	9
18	223	松本岩吉「軍馬五景 その二、泥濘踏破、難行中の軍馬」	やすくに		1975	昭和	50	3	1	新聞	やすくに新聞。新聞切抜。	18	9
18	224	松本岩吉「軍馬五景 太鼓橋から転落した軍馬」	やすくに		1975	昭和	50	5	1	新聞	やすくに新聞。新聞切抜。	18	9
18	225	間瀬担平君を悼む	今井武夫		1978	昭和	53	4		原稿	5-24の原稿。月は推定。間瀬は陸士同期。	18	10
18	226	米丸正熊君を悼む	今井武夫		1978	昭和	53	4		原稿	5-24の原稿。18-225と同じ綴り。月は推定。米丸は陸士同期。岡田資中將の副官で、横浜軍事裁判で20年の重労働判決を受けた。	18	10
18	227	陣内利彦書簡	陣内利彦	靖国神社	1978	昭和	53	3	10	書簡	なき愛馬の供養にと歌集を送る。中支派遣独立野砲兵第十大隊陣内は第三中隊の元軍曹。	18	10
18	228	記念歌集 閃光	中支派遣独立野砲兵第十大隊第三中隊		1975	昭和	50	9		冊子	18-227に同封。複写。愛馬を歌った歌など。	18	10
18	229	明石一郎「在日中国諜報機関の機密」	ジャパン・ミリタリー・レビュー		1977	昭和	52	11		雑誌	軍事研究。複写。盧溝橋事件の仕掛けは中国共産党説。	18	10
18	230	良寛和尚	今井武夫		1973	昭和	48			原稿	11-7関連。「アジア研究」1971年3月1日号の裏紙に記載。中央月島新聞に書かれたか、書く予定の原稿（発表された記事見つからず）。年度は全くの推定。	18	10
18	231	盧溝橋事件交渉後の浮沈	今井武夫			昭和				原稿	原稿用紙8枚に記載。	18	10
18	232	対重慶直接交渉の工作	今井武夫		1972	昭和	47			原稿	「アジア時報」1971年8月25日号の裏に記載。3枚。年は推定。	18	10
18	233	日本の北進南進	今井武夫		1972	昭和	47			原稿	18-232と同じファイル。「アジア時報」1971年10月6日号の裏に記載。年は推定。1枚。項目16とある。	18	10
18	234	序	今井武夫		1972	昭和	47			原稿	18-232と同じファイル。「アジア時報」1971年10月6日号の裏に記載。1枚。年は推定。	18	10

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
18	235	根本博将軍の遺稿についてほか	今井武夫		1968	昭和	43	5		メモ	赤字で重要（保存）と記載あり。2-28関連か。根本中將は1966年5月死去。年月は推定。	18	10
18	236	林檎の伝説	今井武夫		1971	昭和	46			原稿	「アジア研究」1970年6月29日号の裏に記載。1枚。年は推定。	18	10
18	237	参考文書	今井武夫		1971	昭和	46			メモ	11冊の本の紹介。「アジア研究」1970年8月12日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	18	10
18	238	大マニラ防衛隊に関して	今井武夫			昭和				原稿	原稿用紙1枚。夏部隊。	18	10
18	239	パターン戦線の戦闘	今井武夫			昭和				原稿	パターン半島のバニーアウエル附近の戦闘について。原稿用紙が半分に分けられ、記載されている。	18	10
18	240	読者に対する誤解の訂正	今井武夫		1972	昭和	47			原稿	今井に連絡のあった誤解の訂正・反駁文。「アジア研究」1970年2月23日号の裏紙に記載。年は推定。	18	10
18	241	中野寛孝「馬の顔」	日刊工業新聞社		1974	昭和	49	7	5	新聞	日刊工業新聞。新聞切抜。	18	10
18	242	アブケイ線軍陣地要図	今井武夫			昭和				地図	フィリピン戦線軍の所在地図。	18	10
18	243	女丈夫	今井武夫		1970	昭和	45			原稿	本間中將の天津における私行。昭和14年天津に駐屯していた本間正晴中將が中国人に預けていた金時計を日本に持ってきたが、本間中將の未亡人が受け取らない話。「アジア研究」1969年2月21日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	18	10
18	244	今井武夫書簡	今井武夫	外務省文書課長 (原稿)	1969	昭和	44	4	5	書簡	文書閲覧願（原稿）。「アジア研究」1968年6月19日号の裏紙に記載。	18	10
18	245	履歴書原稿	今井武夫		1969	昭和	44	4	5	履歴書	18-244に添付。「アジア研究」1970年6月19日号の裏紙に記載。	18	10
18	246	冀察軍の中国將軍連	今井武夫		1969	昭和	44			原稿	「アジア研究」1968年6月7日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	18	10
18	247	動物愛護	今井武夫		1972	昭和	47	11		原稿	「アジア時報」1970年12月16日号の裏紙に記載。11-17関連。年月は推定。	18	10
18	248	近衛文麿	今井武夫		1973	昭和	48			原稿	「アジア研究」1971年3月1日号の裏紙に記載。11-16関連。年度は全くの推定。	18	10
18	249	中国人の見た日本婦人	今井武夫		1972	昭和	47			原稿	「アジア時報」1971年3月3日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	18	10
18	250	中国の人民	今井武夫		1973	昭和	48	3		原稿	雑誌「溷友 32」の原稿か。「アジア研究」1970年8月24日号の裏紙に記載。11-11関連。年月は推定。	18	10
18	251	序 日中事変前の情況	今井武夫		1972	昭和	47			原稿	「アジア時報」1971年11月24日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	18	10
18	252	一 盧溝橋事件	今井武夫		1972	昭和	47			原稿	18-251に添付。「アジア時報」1971年11月24日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	18	10
18	253	鈕少將の数奇な運命	今井武夫		1973	昭和	48			原稿	「アジア時報」1971年3月24日号の裏紙に記載。11-14関連。年度は全くの推定。	18	10
18	254	二 南京陥落	今井武夫		1972	昭和	47			原稿	「アジア時報」1971年11月17日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	18	10
18	255	三 徐州、武漢、広東の攻略	今井武夫		1972	昭和	47			原稿	18-254に添付。「アジア時報」1971年11月17日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	18	10
18	256	投降式で岡村大將自殺の情報	今井武夫		1969	昭和	44			原稿	「アジア時報」1968年6月10日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	18	10
18	257	日清戦争以来の婦人工作員について	今井武夫		1972	昭和	47	12		原稿	18-257～279は同じ綴り。「アジア研究」1969年10月15日号の裏紙に記載。	18	10
18	258	河原操子	今井武夫		1972	昭和	47	12		原稿	18-257～279は同じ綴り。「アジア研究」1969年10月15日号の裏紙に記載。	18	10
18	259	川島芳子	今井武夫		1972	昭和	47	12		原稿	18-257～279は同じ綴り。「アジア研究」1969年12月24日号の裏紙に記載。18-261の原稿。	18	10
18	260	婦人工作員	今井武夫		1972	昭和	47	12	5	メモ	18-257と同じ綴り。「アジア研究」1969年12月24日号の裏紙に記載。	18	10
18	261	今井「女子工作員 川島芳子」	中央月島新聞社		1973	昭和	48	1	5	新聞	中央月島新聞。新聞切抜。18-259が原稿。日付は推定。	18	10
18	262	今井「女子工作員 永田・中島両女史」	中央月島新聞社		1973	昭和	48	1	15	新聞	中央月島新聞。新聞切抜。	18	10

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
18	263	江戸城開城	今井武夫		1972	昭和	47			原稿	「アジア研究」1971年5月19日号の裏紙に記載。山岡鉄舟の活躍について。年度は全くの推定。	18	10
18	264	余剰米	今井武夫		1970	昭和	45	3	3	原稿	「アジア研究」1969年11月19日号の裏紙に記載。岩手大学教授の話。年は推定。	18	10
18	265	動物愛護	今井武夫		1972	昭和	47	11	2	原稿	「アジア研究」1970年8月26日号の裏紙に記載。11-17関連。18-247の前段階の原稿。	18	10
18	266	自然と遠ざかった生活	今井武夫		1973	昭和	48	1	18	原稿	「アジア研究」1970年4月20日号の裏紙に記載。11-8関連か。2枚。	18	10
18	267	ウィリアム スミス クラーク	今井武夫		1972	昭和	47	11	19	原稿	「アジア研究」1970年8月26日号の裏紙に記載。NHK農業コボレ話。11-15関連。実質1枚。	18	10
18	268	相手方の立場で考える必要	今井武夫		1969	昭和	44			原稿	「アジア研究」1968年7月29日号の裏紙に記載。11-13関連。年度は全くの推定。	18	10
18	269	ニクソン外交と対中国政策	今井武夫		1970	昭和	45			原稿	2枚。	18	10
18	270	日本軍の戦況	今井武夫			昭和				原稿	中央電気工業社の罫紙に記載。4枚。	18	10
18	271	『昭和の謀略』の原稿か	今井武夫		1967	昭和	42			原稿	1枚。No. 366とある。『昭和の謀略』の原稿か。年度は全くの推定。	18	10
18	272	山岡貞次郎「支那事変」についての論評	今井武夫		1975	昭和	50	8		原稿	4-29に対する論評。ア火ア研究1970年8月19日号の裏に記載。2枚。月は推定。	18	10
18	273	水牛について	今井武夫		1970	昭和	45	4		原稿	年月は全くの推定。3-40, 19-194関連。	18	10
18	274	敗戦に対する取扱	今井武夫		1972	昭和	47			原稿	アジア時報1971年6月16日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	18	10
18	275	病院のインターン学生の待遇	今井武夫		1970	昭和	45			原稿	「アジア研究」1969年2月28日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	18	10
18	276	NHK 内田九州大学名誉教授談	今井武夫		1969	昭和	44	7	15	メモ	昆虫に関するメモ。「アジア研究」1968年7月8日号の裏紙に記載。	18	10
18	277	高知図書館長	今井武夫		1970	昭和	45	9	13	メモ	植物の根についてのメモ。「アジア研究」1969年6月23日号の裏紙に記載。9月13日付。年度は全くの推定。	18	10
18	278	盧溝橋事件突発時の陸軍部内	今井武夫		1965	昭和	40			原稿	「アジア研究」1964年12月7日号の裏紙に記載。1枚。2pとあり。年度は全くの推定。全くの下書き。	18	10
18	279	盧溝橋事件前の中国情勢	今井武夫		1965	昭和	40			原稿	「アジア研究」1964年12月11日号の裏紙に記載。1枚。10pとあり。年度は全くの推定。	18	10
18	280	靖国の馬像	今井武夫		1977	昭和	52	3		原稿	3-32関連。「アジア研究」1968年6月24日号の裏紙に記載。年月は推定。	18	10
18	281	靖国神社境内の馬像	今井武夫		1977	昭和	52	3		原稿	3-32の原稿か。「アジア時報」1968年12月25日号の裏紙に記載。年月は推定。	18	10
18	282	河相達夫公使の和平交渉	今井武夫		1971	昭和	46			原稿	「アジア研究」1970年8月10日号の裏紙に記載。2枚。年度は全くの推定。	18	10
18	283	板垣修 台北駐在大使と蒋介石の会談	今井武夫		1970	昭和	45			原稿	日本の中共に対する態度について。年は推定。板垣は1969年6月から中華民国大使。	18	10
18	284	中国からの引揚げに関するメモ	今井武夫		1970	昭和	45			メモ	「アジア研究」1969年6月9日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	18	10
18	285	日中和平交渉	今井武夫		1965	昭和	40			原稿	p. 24からp. 28まで。6枚。「アジア研究」1964年12月16日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	18	10
18	286	日中和平交渉	今井武夫		1965	昭和	40			原稿	p. 25に入るもの。「アジア研究」1964年12月4日号の裏紙に記載。2枚。年度は全くの推定。	18	10
18	287	短歌 百日祭ほか				昭和				書類	2枚。	18	10
18	288	中国に対する終戦工作	今井武夫		1965	昭和	40	10		原稿	3-15、18-414の原稿。6枚。年月は推定。	18	10
18	289	ベトナム問題と中共の軍事力	今井武夫			昭和				原稿	人物往来社の罫紙に記載。	18	10
18	290	中国におけるソ連軍との戦闘	今井武夫		1970	昭和	45			原稿	「アジア研究」1969年7月7日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	18	10
18	291	陳公博履歴書	今井武夫		1945	昭和	20	10	3	履歴書	陳公博が滞日の間に自ら記述した履歴書。原稿用紙に2枚。今井が書き写したものの。外務省岡部長二から借りて書き写したもの。岡部は今井に貸した後、オリジナルを紛失したらしい。日月はオリジナルが書かれた日の推定。	18	10

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
18	292	南京攻撃戦	今井武夫		1972	昭和	47			メモ	評論家鈴木明の説によると、山田部隊将兵の談として捕虜を「始末せよ」といった責任者は朝香宮で、参謀は長勇大佐であったことは間違いない。「アジア研究」1970年4月8日号の裏紙に記載。	18	10
18	293	東条陸相の日中和平工作	今井武夫		1970	昭和	45			メモ	昭和16年7月岡村寧次北支那司令官に個人的に岡村・殷同・王大植ラインによる実施を依頼。「アジア研究」1970年1月14日号の裏紙に記載。9-12関連か。年は推定。	18	10
18	294	中国における協定と事件・工作	今井武夫		1972	昭和	47			メモ	「アジア時報」1971年2月10日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	18	10
18	295	日中戦争の中国軍一、中国の民族主義	今井武夫			昭和				原稿	原稿用紙 20枚。	18	11
18	296	二、中国の二将軍	今井武夫			昭和				原稿	18-295と同じ綴り。原稿用紙 6枚。張自忠将軍は山東省出身で空伍出身であった。もう一人の将軍はほとんど書かれていない。傳作義（ふさくぎ）のことか。	18	11
18	297	三、中国の戦争指導	今井武夫			昭和				原稿	18-295と同じ綴り。原稿用紙 15枚。	18	11
18	298	南京神社の建立	今井武夫			昭和				原稿		18	12
18	299	中国と私の迎春風景	今井武夫		1964	昭和	39	12		原稿	12-76の原稿か。年月は推定。	18	12
18	300	柳条溝事件の頃	今井武夫		1965	昭和	40			原稿	メモあり。年は推定。	18	12
18	301	和平交渉中断の悔	今井武夫			昭和				原稿		18	12
18	302	天津の水害	今井武夫		1965	昭和	40			原稿	昭和12年永井洵一天津領事が水害を防いだ話。	18	12
18	303	永井洵一から聞いた話	今井武夫		1965	昭和	40	1	2	メモ	昭和12年天津の水害を未然に防いだ話。18-302に挿入。3枚。	18	12
18	304	張志譚の漢詩	今井武夫		1968	昭和	43			メモ	18-302に挿入。張志譚の漢詩と思われる。年は推定。	18	12
18	305	パターン戦の捕虜について	今井武夫		1977	昭和	52			原稿	6枚。「アジア研究」1969年7月4日号の裏に記載。	18	12
18	306	私の太平洋戦争は終わった	木曾武雄		1979	昭和	54	5		書類	木曾は元第141連隊の第一大隊浮田幸雄中尉の第一中隊に所属した少尉。年月は推定。18-307関連。	18	12
18	307	「元陸軍少尉木曾武雄さん」	朝日新聞社		1979	昭和	54	5	22	新聞	18-306に挿入。朝日新聞。新聞切抜。	18	12
18	308	周仏海	今井武夫			昭和				原稿		18	12
18	309	陳公博	今井武夫			昭和				原稿	18-308と同じ綴り。	18	12
18	310	日華事変	今井武夫		1972	昭和	47	3		原稿	ブリタニカ国際百科事典の罫紙に記載。年月は推定。21-264、276関連。70枚。	18	12
18	311	第二次世界大戦中の中国における戦闘	今井武夫		1972	昭和	47	3		原稿	ブリタニカ国際百科事典の罫紙に記載。年月は推定。21-264、276関連。20枚。	18	12
18	312	終戦の頃の南京から	今井武夫		1965	昭和	40	7		原稿	「アジア研究」1965年2月5日号の裏紙に記載。12-29の原稿か。年月は推定。	18	12
18	313	終戦の頃のこと	今井武夫		1965	昭和	40	7		原稿	「アジア研究」1965年2月15日号の裏紙に記載。12-29の原稿か。年月は推定。	18	12
18	314	辻村憲吉から聞いた内容メモ（通州事件か）	今井武夫			昭和				メモ	戦史室の罫紙に記載。4枚。戦後のもの。	18	12
18	315	松井大佐から聞いた内容（通州事件か）	今井武夫			昭和				メモ	戦史室の罫紙に記載。6枚。戦後のもの。	18	12
18	316	陳璧君について 中島成子談	今井武夫		1962	昭和	37			原稿	中島は陳璧君と監獄で同室だった。「アジア研究」1961年9月6日号の裏紙に記載。今井は1957年9月に初めて中島に会っている。その後の会合か。年度は全くの推定。	18	12
18	317	宋慶齡 宋美齡 何香凝について	今井武夫			昭和				原稿	何香凝は、廖仲愷の妻。廖承志の母。	18	12
18	318	汪精衛墓	今井武夫		1966	昭和	41			原稿	「アジア研究」1965年4月21日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	18	12
18	319	陳璧君	今井武夫		1966	昭和	41			原稿	「アジア研究」1965年4月21日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	18	12

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備 考	参考 (箱)	参考 束
18	320	汪兆銘	今井武夫		1962	昭和	37			原稿	「アジア研究」1961年9月1日号の裏紙に記載。2枚。年度は全くの推定。	18	12
18	321	陳璧君	今井武夫		1962	昭和	37			原稿	「アジア研究」1961年9月29日号と7月12日号の裏紙に記載。2枚。年度は全くの推定。	18	12
18	322	バター半島アブケイ附近の戦闘配置図	今井武夫		1962	昭和	37			地図	「アジア研究」1961年7月5日号の裏紙に記載。2枚。年度は全くの推定。	18	12
18	323	汪精衛 及 陳璧君の 澳門工作	今井武夫			昭和				原稿		18	12
18	324	汪兆銘履歴	今井武夫		1962	昭和	37			履歴書	「アジア研究」1961年7月17日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	18	12
18	325	陳璧君履歴 中島メモ	今井武夫		1962	昭和	37			メモ	「アジア研究」1961年9月2日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	18	12
18	326	二・二六事件の経過と問題点				昭和				書類	戦後の研究会資料か。	18	12
18	327	中国本土に於ける戦闘	今井武夫		1962	昭和	37			原稿	「アジア研究」1961年6月18日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	18	12
18	328	中日和平運動殉難烈士慰霊集会開催趣意書	中日和平運動殉難烈士慰霊集会発起人		1975	昭和	50	12	6	書類	発起人は 安岡正篤、日高新六郎、松本重治、沖野亦男と今井の5人。	18	12
18	329	中日和平運動殉難烈士を祭る文	中日和平運動殉難烈士慰霊集会発起人		1975	昭和	50	12	6	書類		18	12
18	330	終戦後の南京について	今井武夫		1965	昭和	40			原稿	「アジア研究」1964年11月30日号の裏紙に記載。2枚。年度は全くの推定。	18	12
18	331	盗人と和平	今井武夫		1962	昭和	37			原稿	随筆の原稿。「アジア研究」1961年7月19日号の裏紙に記載。3枚。年度は全くの推定。	18	12
18	332	「マッカーサー回想記 72 コレヒドール陥落」	朝日新聞社		1964	昭和	39	3	17	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	18	12
18	333	「マッカーサー回想記 73 死の行進」	朝日新聞社		1964	昭和	39	3	18	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	18	12
18	334	孫文、張自忠のことなど	今井武夫		1965	昭和	40			原稿	5-1、5-2、5-3、12p。「アジア研究」1964年12月4日号の裏紙に記載。4枚。年度は全くの推定。	18	12
18	335	汪兆銘作の梅花に関する詩と汪兆銘の家族の名前ほか	今井武夫			昭和				メモ		18	12
18	336	大亜細亜主義	今井武夫		1968	昭和	43			原稿	1Pから2Pまで。2枚。「アジア研究」1967年5月10日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	18	12
18	337	大亜細亜主義	今井武夫		1968	昭和	43			原稿	2-1P。2枚。「アジア研究」1964年12月7日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	18	12
18	338	原稿	今井武夫		1968	昭和	43			原稿	3Pから5Pまで。3枚。18-337の続きか。「アジア研究」1967年4月14日号と5月10号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	18	12
18	339	原稿	今井武夫		1968	昭和	43			原稿	6Pから9Pまで。4枚。18-338の続きか。「アジア研究」1964年12月11日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	18	12
18	340	張自忠、湯恩伯上将ほか	今井武夫		1968	昭和	43			原稿	12Pから19Pまで。8枚。「アジア研究」1964年12月14日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	18	12
18	341	原稿	今井武夫		1968	昭和	43			原稿	30Pと18-1P。2枚。「アジア研究」1964年12月7日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	18	12
18	342 (欠番)												
18	343	第一次豊台事件、第二次豊台事件ほか	今井武夫		1962	昭和	37			原稿	「アジア研究」1961年8月14日号の裏紙に記載。6枚。年度は全くの推定。	18	12
18	344	閻錫山工作、東条陸相の和平工作	今井武夫		1970	昭和	45			メモ	「アジア研究」1970年1月14日号の裏紙に記載。9-12関連か。年は推定。	18	12
18	345	満州問題	今井武夫			昭和				原稿	満州事変の起きるまで。国民党は満州に関心が薄かった。	18	12
18	346	曾拈情と劉玉書について	今井武夫		1967	昭和	42			メモ	18-345に挿入。年は推定。曾は何応欽のブレーンで劉は何と特別な関係にいた人。劉は天津警察局長だった。	18	12
18	347	第一次・第二次奉直戦争ほか	今井武夫			昭和				原稿		18	12

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
18	348	汪兆銘の病名と医師団の名前	今井武夫			昭和				メモ	名古屋帝大の医師団の名前。多発性骨髄腫。	18	12
18	349	日本の将来の中共承認の要件	今井武夫			昭和				原稿		18	12
18	350	目次				昭和				書類	今井の支那事変に関する本の目次か。原稿用紙に2枚。	18	12
18	351	小川愛次郎の昭和14年当時の蔣介石との和平方動の手記	今井武夫			昭和				メモ	小川は満鉄上海公社。みずず書房編集長高橋正衛の控えを今井が筆記したもの。18-352を清書したもの。	18	12
18	352	小川愛次郎の昭和14年当時の蔣介石との和平方動の手記	今井武夫			昭和				メモ	18-351の清書前の走り書き。小川は満鉄上海公社。14-137参照。	18	12
18	353	39師団澄田ほか	今井武夫		1971	昭和	46			メモ	「アジア研究」1970年5月1日号の裏紙に記載。年度は全くの推定。	18	12
18	354	核国防体制について	今井武夫			昭和				原稿		18	12
18	355	盧溝橋の発砲について	今井武夫		1962	昭和	37			メモ	「アジア研究」1961年5月24日号の裏紙に記載。6枚。年度は全くの推定。	18	12
18	356	盧溝橋事件について	今井武夫			昭和				メモ	森田徹、一木清直のこと。1枚。	18	12
18	357	盧溝橋事件について	今井武夫			昭和				メモ	防衛研修所の罫紙に記載。志村菊次郎便意のため一時行方不明ほか。	18	12
18	358	中国の近代の年号	今井武夫			昭和				メモ	光緒、宣統、民国の年号。1枚。第一ホテルの罫紙。	18	12
18	359	陳公博 林柏生 周仏海メモ	今井武夫			昭和				メモ	1枚。	18	12
18	360	トラウトマン工作 汪精衛 龍雲	今井武夫			昭和				メモ	1枚。	18	12
18	361	戦後の陳公博一行の日本スケジュールほか	今井武夫			昭和				メモ	1枚。表裏記載あり。	18	12
18	362	汪工作の所見	今井武夫			昭和				原稿	呉佩孚工作との違い。防衛研修所の罫紙に記載。2枚。	18	12
18	363	西義顕の昭和14年の和平工作	今井武夫			昭和				原稿	裏にも記載あり。未完。	18	12
18	364	松岡洋右の錢永銘との工作	今井武夫			昭和				原稿	裏にも記載あり。未完。	18	12
18	365	松岡洋右の錢永銘との工作	今井武夫			昭和				原稿		18	12
18	366	寺平と桜井の名前	今井武夫			昭和				メモ	防衛研修所の罫紙に記載。3行。	18	12
18	367	米国John Toland宛封筒	今井武夫	米国John Toland	1972	昭和	47			封筒	封筒のみで中身なし。年は推定。	18	12
18	368	パターン戦記	今井武夫		1976	昭和	51			原稿	1枚のみ。p. 41。年は推定。	18	12
18	369	パターン戦記	今井武夫		1976	昭和	51			原稿	1枚のみ。p. 42-2。3-25の原稿か。年は推定。	18	12
18	370	パターン戦記	今井武夫		1976	昭和	51			原稿	1枚のみ。p. 46。3-25の原稿か。年は推定。	18	12
18	371	パターン戦記	今井武夫		1976	昭和	51			原稿	1枚のみ。p. 52。3-25の原稿か。年は推定。	18	12
18	372	パターン戦記	今井武夫		1976	昭和	51			原稿	1枚のみ。p. 65。3-25の原稿か。年は推定。	18	12
18	373	日中和平交渉について	今井武夫			昭和				原稿	海外事業原稿用紙に記載。26頁～28頁まで3枚。	18	12
18	374	日中和平交渉について	今井武夫			昭和				原稿	12頁。1枚。	18	12
18	375	原稿	今井武夫			昭和				原稿	1枚。表裏に記載あり。	18	12
18	376	原稿	今井武夫			昭和				原稿	1枚。	18	12
18	377	質問事項ほか	今井武夫		1968	昭和	43			メモ	1枚。「アジア研究」1967年4月19号の裏に記載。年度は全くの推定。	18	12
18	378	昭和12年の股汝耕からの助命の電話ほか	今井武夫			昭和				原稿	1枚。	18	12
18	379	原稿	今井武夫			昭和				原稿	1枚。表裏あり。裏はメモ。	18	12
18	380	支那事変の回想	今井武夫		1960	昭和	35			回顧録	昭和35年起。	18	12

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
18	381	今井「大本營の過失か？ 悲劇の福知山連隊」	東日本新聞社		1957	昭和	32	11	11	雑誌	サンデー日本 44号。福地山でなく福山が正しい、18-380に挿入。今井本人の加筆・修正あり。	18	12
18	382	支那事変の経緯	今井武夫			昭和				原稿	46頁の途中までで、切れている。原稿用紙に記載。	18	12
18	384	夏友会復員40周年記念大会	夏友会事務局		1986	昭和	61	3	9	写真		18	12
18	385	比島会人名表（在京者）			1943	昭和	18	4	3	名簿	比島会開催（於軍人会館）。	18	12
18	386	マニラ友の会 会員名簿	マニラ友の会		1962	昭和	37	3		名簿	本間富士子、尾崎士郎、今日出海、渡辺はま子、などの名前が見える。	18	12
18	387	夏部隊会 御芳名	夏部隊会		1961	昭和	36	3	12	名簿	東京近辺在住者の名簿。報道班4名を含む38名。1枚。	18	12
18	388	夏部隊会御芳名	夏部隊会		1960	昭和	35	3	5	名簿	東京近辺在住者の名簿。報道班4名を含む34名。別に地方在住司令部等勤務者の名簿も。2枚。	18	12
18	389	第65旅団（フィリピン・ラバウル）第141連隊在京の方々	柴田善次郎		1967	昭和	42	11	10	書類	依田と書いてあるが「旅団」の間違い。	18	12
18	390	歩兵第141連隊史			1972	昭和	47			書類	18-401に符号説明あり。	18	12
18	391	戸伏長之「小森支隊長 小森政光中佐」	偕行社		1972	昭和	48	1	1	冊子	「偕行 1月」。切抜。戸伏は第141連隊所属。陸士44期。	18	12
18	392	「マーカス」の戦場にその徳を偲ぶ	戸伏長之		1973	昭和	48	1	1	冊子	18-391を冊子にしたもの。戸伏は第141連隊所属。陸士44期。同一2部あり。	18	12
18	393	今井部隊宛賞詞	本間雅晴	今井部隊	1942	昭和	17	6	28	書類	パターン攻略戦の賞詞。22-512にも判なしの第141連隊宛のものあり。この日今井歩兵部隊陸軍軍曹 野々村春水への感状が本間司令官から出されている。（昭和18年1月2日信濃毎日新聞参照）	18	12
18	394	関耕太「パターン”死の行進”の真相」	中央公論社		1977	昭和	52	8		雑誌	歴史と人物 8月号。切抜。今井について記載あり。	18	13
18	395	相良俊輔「インパール作戦の敗将 牟田口中将の晩年」	中央公論社		1977	昭和	52	8		雑誌	歴史と人物 8月号。切抜。18-394と同じ綴り。	18	13
18	396	「マニラ友の会について」	朝日新聞社		1960	昭和	35	11	27	新聞	18-394に挿入。朝日新聞。新聞切抜。	18	13
18	397	「本間中将を囲む わたり会 初総会」	毎日新聞社		1943	昭和	18	5	8	新聞	18-394に挿入。新聞切抜。毎日新聞。	18	13
18	398	名簿								名簿		18	14
18	399	軍旗を讃ふる歌	夏第9853部隊		1942	昭和	17			冊子	リマイ山を占領した後の感激を表現した歌や詩の冊子。夏9853部隊は141連隊のこと。	18	14
18	400	夏友会出席者 名簿			1979	昭和	54	3	11	名簿	於（福山市の？）遺族会館。今井は出席名簿になし。	18	14
18	401	広島師団史追録 歩兵第141連隊史			1972	昭和	47			書類	18-390と同じだが、軍隊符号の説明があり、付記が欠落。	18	14
18	402	夏部隊御芳名			1969	昭和	44	4	10	書類		18	14
18	403	夏友会総会出席者 名簿	夏友会		1983	昭和	58	3	6	名簿		18	14
18	404	第三次比島戦跡訪問及慰霊の旅を終えて	夏友会		1982	昭和	57	6		書類	5月13日～5月17日まで。発行月は推定。	18	14
18	405	夏部隊（第65旅団）生存者戦友名簿	夏友会		1975	昭和	50	3	20	書類		18	14
18	406	第一次比島戦跡訪問及慰霊の旅を終えて（昭和53. 5. 24～5. 28）	夏友会		1978	昭和	53	5		書類	夏友会を代表して今井の英霊に対する追悼文あり。18-82は「御挨拶」。今井に言及する記述数箇所あり。月は推定。	18	14
18	407	今井部隊比島派遣乃歌			1942	昭和	17			書類	作詞 広瀬尊貞中尉。作曲陸軍楽隊。年は推定。同一2枚あり。	18	14
18	408	財界人太平洋戦記 ⑪ 亀岡太郎「物量で制したパターン作戦」			1973	昭和	48			雑誌	週刊文春。複写。年は推定。	18	15
18	409	財界人太平洋戦記 ⑫ 亀岡太郎「関西師団がみせたど根性」			1973	昭和	48			雑誌	18-408と同じ綴り。週刊文春。複写。年は推定。	18	15

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
18	410	財界人太平洋戦記 ⑬ 亀岡太郎「死の行進」日本側の見方			1973	昭和	48			雑誌	18-408と同じ綴り。週刊文春。複写。年は推定。	18	15
18	411	財界人太平洋戦記 ⑭ 亀岡太郎「コスト高だった比島攻略戦」			1973	昭和	48			雑誌	18-408と同じ綴り。週刊文春。複写。年は推定。	18	15
18	412	第一次バタアン半島攻略戦間 第14軍 軍隊区分、増加部隊比島到着状況一覧表			1942	昭和	17			書類	複写。年は推定。	18	16
18	413	第一陣地帯突破間における軍主力方面 戦闘経過要図、追撃初動における軍主力方面戦闘経過要図			1942	昭和	17			書類	複写。年は推定。	18	16
18	414	今井「中国に対する終戦工作」	集英社		1965	昭和	40	11		冊子	昭和戦争文学全集 別巻 知られざる記録 月報16.3-15、12-88,に同じ。原稿は18-288。	18	2
18	415	南京会世話人書簡	南京会世話人	今井貞夫	1983	昭和	59	1	18	書簡	3月11日の案内。於て日本閣。第27回。今井は既に他界している。	18	16
18	416	片山憲四郎書簡	片山憲四郎	今井武夫	1967	昭和	42	12	3	書簡	今井から、要求のあったニューブリテン島における第141連隊の戦闘及びその他主要事項を送る。片山は第3代歩兵141連隊長。	18	16
18	417	ラバウル附近要図	片山憲四郎		1967	昭和	42	12	3	書類	18-416に挿入。	18	16
18	418	ツルブ附近 松田支隊配備要図	片山憲四郎		1967	昭和	42	12	3	書類	18-416に挿入。松田とは松田巖少将（第4代第65旅団長）のことか。	18	16
18	419	三角山附近要図	片山憲四郎		1967	昭和	42	12	3	書類	18-416に挿入。三角山は昭和18年141連隊が激戦したところ。	18	16
18	420	カ号作戦（ラバウルへの転進）要図	片山憲四郎		1967	昭和	42	12	3	書類	18-416に挿入。昭和19年1月末軍令によりラバウルへ転進する。	18	16
18	421	昭和18年7月5日以降第141連隊（夏9853部隊）の戦闘及主要事項の概要	片山憲四郎		1967	昭和	42	12	3	書類	18-416に挿入。	18	16
18	422	片岡修身書簡	片岡修身	今井武夫、片山憲四郎	1975	昭和	50			書簡	第141連隊史を書いているが、教示してほしい。片岡は福山市在住の旧福山連隊の研究者。複写。	18	16
18	423	黄鶴楼			1936	昭和	11	7	14	写真	ライカで撮った38枚の写真の一つ。封筒同封。	18	17
18	424	於北平正陽楼 今井ほか5名			1936	昭和	12	1	10	写真		18	17
18	425	今井の写真			1937	昭和	12	7	15	写真		18	17
18	426	潞安城壁上にて			1938	昭和	13	4	1	写真		18	17
18	427	写真				昭和				写真	10枚。	18	17
18	428	台津行総行	台津行総行			昭和				名刺	天津の台津行総行の名刺。	18	18
18	429	ミンダナオ南部・セレベス・ティモール地図	参謀本部陸地測量部		1941	昭和	16	3		地図	200万分の1の地図。	18	18
18	430	ハノイ、バンコック、カルカッタ地図			1941	昭和	16	11		地図	同一2部あり。	18	18
18	431	台湾、南支、比島地図	参謀本部陸地測量部		1941	昭和	16	4		地図	2百万分の1の地図。18-110に同じ。	18	18
18	432	マレー地図				昭和				地図	英文。	18	18
18	433	パラオ、ニューギニア西部地図			1941	昭和	16	11		地図		18	18
18	434	東亜諸民族分布図	大政翼賛会		1942	昭和	17	3	28	地図		18	18
18	435	台湾宜蘭県地図			1969	昭和	44			地図	栽培候補地に印あり。	18	18
18	436	豪州メルボルン地図			1942	昭和	17	4		地図		18	18
18	437	豪州西北部地図			1942	昭和	17	2		地図		18	18
18	438	印度西部、イラン東部地図			1942	昭和	17	5		地図		18	18

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
18	439	フィリピン、ボルネオ北部地図			1941	昭和	16	8		地図		18	18
18	440	中国の地図				昭和				地図		18	18
18	441	ボルネオ、ジャヴァ	参謀本部陸地測量部		1941	昭和	16	2		地図	同一2部あり。200万分の一。	18	18
18	442	日本国有鉄道路線図			1953	昭和	28	3		地図		18	18
18	443	海南島・サイゴン・ラングーン	参謀本部陸地測量部		1941	昭和	16	10		地図		18	18
18	444	「青木大東亜相の南方視察談」			1943	昭和	18	5	16	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。	18	18
18	445	バタンガス地図			1941	昭和	16	8	25	地図	連隊長用とある。	18	18
18	446	バヨンボン地図			1941	昭和	16	8	25	地図	連隊長用とある。	18	18
18	447	ポリリオ島地図			1924	大正	13	12	25	地図		18	18
18	448	豪州アデレード地図	参謀本部陸地測量部		1942	昭和	17	4		地図		18	18
18	449	ニュージーランド南部地図	参謀本部陸地測量部		1942	昭和	17	5		地図		18	18
18	450	豪州西南部地図	参謀本部陸地測量部		1942	昭和	17	4		地図		18	18
18	451	ブリスベーン、シドニー地図	参謀本部陸地測量部		1942	昭和	17	4		地図		18	18
18	452	ニューカレドニア西部、ロックハムプ トン地図	参謀本部陸地測量部		1942	昭和	17	2		地図		18	18
18	453	ニュージーランド北部地図	参謀本部陸地測量部		1942	昭和	17	5		地図		18	18
18	454	ボルネオ東南部、ティモール地図	参謀本部陸地測量部		1942	昭和	17	5		地図		18	18
18	455	台湾、南支、比島地図	参謀本部陸地測量部		1941	昭和	16	4		地図	2百万分の1の地図。18-110に同じ。	18	18
18	456	Road Map of Malaya	The Shell Company of Singapore Limited			昭和				地図		18	18
18	457	バターン半島地図	War Department, Corps of Engineers, US Army			昭和				地図	英文。	18	18
18	458	ルソン島地図	渡集団司令部		1942	昭和	17	2		地図	渡は尚武になる前の第14軍の通称か。	18	18
18	459	Bataan Peninsula, Philippine Islandsの地図	Corps of Engineers, US Army			昭和				地図		18	18
18	460	南方輿地図	陸地測量部		1940	昭和	15	8		地図		18	18
18	461	バタアン作戦 新聞切抜 スクラップ	今井武夫		1977	昭和	52	12	17	新聞	18箱-東19所収のファイル。「敵を知り己を知らざれば我に勝算なし、兵法の大原則を無視せるバタン作戦」と書いてある。	18	19
18	462	御田重宝「人間の記録797 郷土兵士の 足跡 バターン戦8 日米交渉が決裂」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	17	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	463	御田重宝「人間の記録798 郷土兵士の 足跡 バターン戦9 陸軍がゴリ押し」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	18	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	464	御田重宝「人間の記録799 郷土兵士の 足跡 バターン戦10 戦闘準備を発令」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	20	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
18	465	御田重宝「人間の記録800 郷土兵士の足跡 バターン戦11 開戦日が決まる」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	21	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	466	御田重宝「人間の記録800 郷土兵士の足跡 バターン戦11 開戦日が決まる」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	21	新聞	中国新聞。新聞切抜。18-465に同じ。	18	19
18	467	御田重宝「人間の記録801 郷土兵士の足跡 バターン戦12 お粗末な機械化」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	22	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	468	御田重宝「人間の記録801 郷土兵士の足跡 バターン戦12 お粗末な機械化」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	22	新聞	中国新聞。18-56の本紙。新聞切抜。	18	19
18	469	御田重宝「人間の記録802 郷土兵士の足跡 バターン戦13 65旅団編成される」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	23	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の談話あり。	18	19
18	470	御田重宝「人間の記録803 郷土兵士の足跡 バターン戦14 福山兵営を出陣」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	24	新聞	中国新聞。今井に関する記事あり。新聞切抜。	18	19
18	471	御田重宝「人間の記録804 郷土兵士の足跡 バターン戦15 宇品出港し台湾へ」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	25	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の談話あり。	18	19
18	472	御田重宝「人間の記録805 郷土兵士の足跡 バターン戦16 台湾基地で待機」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	27	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の談話あり。	18	19
18	473	御田重宝「人間の記録805 郷土兵士の足跡 バターン戦16 台湾基地で待機」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	27	新聞	中国新聞。今井の談話あり。新聞切抜。	18	19
18	474	御田重宝「人間の記録806 郷土兵士の足跡 バターン戦17 ひっそりと召集」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	28	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	475	御田重宝「人間の記録808 郷土兵士の足跡 バターン戦19 霧で出撃計画変更」	中国新聞社		1977	昭和	52	12	30	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	476	御田重宝「人間の記録810 郷土兵士の足跡 バターン戦21 比島に第一歩印す」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	3	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	477	御田重宝「人間の記録811 郷土兵士の足跡 バターン戦22 爆撃思わず大地震」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	4	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の談話あり。	18	19
18	478	御田重宝「人間の記録812 郷土兵士の足跡 バターン戦23 懸命に生きた青春」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	5	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	479	御田重宝「人間の記録813 郷土兵士の足跡 バターン戦24 65旅団も比島上陸」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	6	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の談話あり。	18	19
18	480	御田重宝「人間の記録814 郷土兵士の足跡 バターン戦25 第一線へ出動命令」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	7	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井について記載あり。	18	19
18	481	御田重宝「人間の記録815 郷土兵士の足跡 バターン戦26 約20キロを夜行軍」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	8	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	482	御田重宝「人間の記録816 郷土兵士の足跡 バターン戦27 強行軍で第一線へ」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	10	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の談話記事あり。	18	19

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
18	483	御田重宝「人間の記録817 郷土兵士の足跡 バターン戦28 200キロを越す行軍」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	11	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の談話記事あり。	18	19
18	484	御田重宝「人間の記録818 郷土兵士の足跡 バターン戦29 不見識な追撃命令」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	12	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の談話記事あり。	18	19
18	485	御田重宝「人間の記録819 郷土兵士の足跡 バターン戦30 14軍主力が上陸」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	13	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	486	御田重宝「人間の記録820 郷土兵士の足跡 バターン戦31 軍参謀を追い返す」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	14	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	487	御田重宝「人間の記録822 郷土兵士の足跡 バターン戦33 アグノ河に進出」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	17	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	488	御田重宝「人間の記録823 郷土兵士の足跡 バターン戦34 マ司令部がコ島へ」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	18	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	489	御田重宝「人間の記録824 郷土兵士の足跡 バターン戦35 5つの防御線敷く」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	19	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	490	御田重宝「人間の記録825 郷土兵士の足跡 バターン戦36 マニラ攻撃を決定」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	20	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	491	御田重宝「人間の記録826 郷土兵士の足跡 バターン戦37 マニラ向け前進」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	21	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	492	御田重宝「人間の記録827 郷土兵士の足跡 バターン戦38 48師団にプレーキ」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	22	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	493	御田重宝「人間の記録828 郷土兵士の足跡 バターン戦39 まさに破竹の進撃」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	24	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	494	御田重宝「人間の記録829 郷土兵士の足跡 バターン戦40 米軍がマニラ放棄」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	25	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	495	御田重宝「人間の記録830 郷土兵士の足跡 バターン戦41 放火・略奪相次ぐ」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	26	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	496	御田重宝「人間の記録831 郷土兵士の足跡 バターン戦42 米比軍を甘く見る」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	27	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	497	御田重宝「人間の記録832 郷土兵士の足跡 バターン戦43 米比軍を追撃へ」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	28	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井部隊について記載あり。	18	19
18	498	御田重宝「人間の記録833 郷土兵士の足跡 バターン戦44 65旅団と戦線交代」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	29	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の談話記事あり。	18	19
18	499	御田重宝「人間の記録834 郷土兵士の足跡 バターン戦45 独力攻撃が決まる」	中国新聞社		1978	昭和	53	1	31	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
18	500	御田重宝「人間の記録835 郷土兵士の足跡 バターン戦46 整然とした命令」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	1	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井連隊は左翼隊。	18	19
18	501	御田重宝「人間の記録836 郷土兵士の足跡 バターン戦47 まぎ密林と苦闘」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	2	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の談話記事あり。	18	19
18	502	御田重宝「人間の記録837 郷土兵士の足跡 バターン戦48 二日ぶり敵陣発見」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	3	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の談話記事あり。	18	19
18	503	御田重宝「人間の記録838 郷土兵士の足跡 バターン戦49 敵の地雷にかかる」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	4	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	504	御田重宝「人間の記録839 郷土兵士の足跡 バターン戦50 続出する死傷者」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	5	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	505	御田重宝「人間の記録840 郷土兵士の足跡 バターン戦51 せつ侯選出に涙」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	7	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	506	御田重宝「人間の記録841 郷土兵士の足跡 バターン戦52 マバタンは特級戦」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	8	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	507	御田重宝「人間の記録842 郷土兵士の足跡 バターン戦53 物量戦に押される」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	9	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	508	御田重宝「人間の記録843 郷土兵士の足跡 バターン戦54 兵士にも不満の声」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	10	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	509	御田重宝「人間の記録844 郷土兵士の足跡 バターン戦55 友軍見失い孤立」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	11	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	510	御田重宝「人間の記録845 郷土兵士の足跡 バターン戦56 重火器なく苦闘」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	12	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井について記載あり。	18	19
18	511	御田重宝「人間の記録846 郷土兵士の足跡 バターン戦57 浮田隊が高地奪取」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	14	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井について記載あり。	18	19
18	512	御田重宝「人間の記録847 郷土兵士の足跡 バターン戦58 142連隊も一線進出」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	15	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	513	御田重宝「人間の記録848 郷土兵士の足跡 バターン戦59 敵陣攻めあぐむ」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	16	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	514	御田重宝「人間の記録849 郷土兵士の足跡 バターン戦60 薄暮攻撃通用せず」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	17	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	515	御田重宝「人間の記録850 郷土兵士の足跡 バターン戦61 近距離で撃ち合い」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	18	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	516	御田重宝「人間の記録851 郷土兵士の足跡 バターン戦62 是田小隊が全滅」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	19	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	517	御田重宝「人間の記録852 郷土兵士の足跡 バターン戦63 喚声あげ敵陣突破」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	21	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	518	御田重宝「人間の記録853 郷土兵士の足跡 バターン戦64 増える収容患者」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	22	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備 考	参考 (箱)	参考 束
18	519	御田重宝「人間の記録854 郷土兵士の足跡 バターン戦65 密林で道に迷う」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	23	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の談話あり。	18	19
18	520	御田重宝「人間の記録855 郷土兵士の足跡 バターン戦66 九連隊と連絡つく」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	24	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の談話あり。	18	19
18	521	御田重宝「人間の記録856 郷土兵士の足跡 バターン戦67 今夜こそ戦死か」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	25	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	522	御田重宝「人間の記録857 郷土兵士の足跡 バターン戦68 1ヶ月ぶり体洗う」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	26	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	523	御田重宝「人間の記録858 郷土兵士の足跡 バターン戦69 大みえ切った報告」	中国新聞社		1978	昭和	53	2	28	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	524	御田重宝「人間の記録859 郷土兵士の足跡 バターン戦70 悲惨な敵陣上陸」	中国新聞社		1978	昭和	53	3	1	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	525	御田重宝「人間の記録860 郷土兵士の足跡 バターン戦71 上陸地点わからず」	中国新聞社		1978	昭和	53	3	2	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	526	御田重宝「人間の記録 861 郷土兵士の足跡 バターン戦72 撤退の電報届かず」	中国新聞社		1978	昭和	53	3	3	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	527	御田重宝「人間の記録 862 郷土兵士の足跡 バターン戦73 無意味な海上作戦」	中国新聞社		1978	昭和	53	3	4	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	528	御田重宝「人間の記録 863 郷土兵士の足跡 バターン戦74 攻略か封鎖かで動揺」	中国新聞社		1978	昭和	53	3	5	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	529	御田重宝「人間の記録 864 郷土兵士の足跡 バターン戦75 大勢占めた消極論」	中国新聞社		1978	昭和	53	3	7	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	530	御田重宝「人間の記録 865 郷土兵士の足跡 バターン戦76 戦線を放棄し撤退」	中国新聞社		1978	昭和	53	3	8	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の談話あり。	18	19
18	531	御田重宝「人間の記録 866 郷土兵士の足跡 バターン戦77 日ごとに兵力増加」	中国新聞社		1978	昭和	53	3	9	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	532	御田重宝「人間の記録 867 郷土兵士の足跡 バターン戦78 まず警戒陣地奪う」	中国新聞社		1978	昭和	53	3	10	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	533	御田重宝「人間の記録 868 郷土兵士の足跡 バターン戦79 総攻撃の態勢整う」	中国新聞社		1978	昭和	53	3	11	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	534	御田重宝「人間の記録 869 郷土兵士の足跡 バターン戦80 河をはさんで対陣」	中国新聞社		1978	昭和	53	3	12	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	535	御田重宝「人間の記録870 郷土兵士の足跡 バターン戦81 敵の猛攻撃受ける」	中国新聞社		1978	昭和	53	3	14	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
18	536	御田重宝「人間の記録871 郷土兵士の足跡 バターン戦82 火門300間で総攻撃」	中国新聞社		1978	昭和	53	3	15	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	537	御田重宝「人間の記録872 郷土兵士の足跡 バターン戦83 渡河に成功し追撃」	中国新聞社		1978	昭和	53	3	16	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の回想あり。	18	19
18	538	御田重宝「人間の記録873 郷土兵士の足跡 バターン戦84 破竹の勢いで進撃」	中国新聞社		1978	昭和	53	3	17	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	539	御田重宝「人間の記録874 郷土兵士の足跡 バターン戦85 敵の投稿者が続出」	中国新聞社		1978	昭和	53	3	18	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の回想あり。	18	19
18	540	御田重宝「人間の記録875 郷土兵士の足跡 バターン戦86 捕虜せん滅の命令」	中国新聞社		1978	昭和	53	3	19	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の談話あり。	18	19
18	541	御田重宝「人間の記録876 郷土兵士の足跡 バターン戦87 捕虜9万人超える」	中国新聞社		1978	昭和	53	3	23	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井について記載あり。	18	19
18	542	御田重宝「人間の記録877 郷土兵士の足跡 バターン戦88 ”死の行進”に疑問」	中国新聞社		1978	昭和	53	3	24	新聞	中国新聞。新聞切抜。今井の談話あり。	18	19
18	543	御田重宝「人間の記録878 郷土兵士の足跡 バターン戦89 13時間で戦闘終了」	中国新聞社		1978	昭和	53	3	25	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	544	御田重宝「人間の記録879 郷土兵士の足跡 バターン戦90 ウ中將が投降命令」	中国新聞社		1978	昭和	53	3	26	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	545	御田重宝「人間の記録880 郷土兵士の足跡 バターン戦91 戦死者は4千130人」	中国新聞社		1978	昭和	53	3	28	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	546	御田重宝「人間の記録881 郷土兵士の足跡 バターン戦92 民衆離反し敗北へ」	中国新聞社		1978	昭和	53	3	30	新聞	中国新聞。新聞切抜。	18	19
18	547	柳生大尉書簡	柳生大尉	今井武夫	1978	昭和	53	3	1	書簡	一別以来のこと。中国新聞の切抜送る。柳生は留守第65旅団の電報班長をしていた。18-19に挿入。	18	19
19	1	盧溝橋			1937	昭和	12			写真	年は推定。	19	1
19	2	東条首相 汪兆銘主席訪問を終りて			1942	昭和	17	12	20	写真	1940年とあるが1942年の間違いか。	19	1
19	3	李聖五 陳君璧 歓迎会 於中国飯店			1966	昭和	41	6	27	写真	安岡正篤、松方三郎、影佐幸子、清水董三、岩井英一ほか。李は国民政府外交部総務司長、外交部総務等を歴任。1899年生まれ。南京政府では教育部長兼外交部長。	19	1
19	4	土肥原賢二と今井				昭和				写真	土肥原賢二の直筆サインあり。	19	1
19	5	畑俊六元帥			1944	昭和	19	11		写真		19	1
19	6	国民政府宣伝部園遊会 宣伝部長 林伯生			1941	昭和	16	3	31	写真	20-31参照。	19	1
19	7	蔣介石表敬訪問			1936	昭和	11	6	13	写真	喜多誠一少将、雨宮巽中佐とともに。高宗武とも会っている。19-18参照。	19	1
19	8	三笠宮と将校たち			1943	昭和	18	3		写真	於 金山寺（中国）か。年月は推定。	19	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
19	9 (欠番)												
19	10	天長節記念			1940	昭和	15	4	29	写真		19	1
19	11	土肥原賢二				昭和				写真	19-29にも写真あり。直筆サインつき写真。	19	1
19	12	参和会にて小野寺信と今井			1960	昭和	35	11	26	写真	参和会は陸大40期の集まり。於 陶々亭。	19	1
19	13	片倉衷 小野寺ら7人と参和会			1960	昭和	35	11	26	写真	参和会は陸大40期の集まり。於 陶々亭。	19	1
19	14	南京総連絡班 記念写真			1946	昭和	21	9	19	写真	於鼓楼金銀街4号。前列左より、岡田清・光子夫妻、小笠原清中佐、今井、岡村大将、宮崎舜市中佐、伊藤武雄少佐、二宮重通少佐、後列鈴木章大尉、大野稔、伊藤重雄、米満新吾少佐、三石照雄大尉、丸山道夫准尉、新盛宏、杉浦鈺美。全17名。	19	1
19	15	文士戦線視察団との記念 久米正雄 尾崎士郎 林芙美子 井上靖 川口松太郎 高見順 山岡荘八 白井喬二 丹羽 文雄らとともに			1939	昭和	14	9		写真	於茶寮。今井も一緒。同一2枚あり。今井と佐藤賢了少将 石野芳男大佐 岡田芳政 松村秀逸中佐もいる。	19	1
19	16	英米仏伊盧溝橋戦線視察団			1937	昭和	12	10	11	写真	後の米国ジョセフ・スチルウエル陸軍大将、テラー大將らと。スチルウエルは昭和10年から14年まで米国大使館付武官として北平に滞在した。日付は推定。	19	1
19	17	大川周明博士、土肥原賢二大將らと今井			1943	昭和	18	1	18	写真	於料亭。	19	1
19	18	蒋介石表敬訪問			1936	昭和	11	6	13	写真	喜多誠一少将、雨宮巽中佐とともに。高宗武とも会っている。19-7参照。玄関で挨拶中。	19	1
19	19	今井武夫	和田二郎		1938	昭和	13			写真	1972年3月27日和田二郎氏（義理の甥）から受領。中佐時代のものか。年は推定。	19	1
19	20	今井大佐 永井大佐を中心にした将校 の記念			1941	昭和	16	7		写真	永井とは昭和16年6月支那派遣軍参謀となった陸士33期の永井八津次か。年は推定。6月か7月か。	19	1
19	21	大東亜省にての記念			1944	昭和	19	8	25	写真	今井が参事官時代のもの。	19	1
19	22	青島經由上海行きのときの写真			1938	昭和	13	3	11	写真	於南苑。	19	1
19	23	蘇州郊外靈岩山に於ての今井武夫			1941	昭和	16	4	9	写真	中国人の駕籠に乗っている今井。	19	1
19	24	視察写真			1943	昭和	18	3		写真	三笠宮（？）の視察写真か。年度は全くの推定。	19	1
19	25	戦没馬慰霊祭における陸士同期の今井 那須 飛松 於靖国神社			1958	昭和	33	4	7	写真	3-32参照。	19	1
19	26	今井ともう一人の将校			1939	昭和	14	9		写真	於南京聚星俱樂部。	19	1
19	27	今井の写真			1937	昭和	12	3		写真	北平駐在武官時代の今井の写真。	19	1
19	28	国民政府一周年記念日 影佐禎昭と今井 の記念写真			1941	昭和	16	3	30	写真	於国民政府大礼堂。19-35参照。	19	1
19	29	土肥原賢二				昭和				写真	土肥原賢二本人の直筆サインつき。19-11を若干大きくしたもの。	19	1
19	30	将校団総会			1935	昭和	10	4	14	写真		19	1
19	31	蒋介石表敬訪問写真			1936	昭和	11	6	13	写真	喜多誠一少将、雨宮巽中佐と蒋介石ほか。19-7, 19-18参照。	19	1
19	32	郵便長との会同			1965	昭和	40	4	16	写真	今井を中心に記念写真。	19	1
19	33	唐川安夫支那派遣軍総参謀副長（少 将）転出			1944	昭和	19	12	20	写真	於南京飛行場。唐川支那派遣軍総参謀副長は第6方面軍参謀長へ。後任は佐藤賢了少将。	19	1
19	34	長野県人会写真			1945	昭和	20	6	3	写真	於南京太平路大西医院。	19	1
19	35	国民政府一周年記念 7名			1941	昭和	16	3	30	写真	於南京日華俱樂部。19-28参照。影佐、今井、周仏海、周隆庠、梅思平、犬養健、伊藤芳男。	19	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
19	36	軍司令官会同記念			1945	昭和	20	6	10	写真	於南京聚星倶楽部。1月29日にも開催している。20-44参照。6月10日にも開催。19-36参照。	19	1
19	37	在りし日の 根本博中将の礼装写真	高島辰彦		1968	昭和	43	4	29	写真	今井のメモで、昭和43年4月29日高島からもらうとある。12-107関連か。写真はこの日付より古い。	19	1
19	38	大東亜省参事官 陸軍少将今井武夫			1943	昭和	18	3		写真	同一2枚あり。陸軍少将昇任時のものか。	19	1
19	39	皇居前にて 今井、倉岡ほか			1961	昭和	36	8	11	写真		19	1
19	40	於防衛庁戦史室に於いて都甲 長尾 今井 島貴武治 季			1971	昭和	46	4	6	写真		19	1
19	41	岩井英一、松平忠久、鐘任寿ほか			1973	昭和	48	6	10	写真	於赤坂飯店。	19	1
19	42	今井武夫			1966	昭和	41	8	17	写真	於銀座事務所。	19	1
19	43	中華飯店での会合				昭和				写真	戦後のものか。	19	1
19	44	今井の写真				昭和				写真	戦後のもの。	19	1
19	45	今井の写真				昭和				写真	戦後のもの。	19	1
19	46	今井の写真				昭和				写真		19	1
19	47	今井の写真			1943	昭和	18			写真	陸軍少将時代のものか。	19	1
19	48	今井の写真			1940	昭和	15			写真	大佐時代のものか。年は推定。	19	1
19	49	今井の写真			1940	昭和	15			写真	大佐時代のものか。年は推定。	19	1
19	50	軍隊の行進				大正				写真	富山歩兵69連隊の行進写真か。古い。年号は推定。	19	1
19	51	イベント写真			1936	昭和	11			写真	軍旗祭の時のものか。年度は全くの推定。	19	1
19	52	今井と海軍将校			1937	昭和	12			写真	陸海軍の北平駐在武官か。葉書をかねている。	19	1
19	53	中国人3人の写真				昭和				写真	小型カメラでとったもの。	19	1
19	54	飛行場に於ける将校				昭和				写真	小型カメラでとったもの。参謀肩章をつけている。	19	1
19	55	現代史資料月報 第三七回配本「太平洋戦争」(四) 付録			1972	昭和	47	12		資料	今井武夫「和平工作の思い出」	19	1
19	56	信武会を語る	新井一清		1942	昭和	17	10	25	冊子	信武会の役員名簿と規定あり。	19	1
19	57	盧溝橋事件中国側停戦条件の試案	斉燮元		1937	昭和	12	7	11	書類	今井『支那事変の回想』に写真記載されたものの本紙。29頁参照。斉燮元は冀察政務委員。	19	1
19	58	今井武夫宛満州国叙勲「勲四等」通知書	張景恵	今井武夫	1937	昭和	12	12	11	勲章	康德4年。張は満州帝国首相。	19	1
19	59	王必威「馬樹礼與今井武夫一段交往」			1978	昭和	53	11	14	新聞	聯合報。10月31日に今井、小笠原と東京飯店で会食。	19	1
19	60	「日中決着 感慨ひとしお、反戦と日中友好にかけた生涯 エスペランティスト長谷川テル」	朝日新聞社		1978	昭和	53	8	11	新聞	朝日新聞。新聞切抜。日中平和友好条約調印前日の新聞。	19	1
19	61	竹田恒徳「私の履歴書 29 戦後に終止符を」	日本経済新聞社		1976	昭和	51	4	30	新聞	日本経済新聞。新聞切抜。	19	1
19	62	鶴見俊輔「論壇時評 下 角田房子の甘粕大尉への論評」	朝日新聞社		1974	昭和	49	8	30	新聞	朝日新聞夕刊。今井に関して記載あり。新聞切抜。	19	1
19	63	「蒋介石秘録 盧溝橋事件 3 全軍を戦時体制に」	サンケイ新聞社		1976	昭和	51	6	11	新聞	サンケイ新聞。新聞切抜。	19	1
19	64	「蒋介石秘録 泥沼の大陸戦線 9 ” 和平” 掲げ懐柔策も」	サンケイ新聞社		1976	昭和	51	7	20	新聞	サンケイ新聞。新聞切抜。	19	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備 考	参考 (箱)	参考 束
19	65	「蒋介石秘録 泥沼の大戦線 10 軍 宇垣工作つづす」	サンケイ新聞社		1976	昭和	51	8	11	新聞	サンケイ新聞。新聞切抜。	19	1
19	66	「蒋介石秘録 大東亜への野望 8 張 自忠が壮烈な死」	サンケイ新聞社		1976	昭和	51	8	10	新聞	サンケイ新聞。新聞切抜。	19	1
19	67	「大東重要人の亡命工作」	毎日新聞社		1978	昭和	53	7	31	新聞	毎日新聞。南京政府首席代理陳公博とビルマ政府首相バー・モウについて。新聞切抜。	19	1
19	68	汪精衛政権 陸軍総司令官だった鄒平 凡（すうへいぼん）の訃報記事	朝日新聞社		1979	昭和	54	1	1	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	19	1
19	69	村上武 「回光」			1976	昭和	51	7	15	新聞	編集後記に今井について記載あり。	19	1
19	70	今井武夫 「三十年の歴史」	塔山小学校創立三十 周年記念事業委員会		1956	昭和	31	4	29	冊子	中野区立塔山小学校 創立三十周年記念誌。P T A 前会長 今井の所感	19	1
19	71	塔山小学校長久山峻と今井 小学校の 運動会にて			1954	昭和	29	10	3	写真	19-70に挿入。	19	1
19	72	中野区立塔山小学校校庭			1956	昭和	31			写真	19-70に挿入。年は推定。	19	1
19	73	「雑誌から」欄に「桐工作について」 のコメント記事	朝日新聞社		1977	昭和	52	5	9	新聞	今井の桐工作についての記事あり。朝日新聞。新聞切抜。	19	1
19	74	海外からの盧溝橋事件視察団保定行記 念 米国テーラー砲兵大尉ほか	平岡		1937	昭和	12	10	11	写真		19	1
19	75	今井武夫・きみ子宛電報	大谷照乗	今井武夫・きみ子	1939	昭和	14	7	27	電報	大谷は京都西本願寺連枝。北京籠城2周年記念に際してのお礼の電報。	19	1
19	76	大日本共栄圏地図	大阪毎日新聞社		1940	昭和	15	12	30	地図		19	1
19	77	亜細亜地図	大日本帝国陸地測量 部		1938	昭和	13	5	30	地図		19	1
19	78	仏領印度支那精図	南支調査会			昭和				地図		19	1
19	79	亜細亜大陸図				昭和				地図		19	1
19	80	フィリピンルソン島大地図	渡集団司令部		1942	昭和	17	4		地図	「渡」とは第14軍のこと。	19	1
19	81	南京市街近傍図	参謀本部陸地測量部		1937	昭和	12	8		地図		19	1
19	82	亜細亜大陸図				昭和				地図	右上（共四面）。	19	1
19	83	北海道函館の地図	内務省地理調査所		1948	昭和	23	6	30	地図		19	1
19	84	北京及同城外略図	北京燕塵会		1910	明治	43	7	1	地図		19	1
19	85	北京及同城外略図索引				明治				地図	燕塵3年8号付録。	19	1
19	86	北京附近地図を入れた封筒			1915	大正	4			封筒	年代は推定。	19	2
19	87	藍靛廠地図	参謀本部製図局		1915	大正	4	4		地図	同一2部あり。北京附近地図。	19	2
19	88	萬壽山地図	参謀本部製図局		1915	大正	4	4		地図	北京附近地図。	19	2
19	89	新房地図	参謀本部製図局		1915	大正	4	3		地図	北京附近地図。	19	2
19	90	房山県地図	参謀本部製図局		1915	大正	4	3		地図	北京附近地図。	19	2
19	91	盧溝橋地図	参謀本部製図局		1915	大正	4	3		地図	北京附近地図。	19	2
19	92	三家店地図	参謀本部製図局		1915	大正	4	4		地図	北京附近地図。	19	2
19	93	狼垆地図	参謀本部製図局		1915	大正	4	3		地図	北京附近地図。	19	2
19	94	軍莊地図	参謀本部製図局		1915	大正	4	4		地図	北京附近地図。	19	2

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
19	95	大灰廠地図	参謀本部製図局		1915	大正	4	4		地図	北京附近南部地図。	19	2
19	96	新倉鎮地図	参謀本部陸地測量部		1937	昭和	12	10	25	地図		19	3
19	97	ミンダナオ南部・セレバス・ティモール地図	参謀本部陸地測量部		1941	昭和	16	3		地図	200万分の1の地図。	19	3
19	98	円明園地図								地図	円明園は北京市内にある。	19	3
19	99	大沽天津唐官屯間地形一般図								地図		19	3
19	100	最新欧州大地図	大阪毎日新聞社		1940	昭和	15	8	10	地図		19	3
19	101	海南島・サイゴン・ラングーン	参謀本部陸地測量部		1941	昭和	16	10		地図		19	3
19	102	外南洋地図			1940	昭和	15	11		地図	海軍の作戦地図か。	19	3
19	103	中国の地図								地図		19	3
19	104	中国の地図	陸地測量部		1929	昭和	4	11		地図		19	3
19	105	フィリピン地図（英文）			1940	昭和	15			地図		19	3
19	106	北京近郊地図								地図	手書きのもの。	19	3
19	107	軍事郵便絵葉書 バターン・ナチブ山遠望			1942	昭和	17			絵葉書	年代は推定。	19	3
19	108	亜細亜学園 役員	亜細亜学園			昭和				名簿		19	3
19	109	和歌浦揚陸施設略図								地図		19	3
19	110	台湾、南支、比島地図	参謀本部陸地測量部		1941	昭和	16	4		地図	2百万分の1の地図。18-431、455と同じ。	19	3
19	111	察哈爾省政府挙行拡大記念週蔣介石委員長訓話畢撮影 蔣介石、劉汝明と馮治安	常安弘通		1934	昭和	9	11	5	写真	常安弘通より送られた写真。写真説明は19-320。	19	3
19	112	天安門至保和殿地図								地図		19	3
19	113	訴願審査委員会委員長宛証言	今井武夫	訴願審査委員会委員長	1949	昭和	24	5	18	書類	荒木栄吉（日銀総裁）の戦中行動に対する弁護の証言	19	3
19	114	仏領印度支那地図	参謀本部陸地測量部		1940	昭和	15	7		地図		19	3
19	115	豊台附近地図								地図		19	3
19	116	支那本部一般図	陸地測量部		1936	昭和	11	7		地図		19	3
19	117	新大東京地図	文彰堂編集部		1937	昭和	12	9	15	地図		19	3
19	118	ビルマ要図	ビルマ協会							地図		19	3
19	119	最新北平全市詳図	北平西单牌楼全市遼南建設図書館		1931	昭和	6	11		地図		19	3
19	120	亜細亜大陸図				昭和				地図	戦前のもの	19	3
19	121	江戸の地図	奥村善兵衛		1797	寛政	9			地図	寛政9年の複製版。戦後陸軍省が解体したとき 山崎大佐が保持したものを今井が譲り受けた由（長女俊子談）	19	3
19	122	DJAWA								地図	ジャワの地図。オランダ語か。	19	3
19	123	台北市地図	大興出版社		1976	昭和	51			地図	表裏に市街図と全図あり。	19	3
19	124	マカッサル市内図								地図	マカッサルは現在のインドネシアにある。	19	3

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
19	125	ビルマ地図	参謀本部陸地測量部		1940	昭和	15	7		地図		19	3
19	126	京兆各県村鎮詳細地図を入れたカバー				昭和				封筒		19	4
19	127	中国の地図				昭和				地図	「第一張」の地図。年号は推定。	19	4
19	128	中国の地図				昭和				地図	「第二張」の地図。年号は推定。	19	4
19	129	中国の地図				昭和				地図	「第三張」の地図。年号は推定。	19	4
19	130	中国の地図				昭和				地図	「第四張」の地図。年号は推定。	19	4
19	131	中国の地図				昭和				地図	「第六張」の地図。年号は推定。	19	4
19	132	中国の地図				昭和				地図	「第七張」の地図。年号は推定。	19	4
19	133	中国の地図				昭和				地図	「第八張」の地図。年号は推定。	19	4
19	134	中国の地図				昭和				地図	「第九張」の地図。年号は推定。	19	4
19	135	中国の地図				昭和				地図	「第十張」の地図。年号は推定。	19	4
19	136	中国の地図				昭和				地図	「第十一張」の地図。年号は推定。	19	4
19	137	中国の地図				昭和				地図	「第十二張」の地図。年号は推定。	19	4
19	138	中国の地図				昭和				地図	「第十三張」の地図。年号は推定。	19	4
19	139	中国の地図				昭和				地図	「第十四張」の地図。年号は推定。	19	4
19	140	及川貞作「中共の原子核開発 ―核実験への論理―」	民主主義研究会		1965	昭和	40			冊子	民主主義研究会及川の報告書。対象期間1949年10月から1964年10月16日まで。年号は推定。	19	5
19	141	故佐藤堅司博士作 孫子百首	高島辰彦		1964	昭和	39	4	18	冊子	駒沢大学佐藤堅司作。正誤表添付。	19	5
19	142	大塚賢三書簡	大塚賢三	今井武夫	1963	昭和	38	7	10	書簡	書類の送り状。新聞天地の記事拙訳（12-143）送ります。	19	5
19	143	龔徳柏回想録（65回）	大塚賢三		1963	昭和	38	7	10	書類	19-142に挿入。香港の週刊誌新聞天地1963年5月5日号に記載されたものの大塚の翻訳。龔（きょう）徳柏は73歳の老ジャーナリスト。原稿用紙12枚。	19	5
19	144	亜東親善協会 会員名簿	亜東親善協会		1978	昭和	53			名簿	今井は理事。	19	5
19	145	大東亜会議演説集	大東亜省		1943	昭和	18	11		冊子		19	5
19	146	波乱渦巻く草原蒙古を越えて	稲森利助		1967	昭和	42			冊子	綏東事件について。稲森は当時関東軍特情長。	19	5
19	147	稲森利助書簡	稲森利助	今井武夫	1967	昭和	42	5	12	書簡	19-146に挿入。昨年訪問したことへの礼と冊子送付について。	19	5
19	148	日華事変の原因は何か 蒙古の端から挑んだ諜報戦 蒙古の秘境を探りて	稲森利助		1968	昭和	43			冊子	陸士同期の稲森は3つのテーマについて書いている。	19	5
19	149	書類を入れた封筒			1983	昭和	58			封筒	今井俊子整理。	19	6
19	150	支那事変論功行賞調査票	支那派遣軍総司令部		1940	昭和	15	4	29	書類	対象は今井武夫。	19	6
19	151	中国国防部発行「今井武夫の連絡員証 南京日本官兵、善後総連絡班」	国防部		1946	昭和	21	7	1	書類	住所は南京鼓楼金銀街4号。1946年7月1日から12月31日まで。	19	6
19	152	今井武夫の特種外僑居留証	韓文煥		1946	昭和	21	10	4	書類	韓文煥は首都警察庁長か。特外字10号。12月31日まで。	19	6
19	153	引揚証明書	厚生省佐世保引揚援護局長		1947	昭和	22	10	11	書類	1947年10月4日佐世保港に上陸証明となっているが1月の間違いではないか。33444号。	19	6
19	154	支那派遣軍参謀陸士卒業別の21名の本籍地 留守宅 氏名			1945	昭和	21	1	29	名簿		19	6

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
19	155	非戦災者特別税申告書	今井武夫		1947	昭和	22	1		書類	今井の住所は目黒区上目黒7丁目の住所になっている。	19	6
19	156	わすれぬ人々	南京総連絡班		1946	昭和	21	11	1	書類	南京総連絡班16人の名前と原籍と現住所記載あり。	19	6
19	157	思ひ出の人々	渉外班		1947	昭和	22			名簿	44人の名前と住所、階級記載あり。年は推定。	19	6
19	158	マニラ市街図	渡集団司令部		1942	昭和	17	5		地図	「渡」とは第14軍のこと。	19	6
19	159	パターン戦線の怪命令	今井武夫		1973	昭和	48			原稿	ジンボラス株式会社の罫紙に記載。今井武夫行跡としてパターン作戦時の今井の年譜あり。年は推定。	19	6
19	160	新東京区分図 目黒区詳細図	日本地図		1947	昭和	22	1		地図		19	6
19	161	高島辰彦「近代医術の中に生きる孫子の兵法」			1958	昭和	33			冊子	掲載紙不明。抜刷。	19	4
19	162	高島辰彦「近代医術の中に生きる孫子の兵法（その二）」			1958	昭和	33			冊子	掲載紙不明。抜刷。	19	4
19	163	高島辰彦「近代医術の中に生きる孫子の兵法（その三）」			1958	昭和	33			冊子	掲載紙不明。抜刷。	19	4
19	164	高島辰彦「近代医術の中に生きる孫子の兵法（その四）」			1958	昭和	33			冊子	掲載紙不明。抜刷。	19	4
19	165	料亭での記念写真				昭和				写真	料亭での記念写真と思われる。	19	7
19	166	志村寛	志村寛		1955	昭和	30	2	19	写真	志村は今井の長野中学時代の国語の先生。若い頃からの経年写真6枚を一枚に入れている。	19	7
19	167	長野中学同窓生写真 国語の志村先生を囲んで			1951	昭和	26	5		写真	於て同級生島田謹吾邸。昭和26年度にクエスチョンマークあり。	19	7
19	168	長野中学同級会 記念			1951	昭和	26	11	18	写真	国語の志村寛先生を囲んで。於東京都練馬区の島田謹吾邸。志村先生を含めて全10名。	19	7
19	169	長野中学同級会記念			1951	昭和	26	11	18	写真	志村寛先生を囲んで 5名。於東京練馬区の島田邸。	19	7
19	170	長野中学同級会			1956	昭和	31	4	14	写真	長中15回生の集まり。於住友クラブ。10名。今井、島田謹吾、藤井（旧姓長谷部）一太郎、左治木小次郎、山名庸雅、高橋達郎（忠吉）、松林高治、田中盤根、竹中健、新井信義。	19	7
19	171	長野中学同級会			1957	昭和	32	10	20	写真	長中同級会。志村先生を囲んで全5名。於島田邸。	19	7
19	172	長野中学同級会			1957	昭和	32	10	20	写真	長中同級会。志村先生を囲んで全7名。於島田邸。	19	7
19	173	長野中学卒業50年会 於松代町公園	島田謹吾		1964	昭和	39	5	30	写真	島田は長野中学同級生。	19	7
19	174	長野中学卒業50年会 於松代町公園	島田謹吾		1964	昭和	39	5	30	写真	於松代町公園。	19	7
19	175	長野中学卒業50年会 於松代町大本営跡	島田謹吾		1964	昭和	39	5	30	写真		19	7
19	176	長野中学卒業50年会 於渋温泉			1964	昭和	39	5	30	写真	於渋温泉。全23名。今井、滝沢工、吉沢十助、左治木小次郎、野池固根、井原馨、小山、小林章、近山、伴国男、竹村波次、清水豊治、田中泉、関川寛平、井上、新井信義、菊池実、町田一二三、長谷部一太郎、山上重貞、松林高治、田中盤根、清水豊治。	19	7
19	177	長野中学同級会			1967	昭和	42	7	11	写真	於 ほととぎす。7名。今井、山中庸雅、松沢、菊池、古宮、田中、三村。	19	7
19	178	長野中学同級会			1967	昭和	42	7	11	写真	於 ほととぎす。 今井と古宮。	19	7
19	179	長野中学同級会			1969	昭和	44	5	6	写真	於豊島園池畔亭。カラー写真。10名。	19	7
19	180	長野中学同級会			1969	昭和	44	5	6	写真	於豊島園池畔亭。白黒写真。6名。	19	7
19	181	長野中学同級会			1957	昭和	32	10	20	写真	志村先生を囲んで。全14名。女性2名。同級生の夫人か。この写真の年月日は全くの推測。	19	7
19	182	長野中学同級会			1956	昭和	31	4	14	写真	於料亭。19-181より少し若いときのもの。15名と16名。2枚あり。この写真の年月日は全くの推測。	19	7

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備 考	参考 (箱)	参考 束
19	183	長野中学同級会			1957	昭和	32			写真	志村先生を囲んで。全8名。夜戸外で。昭和32年前後の年のものか。	19	7
19	184	中国共産党概史	森岡卓		1957	昭和	32	6	25	冊子	森岡は陸士22期。陸軍中將。フィリピンへ第16師団長として出征。	19	8
19	185	長野県人東京長水会名簿	第一法規出版		1958	昭和	33	3		冊子		19	8
19	186	詔書（活字で印刷された写）			1945	昭和	20	8	14	書類	ポツダム宣言受諾。	19	8
19	187	台北市南港区麓山里山坡地間発計画区域画分図				昭和				地図	複写。	19	8
19	188	恩給控え	今井武夫			昭和				メモ		19	9
19	189	今井武夫履歴書	今井武夫		1974	昭和	49	8	19	履歴書	長野県庁保管の今井の履歴書（1974年8月19日発行したもの）の自筆の写し。	19	9
19	190	今井「日本語のわからない馬」	中央月島新聞社		1969	昭和	44	5	5	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	19	9
19	191	今井「盧溝橋のミステリー」	中央月島新聞社		1969	昭和	44	7	5	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	19	9
19	192	今井「迎春風景いろいろ」	中央月島新聞社		1970	昭和	45	1	5	新聞	中央月島新聞。ここでは「無風」でなく、「今生生」となっている。	19	9
19	193	今井「よなげ屋の優越感」	中央月島新聞社		1970	昭和	45	2	5	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	19	9
19	194	今井「水牛の亡霊」	中央月島新聞社		1970	昭和	45	4	15	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。3-40関連。	19	9
19	195	今井「猫の非妥協性」	中央月島新聞社		1970	昭和	45	6	15	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	19	9
19	196	今井「江藤新平佐賀の乱」	中央月島新聞社		1970	昭和	45	6	25	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	19	9
19	197	今井「台湾生蕃征討事件」	中央月島新聞社		1970	昭和	45	7	5	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	19	9
19	198	今井「歩行者天国」	中央月島新聞社		1970	昭和	45	8	15	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	19	9
19	199	今井「腕時計のバンド」	中央月島新聞社		1970	昭和	45	9	5	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	19	9
19	200	今井「子供の幸福は両親の健在から」	中央月島新聞社		1970	昭和	45	10	15	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	19	9
19	201	今井「真田幸村のこと」	中央月島新聞社		1970	昭和	45	5	5	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	19	9
19	202	今井「台湾を旅行しての所見」	中央月島新聞社		1970	昭和	45	11	5	新聞	中央月島新聞。「無風」は今井武夫のペンネームと、ここで明かされている。	19	9
19	203	今井「恩田圭(おんだもく)の藩政改革」	中央月島新聞社		1970	昭和	45	11	15	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	19	9
19	204	今井「徳をもって怨みに報ゆ 一蒋介石総統の布石一」	中央月島新聞社		1970	昭和	45	11	25	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	19	9
19	205	今井「殺生を禁じた犬公方のこと」	中央月島新聞社		1970	昭和	45	12	25	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	19	9
19	206	今井「井戸端会議」	中央月島新聞社		1971	昭和	46	2	5	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	19	9
19	207	今井「高齢者の健康法」	中央月島新聞社		1971	昭和	46	2	15	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	19	9
19	208	今井「五十年の変化」	中央月島新聞社		1971	昭和	46	3	5	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	19	9
19	209	今井「昔のはなし 小学校のプール問題で都知事から紹介状」	中央月島新聞社		1971	昭和	46	3	15	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	19	9
19	210	今井「考えさせる維新の歴史」	中央月島新聞社		1971	昭和	46	3	25	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	19	9
19	211	今井「鳩と象の情愛」	中央月島新聞社		1971	昭和	46	5	25	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	19	9
19	212	今井「日中問題 国策は基本から 慎重な研究が必要」	中央月島新聞社		1971	昭和	46	6	5	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	19	9
19	213	今井「道義の振興と民族の盛衰 終戦時を顧みて」	中央月島新聞社		1971	昭和	46	6	15	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	19	9

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
19	214	今井「日中復交に就て 過度の卑屈を排す」	中央月島新聞社		1971	昭和	46	7	5	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	19	9
19	215	今井「政権維持に必要なことは道義」	中央月島新聞社		1971	昭和	46	7	15	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	19	9
19	216	今井「農村の花嫁難」	中央月島新聞社		1971	昭和	46	8	5	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	19	9
19	217	今井「嘘と大言壮語」	中央月島新聞社		1971	昭和	46	8	25	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	19	9
19	218	今井「武田勝頼奮戦の地 一高遠に遊ぶ」	中央月島新聞社		1971	昭和	46	11	5	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	19	9
19	219	今井「七億五千万人口の中国の姓氏録」	中央月島新聞社		1971	昭和	46	11	15	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	19	9
19	220	今井「子供の幸福は両親の健在から」	中央月島新聞社		1972	昭和	47	1	5	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。19-200と同じ内容が記載されている。	19	9
19	221	今井「小学校入学前の準備教育は！」	中央月島新聞社		1972	昭和	47	3	15	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	19	9
19	222	今井「結婚記念の植樹」	中央月島新聞社		1972	昭和	47	4	25	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	19	9
19	223	今井「軍馬の慰霊」	中央月島新聞社		1972	昭和	47	5	15	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	19	9
19	224	今井「観世音菩薩と因果律」	中央月島新聞社		1972	昭和	47	5	25	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	19	9
19	225	今井「首陽山を思い出す 蕨とクローバ」	中央月島新聞社		1972	昭和	47	6	5	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	19	9
19	226	今井「有名人の大食較べ」	中央月島新聞社		1972	昭和	47	6	25	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。今村均大将について。	19	9
19	227	今井「国語発音の変化」	中央月島新聞社		1972	昭和	47	7	5	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	19	9
19	228	今井「天命を知ること 艱難は汝を玉にする」	中央月島新聞社		1972	昭和	47	7	15	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	19	9
19	229	今井「中国の天下思想 一東夷、南蛮、北狄、西戎一」	中央月島新聞社		1972	昭和	47	7	25	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	19	9
19	230	今井「故人追悼録の問題 長短併せて記すべき？」	中央月島新聞社		1972	昭和	47	8	15	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	19	9
19	231	今井「俺はシーマダ シーマダ 馬の訓練に自分を名乗る」	中央月島新聞社		1972	昭和	47	8	25	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	19	9
19	232	今井「維新史と中浜万次郎」	中央月島新聞社		1972	昭和	47	9	15	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	19	9
19	233	今井「気宇闊達の大谷光瑞」	中央月島新聞社		1972	昭和	47	9	25	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	19	9
19	234	今井「日中国交正常化に一言する」	中央月島新聞社		1972	昭和	47	10	15	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	19	9
19	235	今井「著書における正誤の判断 見方の相違も」	中央月島新聞社		1972	昭和	47	10	25	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	19	9
19	236	今井「日独伊三国同盟と松岡洋右の役割」	中央月島新聞社		1972	昭和	47	11	25	新聞	中央月島新聞。今井は「無風」のペンネームで記載。	19	9
19	237	百窓 4号	信濃育英会小平寮		1967	昭和	42	3	20	冊子	開寮十周年記念。	19	10
19	238	兵火燃え立つ中に踊る暗号戦	稲森利助		1968	昭和	43	1		冊子	稲森は当時関東軍特情長。陸士同期。年度初頭。月は推定。	19	10
19	239	高島辰彦「東洋兵学概説」			1966	昭和	41	3		雑誌	掲載紙不明。切抜。	19	10
19	240	日本回顧録 4 日中戦争の頃	NHKT V教養部学芸班		1962	昭和	37	7	9	冊子	教育T V出演の台本。本人の加筆あり。出演今井、佐藤尚武、清水董三、牟田口廉也、桜井徳太郎。	19	10
19	241	日華国交基本要綱について	今井武夫			昭和				原稿	19-240に挿入。一枚のみ。Far Eastern Economic Researchの罫紙に記載。	19	10
19	242	P T A関係書類綴	今井武夫		1955	昭和	30			書類	19箱-東11所収のファイル。年は推定。	19	11

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
19	243	中野区立塔山小学校 昭和29年度 P T A 委員・役員名簿	中野区立塔山小学校 P T A		1954	昭和	29			冊子	今井は会長。	19	11
19	244	中野区立塔山小学校 昭和30年度 P T A 委員・役員名簿	中野区立塔山小学校 P T A		1955	昭和	30			冊子		19	11
19	245	塔山小学校PTA 規約			1953	昭和	28	5	7	書類		19	11
19	246	中野区立塔山小学校昭和28年度 P T A 委員名簿	中野区立塔山小学校		1953	昭和	28			冊子	今井は P T A 会長。	19	11
19	247	今井「卒業生におくる」	中野区立塔山小学校		1955	昭和	30	3	20	新聞	中野区立塔山小学校新聞「塔影」16号 昭和30年3月号。今井は P T A 会長。同一2部あり。	19	11
19	248	中野区立塔山小学校新聞塔影 昭和28年10月号	中野区立塔山小学校		1953	昭和	28	10	10	新聞	今井武夫がPTA会長を務めた 中野区立塔山小学校の学校新聞。	19	11
19	249	今井「バス事故に寄せて」	中野区立塔山小学校		1954	昭和	29	10	1	新聞	中野区立塔山小学校新聞「塔影」。昭和29年10月号。今井は P T A 会長。同一2部あり。	19	11
19	250	今井「再び（PTA会長に）指名されて」	中野区立塔山小学校		1954	昭和	29	7	10	新聞	中野区立塔山小学校新聞「塔影」。昭和29年7月号。今井はPTA会長。	19	11
19	251	今井「卒業生におくる」	中野区立塔山小学校		1954	昭和	29	3	10	新聞	中野区立塔山小学校新聞「塔影」。昭和29年3月号。今井は P T A 会長。	19	11
19	252	久山峻「今井会長を送る」	中野区立塔山小学校		1955	昭和	30	7	15	新聞	中野区立塔山小学校新聞「塔影」17号。昭和30年7月号。久山は小学校長。	19	11
19	253	大陸中国共産党	今井武夫			昭和				書類	19箱-東12所収の新聞切抜きスクラップブック。	19	12
19	254	「中共の鉄道建設の全容」	毎日新聞社		1952	昭和	27	12	21	新聞	毎日新聞。新聞切抜き。	19	12
19	255	「ソ連極東攻勢を強化」	東京新聞社		1952	昭和	27	12	25	新聞	東京新聞。新聞切抜き。	19	12
19	256	「注目さる中ソ関係」	サンケイ新聞社		1953	昭和	28	3	5	新聞	サンケイ新聞。新聞切抜き。	19	12
19	257	「マレンコフ登場と朝鮮動乱」	毎日新聞社		1953	昭和	28	3	13	新聞	毎日新聞。新聞切抜き。	19	12
19	258	「”大陸の窓口”香港の一年 上 中共からの逃避百万」	朝日新聞社		1953	昭和	28	3	14	新聞	朝日新聞。新聞切抜き。	19	12
19	259	「”大陸の窓口”香港の一年 下 火花散る国共宣伝戦」	朝日新聞社		1953	昭和	28	3	16	新聞	朝日新聞。新聞切抜き。	19	12
19	260	「中共の大衆娯楽」	日本経済新聞社		1953	昭和	28	3	27	新聞	日本経済新聞。新聞切抜き。	19	12
19	261	「香港の鉱業事情」	日本鉱業新聞社		1953	昭和	28	3	5	新聞	日本鉱業新聞。新聞切抜き。	19	12
19	262	「組織に縛られた国民」	毎日新聞社		1953	昭和	28	12	27	新聞	毎日新聞。新聞切抜き。	19	12
19	263	「中共五カ年計画の焦点 鞍山」	読売新聞社		1953	昭和	28	4	4	新聞	読売新聞。新聞切抜き。	19	12
19	264	「中共貿易のやり方と見通し」	日本経済新聞社		1953	昭和	28	2	28	新聞	日本経済新聞。新聞切抜き。	19	12
19	265	「中共にまた肅清旋風」	読売新聞社		1953	昭和	28	4	22	新聞	読売新聞。新聞切抜き。	19	12
19	266	「帰還者のみた中共の姿」	朝日新聞社		1953	昭和	28	5	12	新聞	朝日新聞。新聞切抜き。	19	12
19	267	「消える迷信・さびれる宗教」	日本経済新聞社		1953	昭和	28	5	10	新聞	日本経済新聞。新聞切抜き。	19	12
19	268	「朝鮮休戦と中共の態度」	朝日新聞社		1953	昭和	28	7	6	新聞	朝日新聞。新聞切抜き。	19	12
19	269	高谷覚蔵「休戦控え中ソ関係新段階へ」	毎日新聞社		1953	昭和	28	7	16	新聞	毎日新聞。新聞切抜き。	19	12
19	270	「中共の実情 山本熊一氏に聴く」	サンケイ新聞社		1953	昭和	28	7	17	新聞	サンケイ新聞。新聞切抜き。	19	12
19	271	「中共と台湾」				昭和				新聞	掲載紙不明。新聞切抜き。	19	12
19	272	「満州の建設を探る」	サンケイ新聞社		1953	昭和	28	7	20	新聞	サンケイ新聞。新聞切抜き。	19	12

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
19	273	「中共軍の実体」	毎日新聞社		1953	昭和	28	5	11	新聞	毎日新聞。新聞切抜。	19	12
19	274	「中共 反毛沢東派を続々追放」	東京新聞社		1953	昭和	28	5	19	新聞	東京新聞。新聞切抜。	19	12
19	275	「中国の治水対策」	朝日新聞社		1953	昭和	28	8	4	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	19	12
19	276	波多野乾一「中共を動かす人々」	サンケイ新聞社		1953	昭和	28	8	10	新聞	サンケイ新聞。新聞切抜。波多野は上海の東亜同文書院卒。里見甫の4期先輩。外務省情報部・興亜院・大東亜省で支那・中国研究に従事した。著書に『中国共産党史』全7巻、時事通信社、1961年）がある。	19	12
19	277	「中共、農業集団化を緩和」	毎日新聞社		1953	昭和	28	8	13	新聞	毎日新聞。新聞切抜。	19	12
19	278	高木健夫「お隣の新世界 ① 壮大な人民大会劇」	読売新聞社		1953	昭和	28	9	7	新聞	読売新聞。新聞切抜。	19	12
19	279	高木健夫「お隣の新世界 ② 恋愛も”公式”で規格化」	読売新聞社		1953	昭和	28	9	8	新聞	読売新聞。新聞切抜。	19	12
19	280	高木健夫「お隣の新世界 ③ ”可能の夢” 西北建設」	読売新聞社		1953	昭和	28	9	9	新聞	読売新聞。新聞切抜。日付の8日は9日の間違いか。	19	12
19	281	高木健夫「お隣の新世界 ④ 週一回の”言論自由”？」	読売新聞社		1953	昭和	28	9		新聞	読売新聞。新聞切抜。	19	12
19	282	高木健夫「お隣の新世界 ⑤ 料理屋も公私合営」	読売新聞社		1953	昭和	28	9		新聞	読売新聞。新聞切抜。	19	12
19	283	高木健夫「お隣の新世界 ⑥ ずらり”工具アパート”」	読売新聞社		1953	昭和	28	9		新聞	読売新聞。新聞切抜。	19	12
19	284	高木健夫「お隣の新世界 ⑦ ”文化”はダンスから」	読売新聞社		1953	昭和	28	9		新聞	読売新聞。新聞切抜。	19	12
19	285	高木健夫「お隣の新世界 ⑧ 到るところ”ソ連清一色”」	読売新聞社		1953	昭和	28	9		新聞	読売新聞。新聞切抜。	19	12
19	286	高木健夫「お隣の新世界 ⑨ あおるスポーツ熱」	読売新聞社		1953	昭和	28	9		新聞	読売新聞。新聞切抜。	19	12
19	287	高木健夫「お隣の新世界 ⑩ 次々と新ビル」	読売新聞社		1953	昭和	28	9		新聞	読売新聞。新聞切抜。	19	12
19	288	「中共拝見 ①」	朝日新聞社		1955	昭和	30	7	9	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	19	12
19	289	「中共拝見 ②」	朝日新聞社		1955	昭和	30	7		新聞	朝日新聞。新聞切抜。	19	12
19	290	「中共拝見 ③」	朝日新聞社		1955	昭和	30	7		新聞	朝日新聞。新聞切抜。	19	12
19	291	「中共拝見 ④」	朝日新聞社		1955	昭和	30	7		新聞	朝日新聞。新聞切抜。	19	12
19	292	「中共拝見 ⑤」	朝日新聞社		1955	昭和	30	7		新聞	朝日新聞。新聞切抜。	19	12
19	293	「中共拝見 ⑥」	朝日新聞社		1955	昭和	30	7		新聞	朝日新聞。新聞切抜。	19	12
19	294	「中共拝見 ⑦」	朝日新聞社		1955	昭和	30	7		新聞	朝日新聞。新聞切抜。	19	12
19	295	「中共拝見 ⑧」	朝日新聞社		1955	昭和	30	7		新聞	朝日新聞。新聞切抜。	19	12
19	296	橘善守「招かれて見た中共 ① 息づまる権力機構」	毎日新聞社		1955	昭和	30	9	6	新聞	毎日新聞。新聞切抜。	19	12
19	297	橘善守「招かれて見た中共 ② 荒れ狂う粛清」	毎日新聞社		1955	昭和	30	9	7	新聞	毎日新聞。新聞切抜。日付は推定。	19	12
19	298	橘善守「招かれて見た中共 ③ 雄大な治水計画」	毎日新聞社		1955	昭和	30	9	8	新聞	毎日新聞。新聞切抜。日付は推定。	19	12
19	299	橘善守「招かれて見た中共 ④ 人間の改造」	毎日新聞社		1955	昭和	30	9	9	新聞	毎日新聞。新聞切抜。日付は推定。	19	12

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
19	300	橋善守「招かれて見た中共 ⑤ 滅びゆく階級」	毎日新聞社		1955	昭和	30	9	10	新聞	毎日新聞。新聞切抜。日付は推定。	19	12
19	301	橋善守「招かれて見た中共 ⑥ 女性解放」	毎日新聞社		1955	昭和	30	9	11	新聞	毎日新聞。新聞切抜。日付は推定。	19	12
19	302	橋善守「招かれて見た中共 ⑦ 3千人のダンス」	毎日新聞社		1955	昭和	30	9	12	新聞	毎日新聞。新聞切抜。日付は推定。	19	12
19	303	橋善守「招かれて見た中共 ⑧ ”造民の府” 大学」	毎日新聞社		1955	昭和	30	9	13	新聞	毎日新聞。新聞切抜。日付は推定。	19	12
19	304	橋善守「招かれて見た中共 ⑨ みなぎる”新風”」	毎日新聞社		1955	昭和	30	9	14	新聞	毎日新聞。新聞切抜。日付は推定。	19	12
19	305	橋善守「招かれて見た中共 ⑩ 過渡期の衣食住」	毎日新聞社		1955	昭和	30	9	15	新聞	毎日新聞切抜。日付は推定。	19	12
19	306	橋善守「招かれて見た中共 ⑪ 笑いのない新聞」	毎日新聞社		1955	昭和	30	9	16	新聞	毎日新聞。新聞切抜。日付は推定。	19	12
19	307	人物写真				昭和				写真	橋善守の写真か。	19	12
19	308	横田編集局次長「カメラが見た中共 ① 昔ながらの京劇」	東京新聞社		1955	昭和	30	9	12	新聞	東京新聞。新聞切抜。	19	12
19	309	横田編集局次長「カメラが見た中共 ② 賭博への郷愁」	東京新聞社		1955	昭和	30	9	13	新聞	東京新聞。新聞切抜。日付は推定。	19	12
19	310	横田編集局次長「カメラが見た中共 ③ 旗袍から暗娼まで」	東京新聞社		1955	昭和	30	9	14	新聞	東京新聞。新聞切抜。日付は推定。	19	12
19	311	横田編集局次長「カメラが見た中共 ④ 少数民族の教育」	東京新聞社		1955	昭和	30	9	15	新聞	東京新聞。新聞切抜。日付は推定。	19	12
19	312	横田編集局次長「カメラが見た中共 ⑤ 偉大的大救星」	東京新聞社		1955	昭和	30	9	16	新聞	東京新聞。新聞切抜。日付は推定。	19	12
19	313	橋善守「招かれて見た中共 ⑫ 歴史の脱皮」	毎日新聞社		1955	昭和	30	9	17	新聞	毎日新聞。新聞切抜。日付は推定。	19	12
19	314	橋善守「招かれて見た中共 ⑬ 東北(満州)を一巡して」	毎日新聞社		1955	昭和	30	9	18	新聞	毎日新聞。新聞切抜。日付は推定。	19	12
19	315	橋善守「招かれて見た中共 ⑭ 向ソ一辺倒」	毎日新聞社		1955	昭和	30	9	19	新聞	毎日新聞。新聞切抜。日付は推定。	19	12
19	316	橋善守「招かれて見た中共 ⑮ 周総理と会って」	毎日新聞社		1955	昭和	30	9	20	新聞	毎日新聞。新聞切抜。日付は推定。	19	12
19	317	「中共軍を解剖する 近代装備の四百四十万」	東京新聞社		1955	昭和	30	1	2	新聞	東京新聞。新聞切抜。	19	12
19	318	「中共軍を解剖する 特科部隊に重心」	東京新聞社		1955	昭和	30	1	3	新聞	東京新聞。新聞切抜。	19	12
19	319	常安弘通書簡	常安弘通	今井武夫	1956	昭和	31	6	20	書簡	複写した珍しい写真を送付するので、暁月会会員に見せてほしい。NBCの罫紙に記載。	19	13
19	320	写真説明文	常安弘通		1956	昭和	31	6	20	書類	写真の説明文。19-319に同封されたものか。蒋介石46歳の頃の写真説明。劉汝明、馮治安。同封された写真は19-111か。NBCの罫紙に記載。常安は北京にいた新聞記者。	19	13
19	321	日本の対支政策について 目録	今井武夫		1937	昭和	12	4	20	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍罫紙に記載。19-321所収のファイル。全87頁。	19	14
19	322	緒言	今井武夫		1937	昭和	12	4	20	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍罫紙に記載。19-321の構成 1。1～8頁。	19	14
19	323	北支独立ノ不可能性	今井武夫		1937	昭和	12	4	20	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍罫紙に記載。19-321の構成 2。9～40頁。	19	14

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
19	324	統一支那ノ中心勢力	今井武夫		1937	昭和	12	4	20	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。19-321の構成 3。41～57頁。	19	14
19	325	南京政府ノ本質ハ反共	今井武夫		1937	昭和	12	4	20	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。19-321の構成 4。58～66頁。	19	14
19	326	南京政府ト地方政權	今井武夫		1937	昭和	12	4	20	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。19-321の構成 5。67～72頁。	19	14
19	327	支那統一ト抗日開戦	今井武夫		1937	昭和	12	4	20	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。19-321の構成 6。73～80頁。	19	14
19	328	結論	今井武夫		1937	昭和	12	4	20	報告書	駐在武官室の記録と思われる。陸軍野紙に記載。19-321の構成 7。81～87頁。	19	14
19	329	現地録音 南方攻略戦記解説 馬来編・比島編	栢野正次郎		1943	昭和	18	3	1	冊子	19-330の解説書。	19	15
19	330 (欠番)												
19	331	東亜測量図	陸地測量部		1937	昭和	12			地図	1927年製版。37年改版。	19	16
19	332	亜細亜大陸図地図	大日本帝国陸地測量部		1934	昭和	9	2	15	地図		19	16
19	333	Philippine Islands地図	Manila PI		1940	昭和	15			地図	英文地図。	19	16
20	1	今井武夫宛 陸軍歩兵少尉任命書	原敏	今井武夫	1918	大正	7	12	25	書類	原は総理大臣。任陸軍歩兵少尉任命書。	20	1
20	2	今井武夫宛叙勲従七位	牧野伸顕	今井武夫	1922	大正	11	3	20	勲章	叙従七位。牧野は宮内大臣。	20	1
20	3	正八位	波多野敬直	今井武夫	1919	大正	8	2	28	勲章	今井武夫宛叙勲。叙正八位。波多野は宮内大臣。	20	1
20	4	今井武夫宛辞令「今井武夫宛辞令 任陸軍歩兵中尉」	高橋是清	今井武夫	1922	大正	11	3	6	書類	高橋は総理大臣。	20	1
20	5	今井武夫宛帝國在郷軍人会朝陽村分会特別会員への推薦書	黒江英次	今井武夫	1920	大正	9	4	12	書類	黒江は 帝國在郷軍人会高田支部長 陸軍歩兵大佐。	20	1
20	6	「今井宛 神郷尋常高等小学校代用教員任命書」	上水内郡役所	今井武夫	1915	大正	4	4	19	書類	長野県上水内郡神郷尋常高等小学校の代用教員。月俸8円。	20	1
20	7	今井武夫宛陸軍士官学校卒業証書	與倉喜平	今井武夫	1918	大正	7	5	27	書類	與倉は陸軍士官学校長・少将。	20	1
20	8	今井武夫宛 歩兵第69連隊附任命書	陸軍省	今井武夫	1918	大正	7	12	25	書類	補歩兵第69連隊附。	20	1
20	9	今井武夫宛 陸大卒業の証と徽章の授与証書	荒木貞夫	今井武夫	1928	昭和	3	12	12	書類	荒木は陸大校長・中將。	20	1
20	10	今井武夫宛大日本帝國外国勲章佩用免許証「グラン・オフィシエー・ドラゴン・ド・アンナン勲章」	瀬古保次	今井武夫	1943	昭和	18	7	14	書類	グラン・オフィシエー・ドラゴン・ド・アンナン（ベトナム）勲章の受領と佩用免許せらる。瀬古は賞勳局総裁。第30113号。20-14関連。	20	1
20	11	前橋附近混成第一旅団前衛力攻撃展開要図	今井武夫		1917	大正	6			地図	天覧候補とある。今井は 第三中隊第三教授班歩兵生徒とある。大正6年か7年頃か。年は推定。	20	1
20	12	今井武夫宛大日本帝國外国勲章佩用免許証「タイ国皇帝からの白象第二等勲章」	瀬古保次	今井武夫	1943	昭和	18	7	14	書類	タイ国皇帝からの白象第二等勲章の受領と佩用免許せらる。瀬古は賞勳局総裁。第30122号。	20	1
20	13	今井武夫宛大日本帝國外国勲章佩用免許証「中華民國政府からの二級同光勲章」	瀬古保次	今井武夫	1943	昭和	18	8	12	書類	中華民國政府からの二級同光勲章の受領と佩用免許せらる。瀬古は賞勳局総裁。第30157号。20-26関連。	20	1
20	14	今井武夫宛勲章授与証「グラン・オフィシエー・ドラゴン・ド・アンナン勲章」	大南龍星院	今井武夫	1943	昭和	18	4	20	勲章	大南は今のベトナム。	20	1
20	15	今井武夫宛叙勲「勲六等瑞宝章授与証」	天岡直嘉	今井武夫	1928	昭和	3	7	30	勲章	叙勲六等瑞宝章。天岡は賞勳局総裁。	20	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
20	16	今井武夫宛 「叙勲五等瑞宝章」	下條康麿	今井武夫	1934	昭和	9	2	7	勲章	下條は賞勳局総裁。	20	1
20	17	今井武夫宛年俸通知書	大東亜大臣官房人事課長	今井武夫	1942	昭和	17	11	1	書類	年俸4080円下賜。今井は大東亜省調査官。	20	1
20	18	今井武夫宛年俸通知書	大東亜大臣官房人事課長	今井武夫	1943	昭和	18	3	1	書類	年俸5000円下賜。今井は大東亜省参事官。	20	1
20	19	今井武夫宛通知書「大臣官房審議室勤務」	大東亜大臣官房人事課長	今井武夫	1943	昭和	18	3	1	書類		20	1
20	20	今井武夫宛叙任通知書「任大東亜省調査官」	東条英機	今井武夫	1942	昭和	17	11	1	書類	東条は内閣総理大臣。叙高等官三等。	20	1
20	21	今井武夫宛勤務命令書「大臣官房審議室勤務命令」	大東亜省	今井武夫	1942	昭和	17	11	1	書類	大東亜省の罫紙。	20	1
20	22	今井武夫宛叙勲「勲三等瑞宝章授与証」	下條康麿	今井武夫	1939	昭和	14	6	17	勲章	下條は賞勳局総裁。	20	1
20	23	今井武夫宛大札記念章授与証の通知書	天岡直嘉	今井武夫	1928	昭和	3	11	16	勲章	大札記念章の授与。天岡は賞勳局総裁。	20	1
20	24	今井武夫宛叙任通知「任大東亜省参事官・叙高等官二等」	東条英機	今井武夫	1943	昭和	18	3	1	書類	東条は内閣総理大臣。	20	1
20	25	今井武夫宛辞令「任陸軍少将」	東条英機	今井武夫	1943	昭和	18	3	1	書類	東条は内閣総理大臣。	20	1
20	26	今井武夫宛勲章授与証 「二級同光勲章」	汪兆銘	今井武夫	1943	昭和	18	3	29	勲章	汪は大中華民國国民政府主席。	20	1
20	27	今井武夫宛叙勲「叙勲二等瑞宝章」	瀬古保次	今井武夫	1944	昭和	19	11	15	勲章	瀬古は賞勳局総裁。	20	1
20	28	正大照像館における日本軍人と中国人			1936	昭和	11			写真	北平西長安街中間路南。年度は全くの推定。	20	1
20	29	宋哲元委員長歿宴 日本国中華大使川越茂大使撮影記念			1936	昭和	11	8	19	写真	前列右から4番目 今井少佐、二人おいて秦徳純、河辺正三少将、川越茂大使、宋哲元、松室孝良少将、3人おいて牟田口廉也大佐。1-88参照。	20	1
20	30	支那駐屯軍の将校ほか			1936	昭和	11	4		写真	多田駿司令官ほか。今井は私服。1935年10月から1936年4月までの間の期間。年月は推定。	20	1
20	31	畑俊六大将とともに			1941	昭和	16	7		写真	支那派遣軍時代のものか。後ろに今井も。年月は推定。	20	1
20	32	中華民国建国28年国慶記念礼成			1939	昭和	14	1	1	写真	維新政府の集まりか。	20	1
20	33	今井武夫宛辞令「任陸軍歩兵中佐」	近衛文麿	今井武夫	1937	昭和	12	8	2	書類	近衛は総理大臣。	20	1
20	34	今井武夫宛叙勲「叙正六位」	松平恒雄	今井武夫	1937	昭和	12	7	1	書類	松平は宮内大臣。官位については 21-279と矛盾？	20	1
20	35	北支事変籠城記念撮影写真			1937	昭和	12	8	9	写真	籠城解散の翌朝。於北平日本武官室前庭。今井を含め全14名。日時は推定。	20	1
20	36	盧溝橋会事件 2周年記念会			1939	昭和	14	7	7	写真	於靖国神社社頭。	20	1
20	37	維新政府成立2周紀念慶祝礼成撮影写真			1940	昭和	15	3	28	写真		20	1
20	38	江朝宗	江朝宗		1937	昭和	12	10	26	写真	今井武官宛敬贈として自分のプロフィール写真。年月は推定。	20	1
20	39	リマイ山頂			1942	昭和	17	4	9	写真	万歳三唱。同一2枚あり。	20	1
20	40	リマイ山頂			1942	昭和	17	4	8	写真	同一2枚あり。『支那事変の回想』に写真あり。	20	1
20	41	国民政府南京還都式典 阿部信行大使の祝辞に答える汪代理主席			1940	昭和	15	3	30	写真		20	1
20	42	王克敏	王克敏		1938	昭和	13	3		写真	今井中佐 班長宛宛存として 王自身のプロフィール写真。王 この時 63歳。於北平。	20	1
20	43	松室孝良将軍 五台山向善普化仏教会訪問			1936	昭和	11	10	27	写真		20	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
20	44	馬上の張化南	張化南		1939	昭和	14	3	28	写真	今井仁兄 恵存として。.	20	1
20	45	褚民誼	褚民誼		1939	昭和	14	8	31	写真	今井大佐恵存として自分のプロフィール写真。	20	1
20	46	梅思平	梅思平		1941	昭和	16	7		写真	今井大佐恵存として自分のプロフィール写真。年月は推定。	20	1
20	47	出征前の歩兵第141連隊将校			1941	昭和	16			写真		20	1
20	48	土肥原賢二少将と英国人たち			1936	昭和	11	2	21	写真	英人記者撮影。於 北平日本大使館。土肥原は奉天特務機関長。	20	1
20	49	松室孝良北平特務機関長・少将 今井と蒙蔵ラマ代表との会談記念写真	卓博公		1936	昭和	11	6	4	写真	今井武官恵存としてある。全11名の写真。松室はモンゴル通といわれた。	20	1
20	50	中国中央陸軍官訓練開団式 汪精衛、陳公博、周仏海ほか			1940	昭和	15			写真	年度は全くの推定。	20	1
20	51	南京表忠塔除幕式写真			1941	昭和	16	3		写真	南京菊花台に建立された南京攻略戦に散った死者への表忠塔。年月は推定。	20	1
20	52	中国で日本式御輿を担いだ写真			1936	昭和	11			写真	お祭りか結婚式か。年は推定。	20	1
20	53	将校			1940	昭和	15			写真	支那派遣軍総司令部将校たちの写真か。年は推定。	20	1
20	54	将校の写真				昭和				写真	料亭での記念写真と思われる。	20	1
20	55	将校			1940	昭和	15			写真	支那派遣軍総司令部将校たちの写真か。年は推定。	20	1
20	56	江朝宗たちとの記念写真			1937	昭和	12	10	26	写真	駐在武官時代のものか。年月は推定。	20	1
20	57	今井の写真			1937	昭和	12	8	18	写真	駐在武官時代の北平の今井の写真か。	20	1
20	58	冀察政務委員会宋哲元委員長欽宴日本松室孝良少将撮影記念			1936	昭和	11	7	29	写真		20	1
20	59	土肥原賢二中将と16名				昭和				写真	半数は民間人か。土肥原機関員か。全16名。	20	1
20	60	今井の長野での講演記念	上水内郡連合青年団		1938	昭和	13	1	23	写真	長野県上水内郡連合青年団主催講演会における今井中佐と土屋佳一在郷軍人分会長を囲んだ記念写真。柿沢勇太郎、今井信頼ほか。於上水内吉田農学校（現在の長野吉田高校）。全32名。	20	1
20	61	江蘇省政府訪問			1941	昭和	16	4	9	写真	今井ほか6名。	20	1
20	62	今井の写真			1941	昭和	16	4	7	写真	於揚州。	20	1
20	63	今井写真 於朝鮮海州駅（新浦）			1941	昭和	16	4	19	写真		20	1
20	64	今井写真 於朝鮮海州駅			1941	昭和	16	4	19	写真	同一2枚あり。	20	1
20	65	将校			1940	昭和	15			写真	支那派遣軍時代のものか。年は推定。	20	1
20	66	兵営にて整列する兵			1940	昭和	15			写真	年は推定。	20	1
20	67	陸軍の封筒	畠山		1940	昭和	15			封筒	漢口写真2枚とある20-65と20-66か。藤本病院で撮るもの1枚。今井課長殿畠山とある。年は推定。	20	1
20	68	写真（照像）を入れた封筒	山本照像館		1936	昭和	11			封筒	北京王府井大街が住所。1936年か1937年と思われる。年は推定。	20	1
20	69	北京近郊の寺院等			1936	昭和	11			写真	20-68に封入された北京近郊の寺院等全45枚。年は推定。	20	1
20	70	秦淮の春景	柚原		1939	昭和	14	2		写真	柚原は少佐。	20	1
20	71	中華門外クレーク	柚原		1939	昭和	14	2		写真	柚原は少佐。	20	1
20	72	異郷の桜花	柚原		1939	昭和	14	4		写真	柚原は少佐。	20	1
20	73	孝陵の桜	柚原		1939	昭和	14	4		写真	柚原は少佐。	20	1
20	74	支那派遣軍総司令部の写真	柚原		1940	昭和	15	1		写真	柚原は少佐。	20	1
20	75	四月作戦 白馬塘	柚原		1940	昭和	15	4		写真	柚原は少佐。	20	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
20	76	新婚の賈成齋・宋景昭	賈成齋・宋景昭		1936	昭和	11	7	26	写真	今井先生恵存とある。賈成齋・宋景昭二人の結婚式の写真か。今井は妻きみ子とクリスチャンの宋哲元の娘の結婚式に出席。宋景昭が宋哲元の娘か。当時の中国としては珍しいウエディグドレスを着ている。	20	1
20	77	大東亜省青木一男大臣 山本熊一次官 今井参事官			1943	昭和	18	9	19	写真	於大東亜省第二回運動会。	20	1
20	78	冀察政務委員会 冀察綏靖主任 北平 市政府 欽宴長谷川清長官			1937	昭和	12	2	22	写真	長谷川は海軍第3艦隊長官・中将。於頤和園。	20	1
20	79	軍人写真			1932	昭和	7	4		写真	呈今井君と署名付き。陸軍中将か。田代皖一郎中将か。	20	1
20	80	今井武夫			1940	昭和	15			写真	陸軍大佐のときのものか。年は推定。	20	1
20	81	東洋ホテルの前で全7名			1940	昭和	15	1		写真	青島か。年月は全くの推定。	20	1
20	82	満州におけるものと思われる写真			1933	昭和	8			写真	7枚。年度は全くの推定。	20	1
20	83	喜多誠一大佐 今井ほか11名	仲躰翰		1935	昭和	10	3	1	写真	今井少佐賜存とあり、民間人も含む。雅叙園写真部とある。	20	1
20	84	汪政権の成立を祝った翌日の記念撮影 汪兆銘 影佐禎昭 今井 犬養健 伊藤芳 男 周仏海 陳公博 梅思平 周隆庠 9 名			1940	昭和	15	3	31	写真	南京国際倶楽部で、日中関係者記念撮影。14-125と同じだが大きいもの。	20	1
20	85	寺内大将を囲んで西尾寿造大将、板垣 征四郎中将以下 支那派遣軍総司令部 幹部将校			1940	昭和	15	11	28	写真	全27名。寺内参事官 支那派遣軍を訪問。	20	1
20	86	情報会議記念 寺内大将を囲んだ将校 たち			1941	昭和	16	7	20	写真	於支那派遣軍総司令部。20-85と同じ場所。海軍軍人1名を含む。全49名。年は推定。同一2枚あり。	20	1
20	87	西尾大将、板垣中将以下将校			1940	昭和	15			写真	全154名。年は推定。	20	1
20	88	西尾大将、板垣中将以下将校			1940	昭和	15			写真	全154名。20-87と同じときのもの。年は推定。	20	1
20	89	陸軍軍事航空郵便封筒	支那派遣軍総司令部	今井武夫	1941	昭和	16	8	19	封筒	支那派遣軍総司令部から西部63部隊長の今井宛親展・書留封筒	20	1
20	90	将校達の写真			1934	昭和	9			写真	20-89に封入。天保銭をつけており、年代的には昭和9年以前の写真。20-89との関係不明。	20	1
20	91	食堂における将校たち				昭和				写真	年号は推定。	20	1
20	92	料亭における写真			1937	昭和	12	12	4	写真	同級会か。軍服一人のみ。先生と思われる人を囲んで全23名。内女性3名。於料亭。年月は全くの推定。	20	1
20	93	鉄道線路近くにおける写真等				昭和				写真	3枚。年号は推定。	20	1
20	94	宣伝会議記念			1941	昭和	16	7		写真	板垣中将を囲んで。於聚星倶楽部。	20	1
20	95	多摩聖跡遠乗会			1934	昭和	9	9	27	写真	今井を含めて3人の写真。	20	1
20	96	影佐禎昭ほか3名の将校			1938	昭和	13			写真	影佐が大佐時代か。年は推定。	20	1
20	97	将校				昭和				写真	年号は推定。	20	1
20	98	支那派遣軍総司令部幹部靖国神社への 挨拶			1939	昭和	14	9	12	写真	西尾大将、板垣参謀長、今井他。靖国神社宮司と。	20	1
20	99	蒙古連盟自治政府訪日視察団歓迎会			1938	昭和	13	9	30	写真	於東京芝公園紅葉館。三井・三菱・大倉3社主催。	20	1
20	100	土肥原賢二釣りの写真				昭和				写真		20	1
20	101	土肥原賢二釣りの写真				昭和				写真		20	1
20	102	陸士41期第三中隊第四区隊第四区隊一 同との記念撮影	陸軍士官学校41期生 第三中隊第四区隊		1926	大正	15	1	24	写真	今井は区隊長。第四区隊員との記念写真。呈今井区隊長殿と書かれている。	20	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
20	103	大使館僚友会八達嶺遠足 万里の長城にて			1937	昭和	12	4	25	写真	妻きみ子も参加している。	20	1
20	104	盧溝橋事件発生2ヶ月半前の牟田口廉也大佐、森田徹中佐、今井武夫少佐の北京招魂祭における打ち解けた写真			1937	昭和	12	4	27	写真	招魂祭後の夜宴にて。3人仲良く笑っている写真。20-169参照。20-463がオリジナルか。	20	1
20	105	将校50名 於満州国大使館	新官館		1935	昭和	10	9	6	写真	天保銭をつけている将校多し。新官館は東京麻布のフォトスタジオ。影佐に似た人物がいる。	20	1
20	106	支那駐在歩兵第一連隊軍旗祭 牟田口廉也連隊長ほか			1937	昭和	12	6	18	写真		20	1
20	107	入場司令部 斎藤少佐と今井中佐			1937	昭和	12	8	9	写真	於北平進徳社。	20	1
20	108	於西苑			1937	昭和	12	7	25	写真	西苑は北平の市外。	20	1
20	109	桜井忠温少将と米海軍武官オペレッツ シュ中佐ほか			1937	昭和	12	9	30	写真	於天壇。桜井は ベストセラーとなった『肉弾』の作者。第4代陸軍新聞班長だった。（1924年3月15日～1930年8月1日迄）	20	1
20	110	外国武官と西道駅にて			1937	昭和	12	9	12	写真	英米仏伊の武官と張家口へ出発。	20	1
20	111	殷汝耕カ			1936	昭和	11			写真	今井武官恵存とあり、耕と書いてあり、人物は殷汝耕か。年は推定。	20	1
20	112	陸軍の封筒			1940	昭和	15			封筒	今井大佐殿堀副官と書かれた20-東2所収の陸軍封筒。	20	2
20	113	遷都直後武漢にて民衆に和平を説く汪兆銘代理主席			1940	昭和	15	3		写真		20	2
20	114	汪兆銘国民政府主席宣言			1940	昭和	15	11	29	写真	午前9時。『支那事変の回想』に写真あり。	20	2
20	115	臧式毅満州国全権南京飛行場着			1940	昭和	15	11	29	写真	午後0時半。臧式毅。	20	2
20	116	臧式毅全権、汪主席を訪問			1940	昭和	15	11	29	写真	午後2時。	20	2
20	117	臧式毅全権、阿部信行全権大使を訪問			1940	昭和	15	11	29	写真	午後2時40分。	20	2
20	118	臧式毅全権、西尾総司令官を訪問			1940	昭和	15	11	29	写真	午後3時30分。	20	2
20	119	総軍司令官、艦隊司令長官合同日・満・華3国関係者招宴			1940	昭和	15	11	29	写真	午後7時。於東亜倶楽部。	20	2
20	120	日華両国調印式直前の両代表			1940	昭和	15	11	30	写真	汪兆銘主席と阿部信行全権大使。於南京大礼堂控室。	20	2
20	121	日華両国調印式			1940	昭和	15	11	30	写真	午前10時。於南京大礼堂。汪兆銘主席と阿部信行全権大使。日華条約の内容は、『支那事変の回想』108頁から111頁に記載あり。	20	2
20	122	日満華三国条約調印式			1940	昭和	15	11	30	写真	午前12時。於南京大礼堂。汪兆銘主席、阿部信行全権大使、臧式毅全権大使。	20	2
20	123	日満華三国条約調印式			1940	昭和	15	11	30	写真	午前12時。於南京大礼堂。汪兆銘主席、阿部信行全権大使、臧式毅全権大使。	20	2
20	124	日満華三国条約の調印式を終えた三国代表者たち			1940	昭和	15	11	30	写真	汪兆銘、阿部信行全権大使、臧式毅全権大使ほか。	20	2
20	125	日満華三国条約成立の乾杯写真			1940	昭和	15	11	30	写真		20	2
20	126	日満華三国共同宣言書			1940	昭和	15	11	30	写真		20	2
20	127	日満華三国条約調印式後 カメラマンの前に立つ汪主席、臧式毅全権等			1940	昭和	15	11	30	写真		20	2
20	128	汪主席、日満両国関係者招宴			1940	昭和	15	11	30	写真	午後7時。於大礼堂。	20	2
20	129	汪主席主催のカクテルパーティにおける汪主席、臧式毅全権等			1940	昭和	15	12	1	写真	午前12時。	20	2
20	130	軍報道部写真班	猪野喜三郎		1940	昭和	15			写真	西尾、板垣、今井ほか。全29名。年は推定。	20	2
20	131	蒙疆写真ニュースの封筒	蒙疆新聞社写真部		1944	昭和	19	6	16	封筒	今井参事官へ進呈とある。20-132～134を入れたものと思われる。年月日は推定。蒙疆とは現在の内蒙古。	20	3

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備 考	参考 (箱)	参考 束
20	132	大陸会議	蒙疆新聞社写真部		1944	昭和	19	6	15	写真	於張家口。蒙疆とは現在の内蒙古。	20	3
20	133	大陸会議中蒙古連盟自治政府徳王主席と会談	蒙疆新聞社写真部		1944	昭和	19	6	15	写真	於張家口。	20	3
20	134	大陸会議中蒙疆神社に参拝	蒙疆新聞社写真部		1944	昭和	19	6	16	写真	於張家口。	20	3
20	135	今井の写真			1937	昭和	12	7	31	写真		20	3
20	136	英国スコット大尉			1937	昭和	12	5	12	写真	スコットは英国ジョージ六世の戴冠式（5月12日）に際し、補佐官を務めた。於北平武官室前。	20	3
20	137	今井 於太原飛行場			1937	昭和	12	2	4	写真	20-171関連。	20	3
20	138	外国武官調査団 全10名 於鈴木部隊本部前			1937	昭和	12	9	13	写真	鈴木とは鈴木貞一歩兵第14連隊長のことか。20-249と同じ構図。	20	3
20	139	今井を含めて全4名			1937	昭和	12	9	12	写真		20	3
20	140	駐北平武官等の集まり			1937	昭和	12	5		写真	今井、河辺正三、松井太一郎、英国スコット大尉、米バレット少佐、仏マストン大佐。於仏武官サバッテイ氏宅。	20	3
20	141	花本盛彦少佐と今井			1937	昭和	12	8	28	写真		20	3
20	142	於寧省政府写真			1937	昭和	12	9	13	写真	外人と中国人との写真。	20	3
20	143	於寧省政府写真			1937	昭和	12	9	13	写真		20	3
20	144	於西道門駅			1937	昭和	12	9	12	写真	南口へ出発。	20	3
20	145	於青龍橋駅写真			1937	昭和	12	9	12	写真	青龍橋駅は北京市内にある。	20	3
20	146	於青龍橋駅前写真			1937	昭和	12	9	12	写真	青龍橋駅は北京市内にある。	20	3
20	147	於懷東駅			1937	昭和	12	9	12	写真		20	3
20	148	於懷東駅	ホワイト		1937	昭和	12	9	12	写真		20	3
20	149	於張家口 南口間列車内写真			1937	昭和	12	9	13	写真	20-247とは別の写真。	20	3
20	150	馬上の蒋介石			1936	昭和	11	10	31	写真	於洛陽。	20	3
20	151	山西省太原			1937	昭和	12	2	3	写真		20	3
20	152	中国の寺院のようなところに集合している写真			1937	昭和	12	8	20	写真		20	3
20	153	写真			1937	昭和	12	8	20	写真	中国における葬式の写真か。	20	3
20	154	裴字成	裴字成		1937	昭和	12	8	27	写真	裴字成 敬贈とある。	20	3
20	155	憲兵上等兵2名の写真			1937	昭和	12	9	2	写真	関宗蔭23歳。孫振坤21歳。	20	3
20	156	景色の写真				昭和				写真	万里の長城の一部か。	20	3
20	157	人物記念写真				昭和				写真	東京ステーションホテルのカバーに封入。戦後のものか。今井を含め5名の記念写真。20-401と同じときのもの。	20	3
20	158	人物写真			1941	昭和	16	3	14	写真	T. Murataとある。陸軍自動車学校の検印あり。	20	3
20	159	マニラのニコラス飛行場よりフィリピンを離れる今井			1942	昭和	17	9	17	写真		20	3
20	160	於南京聚星俱樂部前の今井武夫			1939	昭和	14	9	23	写真	支那派遣軍赴任したての頃か。14-353は南京でなく、上海の聚星俱樂部となっているが間違いか。	20	3
20	161	会文海軍分遣隊慰問			1941	昭和	16	1	12	写真	在郷軍人会、国防婦人会。大田承吉左端とあり。	20	3
20	162	上海にて今井ほか4名	西田		1938	昭和	13	10		写真		20	3
20	163	今井の写真				昭和				写真	2枚。	20	3

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
20	164	イベント写真	上海陸軍部報道部写真班		1942	昭和	17			写真	年は推定。	20	3
20	165	イベント写真			1936	昭和	11			写真	軍旗祭か招魂祭の写真か。年は推定。	20	3
20	166	防空壕を出る今井			1943	昭和	18			写真	年は推定。	20	3
20	167	将校			1937	昭和	12			写真	香月清司中将ほかか。年は推定、	20	3
20	168	中国の建物と将校ほか				昭和				写真		20	3
20	169	招魂祭写真			1937	昭和	12	4	27	写真		20	3
20	170	於鈴木部隊本部前 全10名			1937	昭和	12	9	13	写真	鈴木とは鈴木貞一歩兵14連隊長のことか。外国武官調査団。20-249と同じ構図。	20	3
20	171	今井と大蔵組北平所長林亀喜 於太原			1937	昭和	12	2	4	写真	20-137関連。	20	3
20	172	漢口旧兵営			1936	昭和	11	7	19	写真	7月14日の間違いか。	20	3
20	173	黄鶴楼			1936	昭和	11	7	15	写真	2枚。14日付けと15日付けの黄鶴楼の写真あり。黄鶴楼は武漢にある。	20	3
20	174	漢口に於ける日本軍艦			1936	昭和	11	7	15	写真		20	3
20	175	漢口江岸野菜市の写真			1936	昭和	11	7	15	写真		20	3
20	176	漢口駅に於ける渡機関員とその家族			1936	昭和	11	7	15	写真	陸士27期渡左近中佐のことか。	20	3
20	177	漢口駅前			1936	昭和	11	7	15	写真		20	3
20	178	漢口の揚子江			1936	昭和	11	7	14	写真		20	3
20	179	漢口郊外			1936	昭和	11	7	14	写真		20	3
20	180	南京金陵大学の写真			1936	昭和	11	7	14	写真		20	3
20	181	石家荘駅			1936	昭和	11	7	16	写真		20	3
20	182	北平北海			1936	昭和	11	7	19	写真	2枚。	20	3
20	183	北平北海上より景山を望む			1936	昭和	11	7	19	写真		20	3
20	184	南京武官室より金陵大学を望む			1936	昭和	11	7	19	写真	金陵大学は後に「南京大学」に改名している。	20	3
20	185	中国41軍83師の抗日スローガン写真			1937	昭和	12			写真	年度は全くの推定。	20	3
20	186	遺書ノート			1942	昭和	17	4	23	写真	兵士の遺書の写真。年度は全くの推定。	20	3
20	187	沙面英租界	服部		1936	昭和	11	10	15	写真	服部は少佐。沙面は広州にあり。全5名。	20	3
20	188	於張家口康荘間無蓋貨車内			1937	昭和	12	9	13	写真	20-247とは別の写真。	20	3
20	189	今井の写真			1937	昭和	12	7	15	写真	駐在武官府前か。	20	3
20	190	中国か満州人				昭和				写真	中国か満州人のあつまりか。清郷、難局審判の文字あり。	20	3
20	191	総司令部の葬儀			1937	昭和	12	7	18	写真	屋外に祭壇あり。4枚。総司令官の花輪あり。重要人物の葬儀。田代司令官の葬儀か。推定。	20	3
20	192	雨宮巽武官			1936	昭和	11	7	14	写真	於南京武官室。	20	3
20	193	中国人と今井			1937	昭和	12	8	18	写真		20	3
20	194	支那事変ニュース写真の封筒	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	封筒	20箱-東4所収の封筒。すべて写真。	20	4
20	195	香月清司支那駐屯軍司令官	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	写真	香月は陸士14期。中将。	20	4
20	196	前線視察の河辺正三部隊長	松村好文堂		1937	昭和	12	7	26	写真		20	4
20	197	皇軍部隊	松村好文堂		1937	昭和	12	7	25	写真		20	4

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備 考	参考 (箱)	参考 束
20	198	朱家屯で突撃する金田部隊	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	写真		20	4
20	199	前線の和知部隊	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	写真	和知鷹二は歩兵44連隊長だった。	20	4
20	200	皇軍歩兵部隊	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	写真		20	4
20	201	皇軍陣地	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	写真		20	4
20	202	皇軍部隊の活躍	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	写真		20	4
20	203	南京爆撃に就かんとする基地	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	写真		20	4
20	204	高粱畑の日本軍歩哨	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	写真		20	4
20	205	前線へ前線へ	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	写真		20	4
20	206	陸軍に押収された中国軍使用のダムダム弾	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	写真		20	4
20	207	日本軍の野砲の威力	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	写真		20	4
20	208	行進中の皇軍精鋭	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	写真		20	4
20	209	最前線の部隊	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	写真		20	4
20	210	砲隊	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	写真		20	4
20	211	皇軍敵前の散兵	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	写真		20	4
20	212	上海・敵に猛射	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	写真		20	4
20	213	日本軍の占拠した呉淞砲台	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	写真	上海戦。	20	4
20	214	日本軍の防御工作	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	写真		20	4
20	215	橋下の皇軍部隊	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	写真		20	4
20	216	前線における機関銃隊	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	写真		20	4
20	217	支那馬車にて軍需品輸送	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	写真		20	4
20	218	出動の皇軍	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	写真		20	4
20	219	歩兵部隊	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	写真		20	4
20	220	羅店鎮焼討三勇士 山岡上等兵 片岡一等兵 西田一等兵	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	写真	昭和12年9月23日上海郊外の宝山区羅店鎮で激戦があった。同盟提供写真。	20	4
20	221	支那中央軍師長、副師長、参謀長	松村好文堂		1937	昭和	12	8	9	写真		20	4
20	222	桐工作関連 宋子良と称した男			1940	昭和	15	5	17	写真	月日は推定。	20	5
20	223	今井の転出記念			1941	昭和	16	7	26	写真	於南京聚星俱樂部。	20	5
20	224	参謀長会議			1940	昭和	15	8	26	写真	於聚星俱樂部。	20	5
20	225	北支山西省大同仏古寺仏像				昭和				写真	4枚。	20	5
20	226	青島会議 会談後温室に談笑する三巨頭			1940	昭和	15	1	23	写真		20	5
20	227	皇軍				昭和				写真		20	5
20	228	湖北省咸寧における写真			1940	昭和	15	1	19	写真	板垣総参謀長らとの記念写真。全16名。	20	5
20	229	畑俊六元帥 転出記念			1944	昭和	19	11		写真	於南京総司令部。	20	5
20	230	西尾寿造総司令官凱旋			1941	昭和	16	1	27	写真	春陽節（旧正月）。本多熊太郎、今井、日高信六郎、堀（副官）。オリジナルは20-427にあり。本多は前年12月23日付で駐支大使となっている。	20	5

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備 考	参考 (箱)	参考 束
20	231	支那派遣軍参謀本部			1939	昭和	14			写真	第2課か第4課の課員の写真か。年は推定。	20	5
20	232	遠東劇団			1941	昭和	16	2	7	写真	サイズの異なるものあり。全2枚。鐘団長、林部長。今井の報道部長の時のもの。	20	5
20	233	板垣総参謀長、今井ほか			1940	昭和	15			写真	年は推定。	20	5
20	234	板垣総参謀長、今井ほか			1941	昭和	16			写真	板垣総参謀長の視察か。年は推定。	20	5
20	235	板垣総参謀長、今井ほか			1940	昭和	15			写真	全13名。年は推定。	20	5
20	236	中国の景色				昭和				写真	4枚。	20	5
20	237	支那派遣軍参謀将校			1939	昭和	14			写真	板垣総参謀長以下全33名。年は推定。	20	5
20	238	支那派遣軍参謀将校			1940	昭和	15			写真	板垣総参謀長以下全19名。年は推定。	20	5
20	239	河南省信陽地区における将校ほかの記念撮影			1940	昭和	15	6	13	写真	板垣征四郎総参謀長、今井ほか全20名。中国服の男1名。年度は1940年か1941年。	20	5
20	240	支那派遣軍参謀将校			1939	昭和	14			写真	板垣総参謀長以下全34名。年は推定。20-237と場所異なる。	20	5
20	241	将校				昭和				写真	今井ほか 全7名。	20	5
20	242	今井以下将校と民間人 女性を含む35名 於中国				昭和				写真	20-241と同じ場所で撮影。	20	5
20	243	将校ほか12名				昭和				写真	耐寒帽を被っている者あり。	20	5
20	244	今井ほか4名				昭和				写真	1名は外人。中国の名所と思われる所にて記念撮影したもの。2枚。	20	5
20	245	今井武夫宛封筒	川上清志	今井武夫	1938	昭和	13			封筒	川上は今井の陸士同期。東京の参謀本部より日本大使館陸軍武官室今井少佐宛となっている。	20	5
20	246	中国の写真			1938	昭和	13			写真	20-245に同封の写真全17枚。濁流、洪水の写真等。	20	5
20	247	於張家口康荘間無蓋貨車内			1937	昭和	12	9	13	写真	20-188とは別の写真。	20	5
20	248	今井の写真 於太原飛行場			1937	昭和	12	2	4	写真	20-137、20-171関連。	20	5
20	249	於鈴木部隊本部前			1937	昭和	12	9	13	写真	鈴木とは鈴木貞一歩兵14連隊長のことか。外国武官調査団。20-138と同じ構図。全10名。	20	5
20	250	蕭叔宣駐日武官ほか外国武官との集い (於群馬県藤岡町小学校)	蕭叔宣		1934	昭和	9	11		写真	蕭叔宣は駐日武官。	20	5
20	251	宋母の写真			1936	昭和	11			写真	宋哲元の母か妻か。或いは 宋美齡の母である倪太夫人のことか。年度は全くの推定。	20	5
20	252	今井の写真				昭和				写真	同一4枚あり。パスポート用か。	20	5
20	253	今井の写真				昭和				写真	眼鏡かけておらず。	20	5
20	254	今井の写真				昭和				写真		20	5
20	255	邯鄲駅			1936	昭和	11	7	16	写真		20	5
20	256	石井中佐			1936	昭和	11	7	15	写真	於漢口神社。	20	5
20	257	信陽附近			1936	昭和	11	7	15	写真		20	5
20	258	国民政府成立1周年記念の翌日			1941	昭和	16	3	31	写真		20	5
20	259	今井ともう一人の参謀				昭和				写真		20	5
20	260	無蓋貨車内外人写真			1937	昭和	12	9	13	写真	20-188、247に若干状況が似た写真。年月は推定。	20	5
20	261	閲兵写真				昭和				写真		20	5
20	262	将校記念写真				昭和				写真	全28名。	20	5

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
20	263	寺院における3人				昭和				写真	将校2人。	20	5
20	264	北平北海			1936	昭和	11	7	19	写真		20	5
20	265	北平北海喇嘛塔（らまとう）			1936	昭和	11	7	19	写真		20	5
20	266	封筒	松原写真館		1941	昭和	16	9		封筒	20-東6所収の封筒。すべて写真封入。松原写真館は福山市在。	20	6
20	267	歩兵第141連隊旗			1941	昭和	16	9	10	写真	日付は推定。	20	6
20	268	歩兵141連隊旗と今井ほか			1941	昭和	16	9		写真	全7名。	20	6
20	269	福山兵営に入る第141連隊旗			1941	昭和	16	9		写真		20	6
20	270	福山兵営近くを行進する第141連隊			1941	昭和	16	9		写真		20	6
20	271	福山兵営での第141連隊イベント			1941	昭和	16	9		写真		20	6
20	272	福山兵営での第141連隊イベント			1941	昭和	16	9		写真		20	6
20	273	福山兵営での第141連隊イベント			1941	昭和	16	9		写真		20	6
20	274	福山兵営での第141連隊イベント			1941	昭和	16	9		写真		20	6
20	275	福山兵営における女子学生たちの集まり			1941	昭和	16	9		写真		20	6
20	276	離宮喇嘛寺名称見出表				昭和				書類		20	7
20	277	記念写真			1937	昭和	12	12	4	写真	長野中学の同級会か。全9名。軍服は今井のみ。年月日は推定。出席者は22名の筈だが。	20	7
20	278	会合写真			1937	昭和	12	12		写真	今井が講師の懇話会か。全15名。半数軍人。同一2枚。年月は推定。	20	7
20	279	無蓋車に乗る今井と外2名			1937	昭和	12			写真	3名とも頬かむりしている。	20	7
20	280	今井の写真				昭和				写真	参謀肩章した軍服姿。	20	7
20	281	野外でのイベント写真			1936	昭和	11			写真	約10名。食事をしている。年は推定。	20	7
20	282	今井を含め4名の将校			1936	昭和	11			写真	於中国。年は推定。	20	7
20	283	今井ほか1名の将校			1936	昭和	11			写真	年は推定。	20	7
20	284	今井の写真				昭和				写真		20	7
20	285	今井ほか4名				昭和				写真	軍服を着たものは2名。	20	7
20	286	今井ほか3名				昭和				写真	於料亭。	20	7
20	287	今井ほか2名				昭和				写真	於大日本航空会社。同一2枚あり。	20	7
20	288	汽車の写真				昭和				写真	先頭の部分。	20	7
20	289	駅における日本将校たちと外人			1937	昭和	12			写真		20	7
20	290	駅における日本将校4名と民間人1名				昭和				写真		20	7
20	291	今井ほか2名の写真				昭和				写真		20	7
20	292	外人3名の写真				昭和				写真		20	7
20	293	無蓋車に乗る日本人軍人			1937	昭和	12			写真	年は推定。	20	7
20	294	外人4名の写真				昭和				写真	場所は中国。	20	7
20	295	飛行機内の今井				昭和				写真	同一2枚あり。	20	7
20	296	参謀長会議			1940	昭和	15	1	26	写真	板垣総参謀長、今井ほか。	20	7

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
20	297	義弟太田長治の出征記念か			1944	昭和	19			写真	年は推定。	20	7
20	298	栗原信一郎少佐の遺児を抱く夫人			1931	昭和	6	10	28	写真	陸士同期の栗原は 歩兵第29連隊第五中隊長として10月28日 満洲一棵樹附近で戦死。	20	7
20	299	中国人の父親と娘の写真				昭和				写真	列車の駅で。	20	7
20	300	無蓋車者に乗る軍人ほか				昭和				写真		20	7
20	301	浙東作戦 雪中の突撃			1940	昭和	15			写真	日本軍は1940年4月、援蔣介石ルートを破壊する目的で浙江省東部を占領する浙東作戦を開始した。年は推定。	20	7
20	302	汪兆銘と西尾総軍司令官 日本海軍軍人の懇談			1940	昭和	15			写真	20-119に似た写真であるが若干異なる。年は推定。	20	7
20	303	兵営に入る将校の写真				昭和				写真		20	7
20	304	南京に開かれた中央政治会議 「和平運動」に倒れし同志に黙祷をささげる汪兆銘たち 汪兆銘政権要人			1940	昭和	15			写真	年は推定。	20	7
20	305	戦前の中国滞在外交官ほかとの会合写真	覃紹鼎		1952	昭和	27	9	26	写真	今井夫妻、清水董三夫妻、太田一郎夫妻、岡村寧次、安西正夫夫妻ほか。	20	7
20	306	余漢謀			1938	昭和	13	10		写真	余漢謀広東第四路総司令。年月は推定。	20	7
20	307	江蘇省政府主席高冠吾一家			1941	昭和	16	4	9	写真	於江蘇省政府前庭。	20	7
20	308	福民病院の封筒	頓宮寛		1939	昭和	14	1	16	封筒	14-443参照。20箱-東8所収の封筒。上海の福民病院の住所記載あり。頓宮寛は福民病院長（1884年2月21日～1974年12月7日 90歳で亡くなる）。写真在封。1939年か。余漢謀工作関連。	20	8
20	309	余漢謀			1938	昭和	13			写真	同盟通信社に撮らせたものか。年代は推定。	20	8
20	310	委任状の写真	余漢謀		1939	昭和	14	1	1	写真	第12集団軍総司令部余漢謀の発行した余武祥の委任状。『支那事変の回想』に写真記載あり。	20	8
20	311	余漢謀			1938	昭和	13			写真	余漢謀の写真か。年代は推定。	20	8
20	312	京都新聞の封筒			1940	昭和	15			封筒	20-東9所収の封筒。写真在封。今井課長殿と記載あり。年は推定。	20	9
20	313	板垣総参謀長、今井ほか7名の将校			1940	昭和	15	1	18	写真	於漢口黄鹤楼。	20	9
20	314	明孝陵前におけるイベント			1941	昭和	16	3	31	写真	明孝陵は明の初代皇帝、朱元璋の陵墓。南京梅花山に近い。梅の花を観る会か。19-6参照。	20	9
20	315	イベント写真			1941	昭和	16	3	31	写真	20-314と同じ時のものか。	20	9
20	316	嘉興学校部隊視察記念撮影			1940	昭和	15	10	31	写真	西尾司令官ほか全13名。嘉興は浙江省東北部に位置する。	20	9
20	317	板垣総参謀長と外人の記念写真			1940	昭和	15	11	21	写真	於板垣総参謀長邸。外人の名はセツイーデ、ホセツイン、キビーネ。全5名。イヌラム圏の人か。	20	9
20	318	西尾寿造総司令官乗馬写真			1940	昭和	15			写真	年は推定。	20	9
20	319	表忠塔除幕式式場入り口附近の写真			1941	昭和	16	3		写真	20-51関連。南京菊花台に建立された南京攻略戦に散った死者への表忠塔。年月は推定。	20	9
20	320	表忠塔除幕式			1941	昭和	16	3		写真	20-51関連。年月は推定。	20	9
20	321	表忠塔除幕式			1941	昭和	16	3		写真	20-51関連。年月は推定。	20	9
20	322	表忠塔除幕式における西尾大将の祭文読み上げの写真			1941	昭和	16	3		写真	20-51関連。年月は推定。	20	9
20	323	西尾総司令官、板垣総参謀長、今井ほか			1941	昭和	16	3		写真	20-51関連か。表忠塔除幕式の時のものか。年月は推定。	20	9
20	324	池のほとりにたたずむ今井			1941	昭和	16			写真	参謀肩章着けておらず。年は推定。陸軍大佐。	20	9
20	325	今井の写真				昭和				写真	買物をしているのか。	20	9

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
20	326	今井の写真				昭和				写真	軍人と2人。	20	9
20	327	今井の写真				昭和				写真	軍人と2人。	20	9
20	328	天津（支那）駐屯軍 増強直前記念写真 多田駿軍司令官・少将 永見俊徳参謀長・大佐ほか 計43名	河野		1936	昭和	11	4		写真	今井少佐のみ私服。あとは軍服。松室孝良北平特務機関長・少将、和知鷹二中佐も見える。神保信彦大尉はこのとき副官。於天津。20-384に同じ。河野は写真屋。20-329に名前と階級説明あり。多田少将は5月1日には田代中将と交代。	20	10
20	329	天津（支那）駐屯軍 増強直前記念写真の人物説明	河野		1936	昭和	11	4		書類	20-328の将校の名前と階級説明。陸軍罫紙の封筒に挿入。河野は写真屋。「遠山少佐は茂川少佐の間違い」と茂川少佐の息子の敏夫氏から今井貞夫あて手紙での連絡あり。	20	10
20	330	山砲隊			1937	昭和	12			写真	缶州にて。説明文20-333。年は推定。	20	11
20	331	上海租界			1937	昭和	12			写真	上海租界の警戒パトロール。説明文20-333。年は推定。	20	11
20	332	中国女性たち			1937	昭和	12			写真	クリークで管衣更（洗濯？）の準備。説明文20-333。年は推定。	20	11
20	333	写真説明文			1937	昭和	12			書類	同一2枚あり。20-330～332の説明文。同一封筒に挿入。年は推定。	20	11
20	334	上海の英国警備兵			1937	昭和	12			写真	於上海大西路。年は推定。	20	11
20	335	突撃する坪島部隊	中支軍報道部写真部		1937	昭和	12			写真	於新市南方約5里。坪島文雄歩兵13連隊長の部隊か。年は推定。	20	11
20	336	中国農村女性	中支軍報道部写真部		1937	昭和	12			写真	於新市南方約5里。年は推定。	20	11
20	337	西尾司令官最前線視察			1940	昭和	15			写真	横に今井の姿も。年は推定。	20	11
20	338	大宮部隊参謀 上海陸軍病院慰問			1940	昭和	15			写真	大宮は皇族の変名か。三笠宮か。年は推定。	20	11
20	339	春日部隊長 上海病院慰問			1940	昭和	15			写真	春日部は皇族の変名か。年は推定。	20	11
20	340	北平の招魂際における剣道の試合			1937	昭和	12	4	27	写真	20-104参照。	20	11
20	341	連雲駅における6人の将校			1941	昭和	16	4	19	写真	江蘇省の連雲か。	20	11
20	342	大同門の仏像か				昭和				写真		20	11
20	343	仏像の写真				昭和				写真		20	11
20	344	除幕式宴会場			1941	昭和	16	3		写真	20-51関連か。年月は推定。	20	11
20	345	表忠塔			1941	昭和	16	3		写真	20-51関連。年月は推定。	20	11
20	346	表忠塔除幕式			1941	昭和	16	3		写真	20-51関連。年月は推定。	20	11
20	347	表忠塔除幕式記念写真			1941	昭和	16	3		写真	20-51関連。年月は推定。	20	11
20	348	表忠塔除幕式			1941	昭和	16	3		写真	20-51関連。年月は推定。	20	11
20	349	表忠塔除幕式			1941	昭和	16	3		写真	20-51関連。年月は推定。	20	11
20	350	板垣総参謀長ほか将校			1941	昭和	16	3		写真	20-51関連か。年月は推定。今井も含まれる。	20	11
20	351	将校			1941	昭和	16	3		写真	20-51関連かどうか不明。年月は推定。	20	11
20	352	冀東政府及民衆代表 板垣將軍歓迎会記念写真			1936	昭和	11	1	24	写真	24日でなく14日かも。今井も参加。全22名。	20	11
20	353	今井と中国服 4名				昭和				写真	一人は喜多誠一少将か。	20	11
20	354	舞台上立つ中国人劇団女性2名				昭和				写真		20	11
20	355	今井の写真				昭和				写真	マントを着ている。	20	11
20	356	軍服姿の今井と私服2名			1932	昭和	7			写真	大尉位のときのものか。参謀肩章をつけている。隣の私服は田代皖一郎少将か。セピア色で古い。年は推定。	20	11

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備 考	参考 (箱)	参考 束
20	357	今井と私設秘書織田文雄 背景は青木宣純中将の胸像			1936	昭和	11	7	31	写真	北平武官室近く。織田とは今井の私設秘書草野文雄の旧姓。戦後拓殖大学教授。	20	11
20	358	廬山における今井			1941	昭和	16	6	19	写真	於増田旅館。	20	11
20	359	楮民誼来日写真			1944	昭和	19	6	3	写真	於銀座 源氏寮。全12名。他はすべて民間会社員か。	20	11
20	360	今井の肖像写真を入れた封筒				昭和				封筒		20	12
20	361	今井の肖像写真			1936	昭和	11	1	30	写真	同一2枚あり。	20	12
20	362	今井の肖像写真 於北平武官室			1937	昭和	12	6	18	写真		20	12
20	363	今井の肖像写真			1941	昭和	16	3		写真		20	12
20	364	今井の肖像写真			1940	昭和	15			写真	『支那事変の回想』に使用した写真と同じもの。大佐時代。年は推定。参謀肩章を着けている。	20	12
20	365	今井の肖像写真				昭和				写真	私服で眼鏡せず。同一4枚あり。眼鏡をしたものが20-407.	20	12
20	366	今井の肖像写真				昭和				写真	私服で眼鏡。	20	12
20	367	大東亜省参事官 陸軍少将今井肖像			1943	昭和	18	3		写真	陸軍少将。胸像画に近い。軍刀を横に持つ。年月は推定。	20	12
20	368	大東亜省参事官 陸軍少将今井肖像			1943	昭和	18	3		写真	陸軍少将。立像。年月は推定。	20	12
20	369	今井の肖像写真			1929	昭和	4			写真	陸軍大尉の時か。軍刀でなくサーベルを持つ。年度は全くの推定。天保銭をつけているが参謀肩章をつけていない。	20	12
20	370	今井の肖像写真			1936	昭和	11			写真	陸軍少佐のとき北平武官室の前か。	20	12
20	371	今井の西部第63部隊長としての正装肖像写真			1941	昭和	16	8		写真	西部63部隊長。大佐。正装。軍刀を持つ。月は推定。	20	12
20	372	屋外でカメラで写真を撮る今井の肖像写真			1940	昭和	15			写真	陸軍大佐。参謀肩章をつけている。年は推定。	20	12
20	373	今井の肖像写真			1940	昭和	15			写真	陸軍大佐。参謀肩章をつけている。同一2枚。年は推定。	20	12
20	374	今井の肖像写真				昭和				写真	20-373と同じポーズ。	20	12
20	375	今井の肖像写真			1941	昭和	15			写真	陸軍大佐。参謀肩章をつけている。同一3枚。年は推定。	20	12
20	376	今井の肖像写真			1940	昭和	15			写真	陸軍大佐。着帽。参謀肩章をつけている。同一2枚。年は推定。	20	12
20	377	今井の肖像写真			1940	昭和	15			写真	大佐。着帽。参謀肩章をつけている。立像。年は推定。	20	12
20	378	今井の肖像写真			1940	昭和	15			写真	大佐。着帽。参謀肩章をつけている。立像。20-377と同じ時のもの。	20	12
20	379	今井の肖像写真			1940	昭和	15			写真	陸軍大佐。着帽。参謀肩章をつけている。立像。南京時代のものか。年は推定。	20	12
20	380	今井の肖像写真			1940	昭和	15			写真	陸軍大佐。参謀肩章をつけている。脱帽。年は推定。同一2枚あり。	20	12
20	381	今井の肖像写真			1940	昭和	15			写真	陸軍大佐。参謀肩章をつけている。脱帽。年は推定。	20	12
20	382	今井の肖像写真			1940	昭和	15			写真	陸軍大佐。参謀肩章をつけている。年は推定。	20	12
20	383	今井の肖像写真			1940	昭和	15			写真	陸軍大佐。着帽。年は推定。	20	12
20	384	天津（支那）駐屯軍 増強直前記念写真 多田駿軍司令官・少将 永見俊徳参謀長・大佐ほか 計43名	河野		1936	昭和	11	4		写真	今井少佐のみ私服。あとは軍服。松室孝良北平特務機関長・少将、和知、林、池田、中島中佐も見える。神保信彦大尉はこのとき副官。於天津。河野は写真屋。20-329に名前と階級説明あり。20-328に同じ。	20	13
20	385	冀東銀行総行 開幕典礼	東方撮影		1936	昭和	11	11	1	写真	殷汝耕ほか。写真の中には今井はいない。	20	13
20	386	南口行列車内			1937	昭和	12	9	12	写真	南口は北京の郊外。	20	13
20	387	支那軍の写真 於西苑			1937	昭和	12	7	25	写真		20	13

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
20	388	支那軍の写真 於西苑			1937	昭和	12	7	25	写真		20	13
20	389	於西苑			1937	昭和	12	7	25	写真		20	13
20	390	支那軍の写真			1937	昭和	12	7	25	写真		20	13
20	391	日本軍攻京に増援			1937	昭和	12	7	25	写真		20	13
20	392	非武装の中国兵			1937	昭和	12	7	25	写真		20	13
20	393	無蓋貨車内			1937	昭和	12			写真	外国人武官たち。	20	13
20	394	無蓋貨車内			1937	昭和	12			写真	外国人武官たちと今井。	20	13
20	395	今井ほかの写真				昭和				写真	今井は私服。軍服1人。全4名。	20	13
20	396	今井と中国服の男				昭和				写真		20	13
20	397	南京で開かれた興亜院連絡部長会議全景			1940	昭和	15	5	5	写真	今井は写真のなかにおらず。年代と日付は推定。	20	13
20	398	板垣征四郎少将	カシムラ写真館		1933	昭和	8	8		写真	板垣征四郎少将か。天保銭を付けている。カシムラ写真館は在奉天。	20	13
20	399	支那駐屯軍将校			1937	昭和	12			写真	閑院宮、杉山元大将ほか約200名。今井は中佐。撮影時期は昭和12年末か13年初め。年は推定。	20	13
20	400	将校写真の説明			1937	昭和	12			書類	20-399の将校の名前と階級説明。約200名。年は推定。	20	13
20	401	今井の写真	東京ステーションホテル			昭和				写真	東京ステーションホテルのカバーに封入。戦後のものか。20-157と同じときのもの。	20	13
20	402	記念写真				昭和				写真	約80名。同年代の男性。無帽。軍服と洋服入りまじる。	20	13
20	403	今井の肖像写真			1940	昭和	15			写真	上半身のみ。陸軍大佐。年は推定。	20	13
20	404	今井の肖像写真			1940	昭和	15			写真	上半身のみ。陸軍大佐。年は推定。	20	13
20	405	霊峰富士山	今井武夫		1938	昭和	13	11	18	写真	年月日付は推定。	20	13
20	406	杉山参謀総長の南京支那派遣軍総司令部来訪記念撮影			1940	昭和	15	10	30	写真	杉山を含めて全38名。西尾、板垣、影佐、今井ほか。	20	13
20	407	将校写真の説明			1940	昭和	15	10	30	書類	20-406添付の将校の名前と階級説明。	20	13
20	408	東条陸相の南京支那派遣軍総司令部来訪記念撮影			1940	昭和	15			写真	東条を含めて全38名。西尾、板垣、影佐、今井ほか。時期は20-406の頃か。	20	13
20	409	将校写真の説明			1940	昭和	15			書類	20-408添付の将校の名前と階級説明。	20	13
20	410	北平駐在武官歓送迎会記念			1937	昭和	12	10	28	写真	今井と後任の吉野弘之少佐、中国人ほか全5名。	20	13
20	411	支那派遣軍総司令部参謀部第2課、第4課、報道部記念			1941	昭和	16	1	1	写真	約110名位。今井が中心に坐っている。	20	13
20	412	総軍情報会議記念			1941	昭和	16	4	5	写真	20-85と同じ場所。畑大将を囲んで板垣中将、土橋少将、今井以下将校の写真全39名。	20	13
20	413	歩兵第141連隊旗			1941	昭和	16	9	10	写真		20	13
20	414	大本営陸軍部			1937	昭和	12	11		写真		20	13
20	415	専田盛俊大尉			1933	昭和	8	7		写真	同期の専田盛俊大尉か。今井兄とサインあり。専田は8月に少佐になっている。月は推定。	20	13
20	416	将校の写真			1940	昭和	15			写真	板垣総参謀長、今井ほか。全21名。年は推定。	20	13
20	417	畑俊六大将と西尾寿造大将			1941	昭和	16	3		写真	支那派遣軍総司令官の交代のときの写真か。年月は推定。	20	13
20	418	寺内寿一軍司令官 山下奉文旅団長 河辺正三参謀副長 牟田口廉也連隊長らと万寿山の今井			1937	昭和	12	10	20	写真	右より王蘭、飛松伸三副長（今井の陸士同期）、今井、牟田口廉也連隊長、河辺正三参謀副長、寺内寿一司令官、小野口旅団副官、山下奉文旅団長。今井は案内係。於万寿山。	20	13

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備 考	参考 (箱)	参考 束
20	419	支那における将校 記念撮影写真			1939	昭和	14	11	4	写真	西尾大将、多田中将、板垣中将、影佐少将ほか約80名。今井は大佐。年月日は推定。	20	13
20	420	将校の写真説明			1937	昭和	12			書類	20-419の将校の名前と階級説明。約200名。年は推定。	20	13
20	421	汪兆銘訪問			1940	昭和	15	5	30	写真	於南京汪公館。汪兆銘、今井、周隆庠、黒根祥作（通訳）。同様なものもう1枚あり。20-425のオリジナル。黒根は昭和16年出版の汪兆銘の書「日本と携えて」（朝日新聞社）の訳者。昭和10年には大阪時事新報の北平特派員を勤めている。	20	13
20	422	会合写真	東京日日新聞社写真部			昭和				写真	全10名。今井を含めた座談会か。T. Nakayamaと裏にサインあり。	20	13
20	423	支那派遣軍将校の記念写真			1940	昭和	15			写真	宮様（三笠宮？）訪問記念か。西尾大将ほか約90名。年は推定。	20	13
20	424	閑院宮から西尾大将たちへの訓示			1939	昭和	14	9	12	写真	閑院宮から 支那派遣軍編成の際の訓示の写真と思われる。杉山元大将ほか約100名弱。今井も。	20	13
20	425	汪兆銘、今井、周隆庠、黒根祥作 於南京汪公館			1940	昭和	15	5	30	写真	20-21の複写。	20	13
20	426	汪兆銘、周隆庠、黒根祥作の写真 於南京汪公館			1940	昭和	15	5	30	写真	20-425と同じときの写真。	20	13
20	427	西尾寿造大将転出時の記念			1941	昭和	16	1	27	写真	春陽節（旧正月）。本多熊太郎、今井、日高信六郎、堀（副官）。20-230のオリジナル。本多は前年12月付で駐支大使となっている。	20	13
20	428	西尾寿造大将、汪兆銘との記念			1941	昭和	16	2		写真	今井、周隆庠と西尾大将の副官。全6名。西尾大将軍事参事官としての転出記念撮影。前列左が西尾大将。右汪兆銘。後列左今井。中央周、右は堀副官。20-427と同じ構図。	20	13
20	429	閑院宮参謀総長支那派遣軍訪問記念			1939	昭和	14	11	3	写真	西尾寿造大将、板垣征四郎中将ほか。約130名。年月は推定。	20	13
20	430	記念写真 於鉄道倶楽部			1934	昭和	9	11		写真	半数近く洋服。あとは制服。満鉄の鉄道員か。一人軍服。約130名。	20	13
20	431	将校記念写真			1940	昭和	15			写真	全18名。多田駿大将ほか。今井は陸軍大佐。年は推定。	20	13
20	432	今井を含めて4名の将校				昭和				写真		20	13
20	433	汪兆銘 西尾寿造 板垣征四郎 今井ほか			1939	昭和	14	10	31	写真	年は推定。	20	13
20	434	封筒	藏居		1940	昭和	15	12		封筒	20-東14所収の封筒。写真在中。藏居は朝日新聞支局。総軍第2課長今井大佐殿とある。年は推定。	20	14
20	435	城門（山西・大同）				昭和				写真	印刷された説明文添付あり。	20	14
20	436	古都大同				昭和				写真	20-435の裏にあり。印刷された説明文添付あり。	20	14
20	437	四牌楼附近（山西・大同）				昭和				写真		20	14
20	438	経幢と鉄炉（山西・大同）				昭和				写真	20-437の裏にあり。	20	14
20	439	華嚴寺大雄宝殿（山西・大同）				昭和				写真		20	14
20	440	梳粧楼（山西・大同）				昭和				写真	20-439の裏にあり。	20	14
20	441	九龍壁（山西・大同）				昭和				写真		20	14
20	442	崩れ行く城壁（山西・大同）				昭和				写真	20-441の裏にあり。	20	14
20	443	大同城外（山西省）				昭和				写真		20	14
20	444	街の金物家（山西・大同）				昭和				写真	20-443の裏にあり。	20	14
20	445	軍司令官会同記念写真			1945	昭和	20	1	29	写真	於南京聚星倶楽部。6月10日にも開催している。19-36参照。全44名。作成は阿部写真スタジオか。	20	15
20	446	外国人駐在武官との会合記念	東京會館写真部		1938	昭和	13			写真	1938年か39年。参謀本部中佐時代。英・米・独・仏・伊・伯・羅・暹・土・満。中島鉄蔵・山脇正隆中将、樋口季一郎・笠原幸雄少将ほか。全47名。	20	15

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備 考	参考 (箱)	参考 束
20	447	多田駿参謀次長支那旅行			1937	昭和	12	9		写真	全10枚。年代は1937年か38年。「今井中佐殿9月」とある。	20	15
20	448	澳門協会内			1933	昭和	8	5	11	写真		20	15
20	449	澳門英仏支那境界			1933	昭和	8	5	11	写真		20	15
20	450	岳州岳陽楼			1933	昭和	8	5	26	写真		20	15
20	451	廬山			1933	昭和	8	5	30	写真		20	15
20	452	廬山			1933	昭和	8	5	30	写真	五老峰第五峰。中田海軍大尉と。	20	15
20	453	廬山			1933	昭和	8	5	30	写真	五老峰第五峰。	20	15
20	454	廬山			1933	昭和	8	5	30	写真	五老峰第一峰。	20	15
20	455	北極閣傍の仏寺			1933	昭和	8	6	2	写真	立っているのは阿部氏。	20	15
20	456	今井の写真				昭和				写真		20	15
20	457	乗馬した今井			1941	昭和	16			写真	陸軍大佐時代か。年度は全くの推定。	20	15
20	458	乗馬姿の今井			1941	昭和	16			写真	横に鞭を持って坐っている。年度は全くの推定。	20	15
20	459	乗馬姿の今井			1941	昭和	16			写真	手に鞭を持って立っている。背景は家。年は推定。	20	15
20	460	今井の写真				昭和				写真	軍服で立っている。背景庭。	20	15
20	461	今井の横顔写真				昭和				写真	軍服。	20	15
20	462	法事の写真			1937	昭和	12	8	20	写真	僧侶たちと。	20	15
20	463	廬溝橋事件発生2ヶ月半前の傘田口廉也大佐 森田徹中佐 今井武夫少佐 3人の北京招魂祭における打ち解けた写真			1937	昭和	12	4	27	写真	招魂祭後の夜宴にて。3人仲良く笑っている写真。20-169参照。20-104のオリジナルか。	20	15
20	464	南苑飛行場にて			1937	昭和	12	3	20	写真		20	15
20	465	飛行機の写真				昭和				写真		20	15
20	466	軍人				昭和				写真		20	15
20	467	今井の肖像写真				昭和				写真	私服で眼鏡。20-365に眼鏡をしたもの。	20	15
20	468	蘇州宝帯橋			1932	昭和	7	11	1	写真		20	15
20	469	蘇州宝帯橋			1932	昭和	7	11	1	写真	20-468と同じ様なもの。	20	15
20	470	蘇州虎丘			1932	昭和	7	11	2	写真	同一2枚あり。	20	15
20	471	蘇州			1932	昭和	7	11	2	写真	これも虎丘の一部か。同一2枚あり。	20	15
20	472	蘇州太湖附近南船			1932	昭和	7	11	2	写真		20	15
20	473	上海江湾競馬場			1932	昭和	7	11	7	写真	同期の川上清志案内。同一2枚あり。江湾競馬場は上海事変の戦闘跡地であり、戦略要地。今井は江湾競馬場へ行った。	20	15
20	474	泰山遠望			1932	昭和	7	10	15	写真	於津浦線泰安。同一2枚あり。	20	15
20	475	孔子廟			1932	昭和	7	10	15	写真	於曲阜駅。同一2枚あり。	20	15
20	476	長江帆船			1932	昭和	7	10	26	写真	同一2枚あり。	20	15
20	477	韓劉戦事餘聞			1932	昭和	7	10	16	写真	於濰縣。韓復榘と劉珍年の戦争のこと。	20	15
20	478	鉄甲車 韓劉戦事餘聞			1932	昭和	7	10	16	写真	於高蜜。	20	15
20	479	装甲列車 韓劉戦事餘聞			1932	昭和	7	10	16	写真	於高蜜駅。	20	15

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備 考	参考 (箱)	参考 束
20	480	韓劉戦事の後方			1932	昭和	7	10	16	写真	於瀋陽駅。11月は10月の間違いか。	20	15
20	481	臨城駅			1932	昭和	7	10	15	写真	1923年5月に臨城事件が起った場所。天津から 南京対岸の浦口にむかう津浦線の急行列車を土匪千人がおそったもの。ロックフェラーの姪も被害に会い、世界を震撼させた。	20	15
20	482	臨城駅			1932	昭和	7	10	15	写真		20	15
20	483	臨城駅			1932	昭和	7	10	15	写真	1日とあるが15日の間違いか。	20	15
20	484 (欠番)												
20	485	北京プーシャンカン			1932	昭和	7	2	10	写真	北京プーシャンカンと記入あり。5名。	20	15
20	486	今井の写真				昭和				写真	2種類。	20	15
20	487	今井ともう一人軍人				昭和				写真	今井は天保銭をつけている。	20	15
20	488	上海事変			1932	昭和	7	2		写真	全54枚。月は推定。	20	15
20	489	中国研究員時代の写真ネガ			1932	昭和	7			ネガ	2枚。	20	15
20	490	澳門			1933	昭和	8	5	11	写真	日付は5月11日か。	20	15
20	491	廬山			1933	昭和	8	5	30	写真	五老峰第一峰。	20	15
20	492	廬山			1933	昭和	8	5	30	写真		20	15
20	493	廬山			1933	昭和	8	5	30	写真	五老峰第二峰。	20	15
20	494	廬山			1933	昭和	8	5	30	写真	五老峰第五峰。	20	15
20	495	廬山			1933	昭和	8	5	30	写真	仙人洞。	20	15
20	496	澳門の初代ポルトガル総督の胸像			1933	昭和	8	5	11	写真		20	15
20	497	東湖舟遊・於武昌			1933	昭和	8	5	24	写真	長勇少佐と一緒に。	20	15
20	498	漢口における軍艦 「安宅」			1933	昭和	8	5	24	写真	「安宅」は長江で用いられた日本軍艦。	20	15
20	499	漢口の黄鶴楼			1933	昭和	8	5	24	写真	前方の水は長江。	20	15
20	500	武漢大学・於武昌			1933	昭和	8	5	24	写真		20	15
20	501	奥略楼・於武昌			1933	昭和	8	5	24	写真		20	15
20	502	写真ネガ				昭和				ネガ	10枚。	20	15
20	503	写真				昭和				写真	17枚。	20	15
20	504	外人と列車前での写真				昭和				写真	全9名。	20	15
20	505	今井ともう一人の軍人			1936	昭和	11			写真	於中国。年は推定。	20	15
20	506	中国研究員時代のものか			1932	昭和	7			写真	15枚。中国研究員時代のものか。	20	15
20	507	北平地方維持会長江朝宗と今井 離任記念写真			1937	昭和	12	10	26	写真	北平天壇前。	20	15
20	508	写真				昭和				写真	9枚。	20	15
20	509	写真ネガ				昭和				ネガ	1枚。	20	15
20	510	写真ネガ				昭和				ネガ	12枚。	20	15
20	511	中国研究員時代のものか			1932	昭和	7			写真	33枚。中国研究員時代のものか。	20	15
20	512	写真				昭和				写真	一部20-510のネガに出た写真あり。15枚。	20	15
20	513	写真ネガ 中国研究員時代のものか			1932	昭和	7			ネガ	14枚。中国研究員時代のものか。	20	15

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備 考	参考 (箱)	参考 束
20	514	座談会				昭和				写真	13名。軍服は今井を入れて2名のみ。	20	15
20	515	写真ネガ				昭和				ネガ	22枚。	20	15
20	516	今井を含めて5名				昭和				写真	すべて私服。	20	15
20	517	写真ネガ				昭和				ネガ	7枚。主に家族の写真か。	20	15
20	518	今井を含めて5名				昭和				写真	化学物質をチェックしている写真。	20	15
20	519	陸軍軍事航空郵便封筒	支那派遣軍総司令部	西部63部隊長今井武夫	1941	昭和	16	9	17	封筒	支那派遣軍総司令部から西部63部隊長の今井宛親展・書留封筒。写真が挿入されていたものと思われる。	20	15
20	520	写真				昭和				写真	10枚。	20	15
20	521	中国研究員時代のもの			1932	昭和	7			写真	17枚。	20	15
20	522	写真				昭和				写真	32枚。	20	15
20	523	写真				昭和				写真	20種。すべて同一2枚あり。合計全40枚。	20	15
20	524	日本語の授業風景				昭和				写真		20	15
20	525	人物写真				昭和				写真	親戚か。	20	15
20	526	写真ネガ			1937	昭和	12	7		ネガ	36枚。入れ物は1939年7月だが時期と関係あるかどうか不明。年月は推定。	20	15
20	527	九江			1933	昭和	8	5	29	写真	年月日は全くの推定。	20	15
20	528	写真ネガ				昭和				ネガ		20	15
20	529	写真ネガ				昭和				ネガ	28枚。	20	15
20	530	松井太久郎大佐 張家口へ転任歓送			1937	昭和	12	9	19	写真	今井 森島守人 寺平忠輔 於北京南苑。	20	15
20	531	写真			1936	昭和	11			写真	25枚。中国駐在員時代のものか。年は推定。	20	15
20	532	写真			1936	昭和	11			写真	42枚。中国駐在員時代のものか。年は推定。	20	15
20	533	写真			1936	昭和	11			写真	18枚。中国時代のもの。年は推定。	20	15
20	534	軍服の今井ともう一人私服の人物				昭和				写真	今井は天保銭をつけているから昭和初期か。	20	15
20	535	中国の列車の駅における今井ともう一人の軍人				昭和				写真	今井は私服。着帽。	20	15
20	536	寺内寿一司令官、山下奉文旅団長、河辺正三参謀副長、牟田口廉也連隊長らを万寿山に案内する今井			1937	昭和	12	10	20	写真	今井は案内係。12枚。20-418関連。	20	15
20	537	中国北平の雑多な写真			1936	昭和	11			写真	67枚。年は推定。	20	15
20	538	今井の写真				昭和				写真	軍服姿。2種。年号は推定。	20	15
20	539	今井の写真				昭和				写真	私服。自動車の前。	20	15
20	540	今井の写真				昭和				写真	飛行機の前私服姿。	20	15
20	541	日本軍と中国軍との交渉風景写真か				昭和				写真	8名。	20	15
20	542	北上抗日軍歓迎の檄文写真	今井武夫		1938	昭和	13			写真	作成者と年は推定。	20	15
20	543	国民政府軍の抗日戦のため資金を出すよう訴えた檄文の写真	今井武夫		1938	昭和	13			写真	作成者と年は推定。	20	15
20	544	将校				昭和				写真	天保銭をつけている軍人一人が中心。年号は推定。	20	15
20	545	線路沿いの軍人たち			1937	昭和	12			写真	裏にフランス語らしきもののメモあり。年は推定。	20	15

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
20	546	中国陸軍軍官学校ほか			1936	昭和	11			写真	15枚。北平時代のものか。年は推定。王府井大街の写真店で現像したもの。	20	15
20	547	将校たち				昭和				写真	3種。年号は推定。	20	15
20	548	中国における祝いのイベント			1936	昭和	11			写真	日本人の集まり。戦中のもの。全くの年は推定。	20	15
20	549	今井ほかの写真				昭和				写真		20	15
20	550	今井ほかの写真				昭和				写真		20	15
20	551	今井を含めて全8名				昭和				写真		20	15
20	552	写真				昭和				写真	1枚は士官学校時代のものか。	20	15
20	553～561 (欠番)												
20	562	「故人寸描 一故岡本清福氏 一」	全国戦争犠牲者援護会		1956	昭和	31	10	15	新聞	援護。新聞切抜。	20	16
20	563	殷民慧	殷民慧		1936	昭和	11			名刺	北平時代の名刺。殷汝耕夫人。年は推定。	20	16
20	564	今井の長野での講演記念 写真説明	今井良雄		1937	昭和	13	1	23	書類	20-60の説明。平成21年9月今井良雄の手紙による写真32名のうち27名の説明。2枚。複写	20	16
20	565	支那派遣軍主要職員表			1944	昭和	20	1	1	書類	複写。	20	16
21	1	今井家の家祖今井四郎左エ門貞尚 同 倅 新九郎貞芳についてのメモ	今井亮三郎			昭和				書類	15代今井の長兄亮三郎が生前書いておいたものの複写。平成18年5月16日今井貞夫が16代当主今井良雄から入手。	21	1
21	2	今井本家累代系図	今井良雄		2007	平成	19	6	21	書類	平成19年6月21日今井の甥の今井良雄から今井俊子・貞夫宛に送られたもの。含手紙。改訂版あり。	21	1
21	3	今井貞夫書簡	今井貞夫	今井良雄	2006	平成	18	4	8	書簡	今井良雄宛今井家の本家にある武夫資料についての質問ほか。	21	1
21	4	今井良雄書簡	今井良雄	今井貞夫	2006	平成	18	5	12	書簡	今井家の本家に存在する今井武夫関係資料について。21-3に対する回答。同封今井本家累代系図5月12日版（最新版は21-2にあり）。	21	1
21	5	今井武夫の訃報記事	信濃毎日新聞社ほか		1982	昭和	57	6	15	新聞	複写。日経、朝日、毎日、読売記事もあり。	21	1
21	6	日中戦争・太平洋戦争と今井武夫 一 戦線不拡大・日中和平等に尽力した異色の郷土出身陸軍高官一	高木寛		1995	平成	8	1		冊子	『市誌研究ながの 第3号』からの抜刷。高木は長野市誌編纂委員。	21	1
21	7	肉親への手紙等にみる人間栗林忠道	高木寛		2000	平成	12	1		冊子	「市誌研究ながの」平成12年1月号抜刷。	21	1
21	8	今井家親族関係者（覚）	今井良雄		2006	平成	18	5	16	書類	今井貞夫が平成18年5月16日今井の甥の良雄から入手。生年月日、死亡年月日記載あり。複写。	21	1
21	9	（父）今井熊太郎戸籍謄本	鷺澤正一		2006	平成	18	4	27	書類	鷺澤は長野市長。複写。	21	1
21	10	（長兄）今井亮三郎戸籍謄本	鷺澤正一		2006	平成	18	4	27	書類	鷺澤は長野市長。複写。昭和3年12月の武夫夫妻と長男宏の長野今井家からの分家独立についても記載あり。	21	1
21	11	土屋真書簡	土屋真	今井良雄	2006	平成	18	3	28	書簡	今井家の家系・先祖について。今井四郎兼平との関係について。土屋は今井の甥（姉てるの息子）。今井武夫の甥にあたる。複写。	21	1
21	12	高木寛書簡	高木寛	今井良雄	2005	平成	18	1	1	書簡	賀状。高木は長野市誌編纂委員。複写。	21	1
21	13	高木寛書簡	高木寛	今井良雄	2006	平成	18	3		書簡	複写。今井史料について。9月に今井武夫について話すようにいわれている。21-12に貼付。複写。	21	1
21	14	高原英男書簡	高原英男	今井良雄	2006	平成	18	1	1	書簡	複写。21-12に貼付。9月に今井武夫について講演会を行うのでよろしく。高原は長野郷土史研究会朝陽支部長。複写。	21	1
21	15	二・二六事件 昭和維新の思想と行動	高橋正衛		1965	昭和	40	8	20	書籍	中央公論社。高橋はみすず書房編集長。	21	1
21	16	「高橋正衛 二・二六事件とその虚構」	朝日新聞社		1966	昭和	41	12	2	新聞	5-15に挿入。朝日新聞夕刊。新聞切抜。	21	1
21	17	「河野司 二・二六事件と現代」	大勢新聞社		1969	昭和	44	3	6	新聞	5-15に挿入。新聞切抜。大勢新聞。河野は仏心会代表。二・二六事件の河野寿大尉の父。	21	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
21	18	「血気の反乱将校 陸相に迫る」			1968	昭和	43			新聞	5-15に挿入。掲載紙不明。新聞切抜。年は推定。	21	1
21	19	陸軍大将川上操六	徳富猪一郎		1942	昭和	17	1	15	書籍	猪一郎は蘇峰の本名。第一公論社。	21	1
21	20	ホセ・リサール記念碑の由来	日本リサール協会		1969	昭和	44	2	28	書類	リサールは1888年2月28日米国へ亡命の途中日本に上陸。同一2部。	21	1
21	21	鹿島宗二郎書簡書簡	鹿島宗二郎	宛先不明	1970	昭和	45	1		書簡	冊子の送り状。	21	1
21	22	中国大陸観光漫感 序文和訳	鹿島宗二郎		1970	昭和	45	1		冊子	21-21に封入されたもの。	21	1
21	23	大谷照乗書簡	大谷照乗	今井武夫	1961	昭和	36	7	25	書簡	暑中見舞い。	21	1
21	24	大谷照乗書簡	大谷照乗	今井武夫	1938	昭和	13	3	8	書簡	昭和13年か14年の手紙。年は推定。大谷は西本願寺連枝。目黒区上目黒の今井中佐宛となっている。かつて北平で世話になったことに対するお礼。西本願寺の法主も感謝している。	21	1
21	25	藤岡英雄「デッチ上げられた？南京事件」	日本郷友連盟		1972	昭和	47	11	1	雑誌	郷友 11月号。藤岡は連盟理事。	21	1
21	26	「戦時下」に出版されていた南京大虐殺	朝日新聞社		1973	昭和	48	11	6	新聞	21-25に挿入。新聞切抜。朝日新聞夕刊。	21	1
21	27	「南京大虐殺 私が書いた」	朝日新聞社		1973	昭和	48	11	6	新聞	21-25に挿入。朝日新聞夕刊。新聞切抜。	21	1
21	28	常安弘通書簡	常安弘通	今井武夫	1977	昭和	52	6	28	書簡	もう北京に住んでいた新聞人は皆あの世に旅立ち曉月会に顔を出しても語り合える人は今井武官であるのみとも思う。40年前の朝日新聞コピーを同封する。	21	1
21	29	徐克弱 「附註 也算蔣總統秘録」			1976	昭和	51	10	23	新聞	新聞切抜。大公報。桐工作について。	21	1
21	30	大公報要旨の翻訳			1976	昭和	51	10	23	書類	21-29に貼付。21-29の要旨の日本語訳。日付は推定。	21	1
21	31	第三十期生会 会報 1号	陸士三十期生会		1954	昭和	29	11	1	冊子	巢鴨拘留中3名。ソ連抑留中10名。戦病死279名。正誤表挿入あり。	21	1
21	32	霞山會報 2号	霞山会		1965	昭和	40	1	10	冊子	霞山會報は霞山会の機関紙。年2回発行。 1964年8月20日創刊。	21	1
21	33	今井「盧溝橋事件について」 今井「河辺正三・牟田口廉也將軍を憶う」	北京曉月会事務所		1969	昭和	44	7	7	冊子	北京曉月会 特集号。 「河辺正三・牟田口廉也將軍を憶う」の原稿は12-120か。11-213参照。 本冊子の後ろに会員の名簿と住所の記載あり。今井のメモ記載あり。	21	1
21	34	事変中本館（北平近代科学図書館）日誌	北平近代科学図書館		1937	昭和	12	7	8	日記	8月10日まで。	21	1
21	35	甲子革命政変期 日華纏綿 金子定義 文集 明治二十一年中の叙事評論（金子定義）	金子定義		1959	昭和	34	6	25	冊子	金子は陸士19期。陸軍少将。衆議院議員。金子定義集 第二。	21	1
21	36	今井が出演したNHK TV放送台本 文化展望 碑文の謎 好太王碑文改変 論争	日本放送協会		1972	昭和	47	4	4	冊子	出演 今井、井上光貞、李進熙ほか。放送日4月4日。収録日2月28日。	21	1
21	37	第三十期生会 会報 3号	陸士三十期生会		1955	昭和	30	11		冊子	同期生名簿。8号の補遺あり。	21	1
21	38	今井「関東甲信たよりに 近況報告」	陸士三十期生会		1956	昭和	31	6		冊子	第三十期生会 会誌 4号。4月28日第3回総会（於参議院会館）につき記載あり。会報が会誌と名称変更する。14-196に同じ。	21	1
21	39	今井「馬像」	陸士三十期生会		1957	昭和	32	8		冊子	第三十期生会 会誌 5号。5月4日開催された第4回総会（於参議院会館）につき記載あり。靖国神社に軍馬の銅像献納の企画に対し寄付を募る。632名の同期生は生存者331名。	21	1
21	40	正会員消息欄 今井「近況報告」	陸士三十期生会		1961	昭和	36	1	25	冊子	第三十期生会 会誌 6号 昭和35年中秋。長男とあるのは長男・次男が夭折したので三男貞夫のこと。陸士時代の恩師の消息も記載している。	21	1
21	41	第三十期生会 名簿 7号	陸士三十期生会		1954	昭和	29	11	1	冊子		21	1
21	42	陸士三十期生会 規約・会員名簿 13号	陸士三十期生会		1965	昭和	40	8		冊子		21	1
21	43	第三十期生会 規約・会員名簿 14号	陸士三十期生会		1968	昭和	43	5	5	冊子		21	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
21	44	第三十期生会 規約・会員名簿 14号 付録 郵便番号簿	陸士三十期生会		1968	昭和	43	5		書類	21-43に挿入。	21	1
21	45	第三十期生会 規約・会員名簿 15号	陸士三十期生会		1971	昭和	46	7		冊子	正誤表挿入あり。	21	1
21	46	陸士三十期生会 東京世話人会書簡	陸士三十期生会 東京世話人会	陸士三十期生会会員	1971	昭和	46	8	26	書簡	21-45に挿入。4月25日借行社での総会変更通知。	21	1
21	47	昭和45年度会計報告	陸士三十期生会		1971	昭和	46	4	25	書類	21-45に挿入。	21	1
21	48	第三十期生会 規約・会員名簿 15号 正誤表	陸士三十期生会		1971	昭和	46	8	28	書類	21-45に挿入。	21	1
21	49	米中・日中関係の新評価	田尻愛義		1972	昭和	47	8	1	冊子	黎明会。黎明叢書87号。田尻は元中国公使。	21	1
21	50	「神保信彦 ロハス氏の霊に捧ぐ かくて救出襟」	時事新報社		1950	昭和	25	4		新聞	時事新報。新聞切抜。	21	1
21	51	英雄ホセ・リサール博士と日本リサール協会	日本リサール協会		1975	昭和	50			冊子	今井は日本リサール協会の理事。	21	1
21	52	鄧小平の戦略	アジア親善交流協会		1980	昭和	55	8		冊子	8月21日開催第4回研究会報告。講師は亜細亜大学講師清水徳三氏。	21	1
21	53	第三十期生会 会報 2号	陸士三十期生会		1955	昭和	30	5	15	冊子	4月30日第3回総会（於参議院会館）につき記載あり。今井は欠席。	21	1
21	54	東京長中会会員名簿	東京長中会事務所		1954	昭和	29	4		冊子	今井の同期長野中学15回卒業生の東京在住者は12名。	21	1
21	55	日本人の対ソ観	広西元信		1969	昭和	44	4		冊子	「外交時報 昭和44年11月号」の抜刷。	21	1
21	56	Private Letter of Roxas	Nobuhiko Jimbo		1960	昭和	35			冊子	フィリピンのマニユアル・ロハス (Manuel Roxas) 大統領から蒋介石総統に神保信彦助命を求めた昭和21年8月26日の手紙の複写あり。1962年神保から今井が貰った署名入りもの。	21	1
21	57	陳誠書簡	陳誠	神保信彦	1960	昭和	35	2	17	書簡	21-56に挿入。複写。陳は台湾省主席、行政院長、国民党副総裁などをつとめた。年は推定。	21	1
21	58	陸士三十期生会	陸士三十期生会		1979	昭和	54	5	14	写真		21	1
21	59	南京会			1968	昭和	43	3	17	写真	三笠宮を囲んで、清水菊三、今井ほか全8名の写真。於日本閣屋上で撮影。	21	1
21	60	南京会			1968	昭和	43	3	17	写真	三笠宮を囲んで全員の写真。	21	1
21	61	森山誠之「北京・沈陽・丹東 走馬看花の記」			1980	昭和	55			雑誌	掲載紙不明。切抜。	21	1
21	62	陸士四十一期生全国大会出席者名簿	陸士四十一期生全国大会準備委員		1967	昭和	42	10	14	冊子	出席写真は21-70にあり。今井は一時期四十一期生の区隊長を勤めた。	21	1
21	63	「楊大将の母上も女性」	上海タイムス支社		1978	昭和	53	2	1	新聞	サンハイ・タイムス。	21	1
21	64	「楊大将の母上も女性」	上海タイムス支社		1978	昭和	53	3	1	新聞	サンハイ・タイムス。21-63の続き。	21	1
21	65	「楊大将の母上も女性」	上海タイムス支社		1978	昭和	53	4	1	新聞	サンハイ・タイムス。21-64の続き。	21	1
21	66	自衛隊 市ヶ谷記念館案内	自衛隊		1965	昭和	40			冊子	昭和40年以降のもの。複写。年度は全くの推定。	21	1
21	67	日比のかけ橋 ホセ・リサール	木村毅		1970	昭和	45	6	10	冊子	日本ホセ・リサール協会事務局発行。リサール叢書1巻。マルコス大統領訪日記念。木村は早大教授。4-14と同じ。	21	1
21	68	新中国の教育を覗く	村田省蔵			昭和				冊子	国民外交会発行。国民外交資料 2。	21	1
21	69	武田瀨「七夕に思い出す 盧溝橋事件と偉大な宋哲元將軍」	日本経済新聞社		1961	昭和	36	7	7	新聞	新聞切抜。日本経済新聞。武田は松井北京特務機関の配下。埼玉県出納長。瀨は「ひろし」と読む。	21	1
21	70	陸士四十一期生全国大会	惣島写真館		1967	昭和	42	10	14	写真	出席名簿は21-62にあり。今井も出席。	21	1
21	71	「石城東山の新史料発見」	信濃毎日新聞社		1968	昭和	43	7	27	新聞	信濃毎日新聞。東山は幕末の信州高島藩で諏訪藩校長善館の館長。新聞切抜。今井の私設秘書をした石城小三郎は東山の孫。	21	1
21	72	衛藤藩吉「小論」	図書新聞社		1968	昭和	43	7	13	新聞	図書新聞。新聞切抜。	21	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
21	73	「むかしばなし 50年前の東部地区」	青少年対策東部地区委員会		1969	昭和	44	8	1	新聞	東京都中野区役所の機関紙「つどい」。東中野地区の昔の概況について。新聞切抜。	21	1
21	74	学校要覧	長野県長野高等学校		1968	昭和	43	4		冊子	明治34年4月に第1回長野中学卒業生50名を出す。	21	1
21	75	南京会出席者全員			1974	昭和	49	3	24	写真	出席者全員の写真。於雅叙園。	21	1
21	76	南京会出席者			1974	昭和	49	3	24	写真	三笠宮を囲んで出席者11名の写真。於雅叙園。22-21にも写真あり。	21	1
21	77	南京会出席者全員			1976	昭和	51	3	21	写真	出席者全員の写真。於日本閣。	21	1
21	78	南京会出席者			1976	昭和	51	3	21	写真	三笠宮を囲んで出席者9名の写真。於日本閣。	21	1
21	79	南京会出席者			1976	昭和	51	3	21	写真	三笠宮を囲んで出席者10名の写真。於日本閣。	21	1
21	80	南京会出席者			1976	昭和	51	3	21	写真	三笠宮を囲んで万歳をしている写真。於日本閣。	21	1
21	81	鼓楼会			1977	昭和	52	10	18	写真	出席者12名の写真。於離宮飯店。	21	1
21	82	南京会出席者			1977	昭和	52	4	3	写真	三笠宮を囲んで出席者12名の写真。於日本閣。	21	1
21	83	南京会出席者全員 於日本閣			1979	昭和	54	3	25	写真	第22回。於日本閣。	21	1
21	84	南京会出席者14名			1979	昭和	54	3	25	写真	第22回。三笠宮を囲んで14名。於日本閣。	21	1
21	85	南京会			1980	昭和	55	3	25	写真	於日本閣。今井が万歳している写真。22-25関連。	21	1
21	86	今井武夫	今井武夫		1944	昭和	19			名刺	支那派遣軍総参謀副長、陸軍少将の肩書。	21	1
21	87	今井きみ子	今井きみ子		1944	昭和	19			名刺	今井武夫妻の肩書。21-86に貼付。	21	1
21	88	今井武夫	今井武夫			昭和				名刺	中野区東中野の住所のみ記載。	21	1
21	89	今井武夫の訃報記事	読売新聞社		1982	昭和	57	6	15	新聞	読売新聞。新聞切抜。21-88に貼付。	21	1
21	90	「河辺正三師を悼む 仏陀に帰依した晩年」	中央月島新聞社		1965	昭和	40	3	25	新聞	中央月島新聞。 この記事は、風間卓（古城）が書いたものか。新聞切抜。	21	1
21	91	江梅会だより	江梅会幹事		1981	昭和	56	10		書類	幹事は三石照雄と佃正道。江梅雑記第二集と名簿配布の件。	21	1
21	92	1979年5月中のソ・中関係経過対照一覧表	KDK麹町研究所		1979	昭和	54	5		書類		21	1
21	93	教育勅語講義	日本雄飛会		1958	昭和	33	8	1	冊子	雄飛新聞4号付録。	21	1
21	94	志村儀亥知書簡	志村儀亥知	三笠宮殿下	1956	昭和	31	3	18	書簡	志村は日本雄飛会専務理事。三笠宮の処女出版記事内容を諫めている。公開書簡。	21	1
21	95	今瀬順義「フィリピン独立の父国民的英雄ホセ・リサール」			1970	昭和	45	11	25	新聞	社会モニター新聞。昭和45年11月25日号。	21	1
21	96	今井氏に御教を仰ぎ度い諸点	日本国際問題研究所		1961	昭和	36	6		書類	6月10日及6月17日於日本国際問題研究所。同一2部あり。	21	1
21	97	北ベトナムの表情	山本薩夫		1969	昭和	44			冊子	現代史研究会発行。講演記録。	21	1
21	98	江藤小三郎の覚醒書	全日本愛国者団体会議		1969	昭和	44	2		書類	江藤は建国記念日に皇居前で自決した。	21	1
21	99	早乙女貢著「奇兵隊の反乱」に対する池田岬の書評			1970	昭和	45			新聞	掲載紙不明。新聞切抜。	21	1
21	100	台湾問題と日本の国益	台湾愛国会		1972	昭和	47			冊子	著者は林景明か。年度は全くの推定。林については4-42参照。	21	1
21	101	茶実利用開発の過去現在及将来と当社との関係	居初油化工業株式会社		1964	昭和	39	9		冊子	株主への説明書。	21	1
21	102	山下良平書簡	山下良平	宛先不明	1966	昭和	40	1	1	書簡	「引揚帰国者の開業御挨拶」。山下は盧溝橋事件当時北京にいた小児科医師、針灸科医師。	21	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
21	103	日米座談会 猪木正道、ジョージ・E・テラーほか「アメリカと中国 もっと知り合え」	読売新聞社		1966	昭和	40	1	1	新聞	読売新聞。新聞切抜。2頁。	21	1
21	104	1964年の主要経済指標（中共）	前田寿夫		1965	昭和	40	10		書類	前田は防衛研究所第一研究室長。2枚。	21	1
21	105	社団法人日本イスラエル協会謁観	日本イスラエル協会		1963	昭和	38	12		書類		21	1
21	106	小笠原清書簡	小笠原清	今井武夫	1971	昭和	46	8	23	書簡	今井からの陳公博の日本亡命日時と岡村大将の復員日の問い合わせに対する、小笠原からの返事。年度は全くの推定。	21	1
21	107	中島成子談	今井武夫		1957	昭和	32	9		メモ	中島は陳璧君と上海監獄で同室だった。代々木にて面談したときのメモ。年代は推定。	21	1
21	108	「ジャングルの中の十六年」	朝日新聞社		1960	昭和	35	6	2	新聞	朝日新聞。グアム島生き残りの皆川文蔵、伊藤正の記録。6月25日まで。20回のシリーズで新聞切抜だが4、7回分が欠落し18回分あり。	21	1
21	109	日高信六郎書簡	日高信六郎	今井武夫		昭和		3	26	書簡	興亜会について。社団法人から任意団体として存続と決定。戦後のもの。日高は1946年イタリアから帰国し 1976年に死去している。3月26日付け。	21	1
21	110	「悲劇の官軍隊長 相楽総三」	朝日新聞社		1969	昭和	44	4	26	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	21	1
21	111	「追われる維新の農民工作隊 無頼官軍」	朝日新聞社		1969	昭和	44	7	9	新聞	朝日新聞夕刊。新聞切抜。	21	1
21	112	鹿野政直「呼戻された志士 相楽総三」	朝日新聞社		1969	昭和	44	8	4	新聞	朝日新聞夕刊。新聞切抜。	21	1
21	113	佐原賢治「新中国考（1）～（5）」	交通同人会		1957	昭和	32	11	15	新聞	交通同人。毎月1回。佐原は元華北交通理事。（3）に今井について記載あり。華北交通は昭和14年10月に設立された。満鉄から1万6千人の日本人と3千人の中国人が出向。新聞切抜。	21	1
21	114	「今日の問題 戦陣訓」	朝日新聞社		1960	昭和	35	6		新聞	朝日新聞。21-108記載のグアム島生き残りの元兵士に関連。新聞切抜。	21	1
21	115	「大波小波 犬養健の文学と政治」	東京新聞社		1960	昭和	35	8	30	新聞	東京新聞。新聞切抜。	21	1
21	116	「放射線 作家還元成らず 弱気政治家犬養健死す」	東京新聞社		1960	昭和	35	8	30	新聞	東京新聞 夕刊。新聞切抜。日付は推定。	21	1
21	117	犬養道子「晩年の父」			1960	昭和	35	9		新聞	掲載紙不明。新聞切抜。月は推定。	21	1
21	118	犬養道子「きのうきょう パパの葬式」			1960	昭和	35	9		新聞	掲載紙不明。新聞切抜。	21	1
21	119	犬丸徹三「私の履歴書 極秘に汪・近衛会談」	日本経済新聞社		1960	昭和	35	12	7	新聞	日経新聞。新聞切抜。	21	1
21	120	「比島に人道の華 キリノ大統領 戦犯へ温情」			1949	昭和	24	9	23	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。キリノは前年4月のロハス大統領の死去で副大統領から昇格した戦後2番目の大統領。マニラ軍事裁判に証人として渡比し、帰京した今村栄吉の証言。	21	1
21	121	白井吉見「随想 軍閥の責任」	読売新聞社		1956	昭和	31	8	16	新聞	読売新聞。新聞切抜。	21	1
21	122	「テレタイプ 望み薄か ヘス釈放」			1970	昭和	45	1	13	新聞	掲載紙不明。新聞切抜。	21	1
21	123	「独占スクープ記事証言 私は辻政信参謀を処刑した」	読売新聞社		1980	昭和	55	8	3	雑誌	週刊読売。切抜。	21	1
21	124	川上護書簡	川上護	今井武夫	1964	昭和	39	4	15	書簡	戦後の手紙。ソ連船通訳のこと。昔のことのやり取りの様で、川上は「今井の富山第69連隊時代、自分は今井の教官ではなく、見習い士官兼教官見習いで、責任ない」と冗談を言っている。年度は全くの推定。	21	1
21	125	阿部義宗書簡	阿部義宗	今井武夫	1938	昭和	13	5	24	書簡	阿部は第6代青山学院院長。昨日の来駕と高話に対する礼状。今井が大佐時代のもの。年は推定。	21	1
21	126	「優柔不断な野心家像」			1972	昭和	47			新聞	掲載紙不明。岡義武著「近衛文麿 運命の政治家」（岩波新書）に対する書評。新聞切抜。	21	1
21	127	角田時雄「鳥獣哀史 日本人に慕いよる軍馬」				昭和				新聞	掲載紙不明。新聞切抜。	21	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
21	128	「募兵計画も伏在か 海烈号密輸事件の裏面」	毎日新聞社		1949	昭和	24	10		新聞	毎日新聞。根本博元中將の渡台説。募兵計画。新聞切抜。10-462関連。	21	1
21	129	「国府軍 日本人飛行士を募集 根本元中將や辻元参謀も介在？」			1949	昭和	24			新聞	掲載紙不明。年代は推定。新聞切抜。	21	1
21	130	大仏空（僧職）「声 日中復交にはザンゲが必要」			1946	昭和	21	5	21	新聞	新聞切抜。掲載紙不明。	21	1
21	131	第43回株主総会決議御通知	日本硫鉄株式会社		1959	昭和	34	12	15	書類	添付第43回営業報告書あり。7月27日会社更生手続き開始決定の申し立てを函館地方裁判所に行う。社長村上鎮。	21	1
21	132	松本秀夫「カイゼルと西園寺公」	日本経済新聞社		1969	昭和	44	7	4	新聞	日本経済新聞。新聞切抜。	21	1
21	133	今井武夫宛役員退職慰労金計算書	日本硫鉄株式会社	今井武夫	1959	昭和	34	4		書類	今井は昭和28年10月末から顧問、その後監査役、東京支社長、取締役を歴任している。日本交易商事株式会社の罫紙に記載。	21	1
21	134	日本硫鉄貸借清算	今井武夫		1958	昭和	33	10		メモ	21-133関連。	21	1
21	135	今井武夫宛通知書	函館地方裁判所民事部	今井武夫	1960	昭和	35	7	27	書類	更生会社日本硫鉄株式会社の件。	21	1
21	136	今井武夫宛通知書	函館地方裁判所民事部	今井武夫	1960	昭和	35	3	31	書類	日本硫鉄株式会社の更生手続き開始。	21	1
21	137	利害関係人の届出について	函館地方裁判所民事部		1960	昭和	35	3	31	書類	21-136に添付されていたものか。昭和35年5月25日更正債券届出済との手書き記載あり。	21	1
21	138	東方文化大学草案				昭和				書類	中日文化交流基金などにより大阪千里丘に設立の案。	21	1
21	139	今井武夫書簡	今井武夫	日本硫鉄株式会社 管財人の草稿	1960	昭和	35	8	4	書簡	日本硫鉄株式会社に対する債権債務の相殺希望の手紙の原稿。8月5日付け書留郵便物受領証あり。	21	1
21	140	風間卓書簡	風間卓	今井武夫	1964	昭和	39	5	20	書簡	汪兆銘の号「精衛」についての説明。	21	1
21	141	「特産小金井種の研究」	朝日新聞社		1957	昭和	32	6	20	新聞	朝日新聞。記事に出てくる伊藤産婦人科医は川上護の友人。新聞切抜。	21	1
21	142	西浦進氏追悼編纂趣意書	西浦進氏追悼編纂委員会		1971	昭和	46	3		書類	追悼録委員会が正しいであろう。	21	1
21	143	西浦進氏追悼録編纂委員会書簡	西浦進氏追悼録編纂委員会	今井武夫	1971	昭和	46	3		書簡	回想記事5枚と追悼記事3枚の原稿依頼。	21	1
21	144	西浦進氏追悼録編纂発起人名簿と編纂委員名簿	西浦進氏追悼録編纂委員会		1971	昭和	46	3		書類	西浦は陸士34期。	21	1
21	145	小笠原清書簡	小笠原清	今井武夫	1971	昭和	46	3	8	書簡	西浦進氏追悼録編纂発起人名簿に、今井の名前を勝手に入れたが、ご了承う。西浦との回想追悼記の依頼。	21	1
21	146	西浦進氏追悼録 支那派遣軍司令部時代執筆	西浦進氏追悼録編纂委員会		1971	昭和	46	3		書類	今井には支那派遣軍第一課長時代を中心に原稿5枚依頼。西浦は戦後防衛庁戦史室長だった。	21	1
21	147	西浦進氏追悼録編纂準備委員会書簡	西浦進氏追悼録編纂準備委員会	今井武夫	1971	昭和	46	2		書類	追悼録作成の発起人依頼。	21	1
21	148	西浦進氏追悼録編纂委員会書簡	西浦進氏追悼録編纂委員会	宛先不明	1971	昭和	46	4	12	書類	募金依頼。一口千円。	21	1
21	149	西浦進氏追悼録編纂委員会書簡	西浦進氏追悼録編纂委員会	今井武夫	1971	昭和	46	4	15	書類	寄付金恵送に対するお礼。伊藤の印のある寄付金領収書同封あり。	21	1
21	150	ショウジンガワの会名簿			1958	昭和	33			書類	今井、川上魏ら会員。年は推定。	21	1
21	151	東京長高会 役員（案）				昭和				名簿	今井は顧問。	21	1
21	152	「愛馬祭に感心高まる」			1960	昭和	35	4		新聞	掲載紙不明。4月8日第三回愛馬祭（於靖国神社）。	21	1
21	153	「日華事変」内容構成			1972	昭和	47	3		書類	21-158ブリタニカ関連（1972年頃）か。M i l . とあり裏に国際開発センターフロンティア協会事業団中村末一の名前の記載あり。年月は推定。	21	1
21	154	陳伯藩 談メモ	今井武夫		1961	昭和	36	8		メモ	赤坂飯店の罫紙2枚に記載。汪兆銘の息子と娘の名前など記載。	21	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
21	155	陳伯藩談	今井武夫			昭和		10	19	メモ	封筒の裏に記載。陳伯藩は汪南京政権の外交部公使だった。呉佩孚は蒋介石から月10万円の補助を受けたが歯科医に毒殺された。10月19日付。	21	1
21	156	余仲剛書簡	余仲剛	永野巖	1970	昭和	45	10	19	書簡	日華協力。台湾宜蘭県と福山市からの蘭草栽培供給について。複写。同一2枚あり。21-171参照。	21	1
21	157	中国国民革命史目次（草案）				昭和				書類		21	1
21	158	ブリタニカ編集局に対する質問	今井武夫		1972	昭和	47	3		メモ	21-153関連か。年月は推定。	21	1
21	159	「天声人語 北ベトナム問題について」	朝日新聞社		1969	昭和	44	1	6	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	21	1
21	160	「天声人語 保険医療問題 架空請求」	朝日新聞社		1969	昭和	44	5	16	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	21	1
21	161	「天声人語 ゾウの生態について」	朝日新聞社		1971	昭和	46	3	18	新聞	朝日新聞。新聞切抜。	21	1
21	162	原稿作成のメモ	今井武夫		1959	昭和	34			メモ	1958年3月24日「アジア研究」の裏に記載。年度は全くの推定。	21	1
21	163	日台合弁等のメモ	今井武夫			昭和				メモ	裏にも記載あり。	21	1
21	164	民主同盟等中国語の単語の羅列				昭和				メモ	中国人の書いたメモか。日本硫鉄株式会社の野紙に記載。2枚は裏にも記載あり。3枚。	21	1
21	165	陸上自衛隊調査学校の封筒				昭和				封筒	今井武夫宛。封筒のみ。	21	1
21	166	陸上自衛隊幹部学校修親会の封筒	中島賢		1971	昭和	46			写真	今井武夫宛。封筒の中身なし、中島は二佐。21-149を入れた封筒か。	21	1
21	167	山西実業公司ほか	今井武夫		1962	昭和	37			メモ	1961年8月2日「アジア研究」の裏に記載。年度は年度は全くの推定。	21	1
21	168（欠番）												
21	169	梅桜林についてと石坂泰三らの人名	今井武夫			昭和				メモ	2枚。	21	1
21	170	徐樹錚に関する史話	今井武夫			昭和				メモ		21	1
21	171	椎茸、蘭草、郎草の台湾宜蘭県での栽培について	今井武夫		1970	昭和	45			メモ	3枚。21-156関連。	21	1
21	172	会社更生法162条 相殺	今井武夫		1960	昭和	35			メモ	21-139関連か。	21	1
21	173	杉工作について	今井武夫		1966	昭和	41			メモ	贋造偽紙幣工作。1965年5月19日「アジア研究」の裏に記載。年度は全くの推定。	21	1
21	174	中華語文・日本語文の翻訳コンピューターの研究・開発・製作計画案				昭和				書類		21	1
21	175	台北における私立特許理工専科学校設立計画				昭和				書類	今井武夫閣下とある。	21	1
21	176	五行研究社章程（摘要）			1965	昭和	40	12		書類	2枚。社長は汪季高（雙桐館主）。1-36参照。	21	1
21	177	僧侶の写真			1936	昭和	11			写真	今井武官恵贈 黙爾根呼図克図拜贈とある。モンゴル人のラマ僧か。年は推定。	21	2
21	178	メモと図	今井武夫		1971	昭和	46			メモ	一星会の野紙の裏に記載、21-177の写真に同封。年は推定。	21	2
21	179	風間卓書簡	風間卓	今井武夫	1960	昭和	35	2	28	書簡	汪兆銘論に関する資料送付。	21	3
21	180	汪兆銘論	風間卓		1960	昭和	35	2	28	書類	1937年8月20日発行 外務省情報部・興亜院・大東亜省で支那・中国研究に従事した 波多野乾一著『現代支那の政治と人物』（改造社）より引用。	21	3
21	181	編遣会議と南北争覇戦 汪精衛の国民政府主義を推戴 並に改組派の由来	風間卓		1960	昭和	35	2	28	書類	1940年風間卓著『近世中華民国史』（叢文閣）による。	21	3
21	182	九・一八事変後の汪兆銘の役割	風間卓		1960	昭和	35	2	28	書類	風間卓著『近世中華民国史』（叢文閣）p. 338による。	21	3
21	183	汪兆銘略歴	風間卓		1960	昭和	35	2	28	書類	外務省記録より。	21	3
21	184	写真送付状	木村宇一郎		1977	昭和	52	12	31	封筒	木村から送られた写真には12-所収のものもある。21-4所収の封筒。	21	4

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
21	185	勲章の写真				昭和				写真	各種勲章。	21	4
21	186	勲章名列記	木村宇一郎		1952	昭和	27			書類	21-185の写真の勲章の説明か。	21	4
21	187	満州国皇帝 溥儀			1934	昭和	9			写真	年は推定。	21	4
21	188	第16師団長 石原莞爾中将 1939年から41年の間 年度は推定			1939	昭和	14			写真		21	4
21	189	上海戦線 焦土と化した松江の市外を進む長谷川部隊			1937	昭和	12			写真		21	4
21	190	上海戦線 揚江鎮を占領後、更に前進せんとする日本部隊			1937	昭和	12			写真		21	4
21	191	上海北停車場附近の敵主力に迫る陸戦隊装甲車の活躍			1937	昭和	12			写真		21	4
21	192	上海戦線 公平路附近にて襲い来る敵戦車を迎え撃つ陸戦隊			1937	昭和	12			写真		21	4
21	193	北支戦線 良郷県城の城壁より敵を攻撃する鈴木部隊			1937	昭和	12			写真		21	4
21	194	北支戦線 涿州攻略戦における小林部隊の重機隊			1937	昭和	12			写真		21	4
21	195	北支戦線 涿州入城一番乗りの遠山部隊			1937	昭和	12			写真		21	4
21	196	北支戦線 広霊場内の残敵掃討中の平岩部隊			1937	昭和	12			写真		21	4
21	197	北支戦線 敵を追い娘子関の嶮にいでむ小林部隊			1937	昭和	12			写真		21	4
21	198	秦淮河を渡り南京城中華門より入城せんとする日本軍			1937	昭和	12			写真		21	4
21	199	南京占領後市内を通過中の日本軍			1937	昭和	12	12		写真	日付は全くの推定。	21	4
21	200	今井「鼓楼会」	西浦進氏追悼編集委員会		1971	昭和	46	11	15	冊子	西浦進。複写。21-143～146関連。陳昭凱参謀のことも記載あり。西浦は前年の昭和45年11月5日に死去。	21	5
21	201	Essays in the History of the Chinese Republic	Center for Asian Studies			昭和				書類	Matsumoto Shigeharu in Shanghai by Noriko Kamachiもある。	21	5
21	202	Some Articles to Appear in Future Issues	Center for Asian Studies			昭和				書類	裏もあり。	21	5
21	203	Establishment of a Korean Legation in the United States : 1887-1890	Center for Asian Studies			昭和				書類		21	5
21	204	三宝利生会書簡	三宝利生会	宛先不明	1956	昭和	31	2		書簡	会長大谷瑩潤、理事長近藤良譲のご挨拶。大谷照乘委員長の仏保再建委員会により更生の途についた。近藤は常務理事だった。	21	6
21	205	近藤良譲書簡	近藤良譲	今井武夫	1956	昭和	31	3	14	書簡	仏保再建の報告。三宝は仏法僧のこと。利生とは利益衆生、興法利生。大谷照乘連枝も「今井先生もこのような営利事業から手を引きになるべき」。	21	6
21	206	近藤良譲書簡	近藤良譲	今井武夫	1956	昭和	31	4	20	書簡	三宝利生の経過報告。	21	6
21	207	財団法人仏教利生社 設立趣意書 事業計画書（案）		今井先生	1956	昭和	31			書類	手書き。	21	6
21	208	財団法人仏教利生社 設立趣意書 事業計画書（案）			1956	昭和	31			書類	印刷されている。同一2部あり。	21	6
21	209	財団法人仏教利生社 設立趣意書 事業計画書			1956	昭和	31			書類		21	6
21	210	財団法人仏教利生社 寄付行為 案		今井先生	1956	昭和	31			書類	理事の案に今井も入っている。	21	6

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
21	211	財団法人仏教利生社 寄付行為			1956	昭和	31			書類	今井は常務理事となっている。まだ正式なものではない。日付け、住所等記載なし。	21	6
21	212	三宝利生会 定款			1956	昭和	31	1	25	書類		21	6
21	213	三宝利生会 関連メモ	今井武夫		1956	昭和	31			メモ	三宝利生会と三宝本社等の関連図。Ento Bussann Co.の罫紙に記載。	21	6
21	214	財団法人仏教利生社 創立世話人 書簡	財団法人仏教利生社 創立世話人	宛先不明	1956	昭和	31	7		書簡	創立準備打合会を7月25日晩水軒で行う案内。世話人に今井の名前もあり。	21	6
21	215	覚書	福島世根、仏教利生社 創立準備委員会		1956	昭和	31	7	7	書類	福島世根と仏教利生社創立準備委員会との間の福島所有する神龍盆寄付に関する覚書。複写。準備委員会の名簿には今井も含まれる。	21	6
21	216	漢朝神龍盆由来稿	近藤良譲		1956	昭和	31	10		書類	徳川家康から福島正則の子忠勝に賜った、漢の武帝にまつわる神龍盆について。	21	6
21	217	陳昭凱	陳昭凱		1971	昭和	46			名刺	陳の肩書は中華民国駐日本国大使館顧問。陸軍中將で終戦時支那派遣軍総司令部と緊密な交渉にあたった参謀。21-200参照。Chen Chao-Kai。	21	7
21	218	宋越倫	宋越倫		1969	昭和	44			名刺	肩書は中華民国駐日本国大使館顧問。1-34参照。年度は全くの推定。	21	7
21	219	冷欣 容庵	冷欣		1975	昭和	50			名刺	肩書は国防研究院講座東呉大学教授 中国文化学院教授。台北と今井の自筆記載あり。年は推定。元中將。	21	7
21	220	黄金発	黄金発		1975	昭和	50	7		名刺	肩書は彰化商業銀行宜蘭分行。	21	7
21	221	王武	王武		1975	昭和	50			名刺	台北在住。元大佐。Wang Wu。年は推定。	21	7
21	222	何応欽	何応欽		1975	昭和	50	7		名刺	肩書は陸軍一級上將。Ho Ying-Chin	21	7
21	223	伊藤博教	伊藤博教		1975	昭和	50			名刺	肩書は在中華民國日本国大使館公使。	21	7
21	224	井口貞夫	井口貞夫			昭和				名刺		21	7
21	225	色紙	安岡正篤		1940	昭和	15			書類	年は推定。	21	7
21	226	色紙	仙堂		1923	大正	12			書類	作は仙堂か。戊寅秋とあるから1923年か1983年だが1983年だとすでに今井は物故している。年は推定。	21	7
21	227	譚軍凱	譚軍凱		1953	昭和	28	9	5	写真	今井武夫將軍存念とある。	21	7
21	228	ハノイ、バンコック、カルカッタの地図	参謀本部陸地測量部		1937	昭和	12	11		地図		21	7
21	229	海南島・サイゴン・ラングーン	参謀本部陸地測量部		1941	昭和	16	10		地図		21	7
21	230	亜細亜大陸図地図	大日本帝国陸地測量部		1934	昭和	9	2	5	地図	人種及民族分布図あり。	21	7
21	231	秘められた昭和史	林正義編		1965	昭和	40	7	15	書籍	園田次郎「盧溝橋事件の謎」に今井について記載あり。鹿島研究所出版会発行。園田は元朝日新聞中国特派員。	21	7
21	232	星条旗墮ちたり 比島作戦従軍手記	寺下宗孝		1943	昭和	18	5	30	書籍	寺下は陸軍報道班員。揚子江社。	21	7
21	233	はるかなる山河に	東大戦没学生手記編纂 出版委員会		1947	昭和	22	12	4	書籍	再版。39名の東大出身学生の手記。東大協同組合出版部。	21	7
21	234	軍事秘密 仏印事情	参謀本部		1941	昭和	16	10	30	冊子	11-178に同じ。	21	7
21	235	柿沢進 (59才) 略歴	今井武夫		1964	昭和	39	12	15	履歴書	元 天津男子高級中学校副校長。	21	8
21	236	河辺虎四郎回想録 245頁の転記	今井武夫		1979	昭和	54	6		メモ	昭和20年7月18日(水)の日記か。「南京で今井少将と会い重慶工作の説明詳取。今井と何柱国との会見は興味ある話」とある。毎日新聞から出された本の発行日は、7月。「河辺虎四郎回想録」は、柴田所有とある。	21	8
21	237	影佐禎昭さん	今井武夫		1980	昭和	55	8		原稿	3-54の原稿か。ばらばらで全6枚。	21	8
21	238	人情味豊かな寺内元帥	今井武夫		1978	昭和	53	4		原稿	1-8の原稿。「アジア研究」1969年10月6日号の裏に記載。4枚。月は推定。	21	8

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
21	239	人情味豊かな寺内元帥	今井武夫		1978	昭和	53	4		原稿	1-8の原稿。原稿用紙に記載。3枚。月は推定。	21	8
21	240	北京暁月会々報 2号	暁月会事務局		1971	昭和	46	6	15	書類	今井「在支談片録(1) 何応欽將軍」。会報だが1枚のみ。表裏記載あり。4-76に同じ。風間古城の漢詩あり。	21	8
21	241	曹大中先生治喪委員会書簡	曹大中先生治喪委員会	今井武夫	1981	昭和	56	3		書簡	曹大中將軍3月4日死去の訃報連絡。74歳。	21	9
21	242	曹大中遺像写真	曹大中先生治喪委員会		1981	昭和	56	3		写真	裏に曹大中の業績記載あり。21-241に挿入。	21	9
21	243	曹大中、王延齡、三石照雄、今井の会食			1971	昭和	46	12	8	写真	於帝国ホテル地下中国飯店。ポラロイド写真。	21	9
21	244	曹大中書簡	曹大中	今井武夫	1970	昭和	45	4	4	書簡	曹大中の名刺に記載。互いに祖国のために邁進しましょう。	21	9
21	245	曹大中	曹大中			昭和				名刺	肩書は人生哲学研究会常務理事ほか。今井武夫夫妻の健勝を祈ると書いてある。戦後のもの。曹は日本の陸士出身。	21	9
21	246	曹大中の長男曹彤・小陽夫妻	周少陽		1971	昭和	46	12	2	写真	今井武夫伯父・伯母宛世姪敬呈とある。台湾永和撮影したもの。	21	9
21	247	一星会運動に就いて	吉村是二		1971	昭和	46	5	10	冊子	『師と友 5月号』「中国の想出」からの抜刷。日付は推定。	21	4
21	248	何応欽將軍著 広島行の出版にあたって	吉村是二		1969	昭和	44	8	6	書類	初版2-29発行の際の前書きにあたる。根本博中将のことなど。22-16に同じ。	21	10
21	249	今井「何応欽將軍と日本人の帰国」	何応欽		1971	昭和	46	8	1	冊子	初版2-29の再版。追加。1971年7月1日記と末尾にあり。2-30と同じだが今井の訂正箇所あり。	21	10
21	250	吉村是二書簡	吉村是二	今井武夫	1971	昭和	46	9	2	書簡	根本博の冊子を作ることでの相談。「広島行」を送る。21-249に挿入。内外動燃株の野紙に記載。	21	10
21	251	何応欽將軍の肖像写真				昭和				写真	21-249に挿入。	21	10
21	252	飛内正六「惜しい人・尾崎秀実」 永津佐比重「若きある日の出来ごと」	北願会		1976	昭和	51	6	10	冊子	北願会。	21	11
21	253	汪兆銘33回忌法要席での挨拶文	今井武夫		1976	昭和	51	11	9	原稿	中央電機工業社の野紙に記載。3枚。	21	11
21	254	台湾旅行について	今井武夫		1975	昭和	50	8		原稿	「アジア研究」1969年5月23日付の裏に記載。3枚。	21	11
21	255	10月29日愛宕山NHK講演	今井武夫		1973	昭和	48	10	29	メモ	2枚。裏もあり。	21	11
21	256	桐工作について	今井武夫		1970	昭和	45			原稿	「アジア研究」1969年5月27日付の裏に記載。3枚。年度は全くの推定。	21	11
21	257	日本軍の政謀略	今井武夫		1970	昭和	45			原稿	「アジア研究」1969年7月11日付の裏に記載。3枚。年度は全くの推定。	21	11
21	258	敗戦後の芷江連絡	今井武夫		1969	昭和	44			原稿	「アジア研究」1968年10月14日付の裏に記載。3枚。年度は全くの推定。	21	11
21	259	「見直される中国封建制論」			1980	昭和	55	7		雑誌	掲載誌不明。雑誌切抜。複写。1枚。	21	11
21	260	今井「総会報告」 今井「大会こぼれ話」 座談会「大会を顧みて」	陸士三十期生会		1968	昭和	43	8	15	冊子	第三十期生会 会誌8号 任官50周年記念大会 特別号。今井は座談会に参加。大会は5月5日東京で泊りがけで開催された。	21	11
21	261	ロシアの東亜侵略満州問題				昭和				原稿	原稿用紙1枚めのみ。はしがきと目次冒頭部分のみ。	21	11
21	262	欠落原稿				昭和				原稿	78ページのみ。タイプ印刷してある。最後のページで2行のみ。原稿から欠落したもの。	21	11
21	263	執筆要領	TBS ブリタニカ 編集局		1972	昭和	47			冊子		21	11
21	264	TBSブリタニカ編集局長書簡	TBS ブリタニカ 編集局長	今井武夫	1972	昭和	47	3	7	書簡	「ブリタニカ国際百科辞典」への「日華事変」執筆依頼。21-276関連。TBSブリタニカは現在阪急電鉄の子会社となり阪急コミュニケーションズとなっている。21-263に挿入。	21	11
21	265	今井武夫宛 原稿依頼伝票	TBS ブリタニカ 編集局	今井武夫	1972	昭和	47	3	7	書類	締切 7月30日。250字で70枚。21-263に挿入。	21	11
21	266	TBSブリタニカから依頼された「日華事変」原稿の目次構成	今井武夫		1972	昭和	47	3		原稿	「アジア研究」1971年2月1日の裏に記入。1枚。21-263に挿入。	21	11

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
21	267	原稿メモ	今井武夫		1972	昭和	47			メモ	日中戦争の原稿の項目列挙してある。「アジア研究」1971年4月17日の裏に記入。3枚。年は推定。年度は全くの推定。	21	11
21	268	影佐禎昭33回忌にあたっての原稿	今井武夫		1980	昭和	55	8		原稿	21-237とは別のもの。裏もあり。3-54の原稿か。	21	11
21	269	随筆 台北旅行の原稿	今井武夫		1975	昭和	50	8		原稿	「アジア研究」1969年5月23日と1970年8月7日の裏に記入。9枚。	21	11
21	270	「台湾の民間機 台北で墜落・炎上」	朝日新聞社		1975	昭和	50	8	1	新聞	朝日新聞。新聞切抜。「アジア研究」1969年5月23日の裏に貼付。21-269に添付。	21	11
21	271	終戦後中華民国の好意的態度 日本の 中共と中華民国への態度	今井武夫		1971	昭和	46			原稿	日中国交回復前のものか。「アジア研究」1970年1月9日の裏に記入。5枚。年度は全くの推定。	21	11
21	272	中国の民情 講話案 項目メモ	今井武夫			昭和				メモ	中央電機工業社の罫紙に記載。2枚。	21	11
21	273	創立55周年記念絵葉書 旧校舎の写真	長野県長野北高等学校 同窓会		1954	昭和	29			絵葉書	長野中学は戦後の昭和23年から昭和32年まで長野北高校と称した。15-15にもあり。	21	11
21	274	創立55周年記念絵葉書 旧制中学・高 校の記章と校歌の写真	長野県長野北高等学校 同窓会		1954	昭和	29			絵葉書	長野中学は戦後の昭和23年から昭和32年まで長野北高校と称した。	21	11
21	275	創立55周年記念絵葉書 旧校舎と裏山の写真	長野県長野北高等学校 同窓会		1954	昭和	29			絵葉書	長野中学は戦後の昭和23年から昭和32年まで長野北高校と称した。	21	11
21	276	ブリタニカ国際大百科事典 15	TBS・ブリタニカ		1974	昭和	49	10	1	書籍	今井「日華事変」切抜。複写。5枚。7頁。21-264関連。18-310と18-311は原稿か。	21	11
21	277	ご大礼東京市奉祝花電車 郵便絵葉書	通信省		1928	昭和	3	12		絵葉書	昭和天皇の即位礼が前月（11月）10日に行なわれている。3種類。16-15と異なる種類。	21	11
21	278	もはんだ東京全図	日本地図株式会社		1953	昭和	28	1	10	地図		21	11
21	279	「北京の招魂祭における今井の祭文」	新支那社		1936	昭和	11	4	28	新聞	日刊新支那。肩書は正六位勲四等とあるが、20-34では翌年正六位となるので矛盾する？同じ新聞を2つに切抜いたもの。	21	11
21	280	「天津での招魂祭」	新支那社		1936	昭和	11	4	28	新聞	日刊新支那 昭和11年4月28日号。	21	11
21	281	今井「田中内閣の日中国交正常化」を 評価するかのアンケートに対する答 え」	中華民国支援日本委 員会		1972	昭和	47	11	1	冊子	日華時報。支援は支援の間違いか。	21	11
21	282	比律賓協会会長徳川頼貞書簡	比律賓協会会長徳川 頼貞	今井武夫	1952	昭和	27	3	10	書簡	財団法人比律賓協会理事就任依頼。	21	11
21	283	何応欽将軍に 感謝署名簿拝呈の辞	一星会同人		1971	昭和	46	6	1	書類	一星会は吉村是二、今井らが率いるもの。	21	11
21	284	一星会由来	一星会同人		1971	昭和	46	6	1	書類	21-283に添付。	21	11
21	285	何応欽	何応欽		1975	昭和	50	7		名刺	肩書は陸軍一級上將。Ho Ying-Chin。21-222と同じだが台北の住所が記載されている。年は推定。	21	11
21	286	第三十期生会 会員名簿 16号 規約 並びに会費基金 寄付金醜金状況一覧	陸士三十期生会		1975	昭和	50	5		冊子	現存者173名。	21	11
21	287	昭和49年度決算報告書	陸士三十期生会		1975	昭和	50	5		書類	21-286に挿入。同一2枚あり。	21	11
21	288	昭和50年度陸士三十期生会定期総会出 席者一覧表	陸士三十期生会		1975	昭和	50	5	22	書類	21-286に挿入。於明治神宮会館。今井出席。正会員38名。	21	11
21	289	文部省調査 中等学校 中等学校作法 要項解説	中等教育学会		1929	昭和	4	1	28	書籍	改訂版。	21	11
21	290	軍事郵便絵葉書 フィリピン戦線のも のほか			1942	昭和	17			絵葉書	8種。年代は推定。	21	11
21	291	第三十期生会 会員名簿 17号 同期 生会規約、内規、会費、基金 寄付金 一覧	陸士三十期生会		1978	昭和	53	4		冊子	現存者141名。	21	11
21	292	昭和49年度決算報告書	陸士三十期生会		1978	昭和	53	4		書類	21-291に挿入。	21	11

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
21	293	陸士三十期生任官60周年記念大会実施の通知	陸士三十期生会東京世話人会		1978	昭和	53	6	25	書類	5月25日に日実施した内容の事後報告。於かんポール京都。今井は欠席。	21	12
21	294	陸士三十期生京都記念大会出席者	陸士三十期生会		1978	昭和	53	6	25	書類	正准会員合計144名出席。正会員は51名出席。	21	12
21	295	陸士三十期生任官60周年記念大会会計報告書	陸士三十期生会		1978	昭和	53	6	25	書類	任官50周年大会、55周年大会についても参考として記載あり。	21	12
21	296	日本郷友連盟中野区郷友会書簡	日本郷友連盟中野区郷友会	今井武夫	1967	昭和	42	8	1	書簡	倉田定雄会長から今井に顧問委嘱。	21	13
21	297	「実証・以德報怨 30年目に聞く日本側の”秘められた声”」	産経新聞出版局		1975	昭和	50	5	27	雑誌	週刊サンケイ 緊急増刊 蒋介石総統のすべて。114～116頁に今井の証言あり。	21	13
21	298	陸士四十一期生会 会誌 任官45周年記念	陸士四十一期生会		1974	昭和	49	10	25	冊子	今井は恩師の一人として登場。	21	13
21	299	高橋久志「支那事変の泥沼化と国家戦略の行き詰まり」	PHP研究所		1986	昭和	61	5	7	雑誌	「国家戦略の分裂と錯誤（下）-日本近代と戦争 4」。1939年5月16日付けの田尻愛義（総領事）「竹内工作に関する今井大佐との会談記」（外務省外交史料館蔵「支那事変ニ際シ支那新政府樹立関係一件（第二巻）に所収）について言及。	21	13
21	300	アジア復興運動の実践者 中村寧小伝	伊東六十次郎		1974	昭和	49	4	10	冊子	伊東は長野出身の歴史家。表紙の扉の裏に「今井武夫様御恵存 森山誠之 昭和49年4月29日」とある。	21	13
21	301	森山誠之書簡	森山誠之	今井武夫	1974	昭和	49	4	30	書簡	伊東六十次郎著の冊子を送る。満州事変について意見乞う。21-300に挿入。21-302と同じ資料。	21	13
21	302	満州事変の評価に関する今井の考え	今井武夫		1974	昭和	49	5	2	メモ	21-301に対する今井の返事案。21-301の末尾に記載されている。5月2日返事とある。21-301と同じ資料。	21	13
21	303	満州事変に関する意見メモ	今井武夫		1974	昭和	49	5	2	メモ	1枚。4項記載あり。21-300に挿入。日付は推定。	21	13
21	304	民族のいのち 8号	伊東六十次郎		1971	昭和	46	10	10	書類	21-300に挿入。伊東は長野県出身の歴史家。	21	13
21	305	今井武夫宛委嘱状	青木一男	今井武夫	1967	昭和	42	11	15	書類	善光寺日本忠霊殿造営奉賛会参与の委嘱。青木は会長。	21	13
21	306	今井武夫宛委嘱状	青木一男	今井武夫	1968	昭和	43	11	4	書類	善光寺日本忠霊殿造営奉賛会参与の委嘱。青木は会長。21-305と同じ内容だが年度が異なる。	21	13
21	307	今井武夫宛委嘱状	神林美治	今井武夫	1977	昭和	52	4	16	書類	信濃育英会から今井宛に理事の委嘱。神林は会長。	21	13
21	308	小川平吉関係文書	小川平吉文書研究会		1938	昭和	13	5	10	日記	『小川平吉日記』の5月10日から11月5日までの部分の複写。380頁～423頁まで。22枚。近衛公と日中和平工作につき記載。昭和48年複写したもの。みずず書房。小川は長野県諏訪出身。元鉄道相。宮沢喜一の外祖父。小川は萱野長知と組んで和平工作を行なった。	21	13
21	309	何応欽「田中首相の政策転向に忠告する」	自由アジア社		1972	昭和	47	9	15	雑誌	自由世界 9月号。21-283の「一星会」は吉村、今井らが率いると言及している。	21	13
21	310	原勝書簡	原勝	今井武夫	1981	昭和	56	3	5	書簡	娘のモスクワ飛行機事故に関する本の送付。原は戦前から付き合いのあるジャーナリスト。新国民外交調査会理事長。	21	13
21	311	原勝書簡	原勝	今井武夫	1981	昭和	56	3	10	書簡	次女孝子の病気見舞い。	21	13
21	312	原勝書簡	原勝	今井武夫・俊子	1981	昭和	56	12	8	書簡	次女孝子の死に対する悔やみ。この頃今井は入院中。	21	13
21	313	汪兆銘先生17周年追悼記念会関係者名簿			1960	昭和	35	11	10	冊子	13-1と同一か。命日日期日11月10日とある。93名の名前と住所記載あり。	21	13
21	314	梨本宮殿下と富山県護国記念館	富山県護国記念館			昭和				絵葉書	戦後のもの。	21	13
21	315	賀陽恒憲年賀状書簡	賀陽恒憲	今井武夫	1977	昭和	53	1	1	書簡		21	13
21	316	葦津珍彦「S・C ボースと汪精衛と」 葦津珍彦「地下活動に終始した 故伊藤藤芳男君の横顔」	新勢力社		1972	昭和	47	4	15	雑誌	「新勢力 4」。「新勢力」は新勢力クラブ機関紙。西村展蔵につき記載あり。葦津は小川平吉と組んで和平工作を行なった萱野長知の親友 葦津耕次郎の息子。S・Cは スパス・チャンドラの略。	21	13
21	317	頭山統一「埋没された情熱の復権 日華和平工作史文献紹介」	小日本社		1977	昭和	52	2	1	雑誌	小日本。統一は「もとかず」。	21	13

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
21	318	若き日の遍歴	団野信夫		1976	昭和	51	9		冊子	団野は元大阪朝日新聞記者。40頁に今井と辻政信のことを記載している。昭和48年8月25日～昭和50年3月25日まで「えんびつ」は朝日新聞東京本社編集局で作っている月刊小冊子。団野については14-627参照。	21	13
21	319	団野信夫	団野信夫		1976	昭和	51	9		名刺	21-318に挿入。肩書きは日本農業研究所。	21	13
21	320	桜井弘之書簡	桜井弘之	今井武夫	1980	昭和	56	2		書簡	桜井弘之は徳太郎の弟。徳太郎が12月28日83歳で死去したことの連絡。	21	13
21	321	マニラへの道	日本リサール協会		1972	昭和	47	7	10	冊子	4月26日東京会館で行なわれた日比学生交換打合会議についての報告。今井は日本リサール協会理事として出席。	21	13
21	322	柴山兼四郎書簡	柴山兼四郎	今井武夫	1953	昭和	29	1	1	書簡	年賀状。	21	13
21	323	高橋坦書簡	高橋坦	今井武夫	1971	昭和	46	4	20	書簡	読売新聞社からインタビュー2時間ばかり受けた。記事は多少修飾してある。田代閣下のことはあの通りです。「昭和史の天皇」のことか。	21	13
21	324	軍旗の写真と富山第69連隊の代々の連隊長名記載絵葉書	富山県護国記念館			昭和				絵葉書	戦後のもの。21-371に今井が名前修正したものあり。	21	13
21	325	阪田誠盛書簡	阪田誠盛	今井武夫	1969	昭和	44	7	20	書簡	戦後は井戸垣駿主計大佐、次いで石光主計大佐に身を任せがうまくいかない。悔悟の24年間である。坂田は昔の軍属。佐野真一『阿片王 満州国の夜』（新潮社）に270～271頁に戦後の阪田について記載あり。	21	13
21	326	蒙古についての講話要旨	矢野光二		1972	昭和	47	3	10	冊子	矢野は元大佐。	21	13
21	327	矢部忠太・桑原寿二対談、司会武内昌次「中ソ国境紛争と日本」	国際善隣倶楽部		1970	昭和	45	1	10	冊子	正誤表挿入あり。	21	13
21	328	畑俊六書簡	畑俊六	今井武夫	1960	昭和	35	1	1	書簡	年賀状。	21	13
21	329	西尾寿造書簡	西尾寿造	今井武夫	1960	昭和	35	1	1	書簡	年賀状。	21	13
21	330	大谷照乗書簡	大谷照乗	今井武夫	1963	昭和	39	1	1	書簡	年賀状。北京の思い出。感謝しております。	21	13
21	331	大谷照乗・寿子書簡	大谷照乗・寿子	今井武夫	1964	昭和	39	7	21	書簡	暑中見舞。先般テレビを拝見しました。おなつかしく。大谷は西本願寺の連枝。	21	13
21	332	大谷照乗書簡	大谷照乗	今井武夫	1973	昭和	48	8	7	書簡	先日岡岡良雄氏夫妻来訪あり。北京の昔話に花が咲きました。大谷は西本願寺連枝。	21	13
21	333	村田省蔵書簡	村田省蔵	今井武夫	1966	昭和	41	1	1	書簡	年賀状。村田はフィリピン協会会長。	21	13
21	334	今井「思ひ出」 村上剛「今井武夫」	支那派遣軍報道部		1943	昭和	18	6	20	冊子	紙弾。村上剛（つよし）は文友主筆。1-90にもあり。	21	13
21	335	奈須田敬「活人・活書 参題 一国家・政治治・外交に関する一」	全国師友協会		1973	昭和	48	6	10	雑誌	「師と友」 6月号。	21	13
21	336	橋川文三著 「順逆の思想」に対する書評	聖教新聞社		1973	昭和	48	6	10	新聞	21-335に挿入。新聞切抜。聖教新聞。	21	13
21	337	三帰依文			1966	昭和	41	6		書類		21	13
21	338	岑徳廣の肖像写真	岑徳廣		1941	昭和	16	7		写真	今井大佐恵存とある。	21	13
21	339	岡村大将の肖像	岡村寧次		1946	昭和	21	12		写真	今井兄恵存「寧次」と岡村のサインあり。年は推定。岡村大将と別れる時に貰ったものか。年月は推定。	21	13
21	340	蒋介石訪問			1936	昭和	11	6	13	写真	蒋介石と陵園孔祥熙別邸にて。左から高宗武（巫州司長） 錢大均（侍従武官長） 蒋介石 今井武夫少佐 喜多誠一少将 雨宮巽中佐。	21	13
21	341	長田正治	長田正治			昭和				名刺	肩書は陸軍砲兵中尉。17兵団衛生隊治療とメモあり。	21	13
21	342	陸軍大臣官邸における外人将校との記念撮影 林銑十郎 杉山元参謀次長 永田鉄山軍務局長・少将 喜多誠一支那課長・大佐ほか 今井も含めて38名			1934	昭和	9	10		写真	11月からの特別大演習参観のための来日と思われる。当日配ったと思われるフランス語で書かれた記念の銀杯が今井家に伝わっている。	21	13
21	343	寺内寿一司令官と今井 万寿山			1937	昭和	12	10	20	写真	寺内元帥を今井が北平案内している。	21	13

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
21	344	西尾寿造大将 軍事参事官として転出記念 汪兆銘、今井たちと			1941	昭和	16	3	3	写真	今井、周隆庠と西尾寿造大将の副官。全5名。	21	13
21	345	青木宣純中將の胸像			1936	昭和	11	7		写真	1936年か37年。北平の武官室の庭にあった。年月は推定。	21	13
21	346	北支事変記念 武官室玄関前の今井と松井令			1937	昭和	12	7	28	写真	今井と松井の二人。松井は新聞記者か。	21	13
21	347	今井武夫陸軍少将			1943	昭和	18			写真	軍刀を持つ。	21	13
21	348	上海重光堂における高宗武、梅思平、周隆庠			1938	昭和	13	11	13	写真		21	13
21	349	今井夫妻と 次男信夫 於北平			1937	昭和	12			写真		21	13
21	350	船上の今井一家			1937	昭和	12	11		写真	北平から帰国時の写真か。姪の太田敦子もいる。年月は推定。	21	13
21	351	北平の大使館前の写真			1937	昭和	12	7		写真	盧溝橋事件のときのものか。年月は推定。	21	13
21	352	北平地方維持会長江朝宗と今井 北平離任記念写真			1937	昭和	12	10	26	写真	北平 天壇前にて。	21	13
21	353	今井の軍服姿の写真各種				昭和				写真	6種類 7枚。	21	13
21	354	今井の肖像写真				昭和				写真	戦後のもの。洋服姿。パスポート用か。同一2枚。	21	13
21	355	今井の写真				昭和				写真	軍服で縁側に腰掛けている写真。	21	13
21	356	今井の写真				昭和				写真	戦前。着物姿でくつろいでいる。	21	13
21	357	今井の肖像写真				昭和				写真	洋服姿のもの。	21	13
21	358	家の前の記念写真				大正				写真	結婚式の時に集合した親戚の写真か。年号は大正か昭和か。	21	13
21	359	剣道場での記念写真				昭和				写真	胴着をつけた小学生たちと大人との写真。全42名。	21	13
21	360	シベリア出兵のときの分列式			1921	大正	10	4		写真	富山歩兵第69連隊時代。連隊旗手。	21	13
21	361	シベリア出兵の頃の写真帖			1921	大正	10			写真	家族の結婚式のときと思われる写真もある。全43枚。	21	13
21	362	今井武夫宛相学鑑定書	白龍子	今井武夫	1952	昭和	27	4		書類	今井のこれからの人生を予測したもの。	21	13
21	363	御花押手本を入れた封筒	鈴木南石		1941	昭和	16	8		封筒	21箱-東14所収の袋。	21	14
21	364	御花押手本	鈴木南石		1941	昭和	16	8		書類	昭和辛巳初秋とある。	21	14
21	365	今井武夫宛御花押手本説明書	鈴木南石	今井武夫	1941	昭和	16	8		書類	南石は二世南石。	21	14
21	366	南石花押趣意書	鈴木南石		1941	昭和	16	8		書類	同一2枚あり。	21	14
21	367	鈴木南石宛 花押作成申込書		鈴木南石	1941	昭和	16			書類	同一2枚あり。	21	14
21	368	過疎地への自立を愛する人の移住について	今井武夫		1971	昭和	46	10	23	メモ		21	15
21	369	今井さきみ子宛葉書	今井武夫		1946	昭和	21	6	22	書簡	中国側の検閲印あり。1月末に出したさきみ子の手紙昨日みた。岳父、くめ、光雄の3人の死を知って驚いている。自分は元気である。	21	15
21	370	今井武夫書簡	今井武夫	宛先不明	1971	昭和	46			書簡	手紙の返事の草案。写真同封とある。内容まとまっておらず。「アジア研究」1970年10月14日号の裏に記載。年度は全くの推定。	21	15
21	371	軍旗の写真と富山第69連隊の代々の連隊長名記載絵葉書	富山県護国記念館			昭和				絵葉書	戦後のもの。21-324と同じだが、今井による連隊長の名前修正あり。	21	13
21	372	陸軍歩兵学校本部の写真絵葉書			1915	大正	4			絵葉書	今井俊子の幼児のときのひらがなでの手紙。年は推定、あるいは1930年代前半のものか。	21	13
21	373	徐敬	徐良		1941	昭和	16	7		写真	今井武夫大佐恵存とある。辛巳夏とある。	21	13
21	374	雑写真				昭和				写真	全34枚。戦前と戦後のものが混在している。家族のものが多い。	21	13

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
21	375	高橋久志 「第6章 支那事变 中華民族抵抗への誤算」	PHP研究所		1985	昭和	61	2	13	雑誌	「国家戦略の分裂と錯誤（中） -日本近代と戦争 3」。複写。259頁～298頁。	21	13
22	1	岡村寧次書簡	岡村寧次	今井武夫	1965	昭和	40	2		書簡	防衛庁戦史室に提出する戦史史料原稿への修正依頼。今井のほか小林浅三郎、西浦進、宮崎舜市、小笠原清にも同文にて岡村大將は依頼している。	22	1
22	2	昭和21年1月1日 4月24日の行動	今井武夫		1965	昭和	40			メモ	2-1に挿入。3枚。岡村大將の第2稿に対する修正意見か。	22	1
22	3	戦場体験記録 第一篇 降伏から帰還まで 「其一」	岡村寧次		1965	昭和	40	4		冊子		22	1
22	4	戦場体験記録 第一篇 降伏から帰還まで 「其二」	岡村寧次		1965	昭和	40	4		冊子		22	1
22	5	戦場体験記録 第一篇 降伏から帰還まで 「其三」	岡村寧次		1965	昭和	40	4		冊子		22	1
22	6	戦場体験記録 第一篇 降伏から帰還まで 「其四」	岡村寧次		1965	昭和	40	4		冊子		22	1
22	7	書評今井武夫氏著『昭和の謀略』	華交互助会		1968	昭和	43	3	30	冊子	華交。	22	1
22	8	孫子十家注 元	孫星衍		1936	昭和	11			冊子	1936年ころ北京の燕塵社風間より今井武官恵存とのメモの挿入あり。序と註巻一～。カバーの「注」は中では「註」を使用している。年号は推定。清の学者孫星衍・註のものか。年度はもらった年の推定。	22	1
22	9	孫子十家注 亨	孫星衍		1936	昭和	11			冊子	註巻四～。年度はもらった年の推定。	22	1
22	10	孫子十家注 利	孫星衍		1936	昭和	11			冊子	註巻八～。年度はもらった年の推定。	22	1
22	11	孫子十家注 貞	孫星衍		1936	昭和	11			冊子	註巻十一～十三。年度はもらった年の推定。	22	1
22	12	保建大記 乾	栗山潜鋒		1716	正徳	6			書籍	保安4年から建久3年に至る政治の変遷を論じた漢文体の史書。上巻。茨城多左衛門梓。	22	1
22	13	保建大記 坤	栗山潜鋒		1716	正徳	6			書籍	保安4年から建久3年に至る政治の変遷を論じた漢文体の史書。下巻。茨城多左衛門梓。	22	1
22	14	循分新書	呉佩孚		1929	昭和	4	8		冊子	蓬萊呉子玉著とある。呉佩孚のことか。己巳仲秋とある。年月は推定。	22	1
22	15	借陰居士手写本 維摩詰所説経	譚澤闈		1938	昭和	13	3		冊子	戊寅3月とあるから 1878年か1938年か。年は推定。	22	1
22	16	何応欽將軍著 広島行の出版にあたって	吉村是二		1969	昭和	44	8	6	書類	初版2-29発行の際の前書きにあたる。根本博中將のことなど。21-248に同じ。吉村は根本中將の副官兼通訳的存在。	22	1
22	17	第75連隊十一中隊会			1978	昭和	53	10	22	写真	於土浦京成ホテル。全39名。出席者の名前記載書類添付あり。	22	1
22	18	殷汝耕の肖像写真			1937	昭和	12			写真	軍服姿。年は推定。	22	1
22	19	殷家一族の写真			1937	昭和	12			写真	幼児を含めて全23名。年は推定。	22	1
22	20	南京会			1977	昭和	52	4	3	写真	三笠宮ご臨席。 於日本閣。全15枚。	22	1
22	21	南京会			1974	昭和	49	3	24	写真	三笠宮ご臨席。渡辺はま子も出席。於雅叙園。全13枚。21-75にも写真あり。	22	1
22	22	南京会 於日本閣			1979	昭和	54	3	25	写真	三笠宮ご臨席。 於日本閣。全2枚。	22	1
22	23	南京会			1968	昭和	43	3	17	写真	三笠宮ご臨席。 於日本閣。全3枚。清水菊三、山根定吉、今関靖夫も出席。	22	1
22	24	南京会			1976	昭和	51	3	21	写真	三笠宮ご臨席。 於日本閣。全12枚。	22	1
22	25	南京会			1980	昭和	55	3	25	写真	於日本閣。今井が挨拶している写真。21-85関連。	22	1
22	26	南京会出席者全員写真の名前				昭和				書類	21-75か21-77より後の南京会と思われる。写真の説明だが実物の写真なし。	22	1
22	27	リサール会準備会			1965	昭和	40	6	17	写真	於ホテル大倉。全16名。	22	1
22	28	北京曉月会出席者			1958	昭和	33	7	7	写真	全34名。於渋谷日本山妙法寺。	22	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
22	29	北京暁月会出席者37名			1959	昭和	34	7	7	写真	全37名。於渋谷日本山妙法寺。	22	1
22	30	北京暁月会出席者			1961	昭和	36	7	7	写真	出席者39名。於渋谷日本山妙法寺。この寺は戦後河辺正三大将が得度した寺。	22	1
22	31	北京暁月会出席者全員			1960	昭和	35	7	7	写真	全39名。於渋谷日本山妙法寺。1960年7月7日か。	22	1
22	32	北京暁月会の河辺正三 牟田口廉也 今井	大河内伸男		1964	昭和	39	7	7	写真	於九段日本山妙法寺。開催場所はそれまでの渋谷から、九段に変わっている。	22	1
22	33	北京暁月会出席者全員			1968	昭和	43	7	7	写真	全42名。於新宿区市ケ谷につしよ会館。	22	1
22	34	北京暁月会出席者全員			1970	昭和	45	7	7	写真	全29名。	22	1
22	35	北京暁月会			1973	昭和	48	7	7	写真	於日傷会館。2枚。	22	1
22	36	北京暁月会出席者全員			1975	昭和	50	7	7	写真	全29名。於傷兵ビル。	22	1
22	37	北京暁月会出席者全員			1976	昭和	51	7	7	写真	於日傷会館。全20名。	22	1
22	38	北京暁月会出席者全員			1977	昭和	52	7	7	写真	40周年記念。全24名。	22	1
22	39	北京暁月会			1977	昭和	52	7	7	写真		22	1
22	40	軍馬				昭和				写真	全46枚。調教訓練ほか。	22	1
22	41	会議写真				昭和				写真	洋服姿。	22	1
22	42	会議写真				昭和				写真	洋服姿。	22	1
22	43	会議写真				昭和				写真	洋服姿。	22	1
22	44	原勝	原勝			昭和				名刺	肩書は新国民外交調査会理事長	22	1
22	45	土居善二郎と 今井武夫			1965	昭和	40	12	24	写真	土居氏宅の近くで。	22	1
22	46	富山城天守閣	成田			昭和				写真	旧県庁跡。	22	1
22	47	富山佐藤美術館	成田			昭和				写真	旧県庁跡。	22	1
22	48	富山県営野球場	成田			昭和				写真	旧練兵場跡。	22	1
22	49	陸士同期の稲森利助と田中義男と今井 の3人	稲森利助		1966	昭和	41	6	4	写真		22	1
22	50	常安弘道書簡	常安弘道	今井武夫	1966	昭和	41	6	22	書簡	6月21日の「日本回顧録」懐かしく見た。張家口で懇意にもらった金井さんも懐かしかった。	22	1
22	51	常安弘道書簡	常安弘道	今井武夫	1967	昭和	42	7	7	書簡	30年前のこの日（7月7日）の盧溝橋事件を回想している。	22	1
22	52	人物14名	Abany Ali Ping			昭和				写真	全14名の写った写真3枚。With Best Wishes to General T. Imaiとある。	22	1
22	53	12名の記念写真			1977	昭和	52	4		写真	於望川楼。含む今井。長野中学の同窓生とその家族か。	22	1
22	54	中華民国の観光記念絵葉書			1975	昭和	50	7		絵葉書	台湾の絵葉書9枚。Views of Jiayih とある。封筒あり。年月は推定。Jiayihは台湾の嘉義。	22	1
22	55	中華民国の観光記念絵葉書			1975	昭和	50	7		絵葉書	台湾の絵葉書6枚。Views of Jiayih とある。封筒あり。Jiayihは台湾の嘉義。一部22-54と重複。年月は推定。	22	1
22	56	絵葉書	「産馬活惚」他							絵葉書	5枚。	22	1
22	57	北支那北部河北省地図	参謀本部陸地測量部		1929	昭和	5	3		地図		22	1
22	58	今井武夫宛本の借用書	熊谷一乗	今井武夫	1965	昭和	40	4	7	書類	名刺に記載。熊谷は毎日新聞社学芸部。影佐禎昭著「曾走路我記」1部借用書。	22	1
22	59	商震	商震			昭和				名刺	東京世田谷区在住。Thang Chen。商震は元河北省主席。元蔣介石の部下だった。	22	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備 考	参考 (箱)	参考 束
22	60	苗劍秋	苗劍秋			昭和				名刺	東京港区在住。戦後日本に亡命した。Miao Chien Chiu。かつては宋哲元の部下。上将。東京裁判の処刑に立ち会った。西安事件の関係者の一人。『支那事変の回想』16頁に記載あり。	22	1
22	61	曹大中	曹大中			昭和				名刺	裏に商震（22-59）、苗劍秋（22-60）の各住所と電話番号今井が記載している。曹の住所は瀋陽市。	22	1
22	62	阪田誠盛	阪田誠盛			昭和				名刺	阪田からの葉書の住所と名前を切り取って名刺代わりにしたもの。坂田は昔の軍属。佐野真一『阿片王 満州国の夜』（新潮社）に270～271頁に戦後の阪田について記載あり。	22	1
22	63	大島浩	大島浩			昭和				名刺	1955年12月釈放後のもの。	22	1
22	64	今井勇之進	今井勇之進			昭和				名刺	同郷長野出身。東北大学教授の肩書。	22	1
22	65	赤松貞雄	赤松貞雄			昭和				名刺	赤松は元大佐。東条首相秘書官。戦後のもの。	22	1
22	66	川越茂	川越茂			昭和				名刺	年号は推定。	22	1
22	67	那須義雄	那須義雄			昭和				名刺	肩書は小松製作所となっている。那須は陸士・陸大同期。	22	1
22	68	金雄白	金雄白			昭和				名刺	P. O. Boxは香港九龍。Y. B. King.。今井武夫先生と自書あり。	22	1
22	69	金雄白	金雄白			昭和				名刺	P. O. Boxの他に住所記載あり。	22	1
22	70	小別当惣三	小別当惣三			昭和				名刺	小別当は1974年11月になくなっている。住所は千葉県我孫子町となっている。	22	1
22	71	朴濟煥書簡	朴濟煥	崔氏		昭和				書簡	名刺に書かれた韓国水産研究長張錫来（または成？）氏の海務庁崔庁長宛紹介状。朴は農林部長官。名刺を少し写真拡大したもの。	22	1
22	72	石川昌	石川昌			昭和				名刺	石川は毎日新聞社外信部所属。	22	1
22	73	斎藤明	斎藤明			昭和				名刺	斎藤は毎日新聞社東京本社政治部所属。	22	1
22	74	山内寿夫	山内寿夫			昭和				名刺	山内は毎日新聞社芸部副部長。	22	1
22	75	陳昭凱	陳昭凱			昭和				名刺	名刺の裏に今井のメモあり。武官處の中目黒の住所と電話番号記載。陳については21-217参照。	22	1
22	76	居初寛二郎	居初寛二郎		1964	昭和	39			名刺	居初は居初油工業株式会社社長。会社については21-101参照。年は推定。	22	1
22	77	黄天龍	黄天龍			昭和				名刺	黄天龍の本名は民星。日本孫文記念会記念事業部所属。名刺の裏に記載。田中主幹への協力宜しく。病床で快方をお待ちしています。	22	1
22	78	賀陽恒憲	賀陽恒憲			昭和				名刺	賀陽は元皇族。	22	1
22	79	久山秀雄	久山秀雄			昭和				名刺	裏に地図のメモあり。久山は元内務省官僚。	22	1
22	80	古田重二良	古田重二良			昭和				名刺	日本学会頭。	22	1
22	81	内海丁三	内海丁三			昭和				名刺	NHK解説委員。	22	1
22	82	柳昌烈	柳昌烈			昭和				名刺	肩書は国会議員とあるが日本ではない？	22	1
22	83	西田當元	西田當元			昭和				名刺	肩書は太洋殖産株式会社取締役。年号は推定。	22	1
22	84	朱振聲	朱振聲			昭和				名刺	香港の作家。Chu Chun-Shing.	22	1
22	85	今日出海	今日出海			昭和				名刺		22	1
22	86	蔣君輝	蔣君輝		1974	昭和	49	6	15	名刺	C H Tsiang. 年月は推定。	22	1
22	87	与謝野秀	与謝野秀			昭和				名刺	与謝野は外務省研修所所長。年号は推定。	22	1
22	88	野本義松	野本義松			昭和				名刺	野本は酒田石油株式会社社長。年号は推定。	22	1
22	89	三谷隆信	三谷隆信							名刺		22	1
22	90	藤木伸三	藤木伸三		1965	昭和	40			名刺	藤木は人物往来編集部長。今井著の『近代の戦争 5 中国との戦い』出版の関係か。	22	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
22	91	石崎申之	石崎申之			昭和				名刺	富山県西砺波郡福光町の河合八重子、井波町の近江ふさ子という名前記載あり。船橋市在住。石崎は今井の陸士同期生。	22	1
22	92	小日向白朗	小日向白朗							名刺	事務所と自宅の住所のみ記載。	22	1
22	93	鈕之聖	鈕之聖							名刺	鈕は中華駐日本国大使館参事。	22	1
22	94	愛澤誠	愛澤誠			昭和				名刺	愛澤は間組副理事。年号は推定。	22	1
22	95	黒岩義之	黒岩義之			昭和				名刺	黒岩はエコノミスト編集部。	22	1
22	96	蕭光夏	蕭光夏							名刺	蕭は海外連合会社の経理。K. H Hsiao。	22	1
22	97	胡蘭成	胡蘭成		1964	昭和	39	5	15	名刺	胡蘭成については22-491参照。年月日は全くの推定。	22	1
22	98	三木武夫	三木武夫			昭和				名刺	三木は科学技術庁長官。	22	1
22	99	宇都宮徳馬	宇都宮徳馬			昭和				名刺	宇都宮は衆議院議員。	22	1
22	100	都市疎開ニ伴フ地方転出証明書	東京都目黒区長		1944	昭和	19	3	3	書類	きみ子、信夫、孝子、貞夫の4人と使用人今井すみ子（24歳）計5名の富山県東砺波郡井波町への転出証明書。	22	1
22	101	今井武夫書簡	今井武夫	宛先不明	1922	大正	11	10	8	書簡	「シベリアから帰還の挨拶状」、10月7日帰着の挨拶状。	22	1
22	102	今井武夫書簡	今井武夫	宛先不明「会寧歩兵第75連隊付着任挨拶状」	1925	大正	14	6	5	書簡	今井の会寧歩兵第75連隊付着任挨拶状。	22	1
22	103	渡鮮の味	陸軍運輸部釜山出張所							冊子		22	1
22	104	日本アルプス連峰白馬山			1917	大正	6	7	24	絵葉書	大日本北アルプス 登嶽記念。年代は1917か1931年。4枚。年は推定。	22	1
22	105	小夜中山の絵葉書			1919	大正	8			絵葉書	2枚。伝説の夜鳴き石と久延寺。22-108と同じか。小夜中山は東海道の難所。大井川の先で浜松の手前にある。	22	1
22	106	茨城の笠間								絵葉書	4枚。年号は推定。	22	1
22	107	今井武夫書簡	今井武夫	宛先不明	1924	大正	13			書簡	立山の絵葉書に記載。登山のことを書いている。年は推定。	22	1
22	108	皇太子殿下御成年記念絵葉書			1919	大正	8	5	7	絵葉書	2枚。	22	1
22	109	女優写真				大正				絵葉書	4枚。年号は推定。	22	1
22	110	広島大本営趾の絵葉書	広島借行社		1928	昭和	3			絵葉書	3枚。日露戦争のとき広島に大本営が置かれた。年度は全くの推定。	22	1
22	111	奉天			1933	昭和	8			絵葉書	5枚。年は推定。	22	1
22	112	奉天北陵の写真絵葉書			1933	昭和	8			絵葉書	5枚。年は推定。	22	1
22	113	朝鮮 妓生の写真絵葉書			1916	大正	5			絵葉書	3枚。年は推定。	22	1
22	114	陸軍士官学校の写真絵葉書			1916	大正	5			絵葉書	賀状用か。年は推定。3枚。	22	1
22	115	十和田湖の写真絵葉書			1928	昭和	3			絵葉書	6枚。年月は推定。	22	1
22	116	青森と浅虫温泉の絵葉書			1928	昭和	3			絵葉書	10枚。年月は推定。	22	1
22	117	長野県大河原の写真				昭和				絵葉書	5枚。	22	1
22	118	信州戸隠の写真				昭和				絵葉書	4枚。	22	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
22	119	長野県飯坂温泉の写真				昭和				絵葉書	6枚。	22	1
22	120	岩手の写真絵葉書			1928	昭和	3			絵葉書	7枚。年月は推定。	22	1
22	121	水戸の写真								絵葉書	4枚。	22	1
22	122	陸軍士官学校生徒の演習写真絵葉書			1916	大正	5			絵葉書	5枚。年は推定。	22	1
22	123	下館の写真								絵葉書	5枚。	22	1
22	124	日光の写真								絵葉書	8枚。	22	1
22	125	鬼怒川温泉の写真								絵葉書	5枚。	22	1
22	126	讚岐高松停車場の写真				昭和				絵葉書	2枚。	22	1
22	127	筑波山の写真								絵葉書	4枚。	22	1
22	128	陸軍演習写真				昭和				絵葉書	8枚。状況説明の記載あり。年号は推定。	22	1
22	129	歩兵学校軍用 鳩に関する写真絵葉書			1915	大正	4			絵葉書	3枚。年は推定。伝書鳩。	22	1
22	130	朝鮮羅南陸軍官舎全景写真絵葉書			1927	昭和	2			絵葉書	3枚。昭和初期の頃のものか。羅南に第19師団があった。	22	1
22	131	朝鮮羅南第19師団写真絵葉書			1927	昭和	2			絵葉書	司令部、師団長官邸、第25・27・73・76連隊正門、兵営写真。7枚。昭和初期の頃のものか。年は推定。	22	1
22	132	小林昌夫書簡（葉書）	小林昌夫	今井武夫	1925	大正	14	10		書簡	小林は朝鮮の会寧第75連隊所属。15日は軍旗祭とある。発信月は推定。今井の宛先住所は士官学校予科生徒隊第三中隊。御地コレラ流行の由ご自愛くださいとある。	22	1
22	133	朝鮮会寧歩兵第75連隊正面入口の写真絵葉書			1927	昭和	2			絵葉書	1枚。昭和初期の頃のものか。年は推定。	22	1
22	134	朝鮮会寧の写真絵葉書			1927	昭和	2			絵葉書	3枚。2枚つづりのもの2枚、計5枚。昭和初期の頃のものか。年は推定。	22	1
22	135	朝鮮の写真絵葉書			1927	昭和	2			絵葉書	清津、元山、豆満江のもの。6枚。昭和初期の頃のものか。年は推定。	22	1
22	136	湘南の写真の絵葉書			1939	昭和	14			絵葉書	4枚。年度は全くの推定。	22	1
22	137	絵葉書各種				昭和				絵葉書	11枚。ツエッペリン伯号機関室内ほか。	22	1
22	138	軍事郵便教訓絵葉書				昭和				絵葉書	5枚。	22	1
22	139	長嶺由蔵書簡	長嶺由蔵	今井武夫	1933	昭和	8	8	20	書簡	長嶺は承德特務機関員。困場經由多倫へ向かう。委細は現地より報告する。軍事郵便葉書。	22	1
22	140	久納誠一書簡	久納誠一	今井武夫	1933	昭和	9	1	1	書簡	久納は第8師団参謀長陸軍大佐。今井は既に満洲から参謀本部にもどっている。在満中のお礼の年賀状。	22	1
22	141	濱田弘書簡	濱田弘	今井武夫	1933	昭和	8	8	16	書簡	進級祝い。濱田は吉林特務機関員。軍事郵便葉書。	22	1
22	142	満洲事变勃発満二年・満州国の五色旗			1933	昭和	8	9	18	絵葉書	カラー。	22	1
22	143	日中戦争時の絵葉書			1937	昭和	12			絵葉書	年代は推定。8枚。	22	1
22	144	軍事郵便絵葉書	陸軍省恤兵部			昭和				絵葉書	12枚。	22	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
22	145	絵葉書	陸軍省恤兵部			昭和				絵葉書	2枚。	22	1
22	146	満洲の絵葉書	和田三造		1933	昭和	8			絵葉書	朝日新聞社。3枚。和田は大正から昭和に活躍した洋画家。年度は全くの推定。	22	1
22	147	絵葉書	陸軍大臣官房			昭和				絵葉書	2枚。	22	1
22	148	大坂商船主要航路図				大正				絵葉書	1枚。年号は推定。	22	1
22	149	鄭孝胥の書	鄭孝胥		1933	昭和	8			絵葉書	1枚。鄭は満洲国周年記念大会委員長。清末の官僚・満洲国の政治家・書家。満洲国の初代國務院総理（首相）。	22	1
22	150	戦時の絵葉書	凸版印刷			昭和				絵葉書	2枚。飛行機と兵隊の絵。	22	1
22	151	榛名・伊香保の写真								絵葉書	5枚。	22	1
22	152	記念写真			1934	昭和	9			写真	同一2枚あり。全60名	22	1
22	153	演習				大正				写真	3枚。セピア色でかなり古い。年号は推定。	22	1
22	154	堂本印象筆の絵葉書	大坂銀行		1951	昭和	26	9		絵葉書	講和記念。3枚。	22	1
22	155	絵葉書	陸軍省つはもの編輯部		1935	昭和	10			絵葉書	1枚。年は推定。	22	1
22	156	今井武夫 於哈爾賓			1933	昭和	8	7	17	写真	飛行機の横にて。	22	1
22	157	今井武夫書簡	今井武夫	宛先不明	1933	昭和	8	1	1	書簡	賀状。住所は上海武定路97号。追ってに、1月下旬に広東沙面英租界第18号第3棟和知公館に移駐と記載あり。	22	1
22	158	今井武夫書簡	今井武夫	今井宏	1932	昭和	7	9	20	書簡	上海武定路97号田代公館から 金沢市横山町に母と下宿する長男宏（3歳）宛のカタカナ書きの書簡。	22	1
22	159	今井武夫名義郵便貯金通帳			1930	昭和	5	8	8	書類	1932年9月10日まで。1932年4月17日には妻きみ子は金沢市に移転している。	22	1
22	160	今井宏名義郵便貯金通帳			1929	昭和	4	5	23	書類	1933年11月22日まで。	22	1
22	161	長女今井俊子名義郵便貯金通帳			1930	昭和	5	7	28	書類	1932年11月7日まで。1930年8月14日はまだ今井家は会寧にいた。	22	1
22	162	「影佐氏口供書 国府樹立のいきさつ日本は強制せず」	東京新聞社		1947	昭和	22	6	12	新聞	東京新聞。ロバーツ弁護士から5月21日と22日の両日国立第一病院で影佐禎昭に対して行なわれた出張尋問記録が東京裁判で朗読されたとある。今井についても影佐は述べている。新聞切抜。	22	1
22	163	解除関係書類の封筒	今井武夫		1952	昭和	27			封筒	1951年12月17日提出。総理府監査課平山氏受付と自筆記載。22-2所収の封筒。	22	2
22	164	今井武夫戸籍抄本	朝陽村村長		1947	昭和	22	1	24	書類	朝陽村は長野県の今井の本籍地。	22	2
22	165	今井武夫戸籍謄本	朝陽村村長		1947	昭和	22	9	6	書類	昭和3年12月6日長野の今井家（戸主長兄今井亮三郎）から分家。	22	2
22	166	法務庁令第42号による鈴木義雄法務総裁宛届出書	今井武夫	鈴木義雄法務総裁届出書	1948	昭和	23	8	27	書類	届出たものの控えか。住所は世田谷区下馬1丁目になっている。永豊物産株式会社勤務となっている。ページ中の届出か。	22	2
22	167	住所変更届	今井武夫		1951	昭和	26	3	31	書類	住所の東京都中野区への変更は3月28日。届出の控えか。既に勤務は日本硫鉄となっている。	22	2
22	168	26年度今井取締役給与表	日本硫鉄		1951	昭和	26			書類	日本硫鉄の罫紙に記載。毎月の給与表。	22	2
22	169	公職に関する就職禁止、退職等に関する勅令の規定による覚書該当者の指定の解除に関する法律の施行について	内閣総理大臣官房監査課長		1951	昭和	26	11	29	書類	総資第340号。	22	2
22	170	内閣総理大臣宛解除申請書	今井武夫	内閣総理大臣	1951	昭和	26	12	17	書類	手書きで押印あり。正本と同じもの。1951年法律268号の規程に基づく解除申請。	22	2
22	171	内閣総理大臣宛解除申請書	今井武夫	内閣総理大臣	1951	昭和	26	12	17	書類	22-170と同じだが、すべて印刷。押印なし。22-170の控えか。	22	2

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
22	172	「追放解除者として今井武夫」	印刷庁		1952	昭和	27	3	14	新聞	3月15日官報に挿入。官報号外、昭和27年、20号。	22	2
22	173	皆川五郎書簡	皆川五郎	今井武夫	1952	昭和	27	3	20	書簡	皆川は東京都中野区長。追放解除通知について。	22	2
22	174	内閣総理大臣書簡	内閣総理大臣	今井武夫	1952	昭和	27	3	14	書簡	覚書該当者としての指定の解除に関する件。公訴7号。内閣総理大臣官房監査課長からの封筒に挿入。	22	2
22	175	長野県社会部世話係書簡	長野県社会部世話係	今井武夫	1954	昭和	29	1	29	書簡	恩給申請書通知	22	
22	176	今井武夫履歴書	今井武夫			昭和				履歴書	2枚。同一2枚。原稿。	22	3
22	177	今井武夫履歴書	今井武夫		1953	昭和	28			履歴書	押印あり。今井の正式な軍歴を書いた履歴書。	22	3
22	178	今井武夫書簡	今井武夫	長野県庁世話課長	1953	昭和	28	10	30	書簡	押印あり。送付したものと同一の控えか。普通恩給請求書類一式送付について。	22	3
22	179	今井武夫履歴申立書	今井武夫		1953	昭和	28			履歴書	大陸へ出張した日の詳細記載あり。1915年12月1日士官候補生入隊より1947年1月5日予備役編入まで。大東亜省参事官は依頼免官と書いてある。鉛筆書き。下書きか。	22	3
22	180	昭和二十八年法律第百五十五号附則の規定による普通恩給失権事由非該当申立書			1953	昭和	28	11	1	資料	2枚。	22	3
22	181	恩給請求に関する書類	総理府		1953	昭和	28			書類	普通恩給の請求の仕方について記載。	22	3
22	182	長野県社会部長書簡	長野県社会部長	今井武夫	1953	昭和	28	12	2	書簡	恩給請求書類の整備について（照会）。	22	3
22	183	引揚援護庁復員局復員相談所長書簡	引揚援護庁復員局復員相談所長	今井武夫	1953	昭和	28	10	22	書簡	普通恩給請求手続きの用紙一式同封する。用紙不足か陸軍の罫紙に記載。押印あり。	22	3
22	184	昭和二十八年法律第百五十五号附則第二十五条第項非該当申立書			1953	昭和	28			書類	第39号書式。同一2枚あり。記載なし。	22	3
22	185	今井武夫宛封筒	美山要蔵	今井武夫	1953	昭和	28	9	17	封筒	美山は元陸軍大佐。終戦時陸軍省阿南大臣の高級副官。戦後引揚援護局復員局勤務。中身の手紙は22-186か 22-187のいずれかと思われる。	22	3
22	186	美山要蔵書簡	美山要蔵	今井武夫	1953	昭和	28	9		書簡	美山は元陸軍大佐。終戦時陸軍省阿南大臣の高級副官。戦後引揚援護局復員局勤務。履歴書草稿をおくるので点検してほしい。月は推定。	22	3
22	187	美山要蔵書簡	美山要蔵	今井武夫	1953	昭和	28	9		書簡	美山は元陸軍大佐。終戦時陸軍省阿南大臣の高級副官。戦後引揚援護局復員局勤務。引揚援護局復員局の用紙に記載。今井の履歴記載。22-186よりは後のもの。「お調べください」とある。月は推定。	22	3
22	188	長野県庁民生労働部世話課長宛提出の今井の履歴書の草稿	今井武夫	長野県庁民生労働部世話課長	1953	昭和	28			履歴書	日本硫鉄株式会社の罫紙に記載。1枚。	22	3
22	189	山東塩業株式会社史 昭和12年の設立から昭和21年GHQにより閉鎖されるまで	朝倉文夫		1968	昭和	43	12	14	書類	朝倉は元山東塩業株式会社社員。	22	4
22	190	青島塩輸入取扱に関する陳情書	朝倉文夫		1968	昭和	43	12	14	書類	22-189に附属の書類。	22	4
22	191	『支那事変の回想』論評 昭和39年秋起	今井武夫		1964	昭和	39			論評	22箱-東5所収のファイル。1冊のノートに3つの書評ファイルあり。	22	5
22	192	みすず書房/新刊ご通知	みすず書房		1964	昭和	39	9		冊子	今井武夫著 『支那事変の回想』の紹介。	22	5
22	193	『支那事変の回想』への書評	毎日新聞社		1964	昭和	39	10	12	新聞	毎日新聞。日中関係史の貴重な証言。新聞切抜。	22	5
22	194	「憂楽帳 同文同種」	毎日新聞社		1964	昭和	39	10	8	新聞	毎日新聞。今井の『支那事変の回想』が言及されている。新聞切抜。杉本洋吉が著者と今井は書いている。	22	5
22	195	『支那事変の回想』への書評	信濃毎日新聞社		1964	昭和	39	10	16	新聞	信濃毎日新聞。「現地責任者の生々しい記録」。新聞切抜。18-73に同じ。	22	5
22	196	島田俊彦「和平運動の情熱を内蔵 未発表資料含んだ当事者の回想 『支那事変の回想』への書評」	日本出版協会		1964	昭和	39	10	19	新聞	日本読書新聞。新聞切抜。18-41に同じ。	22	5

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
22	197	島田俊彦「風土と人への深い愛 正確なデータで和平工作を語る 『支那事変の回想』への書評」	東京新聞社		1964	昭和	39	10	21	新聞	東京新聞 夕刊。新聞切抜。18-29に同じ。	22	5
22	198	白井勝美「日中戦争 和平工作の記録 感傷まじえない根本資料 『支那事変の回想』への書評」	図書新聞社		1964	昭和	39	10	24	新聞	図書新聞。新聞切抜。	22	5
22	199	橘善守「史実の空白を埋める 敗者の側からの貴重な歴史の証言として 『支那事変の回想』への書評」	週刊読書人		1964	昭和	39	11	2	新聞	週刊読書人。新聞切抜。18-75に同じ。	22	5
22	200	風間古城「紹介 『支那事変の回想』」	中央月島新聞社		1964	昭和	39	11	5	新聞	中央月島新聞。新聞切抜。複写。	22	5
22	201	橋川文三「無限の教訓を示す 『支那事変の回想』への書評」	南日本新聞社		1964	昭和	39	11	21	新聞	南日本新聞。新聞切抜。	22	5
22	202	原敬吾「真実をかたる資料、史論『支那事変の回想』への書評」	読売新聞社		1964	昭和	39	12	6	新聞	読売新聞。新聞切抜。	22	5
22	203	「回顧」	日本出版協会		1964	昭和	39	12	21	新聞	日本読書新聞。『支那事変の回想』についても言及。新聞切抜。	22	5
22	204	「新刊紹介 『支那事変の回想』」	霞山会		1964	昭和	39	12	1	雑誌	東亜時論 6巻12号。複写。著者は古田時夫と今井がノートに記載している。	22	5
22	205	佐原賢治「『支那事変の回想』を読む」	華交互助会		1965	昭和	40	3	20	新聞	華交互助会報。新聞切抜。	22	5
22	206	川上護書簡	川上護	今井武夫	1964	昭和	39	10	6	書簡	『支那事変の回想』途中まで読んだ。盧溝橋事件の日、招魂社に祈念する場面には泣かされた。	22	5
22	207	川上護書簡	川上護	今井武夫	1964	昭和	39			書簡	川上は自分のことを和尚と書いている。終戦のころの貴兄の心中を思い、『支那事変の回想』読み続けることが出来ず、一時読むことを放棄。	22	5
22	208	松沢美雄書簡	松沢美雄	今井武夫	1964	昭和	39	10	7	書簡	『支那事変の回想』惠贈のお礼。同著に同級生の松本重治の活動など出てきて、懐かしい。松沢は長野中学同級生。	22	5
22	209	松沢美雄書簡	松沢美雄	今井武夫	1965	昭和	40	1	1	書簡	年賀状。『支那事変の回想』手許に於いて、再三読んでいる。吉家君のことなど。一度お目にかかりたい。松沢は長野中学同級生。高岡村長を務めた。	22	5
22	210	渡辺渡書簡	渡辺渡	今井武夫	1964	昭和	39	12	12	書簡	渡辺は陸士同期。少将。『支那事変の回想』についての意見。自分は当時北支にいて汪工作には反対していた。日本軍の占領地内での政府樹立は実際問題として冗戯に類すると思っていた。	22	5
22	211	園田次郎書簡	園田次郎	今井武夫	1964	昭和	39	11	8	書簡	園田は朝日新聞記者。『支那事変の回想』は貴重な歴史的な文献になる。	22	5
22	212	木村辰男書簡	木村辰男	今井武夫	1964	昭和	39	11	7	書簡	『支那事変の回想』は資料の正確さと著者の人格が出ている。	22	5
22	213	村上知行書簡	村上知行	今井武夫	1964	昭和	39	11	16	書簡	『支那事変の回想』に対する意見。今の日本人同志は決して同胞でない。恥と信を知ることから出発しなければならない。近日会いたい。	22	5
22	214	常安弘通書簡	常安弘通	今井武夫	1964	昭和	39	11	20	書簡	『支那事変の回想』で劉少奇が北平図書館書記を務めていたことを発見し驚いた。歴史の真実を伝えるものとしてご健筆を絶対に信頼します。あれから27年。夢の如し。再会を切に念願。	22	5
22	215	佐野増彦書簡	佐野増彦	今井武夫	1964	昭和	39	10	6	書簡	『支那事変の回想』読んでいる。影佐氏など懐旧の情しきりです。	22	5
22	216	新栄国城書簡	新栄国城	今井武夫	1964	昭和	39	10	27	書簡	『支那事変の回想』を 繰り返し読んでいる。	22	5
22	217	那須義雄書簡	那須義雄	今井武夫	1964	昭和	39	10	17	書簡	貴著に同感。時局のことを述べ、貴君の対中観察を期待している。	22	5
22	218	遠藤三郎書簡	遠藤三郎	今井武夫	1965	昭和	40	2	23	書簡	『支那事変の回想』は記録の正確さと貴兄の人柄が出て尊敬の念禁じえない。遠藤は陸軍中将。	22	5
22	219	中井豊太郎書簡	中井豊太郎	みすず書房	1964	昭和	39	11	10	書簡	『支那事変の回想』読者カード。裏面に活躍した著者の努力に敬服。	22	5

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
22	220	熊埜御堂健児書簡	熊埜御堂健児	今井武夫	1964	昭和	39	11	15	書簡	『支那事変の回想』面白くもあり為になる。熊埜御堂は長野中学時代の友人。弁護士。	22	5
22	221	前田正之書簡	前田正之	今井武夫	1964	昭和	39	12	5	書簡	終戦時南京にて中日貿易の会社を経営していた。当時のことが懐かしく読んだ。	22	5
22	222	聯盟参与今井武夫著『支那事変の回想』の紹介	郷友聯盟		1964	昭和	39	12		冊子	郷友12月号。「回想」を「回顧」と間違えている。	22	5
22	223	矢口音吉書簡	矢口音吉	今井武夫	1965	昭和	40	8	5	書簡	矢口は、池浦すみ（旧姓今井。姉の縁者）の義理の伯父。盧溝橋事件当時通信省の情報関係をしていた。『支那事変の回想』を読んで、わが国が突入した泥沼の苦悩が分かった。	22	5
22	224	小林浅三郎書簡	小林浅三郎	今井武夫	1965	昭和	40	1	20	書簡	『支那事変の回想』を想出深く読んだ。事変当時よりの努力、就中、終戦時の心労に対し心から感謝いたします。	22	5
22	225	道免一馬書簡	道免一馬	今井武夫	1965	昭和	40	3	31	書簡	今井閣下の本を読んでいる。終戦間近での上海の宋氏のことが思い出される。道免は支那派遣軍総司令部時代の副官。	22	5
22	226	有木歌子書簡	有木歌子	今井武夫	1966	昭和	41			書簡	有木はパターンで戦死した有木道博中尉の母。もう24年になります。ご本を送ってください。10-37関連。	22	5
22	227	揚揆一の遺影	黄天龍		1965	昭和	40			写真	黄天龍の寄贈。黄の岳父は揚揆一か。22-191に貼付。揚は1947年6月24日に雨花台の霧と消えたと記載あり。	22	5
22	228	森山誠之書簡	森山誠之	今井武夫	1965	昭和	40	8		書簡	『支那事変の回想』を感激して読んだ。殷汝耕救出の荒木某は荒木五郎氏である。森山は長野中学の後輩で長野市南堀出身。Kirin Trading Company Ltd.の罫紙に記載。	22	5
22	229	『近代の戦争 5 中国との戦い』論評 昭和41年春起	今井武夫		1966	昭和	41			論評	22箱-東6所収のファイル。22-191と同じノート。	22	6
22	230	『近代の戦争 5 中国との戦い』宣伝冊子	人物往来社		1966	昭和	41	1		冊子	全8巻の中、5巻が今井の著の「中国との戦い」。22-230に挿入。	22	6
22	231	村上知行書簡	村上知行	今井武夫	1966	昭和	41	3	27	書簡	『近代の戦争 5 中国との戦い』を読んで教えられた。	22	6
22	232	一読者書簡	一読者	今井武夫	1966	昭和	41	3	28	書簡	一読者である。『近代の戦争 5 中国との戦い』でノモンハン事件のところで、師団名、司令官の名前に数箇所間違いあり。第71連隊の行動に明瞭さを書いていると指摘あり。	22	6
22	233	稲森利助書簡	稲森利助	今井武夫	1966	昭和	41	4	4	書簡	稲森は陸士同期。今井著『近代の戦争 5 中国との戦い』は 闇夜に燈火を得たおもいである。瀬戸山氏にも本日薦めておいた。	22	6
22	234	『近代の戦争 5 中国との戦い』月報 4	人物往来社		1966	昭和	41	4	10	冊子	『近代の戦争 5 中国との戦い』に対する「読者の声」欄の切抜。14名分。切抜して貼付。	22	6
22	235	「日本軍の立場から 当事者が書いた戦史 『近代の戦争 5中国との戦い』に対する書評」	信濃毎日新聞社		1966	昭和	41	4	9	新聞	信濃毎日新聞。新聞切抜。貼付。	22	6
22	236	「戦史物ブームを切る」	日本共産党中央委員会		1966	昭和	41	3	27	新聞	赤旗。「中国との戦い」につき言及。新聞切抜。貼付。	22	6
22	237	「中国との戦い」に対する書評	日本海新聞社		1966	昭和	41	4	4	新聞	日本海新聞。新聞記事添付なし。	22	6
22	238	「中国との戦い」に対する書評	愛媛新聞社		1966	昭和	41	4	5	新聞	愛媛新聞。新聞記事添付なし。	22	6
22	239	『近代の戦争 5 中国との戦い』に対する書評	華北新聞社		1966	昭和	41	4	11	新聞	華北新聞。新聞記事添付なし。	22	6
22	240	「新刊紹介 中国との戦い」	中央月島新聞社		1966	昭和	41	5	25	新聞	中央月島新聞。新聞切抜。複写。	22	6
22	241	「中国との戦いに対する書評」	華交互助会		1966	昭和	41	9	30	新聞	華交互助会報。作者は佐原賢治と今井が記入している。新聞切抜。複写。	22	6
22	242	『昭和の謀略』に対する論評 昭和42年夏起	今井武夫		1967	昭和	42			論評	22箱-東7所収のファイル。22-191と同じノート。	22	7
22	243～249 (欠番)												

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
22	250	『昭和の謀略』に対する書評 「血であがなった反省日中戦争の真実を証言」	徳間書店		1967	昭和	42	8	25	新聞	東京タイムズ。新聞切抜。	22	7
22	251	「昭和史を考える一助に 中樞参謀の見た実録 『昭和の謀略』の今井武夫氏」	共同通信社		1967	昭和	42	8	25	新聞	共同通信。「原稿作成をしたのはは文化部井上満」と今井のメモにある。新聞切抜。	22	7
22	252	「『昭和の謀略』に対する書評 陸軍の暴状まざまざ」	産経新聞社		1967	昭和	42	8	24	新聞	サンケイ新聞。新聞切抜。	22	7
22	253	島田謹吾書簡	島田謹吾	今井武夫	1968	昭和	43	1	1	書簡	年賀状。今井の第二作を読んでいる。島田は長野中学の同級生。	22	7
22	254	大橋武夫「盧溝橋の銃声 支那事変の発端は中共の謀略であった 一謀略二書の読後感一」	借行社		1967	昭和	42	9	1	冊子	「借行 9月 195号」。謀略二書には、今井の『昭和の謀略』を含む。大橋は、盧溝橋事件当時支那派遣軍砲兵中尉。11-106に同じ。切抜。複写。	22	7
22	255	大橋武夫「運命の支那事変 中国側の当事者が見ても中共の謀略であった」	借行社		1967	昭和	42	10	1	冊子	「借行 10月196号」。謀略二書（今井『昭和の謀略』を含む）の読後感（承前）。切抜。11-107に同じ。切抜複写。	22	7
22	256	寺内正元「中公新書 太平洋戦争を読んで」			1967	昭和	42	7	1	冊子	「借行 7月 193号」。今井について記載あり。切抜。複写。	22	7
22	257	「本と私 『昭和の謀略』の今井武夫氏 武力暴走の内幕」	山陽新聞社		1967	昭和	42	8	31	新聞	山陽新聞。新聞切抜。	22	7
22	258	「『昭和の謀略』の今井武夫氏 昭和史を考える一助に 中樞参謀の見た実録」	北国新聞社		1967	昭和	42	8	27	新聞	北国新聞。新聞切抜。	22	7
22	259	「本と人 『昭和の謀略』 今井武夫 陸軍の動き正確に 昭和史を考える一助に」	西日本新聞社		1967	昭和	42	9	16	新聞	西日本新聞。新聞切抜。	22	7
22	260	譚覚眞書簡	譚覚眞	今井武夫	1967	昭和	42	9	28	書簡	『昭和の謀略』に感謝。汪兆銘の”最後の心情”の発信人はまだ分かっていない。本物かどうか内容は怪しい。	22	7
22	261	譚覚眞書簡	譚覚眞	今井武夫	1967	昭和	42	9	29	書簡	貴重な文献として、敬意を表します。	22	7
22	262	吉田茂登彦書簡	吉田茂登彦	今井武夫	1967	昭和	42	10	5	書簡	吉田はバターン戦線に従事。寺内正元「中公新書 太平洋戦争を読んで」で、捕虜虐殺についてフィリピンにいた全部隊に誤解を与える恐れはないか。自分は辻参謀命令を黙殺、握りつぶした。	22	7
22	263	吉田茂登彦書簡	吉田茂登彦	今井武夫	1967	昭和	42	10	10	書簡	二便。今井の返事で了解。感謝します。	22	7
22	264	馬晋三書簡	馬晋三	今井武夫	1965	昭和	40	2	5	書簡	馬の字は崇六。『支那事変の回想』268頁記載の鈕先銘の妻の再婚相手は自分ではない。事実と違うとの抗議・訂正依頼。なお、この後今井は、正しくは馬ではなくて頼光大が正しいことを知る。	22	8
22	265	馬晋三宛返書の草稿	今井武夫		1965	昭和	40	2		書簡	22-264関連。今井の馬に送ったと思われる事実誤認の詫び状の草稿。22-264に同封。1965年2月3日付の「アジア研究」の裏に記載。	22	8
22	266	築場市郎左エ衛門書簡	築場市郎左エ衛門	今井武夫	1968	昭和	43	2	15	書簡	『近代の戦争 5 中国との戦い』に関する意見。11頁にわたる修正点等の意見。	22	8
22	267	黄亦星書簡	黄亦星	今井武夫	1971	昭和	46	1	4	書簡	「昭和史の天皇」を読んで感涙した。黄の祖父は早稲田大学卒。父の黄星は初代駐日大使褚民誼の片腕であった。1970年代のものか。年は推定。	22	8
22	268	木田慶知書簡	木田慶知	今井きみ子	1933	昭和	8	8	4	書簡	暑中見舞。木田は今井の三兄。	22	8
22	269	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1929	昭和	4	1	20	書簡	朝鮮会寧の第75連隊十一中隊の今井から、富山井波町の妻宛書簡。宏の脚気を心配している。	22	8
22	270	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	6	13	書簡	厦門（あもい）沖の「鳳山丸」から 金沢市材木町の妻宛今井の葉書。日本への一時帰国の知らせ。	22	8
22	271	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	11	11	書簡	奉天江島町の今井から、金沢市材木町の妻へ。土肥原少将が機関長に着任して「今井を3月まで留任させてくれ」と申し出ているが、東京の陣容を見ると、多分自分は東京に帰る。機関長更迭で何かと雑務が多い。	22	8

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
22	272	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	7	20	書簡	奉天江島町の今井から、金沢市材木町の妻宛書簡 7月12日奉天着任。	22	8
22	273	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	1	30	書簡	北平日本公使館陸軍武官室の今井から、実家の妻へ。上海事変のことに言及。天津に着任した影佐少佐と昨日北平で懇談した。	22	8
22	274	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	3	11	書簡	広東の久保方今井から、金沢市材木町の妻宛の手紙。昨日陸軍記念日で小学校で話をした。	22	8
22	275	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	6	15	書簡	広東の今井から、金沢市材木町の妻へ。香港經由厦門へ出張したこと。	22	8
22	276	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	9	16	書簡	奉天江島町の今井から、金沢市材木町の妻へ。本日旅行から、帰って、田代皖一郎憲兵隊司令官の訪問を受け、「支那大陸を南北にわたって根気よく理解しようとしている者は少ない」と言って褒められた。満州も黒龍江省は余り知らないが、大分残すところが少なくなった。	22	8
22	277	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	7	9	書簡	神戸から 金沢市材木町の妻へ。本日「うる丸」で出帆する。出がけにご迷惑をおかけした。22-179参照。	22	8
22	278	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	12	3	書簡	上海武定路97号から 富山の実家の妻宛手紙。実家に帰って子供達喜んで由結構。子供達の写真と文藝春秋が送付されてくるのを待っています。	22	8
22	279	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	5	19	書簡	上海黄浦江の今井から、金沢市材木町の妻へ。日清汽船の南陽丸で漢口に向かう。	22	8
22	280	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	9	17	書簡	上海武定路97号田代公館から 金沢市横山町の妻宛の書簡。上海では語言多く、租界警察署は相当厳重に警戒している。爆竹を投げ込んだりする事件がある。	22	8
22	281	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	7	12	書簡	奉天江島町の今井から、金沢市材木町の妻宛書簡。 大連に無事着いた。長野の実家には連絡しておいた。	22	8
22	282	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	8	26	書簡	奉天江島町の今井から、金沢市材木町の妻宛書簡。当地は健康によくないと見え、着任以来関東軍司令部だけで武藤信義大将、坂田義朗大佐、鈴木顧問と3人死んで、自分は葬式の準備をして忙しい。	22	8
22	283	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1929	昭和	4	1	28	書簡	朝鮮会寧の第75連隊十一中隊の今井から、富山井波町の妻宛書簡 金谷範三大将2月1日来会。2日から初の週番司令予定。	22	8
22	284	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	10	22	書簡	天津から 金沢市横山町の妻宛の書簡。山東を廻って済南駐在の中野英光中佐と天津へ来た。山東問題は表面の解決に反し却って急迫の徴あり。急ぎ帰る予定。	22	8
22	285	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	8	12	書簡	奉天江島町の今井から、金沢市材木町の妻宛書簡。特務機関長の人選についてほか。	22	8
22	286	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	10	26	書簡	上海武定路97号田代公館から 金沢市横山町の妻宛の葉書。10日余りの旅行から 本日上海に戻った。揚子江以北は寒かった。	22	8
22	287	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1931	昭和	6	11	7	書簡	熊本市の今井から、東京市外目黒町上目黒駒場の妻宛葉書。「一体たる兩名」が修養のモットー。	22	8
22	288	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	5	15	書簡	北平から 金沢市横山町の妻宛の書簡。千人針を長野からも送ってくれる由。配慮有難う。身内の情が嬉しい。御互い何事も信じ合おう。年は推定。	22	8
22	289	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	9	10	書簡	上海武定路97号田代公館から 金沢市横山町の妻宛の手紙。上海へ来てからある調査を命ぜられている。上海では先輩がいるのみ。日本人の人氣がはなはだしく悪く、宿舍に閉じこもっている。	22	8
22	290	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	9	5	書簡	上海武定路97号田代公館から 金沢市横山町の妻宛の葉書。文藝春秋受領した。ご厚意感謝。2枚。	22	8
22	291	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	2	1	書簡	北平北京飯店の今井から、実家にいる妻宛の手紙。上海事変は大きくなってはらはらさせられている。	22	8
22	292	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	4	16	書簡	天津軍司令部經由中国在勤の今井から、実家にいる妻宛の手紙。影佐少佐11日に天津に戻り、今済南に行っている。立返るのを待って20日北平に行くことに決定した。唐川(安夫)さん、沢本(理吉郎)君の渡欧は多分5月だろうと思う。	22	292

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
22	293	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	9	19	書簡	上海武定路97号田代公館から 金沢市横山町の妻宛の葉書。上海の9. 18事件記念日は共産党の策動あるも未然に防げた。半旗を掲げた家もあったが無事に過ごせた。	22	8
22	294	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	4	30	書簡	北平武官室の今井から、金沢市横山町の妻きみ子宛の書簡。きみ子17日金沢市に移転の由。昨日は天長節で式あり。菊池（武夫）大佐（男爵）と一緒に 張宗昌（軍閥）を訪問した。上海の暗殺事件内地でもショックであろう。	22	8
22	295	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	8	6	書簡	天津の今井から、金沢市横山町の妻宛の書簡。岩松義雄支那課長は天津で罹病して長らく滞在していたので世話をしていたが全快。上海へ転任して後任は酒井隆中佐が進級して支那課長になるはず。今井の上海行きは、新旧課長が知らない間に決定。上海へ行けば田代少将、岩松大佐、根本中佐の下になり、雑務で忙しくなるであろう。	22	8
22	296	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	3	26	書簡	天津軍司令部経由中国在勤の今井から、実家にいる妻宛の手紙。支那駐屯軍新司令官中村孝太郎少将の巡視がはじまった。	22	8
22	297	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	4	8	書簡	広東の今井から、金沢市材木町の妻宛葉書。各地で排日がひどくなった。特に漢口あたりがひどい。広東は比較的よい。	22	8
22	298	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	2	6	書簡	1月28日の手紙受け取った。この日 2月6日土曜日は旧正月（春節）にあたる。ようやくホテルのボーイと中国語で意志を通じることができるようになった。陸大同期の佐久間準が病死した。上海事変も天津事変位のゴヤかと思っていたが中々おさまらないね。封筒なし。	22	8
22	299	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	7	2	書簡	天津の今井から、金沢市横山町の妻宛の書簡。影佐少佐アメリバ赤痢で寝ていたが、6月30日に帰国した。天津でコレラがはやっていて、日本人3名、兵隊1名が罹り、皆死んだ。	22	9
22	300	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	1	3	書簡	北平公使館陸軍武官室の今井 から富山の実家にいる妻宛の手紙。1月2日夜北平に付く。丁度張学良が関内へ撤退の途中で列車の運行が不規則で遅延。円が暴落して銀が上がったので、当地では閉口している。	22	8
22	301	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	10	7	書簡	封筒なし。今井から、妻宛書簡。12月から、自分はまた参謀本部勤務らしい。予め東京で住む場所を秘密裏に検討されたし。影佐さん等の心づかいに感謝している。	22	8
22	302	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	3	13	書簡	天津軍司令部経由 中国在勤の今井から、実家にいる妻宛の手紙。当地は蒙古風がひどい。子供の漢方薬送る。長野には子供の教育上金沢に移転する旨自分から、連絡してあるから、（親族への気遣いは）無用。	22	8
22	303	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	3	14	書簡	広東の今井から、金沢市材木町の妻宛の手紙。熱河もいよいよ勝利。案外穏やかに済んだ。	22	8
22	304	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	6	11	書簡	北平の今井から、金沢市横山町の妻宛の書簡。テニスを始めたら熟睡できるようになった。上海で戦死した林大八少将（軍神となった）の息子のこと。空閑少佐のことが書いてあるので、久しぶりに（雑誌）「キング」（講談社）を買って読んだ。	22	8
22	305	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1928	昭和	3	10	2	書簡	仙台の今井から、富山県井波町の妻きみ子宛書簡。安産の吉報を待つ 寺田（雅雄）氏が陸大首席卒業の由だから、きみ子からも祝い状を出してほしい。明日塩釜神社参詣と松島見物をする予定。	22	8
22	306	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1928	昭和	3	8	10	書簡	秋田県横手町から富山県井波町の妻宛葉書。東北に自分は初めて足を入れた。	22	8
22	307	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	8	3	書簡	奉天江島町の今井から、石川県高松町（子供を連れた避暑のため滞在）の妻宛葉書。百日咳の見舞い。	22	8
22	308	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	5	29	書簡	北平の今井から、金沢市横山町の妻宛の書簡 下宿はホテル式で朝晩の二食主義にしている。	22	8
22	309	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	8	23	書簡	天津鉄林公館の今井から、金沢市横山町の妻宛の書簡。歯の治療代にお金がかかるなどと気兼ねしないで根本的に治しなさい。買って送った指輪の色の変色について。	22	8

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
22	310	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	5	10	書簡	北平の今井から、金沢市横山町の妻宛の書簡。上海派遣の陸軍は全部引揚になったので、来月上旬には金沢師団（第9師団のこと）も凱旋するだろう。唐川安夫さん（陸士29期）は5日にローマに赴任。寺田雅雄氏（陸士29期、陸大同期）は8月（イギリス赴任）らしい。	22	8
22	311	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1928	昭和	3	9	20	書簡	山形県鶴岡の今井から、富山県井波町の妻宛書簡。兵站監の仕事をしている。	22	8
22	312	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1928	昭和	3	10	21	書簡	東京市外 高円寺の自宅の今井から、金沢市材木町の妻宛書簡。気分落ちついた由なにより。工兵隊の隊附報告を今朝ようやく仕上げた。明後日は靖国神社の祭りで休み。	22	8
22	313	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1929	昭和	4	2	26	書簡	朝鮮会寧の第75連隊十一中隊の今井から、富山井波町の妻宛書簡。戸外の検閲で寒かった。昨日で検閲終了。	22	8
22	314	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1929	昭和	4	1	1	書簡	朝鮮会寧の75連隊十一中隊の今井から、富山井波町の妻宛書簡。12月30日当地到着。若林（邦俊）宅で同期会を行なった。75連隊には若林のほか野口進、米丸正雄、清田幸生の4人が陸士同期として在籍していた。	22	8
22	315	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1929	昭和	4	1	13	書簡	朝鮮会寧の第75連隊十一中隊の今井から、富山井波町の妻宛書簡。明日から中隊長として大隊の各中隊の兵を集めて耐寒行軍にでかける。30里を5日で歩く予定。	22	8
22	316	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1929	昭和	4	2	18	書簡	朝鮮会寧の第75連隊十一中隊の今井から、富山井波町の妻宛書簡。当地着任以来50日風邪を引かず、厳寒と闘っている。長男宏の脚気の具合は如何。	22	8
22	317	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1928	昭和	3	8	15	書簡	広島市のとらや旅館から富山県井波町の妻宛今井の書簡。朝鮮にいた石野（芳雄）さんは支那駐屯軍司令部（天津）に転出。（同期の）清田幸生は大尉に昇進、今井は中隊長ということになった。	22	8
22	318	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	6	18	書簡	天津軍司令部の今井から、金沢市横山町の妻宛の書簡。天津軍から督促電報が15日に来て、16日天津着、実務に就く。コレラが流行しだしたので閉口している。第9師団の部隊と交代に大坂や和歌山部隊が来た。	22	8
22	319	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1928	昭和	3	10	30	書簡	東京青山の陸大内の今井から、金沢市九人橋通り内田病院の妻宛書簡。その後の子供の容態問い合わせ。大演習は本日終る筈。今日の学校は馬術は外乗り。語学一時間。22-427の葉書の後に発信したもの。	22	8
22	320	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	5	1	書簡	広東の今井から、金沢市材木町の妻宛書簡。雑誌「話」受領。支那人に変装して広東の田舎の三水へ出張した。	22	8
22	321	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	4	15	書簡	広東の今井から、金沢市材木町の妻宛書簡。広東市中は昨今平穏だが、日貨を取り扱ったとって救国会に殺された商人がいたそうである。	22	8
22	322	薩摩屋陸送部書簡	薩摩屋陸送部	今井きみ子	1933	昭和	8	7	14	書簡	運賃の件 着払いの間違いについて。金沢市材木町のきみ子宛書簡。薩摩屋は軍関係の運送を扱うご用達業者か。	22	8
22	323	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	5	7	書簡	北平の今井から、金沢市横山町の妻宛の書簡。4月16、23、30日と手紙出したが届かないものもあるのか。留守宅住所変更を5月1日しておいた。	22	8
22	324	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	9	28	書簡	上海武定路97号田代公館から 金沢市横山町の妻宛の書簡。田代支那公使館付武官（少将）は南京駐在武官等を従え本日実施の有吉公使国書奉呈式列席のため一昨日南京に向かった。	22	8
22	325	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	11	18	書簡	奉天江島町の今井から、金沢市材木町の妻きみ子宛書簡。現地では軍の参謀として自分を残そうとしているが、多分東京へ帰る。異動は12月中旬以降らしいが、今年から、内命がなくなったので、早くから、知ることが出来ない。きみ子は12月下旬上京の予定にしてほしい。21日に侍従武官が奉天に来られるので準備で忙しい。	22	8
22	326	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	7	29	書簡	奉天江島町の今井から、妻宛書簡。武藤司令官死去のため大騒ぎしている。葬儀参列のため今夜か明日の飛行機でまた新京へ2から、3日行く予定。封筒なし。発信日は29日か30日。推定。	22	8
22	327	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	2	20	書簡	天津司令部の今井から、妻宛書簡。天津へ来てから、多忙。知名な支那人と応接している。午前中は語学学習、午後は軍の仕事を手伝うことを繰り返している。	22	8

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
22	328	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	11	3	書簡	上海武定路97号田代公館から 金沢市横山町の妻への今井の書簡。先般山東旅行に行ったおり宏へ葉書を出したが、まだついていないのか。根本様が武官室の分室を作るかもしれない。	22	8
22	329	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	7	13	書簡	天津の今井から、金沢市横山町の妻宛の書簡。長男宏の百日咳の報に驚いている。今夜から、雲南に旅行し16日に一旦帰り、北京へ行き、18日に天津へ帰る予定。	22	8
22	330	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	8	19	書簡	天津の今井から、金沢市横山町の妻宛の書簡（於天津と封筒に記載あり）。俊子の激しい咳に心配。天津では涼しくなって10日から、夏休みも終って就学している。夫婦間の愛について。	22	8
22	331	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	7	23	書簡	天津の今井から、金沢市横山町の妻宛の書簡。宏の病気如何。17日北平へ行った。コレラは下火になった。張学良が熱河境に78旅団軍隊を出動させて大騒ぎをしているが、当地の状況は表面静穏。新聞発表は一時代理で自分がしている。（参謀本部の）岩松支那課長が月末から、来月にかけて来る予定。	22	8
22	332	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	7	31	書簡	天津の今井から、金沢市横山町の妻宛の書簡。宏に加えて俊子も病気の由。看護婦一人雇ってはどうか。	22	8
22	333	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	8	5	書簡	奉天江島町の今井から、石川県高松町滞在の妻宛書簡。自分は参謀本部付ではあるが、関東軍と東京との間で、交渉があつてかここで全責任をもって仕事するように決まった様子。先般軍司令官の葬式参列の時に山南関にいる遠藤（同期の遠藤庄一のことか）と新京より奉天まで同車した。	22	8
22	334	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1928	昭和	3	12	30	書簡	朝鮮会寧の歩兵第75連隊十一中隊の今井から、富山井波町の妻宛葉書。京城の写真絵葉書に記載。12月30日予定通り到着した。同期清田幸生ほかかを迎えらる。若林宅で同期生会を行なった。清田は任官早々第6連隊から、若林邦敏も第33連隊から補充されていた。	22	8
22	335	今井武夫書簡	今井武夫	太田長蔵	1928	昭和	3	8	12	書簡	広島市のとらや旅館から富山県井波町の太田長蔵（義父）宛今井の葉書。富山滞在中の饗応に対するお礼。	22	8
22	336	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	3	27	書簡	天津軍司令部経由中国在勤の今井から、実家にいる妻宛の手紙。影佐少佐が北平・奉天に旅行しており代理で忙しい。戦死した空閑少佐とか全滅を伝えられた大久保中隊等は皆自分の旧知の人だ。発信月は推定。土曜日とある。空閑（くが）少佐は金沢の第9師団の大隊長であった。なお、この手紙の発信日付は26日で土曜日。内地では3月28日に空閑少佐は自決し、軍神となったこととなっているが、戦死日時がことなり、今井は内地に伝えられた内容と異なる空閑少佐情報を中国で持っていたのであろうか。	22	8
22	337	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	7	10	書簡	於門司 うらる丸（奉天江島町）の今井から、金沢市材木町の妻宛葉書。午前7時門司入港。午後日本を離れる。	22	8
22	338	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	7	9	書簡	天津の今井から、富山県氷見郡に海水浴に行っている妻宛の書簡。天津では交代部隊がやってきて暑さにびっくりしている。室内（華氏）101度、室外120度という温度。コレラのため冷たい飲み物は取れず焦熱地獄。禁を犯して水を飲んだものは10人に4人は腹をこわしている。	22	8
22	339	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1929	昭和	4	3	16	書簡	朝鮮露支国境豆満江岸の旅館の今井から、富山井波町のきみ子宛葉書 宏の肺炎の電報受け取った 回復が早ければ4月上旬（7日か8日下関出発）に日本に迎えにいける。	22	8
22	340	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	5	27	書簡	湖南省長沙の今井から、金沢市材木町の妻宛葉書。27日未明長沙着 岳麓山に登る。電報命令にて広東に戻り、7月上旬奉天勤務につく予定。	22	8
22	341	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	5	23	書簡	漢口の日本租界の今井から、金沢市材木町の妻宛葉書。今夕漢口着。長江の船旅は涼しく広東の酷熱に較べて避暑した如きである。北支の状況は随分変化激しき模様案じつつ旅行している。	22	8
22	342	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	1	6	書簡	上海武定路97号から 富山の実家の妻きみ子宛への今井からの葉書。きみ子の金沢市材木町の新住所届出を参謀本部の友人に頼んだ。	22	8
22	343	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	12	10	書簡	上海武定路97号から 富山の実家のきみ子宛への今井からの葉書。本日公館へ引越した。	22	8

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
22	344	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	2	18	書簡	広東の和知公館の今井から、富山の実家の妻宛葉書。広東語の片言を覚え支那街へも出かけた。単調な生活をしている。22-370参照。	22	8
22	345	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	4	29	書簡	広東の今井から、金沢市材木町の妻宛葉書。本日天長節で10時より祝賀式、夕方より素人演芸会あり。	22	8
22	346	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	5	31	書簡	江西省九江の今井から、金沢市材木町の妻宛の葉書。29日九江着。昨日登山した廬山は、蘇東坡が絶賞しただけの価値ある名山であった。きみ子にも見せてあげたかった。	22	8
22	347	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	10	28	書簡	奉天江島町の今井から、金沢市材木町の妻宛書簡。東京の家の手配は 12月近くになったら自分の方から、誰かに頼む。土肥原少将の2度目の着任は来月1日の予定。事変当時関係ある利権屋が手ぐすね引いて待っている、その撃退やら善後処置等うるさいことだと今から、警戒している。今までの（臨時）奉天機関長は承德（熱河省）の方へ行く予定。	22	8
22	348	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	6	8	書簡	北平の今井から、金沢市横山町の妻きみ子宛の書簡。長少佐 渡辺大尉満洲を経て出発するので見送った。天津歩兵隊は内地に帰還する部隊の中に金沢部隊も一中隊ある。砺波中尉にきみ子のことを依頼しておくから、軍隊関係のこと相談すればよい。	22	8
22	349	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	11	12	書簡	上海武定路97号田代公館から 金沢市横山町の妻宛の手紙。4日出の手紙受領。宏がよくなり安心。田代少将が漢口旅行から 二週間ぶりで帰ってこられた。根本中佐の敵父逝去されたが、帰国するわけに行かず、気の毒だ。	22	8
22	350	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	1	18	書簡	北平北京飯店の今井 から実家にいる妻宛の手紙。 今度の異動では班長の根本博中佐、長勇少佐は発令されていない。重藤千秋大佐、影佐禎昭少佐が転出（注：十月事件の影響）。昨日石野芳男少佐が南京から出て来て対面した。	22	8
22	351	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	8	28	書簡	大連の今井から、金沢市横山町の妻宛の書簡。 26日天津を出発。昨夜大連着。明日上海に向かって出発する。天津から、は南京対岸まで汽車はあるが、日本人の旅行は危険なので、荷物があり身動きがならぬので海路を通らねばならない。	22	8
22	352	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	8	13	書簡	北平日本公使館の今井から、金沢市横山町の妻宛の書簡。上海行のため 昨日荷物整理かたがた お別れのため北平へ来た。 明日は天津へ一旦引き上げる。	22	8
22	353	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	3	15	書簡	天津軍司令部經由中国在勤の今井から、実家にいる妻宛の手紙。2枚目なし。Grande Hotel de Peking の罫紙に記載。	22	8
22	354	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	1	25	書簡	北平北京飯店の今井から、実家にいる妻宛の手紙。今はやむなくフランス人経営のホテル暮らして、ボーイも雇っていない。本日、勅語奉読式あり、参列。	22	8
22	355	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	11	20	書簡	上海武定路97号田代公館から 金沢市横山町の妻宛の手紙。陰膳に感謝。長男宏、長女俊子の病気を心配。姪の今井雪子の結婚式は子供が病気のだから無理せず欠席してはいかが。	22	8
22	356	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	3	5	書簡	山東省済南の今井から、富山の実家にいる妻宛の手紙。昨日済南から帰還。	22	8
22	357	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	6	23	書簡	天津の今井から、金沢市横山町の妻宛の書簡 影佐少佐から全部仕事を引き継いだ。影佐少佐は明日帰国のはずだったがアメバ赤痢で30日に帰ることになった。帰れば家に一週間いて、欧米をひと回りせねばならずかなり予定でのごたごたしている。	22	8
22	358	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	8	2	書簡	天津租界鉄林公館の今井から、金沢市横山町の妻宛の書簡。東京の参謀本部支那課長の岩松大佐が来たが、当地で病気になり自分はその世話をしている。発熱40度で心配している。	22	8
22	359	今井きみ子宛電報	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	1	28	電報	台北の今井から、富山の実家にいる妻宛の電報。船の都合で台湾に着く。	22	8
22	360	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	5	8	書簡	広東の今井から、金沢市材木町の妻宛葉書 自分の悪口を言う人について。長男宏への手紙2通同封あり。22-360と22-361。	22	8

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
22	361	今井武夫書簡	今井武夫	今井宏	1933	昭和	8	5		書簡	22-360に同封。	22	8
22	362	今井武夫書簡	今井武夫	今井宏	1933	昭和	8	5		書簡	22-360に同封。	22	8
22	363	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	10	29	書簡	上海武定路97号田代公館から 金沢市横山町の妻宛の今井の書簡。北京語の良い教師を探しあて、2時間ずつ習い始めた。	22	8
22	364	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	5	6	書簡	広東の今井から、金沢市材木町の妻宛手紙。長江筋は排日もひどいらしいが、当地は割合平穏。日貨排斥といってももはや排斥すべき日貨がないのが真相。当地は官庁以外は旧暦。	22	8
22	365	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	6	10	書簡	広東から金沢市材木町の妻宛今井の手紙。妻が大病をした由心痛した。3枚であるの枚数なく切れている。他人から人格上信用の出来る人間だとせられたく、自らもそれを目標にしている。7月に奉天に行く。11日再び廈門（あもい）、汕頭に行き、15、6日に帰る。	22	8
22	366	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	2	14	書簡	天津の今井から、実家にいる妻宛書簡。一昨日に連絡したように、急に天津出張するよう言われて昨日北平を出発。9時汽車で天津着。影佐さんと話し合った。補佐役を勤める。今後北支の情勢は相当変化あるべし。	22	8
22	367	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	1	28	書簡	台北市台湾軍の今井から、富山の実家の妻宛手紙。台湾軍参謀長（清水喜重少将）に会うよういわれ引き止められる。台北神社を参拝する予定。	22	8
22	368	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	2	11	書簡	広東の和知公館の今井から、富山の実家の妻宛手紙。広東に来て一週間。広東語も習っているが、北京語と違って難しい。広東で水上生活する蛋族について。	22	8
22	369	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	1	21	書簡	上海武定路97号から 富山の実家のきみ子宛手紙。昨日北支旅行より帰る。これから 広東行きを準備を始める。広東行のスケジュールについて。長男宏が軍服が大変好きなら作ってあげたらいかがか。	22	8
22	370	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	2	18	書簡	広東和知公館の今井から、金沢市材木町の妻宛手紙。この日葉書（22-344）を出したあとに書いたもの。広東は排日が強い。昨年12月日貨売買商人が私刑で殺されている。たとえ片言でも広東語が話せないと市中に出られない。いよいよ国際連盟も正面衝突。これから先どうなるか。真の国難はこれからだろう。	22	8
22	371	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	1	16	書簡	天津の今井から、富山の実家にいる妻宛手紙。14日に青島から、汽車で当地着。	22	8
22	372	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	1	5	書簡	上海武定路97号から 富山の実家の妻宛手紙。広東への赴任の途中、長崎港へ立ち寄りきみ子に会うことは、研究員の身分であるので、規則で許されない。	22	8
22	373	今井武夫書簡	今井武夫	今井宏	1933	昭和	8	1	5	書簡	22-372に同封。カタカナ書き。	22	8
22	374	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	1	1	書簡	上海武定路97号から 富山の実家の妻宛への今井からの手紙。謹賀新年。昨年の上海事変で当地の神社が焼けたので、今年は（初詣の）鳥居をくぐる事ができない。熱河問題はいよいよ迫ってきたから、万一の波乱はあるかもしれないので覚悟は決めている。本日公使館で遥拝式に参列する。	22	8
22	375	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	12	31	書簡	上海武定路97号から、富山の実家の妻宛への今井からの手紙。年末の挨拶。満洲事変は1年や2年で解決されないかもしれない。（日本の）将来の準備のため中野英光中佐が僕に期待してくれている。	22	8
22	376	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	1	10	書簡	上海武定路97号から 富山の実家の妻宛今井の手紙。1月7日杭州へ出張。8日上海へ帰還。9日午前海軍始めて観兵式に田代少将に随従して参列。この日突然大連北支への出張を命ぜられる（向うきは義勇軍を日本側へつかせるため重要な人物を連れて行って必要方面へ夫々紹介するため）。	22	8
22	377	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	12	17	書簡	上海武定路97号から 富山の実家の妻宛今井の手紙。根本（博）さんが漢口に旅行中で忙しい。本日電報が来て1月末に広東に行けと言う訓令あり。	22	8

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
22	378	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	6	5	書簡	上海武定路923号から 金沢市材木町の妻宛の手紙。5月30日盧山に上る途中、汪兆銘、孫科、羅文幹等が日支停戦交渉の歴史的会議のため、蔣介石と会うため登山して下山するのど行き違い、翌31日の交渉成立（塘沽協定）の空気を察することができた。一旦帰国する認可を乞う電報を出した。今後のスケジュールについて。	22	8
22	379	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	2	25	書簡	広東の今井から、金沢市材木町の妻宛手紙。当地に日本から、手紙が届くのに日数がかかる。国際連盟から、日本もいよいよ脱退に決した。熱河も相当紛糾しよう。当地は今のところ表面は平静。引き上げの日本の汽船は月に2回くらいしかなく、万一の場合の居留民の保護に頭を悩ませている。封筒なし。	22	8
22	380	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	12	13	書簡	上海武定路97号から、富山の実家の妻宛への今井からの手紙。公館への引越し終わって、今は訪れる人もない所に一人起伏している。海軍の北岡という人について。	22	8
22	381	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	12	8	書簡	上海武定路97号から、富山の実家の妻宛への今井からの手紙。栗鼠の毛皮について。じきに引越すから、といて自分は暖炉のない洋式の部屋で、着物を着込んで寒さで丸くなっている。3枚だが1枚目の冒頭部分切れてない。	22	8
22	382	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	8	4	書簡	天津の今井から、金沢市横山町の妻宛の書簡。8月下旬までに上海に行つて、公使館付武官の補佐をしてくれとの話だ。影佐少佐からの手紙で上海へ行って根本中佐の補任を言ってきたものが実現したわけである。自分のように研究員で中国の北の端から、中部を見て南の端まで動いて歩いた者は、一寸前例がない筈である。	22	8
22	383	今井武夫書簡	今井武夫	今井宏	1932	昭和	7	8	4	書簡	天津の今井から、金沢市横山町の長男宛の書簡。22-382に挿入。カタカナ書き。お手紙ありがとう。クリミヤ戦争とナイチンゲールについて。	22	8
22	384	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1929	昭和	4	1	9	書簡	朝鮮会寧歩兵第75連隊十一中隊の今井から、富山井波町の妻宛書簡。昨日は陸軍始めて町の道路で分列式をした。部隊全体に自分の着任紹介があった。今日は午前戦術、午後練兵を見た。来週は一週間耐寒行軍で5日間で30里ほど行軍する。同期の清田は正月温泉湯治に行っていたが6日に帰ってきて話し相手ができ賑やかになった。封筒なし。	22	8
22	385	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	3	19	書簡	天津軍司令部経由中国在勤の今井から、実家にいる妻宛の手紙。影佐禎昭少佐が東京へ行って既に1ヶ月。手伝いのつもりが自分が主任で忙しい。北平へ引揚を考えたが参謀長（菊池門也大佐）から、片腕（影佐少佐のことか）が東京へ行っているのに、両腕をとられては困ると言われて居残っている。年月は推定。封筒なし。	22	8
22	386	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	12	22	書簡	上海武定路97号から 富山の実家の妻宛手紙。根本中佐旅行中に練習艦隊入港、百武源吾長官の来上海で忙しかつたが、出港し、儀式は済んだ。根本中佐は明日帰る予定。中国は今物価が非常に高く、日本の5～6割から 倍近く高い。3枚。	22	8
22	387	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	8	19	書簡	満洲の今井から、石川県高松町滞在の妻宛葉書。人格的基礎を作るものなので、雑誌類よりも哲学・宗教の読書を極力勧めます。	22	8
22	388	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	4	23	書簡	北平の今井から、実家の妻宛の手紙。許しが出て一昨日北平へ帰り、また本来の研究員の任務に戻った。今度の家は露国人の宿で、下宿人が10人位いる。北平は今が多くの花咲く時。	22	8
22	389	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7			書簡	時代は推定。上海駐在の頃のものか。	22	8
22	390	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1928	昭和	3	11	6	書簡	東京市外杉並町高円寺の自宅の今井から、金沢市材木町の妻宛葉書。宏の入籍終了。退院せられたか。本日宮城前に参集して聖寿を奉祝する（11月10日の昭和天皇即位礼のためか）。	22	8
22	391	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1928	昭和	3	9	1	書簡	東京の新しい下宿から富山県井波町の妻宛今井の葉書。無事予定通り富山から東京に帰った。	22	8
22	392	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	7	18	書簡	天津日本租界から 金沢市横山町の妻宛の葉書。宏の百日咳について病状問合わせ。今日北平より天津に帰った。日付は推定。	22	8

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
22	393	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	3	18	書簡	広東の今井から、金沢市材木町の妻宛葉書。先般支那の展覧会を見物。得る所、種々あり。	22	8
22	394	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	3	25	書簡	広東の今井から、金沢市材木町の妻宛葉書。宏の病状問い合わせ。当地は夏で、白服に白帽も奇ではない。雑多の花が咲き乱れている。	22	8
22	395	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	1	7	書簡	上海武定路97号から 富山の実家の妻宛今井の葉書。広東へ移駐前見ておきたいと考え、本日暇を貰って杭州へ旅行。明夜上海へ帰還する予定。	22	8
22	396	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	1	23	書簡	北平北京飯店の今井から、実家にいる妻宛の手。新聞を見ると中国側は国交断絶を叫んでいる様子。先日来戒厳を敷いて街々に銃剣をつけた中国の兵隊が頑張っている。今日から語学の先生を一人増やして勉強している。日常片言の会話はできるようになった。二三日中に侍従武官が見える予定。	22	8
22	397	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	4	22	書簡	広東の今井から、金沢市材木町の妻宛手紙。論文の起草構想をしている。排日貨で安い日本品が使えず広東は物価高。税金は無闇にとられ、家賃は救国基金とかいって一か月分の家賃相当額をとられ、人民は塗炭の苦に泣いている。当地の排日は口だけ。	22	8
22	398	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	6	25	書簡	天津日本疎開の今井から、金沢市横山町の妻宛の書簡。天津の周囲でコレラが流行して、日本租界にも出始めた。毎日中国人と会って不自由な中国語で対応し忙しい。6月20日から8月20日まで小学校は夏休み。この間が一番暑い。	22	8
22	399	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	3	9	書簡	天津軍司令部経由 中国在勤の今井から、実家の妻宛の手紙。宇都宮（注：第14師団）の小松様（義兄）召集された由だが、上海事変は一段落にて恐らく、出兵見合せとなるのではないか。影佐少佐も自分も国中央から派遣ということで（天津軍では）客分のようにやりにくい。やりかけた大仕事だけは是非実現させて、北京に帰りたい。（注：大仕事とは何か分からない。）	22	8
22	400	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	5	31	書簡	北平の今井から、金沢市横山町の妻宛の葉書。余り暑いので涼しい家を見付けて移転することにした。ボーイを頼んで自炊を始めた。	22	8
22	401	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	3	27	書簡	広東の今井から、金沢市材木町の妻宛葉書。雑誌「日の出」落掌。「日の出」は講談社の「キング」に対抗して、新潮社が創刊した大衆娯楽誌。	22	8
22	402	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	6	11	書簡	今井（天津の鉄林公館の住所）から 金沢市横山町の妻宛の夜発信の葉書。また命令があり天津軍司令部附で自分が出向くこととなった。影佐少佐は帰朝後、直ちに7月上旬欧米旅行予定。その後任で一時自分に移駐の命令が出た。	22	8
22	403	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1928	昭和	3	10	3	書簡	塩釜神社参拝後の今井から、富山県井波町の妻宛葉書。この神社は先年東久邇宮様が皇后陛下の安産を祈念せられし所。自分もきみ子の安産を祈った。	22	8
22	404	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	7	18	書簡	天津租界の今井から、金沢市横山町の妻宛の葉書。今朝葉書を出したら14日の手紙受け取った。宏の病気は俊子に移したくない。発信月は推定。発信日は14-392と同じ日の発信か。	22	8
22	405	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1928	昭和	3	10	25	書簡	東京市外杉並町高円寺の自宅の今井から、金沢市材木町の妻宛葉書。安産の報を鶴首。一昨日河原田浦治氏（竹馬の友）を訪問。昨日代々木で馬博覧会を見た。	22	8
22	406	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1928	昭和	3	11	28	書簡	東京市外杉並町高円寺の自宅の今井から、富山井波町妻宛葉書。脚気の療養に富山の実家に帰ったのは結構。朝鮮行きもあなたの希望通り来春で良からう。	22	8
22	407	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	11	30	書簡	上海武定路97号から 富山の実家の妻宛葉書。井波へ一時お帰りの由いかが。国際連盟の雲行きも容易に予測を許さない。中国人の居るところではジュネーブの空気はそのまま反映するので、いろいろごたごたしている。妻を思う短歌あり。	22	8

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備 考	参考 (箱)	参考 束
22	408	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	10	18	書簡	中国旅行中の今井の横台駅から 金沢市横山町の妻宛の葉書。山東問題は劉珍年の譲歩でどうやら解決できそう。山東に入ると日本的気分が横溢していて愉快。山東鉄道は満鉄式で乗務員も日本式に訓練されている。	22	8
22	409	今井武夫書簡	今井武夫	今井宏	1932	昭和	7			書簡	天津租界から 金沢市横山町の長男への葉書。発信日付なし。22-328で言及した10月の手紙か。あるいは22-383の前の7月未発信か。早く体が良くなって海に行きなさい。カタカナ書き。	22	8
22	410	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	11	10	書簡	上海武定路97号田代公館から 金沢市横山町の妻宛の今井の葉書。子供は田舎の気分で育てた方が可。長女俊子が田舎言葉になるのは差し支えない。金毘羅様のお守り有難う。	22	8
22	411	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1928	昭和	3	11	20	書簡	東京市外杉並町高円寺の自宅の今井から、金沢市材木町の妻宛葉書。8日間仰臥したが、本日床上げし、陸大へ登校したのでご安心あれ。学校は今日から測量部で写真の稽古。宏は乳児脚気の由。母乳は全快するまで与えてはならないようだからご注意ください。	22	8
22	412	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	1	13	書簡	北平北京飯店の今井から、実家にいる妻宛の葉書。錦州事件のため奉天と北平間が不通にて、内地からたくさんの賀状ようやく一度に受領。ホテル（飯店）は日本人は自分のみで 他は支那人と外人のみ。自分は支那語ができず下手な英語で朝夕を過ごしている。	22	8
22	413	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	1	15	書簡	北平日本公使館武官室の今井から、実家にいる妻宛の葉書。東京の人事の異動はかなり激しい。参謀総長、次長のほか課長も代わり、影佐禎昭少佐は天津に来る筈。錦州事件一段落。目下2時間中国語の教授を受けている。	22	8
22	414	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	9	2	書簡	奉天江島町の今井から、金沢市材木町の妻宛書簡。満洲の各省庁を整理し、権限を明確にする時期に達し、お互い他の役所の悪口を言い合っている。特務機関は両派の告げ口所になっている。正当な情報を得て 公平な裁断を下すべく、仲裁役やら弾圧役やらで気骨が折れる。	22	8
22	415	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	10	27	書簡	上海武定路97号田代公館から 金沢市横山町の妻宛の今井の手紙。昨日帰った旅行について。津浦線は日本人には危険といわれたが、ともかく往復無事だった。	22	8
22	416	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	2	8	書簡	北平北京飯店の今井から、実家にいる妻宛の葉書。上海陸兵派遣の声明発表秘密にしていたのも発禁がとけたらしい。所得税のことについて。当地の気分相変わらず陰鬱。	22	8
22	417	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	1	1	書簡	今井 から富山の実家にいる妻宛の年賀状。少し早い瀬戸内海で認めたもの。	22	8
22	418	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	5	8	書簡	北平の今井から、金沢市横山町の妻宛の葉書。流感のごとき風邪流行して、天津でも軍病院満員。中国では今月1日から、郵税5割の値上げ。立法院ではまだ値上げに反対しているようだが、もう葉書に5割増しの切手を貼らねば相手に届かないのが事実だ。	22	8
22	419	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	10	2	書簡	上海武定路97号田代公館から 金沢市横山町の妻宛の葉書。再び蘇州に旅行を命ぜられ、本日上海に帰った。事変後蘇州を訪れた日本人は自分が二人目なる由。歴史的には名所旧蹟のある所で歴史を偲んだ。	22	8
22	420	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	5	26	書簡	蒙古の入り口である察哈爾省張家口に旅行中の今井から、金沢市横山町の妻宛の記念の葉書。一昨日から、郵便局のストライキでこの手紙何時着くか分からない。明日は山西省の大同に旅行したいと思って中国側と交渉中だが、許可されねば北平へ帰る予定。	22	8
22	421	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	4	22	書簡	北平の今井から、実家の妻宛の葉書。昨日天津から、引揚げて北平に戻る。新しい宿はロシア人経営の宿で、部屋二室、居室、応接室があり気持がいい。きみ子から、住所移転の知らせがあつてから、東京へ届ける。	22	8
22	422	今井武夫書簡	今井武夫	今井宏	1932	昭和	7	7	31	書簡	天津の今井から、金沢市横山町の長男宛の葉書。カタカナ書きの見舞い。	22	8

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
22	423	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	6	4	書簡	北平の今井から、金沢市横山町の妻宛の手紙。内地の将校婦人会のことや、牛黄（漢方薬）の送付について。暑くて食欲もないので涼しい軒先に引越した。今頃金沢では博覧会や凱旋部隊で大騒ぎのことと想像している。	22	8
22	424	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1928	昭和	3	12	9	書簡	東京市外杉並町高円寺の自宅の今井から、富山井波町の妻宛葉書。17日夜もしくは18日朝井波へ行き 井波を24日乃至26日出発の予定。	22	8
22	425	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	3	3	書簡	山東省済南の今井から、富山の実家にいる妻宛の手紙。本日朝から山東省主席韓復榘を訪ね種々懇談。上海の戦報も大勝利で愉快だが、戦死者多く同情に耐えない。当地でも北陸人の武勇を讃えている。長女俊子の桃の節句祝ってやってくれ。ヤマトホテルの罫紙に記載。	22	8
22	426	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	11	26	書簡	上海の今井から、妻宛の手紙。子供たちが元気回復して嬉しい。富山の実家に厄介になっている由宜しくお伝えください。21日当地の服部少佐蘇州の田舎旅行中、支那側公安局に捕らえられて心配したが、連れて行った通訳が公安局員を知っていて買収したりして問題にならず23日に帰ってきた。今夏は石野少佐が福州で捕まえられるなど田舎はまだ相当戒慎を要する。封筒なし。2枚。	22	8
22	427	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1928	昭和	3	10	30	書簡	東京の今井が陸大登校前に金沢市九人橋通り内田病院の妻宛葉書。今朝5時半の電報受け取った。解熱された由の吉報で今朝7時の貴方へ見舞いに出かけること取りやめた。しかし容態によっては何時でも出掛ける用意あり。22-319の前に発信したもの。	22	8
22	428	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	8	20	書簡	天津の鉄林公館の今井から、金沢市横山町3番1号の妻宛の書簡。氷見の海水浴に行った由。自分は見習い士官時代、富山から、10里ほど歩いた後、氷見の海岸で2泊3日の演習をした。砂浜を炎天に照らされて、夜昼演習をやったので、日射病で兵隊が悩まされた記憶がある。封筒は18日付け記載になっている。	22	8
22	429	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1931	昭和	6	11	7	書簡	熊本市大演習統監部の今井から、東京市外上目黒駒場の妻宛葉書。大坂經由本日予定通り熊本着。小学校の宿舎に入る。	22	8
22	430	今井武夫書簡	今井武夫	太田長蔵	1928	昭和	3	9	1	書簡	東京市外 杉並町高円寺の自宅（下宿）から富山の義父太田長蔵宛葉書。一昨日突然参上しご懇情忝く。今朝11時予定通り東京着。本日震災記念5周年で東京市中は大騒ぎです。	22	8
22	431	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1928	昭和	3	9	10	書簡	上野駅の今井から、富山県井波町の妻宛葉書。秋田県横手町へ行く。10時半の急行で明日10時に富山に着く。子供は逆子でなければ何より。お産について心配の必要ない	22	8
22	432	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1931	昭和	6	12	28	書簡	神戸運輸部の今井から、富山の実家の妻宛葉書 本朝義姉夫婦（和田氏）と娘京子さんに見送られ大阪から神戸へ。神戸で乗船。天津へ向かう。日付は推定。	22	8
22	433	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1928	昭和	3	10	26	書簡	東京信濃町停留所から金沢市九人橋通り内田病院の妻宛葉書。わが子の誕生電報を喜ぶ。電文「ケサハジオトコニリブジ」母子無事と解するも、句読点の読み方では、双子の男子誕生とも解せられる。その場合は至急通知されたし。子供の名前を考えるが、希望あれば申越されたし。（付）今井きみ子宛書簡 1通（今井武夫 8月8日 看病の効験見えざる由心痛し、幼児の事とて養生も困難、一同全快の暁は一家揃って温泉へ）	22	8
22	434	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	10	8	書簡	上海武定路97号田代公館から金沢市横山町の妻宛の手紙。武官室は狭い上に、4週間家を空けていた根本中佐も帰ってこられたので、昨日英人の家へ変った。英語の稽古にもなる。満洲国方面はまた騒いでいるね。行方不明を伝えられる渡辺少佐と井上大尉のことについて。自分の知った人で次々と変事のあることを聞くことが実に多い。	22	8

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
22	435	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	10	15	書簡	津浦線の今井から、金沢市横山町の妻宛の手紙。昨14日上海を出発して、南京を経て山東の韓復榘と劉珍年の抗争の状況視察に赴く途中。南京は初めて。明の太祖の皇陵と中山陵だけ見物し、揚子江を渡って、津浦線を北上している。津浦線は日本人の旅行は危険といわれていたが、もう大丈夫だと思う。約一週間か10日したら上海へ帰る。韓劉抗争は中央の調停が奏効しそうだ。	22	8
22	436	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	10	21	書簡	奉天特務機関の今井から、金沢市材木町の妻宛の手紙。マラリア風邪とか肺炎がはまっている。東京勤務になるので、移転の予定しておいてもらいたい。住所は渋谷か中野がよいかもしれない。人事のことは秘密事項だから、人には喋ってはならないよ。	22	8
22	437	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	2	2	書簡	北平公使館陸軍武官室の今井から、井波町の実家にいる妻宛の手紙。いよいよ昨日内地ではあること決定。今頃井波では大騒ぎしているかも知れないがしばらく発表禁止なのでそれだけしか書けない。（注：上海事変のための内地から軍隊派遣のことか）	22	8
22	438	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	11	19	書簡	上海武定路97号田代公館から 金沢市横山町の妻宛の手紙。市街の中心に近いところに分室を設けて根本中佐が移転し 田代少将と共に武官室に起居して、本館の事務をとることとなった。済南の中野英光少佐から 手紙あり。今井を実務に使用せず支那語等勉強させるようにすべきで、支那研究の便利な地点に移転させるべきと支那課長に働きかけているとの由。	22	8
22	439	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	8	30	書簡	青島沖の奉天丸から 金沢市横山町の妻宛の書簡。明日上海着の予定。海から見る青島は堂々たる街で、日本が中国に無条件で返したのは残念なくらい。大連汽船会社の異紙に記載。	22	8
22	440	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	5	28	書簡	北平の今井から、金沢市横山町の妻宛の手紙。4日ほど蒙古の入り口である張家口に行ってきた。更に奥地に行きたかったが土匪の関係で中止。その代わりに昨日八達嶺へ行き、万里の長城を見た。今度佐方（繁木）、渡辺両大尉がまた北平に来たが、長少佐は漢口、渡辺（秀人）大尉はハルビンに行くこととなり、二から三日中に出発する。短歌3首あり。	22	8
22	441	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	11	5	書簡	上海武定路97号田代公館から 金沢市横山町の妻宛の今井の手紙。30日の手紙拝見。先日蘇州へ一寸行ってきた。上海事変後、訪れるものは自分が最初。市中を歩いたが、今は危険はない。事変当時第19路軍司令部があった。日本の海軍の飛行隊が爆破した跡があった。	22	8
22	442	今井武夫書簡	今井武夫	今井宏	1932	昭和	7	11	5	書簡	病気の見舞い。誕生日の贈り物。日付なく22-441に同封と推定。	22	8
22	443	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	9	22	書簡	奉天江島町の今井から、金沢市材木町の妻宛手紙。金沢地方の地震の見舞い。洮南の方はペストが流行している。先日吉海線を旅行して帰ったが、翌日奉天線に匪賊の襲撃あり。吉海線も3日後匪賊襲来。満鉄線だけはまだ事故はない。満州もこれから、寒くなる。	22	8
22	444	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	3	21	書簡	広東の今井から、金沢市材木町の妻宛手紙。宏の発熱看病で無理しないように。必要なら看護婦に頼むように。自分のため陰膳してくれているので飢えて困るようなことはない。先日展覧会を見に行ったが、上海戦時の戦用品が並べてあったが大部分いい加減。雑誌「話」創刊号受領。面白く読んだ。	22	8
22	445	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	3	7	書簡	広東の和知公館の今井から、金沢市材木町の妻宛手紙。熱河作戦は始めたと思ったら終ってしまった。驚くばかりの大成功。しかし今後省内の治安維持は却って面倒なことであろう。支那人の執拗性には閉口するんだから。米国の金融問題で従来のような排日気勢もにぶるかもしれない。広東の幅2町縦8町の租界の島の中を行ったり来たりしている。	22	8
22	446	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	9	24	書簡	上海武定路97号田代公館から 金沢市横山町の妻宛の手紙。昨日上海の地形を視察するため江湾競馬場に行った。上海事変の戦闘跡地を見て8千万同胞の人柱となった戦士を思う。	22	8
22	447	北平の日本公使館前	今井武夫		1932	昭和	7	9		写真	22-446同封写真。	22	8

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
22	448	上海間北破壊された建物跡にて探し物をする中国人	今井武夫		1932	昭和	7	9		写真	22-446同封写真。	22	8
22	449	上海埠頭の軍艦	今井武夫		1932	昭和	7	9		写真	22-446同封写真。	22	8
22	450	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	4	1	書簡	広東の今井から、金沢市材木町の妻宛手紙。広東に引籠もって世界の情報圏外にいる。3月18日に陸軍の異動あったが、まだ情報到着していない。中国側が通信文を開封する。目下中国人の間に反蔣と援蔣の争いがあるが、その駆け引きに對日問題が使われている。	22	8
22	451	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	4	6	書簡	広東の今井から、金沢市材木町の妻宛手紙。昨日初めて3月の異動が分かった。同期の伊藤が第9師団の参謀になった。自分の少佐進級時期について。この3週間ずっと研究論文の構想をしている。	22	8
22	452	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	7	18	書簡	北平の今井から、出張金沢市横山町の妻宛の手紙。今朝済南から、天津へ帰還。午後一ヶ月ぶりに北平に戻った。前に北平で下宿していたロシア人の家から、もコレラ患者が出た。早く家を代っており、荷物等置いてなくてよかった。明後日天津へ帰る予定。扶桑館の罫紙に記載。	22	8
22	453	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	5	21	書簡	北平の今井から、金沢市横山町の妻宛の手紙。東京は大騒ぎだね。深愛している。上海派遣軍もどンドン引揚げ、そろそろ金沢も凱旋気分で埋まることだろう。中国では郵税5割値上げしたが、立法院から、横槍が出て又変更。2分5厘の値上げとなった。5月1日から、20日まで5割。21日から、2割5分の値上げとなった。なかなか不統一。自分は居留民の射撃大会で7等賞品をもらった。	22	8
22	454	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	9	14	書簡	上海武定路97号田代公館から 金沢市横山町の妻宛の手紙。田代少将を根本中佐とともに補佐している。今月一杯根本中佐満洲方面から 北支那旅行に出ているため、ほとんど一人で武官室の仕事をしている。武官室の二階に独りで居る。田代少将は別棟に住む。事務で忙しい。排日テロ団の襲撃説、共産党の策動が予想され一同緊張している。南方は人気も悪く、日本人が恨まれることひどいらしい。石野少佐は昨日福建で旅行中支那人に捕らえられたが、すぐ釈放された由。	22	8
22	455	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	3	12	書簡	天津軍司令部經由中国在勤の今井から、実家にいる妻宛の手紙。天津から、だが北京グランドホテルの用紙に記載。宇都宮師団は出征することなく停戦した模様。第9師団は非常な犠牲を出した。内地の新聞の爆弾三勇士（2月22日戦死）には感激した。計画の仕事は暗礁に乗り上げて容易に実現せずそのため北平帰りも遅れて天津に滞在せねばならない。当地は蒙古風が吹き不愉快。	22	8
22	456	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	3	31	書簡	天津軍司令部經由国在勤の今井から、実家にいる妻宛の手紙。参謀長（菊池門也大佐）と天津の花園街の大和ホテルと一緒に宿泊している。近く北平に帰るようになりはせぬかと思っている。きみ子の身体のことを心配。海外にいる者の内地所得税申告について。	22	8
22	457	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	5	12	書簡	香港の今井から、金沢市材木町の妻宛手紙。漢口へ旅行するため香港へ出てきた。広東から、陸路漢口へ抜ける旅行は排日で危険なため。今度の旅行の目的は漢口を始め各地に起っている排日状況を視察し、帰途上海の田代少将に研究論文3題を提出して読んでもらい、その指導を受けるため。	22	8
22	458	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	8	17	書簡	奉天江島町の今井から、石川県高松町滞在の妻宛書簡。昨16日飛行機で新京へ行き、3時間用談のうえ夜帰ってきた。飛行機のゆれが激しく全部嘔吐した。臨時機関長が奉天に来たが、私行上種々評のある人で、公私共に補佐に頭を使う関係上か、つくづく嫌気がさしている。	22	8
22	459	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	9	3	書簡	上海武定路97号田代公館から 金沢市横山町の妻宛の手紙。8月26日塘沽出帆から 9月2日までの旅行と活動報告。22-460長男宏宛の手紙同封か。	22	8
22	460	今井武夫書簡	今井武夫	今井宏	1932	昭和	7	9	3	書簡	日付なきも22-459に同封されていたものか。カタカナ書き。	22	8

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
22	461	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	9	30	書簡	奉天江島町の今井から、金沢市材木町の妻宛書簡。金沢の地震のとき井波町に行っておられたのはよかった。当地役所の一番年長の軍属の奥様が4歳と2歳の幼児を残して亡くなられ涙を禁じ得ず。葬式、お通夜ととりこんでいる。	22	8
22	462	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	1	9	書簡	北平日本公使館武官室の今井から実家にいる妻宛の手紙。昨日からフランス人経営の北京飯店に移る。中国旅館は排日的意味で謝絶された。明日より3時間先生を招いて中国語の勉強をする。山海関から帰ったが山海関も北平も表面上は平靜。	22	8
22	463	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	3	3	書簡	広東の久保方今井から、金沢市材木町の妻宛手紙。国際連盟も愈々脱退日本は国難に当面している。熱河戦も我々が考えていたよりも早く片付きそうに思われる。当地は不思議なほど静か。日付は2月3日夜となっているが間違いか。	22	8
22	464	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	9	9	書簡	奉天江島町の今井から、金沢市材木町の妻宛書簡。各種の問題が紛糾したのを、仲裁役やら何やらでけりをつけたが、お蔭で非常に忙しい。(陸士同期の)山本政雄氏男の子をなくされ、奥様は金沢に帰られると聞いた。	22	8
22	465	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1933	昭和	8	2	6	書簡	広東の今井から、富山の実家の妻宛手紙。妻の住所変更について。日本人は広東で沙面という小さな島に住んでいる。排日が今強くて、鉄条網が張り廻らされ、人呼んで「動物園」。日本人は二百数十人。物価は上海あたりより三～四割高い。	22	8
22	466	今井武夫書簡	今井武夫	今井宏	1933	昭和	8	2	5	書簡	広東の今井から、長男宛。正月にスキーをした由。カナ書き1枚。発信月は推定。22-465に同封されていたものか。	22	8
22	467	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	2	12	書簡	2月2日の手紙受け取った。第9師団も一部動員実施されること内地で新聞解禁された。天津軍の影佐少佐に懇望されてやむなく一二月の予定で天津軍に勤務する。当地の公使館付武官補佐官永津(佐比重)中佐には断っていたが、既に先般参謀本部から天津軍業務補佐の命令も受けており、義理もあるので。半年は静かに支那問題研究したかったが快諾した。	22	8
22	468	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1928	昭和	3	11	16	書簡	東京市外杉並町高円寺の自宅の今井から、金沢市材木町の妻宛手紙。2度目の手術に驚く。お乳の出ないときには鯉節の味噌スープを飲むとよい。自分はちょっとした病気で5日間ほど寝ているが心配しなくてよい。11月6日夜叔母さん(丸山ためのことか)のところへ行って晩餐をご馳走になった。	22	8
22	469	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	7	26	書簡	天津の今井から、金沢市横山町の妻宛の書簡。17日の手紙受け取った。宏が衰弱した由可哀そう。張学良の熱河へ軍隊侵入は関東軍はじめ日本に種々の点で影響あり。1枚目のみで切れている。日付は推定。26日の封筒があったのでこの日と推定。	22	8
22	470	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	12	24	書簡	上海武定路97号から富山の実家の妻宛今井の手紙。戦死と決定した親しかった渡辺少佐と井上大尉との因縁について。今年の12月の異動は7日に発表された。昨年は14日発表だった。3枚もので1枚目なし。封筒なし。	22	8
22	471	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1932	昭和	7	5		書簡	一番小さいベスト型の携帯写真機旅行報告書に必要なので銀の130円で買った。先だって言った千人縫(22-288関連の千人針のことか)を長野から送ってきた。年月は推定。封筒なし	22	8
22	472	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1931	昭和	6	11	12	書簡	大演習中の今井から、東京市外目黒町上目黒町駒場の妻宛手紙。「一体たる兩名」。眼鏡入手有難う。途中で切れている。	22	8
22	473	今井武夫書簡	今井武夫	今井きみ子	1928	昭和	3	10	16	書簡	東京市外杉並町高円寺の自宅(借家:家主木村茂一方)の今井から、金沢市西馬場町の妻宛手紙。山本(陸士同期の政雄)の令嬢がなくなった由を学校で聞いた。奥様に弔慰金送りたいので、住所知らせてくれ。向かいに住む遠藤(同期の遠藤庄一のことか)は母親と弟の子供を連れてきている。	22	8
22	474	今井きみ子宛書簡の封筒	今井武夫	今井きみ子	1929	昭和	4	3	3	封筒	朝鮮会寧第75連隊の今井から、富山の実家の妻宛手紙の封筒。中味なし。	22	8

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
22	475	今井武夫宛叙勲「叙従五位」	松平恒雄	今井武夫	1939	昭和	14	4	1	勲章	松平は宮内大臣。	22	9
22	476	今井武夫宛辞令「任陸軍歩兵大佐」	平沼騏一郎	今井武夫	1939	昭和	14	3	9	書類	平沼は総理大臣。	22	9
22	477	今井武夫宛辞令「依願免本官」	小磯国昭	今井武夫	1944	昭和	19	8	30	書類	小磯は総理大臣。	22	9
22	478	今井武夫宛位記「叙正五位」	松平恒雄	今井武夫	1943	昭和	18	3	15	勲章	松平は宮内大臣。	22	9
22	479	締盟状の封書	日本赤十字社		1940	昭和	15	12	12	封筒	22-束10所収の封書。	22	10
22	480	今井武夫宛仮領収書	日本赤十字社	今井武夫	1940	昭和	15	12	12	書類	年釀金として25円也。	22	10
22	481	今井武夫宛領収書	日本赤十字社	今井武夫	1940	昭和	15	12	12	書類	年釀金として25円也。	22	10
22	482	今井武夫宛日本赤十字社正社員辞令	閑院宮載仁親王	今井武夫	1940	昭和	15	12	12	書類	載仁親王は日本赤十字社総裁。締盟状の封書に同封。	22	10
22	483	日本赤十字社社令ほか	日本赤十字社		1938	昭和	13	9	9	書類	定款・社員心得等1枚の紙に記載あり。	22	10
22	484	注意書	日本赤十字社		1938	昭和	13	9	9	書類		22	10
22	485	汪兆銘遺書スクープ新聞切抜の封書	今井武夫		1964	昭和	39			封筒	22箱-束11所収のファイル。「汪兆銘政権の誤算」と封書に自筆記入。	22	11
22	486	「汪精衛氏の遺書を発見」 「汪精衛氏の国事遺書（上）」	毎日新聞社		1964	昭和	39	4	29	新聞	毎日新聞。新聞切抜。	22	11
22	487	「汪精衛氏の国事遺書（下）」	毎日新聞社		1964	昭和	39	5	1	新聞	毎日新聞。新聞切抜。	22	11
22	488	「憂楽帳 最後の心情」	毎日新聞社		1964	昭和	39	5	1	新聞	毎日新聞。新聞切抜。汪兆銘の遺書について。	22	11
22	489	「汪精衛氏の国事遺書を読んで 今井武夫氏談『残念な日本の背信』 清水董三氏談『これぞ真実の遺書』」	毎日新聞社		1964	昭和	39	5	2	新聞	毎日新聞。新聞切抜。清水は東亜同文書院12期生。	22	11
22	490	「余録 汪精衛氏の国事に対する遺書について」	毎日新聞社		1964	昭和	39	5	2	新聞	毎日新聞。新聞切抜。	22	11
22	491	胡蘭成「汪精衛氏の国事遺書 思考の混乱反映 和平は策略ではなかった」	毎日新聞社		1964	昭和	39	5	15	新聞	毎日新聞。同一2部あり。新聞切抜。	22	11
22	492	汪兆銘伝原稿	今井武夫			昭和				原稿	22箱-束12所収のファイル。22-492～498で1綴	22	12
22	493	汪兆銘	今井武夫			昭和				原稿	上海での汪兆銘との初めての出会いについて。原稿用紙に5枚。	22	12
22	494	汪精衛と私	今井武夫			昭和				原稿	汪兆銘に初めて会ったときのこと。白梅と詩集について。3枚。	22	12
22	495	汪兆銘について	今井武夫		1966	昭和	41			メモ	汪は気が弱いほか、頁数記載あり。1枚。昭和40年今井が発行した青木一男「祖国の安泰と民族繁栄のための基本問題」代金受領書の裏に記載。年度は全くの推定。	22	12
22	497	汪兆銘	今井武夫		1967	昭和	42			原稿	1965年、66年の「アジア研究」の裏に記載。32枚。年度は全くの推定。	22	12
22	498	汪兆銘と陳璧君	今井武夫		1967	昭和	42			原稿	1966年の「アジア研究」の裏に記載。2枚。年度は全くの推定。	22	12
22	499	対重慶和平	今井武夫		1971	昭和	46			原稿	1970年「アジア研究」の裏に記載。1枚。年度は全くの推定。	22	13
22	500	外務省の行なったスチュワート工作についての永井洵一からの聞き取りメモ	今井武夫		1970	昭和	45	9	8	メモ	永井と河相達夫が終戦間近に行なった「スチュワート工作」について聞いた話のメモ（於霞山会、田尻愛義、塚本毅 同席）。1956年「アジア研究」の裏に記載。3枚。	22	13
22	501	勝海舟の書	今井武夫		1977	昭和	52	11		原稿	3-38の原稿。1966年「アジア研究」の裏に記載。7枚。年月は推定。	22	13
22	502	相楽総三と石城東山について	今井武夫		1976	昭和	51	1		原稿	3-29の原稿か。1966年「アジア研究」の裏に記載。15枚。年月は推定。	22	13
22	503	児玉源太郎について	今井武夫		1971	昭和	46			メモ	1970年「アジア研究」の裏に記載。1枚。年度は全くの推定。	22	13
22	504	周仏海の重慶の通牒ほか	今井武夫		1971	昭和	46			メモ	1970年「アジア研究」の裏に記載。1枚。年度は全くの推定。	22	13
22	505	南京政府の対米英戦線と重慶政府との連絡	今井武夫		1971	昭和	46			原稿	1970年「アジア研究」の裏に記載。1枚。年度は全くの推定。	22	13

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
22	506	菊地容春、勝海舟、諏訪忠誠などについて	今井武夫		1965	昭和	40	2		メモ	昭和40年2月今井が発行した青木和男「祖国の安泰と民族繁栄のための基本問題」発行案内と代金受領書の裏に記載。3枚。月は推定。	22	13
22	507	太田泰幸書簡	太田泰幸	今井武夫	1967	昭和	42	11		書簡	今井著『近代の戦争 5 中国との戦い』 220～221頁の汪兆銘の詩は五言律詩か。五言古詩ではないか。	22	13
22	508	今井武夫書簡	今井武夫	太田泰幸	1967	昭和	42	11	3	書簡	22-507に対する返事。厳格に言って五言律でなくとも五言律といい、五言古詩とは言わない。資料貼付。	22	13
22	509	汪兆銘について	不明			昭和				原稿	原稿用紙に清書したもの。1枚で切れている。	22	13
22	510	船内に立つスーツ姿の男				昭和				写真	年号は推定。	22	13
22	511	今井武夫宛「大日本帝國外国勳章佩用免許証」	下條康麿	今井武夫	1935	昭和	10	9	21	勳章	満州国皇帝からの訪日記念章の受領と佩用允許。下條は賞勳局総裁。第898527号。	22	13
22	512	歩兵第四百一連隊宛賞詞	本間雅晴	歩兵第四百一連隊	1942	昭和	17	6	28	書類	パターン攻略戦の賞詞。本間は第14軍司令官として。印鑑なし。18-393にもあり。	22	13
22	513	私の所信	小林順一郎		1957	昭和	32	9		冊子	小林は大佐。陸士13期。昭和22年8月30日に巢鴨より釈放される。陸大は兵学者でなく参謀（技師）の養成に傾いていたと批判。今井は同感と記している。	22	13
22	514	今井武夫宛「叙勳四等旭日小綬章」	下條康麿	今井武夫	1934	昭和	9	4	29	勳章	下條は賞勳局総裁。	22	13
22	515	昭和六年乃至九年事変従軍記章之証	下條康麿		1934	昭和	9	4	29	勳章	下條は賞勳局総裁。	22	13
22	516	今井武夫宛「満州国皇帝訪日記念章証書」	張景恵	今井武夫	1935	昭和	10	9	21	書類	康德2年。張は満州帝国國務總理大臣。	22	13
22	517	今井武夫宛叙勳「叙旭日中綬章」	下條康麿	今井武夫	1940	昭和	15	4	29	書類	支那事変における功により叙旭日中綬章及金參千円授与。下條は賞勳局総裁。	22	13
22	518	靖国神社社務所書簡	靖国神社社務所	今井武夫	1968	昭和	43	4	12	書簡	4月7日の陣没軍馬慰霊行事参加のお礼と写真送付連絡。封筒なし。	22	13
22	519	松平恒雄書簡	松平恒雄	今井武夫	1943	昭和	18	11	2	書簡	11月6日新宿御苑で（天皇陛下から）茶菓を賜わる案内通知。松平は宮内大臣。	22	13
22	520	今井武夫宛蒙古軍武功章証書	徳王	今井武夫	1938	昭和	13	10	1	勳章	成吉思汗733年。訳文添付ある。蒙古語で日付記載か。徳王は蒙古連盟自治政府首席。モンゴル語で記載。このとき銀のタバコケースをもらっている。日付は推定。	22	13
22	521	支那派遣軍参謀部第2課書簡	支那派遣軍参謀部第2課	今井武夫	1942	昭和	17	5	28	書簡	紀元二千六百年祝典記念章之証送付の件。かなり日数が経って送られてきている。	22	13
22	522	今井武夫宛「紀元二千六百年祝典記念章」	下條康麿	今井武夫	1940	昭和	15	11	10	勳章	下條は賞勳局総裁。22-521で送付されたものか。	22	13
22	523	東条英機陸相宛「外国勳章受領証明書下付の件願」	今井武夫	東条英機陸相	1943	昭和	18	5	29	書類	グラン・オフィシエー・ドラゴン・ド・アンナン勳章。20-14参照。下書きと思われるが印刷して押印あり。22-523～526で1綴	22	14
22	524	瀬古保次賞勳局総裁宛「外国勳章受領及佩用願」	今井武夫	瀬古保次賞勳局総裁	1943	昭和	18	5	29	書類	グラン・オフィシエー・ドラゴン・ド・アンナン勳章。	22	14
22	525	伴閔物件目録	今井武夫		1943	昭和	18	5	29	書類	グラン・オフィシエー・ドラゴン・ド・アンナン勳章。	22	14
22	526	受動事由書	今井武夫		1943	昭和	18	5	29	書類	グラン・オフィシエー・ドラゴン・ド・アンナン勳章。日仏親善関係増進上のため。	22	14
22	527	参謀本部の根本中佐	今井武夫		1967	昭和	42	6	30	原稿	原稿用紙に記載。5枚。	22	15
22	528	大蔵公望書簡	大蔵公望	今井武夫	1939	昭和	14	8	10	書簡	東亜研究所調査参与委嘱。大蔵は東亜研究所副総裁・男爵。	22	15
22	529	今井武夫宛「東亜研究所調査参与委嘱書」	近衛文麿	今井武夫	1939	昭和	14	8	5	書類	北平駐在武官時代のものか。	22	15
22	530	満州 新京			1933	昭和	8			写真	新京公園、関東軍司令部ほか。10枚。年は推定。	22	15
22	531 (欠番)												
22	532	外人名刺名簿集			1937	昭和	12			名刺	北平駐在武官時代のものか。54名。年は推定。	22	15

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
22	533	邦人名刺集 一			1937	昭和	12			名刺	北平駐在武官時代のもの。いろは順で「い」から「わ」まで。379名。年は推定。	22	15
22	534	邦人名刺集 二			1937	昭和	12			名刺	いろは順で「か」から「お」まで。343名。影佐禎昭から帝國新報社の紹介文もあり。「満州国軍政部囑託」の永田美耶子の名刺あり。年は推定。	22	15
22	535	邦人名刺集 三			1937	昭和	12			名刺	いろは順で「く」から「ゆ」まで。410名。松岡満鉄総裁、船津辰一郎在華日本紡績同業界専務理事の名刺あり。北平駐在武官小別當惣三の名刺あり。小泉又次郎、小泉純也の名刺あり。年は推定。	22	15
22	536	邦人名刺集 四			1937	昭和	12			名刺	いろは順で「み」から「す」まで。208名。崇貞学園経営者清水安三、報知新聞政治部百武末義の名刺あり。年は推定。	22	15
22	537	支那人名簿 一			1937	昭和	12			名刺	北平駐在武官時代のもの。いろは順で「い」から「よ」まで。371名。13-78参照。年は推定。	22	15
22	538	支那人名簿 二			1937	昭和	12			名刺	北平駐在武官時代のもの。いろは順で「た」から「す」まで。225名。呉佩孚、蕭振瀛、秦徳純の名刺あり。13-78参照。年は推定。	22	15
22	539	ゲーリング チャーチル等	今井武夫			昭和		8	2	メモ	8月2日サンデー毎日。ゲーリング、チャーチル等の名前あり。	22	15
22	540	種牡サラブレッド馬 ラシカッター				大正				絵葉書	明治43年英国から奥羽牧場に2万5千円で購入した名馬ラシカッター。年号は推定。仔を軍馬にしたものかどうかは不明。1枚。	22	15
22	541	「朝陽門外の虹」中国語版を出版 山崎朋子さん著			2007	平成	19	6	2	新聞	朝日新聞記事複写。	22	15
22	542	陸軍次官阿南惟幾ほか宛「松機関開設ノ件通牒」	今井武夫		1940	昭和	15	1	28	書簡	在上海 阪田公館は今般支那派遣軍参謀部第二課の直轄「松機関」となって事務を開始するので承知願いたい。阪田誠盛の機関のこと。今井は第二課長。松機関の住所は上海欧嘉路瑞康里32号。複写。総参二号外。陸支密受第1313号。	22	15
22	543	CIA「日本の大物役立たず」	読売新聞社		2006	平成	19	2	26	新聞	1953年CIAが辻政信、児玉誉士夫に接近したが役立たず。読売新聞。複写。	22	15
22	544	北京収容所	佐藤亮一		1963	昭和	38	11	30	書籍	北京の獄舎で佐藤が秘密に書き綴った記録。佐藤は毎日新聞特派員だった。河出書房新社。昭和20年10月10日双十節を期して京津地区に駐屯する北支方面軍隷下の全部隊が武装解除すると北京城内は百鬼夜行の非常に困難に陥ったとある。	22	15
22	545	私の歩いた道 20人集 2	現代信濃人物誌刊行会		1972	昭和	47	7	10	書籍	酒井宇志夫からの寄贈。「酒井宇志夫」の項 200頁、「小林周蔵」の項 234頁に、今井について記載あり。今井の修正箇所10箇所近くあり。小林は、今井の長野中学2年後輩。長野西沢書店販売。	22	15
22	546	悪政・銃声・乱世	児玉誉士夫		1961	昭和	36	8	25	書籍	178頁から179頁にかけて今井について記載あり。弘文堂。	22	15
22	547	世界週刊 第6巻	日本青年外交協会		1943	昭和	18	12	25	雑誌	雑誌「世界週刊」自27号（7月3日発行）至52号（12月25日発行）を1冊にしたもの。	22	15
22	548	高橋久志「汪兆銘南京政権参戦問題をめぐる日中関係」	日本国際学界編		1988	平成	1	5		雑誌	国際政治91号。「日中戦争から日英米戦争へ」。複写。	22	15
22	549	夢春庵推敲	島田謹吾		1978	昭和	53	12	25	書籍	非売品。昭和44年1月19日付け島田からの年賀を兼ねた送付状の手紙同封あり。島田は長野中学同級生。225頁。	22	15
22	550	日華・風雲の七十年	張群		1980	昭和	55	8	30	書籍	サンケイ出版。古屋奎二訳。張は蒋介石の右腕だった。	22	15
22	551	上海十話 ～あのこ（滬）は今、そして～	新世紀菜の花会		2008	平成	20	9	1	冊子	私家版。柴田誠 「第七話 福民医院長頓官寛と中国人のかかわり -租界期最後の上海における日中交流の側面-」。柴田は元千葉商業高等学校教諭。上海国民学校出身、1934年生まれ。	22	15
22	552	ビルマの死闘	越智春海		1967	昭和	42	12	5	書籍	原書房。	22	15
22	553	ビルマ戦線	歩兵第58連隊		1964	昭和	39	11	1	書籍	非売品。4-12「アラカンに届け」参照。第58連隊は 新潟高田編成で、当初第13師団 隷下であったが、昭和18年から 第31師団（第15軍隷下、秘匿名「烈」、師団長 佐藤幸徳中将、昭和19年7月から 河田槌太郎中将）の隷下に入った。中隊長でもあった発行人の西田将から 今井宛に謹呈されたもの。	22	15

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
22	554	「軍事史関係史料館探訪 49 平頂山 惨案記念館」	広中一成		2008	平成	20	12	25	雑誌	『季刊 軍事史学会 185号』。153～156頁。複写。1932年9月16日の平頂山事件に関する記念館。	22	15
22	555	中華民国臨時政府成立過程における王 克敏擁立をめぐる特務部の動向 一華 北経済開発と浙江財閥一	広中一成		2008	平成	20	12		冊子	抜刷。『中国研究月報 第62巻 第12号』。広中は愛知大学現代中国学会所属。今井について記載あり。	22	15
22	556	研究会 日中戦争と平和工作研究の動向 と現状	戸部良一		2000	平成	13	6	29	冊子	『外交史料館報第15号』。抜刷。外務省外交史料館。	22	15
22	557	研究ノート 汪兆銘のハノイ脱出をめ ぐって - 関係者の回想と外務省記録 -	戸部良一		2005	平成	17	9	30	冊子	外交史料館報 第19号。抜刷。外務省外交史料館。	22	15
22	558	今井きみ子宛遺言書	今井武夫		1937	昭和	12	7	10	書簡	「予ハ貴下ニ対シ満腔ノ感謝ト敬意ヲ表ス 予亡キ後ハ其意図スル儘ニ行動セ ラレシカ其ハ予ノ意思ニ合致スルナラン 但シ如何ナル場合ト雖モ祖先ノ祭司 ト幼児ノ育成ニ心セラレ度 児長セハ予生前ノ日常生活ヲ伝ヘ彼等十五才以 後ノ希望スル途ヲ進マシメラレ度 昭和12年7月10日 きみ子殿 今井武夫 花 押」 昭和16年12月24日付上書きあり。「本日右ヲ検シ 之ヲ改ムルモノナシ 今井 武夫 花押」。封書は22-559。複写。	22	15
22	559	今井きみ子宛封筒	今井武夫	今井きみ子	1937	昭和	12	7	10	封筒	22-558遺言書所蔵の封書。日付は昭和十二年七月十日のほか、昭和十六年十二 月二十四日も記載あり。複写。	22	15
22	560	今井武夫書簡	今井武夫	今井孝子	1957	昭和	32	8	3	書簡	軽井沢町の日本女子大学三泉寮で合宿中の日本大学付属中学の次女孝子に対す る2回の手紙受信に対する葉書の礼状。書中今井記載の「信夫」は「貞夫」の間 違い。複写。	22	15
22	561	巢鴨獄中歌にみる 人間青木一男	高木寛		2007	平成	19	2		冊子	「市誌研究ながの」平成19年2月 第14号記載抜刷。今井の写真本冊子中にあ り。	22	15
22	562	「幻の日中平和工作を執筆して 今井 貞夫インタビュー」 インタビュアー 三好章・広中一成は愛知大学現代中国 学会。	広中一成		2009	平成	21	5	30	冊子	『中国 21 Vol. 31 特集：帝国の周辺 対日協力政権・植民地・同盟国』 (東方書店)の抜刷。	22	15
22	563	民国廿六年 盧溝橋事変後 北京治要 紀要 潘毓桂題	潘毓桂		1938	昭和	13	12		冊子	中文。潘は盧溝橋事件当時北平警察部長だった。16-16参照。本書作成年代は 序言末尾の記載からの推定。	22	15
22	564	「長野出身 栗林大将と今井少将 顕 彰碑建立目指し募金」	読売新聞社		2009	平成	21	7	8	新聞	長野版。複写。切抜。	22	15
22	565	寺平忠輔 「盧溝橋畔の銃声」	みすず書房		1964	昭和	39	9	30	冊子	現代史資料月報。9-23。『現代史資料 (九) 日中戦争(二)』に挿入。付録。 複写。寺平は陸士35期。北京特務機関補佐官。大尉。寺平の妹は今井が親し かった海軍大佐桑原重遠大佐に嫁す。	22	15
22	566	「絶大の信頼を受ける北支の四武官 下」	満洲日日新聞社		1937	昭和	12	7	19	新聞	満洲日日新聞。夕刊。切抜き。今井について外国人は「決して虚言をつかぬ ジェントルマン」と批評。複写。	22	15
22	567	文藝協会ニュース 平成18年2月 No. 654	日本文藝家協会		2006	平成	18	2		冊子	大野芳（かおる）「史実は曲げられない」。複写。硫黄島の西竹一中尉につい て。「パロン西出てきなさい」という逸話は史実ではない。	22	15
22	568	高橋久志「日華事変初期における陸軍 中枢部 一不拡大派の挫折から汪兆銘 工作へ」	山川出版社		1985	昭和	60	10	30	雑誌	「年報近代日本会研究 7 日本外交の危機認識」。今井について記載あり。複 写。	22	15
22	569	今井亮三郎と長野の家の自宅の庭の老 松	今井亮三郎		1929	昭和	4	4	5	写真	今井家当主の長兄 亮三郎はこのとき満41歳。庭の松はこのとき300年以上の樹 齢。	22	□
23	1	津久井龍雄書簡	津久井龍雄	今井武夫	1954	昭和	29	1	1	書簡	評論家の津久井龍雄から今井宛の年賀状	23	1
23	2	湯恩伯書簡	湯恩伯	今井武夫	1954	昭和	29	1	1	書簡	台湾台北の湯恩伯將軍から今井宛の年賀状	23	1
23	3	志村寛書簡	志村寛書簡	今井武夫・きみ子	1959	昭和	34	1	1	書簡	志村寛（長野中学恩師）からの今井宛の年賀状	23	1
23	4	清水董三・繁子書簡	清水董三・繁子	今井武夫	1959	昭和	34	1	1	書簡	清水董三・繁子夫妻から 今井武夫夫妻への年賀状	23	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
23	5	河辺正三書簡	河辺正三	今井武夫	1962	昭和	37	1	1	書簡	河辺正三大将から今井宛の年賀状	23	1
23	6	金雄白カ書簡	金雄白カ	今井武夫	1962	昭和	37	2	27	書簡	金雄白カから 今井宛 写真付き 挨拶状	23	1
23	7	河辺正三書簡	河辺正三	今井武夫	1963	昭和	38	1	5	書簡	河辺正三大将から 今井宛の年賀状	23	1
23	8	河辺正三書簡	河辺正三	今井武夫	1964	昭和	39	1	4	書簡	河辺正三大将から 今井宛の年賀状	23	1
23	9	小林浅三郎書簡	小林浅三郎	今井武夫	1965	昭和	40	1	1	書簡	小林浅三郎中将から 年賀状	23	1
23	10	山本有三書簡	山本有三	今井武夫	1965	昭和	40	1	1	書簡	作家 山本有三から 今井宛の年賀状	23	1
23	11	津久井龍雄書簡	津久井龍雄	今井武夫	1966	昭和	41	1	1	書簡	評論家の津久井龍雄から今井宛の年賀状	23	1
23	12	清水董三 書簡	清水董三	今井武夫	1967	昭和	42	1	1	書簡	清水董三から 今井武夫への年賀状	23	1
23	13	苗剣秋書簡	苗剣秋	今井武夫	1968	昭和	43	1	1	書簡	苗剣秋から今井宛。明治百年元旦挨拶状（中国語）。	23	1
23	14	井上喬之 書簡 殷(旧姓 井上) 民江	井上喬之 殷(旧姓 井上) 民江	今井武夫	1968	昭和	43	1	1	書簡	井上喬之 殷(旧姓井上) 民江から今井宛の年賀状	23	1
23	15	小林浅三郎書簡	小林浅三郎	今井武夫	1968	昭和	43	1	1	書簡	小林浅三郎中将から 年賀状	23	1
23	16	川上護書簡	川上護	今井武夫	1968	昭和	43	1	1	書簡	川上護大佐から今井武夫宛年賀状	23	1
23	17	中野英光書簡	中野英光	今井武夫	1969	昭和	44	1	1	書簡	中野英光 中将から 年賀状	23	1
23	18	大谷照乗・大谷寿子書簡	大谷照乗・大谷寿子	今井武夫	1969	昭和	44	1	1	書簡	西本願寺連枝 大谷照乗 寿子夫妻から 今井宛の年賀状	23	1
23	19	塩沢清宣書簡	塩沢清宣	今井武夫	1969	昭和	44	1	1	書簡	塩沢清宣から 今井宛の年賀状	23	1
23	20	永津佐比重書簡	永津佐比重	今井武夫	1970	昭和	45	1	1	書簡	永津佐比重中将から 年賀状	23	1
23	21	中野英光書簡	中野英光	今井武夫	1970	昭和	45	1	1	書簡	中野英光中将から 年賀状	23	1
23	22	月野木正雄書簡	月野木正雄	今井武夫	1970	昭和	45	1	1	書簡	月野木正雄（今井の陸士時代の中隊長・中尉）から今井宛の年賀状	23	1
23	23 (欠番)												
23	24	角田房子書簡	角田房子	今井武夫	1972	昭和	47	1	1	書簡	作家角田房子から 年賀状	23	1
23	25	大谷照乗・大谷寿子書簡	大谷照乗・大谷寿子	今井武夫	1972	昭和	47	1	1	書簡	西本願寺連枝大谷照乗・寿子夫妻から今井宛の年賀状	23	1
23	26	村上知行書簡	村上知行	今井武夫	1973	昭和	48	1	1	書簡	作家村上知行から 年賀状	23	1
23	27	川上護書簡	川上護	今井武夫	1973	昭和	48	1	1	書簡	川上護大佐から 今井武夫宛年賀状	23	1
23	28	村上知行書簡	村上知行	今井武夫	1974	昭和	49	1	1	書簡	作家村上知行から 年賀状	23	1
23	29	小林浅三郎書簡	小林浅三郎	今井武夫	1974	昭和	49	1	1	書簡	小林浅三郎中将から 年賀状	23	1
23	30	村上知行書簡	村上知行	今井武夫	1975	昭和	50	1	1	書簡	作家村上知行から年賀状 千葉の自宅の家の廻りの俗化を嘆く	23	1
23	31	立川演武書簡	立川演武	今井武夫	1975	昭和	50	1	12	書簡	死去した立川中隊長の息子 立川演武から 今井宛 悔みのお礼	23	1
23	32	横田ハル書簡	横田ハル	今井武夫	1975	昭和	50	12		書簡	新聞記者の横田實氏未亡人横田ハルから今井宛の喪中の挨拶	23	1
23	33	衛藤藩吉書簡	衛藤藩吉	今井武夫	1976	昭和	51	1	1	書簡	衛藤藩吉から 今井宛の年賀状	23	1
23	34	小林睦廣書簡	小林睦廣	今井武夫	1976	昭和	51	1	1	書簡	北京時代今井の副官だった小林睦廣から年賀状	23	1
23	35	大谷昭典書簡	大谷昭典	今井武夫	1976	昭和	51	1	1	書簡	西本願寺連枝 大谷昭典（大谷照乗息子 福田寺）から今井宛の年賀状	23	1
23	36	永津佐比重書簡	永津佐比重	今井武夫	1976	昭和	51	1	1	書簡	永津佐比重中将から 年賀状	23	1
23	37	衛藤藩吉書簡	衛藤藩吉	今井武夫	1977	昭和	52	1	1	書簡	衛藤藩吉から 今井宛の年賀状	23	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備考	参考 (箱)	参考 束
23	38	小林睦廣書簡	小林睦廣	今井武夫	1977	昭和	52	1	1	書簡	小林睦廣から年賀状	23	1
23	39	鳥谷部定吉書簡	鳥谷部定吉	今井武夫	1977	昭和	52	1	1	書簡	北京大使館時代 今井に世話になった 鳥谷部定吉（青森運送株式会社）から今井宛の年賀状	23	1
23	40	小平（村上）マリ書簡	小平（村上）マリ	今井武夫	1978	昭和	53	1	1	書簡	小平（村上）マリ（村上知行 娘）から年賀状	23	1
23	41	有末精三書簡	有末精三	今井武夫	1979	昭和	54	1	1	書簡	有末中将から年賀状	23	1
23	42	波多野和夫書簡	波多野和夫	今井武夫	1979	昭和	54	1	1	書簡	波多野和夫（桐朋学園）から年賀状	23	1
23	43	板垣修・板垣ふじ書簡	板垣修・板垣ふじ	今井武夫	1979	昭和	54	1	1	書簡	外交官の垣修夫妻（妻 ふじ）から年賀状	23	1
23	44	沈膺書簡	沈膺	今井武夫	1980	昭和	55	1	1	書簡	東京在住の沈膺（しんゆう）から今井武夫夫妻孝子宛の年賀状	23	1
23	45	有末精三書簡	有末精三	今井武夫	1980	昭和	55	1	1	書簡	有末精三 中将から年賀状	23	1
23	46	小平（村上）マリ書簡	小平（村上）マリ	今井武夫	1980	昭和	55	1	1	書簡	小平（村上）マリ（村上知行 娘）から年賀状	23	1
23	47	風間駿書簡	風間駿	今井武夫	1980	昭和	55	12		書簡	風間卓の息子風間駿から、喪中の挨拶状	23	1
23	48	松山良政書簡	松山良政	今井武夫	1981	昭和	56	1	1	書簡	鹿児島島の松山良政から 今井武夫宛の年賀状	23	1
23	49	今井武夫書簡	今井武夫	宛先不明	1981	昭和	56	1		書簡	今井武夫名義 次女孝子葬儀 会葬御礼の挨拶	23	1
23	50	鳥谷部定吉書簡	鳥谷部定吉	今井武夫	1982	昭和	57	1	1	書簡	鳥谷部定吉（青森運送株式会社）から今井宛の年賀状	23	1
23	51	渡邊修書簡	渡邊修	今井武夫	1959	昭和	34	1	1	書簡	渡邊修から 年賀状	23	1
23	52	秋定鶴造書簡	秋定鶴造	今井武夫	1970	昭和	45	1	1	書簡	秋定鶴造から 年賀状	23	1
23	53	中村文代書簡	中村文代	今井武夫	1976	昭和	51	1	1	書簡	中村文代から 年賀状	23	1
23	54	山崎重三郎書簡	山崎重三郎	今井武夫	1976	昭和	51	1	1	書簡	山崎重三郎から 年賀状	23	1
23	55	内藤秀男書簡	内藤秀男	今井武夫	1977	昭和	52	1	1	書簡	内藤秀男から 年賀状	23	1
23	56	千田祥隆書簡	千田祥隆	今井武夫	1978	昭和	53	1	1	書簡	千田祥隆から年賀状	23	1
23	57	山崎重三郎書簡	山崎重三郎	今井武夫	1978	昭和	53	1	1	書簡	山崎重三郎から年賀状	23	1
23	58	中村文代書簡	中村文代	今井武夫	1979	昭和	54	1	1	書簡	年賀状	23	1
23	59	千田広子書簡	千田広子	今井武夫	1980	昭和	55	1	1	書簡	千田広子から年賀状	23	1
23	60	佐々木正廣書簡	佐々木正廣	今井武夫	1982	昭和	57	1	1	書簡	佐々木正廣から年賀状	23	1
23	61	野本義松書簡	野本義松	今井武夫	1982	昭和	57	1	1	書簡	野本義松から年賀状	23	1
24	1	渡辺工作の現況（第三号及び第四号）	今井武夫		1938	昭和	13	12	6	報告書	24箱-東1所収のファイル。複写。	24	1
24	2	複製資料経歴表	稲葉正夫		1963	昭和	38	4	15	書類	本ファイルの原本は1963年3月25日今井より借用したもの。複写。稲葉は元陸軍中佐。陸軍参謀。	24	1
24	3	河村洋行商用略語配布表（14年6月現在）			1939	昭和	14	6		書類	汪兆銘工作の暗号表。今井の暗号は「佐藤」、名和本店員。14年4月現在のものは14-344にあり。複写。	24	1
24	4	渡辺工作の現況（第三号）	今井武夫		1938	昭和	13	12	6	報告書	汪兆銘工作の開始。高宗武のことを渡辺と仮称。オリジナルは14-133。複写。	24	1
24	5	渡辺工作の現況（第四号）	今井武夫		1939	昭和	14	1	15	報告書	汪兆銘の重慶からの脱出。蒋介石、中国新聞の反応など。複写。オリジナルは14-134。	24	1
24	6	傳式説氏ノ汪兆銘ニ関スル報告 附 上海ニ於ケル和平運動経路	井上匡四郎		1939	昭和	14	1	26	書類	今井中佐について言及あり。蒋介石と汪兆銘の喧嘩の原因につき記載あり。傳式説は上海大夏大学教授。梅思平の従兄弟。東大工科時代井上の愛弟子。後の汪政権の行政院鉄道部長。14-310参照。南支調査会の野紙に記載。上海で1938年2月頃 「低調倶楽部」のメンバーでもある梅子平から 和平運動に協力するように依頼されたとのこと。1月26日台北にて記載とある。8枚。	24	1

今井武夫関係文書（寄託）目録附録1（資料番号（箱）－枝番号順）

資料番号 (箱)	枝番号	タイトル	作成者	宛先	西暦	元号	年	月	日	分類	備 考	参考 (箱)	参考 束
24	7	昭和20春～22春 支那派遣軍復員前後の概況	今井武夫		1947	昭和	22			書類	24-東2所収のファイル。複写。	24	2
24	8	昭和20年春～昭和22年春 支那派遣軍復員前後の概況	今井武夫		1954	昭和	29	12		書類	厚生省引揚援護局1956年10月。目次を除いて全18頁。戦後10年近くを経た後の今井の記憶によるもの。印刷してある。防衛研修所戦史室所蔵のもの。複写。	24	2
24	9	元陸軍少将今井武夫軍歴概要			1963	昭和	38	3		書類	複写。	24	2
24	10	日華事変の回想（上）	今井武夫		1963	昭和	38	3		回顧録	防衛庁からの依託執筆。24箱-東3所収のファイル。複写。本ファイルは全て複写。	24	3
24	11	今井武夫関連 記述資料経歴票	稲葉正夫		1963	昭和	38	3	28	書類	複写。稲葉は元陸軍中佐。陸軍参謀。防衛庁防衛戦史室編纂官。	24	3
24	12	今井武夫陸軍少将軍歴	防衛研究所		1963	昭和	38	3		履歴書	複写。	24	3
24	13	日華事変の回想（上）	今井武夫		1963	昭和	38	3		回顧録	目次及び内容。複写。	24	3
24	14	日華事変の回想（下） 2分冊の1	今井武夫		1963	昭和	38	3		回顧録	24箱-東4所収のファイル。複写。本ファイルは全て複写。防衛庁からの依託執筆。	24	4
24	15	今井武夫関連 記述資料経歴票	稲葉正夫		1963	昭和	38	3	28	書類	複写。稲葉は元陸軍中佐。陸軍参謀。	24	4
24	16	日華事変の回想（下） 2分冊の1	今井武夫		1963	昭和	38	3		回顧録	目次及び内容。複写。	24	4
24	17	日華事変の回想（下）の続	今井武夫		1963	昭和	38	3		回顧録	複写。	24	5
1001		陸軍士官学校第三十期生徒卒業人名（大正7年5月）			1918	大正	7	5		名簿	3枚。	1001	
1002		長野県立長野中学校第十五回卒業生成績表（大正4年3月14日）			1915	大正	4	3	14	名簿	2枚。	1002	
1003		曾走路我記	影佐禎昭		1943	昭和	18	12		原稿	1冊。	1003	
1004		影佐禎昭書簡	影佐禎昭	今井武夫（葉書）	1927	昭和	2	3	10	書簡	（付）名刺1枚	1004	
1005		關鷄場（青木大臣たちと夜の關鷄見物）			1943	昭和	17	7	27	写真	於マニラ關鷄場。年月は推定。	1005	
1006		任援道、今井、吉野副官、江朝宗			1937	昭和	12			写真		1006	
1007		写真フィルム			1938	昭和	13			写真	今井後姿、家屋。2枚。	1007	

附録2

今井武夫関係文書(寄託)目録

『日中和平工作の記録』所収写真資料番号・収録ページ対照表

今井武夫関係文書(寄託)附録2 『日中和平工作の記録』所収写真(資料番号・収録ページ対照表)

- この対照表は、本目録の資料番号と、それを収録した以下の書籍の掲載ページを載せている。
- 広中一成 著
『日中和平工作の記録：今井武夫と汪兆銘・蔣介石』
彩流社、2013
- もとの資料が写真帳の類の場合は、一部を収録している。

資料番号(箱)	枝番号	『日中和平工作の記録』ページ	ページ内の位置	備考
3	114	189	右下	
3	115	40	左	
3	129	57		
3	131	194		
3	132	195		
3	134	74		
9	63	30		
9	63	31	上	
9	63	31	中	
9	63	31	下	
9	63	32		
9	63	33	上	
9	63	33	下	
9	63	34	上	
9	63	34	下	
9	63	35	上	
9	63	35	下	
9	63	36		
9	63	37	上	
9	63	37	下	
9	63	38	上	
9	63	38	中	
9	63	38	下	
9	63	39	上	
9	63	39	下	
9	65	82		
9	65	82		
9	65	82		
9	65	83		
9	65	83		
9	65	83		
12	247	71		
13	55	78	上	
13	55	78	下	
13	56	79	上	
13	56	79	下	

今井武夫関係文書(寄託)附録2 『日中和平工作の記録』所収写真(資料番号・収録ページ対照表)

資料番号(箱)	枝番号	『日中和平工作の記録』ページ	ページ内の位置	備考
13	119	132	右上	
13	119	132	左上	
13	119	132	下	
13	119	133	右上	
13	119	133	左上	
13	119	133	下	
13	120	150	右上	
13	120	150	左上	
13	120	150	右中	
13	120	150	左中	
13	120	150	下	
13	120	151	右上	
13	120	151	左上	
13	120	151	右中	
13	120	151	右下	
13	120	151	左下	
14	275	189	中上	
14	275	189	左上	
14	521	188		
16	1	18		
16	1	19	下	
16	1	51		
16	1	52	上	
16	1	52	下	
16	1	53	下	
16	1	111	右下	
16	1	111	左下	
16	1	112	上	
16	1	112	下	
16	1	119	上	
16	1	121	上	
16	1	121	下	
16	1	134		
16	1	142		
16	1	193		

資料番号(箱)	枝番号	『日中和平工作の記録』ページ	ページ内の位置	備考
16	16	68-69		
16	26	110		配置順不明
16	33	109	上	
16	35	87	下	
17	6	102-103		
17	10	104-105		
17	33	95	上	
17	33	95	下	
17	33	96		
17	40	111	上	
17	43	109	下	
17	44	113	右下	
17	63	110		配置順不明
17	65	110		配置順不明
19	1	19	上	
19	4	140		
19	6	222	下	配置順不明
19	15	146-147		
19	18	43	上	
19	22	42	上	
19	23	225	下	
19	26	157	左	
19	28	13	下	
19	31	43	下	
19	35	222	上	
19	49	148	右	または、20-80。配置順不明
19	51	54	右下	
20	7	108		
20	8	94	上	
20	8	94	下	
20	29	46-47		
20	31	172	下	
20	33	81		
20	37	196-197		
20	38	64	下	
20	41	192		

今井武夫関係文書(寄託)附録2 『日中和平工作の記録』所収写真(資料番号・収録ページ対照表)

資料番号(箱)	枝番号	『日中和平工作の記録』ページ	ページ内の位置	備考
20	42	75		
20	45	130		
20	46	131		
20	49	41	下	
20	50	181	下	
20	51	176		
20	56	66-67		
20	57	58	中	配置順不明
20	58	44	下	
20	59	141		
20	61	224	上	
20	62	226	左上	
20	63	226	下	
20	76	44	上	
20	81	182		
20	85	202		
20	86	227	下	
20	96	128	上	配置順不明
20	98	156		
20	102	106		
20	103	119	下	
20	106	55	下	
20	110	60	上	
20	113	197		
20	114	194		
20	115	203	上	
20	116	203	下	
20	117	204	上	
20	118	204	下	
20	119	205	上	
20	120	205	下	
20	121	206		
20	122	207	上	配置順不明
20	123	207	下	配置順不明
20	124	209	下	
20	125	209	上	

資料番号(箱)	枝番号	『日中和平工作の記録』ページ	ページ内の位置	備考
20	126	308		
20	127	210		
20	128	211	上	
20	129	211	下	
20	130	219		
20	139	61	上	
20	140	56	右	
20	141	59	下	
20	152	59	右上	配置順不明
20	153	59	左上	配置順不明
20	160	157	右	
20	162	126		
20	169	54	左下	
20	193	58	下	配置順不明
20	223	229		
20	226	183		
20	228	171		
20	233	214	下	
20	234	172	上	
20	235	215	下	
20	237	166-167		
20	239	216-217		
20	240	168-169		
20	241	234		
20	242	235	下	
20	244	215	上	
20	246	154	右上	
20	246	154	左上	
20	246	154	下	
20	246	155	上	
20	246	155	右下	
20	246	155	左下	
20	258	223	上	配置順不明
20	277	86	下	
20	279	60	中	
20	279	70		

今井武夫関係文書(寄託)附録2 『日中和平工作の記録』所収写真(資料番号・収録ページ対照表)

資料番号(箱)	枝番号	『日中和平工作の記録』ページ	ページ内の位置	備考
20	280	12	下	
20	282	53	上	
20	284	225	上	
20	287	181	右上	
20	295	181	左上	
20	296	173		
20	304	190-191		
20	306	135		配置順不明
20	307	224	下	
20	309	135		配置順不明
20	311	189	右上	
20	313	170		
20	314	223	下	配置順不明
20	319	175		
20	320	177	上	
20	322	179	上	
20	323	178	下	
20	323	179	下	
20	324	235	上	
20	325	76	下	
20	326	77	上	配置順不明
20	327	77	下	配置順不明
20	328	29	下	
20	341	226	右上	
20	345	177	下	
20	346	178	上	
20	347	180	下	
20	348	180	上	
20	350	174		
20	355	42	下	
20	357	45		
20	358	227	上	
20	361	40	右	
20	364	228	上	配置順不明
20	369	10		
20	369	107		

資料番号(箱)	枝番号	『日中和平工作の記録』ページ	ページ内の位置	備考
20	370	55	上	または、19-27か20-362
20	372	9		
20	377	228	下	配置順不明
20	380	149		または、20-80。配置順不明
20	385	50		
20	395	41	上	
20	399	72-73		
20	403	148	左	または、20-80。配置順不明
20	406	201		
20	407	144		
20	408	212-213		
20	410	88-89		
20	411	216-217		
20	412	220-221		
20	415	49		
20	416	214	上	
20	418	61	下	
20	419	164-165		
20	421	13	上	
20	428	218	上	
20	432	128	下	配置順不明
20	433	163	下	
20	446	145		
20	457	231		
20	458	184		
20	458	232		
20	458	233	上	
20	460	233	下	
20	462	59	中	配置順不明
20	463	54	上	
20	502	26		
20	510	27	上	
20	510	27	下	
20	510	28		
20	510	120		

今井武夫関係文書(寄託)附録2 『日中和平工作の記録』所収写真(資料番号・収録ページ対照表)

資料番号(箱)	枝番号	『日中和平工作の記録』ページ	ページ内の位置	備考
20	513	20		
20	513	21		
20	513	22		
20	513	23		
20	515	137	左中	
20	515	138		
20	515	139	上	
20	515	139	下	
20	517	113	右上	
20	517	113	左上	
20	517	113	中	
20	517	114	右上	
20	517	114	左上	
20	517	114	下	
20	526	24		
20	526	115	上	
20	526	115	中	
20	526	115	下	
20	526	116	上	
20	526	116	中	
20	526	116	右下	
20	526	116	左下	
20	526	117	右上	
20	526	117	左上	
20	526	117	中	
20	526	117	下	
20	526	129	上	
20	526	129	下	
20	526	136	上	
20	526	136	右下	
20	526	136	左下	
20	526	137	右上	
20	526	137	左上	
20	526	137	右中	
20	526	137	右下	

資料番号(箱)	枝番号	『日中和平工作の記録』ページ	ページ内の位置	備考
20	528	118	右上	
20	528	118	左上	
20	528	118	右中	
20	528	118	左中	
20	528	118	下	
20	528	158		
20	528	159		
20	528	160	上	
20	528	160	下	
20	528	161		
20	528	162		
20	528	163	上	
20	528	198	下	
20	528	200	右下	
20	529	29	上	
20	529	64	上	
20	529	199		
20	529	200	上	
20	529	200	左下	
20	530	60	下	
20	536	63	右上	配置順不明
20	536	63	左上	配置順不明
20	536	63	右中	配置順不明
20	536	63	左中	配置順不明
20	536	63	右下	配置順不明
20	536	63	左下	配置順不明
20	538	76	右上	配置順不明
20	538	76	左上	配置順不明
21	338	230	上	
21	340	11		
21	342	25		
21	343	62		
21	344	218	下	
21	349	86	上	
21	349	87	上	

今井武夫関係文書(寄託)附録2 『日中和平工作の記録』所収写真(資料番号・収録ページ対照表)

資料番号(箱)	枝番号	『日中和平工作の記録』ページ	ページ内の位置	備考
21	352	65		
21	353	12	上	
21	373	230	下	
22	18	48	上	
22	19	48	下	
22	520	84		
22	520	84		
22	520	85		
22	529	152	右	
22	529	152	左	
22	529	153	右	
22	529	153	左	